User's Manual

16

# RL78/I1B

## ユーザーズマニュアル　ハードウェア編

16 ビット・シングルチップ・マイクロコントローラ

本資料に記載の全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス エレクトロニクスは、
予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
ルネサス エレクトロニクスのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

ルネサス エレクトロニクス
www.renesas.com

Rev.2.20　2023.07

## ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

   標準水準：　コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

   高品質水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等

   当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。
7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア／ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限りません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因しまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア／ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

## 本社所在地

〒 135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレシア）

www.renesas.com

## お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

## 商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

© 2022 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

# 製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策
   CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。
2. 電源投入時の処置
   電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。
3. 電源オフ時における入力信号
   当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。
4. 未使用端子の処理
   未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。
5. クロックについて
   リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。
6. 入力端子の印加波形
   入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、$V_{IL}$（Max.）から $V_{IH}$（Min.）までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、$V_{IL}$（Max.）から $V_{IH}$（Min.）までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。
7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止
   リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。
8. 製品間の相違について
   型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違うと、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

# このマニュアルの使い方

対 象 者　このマニュアルはRL78/I1Bの機能を理解し，その応用システムや応用プログラムを設計，開発するユーザのエンジニアを対象としています。

- 80ピン製品：R5F10MME, R5F10MMG
- 100ピン製品：R5F10MPE, R5F10MPG

目　　的　このマニュアルは，次の構成に示す機能をユーザに理解していただくことを目的としています。

構　　成　RL78/I1Bのマニュアルは，このマニュアルと命令編（RL78ファミリ共通）の2冊に分かれています。

| RL78/I1B<br>ユーザーズ・マニュアル<br>ハードウェア編 | RL78ファミリ<br>ユーザーズ・マニュアル<br>ソフトウェア編 |
|---|---|
| ●端子機能<br>●内部ブロック機能<br>●割り込み<br>●その他の内蔵周辺機能<br>●電気的特性 | ●CPU機能<br>●命令セット<br>●命令の説明 |

読 み 方　このマニュアルを読むにあたっては，電気，論理回路，マイクロコントローラの一般知識を必要とします。

□一通りの機能を理解しようとするとき

→目次に従って読んでください。

本文欄外の★印は，本版で改訂された主な箇所を示しています。

この"★"をPDF上でコピーして「検索する文字列」に指定することによって，改版箇所を容易に検索できます。

□レジスタ・フォーマットの見方

→ビット番号を□で囲んでいるものは，そのビット名称がアセンブラでは予約語に，コンパイラでは#pragma sfr指令で，sfr変数として定義されているものです。

□RL78/I1Bマイクロコントローラの命令機能の詳細を知りたいとき

→別冊のRL78ファミリ　ユーザーズ・マニュアル　ソフトウエア編（R01US0015J）を参照してください。

凡　　例　　データ表記の重み　　：左が上位桁，右が下位桁

アクティブ・ロウの表記　：$\overline{\times\times\times}$（端子，信号名称に上線）

注　　：本文中につけた注の説明

注意　　：気をつけて読んでいただきたい内容

備考　　：本文の補足説明

数の表記　　：2進数…××××または××××B

10進数…××××

16進数…××××H

関連資料

関連資料は暫定版の場合がありますが，この資料では「暫定」の表示をしておりません。あらかじめご了承ください。

デバイスの関連資料

| 資　料　名 | 資料番号 | |
|---|---|---|
| | 和　　文 | 英　　文 |
| RL78/I1B　ユーザーズ・マニュアル　ハードウェア編 | このマニュアル | R01UH0407E |
| RL78ファミリ　ユーザーズ・マニュアル　ソフトウェア編 | R01US0015J | R01US0015E |

フラッシュ・メモリ書き込み用の資料（ユーザーズマニュアル）

| 資　料　名 | | 資料番号 | |
|---|---|---|---|
| | | 和　　文 | 英　　文 |
| PG-FP5　フラッシュメモリプログラマ　ユーザーズマニュアル | | — | — |
| | RL78，78K，V850，RX100，RX200，RX600（RX64x除く），R8C，SH編 | R20UT2923J | R20UT2923E |
| | 共通編 | R20UT2922J | R20UT2922E |
| | セットアップマニュアル | R20UT0930J | R20UT0930E |

注意　上記関連資料は予告なしに内容を変更することがあります。設計などには，必ず最新の資料をご使用ください。

その他の資料

| 資　料　名 | 資料番号 | |
|---|---|---|
| | 和　　文 | 英　　文 |
| ルネサス マイクロコンピュータ RL78ファミリ | R01CP0003J | R01CP0003E |
| 半導体パッケージ　実装マニュアル | 注 | |
| 信頼性ハンドブック | R51ZZ0001J | R51ZZ0001E |

注　「半導体パッケージ実装マニュアル」のホーム・ページ参照

和文：http://japan.renesas.com/products/package/index.jsp

英文：http://www.renesas.com/products/package/index.jsp

注意　上記関連資料は予告なしに内容を変更することがあります。設計などには，必ず最新の資料をご使用ください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

EEPROMは，ルネサス エレクトロニクス株式会社の登録商標です。

SuperFlashは，米国Silicon Storage Technology, Inc.の米国，日本などの国における登録商標です。

注意：本製品はSilicon Storage Technology, Inc.からライセンスを受けたSuperFlash®を使用しています。

# 目次

第1章　概　　説 ..... 1

1. 1　特　　徴 ..... 1
1. 2　型名一覧 ..... 4
1. 3　端子接続図（Top View） ..... 5
1. 3. 1　80ピン製品 ..... 5
1. 3. 2　100ピン製品 ..... 6
1. 4　端子名称 ..... 7
1. 5　ブロック図 ..... 8
1. 5. 1　80ピン製品 ..... 8
1. 5. 2　100ピン製品 ..... 9
1. 6　機能概要 ..... 10

第2章　端子機能 ..... 12

2. 1　ポート機能 ..... 12
2. 1. 1　80ピン製品 ..... 13
2. 1. 2　100ピン製品 ..... 16
2. 2　ポート以外の機能 ..... 19
2. 2. 1　製品別の搭載機能 ..... 19
2. 2. 2　機能説明 ..... 21
2. 3　未使用端子の処理 ..... 23
2. 4　端子ブロック図 ..... 25

第3章　CPUアーキテクチャ ..... 39

3. 1　メモリ空間 ..... 39
3. 1. 1　内部プログラム・メモリ空間 ..... 44
3. 1. 2　ミラー領域 ..... 47
3. 1. 3　内部データ・メモリ空間 ..... 49
3. 1. 4　特殊機能レジスタ（SFR：Special Function Register）領域 ..... 49
3. 1. 5　拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR：2nd Special Function Register）領域 ..... 49
3. 1. 6　データ・メモリ・アドレッシング ..... 50
3. 2　プロセッサ・レジスタ ..... 51
3. 2. 1　制御レジスタ ..... 51
3. 2. 2　汎用レジスタ ..... 54
3. 2. 3　ES, CSレジスタ ..... 55
3. 2. 4　特殊機能レジスタ（SFR：Special Function Register） ..... 56
3. 2. 5　拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR：2nd Special Function Register） ..... 62
3. 3　命令アドレスのアドレッシング ..... 71
3. 3. 1　レラティブ・アドレッシング ..... 71
3. 3. 2　イミーディエト・アドレッシング ..... 71
3. 3. 3　テーブル・インダイレクト・アドレッシング ..... 72
3. 3. 4　レジスタ・ダイレクト・アドレッシング ..... 72
3. 4　処理データ・アドレスに対するアドレッシング ..... 73
3. 4. 1　インプライド・アドレッシング ..... 73

3.4.2　レジスタ・アドレッシング ..... 73
3.4.3　ダイレクト・アドレッシング ..... 74
3.4.4　ショート・ダイレクト・アドレッシング ..... 75
3.4.5　SFRアドレッシング ..... 76
3.4.6　レジスタ・インダイレクト・アドレッシング ..... 77
3.4.7　ベースト・アドレッシング ..... 78
3.4.8　ベースト・インデクスト・アドレッシング ..... 81
3.4.9　スタック・アドレッシング ..... 82

第4章　ポート機能 ..... 85

4.1　ポートの機能 ..... 85
4.2　ポートの構成 ..... 85
4.2.1　ポート0 ..... 86
4.2.2　ポート1 ..... 86
4.2.3　ポート2 ..... 87
4.2.4　ポート3 ..... 88
4.2.5　ポート4 ..... 88
4.2.6　ポート5 ..... 88
4.2.7　ポート6 ..... 88
4.2.8　ポート7 ..... 89
4.2.9　ポート8 ..... 89
4.2.10　ポート12 ..... 89
4.2.11　ポート13 ..... 90
4.3　ポート機能を制御するレジスタ ..... 91
4.3.1　ポート・モード・レジスタ（PMxx） ..... 95
4.3.2　ポート・レジスタ（Pxx） ..... 96
4.3.3　プルアップ抵抗オプション・レジスタ（PUxx） ..... 97
4.3.4　ポート入力モード・レジスタ（PIMxx） ..... 98
4.3.5　ポート出力モード・レジスタ（POMxx） ..... 99
4.3.6　A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC） ..... 100
4.3.7　グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ（GDIDIS） ..... 101
4.3.8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR） ..... 102
4.3.9　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5） ..... 103
4.3.10　LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD） ..... 106
4.4　ポート機能の動作 ..... 107
4.4.1　入出力ポートへの書き込み ..... 107
4.4.2　入出力ポートからの読み出し ..... 107
4.4.3　入出力ポートでの演算 ..... 107
4.4.4　異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）外部デバイスとの接続方法 ..... 108
4.4.5　入出力バッファによる異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）対応 ..... 108
4.5　兼用機能使用時のレジスタの設定 ..... 110
4.5.1　兼用機能使用時の基本的な考え方 ..... 110
4.5.2　出力機能を使用しない兼用機能のレジスタ設定 ..... 111
4.5.3　使用するポート機能および兼用機能のレジスタ設定例 ..... 112
4.5.4　SEGxx端子兼用ポートの動作 ..... 120
4.5.5　VL3, CAPL, CAPH端子兼用ポートの動作 ..... 121
4.6　ポート機能使用時の注意事項 ..... 123
4.6.1　ポート・レジスタn（Pn）に対する1ビット・メモリ操作命令に関する注意事項 ..... 123

4. 6. 2　端子設定に関する注意事項 ..... 124

第5章　クロック発生回路 ..... 125

5. 1　クロック発生回路の機能 ..... 125
5. 2　クロック発生回路の構成 ..... 127
5. 3　クロック発生回路を制御するレジスタ ..... 129
5. 3. 1　クロック動作モード制御レジスタ（CMC） ..... 129
5. 3. 2　システム・クロック制御レジスタ（CKC） ..... 132
5. 3. 3　クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC） ..... 134
5. 3. 4　発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC） ..... 135
5. 3. 5　発振安定時間選択レジスタ（OSTS） ..... 137
5. 3. 6　周辺イネーブル・レジスタ0, 1（PER0, PER1） ..... 139
5. 3. 7　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC） ..... 142
5. 3. 8　高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV） ..... 144
5. 3. 9　周辺クロック制御レジスタ（PCKC） ..... 145
5. 4　システム・クロック発振回路 ..... 146
5. 4. 1　X1発振回路 ..... 146
5. 4. 2　XT1発振回路 ..... 146
5. 4. 3　高速オンチップ・オシレータ ..... 150
5. 4. 4　低速オンチップ・オシレータ ..... 150
5. 5　クロック発生回路の動作 ..... 151
5. 6　クロックの制御 ..... 153
5. 6. 1　高速オンチップ・オシレータの設定例 ..... 153
5. 6. 2　X1発振回路の設定例 ..... 154
5. 6. 3　XT1発振回路の設定例 ..... 156
5. 6. 4　CPUクロック状態移行図 ..... 157
5. 6. 5　CPUクロックの移行前の条件と移行後の処理 ..... 163
5. 6. 6　CPUクロックの切り替えとシステム・クロックの切り替えに要する時間 ..... 165
5. 6. 7　クロック発振停止前の条件 ..... 166
5. 7　発振子と発振回路定数 ..... 167

第6章　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 ..... 171

6. 1　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 ..... 171
6. 2　レジスタ説明 ..... 172
6. 2. 1　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正制御レジスタ（HOCOFC） ..... 172
6. 3　動作説明 ..... 173
6. 3. 1　動作概要 ..... 173
6. 3. 2　動作手順 ..... 176
6. 4　使用上の注意事項 ..... 177
6. 4. 1　SFRアクセス ..... 177
6. 4. 2　スタンバイ時動作 ..... 177
6. 4. 3　高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）の変更について ..... 177

第7章　タイマ・アレイ・ユニット ..... 178

7. 1　タイマ・アレイ・ユニットの機能 ..... 179
7. 1. 1　単独チャネル動作機能 ..... 179

7.1.2　複数チャネル連動動作機能 ..... 180
7.1.3　8ビット・タイマ動作機能（チャネル1, 3のみ） ..... 181
7.1.4　LIN-bus対応機能（チャネル7のみ） ..... 182
7.2　タイマ・アレイ・ユニットの構成 ..... 183
7.2.1　タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn） ..... 187
7.2.2　タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn） ..... 189
7.3　タイマ・アレイ・ユニットを制御するレジスタ ..... 190
7.3.1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0） ..... 191
7.3.2　タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm） ..... 192
7.3.3　タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn） ..... 195
7.3.4　タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn） ..... 200
7.3.5　タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm） ..... 201
7.3.6　タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm） ..... 202
7.3.7　タイマ・チャネル停止レジスタm（TTm） ..... 204
7.3.8　タイマ入力選択レジスタ0（TIS0） ..... 205
7.3.9　タイマ出力許可レジスタm（TOEm） ..... 206
7.3.10　タイマ出力レジスタm（TOm） ..... 207
7.3.11　タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm） ..... 208
7.3.12　タイマ出力モード・レジスタm（TOMm） ..... 209
7.3.13　入力切り替え制御レジスタ（ISC） ..... 210
7.3.14　ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1） ..... 211
7.3.15　タイマ入出力端子のポート機能を制御するレジスタ ..... 213
7.4　タイマ・アレイ・ユニットの基本ルール ..... 214
7.4.1　複数チャネル連動動作機能の基本ルール ..... 214
7.4.2　8ビット・タイマ動作機能の基本ルール（チャネル1, 3のみ） ..... 216
7.5　カウンタの動作 ..... 217
7.5.1　カウント・クロック（fTCLK） ..... 217
7.5.2　カウンタのスタート・タイミング ..... 219
7.5.3　カウンタの動作 ..... 220
7.6　チャネル出力（TOmn端子）の制御 ..... 225
7.6.1　TOmn端子の出力回路の構成 ..... 225
7.6.2　TOmn端子の出力設定 ..... 226
7.6.3　チャネル出力操作時の注意事項 ..... 227
7.6.4　TOmnビットの一括操作 ..... 232
7.6.5　カウント動作開始時のタイマ割り込みとTOmn端子出力について ..... 233
7.7　タイマ入力（TImn）の制御 ..... 234
7.7.1　TImnの入力回路構成 ..... 234
7.7.2　ノイズ・フィルタ ..... 234
7.7.3　チャネル入力操作時の注意事項 ..... 235
7.8　タイマ・アレイ・ユニットの単独チャネル動作機能 ..... 236
7.8.1　インターバル・タイマ／方形波出力としての動作 ..... 236
7.8.2　外部イベント・カウンタとしての動作 ..... 241
7.8.3　入力パルス間隔測定としての動作 ..... 245
7.8.4　入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定としての動作 ..... 249
7.8.5　ディレイ・カウンタとしての動作 ..... 253
7.9　タイマ・アレイ・ユニットの複数チャネル連動動作機能 ..... 257
7.9.1　ワンショット・パルス出力機能としての動作 ..... 257
7.9.2　PWM機能としての動作 ..... 264
7.9.3　多重PWM出力機能としての動作 ..... 271

7. 10　タイマ・アレイ・ユニット使用時の注意事項.....279
7. 10. 1　タイマ出力使用時の注意事項.....279

第8章　リアルタイム・クロック2.....280

8. 1　リアルタイム・クロック2の機能.....280
8. 2　リアルタイム・クロック2の構成.....281
8. 3　リアルタイム・クロック2を制御するレジスタ.....283
8. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）.....284
8. 3. 2　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）.....285
8. 3. 3　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）.....286
8. 3. 4　パワー・オン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）.....287
8. 3. 5　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）.....288
8. 3. 6　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）.....290
8. 3. 7　秒カウント・レジスタ（SEC）.....293
8. 3. 8　分カウント・レジスタ（MIN）.....293
8. 3. 9　時カウント・レジスタ（HOUR）.....294
8. 3. 10　日カウント・レジスタ（DAY）.....296
8. 3. 11　曜日カウント・レジスタ（WEEK）.....297
8. 3. 12　月カウント・レジスタ（MONTH）.....298
8. 3. 13　年カウント・レジスタ（YEAR）.....298
8. 3. 14　時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）.....299
8. 3. 15　アラーム分レジスタ（ALARMWM）.....302
8. 3. 16　アラーム時レジスタ（ALARMWH）.....302
8. 3. 17　アラーム曜日レジスタ（ALARMWW）.....303
8. 4　リアルタイム・クロック2の動作.....304
8. 4. 1　リアルタイム・クロック2の動作開始.....304
8. 4. 2　動作開始後のHALT/STOPモードへの移行.....305
8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し.....306
8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込み.....307
8. 4. 5　リアルタイム・クロック2のアラーム設定.....308
8. 4. 6　リアルタイム・クロック2の1 Hz出力.....309
8. 4. 7　時計誤差補正レジスタの設定手順.....310
8. 4. 8　リアルタイム・クロック2の時計誤差補正例.....311
8. 4. 9　高精度1 Hz出力について.....314

第9章　サブシステム・クロック周波数測定回路.....315

9. 1　サブシステム・クロック周波数測定回路.....315
9. 2　サブシステム・クロック周波数測定回路の構成.....315
9. 3　サブシステム・クロック周波数測定回路を制御するレジスタ.....316
9. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）.....317
9. 3. 2　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）.....318
9. 3. 3　周波数測定カウント・レジスタL（FMCRL）.....320
9. 3. 4　周波数測定カウント・レジスタH（FMCRH）.....320
9. 3. 5　周波数測定コントロール・レジスタ（FMCTL）.....321
9. 4　サブシステム・クロック周波数測定回路の動作.....322
9. 4. 1　基準クロックによるサブシステム・クロック周波数測定回路の設定.....322
9. 4. 2　サブシステム・クロック周波数測定回路の動作タイミング.....323

第10章　12ビット・インターバル・タイマ .....324

10. 1　12ビット・インターバル・タイマの機能.....324
10. 2　12ビット・インターバル・タイマの構成.....324
10. 3　12ビット・インターバル・タイマを制御するレジスタ .....325
10. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1） .....325
10. 3. 2　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC） .....326
10. 3. 3　12ビット・インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ（ITMC） .....327
10. 4　12ビット・インターバル・タイマの動作.....328
10. 4. 1　12ビット・インターバル・タイマの動作タイミング .....328
10. 4. 2　HALT/STOP モードから復帰後にカウンタ動作開始し，再度HALT/STOPモードへの移行 .....329

第11章　8ビット・インターバル・タイマ .....330

11. 1　概要 .....330
11. 2　入出力端子 .....331
11. 3　レジスタの説明.....331
11. 3. 1　8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタni（TRTni）（n = 0, 1, i = 0, 1） .....332
11. 3. 2　8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタn（TRTn）（n = 0, 1） .....332
11. 3. 3　8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタni（TRTCMPni）（n = 0, 1, i = 0, 1） .....333
11. 3. 4　8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタn（TRTCMPn）（n = 0, 1） .....333
11. 3. 5　8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn（TRTCRn）（n = 0, 1） .....334
11. 3. 6　8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタn（TRTMDn）（n = 0, 1） .....335
11. 4　動作説明.....336
11. 4. 1　カウンタ・モード.....336
11. 4. 2　タイマ動作.....337
11. 4. 3　開始/停止タイミング .....339
11. 4. 4　コンペア・レジスタ値の反映タイミング .....342
11. 5　8ビット・インターバル・タイマの注意事項.....343
11. 5. 1　動作モードおよびクロック設定変更について .....343
11. 5. 2　コンペア・レジスタへのアクセスについて .....343
11. 5. 3　8ビット・インターバル・タイマ設定手順について .....343

第12章　クロック出力／ブザー出力制御回路.....344

12. 1　クロック出力／ブザー出力制御回路の機能.....344
12. 2　クロック出力／ブザー出力制御回路の構成.....346
12. 3　クロック出力／ブザー出力制御回路を制御するレジスタ .....346
12. 3. 1　クロック出力選択レジスタn（CKSn） .....346
12. 3. 2　クロック出力／ブザー出力端子のポート機能を制御するレジスタ .....348
12. 4　クロック出力／ブザー出力制御回路の動作.....349
12. 4. 1　出力端子の動作 .....349
12. 5　クロック出力／ブザー出力制御回路の注意事項 .....349

第13章　ウォッチドッグ・タイマ.....350

13. 1　ウォッチドッグ・タイマの機能.....350
13. 2　ウォッチドッグ・タイマの構成.....351
13. 3　ウォッチドッグ・タイマを制御するレジスタ.....352
13. 3. 1　ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）.....352
13. 4　ウォッチドッグ・タイマの動作.....353
13. 4. 1　ウォッチドッグ・タイマの動作制御.....353
13. 4. 2　ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定.....354
13. 4. 3　ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間の設定.....355
13. 4. 4　ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定.....356

第14章　A/Dコンバータ.....357

14. 1　A/Dコンバータの機能.....357
14. 2　A/Dコンバータの構成.....360
14. 3　A/Dコンバータを制御するレジスタ.....362
14. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）.....363
14. 3. 2　A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）.....364
14. 3. 3　A/Dコンバータ・モード・レジスタ1（ADM1）.....371
14. 3. 4　A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）.....372
14. 3. 5　10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR）.....374
14. 3. 6　8ビットA/D変換結果レジスタ（ADCRH）.....375
14. 3. 7　アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）.....376
14. 3. 8　変換結果比較上限値設定レジスタ（ADUL）.....377
14. 3. 9　変換結果比較下限値設定レジスタ（ADLL）.....377
14. 3. 10　A/Dテスト・レジスタ（ADTES）.....378
14. 3. 11　アナログ入力端子のポート機能を制御するレジスタ.....379
14. 4　A/Dコンバータの変換動作.....380
14. 5　入力電圧と変換結果.....382
14. 6　A/Dコンバータの動作モード.....383
14. 6. 1　ソフトウエア・トリガ・モード（セレクト・モード，連続変換モード）.....383
14. 6. 2　ソフトウエア・トリガ・モード
（セレクト・モード，ワンショット変換モード）.....384
14. 6. 3　ソフトウエア・トリガ・モード（スキャン・モード，連続変換モード）.....385
14. 6. 4　ソフトウエア・トリガ・モード
（スキャン・モード，ワンショット変換モード）.....386
14. 6. 5　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード
（セレクト・モード，連続変換モード）.....387
14. 6. 6　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード
（セレクト・モード，ワンショット変換モード）.....388
14. 6. 7　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード
（スキャン・モード，連続変換モード）.....389
14. 6. 8　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード
（スキャン・モード，ワンショット変換モード）.....390
14. 6. 9　ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード
（セレクト・モード，連続変換モード）.....391
14. 6. 10　ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード
（セレクト・モード，ワンショット変換モード）.....392

14. 6. 11　ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード
（スキャン・モード，連続変換モード）.....393
14. 6. 12　ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード
（スキャン・モード，ワンショット変換モード）.....394
14. 7　A/Dコンバータの設定フロー・チャート.....395
14. 7. 1　ソフトウエア・トリガ・モード設定.....395
14. 7. 2　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード設定.....396
14. 7. 3　ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード設定.....397
14. 7. 4　温度センサ出力電圧／内部基準電圧を選択時の設定
（例　ソフトウエア・トリガ・モード，ワンショット変換モード時）.....398
14. 7. 5　テスト・モード設定.....399
14. 8　SNOOZEモード機能.....400
14. 9　A/Dコンバータ特性表の読み方.....404
14. 10　A/Dコンバータの注意事項.....407

第15章　温度センサ2.....411

15. 1　温度センサの機能.....411
15. 2　レジスタの説明.....412
15. 2. 1　温度センサ・コントロール・テスト・レジスタ（TMPCTL）.....412
15. 3　設定手順.....413
15. 3. 1　A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）.....413
15. 3. 2　モード切り替え.....414

第16章　24ビットΔΣA/Dコンバータ.....415

16. 1　24ビットΔΣA/Dコンバータの機能.....415
16. 1. 1　入出力端子.....418
16. 1. 2　プリアンプ.....418
16. 1. 3　ΔΣA/Dコンバータ.....418
16. 1. 4　基準電圧発生.....419
16. 1. 5　位相調整回路（PHC0, PHC1）.....419
16. 1. 6　デシタル・フィルタ（DF）.....419
16. 1. 7　ハイパス・フィルタ（HPF）.....419
16. 2　レジスタの説明.....420
16. 2. 1　ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）.....421
16. 2. 2　ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ0（DSADGCR0）.....423
16. 2. 3　ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ1（DSADGCR1）.....424
16. 2. 4　ΔΣA/DコンバータHPFコントロール・レジスタ（DSADHPFCR）.....425
16. 2. 5　ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ0（DSADPHCR0）.....426
16. 2. 6　ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ1（DSADPHCR1）.....427
16. 2. 7　ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタn　（DSADCRnL, DSADCRnM, DSADCRnH）
（n = 0, 1, 2, 3）.....428
16. 2. 8　ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタn（DSADCRn）（n = 0, 1, 2, 3）.....430
16. 2. 9　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）.....431
16. 2. 10　周辺クロック制御レジスタ（PCKC）.....432
16. 3　動作説明.....433
16. 3. 1　24ビットΔΣA/Dコンバータの動作.....434
16. 3. 2　Normal OperationモードからNeutral Missingモードへの切替手順.....436

16. 3. 3　割り込み動作 ..... 437
16. 3. 4　スタンバイ時の動作 ..... 437
16. 4　24ビットΔΣA/Dコンバータ使用上の注意事項 ..... 438
16. 4. 1　外部端子 ..... 438
16. 4. 2　SFRアクセス ..... 438
16. 4. 3　動作クロックの設定 ..... 439
16. 4. 4　単相二線式における位相調整 ..... 439

第17章　コンパレータ ..... 440

17. 1　コンパレータの機能 ..... 440
17. 2　コンパレータの構成 ..... 441
17. 3　コンパレータを制御するレジスタ ..... 442
17. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1） ..... 442
17. 3. 2　コンパレータ・モード設定レジスタ（COMPMDR） ..... 443
17. 3. 3　コンパレータ・フィルタ制御レジスタ（COMPFIR） ..... 445
17. 3. 4　コンパレータ出力制御レジスタ（COMPOCR） ..... 446
17. 3. 5　アナログ入力端子のポート機能を制御するレジスタ ..... 447
17. 4　動作説明 ..... 448
17. 4. 1　コンパレータiデジタルフィルタ（i = 0, 1） ..... 450
17. 4. 2　コンパレータi割り込み（i = 0, 1） ..... 450
17. 4. 3　コンパレータi出力（i = 0, 1） ..... 451
17. 4. 4　コンパレータクロック停止／供給 ..... 451

第18章　シリアル・アレイ・ユニット ..... 452

18. 1　シリアル・アレイ・ユニットの機能 ..... 453
18. 1. 1　簡易SPI（CSI00） ..... 453
18. 1. 2　UART（UART0-UART2） ..... 454
18. 1. 3　簡易I²C（IIC00, IIC10） ..... 455
18. 1. 4　IrDA ..... 455
18. 2　シリアル・アレイ・ユニットの構成 ..... 456
18. 2. 1　シフト・レジスタ ..... 460
18. 2. 2　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）の下位8/9ビット ..... 460
18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ ..... 462
18. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0） ..... 463
18. 3. 2　シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm） ..... 464
18. 3. 3　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn） ..... 465
18. 3. 4　シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn） ..... 466
18. 3. 5　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn） ..... 469
18. 3. 6　シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn） ..... 471
18. 3. 7　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn） ..... 472
18. 3. 8　シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm） ..... 474
18. 3. 9　シリアル・チャネル停止レジスタm（STm） ..... 475
18. 3. 10　シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm） ..... 476
18. 3. 11　シリアル出力許可レジスタm（SOEm） ..... 477
18. 3. 12　シリアル出力レジスタm（SOm） ..... 478
18. 3. 13　シリアル出力レベル・レジスタm（SOLm） ..... 479
18. 3. 14　シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0（SSC0） ..... 481

18. 3. 15　入力切り替え制御レジスタ（ISC）.....482
18. 3. 16　ノイズ・フィルタ許可レジスタ0（NFEN0）.....483
18. 3. 17　シリアル入出力端子のポート機能を制御するレジスタ.....484
18. 4　動作停止モード.....485
18. 4. 1　ユニット単位で動作停止とする場合.....486
18. 4. 2　チャネルごとに動作停止とする場合.....487
18. 5　簡易SPI（CSI00）通信の動作.....488
18. 5. 1　マスタ送信.....490
18. 5. 2　マスタ受信.....498
18. 5. 3　マスタ送受信.....506
18. 5. 4　スレーブ送信.....514
18. 5. 5　スレーブ受信.....522
18. 5. 6　スレーブ送受信.....528
18. 5. 7　SNOOZEモード機能.....536
18. 5. 8　転送クロック周波数の算出.....540
18. 5. 9　簡易SPI（CSI00）通信時におけるエラー発生時の処理手順.....542
18. 6　UART（UART0-UART2）通信の動作.....543
18. 6. 1　UART送信.....545
18. 6. 2　UART受信.....554
18. 6. 3　SNOOZEモード機能.....561
18. 6. 4　ボー・レートの算出.....569
18. 6. 5　UART（UART0-UART2）通信時におけるエラー発生時の処理手順.....573
18. 7　LIN通信の動作.....574
18. 7. 1　LIN送信.....574
18. 7. 2　LIN受信.....577
18. 8　簡易I²C（IIC00, IIC10）通信の動作.....582
18. 8. 1　アドレス・フィールド送信.....584
18. 8. 2　データ送信.....589
18. 8. 3　データ受信.....592
18. 8. 4　ストップ・コンディション発生.....596
18. 8. 5　転送レートの算出.....597
18. 8. 6　簡易I²C（IIC00, IIC10）通信時におけるエラー発生時の処理手順.....599

第19章　シリアル・インタフェースIICA.....600

19. 1　シリアル・インタフェースIICAの機能.....600
19. 2　シリアル・インタフェースIICAの構成.....603
19. 3　シリアル・インタフェースIICAを制御するレジスタ.....606
19. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）.....606
19. 3. 2　IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）.....607
19. 3. 3　IICAステータス・レジスタn（IICSn）.....612
19. 3. 4　IICAフラグ・レジスタn（IICFn）.....614
19. 3. 5　IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）.....616
19. 3. 6　IICAロウ・レベル幅設定レジスタn（IICWLn）.....618
19. 3. 7　IICAハイ・レベル幅設定レジスタn（IICWHn）.....618
19. 3. 8　ポート・モード・レジスタ6（PM6）.....619
19. 4　I²Cバス・モードの機能.....620
19. 4. 1　端子構成.....620
19. 4. 2　IICWLn, IICWHnレジスタによる転送クロック設定方法.....621

19. 5　I²Cバスの定義および制御方法 ..... 623
19. 5. 1　スタート・コンディション ..... 623
19. 5. 2　アドレス ..... 624
19. 5. 3　転送方向指定 ..... 624
19. 5. 4　アクノリッジ（ACK） ..... 625
19. 5. 5　ストップ・コンディション ..... 626
19. 5. 6　クロック・ストレッチ ..... 627
19. 5. 7　クロック・ストレッチ解除方法 ..... 629
19. 5. 8　割り込み要求（INTIICAn）発生タイミングおよびクロック・ストレッチ制御 ..... 630
19. 5. 9　アドレスの一致検出方法 ..... 631
19. 5. 10　エラーの検出 ..... 631
19. 5. 11　拡張コード ..... 632
19. 5. 12　アービトレーション ..... 633
19. 5. 13　ウエイク・アップ機能 ..... 635
19. 5. 14　通信予約 ..... 638
19. 5. 15　その他の注意事項 ..... 642
19. 5. 16　通信動作 ..... 643
19. 5. 17　I²C割り込み要求（INTIICAn）の発生タイミング ..... 651
19. 6　タイミング・チャート ..... 672

第20章　IrDA ..... 687

20. 1　IrDAの機能 ..... 687
20. 2　レジスタの説明 ..... 688
20. 2. 1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0） ..... 688
20. 2. 2　IrDAコントロール・レジスタ（IRCR） ..... 689
20. 3　動作説明 ..... 690
20. 3. 1　IrDA通信操作手順 ..... 690
20. 3. 2　送信 ..... 691
20. 3. 3　受信 ..... 692
20. 3. 4　ハイ・パルス幅の選択 ..... 692
20. 4　IrDA使用上の注意事項 ..... 693

第21章　LCDコントローラ／ドライバ ..... 694

21. 1　LCDコントローラ／ドライバの機能 ..... 695
21. 2　LCDコントローラ／ドライバの構成 ..... 697
21. 3　LCDコントローラ／ドライバを制御するレジスタ ..... 699
21. 3. 1　LCDモード・レジスタ0（LCDM0） ..... 700
21. 3. 2　LCDモード・レジスタ1（LCDM1） ..... 702
21. 3. 3　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC） ..... 704
21. 3. 4　LCDクロック制御レジスタ0（LCDC0） ..... 705
21. 3. 5　LCD昇圧レベル制御レジスタ（VLCD） ..... 706
21. 3. 6　LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD） ..... 707
21. 3. 7　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5） ..... 709
21. 3. 8　ポート・モード・レジスタ0, 1, 3, 5, 7, 8（PM0, PM1, PM3, PM5, PM7, PM8） 712
21. 4　LCD表示データ・レジスタ ..... 713
21. 5　LCD表示レジスタの選択 ..... 717
21. 5. 1　Aパターン領域，Bパターン領域のデータ表示 ..... 718

21. 5. 2　点滅表示（Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示）.....718
21. 6　LCDコントローラ／ドライバの設定.....719
21. 7　動作停止手順.....722
21. 8　LCD駆動電圧VL1, VL2, VL3, VL4の供給.....723
21. 8. 1　外部抵抗分割方式.....723
21. 8. 2　内部昇圧方式.....725
21. 8. 3　容量分割方式.....726
21. 9　コモン信号とセグメント信号.....727
21. 9. 1　通常液晶波形の場合.....727
21. 10　表示モード.....735
21. 10. 1　スタティック表示例.....735
21. 10. 2　2時分割表示例.....738
21. 10. 3　3時分割表示例.....741
21. 10. 4　4時分割表示例.....745
21. 10. 5　6時分割表示例.....749
21. 10. 6　8時分割表示例.....752

第22章　データ・トランスファ・コントローラ（DTC）.....756

22. 1　DTCの機能.....757
22. 2　DTCの構成.....758
22. 3　DTCを制御するレジスタ.....759
22. 3. 1　DTCコントロールデータ領域とDTCベクタテーブル領域の配置.....760
22. 3. 2　コントロールデータの配置.....761
22. 3. 3　ベクタテーブル.....763
22. 3. 4　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）.....765
22. 3. 5　DTC制御レジスタj（DTCCRj）（j = 0～23）.....766
22. 3. 6　DTCブロック・サイズ・レジスタj（DTBLSj）（j = 0～23）.....767
22. 3. 7　DTC転送回数レジスタj（DTCCTj）（j = 0～23）.....767
22. 3. 8　DTC転送回数リロード・レジスタj（DTRLDj）（j = 0～23）.....768
22. 3. 9　DTCソース・アドレス・レジスタj（DTSARj）（j = 0～23）.....768
22. 3. 10　DTCデスティネーション・アドレス・レジスタj（DTDARj）（j = 0～23）.....768
22. 3. 11　DTC起動許可レジスタi（DTCENi）（i = 0～3）.....769
22. 3. 12　DTCベース・アドレス・レジスタ（DTCBAR）.....771
22. 4　DTCの動作.....772
22. 4. 1　起動要因.....772
22. 4. 2　ノーマルモード.....773
22. 4. 3　リピートモード.....776
22. 4. 4　チェイン転送.....779
22. 5　DTC使用上の注意事項.....781
22. 5. 1　DTCのコントロールデータおよびベクタテーブルの設定.....781
22. 5. 2　DTCコントロールデータ領域とDTCベクタテーブル領域の配置.....781
22. 5. 3　DTC保留命令.....781
22. 5. 4　DTC実行クロック数.....782
22. 5. 5　DTC応答時間.....783
22. 5. 6　DTC起動要因.....783
22. 5. 7　スタンバイ・モード時の動作.....784

第23章　割り込み機能.....785

23. 1　割り込み機能の種類 ..... 785
23. 2　割り込み要因と構成 ..... 785
23. 3　割り込み機能を制御するレジスタ ..... 790
23. 3. 1　割り込み要求フラグ・レジスタ（IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L, IF2H, IF3L） ..... 793
23. 3. 2　割り込みマスク・フラグ・レジスタ（MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L, MK2H, MK3L） ..... 794
23. 3. 3　優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR02H, PR03L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PR12H, PR13L） ..... 796
23. 3. 4　外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ（EGP0），外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ（EGN0） ..... 798
23. 3. 5　プログラム・ステータス・ワード（PSW） ..... 799
23. 4　割り込み処理動作 ..... 800
23. 4. 1　マスカブル割り込み要求の受け付け動作 ..... 800
23. 4. 2　ソフトウエア割り込み要求の受け付け動作 ..... 803
23. 4. 3　多重割り込み処理 ..... 803
23. 4. 4　除算命令中の割り込み処理 ..... 807
23. 4. 5　割り込み要求の保留 ..... 809

第24章　スタンバイ機能 ..... 810

24. 1　スタンバイ機能 ..... 810
24. 2　スタンバイ機能を制御するレジスタ ..... 811
24. 3　スタンバイ機能の動作 ..... 812
24. 3. 1　HALTモード ..... 812
24. 3. 2　STOPモード ..... 818
24. 3. 3　SNOOZEモード ..... 824

第25章　リセット機能 ..... 828

25. 1　リセット動作のタイミング ..... 830
25. 2　リセット期間中の動作状態 ..... 832
25. 3　リセット要因を確認するレジスタ ..... 834
25. 3. 1　リセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF） ..... 834
25. 3. 2　パワーオン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR） ..... 837

第26章　パワーオン・リセット回路 ..... 838

26. 1　パワーオン・リセット回路の機能 ..... 838
26. 2　パワーオン・リセット回路の構成 ..... 839
26. 3　パワーオン・リセット回路の動作 ..... 839

第27章　電圧検出回路 ..... 843

27. 1　電圧検出回路の機能 ..... 843
27. 2　電圧検出回路の構成 ..... 844
27. 3　電圧検出回路を制御するレジスタ ..... 844
27. 3. 1　電圧検出レジスタ（LVIM） ..... 845
27. 3. 2　電圧検出レベル・レジスタ（LVIS） ..... 846
27. 4　電圧検出回路の動作 ..... 849

27. 4. 1　リセット・モードとして使用する場合の設定 ..... 849
27. 4. 2　割り込みモードとして使用する場合の設定 ..... 851
27. 4. 3　割り込み＆リセット・モードとして使用する場合の設定 ..... 853
27. 5　電圧検出回路の注意事項 ..... 859

第28章　バッテリ・バックアップ機能 ..... 861

28. 1　バッテリ・バックアップの機能 ..... 861
28. 1. 1　端子構成 ..... 861
28. 2　レジスタ説明 ..... 862
28. 2. 1　バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ0（BUPCTL0） ..... 862
28. 2. 2　バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ1（BUPCTL1） ..... 864
28. 2. 3　グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ（GDIDIS） ..... 864
28. 3　動作説明 ..... 865
28. 3. 1　バッテリ・バックアップ機能 ..... 865
28. 4　使用上の注意事項 ..... 867

第29章　発振停止検出回路 ..... 868

29. 1　発振停止検出回路の機能 ..... 868
29. 2　発振停止検出回路の構成 ..... 869
29. 3　発振停止検出回路で使用するレジスタ ..... 870
29. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1） ..... 870
29. 3. 2　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC） ..... 871
29. 3. 3　発振停止検出制御レジスタ（OSDC） ..... 872
29. 4　発振停止検出回路の動作 ..... 873
29. 4. 1　発振停止検出回路の動作方法 ..... 873
29. 5　発振停止検出機能使用時の注意事項 ..... 874

第30章　安全機能 ..... 875

30. 1　安全機能の概要 ..... 875
30. 2　安全機能で使用するレジスタ ..... 876
30. 3　安全機能の動作 ..... 876
30. 3. 1　フラッシュ・メモリCRC演算機能（高速CRC） ..... 876
30. 3. 1. 1　フラッシュ・メモリCRC制御レジスタ（CRC0CTL） ..... 877
30. 3. 1. 2　フラッシュ・メモリCRC演算結果レジスタ（PGCRCL） ..... 878
30. 3. 2　CRC演算機能（汎用CRC） ..... 880
30. 3. 2. 1　CRC入力レジスタ（CRCIN） ..... 880
30. 3. 2. 2　CRCデータ・レジスタ（CRCD） ..... 881
30. 3. 3　RAMパリティ・エラー検出機能 ..... 882
30. 3. 3. 1　RAMパリティ・エラー制御レジスタ（RPECTL） ..... 882
30. 3. 4　RAMガード機能 ..... 883
30. 3. 4. 1　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL） ..... 883
30. 3. 5　SFRガード機能 ..... 884
30. 3. 5. 1　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL） ..... 884
30. 3. 6　不正メモリ・アクセス検出機能 ..... 885
30. 3. 6. 1　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL） ..... 886

30. 3. 7　周波数検出機能 ..... 887
30. 3. 7. 1　タイマ入力選択レジスタ0（TIS0） ..... 888
30. 3. 8　A/Dテスト機能 ..... 889
30. 3. 8. 1　A/Dテスト・レジスタ（ADTES） ..... 891
30. 3. 8. 2　アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS） ..... 892
30. 3. 9　入出力ポートのデジタル出力信号レベル検出機能 ..... 893
30. 3. 9. 1　ポート・モード選択レジスタ（PMS） ..... 893

第31章　レギュレータ ..... 894

31. 1　レギュレータの概要 ..... 894

第32章　オプション・バイト ..... 895

32. 1　オプション・バイトの機能 ..... 895
32. 1. 1　ユーザ・オプション・バイト（000C0H-000C2H/010C0H-010C2H） ..... 895
32. 1. 2　オンチップ・デバッグ・オプション・バイト（000C3H/010C3H） ..... 896
32. 2　ユーザ・オプション・バイトのフォーマット ..... 897
32. 3　オンチップ・デバッグ・オプション・バイトのフォーマット ..... 901
32. 4　オプション・バイトの設定 ..... 902

第33章　フラッシュ・メモリ ..... 903

33. 1　フラッシュ・メモリ・プログラマによるシリアル・プログラミング ..... 905
33. 1. 1　プログラミング環境 ..... 906
33. 1. 2　通信方式 ..... 906
33. 2　外部デバイス（UART内蔵）によるシリアル・プログラミング ..... 907
33. 2. 1　プログラミング環境 ..... 907
33. 2. 2　通信方式 ..... 908
33. 3　オンボード上の端子処理 ..... 909
33. 3. 1　P40/TOOL0端子 ..... 909
33. 3. 2　RESET端子 ..... 909
33. 3. 3　ポート端子 ..... 910
33. 3. 4　REGC端子 ..... 910
33. 3. 5　X1, X2端子 ..... 910
33. 3. 6　電　　源 ..... 910
33. 4　シリアル・プログラミング方法 ..... 911
33. 4. 1　シリアル・プログラミング手順 ..... 911
33. 4. 2　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード ..... 912
33. 4. 3　通信方式 ..... 914
33. 4. 4　通信コマンド ..... 915
33. 5　セルフ・プログラミング ..... 917
33. 5. 1　セルフ・プログラミング手順 ..... 918
33. 5. 2　ブート・スワップ機能 ..... 919
33. 5. 3　フラッシュ・シールド・ウインドウ機能 ..... 921
33. 6　セキュリティ設定 ..... 922

第34章　オンチップ・デバッグ機能 ..... 924

34. 1　E1オンチップデバッギングエミュレータとの接続 ..... 924
34. 2　オンチップ・デバッグ・セキュリティID ..... 925
34. 3　ユーザ資源の確保 ..... 925

第35章　10進補正（BCD）回路 ..... 927

35. 1　10進補正回路の機能 ..... 927
35. 2　10進補正回路で使用するレジスタ ..... 927
35. 2. 1　BCD補正結果レジスタ（BCDADJ） ..... 927
35. 3　10進補正回路の動作 ..... 928

第36章　命令セットの概要 ..... 930

36. 1　凡例 ..... 931
36. 1. 1　オペランドの表現形式と記述方法 ..... 931
36. 1. 2　オペレーション欄の説明 ..... 931
36. 1. 3　フラグ動作欄の説明 ..... 933
36. 1. 4　PREFIX命令 ..... 933
36. 2　オペレーション一覧 ..... 934

第37章　電気的特性 ..... 952

37. 1　絶対最大定格 ..... 953
37. 2　発振回路特性 ..... 956
37. 2. 1　X1, XT1発振回路特性 ..... 956
37. 2. 2　オンチップ・オシレータ特性 ..... 957
37. 3　DC特性 ..... 958
37. 3. 1　端子特性 ..... 958
37. 3. 2　電源電流特性 ..... 963
37. 4　AC特性 ..... 970
37. 5　周辺機能特性 ..... 973
37. 5. 1　シリアル・アレイ・ユニット ..... 973
37. 5. 2　シリアル・インタフェースIICA ..... 998
37. 6　アナログ特性 ..... 1001
37. 6. 1　A/Dコンバータ特性 ..... 1001
37. 6. 2　24ビットΔΣA/Dコンバータ特性 ..... 1004
37. 6. 3　温度センサ2特性 ..... 1006
37. 6. 4　コンパレータ ..... 1007
37. 6. 5　POR回路特性 ..... 1007
37. 6. 6　LVD回路特性 ..... 1008
37. 6. 7　電源電圧立ち上がり傾き特性 ..... 1009
37. 7　バッテリ・バックアップ機能 ..... 1010
37. 8　LCD特性 ..... 1011
37. 8. 1　外部抵抗分割方式 ..... 1011
37. 8. 2　内部昇圧方式 ..... 1012
37. 8. 3　容量分割方式 ..... 1014
37. 9　RAMデータ保持特性 ..... 1015
37. 10　フラッシュ・メモリ・プログラミング特性 ..... 1015
37. 11　専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信（UART） ..... 1015

37. 12　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードの引き込みタイミング ..... 1016

第38章　外 形 図 ..... 1017

38. 1　80ピン製品 ..... 1017
38. 2　100ピン製品 ..... 1019

付録A　改版履歴 ..... 1021

A. 1　本版で改訂された主な箇所 ..... 1021
A. 2　前版までの改版履歴 ..... 1022

# 第1章　概　　説

## 1.1　特　　徴

超低消費電力テクノロジー

- $V_{DD}$ = 1.9～5.5 Vの単一電源
- HALTモード
- STOPモード
- SNOOZEモード

RL78 CPUコア

- 3段パイプラインのCISCアーキテクチャ
- 最小命令実行時間：高速（0.04167 μ s：高速オンチップ・オシレータ・クロック24 MHz動作時）から超低速（30.5μs：サブシステム・クロック32.768 kHz動作時）まで最小命令実行時間を変更可能
- 乗除積和演算命令に対応
- アドレス空間：1 Mバイト
- 汎用レジスタ：8ビット×8レジスタ×4バンク
- 内蔵RAM：6KBまたは8KB

コード・フラッシュ・メモリ

- コード・フラッシュ・メモリ：64 KBまたは128 KB
- ブロック・サイズ：1 KB
- ブロック消去禁止，書き換え禁止（セキュリティ機能）
- オンチップ・デバッグ機能内蔵
- セルフ・プログラミング；ブート・スワップ機能とフラッシュ・シールド・ウインドウ機能あり

高速オンチップ・オシレータ

- 24 MHz（TYP.）/12 MHz（TYP.）/6 MHz（TYP.）/3 MHz（TYP.）から選択可能
- 高精度±1.0 %（$V_{DD}$ = 1.9～5.5 V，$T_A$ = －20～＋85℃）
- 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能内蔵

動作周囲温度

- $T_A$ = －40～＋85 ℃

電源管理とリセット回路

- パワーオン・リセット（POR）回路内蔵
- 電圧検出（LVD）回路内蔵（割り込み，リセットを11段階で選択）

データ・トランスファ・コントローラ（DTC）

- 転送モード：ノーマル転送モード，リピート転送モード，ブロック転送モード
- 起動要因：割り込み要因により起動（40要因）
- チェイン転送機能あり

シリアル・インタフェース

- 簡易SPI (CSI注) ： 1チャネル
- UART／UART（LIN-bus対応） ： 3チャネル
- $I^2C$／簡易$I^2C$ ： 3チャネル
- IrDA ： 1チャネル

タイマ

- 16ビット・タイマ：8チャネル
- 12ビット・インターバル・タイマ：1チャネル
- 8ビット・インターバル・タイマ：4チャネル

- リアルタイム・クロック2：1チャネル（99年カレンダ，アラーム機能，時計補正機能）
- ウォッチドッグ・タイマ：1チャネル（専用の低速オンチップ・オシレータ・クロックで動作可能）
- 発振停止検出回路：1チャネル

LCDコントローラ／ドライバ

- 内部昇圧／容量分割／外部抵抗分割を切り替え可能
- セグメント信号出力：34（30）本注1～42（38）本注1
- コモン信号出力：4（8）本注1

A/Dコンバータ

- 8/10ビット分解能A/Dコンバータ（$V_{DD}$ = 1.9～5.5 V）：4または6チャネル
- 24ビットΔΣA/Dコンバータ：3または4チャネル
- 内部基準電圧（TYP. 1.45 V）と温度センサを搭載注2

コンパレータ

- 2チャネル
- 動作モード：コンパレータ高速モード，コンパレータ低速モード，ウィンドウモード
- 基準電圧は外部基準電圧と内部基準電圧の選択が可能

入出力ポート

- I/Oポート：53または69本（N-chオープン・ドレイン入出力[6V耐圧]：3本，
  N-chオープン・ドレイン入出力[$V_{DD}$耐圧]：13本）
- N-chオープン・ドレイン，TTL入力バッファ，内蔵プルアップの切り替え可能
- 異電位（1.8/2.5/3 V）動作デバイスと接続可能
- クロック出力／ブザー出力制御回路内蔵

その他

- 10進補正（BCD）回路内蔵
- バッテリ・バックアップ機能内蔵

注1. （ ）内は8 com使用時の信号出力本数です。
2. HS（高速メイン）モードのみ選択可能

備考 製品によって，搭載している機能が異なります。1. 6 機能概要を参照してください。

注 一般的にはSPIと呼ばれる機能ですが、本製品ではCSIとも呼称しているため、本マニュアルでは併記します。

○ROM, RAM容量

| フラッシュROM | データ・フラッシュ | RAM | RL78/I1B | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 80ピン | 100ピン |
| 128 KB | － | 8 KB注 | R5F10MMG | R5F10MPG |
| 64 KB | － | 6 KB | R5F10MME | R5F10MPE |

注 セルフ・プログラミング機能使用時は，約7 KB（詳細は，第3章参照）

## 1.2 型名一覧

図1－1 RL78/I1Bの型名とメモリ・サイズ，パッケージ

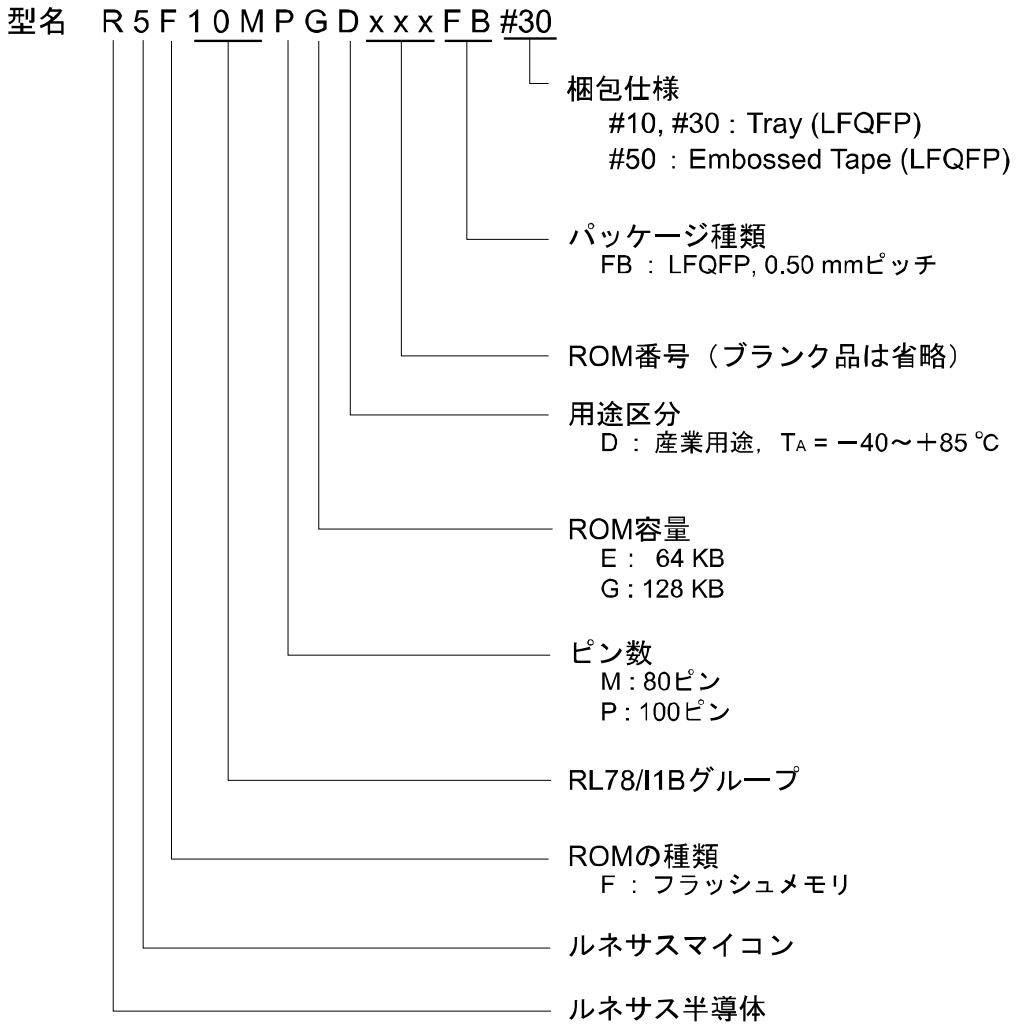



表1－1 発注型名一覧

| ピン数 | パッケージ | データ・フラッシュ | 用途・区分注 | 発注型名 |
|---|---|---|---|---|
| 80ピン | 80ピン・プラスチックLFQFP（12x12 mm, 0.5 mmピッチ） | － | D | R5F10MMEDFB#10, R5F10MMGDFB#10<br>R5F10MMEDFB#30, R5F10MMGDFB#30<br>R5F10MMEDFB#50, R5F10MMGDFB#50 |
| 100ピン | 100ピン・プラスチックLFQFP（14x14 mm, 0.5 mmピッチ） | － | D | R5F10MPEDFB#10, R5F10MPGDFB#10<br>R5F10MPEDFB#30, R5F10MPGDFB#30<br>R5F10MPEDFB#50, R5F10MPGDFB#50 |

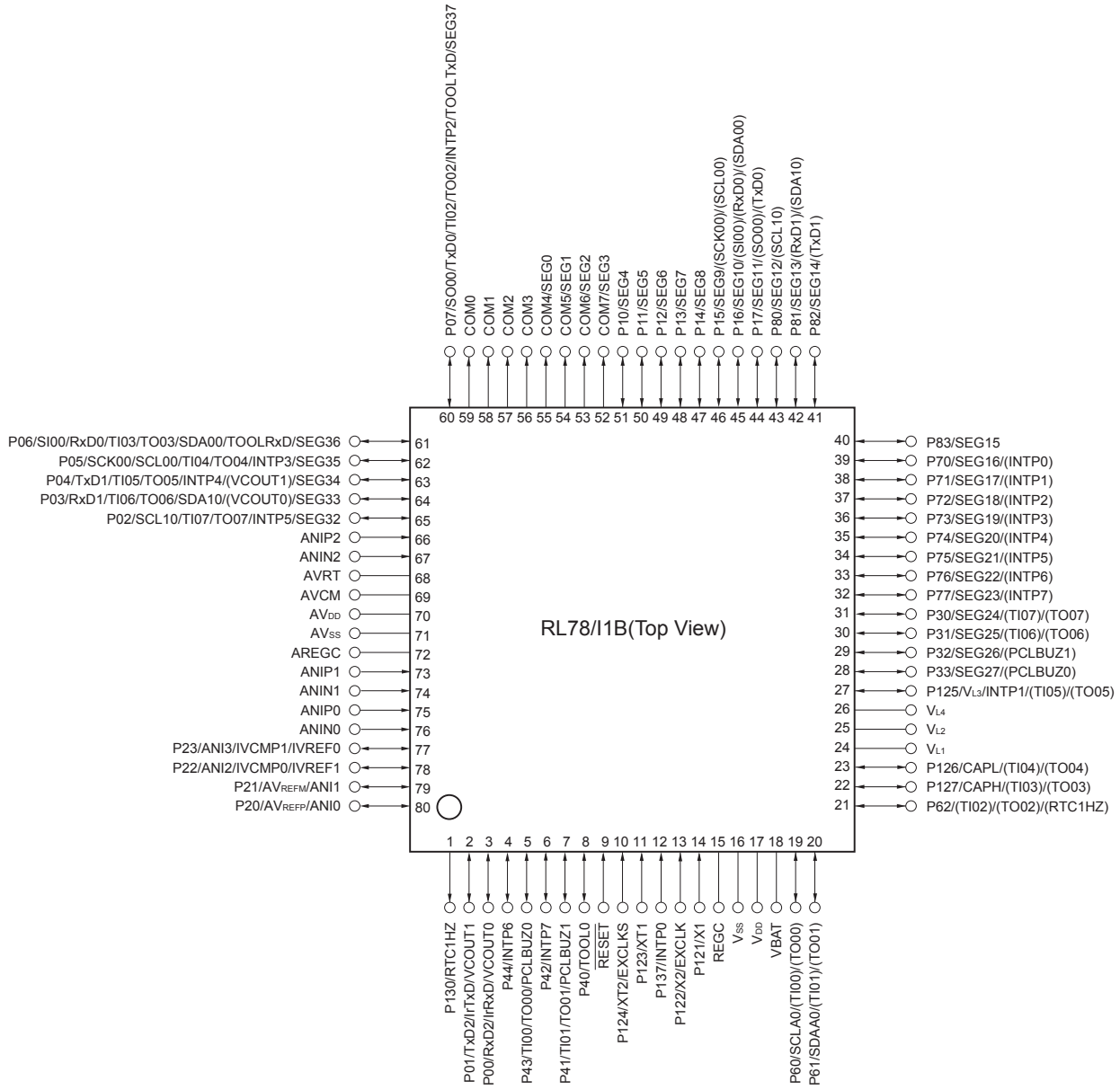
注 用途・区分は，図1－1 RL78/I1Bの型名とメモリ・サイズ，パッケージを参照してください。

**注意 発注型名は，本マニュアル発行時のものです。最新の発注型名は，当社ホームページの対象製品ページを必ず参照してください。**

# 1. 3 端子接続図（Top View）

## 1. 3. 1 80ピン製品

・80ピン・プラスチックLFQFP（12×12mm, 0.5mmピッチ）



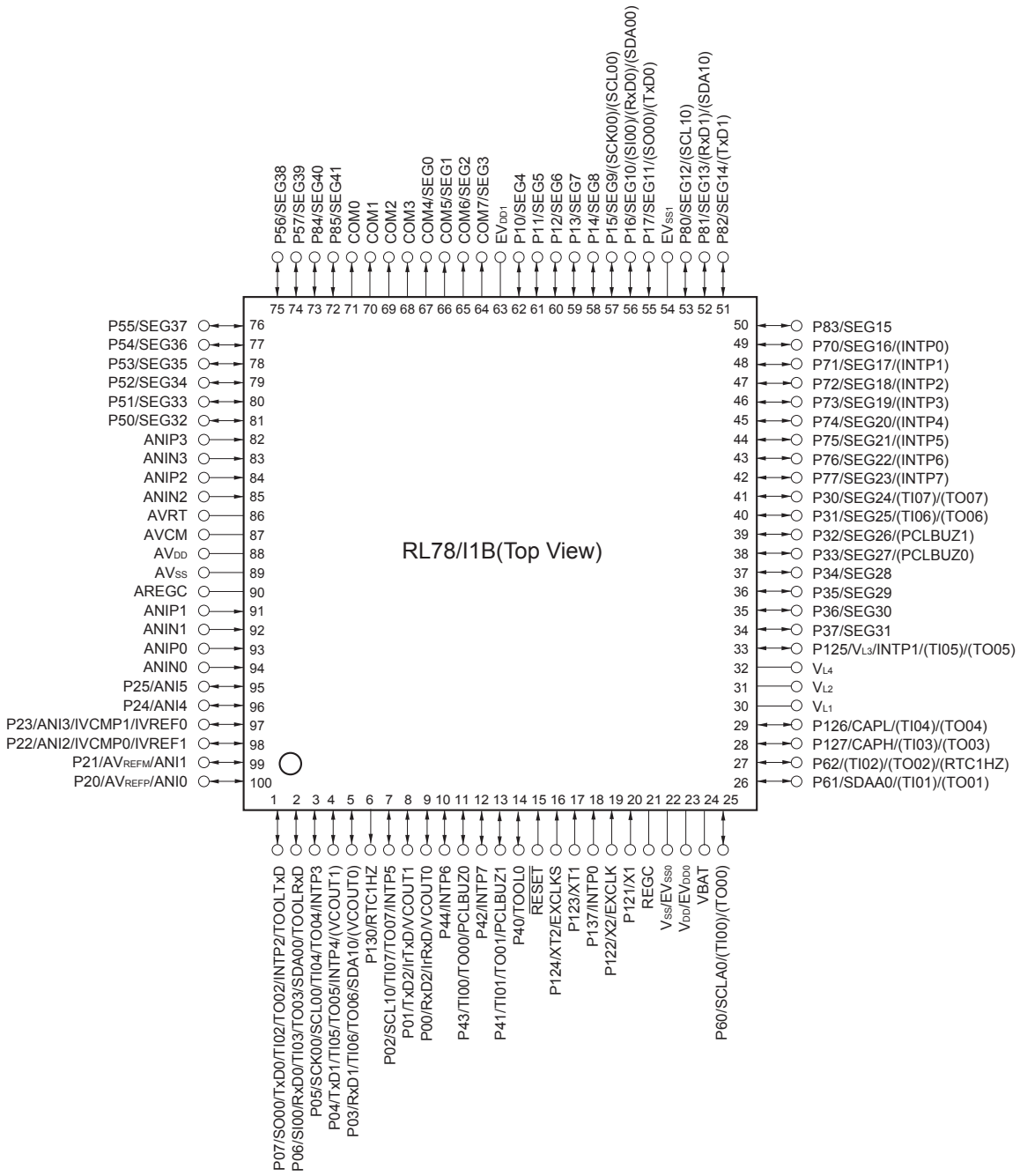

注意 REGC端子はコンデンサ（0.47～1μF）を介し，Vssに接続してください。

備考1. 端子名称は，1. 4 端子名称を参照してください。

2. 上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。図4－8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

## 1. 3. 2 100ピン製品

・100ピン・プラスチックLFQFP（14x14mm, 0.5mmピッチ）




注意1. EVSS1端子は，VSS/EVSS0端子と同電位にしてください。
2. EVDD1端子は，VDD/EVDD0端子と同電位にしてください。
3. REGC端子はコンデンサ（0.47～1μF）を介し，VSSに接続してください。

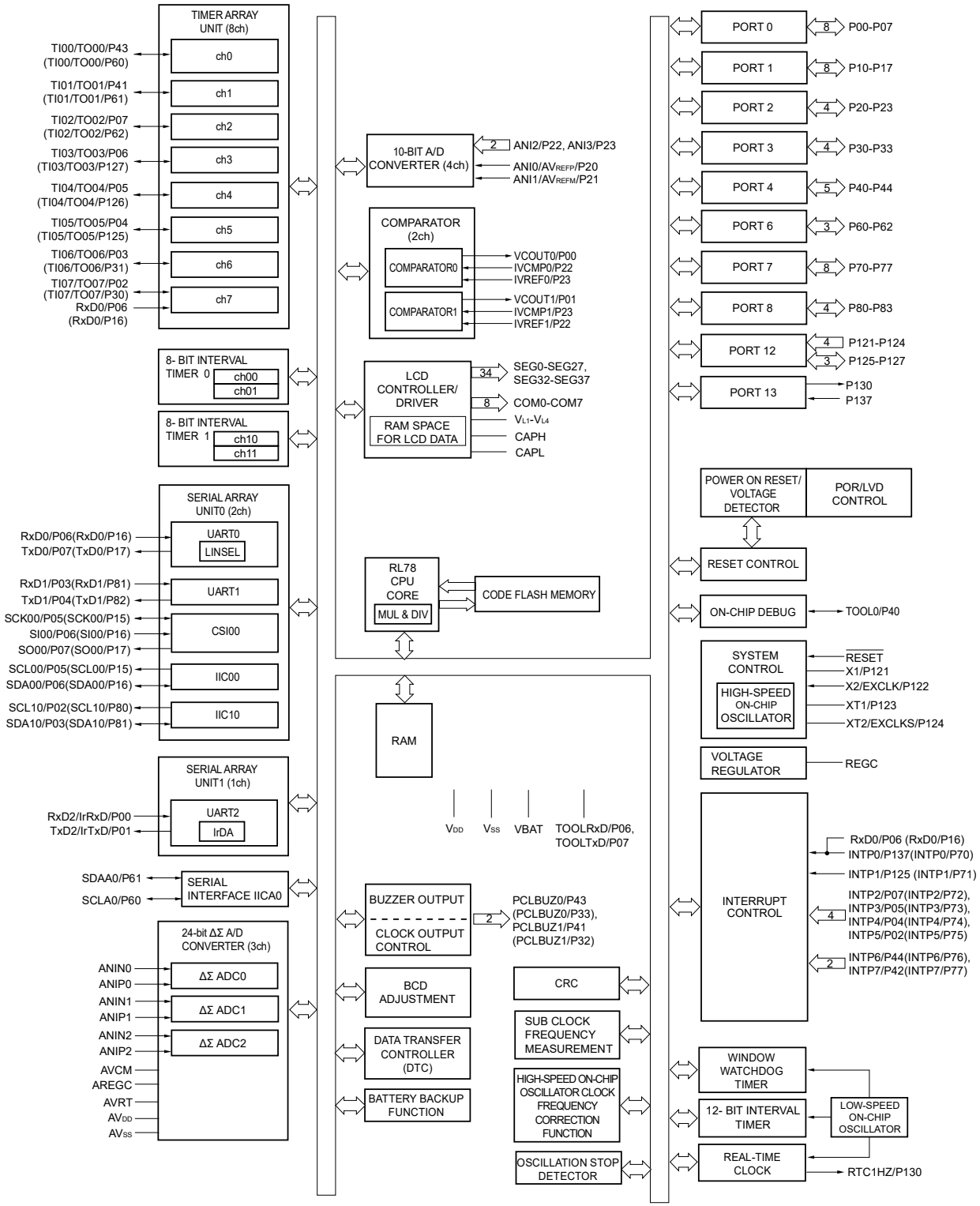
備考1. 端子名称は，1. 4 端子名称を参照してください。
2. マイコン内部から発生するノイズを低減する必要がある応用分野で使用する場合，VDDとEVDD1に個別の電源を供給し，VSSとEVSS1を別々のグランド・ラインに接続するなどのノイズ対策を行うことを推奨します。
3. 上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。図4－8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

## 1.4 端子名称

| | |
|---|---|
| ANI0-ANI5 | : Analog Input |
| ANIN0-ANIN3, ANIP0-ANIP3 | : Analog Input for ΔΣ ADC |
| AREGC | : Regulator Capacitance for ΔΣ ADC |
| AVCM | : Control for ΔΣ ADC |
| $AV_{DD}$ | : Power Supply for ΔΣ ADC |
| $AV_{REFM}$ | : A/D Converter Reference Potential (– side) Input |
| $AV_{REFP}$ | : A/D Converter Reference Potential (+ side) Input |
| AVRT | : Reference Potential for ΔΣ ADC |
| $AV_{SS}$ | : Ground for ΔΣ ADC |
| CAPH, CAPL | : Capacitor Connection for LCD Controller/Driver |
| COM0-COM7 | : Common Signal Output for LCD Controller/Driver |
| $EV_{DD0}$, $EV_{DD1}$ | : Power Supply for Port |
| $EV_{SS0}$, $EV_{SS1}$ | : Ground for Port |
| EXCLK | : External Clock Input (Main System Clock) |
| EXCLKS | : External Clock Input (Subsystem clock) |
| INTP0-INTP7 | : Interrupt Request From Peripheral |
| IrRxD | : Receive Data for IrDA |
| IrTxD | : Transmit Data for IrDA |
| IVCMP0, IVCMP1 | : Comparator Input |
| IVREF0, IVREF1 | : Comparator Reference Input |
| P00-P07 | : Port 0 |
| P10-P17 | : Port 1 |
| P20-P25 | : Port 2 |
| P30-P37 | : Port 3 |
| P40-P44 | : Port 4 |
| P50-P57 | : Port 5 |
| P60-P62 | : Port 6 |
| P70-P77 | : Port 7 |
| P80-P85 | : Port 8 |
| P121-P127 | : Port 12 |
| P130, P137 | : Port 13 |
| PCLBUZ0, PCLBUZ1 | : Programmable Clock Output/Buzzer Output |
| REGC | : Regulator Capacitance |
| $\overline{RESET}$ | : Reset |
| RTC1HZ | : Real-time Clock Correction Clock (1 Hz) Output |
| RxD0-RxD2 | : Receive Data for UART |
| SCK00 | : Serial Clock Input/Output for CSI |
| SCLA0, SCL00, SCL10 | : Serial Clock Input/Output for IIC |
| SDAA0, SDA00, SDA10 | : Serial Data Input/Output for IIC |
| SEG0-SEG41 | : Segment Signal Output for LCD Controller/Driver |
| SI00 | : Serial Data Input for CSI |
| SO00 | : Serial Data Output for CSI |
| TI00-TI07 | : Timer Input |
| TO00-TO07 | : Timer Output |
| TOOL0 | : Data Input/Output for Tool |
| TOOLRxD, TOOLTxD | : Data Input/Output for External Device |
| TxD0-TxD2 | : Transmit Data for UART |
| VBAT | : Battery Backup Power Supply |
| VCOUT0, VCOUT1 | : Comparator Output |
| $V_{DD}$ | : Power Supply |
| $V_{L1}$-$V_{L4}$ | : Voltage for Driving LCD |
| $V_{SS}$ | : Ground |
| X1, X2 | : Crystal Oscillator (Main System Clock) |
| XT1, XT2 | : Crystal Oscillator (Subsystem Clock) |

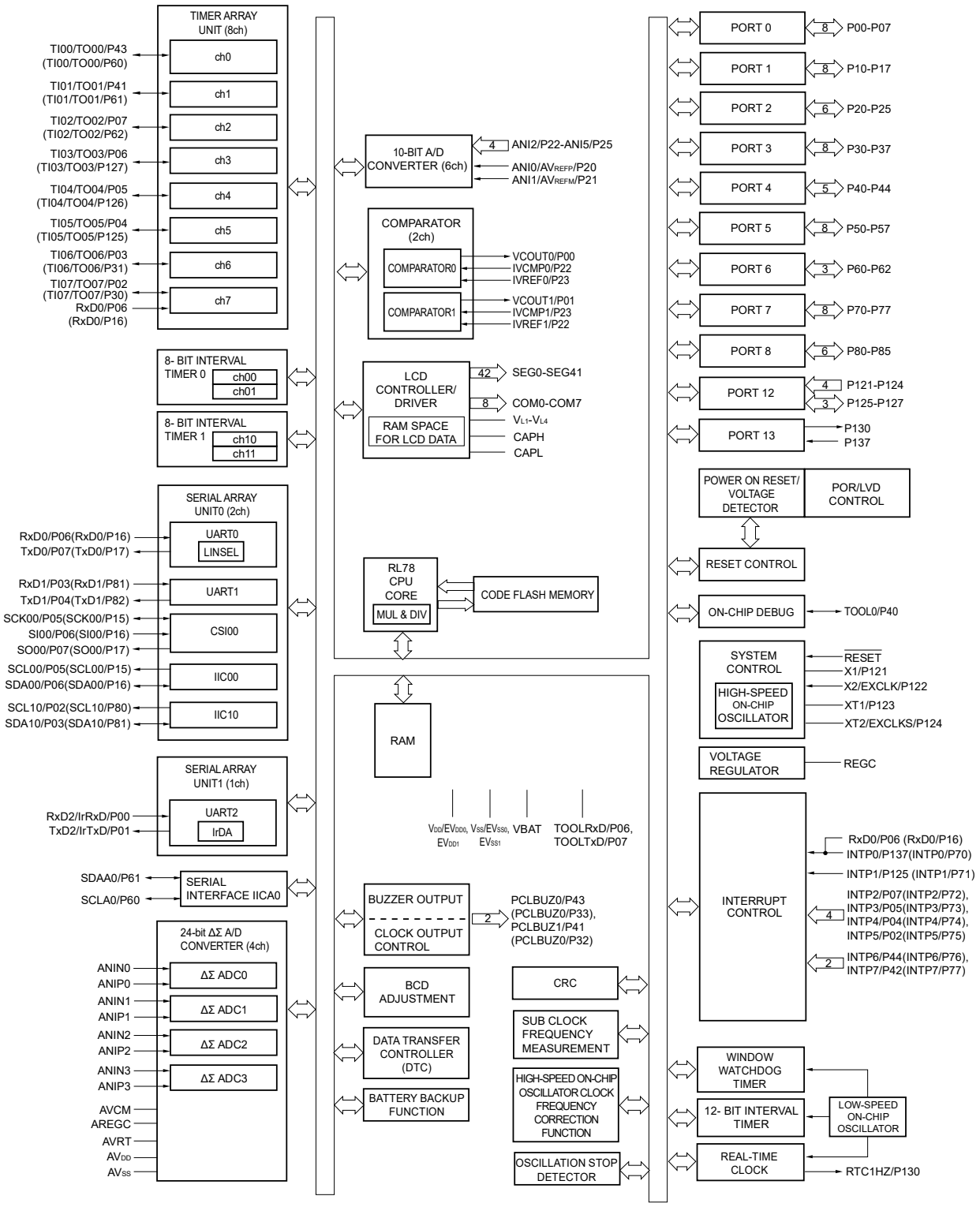
# 1.5 ブロック図

## 1.5.1 80ピン製品




備考 上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。図4－8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

## 1. 5. 2 100ピン製品




備考 上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。図4－8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

## 1. 6 機能概要

（1/2）

| 項 目 | | 80ピン | | 100ピン | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | R5F10MMEDFB | R5F10MMGDFB | R5F10MPEDFB | R5F10MPGDFB |
| コード・フラッシュ・メモリ | | 64 KB | 128 KB | 64 KB | 128 KB |
| データ・フラッシュ・メモリ | | — | | | |
| RAM | | 6 KB | 8 KB注 | 6 KB | 8 KB注 |
| アドレス空間 | | 1 Mバイト | | | |
| メイン・システム・クロック | 高速システム・クロック | X1（水晶／セラミック）発振，外部メイン・システム・クロック入力（EXCLK）<br>HS（高速メイン）モード：1～20 MHz（VDD = 2.7～5.5 V），<br>HS（高速メイン）モード：1～16 MHz（VDD = 2.4～5.5 V），<br>LS（低速メイン）モード：1～8 MHz（VDD = 1.9～5.5 V） | | | |
| | 高速オンチップ・オシレータ・クロック | HS（高速メイン）モード：24/12/6/3 MHz（$V_{DD}$ = 2.7～5.5 V），<br>HS（高速メイン）モード：12/6/3 MHz（$V_{DD}$ = 2.4～5.5 V），<br>LS（低速メイン）モード：6/3 MHz（$V_{DD}$ = 1.9～5.5 V） | | | |
| サブシステム・クロック | | XT1（水晶）発振，外部サブシステム・クロック入力（EXCLKS）<br>32.768 kHz（TYP.）：$V_{DD}$ = 1.9～5.5 V | | | |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 | | サブシステム・クロックによる高速オンチップ・オシレータ・クロックの周波数補正 | | | |
| 低速オンチップ・オシレータ・クロック | | 15 kHz（TYP.）：$V_{DD}$ = 1.9～5.5 V | | | |
| 汎用レジスタ | | 8ビット×8レジスタ×4バンク | | | |
| 最小命令実行時間 | | 0.04167 μs（高速オンチップ・オシレータ・クロック：$f_{IH}$ = 24 MHz動作時） | | | |
| | | 0.05 μs（高速システム・クロック：$f_{MX}$ = 20 MHz動作時） | | | |
| | | 30.5 μs（サブシステム・クロック：$f_{SUB}$ = 32.768 kHz動作時） | | | |
| 命令セット | | ・データ転送（8/16ビット）<br>・加減／論理演算（8/16ビット）<br>・乗算（16×16ビット），除算（32÷32ビット）<br>・積和演算（16×16＋32ビット）<br>・ローテート，バレル・シフト，ビット操作（セット，リセット，テスト，ブール演算）など | | | |
| I/Oポート | 合計 | 53 | | 69 | |
| | CMOS入出力 | 44 | | 60 | |
| | CMOS入力 | 5 | | 5 | |
| | CMOS出力 | 1 | | 1 | |
| | N-ch O.D.入出力（6 V耐圧） | 3 | | 3 | |
| タイマ | 16ビット・タイマ TAU | 8チャネル | | | |
| | ウォッチドッグ・タイマ | 1チャネル | | | |
| | 12ビット・インターバル・タイマ | 1チャネル | | | |
| | 8ビット・インターバル・タイマ | 4チャネル | | | |
| | リアルタイム・クロック2 | 1チャネル | | | |
| | 発振停止検出回路 | 1チャネル | | | |

注 8 Kバイトの場合，セルフ・プログラミング機能使用時は約7 KB

（2/2）

| 項　目 | | 80ピン | | 100ピン | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | R5F10MMEDFB | R5F10MMGDFB | R5F10MPEDFB | R5F10MPGDFB |
| タイマ | タイマ出力 | タイマ：出力8本<br>PWM出力：7本[注1] | | | |
| | RTC出力 | 1本<br>・1 Hz（サブシステム・クロック：$f_{SUB}$ = 32.768 kHz） | | | |
| クロック出力／ブザー出力 | | 2本 | | | |
| | | ・2.44 kHz, 4.88 kHz, 9.76 kHz, 1.25 MHz, 2.5 MHz, 5 MHz, 10 MHz<br>（メイン・システム・クロック：$f_{MAIN}$ = 20 MHz動作時）<br>・256 Hz, 512 Hz, 1.024 kHz, 2.048 kHz, 4.096 kHz, 8.192 kHz, 16.384 kHz, 32.768 kHz<br>（サブシステム・クロック：$f_{SUB}$ = 32.768 kHz動作時） | | | |
| 10ビット分解能A/Dコンバータ | | 4チャネル | | 6チャネル | |
| 24ビットΔΣA/Dコンバータ | | 3チャネル | | 4チャネル | |
| | SNDR | TYP. 80 dB（ゲイン×1）<br>MIN. 69 dB（ゲイン×16）<br>MIN. 65 dB（ゲイン×32） | | | |
| | サンプリング周波数 | 3.906 kHz/1.953 kHz | | | |
| | PGA | 電流ch：×1，×2，×4，×8，×16，×32<br>電圧ch：×1，×2，×4，×8，×16 | | | |
| コンパレータ | | 2チャネル | | | |
| シリアル・インタフェース | | ・簡易SPI (CSI)／UART／簡易I²C：1チャネル<br>・UART／簡易I²C：1チャネル<br>・UART／IrDA：1チャネル | | | |
| | I²Cバス | 1チャネル | | | |
| データ・トランスファ・コントローラ | | 30要因 | | | |
| LCDコントローラ／ドライバ | | 内部昇圧／容量分割／外部抵抗分割の切り替えが可能 | | | |
| | セグメント信号出力 | 34（30）本[注2] | | 42（38）本[注2] | |
| | コモン信号出力 | 4（8）本[注2] | | | |
| ベクタ割り込み要因 | 内部 | 34 | | | |
| | 外部 | 10 | | | |
| リセット | | ・$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット<br>・ウォッチドッグ・タイマによる内部リセット<br>・パワーオン・リセットによる内部リセット<br>・電圧検出回路による内部リセット<br>・不正命令の実行による内部リセット[注3]<br>・RAMパリティ・エラーによる内部リセット<br>・不正メモリ・アクセスによる内部リセット | | | |
| パワーオン・リセット回路 | | ・パワーオン・リセット　：1.51 V（TYP.）<br>・パワーダウン・リセット：1.50 V（TYP.） | | | |
| 電圧検出回路 | | ・立ち上がり：1.98 V～4.06 V（11段階）<br>・立ち下がり：1.94 V～3.98 V（11段階） | | | |
| バッテリ・バックアップ機能 | | あり | | | |
| オンチップ・デバッグ機能 | | あり | | | |
| 電源電圧 | | $V_{DD}$ = 1.9～5.5 V | | | |
| 動作周囲温度 | | $T_A$ = －40～＋85 ℃ | | | |

注1.　マスタの数と使用チャネルの設定によって，出力数は変わります（7. 9. 3　多重PWM出力機能としての動作参照）。

2.　（ ）内は8 com使用時の信号出力本数です。

3.　FFHの命令コードを実行したときに発生します。
不正命令の実行によるリセットは，インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

# 第2章　端子機能

## 2. 1　ポート機能

端子の入出力バッファ電源は，製品によって異なります。それぞれの電源と端子の関係を次に示します。

表2－1　各端子の入出力バッファ電源

（1）80ピン製品

| 電源 | 対応する端子 |
|---|---|
| $V_{DD}$ | P20-P23, P121-P124, P137以外のポート端子[注1] |
| $V_{DD}$または$V_{BAT}$[注2, 3] | ・P20-P23, P121-P124, P137<br>・$\overline{RESET}$, REGC |
| $AV_{DD}$ | ANIP0-ANIP2, ANIN0-ANIN2 |

（2）100ピン製品

| 電源 | 対応する端子 |
|---|---|
| $EV_{DD1}$ | P20-P25, P121-P124, P137以外のポート端子[注1] |
| $V_{DD}$または$V_{BAT}$[注2, 3] | ・P20-P25, P121-P124, P137<br>・$\overline{RESET}$, REGC |
| $AV_{DD}$ | ANIP0-ANIP3, ANIN0-ANIN3 |

注 1.　バッテリ・バックアップ機能を使用する場合，VBAT端子からの給電に切替わった際も，本端子の内部I/Oバッファの電源は$V_{DD}$端子から給電されています。$V_{DD}$端子の電源がなくなる場合は，入力電圧が絶対最大定格を越えないよう注意してください。

2.　バッテリ・バックアップ機能によりI/Oバッファの電源供給端子が切り替わります。

3.　「$V_{DD}$またはVBAT」と定義されている端子の入出力信号の電圧は，I/Oバッファの供給電圧に合わせる必要があります。

注意　$EV_{DD1}$端子は，$V_{DD}$／$EV_{DD0}$端子と同電位にしてください。

各ポートで設定した入出力やバッファ，プルアップ抵抗は，兼用機能に対しても有効です。

### 2. 1. 1　80ピン製品

（1/3）

| 機能名称 | 端子タイプ | 入出力 | リセット解除時 | 兼用機能 | 機能 |
|---|---|---|---|---|---|
| P00 | 8-1-3 | 入出力 | 入力ポート | RxD2/IrRxD/VCOUT0 | ポート0。<br>8ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>P00，P03，P05，P06の入力はTTL入力バッファに設定可能。<br>P01-P07の出力はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能。<br>P02-P07の出力はLCD出力に設定可能[注2] |
| P01 | 7-1-4 | | | TxD2/IrTxD/VCOUT1 | |
| P02 | 7-5-10 | | デジタル<br>入力無効[注1] | SCL10/TI07/TO07/<br>INTP5/SEG32 | |
| P03 | 8-5-10 | | | RxD1/TI06/TO06/SDA10/<br>(VCOUT0)/SEG33 | |
| P04 | 7-5-10 | | | TxD1/TI05/TO05/INTP4/<br>(VCOUT1)/SEG34 | |
| P05 | 8-5-10 | | | SCK00/SCL00/<br>TI04/TO04/INTP3/SEG35 | |
| P06 | | | | SI00/RxD0/TI03/TO03/<br>SDA00/TOOLRxD/SEG36 | |
| P07 | 7-5-10 | | | SO00/TxD0/TI02/TO02/<br>INTP2/TOOLTxD/SEG37 | |
| P10 | 7-5-4 | 入出力 | デジタル<br>入力無効[注1] | SEG4 | ポート1。<br>8ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>P15，P16の入力はTTL入力バッファに設定可能。<br>P15-P17の出力はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能。<br>LCD出力に設定可能[注2]。 |
| P11 | | | | SEG5 | |
| P12 | | | | SEG6 | |
| P13 | | | | SEG7 | |
| P14 | | | | SEG8 | |
| P15 | 8-5-10 | | | SEG9/(SCK00)/(SCL00) | |
| P16 | | | | SEG10/(SI00)/<br>(RxD0)/(SDA00) | |
| P17 | 7-5-10 | | | SEG11/(SO00)/(TxD0) | |
| P20 | 4-3-3 | 入出力 | アナログ<br>入力 | $AV_{REFP}$/ANI0 | ポート2。<br>4ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>アナログ入力に設定可能[注3]。 |
| P21 | | | | $AV_{REFM}$/ANI1 | |
| P22 | 4-9-2 | | | ANI2/IVCMP0/IVREF1 | |
| P23 | | | | ANI3/IVCMP1/IVREF0 | |

注 1.　デジタル入力無効状態とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれもが無効な状態を示します

2.　各端子をデジタル／LCDのいずれにするかは，ポート・モード・レジスタx（PMx）および，LCDポート・ファンクション・レジスタ（PFSEGx）で設定します。（1ビット単位で設定可能）

3.　各端子をデジタル／アナログのいずれにするかは，A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）で設定します。

備考　上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。詳細は，図4－8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

（2/3）

| 機能名称 | 端子タイプ | 入出力 | リセット解除時 | 兼用機能 | 機　　能 |
|---|---|---|---|---|---|
| P30 | 7-5-4 | 入出力 | デジタル入力無効注1 | SEG24/(TI07)/(TO07) | ポート3。<br>4ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>LCD出力に設定可能注2。 |
| P31 | | | | SEG25/(TI06)/(TO06) | |
| P32 | | | | SEG26/(PCLBUZ1) | |
| P33 | | | | SEG27/(PCLBUZ0) | |
| P40 | 7-1-3 | 入出力 | 入力ポート | TOOL0 | ポート4。<br>5ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 |
| P41 | | | | TI01/TO01/PCLBUZ1 | |
| P42 | | | | INTP7 | |
| P43 | | | | TI00/TO00/PCLBUZ0 | |
| P44 | | | | INTP6 | |
| P60 | 12-1-3 | 入出力 | 入力ポート | SCLA0/(TI00)/(TO00) | ポート6。<br>3ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>N-chオープン・ドレイン出力（6 V耐圧） |
| P61 | | | | SDAA0/(TI01)/(TO01) | |
| P62 | | | | (TI02)/(TO02)/(RTC1HZ) | |
| P70 | 7-5-4 | 入出力 | デジタル入力無効注1 | SEG16/(INTP0) | ポート7。<br>8ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>LCD出力に設定可能注2。 |
| P71 | | | | SEG17/(INTP1) | |
| P72 | | | | SEG18/(INTP2) | |
| P73 | | | | SEG19/(INTP3) | |
| P74 | | | | SEG20/(INTP4) | |
| P75 | | | | SEG21/(INTP5) | |
| P76 | | | | SEG22/(INTP6) | |
| P77 | | | | SEG23/(INTP7) | |
| P80 | 7-5-10 | 入出力 | デジタル入力無効注1 | SEG12/(SCL10) | ポート8。<br>4ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>P81の入力はTTL入力バッファに設定可能。<br>P80-P82の出力はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能。<br>LCD出力に設定可能注2。 |
| P81 | 8-5-10 | | | SEG13/(RxD1)/(SDA10) | |
| P82 | 7-5-10 | | | SEG14/(TxD1) | |
| P83 | 7-5-4 | | | SEG15 | |

注 1.　デジタル入力無効状態とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれもが無効な状態を示します。

2.　各端子をデジタル／LCDのいずれにするかは，ポート・モード・レジスタx（PMx）および，LCDポート・ファンクション・レジスタ（PFSEGx）で設定します。（1ビット単位で設定可能）

備考　上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。詳細は，図4－8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

（3/3）

| 機能名称 | 端子タイプ | 入出力 | リセット解除時 | 兼用機能 | 機　　能 |
|---|---|---|---|---|---|
| P121 | 2-2-1 | 入力 | 入力ポート | X1 | ポート12。<br>3ビット入出力ポートと4ビット入力専用ポート。<br>P125-P127は，1ビット単位で入力／出力の指定が可能。<br>P125-P127は，入力ポートではソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>P125-P127はLCD出力に設定可能[注2]。 |
| P122 | | | | X2/EXCLK | |
| P123 | | | | XT1 | |
| P124 | | | | XT2/EXCLKS | |
| P125 | 7-5-6 | 入出力 | デジタル入力無効[注1] | $V_{L3}$/INTP1/(TI05)/(TO05) | |
| P126 | 7-5-5 | | | CAPL/(TI04)/(TO04) | |
| P127 | | | | CAPH/(TI03)/(TO03) | |
| P130 | 1-1-4 | 出力 | 出力ポート | RTC1HZ | ポート13。<br>1ビット出力ポートと1ビット入力専用ポート。 |
| P137 | 2-1-2 | 入力 | 入力ポート | INTP0 | |
| $\overline{\text{RESET}}$ | 2-1-1 | 入力 | － | － | 外部リセット用の入力専用端子。<br>外部リセットを使用しない場合は，直接または抵抗を介して$V_{DD}$に接続してください。 |

注1.　デジタル入力無効状態とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれもが無効な状態を示します。

2.　各端子をデジタル／LCDのいずれにするかは，ポート・モード・レジスタx（PMx），およびLCDポート・ファンクション・レジスタ（PFSEGx）で設定します。（1ビット単位で設定可能）

備考　上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。詳細は，図4－8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

### 2. 1. 2　100ピン製品

（1/3）

| 機能名称 | 端子タイプ | 入出力 | リセット解除時 | 兼用機能 | 機　　能 |
|---|---|---|---|---|---|
| P00 | 8-1-3 | 入出力 | 入力ポート | RxD2/IrRxD/VCOUT0 | ポート0。<br>8ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>P00, P03, P05, P06の入力はTTL入力バッファに設定可能。<br>P01-P07の出力はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能。 |
| P01 | 7-1-4 | | | TxD2/IrTxD/VCOUT1 | |
| P02 | | | | SCL10/TI07/TO07/INTP5 | |
| P03 | 8-1-4 | | | RxD1/TI06/TO06/<br>SDA10/(VCOUT0) | |
| P04 | 7-1-4 | | | TxD1/TI05/TO05/INTP4/<br>(VCOUT1) | |
| P05 | 8-1-4 | | | SCK00/SCL00/TI04/<br>TO04/INTP3 | |
| P06 | | | | SI00/RxD0/TI03/TO03/<br>SDA00/TOOLRxD | |
| P07 | 7-1-4 | | | SO00/TxD0/TI02/TO02/<br>INTP2/TOOLTxD | |
| P10 | 7-5-4 | 入出力 | デジタル<br>入力無効[注1] | SEG4 | ポート1。<br>8ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>P15, P16の入力はTTL入力バッファに設定可能。<br>P15-P17の出力はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能。<br>LCD出力に設定可能[注2]。 |
| P11 | | | | SEG5 | |
| P12 | | | | SEG6 | |
| P13 | | | | SEG7 | |
| P14 | | | | SEG8 | |
| P15 | 8-5-10 | | | SEG9/(SCK00)/(SCL00) | |
| P16 | | | | SEG10/(SI00)/(RxD0)/<br>(SDA00) | |
| P17 | 7-5-10 | | | SEG11/(SO00)/(TxD0) | |
| P20 | 4-3-3 | 入出力 | アナログ<br>入力 | $AV_{REFP}$/ANI0 | ポート2。<br>6ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>アナログ入力に設定可能[注3]。 |
| P21 | | | | $AV_{REFM}$/ANI1 | |
| P22 | 4-9-2 | | | ANI2/IVCMP0/IVREF1 | |
| P23 | | | | ANI3/IVCMP1/IVREF0 | |
| P24 | 4-3-3 | | | ANI4 | |
| P25 | | | | ANI5 | |

注 1.　デジタル入力無効状態とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれもが無効な状態を示します。

2.　各端子をデジタル／LCDのいずれにするかは，ポート・モード・レジスタx（PMx）および，LCDポート・ファンクション・レジスタ（PFSEGx）で設定します。（1ビット単位で設定可能）

3.　各端子をデジタル／アナログのいずれにするかは，A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）で設定します。

備考　上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。詳細は，図4－8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

（2/3）

| 機能名称 | 端子タイプ | 入出力 | リセット解除時 | 兼用機能 | 機　　能 |
|---|---|---|---|---|---|
| P30 | 7-5-4 | 入出力 | デジタル入力無効[注1] | SEG24/(TI07)/(TO07) | ポート3。<br>8ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>LCD出力に設定可能[注2]。 |
| P31 | | | | SEG25/(TI06)/(TO06) | |
| P32 | | | | SEG26/(PCLBUZ1) | |
| P33 | | | | SEG27/(PCLBUZ0) | |
| P34 | | | | SEG28 | |
| P35 | | | | SEG29 | |
| P36 | | | | SEG30 | |
| P37 | | | | SEG31 | |
| P40 | 7-1-3 | 入出力 | 入力ポート | TOOL0 | ポート4。<br>5ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 |
| P41 | | | | TI01/TO01/PCLBUZ1 | |
| P42 | | | | INTP7 | |
| P43 | | | | TI00/TO00/PCLBUZ0 | |
| P44 | | | | INTP6 | |
| P50 | 7-5-4 | 入出力 | デジタル入力無効[注1] | SEG32 | ポート5。<br>8ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>LCD出力に設定可能[注2]。 |
| P51 | | | | SEG33 | |
| P52 | | | | SEG34 | |
| P53 | | | | SEG35 | |
| P54 | | | | SEG36 | |
| P55 | | | | SEG37 | |
| P56 | | | | SEG38 | |
| P57 | | | | SEG39 | |
| P60 | 12-1-3 | 入出力 | 入力ポート | SCLA0/(TI00)/(TO00) | ポート6。<br>3ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>N-chオープン・ドレイン出力（6 V耐圧） |
| P61 | | | | SDAA0/(TI01)/(TO01) | |
| P62 | | | | (TI02)/(TO02)/(RTC1HZ) | |

注 1.　デジタル入力無効状態とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれもが無効な状態を示します。

2.　各端子をデジタル／LCDのいずれにするかは，ポート・モード・レジスタx（PMx）および，LCDポート・ファンクション・レジスタ（PFSEGx）で設定します。（1ビット単位で設定可能）

備考　上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。詳細は，図4－8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

（3/3）

| 機能名称 | 端子タイプ | 入出力 | リセット解除時 | 兼用機能 | 機　　能 |
|---|---|---|---|---|---|
| P70 | 7-5-4 | 入出力 | デジタル入力無効注1 | SEG16/(INTP0) | ポート7。<br>8ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>LCD出力に設定可能注2。 |
| P71 | | | | SEG17/(INTP1) | |
| P72 | | | | SEG18/(INTP2) | |
| P73 | | | | SEG19/(INTP3) | |
| P74 | | | | SEG20/(INTP4) | |
| P75 | | | | SEG21/(INTP5) | |
| P76 | | | | SEG22/(INTP6) | |
| P77 | | | | SEG23/(INTP7) | |
| P80 | 7-5-10 | 入出力 | デジタル入力無効注1 | SEG12/(SCL10) | ポート8。<br>6ビット入出力ポート。<br>1ビット単位で入力／出力の指定可能。<br>入力ポートでは，ソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>P81の入力はTTL入力バッファに設定可能。<br>P80-P82の出力はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能。<br>LCD出力に設定可能注2。 |
| P81 | 8-5-10 | | | SEG13/(RxD1)/(SDA10) | |
| P82 | 7-5-10 | | | SEG14/(TxD1) | |
| P83 | 7-5-4 | | | SEG15 | |
| P84 | | | | SEG40 | |
| P85 | | | | SEG41 | |
| P121 | 2-2-1 | 入力 | 入力ポート | X1 | ポート12。<br>3ビット入出力ポートと4ビット入力専用ポート。<br>P125-P127は，1ビット単位で入力／出力の指定が可能。<br>P125-P127は，入力ポートではソフトウエアの設定により，内蔵プルアップ抵抗を使用可能。<br>P125-P127はLCD出力に設定可能注2。 |
| P122 | | | | X2/EXCLK | |
| P123 | | | | XT1 | |
| P124 | | | | XT2/EXCLKS | |
| P125 | 7-5-6 | 入出力 | デジタル入力無効注1 | $V_{L3}$/INTP1/(TI05)/(TO05) | |
| P126 | 7-5-5 | | | CAPL/(TI04)/(TO04) | |
| P127 | | | | CAPH/(TI03)/(TO03) | |
| P130 | 1-1-4 | 出力 | 出力ポート | RTC1HZ | ポート13。<br>1ビット出力ポートと1ビット入力専用ポート。 |
| P137 | 2-1-2 | 入力 | 入力ポート | INTP0 | |
| $\overline{\text{RESET}}$ | 2-1-1 | 入力 | － | － | 外部リセット用の入力専用端子。<br>外部リセットを使用しない場合は，直接または抵抗を介して$V_{DD}$に接続してください。 |

注 1.　デジタル入力無効状態とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれもが無効な状態を示します。

2.　各端子をデジタル／LCDのいずれにするかは，ポート・モード・レジスタx（PMx）および，LCDポート・ファンクション・レジスタ（PFSEGx）で設定します。（1ビット単位で設定可能）

備考　上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。詳細は，図4－8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

# 2. 2　ポート以外の機能

## 2. 2. 1　製品別の搭載機能

（1/2）

| 機能名称 | 100ピン | 80ピン | 機能名称 | 100ピン | 80ピン | 機能名称 | 100ピン | 80ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ANI0 | ○ | ○ | TxD2 | ○ | ○ | XT2 | ○ | ○ |
| ANI1 | ○ | ○ | SCK00 | ○ | ○ | EXCLKS | ○ | ○ |
| ANI2 | ○ | ○ | SI00 | ○ | ○ | $V_{DD}$ | ○ | ○ |
| ANI3 | ○ | ○ | SO00 | ○ | ○ | $EV_{DD0}$ | ○ | － |
| ANI4 | ○ | － | SCL00 | ○ | ○ | $EV_{DD1}$ | ○ | － |
| ANI5 | ○ | － | SCL10 | ○ | ○ | VBAT | ○ | ○ |
| ANIN0 | ○ | ○ | SDA00 | ○ | ○ | $AV_{REFP}$ | ○ | ○ |
| ANIN1 | ○ | ○ | SDA10 | ○ | ○ | $AV_{REFM}$ | ○ | ○ |
| ANIN2 | ○ | ○ | SDAA0 | ○ | ○ | $V_{SS}$ | ○ | ○ |
| ANIN3 | ○ | － | SCLA0 | ○ | ○ | $EV_{SS0}$ | ○ | － |
| ANIP0 | ○ | ○ | IrRxD | ○ | ○ | $EV_{SS1}$ | ○ | － |
| ANIP1 | ○ | ○ | IrTxD | ○ | ○ | AVRT | ○ | ○ |
| ANIP2 | ○ | ○ | TI00 | ○ | ○ | AVCM | ○ | ○ |
| ANIP3 | ○ | － | TI01 | ○ | ○ | AREGC | ○ | ○ |
| INTP0 | ○ | ○ | TI02 | ○ | ○ | $AV_{DD}$ | ○ | ○ |
| INTP1 | ○ | ○ | TI03 | ○ | ○ | $AV_{SS}$ | ○ | ○ |
| INTP2 | ○ | ○ | TI04 | ○ | ○ | TOOLRxD | ○ | ○ |
| INTP3 | ○ | ○ | TI05 | ○ | ○ | TOOLTxD | ○ | ○ |
| INTP4 | ○ | ○ | TI06 | ○ | ○ | TOOL0 | ○ | ○ |
| INTP5 | ○ | ○ | TI07 | ○ | ○ | COM0 | ○ | ○ |
| INTP6 | ○ | ○ | TO00 | ○ | ○ | COM1 | ○ | ○ |
| INTP7 | ○ | ○ | TO01 | ○ | ○ | COM2 | ○ | ○ |
| IVCMP0 | ○ | ○ | TO02 | ○ | ○ | COM3 | ○ | ○ |
| IVCMP1 | ○ | ○ | TO03 | ○ | ○ | COM4 | ○ | ○ |
| IVREF0 | ○ | ○ | TO04 | ○ | ○ | COM5 | ○ | ○ |
| IVREF1 | ○ | ○ | TO05 | ○ | ○ | COM6 | ○ | ○ |
| VCOUT0 | ○ | ○ | TO06 | ○ | ○ | COM7 | ○ | ○ |
| VCOUT1 | ○ | ○ | TO07 | ○ | ○ | SEG0 | ○ | ○ |
| PCLBUZ0 | ○ | ○ | $V_{L1}$ | ○ | ○ | SEG1 | ○ | ○ |
| PCLBUZ1 | ○ | ○ | $V_{L2}$ | ○ | ○ | SEG2 | ○ | ○ |
| RTC1HZ | ○ | ○ | $V_{L3}$ | ○ | ○ | SEG3 | ○ | ○ |
| REGC | ○ | ○ | $V_{L4}$ | ○ | ○ | SEG4 | ○ | ○ |
| $\overline{RESET}$ | ○ | ○ | CAPH | ○ | ○ | SEG5 | ○ | ○ |
| RxD0 | ○ | ○ | CAPL | ○ | ○ | SEG6 | ○ | ○ |
| RxD1 | ○ | ○ | X1 | ○ | ○ | SEG7 | ○ | ○ |
| RxD2 | ○ | ○ | X2 | ○ | ○ | SEG8 | ○ | ○ |
| TxD0 | ○ | ○ | EXCLK | ○ | ○ | SEG9 | ○ | ○ |
| TxD1 | ○ | ○ | XT1 | ○ | ○ | SEG10 | ○ | ○ |

（2/2）

| 機能名称 | 100ピン | 80ピン | 機能名称 | 100ピン | 80ピン | 機能名称 | 100ピン | 80ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SEG11 | ○ | ○ | SEG22 | ○ | ○ | SEG33 | ○ | ○ |
| SEG12 | ○ | ○ | SEG23 | ○ | ○ | SEG34 | ○ | ○ |
| SEG13 | ○ | ○ | SEG24 | ○ | ○ | SEG35 | ○ | ○ |
| SEG14 | ○ | ○ | SEG25 | ○ | ○ | SEG36 | ○ | ○ |
| SEG15 | ○ | ○ | SEG26 | ○ | ○ | SEG37 | ○ | ○ |
| SEG16 | ○ | ○ | SEG27 | ○ | ○ | SEG38 | ○ | － |
| SEG17 | ○ | ○ | SEG28 | ○ | － | SEG39 | ○ | － |
| SEG18 | ○ | ○ | SEG29 | ○ | － | SEG40 | ○ | － |
| SEG19 | ○ | ○ | SEG30 | ○ | － | SEG41 | ○ | － |
| SEG20 | ○ | ○ | SEG31 | ○ | － | | | |
| SEG21 | ○ | ○ | SEG32 | ○ | ○ | | | |

### 2. 2. 2　機能説明

（1/2）

| 機能名称 | 入出力 | 機　　能 |
|---|---|---|
| ANI0-ANI5 | 入力 | A/Dコンバータのアナログ入力（図14－44　アナログ入力端子の処理参照） |
| ANIN0-ANIN3 | 入力 | 24ビットΔΣA/Dコンバータのアナログ入力。負側入力。 |
| ANIP0-ANIP3 | 入力 | 24ビットΔΣA/Dコンバータのアナログ入力。正側入力。 |
| INTP0-INTP7 | 入力 | 外部割り込み要求入力<br>有効エッジ指定：立ち上がり，立ち下がり，立ち上がりおよび立ち下がりの両エッジ<br>INTP0は，内部$V_{DD}$で動作する端子です。バッテリ・バックアップ機能を使用する場合は，選択されている電源（$V_{DD}$ or VBAT）に合わせた入力閾値になります。入力可能な最大電圧は5.5 Vです。未使用の場合は，$V_{DD}$とVBATの高い方の電圧でプルアップしてください。 |
| IVCMP0, IVCMP1 | 入力 | コンパレータのアナログ電圧入力 |
| IVREF0, IVREF1 | 入力 | コンパレータのリファレンス電圧入力 |
| VCOUT0, VCOUT1 | 出力 | コンパレータ出力 |
| PCLBUZ0, PCLBUZ1 | 出力 | クロック出力／ブザー出力 |
| REGC | － | 内部動作用レギュレータ出力安定容量接続。<br>コンデンサ（0.47～1 μF）を介し，$V_{SS}$に接続してください。<br>また，内部電圧の安定のために使用するため，特性のよいコンデンサを使用してください。 |
| RTC1HZ | 出力 | リアルタイム・クロック補正クロック（1 Hz）出力 |
| $\overline{\text{RESET}}$ | 入力 | ロウ・レベル・アクティブのシステム・リセット入力。<br>外部リセット端子を使用しない場合は，直接または抵抗を介して$V_{DD}$に接続してください。<br>$\overline{\text{RESET}}$は，内部$V_{DD}$で動作する端子です。バッテリ・バックアップ機能を使用する場合は，選択されている電源端子（$V_{DD}$端子 or VBAT端子）の電圧に合わせた入力閾値となります。入力可能な最大電圧は5.5 Vです。未使用の場合は，$V_{DD}$とVBATの高い方の電圧でプルアップしてください。 |
| RxD0-RxD2 | 入力 | シリアル・インタフェースUART0-UART2のシリアル・データ入力 |
| TxD0-TxD2 | 出力 | シリアル・インタフェースUART0-UART2のシリアル・データ出力 |
| SCK00 | 入出力 | シリアル・インタフェースCSI00のシリアル・クロック入力／出力 |
| SI00 | 入力 | シリアル・インタフェースCSI00のシリアル・データ入力 |
| SO00 | 出力 | シリアル・インタフェースCSI00のシリアル・データ出力 |
| IrRxD | 入力 | IrDA用受信データ |
| IrTxD | 出力 | IrDA用送信データ |
| SCL00, SCL10 | 出力 | シリアル・インタフェースIIC00, IIC10のシリアル・クロック出力 |
| SDA00, SDA10 | 入出力 | シリアル・インタフェースIIC00, IIC10のシリアル・データ入出力 |
| SCLA0 | 入出力 | シリアル・インタフェースIICA0のクロック入出力 |
| SDAA0 | 入出力 | シリアル・インタフェースIICA0のシリアル・データ入出力 |
| TI00-TI07 | 入力 | 16ビット・タイマ00-07への外部カウント・クロック／キャプチャ・トリガ入力 |
| TO00-TO07 | 出力 | 16ビット・タイマ00-07のタイマ出力 |
| $V_{L1}$-$V_{L4}$ | － | LCD駆動用電圧 |
| CAPH, CAPL | － | LCDコントローラ／ドライバ用コンデンサ接続 |

（2/2）

| 機能名称 | 入出力 | 機　　能 |
|---|---|---|
| X1, X2 | － | 外部クロック入力で外部24bitΔΣ型A/Dコンバータを使用する場合は，12 MHzの発振子を接続する必要があります。 |
| EXCLK | 入力 | メイン・システム・クロック用外部クロック入力 |
| XT1, XT2 | － | サブシステム・クロック用発振子接続 |
| EXCLKS | 入力 | サブシステム・クロック用外部クロック入力 |
| $V_{DD}$ | － | ＜80ピン＞<br>すべての端子の正電源<br>＜100ピン＞<br>P20-P25, P121-P124, P137およびポート以外の端子の正電源 |
| $EV_{DD1}$ | － | ポート端子（P20-P25, P121-P124, P137以外）の正電源 |
| VBAT | － | バッテリバックアップ用電源 |
| $AV_{REFP}$ | 入力 | A/Dコンバータの基準電圧（＋側）入力 |
| $AV_{REFM}$ | 入力 | A/Dコンバータの基準電圧（－側）入力 |
| $V_{SS}$ | － | ＜80ピン＞<br>すべての端子のグランド電位<br>＜100ピン＞<br>P20-P25, P121-P124, P137およびポート以外の端子のグランド電位 |
| $EV_{SS1}$ | － | ポート端子（P20-P25, P121-P124, P137以外）のグランド電位 |
| AVRT | － | 24ビットΔΣA/Dコンバータの基準電圧 |
| AVCM | － | 24ビットΔΣA/Dコンバータの制御 |
| AREGC | － | 24ビットΔΣA/Dコンバータのレギュレータ容量 |
| $AV_{DD}$ | － | 24ビットΔΣA/Dコンバータの電源 |
| $AV_{SS}$ | － | 24ビットΔΣA/Dコンバータのグランド電位 |
| TOOLRxD | 入力 | フラッシュ・メモリ・プログラミング時外部デバイス接続用UARTシリアル・データ受信 |
| TOOLTxD | 出力 | フラッシュ・メモリ・プログラミング時外部デバイス接続用UARTシリアル・データ送信 |
| TOOL0 | 入出力 | フラッシュ・メモリ・プログラマ／デバッガ用データ入出力 |
| COM0-COM7 | 出力 | LCDコントローラ／ドライバのコモン信号出力 |
| SEG0-SEG41 | 出力 | LCDコントローラ／ドライバのセグメント信号出力 |

注意　リセット解除時のP40/TOOL0と動作モードとの関係は，次のようになります。

表2－2　リセット解除時のP40/TOOL0と動作モードとの関係

| P40/TOOL0 | 動作モード |
|---|---|
| $V_{DD}$ | 通常動作モード |
| 0 V | フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード |

詳細は，33. 4　シリアル・プログラミング方法を参照してください。

備考　ノイズ対策およびラッチアップ対策として，$V_{DD}$ - $V_{SS}$，$EV_{DD0}$ - $EV_{SS0}$，$EV_{DD1}$ - $EV_{SS1}$ライン間へのバイパスコンデンサ（0.1 μF程度）を最短距離でかつ，比較的太い配線を使って接続してください。

## 2. 3　未使用端子の処理

各端子の未使用端子の処理を表2－3に示します。

備考　製品により，搭載している端子が異なります。1. 3　端子接続図（Top View），2. 1　ポート機能を参照してください。

表2－3　各端子の未使用端子処理（1/2）

| 端子名称 | 入出力 | 未使用時の推奨接続方法 |
|---|---|---|
| P00-P07 | 入出力 | 入力時：個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。<br>出力時：オープンにしてください。 |
| P10-P17 | | <ポート設定時><br>入力時：個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。<br>出力時：オープンにしてください。<br><セグメント設定時><br>オープンにしてください。 |
| P20-P25 | | 入力時：個別に抵抗を介して，$V_{DD}$または$V_{SS}$に接続してください。なお，バッテリ・バックアップ機能を使用する際は，個別に抵抗を介して$V_{SS}$に接続してください。<br>出力時：オープンにしてください。 |
| P30-P37 | | <ポート設定時><br>入力時：個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。<br>出力時：オープンにしてください。<br><セグメント設定時><br>オープンにしてください。 |
| P40/TOOL0 | | 入力時：個別に抵抗を介して$EV_{DD0}$に接続，またはオープンにしてください。<br>出力時：オープンにしてください。 |
| P41-P44 | | 入力時：個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。<br>出力時：オープンにしてください。 |
| P50-P57 | | <ポート設定時><br>入力時：個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。<br>出力時：オープンにしてください。<br><セグメント設定時><br>オープンにしてください。 |
| P60-P62 | | 入力時：個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。<br>出力時：ポートの出力ラッチに0を設定してオープン，またはポートの出力ラッチに1を設定し，個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。 |

備考　$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$，$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$端子がない製品は，$EV_{DD0}$と$EV_{DD1}$を$V_{DD}$に，$EV_{SS0}$と$EV_{SS1}$を$V_{SS}$に置き換えてください。

表2－3　各端子の未使用端子処理（2/2）

| 端子名称 | 入出力 | 未使用時の推奨接続方法 |
|---|---|---|
| P70-P77<br>P80-P85 | 入出力 | <ポート設定時><br>入力時：個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。<br>出力時：オープンにしてください。<br><セグメント設定時><br>オープンにしてください。 |
| P121-P124 | 入力 | 個別に抵抗を介して，$V_{DD}$または$V_{SS}$に接続してください。なお，バッテリ・バックアップ機能を使用する場合は，個別に抵抗を介して$V_{SS}$に接続してください。 |
| P125-P127 | 入出力 | 入力時：個別に抵抗を介して，$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$または$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$に接続してください。<br>出力時：オープンにしてください。 |
| P130 | 出力 | オープンにしてください。 |
| P137 | 入力 | 個別に抵抗を介して，$V_{DD}$または$V_{SS}$に接続してください。なお，バッテリ・バックアップ機能を使用する場合は，個別に抵抗を介して$V_{SS}$に接続してください。 |
| $\overline{\text{RESET}}$ | | バッテリ・バックアップ機能を使用する場合は，選択された給電電源（$V_{DD}$端子または$V_{BAT}$端子）に，直接または抵抗を関して接続してください。 |
| REGC | － | コンデンサを介して，$V_{SS}$に接続してください（0.47～1 μF）。 |
| COM0-COM7 | 出力 | オープンにしてください。 |
| ANIP0-ANIP3<br>ANIN0-ANIN3 | 入力 | オープンにしてください。 |
| $V_{L1}$, $V_{L2}$, $V_{L4}$ | － | オープンにしてください。 |
| VBAT | － | $V_{SS}$に直接接続してください。なお，VBAT端子を使用しない場合は，必ずソフトウェアでVBATENビットを0に設定してください。 |
| AVRT, AVCM | － | コンデンサを介して，$AV_{SS}$に接続してください（0.47 μF）。 |
| $AV_{DD}$ | － | $AV_{DD}$と$V_{DD}$を同電位に接続してください。 |
| $AV_{SS}$ | － | $AV_{SS}$と$V_{SS}$を同電位に接続してください。 |
| AREGC | － | コンデンサを介して，$AV_{SS}$に接続してください（0.47 μF）。 |

備考　$EV_{DD0}$，$EV_{DD1}$，$EV_{SS0}$，$EV_{SS1}$端子がない製品は，$EV_{DD0}$と$EV_{DD1}$を$V_{DD}$に，$EV_{SS0}$と$EV_{SS1}$を$V_{SS}$に置き換えてください。

## 2. 4　端子ブロック図

2. 1. 1　80ピン製品, 2. 1. 2　100ピン製品に記載した端子タイプについて，端子ブロック図を図2－1～図2－16示します。80ピン製品では，$EV_{DD1}$, $EV_{SS1}$を$V_{DD}$, $V_{SS}$と読み替えてください。

図2－1　端子タイプ1-1-4の端子ブロック図

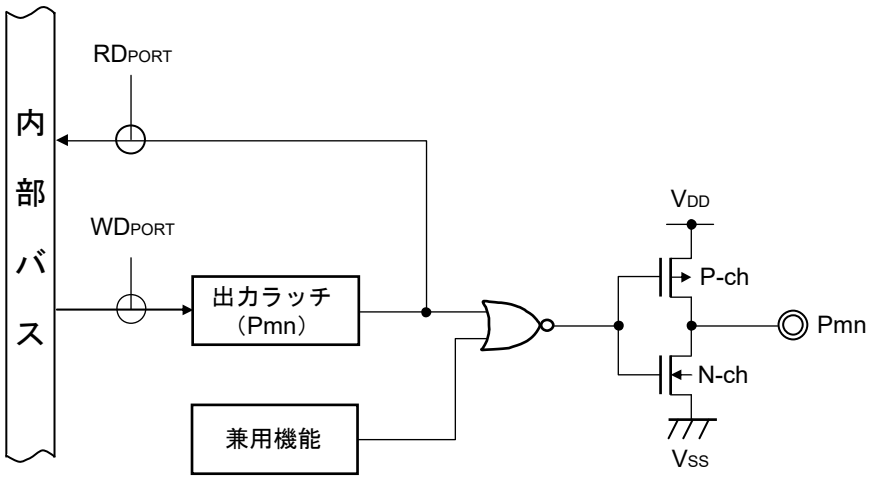



図2－2　端子タイプ2-1-1の端子ブロック図

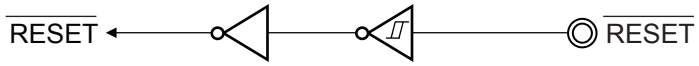
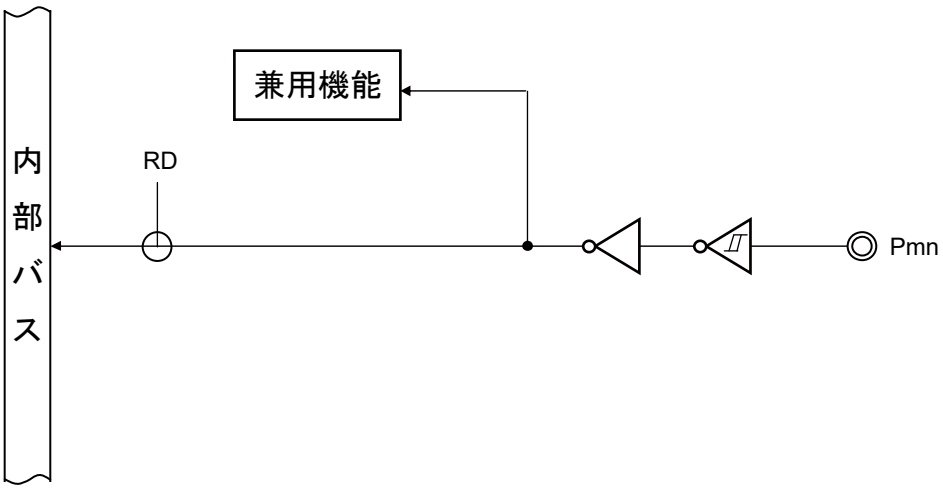
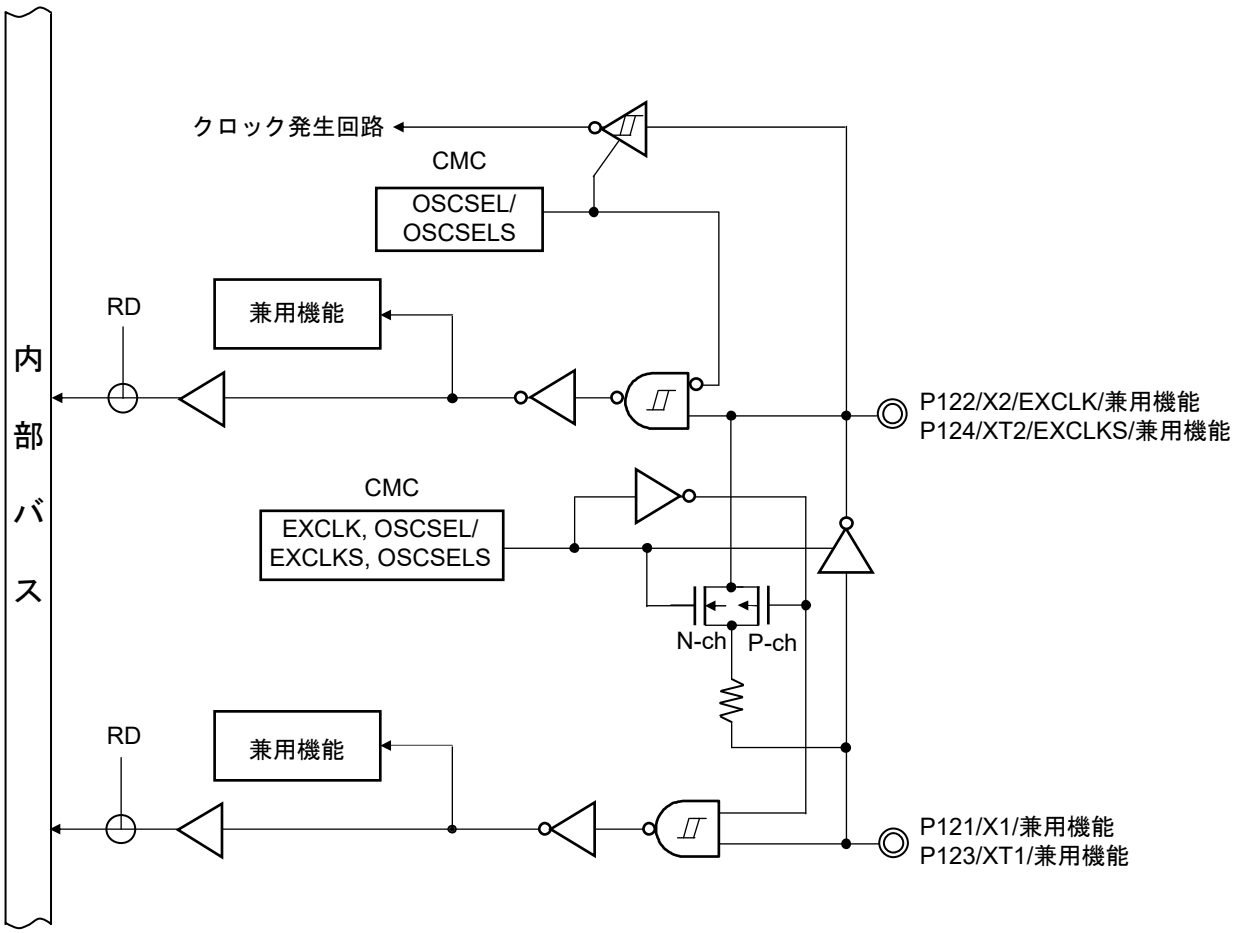



図2－3　端子タイプ2-1-2の端子ブロック図




備考　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

図2－4　端子タイプ2-2-1の端子ブロック図




備考　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

図2－5　端子タイプ4-3-3の端子ブロック図

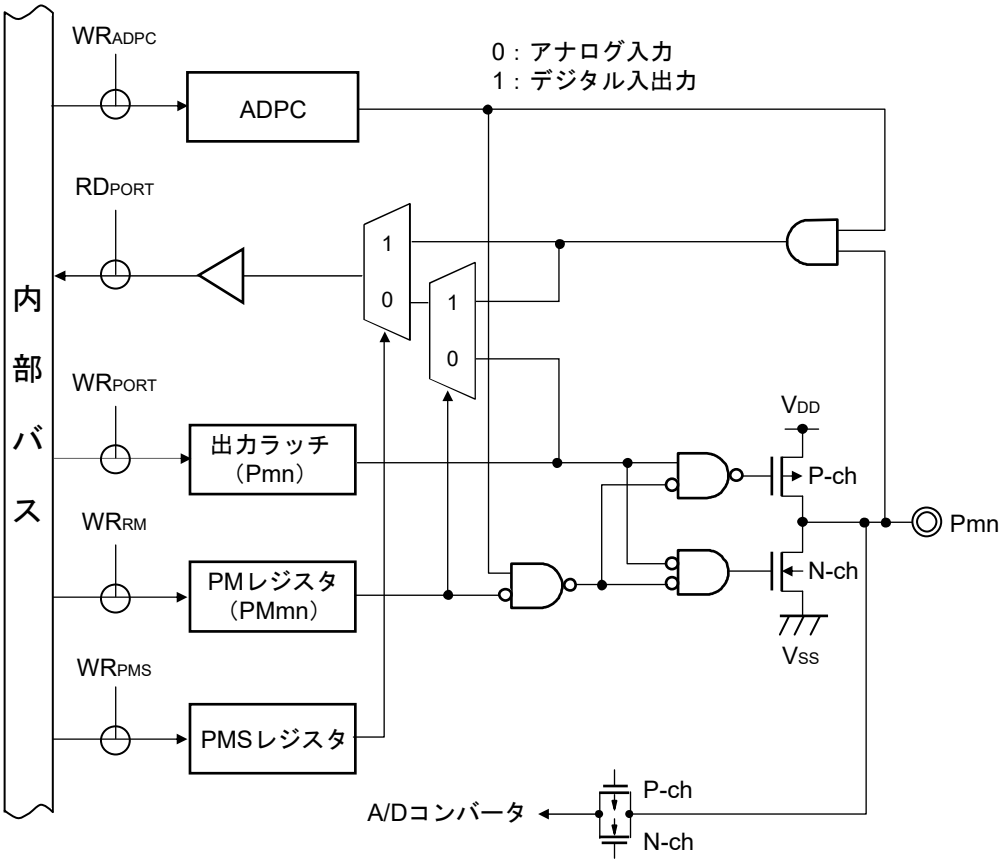


図2－6　端子タイプ4-9-2の端子ブロック図

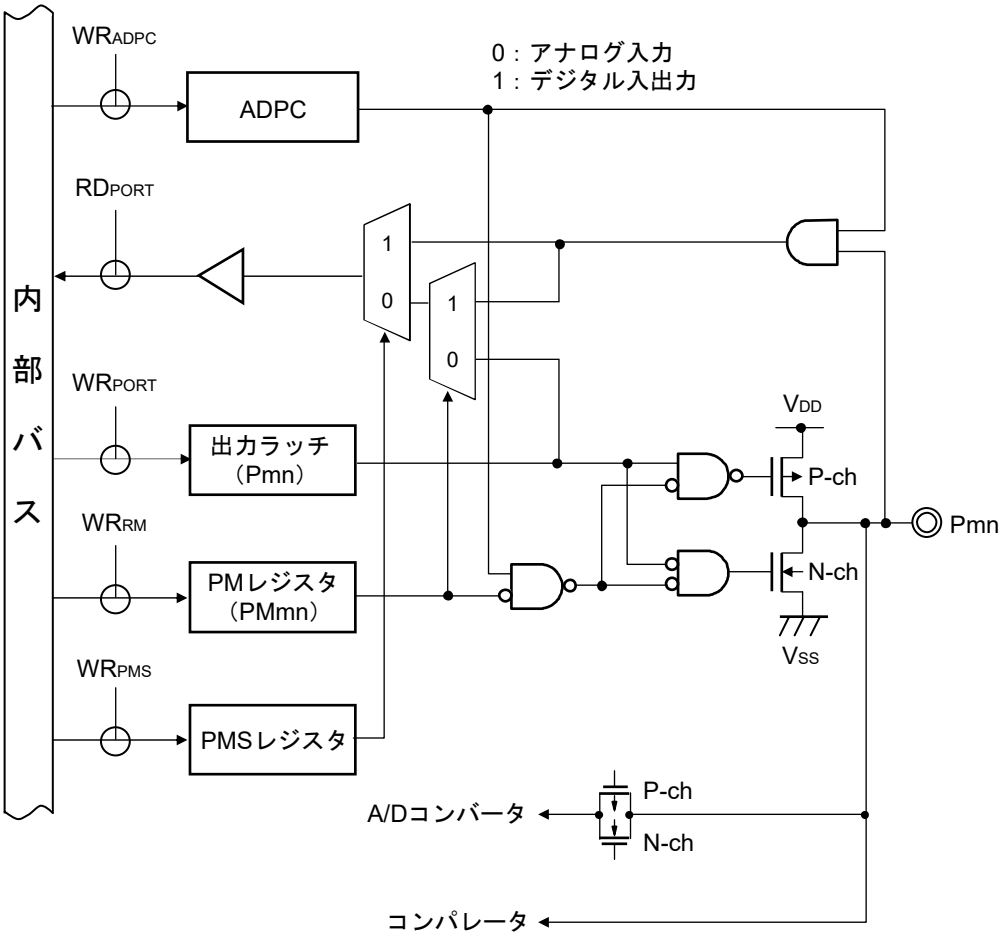
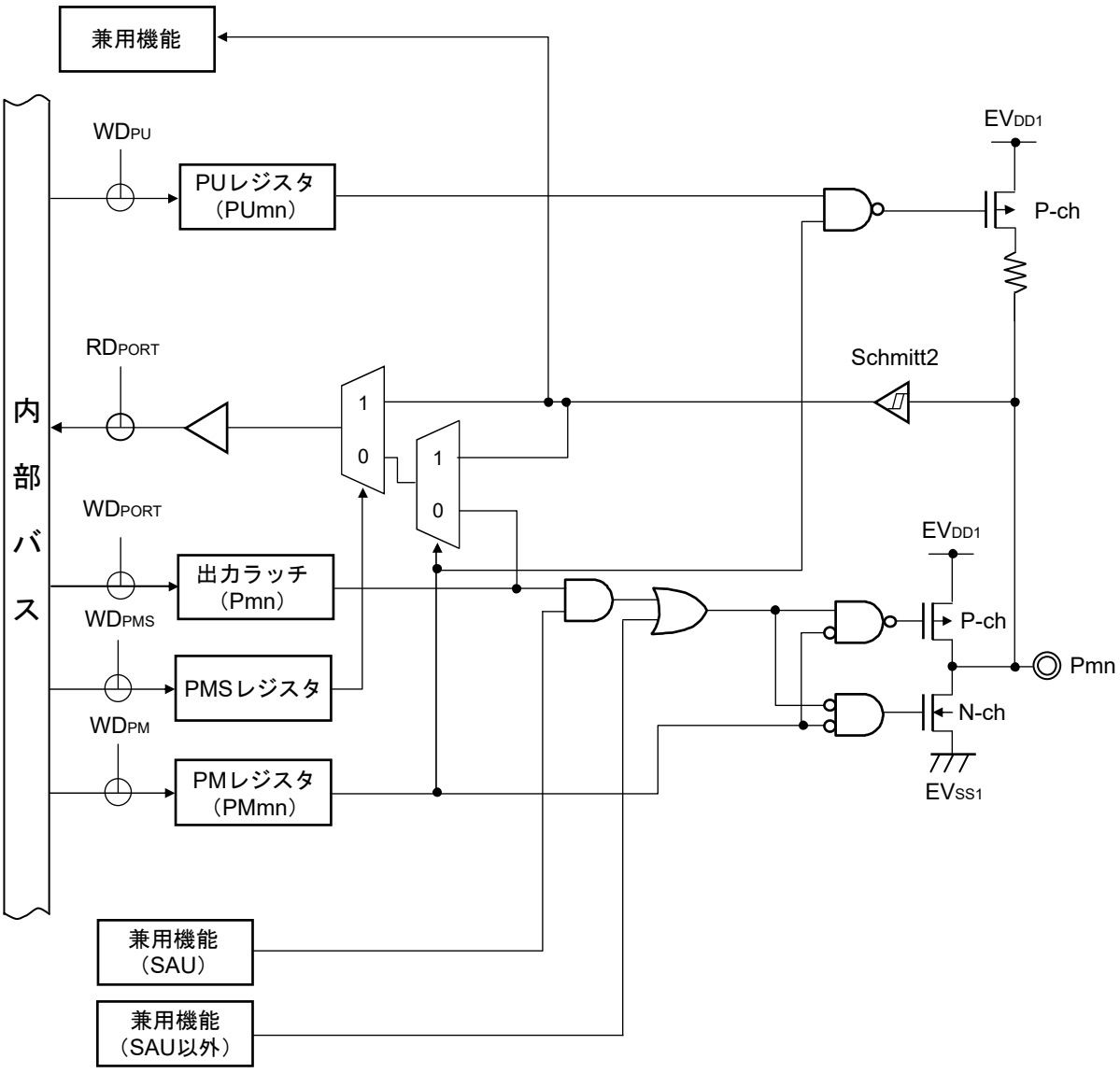


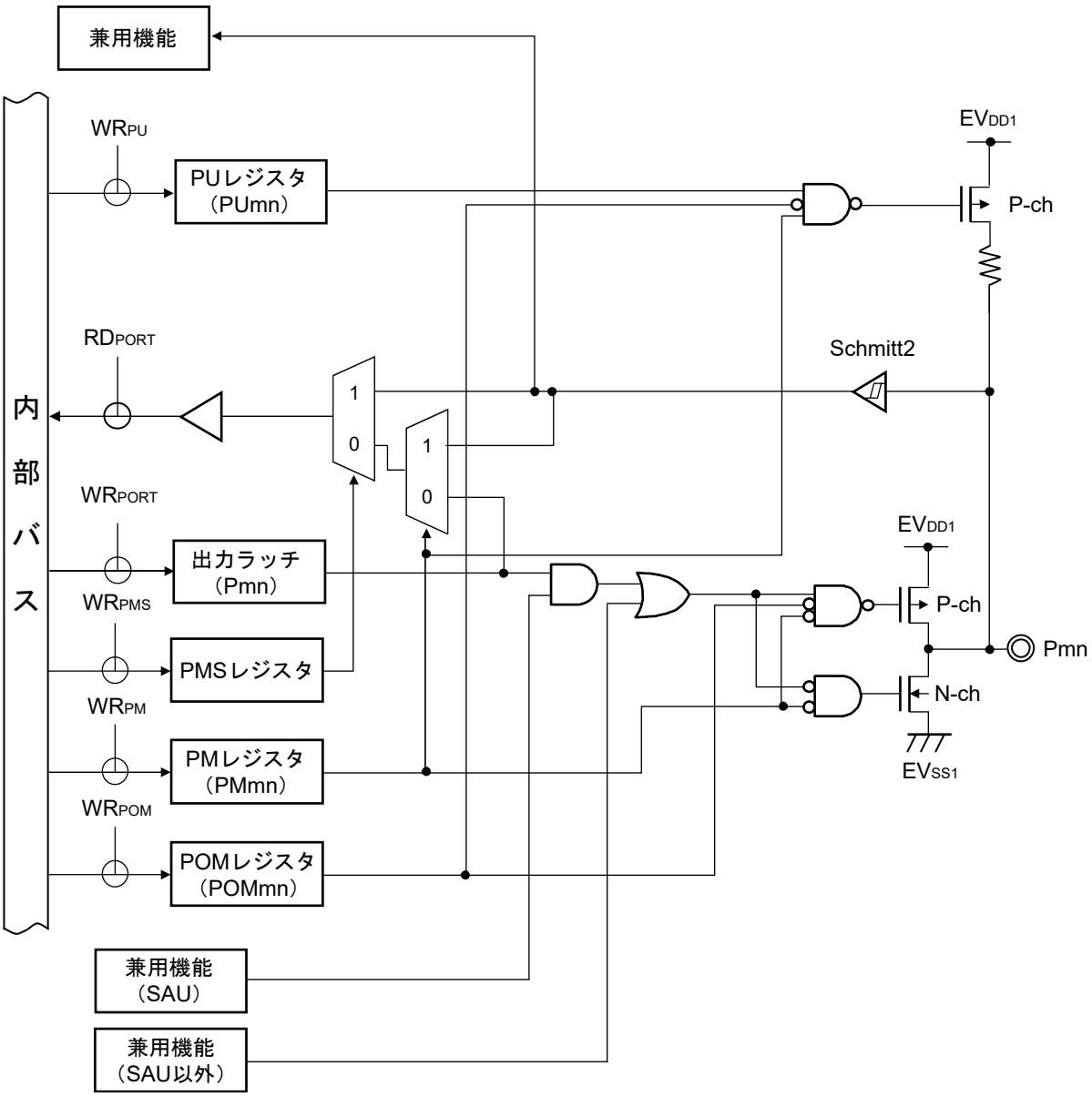
図2－7　端子タイプ7-1-3の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

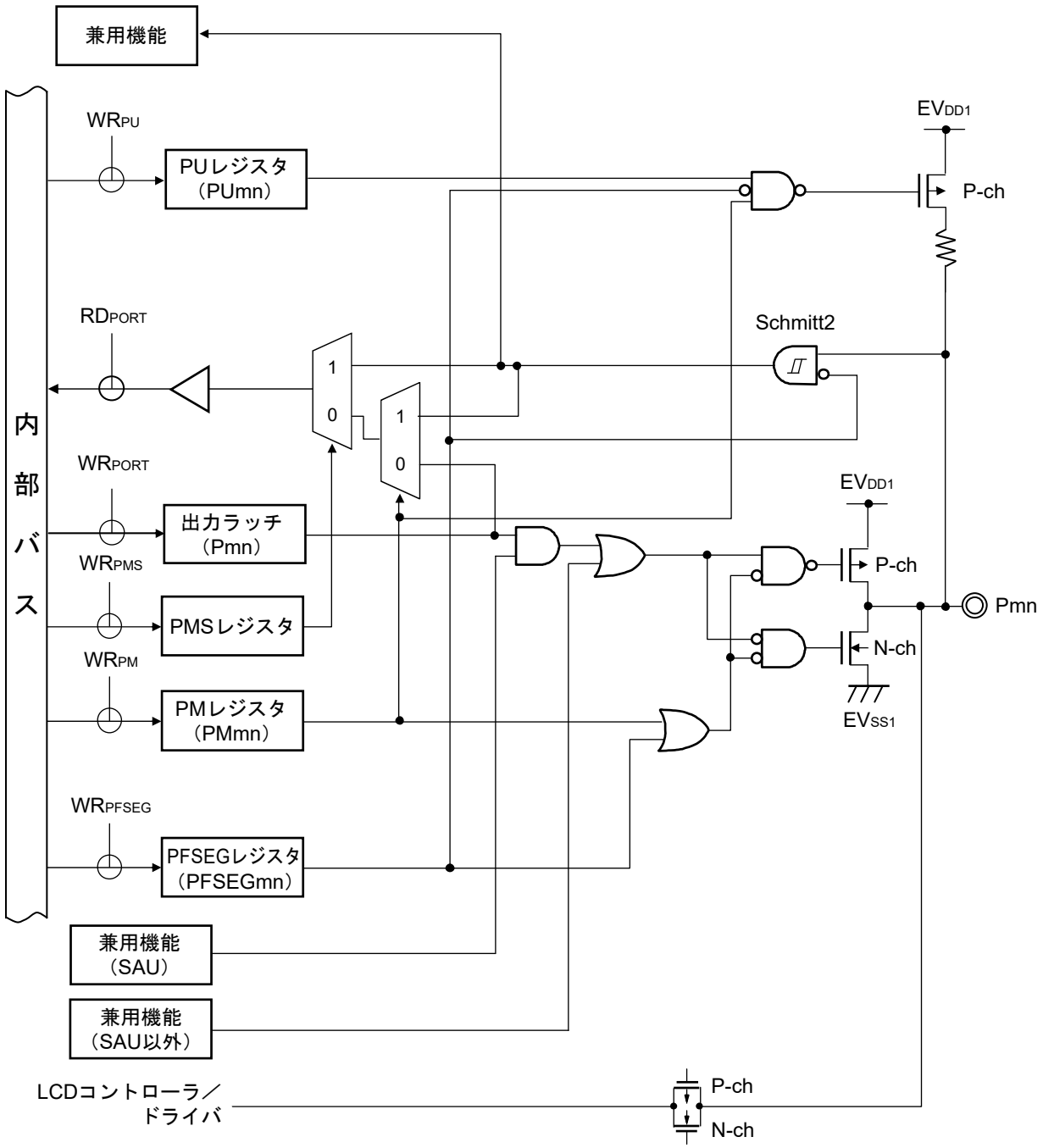
図2－8　端子タイプ7-1-4の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

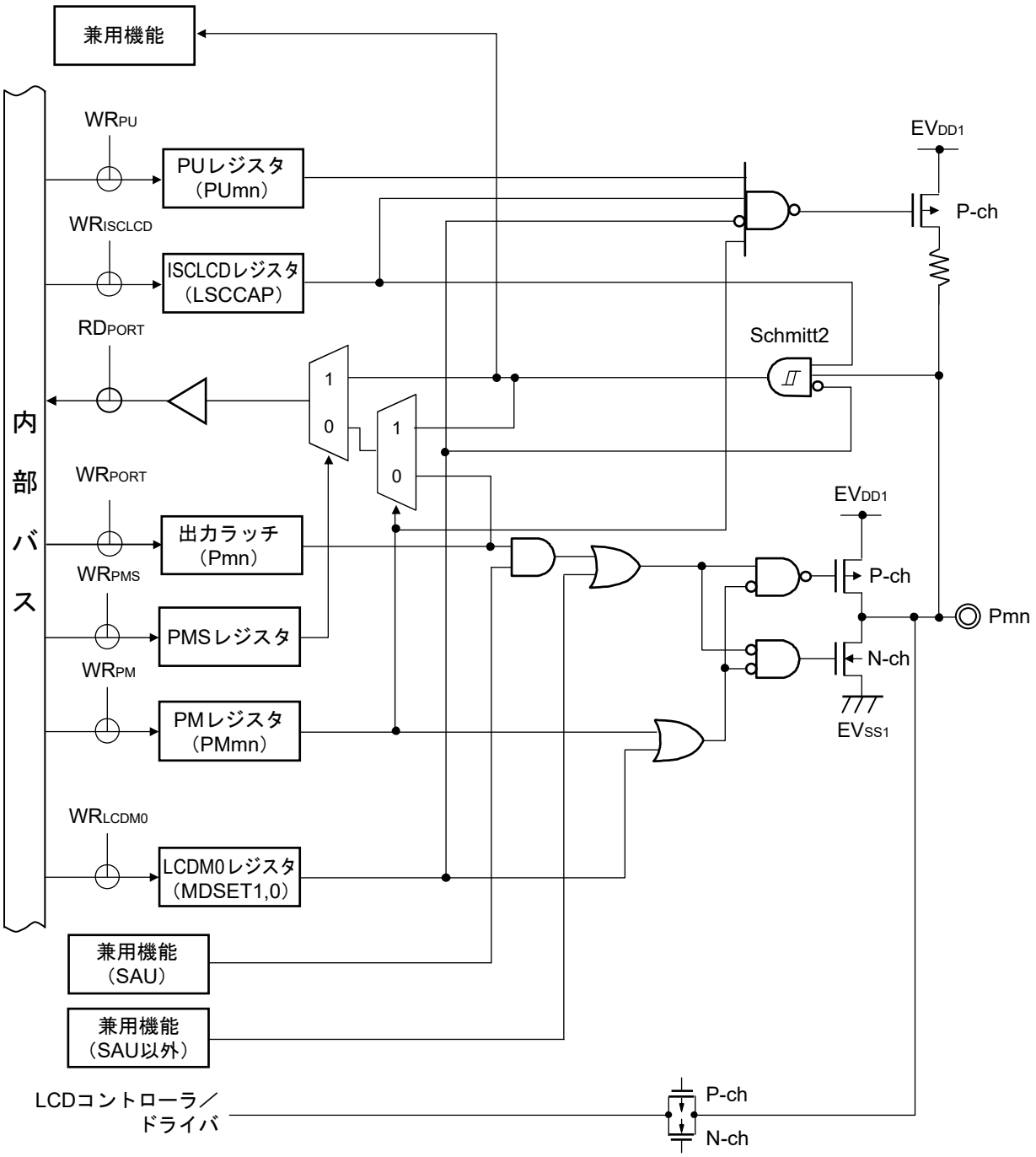
図2－9　端子タイプ7-5-4の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

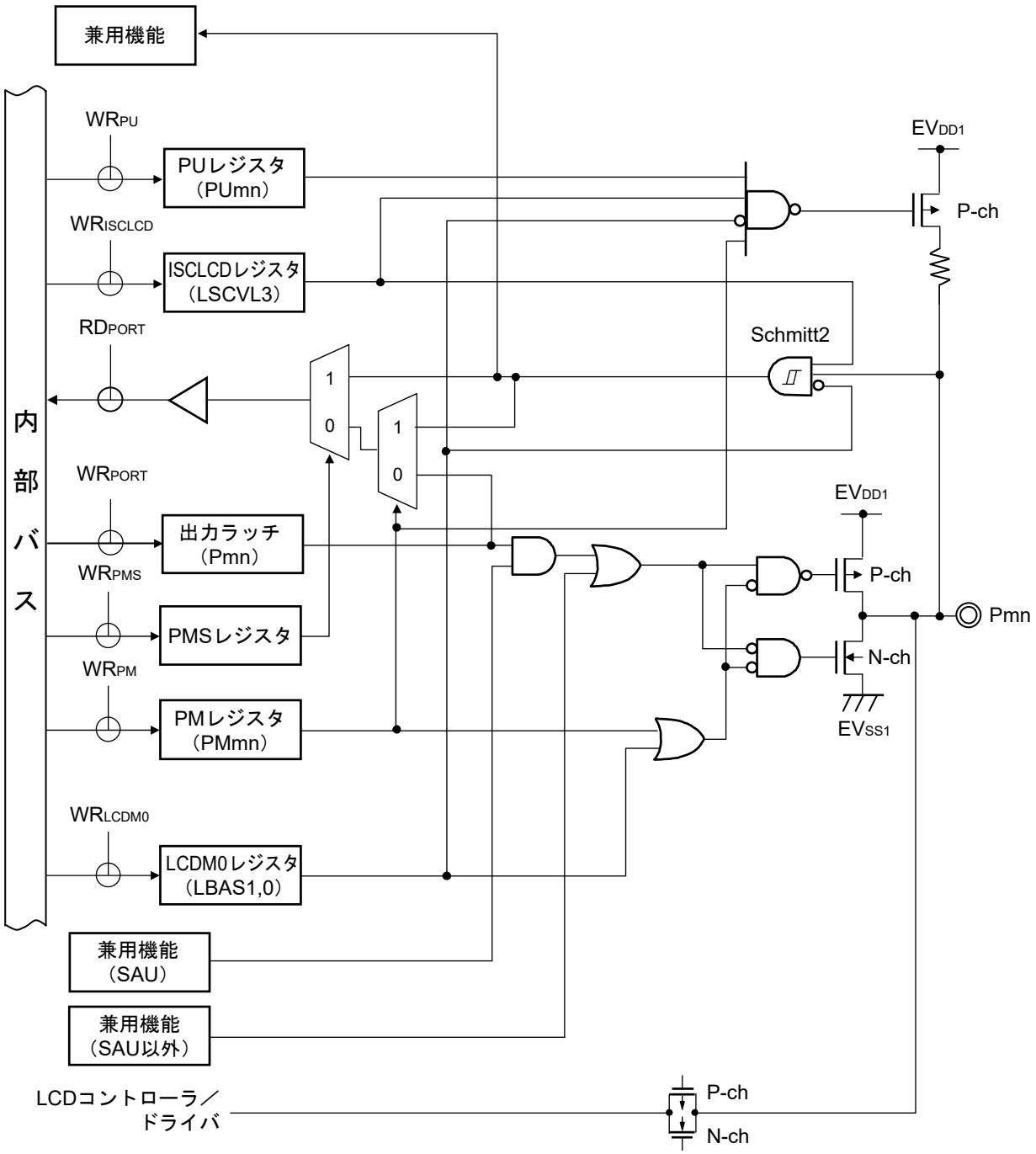
図2－10　端子タイプ7-5-5の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

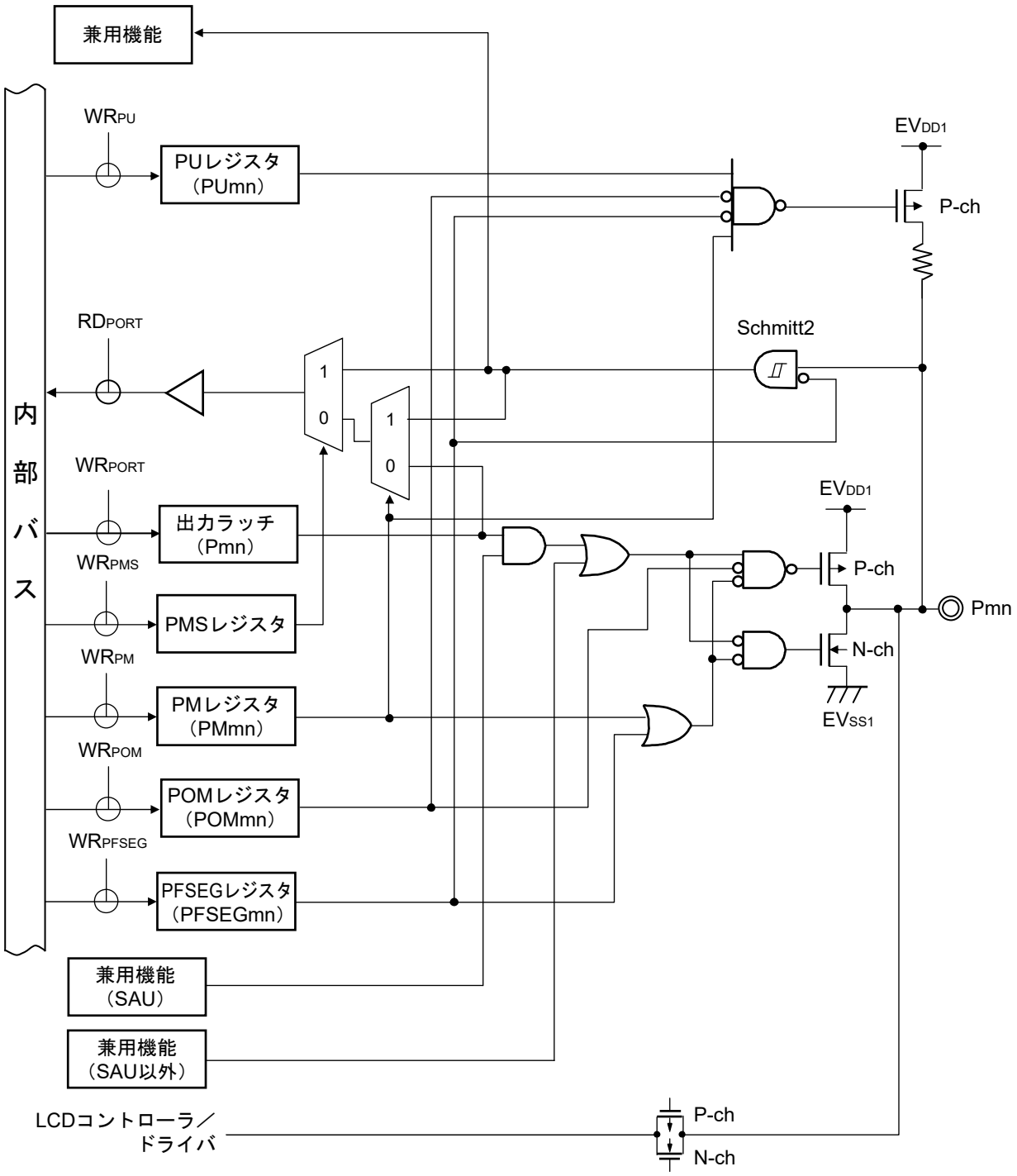
図2－11　端子タイプ7-5-6の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

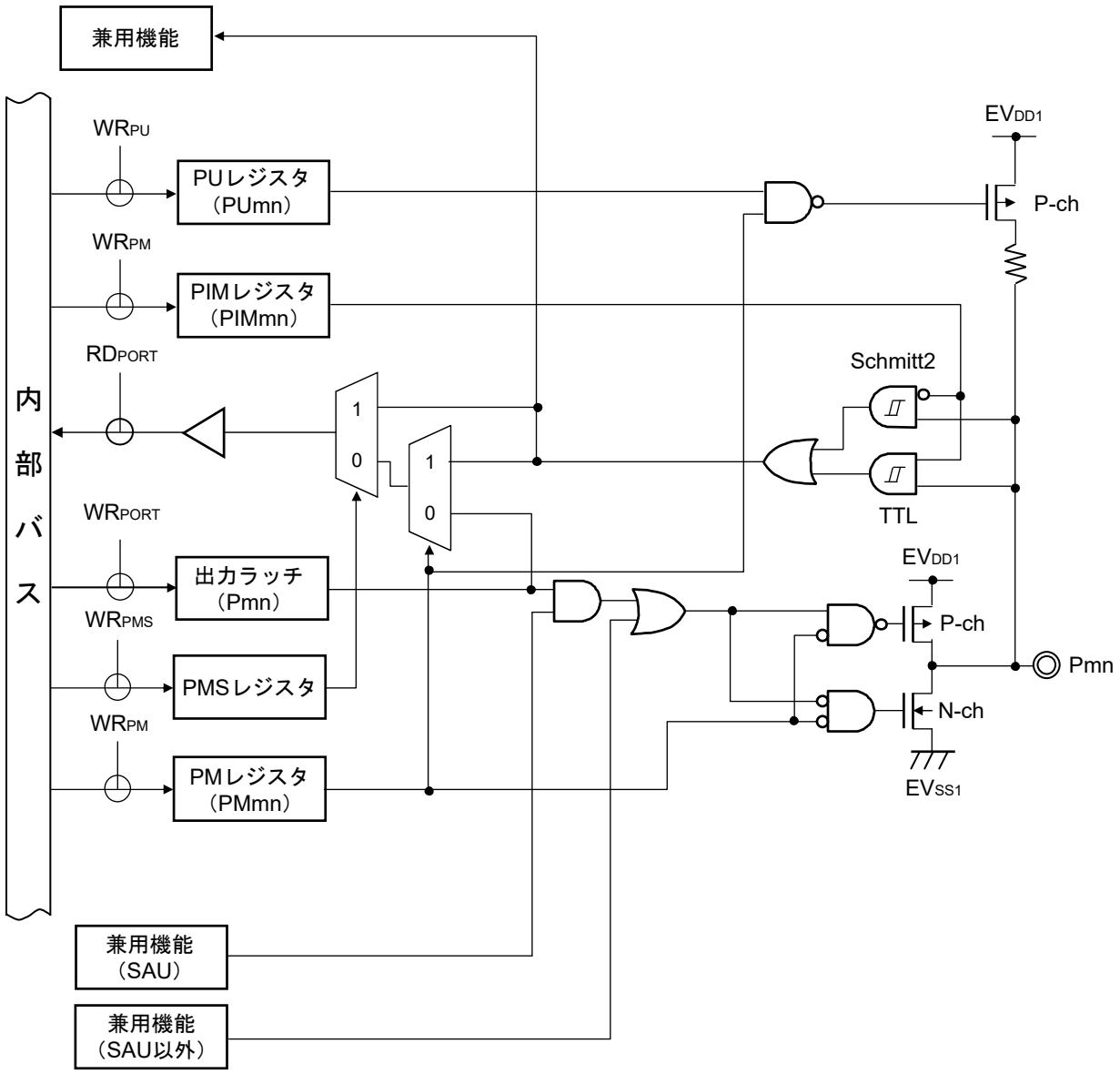
図2－12　端子タイプ7-5-10の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

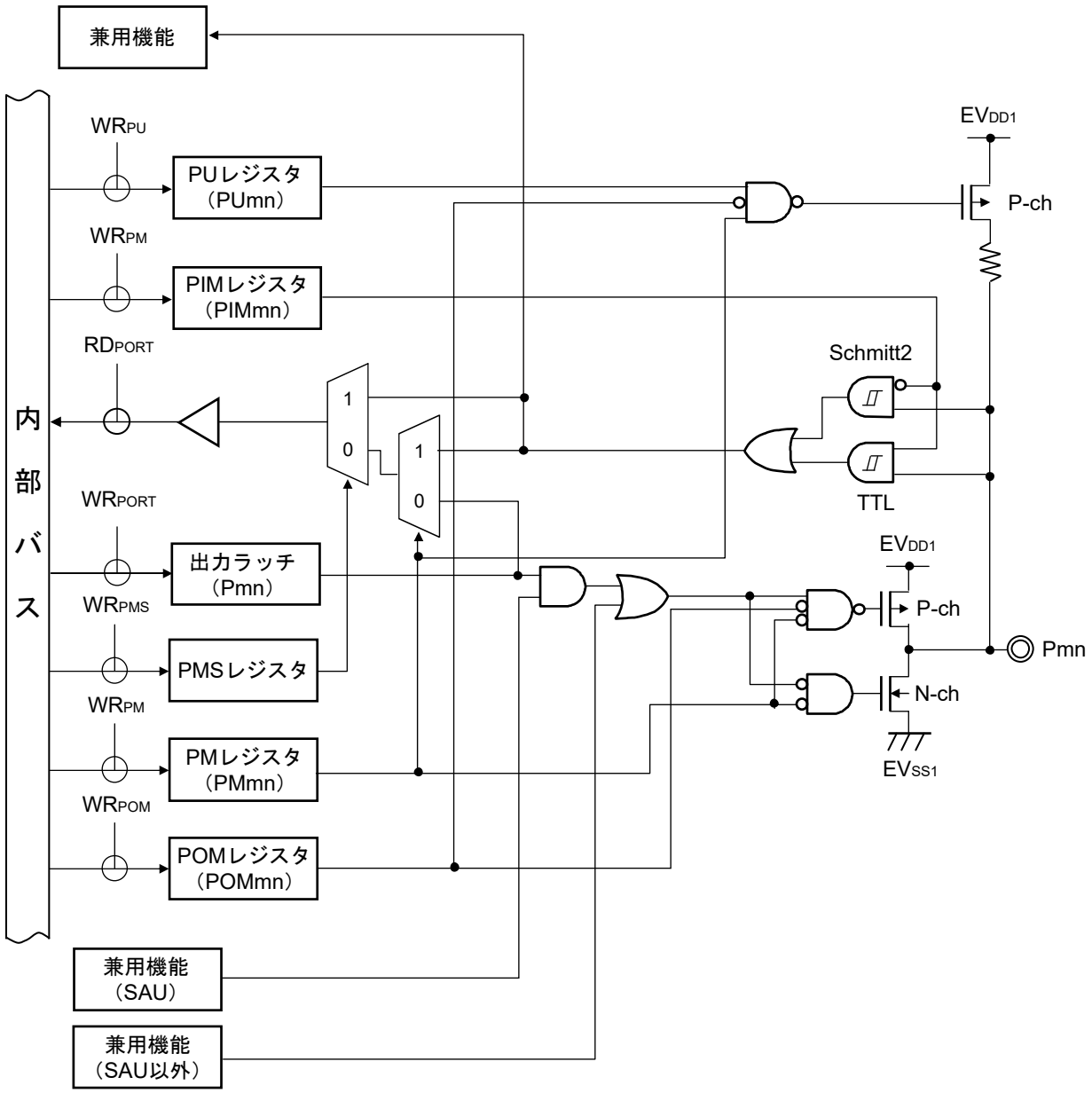
図2－13　端子タイプ8-1-3の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

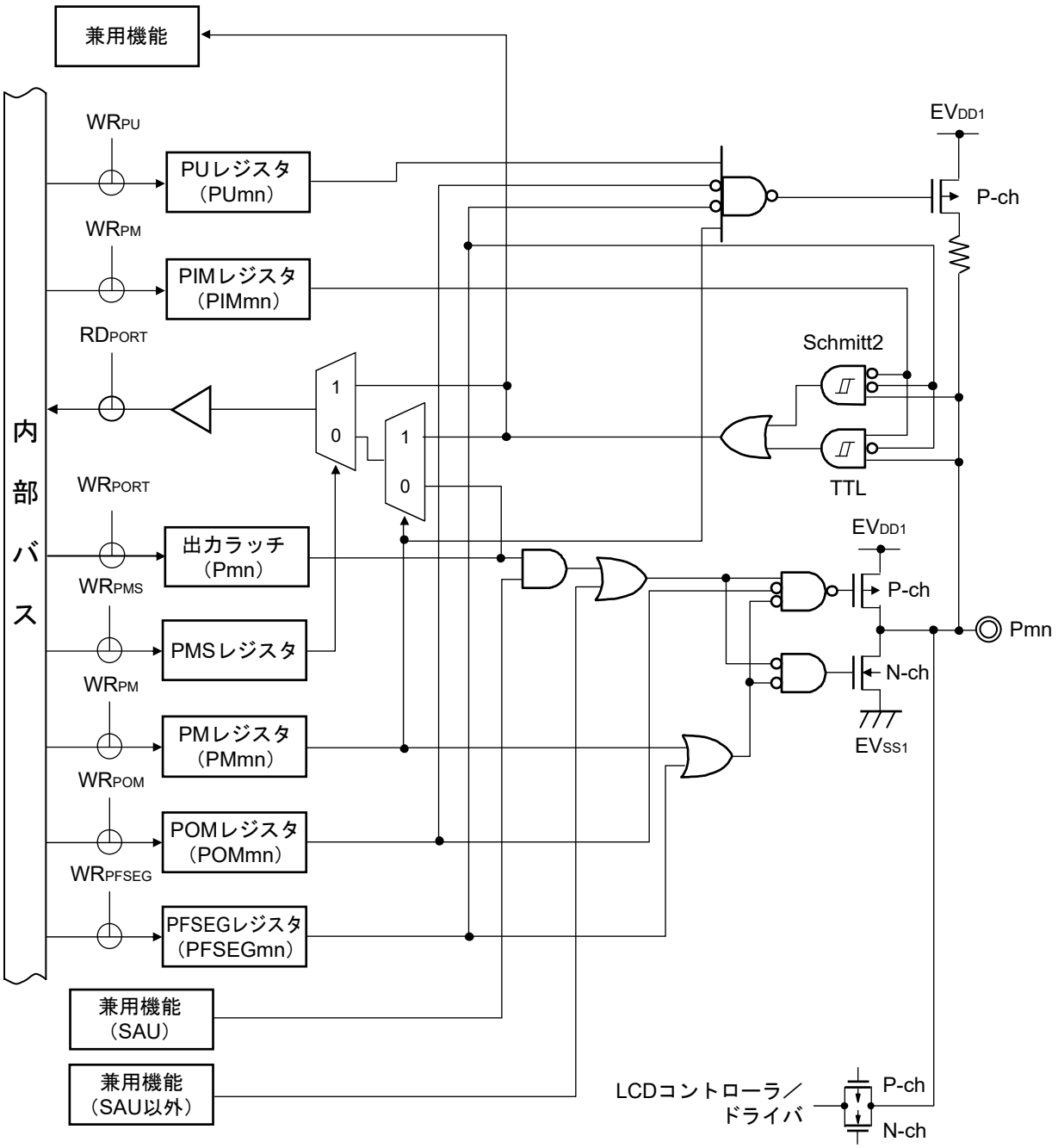
図2－14　端子タイプ8-1-4の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

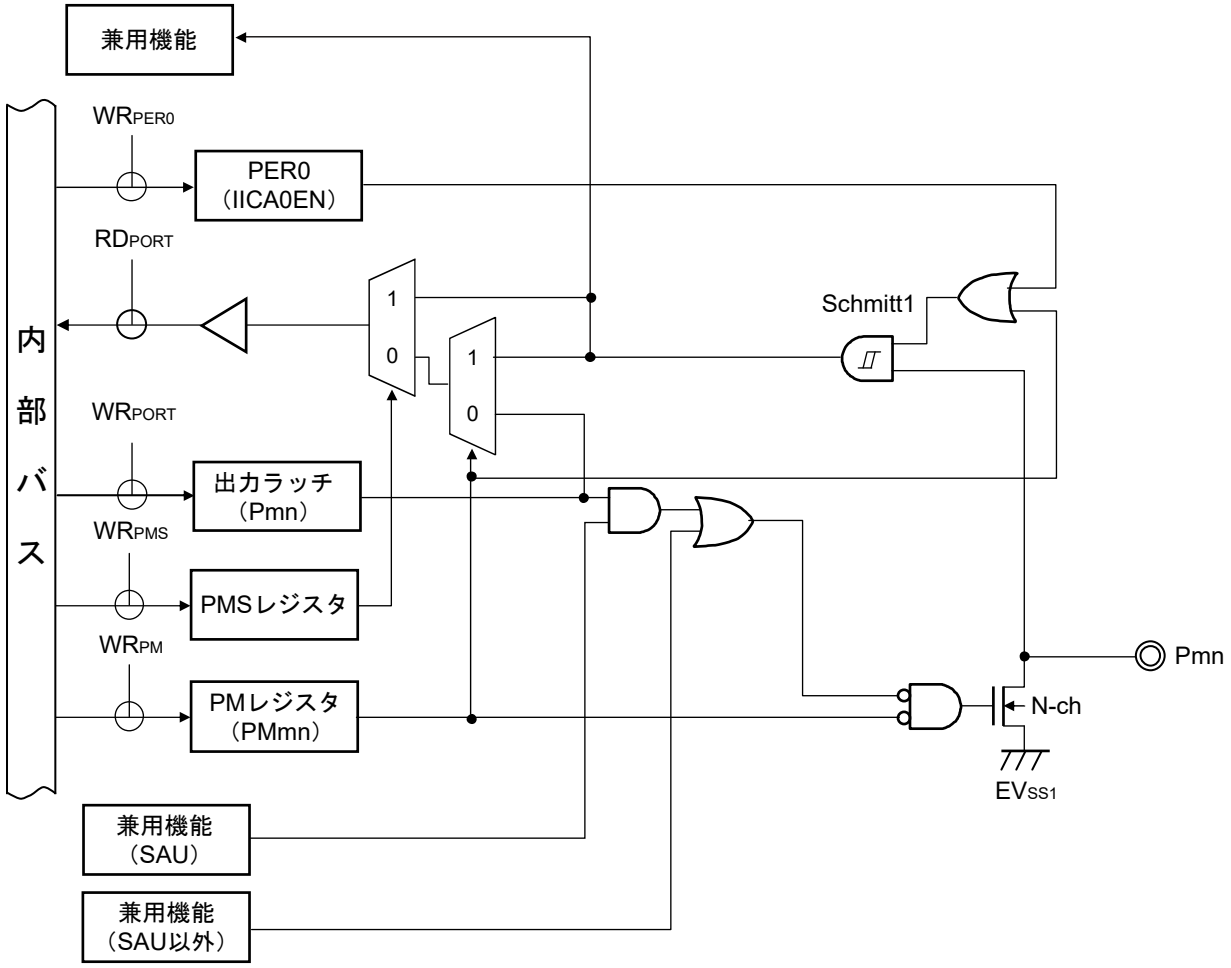
図2－15　端子タイプ8-5-10の端子ブロック図




備考1.　兼用機能は，2. 1　ポート機能を参照してください。

2.　SAU：シリアル・アレイ・ユニット

図2－16　端子タイプ12-1-3の端子ブロック図

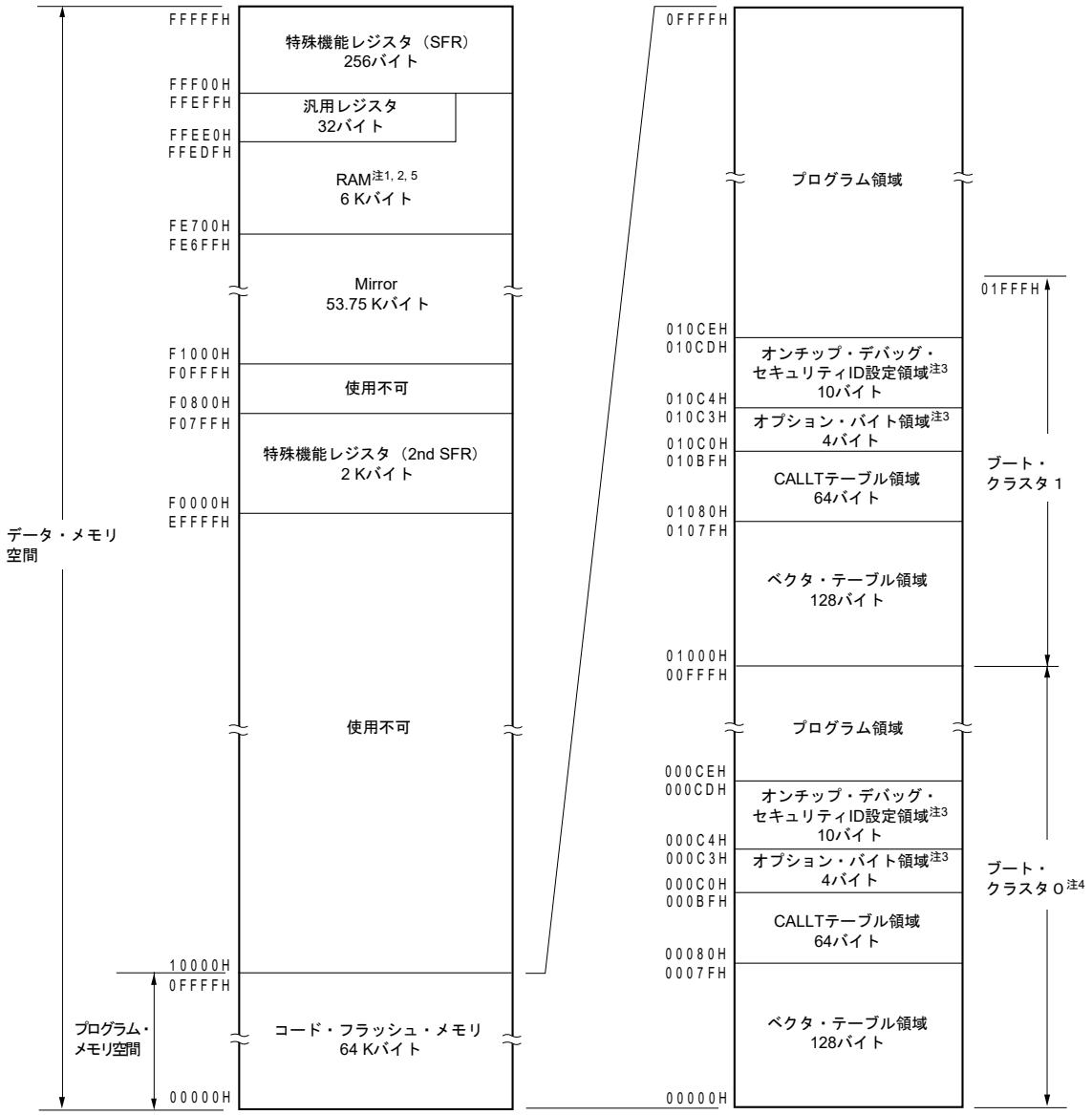


# 第3章　CPUアーキテクチャ

## 3. 1　メモリ空間

RL78/I1Bは，1 Mバイトのアドレス空間をアクセスできます。図3－1，図3－2にメモリ・マップを示します。

図3－1　メモリ・マップ（R5F10MME, R5F10MPE）




注1.　セルフ・プログラミング時は，スタック，データ・バッファ，ベクタ割り込み処理の分岐先やDTCによる転送先／転送元で利用するRAMアドレスをFFE20H-FFEDFHの領域に配置しないでください。

2.　汎用レジスタを除いたRAM領域から命令実行をすることができます。

3.　ブート・スワップ未使用時：000C0H-000C3Hにオプション・バイト，000C4H-000CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティIDを設定

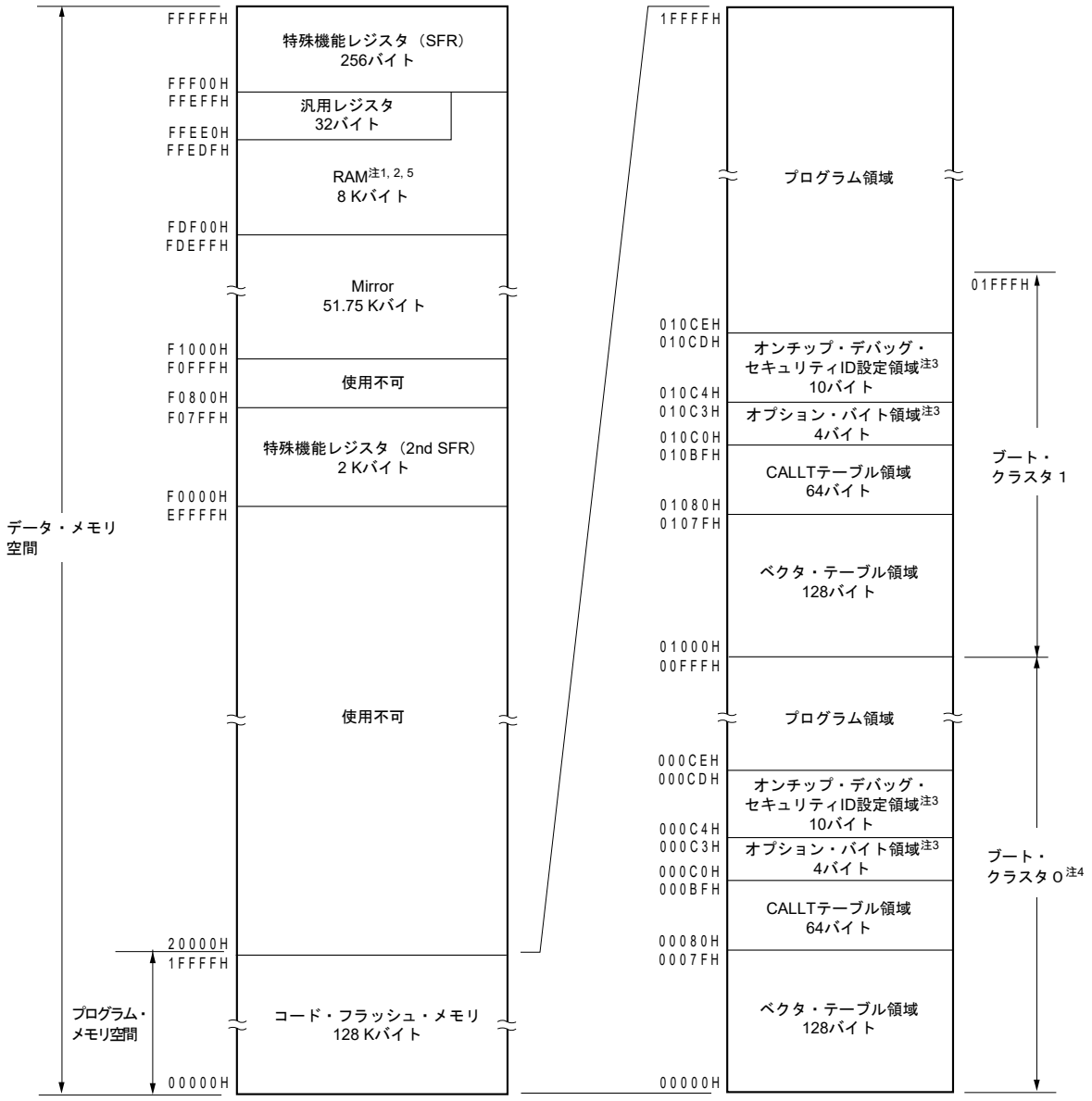
ブート・スワップ使用時　：000C0H-000C3H，010C0H-010C3Hにオプション・バイト，000C4H-000CDH，010C4H-010CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティID設定

4.　セキュリティの設定により，ブート・クラスタ0は書き換えを禁止することができます（33. 6　セキュリティ設定を参照）。

5.　オンチップ・デバッキングのトレース機能使用時は，FE300H-FE6FFHの領域が使用禁止になります。

注意　**RAM領域から命令実行し，RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可する（RPERDIS = 0）場合，データ・アクセス時は「使用するRAM領域」を，RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域＋10バイト」の領域を必ず初期化してください。リセット発生により，RAMパリティ・エラー・リセット発生許可**（RPERDIS = 0）**となります。詳細は**30. 3. 3　**RAMパリティ・エラー検出機能を参照してください。**

図3－2　メモリ・マップ（R5F10MMG, R5F10MPG）




注1.　セルフ・プログラミング時は，スタック，フラッシュ・ライブラリで使用するデータ・バッファ，ライブラリ関数の引数，ベクタ割り込み処理の分岐先やDTCによる転送先／転送元で利用するRAMアドレスをFFE20H-FFEDFHの領域に配置しないでください。

また，フラッシュ・ライブラリがFDF00Hから一部のRAM領域を使用します。フラッシュ・ライブラリが使用するRAM領域は、RL78ファミリセルフプログラミングライブラリ セルフRAMリスト（R20UT2943）を参照してください。

2.　汎用レジスタを除いたRAM領域から命令実行をすることができます。

3.　ブート・スワップ未使用時：000C0H-000C3Hにオプション・バイト，000C4H-000CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティIDを設定

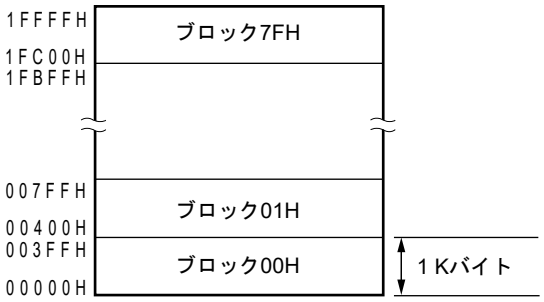
ブート・スワップ使用時　：000C0H-000C3H，010C0H-010C3Hにオプション・バイト，000C4H-000CDH，010C4H-010CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティID設定

4.　セキュリティの設定により，ブート・クラスタ0は書き換えを禁止することができます（33. 6　セキュリティ設定を参照）。

5.　オンチップ・デバッキングのトレース機能使用時は，FE300H-FE6FFHの領域が使用禁止になります。

注意　RAM領域から命令実行し，RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可する（RPERDIS = 0）場合，データ・アクセス時は「使用するRAM領域」を，RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域＋10バイト」の領域を必ず初期化してください。**リセット発生により，RAMパリティ・エラー・リセット発生許可**（RPERDIS = 0）**となります。詳細は**30. 3. 3　RAMパリティ・エラー検出機能を参照してください。

備考　フラッシュ・メモリはブロックごとに分かれています（1ブロック ＝1 Kバイト）。アドレス値とブロック番号については，表3－1　フラッシュ・メモリのアドレス値とブロック番号の対応を参照してください。




（R5F10MMG, R5F10MPGの場合）

フラッシュ・メモリのアドレス値とブロック番号の対応を次に示します。

表3－1　フラッシュ・メモリのアドレス値とブロック番号の対応

| アドレス値 | ブロック番号 | アドレス値 | ブロック番号 | アドレス値 | ブロック番号 | アドレス値 | ブロック番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 00000H-003FFH | 00H | 08000H-083FFH | 20H | 10000H-103FFH | 40H | 18000H-183FFH | 60H |
| 00400H-007FFH | 01H | 08400H-087FFH | 21H | 10400H-107FFH | 41H | 18400H-187FFH | 61H |
| 00800H-00BFFH | 02H | 08800H-08BFFH | 22H | 10800H-10BFFH | 42H | 18800H-18BFFH | 62H |
| 00C00H-00FFFH | 03H | 08C00H-08FFFH | 23H | 10C00H-10FFFH | 43H | 18C00H-18FFFH | 63H |
| 01000H-013FFH | 04H | 09000H-093FFH | 24H | 11000H-113FFH | 44H | 19000H-193FFH | 64H |
| 01400H-017FFH | 05H | 09400H-097FFH | 25H | 11400H-117FFH | 45H | 19400H-197FFH | 65H |
| 01800H-01BFFH | 06H | 09800H-09BFFH | 26H | 11800H-11BFFH | 46H | 19800H-19BFFH | 66H |
| 01C00H-01FFFH | 07H | 09C00H-09FFFH | 27H | 11C00H-11FFFH | 47H | 19C00H-19FFFH | 67H |
| 02000H-023FFH | 08H | 0A000H-0A3FFH | 28H | 12000H-123FFH | 48H | 1A000H-1A3FFH | 68H |
| 02400H-027FFH | 09H | 0A400H-0A7FFH | 29H | 12400H-127FFH | 49H | 1A400H-1A7FFH | 69H |
| 02800H-02BFFH | 0AH | 0A800H-0ABFFH | 2AH | 12800H-12BFFH | 4AH | 1A800H-1ABFFH | 6AH |
| 02C00H-02FFFH | 0BH | 0AC00H-0AFFFH | 2BH | 12C00H-12FFFH | 4BH | 1AC00H-1AFFFH | 6BH |
| 03000H-033FFH | 0CH | 0B000H-0B3FFH | 2CH | 13000H-133FFH | 4CH | 1B000H-1B3FFH | 6CH |
| 03400H-037FFH | 0DH | 0B400H-0B7FFH | 2DH | 13400H-137FFH | 4DH | 1B400H-1B7FFH | 6DH |
| 03800H-03BFFH | 0EH | 0B800H-0BBFFH | 2EH | 13800H-13BFFH | 4EH | 1B800H-1BBFFH | 6EH |
| 03C00H-03FFFH | 0FH | 0BC00H-0BFFFH | 2FH | 13C00H-13FFFH | 4FH | 1BC00H-1BFFFH | 6FH |
| 04000H-043FFH | 10H | 0C000H-0C3FFH | 30H | 14000H-143FFH | 50H | 1C000H-1C3FFH | 70H |
| 04400H-047FFH | 11H | 0C400H-0C7FFH | 31H | 14400H-147FFH | 51H | 1C400H-1C7FFH | 71H |
| 04800H-04BFFH | 12H | 0C800H-0CBFFH | 32H | 14800H-14BFFH | 52H | 1C800H-1CBFFH | 72H |
| 04C00H-04FFFH | 13H | 0CC00H-0CFFFH | 33H | 14C00H-14FFFH | 53H | 1CC00H-1CFFFH | 73H |
| 05000H-053FFH | 14H | 0D000H-0D3FFH | 34H | 15000H-153FFH | 54H | 1D000H-1D3FFH | 74H |
| 05400H-057FFH | 15H | 0D400H-0D7FFH | 35H | 15400H-157FFH | 55H | 1D400H-1D7FFH | 75H |
| 05800H-05BFFH | 16H | 0D800H-0DBFFH | 36H | 15800H-15BFFH | 56H | 1D800H-1DBFFH | 76H |
| 05C00H-05FFFH | 17H | 0DC00H-0DFFFH | 37H | 15C00H-15FFFH | 57H | 1DC00H-1DFFFH | 77H |
| 06000H-063FFH | 18H | 0E000H-0E3FFH | 38H | 16000H-163FFH | 58H | 1E000H-1E3FFH | 78H |
| 06400H-067FFH | 19H | 0E400H-0E7FFH | 39H | 16400H-167FFH | 59H | 1E400H-1E7FFH | 79H |
| 06800H-06BFFH | 1AH | 0E800H-0EBFFH | 3AH | 16800H-16BFFH | 5AH | 1E800H-1EBFFH | 7AH |
| 06C00H-06FFFH | 1BH | 0EC00H-0EFFFH | 3BH | 16C00H-16FFFH | 5BH | 1EC00H-1EFFFH | 7BH |
| 07000H-073FFH | 1CH | 0F000H-0F3FFH | 3CH | 17000H-173FFH | 5CH | 1F000H-1F3FFH | 7CH |
| 07400H-077FFH | 1DH | 0F400H-0F7FFH | 3DH | 17400H-177FFH | 5DH | 1F400H-1F7FFH | 7DH |
| 07800H-07BFFH | 1EH | 0F800H-0FBFFH | 3EH | 17800H-17BFFH | 5EH | 1F800H-1FBFFH | 7EH |
| 07C00H-07FFFH | 1FH | 0FC00H-0FFFFH | 3FH | 17C00H-17FFFH | 5FH | 1FC00H-1FFFFH | 7FH |

備考　R5F10MME, R5F10MPE　：ブロック番号00H-3FH

R5F10MMG, R5F10MPG　：ブロック番号00H-7FH

### 3. 1. 1　内部プログラム・メモリ空間

内部プログラム・メモリ空間にはプログラムおよびテーブル・データなどを格納します。RL78/I1Bは，次に示す内部ROM（フラッシュ・メモリ）を内蔵しています。

表3－2　内部ROM容量

| 製　　品 | 内部ROM | |
|---|---|---|
| | 構　　造 | 容　　量 |
| R5F10MME, R5F10MPE | フラッシュ・メモリ | 65536×8ビット（00000H-0FFFFH） |
| R5F10MMG, R5F10MPG | | 131072×8ビット（00000H-1FFFFH） |

内部プログラム・メモリ空間には，次に示す領域を割り付けています。

（1）ベクタ・テーブル領域

00000H-0007FHの128バイト領域はベクタ・テーブル領域として予約されています。ベクタ・テーブル領域には，リセット，各割り込み要求発生により分岐するときのプログラム・スタート・アドレスを格納しておきます。また，ベクタ・コードは2バイトとしているため，割り込みの飛び先アドレスは00000H-0FFFFHの64 Kアドレスとなります。

16ビット･アドレスのうち下位8ビットが偶数アドレスに，上位8ビットが奇数アドレスに格納されます。

ブート・スワップを使用する際には，01000H-0107FHにもベクタ・テーブルを設定してください。

表3－3　ベクタ・テーブル（1/2）

| ベクタ・テーブル・アドレス | 割り込み要因 |
|---|---|
| 0000H | RESET, POR, LVD, WDT, TRAP, IAW, RPE |
| 0004H | INTWDTI |
| 0006H | INTLVI |
| 0008H | INTP0 |
| 000AH | INTP1 |
| 000CH | INTP2 |
| 000EH | INTP3 |
| 0010H | INTP4 |
| 0012H | INTP5 |
| 0014H | INTST2 |
| 0016H | INTSR2 |
| 0018H | INTSRE2 |
| 001EH | INTST0/INTCSI00/INTIIC00 |
| 0020H | INTTM00 |
| 0022H | INTSR0 |
| 0024H | INTSRE0 |
| | INTTM01H |
| 0026H | INTST1/INTIIC10 |
| 0028H | INTSR1 |
| 002AH | INTSRE1 |
| | INTTM03H |
| 002CH | INTIICA0 |
| 002EH | INTRTIT |
| 0030H | INTFM |
| 0032H | INTTM01 |
| 0034H | INTTM02 |
| 0036H | INTTM03 |
| 0038H | INTAD |
| 003AH | INTRTC |
| 003CH | INTIT |
| 0044H | INTDSAD |

表3－3　ベクタ・テーブル（2/2）

| ベクタ・テーブル・アドレス | 割り込み要因 |
|---|---|
| 0046H | INTTM04 |
| 0048H | INTTM05 |
| 004AH | INTP6 |
| 004CH | INTP7 |
| 0050H | INTCMP0 |
| 0052H | INTCMP1 |
| 0054H | INTTM06 |
| 0056H | INTTM07 |
| 0058H | INTIT00 |
| 005AH | INTIT01 |
| 005CH | INTCR |
| 0060H | INTOSDC |
| 0068H | INTIT10 |
| 006AH | INTIT11 |
| 006CH | INTVBAT |
| 007EH | BRK |

（2）CALLT命令テーブル領域

00080H-000BFHの64バイト領域には，2バイト・コール命令（CALLT）のサブルーチン・エントリ・アドレスを格納することができます。サブルーチン・エントリ・アドレスは00000H-0FFFFH内の値を設定してください（アドレス・コードが2バイトのため）。

ブート・スワップを使用する際には，01080H-010BFHにもCALLT命令テーブルを設定してください。

（3）オプション・バイト領域

000C0H-000C3Hの4バイト領域にオプション・バイト領域を用意しています。ブート・スワップを使用する際には010C0H-010C3Hにもオプション・バイトを設定してください。詳細は第32章　オプション・バイトを参照してください。

（4）オンチップ・デバッグ・セキュリティID設定領域

000C4H-000CDH，010C4H-010CDHの10バイト領域にオンチップ・デバッグ・セキュリティID設定領域を用意しています。ブート・スワップ未使用時には000C4H-000CDHに，ブート・スワップ使用時には000C4H-000CDHと010C4H-010CDHに10バイトのオンチップ・デバッグ・セキュリティIDを設定してください。詳細は第34章　オンチップ・デバッグ機能を参照してください。

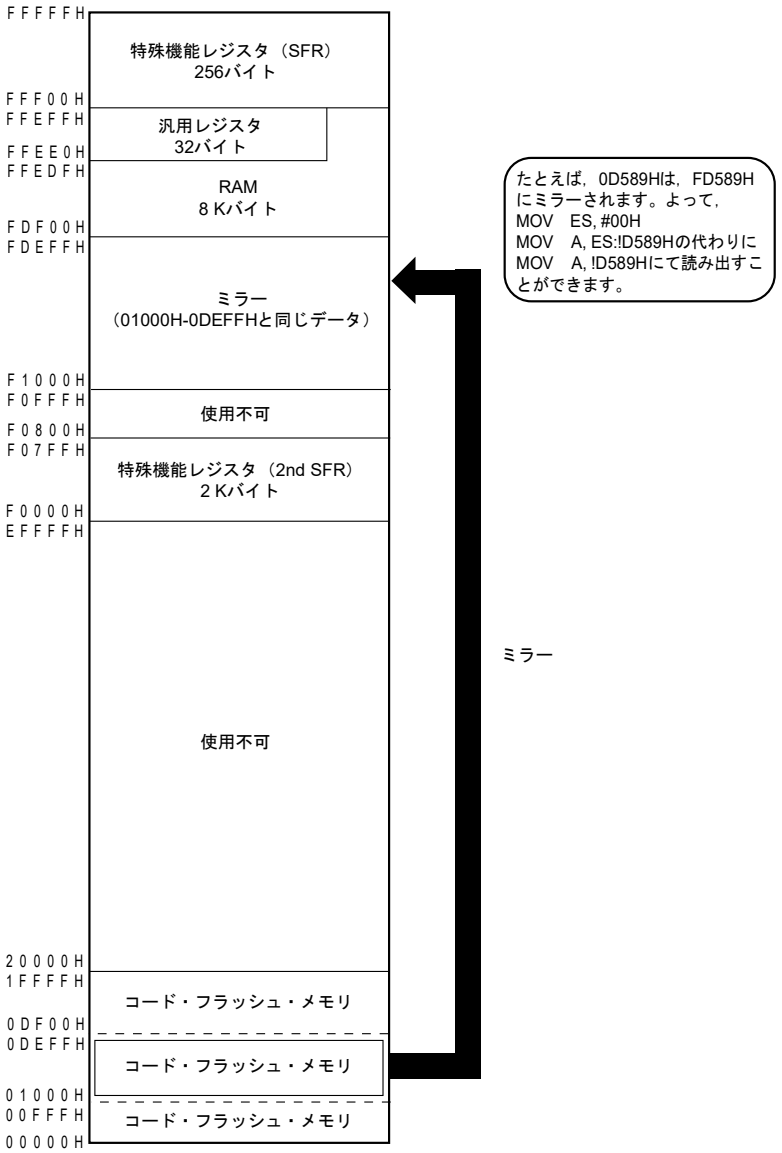
### 3. 1. 2　ミラー領域

RL78/I1Bでは，00000H-0FFFFHのコード・フラッシュ・エリアをF0000H-FFFFFHへミラーしています。フラッシュ・メモリが128 KBの製品では，00000H-0FFFFHまたは10000H-1FFFFHのコード・フラッシュ・エリアをF0000H-FFFFFHへミラーしています（プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ（PMC）で設定）。

ミラー先のF0000H-FFFFFHからデータを読み出すことにより，オペランドにESレジスタを持たない命令を使用することができるため，短いコードでコード・フラッシュ内容の読み出しを行うことができます。ただし，SFR，拡張SFR，RAM領域，使用不可領域にはミラーされません。

各製品のミラー領域は，3. 1　メモリ空間を参照してください。
ミラー領域は読み出しのみ可能で，命令フェッチはできません。
次に例を示します。

例　**R5F10MMG, R5F10MPG**（フラッシュ・メモリ 128 Kバイト，RAM 8 Kバイト）の場合




次に，PMCレジスタについて説明します。

・プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ（PMC）

F0000H-FFFFFHへミラーするフラッシュ・メモリ空間を設定するレジスタです。

PMCレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図3－3　プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ（PMC）のフォーマット

アドレス：FFFFEH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PMC | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | MAA |

| MAA | F0000H-FFFFFHへミラーするフラッシュ・メモリ空間を設定 |
|---|---|
| 0 | 00000H-0FFFFHをF0000H-FFFFFHへミラー |
| 1 | 10000H-1FFFFHをF0000H-FFFFFHへミラー |

注意1.　フラッシュ・メモリが64 KBの製品の場合は，必ずビット0（MAA）を0（初期値）でご使用ください。

2.　PMCレジスタの設定後，1命令以上空けてミラー領域にアクセスしてください。

### 3. 1. 3　内部データ・メモリ空間

RL78/I1Bは，次に示すRAMを内蔵しています。

表3－4　内部RAM容量

| 製　　品 | 内部RAM |
|---|---|
| R5F10MME, R5F10MPE | 6144×8ビット（FE700H-FFEFFH） |
| R5F10MMG, R5F10MPG | 8192×8ビット（FDF00H-FFEFFH） |

内部RAMは，データ領域として使用できるほか，プログラム領域として命令を実行することができます（汎用レジスタが割り当てられた領域では命令実行不可）。内部RAM領域のうちFFEE0H-FFEFFHの32バイトの領域には，8ビット・レジスタ8個を1バンクとする汎用レジスタが，4バンク割り付けられます。また，スタック・メモリは内部RAMを使用します。

注意1.　汎用レジスタが割り当てられている空間（FFEE0H-FFEFFH）は，命令フェッチやスタックの領域に使用できません。

2.　セルフ・プログラミング時は，スタック，データ・バッファ，ベクタ割り込み処理の分岐先やDTCによる転送先／転送元で利用するRAMアドレスをFFE20H-FFEDFHの領域に配置しないでください。

3.　セルフ・プログラミング時は，次に示す製品のRAM領域は，各ライブラリで使用するため使用禁止になります。

R5F10MMG, R5F10MPG　：FDF00H-FE309H

4.　次に示す製品の内部RAM領域は，オンチップ・デバッキングのトレース機能使用時にスタック・メモリとして使用できません。

R5F10MME, R5F10MPE, R5F10MMG, R5F10MPG　：FE300H-FE6FFH

### 3. 1. 4　特殊機能レジスタ（SFR：Special Function Register）領域

FFF00H-FFFFFHの領域には，オン・チップ周辺ハードウエアの特殊機能レジスタ（SFR）が割り付けられています（3. 2. 4　特殊機能レジスタ（SFR：Special Function Register）の表3－5参照）。

注意　SFRが割り付けられていないアドレスにアクセスしないでください。

### 3. 1. 5　拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR：2nd Special Function Register）領域

F0000H-F07FFHの領域には，オン・チップ周辺ハードウエアの拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR）が割り付けられています（3. 2. 5　拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR : 2nd Special Function Register）の表3－6参照）。

SFR領域（FFF00H-FFFFFH）以外のSFRが割り付けられています。ただし，拡張SFR領域のアクセス命令はSFR領域より1バイト長くなります。

注意　拡張SFRが割り付けられていないアドレスにアクセスしないでください。

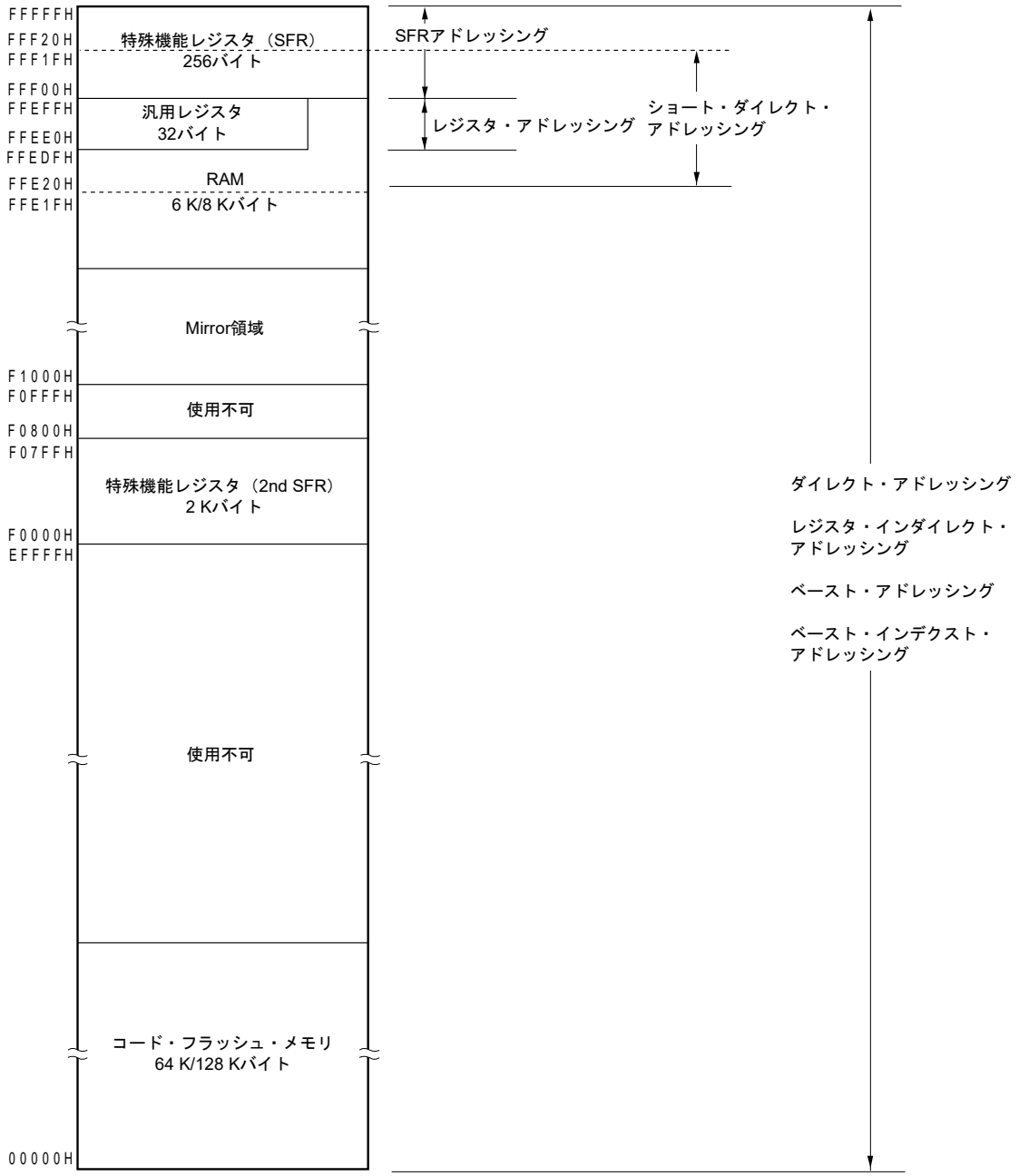
### 3. 1. 6　データ・メモリ・アドレッシング

次に実行する命令のアドレスを指定したり，命令を実行する際に操作対象となるレジスタやメモリなどのアドレスを指定したりする方法をアドレッシングといいます。

命令を実行する際に操作対象となるメモリのアドレッシングについて，RL78/I1Bでは，その操作性などを考慮して豊富なアドレッシング・モードを備えました。特にデータ・メモリを内蔵している領域では，特殊機能レジスタ（SFR）や汎用レジスタなど，それぞれのもつ機能にあわせて特有のアドレッシングが可能です。図3－4にデータ・メモリとアドレッシングの対応を示します。

各アドレッシングの詳細については，3. 4　処理データ・アドレスに対するアドレッシングを参照してください。

図3－4　データ・メモリとアドレッシングの対応



## 3. 2　プロセッサ・レジスタ

RL78/I1Bは，次のプロセッサ・レジスタを内蔵しています。

### 3. 2. 1　制御レジスタ

プログラム・シーケンス，ステータス，スタック・メモリの制御など専用の機能を持ったレジスタです。制御レジスタには，プログラム・カウンタ（PC），プログラム・ステータス・ワード（PSW），スタック・ポインタ（SP）があります。

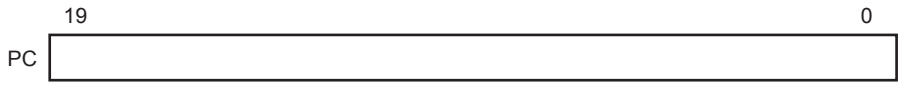
（1）プログラム・カウンタ（PC）

プログラム・カウンタは，次に実行するプログラムのアドレス情報を保持する20ビット・レジスタです。

通常動作時には，フェッチする命令のバイト数に応じて，自動的にインクリメントされます。分岐命令実行時には，イミーディエト・データやレジスタの内容がセットされます。

リセット信号の発生により，0000Hと0001H番地のリセット・ベクタ・テーブルの値がプログラム・カウンタにセットされます。

図3－5　プログラム・カウンタの構成




（2）プログラム・ステータス・ワード（PSW）

プログラム・ステータス・ワードは，命令の実行によってセット，リセットされる各種フラグで構成される8ビット・レジスタです。

プログラム・ステータス・ワードの内容は，ベクタ割り込み要求受け付け発生時およびPUSH PSW命令の実行時にスタック領域に格納され，RETB, RETI命令およびPOP PSW命令の実行時に復帰されます。

リセット信号の発生により，06Hになります。

図3－6　プログラム・ステータス・ワードの構成

| | 7 | | | | | | | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PSW | IE | Z | RBS1 | AC | RBS0 | ISP1 | ISP0 | CY |

（a）割り込み許可フラグ（IE）

CPUの割り込み要求受け付け動作を制御するフラグです。

IE = 0のときは割り込み禁止（DI）状態となり，マスカブル割り込みはすべて禁止されます。

IE = 1のときは割り込み許可（EI）状態となります。このときマスカブル割り込み要求の受け付けは，インサービス・プライオリティ・フラグ（ISP1，ISP0），各割り込み要因に対する割り込みマスク・フラグおよび優先順位指定フラグにより制御されます。

このフラグは，DI命令の実行または割り込みの受け付けでリセット（0）され，EI命令の実行によりセット（1）されます。

（b）ゼロ・フラグ（Z）

演算結果がゼロまたは等しいときセット（1）され，それ以外のときにリセット（0）されるフラグです。

（c）レジスタ・バンク選択フラグ（RBS0, RBS1）

4個のレジスタ・バンクのうちの1つを選択する2ビットのフラグです。

SEL RBn命令の実行によって選択されたレジスタ・バンクを示す2ビットの情報が格納されています。

（d）補助キャリー・フラグ（AC）

演算結果で，ビット3からキャリーがあったとき，またはビット3へのボローがあったときセット（1）され，それ以外のときリセット（0）されるフラグです。

（e）インサービス・プライオリティ・フラグ（ISP1, ISP0）

受け付け可能なマスカブル・ベクタ割り込みの優先順位レベルを管理するフラグです。優先順位指定フラグ・レジスタ（PRn0L, PRn0H, PRn1L, PRn1H, PRn2L, PRn2H, PRn3L）（23. 3. 3参照）でISP0, ISP1フラグの値より低位に指定されたベクタ割り込み要求は受け付け禁止となります。なお，実際にベクタ割り込み要求が受け付けられるかどうかは，割り込み許可フラグ（IE）の状態により制御されます。

備考　n = 0, 1

（f）キャリー・フラグ（CY）

加減算命令実行時のオーバフロー，アンダフローを記憶するフラグです。また，ローテート命令実行時はシフト・アウトされた値を記憶し，ビット演算命令実行時には，ビット・アキュームレータとして機能します。

（3）スタック・ポインタ（SP）

メモリのスタック領域の先頭アドレスを保持する16ビットのレジスタです。スタック領域としては内部RAM領域のみ設定可能です。

図3－7　スタック・ポインタの構成

| | 15 | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SP | SP15 | SP14 | SP13 | SP12 | SP11 | SP10 | SP9 | SP8 | SP7 | SP6 | SP5 | SP4 | SP3 | SP2 | SP1 | 0 |

スタック・ポインタを用いたスタック・アドレッシングでは，スタック・メモリへの書き込み（退避）動作に先立ってデクリメントされ，スタック・メモリからの読み取り（復帰）動作のあとインクリメントされます。

注意1.　SPの内容はリセット信号の発生により，不定になりますので，必ずスタック使用前にイニシャライズしてください。

2.　汎用レジスタが割り当てられている空間（FFEE0H-FFEFFH）は，命令フェッチやスタックの領域に使用できません。

3.　セルフ・プログラミング時は，スタック，データ・バッファ，ベクタ割り込み処理の分岐先やDTCによる転送先／転送元で利用するRAMアドレスをFFE20H-FFEDFHの領域に配置しないでください。

4.　セルフ・プログラミング時は，次に示す製品のRAM領域は，各ライブラリで使用するため使用禁止になります。

R5F10MMG, R5F10MPG　：　FDF00H-FE309H

5.　次に示す製品の内部RAM領域は，オンチップ・デバッキングのトレース機能使用時にスタック・メモリとして使用できません。

R5F10MME, R5F10MPE, R5F10MMG, R5F10MPG　：FE300H-FE6FFH

### 3. 2. 2　汎用レジスタ

汎用レジスタは，データ・メモリの特定番地（FFEE0H-FFEFFH）にマッピングされており，8ビット・レジスタ8個（X, A, C, B, E, D, L, H）を1バンクとして4バンクのレジスタで構成されています。

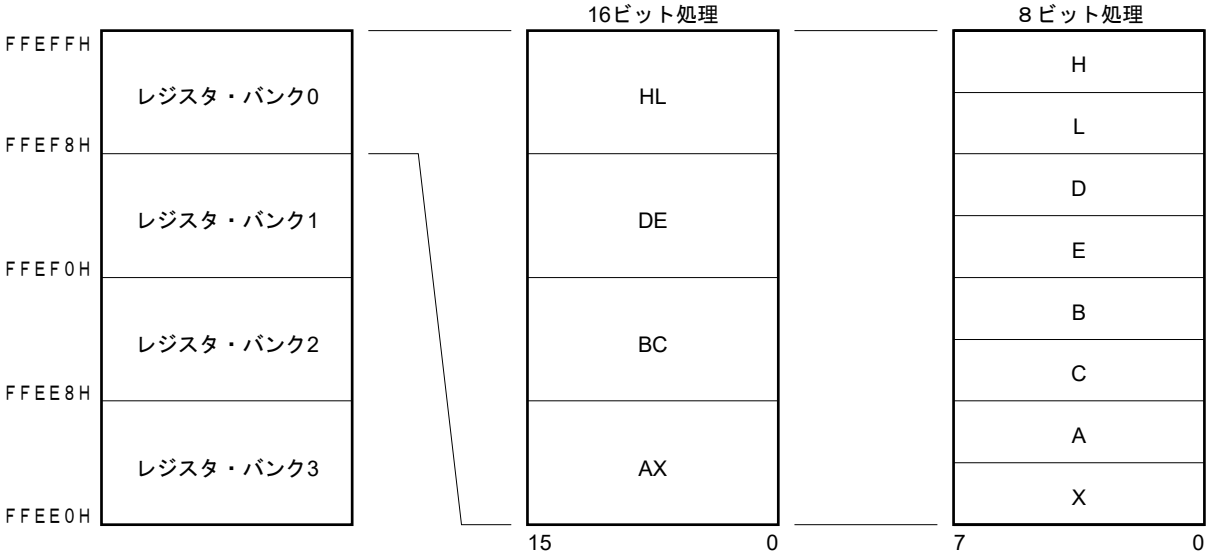
各レジスタは，それぞれ8ビット・レジスタとして使用できるほか，2個の8ビット・レジスタをペアとして16ビット・レジスタとしても使用できます（AX, BC, DE, HL）。

命令実行時に使用するレジスタ・バンクは，CPU制御命令（SEL RBn）によって設定します。4レジスタ・バンク構成になっていますので，通常処理で使用するレジスタと割り込み時で使用するレジスタをバンク切り替えすれば，効率のよいプログラムを作成できます。

注意　汎用レジスタが割り当てられている空間（FFEE0H-FFEFFH）は，命令フェッチやスタックの領域に使用できません。

図3－8　汎用レジスタの構成

（a）機能名称



### 3. 2. 3　ES, CSレジスタ

ESレジスタでデータ・アクセス，CSレジスタで（レジスタ・ダイレクト・アドレシング）分岐命令実行時の，それぞれ上位アドレスを指定できます。

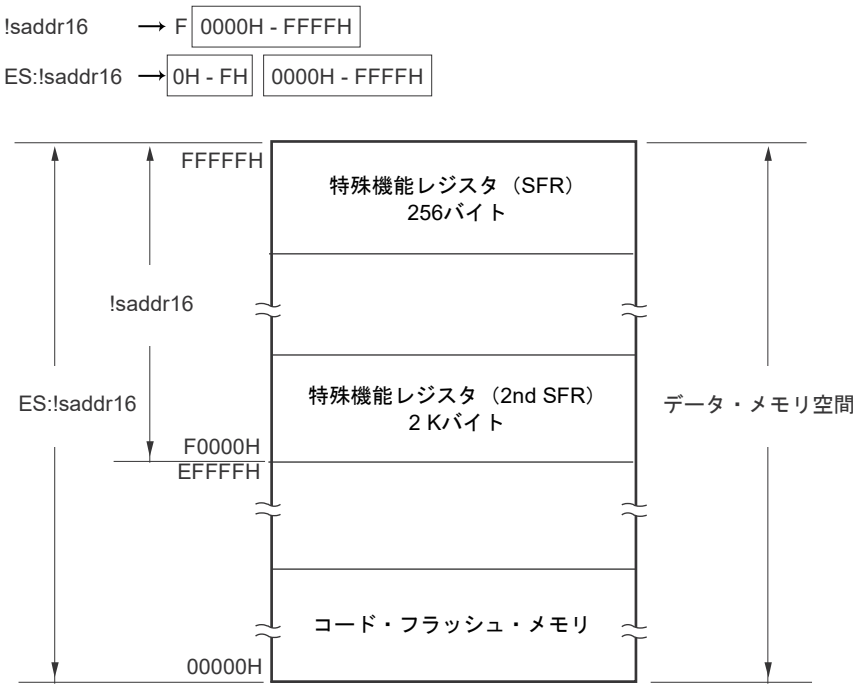
ESレジスタのリセット後の初期値は0FH，CSレジスタのリセット後の初期値は00Hです。

図3－9　ES/CSレジスタの構成

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ES | 0 | 0 | 0 | 0 | ES3 | ES2 | ES1 | ES0 |
| CS | 0 | 0 | 0 | 0 | CS3 | CS2 | CS1 | CS0 |

16ビット・アドレスでアクセスできるデータ領域は，F0000H-FFFFFHの64 Kバイト空間ですが，ES:を付加すると00000H-FFFFFHの1 Mバイト空間に拡張できます。

図3－10　データ・アクセス領域の拡張



### 3. 2. 4　特殊機能レジスタ（SFR：Special Function Register）

SFRは，汎用レジスタとは異なり，それぞれ特別な機能を持つレジスタです。

SFR空間は，FFF00H-FFFFFHの領域に割り付けられています。

SFRは，演算命令，転送命令，ビット操作命令などにより，汎用レジスタと同じように操作できます。操作可能なビット単位（1, 8, 16）は，各SFRで異なります。

操作ビット単位ごとの指定方法を次に示します。

・1ビット操作

1ビット操作命令のオペランド（sfr.bit）には，次のような記述をしてください。

ビット名称が定義されている場合：<ビット名称>

ビット名称が定義されていない場合：＜レジスタ名＞.＜ビット番号＞または＜アドレス＞.＜ビット番号＞

・8ビット操作

8ビット操作命令のオペランド（sfr）にアセンブラで定義されている略号を記述します。アドレスでも指定できます。

・16ビット操作

16ビット操作命令のオペランド（sfrp）にアセンブラで定義されている略号を記述します。アドレスを指定するときは偶数アドレスを記述してください。

表3－5にSFRの一覧を示します。表中の項目の意味は次のとおりです。

・略号

特殊機能レジスタのアドレスを示す略号です。アセンブラで予約語に，コンパイラでは#pragma sfr指令で，sfr変数として定義されているものです。アセンブラ，デバッガおよびシミュレータ使用時に命令のオペランドとして記述できます。

・R/W

該当する特殊機能レジスタが読み出し（Read）／書き込み（Write）可能かどうかを示します。

R/W　：読み出し／書き込みがともに可能

R　：読み出しのみ可能

W　：書き込みのみ可能

・操作可能ビット単位

操作可能なビット単位（1, 8, 16）を○で示します。－は操作できないビット単位であることを示します。

・リセット時

リセット信号発生時の各レジスタの状態を示します。

注意　SFRが割り付けられていないアドレスにアクセスしないでください。

備考　拡張SFR（2nd SFR）については，3. 2. 5　拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR：2nd Special Function Register）を参照してください。

表3－5　SFR一覧（1/5）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| FFF00H | ポート・レジスタ0 | P0 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF01H | ポート・レジスタ1 | P1 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF02H | ポート・レジスタ2 | P2 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF03H | ポート・レジスタ3 | P3 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF04H | ポート・レジスタ4 | P4 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF05H | ポート・レジスタ5 | P5 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF06H | ポート・レジスタ6 | P6 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF07H | ポート・レジスタ7 | P7 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF08H | ポート・レジスタ8 | P8 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF0CH | ポート・レジスタ12 | P12 | | R/W | ○ | ○ | － | 不定 |
| FFF0DH | ポート・レジスタ13 | P13 | | R/W | ○ | ○ | － | 不定 |
| FFF10H | シリアル・データ・レジスタ00 | TXD0/SIO00 | SDR00 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| FFF11H | | － | | | － | － | | |
| FFF12H | シリアル・データ・レジスタ01 | RXD0 | SDR01 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| FFF13H | | － | | | － | － | | |
| FFF18H | タイマ・データ・レジスタ00 | TDR00 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| FFF19H | | | | | | | | |
| FFF1AH | タイマ・データ・レジスタ01 | TDR01L | TDR01 | R/W | － | ○ | ○ | 00H |
| FFF1BH | | TDR01H | | | － | ○ | | 00H |
| FFF1EH | 10ビットA/D変換結果レジスタ | ADCR | | R | － | － | ○ | 0000H |
| FFF1FH | 8ビットA/D変換結果レジスタ | ADCRH | | R | － | ○ | － | 00H |
| FFF20H | ポート・モード・レジスタ0 | PM0 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF21H | ポート・モード・レジスタ1 | PM1 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF22H | ポート・モード・レジスタ2 | PM2 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF23H | ポート・モード・レジスタ3 | PM3 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF24H | ポート・モード・レジスタ4 | PM4 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF25H | ポート・モード・レジスタ5 | PM5 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF26H | ポート・モード・レジスタ6 | PM6 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF27H | ポート・モード・レジスタ7 | PM7 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF28H | ポート・モード・レジスタ8 | PM8 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF2CH | ポート・モード・レジスタ12 | PM12 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| FFF30H | A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 | ADM0 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF31H | アナログ入力チャネル指定レジスタ | ADS | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF32H | A/Dコンバータ・モード・レジスタ1 | ADM1 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |

表3－5　SFR一覧（2/5）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| FFF38H | 外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ0 | EGP0 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF39H | 外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ0 | EGN0 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF40H | LCDモード・レジスタ0 | LCDM0 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| FFF41H | LCDモード・レジスタ1 | LCDM1 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF42H | LCDクロック制御レジスタ0 | LCDC0 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| FFF43H | LCD昇圧レベル制御レジスタ | VLCD | | R/W | － | ○ | － | 04H |
| FFF44H | シリアル・データ・レジスタ02 | TXD1/<br>SIO10 | SDR02 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| FFF45H | | － | | | － | － | | |
| FFF46H | シリアル・データ・レジスタ03 | RXD1 | SDR03 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| FFF47H | | － | | | － | － | | |
| FFF48H | シリアル・データ・レジスタ10 | TXD2 | SDR10 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| FFF49H | | － | | | － | － | | |
| FFF4AH | シリアル・データ・レジスタ11 | RXD2 | SDR11 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| FFF4BH | | － | | | － | － | | |
| FFF50H | IICAシフト・レジスタ0 | IICA0 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| FFF51H | IICAステータス・レジスタ0 | IICS0 | | R | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF52H | IICAフラグ・レジスタ0 | IICF0 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFF64H | タイマ・データ・レジスタ02 | TDR02 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| FFF65H | | | | | | | | |
| FFF66H | タイマ・データ・レジスタ03 | TDR03L | TDR03 | R/W | － | ○ | ○ | 00H |
| FFF67H | | TDR03H | | | － | ○ | | 00H |
| FFF68H | タイマ・データ・レジスタ04 | TDR04 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| FFF69H | | | | | | | | |
| FFF6AH | タイマ・データ・レジスタ05 | TDR05 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| FFF6BH | | | | | | | | |
| FFF6CH | タイマ・データ・レジスタ06 | TDR06 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| FFF6DH | | | | | | | | |
| FFF6EH | タイマ・データ・レジスタ07 | TDR07 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| FFF6FH | | | | | | | | |

表3－5　SFR一覧（3/5）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| FFF90H<br>FFF91H | 12ビット・インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ | ITMC | R/W | － | － | ○ | 0FFFH |
| FFF92H | 秒カウント・レジスタ | SEC | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF93H | 分カウント・レジスタ | MIN | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF94H | 時カウント・レジスタ | HOUR | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF95H | 曜日カウント・レジスタ | WEEK | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF96H | 日カウント・レジスタ | DAY | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF97H | 月カウント・レジスタ | MONTH | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF98H | 年カウント・レジスタ | YEAR | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF9AH | アラーム分レジスタ | ALARMWM | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF9BH | アラーム時レジスタ | ALARMWH | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF9CH | アラーム曜日レジスタ | ALARMWW | R/W | － | ○ | － | 不定 |
| FFF9DH | リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 | RTCC0 | R/W | ○ | ○ | － | 00H注1 |
| FFF9EH | リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 | RTCC1 | R/W | ○ | ○ | － | 00H注1 |
| FFFA0H | クロック動作モード制御レジスタ | CMC | R/W | － | ○ | － | 00H注1 |
| FFFA1H | クロック動作ステータス制御レジスタ | CSC | R/W | ○ | ○ | － | C0H注1 |
| FFFA2H | 発振安定時間カウンタ状態レジスタ | OSTC | R | ○ | ○ | － | 00H |
| FFFA3H | 発振安定時間選択レジスタ | OSTS | R/W | － | ○ | － | 07H |
| FFFA4H | システム・クロック制御レジスタ | CKC | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFFA5H | クロック出力選択レジスタ0 | CKS0 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFFA6H | クロック出力選択レジスタ1 | CKS1 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FFFA8H | リセット・コントロール・フラグ・レジスタ | RESF | R | － | ○ | － | 不定注2 |
| FFFA9H | 電圧検出レジスタ | LVIM | R/W | ○ | ○ | － | 00H注2 |
| FFFAAH | 電圧検出レベル・レジスタ | LVIS | R/W | ○ | ○ | － | 00H/01H/81H注2 |
| FFFABH | ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ | WDTE | R/W | － | ○ | － | 1AH/9AH注3 |
| FFFACH | CRC入力レジスタ | CRCIN | R/W | － | ○ | － | 00H |

注1.　パワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化されます。

2.　リセット要因により，次のように異なります。

| レジスタ ＼ リセット要因 | | RESET入力 | PORによるリセット | 不正命令の実行によるリセット | WDTによるリセット | RAMパリティ・エラーによるリセット | 不正メモリ・アクセスによるリセット | LVDによるリセット |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RESF | TRAP | クリア（0） | | セット（1） | 保持 | | | 保持 |
| | WDTRF | | | 保持 | セット（1） | 保持 | | |
| | RPERF | | | 保持 | | セット（1） | 保持 | |
| | IAWRF | | | 保持 | | | セット（1） | |
| | LVIRF | | | 保持 | | | | セット（1） |
| LVIM | LVISEN | クリア（0） | | | | | | 保持 |
| | LVIOMSK | 保持 | | | | | | |
| | LVIF | | | | | | | |
| LVIS | | クリア(00H/01H/81H) | | | | | | クリア(00H/81H)注4 |

3.　WDTEレジスタのリセット値は，オプション・バイトの設定で決定します。

4.　オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1のとき：LVDリセットは発生しません。

表3－5　SFR一覧（4/5）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| FFFD0H | 割り込み要求フラグ・レジスタ2L | IF2L | IF2 | R/W | ○ | ○ | ○ | 00H |
| FFFD1H | 割り込み要求フラグ・レジスタ2H | IF2H | | R/W | ○ | ○ | | 00H |
| FFFD2H | 割り込み要求フラグ・レジスタ3L | IF3L | IF3 | R/W | ○ | ○ | ○ | 00H |
| FFFD4H | 割り込みマスク・フラグ・レジスタ2L | MK2L | MK2 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFD5H | 割り込みマスク・フラグ・レジスタ2H | MK2H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |
| FFFD6H | 割り込みマスク・フラグ・レジスタ3L | MK3L | MK3 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFD8H | 優先順位指定フラグ・レジスタ02L | PR02L | PR02 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFD9H | 優先順位指定フラグ・レジスタ02H | PR02H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |
| FFFDAH | 優先順位指定フラグ・レジスタ03L | PR03L | PR03 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFDCH | 優先順位指定フラグ・レジスタ12L | PR12L | PR12 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFDDH | 優先順位指定フラグ・レジスタ12H | PR12H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |
| FFFDEH | 優先順位指定フラグ・レジスタ13L | PR13L | PR13 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFE0H | 割り込み要求フラグ・レジスタ0L | IF0L | IF0 | R/W | ○ | ○ | ○ | 00H |
| FFFE1H | 割り込み要求フラグ・レジスタ0H | IF0H | | R/W | ○ | ○ | | 00H |
| FFFE2H | 割り込み要求フラグ・レジスタ1L | IF1L | IF1 | R/W | ○ | ○ | ○ | 00H |
| FFFE3H | 割り込み要求フラグ・レジスタ1H | IF1H | | R/W | ○ | ○ | | 00H |
| FFFE4H | 割り込みマスク・フラグ・レジスタ0L | MK0L | MK0 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFE5H | 割り込みマスク・フラグ・レジスタ0H | MK0H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |
| FFFE6H | 割り込みマスク・フラグ・レジスタ1L | MK1L | MK1 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFE7H | 割り込みマスク・フラグ・レジスタ1H | MK1H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |
| FFFE8H | 優先順位指定フラグ・レジスタ00L | PR00L | PR00 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFE9H | 優先順位指定フラグ・レジスタ00H | PR00H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |

表3－5　SFR一覧（5/5）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| FFFEAH | 優先順位指定フラグ・レジスタ01L | PR01L | PR01 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFEBH | 優先順位指定フラグ・レジスタ01H | PR01H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |
| FFFECH | 優先順位指定フラグ・レジスタ10L | PR10L | PR10 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFEDH | 優先順位指定フラグ・レジスタ10H | PR10H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |
| FFFEEH | 優先順位指定フラグ・レジスタ11L | PR11L | PR11 | R/W | ○ | ○ | ○ | FFH |
| FFFEFH | 優先順位指定フラグ・レジスタ11H | PR11H | | R/W | ○ | ○ | | FFH |
| FFFF0H | 積和演算累計レジスタ（L） | MACRL | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| FFFF1H | | | | | | | | |
| FFFF2H | 積和演算累計レジスタ（H） | MACRH | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| FFFF3H | | | | | | | | |
| FFFFEH | プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ | PMC | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |

備考　拡張SFR（2nd SFR）については，表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧を参照してください。

### 3. 2. 5　拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR：2nd Special Function Register）

拡張SFR（2nd SFR）は，汎用レジスタとは異なり，それぞれ特別な機能を持つレジスタです。

拡張SFR空間は，F0000H-F07FFHの領域です。SFR領域（FFF00H-FFFFFH）以外のSFRが割り付けられています。ただし，拡張SFR領域のアクセス命令はSFR領域より1バイト長くなります。

拡張SFRは，演算命令，転送命令，ビット操作命令などにより，汎用レジスタと同じように操作できます。操作可能なビット単位（1, 8, 16）は，各拡張SFRで異なります。

操作ビット単位ごとの指定方法を次に示します。

・1ビット操作

1ビット操作命令のオペランド（!addr16.bit）には，次のような記述をしてください。

ビット名称が定義されている場合：<ビット名称>

ビット名称が定義されていない場合：<レジスタ名>.<ビット番号>または<アドレス>.<ビット番号>

・8ビット操作

8ビット操作命令のオペランド（!addr16）にアセンブラで定義されている略号を記述します。アドレスでも指定できます。

・16ビット操作

16ビット操作命令のオペランド（!addr16）にアセンブラで定義されている略号を記述します。アドレスを指定するときは偶数アドレスを記述してください。

表3－6に拡張SFRの一覧を示します。表中の項目の意味は次のとおりです。

・略号

拡張SFRのアドレスを示す略号です。アセンブラで予約語に，コンパイラでは#pragma sfr指令で，sfr変数として定義されているものです。アセンブラ，デバッガおよびシミュレータ使用時に命令のオペランドとして記述できます。

・R/W

該当する拡張SFRが読み出し（Read）／書き込み（Write）可能かどうかを示します。

R/W　：読み出し／書き込みがともに可能

R　：読み出しのみ可能

W　：書き込みのみ可能

・操作可能ビット単位

操作可能なビット単位（1, 8, 16）を○で示します。－は操作できないビット単位であることを示します。

・リセット時

リセット信号発生時の各レジスタの状態を示します。

注意　2nd SFRが割り付けられていないアドレスにアクセスしないでください。

備考　SFR領域のSFRについては，3. 2. 4　特殊機能レジスタ（SFR：Special Function Register）を参照してください。

表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧（1/8）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| F0010H | A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 | ADM2 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0011H | 変換結果比較上限値設定レジスタ | ADUL | R/W | － | ○ | － | FFH |
| F0012H | 変換結果比較下限値設定レジスタ | ADLL | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0013H | A/Dテスト・レジスタ | ADTES | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0030H | プルアップ抵抗オプション・レジスタ0 | PU0 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0031H | プルアップ抵抗オプション・レジスタ1 | PU1 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0033H | プルアップ抵抗オプション・レジスタ3 | PU3 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0034H | プルアップ抵抗オプション・レジスタ4 | PU4 | R/W | ○ | ○ | － | 01H |
| F0035H | プルアップ抵抗オプション・レジスタ5 | PU5 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0037H | プルアップ抵抗オプション・レジスタ7 | PU7 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0038H | プルアップ抵抗オプション・レジスタ8 | PU8 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F003CH | プルアップ抵抗オプション・レジスタ12 | PU12 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0040H | ポート入力モード・レジスタ0 | PIM0 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0041H | ポート入力モード・レジスタ1 | PIM1 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0048H | ポート入力モード・レジスタ8 | PIM8 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0050H | ポート出力モード・レジスタ0 | POM0 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0051H | ポート出力モード・レジスタ1 | POM1 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0058H | ポート出力モード・レジスタ8 | POM8 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0070H | ノイズ・フィルタ許可レジスタ0 | NFEN0 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0071H | ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 | NFEN1 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0073H | 入力切り替え制御レジスタ | ISC | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0074H | タイマ入力選択レジスタ0 | TIS0 | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0076H | A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ | ADPC | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0077H | 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ | PIOR | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0078H | 不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ | IAWCTL | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F007AH | 周辺イネーブル・レジスタ1 | PER1 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F007BH | ポートモード選択レジスタ | PMS | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F007DH | グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ | GDIDIS | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0098H | 周辺クロック制御レジスタ | PCKC | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F00A8H | 高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ | HOCODIV | R/W | － | ○ | － | 不定注1 |
| F00F0H | 周辺イネーブル・レジスタ0 | PER0 | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F00F3H | サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ | OSMC | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F00F5H | RAMパリティ・エラー制御レジスタ | RPECTL | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F00F9H | パワーオン・リセット・ステータス・レジスタ | PORSR | R/W | － | ○ | － | 00H注2 |
| F00FEH | BCD補正結果レジスタ | BCDADJ | R | － | ○ | － | 不定 |

注1.　HOCODIVレジスタのリセット値は，オプション・バイト（000C2H）の設定により変化します。

2.　パワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化されます。

表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧（2/8）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| F0100H | シリアル・ステータス・レジスタ00 | SSR00L | SSR00 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0101H | | － | | | － | － | | |
| F0102H | シリアル・ステータス・レジスタ01 | SSR01L | SSR01 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0103H | | － | | | － | － | | |
| F0104H | シリアル・ステータス・レジスタ02 | SSR02L | SSR02 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0105H | | － | | | － | － | | |
| F0106H | シリアル・ステータス・レジスタ03 | SSR03L | SSR03 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0107H | | － | | | － | － | | |
| F0108H | シリアル・フラグ・クリア・トリガ・ | SIR00L | SIR00 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0109H | レジスタ00 | － | | | － | － | | |
| F010AH | シリアル・フラグ・クリア・トリガ・ | SIR01L | SIR01 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F010BH | レジスタ01 | － | | | － | － | | |
| F010CH | シリアル・フラグ・クリア・トリガ・ | SIR02L | SIR02 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F010DH | レジスタ02 | － | | | － | － | | |
| F010EH | シリアル・フラグ・クリア・トリガ・ | SIR03L | SIR03 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F010FH | レジスタ03 | － | | | － | － | | |
| F0110H | シリアル・モード・レジスタ00 | SMR00 | | R/W | － | － | ○ | 0020H |
| F0111H | | | | | | | | |
| F0112H | シリアル・モード・レジスタ01 | SMR01 | | R/W | － | － | ○ | 0020H |
| F0113H | | | | | | | | |
| F0114H | シリアル・モード・レジスタ02 | SMR02 | | R/W | － | － | ○ | 0020H |
| F0115H | | | | | | | | |
| F0116H | シリアル・モード・レジスタ03 | SMR03 | | R/W | － | － | ○ | 0020H |
| F0117H | | | | | | | | |
| F0118H | シリアル通信動作設定レジスタ00 | SCR00 | | R/W | － | － | ○ | 0087H |
| F0119H | | | | | | | | |
| F011AH | シリアル通信動作設定レジスタ01 | SCR01 | | R/W | － | － | ○ | 0087H |
| F011BH | | | | | | | | |
| F011CH | シリアル通信動作設定レジスタ02 | SCR02 | | R/W | － | － | ○ | 0087H |
| F011DH | | | | | | | | |
| F011EH | シリアル通信動作設定レジスタ03 | SCR03 | | R/W | － | － | ○ | 0087H |
| F011FH | | | | | | | | |
| F0120H | シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタ0 | SE0L | SE0 | R | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F0121H | | － | | | － | － | | |
| F0122H | シリアル・チャネル開始レジスタ0 | SS0L | SS0 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F0123H | | － | | | － | － | | |
| F0124H | シリアル・チャネル停止レジスタ0 | ST0L | ST0 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F0125H | | － | | | － | － | | |
| F0126H | シリアル・クロック選択レジスタ0 | SPS0L | SPS0 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0127H | | － | | | － | － | | |

表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧（3/8）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| F0128H | シリアル出力レジスタ0 | SO0 | | R/W | － | － | ○ | 0F0FH |
| F0129H | | | | | | | | |
| F012AH | シリアル出力許可レジスタ0 | SOE0L | SOE0 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F012BH | | － | | | － | － | | |
| F0134H | シリアル出力レベル・レジスタ0 | SOL0L | SOL0 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0135H | | － | | | － | － | | |
| F0138H | シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0 | SSC0L | SSC0 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0139H | | － | | | － | － | | |
| F0140H | シリアル・ステータス・レジスタ10 | SSR10L | SSR10 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0141H | | － | | | － | － | | |
| F0142H | シリアル・ステータス・レジスタ11 | SSR11L | SSR11 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0143H | | － | | | － | － | | |
| F0148H | シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタ10 | SIR10L | SIR10 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0149H | | － | | | － | － | | |
| F014AH | シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタ11 | SIR11L | SIR11 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F014BH | | － | | | － | － | | |
| F0150H | シリアル・モード・レジスタ10 | SMR10 | | R/W | － | － | ○ | 0020H |
| F0151H | | | | | | | | |
| F0152H | シリアル・モード・レジスタ11 | SMR11 | | R/W | － | － | ○ | 0020H |
| F0153H | | | | | | | | |
| F0158H | シリアル通信動作設定レジスタ10 | SCR10 | | R/W | － | － | ○ | 0087H |
| F0159H | | | | | | | | |
| F015AH | シリアル通信動作設定レジスタ11 | SCR11 | | R/W | － | － | ○ | 0087H |
| F015BH | | | | | | | | |
| F0160H | シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタ1 | SE1L | SE1 | R | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F0161H | | － | | | － | － | | |
| F0162H | シリアル・チャネル開始レジスタ1 | SS1L | SS1 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F0163H | | － | | | － | － | | |
| F0164H | シリアル・チャネル停止レジスタ1 | ST1L | ST1 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F0165H | | － | | | － | － | | |
| F0166H | シリアル・クロック選択レジスタ1 | SPS1L | SPS1 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0167H | | － | | | － | － | | |
| F0168H | シリアル出力レジスタ1 | SO1 | | R/W | － | － | ○ | 0303H |
| F0169H | | | | | | | | |
| F016AH | シリアル出力許可レジスタ1 | SOE1L | SOE1 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F016BH | | － | | | － | － | | |
| F0174H | シリアル出力レベル・レジスタ1 | SOL1L | SOL1 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F0175H | | － | | | － | － | | |

表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧（4/8）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| F0180H | タイマ・カウンタ・レジスタ00 | TCR00 | | R | － | － | ○ | FFFFH |
| F0181H | | | | | | | | |
| F0182H | タイマ・カウンタ・レジスタ01 | TCR01 | | R | － | － | ○ | FFFFH |
| F0183H | | | | | | | | |
| F0184H | タイマ・カウンタ・レジスタ02 | TCR02 | | R | － | － | ○ | FFFFH |
| F0185H | | | | | | | | |
| F0186H | タイマ・カウンタ・レジスタ03 | TCR03 | | R | － | － | ○ | FFFFH |
| F0187H | | | | | | | | |
| F0188H | タイマ・カウンタ・レジスタ04 | TCR04 | | R | － | － | ○ | FFFFH |
| F0189H | | | | | | | | |
| F018AH | タイマ・カウンタ・レジスタ05 | TCR05 | | R | － | － | ○ | FFFFH |
| F018BH | | | | | | | | |
| F018CH | タイマ・カウンタ・レジスタ06 | TCR06 | | R | － | － | ○ | FFFFH |
| F018DH | | | | | | | | |
| F018EH | タイマ・カウンタ・レジスタ07 | TCR07 | | R | － | － | ○ | FFFFH |
| F018FH | | | | | | | | |
| F0190H | タイマ・モード・レジスタ00 | TMR00 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F0191H | | | | | | | | |
| F0192H | タイマ・モード・レジスタ01 | TMR01 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F0193H | | | | | | | | |
| F0194H | タイマ・モード・レジスタ02 | TMR02 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F0195H | | | | | | | | |
| F0196H | タイマ・モード・レジスタ03 | TMR03 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F0197H | | | | | | | | |
| F0198H | タイマ・モード・レジスタ04 | TMR04 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F0199H | | | | | | | | |
| F019AH | タイマ・モード・レジスタ05 | TMR05 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F019BH | | | | | | | | |
| F019CH | タイマ・モード・レジスタ06 | TMR06 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F019DH | | | | | | | | |
| F019EH | タイマ・モード・レジスタ07 | TMR07 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F019FH | | | | | | | | |
| F01A0H | タイマ・ステータス・レジスタ00 | TSR00L | TSR00 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01A1H | | － | | | － | － | | |
| F01A2H | タイマ・ステータス・レジスタ01 | TSR01L | TSR01 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01A3H | | － | | | － | － | | |
| F01A4H | タイマ・ステータス・レジスタ02 | TSR02L | TSR02 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01A5H | | － | | | － | － | | |

表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧（5/8）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| F01A6H | タイマ・ステータス・レジスタ03 | TSR03L | TSR03 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01A7H | | － | | | － | － | | |
| F01A8H | タイマ・ステータス・レジスタ04 | TSR04L | TSR04 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01A9H | | － | | | － | － | | |
| F01AAH | タイマ・ステータス・レジスタ05 | TSR05L | TSR05 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01ABH | | － | | | － | － | | |
| F01ACH | タイマ・ステータス・レジスタ06 | TSR06L | TSR06 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01ADH | | － | | | － | － | | |
| F01AEH | タイマ・ステータス・レジスタ07 | TSR07L | TSR07 | R | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01AFH | | － | | | － | － | | |
| F01B0H | タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタ0 | TE0L | TE0 | R | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F01B1H | | － | | | － | － | | |
| F01B2H | タイマ・チャネル開始レジスタ0 | TS0L | TS0 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F01B3H | | － | | | － | － | | |
| F01B4H | タイマ・チャネル停止レジスタ0 | TT0L | TT0 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F01B5H | | － | | | － | － | | |
| F01B6H | タイマ・クロック選択レジスタ0 | TPS0 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F01B7H | | | | | | | | |
| F01B8H | タイマ出力レジスタ0 | TO0L | TO0 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01B9H | | － | | | － | － | | |
| F01BAH | タイマ出力許可レジスタ0 | TOE0L | TOE0 | R/W | ○ | ○ | ○ | 0000H |
| F01BBH | | － | | | － | － | | |
| F01BCH | タイマ出力レベル・レジスタ0 | TOL0L | TOL0 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01BDH | | － | | | － | － | | |
| F01BEH | タイマ出力モード・レジスタ0 | TOM0L | TOM0 | R/W | － | ○ | ○ | 0000H |
| F01BFH | | － | | | － | － | | |
| F0230H | IICAコントロール・レジスタ00 | IICCTL00 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0231H | IICAコントロール・レジスタ01 | IICCTL01 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0232H | IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0 | IICWL0 | | R/W | － | ○ | － | FFH |
| F0233H | IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0 | IICWH0 | | R/W | － | ○ | － | FFH |
| F0234H | スレーブ・アドレス・レジスタ0 | SVA0 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F02D0H | 発振停止検出制御レジスタ | OSDC | | R/W | － | － | ○ | 0FFFH |
| F02D8H | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正制御レジスタ | HOCOFC | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F02E0H | DTCベース・アドレス・レジスタ | DTCBAR | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F02E8H | DTC許可レジスタ0 | DTCEN0 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F02E9H | DTC許可レジスタ1 | DTCEN1 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F02EAH | DTC許可レジスタ2 | DTCEN2 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F02EBH | DTC許可レジスタ3 | DTCEN3 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |

表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧（6/8）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| F02F0H | フラッシュ・メモリCRC制御レジスタ | CRC0CTL | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F02F2H | フラッシュ・メモリCRC演算結果レジスタ | PGCRCL | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F02FAH | CRCデータ・レジスタ | CRCD | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F0300H | LCDポート・ファンクション・レジスタ0 | PFSEG0 | | R/W | ○ | ○ | － | F0H |
| F0301H | LCDポート・ファンクション・レジスタ1 | PFSEG1 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| F0302H | LCDポート・ファンクション・レジスタ2 | PFSEG2 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| F0303H | LCDポート・ファンクション・レジスタ3 | PFSEG3 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| F0304H | LCDポート・ファンクション・レジスタ4 | PFSEG4 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| F0305H | LCDポート・ファンクション・レジスタ5 | PFSEG5 | | R/W | ○ | ○ | － | FFH |
| F0308H | LCD入力切り替え制御レジスタ | ISCLCD | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0310H | 時計誤差補正レジスタ | SUBCUD | | R/W | － | － | ○ | 0020H注 |
| F0312H | 周波数測定カウント・レジスタL | FMCRL | | R | － | － | ○ | 0000H |
| F0314H | 周波数測定カウント・レジスタH | FMCRH | | R | － | － | ○ | 0000H |
| F0316H | 周波数測定コントロール・レジスタ | FMCTL | | R/W | ○ | － | － | 00H |
| F0330H | バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ0 | BUPCTL0 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FF340H | コンパレータ・モード設定レジスタ | COMPMDR | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FF341H | コンパレータ・フィルタ制御レジスタ | COMPFIR | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| FF342H | コンパレータ出力制御レジスタ | COMPOCR | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0350H | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ00 | TRTCMP00 | TRTCMP0 | R/W | － | ○ | ○ | FFH |
| F0351H | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ01 | TRTCMP01 | | R/W | － | ○ | | FFH |
| F0352H | 8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタ0 | TRTCR0 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F0353H | 8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタ0 | TRTMD0 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0358H | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ10 | TRTCMP10 | TRTCMP1 | R/W | － | ○ | ○ | FFH |
| F0359H | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ11 | TRTCMP11 | | R/W | － | ○ | | FFH |
| F035AH | 8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタ1 | TRTCR1 | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F035BH | 8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタ1 | TRTMD1 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F03A0H | IrDAコントロール・レジスタ | IRCR | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |
| F03B0H | 温度センサ・コントロール・テスト・レジスタ | TMPCTL | | R/W | ○ | ○ | － | 00H |

注　パワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化されます。

表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧（7/8）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| F03C0H | ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ | DSADMR | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F03C2H | ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ0 | DSADGCR0 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F03C3H | ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ1 | DSADGCR1 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F03C5H | ΔΣA/DコンバータHPFコントロール・レジスタ | DSADHPFCR | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F03C6H | ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ0 | DSADPHCR0 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F03C8H | ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ1 | DSADPHCR1 | | R/W | － | － | ○ | 0000H |
| F03D0H | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ0L | DSADCR0L | DSADCR0 | R | － | ○ | ○ | 00H |
| F03D1H | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ0M | DSADCR0M | | R | － | ○ | | 00H |
| F03D2H | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ0H | DSADCR0H | | R | － | ○ | － | 00H |
| F03D4H | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ1L | DSADCR1L | DSADCR1 | R | － | ○ | ○ | 00H |
| F03D5H | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ1M | DSADCR1M | | R | － | ○ | | 00H |
| F03D6H | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ1H | DSADCR1H | | R | － | ○ | － | 00H |
| F03D8H | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ2L | DSADCR2L | DSADCR2 | R | － | ○ | ○ | 00H |
| F03D9H | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ2M | DSADCR2M | | R | － | ○ | | 00H |
| F03DAH | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ2H | DSADCR2H | | R | － | ○ | － | 00H |
| F03DCH | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ3L | DSADCR3L | DSADCR3 | R | － | ○ | ○ | 00H |
| F03DDH | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ3M | DSADCR3M | | R | － | ○ | | 00H |
| F03DEH | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ3H | DSADCR3H | | R | － | ○ | － | 00H |
| F0400H | LCD表示データ・メモリ0 | SEG0 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0401H | LCD表示データ・メモリ1 | SEG1 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0402H | LCD表示データ・メモリ2 | SEG2 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0403H | LCD表示データ・メモリ3 | SEG3 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0404H | LCD表示データ・メモリ4 | SEG4 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0405H | LCD表示データ・メモリ5 | SEG5 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0406H | LCD表示データ・メモリ6 | SEG6 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0407H | LCD表示データ・メモリ7 | SEG7 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0408H | LCD表示データ・メモリ8 | SEG8 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0409H | LCD表示データ・メモリ9 | SEG9 | | R/W | － | ○ | － | 00H |

表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧（8/8）

| アドレス | 特殊機能レジスタ（SFR）名称 | 略　号 | | R/W | 操作可能ビット範囲 | | | リセット時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1ビット | 8ビット | 16ビット | |
| F040AH | LCD表示データ・メモリ10 | SEG10 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F040BH | LCD表示データ・メモリ11 | SEG11 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F040CH | LCD表示データ・メモリ12 | SEG12 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F040DH | LCD表示データ・メモリ13 | SEG13 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F040EH | LCD表示データ・メモリ14 | SEG14 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F040FH | LCD表示データ・メモリ15 | SEG15 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0410H | LCD表示データ・メモリ16 | SEG16 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0411H | LCD表示データ・メモリ17 | SEG17 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0412H | LCD表示データ・メモリ18 | SEG18 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0413H | LCD表示データ・メモリ19 | SEG19 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0414H | LCD表示データ・メモリ20 | SEG20 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0415H | LCD表示データ・メモリ21 | SEG21 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0416H | LCD表示データ・メモリ22 | SEG22 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0417H | LCD表示データ・メモリ23 | SEG23 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0418H | LCD表示データ・メモリ24 | SEG24 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0419H | LCD表示データ・メモリ25 | SEG25 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F041AH | LCD表示データ・メモリ26 | SEG26 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F041BH | LCD表示データ・メモリ27 | SEG27 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F041CH | LCD表示データ・メモリ28 | SEG28 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F041DH | LCD表示データ・メモリ29 | SEG29 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F041EH | LCD表示データ・メモリ30 | SEG30 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F041FH | LCD表示データ・メモリ31 | SEG31 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0420H | LCD表示データ・メモリ32 | SEG32 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0421H | LCD表示データ・メモリ33 | SEG33 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0422H | LCD表示データ・メモリ34 | SEG34 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0423H | LCD表示データ・メモリ35 | SEG35 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0424H | LCD表示データ・メモリ36 | SEG36 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0425H | LCD表示データ・メモリ37 | SEG37 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0426H | LCD表示データ・メモリ38 | SEG38 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0427H | LCD表示データ・メモリ39 | SEG39 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0428H | LCD表示データ・メモリ40 | SEG40 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0429H | LCD表示データ・メモリ41 | SEG41 | | R/W | － | ○ | － | 00H |
| F0540H | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ00 | TRT00 | TRT0 | R | － | ○ | ○ | 00H |
| F0541H | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ01 | TRT01 | | R | － | ○ | | 00H |
| F0548H | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ10 | TRT10 | TRT1 | R | － | ○ | ○ | 00H |
| F0549H | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ1 | TRT11 | | R | － | ○ | | 00H |

備考　SFR領域のSFRについては，表3－5　SFR一覧を参照してください。

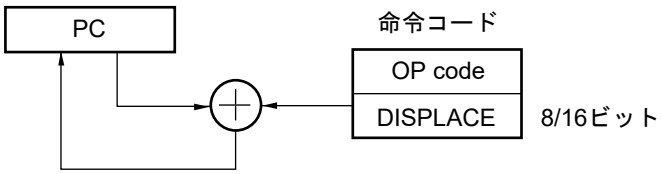
# 3. 3　命令アドレスのアドレッシング

## 3. 3. 1　レラティブ・アドレッシング

【機　　能】

プログラム・カウンタ（PC）の値（次に続く命令の先頭アドレス）に対し，命令語に含まれるディスプレースメント値（符号付きの補数データ：－128～＋127または－32768～＋32767）を加算した結果を，プログラム・カウンタ（PC）に格納し分岐先プログラム・アドレスを指定するアドレッシングです。レラティブ・アドレッシングは分岐命令のみに適用されます。

図3－11　レラティブ・アドレッシングの概略




## 3. 3. 2　イミーディエト・アドレッシング

【機　　能】

命令語中のイミーディエト・データをプログラム・カウンタに格納し，分岐先プログラム・アドレスを指定するアドレッシングです。

イミーディエト・アドレッシングには20ビットのアドレスを指定するCALL !!addr20 / BR !!addr20と，16ビットのアドレスを指定するCALL !addr16 / BR !addr16があります。16ビット・アドレスを指定する場合は上位4ビットには0000が入ります。

図3－12　CALL !!addr20/BR !!addr20の例

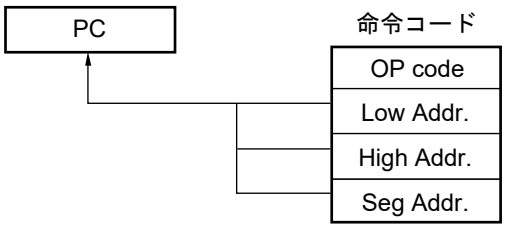
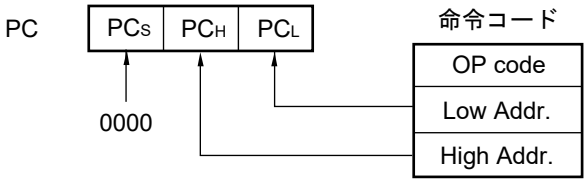



図3－13　CALL !addr16/BR !addr16の例



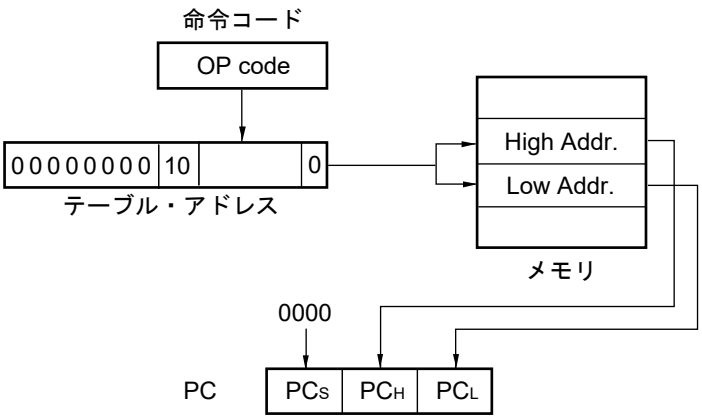
### 3. 3. 3　テーブル・インダイレクト・アドレッシング

【機　　能】

命令語中の5ビット・イミーディエト・データによりCALLTテーブル領域（0080H-00BFH）内のテーブル・アドレスを指定し，その内容とそれに続くアドレスの内容を16ビット・データとしてプログラム・カウンタ（PC）に格納し，プログラム・アドレスを指定するアドレッシングです。テーブル・インダイレクト・アドレッシングはCALLT命令にのみ適用されます。

RL78マイクロコントローラでは，00000H-0FFFFHの64 Kバイト空間のみ分岐可能です。

図3－14　テーブル・インダイレクト・アドレッシングの概略

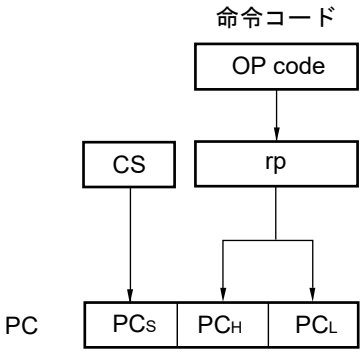



### 3. 3. 4　レジスタ・ダイレクト・アドレッシング

【機　　能】

命令語で指定されるカレント・レジスタ・バンク内の汎用レジスタ・ペア（AX/BC/DE/HL）とCSレジスタの内容を20ビット・データとしてプログラム・カウンタ（PC）に格納し，プログラム・アドレスを指定するアドレッシングです。レジスタ・ダイレクト・アドレッシングはCALL AX / BC / DE / HLとBR AX命令にのみ適用されます。

図3－15　レジスタ・ダイレクト・アドレッシングの概略



## 3.4　処理データ・アドレスに対するアドレッシング

### 3.4.1　インプライド・アドレッシング

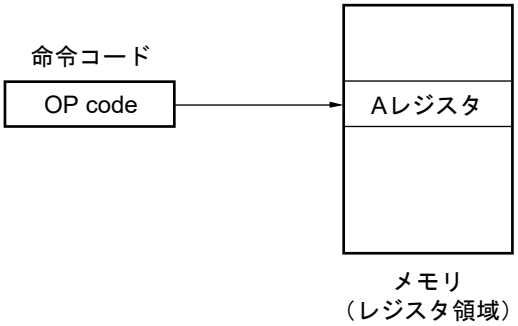
【機　　能】

アキュムレータなどの特別な機能を与えられたレジスタをアクセスする命令は，命令語中にはレジスタ指定フィールドを持たず命令語で直接指定します。

【オペランド形式】

インプライド・アドレッシングはMULU Xのみに適用されます。

図3－16　インプライド・アドレッシングの概略




### 3.4.2　レジスタ・アドレッシング

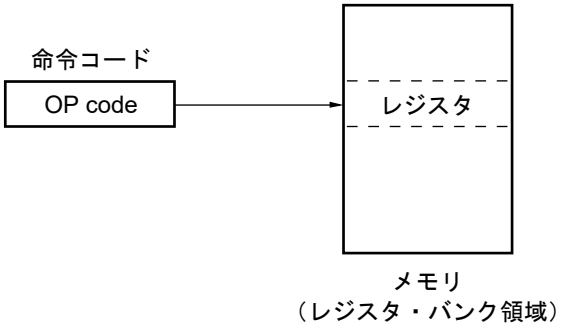
【機　　能】

汎用レジスタをオペランドとしてアクセスするアドレッシングです。8ビット・レジスタを指定する場合は命令語の3ビット，16ビット・レジスタを指定する場合は命令語の2ビットによりレジスタが選択されます。

【オペランド形式】

| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| r | X，A，C，B，E，D，L，H |
| rp | AX，BC，DE，HL |

図3－17　レジスタ・アドレッシングの概略



### 3. 4. 3　ダイレクト・アドレッシング

【機　　能】

命令語中のイミーディエト・データがオペランド・アドレスとなり，対象となるアドレスを直接指定するアドレッシングです。

【オペランド形式】

| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| !addr16 | ラベルまたは16ビット・イミーディエト・データ<br>（F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能） |
| ES:!addr16 | ラベルまたは16ビット・イミーディエト・データ<br>（ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定） |

図3－18　!addr16の例

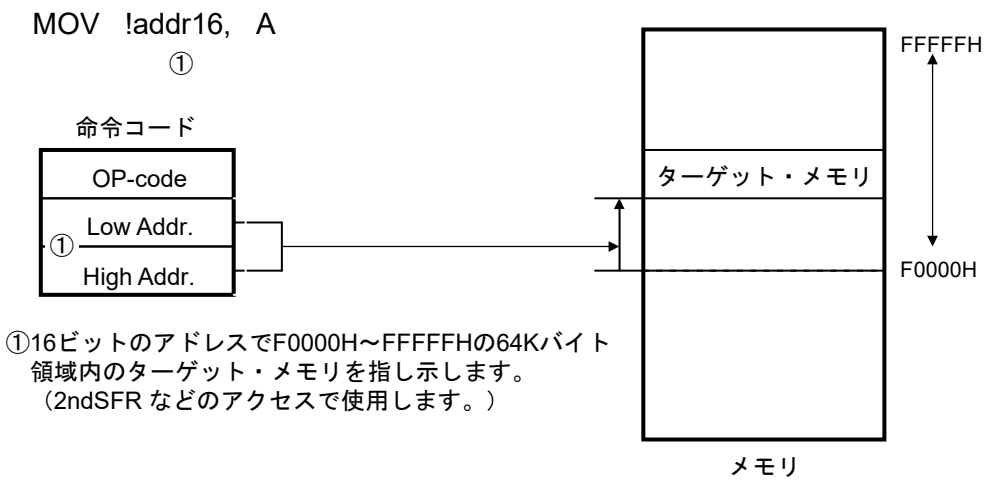
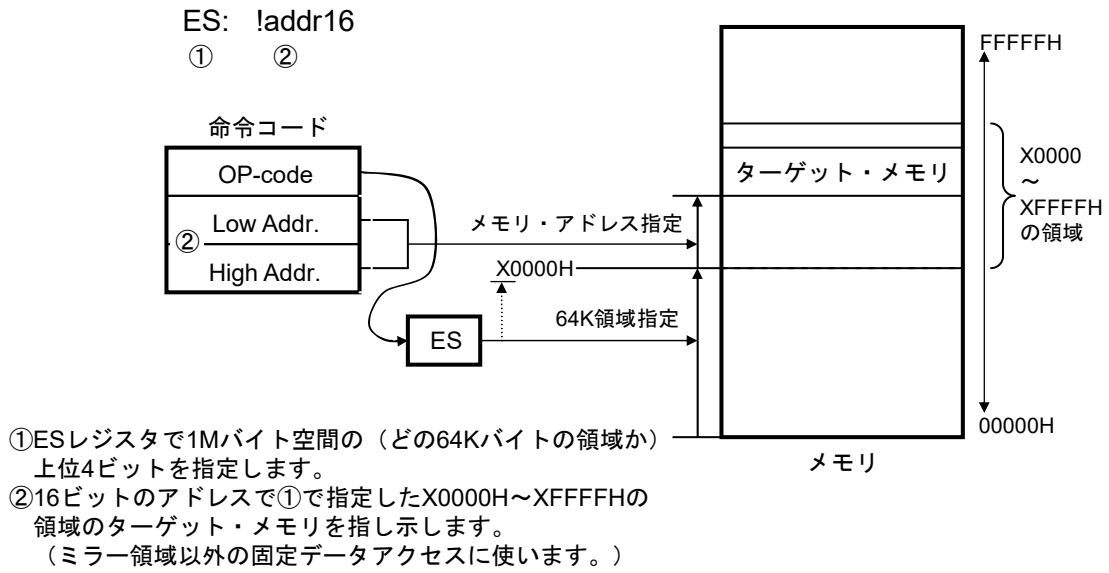



図3－19　ES:!addr16の例



### 3. 4. 4　ショート・ダイレクト・アドレッシング

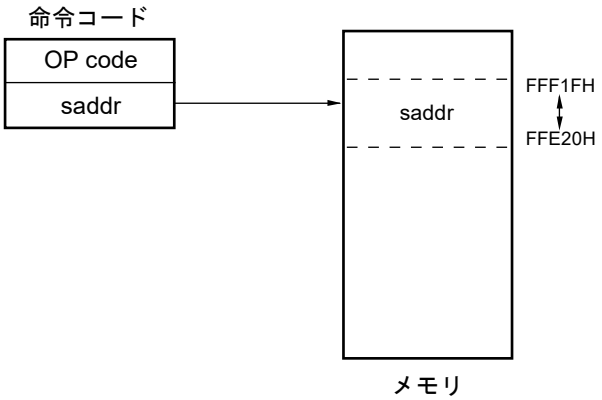
【機　　能】

命令語中の8ビット・データで対象となるアドレスを直接指定するアドレッシングです。このアドレッシングが適用されるのはFFE20H-FFF1FHの空間に限られます。

【オペランド形式】

| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| SADDR | ラベルまたはFFE20H-FFF1FHのイミーディエト・データまたは0FE20H-0FF1FHのイミーディエト・データ<br>（FFE20H-FFF1FH空間のみ指定可能） |
| SADDRP | ラベルまたはFFE20H-FFF1FHのイミーディエト・データまたは0FE20H-0FF1FHのイミーディエト・データ（偶数アドレスのみ）<br>（FFE20H-FFF1FH空間のみ指定可能） |

図3－20　ショート・ダイレクト・アドレッシングの概略




備考　SADDR, SADDRPは，（実アドレスの上位4ビット・アドレスを省略した）16ビットのイミーディエト・データでFE20H-FF1FHの値を記述することができます。また，20ビットのイミーディエト・データでFFE20H-FFF1FHの値を記述することもできます。
ただし，どちらの形式で書いても，メモリはFFE20H-FFF1FH空間のアドレスが指定されます。

### 3. 4. 5　SFRアドレッシング

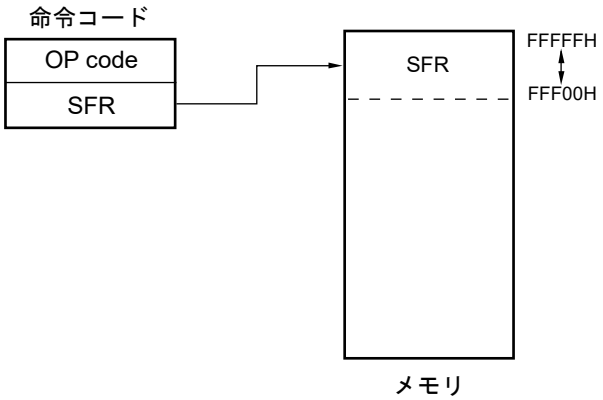
【機　　能】

命令語中の8ビット・データで対象となるSFRアドレスを直接指定するアドレッシングです。このアドレッシングが適用されるのはFFF00H-FFFFFHの空間に限られます。

【オペランド形式】

| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| SFR | SFRレジスタ名 |
| SFRP | 16ビット操作可能なSFRレジスタ名（偶数アドレス） |

図3－21　SFRアドレッシングの概略



### 3.4.6　レジスタ・インダイレクト・アドレッシング

【機　　能】

命令語で指定されたレジスタ・ペアの内容がオペランド・アドレスになり，対象となるアドレスを指定するアドレッシングです。

【オペランド形式】

| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| － | [DE]，[HL]<br>（F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能） |
| － | ES:[DE]，ES:[HL]<br>（ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定） |

図3－22　[DE]，[HL]の例

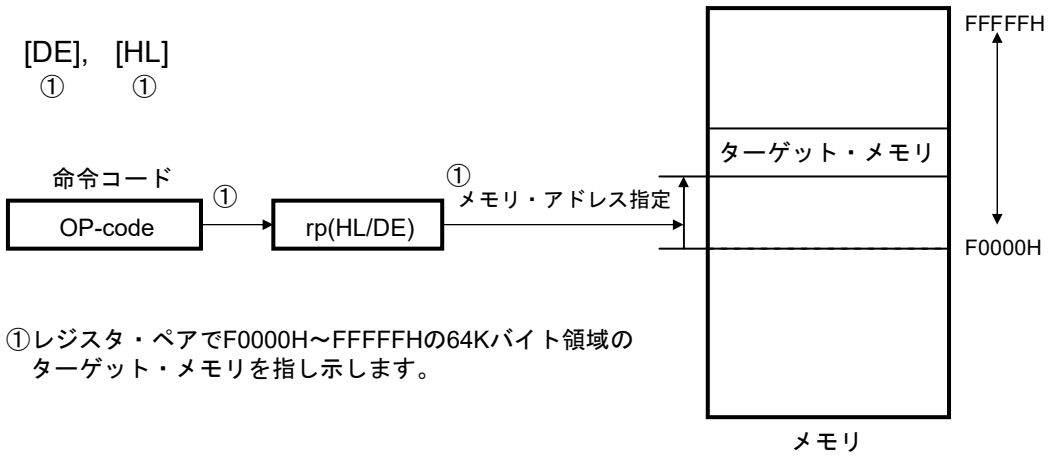
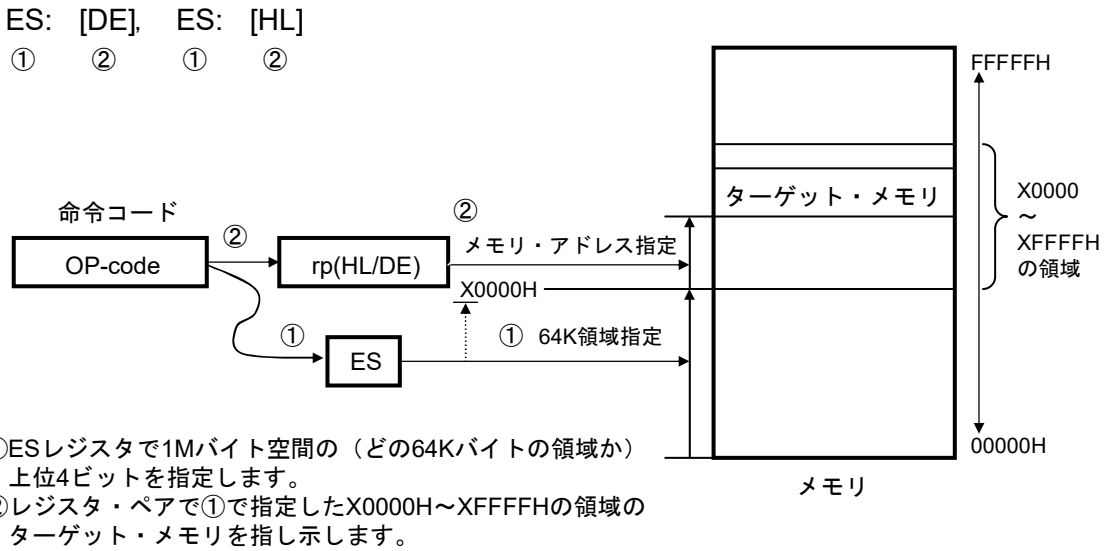



図3－23　ES:[DE]，ES:[HL]の例



### 3. 4. 7　ベースト・アドレッシング

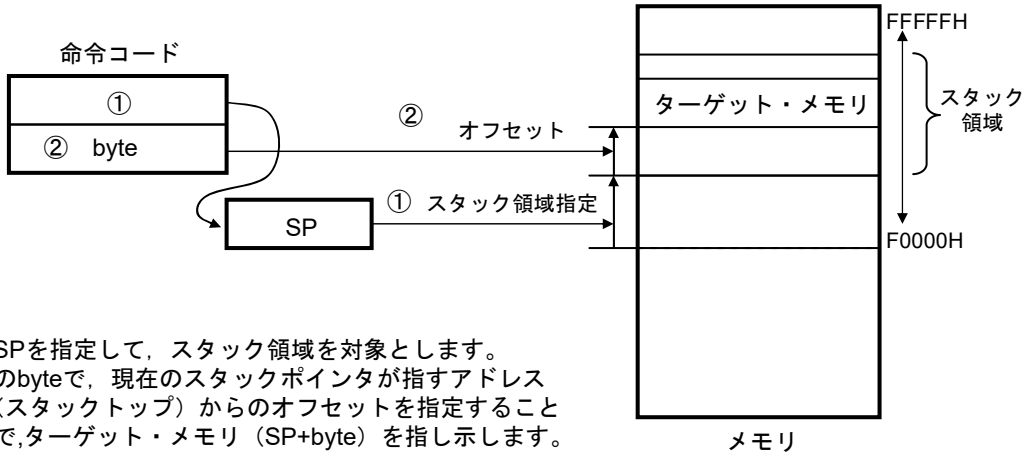
【機　　能】

命令語で指定されるレジスタ・ペアの内容または16ビットのイミーディエト・データをベース・アドレスとし，8ビット・イミーディエト・データまたは16ビット・イミーディエト・データをオフセット・データとしてベース・アドレスに加算した結果で，対象となるアドレスを指定するアドレッシングです。

【オペランド形式】

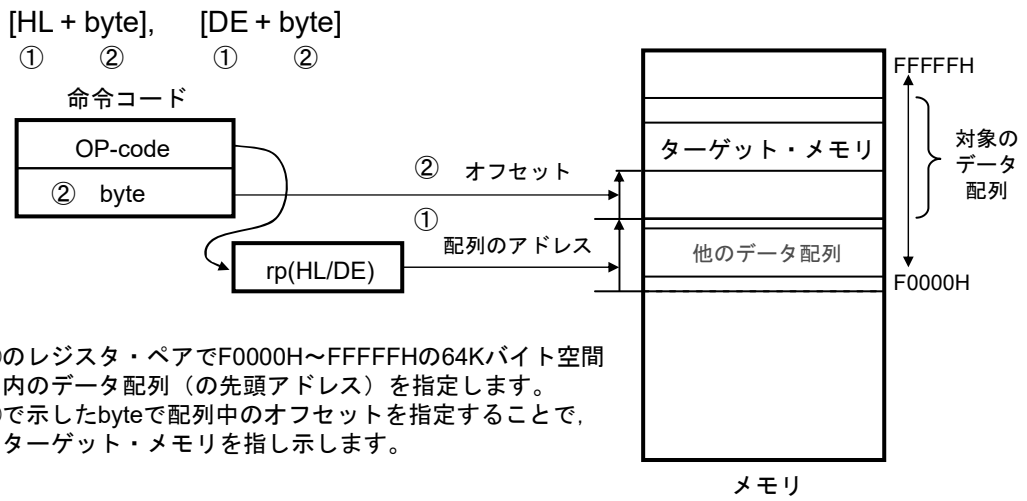
| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| － | [HL＋byte]，[DE + byte]，[SP + byte]<br>（F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能） |
| － | word[B]，word[C]<br>（F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能） |
| － | word[BC]<br>（F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能） |
| － | ES:[HL＋byte]，ES:[DE + byte]<br>（ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定） |
| － | ES:word[B]，ES:word[C]<br>（ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定） |
| － | ES:word[BC]<br>（ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定） |

図3－24　[SP+byte]の例



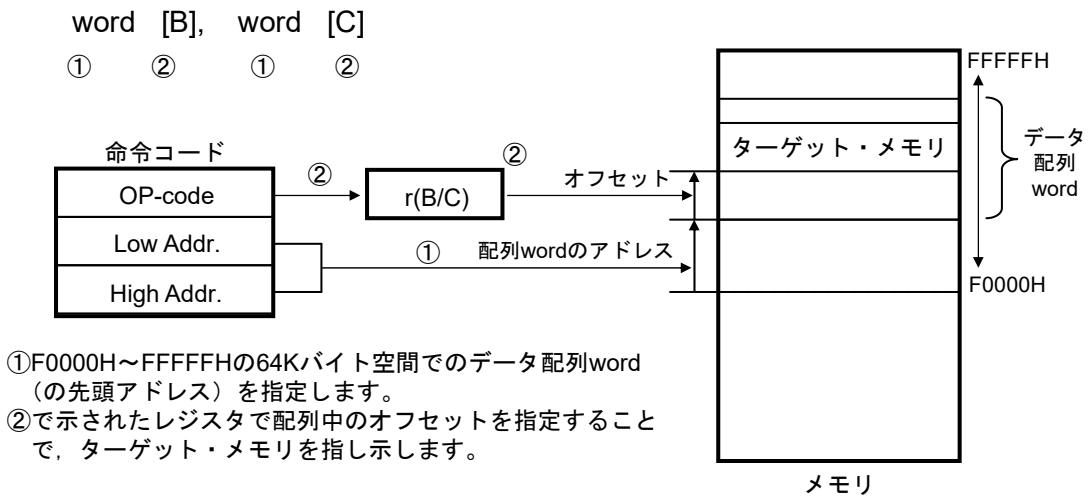

①SPを指定して，スタック領域を対象とします。
②のbyteで，現在のスタックポインタが指すアドレス（スタックトップ）からのオフセットを指定することで,ターゲット・メモリ（SP+byte）を指し示します。

図3－25　[HL+byte]，[DE+byte]の例



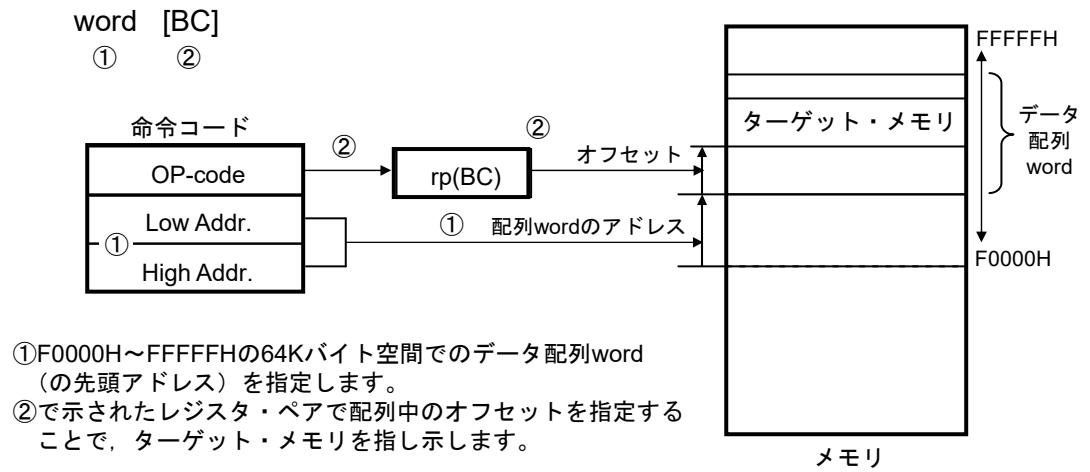

①のレジスタ・ペアでF0000H～FFFFFHの64Kバイト空間内のデータ配列（の先頭アドレス）を指定します。
②で示したbyteで配列中のオフセットを指定することで，ターゲット・メモリを指し示します。

図3－26　word[B]，word[C]の例




①F0000H～FFFFFHの64Kバイト空間でのデータ配列word（の先頭アドレス）を指定します。
②で示されたレジスタで配列中のオフセットを指定することで，ターゲット・メモリを指し示します。

図3－27　word[BC]の例




①F0000H～FFFFFHの64Kバイト空間でのデータ配列word（の先頭アドレス）を指定します。
②で示されたレジスタ・ペアで配列中のオフセットを指定することで，ターゲット・メモリを指し示します。

図3－28　ES:[HL+byte]，ES:[DE+byte]の例

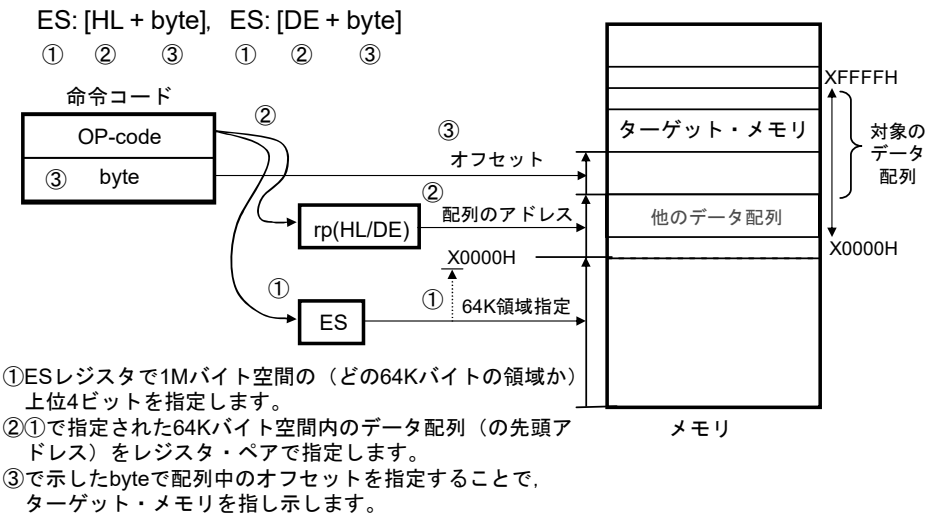



図3－29　ES:word[B]，ES:word[C]の例

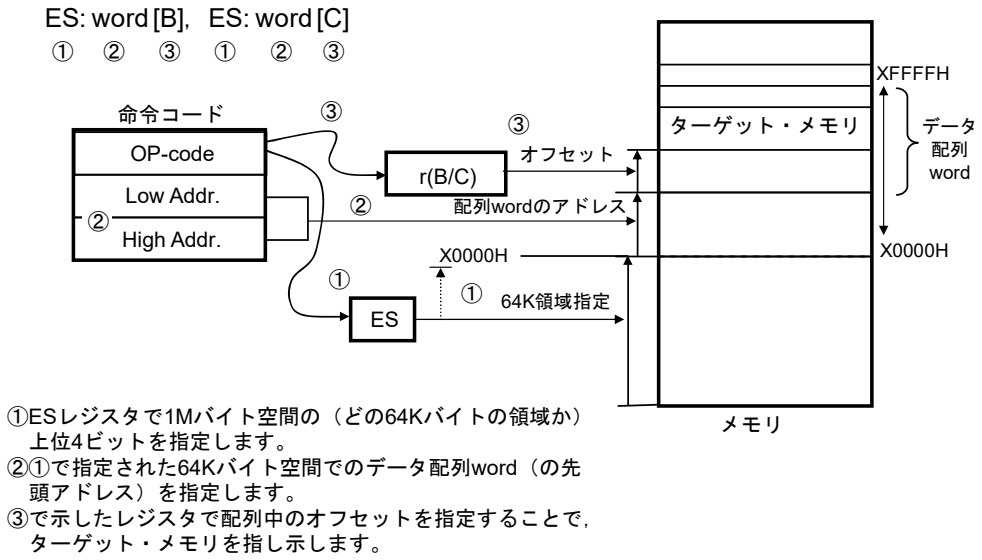
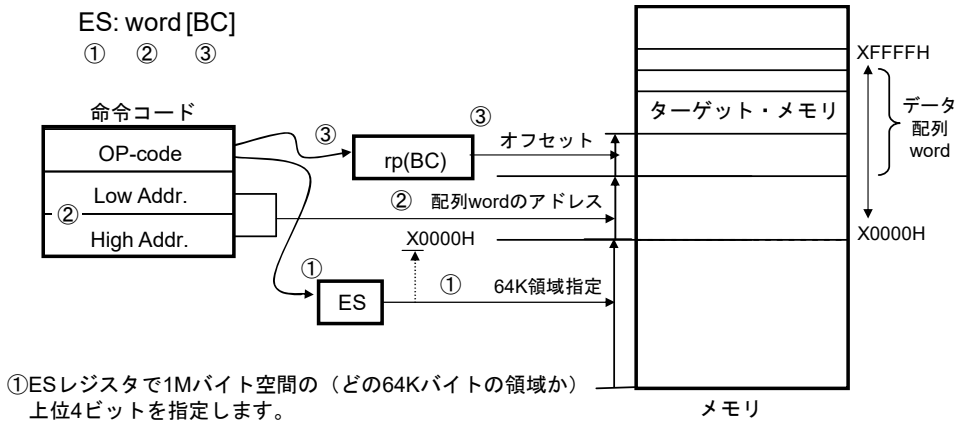



図3－30　ES:word[BC]の例



### 3. 4. 8　ベースト・インデクスト・アドレッシング

【機　　能】

命令語で指定されるレジスタ・ペアの内容をベース・アドレスとし，同様に命令語で指定されるBレジスタまたはCレジスタの内容をオフセット・アドレスとしてベース・アドレスに加算した結果で，対象となるアドレスを指定するアドレッシングです。

【オペランド形式】

| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| － | [HL＋B]，[HL＋C]<br>（F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能） |
| － | ES:[HL＋B]，ES:[HL＋C]<br>（ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定） |

図3－31　[HL+B]，[HL+C]の例

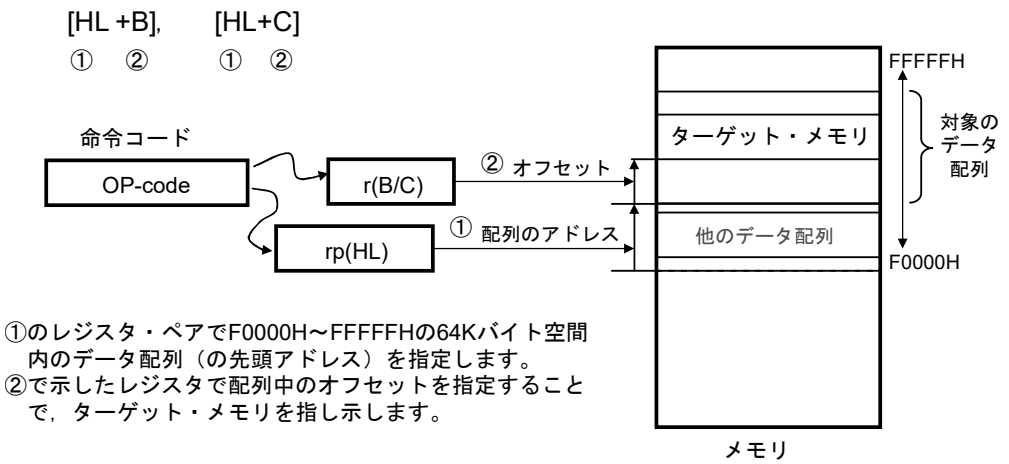
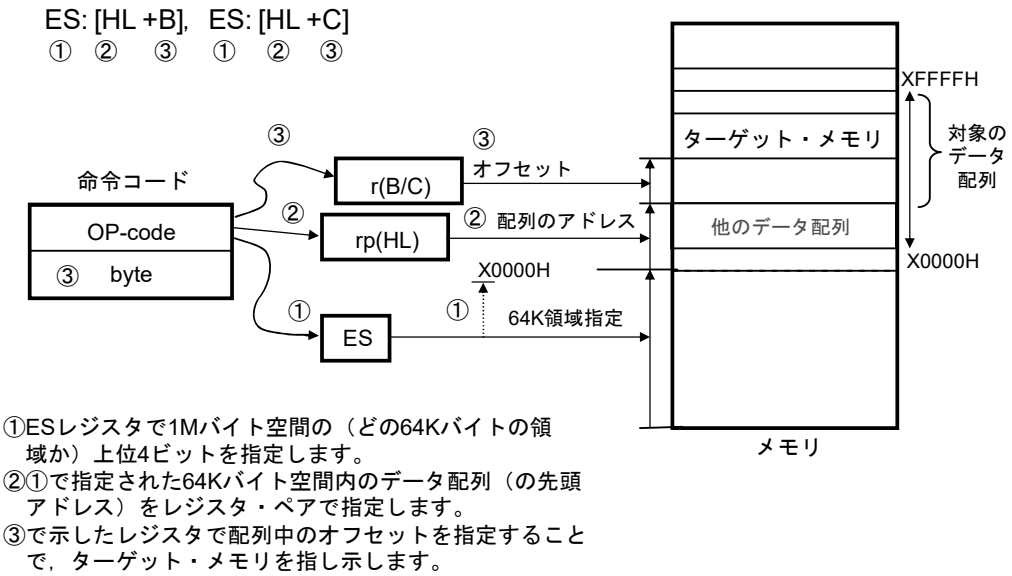



図3－32　ES:[HL+B]，ES:[HL+C]の例



### 3.4.9　スタック・アドレッシング

【機　　能】

スタック・ポインタ（SP）の値によりスタック領域を間接的に指定するアドレッシングです。PUSH, POP, サブルーチン・コール，リターン命令の実行時，および割り込み要求発生によるレジスタの退避／復帰時に自動的に用いられます。

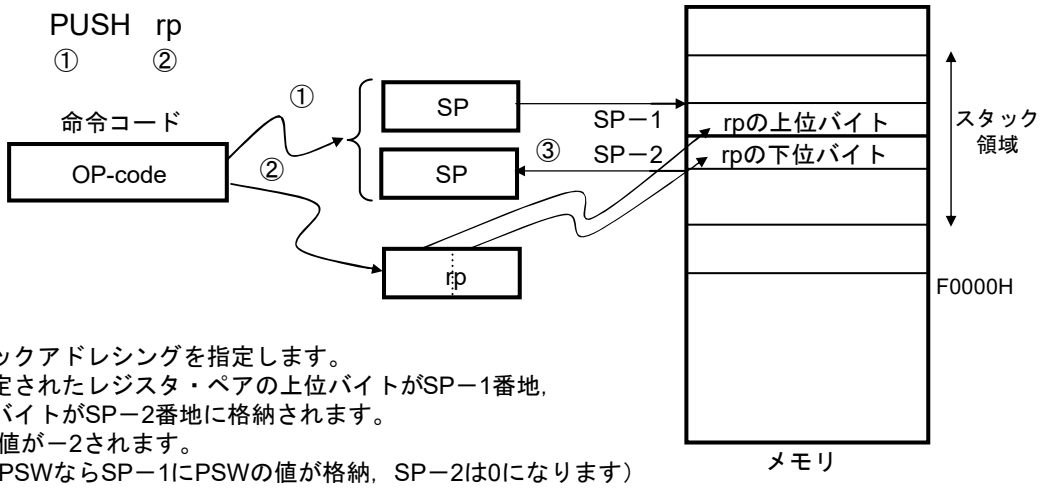
スタック領域は内部RAM上にだけ設定できます。

【オペランド形式】

| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| － | PUSH PSW AX/BC/DE/HL<br>POP PSW AX/BC/DE/HL<br>CALL/CALLT<br>RET<br>BRK<br>RETB<br>(割り込み要求発生)<br>RETI |

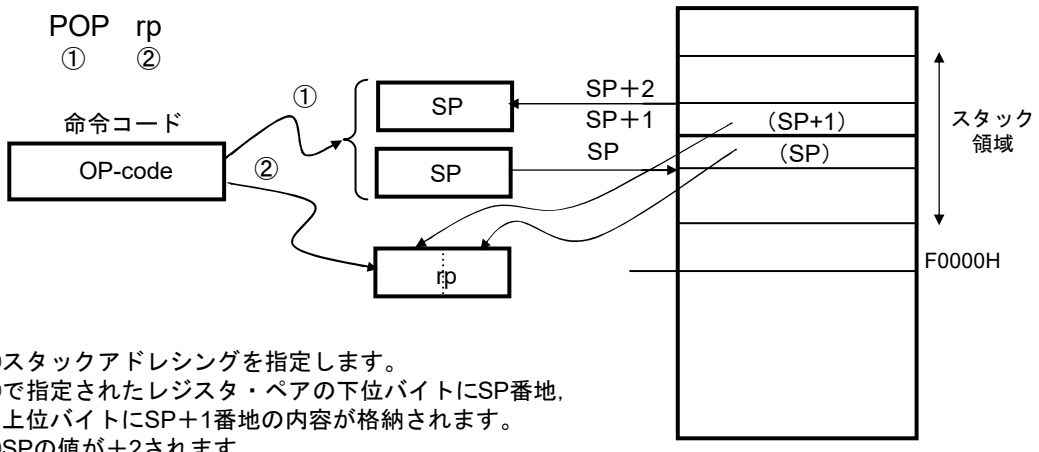
各スタック動作によって退避／復帰されるデータは図3－33～図3－38のようになります。

図3－33　PUSH rpの例



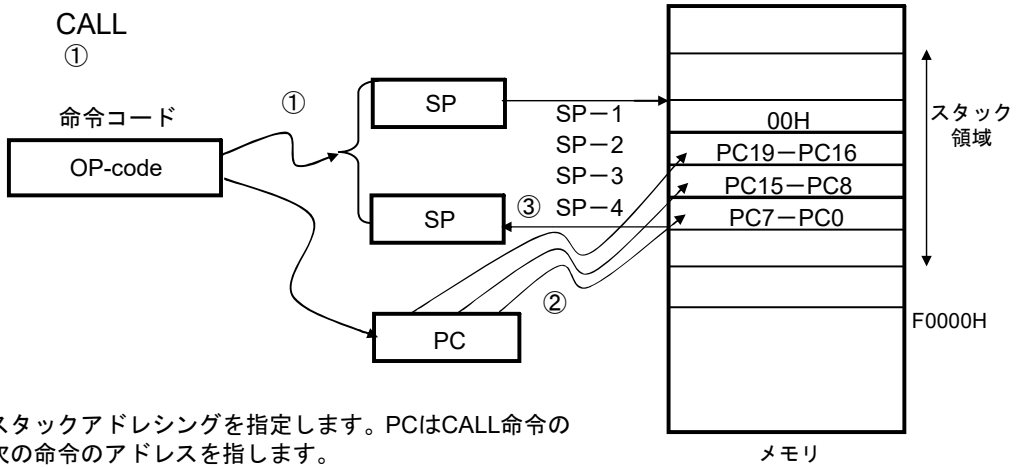

①スタックアドレシングを指定します。
②で指定されたレジスタ・ペアの上位バイトがSP－1番地，
　下位バイトがSP－2番地に格納されます。
③SPの値が－2されます。
　（rp→PSWならSP－1にPSWの値が格納，SP－2は0になります）

図3－34　POPの例



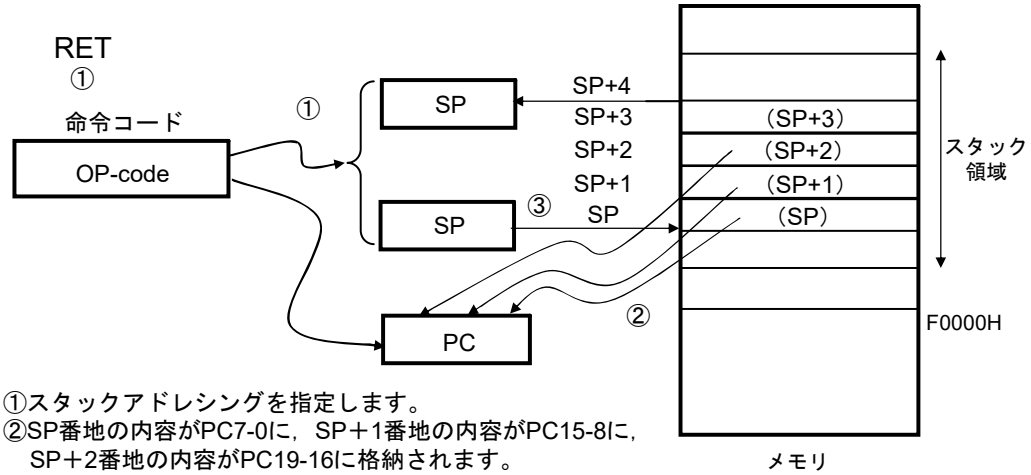

①スタックアドレシングを指定します。
②で指定されたレジスタ・ペアの下位バイトにSP番地，
　上位バイトにSP＋1番地の内容が格納されます。
③SPの値が＋2されます。
　(rp→PSWならSP＋1番地の内容がPSWに格納されます)

図3－35　CALL，CALLTの例



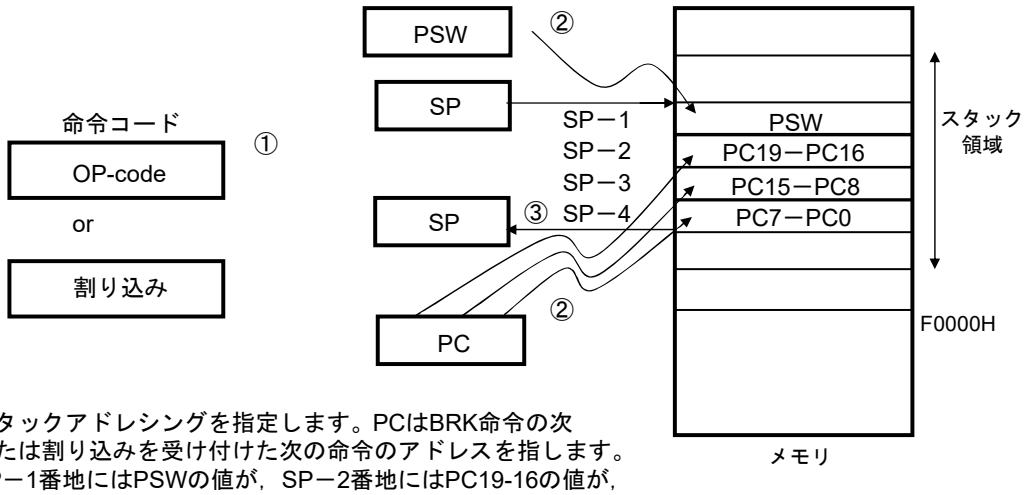

①スタックアドレシングを指定します。PCはCALL命令の
　次の命令のアドレスを指します。
②SP－1番地には00Hが，SP－2番地にはPC19-16の値が，
　SP－3番地にはPC15-8の値が，SP－4番地にはPC7-0の
　値が格納されます。
③SPの値が－4されます。

図3－36　RETの例



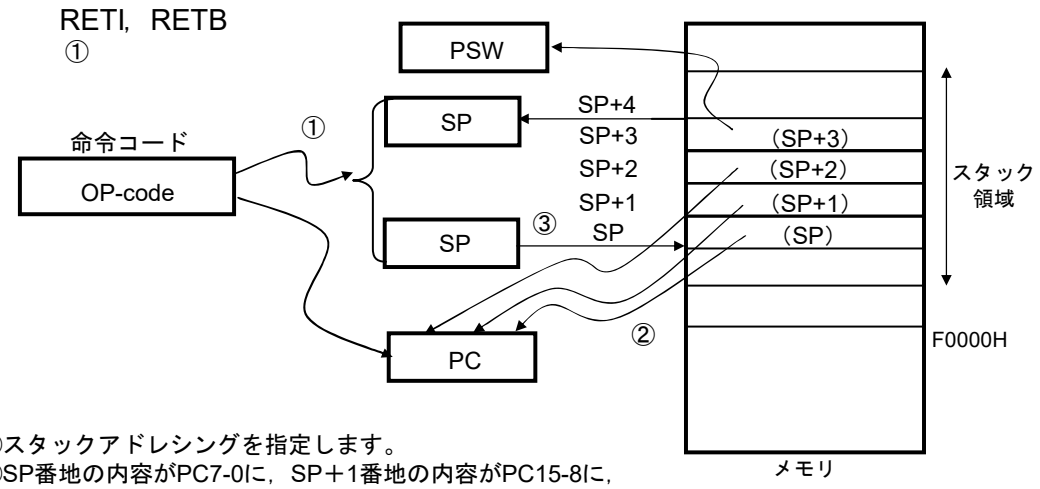

①スタックアドレシングを指定します。
②SP番地の内容がPC7-0に，SP＋1番地の内容がPC15-8に，
　SP＋2番地の内容がPC19-16に格納されます。
③SPの値が＋4されます。

図3－37　割り込み，BRKの例




①スタックアドレシングを指定します。PCはBRK命令の次
　または割り込みを受け付けた次の命令のアドレスを指します。
②SP－1番地にはPSWの値が，SP－2番地にはPC19-16の値が，
　SP－3番地にはPC15-8の値が，SP－4番地にはPC7-0の値が
　格納されます。
③SPの値が－4されます。

図3－38　RETI，RETBの例




①スタックアドレシングを指定します。
②SP番地の内容がPC7-0に，SP＋1番地の内容がPC15-8に，
　SP＋2番地の内容がPC19-16に，SP＋3番地の内容がPSW
　格納されます。
③SPの値が＋4されます。

# 第4章　ポート機能

## 4. 1　ポートの機能

RL78/I1Bは，デジタル入出力ポートを備えており，多様な制御を行うことができます。

また，デジタル入出力ポートとしての機能以外に，各種兼用機能を備えています。兼用機能については，第2章端子機能を参照してください。

## 4. 2　ポートの構成

ポートは，次のハードウエアで構成しています。

表4－1　ポートの構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | ポート・モード・レジスタ（PM0-PM8, PM12）<br>ポート・レジスタ（P0-P8, P12, P13）<br>プルアップ抵抗オプション・レジスタ（PU0, PU1, PU3-PU5, PU7, PU8, PU12）<br>ポート入力モード・レジスタ（PIM0, PIM1, PIM8）<br>ポート出力モード・レジスタ（POM0, POM1, POM8）<br>A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）<br>周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）<br>グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ（GDIDIS）<br>LCDポート・ファンクション・レジスタ（PFSEG0-PFSEG5）<br>LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD） |
| ポート | ・80ピン製品：<br>合計：53本（CMOS入出力：44本（N-ch O.D.入出力[$V_{DD}$耐圧]：13本），CMOS入力：5本，CMOS出力：1本，N-chオープン・ドレイン入出力[6 V耐圧]：3本）<br>・100ピン製品：<br>合計：69本（CMOS入出力：60本（N-ch O.D.入出力[$V_{DD}$耐圧]：13本），CMOS入力：5本，CMOS出力：1本，N-chオープン・ドレイン入出力[6 V耐圧]：3本） |
| プルアップ抵抗 | ・80ピン製品：合計：40本<br>・100ピン製品：合計：54本 |

### 4. 2. 1　ポート0

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ0（PM0）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P00-P07端子を入力ポートとして使用する場合は，プルアップ抵抗オプション・レジスタ0（PU0）により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

P00, P03, P05, P6端子の入力は，ポート入力モード・レジスタ0（PIM0）の設定により1ビット単位で通常入力バッファ／TTL入力バッファの指定ができます。

P01-P07端子の出力は，ポート出力モード・レジスタ0（POM0）により1ビット単位でN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能です。

また，兼用機能としてプログラミングUARTの送受信，IrDA用送信，シリアル・インタフェースのデータ入出力，クロック出力，タイマの入出力，外部割り込み要求入力，コンパレータ出力があります。80ピン製品はLCDコントローラ／ドライバのセグメント出力があります。

リセット信号の発生により，入力モードになります。80ピン製品はP00，P01端子は入力モード，P02-P07端子はデジタル入力無効[注]になります。

注　デジタル入力無効とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれも無効な状態を示します。

### 4. 2. 2　ポート1

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ1（PM1）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P10-P17端子を入力ポートとして使用する場合は，プルアップ抵抗オプション・レジスタ1（PU1）により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

P15, P16端子の入力は，ポート入力モード・レジスタ1（PIM1）の設定により1ビット単位で通常入力バッファ／TTL入力バッファの指定ができます。

P15-P17端子の出力は，ポート出力モード・レジスタ1（POM1）により1ビット単位でN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能です。

また，兼用機能としてシリアル・インタフェースのデータ入出力，クロック入出力，LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力があります。

リセット信号の発生により，デジタル入力無効[注]になります。

注　デジタル入力無効とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれも無効な状態を示します。

### 4. 2. 3　ポート2

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ2（PM2）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。

また，兼用機能としてA/Dコンバータのアナログ入力，A/Dコンバータの＋側基準電圧入力，A/Dコンバータの－側基準電圧入力，コンパレータのリファレンス電圧入力，コンパレータのアナログ電圧入力があります。

P20/ANI0-P25/ANI5をデジタル入出力として使用する場合は，A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）で“デジタル入出力”に設定して，上位ビットから使用してください。

P20/ANI0-P25/ANI5をアナログ入力として使用する場合は，A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）でアナログ入力に，かつPM2レジスタで入力モードに設定して，下位ビットから使用してください。

リセット信号の発生により，アナログ入力になります。

表4－2　ANI0/P21, ANI1/P20端子機能の設定

| ADPCレジスタ | PM2レジスタ | ADSレジスタ | P20/AVREFP/ANI0, P21/AVREFM/ANI1, P22/ANI2/IVCMP0/IVREF1, P23/ANI3/IVCMP1/IVREF0, P24/ANI4, P25/ANI5端子 |
|---|---|---|---|
| デジタル入出力選択 | 入力モード | × | デジタル入力 |
| | 出力モード | × | デジタル出力 |
| アナログ入力選択 | 入力モード | ANI選択 | アナログ入力（変換対象）<br>（ANI0-ANI5端子使用時） |
| | | ANI非選択 | アナログ入力（非変換対象）<br>（IVCMPn, IVREFn端子使用時） |
| | 出力モード | ANI選択 | 設定禁止 |
| | | ANI非選択 | |

備考　×：don’t care

### 4. 2. 4　ポート3

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ3（PM3）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P30-P37端子を入力ポートとして使用する場合は，プルアップ抵抗オプション・レジスタ3（PU3）により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

また，兼用機能としてクロック出力／ブザー出力，タイマの入出力，LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力があります。

リセット信号の発生により，デジタル入力無効[注]になります。

注　デジタル入力無効とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれも無効な状態を示します。

### 4. 2. 5　ポート4

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ4（PM4）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P40-P44端子を入力ポートとして使用する場合は，プルアップ抵抗オプション・レジスタ4（PU4）により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

また，兼用機能として外部割り込み要求入力，クロック出力／ブザー出力，タイマ入出力，フラッシュ・メモリ・プログラマ／デバッガ用のデータ入出力があります。

リセット信号の発生により，入力モードになります。

### 4. 2. 6　ポート5

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ5（PM5）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P50-P57端子を入力ポートとして使用する場合は，プルアップ抵抗オプション・レジスタ5（PU5）により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

また，兼用機能としてLCDコントローラ／ドライバのセグメント出力があります。

リセット信号の発生により，デジタル入力無効[注]になります。

注　デジタル入力無効とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれも無効な状態を示します。

### 4. 2. 7　ポート6

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ6（PM6）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。

P60, P61, P62端子の出力は，N-chオープン・ドレイン出力（6 V耐圧）です。

また，兼用機能としてシリアル・インタフェースのデータ入出力，クロック入出力，タイマの入出力，リアルタイム・クロックの補正クロック出力があります。

リセット信号の発生により，入力モードになります。

### 4. 2. 8　ポート7

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ7（PM7）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P70-P77端子を入力ポートとして使用する場合は，プルアップ抵抗オプション・レジスタ7（PU7）により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

また，兼用機能としてLCDコントローラ／ドライバのセグメント出力，外部割り込み要求入力があります。

リセット信号の発生により，デジタル入力無効[注]になります。

注　デジタル入力無効とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれも無効な状態を示します。

### 4. 2. 9　ポート8

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ8（PM8）により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P80-P85端子を入力ポートとして使用する場合は，プルアップ抵抗オプション・レジスタ8（PU8）により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

P81端子の入力は，ポート入力モード・レジスタ8（PIM8）の設定により1ビット単位で通常入力バッファ／TTL入力バッファの指定ができます。

P80-P82端子の出力は，ポート出力モード・レジスタ8（POM8）により1ビット単位でN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）に設定可能です。

また，兼用機能としてシリアル・インタフェースのデータ入出力，クロック出力，LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力があります。

リセット信号の発生により，デジタル入力無効[注]になります。

注　デジタル入力無効とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれも無効な状態を示します。

### 4. 2. 10　ポート12

P125-P127は出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ12（PM12）により，1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P125-P127端子を入力ポートとして使用する場合，プルアップ抵抗オプション・レジスタ12（PU12）により内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

P121-P124は4ビットの入力専用ポートです。

また兼用機能としてメイン・システム・クロック用発振子接続，サブシステム・クロック用発振子接続，メイン・システム・クロック用外部クロック入力，サブシステム・クロック用外部クロック入力，LCDコントローラ／ドライバ用コンデンサ接続，LCD駆動用電圧端子，外部割り込み要求入力，タイマの入出力があります。

リセット信号の発生により，P121-P124が入力モードになります。P125-P127がデジタル入力無効[注]になります。

注　デジタル入力無効とは，デジタル出力，デジタル入力，LCD出力のいずれも無効な状態を示します。

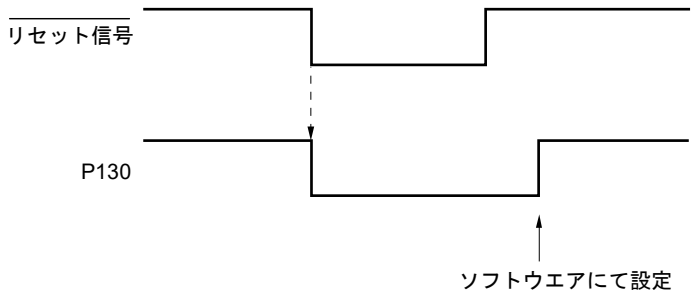
### 4. 2. 11　ポート13

P130は出力ラッチ付き1ビット出力専用ポートです。P137は1ビット入力専用ポートです。

P130は出力モード，P137は入力モードに固定されています。

また兼用機能としてリアルタイム・クロックの補正クロック出力，外部割り込み要求入力があります。

備考　リセットがかかるとP130はロウ・レベルを出力するため，リセットがかかる前にP130をハイ・レベル出力にした場合，P130からの出力をCPUのリセット信号として疑似的に出力するという使い方ができます。



## 4. 3　ポート機能を制御するレジスタ

ポートは，次のレジスタで制御します。

・ポート・モード・レジスタ（PMxx）
・ポート・レジスタ（Pxx）
・プルアップ抵抗オプション・レジスタ（PUxx）
・ポート入力モード・レジスタ（PIMx）
・ポート出力モード・レジスタ（POMx）
・A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）
・周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）
・グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ（GDIDIS）
・LCDポート・ファンクション・レジスタ（PFSEG0-PFSEG5）
・LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD）

注意　製品によって，搭載しているレジスタとビットは異なります。各製品に搭載しているレジスタとビットについては，表4−3を参照してください。また，搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

表4－3　各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxxレジスタとそのビット（1/3）

| ポート | | ビット名 | | | | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | PMxxレジスタ | Pxxレジスタ | PUxxレジスタ | PIMxxレジスタ | POMxxレジスタ | | |
| ポート0 | 0 | PM00 | P00 | PU00 | PIM00 | － | ○ | ○ |
| | 1 | PM01 | P01 | PU01 | － | POM01 | ○ | ○ |
| | 2 | PM02 | P02 | PU02 | － | POM02 | ○ | ○ |
| | 3 | PM03 | P03 | PU03 | PIM03 | POM03 | ○ | ○ |
| | 4 | PM04 | P04 | PU04 | － | POM04 | ○ | ○ |
| | 5 | PM05 | P05 | PU05 | PIM05 | POM05 | ○ | ○ |
| | 6 | PM06 | P06 | PU06 | PIM06 | POM06 | ○ | ○ |
| | 7 | PM07 | P07 | PU07 | － | POM07 | ○ | ○ |
| ポート1 | 0 | PM10 | P10 | PU10 | － | － | ○ | ○ |
| | 1 | PM11 | P11 | PU11 | － | － | ○ | ○ |
| | 2 | PM12 | P12 | PU12 | － | － | ○ | ○ |
| | 3 | PM13 | P13 | PU13 | － | － | ○ | ○ |
| | 4 | PM14 | P14 | PU14 | － | － | ○ | ○ |
| | 5 | PM15 | P15 | PU15 | PIM15 | POM15 | ○ | ○ |
| | 6 | PM16 | P16 | PU16 | PIM16 | POM16 | ○ | ○ |
| | 7 | PM17 | P17 | PU17 | － | POM17 | ○ | ○ |
| ポート2 | 0 | PM20 | P20 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 1 | PM21 | P21 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 2 | PM22 | P22 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 3 | PM23 | P23 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 4 | PM24 | P24 | － | － | － | － | ○ |
| | 5 | PM25 | P25 | － | － | － | － | ○ |
| | 6 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 7 | － | － | － | － | － | － | － |
| ポート3 | 0 | PM30 | P30 | PU30 | － | － | ○ | ○ |
| | 1 | PM31 | P31 | PU31 | － | － | ○ | ○ |
| | 2 | PM32 | P32 | PU32 | － | － | ○ | ○ |
| | 3 | PM33 | P33 | PU33 | － | － | ○ | ○ |
| | 4 | PM34 | P34 | PU34 | － | － | － | ○ |
| | 5 | PM35 | P35 | PU35 | － | － | － | ○ |
| | 6 | PM36 | P36 | PU36 | － | － | － | ○ |
| | 7 | PM37 | P37 | PU37 | － | － | － | ○ |

表4－3　各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxxレジスタとそのビット（2/3）

| ポート | | ビット名 | | | | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | PMxxレジスタ | Pxxレジスタ | PUxxレジスタ | PIMxxレジスタ | POMxxレジスタ | | |
| ポート4 | 0 | PM40 | P40 | PU40 | － | － | ○ | ○ |
| | 1 | PM41 | P41 | PU41 | － | － | ○ | ○ |
| | 2 | PM42 | P42 | PU42 | － | － | ○ | ○ |
| | 3 | PM43 | P43 | PU43 | － | － | ○ | ○ |
| | 4 | PM44 | P44 | PU44 | － | － | ○ | ○ |
| | 5 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 6 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 7 | － | － | － | － | － | － | － |
| ポート5 | 0 | PM50 | P50 | PU50 | － | － | － | ○ |
| | 1 | PM51 | P51 | PU51 | － | － | － | ○ |
| | 2 | PM52 | P52 | PU52 | － | － | － | ○ |
| | 3 | PM53 | P53 | PU53 | － | － | － | ○ |
| | 4 | PM54 | P54 | PU54 | － | － | － | ○ |
| | 5 | PM55 | P55 | PU55 | － | － | － | ○ |
| | 6 | PM56 | P56 | PU56 | － | － | － | ○ |
| | 7 | PM57 | P57 | PU57 | － | － | － | ○ |
| ポート6 | 0 | PM60 | P60 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 1 | PM61 | P61 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 2 | PM62 | P62 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 3 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 4 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 5 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 6 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 7 | － | － | － | － | － | － | － |
| ポート7 | 0 | PM70 | P70 | PU70 | － | － | ○ | ○ |
| | 1 | PM71 | P71 | PU71 | － | － | ○ | ○ |
| | 2 | PM72 | P72 | PU72 | － | － | ○ | ○ |
| | 3 | PM73 | P73 | PU73 | － | － | ○ | ○ |
| | 4 | PM74 | P74 | PU74 | － | － | ○ | ○ |
| | 5 | PM75 | P75 | PU75 | － | － | ○ | ○ |
| | 6 | PM76 | P76 | PU76 | － | － | ○ | ○ |
| | 7 | PM77 | P77 | PU77 | － | － | ○ | ○ |

表4－3　各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxxレジスタとそのビット（3/3）

| ポート | | ビット名 | | | | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | PMxxレジスタ | Pxxレジスタ | PUxxレジスタ | PIMxxレジスタ | POMxxレジスタ | | |
| ポート8 | 0 | PM80 | P80 | PU80 | － | POM80 | ○ | ○ |
| | 1 | PM81 | P81 | PU81 | PIM81 | POM81 | ○ | ○ |
| | 2 | PM82 | P82 | PU82 | － | POM82 | ○ | ○ |
| | 3 | PM83 | P83 | PU83 | － | － | ○ | ○ |
| | 4 | PM84 | P84 | PU84 | － | － | － | ○ |
| | 5 | PM85 | P85 | PU85 | － | － | － | ○ |
| | 6 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 7 | － | － | － | － | － | － | － |
| ポート12 | 0 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 1 | － | P121 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 2 | － | P122 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 3 | － | P123 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 4 | － | P124 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 5 | PM125 | P125 | PU125 | － | － | ○ | ○ |
| | 6 | PM126 | P126 | PU126 | － | － | ○ | ○ |
| | 7 | PM127 | P127 | PU127 | － | － | ○ | ○ |
| ポート13 | 0 | － | P130 | － | － | － | ○ | ○ |
| | 1 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 2 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 3 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 4 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 5 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 6 | － | － | － | － | － | － | － |
| | 7 | － | P137 | － | － | － | ○ | ○ |

### 4. 3. 1　ポート・モード・レジスタ（PMxx）

ポートの入力／出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

ポート・モード・レジスタは，それぞれ1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります。

ポート端子を兼用機能の端子として使用する場合，4. 5　兼用機能使用時のレジスタの設定を参照し，設定してください。

図4－1　ポート・モード・レジスタのフォーマット

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | アドレス | リセット時 | R/W |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PM0 | PM07 | PM06 | PM05 | PM04 | PM03 | PM02 | PM01 | PM00 | FFF20H | FFH | R/W |
| PM1 | PM17 | PM16 | PM15 | PM14 | PM13 | PM12 | PM11 | PM10 | FFF21H | FFH | R/W |
| PM2 | 1 | 1 | PM25 | PM24 | PM23 | PM22 | PM21 | PM20 | FFF22H | FFH | R/W |
| PM3 | PM37 | PM36 | PM35 | PM34 | PM33 | PM32 | PM31 | PM30 | FFF23H | FFH | R/W |
| PM4 | 1 | 1 | 1 | PM44 | PM43 | PM42 | PM41 | PM40 | FFF24H | FFH | R/W |
| PM5 | PM57 | PM56 | PM55 | PM54 | PM53 | PM52 | PM51 | PM50 | FFF25H | FFH | R/W |
| PM6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | PM62 | PM61 | PM60 | FFF26H | FFH | R/W |
| PM7 | PM77 | PM76 | PM75 | PM74 | PM73 | PM72 | PM71 | PM70 | FFF27H | FFH | R/W |
| PM8 | 1 | 1 | PM85 | PM84 | PM83 | PM82 | PM81 | PM80 | FFF28H | FFH | R/W |
| PM12 | PM127 | PM126 | PM125 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | FFF2CH | FFH | R/W |

| PMmn | Pmn端子の入出力モードの選択<br>（m = 0-8, 12 ; n = 0-7） |
|---|---|
| 0 | 出力モード（出力バッファ・オン） |
| 1 | 入力モード（出力バッファ・オフ） |

注意　搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

### 4. 3. 2　ポート・レジスタ（Pxx）

ポートの出力ラッチの値を設定するレジスタです。

リードする場合，入力モード時は端子レベルが，出力モード時はポートの出力ラッチの値が読み出されます注。

ポート・レジスタは，それぞれ1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

注　P20-P25をA/Dコンバータまたはコンパレータのアナログ入力機能として設定した場合，ポートを入力モード時にリードすると端子レベルではなく常に0が読み出されます。

図4－2　ポート・レジスタのフォーマット

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | アドレス | リセット時 | R/W |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P0 | P07 | P06 | P05 | P04 | P03 | P02 | P01 | P00 | FFF00H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P1 | P17 | P16 | P15 | P14 | P13 | P12 | P11 | P10 | FFF01H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P2 | 0 | 0 | P25 | P24 | P23 | P22 | P21 | P20 | FFF02H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P3 | P37 | P36 | P35 | P34 | P33 | P32 | P31 | P30 | FFF03H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P4 | 0 | 0 | 0 | P44 | P43 | P42 | P41 | P40 | FFF04H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P5 | P57 | P56 | P55 | P54 | P53 | P52 | P51 | P50 | FFF05H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | P62 | P61 | P60 | FFF06H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P7 | P77 | P76 | P75 | P74 | P73 | P72 | P71 | P70 | FFF07H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P8 | 0 | 0 | P85 | P84 | P83 | P82 | P81 | P80 | FFF08H | 00H（出力ラッチ） | R/W |
| P12 | P127 | P126 | P125 | P124 | P123 | P122 | P121 | 0 | FFF0CH | 不定 | R/W注 |
| P13 | P137 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | P130 | FFF0DH | 不定 | R/W注 |

| Pmn | 出力データの制御（出力モード時） | 入力データの読み出し（入力モード時） |
|---|---|---|
| 0 | 0を出力 | ロウ・レベルを入力 |
| 1 | 1を出力 | ハイ・レベルを入力 |

注　P121-P124, P137はRead Onlyです。

注意　搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

備考　m = 0-8, 12, 13 ; n = 0-7

### 4. 3. 3　プルアップ抵抗オプション・レジスタ（PUxx）

内蔵プルアップ抵抗を使用するか，しないかを設定するレジスタです。プルアップ抵抗オプション・レジスタで内蔵プルアップ抵抗の使用を指定した端子で，通常出力モード（POMmn = 0）かつ入力モード（PMmn = 1）に設定したビットにのみ，ビット単位で内部プルアップ抵抗が使用できます。出力モードに設定したビットは，プルアップ抵抗オプション・レジスタの設定にかかわらず，内蔵プルアップ抵抗は接続されません。兼用機能の出力端子として使用するときやアナログ設定（ADPC = 1）にしている場合も同様です。

プルアップ抵抗オプション・レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00H（PU4のみ01H）になります。

注意　PIMnレジスタがあるポートで，異電位デバイスからTTLバッファに入力する場合は，PUmn = 0を設定して，外部抵抗を介して異電位デバイスの電源にプルアップしてください。

図4－3　プルアップ抵抗オプション・レジスタのフォーマット

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | アドレス | リセット時 | R/W |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PU0 | PU07 | PU06 | PU05 | PU04 | PU03 | PU02 | PU01 | PU00 | F0030H | 00H | R/W |
| PU1 | PU17 | PU16 | PU15 | PU14 | PU13 | PU12 | PU11 | PU10 | F0031H | 00H | R/W |
| PU3 | PU37 | PU36 | PU35 | PU34 | PU33 | PU32 | PU31 | PU30 | F0033H | 00H | R/W |
| PU4 | 0 | 0 | 0 | PU44 | PU43 | PU42 | PU41 | PU40 | F0034H | 01H | R/W |
| PU5 | PU57 | PU56 | PU55 | PU54 | PU53 | PU52 | PU51 | PU50 | F0035H | 00H | R/W |
| PU7 | PU77 | PU76 | PU75 | PU74 | PU73 | PU72 | PU71 | PU70 | F0037H | 00H | R/W |
| PU8 | 0 | 0 | PU85 | PU84 | PU83 | PU82 | PU81 | PU80 | F0038H | 00H | R/W |
| PU12 | PU127 | PU126 | PU125 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | F003CH | 00H | R/W |

| PUmn | Pmnの内蔵プルアップ抵抗の選択<br>（m = 0, 1, 3-5, 7, 8, 12 ; n = 0-7） |
|---|---|
| 0 | 内蔵プルアップ抵抗を接続しない |
| 1 | 内蔵プルアップ抵抗を接続する |

注意　搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

### 4. 3. 4　ポート入力モード・レジスタ（PIMxx）

入力バッファを1ビット単位で設定するレジスタです。

異電位の外部デバイスとのシリアル通信などにTTL入力バッファを選択できます。

ポート入力モード・レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図4－4　ポート入力モード・レジスタのフォーマット

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | アドレス | リセット時 | R/W |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PIM0 | 0 | PIM06 | PIM05 | 0 | PIM03 | 0 | 0 | PIM00 | F0040H | 00H | R/W |
| PIM1 | 0 | PIM16 | PIM15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | F0041H | 00H | R/W |
| PIM8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | PM81 | 0 | F0048H | 00H | R/W |

| PIMmn | Pmn端子の入力バッファの選択<br>（m = 0, 1, 8 ; n = 0, 1, 3, 5, 6） |
|---|---|
| 0 | 通常入力バッファ |
| 1 | TTL入力バッファ |

注意　搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

### 4. 3. 5　ポート出力モード・レジスタ（POMxx）

出力モードを1ビット単位で設定するレジスタです。

異電位の外部デバイスとのシリアル通信時および同電位の外部デバイスとの簡易I²C通信時のSDA00, SDA10端子にN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択できます。

また，POMxxレジスタはPUxxレジスタとともに，内蔵プルアップ抵抗を使用するかどうかを設定します。

ポート出力モード・レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

注意　N-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧[注1]／$EV_{DD1}$耐圧[注2]）モード（POMmn = 1）を設定したビットは，内蔵プルアップ抵抗が接続されません。

図4－5　ポート出力モード・レジスタのフォーマット

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | アドレス | リセット時 | R/W |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| POM0 | POM07 | POM06 | POM05 | POM04 | POM03 | POM02 | POM01 | 0 | F0050H | 00H | R/W |
| POM1 | POM17 | POM16 | POM15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | F0051H | 00H | R/W |
| POM8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | POM82 | POM81 | POM80 | F0058H | 00H | R/W |

| POMmn | Pmn端子の出力モードの選択<br>（m = 0, 1, 8 ; n = 0-7） |
|---|---|
| 0 | 通常出力モード |
| 1 | N-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧[注1]／$EV_{DD1}$耐圧[注2]）モード |

注1.　80ピン製品の場合

2.　100ピン製品の場合

注意　搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

### 4. 3. 6　A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）

P20/AVREFP/ANI0，P21/AVREFM/ANI1，P22/ANI2/IVCMP0/IVREF1，P23/ANI3/IVCMP1/IVREF0，P24/ANI4，P25/ANI5端子を，ポートのデジタル入出力／A/Dコンバータまたはコンパレータのアナログ入力に切り替えるレジスタです。

ADPCレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図4－6　A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）のフォーマット

アドレス：F0076H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADPC | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ADPC2 | ADPC1 | ADPC0 |

| ADPC2 | ADPC1 | ADPC0 | アナログ入力（A）／デジタル入出力（D）の切り替え | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ANI5/P25 | ANI4/P24 | ANI3/IVCMP1/IVREF0/P23 | ANI2/IVCMP0/IVREF1/P22 | ANI1/P21 | ANI0/P20 |
| 0 | 0 | 0 | A | A | A | A | A | A |
| 0 | 0 | 1 | D | D | D | D | D | D |
| 0 | 1 | 0 | D | D | D | D | D | A |
| 0 | 1 | 1 | D | D | D | D | A | A |
| 1 | 0 | 0 | D | D | D | A | A | A |
| 1 | 0 | 1 | D | D | A | A | A | A |
| 1 | 1 | 0 | D | A | A | A | A | A |
| 上記以外 | | | 設定禁止 | | | | | |

注意1.　ADPCレジスタでアナログ入力に設定したポートは，ポート・モード・レジスタ2（PM2）で入力モードに選択してください。

2.　ADPCレジスタでデジタル入出力として設定する端子を，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で設定しないでください。

3.　AVREFPとAVREFMを使用する場合は，ANI0とANI1をアナログ入力に設定し，ポート・モード・レジスタは入力モードに設定してください。

### 4. 3. 7　グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ（GDIDIS）

バッテリ・バックアップ機能許可，VDD, EVDDへの電源供給停止時に入力バッファの貫通電流を防止するレジスタです。

GDIDIS0ビットを1に設定することにより，EVDDに接続されているすべての入力バッファを入力禁止とし，EVDDに接続されている電源がオフになったときの貫通電流を防止します。

GDIDISレジスタは，1ビット・メモリ操作または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図4－7　グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ（GDIDIS）のフォーマット

アドレス：F007DH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| GDIDIS | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | GDIDIS0 |

| GDIDIS0 | EVDD電源の入力バッファ設定 |
|---|---|
| 0 | 入力バッファの入力許可（デフォルト） |
| 1 | 入力バッファの入力禁止。入力バッファへの貫通電流防止 |

EVDDの電源をオフする場合は，次の手順で設定してください。

① 入力バッファの入力禁止（GDIDIS0 = 1）に設定

② EVDDの電源オフ

EVDDの電源を再投入する場合は，次の手順で設定してください。

① EVDDの電源オン

② 入力バッファの入力許可（GDIDIS0 = 0）に設定

注意1.　EVDDを電源とする入力ポートに，EVDD以上の入力電圧を入力しないでください。

2.　入力バッファの入力禁止（GDIDIS0 = 1）を設定した場合，EVDDを電源とするポートのポート・レジスタ（Pxx）の読み出し値は“1”となります。また，ポート出力モード・レジスタ（POMxx）に“1”（N-chオープン・ドレイン出力（EVDD耐圧））設定時は，ポート・レジスタ（Pxx）の読み出し値は“0”となります。

備考　入力バッファの入力禁止（GDIDIS0 = 1）を設定した場合でも，EVDDを電源とするポート機能を使用しない周辺機能は使用できます。

### 4. 3. 8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）

周辺I/Oリダイレクト機能の許可／禁止を設定するレジスタです。

周辺I/Oリダイレクト機能は，兼用機能を割り当てるポートを切り替える機能です。

リダイレクトさせる機能は，PIORレジスタでポートを割り当ててから，動作許可にしてください。

なお，リダイレクトの設定を変更できるのは，その機能を動作許可にするまでです。

PIORレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図4－8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマット

アドレス：F0077H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PIOR | 0 | 0 | 0 | PIOR4 | PIOR3 | PIOR2 | PIOR1 | PIOR0 |

| ビット | 機能 | 80ピン | | 100ピン | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 設定値 | | 設定値 | |
| | | 0 | 1 | 0 | 1 |
| PIOR4 | INTP0注 | P137 | P70 | P137 | P70 |
| | INTP1 | P125 | P71 | P125 | P71 |
| | INTP2 | P07 | P72 | P07 | P72 |
| | INTP3 | P05 | P73 | P05 | P73 |
| | INTP4 | P04 | P74 | P04 | P74 |
| | INTP5 | P02 | P75 | P02 | P75 |
| | INTP6 | P44 | P76 | P44 | P76 |
| | INTP7 | P42 | P77 | P42 | P77 |
| PIOR3 | PCLBUZ0 | P43 | P33 | P43 | P33 |
| | PCLBUZ1 | P41 | P32 | P41 | P32 |
| | VCOUT0 | P00 | P03 | P00 | P03 |
| | VCOUT1 | P01 | P04 | P01 | P04 |
| | RTC1HZ | P130 | P62 | P130 | P62 |
| PIOR2 | TxD1 | P04 | P82 | P04 | P82 |
| | RxD1 | P03 | P81 | P03 | P81 |
| | SCL10 | P02 | P80 | P02 | P80 |
| | SDA10 | P03 | P81 | P03 | P81 |
| PIOR1 | TxD0 | P07 | P17 | P07 | P17 |
| | RxD0 | P06 | P16 | P06 | P16 |
| | SCL00 | P05 | P15 | P05 | P15 |
| | SDA00 | P06 | P16 | P06 | P16 |
| | SI00 | P06 | P16 | P06 | P16 |
| | SO00 | P07 | P17 | P07 | P17 |
| | SCK00 | P05 | P15 | P05 | P15 |
| PIOR0 | TI00/TO00 | P43 | P60 | P43 | P60 |
| | TI01/TO01 | P41 | P61 | P41 | P61 |
| | TI02/TO02 | P07 | P62 | P07 | P62 |
| | TI03/TO03 | P06 | P127 | P06 | P127 |
| | TI04/TO04 | P05 | P126 | P05 | P126 |
| | TI05/TO05 | P04 | P125 | P04 | P125 |
| | TI06/TO06 | P03 | P31 | P03 | P31 |
| | TI07/TO07 | P02 | P30 | P02 | P30 |

注　バッテリ・バックアップ機能を使用し，VBAT給電時，P137端子は動作可能端子です。INTP0機能をP70へ割り当てた場合，VBAT給電時，割込み機能が使えなくなりますので，注意してください。

### 4. 3. 9　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5）

P10-P17, P30-P37, P50-P57, P70-P77, P80-P85端子をポート（セグメント出力以外）／セグメント出力のどちらかで使用するかを設定するレジスタです。PFSEG0-PFSEG6レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります（PFSEG0はF0H, PFSEG5は03H）。

備考 セグメント出力端子（SEGxx）とPFSEGレジスタ（PFSEGxxビット）の対応と，製品によるSEGxx端子の有無を表4－4　各製品で搭載しているセグメント出力端子と対応するPFSEGレジスタ（PFSEGビット）に示します。

図4－9　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5）のフォーマット

アドレス：F0300H　リセット時：F0H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG0 | PFSEG07 | PFSEG06 | PFSEG05 | PFSEG04 | 0 | 0 | 0 | 0 |

アドレス：F0301H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG1 | PFSEG15 | PFSEG14 | PFSEG13 | PFSEG12 | PFSEG11 | PFSEG10 | PFSEG09 | PFSEG08 |

アドレス：F0302H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG2 | PFSEG23 | PFSEG22 | PFSEG21 | PFSEG20 | PFSEG19 | PFSEG18 | PFSEG17 | PFSEG16 |

アドレス：F0303H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG3 | PFSEG31 注 | PFSEG30 注 | PFSEG29 注 | PFSEG28 注 | PFSEG27 | PFSEG26 | PFSEG25 | PFSEG24 |

アドレス：F0304H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG4 | PFSEG39 注 | PFSEG38 注 | PFSEG37 | PFSEG36 | PFSEG35 | PFSEG34 | PFSEG33 | PFSEG32 |

アドレス：F0305H　リセット時：03H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | PFSEG41注 | PFSEG40注 |

| PFSEGxx (xx = 04-41) | Pmn端子のポート（セグメント出力以外）／セグメント出力の指定（mn = 10-17, 30-37, 50-57, 70-77, 80-85） |
|---|---|
| 0 | ポート（セグメント出力以外）として使用 |
| 1 | セグメント出力として使用 |

注　80ピン製品では必ず“1”を設定してください。

注意　搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

備考　セグメント出力として使用する（PFSEGxx = 1）場合には必ずPUmレジスタのPUmnビット = 0，POMmレジスタのPOMmnビット = 0，PIMmレジスタのPIMmnビット = 0に設定してください。

表4－4　各製品で搭載しているセグメント出力端子と対応するPFSEGレジスタ（PFSEGビット）

| PFSEGレジスタのビット名 | 対応するSEGxx端子 | 兼用するポート | 80-pin | 100-pin |
|---|---|---|---|---|
| PFSEG04 | SEG4 | P10 | ○ | ○ |
| PFSEG05 | SEG5 | P11 | ○ | ○ |
| PFSEG06 | SEG6 | P12 | ○ | ○ |
| PFSEG07 | SEG7 | P13 | ○ | ○ |
| PFSEG08 | SEG8 | P14 | ○ | ○ |
| PFSEG09 | SEG9 | P15 | ○ | ○ |
| PFSEG10 | SEG10 | P16 | ○ | ○ |
| PFSEG11 | SEG11 | P17 | ○ | ○ |
| PFSEG12 | SEG12 | P80 | ○ | ○ |
| PFSEG13 | SEG13 | P81 | ○ | ○ |
| PFSEG14 | SEG14 | P82 | ○ | ○ |
| PFSEG15 | SEG15 | P83 | ○ | ○ |
| PFSEG16 | SEG16 | P70 | ○ | ○ |
| PFSEG17 | SEG17 | P71 | ○ | ○ |
| PFSEG18 | SEG18 | P72 | ○ | ○ |
| PFSEG19 | SEG19 | P73 | ○ | ○ |
| PFSEG20 | SEG20 | P74 | ○ | ○ |
| PFSEG21 | SEG21 | P75 | ○ | ○ |
| PFSEG22 | SEG22 | P76 | ○ | ○ |
| PFSEG23 | SEG23 | P77 | ○ | ○ |
| PFSEG24 | SEG24 | P30 | ○ | ○ |
| PFSEG25 | SEG25 | P31 | ○ | ○ |
| PFSEG26 | SEG26 | P32 | ○ | ○ |
| PFSEG27 | SEG27 | P33 | ○ | ○ |
| PFSEG28 | SEG28 | P34 | － | ○ |
| PFSEG29 | SEG29 | P35 | － | ○ |
| PFSEG30 | SEG30 | P36 | － | ○ |
| PFSEG31 | SEG31 | P37 | － | ○ |
| PFSEG32 | SEG32 | 80ピン製品　：P02<br>100ピン製品　：P50 | ○ | ○ |
| PFSEG33 | SEG33 | 80ピン製品　：P03<br>100ピン製品　：P51 | ○ | ○ |
| PFSEG34 | SEG34 | 80ピン製品　：P04<br>100ピン製品　：P52 | ○ | ○ |
| PFSEG35 | SEG35 | 80ピン製品　：P05<br>100ピン製品　：P53 | ○ | ○ |
| PFSEG36 | SEG36 | 80ピン製品　：P06<br>100ピン製品　：P54 | ○ | ○ |
| PFSEG37 | SEG37 | 80ピン製品　：P07<br>100ピン製品　：P55 | ○ | ○ |
| PFSEG38 | SEG38 | P56 | － | ○ |
| PFSEG39 | SEG39 | P57 | － | ○ |
| PFSEG40 | SEG40 | P84 | － | ○ |
| PFSEG41 | SEG41 | P85 | － | ○ |

### 4. 3. 10　LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD）

P125-P127端子をポート（LCD機能以外）／LCD機能（$V_{L3}$，CAPL，CAPH）のどちらで使用するかを設定するレジスタです。

ISCLCDレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図4－10　LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD）のフォーマット

アドレス：F0308H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ISCLCD | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ISCVL3 | ISCCAP |

| ISCVL3 | $V_{L3}$/P125端子のシュミット・トリガ・バッファの制御 |
|---|---|
| 0 | デジタル入力無効（LCD機能（$V_{L3}$）として使用） |
| 1 | デジタル入力有効 |

| ISCCAP | CAPL/P126, CAPH/P127端子のシュミット・トリガ・バッファの制御 |
|---|---|
| 0 | デジタル入力無効（LCD機能（CAPL, CAPH）として使用） |
| 1 | デジタル入力有効 |

注意　ISCVL3ビット ＝0，ISCCAP ビット ＝0の場合，対応するポート制御レジスタは，次のように設定してください。

PU12レジスタのPU127ビット ＝0, P12レジスタのP127ビット ＝0
PU12レジスタのPU126ビット ＝0, P12レジスタのP126ビット ＝0
PU12レジスタのPU125ビット ＝0, P12レジスタのP125ビット ＝0

## 4.4　ポート機能の動作

ポートの動作は，次に示すように入出力モードの設定によって異なります。

### 4.4.1　入出力ポートへの書き込み

（1）出力モードの場合

転送命令により，出力ラッチに値を書き込めます。また，出力ラッチの内容が端子より出力されます。

一度出力ラッチに書き込まれたデータは，もう一度出力ラッチにデータを書き込むまで保持されます。

また，リセット信号が発生したときに，出力ラッチのデータはクリアされます。

（2）入力モードの場合

転送命令により，出力ラッチに値を書き込めます。しかし，出力バッファがオフしていますので，端子の状態は変化しません。このため，入力と出力が混在するポートでのバイト書き込みができます。

一度出力ラッチに書き込まれたデータは，もう一度出力ラッチにデータを書き込むまで保持されます。

また，リセット信号が発生したときに，出力ラッチのデータはクリアされます。

### 4.4.2　入出力ポートからの読み出し

（1）出力モードの場合

転送命令により，出力ラッチの内容が読み出せます。出力ラッチの内容は変化しません。

（2）入力モードの場合

転送命令により，端子の状態が読み出せます。出力ラッチの内容は変化しません。

### 4.4.3　入出力ポートでの演算

（1）出力モードの場合

出力ラッチの内容と演算を行い，結果を出力ラッチに書き込みます。また，出力ラッチの内容が端子より出力されます。

一度出力ラッチに書き込まれたデータは，もう一度出力ラッチにデータを書き込むまで保持されます。

また，リセット信号が発生したときに，出力ラッチのデータはクリアされます。

（2）入力モードの場合

端子レベルをリードし，その内容と演算を行います。演算結果を出力ラッチに書き込みます。しかし，出力バッファがオフしていますので，端子の状態は変化しません。このため，入力と出力が混在するポートでのバイト書き込みができます。

また，リセット信号が発生したときに，出力ラッチのデータはクリアされます。

### 4. 4. 4　異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）外部デバイスとの接続方法

異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）で動作している外部デバイスとの接続時には，$EV_{DD}$を接続先の電源に合わせることで汎用ポートでの入出力接続が可能です。

### 4. 4. 5　入出力バッファによる異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）対応

ポート入力モード・レジスタ0, 1, 8（PIM0, PIM1, PIM8），ポート出力モード・レジスタ0, 1, 8（POM0, POM1, POM8）で入出力バッファを切り換えることにより，異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）で動作している外部デバイスとの接続が可能になります。

異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）の外部デバイスからの入力を受ける場合，ポート入力モード・レジスタ0, 1, 8（PIM0, PIM1, PIM8）をビットごとに設定して，通常入力（CMOS）/TTL入力バッファを切り換えます。

異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）の外部デバイスへ出力する場合，ポート出力モード・レジスタ0, 1, 8（POM0, POM1，POM8）をビットごとに設定して，通常出力（CMOS）/N-chオープン・ドレイン（$V_{DD}$耐圧[注1]／$EV_{DD}$耐圧[注2]）を切り換えます。

以下，シリアル・インタフェースでの接続について説明します。

注1.　80ピン製品の場合
　2.　100ピン製品の場合

（1）UART0-UART2, CSI00機能の入力ポートをTTL入力バッファで使用する場合の設定手順

UART0の場合　：P06（P16）
UART1の場合　：P03（P81）
UART2の場合　：P00
CSI00の場合　：P15, P06（P15, P16）

備考　（ ）内の端子は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。

① 使用する入力端子を，外部抵抗を介して対象デバイスの電源にプルアップします（内蔵プルアップ抵抗は使用不可）。
② PIM0，PIM1，PIM8レジスタの該当ビットを1に設定し，TTL入力バッファに切り換えます。なお，$V_{IH}$，$V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。
③ シリアル・アレイ・ユニットを動作許可し，UART/簡易SPI（CSI[注]）モードに設定します。

注　一般的にはSPI と呼ばれる機能ですが、本製品ではCSI とも呼称しているため、本マニュアルでは併記します。

（2）UART0-UART2, CSI00機能の出力ポートをN-chオープン・ドレイン出力モードで使用する場合の設定手順

UART0の場合　：P07（P17）
UART1の場合　：P04（P82）
UART2の場合　：P01
CSI00の場合　：P05, P07（P15, P17）

備考　（ ）内の端子は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。

① 使用する出力端子を外部抵抗を介して対象デバイスの電源にプルアップします（内蔵プルアップ抵抗は使用不可）。
② リセット解除後，ポート・モードは入力モード（Hi-Z）になっています。
③ 該当するポートの出力ラッチに1を設定します。
④ POM0, POM1, POM8レジスタの該当ビットを1に設定し，N-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧[注1]／$EV_{DD}$耐圧[注2]）モードに設定します。
⑤ シリアル・アレイ・ユニットを動作許可し，UART/簡易SPI (CSI)モードに設定します。
⑥ PM0, PM1, PM8レジスタを操作して出力モードに設定します。
この時点では，出力データはハイ・レベルであるため，端子はHi-Z状態となっています。

注1.　80ピン製品の場合
　2.　100ピン製品の場合

（3）IIC00, IIC10機能の入出力ポートを，異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）で使用する場合の設定手順

IIC00の場合　：P05, P06（P15, P16）
IIC10の場合　：P02, P03（P80, P81）

備考　（ ）内の端子は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。

① 使用する入力端子を外部抵抗を介して，対象デバイスの電源にプルアップします（内蔵プルアップ抵抗は使用不可）。
② リセット解除後，ポート・モードは入力モード（Hi-Z）になっています。
③ 該当するポートの出力ラッチに1を設定します。
④ POM0, POM1, POM8レジスタの該当ビットを1に設定し，N-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧[注1]／$EV_{DD}$耐圧[注2]）モードに設定します。
⑤ PIM0，PIM1，PIM8レジスタの該当ビットを1に設定し，TTL入力バッファに切り換えます。なお，VIH，VILは，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。
⑥ シリアル・アレイ・ユニットを動作許可し，簡易$I^2C$モードに設定します。
⑦ PM0, PM1, PM8レジスタの該当ビットを出力モードに設定します（出力モードのままでデータ入出力可能）。この時点では，出力データはハイ・レベルであるため，端子はHi-Z状態となっています。

注1.　80ピン製品の場合
　2.　100ピン製品の場合

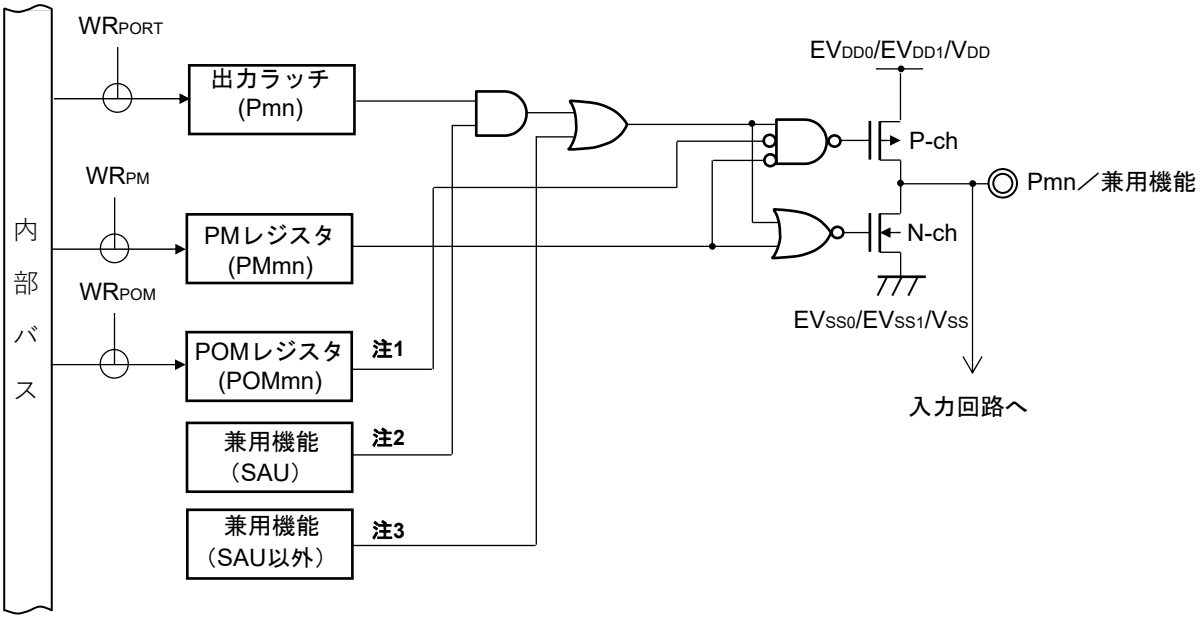
# 4. 5　兼用機能使用時のレジスタの設定

## 4. 5. 1　兼用機能使用時の基本的な考え方

最初に，アナログ入力と兼用している端子については，アナログ入力で使用するかデジタル入出力で使用するかをADPCレジスタで設定してください。

デジタル入出力で使用する端子の出力回路の基本的な構成を図4－11に示します。ポートの出力ラッチの出力と兼用しているSAU機能の出力はANDゲートに入力されます。ANDゲートの出力はORゲートに入力されます。ORゲートのほかの入力には，兼用しているSAU以外の機能（TAU，RTC2，クロック／ブザー出力，IICA等）の出力が接続されています。このような端子をポート機能または兼用機能として使用する場合には，使用しない兼用機能が使用したい機能の出力を邪魔しないようになっている必要があります。このときの基本的な設定の考え方を表4－5に示します。

図4－11　端子の出力回路の基本的な構成




注1.　POMレジスタがない場合には，この信号はLow（0）と考えてください。

2.　兼用機能がない場合には，この信号はHigh（1）と考えてください。

3.　兼用機能がない場合には，この信号はLow（0）と考えてください。

備考　m：ポート番号（m = 0-8, 12, 13），n：ビット番号（n = 0-7）

表4－5　基本的な設定の考え方

| 使用する端子の出力機能 | 使用しない兼用機能の出力設定 | | |
|---|---|---|---|
| | ポート機能 | SAUの出力機能 | SAU以外の出力機能 |
| ポート出力機能 | － | 出力はHigh（1） | 出力はLow（0） |
| SAUの出力機能 | High（1） | － | 出力はLow（0） |
| SAU以外の出力機能 | Low（0） | 出力はHigh（1） | 出力はLow（0）注 |

**注**　1つの端子にSAU以外の出力機能が複数兼用になっていることがあるので，使用しない兼用機能の出力はLow（0）にしておく必要があります。具体的な設定方法については，4. 5. 2　出力機能を使用しない兼用機能のレジスタ設定を参照してください。

## 4. 5. 2　出力機能を使用しない兼用機能のレジスタ設定

端子の兼用機能の出力を使用しない場合には，次に示す設定を行ってください。なお，周辺I/Oリダイレクト機能の対象になっている場合には，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）を設定することで，出力を他の端子に切り替えることもできます。これにより，対象の端子に割り当てられたポート機能や他の兼用機能を使用することが可能となります

(1) SOp＝1/TxDq＝1（SAUのシリアル出力（SOp/TxDq）を使用しない場合の設定）
SAUをシリアル入力のみで使用するなど，シリアル出力（SOp/TxDq）を使用しない場合は，使用しない出力に対応したシリアル出力許可レジスタm（SOEm）のビットを0（出力禁止）に設定し，シリアル出力レジスタm（SOm）のSOmnビットを1（High）に設定してください。これは初期状態と同じ設定です。

(2) SCKp＝1/SDAr＝1/SCLr＝1（SAUのチャネルnを使用しない場合の設定）
SAUを使用しない場合は，シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）のビットn（SEmn）を0（動作停止状態）に設定し，使用しない出力に対応したシリアル出力許可レジスタm（SOEm）のビットを0（出力禁止）に設定し，シリアル出力レジスタm（SOm）のSOmnビットとCKOmnビットを1（High）に設定してください。これは初期状態と同じ設定です。

(3) TOmn＝0（TAUのチャネルnの出力を使用しない場合の設定）
TAUのTOmn出力を使用しない場合は，使用しない出力に対応したタイマ出力許可レジスタ0（TOE0）のビットを0（出力禁止），タイマ出力レジスタ0（TO0）のビットを0（Low）に設定してください。これは初期状態と同じ設定です。

(4) SDAAn＝0/SCLAn＝0（IICAを使用しない場合の設定）
IICAを使用しない場合は，IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のIICEnビットを0（動作停止）にしてください。これは初期状態と同じ設定です。

(5) PCLBUZn＝0（クロック出力/ブザー出力を使用しない場合の設定）
クロック出力/ブザー出力を使用しない場合は，クロック出力選択レジスタn（CKSn）のPCLOEnビットを0（出力禁止）にしてください。これは初期状態と同じ設定です。

(6) VCOUTn＝0（VCOUTnを使用しない場合の設定）
コンパレータのVCOUTnを使用しない場合は，コンパレータ出力制御レジスタ（COMPOCR）のビット5, 1を0（コンパレータnのVCOUTn端子出力禁止）に設定してください。これば初期状態と同じ設定です。

### 4. 5. 3　使用するポート機能および兼用機能のレジスタ設定例

使用するポート機能および兼用機能のレジスタ設定例を表4－6に示します。ポート機能を制御するレジスタを表4－6のように設定してください。なお，表4－6の表記については次の備考を参照してください。

備考　－　：対象外
×　：don’t care
PIOR×　：周辺I/Oリダイレクション・レジスタ
POM××　：ポート出力モード・レジスタ
PM××　：ポート・モード・レジスタ
P××　：ポートの出力ラッチ
PU××　：プルアップ抵抗オプション・レジスタ
PIM××　：ポート入力モード・レジスタ
PFSEG××　：LCDポート・ファンクション・レジスタ
ISCLCD　：LCD入力切り替え制御レジスタ

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（1/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | PIOR× | POM×× | PM×× | P×× | PFSEG××（ISCVL3, ISCCAP）注 | 兼用機能出力 | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | | | SAUの出力機能 | SAU以外 | | |
| P00 | P00 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | RxD2 | 入力 | × | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | IrRxD | 入力 | × | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | VCOUT0 | アナログ出力 | PIOR3=0 | － | 0 | 0 | 0 | － | － | | |
| P01 | P01 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | TxD2/IrTxD=1 | － | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | TxD2 | 出力 | × | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| | IrTxD | 出力 | × | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| | VCOUT1 | アナログ出力 | PIOR3=0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TxD2/IrTxD=1 | － | | |
| P02 | P02 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | SCL10=1 | TO07=0 | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SCL10 | 出力 | PIOR2=0 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | TO07=0 | | |
| | TI07 | 入力 | PIOR0=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TO07 | 出力 | PIOR0=0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SCL10=1 | － | | |
| | INTP5 | 入力 | PIOR4=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | SEG32 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | － | ○ | × |
| P03 | P03 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | SDA10=1 | TO06=0 | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | RxD1 | 入力 | PIOR2=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TI06 | 入力 | PIOR0=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TO06 | 出力 | PIOR0=0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SDA10=1 | － | | |
| | SDA10 | 入出力 | PIOR2=0 | 1 | 0 | 1 | 0 | － | TO06=0 | | |
| | (VCOUT0) | アナログ出力 | PIOR3=1 | 0 | 0 | 0 | 0 | － | － | | |
| | SEG33 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | － | ○ | × |
| P04 | P04 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | TxD1=1 | TO05=0 | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | TxD1 | 出力 | PIOR2=0 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | TO05=0 | | |
| | TI05 | 入力 | PIOR0=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TO05 | 出力 | PIOR0=0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TxD1=1 | － | | |
| | INTP4 | 入力 | PIOR4=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | (VCOUT1) | アナログ出力 | PIOR3=1 | 0 | 0 | 0 | 0 | － | － | | |
| | SEG34 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | － | ○ | × |
| P05 | P05 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | SCK00/SCL00=1 | TO04=0 | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SCK00 | 入力 | PIOR1=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | | 出力 | | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | TO04=0 | | |
| | SCL00 | 出力 | PIOR1=0 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | TO04=0 | | |
| | TI04 | 入力 | PIOR0=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TO04 | 出力 | PIOR0=0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SCK00/SCL00=1 | － | | |
| | INTP3 | 入力 | PIOR4=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | SEG35 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | － | ○ | × |

注　ISCVL3はP125, ISCCAPはP126, P127に対応するレジスタです。

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（2/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | PIOR× | POM×× | PM×× | P×× | PFSEG××（ISCVL3, ISCCAP）注 | 兼用機能出力 | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | | | SAUの出力機能 | SAU以外 | | |
| P06 | P06 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | SDA00=1 | TO03=0 | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SI00 | 入力 | PIOR1=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | RxD0 | 入力 | PIOR1=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TI03 | 入力 | PIOR0=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TO03 | 出力 | PIOR0=0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SDA00=1 | － | | |
| | SDA00 | 入出力 | PIOR1=0 | 1 | 0 | 1 | 0 | － | TO03=0 | | |
| | TOOLRxD | 入力 | × | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | SEG36 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | － | ○ | × |
| P07 | P07 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | SO00/TxD0=1 | TO02=0 | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SO00 | 出力 | PIOR1=0 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | TO02=0 | | |
| | TxD0 | 出力 | PIOR1=0 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | TO02=0 | | |
| | TI02 | 入力 | PIOR0=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TO02 | 出力 | PIOR0=0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SO00/TxD0=1 | － | | |
| | INTP2 | 入力 | PIOR4=0 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | TOOLTxD | 出力 | × | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| | SEG37 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | － | ○ | × |
| P10 | P10 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG4 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P11 | P11 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG5 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P12 | P12 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG6 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P13 | P13 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG7 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P14 | P14 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG8 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P15 | P15 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | (SCK00/SCL00)=1 | － | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SEG9 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (SCK00) | 入力 | PIOR1=1 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | | 出力 | PIOR1=1 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| | (SCL00) | 出力 | PIOR1=1 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| P16 | P16 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | (SDA00)=1 | － | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SEG10 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | | | |
| | (SI00) | 入力 | PIOR1=1 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | (RxD0) | 入力 | PIOR1=1 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | (SDA00) | 入出力 | PIOR1=1 | 1 | 0 | 0 | 0 | － | － | | |

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（3/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | PIOR× | POM×× | PM×× | P×× | PFSEG×× | 兼用機能出力 | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | | （ISCVL3, ISCCAP）注 | SAUの出力機能 | SAU以外 | | |
| P17 | P17 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | (SO00/TxD0)=1 | － | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SEG11 | 出力 | × | 0 | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (SO00) | 出力 | PIOR1=1 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| | (TxD0) | 出力 | PIOR1=1 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |

注　ISCVL3はP125, ISCCAPはP126, P127に対応するレジスタです。

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（4/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | ADPC | ADM2 | PM×× | P×× | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | | | |
| P20 | P20 | 入力 | 01H | × | 1 | × | ○ | ○ |
| | | 出力 | 01H | × | 0 | 0/1 | | |
| | ANI0 | アナログ入力 | 00H/02H～06H | 00x0xx0xB<br>10x0xx0xB | 1 | × | | |
| | $AV_{REFP}$ | 基準電圧入力 | 00H/02H～06H | 01x0xx0xB | 1 | × | | |
| P21 | P21 | 入力 | 01H/02H | × | 1 | × | ○ | ○ |
| | | 出力 | 01H/02H | × | 0 | 0/1 | | |
| | ANI1 | アナログ入力 | 00H/03H～06H | xx00xx0xB | 1 | × | | |
| | $AV_{REFM}$ | 基準電圧入力 | 00H/03H～06H | xx10xx0xB | 1 | × | | |
| P22 | P22 | 入力 | 01H～03H | × | 1 | × | ○ | ○ |
| | | 出力 | 01H～03H | × | 0 | 0/1 | | |
| | ANI2 | アナログ入力 | 00H/04H～06H | × | 1 | × | | |
| | IVCMP0 | アナログ入力 | 00H/04H～06H | × | 1 | × | | |
| | IVREF1 | アナログ入力 | 00H/04H～06H | × | 1 | × | | |
| P23 | P23 | 入力 | 01H～04H | × | 1 | × | ○ | ○ |
| | | 出力 | 01H～04H | × | 0 | 0/1 | | |
| | ANI3 | アナログ入力 | 00H/05H/06H | × | 1 | × | | |
| | IVCMP1 | アナログ入力 | 00H/05H/06H | × | 1 | × | | |
| | IVREF0 | アナログ入力 | 00H/05H/06H | × | 1 | × | | |
| P24 | P24 | 入力 | 01H～05H | × | 1 | × | × | ○ |
| | | 出力 | 01H～05H | × | 0 | 0/1 | | |
| | ANI4 | アナログ入力 | 00H/06H | × | 1 | × | | |
| P25 | P25 | 入力 | 01H～06H | × | 1 | × | × | ○ |
| | | 出力 | 01H～06H | × | 0 | 0/1 | | |
| | ANI5 | アナログ入力 | 00H | × | 1 | × | | |

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（5/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | PIOR× | POM×× | PM×× | P×× | PFSEG××（ISCVL3, ISCCAP）注 | 兼用機能出力 | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | | | SAUの出力機能 | SAU以外 | | |
| P30 | P30 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | (TI07)=0 | | |
| | SEG24 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (TI07) | 入力 | PIOR0=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | (TO07) | 出力 | PIOR0=1 | － | 0 | 0 | 0 | － | － | | |
| P31 | P31 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | (TI06)=0 | | |
| | SEG25 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (TI06) | 入力 | PIOR0=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | (TO06) | 出力 | PIOR0=1 | － | 0 | 0 | 0 | － | － | | |
| P32 | P32 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | (PCLBUZ1)=0 | | |
| | SEG26 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (PCLBUZ1) | 出力 | PIOR3=1 | － | 0 | 0 | 0 | － | － | | |
| P33 | P33 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 0 | － | (PCLBUZ0)=0 | | |
| | SEG27 | 出力 | × | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (PCLBUZ0) | 出力 | PIOR3=1 | － | 0 | 0 | 0 | － | － | | |
| P34 | P34 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG28 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P35 | P35 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG29 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P36 | P36 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG30 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P37 | P37 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG31 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P40 | P40 | 入力 | － | － | 1 | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | － | － | － | | |
| | TOOL0 | 入出力 | × | － | × | × | － | － | － | | |
| P41 | P41 | 入力 | － | － | 1 | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | － | － | TO01=0<br>PCLBUZ1=0 | | |
| | TI01 | 入力 | PIOR0=0 | － | 1 | × | － | － | － | | |
| | TO01 | 出力 | PIOR0=0 | － | 0 | 0 | － | － | PCLBUZ1=0 | | |
| | PCLBUZ1 | 出力 | PIOR3=0 | － | 0 | 0 | － | － | TO01=0 | | |
| P42 | P42 | 入力 | － | － | 1 | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | － | － | － | | |
| | INTP7 | 入力 | PIOR4=0 | － | 1 | × | － | － | － | | |
| P43 | P43 | 入力 | － | － | 1 | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | － | － | TO00=0<br>PCLBUZ0=0 | | |
| | TI00 | 入力 | PIOR0=0 | － | 1 | × | － | － | － | | |
| | TO00 | 出力 | PIOR0=0 | － | 0 | 0 | － | － | PCLBUZ0=0 | | |
| | PCLBUZ0 | 出力 | PIOR3=0 | － | 0 | 0 | － | － | TO00=0 | | |
| P44 | P44 | 入力 | － | － | 1 | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | － | － | － | | |
| | INTP6 | 入力 | PIOR4=0 | － | 1 | × | － | － | － | | |

注　ISCVL3はP125, ISCCAPはP126, P127に対応するレジスタです。

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（6/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | PIOR× | POM×× | PM×× | P×× | PFSEG×× | 兼用機能出力 | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | | （ISCVL3, ISCCAP）注 | SAUの出力機能 | SAU以外 | | |
| P50 | P50 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG32 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P51 | P51 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG33 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P52 | P52 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG34 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P53 | P53 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG35 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P54 | P54 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG36 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P55 | P55 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG37 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P56 | P56 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG38 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P57 | P57 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG39 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P60 | P60 | 入力 | － | － | 1 | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | | N-chOD出力（6 V耐圧） | × | － | 0 | 0/1 | － | － | SCLA0=0 (TO00)=0 | | |
| | SCLA0 | 入出力 | × | － | 0 | 0 | － | － | (TO00)=0 | | |
| | (TI00) | 入力 | PIOR0=1 | － | 1 | × | － | － | － | | |
| | (TO00) | 出力 | PIOR0=1 | － | 0 | 0 | － | － | SCLA0=0 | | |
| P61 | P61 | 入力 | － | － | 1 | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | | N-chOD出力（6 V耐圧） | × | － | 0 | 0/1 | － | － | SDAA0=0 (TO01)=0 | | |
| | SDAA0 | 入出力 | × | － | 0 | 0 | － | － | (TO01)=0 | | |
| | (TI01) | 入力 | PIOR0=1 | － | 1 | × | － | － | － | | |
| | (TO01) | 出力 | PIOR0=1 | － | 0 | 0 | － | － | SDAA0=0 | | |
| P62 | P62 | 入力 | － | － | 1 | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | | N-chOD出力（6 V耐圧） | × | － | 0 | 0/1 | － | － | (TO02)=0 (RTC1HZ)=0 | | |
| | (TI02) | 入力 | PIOR0=1 | － | 1 | × | － | － | － | | |
| | (TO02) | 出力 | PIOR0=1 | － | 0 | 0 | － | － | (RTC1HZ)=0 | | |
| | (RTC1HZ) | 出力 | PIOR3=1 | － | 0 | 0 | － | － | (TO02)=0 | | |
| P70 | P70 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG16 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (INTP0) | 入力 | PIOR4=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| P71 | P71 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG17 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (INTP1) | 入力 | PIOR4=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |

注　ISCVL3はP125, ISCCAPはP126, P127に対応するレジスタです。

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（7/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | PIOR× | POM×× | PM×× | P×× | PFSEG×× | 兼用機能出力 | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | | （ISCVL3, ISCCAP）注 | SAUの出力機能 | SAU以外 | | |
| P72 | P72 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG18 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (INTP2) | 入力 | PIOR4=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| P73 | P73 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG19 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (INTP3) | 入力 | PIOR4=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| P74 | P74 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG20 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (INTP4) | 入力 | PIOR4=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| P75 | P75 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG21 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (INTP5) | 入力 | PIOR4=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| P76 | P76 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG22 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (INTP6) | 入力 | PIOR4=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| P77 | P77 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG23 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (INTP7) | 入力 | PIOR4=1 | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| P80 | P80 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | (SCL10)=1 | － | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SEG12 | 出力 | × | × | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (SCL10) | 出力 | PIOR2=1 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| P81 | P81 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | (SDA10)=1 | － | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SEG13 | 出力 | × | × | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (RxD1) | 入力 | PIOR2=1 | × | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | (SDA10) | 入出力 | PIOR2=1 | 1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| P82 | P82 | 入力 | － | × | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | 0 | 0 | 0/1 | 0 | (TxD1)=1 | － | | |
| | | N-chOD出力 | × | 1 | 0 | 0/1 | 0 | | | | |
| | SEG14 | 出力 | × | × | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| | (TxD1) | 出力 | PIOR2=1 | 0/1 | 0 | 1 | 0 | － | － | | |
| P83 | P83 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG15 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P84 | P84 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG40 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P85 | P85 | 入力 | － | － | 1 | × | 0 | － | － | × | ○ |
| | | 出力 | － | － | 0 | 0/1 | 0 | － | － | | |
| | SEG41 | 出力 | － | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |

注　ISCVL3はP125, ISCCAPはP126, P127に対応するレジスタです。

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（8/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | CMC (EXCLK,OSCSEL,EXCLKS,OSCSELS) | P×× | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | |
| P121 | P121 | 入力 | 00xx/10xx/11xx | × | ○ | ○ |
| | X1 | － | 01xx | － | | |
| P122 | P122 | 入力 | 00xx/10xx/11xx | × | ○ | ○ |
| | X2 | － | 01xx | － | | |
| | EXCLK | 入力 | 11xx | － | | |
| P123 | P123 | 入力 | xx00/xx10/xx11 | × | ○ | ○ |
| | XT1 | － | xx01 | － | | |
| P124 | P124 | 入力 | xx00/xx10/xx11 | × | ○ | ○ |
| | XT2 | － | xx01 | － | | |
| | EXCLKS | 入力 | xx11 | － | | |

表4－6　端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（9/9）

| 端子名称 | 使用機能 | | PIOR× | POM×× | PM×× | P×× | PFSEG××（ISCVL3, ISCCAP）注 | 兼用機能出力 | | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機能名称 | 入出力 | | | | | | SAUの出力機能 | SAU以外 | | |
| P125 | P125 | 入力 | － | － | 1 | × | 1 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 1 | － | (TO05)=0 | | |
| | $V_{L3}$ | － | × | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | INTP1 | 入力 | PIOR4=0 | － | 1 | × | 1 | － | － | | |
| | (TI05) | 入力 | PIOR0=1 | － | 1 | × | 1 | － | － | | |
| | (TO05) | 出力 | PIOR0=1 | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P126 | P126 | 入力 | － | － | 1 | × | 1 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 1 | － | (TO04)=0 | | |
| | CAPL | － | × | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | (TI04) | 入力 | PIOR0=1 | － | 1 | × | 1 | － | － | | |
| | (TO04) | 出力 | PIOR0=1 | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P127 | P127 | 入力 | － | － | 1 | × | 1 | － | － | ○ | ○ |
| | | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | 1 | － | (TO03)=0 | | |
| | CAPH | － | × | － | 1 | × | 0 | － | － | | |
| | (TI03) | 入力 | PIOR0=1 | － | 1 | × | 1 | － | － | | |
| | (TO03) | 出力 | PIOR0=1 | － | 0 | 0 | 1 | － | － | | |
| P130 | P130 | 出力 | × | － | 0 | 0/1 | － | － | RTC1HZ=0 | ○ | ○ |
| | RTC1HZ | 出力 | PIOR3=0 | － | 0 | 0 | － | － | － | | |
| P137 | P137 | 入力 | × | － | － | × | － | － | － | ○ | ○ |
| | INTP0 | 入力 | PIOR4=0 | － | － | × | － | － | － | | |

注　ISCVL3はP125, ISCCAPはP126, P127に対応するレジスタです。

### 4. 5. 4　SEGxx端子兼用ポートの動作

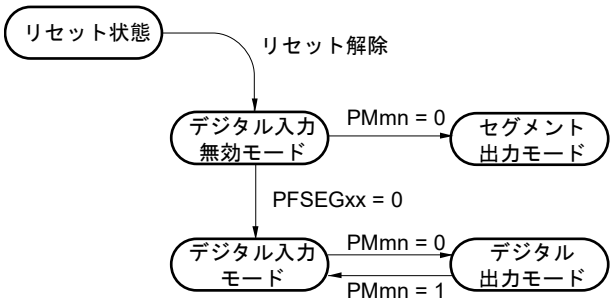
セグメント出力端子（SEGxx）を兼用するポートの機能は，ポート・モード・レジスタ（PMxx），LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5）の設定で決定します。

表4－7　SEGxx/ポート端子機能の設定

| PFSEG0-PFSEG5レジスタのPFSEGxxビット | PMxxレジスタのPMxxビット | 端子機能 | 初期状態 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | デジタル入力無効モード | ○ |
| 0 | 0 | デジタル出力モード | – |
| 0 | 1 | デジタル入力モード | – |
| 1 | 0 | セグメント出力モード | – |

SEGxx/ポート端子機能の状態遷移を次に示します。

図4－12　SEGxx/ポート端子機能の状態遷移図




注意　セグメント出力モードに設定する場合は，セグメント出力開始前（LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のSCOC = 0の期間）に設定してください。

### 4. 5. 5　$V_{L3}$, CAPL, CAPH端子兼用ポートの動作

$V_{L3}$/P125, CAPL/P126, CAPH/P127端子の機能は，LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD），LCDモード・レジスタ0（LCDM0），ポート・モード・レジスタ12（PM12）の設定で決定します。

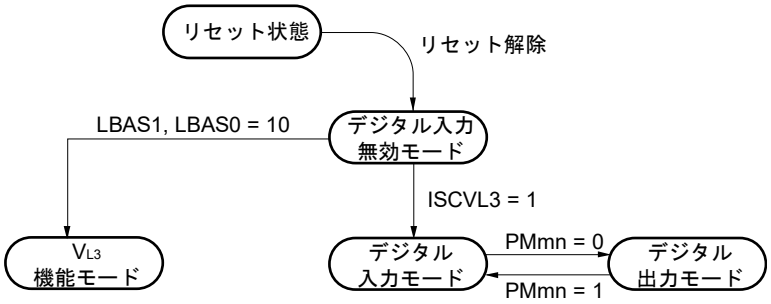
（1）　$V_{L3}$/P125

表4－8　$V_{L3}$/P125端子機能の設定

| バイアス設定（LCDM0レジスタのLBAS1, LBAS0ビット） | ISCLCDレジスタのISCVL3ビット | PM12レジスタのPM125ビット | 端子機能 | 初期状態 |
|---|---|---|---|---|
| 1/4バイアス法以外（LBAS1，LBAS0 = 00または01） | 0 | 1 | デジタル入力無効モード | ○ |
| | 1 | 0 | デジタル出力モード | – |
| | 1 | 1 | デジタル入力モード | – |
| 1/4バイアス法（LBAS1, LBAS0 = 10） | 0 | 1 | $V_{L3}$機能モード | – |
| 上記以外 | | | 設定禁止 | |

$V_{L3}$/P125端子機能の状態遷移を次に示します。

図4－13　$V_{L3}$/P125端子機能の状態遷移図




注意　$V_{L3}$機能モードに設定する場合は，セグメント出力開始前（LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のSCOC = 0の期間）に設定してください。

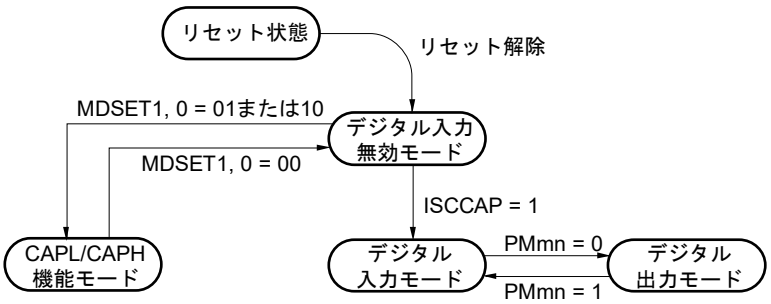
（2）　CAPL/P126, CAPH/P127

表4－9　CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の設定

| LCD駆動電圧生成回路（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット） | ISCLCDレジスタのISCCAPビット | PM12レジスタのPM126, PM127ビット | 端子機能 | 初期状態 |
|---|---|---|---|---|
| 外部抵抗分割（MDSET1, MDSET0 = 00） | 0 | 1 | デジタル入力無効モード | ○ |
| | 1 | 0 | デジタル出力モード | – |
| | 1 | 1 | デジタル入力モード | – |
| 内部昇圧／容量分割（MDSET1, MDSET0 = 01または10） | 0 | 1 | CAPL/CAPH機能モード | – |
| 上記以外 | | | 設定禁止 | |

CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の状態遷移を次に示します。

図4－14　CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の状態遷移図




注意　CAPL/CAPH機能モードに設定する場合は，セグメント出力開始前（LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のSCOC = 0の期間）に設定してください。

# 4. 6　ポート機能使用時の注意事項

## 4. 6. 1　ポート・レジスタn（Pn）に対する1ビット・メモリ操作命令に関する注意事項

入力／出力が混在しているポートに対して1ビット・メモリ操作命令を行った場合，操作対象のビットだけでなく，操作対象ではない入力ポートの出力ラッチの値も書き換わる可能性があります。

そのため，任意のポートを入力モードから出力モードに切り替える前には，出力ラッチの値を書き直すことを推奨します。

＜例＞ P10は出力ポート，P11-P17は入力ポート（端子状態はすべてハイ・レベル）で，かつポート1の出力ラッチの値が“00H”のとき，出力ポートP10の出力を1ビット・メモリ操作命令により“ロウ・レベル”→“ハイ・レベル”とすると，ポート1の出力ラッチの値は，“FFH”になります。

説明： PMnmビット ＝1であるポートのPnレジスタへの書き込みの対象は出力ラッチ，読み出しの対象は端子状態です。

1ビット・メモリ操作命令はRL78/I1B内部で，次の順序で行われます。

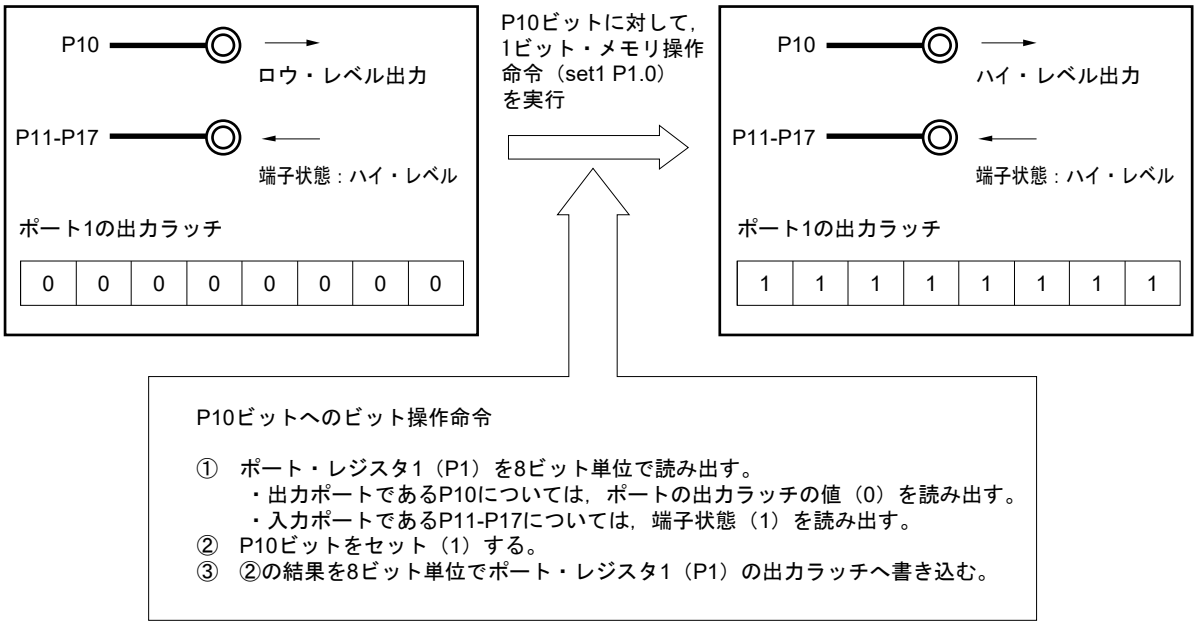
<1> Pnレジスタを8ビット単位で読み出し
<2> 対象の1ビットを操作
<3> Pnレジスタへ8ビット単位で書き込み

<1> のとき，出力ポートであるP10は出力ラッチの値（0）を読み出し，入力ポートであるP11-P17は端子状態を読み出します。このときP11-P17の端子状態が“ハイ･レベル”とすると，読み出し値は“FEH”となります。

<2> の操作で，値は“FFH”となります。

<3> の操作で，出力ラッチに“FFH”が書き込まれます。

図4－15　1ビット・メモリ操作命令（P10の場合）



### 4. 6. 2　端子設定に関する注意事項

使用する出力端子に，他の兼用出力機能が割り当てられている場合，使用しない兼用機能の出力を初期状態と同じにする必要があります（出力の衝突を回避）。周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当てられた機能も同様です。兼用出力については，4. 5　兼用機能使用時のレジスタの設定を参照してください。

入力として使用する端子では，兼用の出力機能が無効（バッファ出力がHi-Z）となるので，処理不要です。

なお，入力だけや出力のないブロックを含めて，低消費電力化のために，使用しない機能は停止させることをおすすめします。

# 第5章　クロック発生回路

## 5. 1　クロック発生回路の機能

クロック発生回路は，CPUおよび周辺ハードウエアに供給するクロックを発生する回路です。
システム・クロックおよびクロック発振回路には，次の種類があります。

（1）メイン・システム・クロック

① X1発振回路

X1端子，X2端子に発振子を接続することにより，$f_X$ = 1～20 MHzのクロックを発振させることができます。STOP命令の実行またはMSTOPビット（クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のビット7）の設定により，発振を停止することができます。

② 高速オンチップ・オシレータ

オプション・バイト（000C2H）により，$f_{IH}$ = 24 MHz/12 MHz/6 MHz/3 MHz（TYP.）から周波数を選択し，発振させることができます。リセット解除後，CPUは必ずこの高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作を開始します。STOP命令の実行またはHIOSTOPビット（CSCレジスタのビット0）の設定により，発振を停止することができます。

オプション・バイトで設定した周波数は，高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）で変更できます。周波数は，図5－10　高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）のフォーマットを参照してください。

次に，高速オンチップ・オシレータで設定できる発振周波数を示します（オプション・バイトと高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）で選択できるバリエーション）。

| 電源電圧 | 発振周波数（MHz） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | 6 | 12 | 24 |
| 2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | ○ | ○ | ○ | － |
| 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | ○ | ○ | － | － |

また，EXCLK/X2/P122端子から外部メイン・システム・クロック（$f_{EX}$ = 1～20 MHz）を供給することができます。STOP命令の実行またはMSTOPビットの設定により，外部メイン・システム・クロック入力を無効にすることができます。

メイン・システム・クロックは，MCM0ビット（システム・クロック制御レジスタ（CKC）のビット4）の設定により，高速システム・クロック（X1クロックまたは外部メイン・システム・クロック）と高速オンチップ・オシレータ・クロックを切り替えられます。

なお、メイン・システム・クロックは、電源電圧VDDによって使用可能な周波数範囲が異なり、オプション・バイト（000C2H）のCMODE0、CMODE1 によりフラッシュの動作電圧モードの設定( 第３２章　オプション・バイト参照）が必要です。

（2）サブシステム・クロック

・XT1発振回路

XT1端子，XT2端子に32.768 kHzの発振子を接続することにより，$f_{XT}$ = 32.768 kHzのクロックを発振させることができます。XTSTOPビット（クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のビット6）の設定により，発振を停止することができます。

また，EXCLKS/XT2/P124端子から外部サブシステム・クロック（$f_{EXS}$ = 32.768 kHz）を供給することができます。XTSTOPビットの設定により，外部サブシステム・クロック入力を無効にすることができます。

（3）低速オンチップ・オシレータ・クロック

$f_{IL}$ = 15 kHz（TYP.）のクロックを発振させることができます。

低速オンチップ・オシレータ・クロックをCPUクロックとして使用することはできません。

低速オンチップ・オシレータ・クロックで動作するのは，次の周辺ハードウエアのみです。

・ウォッチドッグ・タイマ
・リアルタイム・クロック2（高精度1 Hz出力機能除く）
・12ビット・インターバル・タイマ
・発振停止検出回路
・LCDコントローラ／ドライバ

オプション・バイト（000C0H）のビット4（WDTON）または，サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のビット4（WUTMMCK0）のどちらか，または両方が1のときに動作します。

ただし，WDTON = 1，WUTMMCK0 = 0かつオプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON）が0のときに，HALT命令またはSTOP命令を実行した場合，低速オンチップ・オシレータは発振を停止します。

注意1. リアルタイム・クロック2のカウント・クロックに低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$）を選択できるのは，定周期割り込み機能使用時のみです。

2. 発振停止検出回路を使用する場合は，低速オンチップ・オシレータ・クロックを常時動作させるために，OSMCレジスタのビット4（WUTMMCK0）を1に設定するか，オプション・バイト（000C0H）のビット4（WDTON）とビット0（WDSTBYON）を1に設定する必要があります。

備考 $f_X$ ：X1クロック発振周波数
$f_{IH}$ ：高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
$f_{EX}$ ：外部メイン・システム・クロック周波数
$f_{XT}$ ：XT1クロック発振周波数
$f_{EXS}$ ：外部サブシステム・クロック周波数
$f_{IL}$ ：低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

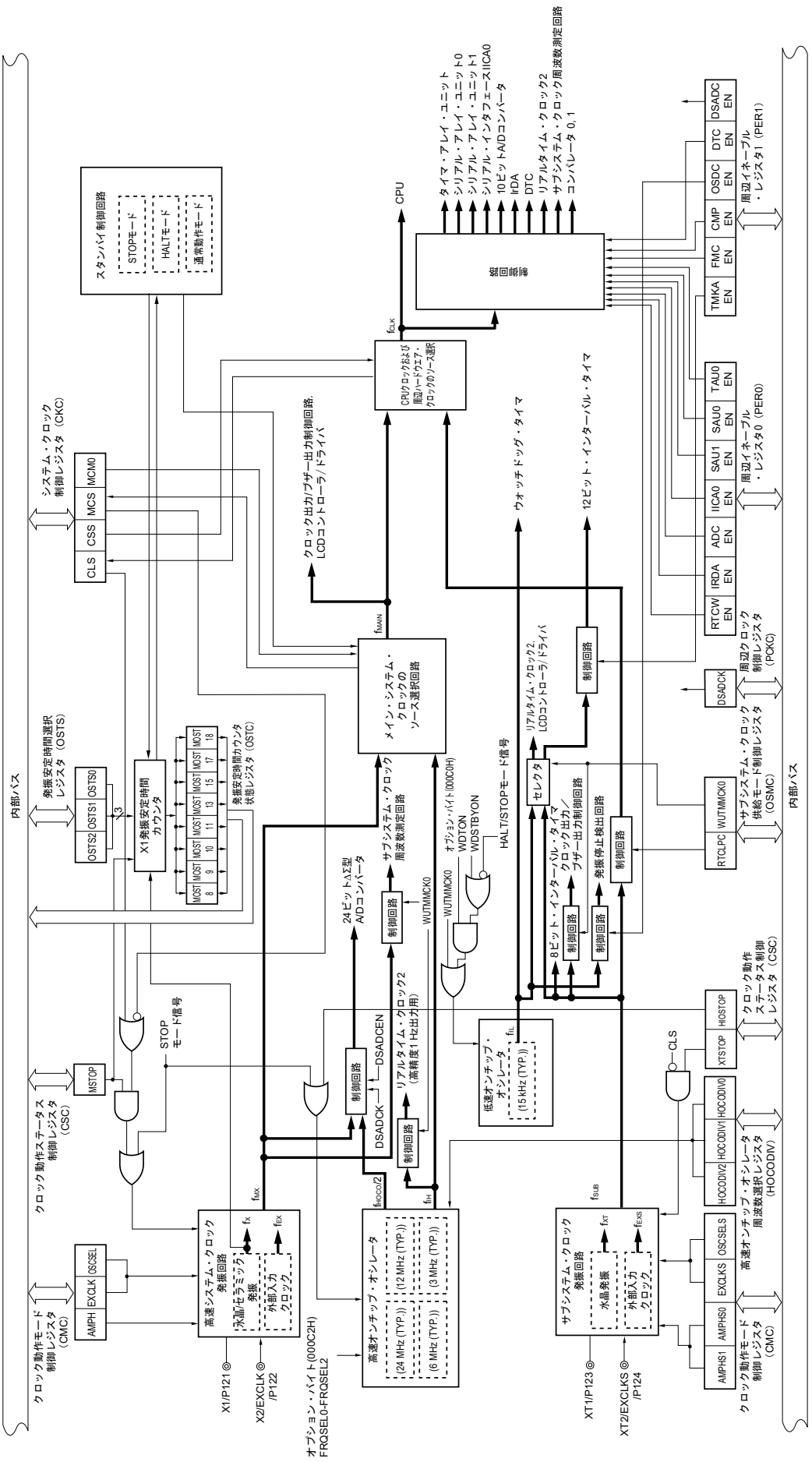
## 5. 2　クロック発生回路の構成

クロック発生回路は，次のハードウエアで構成しています。

表5－1　クロック発生回路の構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | クロック動作モード制御レジスタ（CMC）<br>システム・クロック制御レジスタ（CKC）<br>クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）<br>発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）<br>発振安定時間選択レジスタ（OSTS）<br>周辺イネーブル・レジスタ0, 1（PER0, PER1）<br>サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）<br>高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）<br>周辺クロック制御レジスタ（PCKC） |
| 発振回路 | X1発振回路<br>XT1発振回路<br>高速オンチップ・オシレータ<br>低速オンチップ・オシレータ |

図5－1　クロック発生回路のブロック図




（備考は次ページにあります。）

備考 $f_X$ ：X1クロック発振周波数

$f_{HOCO}$ ：専用クロック周波数（24 MHz）

$f_{IH}$ ：高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数（24/12/6/3 MHz）

$f_{EX}$ ：外部メイン・システム・クロック周波数

$f_{MX}$ ：高速システム・クロック周波数

$f_{MAIN}$ ：メイン・システム・クロック周波数

$f_{XT}$ ：XT1クロック発振周波数

$f_{EXS}$ ：外部サブシステム・クロック周波数

$f_{SUB}$ ：サブシステム・クロック周波数注

$f_{CLK}$ ：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

$f_{IL}$ ：低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

注 WUTMMCK0ビット = 1設定時に，クロック出力／ブザー出力制御回路の出力クロックとして$f_{SUB}$を選択することは禁止です。

## 5. 3　クロック発生回路を制御するレジスタ

クロック発生回路は，次の9種類のレジスタで制御します。

・クロック動作モード制御レジスタ（CMC）
・システム・クロック制御レジスタ（CKC）
・クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）
・発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）
・発振安定時間選択レジスタ（OSTS）
・周辺イネーブル・レジスタ0, 1（PER0, PER1）
・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）
・高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）
・周辺クロック制御レジスタ（PCKC）

### 5. 3. 1　クロック動作モード制御レジスタ（CMC）

X1/P121, X2/EXCLK/P122端子およびXT1/P123, XT2/EXCLKS/P124端子の動作モードの設定と，発振回路のゲインを選択するレジスタです。

CMCレジスタは，リセット解除後，8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。読み出す場合は，8ビット・メモリ操作命令で操作可能です。

リセット信号の発生により，00Hになります

注意 EXCLKS, OSCSELS, AMPHS1, AMPHS0ビットはパワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化され，その他のリセット要因では，値を保持します。

図5－2　クロック動作モード制御レジスタ（CMC）のフォーマット

アドレス：FFFA0H　　リセット時：00H注　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CMC | EXCLK | OSCSEL | EXCLKS注 | OSCSELS注 | 0 | AMPHS1注 | AMPHS0注 | AMPH |

| EXCLK | OSCSEL | 高速システム・クロック端子の動作モード | X1/P121端子 | X2/EXCLK/P122端子 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 入力ポート・モード | 入力ポート | |
| 0 | 1 | X1発振モード | 水晶／セラミック発振子接続 | |
| 1 | 0 | 入力ポート・モード | 入力ポート | |
| 1 | 1 | 外部クロック入力モード | 入力ポート | 外部クロック入力 |

| EXCLKS | OSCSELS | サブシステム・クロック端子の動作モード | XT1/P123端子 | XT2/EXCLKS/P124端子 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 入力ポート・モード | 入力ポート | |
| 0 | 1 | XT1発振モード | 水晶振動子接続 | |
| 1 | 0 | 入力ポート・モード | 入力ポート | |
| 1 | 1 | 外部クロック入力モード | 入力ポート | 外部クロック入力 |

| AMPHS1 | AMPHS0 | XT1発振回路の発振モード選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 低消費発振（デフォルト） |
| 0 | 1 | 通常発振 |
| 1 | 0 | 超低消費発振 |
| 1 | 1 | 設定禁止 |

| AMPH | X1クロック発振周波数の制御 |
|---|---|
| 0 | 1 MHz≦$f_X$≦10 MHz |
| 1 | 10 MHz＜$f_X$≦20 MHz |

注　EXCLKS, OSCSELS, AMPHS1, AMPHS0ビットはパワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化され，その他のリセット要因では，値を保持します。

注意 1.　CMCレジスタは，リセット解除後，8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。CMCレジスタを初期値（00H）のまま使用する場合，暴走時の誤動作（00H以外の誤書き込みで復帰不可）を防止するために，リセット解除後は必ず00Hに設定してください。

2.　リセット解除後，クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）の設定でX1発振またはXT1発振を開始する前に，CMCレジスタを設定してください。

3.　X1クロック発振周波数が10MHzを越える場合は，必ずAMPHビットに1を設定してください。

4.　AMPH, AMPHS1, AMPHS0ビットは，リセット解除後$f_{CLK}$に$f_{IH}$を選択した状態（$f_{CLK}$を$f_{MX}$に切り替える前の状態）で設定してください。

（注意，備考は次ページに続きます。）

注意5.　$f_{XT}$の発振安定時間は，ソフトウエアでカウントしてください。

6.　システム・クロックの周波数上限は24 MHzですが，X1発振回路の周波数上限は20 MHzになります。

7.　CMCレジスタ書き込み後，パワーオン・リセット以外のリセットが発生した場合，暴走時の誤動作を防ぐためリセット解除後は必ずリセット発生前と同じ値を設定してください。

8.　XT1発振回路は低消費電力を実現するために，増幅度が低い回路になっています。設計の際は，次の点に注意してください。

- 端子や回路基板には寄生容量が含まれています。したがって実際に使用する回路基板にて発振評価を行い，問題がないことを確認してください。
- XT1発振回路のモードを超低消費発振（AMPHS1, AMPHS0 = 1, 0）で使用する場合は, 5. 7　発振子と発振回路定数に記載されている発振子を十分に評価してからご使用ください。
- XT1端子，XT2端子と発振子との配線は極力短くし，寄生容量，配線抵抗を小さくしてください。特に超低消費発振（AMPHS1, AMPHS0 = 1, 0）を選択している場合はご注意ください。
- 回路基板は寄生容量，配線抵抗の少ない材質で回路を構成してください。
- XT1発振回路の周辺には，できるかぎり$V_{SS}$と同電位のグランド・パターンを配置してください。
- XT1端子，XT2端子と発振子の信号線は他の信号と交差させないでください。また，変化する大電流が流れる線と接近させないでください。
- 高湿度環境における回路基板の吸湿や，基板上での結露によってXT1端子とXT2端子間のインピーダンスが低下し発振に障害が発生する場合があります。この様な環境でご使用される場合は，回路基板をコーティングするなどの防湿対策を行ってください。
- 回路基板上をコーティングする場合は，XT1端子，XT2端子間に容量やリークが生じない材料をご使用ください。

備考　$f_X$：X1クロック発振周波数

### 5. 3. 2　システム・クロック制御レジスタ（CKC）

CPU／周辺ハードウエア・クロックやメイン・システム・クロックを選択するレジスタです。

CKCレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図5－3　システム・クロック制御レジスタ（CKC）のフォーマット

アドレス：FFFA4H　リセット時：00H　R/W[注1]

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CKC | CLS | CSS | MCS | MCM0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| CLS | CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）のステータス |
|---|---|
| 0 | メイン・システム・クロック（$f_{MAIN}$） |
| 1 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） |

| CSS | CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）の選択 |
|---|---|
| 0 | メイン・システム・クロック（$f_{MAIN}$） |
| 1[注2] | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） |

| MCS | メイン・システム・クロック（$f_{MAIN}$）のステータス |
|---|---|
| 0 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$） |
| 1 | 高速システム・クロック（$f_{MX}$） |

| MCM0[注2] | メイン・システム・クロック（$f_{MAIN}$）の動作制御 |
|---|---|
| 0 | メイン・システム・クロック（$f_{MAIN}$）に高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）を選択 |
| 1 | メイン・システム・クロック（$f_{MAIN}$）に高速システム・クロック（$f_{MX}$）を選択 |

注1．ビット7, 5は，Read Onlyです。

2．CSS = 1を設定した状態で，MCM0ビットの値を変更することは禁止です。

備考　$f_{IH}$　：高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

$f_{MX}$　：高速システム・クロック周波数

$f_{MAIN}$　：メイン・システム・クロック周波数

$f_{SUB}$　：サブシステム・クロック周波数

（注意は次ページにあります。）

注意1.　ビット0-3には，必ず0を設定してください。

2.　CSSビットで設定したクロックは，CPUと周辺ハードウエアに供給されます。したがって，CPUクロックを変更すると，周辺ハードウエア・クロックも同時に変更されます（リアルタイム・クロック2，サブシステム・クロック周波数測定回路，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路およびウォッチドッグ・タイマは除く）。よって，CPU／周辺ハードウエア・クロックを変更する場合は，各周辺機能を停止してください。

3.　周辺ハードウエア・クロックとしてサブシステム・クロックが使われている場合，A/Dコンバータ，IICAの動作は保証できません。周辺ハードウエアの動作特性については，各周辺ハードウエアの章および第37章　電気的特性を参照してください。

### 5. 3. 3　クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）

高速システム・クロック，高速オンチップ・オシレータ・クロック，サブシステム・クロックの動作を制御するレジスタです（低速オンチップ・オシレータ・クロックは除く）。

CSCレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，C0Hになります。

注意　XTSTOPビットはパワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化され，その他のリセット要因では，値を保持します。

図5－4　クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のフォーマット

アドレス：FFFA1H　　リセット時：C0H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CSC | MSTOP | XTSTOP注 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | HIOSTOP |

| MSTOP | 高速システム・クロックの動作制御 | | |
|---|---|---|---|
| | X1発振モード時 | 外部クロック入力モード時 | 入力ポート・モード時 |
| 0 | X1発振回路動作 | EXCLK端子からの外部クロック有効 | 入力ポート |
| 1 | X1発振回路停止 | EXCLK端子からの外部クロック無効 | |

| XTSTOP | サブシステム・クロックの動作制御 | | |
|---|---|---|---|
| | XT1発振モード時 | 外部クロック入力モード時 | 入力ポート・モード時 |
| 0 | XT1発振回路動作 | EXCLKS端子からの外部クロック有効 | 入力ポート |
| 1 | XT1発振回路停止 | EXCLKS端子からの外部クロック無効 | |

| HIOSTOP | 高速オンチップ・オシレータ・クロックの動作制御 |
|---|---|
| 0 | 高速オンチップ・オシレータ動作 |
| 1 | 高速オンチップ・オシレータ停止 |

注　XTSTOPビットはパワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化され，その他のリセット要因では，値を保持します。

注意1.　リセット解除後は，クロック動作モード制御レジスタ（CMC）を設定してからCSCレジスタを設定してください。

2.　リセット解除後MSTOPビットを0に設定する前に発振安定時間選択レジスタ（OSTS）を設定してください。ただしOSTSレジスタを初期値のまま使用する場合は，OSTSレジスタを設定する必要はありません。

3.　MSTOPビットの設定でX1発振を開始する場合は，X1クロックの発振安定時間を発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で確認してください。

（注意は次ページに続きます。）

注意4.　XSTOPビットの設定でXT1発振を開始する場合は，サブシステム・クロックに必要な発振安定時間をソフトウエアにてウエイトしてください。

5.　CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）に選択しているクロックは，CSCレジスタで停止させないでください。

6.　クロック発振停止（外部クロック入力無効）するためのレジスタのフラグ設定と停止前の条件は，表5－2のようになります。クロックを停止する場合は、クロック停止前条件を確認した後に停止してください。

表5－2　クロック停止方法

| クロック | クロック停止（外部クロック入力無効）前条件 | CSCレジスタのフラグ設定 |
|---|---|---|
| X1クロック<br>外部メイン・システム・クロック | CPU／周辺ハードウエア・クロックが高速システム・クロック以外で動作<br>（CLS = 0かつMCS = 0，またはCLS = 1） | MSTOP = 1 |
| XT1クロック<br>外部サブシステム・クロック | CPU／周辺ハードウエア・クロックがサブシステム・クロック以外で動作<br>（CLS = 0） | XTSTOP = 1 |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック | CPU／周辺ハードウエア・クロックが高速オンチップ・オシレータ・クロック以外で動作<br>（CLS = 0かつMCS = 1，またはCLS = 1） | HIOSTOP = 1 |

### 5. 3. 4　発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）

X1クロックの発振安定時間カウンタのカウント状態を示すレジスタです。

次のときに，X1クロックの発振安定時間を確認することができます。

・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックまたはサブシステム・クロックで，X1クロックの発振を開始した場合

・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックで，X1クロックも発振している状態でSTOPモードに移行し，その後，STOPモードを解除した場合

OSTCレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で読み出すことができます。

リセット信号の発生，STOP命令，MSTOPビット（クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のビット7）= 1により，00Hになります。

備考　発振安定時間カウンタは，次の場合にカウントを開始します。

・X1クロック発振開始時（EXCLK, OSCSEL = 0, 1 → MSTOP = 0）

・STOPモードを解除したとき

図5－5　発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）のフォーマット

アドレス：FFFA2H　　リセット時：00H　　R

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSTC | MOST 8 | MOST 9 | MOST 10 | MOST 11 | MOST 13 | MOST 15 | MOST 17 | MOST 18 |

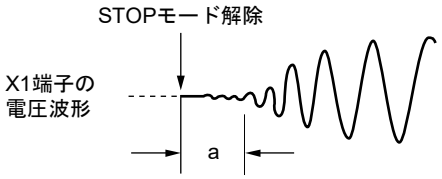
| MOST 8 | MOST 9 | MOST 10 | MOST 11 | MOST 13 | MOST 15 | MOST 17 | MOST 18 | 発振安定時間のステータス | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | fx = 10 MHz時 | fx = 20 MHz時 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | $2^8$/fx未満 | 25.6 μs未満 | 12.8 μs未満 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | $2^8$/fx以上 | 25.6 μs以上 | 12.8 μs以上 |
| 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | $2^9$/fx以上 | 51.2 μs以上 | 25.6 μs以上 |
| 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | $2^{10}$/fx以上 | 102 μs以上 | 51.2 μs以上 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | $2^{11}$/fx以上 | 204 μs以上 | 102 μs以上 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | $2^{13}$/fx以上 | 819 μs以上 | 409 μs以上 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | $2^{15}$/fx以上 | 3.27 ms以上 | 1.63 ms以上 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | $2^{17}$/fx以上 | 13.1 ms以上 | 6.55 ms以上 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | $2^{18}$/fx以上 | 26.2 ms以上 | 13.1 ms以上 |

注意1. 上記時間経過後，MOST8ビットから順番に“1”となっていき，そのまま“1”を保持します。

2. 発振安定時間カウンタは発振安定時間選択レジスタ（OSTS）で設定した発振安定時間までしかカウントしません。
次のときには，OSTSレジスタの発振安定時間を，発振開始後にOSTCレジスタで確認したいカウント値より大きい値に設定してください。

・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックまたはサブシステム・クロックで，X1クロックの発振を開始したい場合
・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックで，X1クロックも発振している状態でSTOPモードに移行し，その後，STOPモードを解除したい場合
（したがって，STOPモード解除後のOSTCレジスタは，OSTSレジスタで設定している発振安定時間までのステータスしかセットされないので注意してください）

3. X1クロックの発振安定時間は，クロック発振を開始するまでの時間（下図a）は含みません。




備考　fx：X1クロック発振周波数

### 5. 3. 5　発振安定時間選択レジスタ（OSTS）

X1クロックの発振安定時間を選択するレジスタです。

X1クロックを発振させる場合は，X1発振回路動作（MSTOP = 0）後，OSTSレジスタで設定した時間を自動でウエイトします。

CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックまたはサブシステム・クロックから，X1クロックに切り換える場合や，CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックで，X1クロックも発振している状態でSTOPモードに移行し，その後STOPモードを解除した場合は，発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で発振安定時間が経過したかを確認してください。OSTCレジスタでは，あらかじめOSTSレジスタで設定した時間までの確認ができます。

OSTSレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，07Hになります。

図5－6　発振安定時間選択レジスタ（OSTS）のフォーマット

アドレス：FFFA3H　　リセット時：07H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSTS | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | OSTS2 | OSTS1 | OSTS0 |

| OSTS2 | OSTS1 | OSTS0 | 発振安定時間の選択 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | $f_X$ = 10 MHz時 | $f_X$ = 20 MHz時 |
| 0 | 0 | 0 | $2^8/f_X$ | 25.6 μs | 12.8 μs |
| 0 | 0 | 1 | $2^9/f_X$ | 51.2 μs | 25.6 μs |
| 0 | 1 | 0 | $2^{10}/f_X$ | 102 μs | 51.2 μs |
| 0 | 1 | 1 | $2^{11}/f_X$ | 204 μs | 102 μs |
| 1 | 0 | 0 | $2^{13}/f_X$ | 819 μs | 409 μs |
| 1 | 0 | 1 | $2^{15}/f_X$ | 3.27 ms | 1.63 ms |
| 1 | 1 | 0 | $2^{17}/f_X$ | 13.1 ms | 6.55 ms |
| 1 | 1 | 1 | $2^{18}/f_X$ | 26.2 ms | 13.1 ms |

注意1. OSTSレジスタの設定を変更する場合は，クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のMSTOPビットを0に設定する前に行ってください。

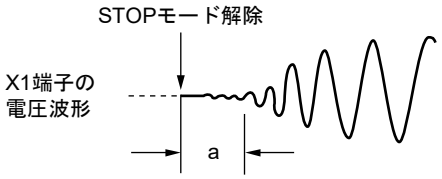
2. 発振安定時間カウンタはOSTSレジスタで設定した発振安定時間までしかカウントしません。

次のときには，OSTSレジスタの発振安定時間を，発振開始後にOSTCレジスタで確認したいカウント値より大きい値に設定してください。

・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックまたはサブシステム・クロックで，X1クロックの発振を開始したい場合

・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックで，X1クロックも発振している状態でSTOPモードに移行し，その後，STOPモードを解除したい場合（したがって，STOPモード解除後のOSTCレジスタは，OSTSレジスタで設定している発振安定時間までのステータスしかセットされないので注意してください）

3. X1クロックの発振安定時間は，クロック発振を開始するまでの時間（下図a）は含みません。




備考　$f_X$：X1クロック発振周波数

### 5. 3. 6　周辺イネーブル・レジスタ0, 1（PER0, PER1）

各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

このレジスタで制御される以下の周辺機能を使用する場合は，周辺機能の初期設定前に対応するビットをセット（1）してください。

- リアルタイム・クロック2
- IrDA
- 10ビットA/Dコンバータ
- シリアル・インタフェースIICA0
- シリアル・アレイ・ユニット1
- シリアル・アレイ・ユニット0
- タイマ・アレイ・ユニット
- 12ビット・インターバル・タイマ
- サブシステム・クロック周波数測定回路
- コンパレータ0, 1
- 発振停止検出回路
- DTC
- 24ビットΔΣ型A/Dコンバータ

PER0, PER1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。
リセット信号の発生により，00Hになります。

図5－7　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット（1/2）

アドレス：F00F0H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |

| RTCWEN | リアルタイム・クロック2（RTC2）の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・リアルタイム・クロック2（RTC2）で使用するSFRへのライト不可<br>・リアルタイム・クロック2（RTC2）は動作可能 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・リアルタイム・クロック2（RTC2）で使用するSFRへのリード／ライト可<br>・リアルタイム・クロック2（RTC2）は動作可能 |

| IRDAEN | IrDAの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・IrDAで使用するSFRへのライト不可<br>・IrDAはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・IrDAで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意　ビット1には必ず“0”を設定してください。

図5－7　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット（2/2）

アドレス：F00F0H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |

| ADCEN | A/Dコンバータの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・A/Dコンバータで使用するSFRへのライト不可<br>・A/Dコンバータはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・A/Dコンバータで使用するSFRへのリード／ライト可 |

| IICA0EN | シリアル・インタフェースIICA0の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・シリアル・インタフェースIICA0で使用するSFRへのライト不可<br>・シリアル・インタフェースIICA0はリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・シリアル・インタフェースIICA0で使用するSFRへのリード／ライト可 |

| SAU1EN | シリアル・アレイ・ユニット1の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・シリアル・アレイ・ユニット1で使用するSFRへのライト不可<br>・シリアル・アレイ・ユニット1はリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・シリアル・アレイ・ユニット1で使用するSFRへのリード／ライト可 |

| SAU0EN | シリアル・アレイ・ユニット0の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・シリアル・アレイ・ユニット0で使用するSFRへのライト不可<br>・シリアル・アレイ・ユニット0はリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・シリアル・アレイ・ユニット0で使用するSFRへのリード／ライト可 |

| TAU0EN | タイマ・アレイ・ユニットの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・タイマ・アレイ・ユニットで使用するSFRへのライト不可<br>・タイマ・アレイ・ユニットはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・タイマ・アレイ・ユニットで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意　ビット1には必ず“0”を設定してください。

図5－8　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のフォーマット

アドレス：F007AH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER1 | TMKAEN | FMCEN | CMPEN | OSDCEN | DTCEN | 0 | 0 | DSADCEN |

| TMKAEN | 12ビット・インターバル・タイマの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのライト不可<br>・12ビット・インターバル・タイマはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのリード／ライト可 |

| FMCEN | サブシステム・クロック周波数測定回路の入力クロック供給 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路で使用するSFRへのライト不可<br>・リアルタイム・クロック2で使用するSUBCUDレジスタへのライト不可<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路はリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路で使用するSFRへのリード／ライト可<br>・リアルタイム・クロック2で使用するSUBCUDレジスタへのリード／ライト可 |

| CMPEN | コンパレータ0, 1の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・コンパレータ0, 1で使用するSFRへのライト不可<br>・コンパレータ0, 1はリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・コンパレータ0, 1で使用するSFRへのリード／ライト可 |

| OSDCEN | 発振停止検出回路の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・発振停止検出回路で使用するSFRへのライト不可<br>・発振停止検出回路はリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・発振停止検出回路で使用するSFRへのリード／ライト可 |

| DTCEN | DTCの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・DTCは動作不可 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・DTCは動作可 |

| DSADCEN | 24ビットΔΣ型A/Dコンバータの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・24ビットΔΣ型A/Dコンバータで使用するSFRへのライト不可<br>・24ビットΔΣ型A/Dコンバータはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・24ビットΔΣ型A/Dコンバータで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意　ビット2, 1には必ず“0”を設定してください。

### 5. 3. 7　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）

OSMCレジスタは，不要なクロック機能を停止させることにより，低消費電力化することを目的としたレジスタです。

RTCLPC = 1に設定すると，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時に，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのクロック供給を停止するので，消費電力を低減することが可能です。

また，OSMCレジスタではリアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，サブシステム・クロック周波数測定回路の動作クロックを選択できます。

OSMCレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図5－9　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のフォーマット

アドレス：F00F3H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSMC | RTCLPC | 0 | 0 | WUTMMCK0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| RTCLPC | STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の設定 |
|---|---|
| 0 | 周辺機能へのサブシステム・クロック供給許可<br>（動作許可となる周辺機能については，表24－1，表24－2参照） |
| 1 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給停止 |

| WUTMMCK0 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの動作クロックの選択 | クロック出力／ブザー出力制御回路のPCLBUZn端子の出力クロックの選択および8ビット・インターバル・タイマの動作クロックの選択 | サブシステム・クロック周波数測定回路の動作 |
|---|---|---|---|
| 0 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択許可 | 許可 |
| 1 | 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択禁止 | 禁止 |

注意1.　RTCLPCビットを1に設定することで，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の消費電力を低減することができます。ただし，サブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時は，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へクロックを供給できなくなります。サブシステム・クロックでCPU動作中はHALTモードに設定する前に，周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のビット7（RTCWEN），周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のビット7（TMKAEN）は1に，PER0のビット0, 2, 3, PER1のビット5は0にしてください。

2.　サブシステム・クロック発振中は，サブシステム・クロックのみ選択できます（WUTMMCK0 = 0）。

（注意，備考は次ページに続きます。）

注意3. WUTMMCK0を“1”に設定すると低速オンチップ・オシレータ・クロックが発振します。

4. WUTMMCK0を“1”に設定した場合，リアルタイム・クロック2の定周期割り込み機能のみ使用できます。年，月，曜日，日，時，分，秒のカウントおよび1 Hz出力機能は使用できません。
定周期割り込み間隔は，定周期（RTCC0レジスタで選択した値）×$f_{SUB}/f_{IL}$で算出されます。

5. WUTMMCK0ビットによるサブシステム・クロックと低速オンチップ・オシレータ・クロックの切り替えは，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの全ての機能が動作停止中のみ可能です。
各機能の動作停止方法は次のとおりです。
リアルタイム・クロック2の停止設定　：RTCE = 0
12ビット・インターバル・タイマの停止設定　：RINTE = 0
LCDコントローラ／ドライバの停止設定　：SCOC = 0 かつVLCON = 0

6. WUTMMCK0ビット = 1設定時にクロック出力／ブザー出力制御回路の出力クロックまたは8ビット・インターバル・タイマの動作クロックとして$f_{SUB}$を選択することは禁止です。

備考　RTCE　：リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）のビット7
RINTE　：12ビット・インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ（ITMC）のビット15
SCOC　：LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のビット6
VLCON　：LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のビット5

### 5. 3. 8　高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）

オプション・バイト（000C2H）で設定した高速オンチップ・オシレータの周波数を変更するレジスタです。

HOCODIVは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，オプション・バイト（000C2H）のFRQSEL2-FRQSEL0ビットで設定した値になります。

図5－10　高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）のフォーマット

アドレス：F00A8H　リセット時：オプション・バイト（000C2H）FRQSEL2 - FRQSEL0の設定値　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HOCODIV | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | HOCODIV2 | HOCODIV1 | HOCODIV0 |

| HOCODIV2 | HOCODIV1 | HOCODIV0 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数の選択 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | $f_{IH}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 1 | $f_{IH}$ = 12 MHz |
| 0 | 1 | 0 | $f_{IH}$ = 6 MHz |
| 0 | 1 | 1 | $f_{IH}$ = 3 MHz |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |

注意1. HOCODIVレジスタの設定は，周波数の変更前，変更後ともにオプション・バイト（000C2H）で設定したフラッシュ動作モードの動作可能な電圧の範囲内で行ってください。

| オプション・バイト(000C2H)の値 | | フラッシュ動作モード | 動作周波数範囲 | 動作電圧範囲 |
|---|---|---|---|---|
| CMODE1 | CMODE0 | | | |
| 1 | 0 | LS(低速メイン)モード | 6/3 MHz | 1.9 V～5.5 V |
| 1 | 1 | HS(高速メイン)モード | 12/6/3 MHz | 2.4 V～5.5 V |
| | | | 24/12/6/3 MHz | 2.7 V～5.5 V |
| 上記以外 | | 設定禁止 | | |

2. HOCODIVレジスタの設定は，高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）をCPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）に選択している状態で行ってください。
3. HOCODIVレジスタで周波数を変更後，次の遷移時間経過して周波数が切り替わります。
   - 変更前の周波数で最大3クロック 動作
   - 変更後の周波数で最大3クロックのCPU／周辺ハードウエア・クロック ウエイト

### 5. 3. 9　周辺クロック制御レジスタ（PCKC）

24ビットΔΣA/Dコンバータの動作クロックを選択するレジスタです。

高速システム・クロックの周波数($f_{MX}$)は水晶発振子12 MHzのみ使用可能。

PCKCレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図5－11　周辺クロック制御レジスタ (PCKC)のフォーマット

アドレス：F0098H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PCKC | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | DSADCK |

| DSADCK | 24ビットΔΣ型A/Dコンバータの動作クロックの選択 |
|---|---|
| 0 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）供給。（$f_{MX}$供給停止） |
| 1 | 高速システム・クロック供給（$f_{MX}$）供給[注] |

注　高速システム・クロックの周波数（$f_{MX}$）は水晶発振子12 MHzのみ使用可能。

# 5. 4　システム・クロック発振回路

## 5. 4. 1　X1発振回路

X1発振回路はX1, X2端子に接続された水晶振動子またはセラミック発振子（1～20 MHz）によって発振します。

また, 外部クロックを入力することができます。その場合はEXCLK端子にクロック信号を入力してください。

X1発振回路を使用する場合，クロック動作モード制御レジスタ（CMC）のビット7, 6（EXCLK, OSCSEL）を次のように設定してください。

・水晶，セラミック発振　：EXCLK, OSCSEL = 0, 1

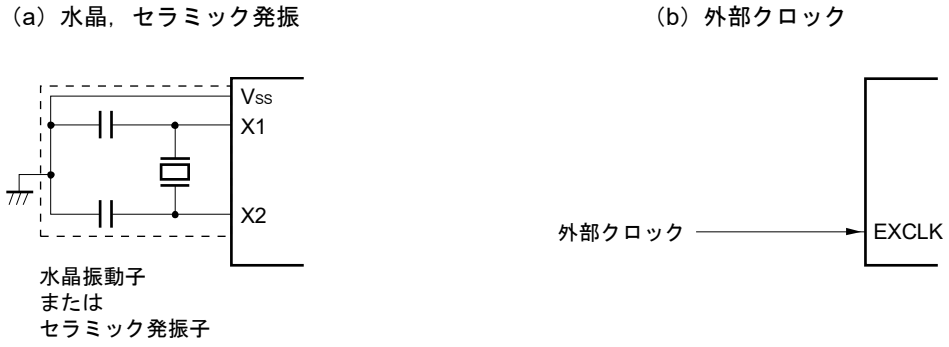
・外部クロック入力　　：EXCLK, OSCSEL = 1, 1

X1発振回路を使用しない場合は，入力ポート・モード（EXCLK, OSCSEL = 0, 0）に設定してください。

さらに，入力ポートとしても使用しない場合は，表2－3　各端子の未使用端子処理を参照してください。

図5－12にX1発振回路の外付け回路例を示します。

図5－12　X1発振回路の外付け回路例




注意を次ページに示します。

## 5. 4. 2　XT1発振回路

XT1発振回路はXT1, XT2端子に接続された水晶振動子（標準：32.768 kHz）によって発振します。

XT1発振回路を使用する場合，クロック動作モード制御レジスタ（CMC）のビット4（OSCSELS）に1を設定してください。

また，外部クロックを入力することができます。その場合はEXCLKS端子にクロック信号を入力してください。XT1発振回路を使用する場合，クロック動作モード制御レジスタ（CMC）のビット5, 4（EXCLKS, OSCSELS）を次のように設定してください。

・水晶発振　　：EXCLKS, OSCSELS = 0, 1

・外部クロック入力　：EXCLKS, OSCSELS = 1, 1

XT1発振回路を使用しない場合は，入力ポート・モード（EXCLKS, OSCSELS = 0, 0）に設定してください。

さらに，入力ポートとしても使用しない場合は，表2－3　各端子の未使用端子処理を参照してください。

図5－13にXT1発振回路の外付け回路例を示します。

図5－13　XT1発振回路の外付け回路例

注意　X1発振回路およびXT1発振回路を使用する場合は，配線容量などの影響を避けるために，図5－12, 5－13の破線の部分を次のように配線してください。

・配線は極力短くしてください。
・他の信号線と交差させない，変化する大電流が流れる線と接近させないでください。
・発振回路のコンデンサの接地点は，常にVssと同電位となるようにしてください。大電流が流れるグランド・パターンに接地しないでください。
・発振回路から信号を取り出さないでください。

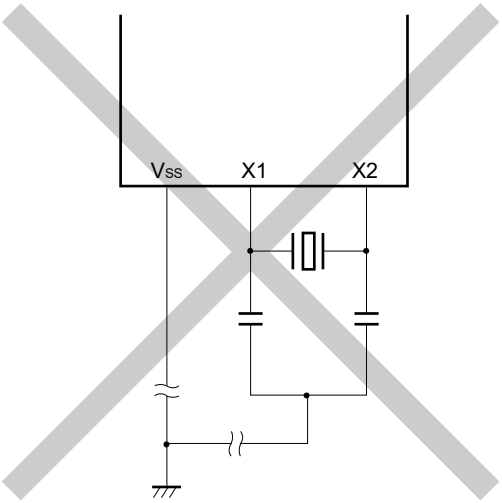
特に，XT1発振回路は，低消費電力にするために増幅度の低い回路になっています。設計の際は，次の点に注意してください。

・端子や回路基板には寄生容量が含まれています。したがって実際に使用する回路基板にて発振評価を行い，問題がないことを確認してください。
・XT1発振回路のモードを超低消費発振（AMPHS1, AMPHS0 = 1, 0）で使用する場合は5. 7　発振子と発振回路定数に記載されている発振子を十分に評価してからご使用ください。
・XT1端子，XT2端子と発振子との配線は極力短くし，寄生容量，配線抵抗を小さくしてください。特に超低消費発振（AMPHS1, AMPHS0 = 1, 0）を選択している場合はご注意ください。
・回路基板は寄生容量，配線抵抗の少ない材質で回路を構成してください。
・XT1発振回路の周辺には，できるかぎりVssと同電位のグランド・パターンを配置してください。
・XT1端子，XT2端子と発振子の信号線は他の信号と交差させないでください。また，変化する大電流が流れる線と接近させないでください。
・高湿度環境における回路基板の吸湿や，基板上での結露によってXT1端子とXT2端子間のインピーダンスが低下し発振に障害が発生する場合があります。この様な環境でご使用される場合は，回路基板をコーティングするなどの防湿対策を行ってください。
・回路基板上をコーティングする場合は，XT1端子，XT2端子間に容量やリークが生じない材料をご使用ください。

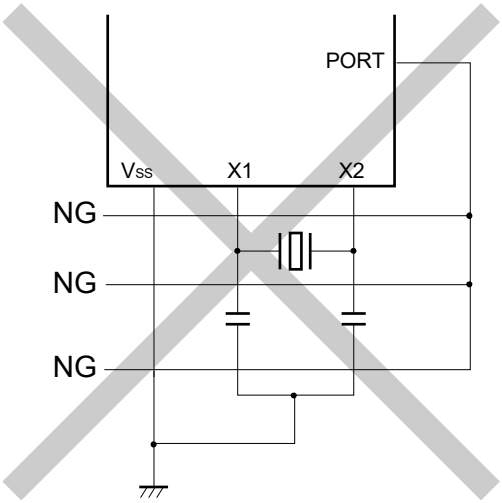
図5－14に発振子の接続の悪い例を示します。

図5－14　発振子の接続の悪い例（1/2）

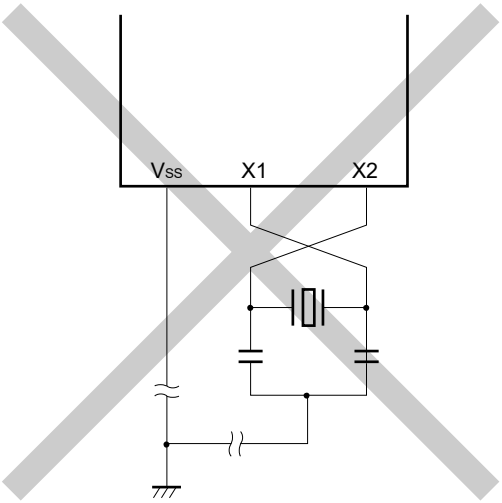
（a）接続回路の配線が長い



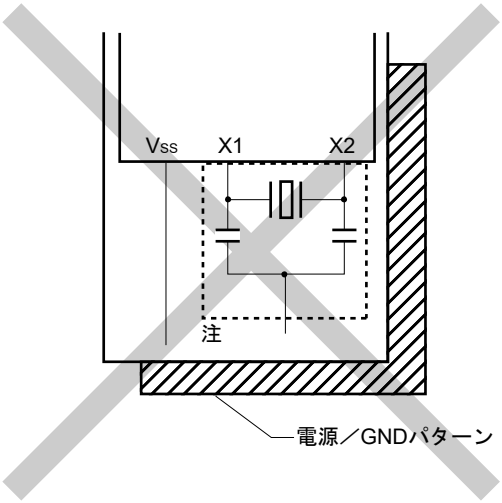

（b）信号線が交差している




（c）X1, X2の信号線の配線が交差している




（d）X1, X2配線の下に電源／GNDパターンがある

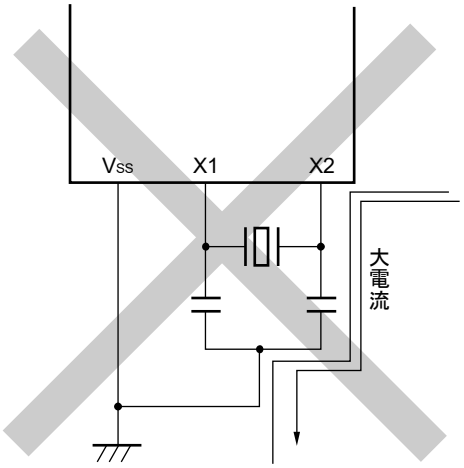



注　多層基板や両面基板において，X1，X2端子と発振子の配線部（図中の点線部分）の下には，電源／GNDパターンを配置しないでください。
容量成分の原因となり，発振特性に影響を与える配置はしないでください。

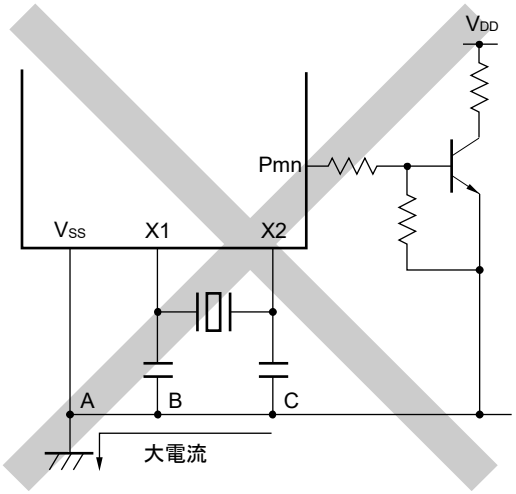
備考　サブシステム・クロックをご使用の場合は，X1, X2をXT1, XT2と読み替えてください。また，XT2側に直列に抵抗を挿入してください。

図5－14　発振子の接続の悪い例（2/2）

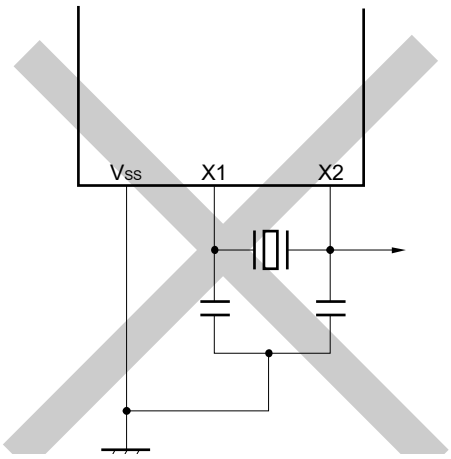
（e）変化する大電流が信号線に近接している




（f）発振回路部のグランド・ライン上に電流が流れる（A点，B点，C点の電位が変動する）




（g）信号を取り出している




注意　X2とXT1が平行に配線されている場合，X2のクロストーク・ノイズがXT1に相乗し誤動作を引き起こすことがあります。

備考　サブシステム・クロックをご使用の場合は，X1, X2をXT1, XT2と読み替えてください。また，XT2側に直列に抵抗を挿入してください。

### 5. 4. 3　高速オンチップ・オシレータ

RL78/I1Bは，高速オンチップ・オシレータを内蔵しています。オプション・バイト（000C2H）により24 MHz, 12 MHz, 6 MHz, 3 MHzから周波数を選択することが可能です。クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のビット0（HIOSTOP）にて発振を制御できます。リセット解除後，高速オンチップ・オシレータは自動的に発振を開始します。

### 5. 4. 4　低速オンチップ・オシレータ

RL78/I1Bは，低速オンチップ・オシレータを内蔵しています。

低速オンチップ・オシレータ・クロックは，ウォッチドッグ・タイマ，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバ，発振停止検出回路のクロックとして使用します。CPUクロックとして使用できません。

オプション・バイト（000C0H）のビット4（WDTON）またはサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のビット4（WUTMMCK0）のどちらか，または両方が1のときに動作します。

ウォッチドッグ・タイマ停止時かつ，WUTMMCK0 = 0以外では，低速オンチップ・オシレータの発振は継続します。ただし，ウォッチドック・タイマ動作時でWUTMMCK0 = 0の場合のみ，WDSTBYON = 0かつHALTおよびSTOP，SNOOZEモードの状態で低速オンチップ・オシレータの発振が停止します。ウォッチドッグ・タイマ動作時に，プログラムが暴走する場合においても，低速オンチップ・オシレータ・クロックが停止することはありません。

注意　発振停止検出回路を使用する場合は，低速オンチップ・オシレータ・クロックを常時動作させるために，OSMCレジスタのビット4（WUTMMCK0）を1に設定するか，オプション・バイト（000C0H）のビット4（WDTON）とビット0（WDSTBYON）を1に設定する必要があります。

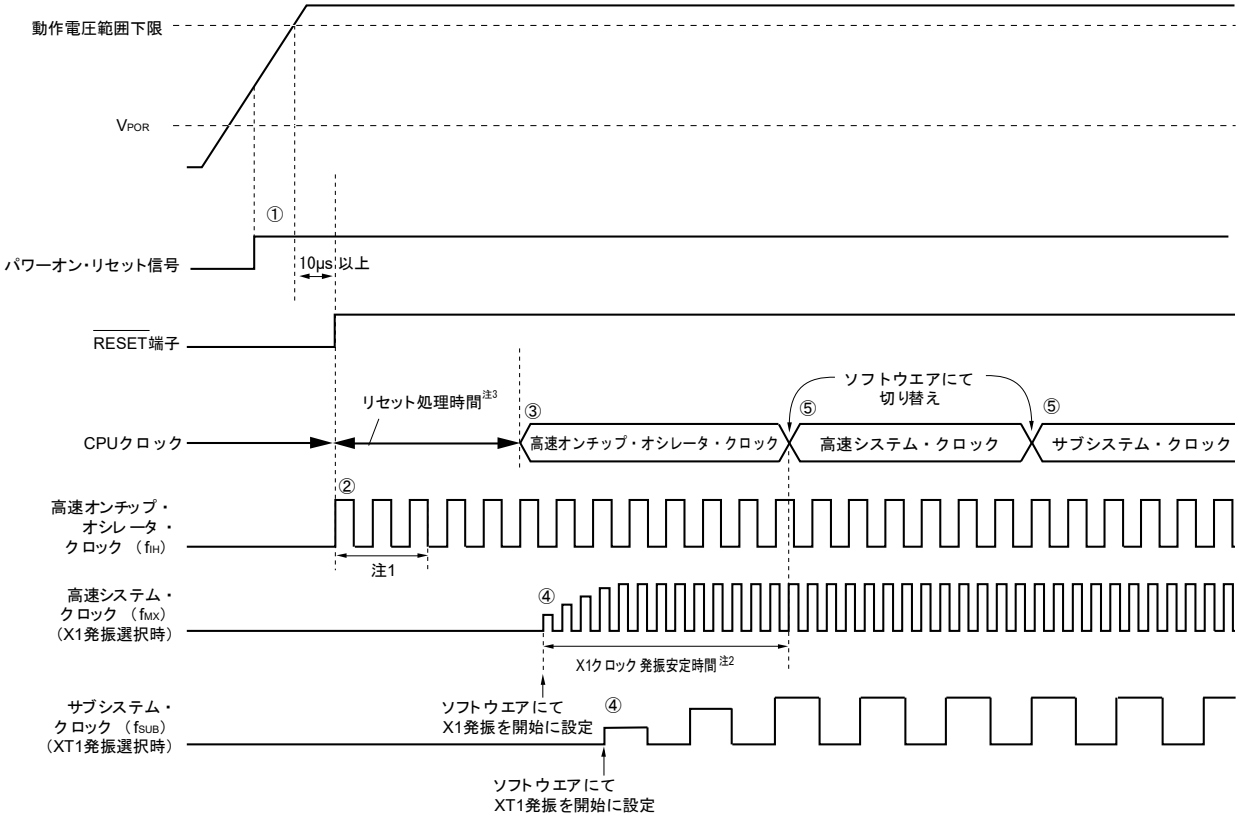
## 5. 5　クロック発生回路の動作

クロック発生回路は次に示す各種クロックを発生し，かつ，スタンバイ・モードなどのCPUの動作モードを制御します（図5－1を参照）。

○メイン・システム・クロック　$f_{MAIN}$
　・高速システム・クロック　$f_{MX}$
　　X1クロック　$f_X$
　　外部メイン・システム・クロック　$f_{EX}$
　・高速オンチップ・オシレータ・クロック　$f_{IH}$
○サブシステム・クロック　$f_{SUB}$
　・XT1クロック　$f_{XT}$
　・外部サブシステム・クロック　$f_{EXS}$
○低速オンチップ・オシレータ・クロック　$f_{IL}$
○CPU／周辺ハードウエア・クロック　$f_{CLK}$

RL78/I1Bでは，リセット解除後，CPUは高速オンチップ・オシレータの出力により動作を開始します。
電源電圧投入時のクロック発生回路の動作を，図5－15に示します。

図5－15　電源電圧投入時のクロック発生回路の動作




① 電源投入後，パワーオン・リセット（POR）回路による内部リセット信号が発生します。
ただし，37.4 AC特性に示す動作電圧範囲に達するまで，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ちます（上図は，外部リセット使用時の例）。

② リセットが解除されると，高速オンチップ・オシレータが自動的に発振開始されます。

③ リセット解除後に電圧安定待ちとリセット処理が行われたのちに，CPUが高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作開始します。

④ X1クロックまたはXT1クロックは，ソフトウエアにて発振開始を設定してください（5. 6. 2　X1発振回路の設定例，5. 6. 3　XT1発振回路の設定例を参照）。

⑤ CPUをX1クロックまたはXT1クロックに切り替える場合は，クロックの発振安定待ち後に，ソフトウエアにて切り替えを設定してください（5. 6. 2　X1発振回路の設定例，5. 6. 3　XT1発振回路の設定例を参照）。

注1. 高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ち時間は，リセット処理時間に含まれます。
2. リセット解除時は，X1クロックの発振安定時間を発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で確認してください。
3. リセット処理時間は，第26章　パワーオン・リセット回路を参照してください。

注意　EXCLK端子からの外部クロック入力を使用する場合，発振安定待ち時間は不要です。

# 5. 6　クロックの制御

## 5. 6. 1　高速オンチップ・オシレータの設定例

CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）はリセット解除後必ず高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作します。高速オンチップ・オシレータの周波数は，オプション・バイト（000C2H）のFRQSEL0-FRQSEL2により，24 MHz, 12 MHz, 6 MHz, 3 MHzから選択可能です。また，高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）により，周波数を変更することもできます。

【オプション・バイト設定】

アドレス：000C2H

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| オプション・バイト（000C2H） | CMODE1<br>0/1 | CMODE0<br>0/1 | 1 | 0 | 0 | FRQSEL2<br>0/1 | FRQSEL1<br>0/1 | FRQSEL0<br>0/1 |

| CMODE1 | CMODE0 | フラッシュの動作モード設定 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 0 | LS（低速メイン）モード | $V_{DD}$ = 1.9 V～5.5 V @ 6/3 MHz |
| 1 | 1 | HS（高速メイン）モード | $V_{DD}$ = 2.4 V～5.5 V @ 12/6/3 MHz<br>$V_{DD}$ = 2.7 V～5.5 V @ 24/12/6/3 MHz |
| 上記以外 | | 設定禁止 | |

| FRQSEL2 | FRQSEL1 | FRQSEL0 | 高速オンチップ・オシレータの周波数<br>$f_{IH}$ |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | 24 MHz |
| 0 | 0 | 1 | 12 MHz |
| 0 | 1 | 0 | 6 MHz |
| 0 | 1 | 1 | 3 MHz |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |

【高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）設定】

アドレス：F00A8H

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HOCODIV | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | HOCODIV2 | HOCODIV1 | HOCODIV0 |

| HOCODIV2 | HOCODIV1 | HOCODIV0 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数の選択 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | $f_{IH}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 1 | $f_{IH}$ = 12 MHz |
| 0 | 1 | 0 | $f_{IH}$ = 6 MHz |
| 0 | 1 | 1 | $f_{IH}$ = 3 MHz |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |

### 5. 6. 2　X1発振回路の設定例

CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）はリセット解除後，必ず高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作します。その後，X1発振クロックに変更する場合，発振安定時間選択レジスタ（OSTS），クロック動作モード制御レジスタ（CMC），クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）で発振回路の設定と発振開始を行い，発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で発振の安定待ちを行います。発振安定待ちが終了したあと，システム・クロック制御レジスタ（CKC）でX1発振クロックを$f_{CLK}$に設定します。

【レジスタ設定】①～⑤の順に設定してください。

① CMCレジスタのOSCSELビットをセット（1），fx＞10 MHzの場合はAMPHビットをセット（1）してX1発振回路を動作させます。

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CMC | EXCLK<br>0 | OSCSEL<br>1 | EXCLKS<br>0 | OSCSELS<br>0 | 0 | AMPHS1<br>0 | AMPHS0<br>0 | AMPH<br>0/1 |

② OSTSレジスタでSTOPモード解除時のX1発振回路の発振安定時間を選択しておきます。
例）10 MHzの発振子で102.4 μs以上までウエイトする場合は，以下の値に設定してください。

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSTS | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | OSTS2<br>0 | OSTS1<br>1 | OSTS0<br>0 |

③ CSCレジスタのMSTOPビットをクリア（0）してX1発振回路の発振を開始します。

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CSC | MSTOP<br>0 | XTSTOP<br>1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | HIOSTOP<br>0 |

④ OSTCレジスタでX1発振回路の発振安定待ちを行います。
例）10 MHzの発振子で102.4 μs以上までウエイトする場合は，以下の値になるまでウエイトしてください。

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSTC | MOST8<br>1 | MOST9<br>1 | MOST10<br>1 | MOST11<br>0 | MOST13<br>0 | MOST15<br>0 | MOST17<br>0 | MOST18<br>0 |

⑤ CKCレジスタのMCM0ビットでX1発振クロックをCPU／周辺ハードウエア・クロックに設定します。

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CKC | CLS<br>0 | CSS<br>0 | MCS<br>0 | MCM0<br>1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

注意1.　EXCLKS, OSCSELS, AMPHS1, AMPHS0, XTSTOPビットはパワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化され，その他のリセット要因では値を保持します。

注意2.　HOCODIVレジスタの設定は，周波数の変更前，変更後ともにオプション・バイト（000C2H）で設定したフラッシュ動作モードの動作可能な電圧の範囲内で行ってください。

| オプション・バイト(000C2H)の値 | | フラッシュ動作モード | 動作周波数範囲 | 動作電圧範囲 |
|---|---|---|---|---|
| CMODE1 | CMODE0 | | | |
| 1 | 0 | LS(低速メイン)モード | 6/3 MHz | 1.9 V～5.5 V |
| 1 | 1 | HS(高速メイン)モード | 12/6/3 MHz | 2.4 V～5.5 V |
| | | | 24/12/6/3 MHz | 2.7 V～5.5 V |
| 上記以外 | | 設定禁止 | | |

### 5. 6. 3　XT1発振回路の設定例

CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）はリセット解除後，必ず高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作します。その後，XT1発振クロックに変更する場合，サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC），クロック動作モード制御レジスタ（CMC），クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）で発振回路の設定と発振開始を行い，システム・クロック制御レジスタ（CKC）でXT1発振クロックを$f_{CLK}$に設定します。

【レジスタ設定】①～⑤の順に設定してください。

① STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時にリアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路のみサブシステム・クロックで動作（超低消費電流）させる場合はRTCLPCビットを1に設定してください。

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSMC | RTCLPC<br>0/1 | 0 | 0 | WUTMMCK0<br>0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

② CMCレジスタのOSCSELSビットをセット（1）してXT1発振回路を動作させます。

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CMC | EXCLK<br>0 | OSCSEL<br>0 | EXCLKS<br>0 | OSCSELS<br>1 | 0 | AMPHS1<br>0/1 | AMPHS0<br>0/1 | AMPH<br>0 |

AMPHS0, AMPHS1ビット：XT1発振回路の発振モードを設定します。

③ CSCレジスタのXTSTOPビットをクリア（0）してXT1発振回路の発振を開始します。

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CSC | MSTOP<br>1 | XTSTOP<br>0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | HIOSTOP<br>0 |

④ タイマ機能などを用いて，サブシステム・クロックに必要な発振安定時間をソフトウエアでウエイトしてください。

⑤ CKCレジスタのCSSビットでXT1発振クロックをCPU／周辺ハードウエア・クロックに設定します。

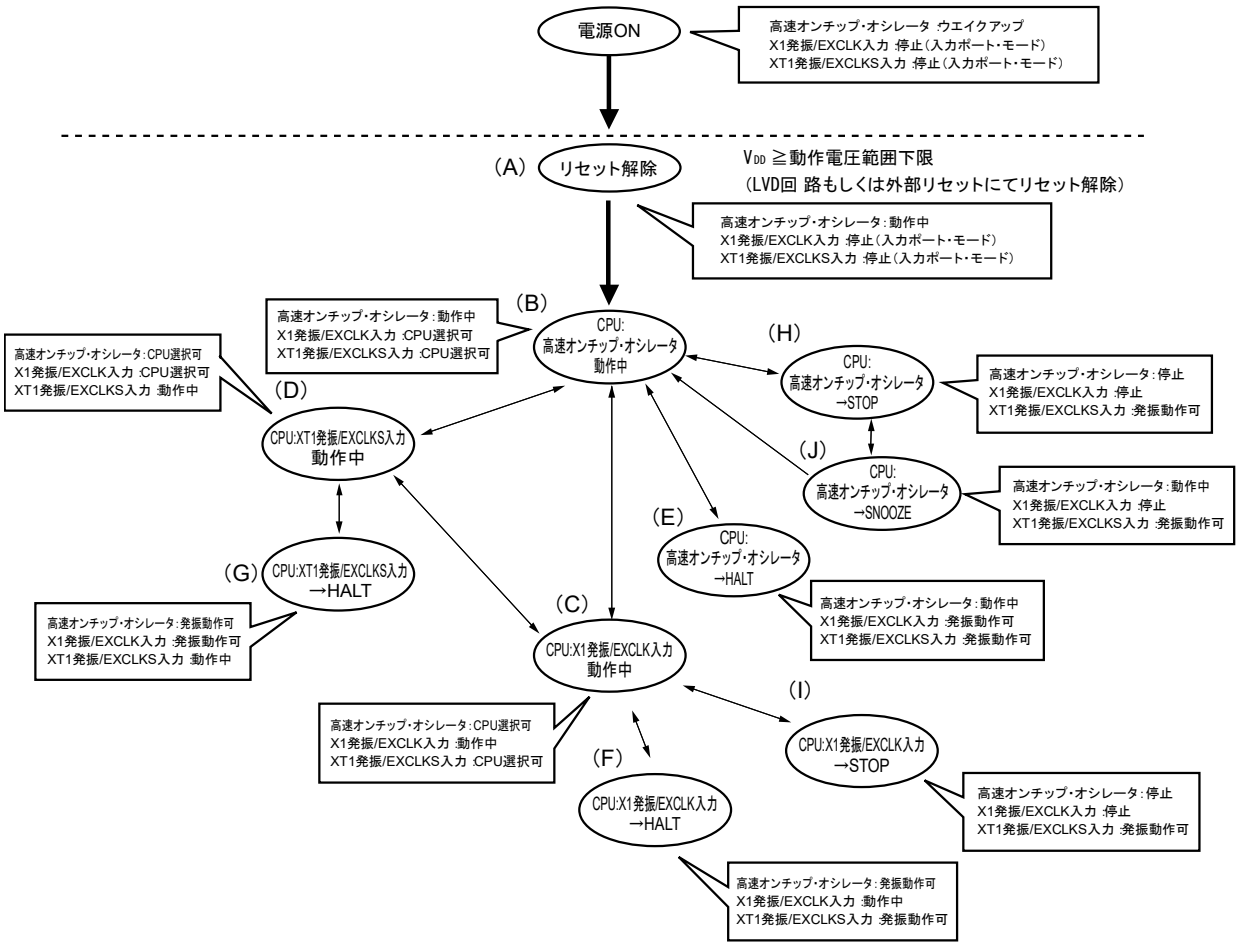
| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CKC | CLS<br>0 | CSS<br>1 | MCS<br>0 | MCM0<br>0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

注意　EXCLKS, OSCSELS, AMPHS1, AMPHS0, XTSTOPビットはパワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化され，その他のリセット要因では，値を保持します。

### 5. 6. 4　CPUクロック状態移行図

この製品のCPUクロック状態移行図を図5－16に示します。

図5－16　CPUクロック状態移行図



CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例などを表5－3に示します。

表5－3　CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例（1/5）

（1）リセット解除後 (A) に，CPUを高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) へ移行

| 状態遷移 | SFRレジスタの設定 |
|---|---|
| (A) → (B) | SFRレジスタ設定不要（リセット解除後の初期状態） |

（2）リセット解除後 (A) に，CPUを高速システム・クロック動作 (C) へ移行
（リセット解除直後，CPUは高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作 (B) ）

（SFRレジスタの設定順序）→

| SFRレジスタの設定フラグ ＼ 状態遷移 | CMCレジスタ注1 | | | OSTSレジスタ | CSCレジスタ | OSTCレジスタ | CKCレジスタ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | EXCLK | OSCSEL | AMPH | | MSTOP | | MCM0 |
| (A) → (B) → (C)<br>（X1クロック：1 MHz≦fx≦10 MHz） | 0 | 1 | 0 | 注2 | 0 | 確認必要 | 1 |
| (A) → (B) → (C)<br>（X1クロック：10 MHz＜fx≦20 MHz） | 0 | 1 | 1 | 注2 | 0 | 確認必要 | 1 |
| (A) → (B) → (C)<br>（外部メイン・クロック） | 1 | 1 | × | 注2 | 0 | 確認不要 | 1 |

注1.　クロック動作モード制御レジスタ（CMC）は，リセット解除後，8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。

2.　発振安定時間選択レジスタ（OSTS）の発振安定時間を次のように設定してください。

・期待する発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）の発振安定時間≦OSTSレジスタで設定する発振安定時間

注意　設定するクロックの動作可能電圧（第37章　電気的特性を参照）に電源電圧が達してから，クロックを設定してください。

（3）リセット解除後 (A) に，CPUをサブシステム・クロック動作 (D) へ移行
（リセット解除直後，CPUは高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作 (B) ）

（SFRレジスタの設定順序）→

| SFRレジスタの設定フラグ ＼ 状態遷移 | CMCレジスタ注 | | | | CSCレジスタ | 発振安定待ち | CKCレジスタ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | EXCLKS | OSCSELS | AMPHS1 | AMPHS0 | XTSTOP | | CSS |
| (A) → (B) → (D)<br>（XT1クロック） | 0 | 1 | 0/1 | 0/1 | 0 | 必要 | 1 |
| (A) → (B) → (D)<br>（外部サブシステム・クロック） | 1 | 1 | × | × | 0 | 必要 | 1 |

注　クロック動作モード制御レジスタ（CMC）は，リセット解除後，8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。

備考1.　×：don’t care

2.　表5－3の (A) – (J) は，図5－16の(A) – (J) と対応しています。

表5－3　CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例（2/5）

（4）CPUを高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) から高速システム・クロック動作 (C) へ移行

（SFRレジスタの設定順序）→

| SFRレジスタの設定フラグ／状態遷移 | CMCレジスタ注1 | | | OSTSレジスタ | CSCレジスタ | OSTCレジスタ | CKCレジスタ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | EXCLK | OSCSEL | AMPH | | MSTOP | | MCM0 |
| (B) → (C)<br>（X1クロック：1 MHz≦fx≦10 MHz） | 0 | 1 | 0 | 注2 | 0 | 確認必要 | 1 |
| (B) → (C)<br>（X1クロック：10 MHz＜fx≦20 MHz） | 0 | 1 | 1 | 注2 | 0 | 確認必要 | 1 |
| (B) → (C)<br>（外部メイン・クロック） | 1 | 1 | × | 注2 | 0 | 確認不要 | 1 |

設定済みの場合は不要　　高速システム・クロック動作中の場合は不要

注1.　クロック動作モード制御レジスタ（CMC）は，リセット解除後，1回のみ設定可能です。設定済みの場合は不要です。

2.　発振安定時間選択レジスタ（OSTS）の発振安定時間を次のように設定してください。

・期待する発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）の発振安定時間≦OSTSレジスタで設定する発振安定時間

注意　設定するクロックの動作可能電圧（第37章　電気的特性を参照）に電源電圧が達してから，クロックを設定してください。

（5）CPUを高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) から，サブシステム・クロック動作 (D) へ移行

（SFRレジスタの設定順序）→

| SFRレジスタの設定フラグ／状態遷移 | CMCレジスタ注 | | | CSCレジスタ | 発振安定待ち | CKCレジスタ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | EXCLKS | OSCSELS | AMPHS1,0 | XTSTOP | | CSS |
| (B) → (D)<br>（XT1クロック） | 0 | 1 | 00：低消費発振<br>01：通常発振<br>10：超低消費発振 | 0 | 必要 | 1 |
| (B) → (D)<br>（外部サブ・クロック） | 1 | 1 | × | 0 | 必要 | 1 |

設定済みの場合は不要　　サブシステム・クロック動作中の場合は不要

注　クロック動作モード制御レジスタ（CMC）は，リセット解除後，8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。
設定済みの場合は不要です。

備考1.　×：don’t care

2.　表5－3の (A) – (J) は，図5－16の(A) – (J) と対応しています。

表5－3　CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例（3/5）

（6）CPUを高速システム・クロック動作 (C) から，高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) へ移行

（SFRレジスタの設定順序）→

| SFRレジスタの設定フラグ ＼ 状態遷移 | CSCレジスタ | 発振精度安定待ち | CKCレジスタ |
|---|---|---|---|
| | HIOSTOP | | MCM0 |
| (C) → (B) | 0 | 18 μs～65 μs | 0 |

高速オンチップ・オシレータ・クロック動作中の場合は不要

備考　高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ちは，温度条件とSTOPモード期間によって変化します。

（7）CPUを高速システム・クロック動作 (C) から，サブシステム・クロック動作 (D) へ移行

（SFRレジスタの設定順序）→

| SFRレジスタの設定フラグ ＼ 状態遷移 | CSCレジスタ | 発振安定待ち | CKCレジスタ |
|---|---|---|---|
| | XTSTOP | | CSS |
| (C) → (D) | 0 | 必要 | 1 |

サブシステム･クロック動作中の場合は不要

（8）CPUをサブシステム・クロック動作 (D) から，高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) へ移行

（SFRレジスタの設定順序）→

| SFRレジスタの設定フラグ ＼ 状態遷移 | CSCレジスタ | 発振精度安定待ち | CKCレジスタ |
|---|---|---|---|
| | HIOSTOP | | CSS |
| (D) → (B) | 0 | 18 μs～65 μs | 0 |

高速オンチップ・オシレータ・クロック動作中の場合は不要

備考1.　表5－3の (A) – (J) は，図5－16の(A) – (J) と対応しています。

2.　高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ちは，温度条件とSTOPモード期間によって変化します。

表5－3　CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例（4/5）

（9）CPUをサブシステム・クロック動作 (D) から高速システム・クロック動作 (C) へ移行

（SFRレジスタの設定順序）→

| SFRレジスタの設定フラグ ＼ 状態遷移 | OSTS レジスタ | CSC レジスタ MSTOP | OSTC レジスタ | CKC レジスタ CSS |
|---|---|---|---|---|
| (D) → (C)（X1クロック：1 MHz≦fx≦10 MHz） | 注 | 0 | 確認必要 | 0 |
| (D) → (C)（X1クロック：10 MHz＜fx≦20 MHz） | 注 | 0 | 確認必要 | 0 |
| (D) → (C)（外部メイン・クロック） | 注 | 0 | 確認不要 | 0 |

高速システム・クロック
動作中の場合は不要

注　発振安定時間選択レジスタ（OSTS）の発振安定時間を次のように設定してください。
・期待する発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）の発振安定時間≦OSTSレジスタで設定する発振安定時間

注意　設定するクロックの動作可能電圧（第37章　電気的特性を参照）に電源電圧が達してから，クロックを設定してください。

（10）・CPUが高速オンチップ・オシレータ・クロック動作中 (B) にHALTモード（E）へ移行
・CPUが高速システム・クロック動作中 (C) にHALTモード（F）へ移行
・CPUがサブシステム・クロック動作中 (D) にHALTモード（G）へ移行

| 状態遷移 | 設定内容 |
|---|---|
| (B) → (E)<br>(C) → (F)<br>(D) → (G) | HALT命令を実行する |

備考　表5－3の (A) – (J) は，図5－16の(A) – (J) と対応しています。

表5－3　CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例（5/5）

（11）・CPUが高速オンチップ・オシレータ・クロック動作中 (B) にSTOPモード（H）へ移行
・CPUが高速システム・クロック動作中 (C) にSTOPモード（I）へ移行

（設定順序）→

| 状態遷移 | | 設定内容 | | |
|---|---|---|---|---|
| (B) → (H) | | STOPモード中に動作禁止の周辺機能を停止する | － | STOP命令を実行する |
| (C) → (I) | X1発振 | | OSTS レジスタを設定する | |
| | 外部クロック | | － | |

（12）・STOPモード (H) からSNOOZEモード (J) へ移行

STOPモードからSNOOZEモードへ移行するための設定の詳細については，14. 8　SNOOZEモード機能，18. 5. 7　SNOOZEモード機能，18. 6. 3　SNOOZEモード機能を参照してください。

備考　表5－3の (A) – (J) は，図5－16の(A) – (J) と対応しています。

### 5. 6. 5　CPUクロックの移行前の条件と移行後の処理

CPUクロックの移行前の条件と移行後の処理について，次に示します。

表5－4　CPUクロックの移行について（1/2）

| CPUクロック | | 移行前の条件 | 移行後の処理 |
|---|---|---|---|
| 移行前 | 移行後 | | |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック | X1クロック | X1発振が安定していること<br>・OSCSEL = 1, EXCLK = 0, MSTOP = 0<br>・発振安定時間経過後 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、高速オンチップ・オシレータを停止(HIOSTOP = 1)すると，動作電流を低減可能。 |
| | 外部メイン・システム・クロック | EXCLK端子からの外部クロック入力を有効にすること<br>・OSCSEL = 1, EXCLK = 1, MSTOP = 0 | |
| | XT1クロック | XT1発振が安定していること<br>・OSCSELS = 1, EXCLKS = 0, XTSTOP = 0<br>・発振安定時間経過後 | |
| | 外部サブシステム・クロック | EXCLKS端子からの外部クロック入力を有効にすること<br>・OSCSELS = 1, EXCLKS = 1, XTSTOP = 0 | |
| X1クロック | 高速オンチップ・オシレータ・クロック | 高速オンチップ・オシレータの発振を許可していること<br>・HIOSTOP = 0<br>・発振精度安定時間経過後 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、X1発振停止可能（MSTOP = 1）。 |
| | 外部メイン・システム・クロック | 移行不可 | － |
| | XT1クロック | XT1発振が安定していること<br>・OSCSELS = 1, EXCLKS = 0, XTSTOP = 0<br>・発振安定時間経過後 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、X1発振停止可能（MSTOP = 1）。 |
| | 外部サブシステム・クロック | EXCLKS端子からの外部クロック入力を有効にすること<br>・OSCSELS = 1, EXCLKS = 1, XTSTOP = 0 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、X1発振停止可能（MSTOP = 1）。 |
| 外部メイン・システム・クロック | 高速オンチップ・オシレータ・クロック | 高速オンチップ・オシレータの発振を許可していること<br>・HIOSTOP = 0<br>・発振精度安定時間経過後 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、外部メイン・システム・クロック入力を無効に設定可能(MSTOP = 1)。 |
| | X1クロック | 移行不可 | － |
| | XT1クロック | XT1発振が安定していること<br>・OSCSELS = 1, EXCLKS = 0, XTSTOP = 0<br>・発振安定時間経過後 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、外部メイン・システム・クロック入力を無効に設定可能(MSTOP = 1)。 |
| | 外部サブシステム・クロック | EXCLKS端子からの外部クロック入力を有効にすること<br>・OSCSELS = 1, EXCLKS = 1, XTSTOP = 0 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、外部メイン・システム・クロック入力を無効に設定可能(MSTOP = 1)。 |

表5－4　CPUクロックの移行について（2/2）

| CPUクロック | | 移行前の条件 | 移行後の処理 |
|---|---|---|---|
| 移行前 | 移行後 | | |
| XT1クロック | 高速オンチップ・オシレータ・クロック | 高速オンチップ・オシレータが発振され，メイン・システム・クロックに高速オンチップ・オシレータ・クロックが選択されていること<br>・HIOSTOP = 0, MCS = 0 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、XT1発振停止に設定可能(XTSTOP = 1)。 |
| | X1クロック | X1発振が安定，かつメイン・システム・クロックに高速システム・クロックが選択されていること<br>・OSCSEL = 1, EXCLK = 0, MSTOP = 0<br>・発振安定時間経過後<br>・MCS = 1 | |
| | 外部メイン・システム・クロック | EXCLK端子からの外部クロックが入力有効，かつメイン・システム・クロックに高速システム・クロックが選択されていること<br>・OSCSEL = 1, EXCLK = 1, MSTOP = 0<br>・MCS = 1 | |
| | 外部サブシステム・クロック | 移行不可 | － |
| 外部サブシステム・クロック | 高速オンチップ・オシレータ・クロック | 高速オンチップ・オシレータが発振され，メイン・システム・クロックに高速オンチップ・オシレータ・クロックが選択されていること<br>・HIOSTOP = 0, MCS = 0 | CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、外部サブシステム・クロック入力を無効に設定可能 (XTSTOP = 1)。 |
| | X1クロック | X1発振が安定，かつメイン・システム・クロックに高速システム・クロックが選択されていること<br>・OSCSEL = 1, EXCLK = 0, MSTOP = 0<br>・発振安定時間経過後<br>・MCS = 1 | |
| | 外部メイン・システム・クロック | EXCLK端子からの外部クロックが入力有効，かつメイン・システム・クロックに高速システム・クロックが選択されていること<br>・OSCSEL = 1, EXCLK = 1, MSTOP = 0<br>・MCS = 1 | |
| | XT1クロック | 移行不可 | － |

### 5. 6. 6　CPUクロックの切り替えとシステム・クロックの切り替えに要する時間

システム・クロック制御レジスタ（CKC）のビット4, 6（MCM0, CSS）の設定により，CPUクロックの切り替え（メイン・システム・クロック⇔サブシステム・クロック），メイン・システム・クロックの切り替え（高速オンチップ・オシレータ・クロック⇔高速システム・クロック）をすることができます。

実際の切り替え動作は，CKCレジスタを書き換えた直後ではなく，CKCレジスタを変更したのち，数クロックは切り替え前のクロックで動作します（表5－5～表5－7参照）。

CPUクロックがメイン・システム・クロックで動作しているか，サブシステム・クロックで動作しているかは，CKCレジスタのビット7（CLS）で判定できます。またメイン・システム・クロックが高速システム・クロックで動作しているか，高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作しているかは，CKCレジスタのビット5（MCS）で判定できます。

CPUクロックを切り替えると，周辺ハードウエア・クロックも同時に切り替わります。

表5－5　システム・クロックの切り替えに要する最大時間

| クロックA | 切り替え方向 | クロックB | 備考 |
|---|---|---|---|
| $f_{IH}$ | ←→ | $f_{MX}$ | 表5－6参照 |
| $f_{MAIN}$ | ←→ | $f_{SUB}$ | 表5－7参照 |

表5－6　$f_{IH}$ ↔ $f_{MX}$で要する最大クロック数

| 切り替え前の設定値 | | 切り替え後の設定値 | |
|---|---|---|---|
| MCM0 | | MCM0 | |
| | | 0（$f_{MAIN}$ ＝ $f_{IH}$） | 1（$f_{MAIN}$ ＝ $f_{MX}$） |
| 0（$f_{MAIN}$ ＝ $f_{IH}$） | $f_{MX}$≧$f_{IH}$ | | 2クロック |
| | $f_{MX}$＜$f_{IH}$ | | 2$f_{IH}$/$f_{MX}$クロック |
| 1（$f_{MAIN}$ ＝ $f_{MX}$） | $f_{MX}$≧$f_{IH}$ | 2$f_{MX}$/$f_{IH}$クロック | |
| | $f_{MX}$＜$f_{IH}$ | 2クロック | |

表5－7　$f_{MAIN}$ ↔ $f_{SUB}$で要する最大クロック数

| 切り替え前の設定値 | 切り替え後の設定値 | |
|---|---|---|
| CSS | CSS | |
| | 0（$f_{CLK}$ ＝ $f_{MAIN}$） | 1（$f_{CLK}$ ＝ $f_{SUB}$） |
| 0（$f_{CLK}$ ＝ $f_{MAIN}$） | | 1＋2$f_{MAIN}$/$f_{SUB}$クロック |
| 1（$f_{CLK}$ ＝ $f_{SUB}$） | 3クロック | |

備考1.　表5－6，表5－7のクロック数は，切り替え前のCPUクロックのクロック数です。

2.　表5－6，表5－7のクロック数は，小数点以下を切り上げてください。

例　メイン・システム・クロックを高速システム・クロックから高速オンチップ・オシレータ・クロックに切り替える場合（$f_{IH}$ = 6 MHz選択, $f_{MX}$ = 10 MHz発振時）

2$f_{MX}$/$f_{IH}$ = 2(10/6) = 3.3 → 4クロック

### 5. 6. 7　クロック発振停止前の条件

クロック発振停止（外部クロック入力無効）するためのレジスタのフラグ設定と停止前の条件を次に示します。

クロックを停止する場合は、クロック停止前条件を確認した後に停止してください。

表5－8　クロック発振停止前の条件とフラグ設定

| クロック | クロック停止（外部クロック入力無効）前条件 | SFRレジスタのフラグ設定 |
|---|---|---|
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック | MCS = 1またはCLS = 1<br>（CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロック以外で動作） | HIOSTOP = 1 |
| X1クロック<br>外部メイン・システム・クロック | MCS = 0またはCLS = 1<br>（CPUクロックが高速システム・クロック以外で動作） | MSTOP = 1 |
| XT1クロック<br>外部サブシステム・クロック | CLS = 0<br>（CPUクロックがサブシステム・クロック以外で動作） | XTSTOP = 1 |

## 5.7　発振子と発振回路定数

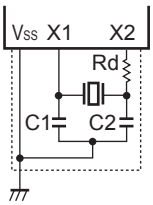
動作確認済みの発振子と，その発振回路定数（参考）を示します。

注意1.　この発振回路定数は，発振子メーカによる特定の環境下での評価に基づく参考値です。実アプリケーションでは，実装回路上での評価を発振子メーカに依頼してください。
また，別製品からのマイコンの変更、基板の変更の際には，再度，実装回路上での評価を発振子メーカに依頼してください。

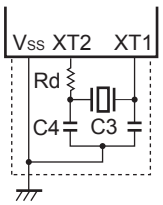
2.　発振電圧，発振周波数は，あくまでも発振回路特性を示すものです。RL78マイクロコントローラの内部動作条件については，DC, AC特性の規格内で使用してください。

図5－17　外付け発振回路例

（a）X1発振




（b）XT1発振



（1）X1発振　　2014年3月現在（1/2）

| メーカ | 発振子 | 品　名 | SMD/リード | 周波数 (MHz) | フラッシュ動作モード 注1 | 発振回路定数 注2（参考） | | | 電圧範囲 (V) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | C1 (pF) | C2 (pF) | Rd (kΩ) | MIN. | MAX. |
| 株式会社村田製作所 注3 | セラミック発振子 | CSTCC2M00G56-R0 | SMD | 2.0 | LS | (47) | (47) | 0 | 1.9 | 5.5 |
| | | CSTCR4M00G55-R0 | SMD | 4.0 | | (39) | (39) | 0 | | |
| | | CSTLS4M00G53-B0 | リード | | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTCR4M19G55-R0 | SMD | 4.194 | | (39) | (39) | 0 | | |
| | | CSTLS4M19G53-B0 | リード | | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTCR4M91G53-R0 | SMD | 4.915 | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTLS4M91G53-B0 | リード | | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTCR5M00G53-R0 | SMD | 5.0 | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTLS5M00G53-B0 | リード | | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTCR6M00G53-R0 | SMD | 6.0 | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTLS6M00G53-B0 | リード | | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTCE8M00G52-R0 | SMD | 8.0 | | (10) | (10) | 0 | | |
| | | CSTLS8M00G53-B0 | リード | | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTCE8M38G52-R0 | SMD | 8.388 | HS | (10) | (10) | 0 | 2.4 | 5.5 |
| | | CSTLS8M38G53-B0 | リード | | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTCE10M0G52-R0 | SMD | 10.0 | | (10) | (10) | 0 | | |
| | | CSTLS10M0G53-B0 | リード | | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTCE12M0G52-R0 | SMD | 12.0 | | (10) | (10) | 0 | | |
| | | CSTCE16M0V53-R0 | SMD | 16.0 | | (15) | (15) | 0 | | |
| | | CSTLS16M0X51-B0 | リード | | | (5) | (5) | 0 | | |
| | | CSTCE20M0V51-R0 | SMD | 20.0 | | (5) | (5) | 0 | 2.7 | 5.5 |
| | | CSTLS20M0X51-B0 | リード | | | (5) | (5) | 0 | | |

注 1.　フラッシュ動作モードは，オプション・バイト（000C2H）のCMODE1, CMODE0ビットで設定します。
2.　C1, C2の欄の（ ）内は，内蔵容量値を示しています。
3.　この振動子を使用する場合，マッチングの詳細については，株式会社村田製作所（http://www.murata.co.jp）にお問い合わせください。

備考　動作電圧範囲，CPU動作周波数，動作モードの関係を次に示します。

HS（高速メイン）モード　：2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～24 MHz
2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～16 MHz

LS（低速メイン）モード　：1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～8 MHz

2014年3月現在（2/2）

| メーカ | 発振子 | 品　名[注2] | SMD/リード | 周波数 (MHz) | ﾌﾗｯｼｭ動作ﾓｰﾄﾞ[注1] | 発振回路定数（参考） C1 (pF) | C2 (pF) | Rd (kΩ) | 電圧範囲 (V) MIN. | MAX. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本電波工業株式会社 | 水晶振動子 | NX8045GB[注3] | SMD | 8.0 | 注3 | | | | | |
| | | NX5032GA[注3] | SMD | 16.0 | | | | | | |
| | | NX3225HA[注3] | SMD | 20.0 | | | | | | |
| 京セラクリスタルデバイス株式会社 | 水晶振動子 | CX8045GB04000D0PPTZ1[注4] | SMD | 4.0 | LS | 12 | 12 | 0 | 1.9 | 5.5 |
| | | CX8045GB04915D0PPTZ1[注4] | SMD | 4.915 | LS | 12 | 12 | 0 | 1.9 | 5.5 |
| | | CX8045GB08000D0PPTZ1[注4] | SMD | 8.0 | | 12 | 12 | 0 | | |
| | | CX8045GB10000D0PPTZ1[注4] | SMD | 10.0 | HS | 12 | 12 | 0 | 2.4 | 5.5 |
| | | CX3225GB12000B0PPTZ1[注4] | SMD | 12.0 | | 5 | 5 | 0 | | |
| | | CX3225GB16000B0PPTZ1[注4] | SMD | 16.0 | | 5 | 5 | 0 | | |
| | | CX3225SB20000B0PPTZ1[注4] | SMD | 20.0 | | 5 | 5 | 0 | 2.7 | 5.5 |
| リバーエレテック株式会社 | 水晶振動子 | FCX-03 - 8.000MHZ - J21140[注5] | SMD | 8.0 | HS | 3 | 3 | 0 | 2.4 | 5.5 |
| | | FCX-04C - 10.000MHZ - J21139[注5] | SMD | 10.0 | | 4 | 4 | 0 | | |
| | | FCX-05 - 12.000MHZ - J21138[注5] | SMD | 12.0 | | 6 | 6 | 0 | | |
| | | FCX-06 - 16.000MHZ - J21137[注5] | SMD | 16.0 | | 4 | 4 | 0 | | |

注 1.　フラッシュ動作モードは，オプション・バイト（000C2H）のCMODE1, CMODE0ビットで設定します。
2.　この振動子は85℃まで対応しています。
3.　この振動子を使用する場合，マッチングの詳細については，日本電波工業株式会社（http://www.ndk.com）にお問い合わせください。
4.　この振動子を使用する場合，マッチングの詳細については，京セラクリスタルデバイス株式会社（http://www.kyocera-crystal.jp，http://www.kyocera.co.jp）にお問い合わせください。
5.　この振動子を使用する場合，マッチングの詳細については，リバーエレテック株式会社（http://www.river-ele.co.jp）にお問い合わせください。

備考　動作電圧範囲，CPU動作周波数，動作モードの関係を次に示します。

HS（高速メイン）モード　：2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～24 MHz
2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～16 MHz

LS（低速メイン）モード　：1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～8 MHz

（2）XT1発振（水晶振動子）　　2014年3月現在

| メーカ | 品　名[注2] | SMD/リード | 周波数 (kHz) | 負荷容量 CL (pF) | XT1発振モード[注1] | 発振回路定数（参考） C3 (pF) | C4 (pF) | Rd (kΩ) | 電圧範囲 (V) MIN. | MAX. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| セイコーインスツル株式会社 | SSP-T7-F[注3] | SMD | 32.768 | 7 | 通常発振 | 11 | 11 | 0 | 1.9 | 5.5 |
| | SSP-T7-FL[注3] | | | 6 | | 9 | 9 | 0 | | |
| | | | | 6 | 低消費発振 | 9 | 9 | 0 | | |
| | | | | 4.4 | | 6 | 5 | 0 | | |
| | | | | 4.4 | 超低消費発振 | 6 | 5 | 0 | | |
| | | | | 3.7 | | 4 | 4 | 0 | | |
| | VT-200-FL[注3] | リード | | 6 | 通常発振 | 9 | 9 | 0 | | |
| | | | | 6 | 低消費発振 | 9 | 9 | 0 | | |
| | | | | 4.4 | | 6 | 5 | 0 | | |
| | | | | 4.4 | 超低消費発振 | 6 | 5 | 0 | | |
| | | | | 3.7 | | 4 | 4 | 0 | | |
| 日本電波工業株式会社 | NX3215SA[注4] | SMD | 32.768 | 6 | 通常発振 | 7 | 7 | 0 | 1.9 | 5.5 |
| | | | | | 低消費発振 | | | | | |
| | | | | | 超低消費発振 | | | | | |
| | NX2012SA[注4] | SMD | 32.768 | 6 | 通常発振 | 7 | 7 | 0 | | |
| | | | | | 低消費発振 | | | | | |
| | | | | | 超低消費発振 | | | | | |
| 京セラクリスタルデバイス株式会社 | ST3215SB[注5] | SMD | 32.768 | 7 | 通常発振 | 10 | 10 | 0 | 1.9 | 5.5 |
| | | | | | 低消費発振 | | | | | |
| | | | | | 超低消費発振 | | | | | |
| リバーエレテック株式会社 | TFX-02 - 32.768KHZ - J20986[注6] | SMD | 32.768 | 9 | 通常発振 | 12 | 10 | 0 | 1.9 | 5.5 |
| | | | | | 低消費発振 | | | | | |
| | TFX-03 - 32.768KHZ - J13375[注6] | SMD | 32.768 | 7 | 通常発振 | 12 | 10 | 0 | | |

注 1.　XT1発振モードは，クロック動作モード制御レジスタ（CMC）のAMPHS0, AMPHS1ビットで設定します。

2.　この振動子は85℃まで対応しています。

3.　この振動子は，低消費電力用製品です。使用する場合，マッチングの詳細については，セイコーインスツル株式会社（http://www.sii-crystal.com）にお問い合わせください。

4.　この振動子を使用する場合，マッチングの詳細については，日本電波工業株式会社（http://www.ndk.com/）にお問い合わせください。

5.　この振動子を使用する場合，マッチングの詳細については，京セラクリスタルデバイス株式会社（http://www.kyocera-crystal.jp，http://www.kyocera.co.jp）にお問い合わせください。

6.　この振動子を使用する場合，マッチングの詳細については，リバーエレテック株式会社（http://www.river-ele.co.jp）にお問い合わせください。

# 第6章　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能

## 6.1　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能

サブシステム・クロック$f_{SUB}$（32.768 kHz）を基準として，高速オンチップ・オシレータの周波数を測定し，リアルタイムに高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）の周波数精度補正を行います。

表6－1に高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能の動作仕様を，図6－1に高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能のブロック図を示します。

表6－1　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能の動作仕様

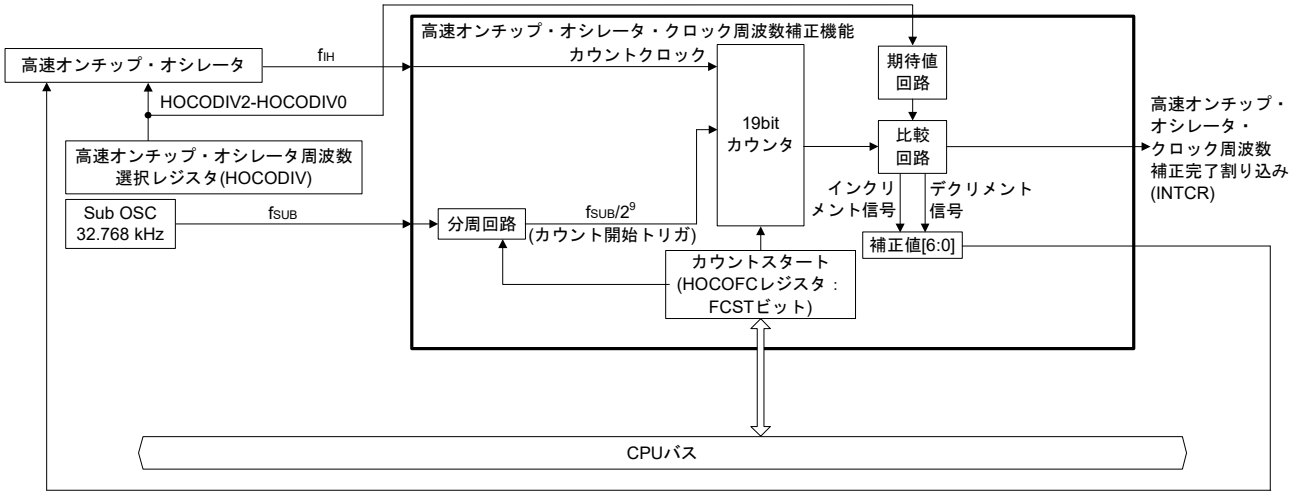
| 項　　目 | 内　　容 |
|---|---|
| 基準クロック | • $f_{SUB}/2^9$（サブシステム・クロック32.768 kHz） |
| 補正対象クロック | • $f_{IH}$（高速オンチップ・オシレータ・クロック） |
| 動作モード | • 連続動作モード<br>常時高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正を行うモード<br>• 間欠動作モード<br>タイマ割り込み等を使い，間欠的に高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正を行うモード |
| クロック精度調整機能 | • 補正時間：補正周期（31.2ms）×（補正回数 －0.5）注 |
| 割り込み | • 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了したとき出力（割り込み出力許可時） |

注　補正時間：補正回数により変化します。

補正周期：周波数測定フェーズと周波数補正フェーズの合計時間です。

補正回数：周波数が期待値範囲内に収まるまで，繰り返した補正周期の回数になります。

図6－1　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能のブロック図




注意1.　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能を使用するには、サブシステム・クロックが必要です。XT1, XT2にサブクロック振動子を接続してください。

2.　24ビットΔΣ型A/Dコンバータを使用する際に，動作クロックに高速オンチップ・オシレータを選択する場合は，必要に応じて本機能を使用してください。

## 6.2　レジスタ説明

表6－2に高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能で使用するレジスター覧を示します。

表6－2　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能レジスター覧

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正制御レジスタ（HOCOFC） |

### 6.2.1　高速オンチップ･オシレータ･クロック周波数補正制御レジスタ（HOCOFC）

高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能を制御するレジスタです。

HOCOFCレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図6－2　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正制御レジスタ（HOCOFC）のフォーマット

アドレス：F02D8H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HOCOFC | FCMD | FCIE | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | FCST |

| FCMD注1 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能動作モード |
|---|---|
| 0 | 連続動作モード |
| 1 | 間欠動作モード |

| FCIE | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了割り込み制御 |
|---|---|
| 0 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了後に割り込みを発生しない |
| 1 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了後に割り込みを発生する |

| FCST注2 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正回路動作制御／ステータス |
|---|---|
| 0 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正回路動作停止／停止中 |
| 1 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正回路動作開始／動作中 |
| 連続動作モード時は，ソフトウェアで0を書くと停止します。<br>間欠動作モード時は，補正が完了後，FCSTビットはハードウェアクリアされます。 | |

注1.　FCSTビットが1の時には，FCMDビットを書き換えないでください。

2.　FCSTビットに1を書き込む場合は，FCSTビットが0である事を確認してからFCSTビットに1を書き込んでください。ただし，間欠動作完了直後（高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了割り込み発生時）にFCSTビットに1を書き込む場合は，ハードウェアクリアを優先するため，高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了割り込み発生から$f_{IH}$が1サイクル以上経過後に行ってください。
FCSTビットに0を書き込み（高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正回路動作停止）後，$f_{IH}$で2サイクル以内にFCSTビットに1（高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正回路動作開始）を書き込まないでください。

注意　ビット5-1には必ず0を設定してください。

# 6. 3　動作説明

## 6. 3. 1　動作概要

高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正は，サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）を基準として補正周期が生成され，高速オンチップ・オシレータの周波数を測定し，リアルタイムに高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数精度補正を行います。クロック調整は，周波数測定フェーズと周波数補正フェーズの動作を繰り返します。周波数測定フェーズでは補正演算，周波数補正フェーズでは補正演算結果を反映した補正値出力を保持します。

表6－3に高速オンチップ・オシレータ入力周波数と補正周期を，図6－3に高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作タイミング（詳細）を示します。

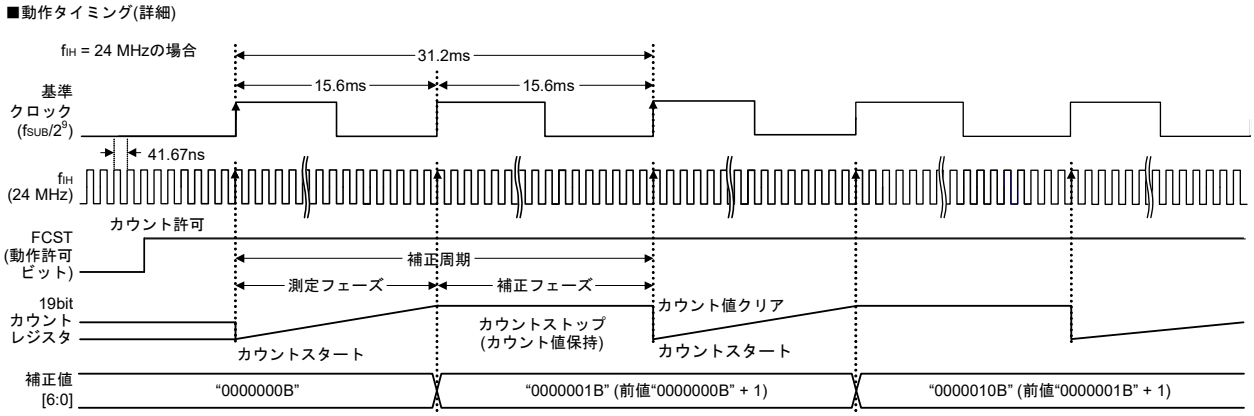
表6－3　高速オンチップ・オシレータ入力周波数と補正周期

| $f_{IH}$（MHz） | HOCODIV2-HOCODIV0注（HOCODIVレジスタ） | 補正周期（ms） |
|---|---|---|
| 24 | 000 | 31.2<br>（周波数測定フェーズ<br>＋<br>周波数補正フェーズ） |
| 12 | 001 | |
| 6 | 010 | |
| 3 | 011 | |
| 上記以外 | 設定禁止 | |

注　高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）を変更する場合は，必ず高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能未使用時に行ってください。

補正周期の周波数測定フェーズ期間を高速オンチップ・オシレータ・クロックでカウントし，カウント結果と期待値との大小により高速オンチップ・オシレータの周波数を補正します。

図6－3　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作タイミング（詳細）




備考　連続動作モードも間欠動作モードも基本動作は同じです。違いはFCSTビットのクリアがソフトウェア制御かハードウェア制御の違いのみです。また，システムリセットがかかるまでは，補正値はクリアされません。

（1）連続動作モード

連続動作モードは，常時高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正を行うモードです。HOCOFCレジスタのFCMDビットを“0”に設定することで連続動作モードになります。

HOCOFCレジスタのFCSTビットに“1”を設定することで高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作を開始します。同様にFCSTビットに“0”を設定することで高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作が停止します。

高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作を開始すると，基準クロック（$f_{SUB}/2^9$）の立ち上りで周波数カウントを開始し，次の基準クロック（$f_{SUB}/2^9$）の立ち上りでカウントを停止します。（周波数測定フェーズ）

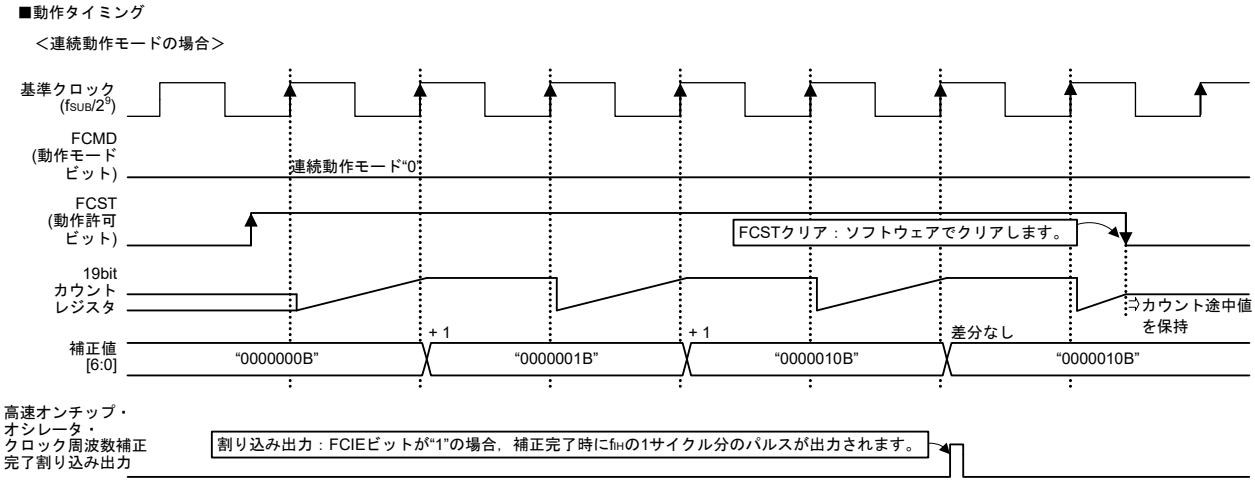
次に，カウント値と期待値を比較し，補正値を以下の通り調整します。（周波数補正フェーズ）

- カウント値が期待値よりも大きい場合：補正値　－1
- カウント値が期待値よりも小さい場合：補正値　＋1
- カウント値が期待値の範囲内の場合：補正値保持（高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了）

HOCOFCレジスタのFCIEビットを“1”に設定している場合は，高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了ごとに高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了割り込みを出力します。連続動作モードでは，高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能が停止するまで周波数測定フェーズと周波数補正フェーズを繰り返します。

図6－4に連続動作モードタイミングを示します。

図6－4　連続動作モードタイミング



（2）間欠動作モード

間欠動作モードは，タイマ割り込み等を使い，間欠的に高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正を行うモードです。HOCOFCレジスタのFCMDビットを“1”に設定することで間欠動作モードになります。

HOCOFCレジスタのFCSTビットに“1”を設定することで高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作を開始します。

高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作を開始すると，基準クロック（$f_{SUB}/2^9$）の立ち上りで周波数カウントを開始し，次の基準クロック（$f_{SUB}/2^9$）の立ち上りでカウントを停止します。（周波数測定フェーズ）

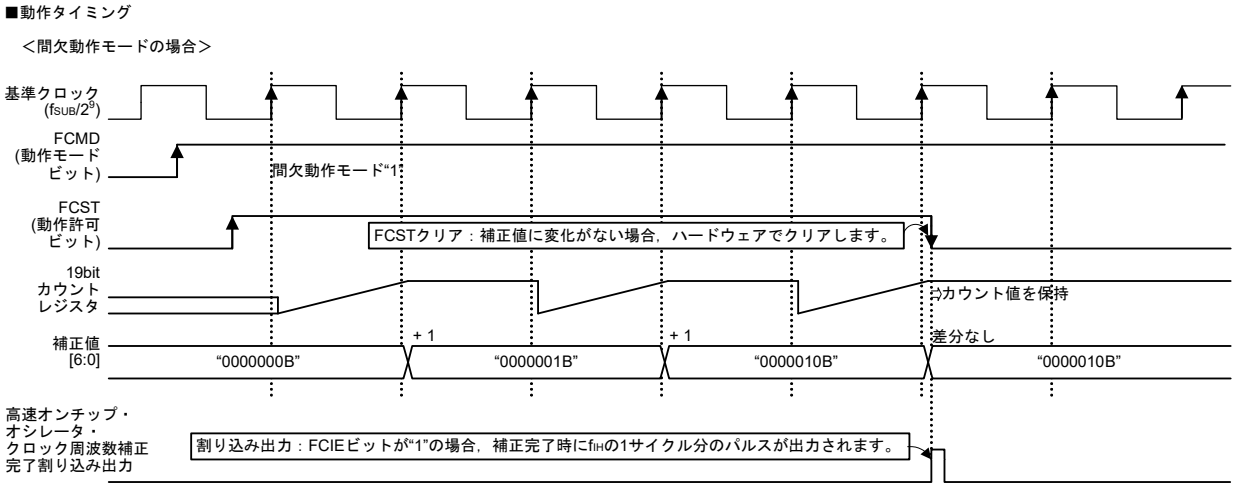
次にカウント値と期待値を比較し，補正値を以下の通り調整します。（周波数補正フェーズ）

- カウント値が期待値よりも大きい場合：補正値　－1
- カウント値が期待値よりも小さい場合：補正値　＋1
- カウント値が期待値の範囲内の場合：補正値保持＋FCSTビットをクリア（高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了）

HOCOFCレジスタのFCIEビットを“1”に設定している場合は，高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了時に高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了割り込みを出力します。間欠動作モードでは周波数測定フェーズと周波数補正フェーズを繰り返し，高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了後に高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作が停止します。

図6－5に間欠動作モードタイミングを示します。

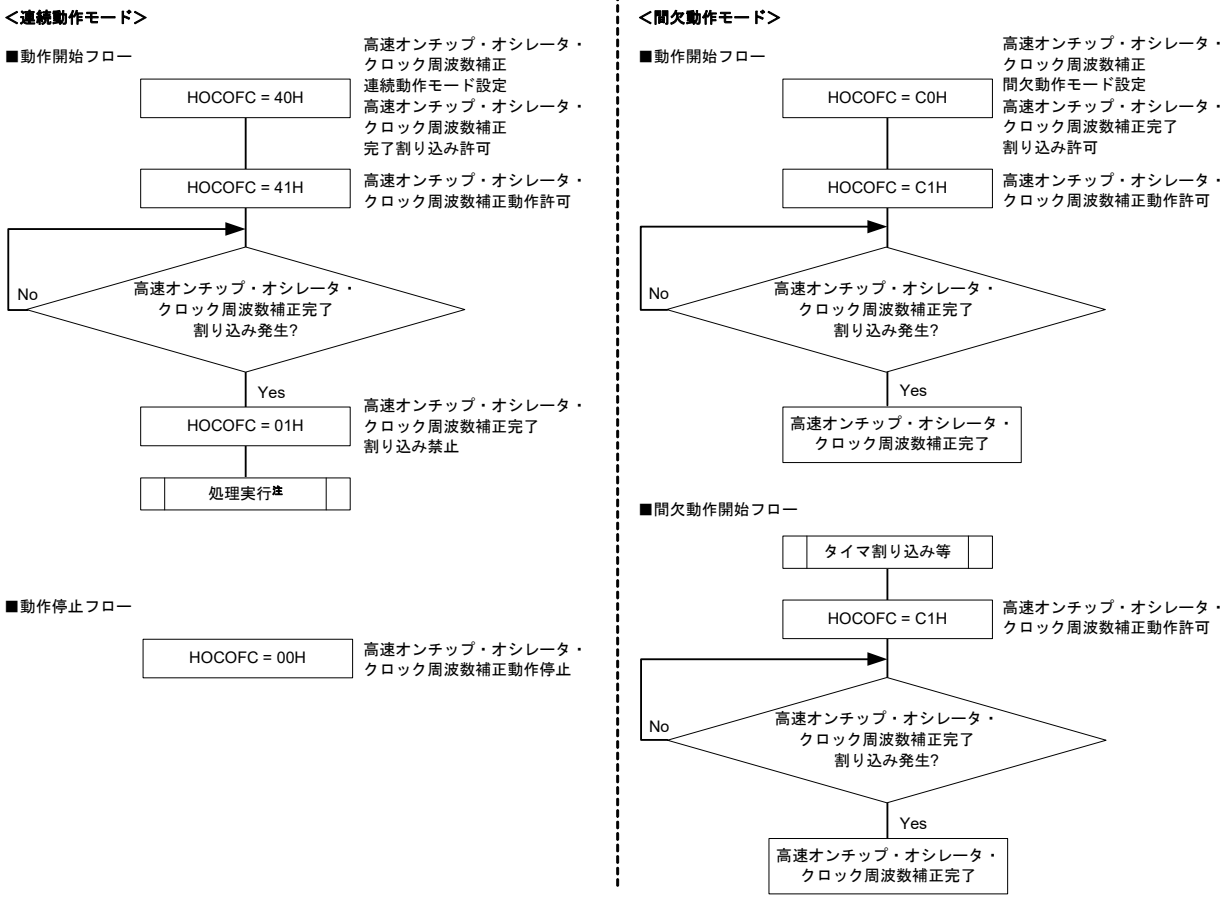
図6－5　間欠動作モードタイミング



### 6. 3. 2　動作手順

高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能使用時の動作開始・停止のフローを以下に示します。

図6－6　動作モード設定手順例




注　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作は，高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能が停止するまで繰り返されます。

## 6.4　使用上の注意事項

### 6.4.1　SFRアクセス

間欠動作モード時のFCSTビット制御について，FCSTに“1”を書き込む際はFCSTビットが“0”であることを確認してからFCSTビットに“1”を書き込んでください。ただし，間欠動作完了直後（割り込み発生時）にFCSTビットに“1”を書き込む場合は，ハードウェアクリアを優先するため，高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了割り込み発生から$f_{IH}$が1サイクル以上経過後に行ってください。

### 6.4.2　スタンバイ時動作

STOP命令実行前に，必ず高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正動作を停止させてください。

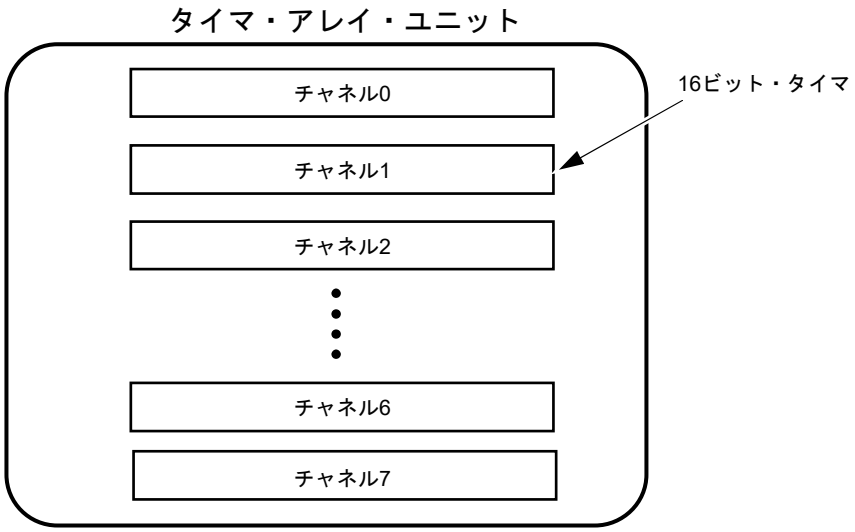
### 6.4.3　高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）の変更について

高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）を変更する場合は，必ず高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能未使用時に行ってください。

# 第7章　タイマ・アレイ・ユニット

タイマ・アレイ・ユニットは8個の16ビット・タイマを搭載しています。

各16ビット・タイマは「チャネル」と呼び，それぞれを単独のタイマとして使用することはもちろん，複数のチャネルを組み合わせて高度なタイマ機能として使用することもできます。




各機能の詳細に関しては下記を参照してください。

| 単独チャネル動作機能 | 複数チャネル連動動作機能 |
|---|---|
| ・インターバル・タイマ（→7. 8. 1参照）<br>・方形波出力（→7. 8. 1参照）<br>・外部イベント・カウンタ（→7. 8. 2参照）<br>・入力パルス間隔測定（→7. 8. 3参照）<br>・入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定（→7. 8. 4参照）<br>・ディレイ・カウンタ（→7. 8. 5参照） | ・ワンショット・パルス出力（→7. 9. 1参照）<br>・PWM出力（→7. 9. 2参照）<br>・多重PWM出力（→7. 9. 3参照） |

チャネル1, 3の16ビット・タイマを2つの8ビット・タイマ（上位／下位）として使用することもできます。チャネル1, 3が8ビット・タイマとして使用できる機能は，次の機能です。

・インターバル・タイマ（上位／下位8ビット・タイマ）／方形波出力（下位8ビット・タイマのみ）
・外部イベント・カウンタ（下位8ビット・タイマのみ）
・ディレイ・カウンタ（下位8ビット・タイマのみ）

また，チャネル7は，シリアル・アレイ・ユニットのUART0と連携し，LIN-bus通信動作を実現することができます。

# 7.1　タイマ・アレイ・ユニットの機能

タイマ・アレイ・ユニットには，次のような機能があります。

## 7.1.1　単独チャネル動作機能

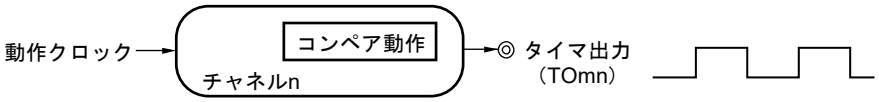
単独チャネル動作機能は，他のチャネルの動作モードに影響を受けることなく任意のチャネルを独立して使用可能な機能です。

（1）インターバル・タイマ

一定間隔で割り込み（INTTMmn）を発生する基準タイマとして利用できます。

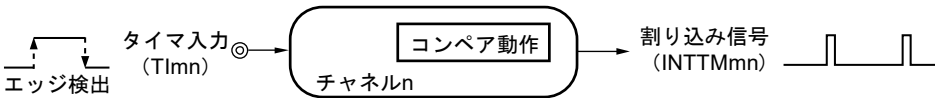
（2）方形波出力

INTTMmn割り込みの発生ごとにトグル動作を行い，デューティ50%の方形波をタイマ出力端子（TOmn）より出力します。



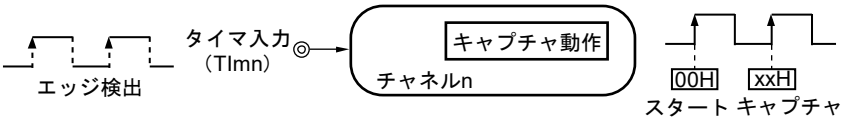

（3）外部イベント・カウンタ

タイマ入力端子（TImn）に入力される信号の有効エッジをカウントし，規定回数に達したら割り込みを発生するイベント・カウンタとして利用できます。



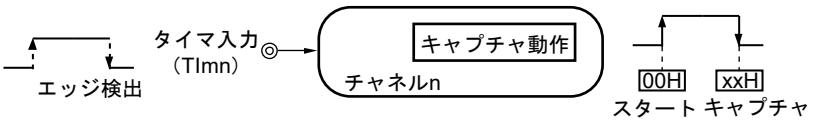

（4）入力パルス間隔測定

タイマ入力端子（TImn）に入力されるパルス信号の有効エッジでカウントをスタートし，次のパルスの有効エッジでカウント値をキャプチャすることで，入力パルスの間隔を測定します。



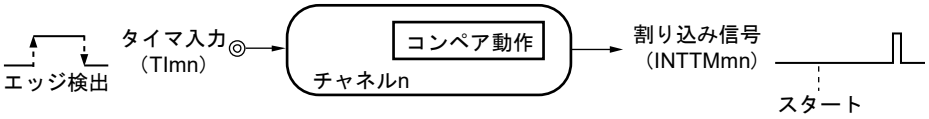

（5）入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定

タイマ入力端子（TImn）に入力される信号の片エッジでカウントをスタートし，もう一方の片エッジでカウント値をキャプチャすることで，入力信号のハイ・レベル幅，ロウ・レベル幅を測定します。



（6）ディレイ・カウンタ

タイマ入力端子（TImn）に入力される信号の有効エッジでカウントをスタートし，任意のディレイ期間後，割り込みを発生します。




備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

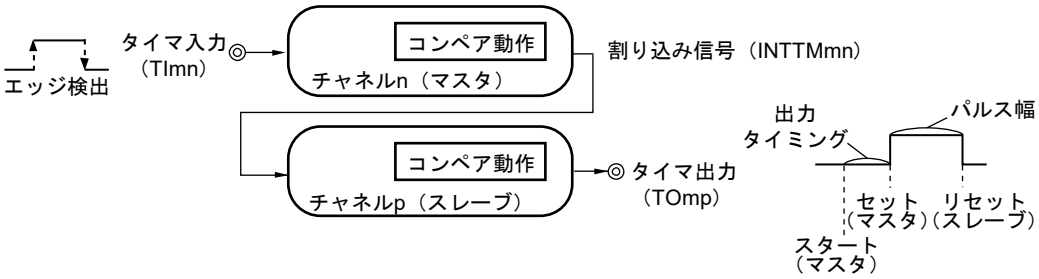
## 7. 1. 2　複数チャネル連動動作機能

複数チャネル連動動作機能は，マスタ・チャネル（主に周期を制御する基準タイマ）とスレーブ・チャネル（マスタ・チャネルに従い動作するタイマ）を組み合せて実現する機能です。

複数チャネル連動動作機能は，次に示すモードとして利用できます。

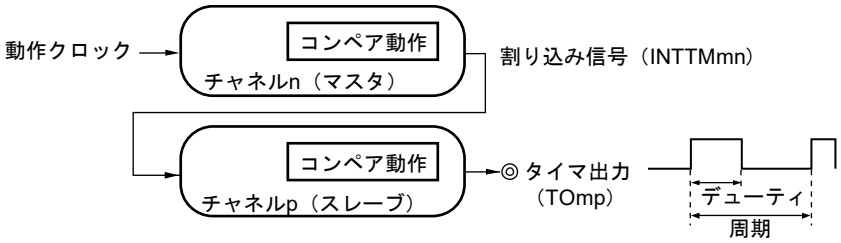
（1）ワンショット・パルス出力

2チャネルをセットで使用し，出力タイミングとパルス幅を任意に設定できるワンショット・パルスを生成します。




（2）PWM（Pulse Width Modulation）出力

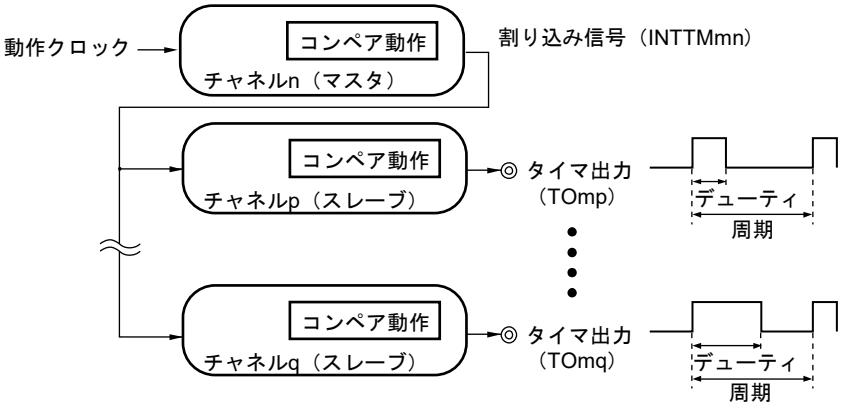
2チャネルをセットで使用し，周期とデューティを任意に設定できるパルスを生成します。




（注意，備考は次ページにあります。）

（3）多重PWM（Pulse Width Modulation）出力

PWM機能を拡張し，1つのマスタ・チャネルと複数のスレーブ・チャネルを使用することで，周期一定で，任意のデューティのPWM信号を最大7種類生成することができます。




注意　複数チャネル連動動作機能のルールの詳細については，7. 4. 1　複数チャネル連動動作機能の基本ルールを参照してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7），
p, q：スレーブ・チャネル番号（n＜p＜q≦7）

## 7. 1. 3　8ビット・タイマ動作機能（チャネル1, 3のみ）

8ビット・タイマ動作機能は，16ビット・タイマのチャネルを8ビット・タイマの2チャネル構成として使用する機能です。チャネル1, 3のみが使用できます。

注意　8ビット・タイマ動作機能の使用にあたっては，いくつかのルールがあります。
詳細は，7. 4. 2　8ビット・タイマ動作機能の基本ルール（チャネル1, 3のみ）を参照してください。

### 7. 1. 4　LIN-bus対応機能（チャネル7のみ）

LIN-bus通信機能において，受信信号がLIN-busの通信フォーマットに適合しているかタイマ・アレイ・ユニットを使ってチェックします。

（1）ウエイクアップ信号の検出

UART0のシリアル・データ入力端子（RxD0）に入力される信号の立ち下がりエッジでカウントをスタートし，立ち上がりエッジでカウント値をキャプチャすることでロウ・レベル幅を測定します。そのロウ・レベル幅がある一定値以上であれば，ウエイクアップ信号と認識します。

（2）ブレーク・フィールドの検出

ウエイクアップ信号検出後，UART0のシリアル・データ入力端子（RxD0）に入力される信号の立ち下がりエッジでカウントをスタートし，立ち上がりエッジでカウント値をキャプチャすることでロウ・レベル幅を測定します。そのロウ・レベル幅がある一定値以上であれば，ブレーク・フィールドと認識します。

（3）シンク・フィールドのパルス幅測定

ブレーク・フィールド検出後，UART0のシリアル・データ入力端子（RxD0）に入力される信号のロウ・レベル幅とハイ・レベル幅を測定します。こうして測定されたシンク・フィールドのビット間隔からボー・レートを算出します。

備考　LIN-bus対応機能の動作設定については，7. 3. 13　入力切り替え制御レジスタ（ISC），7. 8. 4　入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定としての動作を参照してください。

## 7.2　タイマ・アレイ・ユニットの構成

タイマ・アレイ・ユニットは，次のハードウエアで構成されています。

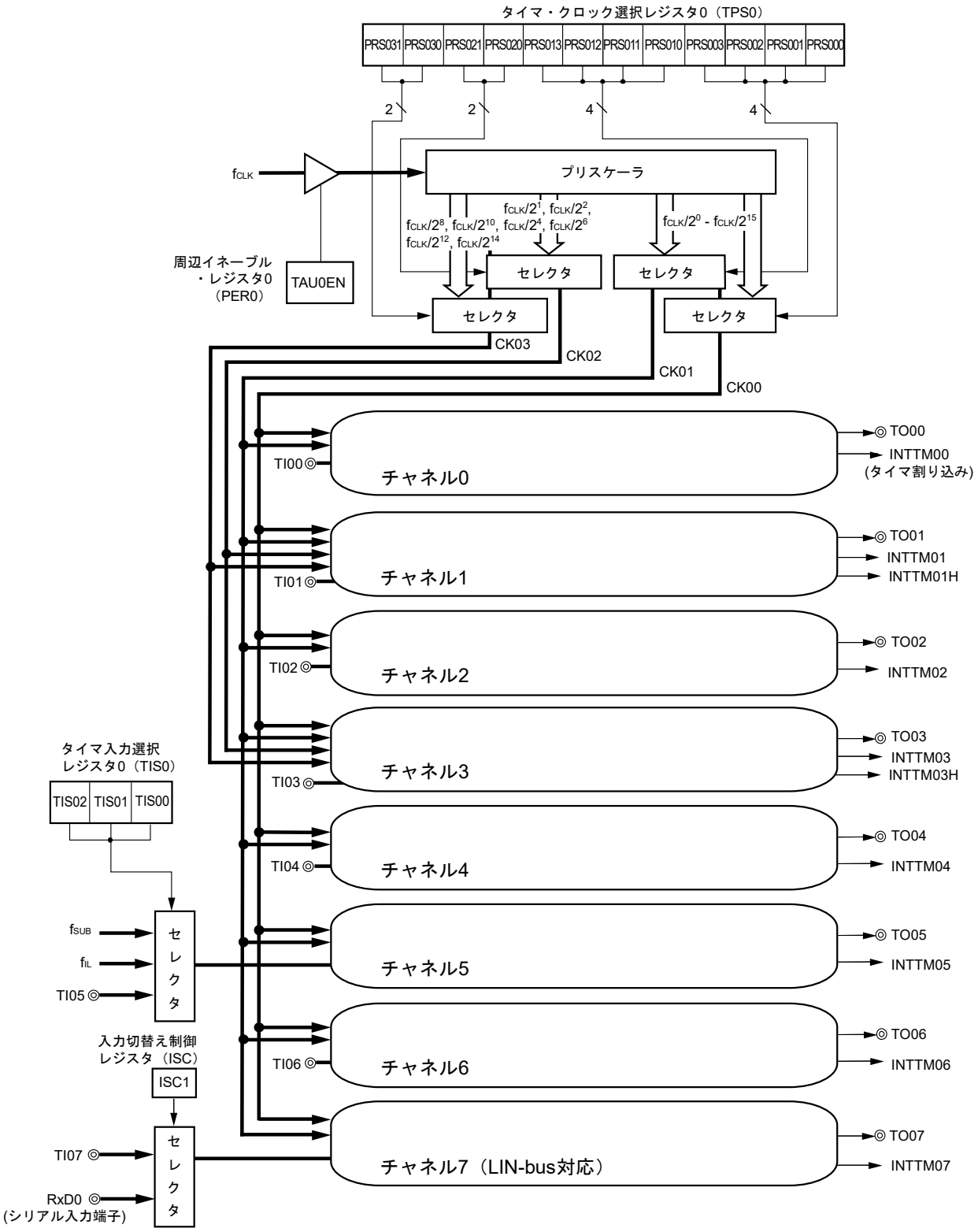
表7－1　タイマ・アレイ・ユニットの構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| タイマ／カウンタ | タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn） |
| レジスタ | タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn） |
| タイマ入力 | TI00-TI07, RxD0端子（LIN-bus用） |
| タイマ出力 | TO00-TO07，出力制御回路 |
| 制御レジスタ | ＜ユニット設定部のレジスタ＞<br>・周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）<br>・タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）<br>・タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）<br>・タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）<br>・タイマ・チャネル停止レジスタm（TTm）<br>・タイマ入力選択レジスタ0（TIS0）<br>・タイマ出力許可レジスタm（TOEm）<br>・タイマ出力レジスタm（TOm）<br>・タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）<br>・タイマ出力モード・レジスタm（TOMm） |
| | ＜各チャネル部のレジスタ＞<br>・タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）<br>・タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）<br>・入力切り替え制御レジスタ（ISC）<br>・ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）<br>・ポート・モード・レジスタ（PM0, PM3, PM4, PM6, PM12）<br>・ポート・レジスタ（P0, P3, P4, P6, P12） |

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－1にタイマ・アレイ・ユニットのブロック図を示します。

図7－1　タイマ・アレイ・ユニットの全体ブロック図




備考　$f_{SUB}$　：サブシステム・クロック周波数

$f_{IL}$　：低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

図7－2　タイマ・アレイ・ユニットのチャネル0内部ブロック図

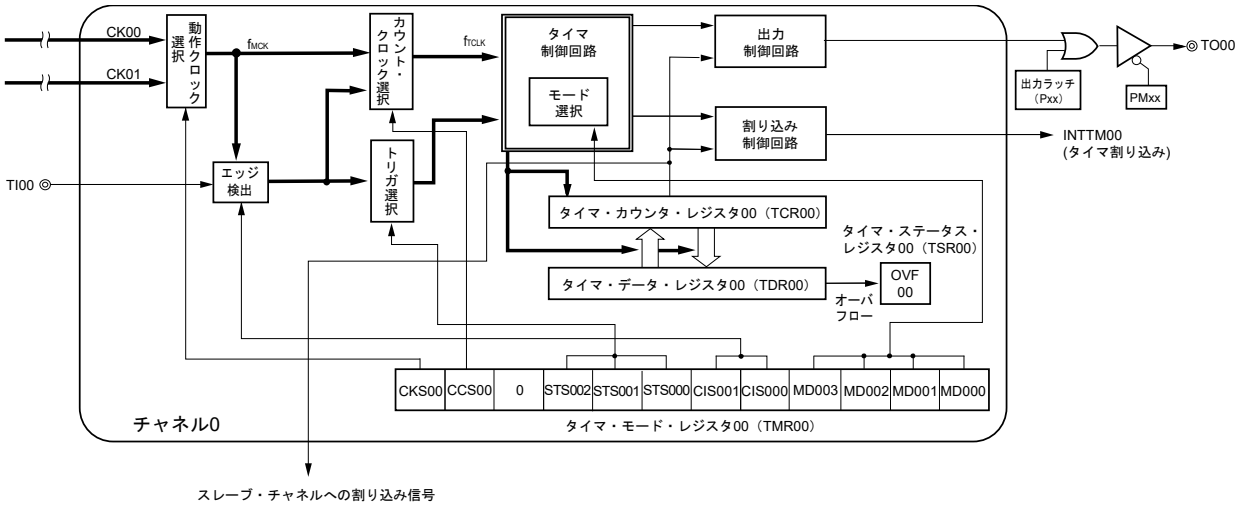
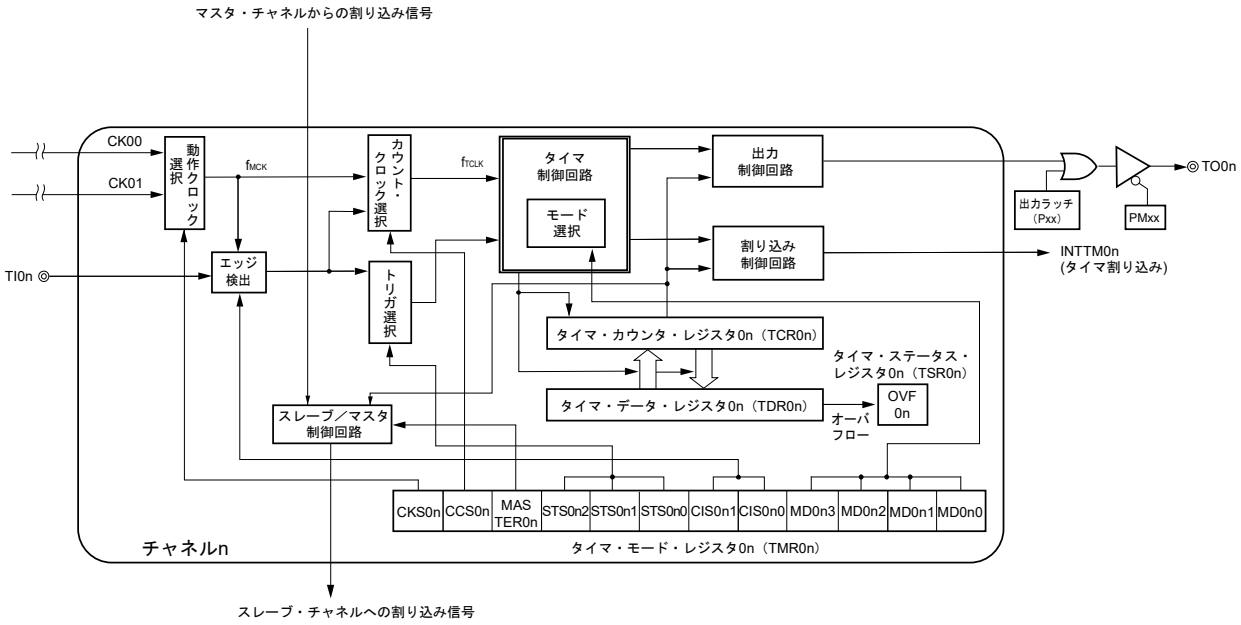
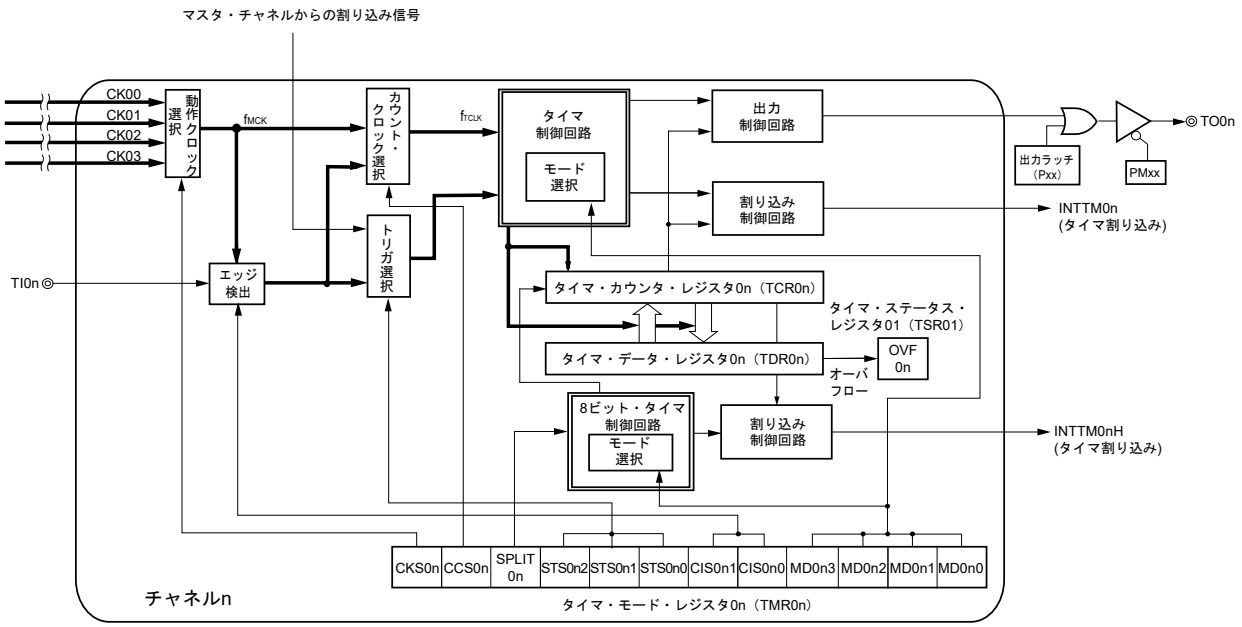



図7－3　タイマ・アレイ・ユニットのチャネル2, 4, 6内部ブロック図




備考　n = 2, 4, 6

図7－4　タイマ・アレイ・ユニットのチャネル1, 3内部ブロック図




備考　n = 1, 3

図7－5　タイマ・アレイ・ユニットのチャネル5内部ブロック図

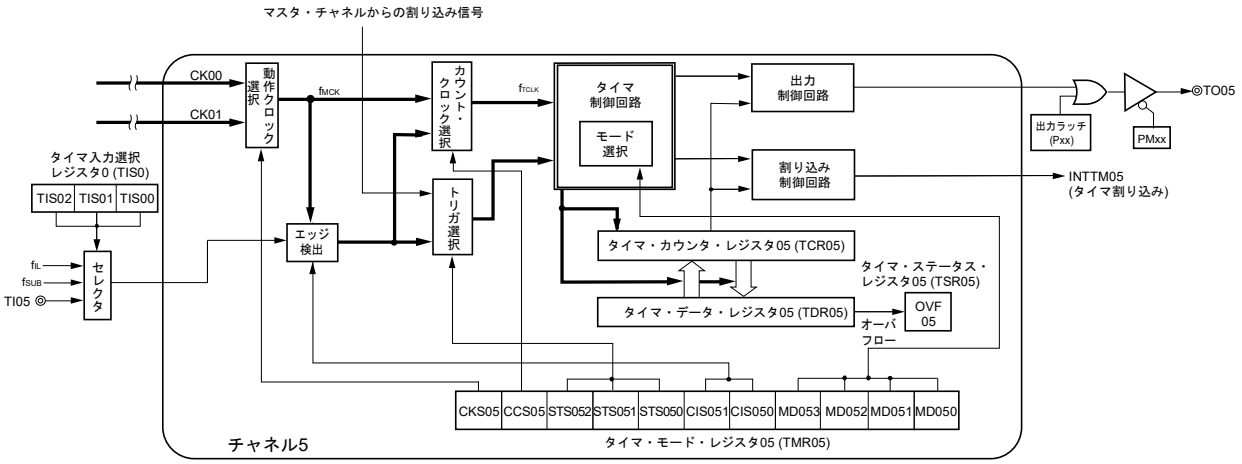
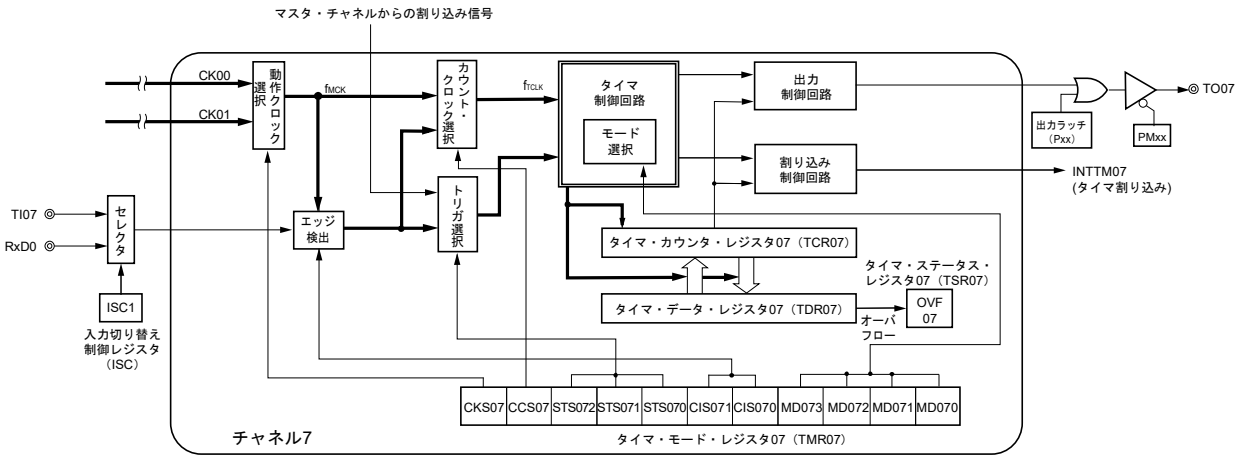


図7－6　タイマ・アレイ・ユニットのチャネル7内部ブロック図




## 7. 2. 1　タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）

TCRmnレジスタは，カウント・クロックをカウントする16ビットのリード専用レジスタです。

カウント・クロックの立ち上がりに同期して，カウンタをインクリメント／デクリメントします。

インクリメントかデクリメントかは，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のMDmn3-MDmn0ビットで動作モードを選択することで切り替わります（7. 3. 3　タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）参照）。

図7－7　タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）のフォーマット

アドレス：F0180H, F0181H（TCR00）- F018EH, F018FH（TCR07）　リセット時：FFFFH　R

| | F0181H（TCR00の場合） | | | | | | | | F0180H（TCR00の場合） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| TCRmn | | | | | | | | | | | | | | | | |

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）をリードすることにより，カウント値をリードできます。
次の場合，カウント値はFFFFHになります。

・リセット信号の発生時
・周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のTAUmENビットをクリアしたとき
・PWM出力モードで，スレーブ・チャネルのカウント完了時
・ディレイ・カウント・モードで，スレーブ・チャネルのカウント完了時
・ワンショット・パルス出力モードで，マスタ／スレーブ・チャネルのカウント完了時
・多重PWM出力モードで，スレーブ・チャネルのカウント完了時

また，次の場合には，カウント値は0000Hになります。

・キャプチャ・モード時に，スタート・トリガが入力されたとき
・キャプチャ・モード時で，キャプチャ完了時

注意　TCRmnレジスタをリードしても，タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）にはキャプチャしません。

TCRmnレジスタ読み出し値は，動作モード変更や動作状態により次のように異なります。

表7－2　各動作モード時のタイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）読み出し値

| 動作モード | カウント方式 | タイマ・カウンタ・レジスタ（TCRmn）の読み出し値注 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | リセット解除後に動作モード変更した場合の値 | カウント動作を一時停止（TTmn = 1）した場合の値 | カウント動作を一時停止（TTmn = 1）後，動作モード変更した場合の値 | ワンカウント後のスタート・トリガ待ち状態時の値 |
| インターバル・タイマ・モード | ダウン･カウント | FFFFH | 停止時の値 | 不定 | － |
| キャプチャ・モード | アップ･カウント | 0000H | 停止時の値 | 不定 | － |
| イベント・カウンタ・モード | ダウン･カウント | FFFFH | 停止時の値 | 不定 | － |
| ワンカウント・モード | ダウン･カウント | FFFFH | 停止時の値 | 不定 | FFFFH |
| キャプチャ&ワンカウント・モード | アップ･カウント | 0000H | 停止時の値 | 不定 | TDRmn レジスタのキャプチャ値＋1 |

注　チャネルnがタイマ動作停止状態（TEmn = 0）かつカウント動作許可状態（TSmn = 1）にした時点の，TCRmnレジスタの読み出し値を示します。カウント動作開始までこの値がTCRmnレジスタに保持されます。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7.2.2　タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）

キャプチャ機能とコンペア機能を切り替えて使用できる16ビットのレジスタです。キャプチャ機能かコンペア機能かは，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のMDmn3-MDmn0ビットで動作モードを選択することで切り替わります。

TDRmnレジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

また，TDRm1, TDRm3レジスタは，8ビット・タイマ・モード時（タイマ・モード・レジスタm1, m3（TMRm1, TMRm3）のSPLITビットが1）に，上位8ビットをTDRm1H, TDRm3H，下位8ビットをTDRm1L, TDRm3Lとして，8ビット単位でリード／ライト可能になります。

リセット信号の発生により，TDRmnレジスタは0000Hになります。

図7－8　タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）（n = 0, 2, 4-7）のフォーマット

アドレス：FFF18H, FFF19H（TDR00）, FFF64H, FFF65H（TDR02），　リセット時：0000H　R/W
FFF68H, FFF69H（TDR04）- FFF6EH, FFF6FH（TDR07）

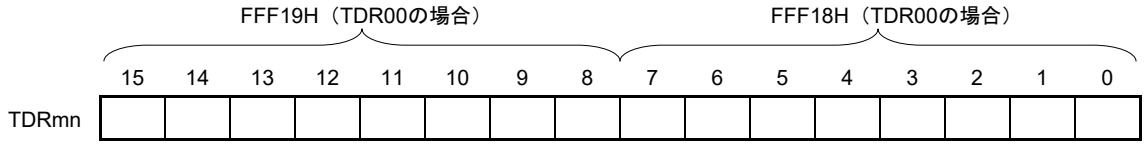
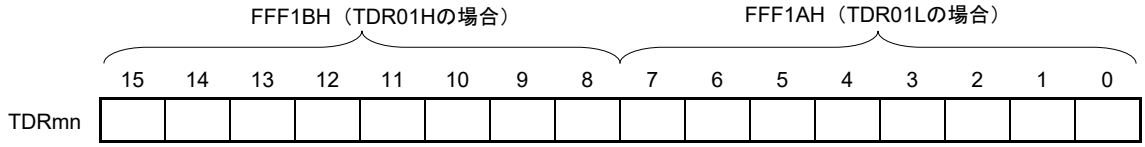



図7－9　タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）（n = 1, 3）のフォーマット

アドレス：FFF1AH, FFF1BH（TDR01）, FFF66H, FFF67H（TDR03）　リセット時：0000H　R/W




（ｉ）タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）をコンペア・レジスタとして使用するとき

TDRmnレジスタに設定した値からダウン・カウントをスタートして，0000Hになったときに割り込み信号（INTTMmn）を発生します。TDRmnレジスタは書き換えられるまで値を保持します。

注意　コンペア機能に設定したTDRmnレジスタはキャプチャ・トリガが入力されても，キャプチャ動作を行いません。

（ii）タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）をキャプチャ・レジスタとして使用するとき

キャプチャ・トリガの入力により，タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）のカウント値をTDRmnレジスタにキャプチャします。

キャプチャ・トリガとして，TImn端子の有効エッジの選択ができます。キャプチャ・トリガの選択は，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）で設定します。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

## 7.3　タイマ・アレイ・ユニットを制御するレジスタ

タイマ・アレイ・ユニットを制御するレジスタを次に示します。

・周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）
・タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）
・タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）
・タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）
・タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）
・タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）
・タイマ・チャネル停止レジスタm（TTm）
・タイマ入力選択レジスタ0（TIS0）
・タイマ出力許可レジスタm（TOEm）
・タイマ出力レジスタm（TOm）
・タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）
・タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）
・入力切り替え制御レジスタ（ISC）
・ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）
・ポート・モード・レジスタ（PM0, PM3, PM4, PM6, PM12）
・ポート・レジスタ（P0, P3, P4, P6, P12）

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7.3.1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）

PER0レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

タイマ・アレイ・ユニットを使用する場合は，必ずビット0（TAU0EN）を1に設定してください。

PER0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，PER0レジスタは00Hになります。

図7－10　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット

アドレス：F00F0H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |

| TAU0EN | タイマ・アレイ・ユニットの入力クロックの制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・タイマ・アレイ・ユニットで使用するSFRへのライト不可<br>・タイマ・アレイ・ユニットはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・タイマ・アレイ・ユニットで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意1. タイマ・アレイ・ユニットの設定をする際には，必ず最初にTAUmEN = 1の状態で，下記のレジスタの設定を行ってください。TAUmEN = 0の場合は，タイマ・アレイ・ユニットの制御レジスタは初期値となり，書き込みは無視されます（タイマ入力選択レジスタ0（TIS0），入力切り替え制御レジスタ（ISC），ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1），ポート・モード・レジスタ0, 3, 4, 6, 12（PM0, PM3, PM4, PM6, PM12），ポート・レジスタ0, 3, 4, 6, 12（P0, P3, P4, P6, P12）は除く）。

・タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）
・タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）
・タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）
・タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）
・タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）
・タイマ・チャネル停止レジスタm（TTm）
・タイマ出力許可レジスタm（TOEm）
・タイマ出力レジスタm（TOm）
・タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）
・タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

2. ビット1には必ず“0”を設定してください。

### 7.3.2　タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）

TPSmレジスタは，各チャネルに共通して供給される2種類または4種類の動作クロック（CKm0, CKm1, CKm2, CKm3）を選択する16ビット・レジスタです。CKm0はTPSmレジスタのビット3-0で，CKm1はTPSmレジスタのビット7-4で選択します。さらにチャネル1，3のみ，CKm2，CKm3も選択できます。CKm2はTPSmレジスタのビット9-8で，CKm3はTPSmレジスタのビット13，12で選択できます。

タイマ動作中のTPSmレジスタの書き換えは，次の場合のみ可能です。

PRSm00-PRSm03ビットが書き換え可能な場合（n = 0-7）：

動作クロックにCKm0を選択（CKSmn1, CKSmn0 = 0, 0）しているチャネルがすべて停止状態（TEmn = 0）

PRSm10-PRSm13ビットが書き換え可能な場合（n = 0-7）：

動作クロックにCKm2を選択（CKSmn1, CKSmn0 = 0, 1）しているチャネルがすべて停止状態（TEmn = 0）

PRSm20, PRSm21ビットが書き換え可能な場合（n = 1, 3）：

動作クロックにCKm1を選択（CKSmn1, CKSmn0 = 1, 0）しているチャネルがすべて停止状態（TEmn = 0）

PRSm30-PRSm31ビットが書き換え可能な場合（n = 1, 3）：

動作クロックにCKm3を選択（CKSmn1, CKSmn0 = 1, 1）しているチャネルがすべて停止状態（TEmn = 0）

TPSmレジスタは16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，TPSmレジスタは0000Hになります。

図7－11　タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）のフォーマット（1/2）

アドレス：F01B6H, F01B7H　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TPSm | 0 | 0 | PRS m31 | PRS m30 | 0 | 0 | PRS m21 | PRS m20 | PRS m13 | PRS m12 | PRS m11 | PRS m10 | PRS m03 | PRS m02 | PRS m01 | PRS m00 |

| PRS mk3 | PRS mk2 | PRS mk1 | PRS mk0 | 動作クロック（CKmk）の選択注（k = 0, 1） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | $f_{CLK}$ = 4 MHz | $f_{CLK}$ = 8 MHz | $f_{CLK}$ = 12 MHz | $f_{CLK}$ = 20 MHz | $f_{CLK}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}$ | 4 MHz | 8 MHz | 12 MHz | 20 MHz | 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2$ | 2 MHz | 4 MHz | 6 MHz | 10 MHz | 12 MHz |
| 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^2$ | 1 MHz | 2 MHz | 3 MHz | 5 MHz | 6 MHz |
| 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^3$ | 500 kHz | 1 MHz | 1.5 MHz | 2.5 MHz | 3 MHz |
| 0 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^4$ | 250 kHz | 500 kHz | 750 kHz | 1.25 MHz | 1.5 MHz |
| 0 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^5$ | 125 kHz | 250 kHz | 375 kHz | 625 kHz | 750 kHz |
| 0 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^6$ | 62.5 kHz | 125 kHz | 188 kHz | 313 kHz | 375 kHz |
| 0 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^7$ | 31.3 kHz | 62.5 kHz | 93.8 kHz | 156 kHz | 188 kHz |
| 1 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^8$ | 15.6 kHz | 31.3 kHz | 46.9 kHz | 78.1 kHz | 93.8 kHz |
| 1 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^9$ | 7.81 kHz | 15.6 kHz | 23.4 kHz | 39.1 kHz | 46.9 kHz |
| 1 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{10}$ | 3.91 kHz | 7.81 kHz | 11.7 kHz | 19.5 kHz | 23.4 kHz |
| 1 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{11}$ | 1.95 kHz | 3.91 kHz | 5.86 kHz | 9.76 kHz | 11.7 kHz |
| 1 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^{12}$ | 976 Hz | 1.95 kHz | 2.93 kHz | 4.88 kHz | 5.86 kHz |
| 1 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^{13}$ | 488 Hz | 976 Hz | 1.46 kHz | 2.44 kHz | 2.93 kHz |
| 1 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{14}$ | 244 Hz | 488 Hz | 732 Hz | 1.22 kHz | 1.46 kHz |
| 1 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{15}$ | 122 Hz | 244 Hz | 366 Hz | 610 Hz | 732 Hz |

注　$f_{CLK}$に選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は，タイマ・アレイ・ユニットを停止（TTm = 00FFH）させてください。

注意1.　ビット15, 14, 11, 10には，必ず0を設定してください。

2.　動作クロック（CKmk）に$f_{CLK}$（分周なし）を選択し，TDRnm = 0000H（n = 0, m = 0-7）を設定すると，タイマ・アレイ・ユニットからの割り込み要求は使用できません。

備考1.　$f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

2.　TPSmレジスタで選択する$f_{CLK}/2^r$の波形は，単純に$2^r$分周した波形ではなく，その立ち上がりから$f_{CLK}$の1周期分ハイ・レベルになります（r = 1-15）。詳しくは，7. 5. 1　カウント・クロック（$f_{TCLK}$）を参照してください。

図7－11　タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）のフォーマット（2/2）

アドレス：F01B6H, F01B7H　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TPSm | 0 | 0 | PRS m31 | PRS m30 | 0 | 0 | PRS m21 | PRS m20 | PRS m13 | PRS m12 | PRS m11 | PRS m10 | PRS m03 | PRS m02 | PRS m01 | PRS m00 |

| PRS m21 | PRS m20 | 動作クロック（CKm2）の選択注 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | $f_{CLK}$ = 4 MHz | $f_{CLK}$ = 8 MHz | $f_{CLK}$ = 12 MHz | $f_{CLK}$ = 20 MHz | $f_{CLK}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | $f_{CLK}/2$ | 2 MHz | 4 MHz | 6 MHz | 10 MHz | 12 MHz |
| 0 | 1 | $f_{CLK}/2^2$ | 1 MHz | 2 MHz | 3 MHz | 5 MHz | 6 MHz |
| 1 | 0 | $f_{CLK}/2^4$ | 250 kHz | 500 kHz | 750 kHz | 1.25 MHz | 1.5 MHz |
| 1 | 1 | $f_{CLK}/2^6$ | 62.5 kHz | 125 kHz | 188 kHz | 313 kHz | 375 kHz |

| PRS m31 | PRS m30 | 動作クロック（CKm3）の選択注 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | $f_{CLK}$ = 4 MHz | $f_{CLK}$ = 8 MHz | $f_{CLK}$ = 12 MHz | $f_{CLK}$ = 20 MHz | $f_{CLK}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | $f_{CLK}/2^8$ | 15.6 kHz | 31.3 kHz | 46.9 kHz | 78.1 kHz | 93.8 kHz |
| 0 | 1 | $f_{CLK}/2^{10}$ | 3.91 kHz | 7.81 kHz | 11.7 kHz | 19.5 kHz | 23.4 kHz |
| 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{12}$ | 976 Hz | 1.95 kHz | 2.93 kHz | 4.88 kHz | 5.86 kHz |
| 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{14}$ | 244 Hz | 488 Hz | 732 Hz | 1.22 kHz | 1.46 kHz |

注　$f_{CLK}$に選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は，タイマ・アレイ・ユニットを停止（TTm = 00FFH）させてください。
カウント・クロック（$f_{TCLK}$）にCKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック（$f_{MCK}$），TImn端子からの入力信号の有効エッジのどれを選択している場合でも停止する必要があります。

注意　ビット15, 14, 11, 10には，必ず0を設定してください。

チャネル1, 3を8ビット・タイマ・モードで使用し，CKm2, CKm3を動作クロックとすることにより，インターバル・タイマ機能で，表7－3に示すインターバル時間を実現することが可能です。

表7－3　動作クロックCKSm2, CKSm3で設定可能なインターバル時間

| クロック | | インターバル時間注（$f_{CLK}$ = 20 MHz） | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 16 μs | 160 μs | 1.6 ms | 16 ms |
| CKm2 | $f_{CLK}/2$ | ○ | － | － | － |
| | $f_{CLK}/2^2$ | ○ | － | － | － |
| | $f_{CLK}/2^4$ | ○ | ○ | － | － |
| | $f_{CLK}/2^6$ | ○ | ○ | － | － |
| CKm3 | $f_{CLK}/2^8$ | － | ○ | ○ | － |
| | $f_{CLK}/2^{10}$ | － | ○ | ○ | － |
| | $f_{CLK}/2^{12}$ | － | － | ○ | ○ |
| | $f_{CLK}/2^{14}$ | － | － | ○ | ○ |

注　○には5%以下の誤差が含まれます。

備考1.　$f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

2.　TPSmレジスタで選択する$f_{CLK}/2^j$の波形の詳細は，7. 5. 1　カウント・クロック（$f_{TCLK}$）を参照してください。

### 7. 3. 3　タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）

TMRmnレジスタは，チャネルnの動作モード設定レジスタです。動作クロック（$f_{MCK}$）の選択，カウント・クロックの選択，マスタ／スレーブの選択，16ビット／8ビット・タイマの選択（チャネル1, 3のみ），スタート・トリガとキャプチャ・トリガの設定，タイマ入力の有効エッジ選択，動作モード（インターバル，キャプチャ，イベント・カウンタ，ワンカウント，キャプチャ＆ワンカウント）設定を行います。

TMRmnレジスタは，動作中（TEmn = 1のとき）の書き換えは禁止です。ただし，ビット7，6（CISmn1, CISmn0）は，一部の機能で動作中（TEmn = 1のとき）の書き換えが可能です（詳細は7. 8　タイマ・アレイ・ユニットの単独チャネル動作機能，7. 9　タイマ・アレイ・ユニットの複数チャネル連動動作機能を参照）。

TMRmnレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，TMRmnレジスタは0000Hになります。

注意　TMRmnレジスタのビット11は，チャネルによって搭載するビットが異なります。
TMRm2, TMRm4, TMRm6：MASTERmnビット（n = 2, 4, 6）
TMRm1, TMRm3：SPLITmnビット（n = 1, 3）
TMRm0, TMRm5, TMRm7：0固定

図7－12　タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のフォーマット（1/4）

アドレス：F0190H, F0191H（TMR00）-F019EH, F019FH（TMR07）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 2, 4, 6） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | MAS TERmn | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 1, 3） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | SPLIT mn | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 0, 5, 7） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | 0注 | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| CKS mn1 | CKS mn0 | チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）の選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）で設定した動作クロックCKm0 |
| 0 | 1 | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）で設定した動作クロックCKm2 |
| 1 | 0 | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）で設定した動作クロックCKm1 |
| 1 | 1 | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）で設定した動作クロックCKm3 |
| 動作クロック（$f_{MCK}$）は，エッジ検出回路に使用されます。また，CCSmnビットの設定によりサンプリング・クロックおよびカウント・クロック（$f_{TCLK}$）を生成します。<br>動作クロックCKm2, CKm3は，チャネル1, 3のみ選択可能です。 | | |

| CCS mn | チャネルnのカウント・クロック（$f_{TCLK}$）の選択 |
|---|---|
| 0 | CKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック（$f_{MCK}$） |
| 1 | TImn端子からの入力信号の有効エッジ<br>チャネル5では，TIS0で選択した入力信号の有効エッジ<br>チャネル7では，ISCで選択した入力信号の有効エッジ |
| カウント・クロック（$f_{TCLK}$）は，カウンタ，出力制御回路，割り込み制御回路に使用されます。 | |

注　ビット11はRead onlyの0固定で，書き込みは無視されます。

注意1.　ビット13, 5, 4には，必ず0を設定してください。

2.　カウント・クロック（$f_{TCLK}$）にCKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック（$f_{MCK}$），TImn端子からの入力信号の有効エッジのどれを選択していても，$f_{CLK}$に選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は，タイマ・アレイ・ユニットを停止（TTm＝00FFH）させてください。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－12　タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のフォーマット（2/4）

アドレス：F0190H, F0191H（TMR00）-F019EH, F019FH（TMR07）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 2, 4, 6） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | MASTERmn | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 1, 3） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | SPLIT mn | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 0, 5, 7） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | 0注 | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

（TMRmn（n = 2, 4, 6）のビット11）

| MASTERmn | チャネルnの単独チャネル動作／複数チャネル連動動作（スレーブ／マスタ）の選択 |
|---|---|
| 0 | 単独チャネル動作機能，または複数チャネル連動動作機能でスレーブ・チャネルとして動作 |
| 1 | 複数チャネル連動動作機能でマスタ・チャネルとして動作 |
| チャネル2, 4, 6のみマスタ・チャネル（MASTERmn = 1）に設定できます。<br>チャネル0, 5, 7は0固定となります（チャネル0は最上位チャネルのため，このビットの設定によらずマスタとして動作します）。<br>また，単独チャネル動作機能として使用するチャネルは，MASTERmn = 0 にします。 | |

（TMRmn（n = 1, 3）のビット11）

| SPLITmn | チャネル1, 3の8ビット・タイマ／16ビット・タイマ動作の選択 |
|---|---|
| 0 | 16ビット・タイマとして動作<br>（単独チャネル動作機能，または複数チャネル連動動作機能でスレーブ・チャネルとして動作） |
| 1 | 8ビット・タイマとして動作 |

| STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | チャネルnのスタート・トリガ，キャプチャ・トリガの設定 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | ソフトウエア・トリガ・スタートのみ有効（他のトリガ要因を非選択にする） |
| 0 | 0 | 1 | TImn端子入力の有効エッジを，スタート・トリガ，キャプチャ・トリガの両方に使用 |
| 0 | 1 | 0 | TImn端子入力の両エッジを，スタート・トリガとキャプチャ・トリガに分けて使用 |
| 1 | 0 | 0 | マスタ・チャネルの割り込み信号を使用（複数チャネル連動動作機能のスレーブ・チャネル時） |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |

注　ビット11はRead onlyの0固定で，書き込みは無視されます。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－12　タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のフォーマット（3/4）

アドレス：F0190H, F0191H（TMR00）-F019EH, F019FH（TMR07）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 2, 4, 6） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | MAS TERmn | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 1, 3） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | SPLIT mn | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 0, 5, 7） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | 0注 | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| CIS mn1 | CIS mn0 | TImn端子の有効エッジ選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 立ち下がりエッジ |
| 0 | 1 | 立ち上がりエッジ |
| 1 | 0 | 両エッジ（ロウ・レベル幅測定時）<br>スタート・トリガ：立ち下がりエッジ，キャプチャ・トリガ：立ち上がりエッジ |
| 1 | 1 | 両エッジ（ハイ・レベル幅測定時）<br>スタート・トリガ：立ち上がりエッジ，キャプチャ・トリガ：立ち下がりエッジ |
| STSmn2-STSmn0ビット ＝ 010B時以外で両エッジ指定を使用する場合は，CISmn1-CISmn0ビット ＝ 10Bに設定してください。 | | |

注　ビット11はRead onlyの0固定で，書き込みは無視されます。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－12　タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のフォーマット（4/4）

アドレス：F0190H, F0191H（TMR00）-F019EH, F019FH（TMR07）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 2, 4, 6） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | MAS TERmn | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 1, 3） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | SPLIT mn | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn（n = 0, 5, 7） | CKS mn1 | CKS mn0 | 0 | CCS mn | 0[注1] | STS mn2 | STS mn1 | STS mn0 | CIS mn1 | CIS mn0 | 0 | 0 | MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| MD mn3 | MD mn2 | MD mn1 | チャネルnの動作モードの設定 | 対応する機能 | TCRのカウント動作 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | インターバル・タイマ・モード | インターバル・タイマ／方形波出力／PWM出力（マスタ） | ダウン･カウント |
| 0 | 1 | 0 | キャプチャ・モード | 入力パルス間隔測定 | アップ･カウント |
| 0 | 1 | 1 | イベント・カウンタ・モード | 外部イベント・カウンタ | ダウン･カウント |
| 1 | 0 | 0 | ワンカウント・モード | ディレイ・カウンタ／ワンショット・パルス出力／PWM出力（スレーブ） | ダウン･カウント |
| 1 | 1 | 0 | キャプチャ＆ワンカウント・モード | 入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定 | アップ･カウント |
| 上記以外 | | | 設定禁止 | | |
| 各モードの動作は，MDmn0ビットによって変わります（下表を参照）。 | | | | | |

| 動作モード（MDmn3-MDmn1で設定（上表参照）） | MD mn0 | カウント・スタートと割り込みの設定 |
|---|---|---|
| ・インターバル・タイマ・モード（0, 0, 0）<br>・キャプチャ・モード（0, 1, 0） | 0 | カウント開始時にタイマ割り込みを発生しない（タイマ出力も変化しない）。 |
| | 1 | カウント開始時にタイマ割り込みを発生する（タイマ出力も変化させる）。 |
| ・イベント・カウンタ・モード（0, 1, 1） | 0 | カウント開始時にタイマ割り込みを発生しない（タイマ出力も変化しない）。 |
| ・ワンカウント・モード[注2]（1, 0, 0） | 0 | カウント動作中のスタート・トリガを無効とする。<br>その際に割り込みは発生しない。 |
| | 1 | カウント動作中のスタート・トリガを有効とする[注3]。<br>その際に割り込みは発生しない。 |
| ・キャプチャ＆ワンカウント・モード（1, 1, 0） | 0 | カウント開始時にタイマ割り込みを発生しない（タイマ出力も変化しない）。<br>カウント動作中のスタート・トリガを無効とする。<br>その際に割り込みは発生しない。 |

注1.　ビット11はRead onlyの0固定で，書き込みは無視されます。
2.　ワンカウント・モードでは，カウント動作開始時の割り込み出力（INTTMmn），TOmn出力は制御しません。
3.　動作中にスタート・トリガ（TSmn = 1）が掛かると，カウンタを初期化し，再カウント・スタートします（割り込み要求は発生せず）。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7.3.4　タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）

TSRmnレジスタは，チャネルnのカウンタのオーバフロー状況を表示するレジスタです。

TSRmnレジスタは，キャプチャ・モード（MDmn3-MDmn1 = 010B）とキャプチャ＆ワンカウント・モード（MDmn3-MDmn1 = 110B）のみ有効です。各動作モードでのOVFビットの動作とセット／クリア条件は表7－4を参照してください。

TSRmnレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で読み出します。

またTSRmnレジスタの下位8ビットは，TSRmnLで8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により，TSRmnレジスタは0000Hになります。

図7－13　タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）のフォーマット

アドレス：F01A0H, F01A1H（TSR00）- F01AEH, F01AFH（TSR07）　リセット時：0000H　R

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TSRmn | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | OVF |

| OVF | チャネルnのカウンタのオーバフロー状況 |
|---|---|
| 0 | オーバフローなし |
| 1 | オーバフロー発生 |
| OVF = 1のとき，次にオーバフローなしでキャプチャしたときにクリア（OVF = 0）されます。 | |

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

表7－4　各動作モードにおけるOVFビットの動作とセット／クリア条件

| タイマの動作モード | OVFビット | セット／クリア条件 |
|---|---|---|
| ・キャプチャ・モード | クリア | キャプチャ時にオーバフローが発生していない場合 |
| ・キャプチャ＆ワンカウント・モード | セット | キャプチャ時にオーバフローが発生していた場合 |
| ・インターバル・タイマ・モード<br>・イベント・カウンタ・モード<br>・ワンカウント・モード | クリア | －<br>（使用不可） |
| | セット | |

備考　OVFビットは，カウンタがオーバフローしてもすぐには変化せず，その後のキャプチャ時に変化します。

### 7.3.5　タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）

TEmレジスタは，各チャネルのタイマ動作許可／停止状態を表示するレジスタです。

TEmレジスタの各ビットは，タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）とタイマ・チャネル停止レジスタm（TTm）の各ビットに対応しています。TSmレジスタの各ビットが1にセットされると，TEmレジスタの対応ビットが1にセットされます。TTmレジスタの各ビットが1にセットされると，その対応ビットが0にクリアされます。

TEmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で読み出します。

またTEmレジスタの下位8ビットは，TEmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により，TEmレジスタは0000Hになります。

図7－14　タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のフォーマット

アドレス：F01B0H, F01B1H　リセット時：0000H　R

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TEm | 0 | 0 | 0 | 0 | TEHm3 | 0 | TEHm1 | 0 | TEm7 | TEm6 | TEm5 | TEm4 | TEm3 | TEm2 | TEm1 | TEm0 |

| TEHm3 | チャネル3が8ビット・タイマ・モード時，上位側8ビット・タイマの動作許可／停止状態の表示 |
|---|---|
| 0 | 動作停止状態 |
| 1 | 動作許可状態 |

| TEHm1 | チャネル1が8ビット・タイマ・モード時，上位側8ビット・タイマの動作許可／停止状態の表示 |
|---|---|
| 0 | 動作停止状態 |
| 1 | 動作許可状態 |

| TEmn | チャネルnの動作許可／停止状態の表示 |
|---|---|
| 0 | 動作停止状態 |
| 1 | 動作許可状態 |
| チャネル1，3が8ビット・タイマ・モード時は，TEm1，TEm3で下位側8ビット・タイマの動作許可／停止状態を表示します。 | |

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7.3.6　タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）

TSmレジスタは，タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）を初期化し，カウント動作の開始をチャネルごとに設定するトリガ・レジスタです。

各ビットが1にセットされると，タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）の対応ビットが1にセットされます。TSmn, TSHm1, TSHm3ビットはトリガ・ビットなので，動作許可状態（TEmn, TEHm1, TEHm3 = 1）になるとすぐTSmn, TSHm1, TSHm3ビットはクリアされます。

TSmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTSmレジスタの下位8ビットは，TSmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，TSmレジスタは0000Hになります。

図7－15　タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のフォーマット

アドレス：F01B2H, F01B3H　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TSm | 0 | 0 | 0 | 0 | TSHm3 | 0 | TSHm1 | 0 | TSm7 | TSm6 | TSm5 | TSm4 | TSm3 | TSm2 | TSm1 | TSm0 |

| TSHm3 | チャネル3が8ビット・タイマ・モード時，上位側8ビット・タイマの動作許可（スタート）トリガ |
|---|---|
| 0 | トリガ動作しない |
| 1 | TEHm3ビットを1にセットし，カウント動作許可状態になる。<br>カウント動作許可状態におけるTCRm3レジスタのカウント動作開始は，インターバル・タイマ・モードになります（7.5.2　カウンタのスタート・タイミングの表7－5参照）。 |

| TSHm1 | チャネル1が8ビット・タイマ・モード時，上位側8ビット・タイマの動作許可（スタート）トリガ |
|---|---|
| 0 | トリガ動作しない |
| 1 | TEHm1ビットを1にセットし，カウント動作許可状態になる。<br>カウント動作許可状態におけるTCRm1レジスタのカウント動作開始は，インターバル・タイマ・モードになります（7.5.2　カウンタのスタート・タイミングの表7－5参照）。 |

| TSmn | チャネルnの動作許可（スタート）トリガ |
|---|---|
| 0 | トリガ動作しない |
| 1 | TEmnビットを1にセットし，カウント動作許可状態になる。<br>カウント動作許可状態におけるTCRmnレジスタのカウント動作開始は，各動作モードにより異なります（7.5.2　カウンタのスタート・タイミングの表7－5参照）。<br>チャネル1, 3が8ビット・タイマ・モード時は，TSm1, TSm3が下位側8ビット・タイマの動作許可（スタート）トリガになります。 |

（注意，備考は次ページにあります。）

注意1.　ビット15-12, 10, 8には必ず0を設定してください。

2.　TImn端子入力を使用しない機能から，TImn端子入力を使用する機能に切り替える場合，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）設定後，TSmn（TSHm1, TSHm3）ビットを1に設定するまでに，次の期間ウエイトが必要になります。

TImn端子のノイズ・フィルタ有効時（TNFENmn = 1）：動作クロック（$f_{MCK}$）の4クロック

TImn端子のノイズ・フィルタ無効時（TNFENmn = 0）：動作クロック（$f_{MCK}$）の2クロック

備考1.　TSmレジスタの読み出し値は常に0となります。

2.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7.3.7　タイマ・チャネル停止レジスタm（TTm）

TTmレジスタは，カウント動作の停止をチャネルごとに設定するトリガ・レジスタです。

各ビットが1にセットされると，タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）の対応ビットが0にクリアされます。TTmn, TTHm1, TTHm3ビットはトリガ・ビットなので，動作停止状態（TEmn, TTHm1, TTHm3 = 0）になるとすぐTTmn, TTHm1, TTHm3ビットはクリアされます。

TTmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTTmレジスタの下位8ビットは，TTmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，TTmレジスタは0000Hになります。

図7－16　タイマ・チャネル停止レジスタm（TTm）のフォーマット

アドレス：F01B4H, F01B5H　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TTm | 0 | 0 | 0 | 0 | TTHm3 | 0 | TTHm1 | 0 | TTm7 | TTm6 | TTm5 | TTm4 | TTm3 | TTm2 | TTm1 | TTm0 |

| TTHm3 | チャネル3が8ビット・タイマ・モード時，上位側8ビット・タイマの動作停止トリガ |
|---|---|
| 0 | トリガ動作しない |
| 1 | TEHm3ビットを0にクリアし，カウント動作停止状態になる。 |

| TTHm1 | チャネル1が8ビット・タイマ・モード時，上位側8ビット・タイマの動作停止トリガ |
|---|---|
| 0 | トリガ動作しない |
| 1 | TEHm1ビットを0にクリアし，カウント動作停止状態になる。 |

| TTmn | チャネルnの動作停止トリガ |
|---|---|
| 0 | トリガ動作しない |
| 1 | TEmnビットを0にクリアし，カウント動作停止可状態になる。<br>チャネル1，3が8ビット・タイマ・モード時は，TTm1，TTm3が下位側8ビット・タイマの動作停止トリガになります。 |

注意　ビット15-12, 10, 8には必ず0を設定してください。

備考1.　TTmレジスタの読み出し値は常に0となります。

2.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 3. 8　タイマ入力選択レジスタ0（TIS0）

TIS0レジスタは，チャネル5のタイマ入力を選択するレジスタです。

TIS0レジスタは8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，TIS0レジスタは00Hになります。

図7－17　タイマ入力選択レジスタ0（TIS0）のフォーマット

アドレス：F0074H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TIS0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TIS02 | TIS01 | TIS00 |

| TIS02 | TIS01 | TIS00 | チャネル5で使用するタイマ入力の選択 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | タイマ入力端子（TI05）の入力信号 |
| 0 | 0 | 1 | |
| 0 | 1 | 0 | |
| 0 | 1 | 1 | |
| 1 | 0 | 0 | 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$） |
| 1 | 0 | 1 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |

注意　選択するタイマ入力のハイ・レベル幅，ロウ・レベル幅は，1/$f_{MCK}$+10 ns以上必要となります。
そのため，$f_{CLK}$に$f_{SUB}$を選択時（CKCレジスタのCSS = 1）は，TIS02ビットに1を設定できません。

### 7.3.9　タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

TOEmレジスタは，各チャネルのタイマ出力許可／禁止を設定するレジスタです。

タイマ出力を許可したチャネルnは，後述のタイマ出力レジスタm（TOm）のTOmnビットの値をソフトウエアによって書き換えできなくなり，カウント動作によるタイマ出力機能によって反映された値がタイマ出力端子（TOmn）から出力されます。

TOEmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTOEmレジスタの下位8ビットは，TOEmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，TOEmレジスタは0000Hになります。

図7－18　タイマ出力許可レジスタm（TOEm）のフォーマット

アドレス：F01BAH, F01BBH　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TOEm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TOEm7 | TOEm6 | TOEm5 | TOEm4 | TOEm3 | TOEm2 | TOEm1 | TOEm0 |

| TOEmn | チャネルnのタイマ出力許可／禁止 |
|---|---|
| 0 | タイマの出力を禁止<br>タイマ動作をTOmnビットに反映せず，出力を固定します。<br>TOmnビットへの書き込みが可能となり，TOmnビットに設定したレベルがTOmn端子から出力されます。 |
| 1 | タイマの出力を許可<br>タイマ動作をTOmnビットに反映し，出力波形を生成します。<br>TOmnビットへの書き込みは無視されます。 |

注意　ビット15-8には必ず0を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 3. 10　タイマ出力レジスタm（TOm）

TOmレジスタは，各チャネルのタイマ出力のバッファ・レジスタです。

このレジスタの各ビットの値が，各チャネルのタイマ出力端子（TOmn）から出力されます。

このレジスタのTOmnビットのソフトウエアによる書き換えは，タイマ出力禁止時（TOEmn = 0）のみ可能です。タイマ出力許可時（TOEmn = 1）は，ソフトウエアによる書き換えは無視され，タイマ動作によってのみ値が変更されます。

また，P43/TI00/TO00，P41/TI01/TO01，P07/TI02/TO02，P06/TI03/TO03，P05/TI04/TO04，P04/TI05/TO05，P03/TI06/TO06, P02/TI07/TO07をポート機能として使用する場合は，該当するTOmnビットに“0”を設定してください。

TOmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTOmレジスタの下位8ビットは，TOmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，TOmレジスタは0000Hになります。

図7－19　タイマ出力レジスタm（TOm）のフォーマット

アドレス：F01B8H, F01B9H　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TOm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TOm7 | TOm6 | TOm5 | TOm4 | TOm3 | TOm2 | TOm1 | TOm0 |

| TOmn | チャネルnのタイマ出力 |
|---|---|
| 0 | タイマ出力値が“0” |
| 1 | タイマ出力値が“1” |

注意　ビット15-8には必ず0を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 3. 11　タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

TOLmレジスタは，各チャネルのタイマ出力レベルを制御するレジスタです。

このレジスタによる各チャネルnの反転設定は，タイマ出力許可（TOEmn = 1），複数チャネル連動動作機能（TOMmn = 1）時にタイマ出力信号がセット，リセットされるタイミングで反映されます。マスタ・チャネル出力モード（TOMmn = 0）時には，このレジスタの設定は無効となります。

TOLmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTOLmレジスタの下位8ビットは，TOLmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，TOLmレジスタは0000Hになります。

図7－20　タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）のフォーマット

アドレス：F01BCH, F01BDH　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TOLm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TOLm7 | TOLm6 | TOLm5 | TOLm4 | TOLm3 | TOLm2 | TOLm1 | 0 |

| TOLmn | チャネルnのタイマ出力レベルの制御 |
|---|---|
| 0 | 正論理出力（アクティブ・ハイ） |
| 1 | 負論理出力（アクティブ・ロウ） |

注意　ビット15-8, 0には必ず0を設定してください。

備考1.　タイマ動作中にこのレジスタの値を書き換えた場合，書き換えた直後のタイミングではなく，次にタイマ出力信号が変化するタイミングで，タイマ出力の論理が反転します。

2.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 3. 12　タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

TOMmレジスタは，各チャネルのタイマ出力モードを制御するレジスタです。

単独チャネル動作機能として使用する場合，使用するチャネルの対応ビットを0に設定します。

複数チャネル連動動作機能（PWM出力，ワンショット・パルス出力，多重PWM出力）として使用する場合，マスタ・チャネルの対応ビットを0に設定し，スレーブ・チャネルの対応ビットを1に設定します。

このレジスタによる各チャネルnの設定は，タイマ出力許可（TOEmn = 1）時にタイマ出力信号がセット，リセットされるタイミングで反映されます。

TOMmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTOMmレジスタの下位8ビットは，TOMmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，TOMmレジスタは0000Hになります。

図7－21　タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）のフォーマット

アドレス：F01BEH, F01BFH　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TOMm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TOMm7 | TOMm6 | TOMm5 | TOMm4 | TOMm3 | TOMm2 | TOMm1 | 0 |

| TOMmn | チャネルnのタイマ出力モードの制御 |
|---|---|
| 0 | マスタ・チャネル出力モード（タイマ割り込み要求信号（INTTMmn）によりトグル出力を行う） |
| 1 | スレーブ・チャネル出力モード<br>（マスタ・チャネルのタイマ割り込み要求信号（INTTMmn）で出力がセット，スレーブ・チャネルのタイマ割り込み要求信号（INTTMmp）で出力がリセットされる） |

注意　ビット15-8, 0には必ず0を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）

n：チャネル番号

n = 0-7（マスタ・チャネル時：n = 0, 2, 4, 6）

p：スレーブ・チャネル番号

n＜p≦7

（マスタ・チャネル，スレーブ・チャネルの関係についての詳細は，7. 4. 1　複数チャネル連動動作機能の基本ルールを参照してください）

### 7. 3. 13　入力切り替え制御レジスタ（ISC）

ISCレジスタのISC1, ISC0ビットは，チャネル7をシリアル・アレイ・ユニットと連携してLIN-bus通信動作を実現するときに使用します。ISC1ビットに1を設定すると，シリアル・データ入力端子（RxD0）の入力信号がタイマ入力として選択されます。

ISCレジスタは1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，ISCレジスタは00Hになります。

図7－22　入力切り替え制御レジスタ（ISC）のフォーマット

アドレス：F0073H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ISC | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ISC1 | ISC0 |

| ISC1 | タイマ・アレイ・ユニットのチャネル7の入力切り替え |
|---|---|
| 0 | TI07端子の入力信号をタイマ入力とする（通常動作） |
| 1 | RxD0端子の入力信号をタイマ入力とする（ウエイクアップ信号検出とブレーク・フィールドのロウ幅とシンク・フィールドのパルス幅測定） |

| ISC0 | 外部割り込み（INTP0）の入力切り替え |
|---|---|
| 0 | INTP0端子の入力信号を外部割り込み入力とする（通常動作） |
| 1 | RxD0端子の入力信号を外部割り込み入力とする（ウエイクアップ信号検出） |

注意　ビット7-2に必ず0を設定してください。

備考　LIN-bus通信を使用する場合は，ISC1 = 1に設定してRxD0端子の入力信号を選択しておいてください。

### 7. 3. 14　ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）

NFEN1レジスタは，タイマ入力端子からの入力信号に対するノイズ・フィルタの使用可否をチャネルごとに設定するレジスタです。

ノイズ除去が必要な端子は，対応するビットに1を設定して，ノイズ・フィルタを有効にしてください。

ノイズ・フィルタ有効時は，対象チャネルの動作クロック（$f_{MCK}$）で同期化のあと，2クロックの一致検出を行います。ノイズ・フィルタ無効時は，対象チャネルの動作クロック（$f_{MCK}$）で同期化だけ行います[注]。

NFEN1レジスタは1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，NFEN1レジスタは00Hになります。

注　詳細は，7. 5. 1（2）TImn端子からの入力信号の有効エッジを選択した場合（CCSmn = 1），7. 5. 2　カウンタのスタート・タイミング，7. 7　タイマ入力（TImn）の制御を参照してください。

図7－23　ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）のフォーマット

アドレス：F0071H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| NFEN1 | TNFEN07 | TNFEN06 | TNFEN05 | TNFEN04 | TNFEN03 | TNFEN02 | TNFEN01 | TNFEN00 |

| TNFEN07 | TI07端子またはRxD0端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否注 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |

| TNFEN06 | TI06端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |

| TNFEN05 | TI05端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |

| TNFEN04 | TI04端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |

| TNFEN03 | TI03端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |

| TNFEN02 | TI02端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |

| TNFEN01 | TI01端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |

| TNFEN00 | TI00端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |

注　入力切り替え制御レジスタ（ISC）のISC1ビットを設定することにより，適用する端子を切り替えることができます。

ISC1 = 0に設定：TI07端子のノイズ・フィルタ使用可否選択が可能

ISC1 = 1に設定：RxD0端子のノイズ・フィルタ使用可否選択が可能

### 7. 3. 15　タイマ入出力端子のポート機能を制御するレジスタ

タイマ・アレイ・ユニット使用時は，対象チャネルと兼用するポート機能を制御するレジスタ（ポート・モード・レジスタ（PMxx），ポート・レジスタ（Pxx）を設定してください。詳細は，4. 3. 1　ポート・モード・レジスタ（PMxx），4. 3. 2　ポート・レジスタ（Pxx）を参照してください。

また，製品によって設定するポート・モード・レジスタ（PMxx），ポート・レジスタ（Pxx）が異なります。詳細は，4. 5　兼用機能使用時のレジスタの設定を参照してください。

タイマ出力端子を兼用するポート（P43/TI00/TO00など）をタイマ出力として使用するときは，　各ポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットおよびポート・レジスタ（Pxx）のビットに0を設定してください。

例）P43/TO00をタイマ出力として使用する場合
　　ポート・モード・レジスタ4のPM43ビットを0に設定
　　ポート・レジスタ4のP43ビットを0に設定

タイマ入力端子を兼用するポート（P43/TI00など）をタイマ入力として使用するときは，各ポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットに1を設定してください。このときポート・レジスタ（Pxx）のビットは，0または1のどちらでもかまいません。

例）P43/TI00をタイマ入力として使用する場合
　　ポート・モード・レジスタ4のPM43ビットを1に設定
　　ポート・レジスタ4のP43ビットを0または1に設定

備考1.　80ピン製品の場合，セグメント出力と兼用になっているポートをタイマ入出力機能として使用する場合は，LCDポート・ファンクション・レジスタ4（PFSEG4）のPFSEG32-PFSEG37ビットのうち，対応するビットを必ず“0”に設定してください。

2.　P125/(TI05)/(TO05)/$V_{L3}$端子をタイマ入出力機能として使用する場合は，LCD入力切り換え制御レジスタ（ISCLCD）のISCVL3ビットを必ず“0”に設定してください。

3.　P126/(TI04)/(TO04)/CAPL, P127/(TI03)/(TO03)/CAPH端子をタイマ入出力機能として使用する場合は，LCD入力切り換え制御レジスタ（ISCLCD）のISCCAPビットを必ず“1”に設定してください。

# 7.4　タイマ・アレイ・ユニットの基本ルール

## 7.4.1　複数チャネル連動動作機能の基本ルール

複数チャネル連動動作機能は，マスタ・チャネル（主に周期をカウントする基準タイマ）とスレーブ・チャネル（マスタ・チャネルに従い動作するタイマ）を組合せて実現する機能で，使用にあたってはいくつかのルールがあります。

次に複数チャネル連動動作機能の基本的なルールを示します。

(1) マスタ・チャネルには，偶数チャネル（チャネル0，チャネル2，チャネル4，…）のみ設定できます。
(2) スレーブ・チャネルには，チャネル0を除くすべてのチャネルを設定できます。
(3) スレーブ・チャネルには，マスタ・チャネルの下位チャネルのみ設定できます。
　例　チャネル2をマスタ・チャネルにした場合，チャネル3以降（チャネル3，チャネル4，チャネル5，…）をスレーブ・チャネルに設定できます。

(4) 1つのマスタ・チャネルに対し，スレーブ・チャネルは複数設定できます。
(5) マスタ・チャネルを複数使用する場合，マスタ・チャネルをまたいだスレーブ・チャネルの設定はできません。
　例　チャネル0，チャネル4をマスタ・チャネルにした場合，マスタ・チャネル0は，チャネル1-3までをスレーブ・チャネルとして設定できます。マスタ・チャネル0は，チャネル5-7をスレーブ・チャネルとして設定できません。

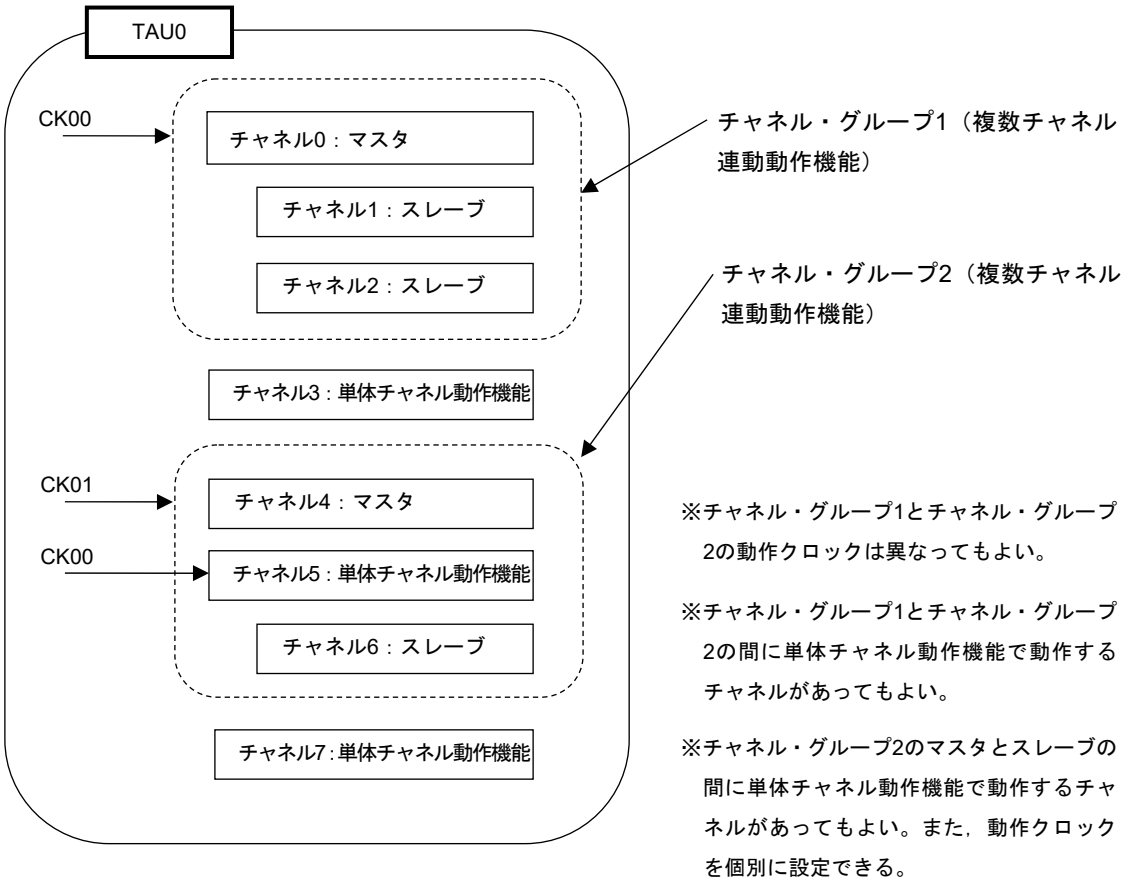
(6) マスタ・チャネルと連動するスレーブ・チャネルは，同じ動作クロックを設定します。マスタ・チャネルと連動するスレーブ・チャネルのCKSmn0, CKSmn1ビット（タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のビット15, 14）が同じ設定値になっている必要があります。
(7) マスタ・チャネルはINTTMmn（割り込み）／スタート・ソフトウエア・トリガ／カウント・クロックを下位チャネルに伝えることができます。
(8) スレーブ・チャネルはマスタ・チャネルのINTTMmn（割り込み）／スタート・ソフトウエア・トリガ／カウント・クロックをソース・クロックとして使用できますが，下位チャネルに自身のINTTMmn（割り込み）／スタート・ソフトウエア・トリガ／カウント・クロックを伝えることはできません。
(9) マスタ・チャネルは，他の上位のマスタ・チャネルからのINTTMmn（割り込み）／スタート・ソフトウエア・トリガ／カウント・クロックをソース・クロックとして使用することはできません。
(10) 連動させるチャネルを同時スタートさせるため，連動させるチャネルのチャネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn）を同時に設定する必要があります。
(11) カウント動作中のTSmnビットの設定は，連動させるすべてのチャネルまたはマスタ・チャネルのみ使用できます。スレーブ・チャネルのTSmnビットのみの設定では使用できません。
(12) 連動させるチャネルを同時に停止させるため，連動させるチャネルのチャネル・ストップ・トリガ・ビット（TTmn）を同時に設定する必要があります。
(13) 連動動作時は，マスタ・チャネルとスレーブ・チャネルの動作クロックをあわせる必要があるため，CKm2/CKm3は選択できません。
(14) タイマ・モード・レジスタm0（TMRm0）は，マスタ・ビットがなく，”0”に固定されています。しかし，チャネル0は最上位チャネルなので，連動動作時は，チャネル0をマスタ・チャネルとして使用できます。

複数チャネル連動動作機能の基本ルールは，チャネル・グループ（1つの複数チャネル連動動作機能を形成するマスタ・チャネルとスレーブ・チャネルの集合）内に適用されるルールです。

それぞれが連動しない2つ以上のチャネル・グループを設定した場合，チャネル・グループ間には上記の基本ルールは適用されません。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

例


TAU0
CK00
チャネル0：マスタ
チャネル1：スレーブ
チャネル2：スレーブ
チャネル3：単体チャネル動作機能
CK01
チャネル4：マスタ
CK00
チャネル5：単体チャネル動作機能
チャネル6：スレーブ
チャネル7：単体チャネル動作機能
チャネル・グループ1（複数チャネル連動動作機能）
チャネル・グループ2（複数チャネル連動動作機能）
※チャネル・グループ1とチャネル・グループ2の動作クロックは異なってもよい。
※チャネル・グループ1とチャネル・グループ2の間に単体チャネル動作機能で動作するチャネルがあってもよい。
※チャネル・グループ2のマスタとスレーブの間に単体チャネル動作機能で動作するチャネルがあってもよい。また，動作クロックを個別に設定できる。

### 7.4.2　8ビット・タイマ動作機能の基本ルール（チャネル1, 3のみ）

8ビット・タイマ動作機能は，16ビット・タイマのチャネルを8ビット・タイマの2チャネル構成として使用する機能です。

8 ビットタイマ動作機能は，チャネル1, 3のみ使用できる機能で，使用にあたってはいくつかのルールがあります。

次に8ビット・タイマ動作機能の基本的なルールを示します。

(1) 8ビット・タイマ動作機能が適用されるチャネルは，チャネル1, 3のみです。
(2) 8ビット・タイマとして使用する場合には，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のSPLITビットを“1”に設定します。
(3) 上位8ビットは，インターバル・タイマ機能として動作することができます。
(4) 上位8ビットは，動作開始時にINTTMm1H/INTTMm3H（割り込み）を出力します（MDmn0 =1 設定と同じ動作）。
(5) 上位8ビットの動作クロック選択は，下位ビットのTMRmnレジスタのCKSmn1, CKSmn0ビットにしたがって動作します。
(6) 上位8ビットは，TSHm1/TSHm3ビットを操作することでチャネル動作を開始し，TTHm1/TTHm3 ビットを操作することでチャネル動作を停止します。チャネルのステータスは，TEHm1/TEHm3ビットで確認できます。
(7) 下位8ビットは，TMRmnレジスタの設定にしたがって動作します。下位8ビットの動作をサポートする機能は，以下の3機能です。
　・インターバル・タイマ機能
　・外部イベント・カウンタ機能
　・ディレイ・カウント機能

(8) 下位8ビットは，TSm1/TSm3 ビットを操作することでチャネル動作を開始し，TTm1/TTm3ビットを操作することでチャネル動作を停止します。チャネルのステータスは，TEm1/TEm3ビットで確認できます。
(9) 16ビットで動作させる場合には，TSHm1/TSHm3/TTHm1/TTHm3ビットの操作は無効となります。TSm1/TSm3, TTm1/TTm3ビットを操作することでチャネル1, 3が動作します。TEHm3ビットとTEHm1ビットは変化しません。
(10) 8ビット・タイマ機能で，連動動作機能（ワンショット・パルス，PWM，多重PWM）を使用することはできません。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 1, 3）

# 7.5　カウンタの動作

## 7.5.1　カウント・クロック（$f_{TCLK}$）

タイマ・アレイ・ユニットのカウント・クロック（$f_{TCLK}$）は，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のCCSmnビットにより，以下のどちらかを選択することができます。

・CKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック（$f_{MCK}$）
・TImn端子からの入力信号の有効エッジ

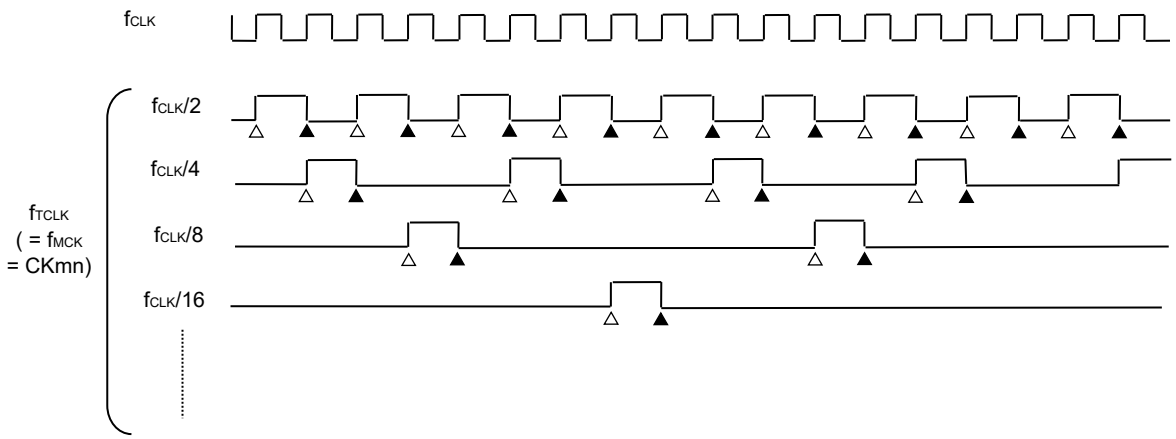
タイマ・アレイ・ユニットは，$f_{CLK}$との同期をとって動作するよう設計されているため，カウント・クロック（$f_{TCLK}$）のタイミングは次のようになります。

（1）CKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック（$f_{MCK}$）を選択した場合（CCSmn = 0）

カウント・クロック（$f_{TCLK}$）は，タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）の設定により，$f_{CLK}$ ～ $f_{CLK}/2^{15}$となります。ただし，$f_{CLK}$の分周を選んだ場合，TPSmレジスタで選択するクロックは，立ち上がりから$f_{CLK}$の1周期分だけハイ・レベルになる信号となります。$f_{CLK}$を選んだ場合は，ハイ・レベル固定となります。

タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，$f_{CLK}$との同期をとるため，カウント・クロックの立ち上がりから$f_{CLK}$の1クロック分遅れてカウントしますが，このことを便宜上“カウント・クロックの立ち上がりでカウントする”と表現します。

図7－24　$f_{CLK}$とカウント・クロック（$f_{TCLK}$）のタイミング（CCSmn = 0時）



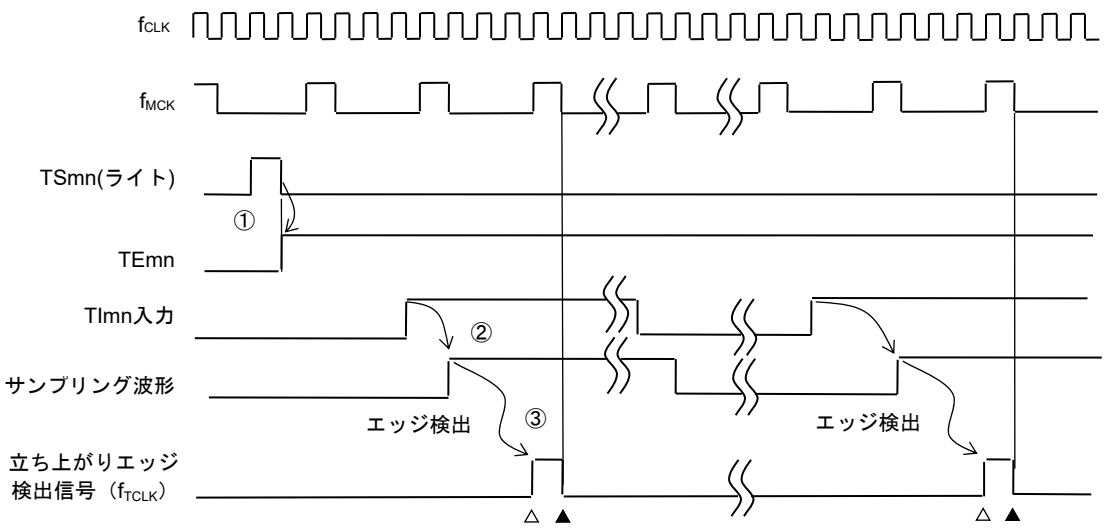

備考1.　△：カウント･クロックの立ち上がり
　　▲：同期化，カウンタのインクリメント／デクリメント
　　2.　$f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック

（2）TImn端子からの入力信号の有効エッジを選択した場合（CCSmn = 1）

カウント・クロック（$f_{TCLK}$）は，TImn端子からの入力信号の有効エッジを検出し，次の$f_{MCK}$の立ち上がりに同期した信号になります。これは，実際のTImn端子からの入力信号より$f_{MCK}$の1～2クロック分遅れた信号になります（ノイズ・フィルタ使用時は，$f_{MCK}$の3～4クロック分遅れます）。

また，タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，$f_{CLK}$との同期をとるためにカウント・クロックの立ち上がりから$f_{CLK}$の1クロック分遅れてカウントしますが，このことを便宜上“TImn端子からの入力信号の有効エッジでカウントする”と表現します。

図7－25　カウント・クロック（$f_{TCLK}$）のタイミング（CCSmn = 1，ノイズ・フィルタ未使用時）




①TSmnビットをセットすることでタイマが動作を開始し，TImn入力の有効エッジ待ちになります。

②TImn入力の立ち上がりが$f_{MCK}$でサンプリングされます。

③サンプリングした信号の立ち上がりでエッジ検出がおこなわれ，検出信号（カウント・クロック）が出力されます。

備考1. △：カウント･クロックの立ち上がり

▲：同期化，カウンタのインクリメント／デクリメント

2. $f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック

$f_{MCK}$：チャネルnの動作クロック

3. 入力パルス間隔測定，入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定，ディレイ・カウンタ，ワンショット・パルス出力機能のTImn入力も同様の波形になります。

### 7.5.2　カウンタのスタート・タイミング

タイマ・カウント・レジスタmn（TCRmn）は，タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のTSmnビットをセットすることにより，動作許可状態になります。

カウント動作許可状態からタイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）のカウント・スタートまでの動作を，表7－5に示します。

表7－5　カウント動作許可状態からタイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）のカウント・スタートまでの動作

| タイマの動作モード | TSmn = 1にセットしたときの動作 |
|---|---|
| ・インターバル・タイマ・モード | スタート・トリガ検出（TSmn = 1）後，カウント・クロック発生まで何も動作しません。<br>最初のカウント・クロックでTDRmnレジスタの値をTCRmnレジスタにロードし，以降のカウント・クロックでダウン・カウント動作を行います（7. 5. 3（1）インターバル・タイマ・モードの動作参照）。 |
| ・イベント・カウンタ・モード | TSmnビットに1を書き込むことにより， TDRmnレジスタの値をTCRmnレジスタにロードします。<br>TImn入力のエッジを検出すると，以降のカウント・クロックでダウン・カウント動作を行います（7. 5. 3（2）イベント・カウンタ・モードの動作参照）。 |
| ・キャプチャ・モード | スタート・トリガ検出（TSmn = 1）後，カウント・クロック発生まで何も動作しません。<br>最初のカウント・クロックで0000HをTCRmnレジスタにロードし，以降のカウント・クロックでアップ・カウント動作を行います（7. 5. 3（3）キャプチャ・モードの動作（入力パルス間隔測定）参照）。 |
| ・ワンカウント・モード | タイマ動作停止（TEmn = 0）の状態で，TSmnビットに1を書き込むことによりスタート・トリガ待ち状態となります。<br>スタート・トリガ検出後，カウント・クロック発生まで何も動作しません。<br>最初のカウント・クロックでTDRmnレジスタの値をTCRmnレジスタにロードし，以降のカウント・クロックでダウン・カウント動作を行います（7. 5. 3（4）ワンカウント・モードの動作参照）。 |
| ・キャプチャ＆ワンカウント・モード | タイマ動作停止（TEmn = 0）の状態で，TSmnビットに1を書き込むことによりスタート・トリガ待ち状態となります。<br>スタート・トリガ検出後，カウント・クロック発生まで何も動作しません。<br>最初のカウント・クロックで0000HをTCRmnレジスタにロードし，以降のカウント・クロックでアップ・カウント動作を行います（7. 5. 3（5）キャプチャ&ワンカウント・モードの動作（ハイ・レベル幅測定）参照）。 |

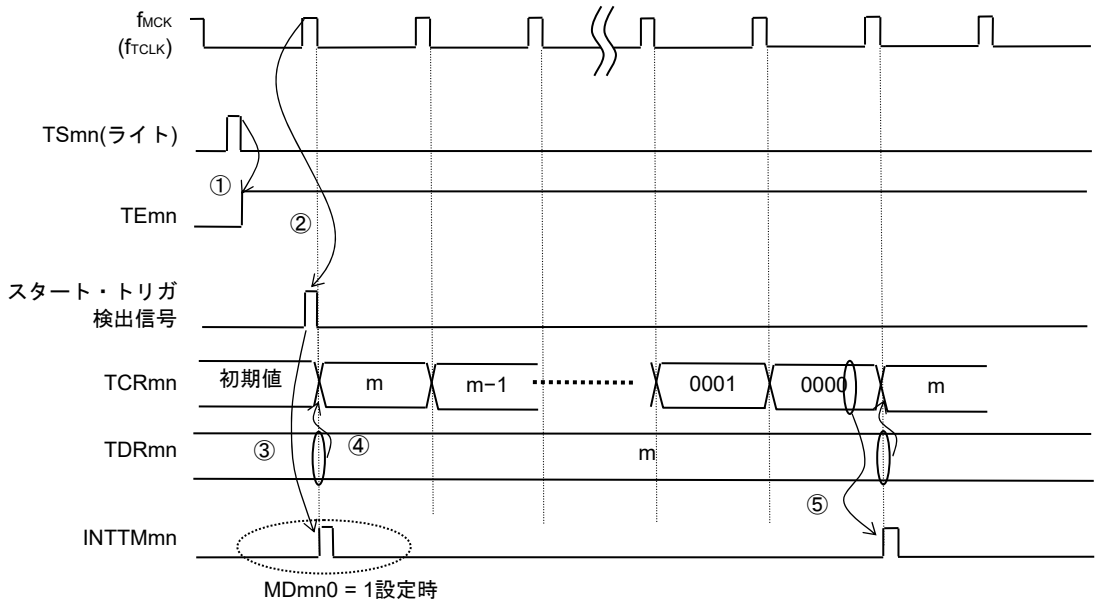
### 7.5.3　カウンタの動作

各モードでのカウンタ動作を説明します。

（1）インターバル・タイマ・モードの動作

① TSmnビットへ1を書き込むことにより，動作許可状態（TEmn = 1）となります。タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，カウント・クロック発生まで初期値を保持しています。
② 動作許可後の最初のカウント・クロック（$f_{MCK}$）で，スタート・トリガが発生します。
③ MDmn0ビットが1に設定されている場合には，スタート・トリガにより，INTTMmnが発生します。
④ 動作許可後の最初のカウント・クロックにより，タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）の値をTCRmnレジスタにロードし，インターバル・タイマ・モードでのカウントを開始します。
⑤ TCRmnレジスタがカウント・ダウンしてカウント値が0000Hになると，次のカウント・クロック（$f_{MCK}$）でINTTMmnを発生し，タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）の値をTCRmnレジスタにロードしてカウントを継続します。

図7－26　動作タイミング（インターバル・タイマ・モード）




注意　カウント・クロックの1周期目の動作はTSmnビット書き込み後，カウント・クロックが発生するまでカウント開始が遅れるため，1周期目は最大でカウント・クロック1クロック分の誤差が生じます。また，カウント開始タイミングの情報が必要な場合は，MDmn0 = 1に設定することで，カウント開始時に割り込みを発生させることができます。

備考　$f_{MCK}$，スタート・トリガ検出信号，INTTMmnは，$f_{CLK}$に同期して1クロック間アクティブとなります。

（2）イベント・カウンタ・モードの動作

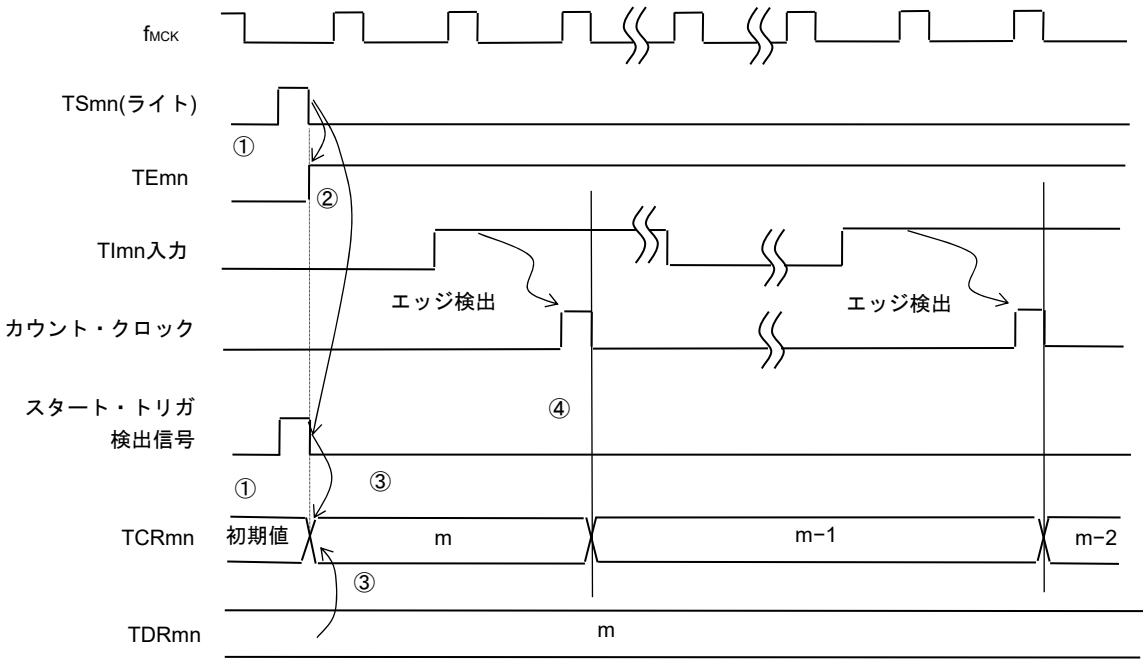
① 動作停止状態（TEmn = 0）の期間，タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，初期値を保持します。

② TSmnビットへ1を書き込むことにより，動作許可状態（TEmn = 1）となります。

③ TSmn = 1→TEmn = 1と同時に， TCRmnレジスタにタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）の値をロードし，カウントを開始します。

④ 以降はTImn入力の有効エッジでのカウント・クロックに従い， TCRmnレジスタの値をダウン・カウントします。

図7－27　動作タイミング（イベント・カウンタ・モード）




備考　このタイミングはノイズ・フィルタを使用しないときのタイミングです。ノイズ・フィルタをオンにすると，エッジ検出はTImn入力からさらにfMCKの2周期分（合計で3～4周期分）遅くなります。1周期分の誤差はTImn入力とカウント・クロック（fMCK）が非同期なためです。

（3）キャプチャ・モードの動作（入力パルス間隔測定）

① TSmnビットへ1を書き込むことにより，動作許可状態（TEmn = 1）となります。

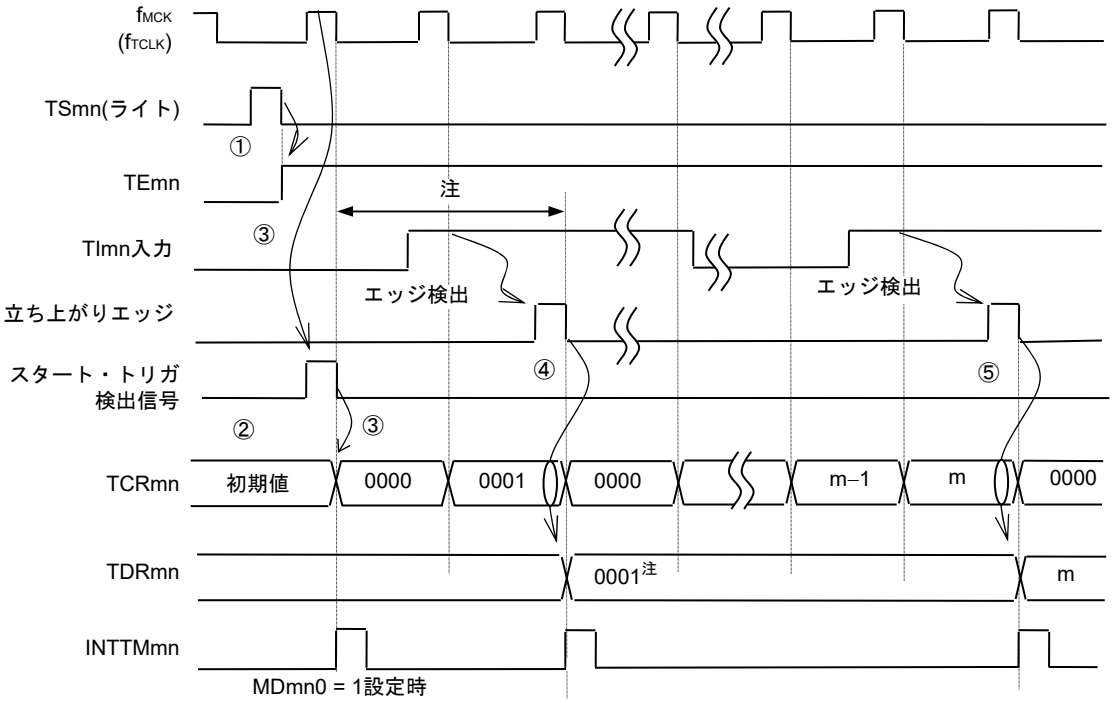
② タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，カウント・クロック発生まで初期値を保持しています。

③ 動作許可後の最初のカウント・クロック（$f_{MCK}$）で，スタート・トリガが発生します。そして0000Hの値をTCRmnレジスタにロードし，キャプチャ・モードでのカウントを開始します。（MDmn0ビットが1に設定されている場合には，スタート・トリガにより，INTTMmnが発生します。）

④ TImn入力の有効エッジを検出すると，TCRmnレジスタの値をTDRmnレジスタにキャプチャし，INTTMmn割り込みが発生しますが，このときのキャプチャ値は意味をもちません。TCRmnレジスタは0000Hからカウントを継続します。

⑤ 次のTImn入力の有効エッジを検出すると，TCRmnレジスタの値をTDRmnレジスタにキャプチャし，INTTMmn割り込みが発生します。

図7－28　動作タイミング（キャプチャ・モード：入力パルス間隔測定）




注　スタート前からTImnにクロックが入力されている（トリガがある）場合，エッジ検出をしなくても，トリガ検出でカウントを開始するため，最初のキャプチャ（④）でのキャプチャ値はパルス間隔とならない（この例では0001：2クロック分の間隔）ので，無視してください。

注意　カウント・クロックの1周期目の動作はTSmnビット書き込み後，カウント・クロックが発生するまでカウント開始が遅れるため，1周期目は最大でカウント・クロック1クロック分の誤差が生じます。また，カウント開始タイミングの情報が必要な場合は，MDmn0 = 1に設定することで，カウント開始時に割り込みを発生させることができます。

備考　このタイミングはノイズ・フィルタを使用しないときのタイミングです。ノイズ・フィルタをオンにすると，エッジ検出はTImn入力からさらに$f_{MCK}$の2周期分（合計で3～4周期分）遅くなります。1周期分の誤差はTImn入力とカウント・クロック（$f_{MCK}$）が非同期なためです。

（4）ワンカウント・モードの動作

① TSmnビットへ1を書き込むことにより，動作許可状態（TEmn = 1）となります。

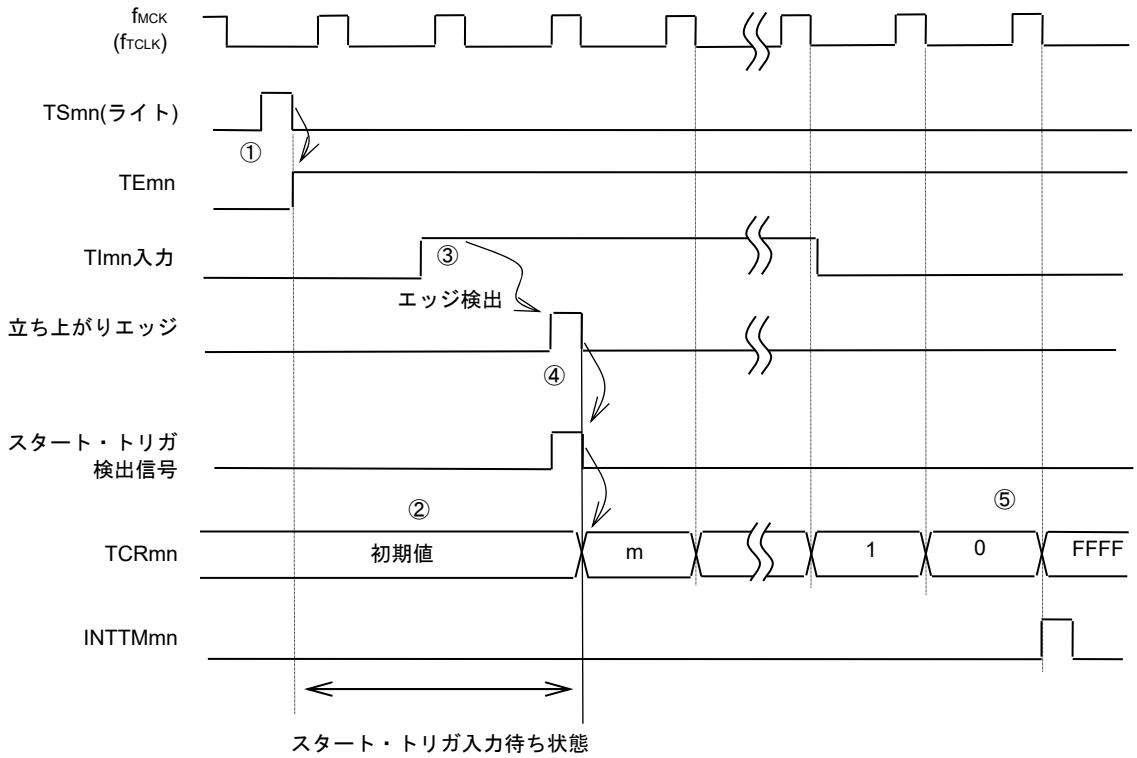
② タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，スタート・トリガ発生まで初期値を保持しています。

③ TImn入力の立ち上がりエッジを検出します。

④ スタート・トリガが発生して，TDRmnレジスタの値（m）をTCRmnレジスタにロードし，カウントを開始します。

⑤ TCRmnレジスタがカウント・ダウンしてカウント値が0000Hになると，INTTMmn割り込みを発生し，TCRmnレジスタはFFFFHで停止します。

図7－29　動作タイミング（ワンカウント・モード）




備考　このタイミングはノイズ・フィルタを使用しないときのタイミングです。ノイズ・フィルタをオンすると，エッジ検出はTImn入力からさらにfMCKの2周期分（合計で3～4周期分）遅くなります。1周期分の誤差はTImn入力とカウント・クロック（fMCK）が非同期なためです。

（5）キャプチャ&ワンカウント・モードの動作（ハイ・レベル幅測定）

① タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のTSmnビットに1を書き込むことにより，動作許可状態（TEmn = 1）となります。

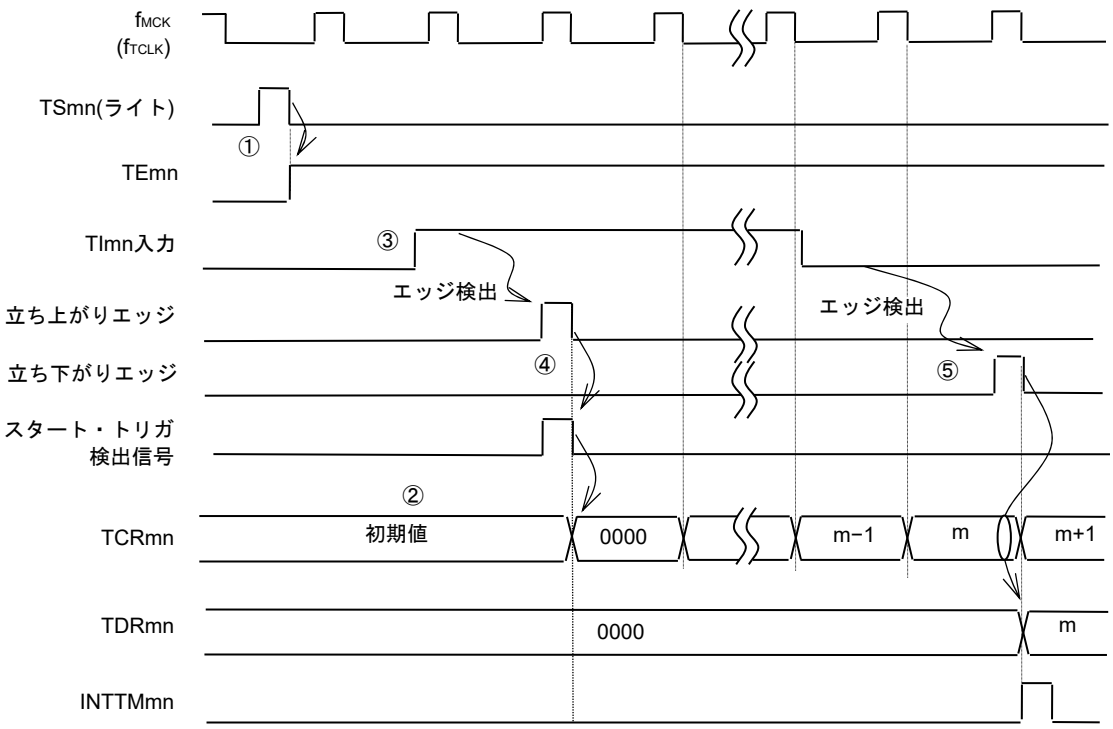
② タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，スタート・トリガ発生まで初期値を保持します。

③ TImn入力の立ち上がりエッジを検出します。

④ スタート・トリガが発生して，0000HをTCRmnレジスタにロードし，カウントを開始します。

⑤ TImn入力の立ち下がりエッジを検出すると，TCRmnレジスタの値をTDRmnレジスタにキャプチャし，INTTMmn割り込みが発生します。

図7－30　動作タイミング（キャプチャ&ワンカウント・モード：ハイ・レベル幅測定）

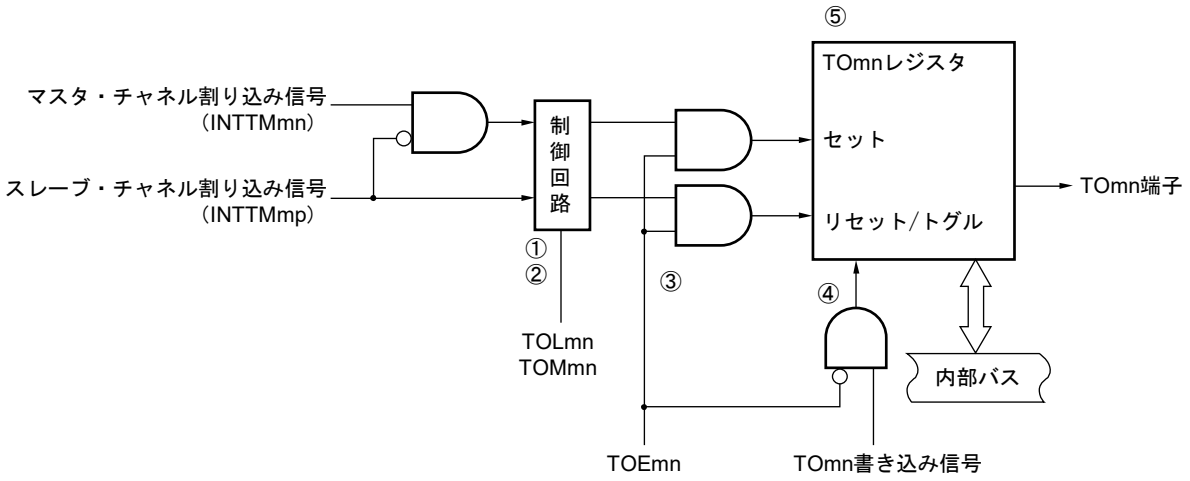



備考　このタイミングはノイズ・フィルタを使用しないときのタイミングです。ノイズ・フィルタをオンにすると，エッジ検出はTImn入力からさらにfMCKの2周期分（合計で3～4周期分）遅くなります。1周期分の誤差はTImn入力とカウント・クロック（fMCK）が非同期なためです。

# 7.6　チャネル出力（TOmn端子）の制御

## 7.6.1　TOmn端子の出力回路の構成

図7－31　出力回路構成図




TOmn端子の出力回路の説明を次に示します。

① TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）のときは，タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）の設定値は無視され，INTTMmp（スレーブ・チャネル・タイマ割り込み）のみがタイマ出力レジスタm（TOm）に伝えられます。

② TOMmn = 1（スレーブ・チャネル出力モード）のときは，INTTMmn（マスタ・チャネル・タイマ割り込み）とINTTMmp（スレーブ・チャネル・タイマ割り込み）がTOmレジスタに伝えられます。
このとき，TOLmレジスタが有効となり，次のように信号を制御します。

TOLmn = 0の場合　：正論理出力（INTTMmn→セット，INTTMmp→リセット）
TOLmn = 1の場合　：負論理出力（INTTMmn→リセット，INTTMmp→セット）

また，INTTMmnとINTTMmpが同時に発生した場合（PWM出力の0%出力時）は，INTTMmp（リセット信号）が優先され，INTTMmn（セット信号）はマスクされます。

③ タイマ出力許可状態（TOEmn = 1）で，INTTMmn（マスタ・チャネル・タイマ割り込み）とINTTMmp（スレーブ・チャネル・タイマ割り込み）がTOmレジスタに伝えられます。TOmレジスタへの書き込み（TOmnライト信号）は無効となります。
また，TOEmn = 1のとき，割り込み信号以外でTOmn端子の出力が変化することはありません。
TOmn端子の出力レベルを初期化する場合は，タイマ動作停止（TOEmn = 0）に設定しTOmレジスタに値を書き込む必要があります。

④ タイマ出力禁止状態（TOEmn = 0）で，対象チャネルのTOmnビットへの書き込み（TOmnライト信号）が有効となります。 タイマ出力禁止状態（TOEmn = 0）のとき，INTTMmn（マスタ・チャネル・タイマ割り込み）とINTTMmp（スレーブ・チャネル・タイマ割り込み）はTOmレジスタに伝えられません。

⑤ TOmレジスタは常に読み出し可能であり，TOmn端子の出力レベルを確認することができます。

注意　P60, P61, P62をチャネル出力として使用する場合は，出力がN-chオープン・ドレインのため，外部にプルアップ抵抗が必要となります。

（備考は次ページにあります。）

備考　m：ユニット番号（m = 0）

n：チャネル番号

n = 0-7（マスタ・チャネル時：n = 0, 2, 4, 6）

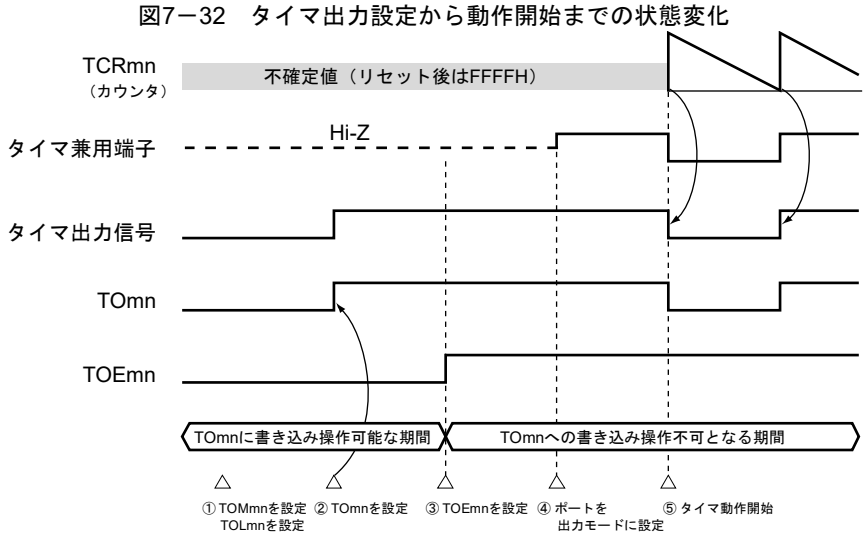
p：スレーブ・チャネル番号

n＜p≦7

## 7. 6. 2　TOmn端子の出力設定

TOmn出力端子の初期設定からタイマ動作開始までの手順と状態変化を次に示します。

図7－32　タイマ出力設定から動作開始までの状態変化




① タイマ出力の動作モードを設定します。

・TOMmnビット（0：マスタ・チャネル出力モード，1：スレーブ・チャネル出力モード）

・TOLmnビット（0：正論理出力，1：負論理出力）

② タイマ出力レジスタm（TOm）を設定することにより，タイマ出力信号が初期状態に設定されます。

③ TOEmnビットに1を書き込み，タイマ出力動作を許可します（TOmレジスタへの書き込みは不可となります）。

④ ポートの入出力設定を出力に設定します（7. 3. 15　タイマ入出力端子のポート機能を制御するレジスタ参照）。

⑤ タイマを動作許可にします（TSmn = 1）。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 6. 3　チャネル出力操作時の注意事項

（1）タイマ動作中のTOm, TOEm, TOLmレジスタの設定値変更について

タイマ動作（タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn），タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）の動作）は，TOmn出力回路とは独立しています。よって，タイマ出力レジスタm（TOm），タイマ出力許可レジスタm（TOEm），タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）の設定値変更はタイマ動作に影響しないため，タイマ動作中に設定値の変更が可能です。ただし，各タイマ動作において期待する波形をTOmn端子から出力するためには，7. 8, 7. 9節で示す各動作のレジスタ設定内容例の値に設定してください。

各チャネルのタイマ割り込み（INTTMmn）近辺で，TOmレジスタを除くTOEmレジスタ，TOLmレジスタの設定値変更を行うと，タイマ割り込み（INTTMmn）信号発生タイミング直前に設定値変更が実施された場合と，タイマ割り込み（INTTMmn）信号発生タイミング直後に設定値変更が実施された場合とでは，TOmn端子に出力される波形が異なる場合があります。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

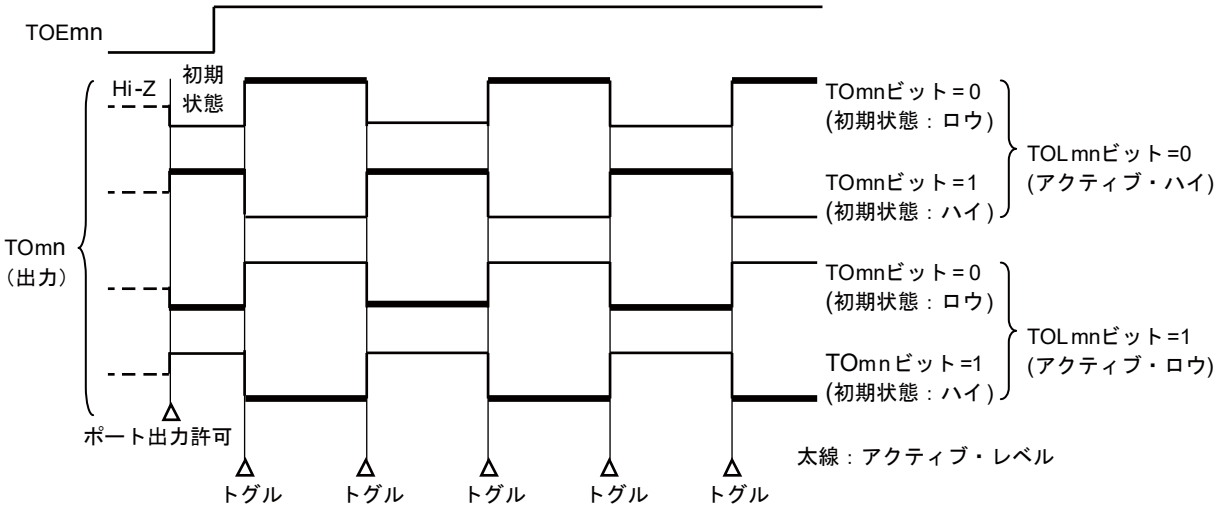
（2）TOmn端子の初期レベルとタイマ動作開始後の出力レベルについて

ポート出力許可前に，タイマ出力禁止（TOEmn = 0）の状態でタイマ出力レジスタm（TOm）に書き込みを行い，初期レベル変更後，タイマ出力許可状態（TOEmn = 1）に設定した場合のTOmn端子出力レベルの変化を次に示します。

（a）マスタ・チャネル出力モード（TOMmn= 0）設定で動作を開始した場合

マスタ・チャネル出力モード（TOMmn= 0）の時，タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）の設定は無効となります。初期レベル設定後，タイマ動作を開始するとトグル信号発生によりTOmn端子の出力レベルを反転します。

図7－33　トグル出力時（TOMmn = 0）のTOmn端子出力状態



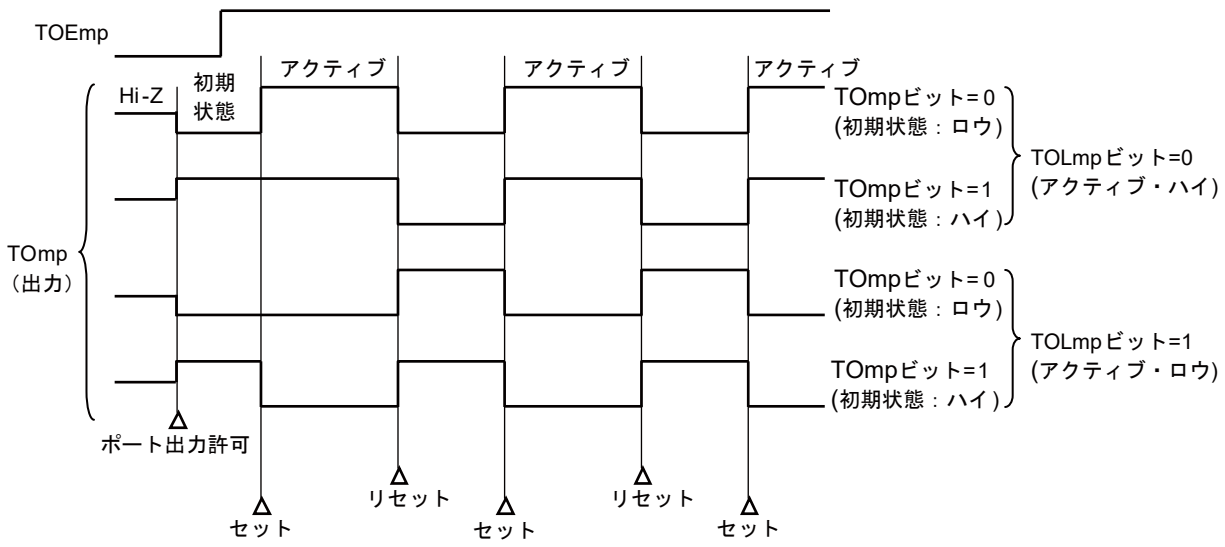

備考1.　トグル：TOmn端子の出力状態を反転

2.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

（b）スレーブ・チャネル出力モード（TOMmp = 1）設定で動作を開始した場合（PWM出力）

スレーブ・チャネル出力モード（TOMmp = 1）の時，タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）の設定によりアクティブ・レベルを決定します。

図7－34　PWM出力時（TOMmp = 1）のTOmp端子出力状態




備考1.　セット　　：TOmp端子の出力信号が，インアクティブ・レベルからアクティブ・レベルに変化

リセット　：TOmp端子の出力信号が，アクティブ・レベルからインアクティブ・レベルに変化

2.　m：ユニット番号（m = 0），p：チャネル番号（p = 1-7）

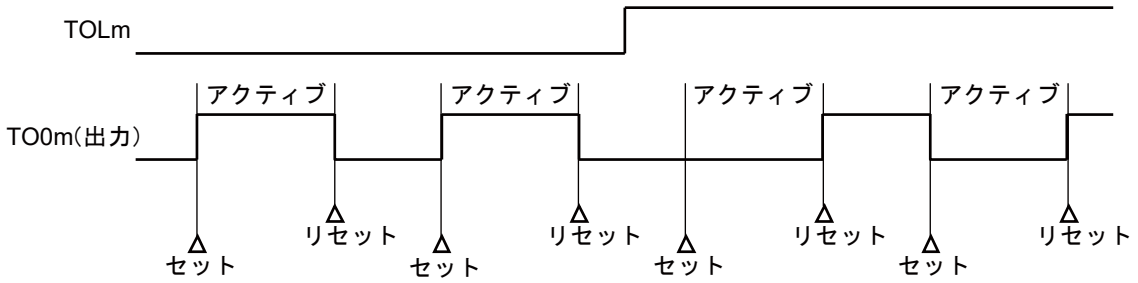
（3）TOmn端子のスレーブ・チャネル出力モード（TOMmn = 1）での動作について

（a）タイマ動作中にタイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）の設定を変更した場合

タイマ動作中にTOLmレジスタの設定を変更した場合，設定が有効となるのはTOmn端子変化条件の発生タイミングです。TOLmレジスタの書き換えでは，TOmn端子の出力レベルは変化しません。

TOMmn = 1で，タイマ動作中（TEmn = 1）にTOLmレジスタの値を変更した場合の動作を次に示します。

図7－35　タイマ動作中にTOLmレジスタの内容を変更した場合の動作




備考1.　セット　　：TOmn端子の出力信号が，インアクティブ・レベルからアクティブ・レベルに変化
　　リセット　：TOmn端子の出力信号が，アクティブ・レベルからインアクティブ・レベルに変化
　2.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

（b）セット／リセット・タイミング

PWM出力時に，0%／100%出力を実現するため，マスタ・チャネル・タイマ割り込み（INTTMmn）発生時のTOmn端子/TOmnビットのセット・タイミングをスレーブ・チャネルにて1カウント・クロック分遅らせています。

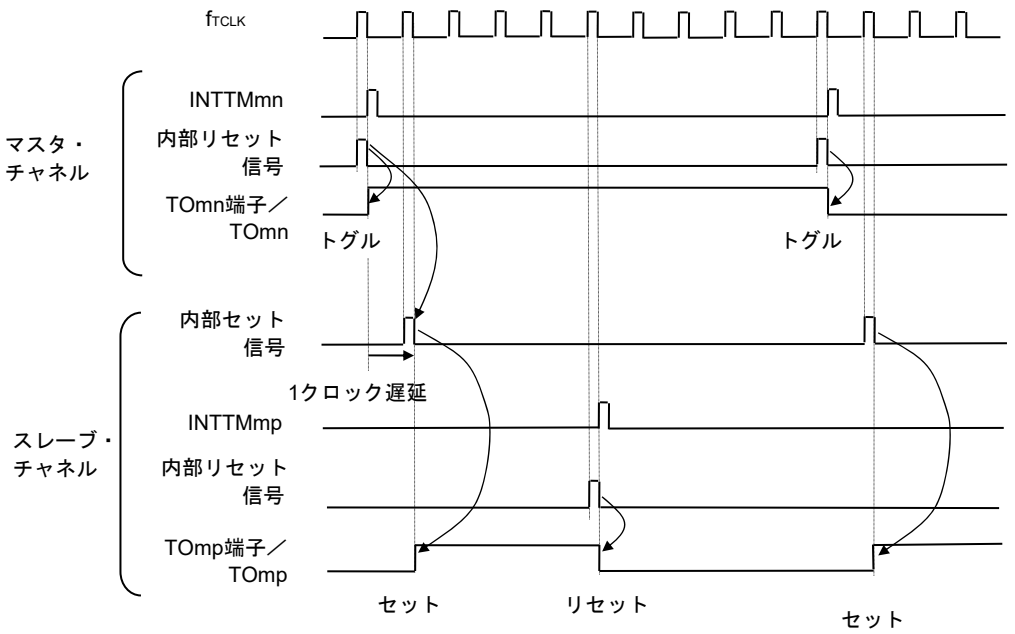
セット条件とリセット条件が同時に発生した場合，リセット条件が優先されます。

マスタ／スレーブ・チャネルを次のように設定した場合のセット／リセット動作状態を図7－36に示します。

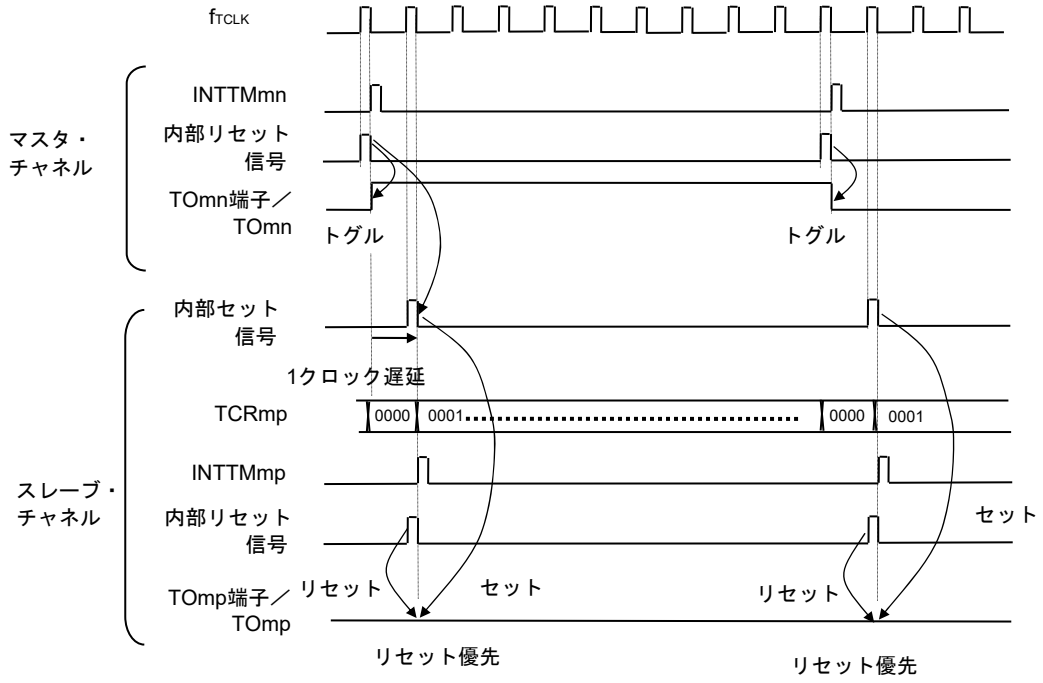
マスタ・チャネル　：TOEmn = 1, TOMmn = 0, TOLmn = 0
スレーブ・チャネル：TOEmp = 1, TOMmp = 1, TOLmp = 0

図7－36　セット／リセット・タイミング動作状態

（1）基本動作タイミング




（2）0 %デューティ時の動作タイミング



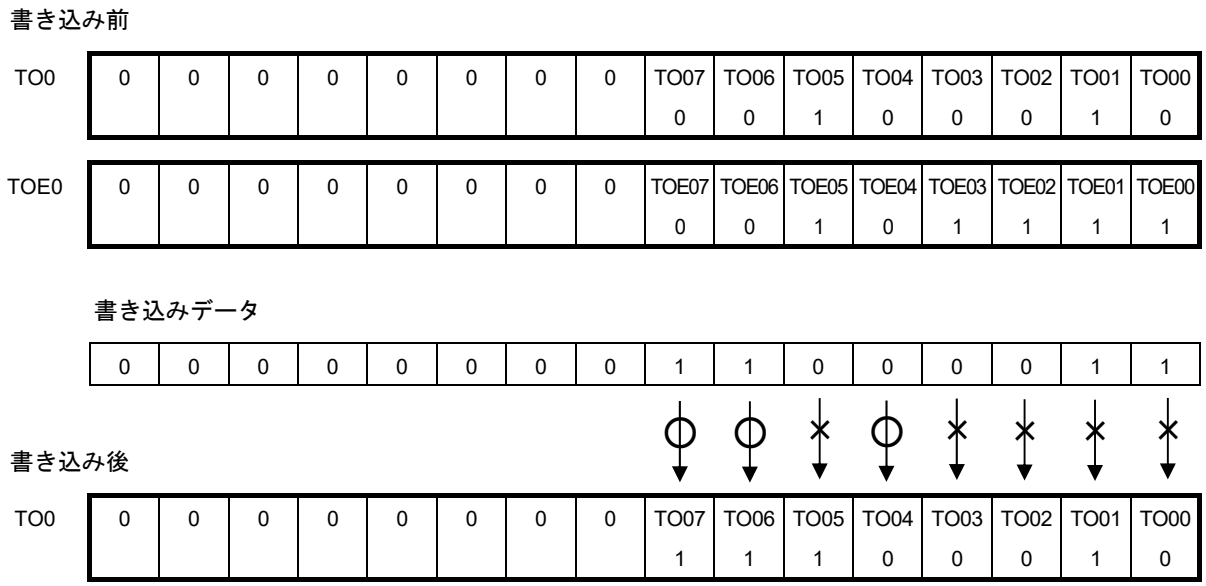

備考1.　内部リセット信号：TOmn端子のリセット／トグル信号
　　内部セット信号　：TOmn端子のセット信号

2.　m：ユニット番号（m = 0）
　　n：チャネル番号
　　n = 0-7（マスタ・チャネル時：n = 0, 2, 4, 6）
　　p：スレーブ・チャネル番号
　　n＜p≦7

### 7. 6. 4　TOmnビットの一括操作

タイマ出力レジスタm（TOm）には，タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）と同様に，1レジスタに全チャネル分の設定ビット（TOmn）が配置されています。よって，全チャネルのTOmnビットを一括で操作することが可能です。また，操作対象としたいチャネル出力（TOmn）のみTOmnビットへの書き込み可能（TOEmn = 0）とすることによって任意のビットのみ操作することが可能です。

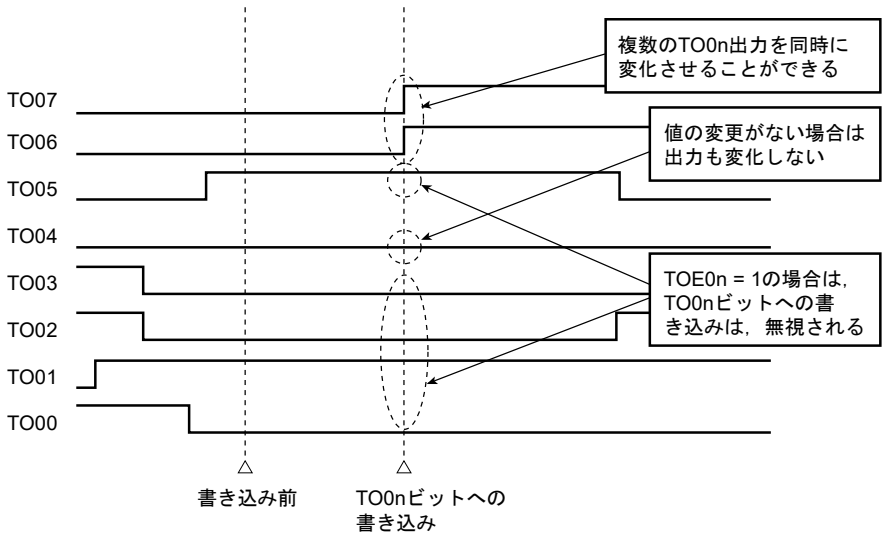
図7－37　TO0nビットの一括操作例




TOEmn = 0のTOmnビットのみ書き込みが行われます。TOEmn = 1のTOmnビットへの書き込みは無視されます。

TOEmn = 1に設定されているTOmn（チャネル出力）は，書き込み操作による影響は受けません。TOmnビットに書き込み操作が行われても無視し，タイマ動作による出力変化は正常に行われます。

図7－38　TO0nビットの一括操作によるTO0nの端子状態




備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 6. 5　カウント動作開始時のタイマ割り込みとTOmn端子出力について

インターバル・タイマ・モード／キャプチャ・モードの場合，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のMDmn0ビットは，「カウント開始時にタイマ割り込みを発生する／しない」を設定するビットとなります。

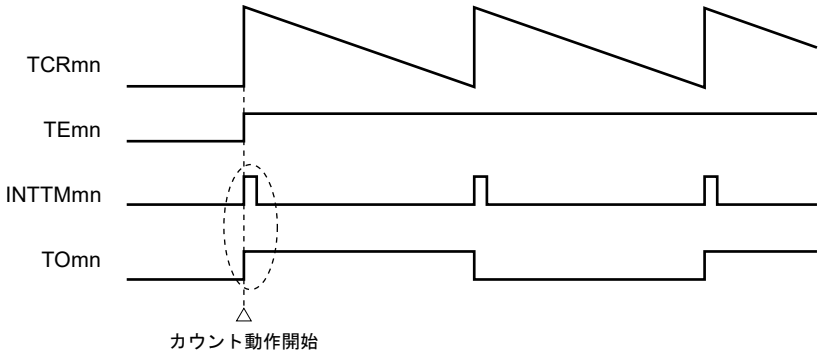
MDmn0 = 1に設定することで，タイマ割り込み（INTTMmn）の発生によりカウント動作開始タイミングを知ることが可能です。

その他の動作モードでは，カウント動作開始時のタイマ割り込み，TOmn出力は制御しません。

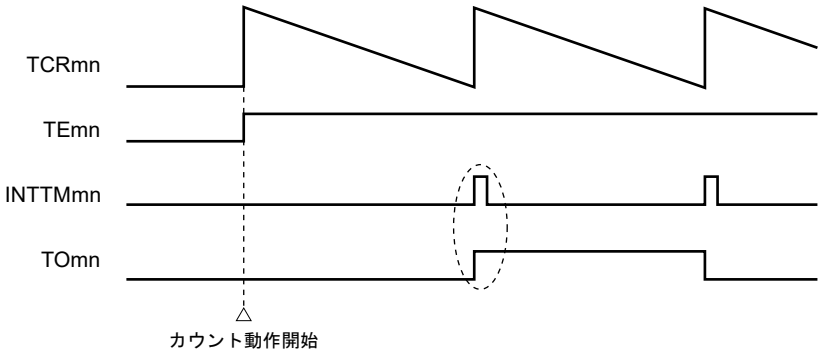
インターバル・タイマ・モード（TOEmn = 1, TOMmn = 0）に設定した場合の動作例を次に示します。

図7－39　カウント動作開始時のタイマ割り込み，TOmn出力の動作例

（a）MDmn0 = 1に設定した場合




（b）MDmn0 = 0に設定した場合




MDmn0 = 1に設定した場合，カウント動作開始時にタイマ割り込み（INTTMmn）が出力され，TOmnがトグル動作します。

MDmn0 = 0に設定した場合，カウント動作開始時にタイマ割り込み（INTTMmn）を出力しません。TOmnも変化しません。1周期をカウント後，INTTMmnを出力し，TOmnがトグル動作します。

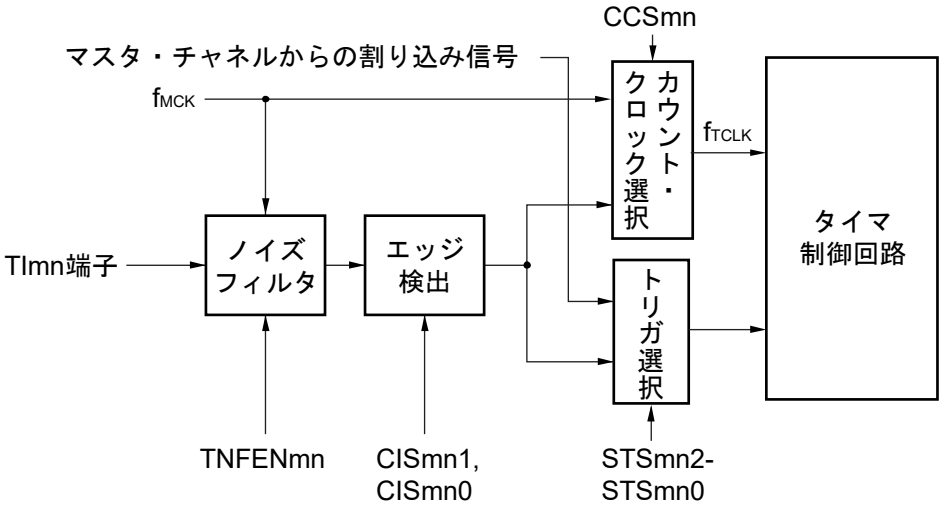
備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

# 7.7　タイマ入力（TImn）の制御

## 7.7.1　TImnの入力回路構成

タイマ入力端子から信号は，ノイズ・フィルタとエッジ検出回路を通過してタイマ制御回路へ入力されます。ノイズ除去が必要な端子は，対応する端子のノイズ・フィルタを有効にしてください。以下に入力回路の構成図を示します。

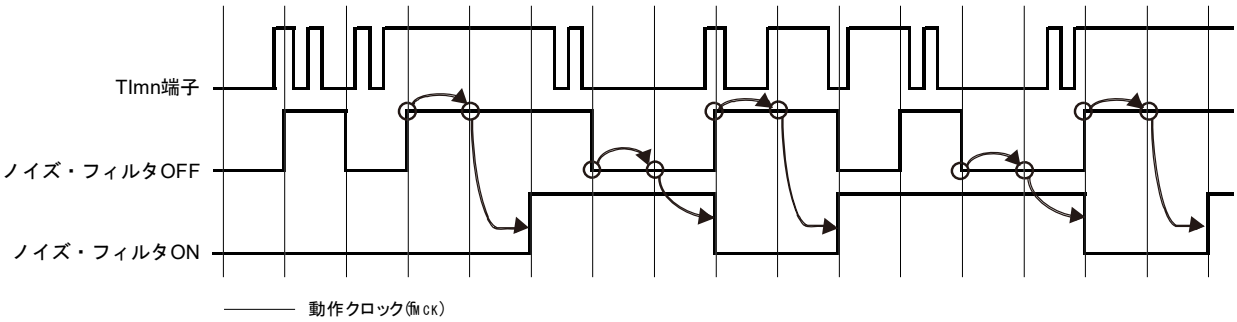
図7－40　入力回路構成図




## 7.7.2　ノイズ・フィルタ

ノイズ・フィルタ無効時は，チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）で同期化だけ行います。ノイズ・フィルタ有効時は，チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）で同期化のあと，2クロックの一致検出を行います。以下に，TImn入力端子に対するノイズ・フィルタON/OFFによるノイズ・フィルタ回路を通過後の波形を示します。

図7－41　TImn入力端子に対するノイズ・フィルタON/OFFによるサンプリング波形




注意　TImn端子の入力波形は，ノイズ・フィルタON/OFFの動作を説明するためのものであり，実際は，37.4 AC特性に示す入力ハイ・レベル幅／ロウ・レベル幅に従ってください。

### 7.7.3　チャネル入力操作時の注意事項

タイマ入力端子を使用しない設定において，ノイズ・フィルタ回路へ動作クロックは供給されません。そのため，タイマ入力端子を使用する設定をしてから，タイマ入力端子に対応するチャネルの動作許可トリガを設定するまで，以下の待ち時間が必要になります。

（1）ノイズ・フィルタOFFの場合

タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のビット12（CCSmn），ビット9（STSmn1），ビット8（STSmn0）がすべて0の状態から，いずれかのビットをセットした場合は，動作クロック（$f_{MCK}$）の2サイクル以上経過してから，タイマ・チャネル開始レジスタ（TSm）の動作許可トリガをセットしてください。

（2）ノイズ・フィルタONの場合

タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のビット12（CCSmn），ビット9（STSmn1），ビット8（STSmn0）がすべて0の状態から，いずれかのビットをセットした場合は，動作クロック（$f_{MCK}$）の4サイクル以上経過してから，タイマ・チャネル開始レジスタ（TSm）の動作許可トリガをセットしてください。

# 7.8　タイマ・アレイ・ユニットの単独チャネル動作機能

## 7.8.1　インターバル・タイマ／方形波出力としての動作

（1）インターバル・タイマ

一定間隔でINTTMmn（タイマ割り込み）を発生する基準タイマとして利用することができます。

割り込み発生周期は，次の式で求めることができます。

| INTTMmn（タイマ割り込み）の発生周期 ＝ カウント・クロックの周期×（TDRmnの設定値＋1） |
|---|

（2）方形波出力としての動作

TOmnは，INTTMmn発生と同時にトグル動作を行い，デューティ50%の方形波を出力します。

TOmn出力波形の周期と周波数は，次の式で求めることができます。

| ・TOmnからの出力方形波の周期 ＝ カウント・クロックの周期×（TDRmnの設定値＋1）×2 |
|---|
| ・TOmnからの出力方形波の周波数 ＝ カウント・クロックの周波数／｛（TDRmnの設定値＋1）×2｝ |

タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はインターバル・タイマ・モードでダウン・カウンタとして動作します。

タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のチャネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn, TSHm1, TSHm3）に1を設定後，最初のカウント・クロックでTCRmnレジスタはタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）の値をロードします。このときタイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のMDmn0 = 0ならば，INTTMmnを出力せず，TOmnはトグルしません。TMRmnレジスタのMDmn0 = 1ならば，INTTMmnを出力して，TOmnをトグルします。

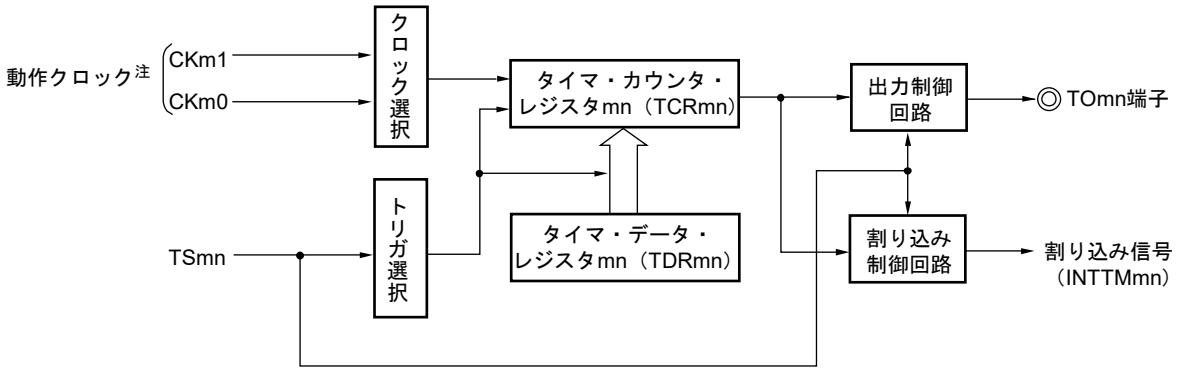
その後，TCRmnレジスタはカウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行います。

TCRmn = 0000Hとなったら，次のカウント・クロックでINTTMmnを出力しTOmnをトグルします。また，同タイミングで再びTCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードします。以降，同様の動作を継続します。

TDRmnレジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。書き換えたTDRmnレジスタの値は，次の周期から有効となります。

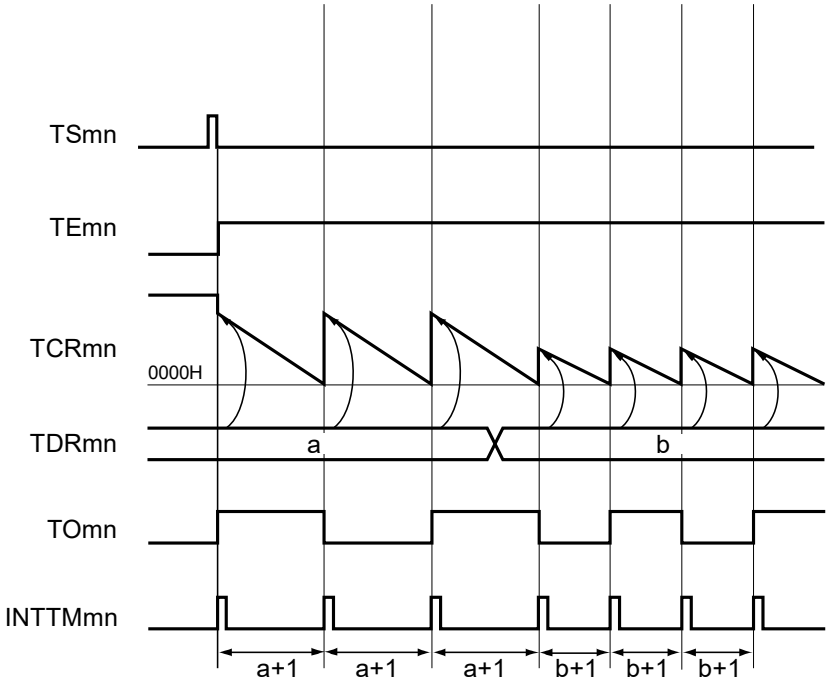
備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－42　インターバル・タイマ／方形波出力としての動作のブロック図




注　チャネル1, 3の場合は，CKm0, CKm1, CKm2, CKm3からクロックを選択できます。

図7－43　インターバル・タイマ／方形波出力としての動作の基本タイミング例（MDmn0 = 1）




備考1.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

2.　TSmn　：タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のビットn

TEmn　：タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のビットn

TCRmn　：タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）

TDRmn　：タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）

TOmn　：TOmn端子出力信号

図7－44　インターバル・タイマ／方形波出力時のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn | CKSmn1 | CKSmn0 | | CCSmn | M/S注 | STSmn2 | STSmn1 | STSmn0 | CISmn1 | CISmn0 | | | MDmn3 | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 1/0 | 1/0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1/0 |

チャネルnの動作モード
000B:インターバル・タイマ

カウント開始時の動作設定
0：カウント開始時にINTTMmn発生せず，タイマ出力反転せず
1：カウント開始時にINTTMmn発生し，タイマ出力反転する

TImn端子入力のエッジ選択
00B:使用しないので00を設定

スタート・トリガ選択
000B：ソフトウエア・スタートのみを選択

MASTERmnビットの設定（チャネル2, 4, 6）
0：単独チャネル動作
SPLITmnビットの設定（チャネル1, 3）
0：16ビット・タイマ
1：8ビット・タイマ

カウント・クロック選択
0：動作クロック（$f_{MCK}$）を選択

動作クロック（$f_{MCK}$）の選択
00B：チャネルnの動作クロックにCKm0を選択
10B：チャネルnの動作クロックにCKm1を選択
01B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm2を選択（チャネル1, 3のみ選択可）
11B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm3を選択（チャネル1, 3のみ選択可）

（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOm | TOmn |
| | 1/0 |

0：TOmnより0を出力する
1：TOmnより1を出力する

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOEm | TOEmn |
| | 1/0 |

0：カウント動作によるTOmn出力動作停止
1：カウント動作によるTOmn出力動作許可

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOLm | TOLmn |
| | 0 |

0：TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）では0を設定

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOMm | TOMmn |
| | 0 |

0：マスタ・チャネル出力モードを設定

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合　：MASTERmnビット
　　TMRm1, TMRm3の場合　：SPLITmnビット
　　TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合　：0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－45　インターバル・タイマ／方形波出力機能時の操作手順（1/2）

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU初期設定 | | パワーオフ状態<br>（クロック供給停止，各レジスタへの書き込み不可） |
| | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のTAUmENビットに1を設定する → | パワーオン状態，各チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給開始，各レジスタへの書き込み可能） |
| | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）を設定する<br>CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する | |
| チャネル初期設定 | タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）を設定する（チャネルの動作モード確定）<br>タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）にインターバル（周期）値を設定する | チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給されており，多少の電力を消費する） |
| | TOmn出力を使用する場合，<br>タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）のTOMmnビットに0（マスタ・チャネル出力モード）を設定する<br>TOLmnビットに0を設定する<br>TOmnビットを設定し，TOmn出力の初期レベルを確定する → | TOmn端子はHi-Z出力状態<br>ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は，TOmn初期設定レベルが出力される。 |
| | TOEmnビットに1を設定し，TOmnの動作を許可 → | チャネルは動作停止状態なので，TOmnは変化しない |
| | ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する → | TOmn端子はTOmn設定レベルを出力 |
| 動作開始 | （TOmn出力を使用する場合で，かつ動作再開時のみTOEmnビットに1を設定する）<br>TSmn（TSHm1, TSHm3）ビットに1を設定する → | TEmn（TEHm1, TEHm3）= 1になり，カウント動作開始<br>タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はTDRmnレジスタの値をロードする。TMRmnレジスタのMDmn0ビットが1の場合は，INTTMmnを発生し，TOmnもトグル動作する。 |
| | TSmn（TSHm1, TSHm3）ビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | |
| 動作中 | TDRmnレジスタは，任意に設定値変更が可能<br>TCRmnレジスタは，常に読み出し可能<br>TSRmnレジスタは，使用しない<br>TOm, TOEmレジスタは，設定値変更可能<br>TMRmnレジスタ, TOMmn, TOLmnビットは，設定値変更禁止 | カウンタ（TCRmn）はダウン・カウント動作を行い，0000Hまでカウントしたら，再びTCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードし，カウント動作を継続する。TCRmn = 0000H検出でINTTMmnを発生し，TOmnはトグル動作する。以降，この動作を繰り返す。 |
| 動作停止 | TTmn（TTHm1, TTHm3）ビットに1を設定する → | TEmn（TEHm1, TEHmn）= 0になり，カウント動作停止<br>TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止<br>TOmn出力は初期化されず，状態保持 |
| | TTmn（TTHm1, TTHm3）ビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | |
| | TOEmnビットに0を設定し，TOmnビットに値を設定する → | TOmn端子はTOmnビットに設定したレベルを出力 |

動作再開

（備考は次ページにあります。）

図7－45　インターバル・タイマ／方形波出力機能時の操作手順（2/2）

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU<br>停止 | TOmn端子の出力レベルを保持する場合<br>ポート・レジスタに保持したい値を設定後，TOmnビットに0を設定する → | TOmn端子出力レベルはポート機能により保持される。 |
| | TOmn端子の出力レベルを保持不要の場合<br>設定不要 | |
| | PER0レジスタのTAUmENビットに0を設定する → | パワーオフ状態<br>全回路が初期化され，各チャネルのSFRも初期化される<br>（TOmnビットが0になり，TOmn端子はポート機能となる） |

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 8. 2　外部イベント・カウンタとしての動作

TImn端子入力の有効エッジ検出（外部イベント）をカウントし，規定カウント数に達したら割り込みを発生するイベント・カウンタとして利用することができます。規定カウント数は次の式で求めることができます。

規定カウント数 ＝ TDRmnの設定値＋1

タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はイベント・カウンタ・モードでダウン・カウンタとして動作します。

タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）の任意のチャネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn，TSHm1，TSHm3）に1を設定することによりTCRmnレジスタはタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）の値をロードします。

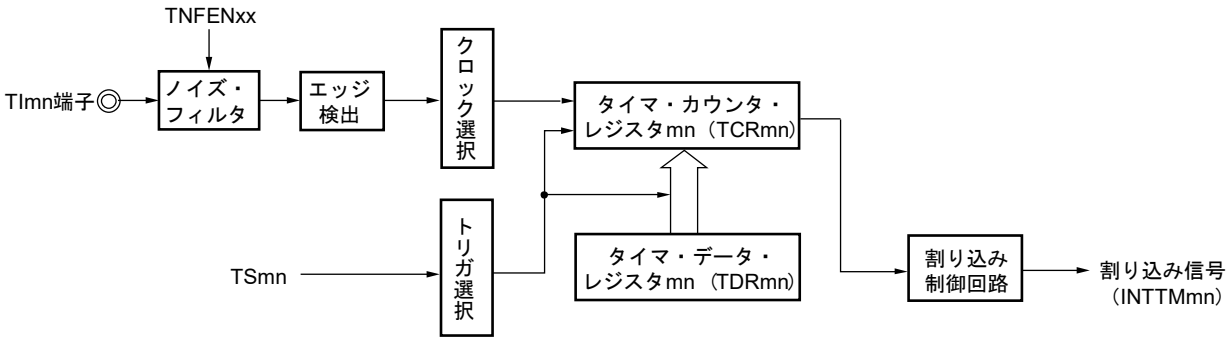
TCRmnレジスタはTImn端子入力の有効エッジ検出に合わせてダウン・カウントを行い，TCRmn = 0000Hとなったら，再びTDRmnレジスタの値をロードして，INTTMmnを出力します。

以降，同様の動作を継続します。

TOmn端子出力は外部イベントに依存した不規則な波形となるため，タイマ出力許可レジスタm（TOEm）のTOEmnビットに0を設定して出力動作を停止するようにしてください。

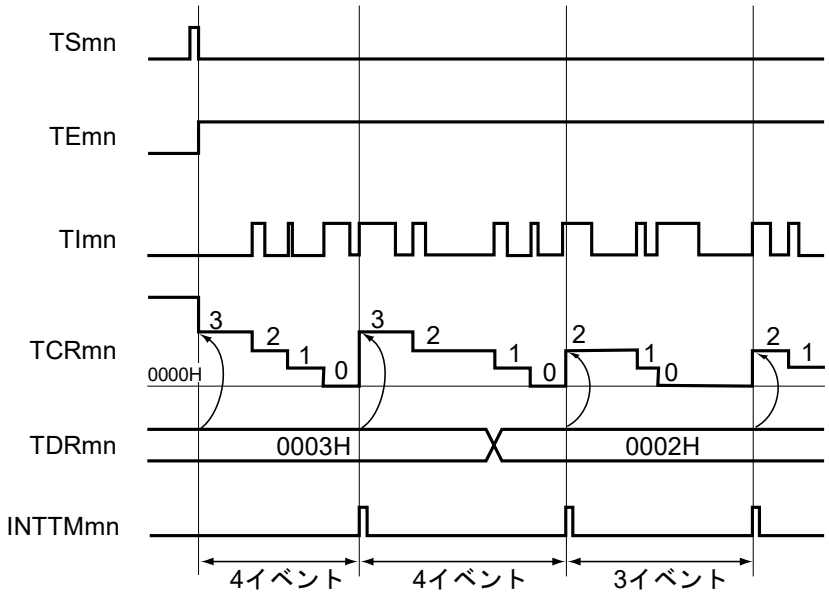
TDRmnレジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。書き換えたTDRmnレジスタの値は次のカウント期間で有効になります。

図7－46　外部イベント・カウンタとしての動作のブロック図




備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－47　外部イベント・カウンタとしての動作の基本タイミング例




備考1.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

2.　TSmn　：タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のビットn

TEmn　：タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のビットn

TImn　：TImn端子入力信号

TCRmn　：タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）

TDRmn　：タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）

図7－48　外部イベント・カウンタ・モード時のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn | CKSmn1 | CKSmn0 | | CCSmn | M/S注 | STSmn2 | STSmn1 | STSmn0 | CISmn1 | CISmn0 | | | MDmn3 | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 1/0 | 1/0 | 0 | 1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 1/0 | 1/0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |

チャネルnの動作モード
011B：イベント・カウント・モード

カウント開始時の動作設定
0：カウント開始時にINTTMmn発生せず，タイマ出力反転せず

TImn端子入力のエッジ選択
00B：立ち下がりエッジ検出
01B：立ち上がりエッジ検出
10B：両エッジ検出
11B：設定禁止

スタート・トリガ選択
000B：ソフトウエア・スタートのみを選択

MASTERmnビットの設定（チャネル2, 4, 6）
0：単独チャネル動作
SPLITmnビットの設定（チャネル1, 3）
0：16ビット・タイマ
1：8ビット・タイマ

カウント・クロック選択
1：TImn端子入力の有効エッジを選択

動作クロック（$f_{MCK}$）の選択
00B：チャネルnの動作クロックにCKm0を選択
10B：チャネルnの動作クロックにCKm1を選択
01B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm2を選択（チャネル1, 3のみ選択可）
11B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm3を選択（チャネル1, 3のみ選択可）

（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOm | TOmn |
| | 0 |

0：TOmnより0を出力する

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOEm | TOEmn |
| | 0 |

0：カウント動作によるTOmn出力動作停止

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOLm | TOLmn |
| | 0 |

0：TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）では0を設定

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOMm | TOMmn |
| | 0 |

0：マスタ・チャネル出力モードを設定

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合　：MASTERmnビット
　　TMRm1, TMRm3の場合　：SPLITmnビット
　　TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合　：0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－49　外部イベント・カウンタ機能時の操作手順

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU初期設定 | | パワーオフ状態<br>（クロック供給停止，各レジスタへの書き込み不可） |
| | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のTAUmENビットに1を設定する → | パワーオン状態，各チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給開始，各レジスタへの書き込み可能） |
| | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）を設定する<br>CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する | |
| チャネル初期設定 | ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）の対応するビットに0（オフ），1（オン）を設定する<br>タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）を設定する（チャネルの動作モード確定）<br>タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）にカウント数を設定する<br>タイマ出力許可レジスタm（TOEm）のTOEmnビットに0を設定する | チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給されており，多少の電力を消費する） |
| 動作開始 | TSmnビットに1を設定する →<br>TSmnビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 1になり，カウント動作開始<br>タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はTDRmnレジスタの値をロードし，TImn端子入力のエッジ検出待ち状態になる |
| 動作中 | TDRmnレジスタは，任意に設定値変更が可能<br>TCRmnレジスタは，常に読み出し可能<br>TSRmnレジスタは，使用しない<br>TMRmnレジスタ，TOMmn，TOLmn，TOmn，TOEmnビットは，設定値変更禁止 | TImn端子入力のエッジが検出されるごとに，カウンタ（TCRmn）はダウン・カウント動作を行う。0000Hまでカウントしたら，再びTCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードし，カウント動作を継続する。TCRmn = 0000H検出でINTTMmn出力を発生する。<br>以降，この動作を繰り返す。 |
| 動作停止 | TTmnビットに1を設定する →<br>TTmnビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 0になり，カウント動作停止<br>TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止 |
| TAU停止 | PER0レジスタのTAUmENビットに0を設定する → | パワーオフ状態<br>全回路が初期化され，各チャネルのSFRも初期化される |

動作再開

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 8. 3　入力パルス間隔測定としての動作

TImn有効エッジでカウント値をキャプチャし，TImn入力パルスの間隔を測定することができます。また，TEmn = 1の期間中に，ソフトウェア操作（TSmn = 1）をキャプチャ・トリガにして，カウント値をキャプチャすることもできます。

パルス間隔は次の式で求めることができます。

| |
|---|
| TImn入力パルス間隔 =<br>カウント・クロックの周期×（（10000H×TSRmn:OVF）＋（TDRmnのキャプチャ値＋1）） |

注意　TImn端子入力は，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のCKSmnビットで選択した動作クロックでサンプリングされるため，動作クロックの1クロック分の誤差が発生します。

タイマ・カウンタ･レジスタmn（TCRmn）はキャプチャ・モードでアップ・カウンタとして動作します。

タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のチャネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn）に1を設定するとTCRmnレジスタはカウント・クロックに合わせて0000Hからアップ・カウントを開始します。

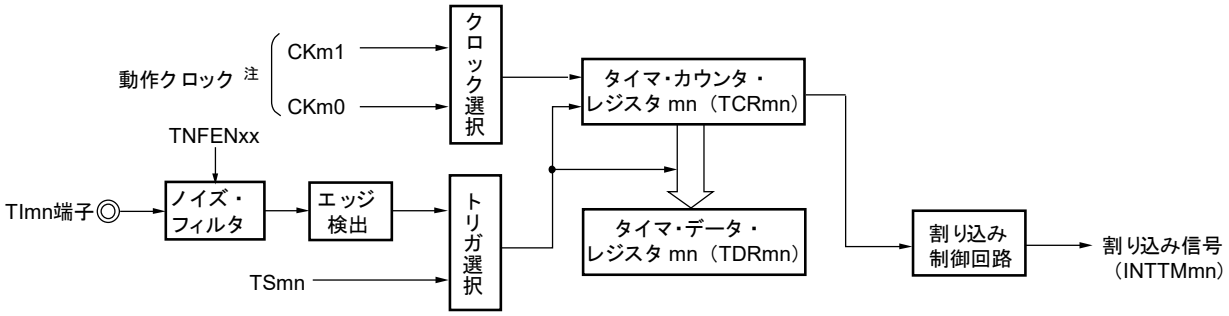
TImn端子入力の有効エッジを検出すると，TCRmnレジスタのカウント値をタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）に転送（キャプチャ）すると同時に，TCRmnレジスタを0000Hにクリアして，INTTMmnを出力します。このとき，カウンタのオーバフローが発生していたら，タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）のOVFビットが1にセットされ，オーバフローが発生していなかったらOVFビットはクリアされます。以降，同様の動作を継続します。

カウント値がTDRmnレジスタにキャプチャされると同時に，測定期間のオーバフロー有無に応じて，TSRmnレジスタのOVFビットが更新され，キャプチャ値のオーバフロー状態を確認できます。

カウンタが2周期以上フルカウントした場合もオーバフロー発生とみなされ，TSRmnレジスタのOVFビットがセット（1）されます。しかし，OVFビットは，2回以上のオーバフローが発生した場合は正常な間隔値を測定できません。

TMRmnレジスタのSTSmn2-STSmn0 = 001Bに設定して，TImn有効エッジをスタート・トリガとキャプチャ・トリガに利用します。

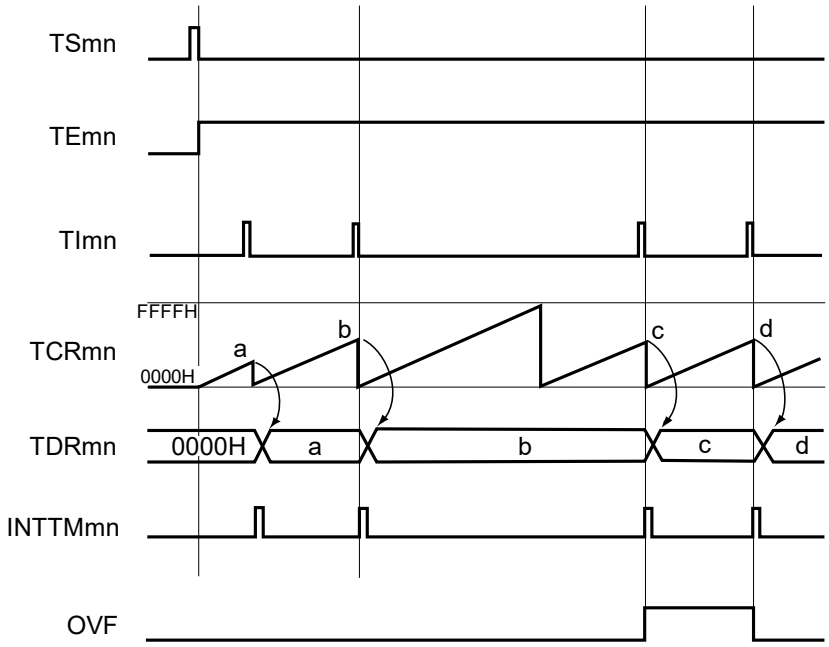
図7－50　入力パルス間隔測定としての動作のブロック図




注　チャネル1, 3の場合は，CKm0, CKm1, CKm2, CKm3からクロックを選択できます。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－51　入力パルス間隔測定としての動作の基本タイミング例（MDmn0 = 0）




備考1.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

2.　TSmn　：タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のビットn

TEmn　：タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のビットn

TImn　：TImn端子入力信号

TCRmn　：タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）

TDRmn　：タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）

OVF　：タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）のビット0

図7－52　入力パルス間隔測定時のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn | CKSmn1 | CKSmn0 | | CCSmn | M/S注 | STSmn2 | STSmn1 | STSmn0 | CISmn1 | CISmn0 | | | MDmn3 | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 1/0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1/0 | 1/0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1/0 |

チャネルnの動作モード
010B：キャプチャ・モード

カウント開始時の動作設定
0：カウント開始時にINTTMmn発生しない
1：カウント開始時にINTTMmn発生する

TImn端子入力のエッジ選択
00B：立ち下がりエッジ検出
01B：立ち上がりエッジ検出
10B：両エッジ検出
11B：設定禁止

キャプチャ・トリガ選択
001B：TImn端子入力の有効エッジを選択

MASTERmnビットの設定（チャネル2, 4, 6）
0：単独チャネル動作
SPLITmnビットの設定（チャネル1, 3）
0：16ビット・タイマ

カウント・クロック選択
0：動作クロック（$f_{MCK}$）を選択

動作クロック（$f_{MCK}$）の選択
00B：チャネルnの動作クロックにCKm0を選択
10B：チャネルnの動作クロックにCKm1を選択
01B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm2を選択（チャネル1, 3のみ選択可）
11B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm3を選択（チャネル1, 3のみ選択可）

（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOm | TOmn |
| | 0 |

0：TOmnより0を出力する

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOEm | TOEmn |
| | 0 |

0：カウント動作によるTOmn出力動作停止

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOLm | TOLmn |
| | 0 |

0：TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）では0を設定

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOMm | TOMmn |
| | 0 |

0：マスタ・チャネル出力モードを設定

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合　：MASTERmnビット
　　TMRm1, TMRm3の場合　：SPLITmnビット
　　TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合　：0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－53　入力パルス間隔測定機能時の操作手順

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU初期設定 | | パワーオフ状態<br>（クロック供給停止，各レジスタへの書き込み不可） |
| | 周辺イネーブル・レジスタmのTAUmENビットに1を設定する → | パワーオン状態，各チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給開始，各レジスタへの書き込み可能） |
| | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）を設定する<br>CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する | |
| チャネル初期設定 | ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）の対応するビットに0（オフ），1（オン）を設定する<br>タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）を設定する（チャネルの動作モード確定） | チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給されており，多少の電力を消費する） |
| 動作開始 | TSmnビットに1を設定する →<br>TSmnビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 1になり，カウント動作開始<br>タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）を0000Hにクリアする。TMRmnレジスタのMDmn0ビットが1の場合は，INTTMmnを発生する。 |
| 動作中 | TMRmnレジスタは，CISmn1，CISmn0ビットのみ設定値変更可能<br>TDRmnレジスタは，常に読み出し可能<br>TCRmnレジスタは，常に読み出し可能<br>TSRmnレジスタは，常に読み出し可能<br>TOMmn, TOLmn, TOmn, TOEmnビットは，設定値変更禁止 | カウンタ（TCRmn）は0000Hからアップ・カウント動作を行い，TImn端子入力の有効エッジが検出または，TSmnビットに１を設定すると，カウント値をタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）に転送（キャプチャ）する。同時に，TCRmnレジスタを0000Hにクリアし，INTTMmnを発生する。<br>このときオーバフローが発生していたら，タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）のOVFビットがセットされ，オーバフローが発生していなかったらOVFビットがクリアされる。<br>以降，この動作を繰り返す。 |
| 動作停止 | TTmnビットに1を設定する →<br>TTmnビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 0になり，カウント動作停止<br>TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止<br>TSRmnレジスタのOVFビットも保持 |
| TAU停止 | PER0レジスタのTAUmENビットに0を設定する → | パワーオフ状態<br>全回路が初期化され，各チャネルのSFRも初期化される |

動作再開

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7.8.4　入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定としての動作

注意　LIN-bus対応機能として使用する場合は，入力切り替え制御レジスタ（ISC）のビット1（ISC1）を1に設定してください。また，以降の説明では「TImn」を「RxD0」と読み替えてください。

TImn端子入力の片方のエッジでカウントをスタートし，もう片方のエッジでカウント数をキャプチャすることで，TImnの信号幅（ハイ・レベル幅／ロウ・レベル幅）を測定することができます。TImnの信号幅は次の式で求めることができます。

TImn入力の信号幅 =
カウント・クロックの周期×（（10000H×TSRmn:OVF）＋（TDRmnのキャプチャ値＋1））

注意　TImn端子入力は，タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のCKSmnビットで選択した動作クロックでサンプリングされるため，動作クロックの1クロック分の誤差が発生します。

タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はキャプチャ&ワンカウント・モードでアップ・カウンタとして動作します。

タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のチャネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn）に1を設定すると，TEmn = 1となりTImn端子のスタート・エッジ検出待ち状態となります。

TImn端子入力のスタート・エッジ（ハイ・レベル幅測定ならTImn端子入力の立ち上がりエッジ）を検出すると，カウント・クロックに合わせて0000Hからアップ・カウントを行います。その後，キャプチャ有効エッジ（ハイ・レベル幅測定ならTImn端子入力の立ち下がりエッジ）を検出すると，カウンタ値をタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）に転送すると同時にINTTMmnを出力します。このとき，カウンタのオーバフローが発生していたら，タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）のOVFビットがセットされ，オーバフローが発生していなかったらOVFビットはクリアされます。TCRmnレジスタは，「TDRmnレジスタに転送した値＋1」の値で停止し，TImn端子のスタート・エッジ検出待ち状態となります。以降同様の動作を継続します。

カウンタ値がTDRmnレジスタにキャプチャされると同時に，測定期間のオーバフロー有無に応じて，TSRmnレジスタのOVFビットが更新され，キャプチャ値のオーバフロー状態を確認できます。

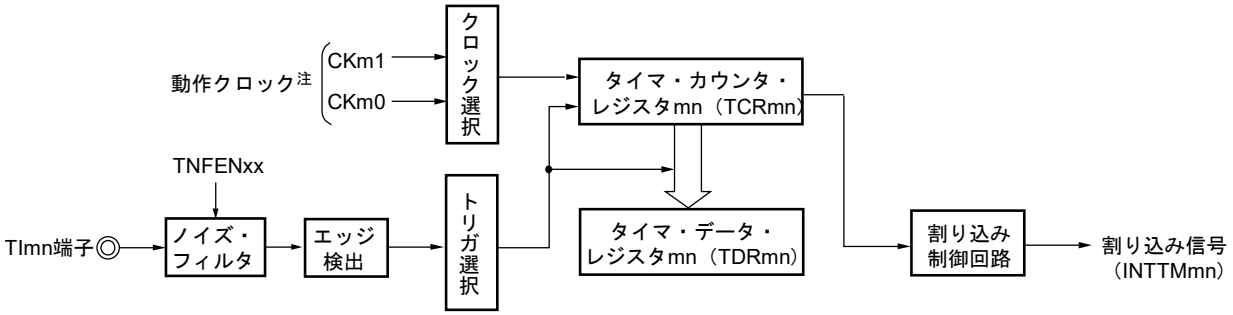
カウンタが2周期以上フルカウントした場合もオーバフロー発生とみなされ，TSRmnレジスタのOVFビットがセット（1）されます。しかし，OVFビットは，2回以上のオーバフローが発生した場合は正常な間隔値を測定できません。

TImn端子入力のハイ・レベル幅を測定するか，ロウ・レベル幅を測定するかは，TMRmnレジスタのCISmn1, CISmn0ビットにて設定することができます。

この機能は，TImn端子入力の信号幅測定を目的とするため，TEmn = 1期間中のTSmnビットのセット（1）は使用できません。

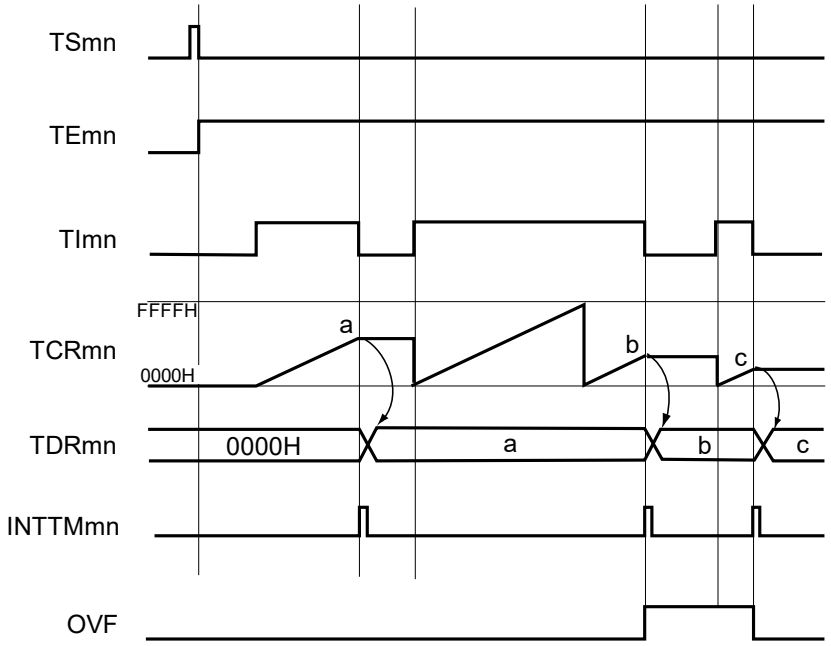
TMRmnレジスタのCISmn1, CISmn0 = 10B：ロウ・レベル幅を測定する
TMRmnレジスタのCISmn1, CISmn0 = 11B：ハイ・レベル幅を測定する

図7－54　入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定としての動作のブロック図




注　チャネル1, 3の場合は，CKm0, CKm1, CKm2, CKm3からクロックを選択できます。

図7－55　入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定としての動作の基本タイミング例




備考1.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

2.　TSmn　：タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のビットn

TEmn　：タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のビットn

TImn　：TImn端子入力信号

TCRmn　：タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）

TDRmn　：タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）

OVF　：タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）のビット0

図7－56　入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定時のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn | CKSmn1 | CKSmn0 | | CCSn0 | M/S注 | STSmn2 | STSmn1 | STSmn0 | CISmn1 | CISmn0 | | | MDmn3 | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 1/0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1/0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |

チャネルnの動作モード
110B：キャプチャ＆ワンカウント

カウント開始時の動作設定
0：カウント開始時にINTTMmn
発生しない

TImn端子入力のエッジ選択
10B：両エッジ選択（ロウ幅測定）
11B：両エッジ選択（ハイ幅測定）

スタート・トリガ選択
010B：TImn端子入力の有効エッジを選択

MASTERmnビットの設定（チャネル2, 4, 6）
0：単独チャネル動作
SPLITmnビットの設定（チャネル1, 3）
0：16ビット・タイマ

カウント・クロック選択
0：動作クロック（$f_{MCK}$）を選択

動作クロック（$f_{MCK}$）の選択
00B：チャネルnの動作クロックにCKm0を選択
10B：チャネルnの動作クロックにCKm1を選択
01B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm2を選択（チャネル1, 3のみ選択可）
11B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm3を選択（チャネル1, 3のみ選択可）

（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOm | TOmn |
| | 0 |

0：TOmnより0を出力する

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOEm | TOEmn |
| | 0 |

0：カウント動作によるTOmn出力動作停止

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOLm | TOLmn |
| | 0 |

0：TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）では0を設定

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOMm | TOMmn |
| | 0 |

0：マスタ・チャネル出力モードを設定

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合　：MASTERmnビット
　　TMRm1, TMRm3の場合　：SPLITmnビット
　　TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合　：0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－57　入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定機能時の操作手順

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU初期設定 | | パワーオフ状態<br>（クロック供給停止，各レジスタへの書き込み不可） |
| | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のTAUmENビットに1を設定する → | パワーオン状態，各チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給開始，各レジスタへの書き込み可能） |
| | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）を設定する<br>CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する | |
| チャネル初期設定 | ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）の対応するビットに0（オフ），1（オン）を設定する<br>タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）を設定する（チャネルの動作モード確定）<br>TOEmnビットに0を設定し，TOmnの動作を停止 | チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給されており，多少の電力を消費する） |
| 動作開始 | TSmnビットに1を設定する →<br>TSmnビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 1になり，TImn端子のスタート・エッジ検出待ち状態になる |
| | TImn端子入力のカウント・スタート・エッジ検出 → | タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）を0000Hにクリアし，カウント・アップ動作を開始する |
| 動作中 | TDRmnレジスタは，任意に設定値変更が可能<br>TCRmnレジスタは，常に読み出し可能<br>TSRmnレジスタは，使用しない<br>TMRmnレジスタ，TOMmn，TOLmn，TOmn，TOEmnビットは，設定値変更禁止 | TImn端子のスタート・エッジ検出後，カウンタ（TCRmn）は0000Hからアップ・カウント動作を行う。TImn端子のキャプチャ・エッジが検出されたら，カウント値をタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）に転送し，INTTMmnを発生する。<br>このときオーバフローが発生していたら，タイマ・ステータス・レジスタmn（TSRmn）のOVFビットがセットされ，オーバフローが発生していなかったらOVFビットがクリアされる。TCRmnレジスタは，次のTImn端子のスタート・エッジ検出までカウント動作を停止する。<br>以降，この動作を繰り返す。 |
| 動作停止 | TTmnビットに1を設定する →<br>TTmnビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 0になり，カウント動作停止<br>TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止<br>TSRmnレジスタのOVFビットも保持 |
| TAU停止 | PER0レジスタのTAUmENビットに0を設定する → | パワーオフ状態<br>全回路が初期化され，各チャネルのSFRも初期化される |

動作再開

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

### 7. 8. 5　ディレイ・カウンタとしての動作

TImn端子入力の有効エッジ検出（外部イベント）でダウン・カウントをスタートし，任意の設定間隔でINTTMmn（タイマ割り込み）を発生することができます。

また，TEmn = 1の期間中に，ソフトウエア操作でTSmn = 1に設定することで，ダウン・カウントをスタートし，任意の設定間隔でINTTMmn（タイマ割り込み）を発生することもできます。

割り込み発生周期は，次の式で求める事ができます。

| INTTMmn（タイマ割り込み）の発生周期 ＝ カウント・クロックの周期×（TDRmnの設定値＋1） |
|---|

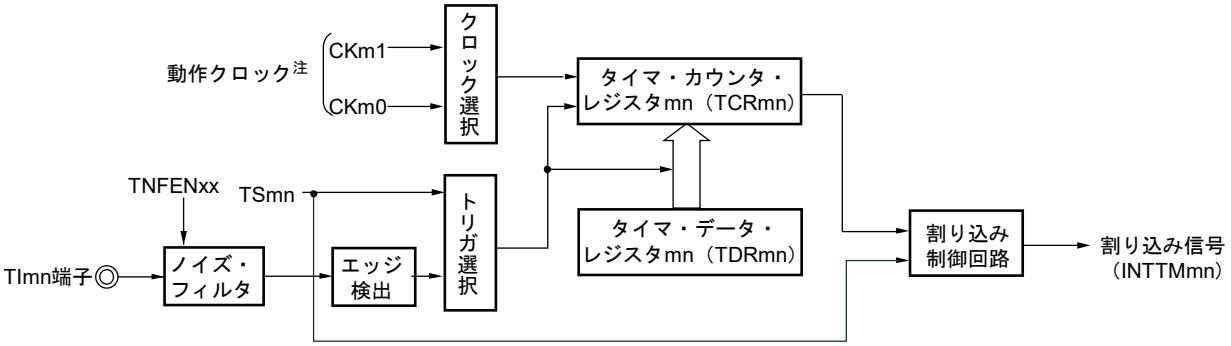
タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はワンカウント・モードでダウン・カウンタとして動作します。

タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のチャネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn, TSHm1, TSHm3）に1を設定すると，TEmn, TEHm1, TEHm3 = 1となりTImn端子の有効エッジ検出待ち状態となります。

TCRmnレジスタは，TImn端子入力の有効エッジ検出により動作を開始し，タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）から値をロードします。TCRmnレジスタはロードしたTDRmnレジスタの値からカウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行い，TCRmn = 0000Hとなったら INTTMmnを出力し，次のTImn端子入力の有効エッジがあるまで，カウントを停止します。

TDRmnレジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。書き換えたTDRmnレジスタの値は，次の周期から有効となります。

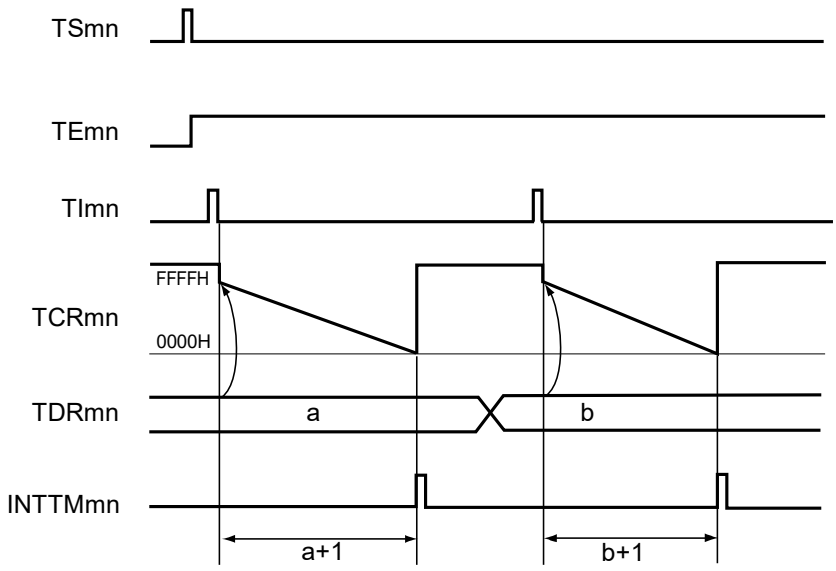
図7－58　ディレイ・カウンタとしての動作のブロック図




注　チャネル1, 3の場合は，CKm0, CKm1, CKm2, CKm3からクロックを選択できます。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－59　ディレイ・カウンタとしての動作の基本タイミング例




備考1.　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

2.　TSmn　：タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のビットn

TEmn　：タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のビットn

TImn　：TImn端子入力信号

TCRmn：タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）

TDRmn：タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）

図7－60　ディレイ・カウンタ機能時のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn | CKSmn1 | CKSmn0 | | CCSmn | M/S注 | STSmn2 | STSmn1 | STSmn0 | CISmn1 | CISmn0 | | | MDmn3 | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 1/0 | 1/0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0 | 1 | 1/0 | 1/0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1/0 |

チャネルnの動作モード
100B:ワンカウント・モード

動作中のスタート・トリガ
0：トリガ入力は無効
1：トリガ入力は有効

TImn端子入力のエッジ選択
00B：立ち下がりエッジ検出
01B：立ち上がりエッジ検出
10B：両エッジ検出
11B：設定禁止

スタート・トリガ選択
001B：TImn端子入力の有効エッジを選択

MASTERmnビットの設定（チャネル2, 4, 6）
0：単独チャネル動作
SPLITmnビットの設定（チャネル1, 3）
0：16ビット・タイマ
1：8ビット・タイマ

カウント・クロック選択
0：動作クロック（$f_{MCK}$）を選択

動作クロック（$f_{MCK}$）の選択
00B：チャネルnの動作クロックにCKm0を選択
10B：チャネルnの動作クロックにCKm1を選択
01B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm2を選択（チャネル1, 3のみ選択可）
11B：チャネル1, 3の動作クロックにCKm3を選択（チャネル1, 3のみ選択可）

（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOm | TOmn |
| | 0 |

0：TOmnより0を出力する

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOEm | TOEmn |
| | 0 |

0：カウント動作によるTOmn出力動作停止

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOLm | TOLmn |
| | 0 |

0：TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）では0を設定

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOMm | TOMmn |
| | 0 |

0：マスタ・チャネル出力モードを設定

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合　：MASTERmnビット
　　TMRm1, TMRm3の場合　：SPLITmnビット
　　TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合　：0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図7－61　ディレイ・カウンタ機能時の操作手順

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU初期設定 | | パワーオフ状態<br>（クロック供給停止，各レジスタへの書き込み不可） |
| | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のTAUmENビットに1を設定する → | パワーオン状態，各チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給開始，各レジスタへの書き込み可能） |
| | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）を設定する<br>CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する | |
| チャネル初期設定 | ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）の対応するビットに0（オフ），1（オン）を設定する<br>タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）を設定する（チャネルnの動作モード確定）<br>タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）に遅延時間を設定する<br>TOEmnビットに0を設定し，TOmnの動作を停止 | チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給されており，多少の電力を消費する） |
| 動作開始 | TSmnビットに1を設定する →<br>TSmnビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 1になり，スタート・トリガ検出（TImn端子入力の有効エッジの検出，またはTSmnビットに1を設定）待ち状態となる |
| | 次のスタート・トリガ検出によって，ダウン・カウントを開始します。 →<br>・TImn端子入力の有効エッジ検出<br>・ソフトウェアでTSmnビットに1を設定 | タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はTDRmnレジスタの値をロードする。 |
| 動作中 | TDRmnレジスタは，任意に設定値変更が可能<br>TCRmnレジスタは，常に読み出し可能<br>TSRmnレジスタは，使用しない | カウンタ（TCRmn）はダウン・カウント動作を行う。TCRmn = 0000HまでカウントしたらINTTMmn出力を発生し，次のスタート・トリガ検出（TImn端子入力の有効エッジの検出，またはTSmnビットに1を設定）までTCRmn = 0000Hでカウント動作を停止する。 |
| 動作停止 | TTmnビットに1を設定する →<br>TTmnビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 0になり，カウント動作停止<br>TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止 |
| TAU停止 | PER0レジスタのTAUmENビットに0を設定する → | パワーオフ状態<br>全回路が初期化され，各チャネルのSFRも初期化される |

動作再開

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

# 7.9　タイマ・アレイ・ユニットの複数チャネル連動動作機能

## 7.9.1　ワンショット・パルス出力機能としての動作

2チャネルをセットで使用して，TImn端子入力により任意のディレイ・パルス幅を持ったワンショット・パルスを生成することができます。

ディレイとパルス幅は次の式で求めることができます。

| |
|---|
| ディレイ ＝｛TDRmn（マスタ）の設定値＋2｝×カウント・クロック周期 |
| パルス幅 ＝｛TDRmp（スレーブ）の設定値｝×カウント・クロック周期 |

マスタ・チャネルは，ワンカウント・モードで動作し，ディレイをカウントします。マスタ・チャネルのタイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，スタート・トリガ検出により動作を開始し，タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）から値をロードします。TCRmnレジスタはロードしたTDRmnレジスタの値からカウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行い，TCRmn = 0000HとなったらINTTMmnを出力し，次のスタート・トリガ検出があるまで，カウントを停止します。

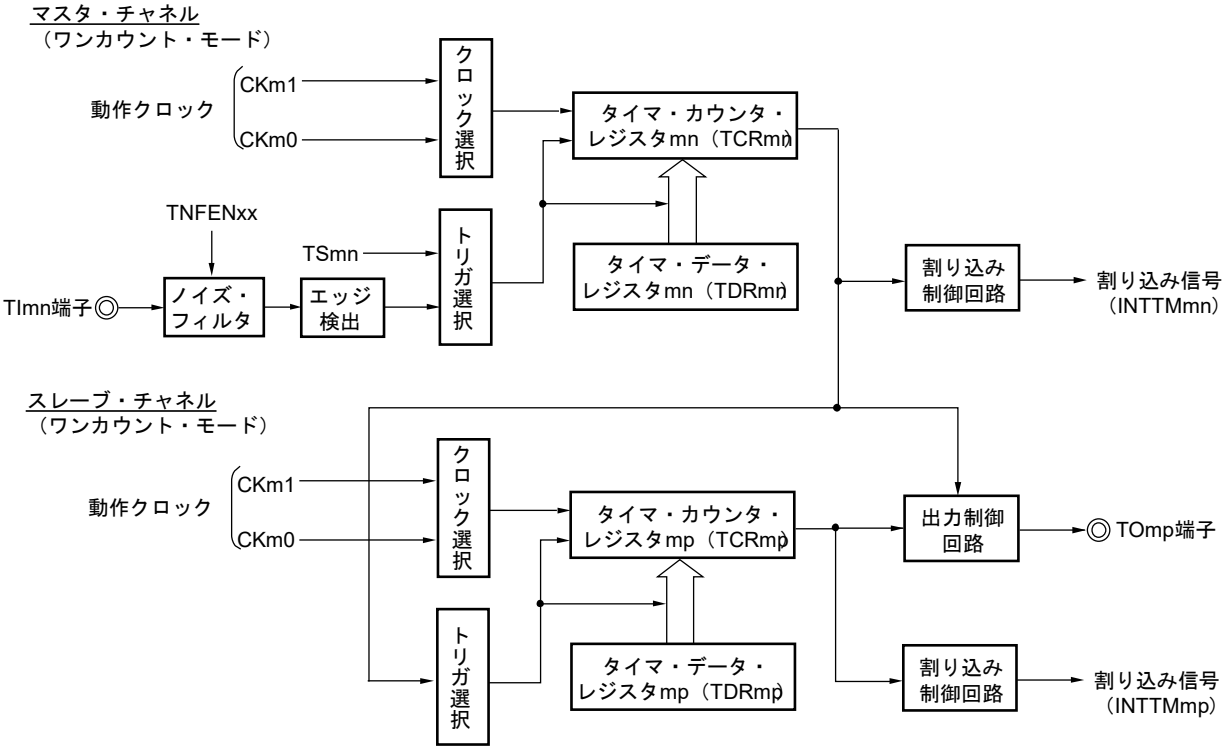
スレーブ・チャネルは，ワンカウント・モードで動作し，パルス幅をカウントします。スレーブ・チャネルのTCRmpレジスタは，マスタ・チャネルのINTTMmnをスタート・トリガとして動作を開始し，TDRmpレジスタから値をロードします。TCRmpレジスタはロードした値からカウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行います。そしてカウンタ値 = 0000Hとなったら INTTMmpを出力して，次のスタート・トリガ（マスタ・チャネルのINTTMmn）検出があるまで，カウントを停止します。TOmpの出力レベルは，マスタ・チャネルのINTTMmn発生から1カウント・クロック経過後にアクティブ・レベルとなり，TCRmp = 0000Hとなったらインアクティブ・レベルとなります。

ワンショット・パルス出力は，TImn端子入力を使用せず，ソフトウエア操作（TSmn = 1）をスタート・トリガにすることもできます。

注意　マスタ・チャネルのタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）とスレーブ・チャネルのTDRmpレジスタでは，ロード・タイミングが異なるため，カウント動作中にTDRmnレジスタ，TDRmpレジスタを書き換えると不正波形が出力される場合があります。TDRmnレジスタはINTTMmn発生後に，TDRmpレジスタはINTTMmp発生後に書き換えてください。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）
　　p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

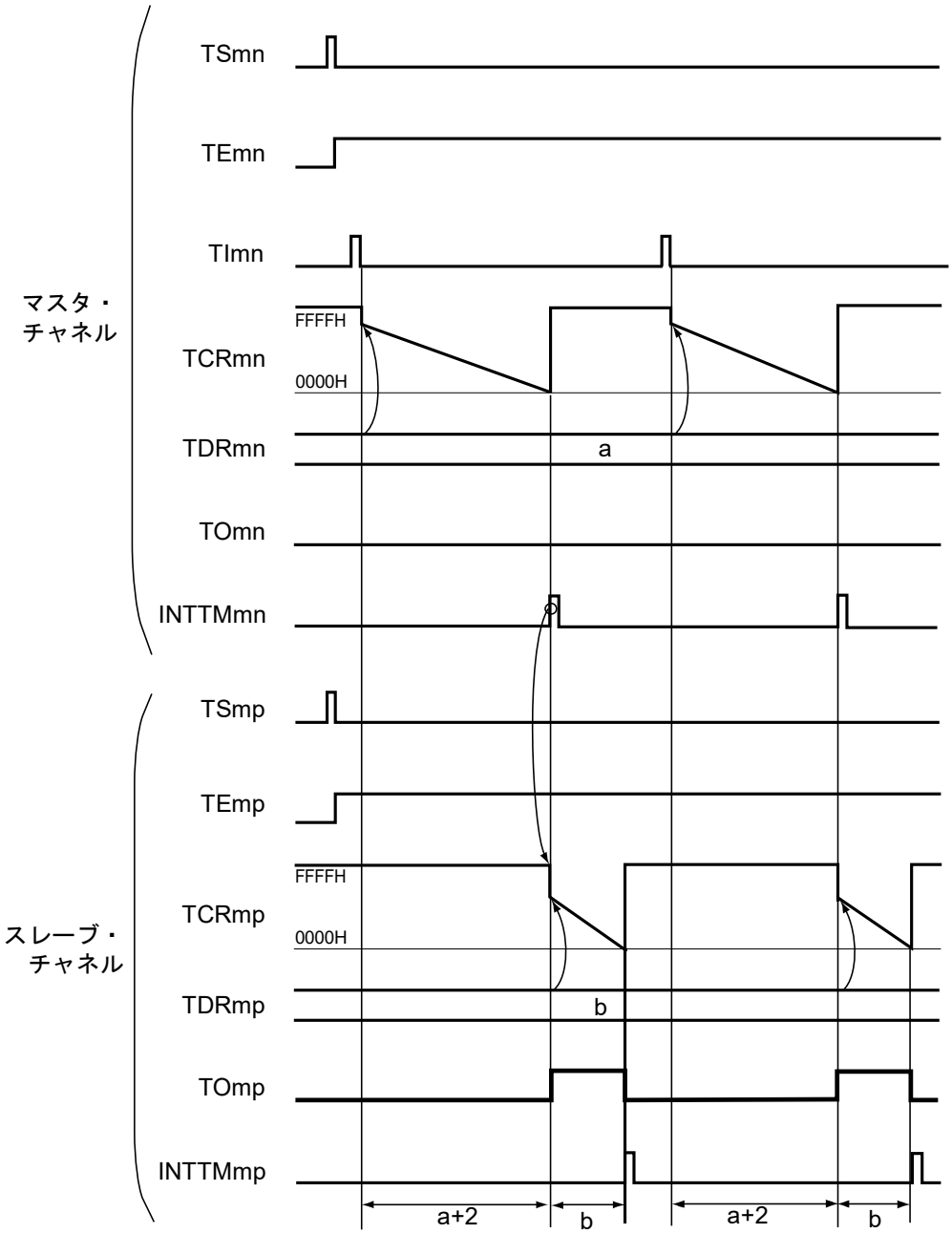
図7－62　ワンショット・パルス出力機能としての動作のブロック図




備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）

p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

図7－63　ワンショット・パルス出力機能としての動作の基本タイミング例




備考1.　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）

p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

2.　TSmn, TSmp　：タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のビットn, p

TEmn, TEmp　：タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のビットn, p

TImn, TImp　：TImn, TImp端子入力信号

TCRmn, TCRmp：タイマ・カウンタ・レジスタmn, mp（TCRmn, TCRmp）

TDRmn, TDRmp：タイマ・データ・レジスタmn, mp（TDRmn, TDRmp）

TOmn, TOmp　：TOmn, TOmp端子出力信号

図7－64　ワンショット・パルス出力機能時（マスタ・チャネル）のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn | CKSmn1 | CKSmn0 | | CCSmn | MASTERmn注 | STSmn2 | STSmn1 | STSmn0 | CISmn1 | CISmn0 | | | MDmn3 | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 1/0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1/0 | 1/0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |

チャネルnの動作モード
100B：ワンカウント・モード

動作中のスタート・トリガ
0：トリガ入力は無効

TImn端子入力のエッジ選択
00B：立ち下がりエッジ検出
01B：立ち上がりエッジ検出
10B：両エッジ検出
11B：設定禁止

スタート・トリガ選択
001B：TImn入力の有効エッジを選択

MASTERmnビットの設定（チャネル2, 4, 6）
1：マスタ・チャネル

カウント・クロック選択
0：動作クロック（$f_{MCK}$）を選択

動作クロック（$f_{MCK}$）の選択
00B：チャネルnの動作クロックにCKm0を選択
10B：チャネルnの動作クロックにCKm1を選択

（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOm | TOmn |
| | 0 |

0：TOmnより0を出力する

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOEm | TOEmn |
| | 0 |

0：カウント動作によるTOmn出力動作停止

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOLm | TOLmn |
| | 0 |

0：TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）では0を設定

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOMm | TOMmn |
| | 0 |

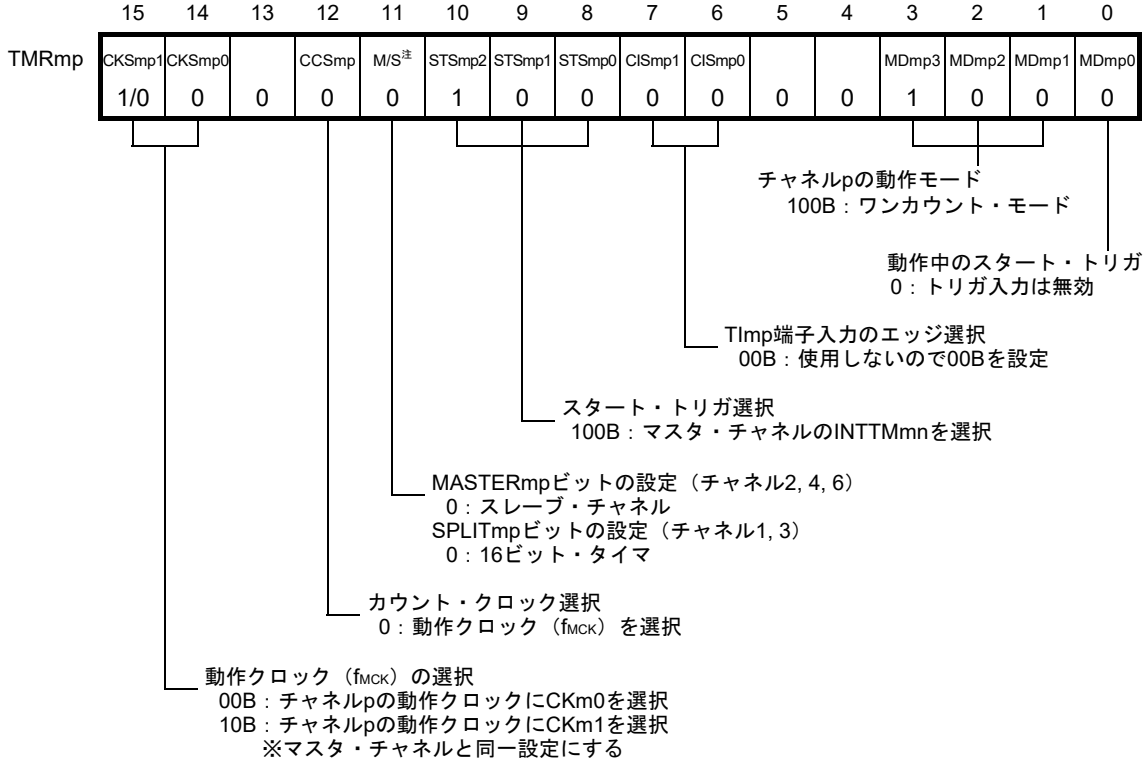
0：マスタ・チャネル出力モードを設定

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合：　MASTERmn = 1
　　TMRm0の場合：　0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）

図7－65　ワンショット・パルス出力機能時（スレーブ・チャネル）のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmp（TMRmp）




（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットp | |
|---|---|---|
| TOm | TOmp<br>1/0 | 0：TOmpより0を出力する<br>1：TOmpより1を出力する |

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットp | |
|---|---|---|
| TOEm | TOEmp<br>1/0 | 0：カウント動作によるTOmp出力動作停止<br>1：カウント動作によるTOmp出力動作許可 |

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットp | |
|---|---|---|
| TOLm | TOLmp<br>1/0 | 0：正論理出力（アクティブ・ハイ）<br>1：負論理出力（アクティブ・ロウ） |

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットp | |
|---|---|---|
| TOMm | TOMmp<br>1 | 1：スレーブ・チャネル出力モードを設定 |

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合　：MASTERmnビット
　　TMRm1, TMRm3の場合　　：SPLITmpビット
　　TMRm5, TMRm7　　：0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）
　　p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

図7－66　ワンショット・パルス出力機能時の操作手順（1/2）

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU初期設定 | | パワーオフ状態<br>（クロック供給停止，各レジスタへの書き込み不可） |
| | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のTAUmENビットに1を設定する → | パワーオン状態，各チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給開始，各レジスタへの書き込み可能） |
| | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）を設定する<br>CKm0とCKm1のクロック周波数を確定する | |
| チャネル初期設定 | ノイズ・フィルタ許可レジスタ1（NFEN1）の対応するビットに1を設定する<br>使用する2チャネルのタイマ・モード・レジスタmn，mp（TMRmn, TMRmp）を設定する（チャネルの動作モード確定）<br>マスタ・チャネルのタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）に出力遅延時間，スレーブ・チャネルのTDRmpレジスタにパルス幅を設定する | チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給されており，多少の電力を消費する） |
| | スレーブ・チャネルの設定<br>タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）のTOMmpビットに1（スレーブ・チャネル出力モード）を設定する<br>TOLmpビットを設定する<br>TOmpビットを設定し，TOmp出力の初期レベルを確定する → | TOmp端子はHi-Z出力状態<br>ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は，TOmp初期設定レベルが出力される。 |
| | TOEmpビットに1を設定し，TOmpの動作を許可 → | チャネルは動作停止状態なので，TOmpは変化しない |
| | ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する → | TOmp端子はTOmp設定レベルを出力 |

（注，備考は次ページにあります。）

図7－66　ワンショット・パルス出力機能時の操作手順（2/2）

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| 動作開始 | TOEmp（スレーブ）ビットに1を設定する（動作再開時のみ）<br>タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のTSmn（マスタ），TSmp（スレーブ）ビットに同時に1を設定する<br>TSmn，TSmpビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 1, TEmp = 1となり，マスタ・チャネルはスタート・トリガ検出（TImn端子入力の有効エッジの検出，またはマスタ・チャネルのTSmnビットに1を設定）待ち状態となる<br>カウンタはまだ停止状態のまま |
| | マスタ・チャネルのスタート・トリガ検出によって，マスタ・チャネルのカウント動作を開始します。<br>・TImn端子入力の有効エッジ検出<br>・ソフトウェアでマスタ・チャネルのTSmnビットに1を設定注<br><br>注　スレーブ・チャネルのTSmnビットには1を設定しないでください | マスタ・チャネルがカウント動作開始 |
| 動作中 | TMRmnレジスタは，CISmn1, CISmn0ビットのみ設定値変更可能<br>TMRmp，TDRmn，TDRmpレジスタ，TOMmn，TOMmp，TOLmn, TOLmpビットは，設定値変更禁止<br>TCRmn, TCRmpレジスタは，常に読み出し可能<br>TSRmn, TSRmpレジスタは，使用しない<br>スレーブ・チャネルのTOm，TOEmレジスタは，設定値変更可能 | マスタ・チャネルでは，スタート・トリガ検出（TImn端子入力の有効エッジの検出，またはマスタ・チャネルのTSmnビットに1を設定）により，タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はTDRmnレジスタの値をロードし，ダウン・カウント動作を行う。TCRmn = 0000Hまでカウントしたら INTTMmn出力を発生し，次のスタート・トリガ検出までカウント動作を停止する。<br>スレーブ・チャネルでは，マスタ・チャネルのINTTMmnをトリガとして，TCRmpレジスタはTDRmpレジスタの値をロードし，カウンタはダウン・カウントを開始する。マスタ・チャネルのINTTMmn出力から1カウント・クロック経過後にTOmp出力レベルをアクティブ・レベルとする。そしてTCRmp = 0000HまでカウントしたらTOmp出力レベルをインアクティブ・レベルにして，カウント動作を停止する。<br>以降，この動作を繰り返す。 |
| 動作停止 | TTmn（マスタ），TTmp（スレーブ）ビットに同時に1を設定する<br>TTmn，TTmpビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn, TEmp = 0になり，カウント動作停止<br>TCRmn, TCRmpレジスタはカウント値を保持して停止<br>TOmp出力は初期化されず，状態保持 |
| | スレーブ・チャネルのTOEmpビットに0を設定し，TOmpビットに値を設定する | TOmp端子はTOmp設定レベルを出力 |
| TAU停止 | TOmp端子の出力レベルを保持する場合<br>ポート・レジスタに保持したい値を設定後，TOmpビットに0を設定する<br>TOmp端子の出力レベルを保持不要の場合<br>設定不要 | TOmp端子出力レベルはポート機能により保持される。 |
| | PER0レジスタのTAUmENビットに0を設定する | パワーオフ状態<br>全回路が初期化され，各チャネルのSFRも初期化される<br>（TOmpビットが0になり，TOmp端子はポート機能となる） |

動作再開

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）
　　p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

### 7. 9. 2　PWM機能としての動作

2チャネルをセットで使用し，任意の周期およびデューティのパルスを生成することができます。

出力パルスの周期，デューティは次の式で求めることができます。

| |
|---|
| パルス周期 ＝｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝×カウント・クロック周期 |
| デューティ [%] ＝｛TDRmp（スレーブ）の設定値｝／｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝×100 |
| 0 %出力　　：TDRmp（スレーブ）の設定値 ＝0000H |
| 100 %出力　：TDRmp（スレーブ）の設定値≧｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝ |

備考　TDRmp（スレーブの設定値）＞｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝の場合は，デューティ値が100 %を越えますが，集約して100 %出力となります。

マスタ・チャネルはインターバル・タイマ・モードとして動作させます。タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のチャネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn）に1を設定すると，割り込み（INTTMmn）を出力して，タイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）に設定した値をタイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）にロードし，カウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行います。カウントが0000Hになったところで，INTTMmnを出力して，再びTDRmnレジスタからTCRmnレジスタに値をロードしてダウン・カウントを行います。以降，タイマ・チャネル停止レジスタm（TTm）のチャネル・ストップ・トリガ・ビット（TTmn）に1を設定するまでこの動作を繰り返します。

PWM機能としての動作では，マスタ・チャネルがダウン・カウントして0000Hになるまでの期間がPWM出力（TOmp）の周期となります。

スレーブ・チャネルはワンカウント・モードとして動作させます。マスタ・チャネルからのINTTMmnをスタート・トリガとして，TDRmpレジスタからTCRmpレジスタに値をロードし，0000Hになるまでダウン・カウントを行います。カウントが0000HになったところでINTTMmpを出力して，次のスタート・トリガ（マスタ・チャネルからのINTTMmn）が来るまで待機します。

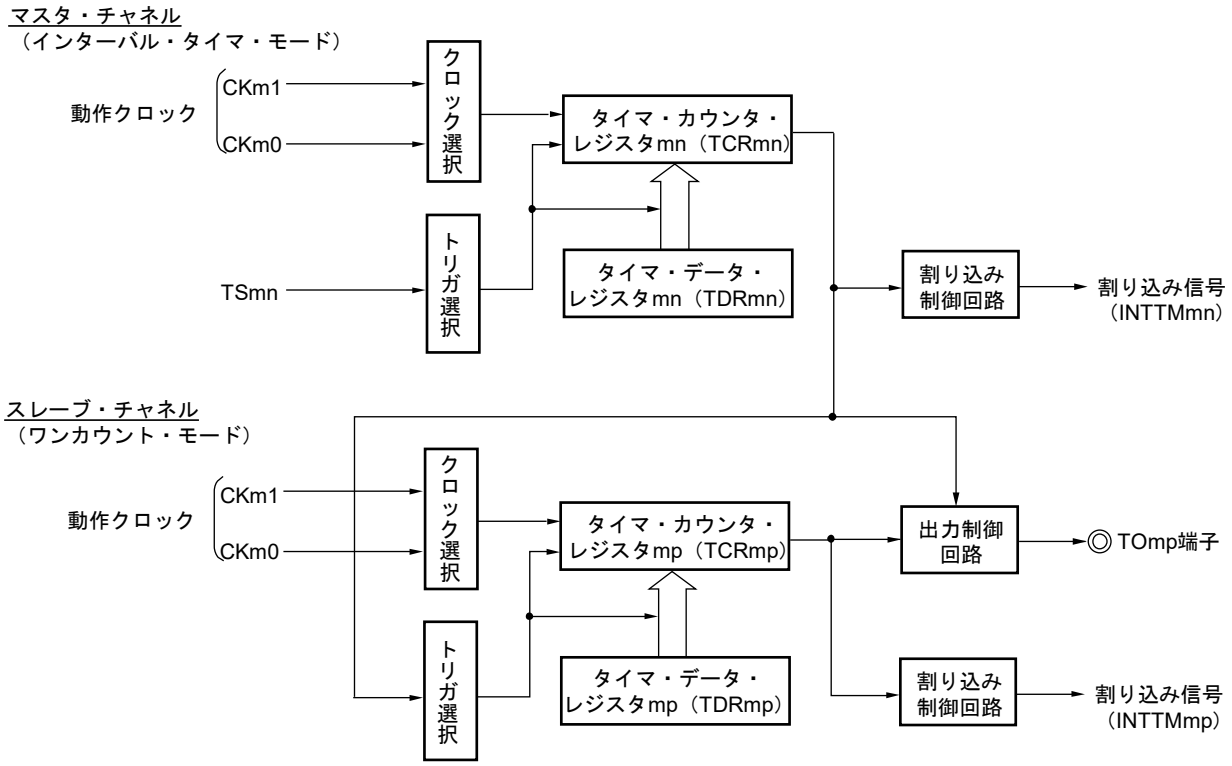
PWM機能としての動作では，スレーブ・チャネルがダウン・カウントして0000Hになるまでの期間がPWM出力（TOmp）のデューティとなります。

PWM出力（TOmp）は，マスタ・チャネルのINTTMmn発生から1クロック後にアクティブ・レベルとなり，スレーブ・チャネルのTCRmpレジスタが0000Hになったタイミングでインアクティブ・レベルになります。

注意　マスタ・チャネルのタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）とスレーブ・チャネルのTDRmpレジスタを両方とも書き換える場合，2回のライト・アクセスが必要となります。TCRmn，TCRmpレジスタにTDRmn，TDRmpレジスタの値がロードされるのは，マスタ・チャネルのINTTMmn発生時となります。そのため，書き換えがマスタ・チャネルのINTTMmn発生前と発生後に分かれて行われると，TOmp端子は期待通りの波形を出力できません。したがって，マスタのTDRmnレジスタとスレーブのTDRmpレジスタを双方とも書き換える場合は，必ずマスタ・チャネルのINTTMmn発生直後に両方のレジスタを書き換えてください。

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）
　　p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

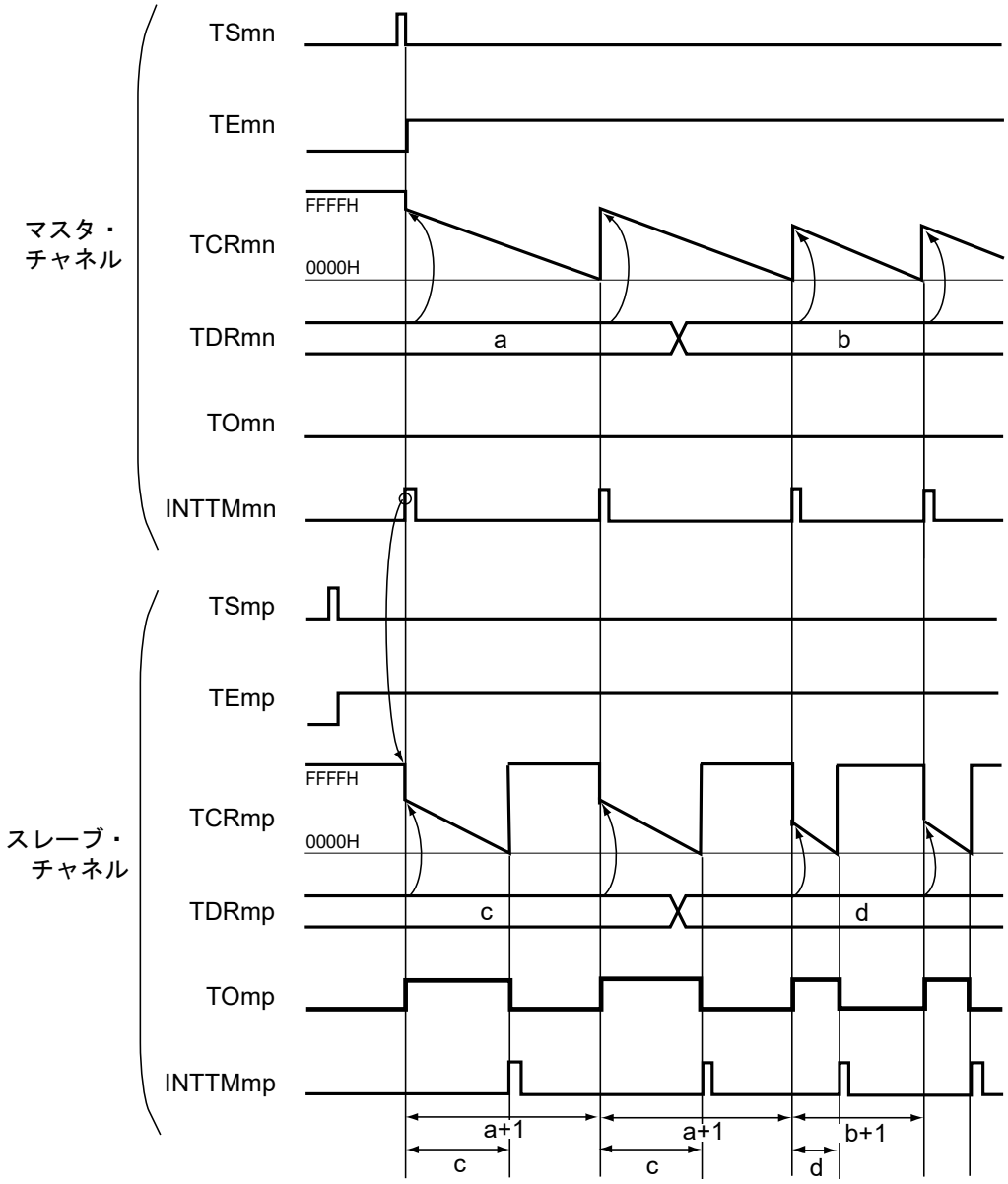
図7－67　PWM機能としての動作のブロック図




備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）

p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

図7－68　PWM機能としての動作の基本タイミング例




備考1.　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）

p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

2.　TSmn, TSmp　：タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のビットn, p

TEmn, TEmp　：タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のビットn, p

TCRmn, TCRmp　：タイマ・カウンタ・レジスタmn, mp（TCRmn, TCRmp）

TDRmn, TDRmp　：タイマ・データ・レジスタmn, mp（TDRmn, TDRmp）

TOmn, TOmp　：TOmn, TOmp端子出力信号

図7－69　PWM機能時（マスタ・チャネル）のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmn | CKSmn1 | CKSmn0 | | CCSmn | MASTERmn注 | STSmn2 | STSmn1 | STSmn0 | CISmn1 | CISmn0 | | | MDmn3 | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 1/0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |

チャネルnの動作モード
000B：インターバル・タイマ

カウント開始時の動作設定
1：カウント開始時にINTTMmn発生する

TImn端子入力のエッジ選択
00B：使用しないので00Bを設定

スタート・トリガ選択
000B：ソフトウエア・スタートのみを選択

MASTERmnビットの設定（チャネル2, 4, 6）
1：マスタ・チャネル

カウント・クロック選択
0：動作クロック（$f_{MCK}$）を選択

動作クロック（$f_{MCK}$）の選択
00B：チャネルnの動作クロックにCKm0を選択
10B：チャネルnの動作クロックにCKm1を選択

（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOm | TOmn<br>0 |

0：TOmnより0を出力する

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOEm | TOEmn<br>0 |

0：カウント動作によるTOmn出力動作停止

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOLm | TOLmn<br>0 |

0：TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）では0を設定

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットn |
|---|---|
| TOMm | TOMmn<br>0 |

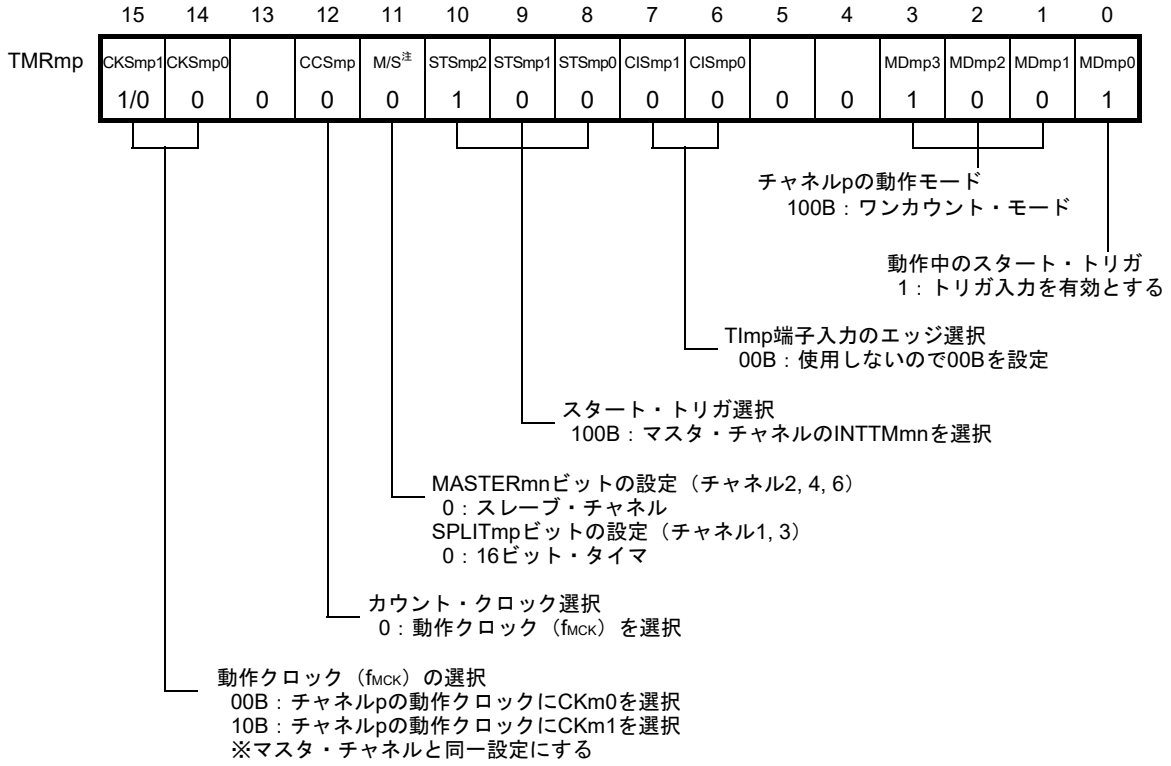
0：マスタ・チャネル出力モードを設定

注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合：　MASTERmn = 1
　TMRm0の場合：　0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）

図7－70　PWM機能時（スレーブ・チャネル）のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmp（TMRmp）




（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットp | |
|---|---|---|
| TOm | TOmp<br>1/0 | 0：TOmpより0を出力<br>1：TOmpより1を出力 |

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットp | |
|---|---|---|
| TOEm | TOEmp<br>1/0 | 0：カウント動作によるTOmp出力動作停止<br>1：カウント動作によるTOmp出力動作許可 |

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットp | |
|---|---|---|
| TOLm | TOLmp<br>1/0 | 0：正論理出力（アクティブ・ハイ）<br>1：負論理出力（アクティブ・ロウ） |

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットp | |
|---|---|---|
| TOMm | TOMmp<br>1 | 1：スレーブ・チャネル出力モードを設定 |

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合：MASTERmnビット

TMRm1, TMRm3の場合：SPLITmpビット

TMRm5, TMRm7：0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）

p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

図7－71　PWM機能時の操作手順（1/2）

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU初期設定 | | タイマ・アレイ・ユニットmの入力クロック供給停止状態<br>（クロック供給停止，各レジスタへの書き込み不可） |
| | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のTAUmENビットに1を設定する → | タイマ・アレイ・ユニットmの入力クロック供給状態，各チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給開始，各レジスタへの書き込み可能） |
| | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）を設定する<br>CKm0とCKm1のクロック周波数を確定する | |
| チャネル初期設定 | 使用する2チャネルのタイマ・モード・レジスタmn，mp（TMRmn, TMRmp）を設定する（チャネルの動作モード確定）<br>マスタ・チャネルのタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）にインターバル（周期）値，スレーブ・チャネルのTDRmpレジスタにデューティ値を設定する | チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給されており，多少の電力を消費する） |
| | スレーブ・チャネルの設定<br>タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）のTOMmpビットに1（スレーブ・チャネル出力モード）を設定する<br>TOLmpビットを設定する | TOmp端子はHi-Z出力状態 |
| | TOmpビットを設定し，TOmp出力の初期レベルを確定する → | ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は，TOmp初期設定レベルが出力される。 |
| | TOEmpビットに1を設定し，TOmpの動作を許可 → | チャネルは動作停止状態なので，TOmpは変化しない |
| | ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する → | TOmp端子はTOmp設定レベルを出力 |

（注，備考は次ページにあります。）

図7－71　PWM機能時の操作手順（2/2）

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| 動作開始 | TOEmp（スレーブ）ビットに1を設定する（動作再開時のみ）<br>タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のTSmn（マスタ），TSmp（スレーブ）ビットに同時に1を設定する<br>TSmn, TSmpビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 1, TEmp = 1となる<br>マスタ・チャネルがカウント動作開始し，INTTMmnを発生する。それをトリガとしてスレーブ・チャネルもカウント動作開始する。 |
| 動作中 | TMRmn，TMRmpレジスタ，TOMmn，TOMmp，TOLmn，TOLmpビットは，設定値変更禁止<br>TDRmn，TDRmpレジスタは，マスタ・チャネルのINTTMmn発生後に設定値変更可能<br>TCRmn, TCRmpレジスタは，常に読み出し可能<br>TSRmn, TSRmpレジスタは，使用しない | マスタ・チャネルでは，タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はTDRmnレジスタの値をロードし，ダウン・カウント動作を行う。TCRmn = 0000Hまでカウントしたら INTTMmnを発生する。同時に，TCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードし，再びダウン・カウントを開始する。<br>スレーブ・チャネルでは，マスタ・チャネルのINTTMmnをトリガとして，TCRmpレジスタはTDRmpレジスタの値をロードし，カウンタはダウン・カウント動作を行う。マスタ・チャネルのINTTMmn出力から1カウント・クロック経過後にTOmp出力レベルをアクティブ・レベルとする。そしてTCRmp = 0000HまでカウントしたらTOmp出力レベルをインアクティブ・レベルにして，カウント動作を停止する。<br>以降，この動作を繰り返す。 |
| 動作停止 | TTmn（マスタ），TTmp（スレーブ）ビットに同時に1を設定する<br>TTmn, TTmpビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn, TEmp = 0になり，カウント動作停止<br>TCRmn, TCRmpレジスタはカウント値を保持して停止<br>TOmp出力は初期化されず，状態保持 |
| | スレーブ・チャネルのTOEmpビットに0を設定し，TOmpビットに値を設定する | TOmp端子はTOmp設定レベルを出力 |
| TAU停止 | TOmp端子の出力レベルを保持する場合<br>ポート・レジスタに保持したい値を設定後，TOmpビットに0を設定する<br>TOmp端子の出力レベルを保持不要の場合<br>設定不要 | TOmp端子出力レベルはポート機能により保持される。 |
| | PER0レジスタのTAUmENビットに0を設定する | パワーオフ状態<br>全回路が初期化され，各チャネルのSFRも初期化される（TOmpビットが0になり，TOmp端子はポート機能となる） |

動作再開

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4, 6）
　　p：スレーブ・チャネル番号（n＜p≦7）

### 7.9.3　多重PWM出力機能としての動作

PWM機能を拡張しスレーブ・チャネルを複数使用することで，デューティの異なる多数のPWM出力を行う機能です。

たとえばスレーブ・チャネルを2個使う場合は，出力パルスの周期，デューティは次の式で求めることができます。

パルス周期 ＝｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝×カウント・クロック周期
デューティ1 [%] ＝｛TDRmp（スレーブ1）の設定値｝／｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝×100
デューティ2 [%] ＝｛TDRmq（スレーブ2）の設定値｝／｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝×100

備考　TDRmp（スレーブ1）の設定値＞｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝の場合
または TDRmq（スレーブ2）の設定値＞｛TDRmn（マスタ）の設定値＋1｝の場合は，
デューティ値が100 %を越えますが，集約して100 %出力となります。

マスタ・チャネルのタイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は，インターバル・タイマ・モードで動作して，周期をカウントします。

スレーブ・チャネル1のTCRmpレジスタは，ワンカウント・モードで動作して，デューティをカウントし，TOmp端子よりPWM波形を出力します。TCRmpレジスタは，マスタ・チャネルのINTTMmnをスタート・トリガとして，タイマ・データ・レジスタmp（TDRmp）の値をロードし，ダウン・カウントを行います。TCRmp = 0000Hとなったら，INTTMmpを出力し，次のスタート・トリガ（マスタ・チャネルのINTTMmn）が入力されるまでカウントを停止します。TOmpの出力レベルは，マスタ・チャネルのINTTMmn発生から1カウント・クロック経過後にアクティブ・レベルとなり，TCRmp = 0000Hとなったらインアクティブ・レベルとなります。

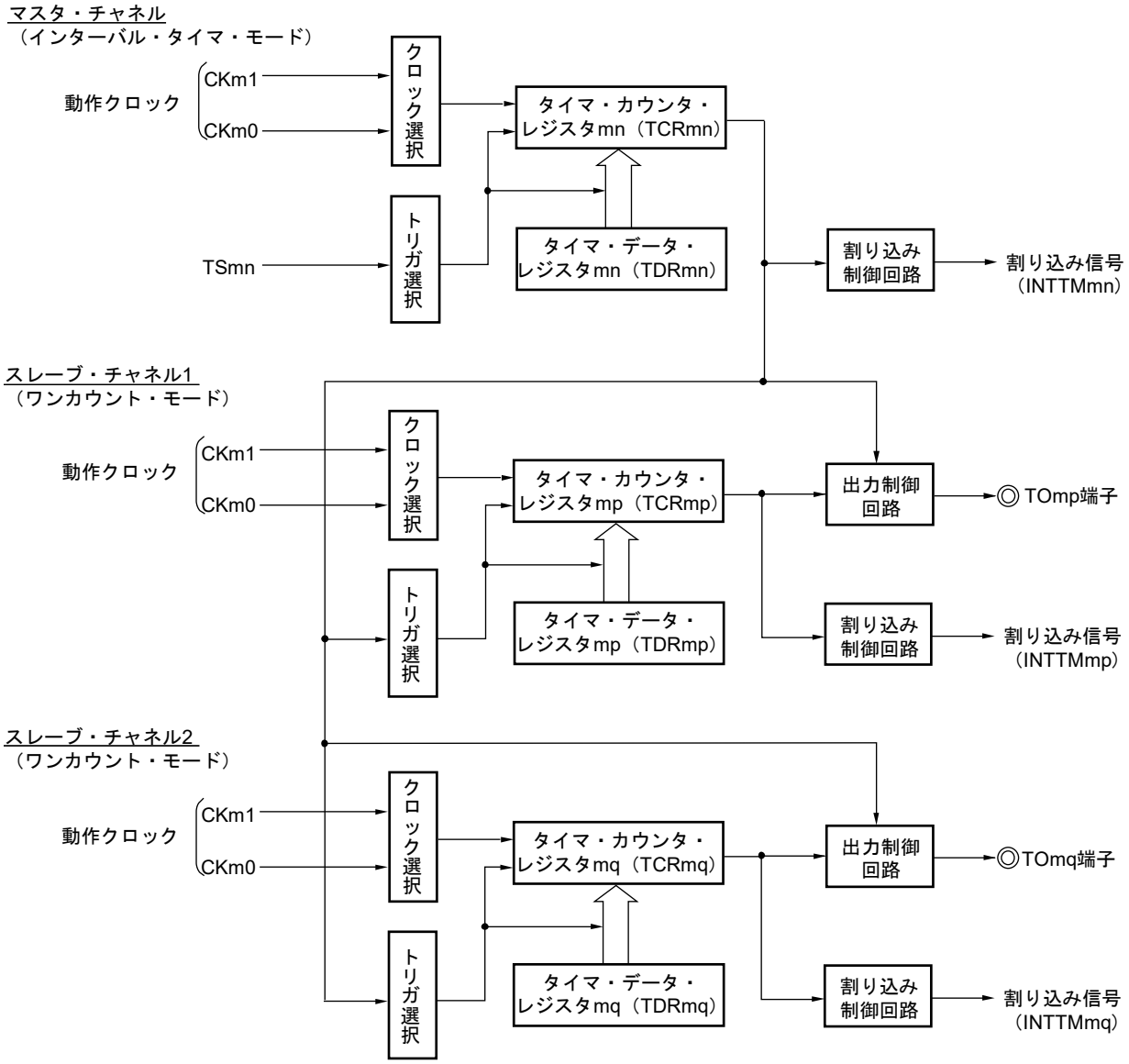
スレーブ・チャネル2のTCRmqレジスタも，スレーブ・チャネル1のTCRmpレジスタと同様に，ワンカウント・モードで動作して，デューティをカウントし，TOmq端子よりPWM波形を出力します。TCRmqレジスタは，マスタ・チャネルのINTTMmnをスタート・トリガとして，TDRmqレジスタの値をロードし，ダウン・カウントを行います。TCRmq = 0000Hとなったら，INTTMmqを出力し，次のスタート・トリガ（マスタ・チャネルのINTTMmn）が入力されるまでカウントを停止します。TOmqの出力レベルは，マスタ・チャネルのINTTMmn発生から1カウント・クロック経過後にアクティブ・レベルとなり，TCRmq = 0000Hとなったらインアクティブ・レベルとなります。

このようにして，チャネル0をマスタ・チャネルとした場合は，最大7種のPWMを同時に出力できます。

注意　マスタ・チャネルのタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）とスレーブ・チャネル1のTDRmpレジスタを両方とも書き換える場合，最低2回のライト・アクセスが必要となります。TCRmn，TCRmpレジスタにTDRmn，TDRmpレジスタの値をロードするのは，マスタ・チャネルのINTTMmn発生後となるため，書き換えがマスタ・チャネルのINTTMmn発生前と発生後に分かれて行われると，TOmp端子は，期待通りの波形を出力できません。したがって，TDRmnレジスタとスレーブのTDRmpレジスタを双方とも書き換える場合は，必ずマスタ・チャネルのINTTMmn発生直後に両方のレジスタを書き換えてください。（スレーブ・チャネル2のTDRmqレジスタの場合も同様です。）

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4）
p：スレーブ・チャネル番号，q：スレーブ・チャネル番号
n＜p＜q≦7（ただしp, qは，n以降の整数）

図7－72　多重PWM出力機能としての動作のブロック図（2種類のPWMを出力する場合）

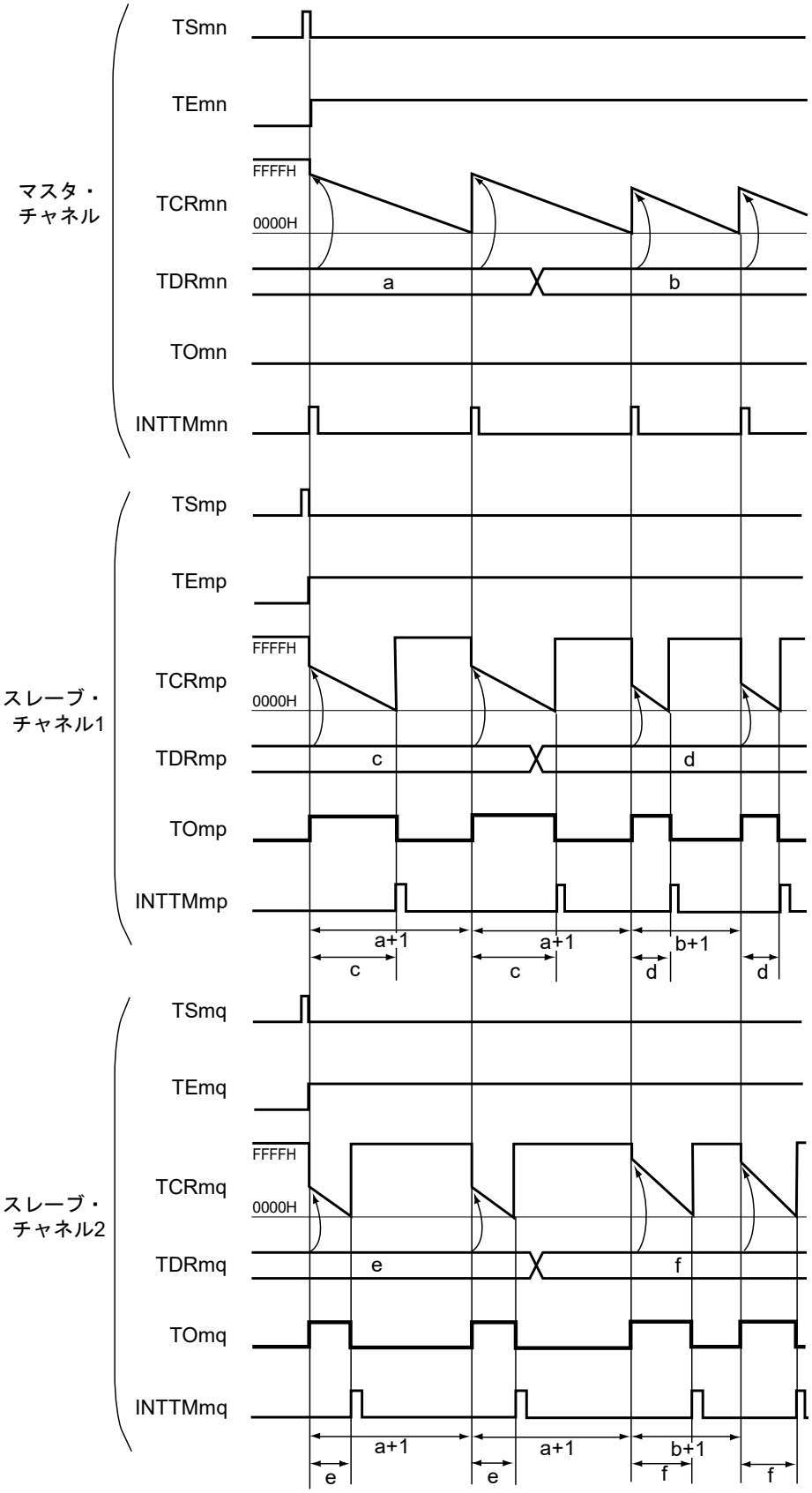



備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4）

p：スレーブ・チャネル番号，q：スレーブ・チャネル番号

n＜p＜q≦7（ただしp, qは，n以降の整数）

図7－73　多重PWM出力機能としての動作の基本タイミング例（2種類のPWMを出力する場合）




（備考は次ページにあります。）

備考1.　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4）

p：スレーブ・チャネル番号，q：スレーブ・チャネル番号

n＜p＜q≦7（ただしp, qは，n以降の整数）

2.　TSmn, TSmp, TSmq　：タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のビットn, p, q

TEmn, TEmp, TEmq　：タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm（TEm）のビットn, p, q

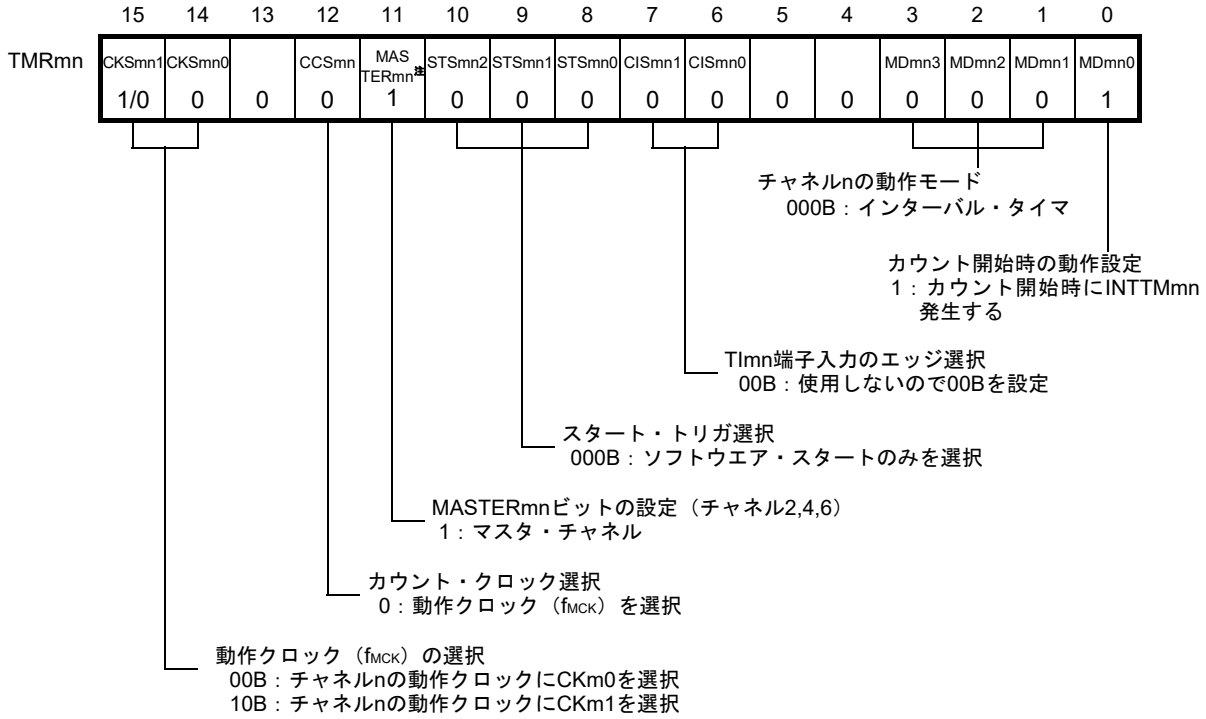
TCRmn, TCRmp, TCRmq　：タイマ・カウンタ・レジスタmn, mp, mq（TCRmn, TCRmp, TCRmq）

TDRmn, TDRmp, TDRmq　：タイマ・データ・レジスタmn, mp, mq（TDRmn, TDRmp, TDRmq）

TOmn, TOmp, TOmq　：TOmn, TOmp, TOmq端子出力信号

図7－74　多重PWM出力機能時（マスタ・チャネル）のレジスタ設定内容例

（a）タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）




（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットn | |
|---|---|---|
| TOm | TOmn<br>0 | 0：TOmnより0を出力する |

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットn | |
|---|---|---|
| TOEm | TOEmn<br>0 | 0：カウント動作によるTOmn出力動作停止 |

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットn | |
|---|---|---|
| TOLm | TOLmn<br>0 | 0：TOMmn = 0（マスタ・チャネル出力モード）では0を設定 |

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットn | |
|---|---|---|
| TOMm | TOMmn<br>0 | 0：マスタ・チャネル出力モードを設定 |

注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合：　MASTERmn = 1
　TMRm0の場合：　0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4）

図7－75　多重PWM機能時（スレーブ・チャネル）のレジスタ設定内容例（2種類のPWMを出力する場合）

（a）タイマ・モード・レジスタmp, mq（TMRmp, TMRmq）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMRmp | CKSmp1 | CKSmp0 | | CCSmp | M/S注 | STSmp2 | STSmp1 | STSmp0 | CISmp1 | CISmp0 | | | MDmp3 | MDmp2 | MDmp1 | MDmp0 |
| | 1/0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| TMRmq | CKSmq1 | CKSmq0 | | CCSmq | M/S注 | STSmq2 | STSmq1 | STSmq0 | CISmq1 | CISmq0 | | | MDmq3 | MDmq2 | MDmq1 | MDmq0 |
| | 1/0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |

チャネルp, qの動作モード
100B：ワンカウント・モード

動作中のスタート・トリガ
1：トリガ入力を有効とする

TImp, TImq端子入力のエッジ選択
00B：使用しないので00Bを設定

スタート・トリガ選択
100B：マスタ・チャネルのINTTMmnを選択

MASTERmp, MASTERmqビットの設定（チャネル2, 4, 6）
0：スレーブ・チャネル
SPLITmp, SPLITmqビットの設定（チャネル1, 3）
0：16ビット・タイマ

カウント・クロック選択
0：動作クロック（$f_{MCK}$）を選択

動作クロック（$f_{MCK}$）の選択
00B：チャネルp, qの動作クロックにCKm0を選択
10B：チャネルp, qの動作クロックにCKm1を選択
※マスタ・チャネルと同一設定にする

（b）タイマ出力レジスタm（TOm）

| | ビットq | ビットp | |
|---|---|---|---|
| TOm | TOmq | TOmp | 0：TOmp, TOmqより0を出力する |
| | 1/0 | 1/0 | 1：TOmp, TOmqより1を出力する |

（c）タイマ出力許可レジスタm（TOEm）

| | ビットq | ビットp | |
|---|---|---|---|
| TOEm | TOEmq | TOEmp | 0：カウント動作によるTOmp, TOmq出力動作停止 |
| | 1/0 | 1/0 | 1：カウント動作によるTOmp, TOmq出力動作許可 |

（d）タイマ出力レベル・レジスタm（TOLm）

| | ビットq | ビットp | |
|---|---|---|---|
| TOLm | TOLmq | TOLmp | 0：正論理出力（アクティブ・ハイ） |
| | 1/0 | 1/0 | 1：負論理出力（アクティブ・ロウ） |

（e）タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）

| | ビットq | ビットp | |
|---|---|---|---|
| TOMm | TOMmq | TOMmp | 1：スレーブ・チャネル出力モードを設定 |
| | 1 | 1 | |

注　TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合　：MASTERmp, MASTERmqビット
　　TMRm1, TMRm3の場合　　：SPLITmp, SPLITmqビット
　　TMRm5, TMRm7の場合　　：0固定

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4）
　　p：スレーブ・チャネル番号，q：スレーブ・チャネル番号
　　n＜p＜q≦7（ただしp, qは，n以降の整数）

図7－76　多重PWM機能時の操作手順（2種類のPWMを出力する場合）（1/2）

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| TAU初期設定 | | タイマ・アレイ・ユニットmの入力クロック供給停止状態<br>（クロック供給停止，各レジスタへの書き込み不可） |
| | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のTAUmENビットに1を設定する | タイマ・アレイ・ユニットmの入力クロック供給状態，<br>各チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給開始，各レジスタへの書き込み可能） |
| | タイマ・クロック選択レジスタm（TPSm）を設定する<br>CKm0とCKm1のクロック周波数を確定する | |
| チャネル初期設定 | 使用する各チャネルのタイマ・モード・レジスタmn, mp, mq（TMRmn, TMRmp, TMRmq）を設定する（チャネルの動作モード確定）<br>マスタ・チャネルのタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）にインターバル（周期）値，スレーブ・チャネルのTDRmp，TDRmqレジスタにデューティ値を設定する | チャネルは動作停止状態<br>（クロック供給されており，多少の電力を消費する） |
| | スレーブ・チャネルの設定<br>タイマ出力モード・レジスタm（TOMm）のTOMmp, TOMmqビットに1（スレーブ・チャネル出力モード）を設定する<br>TOLmp, TOLmqビットを設定する<br>TOmp, TOmqビットを設定し，TOmp, TOmq出力の初期レベルを確定する<br>TOEmp，TOEmqビットに1を設定し，TOmp，TOmqの動作を許可<br>ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する | TOmp, TOmq端子はHi-Z出力状態<br>ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は，TOmp, TOmq初期設定レベルが出力される。<br>チャネルは動作停止状態なので，TOmp, TOmqは変化しない<br>TOmp, TOmq端子はTOmp, TOmq設定レベルを出力 |
| 動作開始 | （動作再開時のみTOEmp, TOEmq（スレーブ）ビットに1を設定する）<br>タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のTSmn（マスタ），TSmp，TSmq（スレーブ）ビットに同時に1を設定する<br>TSmn, TSmp, TSmqビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | TEmn = 1, TEmp, TEmq = 1となる<br>マスタ・チャネルがカウント動作開始し，INTTMmnを発生する。それをトリガとしてスレーブ・チャネルもカウント動作開始する。 |

（注，備考は次ページにあります。）

動作再開（次ページへ）

図7－76　多重PWM機能時の操作手順（2種類のPWMを出力する場合）（2/2）

動作再開（前ページへ）

| | ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 |
|---|---|---|
| 動　作<br>中 | TMRmn, TMRmp, TMRmqレジスタ, TOMmn, TOMmp, TOMmq, TOLmn, TOLmp, TOLmqビットは, 設定値変更禁止<br>TDRmn, TDRmp, TDRmqレジスタは，マスタ・チャネルのINTTMmn発生後に設定値変更可能<br>TCRmn, TCRmp, TCRmqレジスタは，常に読み出し可能<br>TSRmn, TSRmp, TSRmqレジスタは，使用しない | マスタ・チャネルでは，タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はTDRmnレジスタの値をロードし，ダウン・カウント動作を行う。TCRmn ＝ 0000Hまでカウントしたら INTTMmnを発生する。同時に，TCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードし，再びダウン・カウントを開始する。<br>スレーブ・チャネル1では，マスタ・チャネルのINTTMmn信号をトリガとして，TDRmpレジスタ値をTCRmpレジスタに転送し，カウンタはダウン・カウントを開始する。マスタ・チャネルのINTTMmn出力から1カウント・クロック経過後にTOmp出力レベルをアクティブ・レベルとする。そして0000Hまでカウントしたら TOmp出力レベルをインアクティブ・レベルにして，カウント動作を停止する。<br>スレーブ・チャネル2では，マスタ・チャネルのINTTMmn信号をトリガとして，TDRmqレジスタ値をTCRmqレジスタに転送し，カウンタはダウン・カウントを開始する。マスタ・チャネルのINTTMmn出力から1カウント・クロック経過後にTOmq出力レベルをアクティブ・レベルとする。そして0000Hまでカウントしたら TOmq出力レベルをインアクティブ・レベルにして，カウント動作を停止する。以降，この動作を繰り返す。 |
| 動　作<br>停止 | TTmn（マスタ），TTmp，TTmq（スレーブ）ビットに同時に1を設定する → | TEmn, TEmp, TEmq = 0になり，カウント動作停止<br>TCRmn，TCRmp，TCRmqレジスタはカウント値を保持して停止<br>TOmp, TOmq出力は初期化されず，状態保持 |
| | TTmn, TTmp, TTmqビットはトリガ・ビットなので，自動的に0に戻る | |
| | スレーブ・チャネルのTOEmp, TOEmqビットに0を設定し，TOmp, TOmqビットに値を設定する → | TOmp, TOmq端子はTOmp, TOmq設定レベルを出力 |
| TAU<br>停止 | TOmp, TOmq端子の出力レベルを保持する場合<br>ポート・レジスタに保持したい値を設定後，TOmp, TOmqビットに0を設定する → | TOmp，TOmq端子出力レベルはポート機能により保持される。 |
| | TOmp, TOmq端子の出力レベルを保持不要の場合<br>設定不要 | |
| | PER0レジスタのTAUmENビットに0を設定する → | パワーオフ状態<br>全回路が初期化され，各チャネルのSFRも初期化される（TOmp, TOmqビットが0になり，TOmp, TOmq端子はポート機能となる） |

備考　m：ユニット番号（m = 0），n：マスタ・チャネル番号（n = 0, 2, 4）
　　p：スレーブ・チャネル番号，q：スレーブ・チャネル番号
　　n＜p＜q≦7（ただしp, qは，n以降の連続した整数）

# 7. 10　タイマ・アレイ・ユニット使用時の注意事項

## 7. 10. 1　タイマ出力使用時の注意事項

製品によってはタイマ出力機能が割り当てられた端子に他の兼用機能の出力も割り当てられている事があります。このような場合にタイマ出力を使用するには，他方の兼用機能の出力を初期状態にする必要があります。

詳細は，4. 5　兼用機能使用時のレジスタの設定を参照してください。

（a）TO02-TO07出力を使用する場合（80ピン製品のみ）

ポート・モード・レジスタ（PMxxビット）およびポート・レジスタ（Pxxビット）に0を設定するだけでなく，LCDポート・ファンクション・レジスタ4（PFSEG37-PFSEG32）の対応するビットを必ず“0”に設定してください。

（b）P43, P41に割り当てられたTO00, TO01出力を使用する場合

ポート・モード・レジスタ（PM43，PM41ビット）およびポート・レジスタ（P43，P41ビット）に0を設定するだけでなく，兼用になっているPCLBUZ1，PCLBUZ0出力を0にするために，クロック出力選択レジスタn（CSKn）のビット7を初期状態と同じ設定にしてください。

（c）P07-P02に割り当てられたTO02-TO07出力を使用する場合

ポート・モード・レジスタ（PM07-PM02ビット）およびポート・レジスタ（P07-P02ビット）に0を設定するだけでなく，兼用になっているP07/SO00/TxD0，P06/SDA00，P05/SCK00/SCL00, P04/TxD1, P03/SDA10, P02/SCL10出力を1にするために，シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタ0（SE0），シリアル出力レジスタ0（SO0），シリアル出力許可レジスタ0（SOE0）を初期状態と同じ設定にしてください。

（d）P04, P03に割り当てられたTO05, TO06出力を使用する場合（PIOR3 = 1のとき）

ポート・モード・レジスタ（PM04, PM03ビット）およびポート・レジスタ（P04, P03ビット）に0を設定するだけでなく，兼用になっているVCOUT0, VCOUT1出力を0にするために，コンパレータ出力制御レジスタ（COMPOCR）を初期状態と同じ設定にしてください。

# 第8章　リアルタイム・クロック2

## 8.1　リアルタイム・クロック2の機能

リアルタイム・クロック2（RTC2）には，次のような機能があります。

・年，月，曜日，日，時，分，秒のカウンタを持ち，最長99年までをカウント可能（うるう年補正機能あり）
・定周期割り込み機能（周期：0.5秒，1秒，1分，1時間，1日，1月）
・アラーム割り込み機能（アラーム：曜日，時，分）
・1 Hzの端子出力機能（通常1 Hz出力，高精度1 Hz出力）

リアルタイム・クロック割り込み信号（INTRTC）を，STOPモードからのウェイク・アップやA/DコンバータのSNOOZEモードのトリガに使えます。

注意1.　リアルタイム・クロック2の動作クロックにサブシステム・クロック（$f_{SUB}$ = 32.768 kHz）を選択時のみ，年，月，曜日，日，時，分，秒のカウントができます。低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$ = 15 kHz）を選択時は，定周期割り込み機能のみ使用できます。
ただし，$f_{IL}$選択時の定周期割り込み間隔は，定周期（RTCC0レジスタで選択した値）×$f_{SUB}/f_{IL}$で算出される値になります。

2.　高精度1 Hzの端子出力を使用する場合は，高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）に24 MHzを選択してください。

## 8. 2　リアルタイム・クロック2の構成

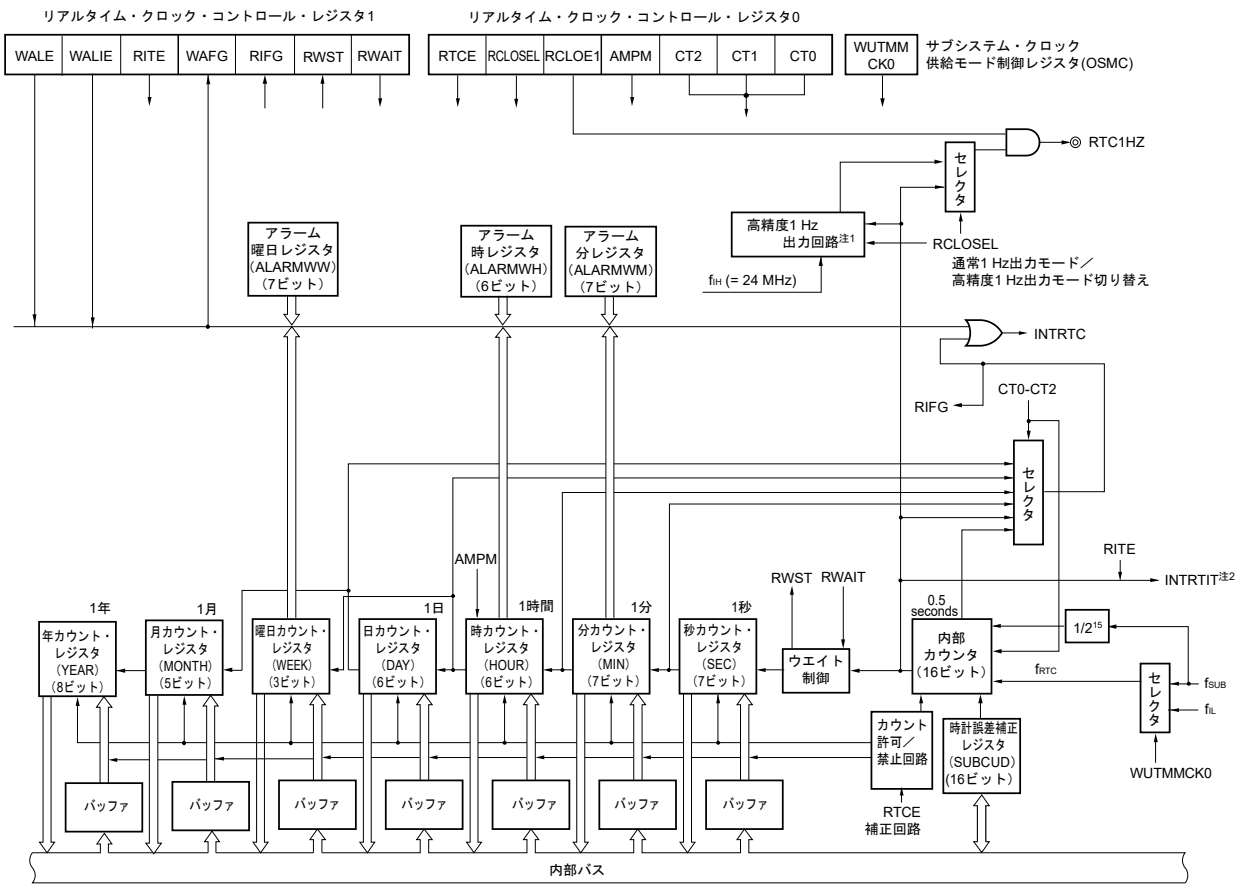
リアルタイム・クロック2は，次のハードウエアで構成されています。

表8－1　リアルタイム・クロック2の構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| カウンタ | カウンタ（16ビット） |
| 制御レジスタ | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0） |
| | 周辺イネーブル・レジスタ1（PER1） |
| | サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC） |
| | パワーオン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR） |
| | リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0） |
| | リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1） |
| | 秒カウント・レジスタ（SEC） |
| | 分カウント・レジスタ（MIN） |
| | 時カウント・レジスタ（HOUR） |
| | 日カウント・レジスタ（DAY） |
| | 曜日カウント・レジスタ（WEEK） |
| | 月カウント・レジスタ（MONTH） |
| | 年カウント・レジスタ（YEAR） |
| | 時計誤差補正レジスタ（SUBCUD） |
| | アラーム分レジスタ（ALARMWM） |
| | アラーム時レジスタ（ALARMWH） |
| | アラーム曜日レジスタ（ALARMWW） |

図8－1にリアルタイム・クロック2のブロック図を示します。

図8－1　リアルタイム・クロック2のブロック図




注1.　高精度1 Hz出力には高速オンチップ・オシレータ（HOCO：24 MHz）を使用します。高精度1 Hz出力モードで動作させる場合は，HOCOをONにする必要があります。なお，通常1 Hzモードで動作させる場合は，HOCOをONにする必要はありません。

2.　時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）から補正値を取り込むタイミングを示す割り込みです。取り込みタイミングは1秒（$f_{SUB}$ベース）間隔になります。

## 8. 3　リアルタイム・クロック2を制御するレジスタ

リアルタイム・クロック2は，次のレジスタで制御します。

・周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）
・周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）
・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）
・パワーオン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）
・リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）
・リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）
・秒カウント・レジスタ（SEC）
・分カウント・レジスタ（MIN）
・時カウント・レジスタ（HOUR）
・日カウント・レジスタ（DAY）
・曜日カウント・レジスタ（WEEK）
・月カウント・レジスタ（MONTH）
・年カウント・レジスタ（YEAR）
・時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）
・アラーム分レジスタ（ALARMWM）
・アラーム時レジスタ（ALARMWH）
・アラーム曜日レジスタ（ALARMWW）

各リセット要因によるレジスタの状態を以下に示します。

| リセット要因 | システム関連レジスタ注1 | カレンダー関連レジスタ注2 |
|---|---|---|
| POR | リセット | リセットしない |
| 外部リセット | 保持 | 保持 |
| WDT | 保持 | 保持 |
| TRAP | 保持 | 保持 |
| LVD | 保持 | 保持 |
| その他内部リセット | 保持 | 保持 |

注1.　RTCC0, RTCC1, SUBCUD
2.　SEC, MIN, HOUR, DAY, WEEK, MONTH, YEAR, ALARMWM, ALARMWH, ALARMWW,（カウンタ）

リセット要因が発生しても，SEC，MIN，HOUR，WEEK，DAY，MONTH，YEAR，ALARMWM，ALARMWH，ALARMWWレジスタはリセットされません。そのため，電源投入後は全てのレジスタを初期設定してください。

PORSRレジスタはパワー・オン・リセットの発生を確認するために使われます。

### 8. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）

PER0レジスタは，リアルタイム・クロック2で使用されるレジスタへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

リアルタイム・クロック2のレジスタを操作するときは，必ずビット7（RTCWEN）を1に設定してください。

PER0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図8－2　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット

アドレス：F00F0H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |

| RTCWEN | リアルタイム・クロック2の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・リアルタイム・クロック2で使用するSFRへのライト不可<br>・リアルタイム・クロック2は動作可能 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・リアルタイム・クロック2で使用するSFRへのリード／ライト可<br>・リアルタイム・クロック2は動作可能 |

注意1.　時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）は，周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のRTCWEN = 1，または周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のFMCEN = 1を設定することでリード／ライトが可能となります。

2.　リアルタイム・クロック2を使用する際には，カウント・クロック（$f_{RTC}$）が発振安定した状態で，必ず最初にRTCWEN = 1に設定してから下記のレジスタの設定を行ってください。RTCWEN = 0の場合は，リアルタイム・クロック2の制御レジスタへの書き込みは無視され，読み出し値はRTCWEN = 1に設定した値となります。（サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC），パワーオン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）は除く）。

・リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）
・リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）
・秒カウント・レジスタ（SEC）
・分カウント・レジスタ（MIN）
・時カウント・レジスタ（HOUR）
・日カウント・レジスタ（DAY）
・曜日カウント・レジスタ（WEEK）
・月カウント・レジスタ（MONTH）
・年カウント・レジスタ（YEAR）
・時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）
・アラーム分レジスタ（ALARMWM）
・アラーム時レジスタ（ALARMWH）
・アラーム曜日レジスタ（ALARMWW）

3.　ビット1には必ず“0”を設定してください。

### 8. 3. 2　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）

PER1レジスタは，サブシステム・クロック周波数測定回路で使用されるレジスタへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

リアルタイム・クロック2を制御する時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）のリード／ライトは本レジスタのビット6（FMCEN）を1に設定することにより可能となります。

PER1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図8－3　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のフォーマット

アドレス：F007AH　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER1 | TMKAEN | FMCEN | CMPEN | OSDCEN | DTCEN | 0 | 0 | DSADCEN |

| FMCEN | サブシステム・クロック周波数測定回路の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路で使用するSFRへのライト不可<br>・リアルタイム・クロック2で使用するSUBCUDレジスタへのライト不可<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路はリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路で使用するSFRへのリード／ライト可<br>・リアルタイム・クロック2で使用するSUBCUDレジスタへのリード／ライト可 |

注意1.　時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）は，周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のRTCWEN = 1または，周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のFMCEN = 1のどちらかを設定することでリード／ライトが可能となります。

2.　ビット1, 2には必ず“0”を設定してください。

### 8. 3. 3　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）

OSMCレジスタは，不要なクロック機能を停止させることにより，低消費電力化することを目的としたレジスタです。

RTCLPC = 1に設定すると，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時に，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのクロック供給を停止するので，消費電力を低減することが可能です。

また，OSMCレジスタではリアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，サブシステム・クロック周波数測定回路の動作クロックを選択できます。

OSMCレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図8－4　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のフォーマット

アドレス：F00F3H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSMC | RTCLPC | 0 | 0 | WUTMMCK0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| RTCLPC | STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の設定 |
|---|---|
| 0 | 周辺機能へのサブシステム・クロック供給許可<br>（動作許可となる周辺機能については，表24－1，表24－2参照） |
| 1 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給停止 |

| WUTMMCK0 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの動作クロックの選択 | クロック出力／ブザー出力制御回路のPCLBUZn端子の出力クロックの選択および8ビット・インターバル・タイマの動作クロックの選択 | サブシステム・クロック周波数測定回路の動作 |
|---|---|---|---|
| 0 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択許可 | 許可 |
| 1 | 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択禁止 | 禁止 |

注意1.　RTCLPCビットを1に設定することで，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の消費電力を低減することができます。ただし，サブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時は，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へクロックを供給できなくなります。サブシステム・クロックでCPU動作中はHALTモードに設定する前に，周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のビット7（RTCWEN），周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のビット7（TMKAEN）は1に，PER0のビット0, 2, 3, PER1のビット5は0にしてください。

（注意は次ページに続きます。）

注意2. サブシステム・クロック発振中の場合は，必ずサブシステム・クロックを選択（WUTMMCK0ビット ＝0）にしてください。

3. WUTMMCK0を“1”に設定すると低速オンチップ・オシレータ・クロックが発振します。

4. WUTMMCK0を“1”に設定した場合，リアルタイム・クロック2の定周期割り込み機能のみ使用できます。年，月，曜日，日，時，分，秒のカウントおよび1 Hz出力機能は使用できません。
定周期割り込み間隔は，定周期（RTCC0レジスタで選択した値）×$f_{SUB}/f_{IL}$で算出されます。

5. WUTMMCK0ビットによるサブシステム・クロックと低速オンチップ・オシレータ・クロックの切り替えは，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの全ての機能が動作停止中のみ可能です。

6. リアルタイム・クロック2の動作クロックにサブシステム・クロック（$f_{SUB}$ = 32.768 kHz）を選択時のみ，年，月，曜日，日，時，分，秒のカウントができます。低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$ = 15 kHz）を選択時は，定周期割り込み機能のみ使用できます。
ただし，$f_{IL}$選択時の定周期割り込み間隔は，定周期（RTCC0レジスタで選択した値）×1/$f_{IL}$で算出される値になります。

### 8. 3. 4　パワー・オン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）

PORSRレジスタはパワー・オン・リセットの発生を確認するためのレジスタです。
PORSRレジスタのビット0（PORF）への“1”の書き込みは有効ですが，“0”は無視されます。
パワー・オン・リセットの発生確認を可能とするために，前もってPORFビットに1を書き込んでください。
PORSRレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。
パワー・オン・リセット信号の発生により，00Hになります。

注意1. PORSRレジスタはパワー・オン・リセットでのみリセットされます。他の要素によりリセットが発生した場合は，PORSRレジスタは値を保持します。

2. PORFビットが1に設定されると，パワー・オン・リセットは発生しませんが，RAM値が保持される保証はありません。

図 8－5　パワー・オン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）のフォーマット

アドレス：F00F9H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PORSR | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | PORF |

| PORF | パワー・オン・リセットの発生確認 |
|---|---|
| 0 | 1が書き込まれていない，またはパワー・オン・リセットが発生した。 |
| 1 | パワー・オン・リセットが発生していない。 |

### 8. 3. 5　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）

リアルタイム・クロック2動作の開始/停止，RTC1HZ 端子の制御，12/24時間制，定周期割り込み機能を設定する8ビットのレジスタです。

RTCC0は，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

パワーオン・リセット回路による内部リセットの発生により，00Hになります。

図8－6　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）のフォーマット（1/2）

アドレス：FFF9DH　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RTCC0 | RTCE | RCLOSEL | RCLOE1 | 0 | AMPM | CT2 | CT1 | CT0 |

| RTCE注1 | リアルタイム・クロック2の動作制御 |
|---|---|
| 0 | カウンタ動作停止 |
| 1 | カウンタ動作開始 |

| RCLOSEL | RTC1HZ端子の出力モード制御 |
|---|---|
| 0 | 通常1 Hz出力 |
| 1 | 高精度1 Hz出力 |

| RCLOE1注2 | RTC1HZ端子の出力制御 |
|---|---|
| 0 | RTC1HZ端子の出力（1 Hz）禁止 |
| 1 | RTC1HZ端子の出力（1 Hz）許可 |
| RTCE = 0の時は時計カウンタが動作しないため，1 Hz出力は出力されません。 | |

注1.　RTCE = 1に設定直後にSTOPモードに移行する場合は，図8－20　RTCE = 1に設定後のHALT/STOPモードへの移行手順にしたがってSTOPモードに移行してください。

2.　時計カウンタ動作中（RTCE = 1）にCLOE1ビットの設定を行った場合，1 Hz出力端子（RTC1HZ）にグリッチが出力する可能性があります。

注意1.　高精度1 Hz出力は，高速オンチップ・オシレータ（$f_{IH}$）に24 MHzを選択かつ，高速オンチップ・オシレータを動作（HIOSTOP = 0）させた時のみ使用できます。CPUクロックに$f_{IH}$を選択する必要はありません。また，高精度1 Hz出力使用時は，時計誤差補正を使用してください。

2.　ビット4には必ず“0”を設定してください。

図8－6　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）のフォーマット（2/2）

アドレス：FFF9DH　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RTCC0 | RTCE | RCLOSEL | RCLOE1 | 0 | AMPM | CT2 | CT1 | CT0 |

表8－2　RTCE, RCLOSEL, RCLOE1の設定値と状態の関係

| レジスタ設定値 | | | 状態 | |
|---|---|---|---|---|
| RTCE | RCLOSEL | RCLOE1 | リアルタイム・クロック2の状態 | RTC1HZ端子出力 |
| 0 | × | × | カウント停止 | 出力しない |
| 1 | 0 | 0 | カウント動作 | 出力しない |
| | | 1 | カウント動作 | 通常1 Hz出力 |
| | 1 | 0 | カウント動作 | 出力しない |
| | | 1 | カウント動作 | 高精度1 Hz出力 |

| AMPM | 12時間制／24時間制の選択 |
|---|---|
| 0 | 12時間制　（午前／午後を表示） |
| 1 | 24時間制 |
| ・AMPMビットの値を時計カウンタ動作中（RTCE = 1）に変更する場合は，RWAITビット（リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）のビット0）= 1にしてから書き換えてください。AMPMビットの値を変更すると，時カウント・レジスタ（HOUR）の値は設定した時間制に対応した値に変更されます。<br>・時間桁表示を表8－3に示します。 | |

| CT2 | CT1 | CT0 | 定周期割り込み（INTRTC）の選択 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | 定周期割り込み機能を使用しない |
| 0 | 0 | 1 | 0.5秒に1度（秒カウントアップに同期） |
| 0 | 1 | 0 | 1秒に1度（秒カウントアップと同時） |
| 0 | 1 | 1 | 1分に1度（毎分00秒） |
| 1 | 0 | 0 | 1時間に1度（毎時00分00秒） |
| 1 | 0 | 1 | 1日に1度（毎日00時00分00秒） |
| 1 | 1 | × | 1月に1度（毎月1日午前00時00分00秒） |
| カウンタ動作中（RTCE = 1）にCT2-CT0ビットの値を変更する場合は，INTRTCを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また，書き換え後は，RIFGフラグ，RTCIFフラグをクリアしてから割り込み処理許可にしてください。 | | | |

注意　**ビット4には必ず“0”を設定してください。**

備考　×：don’t care

### 8. 3. 6　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）

アラーム割り込み機能，カウンタのウエイトを制御する8ビットのレジスタです。

RTCC1は，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

パワーオン・リセット回路による内部リセットの発生により，00Hになります。

図8－7　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）のフォーマット（1/3）

アドレス：FFF9EH　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RTCC1 | WALE | WALIE | RITE | WAFG | RIFG | 0 | RWST | RWAIT |

| WALE | アラームの動作制御 |
|---|---|
| 0 | 一致動作無効 |
| 1 | 一致動作有効 |
| カウンタ動作中（RTCE = 1）かつWALIE = 1の時にWALEビットへ設定する場合は，INTRTCを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また，書き換え後にWAFGフラグ，RTCIFフラグをクリアしてください。アラームの各レジスタ（RTCC1レジスタのWALIEフラグ，アラーム分レジスタ（ALARMWM），アラーム時レジスタ（ALARMWH），アラーム曜日レジスタ（ALARMWW））を設定する場合，WALEビットを一致動作無効“0”にしてください。 | |

| WALIE | アラーム割り込み（INTRTC）機能の動作制御 |
|---|---|
| 0 | アラーム一致による割り込みを発生しない |
| 1 | アラーム一致による割り込みを発生する |

注意　RTCCT1に1ビット操作命令で書き込みを行うと，RIFGフラグ，WAFGフラグがクリアされることがあります。そのため，RTCC1への書き込みは8ビット操作命令で設定してください。書き込み時にRIFGフラグ，WAFGフラグをクリアしないようにするために，該当ビットに1（書き込みが無効）を設定してください。なお，RIFGフラグ，WAFGフラグを使用せず値が書き変わっても問題ない場合は，RTCC1に1ビット操作命令で書き込みを行っても問題ありません。

図8－7　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）のフォーマット（2/3）

アドレス：FFF9EH　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RTCC1 | WALE | WALIE | RITE | WAFG | RIFG | 0 | RWST | RWAIT |

| RITE | 補正タイミング信号割り込み（INTRTIT）機能の動作制御 |
|---|---|
| 0 | 補正タイミング信号割り込みを発生しない |
| 1 | 補正タイミング信号割り込みを発生する |

| WAFG | アラーム検出ステータス・フラグ |
|---|---|
| 0 | アラーム不一致 |
| 1 | アラームの一致検出 |
| アラームとの一致検出を示すステータス・フラグです。WALE = 1のときのみ有効となり，アラーム一致検出し，1クロック（32.768 KHz）後に“1”となります。<br>“0”を書き込むことでクリアされ，“1”の書き込みは無効となります。 | |

| RIFG | 定周期割り込みステータス・フラグ |
|---|---|
| 0 | 定周期割り込み発生なし |
| 1 | 定周期割り込み発生あり |
| 定周期割り込み発生ステータス・フラグです。定周期割り込み発生により“1”となります。<br>“0”を書き込むことでクリアされ，1の書き込みは無効となります。 | |

注意　RTCCT1に1ビット操作命令で書き込みを行うと，RIFGフラグ，WAFGフラグがクリアされることがあります。そのため，RTCC1への書き込みは8ビット操作命令で設定してください。書き込み時にRIFGフラグ，WAFGフラグをクリアしないようにするために，該当ビットに1（書き込みが無効）を設定してください。なお，RIFGフラグ，WAFGフラグを使用せず値が書き変わっても問題ない場合は，RTCC1に1ビット操作命令で書き込みを行っても問題ありません。

図8－7　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）のフォーマット（3/3）

アドレス：FFF9EH　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RTCC1 | WALE | WALIE | RITE | WAFG | RIFG | 0 | RWST | RWAIT |

| RWST | リアルタイム・クロック2のウエイト状態フラグ |
|---|---|
| 0 | カウンタ動作 |
| 1 | カウンタ値読み出し，書き込みモード中 |

RWAITビットの設定が有効であるかを示すステータス・フラグです。
カウンタ値の読み出し，書き込みは，このフラグの値が1になっていることを確認したあとで行ってください。
RWAITビットに0を設定しても，カウンタ書き込み動作中はRWSTビットは0になりません。書き込み動作完了後，0になります。

| RWAIT | リアルタイム・クロック2のウエイト制御 |
|---|---|
| 0 | カウンタ動作設定 |
| 1 | SEC～YEARカウンタ停止設定。カウンタ値読み出し，書き込みモード。 |

カウンタの動作を制御します。
カウンタ値を読み出し，書き込みを行う際は必ず“1”を書き込んでください。
カウンタ（16ビット）は動作を継続するので，1秒以内に読み出しや書き込みを終了し，0に戻してください。
★ アラーム割り込みを使用するときに，カウンタの読み出し／書き込みを行う場合は，RTCC0レジスタのCT2～CT0ビットを010B（1秒毎に定周期割り込み発生）にして，RWAIT= 1からRWAIT = 0までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。 RWAIT = 1に設定後，カウンタ値の読み出し，書き込みが可能（RWST = 1）となるまで最大$f_{RTC}$の1クロックの時間がかかります。注1，注2
内部カウンタ（16ビット）のオーバフローがRWAIT = 1の時に起きた場合は，オーバフローが起きたことを保持してRWAIT = 0になったあと，カウント・アップします。
ただし，秒カウント・レジスタへの書き込みを行った場合は，オーバフローが起きたことを保持しません。

注1.　RTCE＝1に設定した後、fRTC の1クロック時間内でRWAIT=1とした場合、RWSTビットが“1”になるまで動作クロック（fRTC）の2クロック時間がかかる場合があります。

注2.　スタンバイ（HALTモード、STOPモード、SNOOZEモード）から復帰した後、fRTC の１クロック時間内で、RWAIT＝1とした場合、RWSTビットが”1”になるまでに、動作クロック（fRTC）の2クロック時間がかかる場合があります。

注意　RTCCT1に1ビット操作命令で書き込みを行うと，RIFGフラグ，WAFGフラグがクリアされることがあります。そのため，RTCC1への書き込みは8ビット操作命令で設定してください。書き込み時にRIFGフラグ，WAFGフラグをクリアしないようにするために，該当ビットに1（書き込みが無効）を設定してください。なお，RIFGフラグ，WAFGフラグを使用せず値が書き変わっても問題ない場合は，RTCC1に1ビット操作命令で書き込みを行っても問題ありません。

備考1.　定周期割り込みとアラーム一致割り込みは，同一割り込み要因（INTRTC）を使用しています。この2つの割り込みを同時に使用する場合は，INTRTCが発生した時点で，定周期割り込みステータス・フラグ（RIFG）とアラーム検出ステータス・フラグ（WAFG）を確認することで，どちらの割り込みが発生したかを判断することができます。

2.　秒カウント・レジスタ（SEC）へ書き込みを行うと内部カウンタ（16ビット）はクリアされます。

### 8. 3. 7　秒カウント・レジスタ（SEC）

0-59（10進）までの値を取り，秒のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

カウンタ（16ビット）からのオーバフローによりカウント・アップする10進カウンタです。

書き込みを行った場合は，バッファに書き込まれ，最大$f_{RTC}$の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。また，設定する値は10進の00-59をBCDコードで設定してください。

SECレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－8　秒カウント・レジスタ（SEC）のフォーマット

アドレス：FFF92H　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SEC | 0 | SEC40 | SEC20 | SEC10 | SEC8 | SEC4 | SEC2 | SEC1 |

注意　時計カウンタ動作中（RTCE = 1）に，SECをリード／ライトする場合は，必ず8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し，8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込みのフローに従って実施してください。

備考　秒カウント・レジスタ（SEC）へ書き込みを行うと内部カウンタ（16ビット）はクリアされます。

### 8. 3. 8　分カウント・レジスタ（MIN）

0-59（10進）までの値を取り，分のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

秒カウンタからのオーバフローによりカウント・アップする10進カウンタです。

書き込みを行った場合は，バッファに書き込まれ最大$f_{RTC}$の2クロック後に，カウンタへ書き込まれます。書き込み中に秒カウント・レジスタからのオーバフローが発生しても無視し，書き込みをした値に設定されます。また設定する値は，10進の00-59をBCDコードで設定してください。

MINレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－9　分カウント・レジスタ（MIN）のフォーマット

アドレス：FFF93H　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MIN | 0 | MIN40 | MIN20 | MIN10 | MIN8 | MIN4 | MIN2 | MIN1 |

注意　時計カウンタ動作中（RTCE = 1）に，MINをリード／ライトする場合は，必ず8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し，8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込みのフローに従って実施してください。

### 8. 3. 9　時カウント・レジスタ（HOUR）

00-23または01-12，21-32（10進）までの値を取り，時のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

分カウンタからのオーバフローによりカウント・アップする10進カウンタです。

書き込みを行った場合は，バッファに書き込まれ最大$f_{RTC}$の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。書き込み中に分カウント・レジスタからのオーバフローが発生しても無視し，書き込みをした値に設定されます。

また，リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）のビット3（AMPM）で設定した時間制に応じて，10進の00～23または01～12，21～32をBCDコードで設定してください。

AMPMビットの値を変更すると，HOURレジスタの値は設定した時間制に対応する値に変更されます。

HOURレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－10　時カウント・レジスタ（HOUR）のフォーマット

アドレス：FFF94H　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HOUR | 0 | 0 | HOUR20 | HOUR10 | HOUR8 | HOUR4 | HOUR2 | HOUR1 |

注意1.　HOURレジスタのビット5（HOUR20）は，AMPM = 0（12時間制）を選択した場合，AM（0）／PM（1）を示します。

2.　時計カウンタ動作中（RTCE = 1）に，HOURをリード／ライトする場合は，必ず8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し，8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込みのフローに従って実施してください。

AMPMビットの設定値，および時カウント・レジスタ（HOUR）値と時間の関係を表8－3に示します。

表8－3　時間桁表示表

| 24時間表示（AMPMビット = 1） | | 12時間表示（AMPMビット = 0） | |
|---|---|---|---|
| 時間 | HOURレジスタ | 時間 | HOURレジスタ |
| 0時 | 00H | AM12時 | 12 H |
| 1時 | 01 H | AM1時 | 01 H |
| 2時 | 02 H | AM2時 | 02 H |
| 3時 | 03 H | AM3時 | 03 H |
| 4時 | 04 H | AM4時 | 04 H |
| 5時 | 05 H | AM5時 | 05 H |
| 6時 | 06 H | AM6時 | 06 H |
| 7時 | 07 H | AM7時 | 07 H |
| 8時 | 08 H | AM8時 | 08 H |
| 9時 | 09 H | AM9時 | 09 H |
| 10時 | 10 H | AM10時 | 10 H |
| 11時 | 11 H | AM11時 | 11 H |
| 12時 | 12 H | PM12時 | 32 H |
| 13時 | 13 H | PM1時 | 21 H |
| 14時 | 14 H | PM2時 | 22 H |
| 15時 | 15 H | PM3時 | 23 H |
| 16時 | 16 H | PM4時 | 24 H |
| 17時 | 17 H | PM5時 | 25 H |
| 18時 | 18 H | PM6時 | 26 H |
| 19時 | 19 H | PM7時 | 27 H |
| 20時 | 20 H | PM8時 | 28 H |
| 21時 | 21 H | PM9時 | 29 H |
| 22時 | 22 H | PM10時 | 30 H |
| 23時 | 23 H | PM11時 | 31 H |

HOURレジスタ値は，AMPMビットが“0”のときに12時間表示，“1”のときに24時間表示となります。

12時間表示の場合は，HOURレジスタの5ビット目で午前／午後を表示し，午前（AM）のときに0に，午後（PM）のときに1となります。

### 8. 3. 10　日カウント・レジスタ（DAY）

1-31（10進）までの値を取り，日のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

時カウンタからのオーバフローによりカウント・アップする10進カウンタです。

カウンタは，次に示すようにカウントします。

[DAYのカウント値]

- 01～31（1, 3, 5, 7, 8, 10, 12月）
- 01～30（4, 6, 9, 11月）
- 01～29（2月　うるう年）
- 01～28（2月　通常年）

書き込みを行った場合は，バッファに書き込まれ最大$f_{RTC}$の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。書き込み中に時カウント・レジスタからのオーバフローが発生しても無視し，書き込みをした値に設定されます。また設定する値は，10進の01-31をBCDコードで設定してください。

DAYレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－11　日カウント・レジスタ（DAY）のフォーマット

アドレス：FFF96H　リセット時：不定　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DAY | 0 | 0 | DAY20 | DAY10 | DAY8 | DAY4 | DAY2 | DAY1 |

注意　時計カウンタ動作中（RTCE = 1）に，DAYをリード／ライトする場合は，必ず8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し，8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込みのフローに従って実施してください。

### 8. 3. 11　曜日カウント・レジスタ（WEEK）

0-6（10進）までの値を取り，曜日のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

日カウンタへの桁上げ時にカウント・アップする10進カウンタです。

書き込みを行った場合は，バッファに書き込まれ最大$f_{RTC}$の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。

また，設定する値は10進の00～06をBCDコードで設定してください。

WEEKレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－12　曜日カウント・レジスタ（WEEK）のフォーマット

アドレス：FFF95H　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| WEEK | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | WEEK4 | WEEK2 | WEEK1 |

注意1.　曜日カウント・レジスタ（WEEK）には，月カウント・レジスタ（MONTH）および日カウント・レジスタ（DAY）に対応した値が自動的に格納されるわけではありません。
リセット解除後，次のように設定してください。

| 曜日 | WEEK |
|---|---|
| 日 | 00H |
| 月 | 01H |
| 火 | 02H |
| 水 | 03H |
| 木 | 04H |
| 金 | 05H |
| 土 | 06H |

2.　時計カウンタ動作中（RTCE = 1）に，WEEKをリード／ライトする場合は，必ず8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し，8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込みのフローに従って実施してください。

### 8. 3. 12　月カウント・レジスタ（MONTH）

MONTHレジスタは1-12（10進）までの値を取り，月のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

日カウンタからのオーバフローによりカウント・アップする10進カウンタです。

書き込みを行った場合は，バッファに書き込まれ最大$f_{RTC}$の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。書き込み中に日カウント・レジスタからのオーバフローが発生しても無視し，書き込みをした値に設定されます。また設定する値は，10進の01-12をBCDコードで設定してください。

MONTHレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－13　月カウント・レジスタ（MONTH）のフォーマット

アドレス：FFF97H　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MONTH | 0 | 0 | 0 | MONTH10 | MONTH8 | MONTH4 | MONTH2 | MONTH1 |

注意　時計カウンタ動作中（RTCE = 1）に，MONTHをリード／ライトする場合は，必ず8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し，8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込みのフローに従って実施してください。

### 8. 3. 13　年カウント・レジスタ（YEAR）

0-99（10進）までの値を取り，年のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

月カウント・レジスタ（MONTH）からのオーバフローによりカウント・アップする10進カウンタです。

00, 04, 08, ･･･, 92, 96がうるう年となります。

書き込みを行った場合は，バッファに書き込まれ最大$f_{RTC}$の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。書き込み中に月カウント・レジスタからのオーバフローが発生しても無視し，書き込みをした値に設定されます。また設定する値は，10進の00-99をBCDコードで設定してください。

YEARレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－14　年カウント・レジスタ（YEAR）のフォーマット

アドレス：FFF98H　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| YEAR | YEAR80 | YEAR40 | YEAR20 | YEAR10 | YEAR8 | YEAR4 | YEAR2 | YEAR1 |

注意　時計カウンタ動作中（RTCE = 1）に，YEARをリード／ライトする場合は，必ず8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し，8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込みのフローに従って実施してください。

### 8. 3. 14　時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）

時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）は，カウンタの値を毎秒ごとに補正することにより，時計の進みや遅れを最小分解能0.96 ppm精度で補正することができるレジスタです。

SUBCUDのF8-F0は9bitの固定小数点形式（2の補数形式）レジスタです。詳細は表8－5　時計誤差補正値を参照してください。

SUBCUDレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

パワーオン・リセット回路による内部リセットの発生により，0020Hになります。

図8－15　時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）のフォーマット

アドレス：F0310H　リセット時：0020H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SUBCUD | F15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | F8 | F7 | F6 | F5 | F4 | F3 | F2 | F1 | F0 |

| F15 | 時計誤差補正許可 |
|---|---|
| 0 | 時計誤差補正停止 |
| 1 | 時計誤差補正許可 |

時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）による水晶振動子の発振周波数偏差の補正可能範囲を表8－4に示します。

表8－4　水晶振動子の発振周波数偏差の補正可能範囲

| 項目 | 値 |
|---|---|
| 補正可能範囲 | －274.6 ppm ～ ＋212.6 ppm |
| 最大量子化誤差 | ±0.48 ppm |
| 最小分解能 | 0.96 ppm |

表8－5　時計誤差補正値

| SUBCUD | | | | | | | | | | ターゲット補正値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| F15 | F8 | F7 | F6 | F5 | F4 | F3 | F2 | F1 | F0 | |
| 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | －274.6 ppm |
| | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | －273.7 ppm |
| | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | －272.7 ppm |
| | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | －33.3 ppm |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | －32.4 ppm |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | －31.4 ppm |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | －30.5 ppm |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | －29.6 ppm |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | －28.6 ppm |
| | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | －0.95 ppm |
| | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 ppm |
| | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.95 ppm |
| | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 210.7 ppm |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 211.7 ppm |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 212.6 ppm |
| 0 | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 時計誤差補正停止 |

SUBCUDレジスタのF8-F0値は，ターゲット補正値から次の計算式で算出してください。

$$\text{SUBCUD[8:0]} = \left( \frac{\text{ターゲット補正値 [ppm]} \times 2^{15}}{10^6} \right)_{\text{2の補数(9bit固定小数点形式)}} + 0001.00000\text{B}$$

注意　ターゲット補正値とは，水晶振動子の発振周波数偏差（単位は[ppm]）を示します。ターゲット補正値の算出方法については，8. 4. 8　リアルタイム・クロック2の時計誤差補正例を参照してください。

例1.　ターゲット補正値 = 18.3 [ppm]の場合

$$\text{SUBCUD[8:0]} = (18.3 \times 2^{15} / 10^6)_{\text{2の補数(9bit固定小数点形式)}} + 0001.00000\text{B}$$
$$= (0.59375)_{\text{2の補数(9bit固定小数点形式)}} + 0001.00000\text{B}$$
$$= 0000.10011\text{B} + 0001.00000\text{B}$$
$$= 0001.10011\text{B}$$

例2.　ターゲット補正値 = －18.3 [ppm]の場合

SUBCUD[8:0] = (－18.3 × $2^{15}$ / $10^{6}$) 2の補数(9bit固定小数点形式) ＋ 0001.00000B

= (-0.59965) 2の補数(9bit固定小数点形式) ＋ 0001.00000B

= 1111.01101B ＋ 0001.00000B

= 0000.01101B

### 8. 3. 15　アラーム分レジスタ（ALARMWM）

アラームの分を設定するレジスタです。

ALARMWMレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－16　アラーム分レジスタ（ALARMWM）のフォーマット

アドレス：FFF9AH　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ALARMWM | 0 | WM40 | WM20 | WM10 | WM8 | WM4 | WM2 | WM1 |

注意　注意設定する値は，10進の00～59をBCDコードで設定してください。範囲外の値を設定した場合，アラームが検出されません。

### 8. 3. 16　アラーム時レジスタ（ALARMWH）

アラームの時を設定するレジスタです。

ALARMWHレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－17　アラーム時レジスタ（ALARMWH）のフォーマット

アドレス：FFF9BH　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ALARMWH | 0 | 0 | WH20 | WH10 | WH8 | WH4 | WH2 | WH1 |

注意1.　注意設定する値は10進の00～23または01～12，21～32をBCDコードで設定してください。範囲外の値を設定した場合，アラームが検出されません。

2.　ALARMWHレジスタのビット5（WH20）は，AMPM = 0（12時間制）を選択した場合，AM（0）／PM（1）を示します。

### 8. 3. 17　アラーム曜日レジスタ（ALARMWW）

アラームの曜日を設定するレジスタです。

ALARMWWレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，初期化はされません。

図8－18　アラーム曜日レジスタ（ALARMWW）のフォーマット

アドレス：FFF9CH　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ALARMWW | 0 | WW6 | WW5 | WW4 | WW3 | WW2 | WW1 | WW0 |

表8－6にアラーム時刻の設定例を示します。

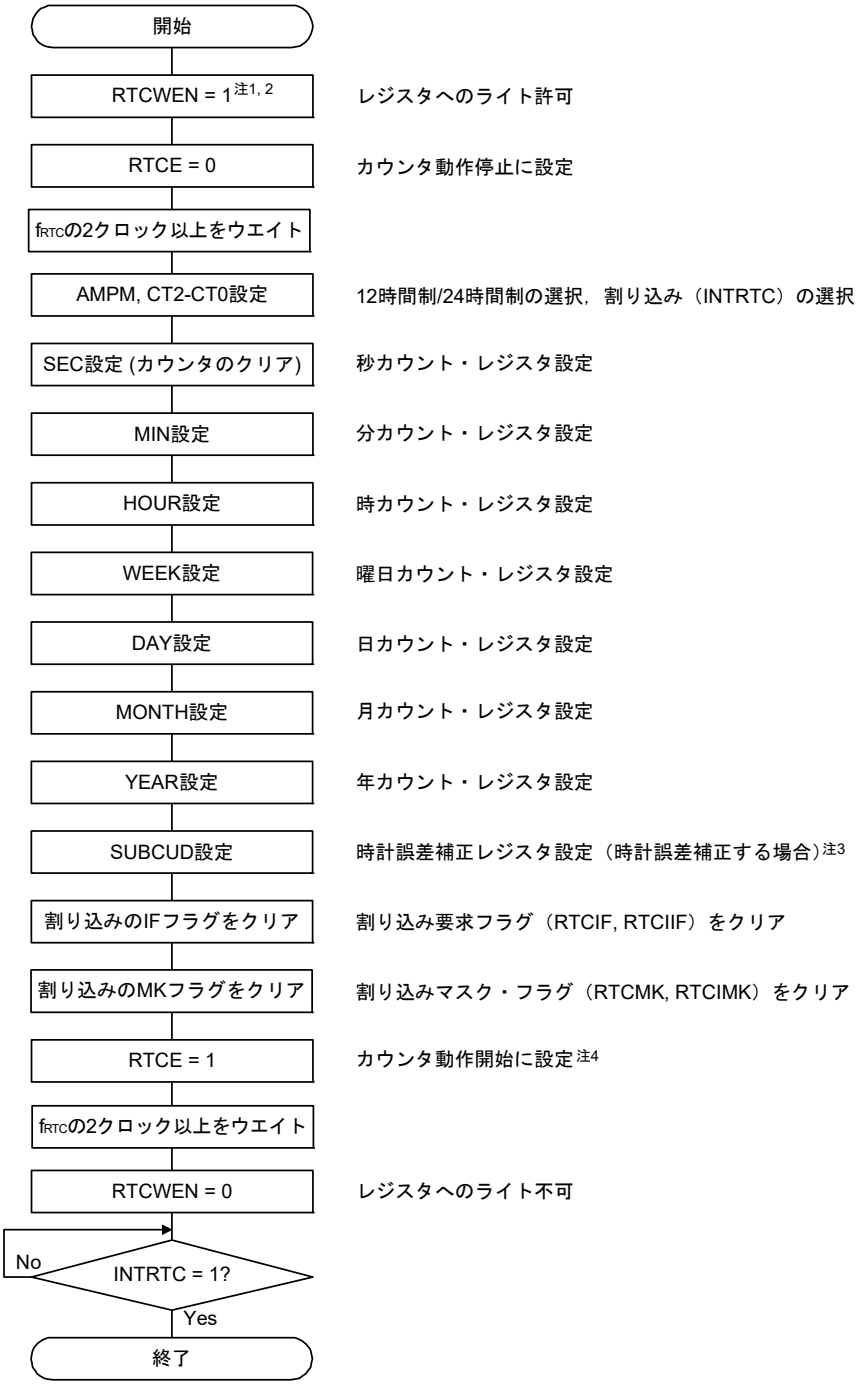
表8－6　アラーム時刻の設定例

| アラーム設定時刻 | 曜日 | | | | | | | 12時間表示 | | | | 24時間表示 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 日<br>WW0 | 月<br>WW1 | 火<br>WW2 | 水<br>WW3 | 木<br>WW4 | 金<br>WW5 | 土<br>WW6 | 10時 | 1時 | 10分 | 1分 | 10時 | 1時 | 10分 | 1分 |
| 毎日　午前0時00分 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 毎日　午前1時30分 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 |
| 毎日　午前11時59分 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 9 | 1 | 1 | 5 | 9 |
| 月～金　午後0時00分 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 日曜　午後1時30分 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 | 0 | 1 | 3 | 3 | 0 |
| 月水金　午後11時59分 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 5 | 9 | 2 | 3 | 5 | 9 |

# 8. 4　リアルタイム・クロック2の動作

## 8. 4. 1　リアルタイム・クロック2の動作開始

図8－19　リアルタイム・クロック2の動作開始手順




注1.　RTCレジスタへのアクセス時以外は，時計カウント誤書き込みを防止するためにRTCWEN = 0に設定してください。

2.　カウント・クロック（$f_{RTC}$）が発振安定状態において，最初にRTCWEN = 1の設定を行ってください。

3.　時計誤差補正する必要がある場合のみ。補正値の算出方法は，8. 4. 8　リアルタイム・クロック2の時計誤差補正例を参照してください。

4.　RTCE = 1のあとにINTRTC = 1を待たずにHALT/STOPモードへ移行する場合は，8. 4. 2　動作開始後のHALT/STOPモードへの移行の手順を確認してください。

### 8. 4. 2　動作開始後のHALT/STOPモードへの移行

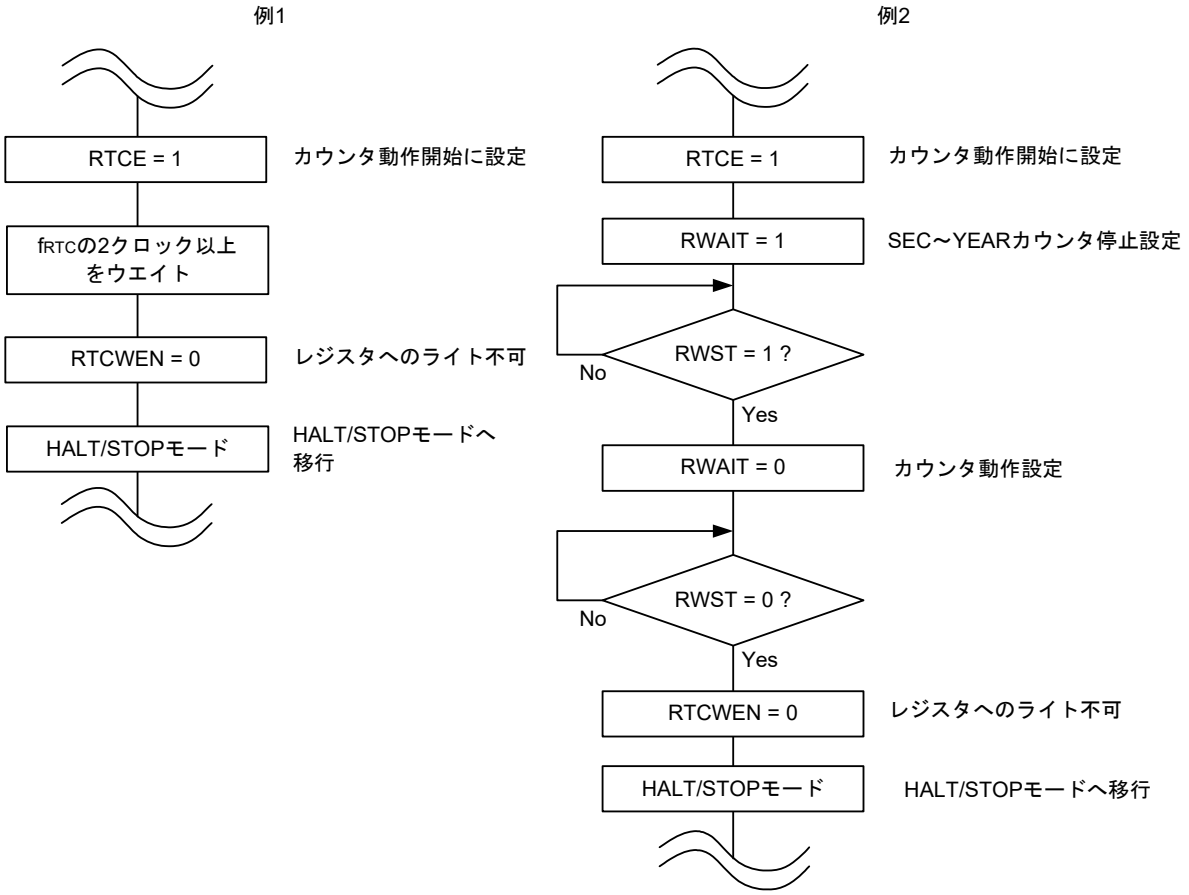
RTCE = 1に設定直後にSTOPモードへ移行する場合は，次のどちらかの処理をしてください。

ただし，RTCE = 1に設定後，1回目INTRTC割り込みの発生以降にSTOPモードへ移行する場合は，これらの処理は必要ありません。

（1）RTCE = 1に設定してから，カウント・クロック（$f_{RTC}$）の2クロック分以上経過後にHALT/STOPモードへ移行する（図8－20　例1参照）。

（2）RTCE = 1に設定後，RWAIT = 1に設定し，RWSTビットが1になるのをポーリングで確認する。それから，RWAIT = 0に設定し，RWSTビットが0になったのを再度ポーリングで確認後にHALT/STOPモードへ移行する（図8－20　例2参照）。

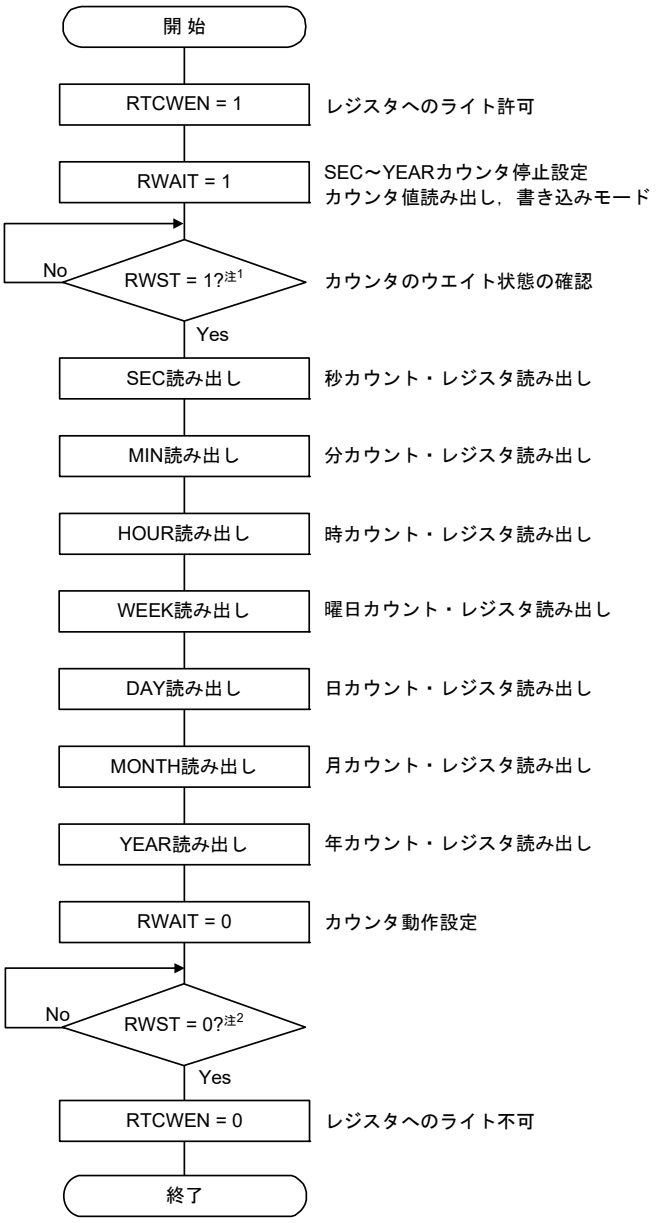
図8－20　RTCE = 1に設定後のHALT/STOPモードへの移行手順



### 8. 4. 3　リアルタイム・クロック2のカウンタ読み出し

カウンタ動作時（RTCE = 1）のカウンタの読み出しは，最初にRWAIT = 1にしてから行ってください。
カウンタの読み出し終了後は，RWAIT = 0にしてください。

図8－21　リアルタイム・クロック2の読み出し手順




注1.　カウンタ停止（RTCE = 0）時はRWST = 1になりません。
　2.　STOPモードに移行する前には，必ずRWST = 0であることを確認してください。

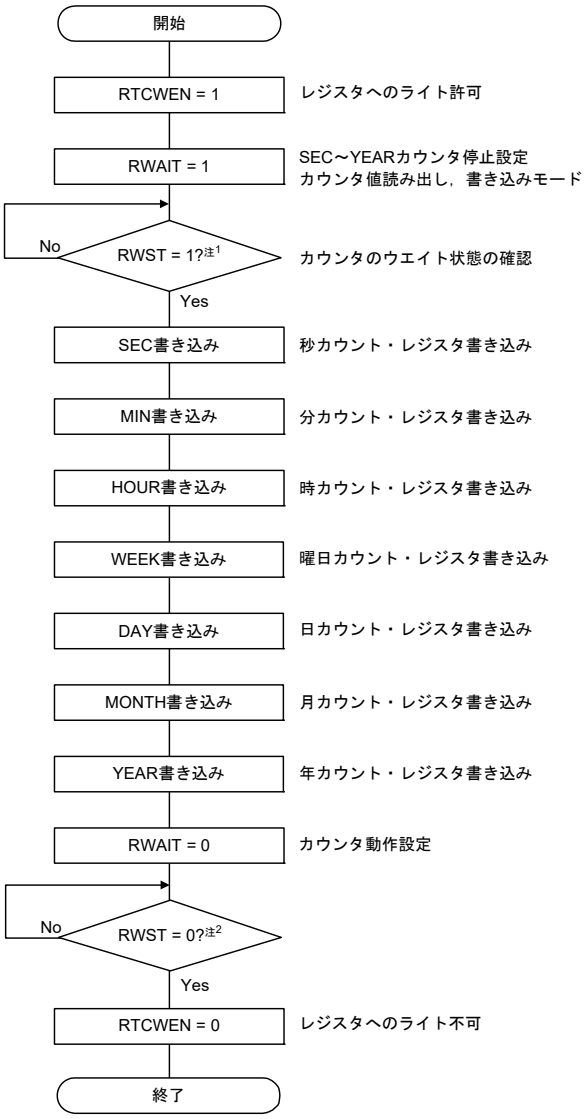
注意　RWAIT = 1 からRWAIT = 0とするまでの処理を1秒以内で行ってください。
★　アラーム割り込みを使用するときに，カウンタ読み出しを行う場合は，RTCC0レジスタのCT2～CT0ビットを010B（1秒毎に定周期割り込み発生）にして，RWAIT = 1からRWAIT = 0までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。

備考　SEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEARの読み出しの順番に制限はありません。また，すべてのレジスタを設定する必要はなく，一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

### 8. 4. 4　リアルタイム・クロック2のカウンタ書き込み

カウンタ動作時（RTCE = 1）のカウンタの書き込みは，最初にRWAIT = 1にしてから行ってください。
カウンタの読み出し終了後は，RWAIT = 0にしてください。

図8－22　リアルタイム・クロック2の書き込み手順




注1.　カウンタ停止（RTCE = 0）時はRWST =1になりません。
　2.　STOPモードに移行する前には，必ずRWST = 0であることを確認してください。

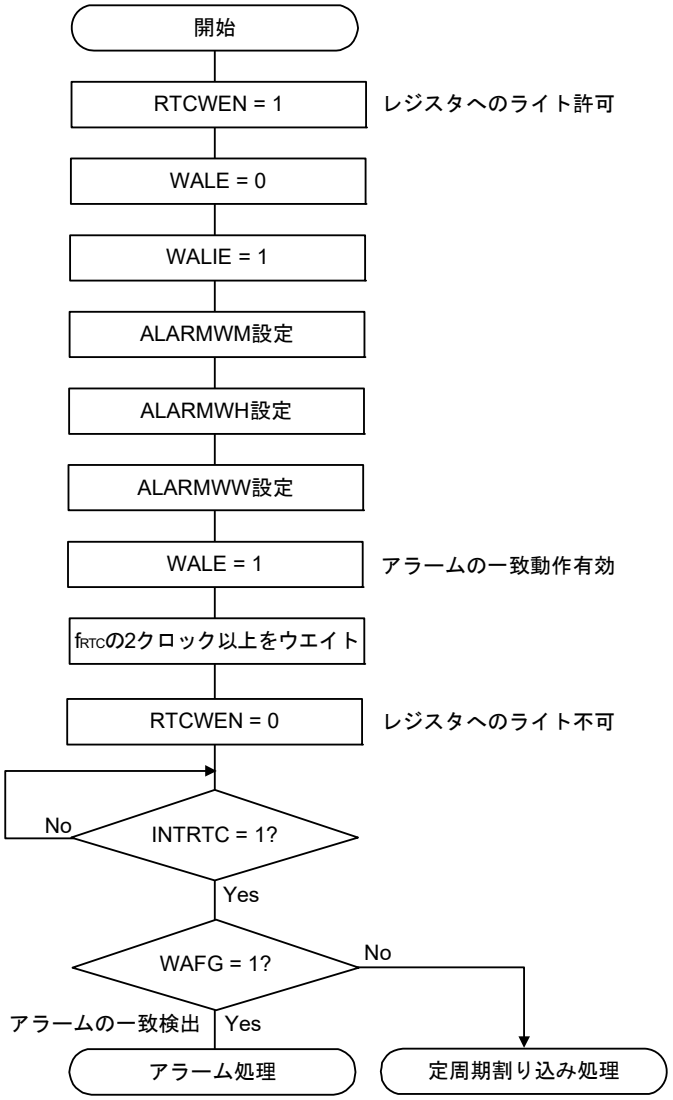
注意1.　RWAIT = 1からRWAIT = 0とするまでの処理を1秒以内で行ってください。
★　アラーム割り込みを使用するときに，カウンタ書き込みを行う場合は，RTCC0レジスタのCT2～CT0ビットを010B（1秒毎に定周期割り込み発生）にして，RWAIT = 1からRWAIT = 0までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。
　2.　カウンタ動作中（RTCE = 1）にSEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEARレジスタを書き換える場合は，INTRTCを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また，書き換え後にWAFGフラグ，RIFGフラグ，RTCIFフラグをクリアしてください。

備考　SEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEARの読み出しの順番に制限はありません。また，すべてのレジスタを設定する必要はなく，一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

### 8. 4. 5　リアルタイム・クロック2のアラーム設定

アラーム時刻設定は，最初にWALE = 0（アラーム動作無効）にしてから行ってください。

図8－23　アラーム設定手順




備考1.　ALARMWM, ALARMWH, ALARMWWの書き込みの順番に制限はありません。

2.　定周期割り込みとアラーム一致割り込みは，同一割り込み要因（INTRTC）を使用しています。この2つの割り込みを同時に使用する場合は，INTRTCが発生した時点で，定周期割り込みステータス・フラグ（RIFG）とアラーム検出ステータス・フラグ（WAFG）を確認することで，どちらの割り込みが発生したかを判断することができます。

### 8. 4. 6　リアルタイム・クロック2の1 Hz出力

図8－24　1 Hz出力の設定手順

注意　高精度1 Hzの端子出力を使用する場合は，高速オンチップ・オシレータ・クロック（fIH）に24 MHzを選択かつ，高速オンチップ・オシレータを動作（HIOSTOP = 0）させてください。CPUクロックに選択する必要はありません。

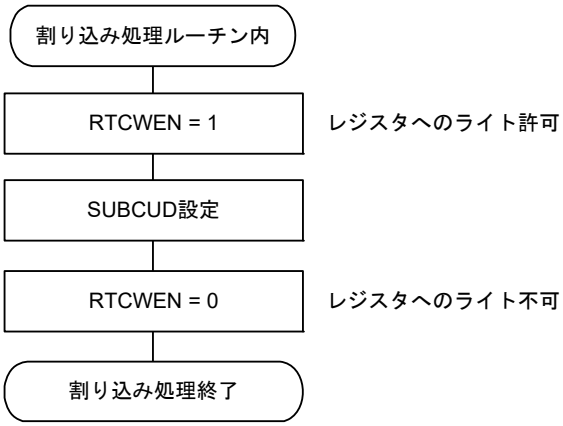
### 8. 4. 7　時計誤差補正レジスタの設定手順

時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）を設定する場合は，次のどちらかの処理を行ってください。

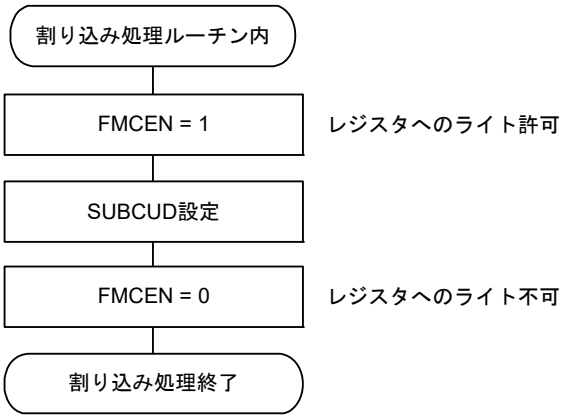
時計レジスタへの誤書き込みを防止するため，SUBCUDレジスタの書き換えは（2）FMCENによるライト許可を推奨します。

時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）の書き換えと補正タイミングとが競合した場合，RTCの補正が正常に行われない場合があります。補正タイミングとSUBCUDレジスタの書き換えの競合を避けるために，SUBCUDレジスタの書き換えは，必ず補正タイミングに同期して発生する補正タイミング割り込み（INTRTIT）または定周期割り込み（INTRTC）の発生を起点にし，次の補正タイミングが発生する前（約0.5秒以内）に完了させてください。

（1）RTCWEN = 1に設定後に，時計誤差補正レジスタを設定。その後，RTCWEN = 0に設定してください。




（2）FMCEN = 1に設定後に，時計誤差補正レジスタを設定。その後，FMCEN = 0に設定してください。



### 8. 4. 8　リアルタイム・クロック2の時計誤差補正例

時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）に値を設定することにより，毎秒ごとに時計の進みや遅れを最小分解能0.96 ppm精度で補正できます。

次に，ターゲット補正値の算出方法と，ターゲット補正値から時計誤差補正レジスタのF8-F0値を算出する方法を示します。

ターゲット補正値の算出方法1

（RTC1HZ端子の出力周波数を使用する場合）

【発振周波数の測定】

各製品の発振周波数[注]を，時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）のF15が“0”（時計誤差補正停止）のときにRTC1HZ端子から通常1 Hz出力を出力して測定します。

注　RTC1HZの出力手順は，8. 4. 6　リアルタイム・クロック2の1 Hz出力を参照してください。

【ターゲット補正値の算出】

（RTC1HZからの出力周波数が0.9999817 Hzの場合）

発振周波数 = 32768 × 0.9999817 ≒ 32767.40 Hz

ターゲット周波数を32768Hzとすると，ターゲット補正値は，

ターゲット補正値 = (発振周波数 － ターゲット周波数) ÷ ターゲット周波数

= (32767.40 － 32768.00) ÷ 32768.00

≒ －18.3 ppm

備考1. 発振周波数とは，入力クロック（$f_{RTC}$）の値です。時計誤差補正停止時のRTC1HZ出力周波数×32768で求めることができます。

2. ターゲット補正値とは，水晶振動子の発振周波数偏差（単位は [ppm] ）です。

3. ターゲット周波数とは，時計誤差補正を行った後の周波数です。

ターゲット補正値の算出方法2

（サブシステム・クロック周波数測定回路を使用する場合）

【発振周波数の測定】

各製品の発振周波数[注]を，サブクロック周波数測定回路を使用して測定します。発振周波数は次の計算式により計算できます。

$$\text{発振周波数} = \frac{f_{MX}\text{周波数 [Hz]} \times \text{動作トリガ分周比}}{\text{（周波数測定カウント・レジスタH, L（FMCRH, FMCRL）値）}_{10\text{進}}} \text{ [Hz]}$$

注　サブシステム・クロック周波数測定機能の動作手順は，9. 4. 1　基準クロックによるサブシステム・クロック周波数測定回路の設定を参照してください。

【ターゲット補正値の算出】

（周波数測定カウント・レジスタH, Lの値が9999060Dの場合）

・高速システム・クロック周波数（$f_{MX}$）= 10 MHz

・周波数測定コントロール・レジスタのFMDIV2-FMDIV0 = 111B（動作トリガ分周比 = $2^{15}$）

のとき，発振周波数は，

$$\begin{aligned}\text{発振周波数} &= f_{MX}\text{周波数 [Hz]} \times \text{動作トリガ分周比} \div \text{(FMCRH, FMCRL)値}\\ &= 10 \times 10^6 \times 2^{15} \div 9999060\text{D}\\ &= 32771.0804816 \text{ Hz}\end{aligned}$$

ターゲット周波数を32768Hzとすると，ターゲット補正値は，

$$\begin{aligned}\text{ターゲット補正値} &= \text{発振周波数} \div \text{ターゲット周波数} - 1\\ &= 32771.0804816 \div 32768 - 1\\ &\fallingdotseq 94.0 \text{ ppm}\end{aligned}$$

備考1.　動作トリガ分周比とは，周波数測定コントロール・レジスタのFMDIV2-FMDIV0で設定する$f_{SUB}$の分周比です。FMDIV2-FMDIV0 = 000B時，動作トリガ分周比は$2^8$，FMDIV2-FMDIV0 = 111B時，動作トリガ分周比は$2^{15}$となります。

2.　ターゲット補正値とは，水晶振動子の発振周波数偏差（単位は [ppm] ）です。

3.　ターゲット周波数とは，時計誤差補正を行った後の周波数です。

時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）のF8-F0値の算出方法

SUBCUDレジスタのF8-F0値は，ターゲット補正値から次の計算式で算出できます。

$$\text{SUBCUD[8:0]} = \left( \frac{\text{ターゲット補正値 [ppm]} \times 2^{15}}{10^6} \right)_{\text{2の補数(9bit固定小数点形式)}} + 0001.00000\text{B}$$

例1．ターゲット補正値 = －18.3 [ppm]の場合

$$\begin{aligned}\text{SUBCUD[8:0]} &= (-18.3 \times 2^{15} / 10^6)_{\text{2の補数(9bit固定小数点形式)}} + 0001.00000\text{B} \\ &= (-0.59965)_{\text{2の補数(9bit固定小数点形式)}} + 0001.00000\text{B} \\ &= 1111.01101\text{B} + 0001.00000\text{B} \\ &= 0000.01101\text{B}\end{aligned}$$

例2．ターゲット補正値 = 94.0 [ppm]の場合

$$\begin{aligned}\text{SUBCUD[8:0]} &= (94.0 \times 2^{15} / 10^6)_{\text{2の補数(9bit固定小数点形式)}} + 0001.00000\text{B} \\ &= (+3.08019)_{\text{2の補数(9bit固定小数点形式)}} + 0001.00000\text{B} \\ &= 0011.00011\text{B} + 0001.00000\text{B} \\ &= 0100.00011\text{B}\end{aligned}$$

### 8. 4. 9　高精度1 Hz出力について

時計誤差補正レジスタによる時計補正は，カウンタの値を毎0.5秒ごとに補正することにより，最小分解能0.96 ppmで補正することが可能ですが，カウンタは$f_{RTC}$に同期して動作しているため，カウンタのオーバーフローから生成する通常1 Hz出力の最小分解能は，1/32.768 KHz（≒ 30.5 μs = 30.5 ppm）となります。つまり，通常1 Hz出力は長期間では0.96 ppmの精度を持っていますが，一つ一つの1 Hz出力を見ると，最大で30.5 ppmの誤差を含むことになります。

それに対して，高精度1 Hz出力は時計誤差補正レジスタの補正値を使用し，$f_{IH}$で補正時間をカウントすることで，一つ一つの1 Hz出力を最小分解能0.96 ppmで補正して出力することができます[注]。

注　実際の高精度1 Hz出力には，$f_{IH}$の精度や補正時間カウント時の量子化誤差が含まれます。
高精度1 Hz出力を使用する場合は，高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）に24 MHzを選択かつ，高速オンチップ・オシレータを動作（HIOSTOP = 0）させてください。CPUクロックに選択する必要はありません。

# 第9章　サブシステム・クロック周波数測定回路

## 9. 1　サブシステム・クロック周波数測定回路

サブシステム・クロック周波数測定回路は，基準クロックを外部から入力することで，サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）の周波数測定を行うことができる機能です。

下記手法でサブシステム・クロック（$f_{SUB}$）の周波数測定を行うことで，温度センサを使用せずにRTCの時計誤差補正を行うことができます。

- 外付けの温度補償型水晶発振器（TCXO）から外部メイン・システム・クロック（$f_{EX}$）を基準クロックとして入力
- 温度特性が良好なATカット型振動子をX1, X2に接続することにより，X1発振クロック（$f_X$）を基準クロックとする

注意　サブシステム・クロック周波数測定回路は，動作クロックにサブシステム・クロック（$f_{SUB}$ = 32.768 kHz）を選択時（OSMCレジスタのWUTMMCK0 = “0”選択時）のみ使用できます。

## 9. 2　サブシステム・クロック周波数測定回路の構成

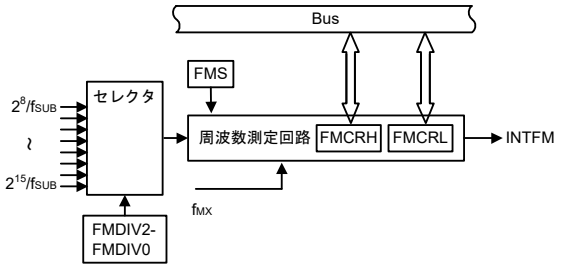
サブシステム・クロック周波数測定回路は，次のハードウエアで構成されています。

表9－1　サブシステム・クロック周波数測定回路の構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| カウンタ | カウンタ（32ビット） |
| 制御レジスタ | 周辺イネーブル・レジスタ1（PER1） |
| | サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC） |
| | 周波数測定カウント・レジスタL（FMCRL） |
| | 周波数測定カウント・レジスタH（FMCRH） |
| | 周波数測定コントロール・レジスタ（FMCTL） |

図9－1にサブシステム・クロック周波数測定回路のブロック図を示します。

図9－1　サブシステム・クロック周波数測定回路のブロック図



## 9. 3　サブシステム・クロック周波数測定回路を制御するレジスタ

サブシステム・クロック周波数測定回路は，次のレジスタで制御します。

・周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）
・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）
・周波数測定カウント・レジスタL（FMCRL）
・周波数測定カウント・レジスタH（FMCRH）
・周波数測定コントロール・レジスタ（FMCTL）

### 9. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）

PER1レジスタは，サブシステム・クロック周波数測定回路で使用するレジスタへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

ビット6（FMCEN）を1に設定することで，サブシステム・クロック周波数測定回路を制御するレジスタおよび，リアルタイム・クロック2を制御するレジスタのうち，時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）を設定可能になります。

PER1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図9－2　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のフォーマット

アドレス：F007AH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER1 | TMKAEN | FMCEN | CMPEN | OSDCEN | DTCEN | 0 | 0 | DSADCEN |

| FMCEN | サブシステム・クロック周波数測定回路の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路で使用するSFRへのライト不可<br>・リアルタイム・クロック2で使用するSUBCUDレジスタへのライト不可<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路はリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・サブシステム・クロック周波数測定回路で使用するSFRへのリード／ライト可<br>・リアルタイム・クロック2で使用するSUBCUDレジスタへのリード／ライト可 |

注意1.　時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）は，周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のRTCWEN = 1または，周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のFMCEN = 1のどちらかを設定することでリード／ライトが可能となります。

2.　ビット1, 2には必ず“0”を設定してください。

### 9. 3. 2　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）

OSMCレジスタは，不要なクロック機能を停止させることにより，低消費電力化することを目的としたレジスタです。

RTCLPCビットを1に設定すると，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時に，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのクロック供給を停止するので，消費電力を低減することが可能です。

また，OSMCレジスタではリアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，サブシステム・クロック周波数測定回路の動作クロックを選択できます。

OSMCレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図9－3　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のフォーマット

アドレス：F00F3H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSMC | RTCLPC | 0 | 0 | WUTMMCK0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| RTCLPC | STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の設定 |
|---|---|
| 0 | 周辺機能へのサブシステム・クロック供給許可<br>（動作許可となる周辺機能については，第24章　スタンバイ機能参照） |
| 1 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給停止 |

| WUTMMCK0 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの動作クロックの選択 | クロック出力／ブザー出力制御回路のPCLBUZn端子の出力クロックの選択および8ビット・インターバル・タイマの動作クロックの選択 | サブシステム・クロック周波数測定回路の動作 |
|---|---|---|---|
| 0 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択許可 | 許可 |
| 1 | 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択禁止 | 禁止 |

注意1.　RTCLPCビットを1に設定することで，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の消費電力を低減することができます。ただし，サブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時は，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へクロックを供給できなくなります。サブシステム・クロックでCPU動作中はHALTモードに設定する前に，周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のビット7（RTCWEN），周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のビット7（TMKAEN）は1に，PER0のビット0, 2, 3, PER1のビット5は0にしてください。

（注意は次ページに続きます。）

注意2.　サブシステム・クロック発振中は，サブシステム・クロックのみ選択できます（WUTMMCK0 = 0）。

3.　WUTMMCK0を“1”に設定すると低速オンチップ・オシレータ・クロックが発振します。

4.　WUTMMCK0を“1”に設定した場合，リアルタイム・クロック2の定周期割り込み機能のみ使用できます。年，月，曜日，日，時，分，秒のカウントおよび1 Hz出力機能は使用できません。

定周期割り込み間隔は，*定周期*（RTCC0レジスタで選択した値）×$f_{SUB}/f_{IL}$で算出されます。

### 9. 3. 3　周波数測定カウント・レジスタL（FMCRL）

周波数測定回路内の周波数測定カウント・レジスタ（FMCR）の下位16ビットを表します。

FMCRLレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により，FMCRLレジスタは0000Hになります。

図9－4　周波数測定カウント・レジスタL（FMCRL）のフォーマット

アドレス：F0312H　リセット時：0000H　　R

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| FMCRL | | | | | | | | | | | | | | | | |

注意1.　FMS = 1のとき，FMCRLの値をリードしないでください。

2.　周波数測定完了割り込み発生後，FMCRLの値をリードしてください。

### 9. 3. 4　周波数測定カウント・レジスタH（FMCRH）

周波数測定回路内の周波数測定カウント・レジスタFMCRの上位16ビットを表します。

FMCRHレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により，FMCRLレジスタは0000Hになります。

図9－5　周波数測定カウント・レジスタH（FMCRH）のフォーマット

アドレス：F0314H　リセット時：0000H　　R

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| FMCRH | | | | | | | | | | | | | | | | |

注意1.　FMS = 1のとき，FMCRHの値をリードしないでください。

2.　周波数測定完了割り込み発生後，FMCRHの値をリードしてください。

図9－6　周波数測定カウント・レジスタFMCR（FMCRH, FMCRL）

| | 31 | 16 | 15 | 0 |
|---|---|---|---|---|
| FMCR | FMCRH | | FMCRL | |

### 9. 3. 5　周波数測定コントロール・レジスタ（FMCTL）

FMCTLレジスタは，サブシステム・クロック周波数測定回路の動作を設定するレジスタです。周波数測定動作開始，周波数測定期間の設定を行います。

FMCTLレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FMCTLレジスタは00Hになります。

図9－7　周波数測定コントロール・レジスタ（FMCTL）のフォーマット

アドレス：F0316H　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| FMCTL | FMS | 0 | 0 | 0 | 0 | FMDIV2 | FMDIV1 | FMDIV0 |

| FMS | 周波数測定回路動作許可 | R/W |
|---|---|---|
| 0 | 周波数測定回路停止 | R/W |
| 1 | 周波数測定回路動作<br>動作クロックの立ち上がりによってカウントを開始し，次の動作クロックの立ち下がりによりカウントを停止します。 | |

| FMDIV2 | FMDIV1 | FMDIV0 | 周波数測定期間設定 | R/W |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | $2^8$ / $f_{SUB}$（7.8125 ms） | R/W |
| 0 | 0 | 1 | $2^9$ / $f_{SUB}$（15.625 ms） | |
| 0 | 1 | 0 | $2^{10}$ / $f_{SUB}$（31.25 ms） | |
| 0 | 1 | 1 | $2^{11}$ / $f_{SUB}$（62.5 ms） | |
| 1 | 0 | 0 | $2^{12}$ / $f_{SUB}$（0.125 s） | |
| 1 | 0 | 1 | $2^{13}$ / $f_{SUB}$（0.25 s） | |
| 1 | 1 | 0 | $2^{14}$ / $f_{SUB}$（0.5 s） | |
| 1 | 1 | 1 | $2^{15}$ / $f_{SUB}$（1 s） | |

注意　FMS = 1のとき，FMDIV2-FMDIV0ビットの設定を変更しないでください。

備考　周波数測定分解能は下記の計算式により算出できます。

・周波数測定分解能 = $10^6$/（周波数測定期間 [s] × 基準クロック周波数（$f_{MX}$）[Hz]）[ppm]

例1)　FMDIV2-FMDIV0 = 000B，$f_{MX}$ = 20 MHzのとき，測定分解能 = 6.4 ppm

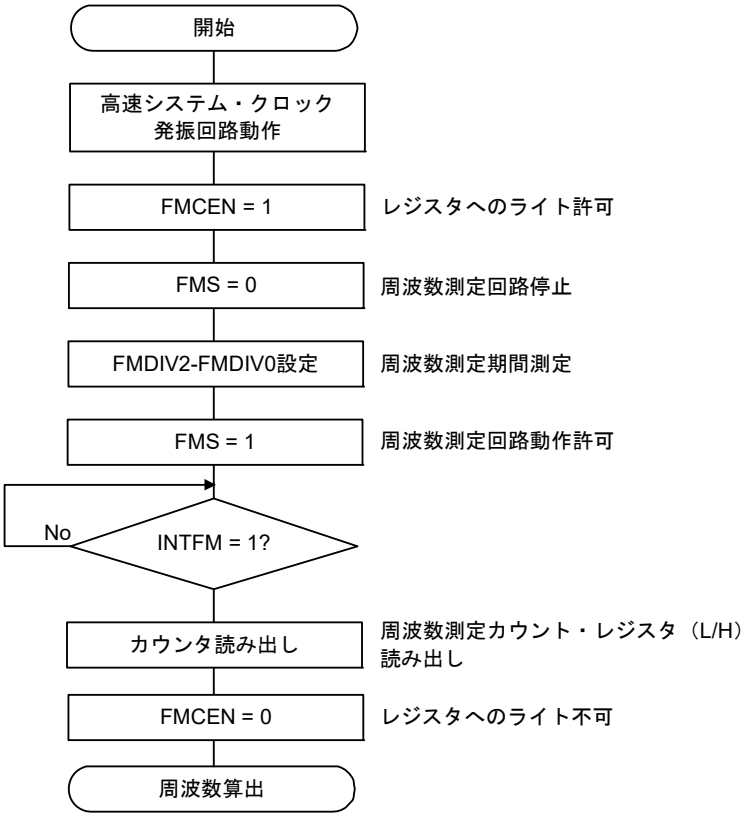
例2)　FMDIV2-FMDIV0 = 111B，$f_{MX}$ = 1 MHzのとき，測定分解能 = 1 ppm

# 9.4　サブシステム・クロック周波数測定回路の動作

## 9.4.1　基準クロックによるサブシステム・クロック周波数測定回路の設定

サブシステム・クロック周波数測定回路の設定は，最初にFMS = 0にしてから行ってください。

図9－8　基準クロックによるサブシステム・クロック周波数測定回路の設定手順




注意　周波数測定カウント・レジスタ（L/H）読み出し後は必ず，FMCEN = 0に設定してください。

$f_{SUB}$発振周波数は次の計算式により算出できます。

$$f_{SUB}\text{発振周波数} = \frac{\text{基準クロック周波数[Hz]} \times \text{動作トリガ分周比}}{\text{周波数測定カウント・レジスタ値（FMCR）}} \text{ [Hz]}$$

例えば，下記の条件にて周波数測定を行い，

- カウントクロック周波数　　：$f_{MX}$ = 10 MHz
- 周波数測定期間設定レジスタ　　：FMDIV2-FMDIV0 = 111B（動作トリガ分周比：$2^{15}$）

測定結果が下記であった場合

- 周波数測定カウント・レジスタ　：FMCR = 10000160 D

$f_{SUB}$発振周波数は次の値になる。

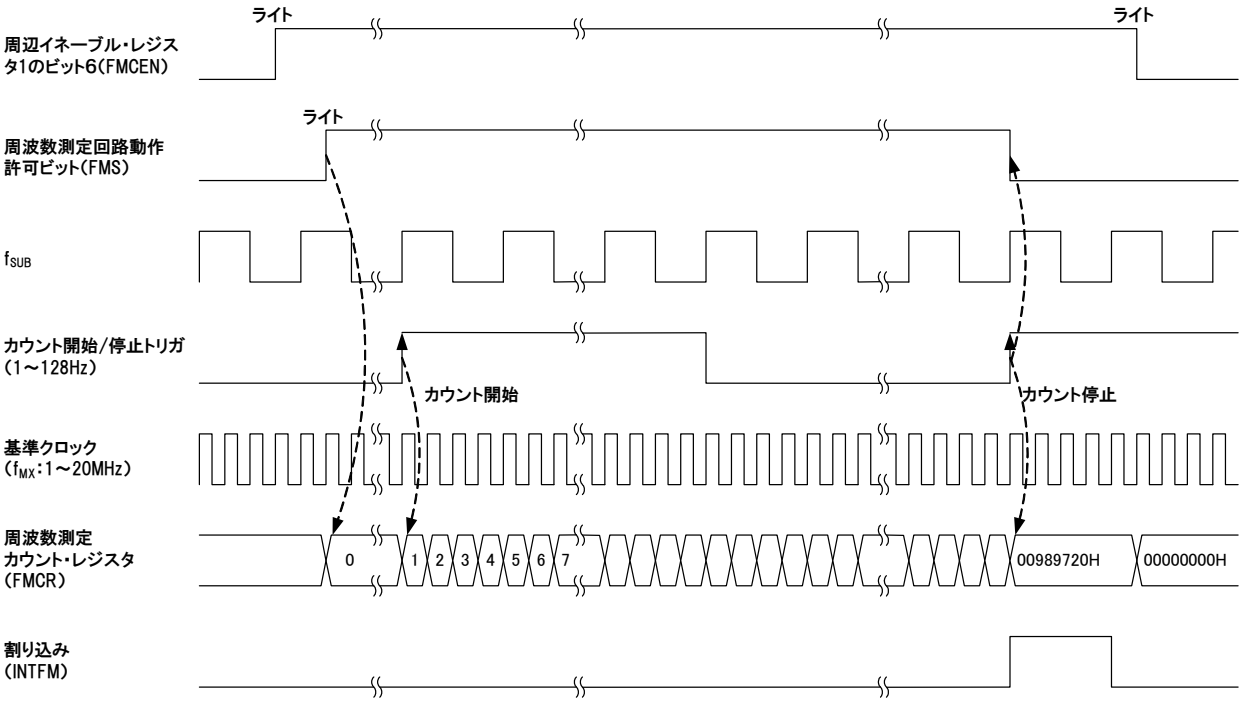
$$f_{SUB}\text{発振周波数} = \frac{(10 \times 10^6) \times 2^{15}}{10000160} = 32767.47572 \text{ [Hz]}$$

### 9.4.2　サブシステム・クロック周波数測定回路の動作タイミング

サブシステム・クロック周波数測定回路の動作は，図9－9のようなタイミングとなります。

周波数測定回路動作許可ビット（FMS）を“1”に設定後，周波数測定期間設定ビット（FMDIV2-FMDIV0）で設定したカウント開始トリガによってカウントを開始し，次のトリガでカウントを停止します。カウント停止後は，カウント値を保持し，周波数測定回路動作許可ビット（FMS）が“0”にリセットされます。周波数測定回路の動作が終了し，周波数測定カウント・レジスタ（L/H）読み出し後は，必ず周辺イネーブル・レジスタ1のビット6（FMCEN）を“0”に設定してください。また，$f_{SUB}$の1クロック分割り込みを発生します。

図9－9　サブシステム・クロック周波数測定回路の動作タイミング



# 第10章　12ビット・インターバル・タイマ

## 10. 1　12ビット・インターバル・タイマの機能

あらかじめ設定した任意の時間間隔で割り込み（INTIT）を発生します。STOPモードからのウエイク･アップや，A/DコンバータのSNOOZEモードのトリガに使えます。

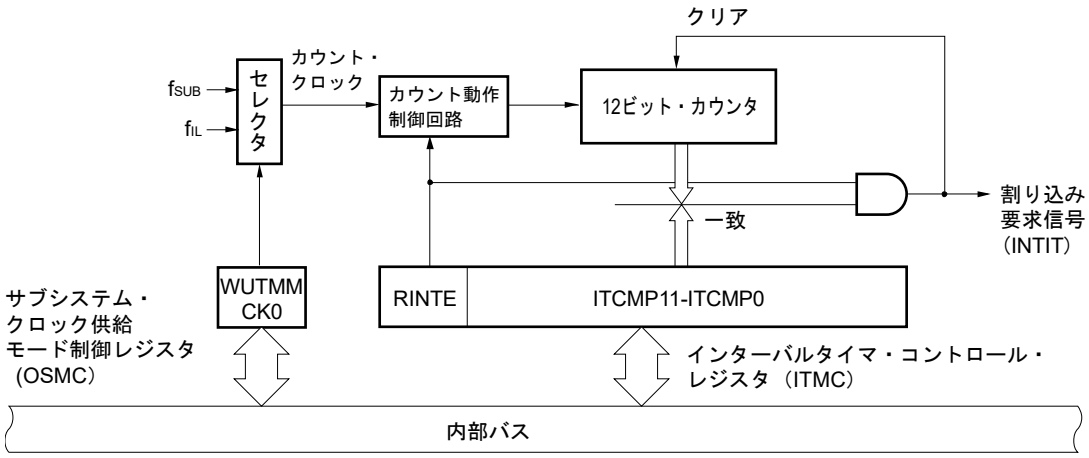
## 10. 2　12ビット・インターバル・タイマの構成

12ビット・インターバル・タイマは，次のハードウエアで構成されています。

表10－1　12ビット・インターバル・タイマの構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| カウンタ | 12ビット・カウンタ |
| 制御レジスタ | 周辺イネーブル・レジスタ1（PER1） |
| | サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC） |
| | 12ビット・インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ（ITMC） |

図10－1　12ビット・インターバル・タイマのブロック図



## 10. 3　12ビット・インターバル・タイマを制御するレジスタ

12ビット・インターバル・タイマは，次のレジスタで制御します。

・周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）
・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）
・12ビット・インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ（ITMC）

### 10. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）

PER1レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

12ビット・インターバル・タイマを使用するときは，必ずビット7（TMKAEN）を1に設定してください。

PER1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図10－2　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のフォーマット

アドレス：F007AH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER1 | TMKAEN | FMCEN | CMPEN | OSDCEN | DTCEN | 0 | 0 | DSADCEN |

| TMKAEN | 12ビット・インターバル・タイマの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのライト不可<br>・12ビット・インターバル・タイマはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意1.　12ビット・インターバル・タイマを使用する際には，カウント・クロックが発振安定した状態で，必ず最初にTMKAEN = 1の設定を行ってください。TMKAEN = 0の場合は，12ビット・インターバル・タイマの制御レジスタへの書き込みは無視され，読み出し値もすべて初期値となります。（サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）は除く）

2.　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のRTCLPC = 1に設定することにより，STOPモード時およびサブシステム・クロック時HALTモードで，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのクロック供給を停止することが可能です。

3.　ビット2, 1には必ず“0”を設定してください。

### 10. 3. 2　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）

OSMCレジスタは，不要なクロック機能を停止させることにより，低消費電力化することを目的としたレジスタです。

RTCLPC = 1に設定すると，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時に，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へのクロック供給を停止するので，消費電力を低減することが可能です。

また，OSMCレジスタではリアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバの動作クロックを選択できます。

OSMCレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図10－3　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のフォーマット

アドレス：F00F3H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSMC | RTCLPC | 0 | 0 | WUTMMCK0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| WUTMMCK0 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの動作クロックの選択 | クロック出力／ブザー出力制御回路のPCLBUZn端子の出力クロックの選択および8ビット・インターバル・タイマの動作クロックの選択 | サブシステム・クロック周波数測定回路の動作 |
|---|---|---|---|
| 0 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択許可 | 許可 |
| 1 | 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択禁止 | 禁止 |

注意1.　サブシステム・クロック発振中の場合は，必ずサブシステム・クロックを選択（WUTMMCK0ビット = 0）にしてください。

2.　WUTMMCK0を“1”に設定すると低速オンチップ・オシレータ・クロックが発振します。

3.　WUTMMCK0ビットによるサブシステム・クロックと低速オンチップ・オシレータ・クロックの切り替えは，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの全ての機能が動作停止中のみ可能です。

### 10. 3. 3　12ビット・インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ（ITMC）

12ビット・インターバル・タイマの動作停止／開始の設定とコンペア値を設定するレジスタです。

ITMCレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，0FFFHになります。

図10－4　12ビット・インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ（ITMC）のフォーマット

アドレス：FFF90H　リセット時：0FFFH　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11-0 |
|---|---|---|---|---|---|
| ITMC | RINTE | 0 | 0 | 0 | ITMCMP11-ITMCMP0 |

| RINTE | 12ビット・インターバル・タイマの動作制御 |
|---|---|
| 0 | カウンタ動作停止（カウント・クリア） |
| 1 | カウンタ動作開始 |

| ITMCMP11-ITMCMP0 | 12ビット・インターバル・タイマのコンペア値設定 |
|---|---|
| 001H | 「カウント・クロック周期×（ITMCMP設定値＋1）」の定周期割り込みを発生します。 |
| ・<br>・<br>・ | |
| FFFH | |
| 000H | 設定禁止 |

ITMCMP11-ITMCMP0 = 001H, FFFH設定時の割り込み周期例

・ITMCMP11-ITMCMP0 = 001H，カウント・クロック：$f_{SUB}$ = 32.768 kHz時

1/32.768 [kHz]×（1＋1）= 0.06103515625 [ms] ≒ 61.03 [μs]

・ITMCMP11-ITMCMP0 = FFFH，カウント・クロック：$f_{SUB}$ = 32.768 kHz時

1/32.768 [kHz]×（4095＋1）= 125 [ms]

注意1.　RINTEビットを1→0に変更する場合は，INTITを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。再度動作開始（0→1）する場合は，ITIFフラグをクリアしてから割り込み処理許可にしてください。

2.　RINTEビットのリード値は，RINTEビット設定後，カウント・クロックの1クロック後に反映されます。

3.　スタンバイ・モードから復帰後にRINTEビット設定して，再度スタンバイ･モードに移行する場合は，RINTEビットの書き込み値が反映されたことを確認するか，スタンバイ・モードの復帰からカウント・クロックの1クロック分の時間以上経過後に移行してください。

4.　ITMCMP11-ITMCMP0ビットの設定を変更する場合は，必ずRINTE = 0のときに行ってください。ただし，RINTE = 0→1または1→0に変更するのと同時にITMCMP11-ITMCMP0ビットの設定を変更することは可能です。

# 10. 4　12ビット・インターバル・タイマの動作

## 10. 4. 1　12ビット・インターバル・タイマの動作タイミング

ITMCMP11-ITMCMP0ビットに設定したカウント値をインターバルとし，繰り返し割り込み要求（INTIT）を発生する12ビット・インターバル・タイマとして動作します。

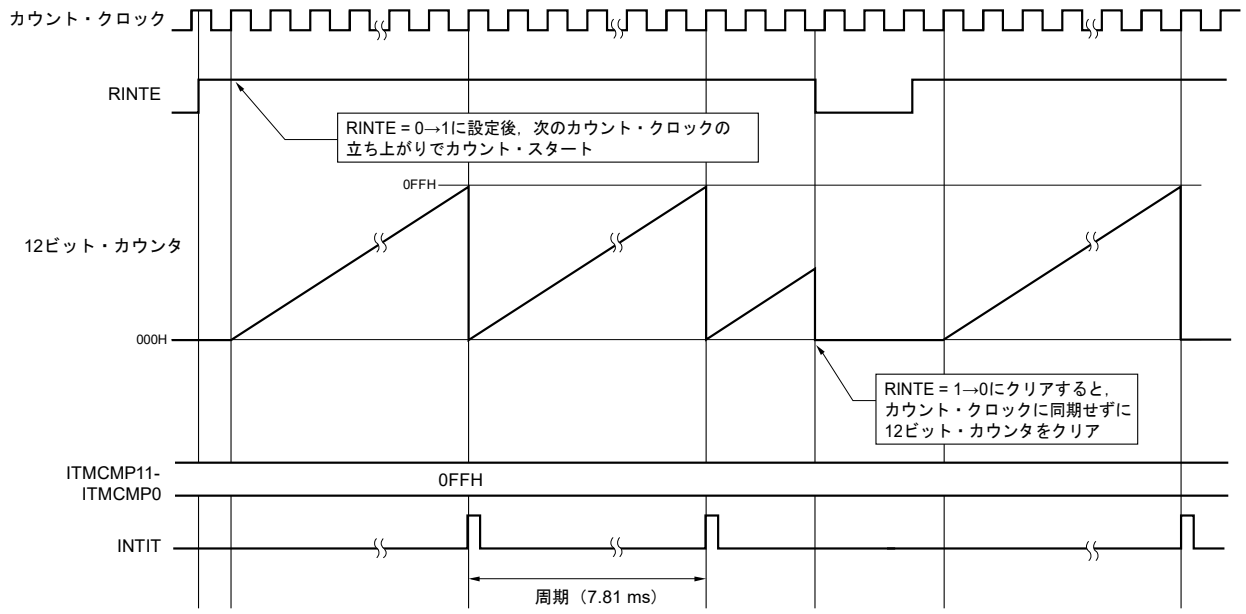
RINTEビットを1に設定すると，12ビット・カウンタがカウントを開始します。

12ビット・カウンタ値がITMCMP11-ITMCMP0ビットに設定した値と一致したとき，12ビット・カウンタの値を0にクリアしてカウントを継続すると同時に，割り込み要求信号（INTIT）を発生します。

12ビット・インターバル・タイマの基本動作を図10－5に示します。

図10－5　12ビット・インターバル・タイマ動作のタイミング

（ITMCMP11-ITMCMP0 = 0FFH，カウント・クロック：$f_{SUB}$ = 32.768 kHz）

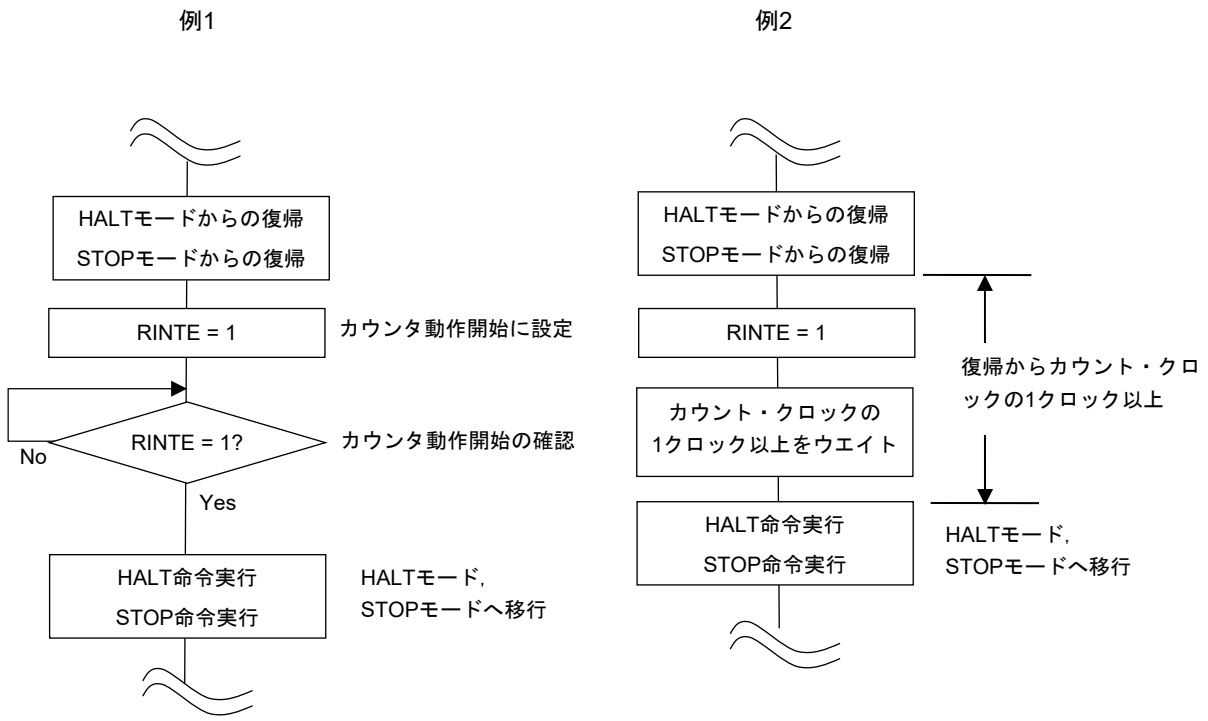


### 10. 4. 2　HALT/STOP モードから復帰後にカウンタ動作開始し，再度HALT/STOP モードへの移行

HALTモードもしくはSTOPモードから復帰後にRINTE = 1に設定し，再度HALTモード，STOPモードへ移行する場合は，RINTE = 1に設定してから，RINTEビットの書き込み値が反映されたことを確認するか，復帰からカウント・クロックの1クロック分以上経過後に移行してください。

・RINTE = 1に設定後，RINTEビットが1になるのをポーリングで確認後にHALTモード，STOPモードへ移行する（図10－6　例1参照）。
・RINTE = 1に設定してから，カウント・クロックの1クロック分以上経過後にHALTモード，STOPモードへ移行する（図10－6　例2参照）。

図10－6　RINTE = 1に設定後のHALTモード，STOPモードへの移行手順



# 第11章　8ビット・インターバル・タイマ

8ビット・インターバル・タイマは8ビット・タイマを2つ（チャネル0，チャネル1）持ち，それぞれが独立して動作します。また，2つの8ビット・タイマを連結動作させることで16ビット・タイマとして動作することができます。

8ビット・インターバル・タイマは同機能を持つ8ビット・インターバル・タイマ_0, 8ビット・インターバル・タイマ_1の2本内蔵されています。特に差異がない限り，本章では8ビット・インターバル・タイマとして説明します。

## 11.1　概要

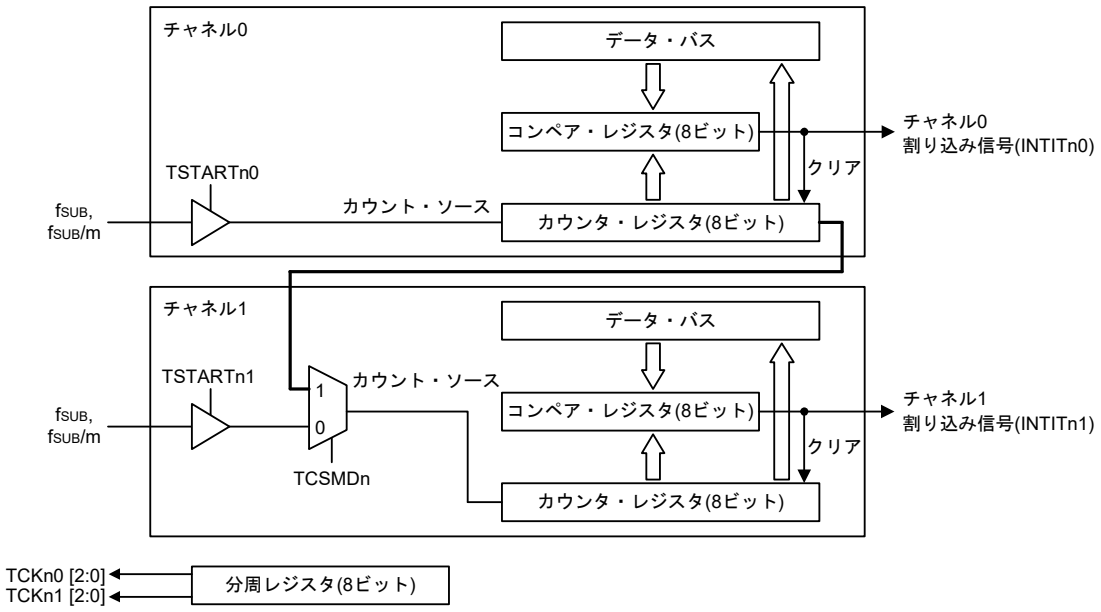
8ビット・インターバル・タイマはCPUと非同期の$f_{SUB}$クロックで動作する8ビット・タイマです。

表11－1に8ビット・インターバル・タイマの仕様を，図11－1に8ビット・インターバル・タイマのブロック図を示します。

表11－1　8ビット・インターバル・タイマの仕様

| 項　　目 | 内　　容 |
|---|---|
| カウント・ソース<br>（動作クロック） | • $f_{SUB}$，$f_{SUB}/2$，$f_{SUB}/4$，$f_{SUB}/8$，$f_{SUB}/16$，$f_{SUB}/32$，$f_{SUB}/64$，$f_{SUB}/128$ |
| 動作モード | • 8ビット・カウンタ・モード<br>チャネル0，チャネル1が独立した8ビット・カウンタとして動作するモード<br>• 16ビット・カウンタ・モード<br>チャネル0，チャネル1を連結して16ビット・カウンタとして動作するモード |
| 割り込み | • カウンタがコンペア値と一致したとき出力 |

図11－1　8ビット・インターバル・タイマのブロック図




TSTARTni (i = 0, 1), TCSMDn, TCLKENn: TRTCRnレジスタのビット
TCKni [2:0]: TRTMDnレジスタのビット
m = 2, 4, 8, 16, 32, 64, 128
n = 0, 1

## 11.2　入出力端子

8ビット・インターバル・タイマは入出力端子を持ちません。

## 11.3　レジスタの説明

表11－2に8ビット・インターバル・タイマのレジスター覧を示します。

表11－2　レジスター覧

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ00（TRT00）注1 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ01（TRT01）注1 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ0（TRT0）注2 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ00（TRTCMP00）注1 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ01（TRTCMP01）注1 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ0（TRTCMP0）注2 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタ0（TRTCR0） |
| | 8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタ0（TRTMD0） |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ10（TRT10）注1 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ11（TRT11）注1 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタ1（TRT1）注2 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ10（TRTCMP10）注1 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ11（TRTCMP11）注1 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタ1（TRTCMP1）注2 |
| | 8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタ1（TRTCR1） |
| | 8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタ1（TRTMD1） |

注1.　TRTCRnレジスタのTCSMDnビット ＝0のときのみアクセス可能です。

2.　TRTCRnレジスタのTCSMDnビット ＝1のときのみアクセス可能です。

備考　n = 0, 1

### 11. 3. 1　8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタni（TRTni）（n = 0, 1, i = 0, 1）

8ビット・インターバル・タイマのカウント・レジスタです。カウント・クロックによりカウント・アップするカウンタです。

TRTniレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図11–2　8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタni（TRTni）のフォーマット

アドレス：　F0540H (TRT00), F0541H (TRT01), F0548H (TRT10), F0549H (TRT11)　　リセット時：00H　R[注1, 2]

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TRTni | | | | | | | | |

注1.　TRTniレジスタはコンペア・レジスタTRTCMPniに書き込みアクセス後，カウント・クロックで2サイクル後00Hになります。詳細は「11. 4. 4　コンペア・レジスタ値の反映タイミング」を参照してください。

2.　8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn（TRTCRn）のモード選択ビット（TCSMDn）が0の場合のみアクセスが可能になります。

### 11. 3. 2　8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタn（TRTn）（n = 0, 1）

8ビット・インターバル・タイマを16ビット・インターバル・タイマ・モードで使用する場合の16ビットのカウント・レジスタです。

TRTnレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，0000Hになります。

図11－3　8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタn（TRTn）のフォーマット

アドレス：　F0540H (TRT0), F0548H (TRT1)　　リセット時：0000H　R[注1, 2]

F0541H (TRT01)　F0549H (TRT11)　　F0540H (TRT00)　F0548H (TRT10)

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TRTn | | | | | | | | | | | | | | | | |

注1.　TRTnレジスタはコンペア・レジスタTRTCMPnに書き込みアクセス後，カウント・クロックで2サイクル後に0000Hになります。詳細は「11. 4. 4　コンペア・レジスタ値の反映タイミング」を参照してください。

2.　8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn（TRTCRn）のモード選択ビット（TCSMDn）が1の場合のみアクセスが可能になります。

### 11. 3. 3　8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタni（TRTCMPni）（n = 0, 1, i = 0, 1）

8ビット・インターバル・タイマのコンペア値レジスタです。

TRTCMPniレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります。

設定範囲は01H～FFH[注1]です。

TRTn0, TRTn1レジスタ（カウンタ）との比較値を格納します。

ライト・アクセスによりカウント値（TRT0, TRT1）を00Hにクリアします。

コンペア値の書き換えタイミングは，「11. 4. 4　コンペア・レジスタ値の反映タイミング」を参照してください。

図11－4　8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタni（TRTCMPni）のフォーマット

アドレス：　F0350H (TRTCMP00), F0351H (TRTCMP01),　リセット時：FFH　R/W[注2]
F0358H (TRTCMP10), F0359H (TRTCMP11)

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TRTCMPni | | | | | | | | |

注1.　TRTCMPniレジスタの00H設定は禁止です。

2.　8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn（TRTCRn）のモード選択ビット（TCSMDn）が0の場合のみアクセスが可能になります。

### 11. 3. 4　8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタn（TRTCMPn）（n = 0, 1）

8ビット・インターバル・タイマを16ビット・インターバル・タイマ・モードで使用する場合のコンペア値レジスタです。

TRTCMPnレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFFFHになります。

設定範囲は0001H～FFFFH[注1]です。

TRTnレジスタ（カウンタ）との比較値を格納します。

ライト・アクセスによりカウント値（TRTn）を0000Hにクリアします。

コンペア値の書き換えタイミングは，「11. 4. 4　コンペア・レジスタ値の反映タイミング」を参照してください。

図11－5　8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタn（TRTCMPn）のフォーマット

アドレス：　F0350H (TRTCMP0), F0358H (TRTCMP1)　リセット時：FFFFH　R/W[注2]

| | F0351H (TRTCMP01)<br>F0359H (TRTCMP11) | | | | | | | | F0350H (TRTCMP00)<br>F0358H (TRTCMP10) | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| TRTCMPn | | | | | | | | | | | | | | | | |

注1.　TRTCMPnレジスタの0000H設定は禁止です。

2.　8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn（TRTCRn）のモード選択ビット（TCSMDn）が1の場合のみアクセスが可能になります。

### 11. 3. 5 8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn（TRTCRn）（n = 0, 1）

8ビット・インターバル・タイマのカウント停止／開始の設定と8ビット・カウンタ/16ビット・カウンタ動作の切替えを設定するレジスタです。

TRTCRnレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図11－6 8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn（TRTCRn）のフォーマット

アドレス： F0352H (TRTCR0), F035AH (TRTCR1) リセット時：00H R/W[注3]

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TRTCRn | TCSMDn | 0 | 0 | TCLKENn | 0 | TSTARTn1 | 0 | TSTARTn0 |

| TCSMDn | モード選択 |
|---|---|
| 0 | 8ビット・カウンタとして動作 |
| 1 | 16ビット・カウンタとして動作(チャネル0，チャネル1を連結) |
| 詳細は「11. 4 動作説明」を参照 | |

| TCLKENn | 8ビット・インターバル・タイマ・クロック許可[注1] |
|---|---|
| 0 | クロック停止 |
| 1 | クロック供給 |

| TSTARTn1 | 8ビット・インターバル・タイマ1カウント開始[注1, 2] |
|---|---|
| 0 | カウント停止 |
| 1 | カウント開始 |
| 8ビット・インターバル・タイマ・モードでは，TSTARTn1ビットに1を書くことによりTRTn1がカウントを開始し，0を書くことによりカウントを停止します。<br>16ビット・インターバル・タイマ・モードでは，未使用のため無効になります。詳細は「11. 4 動作説明」を参照。 | |

| TSTARTn0 | 8ビット・インターバル・タイマ0カウント開始[注1, 2] |
|---|---|
| 0 | カウント停止 |
| 1 | カウント開始 |
| 8ビット・インターバル・タイマ・モードでは，TSTARTn0ビットに1を書くことによりTRTn0がカウントを開始し，0を書くことによりカウントを停止します。<br>16ビット・インターバル・タイマ・モードでは，TSTARTn0ビットに1を書くことによりTRTnがカウントを開始し，0を書くことによりカウントを停止します。詳細は「11. 4 動作説明」を参照。 | |

注1. 8ビット・インターバル・タイマを設定する際には，必ず最初にTCLKENnビットを1に設定してください。クロックを停止させる場合，TSTARTn0およびTSTARTn1に0を設定後，$f_{SUB}$で1サイクル以上経過後にTCLKENnビットに0を設定してください。詳細は「11. 5. 3 8ビット・インターバル・タイマ設定手順について」を参照してください。

2. TSTARTn0，TSTARTn1，TCSMDnビットの使用上の注意は「11. 5. 1 動作モードおよびクロック設定変更について」を参照してください。

3. ビット6, 5, 3, 1は，Read Onlyです。ライトする場合は，0を書き込んでください。リードする場合は，0が読み込まれます。

### 11. 3. 6　8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタn（TRTMDn）（n = 0, 1）

8ビット・インターバル・タイマのカウント・ソースの分周比選択を設定するレジスタです。

TRTMDnレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図11－7　8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタn（TRTMDn）のフォーマット

アドレス：　F0353H (TRTMD0), F035BH (TRTMD1)　　リセット時：00H　　R/W[注4]

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TRTMDn | 0 | TCKn1 | | | 0 | TCKn0 | | |

| TCKn1 | | | 8ビット・インターバル・タイマ1分周比選択[注1, 2, 3] |
|---|---|---|---|
| ビット6 | ビット5 | ビット4 | |
| 0 | 0 | 0 | $f_{SUB}$ |
| 0 | 0 | 1 | $f_{SUB}/2$ |
| 0 | 1 | 0 | $f_{SUB}/4$ |
| 0 | 1 | 1 | $f_{SUB}/8$ |
| 1 | 0 | 0 | $f_{SUB}/16$ |
| 1 | 0 | 1 | $f_{SUB}/32$ |
| 1 | 1 | 0 | $f_{SUB}/64$ |
| 1 | 1 | 1 | $f_{SUB}/128$ |
| 8ビット・インターバル・タイマ・モードでは，TCKn1に設定したカウント・クロックによりTRTn1がカウントします。<br>16ビット・インターバル・タイマ・モードでは，使用しないため“000B”に設定してください。<br>詳細は「11. 4　動作説明」を参照 | | | |

| TCKn0 | | | 8ビット・インターバル・タイマ0分周比選択[注1, 2, 3] |
|---|---|---|---|
| ビット2 | ビット1 | ビット0 | |
| 0 | 0 | 0 | $f_{SUB}$ |
| 0 | 0 | 1 | $f_{SUB}/2$ |
| 0 | 1 | 0 | $f_{SUB}/4$ |
| 0 | 1 | 1 | $f_{SUB}/8$ |
| 1 | 0 | 0 | $f_{SUB}/16$ |
| 1 | 0 | 1 | $f_{SUB}/32$ |
| 1 | 1 | 0 | $f_{SUB}/64$ |
| 1 | 1 | 1 | $f_{SUB}/128$ |
| 8ビット・インターバル・タイマ・モードでは，TCKn0に設定したカウント・クロックによりTRTn0がカウントします。<br>16ビット・インターバル・タイマ・モードでは，TCKn0に設定したカウント・クロックによりTRTnがカウントします。<br>詳細は「11. 4　動作説明」を参照 | | | |

注1.　カウント中にカウント・ソースの切り替えをしないでください。カウント・ソースを切替えるときは，TRTCRnレジスタのTSTARTniビットが0（カウント停止）の時に，設定してください。

2.　未使用チャネルのTCKni（i = 0, 1）は000Bに設定してください。

3.　TCKni（i = 0, 1）ビットは，必ずTRTCMPniレジスタの設定前に設定してください。

4.　ビット7, 3は，Read Onlyです。ライトする場合は，0を書き込んでください。リードする場合は，0が読み込まれます。

# 11. 4　動作説明

## 11. 4. 1　カウンタ・モード

8ビット・カウンタ・モード/16ビット・カウンタ・モードの2種類のモードを持ちます。表11－3に8ビット・カウンタ・モード，表11－4に16ビット・カウンタ・モード時の使用レジスタと設定値を示します。

表11－3　8ビット・カウンタ・モード時の使用レジスタと設定値

| レジスタ名（シンボル） | ビット | 機能 |
|---|---|---|
| 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタn0 (TRTn0) | b7～b0 | チャネル0側の8ビット・カウンタ。<br>カウント値が読み出せます。 |
| 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタn1 (TRTn1) | b7～b0 | チャネル1側の8ビット・カウンタ。<br>カウント値が読み出せます。 |
| 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタn0 (TRTCMPn0) | b7～b0 | チャネル0側の8ビットコンペア値。<br>コンペア値を設定してください。 |
| 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタn1 (TRTCMPn1) | b7～b0 | チャネル1側の8ビットコンペア値。<br>コンペア値を設定してください。 |
| 8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn (TRTCRn) | TSTARTn0 | チャネル0側のカウント開始/停止を選択してください。 |
| | TSTARTn1 | チャネル1側のカウント開始/停止を選択してください。 |
| | TCLKENn | 1に設定してください。 |
| | TCSMDn | 0に設定してください。 |
| 8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタn (TRTMDn) | TCKn0 | チャネル0側のカウント･クロックを選択してください。 |
| | TCKn1 | チャネル1側のカウント･クロックを選択してください。 |

備考　n = 0, 1

表11－4　16ビット・カウンタ・モード時の使用レジスタと設定値

| レジスタ名（シンボル） | ビット | 機能 |
|---|---|---|
| 8ビット・インターバル・タイマ・カウンタ・レジスタn (TRTn) | b15～b0 | 16ビット・カウンタ。<br>カウント値が読み出せます。 |
| 8ビット・インターバル・タイマ・コンペア・レジスタn (TRTCMPn) | b15～b0 | 16ビットコンペア値。<br>コンペア値を設定してください。 |
| 8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタn (TRTCRn) | TSTARTn0 | カウント開始/停止制御を選択してください。 |
| | TSTARTn1 | 0に設定してください。 |
| | TCLKENn | 1に設定してください。 |
| | TCSMDn | 1に設定してください。 |
| 8ビット・インターバル・タイマ分周レジスタn (TRTMDn) | TCKn0 | カウント・クロックを選択してください。 |
| | TCKn1 | 000Bに設定してください。 |

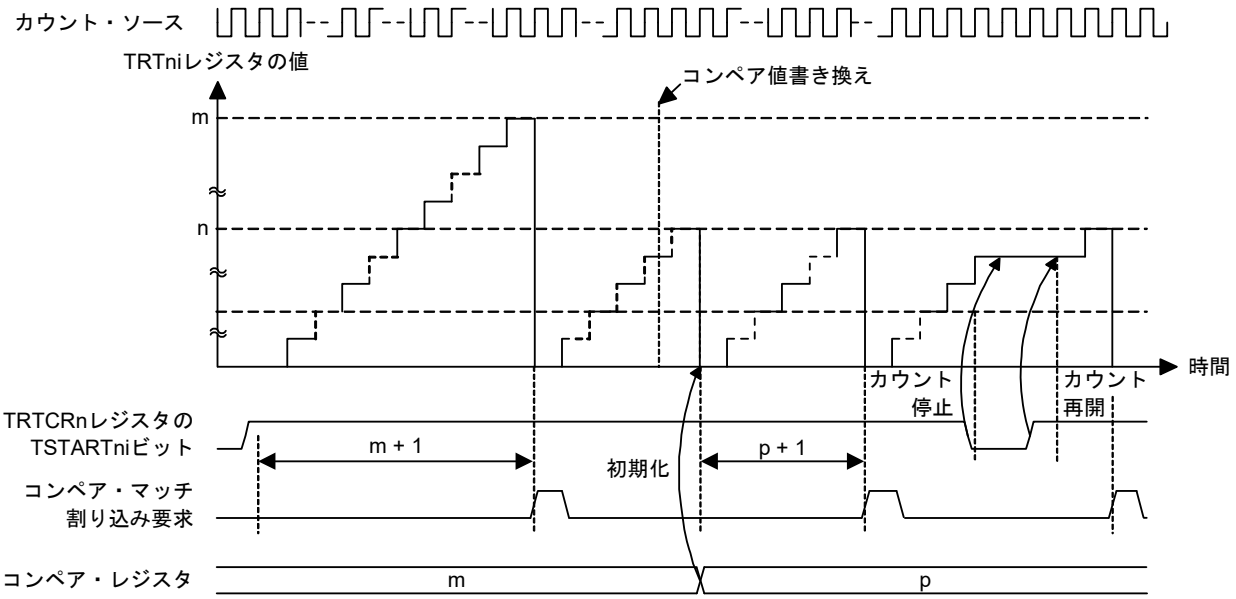
備考　n = 0, 1

### 11. 4. 2　タイマ動作

分周レジスタ（TRTMDn）のTCKni（n = 0, 1, i = 0, 1）ビットにより選択されたカウント・ソースで，アップ・カウントします。カウント・ソースが入力されるごとにカウント値が1だけ増加し，カウント値がコンペア値になったのち，次のカウント・ソースが入力されるとコンペア・マッチし，割り込み要求を発生します。割り込み要求はカウント・ソース同期の1パルスで出力されます。ただし，TRTCRnレジスタのTSTARTn1ビットを0に設定し，カウント値が00Hで停止した場合は，割り込み要求が発生し続けます。

また，動作停止時には停止直前のカウンタ値を保持し続けます。カウント値をクリアする場合は，TRTCMPniレジスタのコンペア値を再設定してください。TRTCMPniレジスタに書き込み後，カウント・ソースで2サイクル後にカウント値がクリアされます。

図11－8　タイマ動作例




備考　n = 0, 1, i = 0, 1　　m, p：TRTCMPniレジスタの設定値

ただし，カウント動作開始時の最初の00Hカウント期間は，TRTCRレジスタのTSTARTni（i = 0, 1）ビットに1を書き込むタイミングにより，下記のように可変します。

- カウント・ソース（$f_{SUB}$）選択時
  最大：カウント・ソースで２サイクル
  最小：カウント・ソースで1サイクル
- カウント・ソース（$f_{SUB}/2^m$）選択時
  最大：カウント・ソース1サイクル
  最小：サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）1サイクル

カウント値がコンペア値と一致した場合，次のカウント・ソースでカウント値はクリアされます。また，TRTCMPniレジスタのコンペア値を書き換えた場合も，書き込み後カウント・ソースで2サイクル後にカウント値がクリアされます。

8/16ビット・カウンタ・モード時割り込み要因を表11－5に示します。

表11－5　8/16ビット・カウンタ・モード時割り込み要因

| 割り込み名称 | 8ビット・カウンタ・モード<br>割り込み要因 | 16ビット・カウンタ・モード<br>割り込み要因 |
|---|---|---|
| INTITn0 | チャネル0コンペアマッチ後，次のカウント・ソースの立ち上がり | コンペアマッチ後，次のカウント・ソースの立ち上がり |
| INTITn1 | チャネル1コンペアマッチ後，次のカウント・ソースの立ち上がり | 未発生 |

備考　n = 0, 1

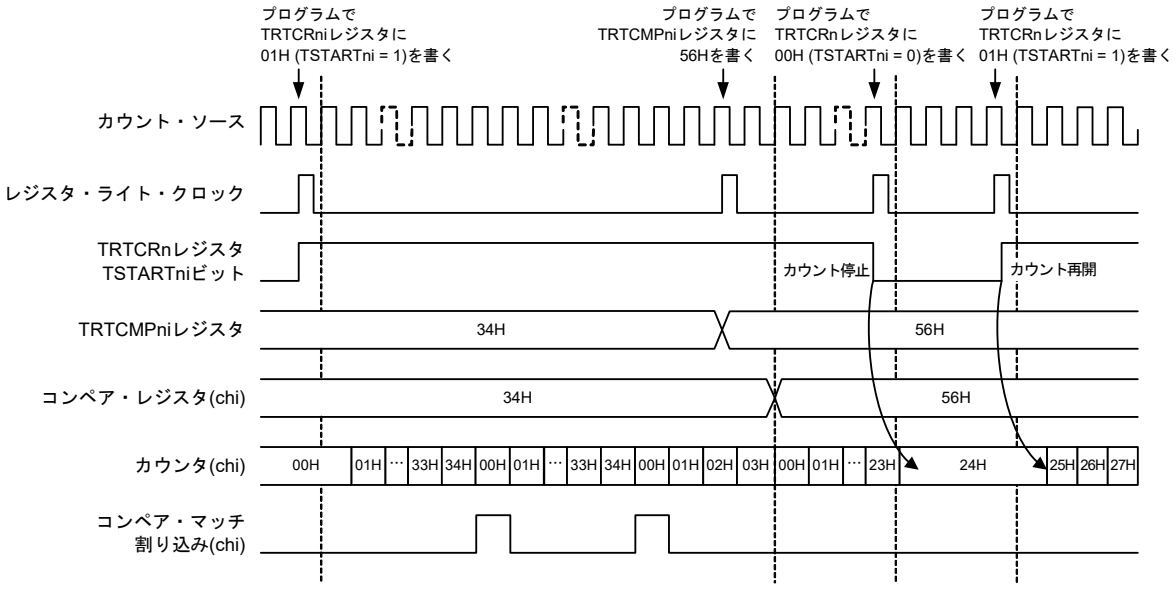
### 11. 4. 3　開始/停止タイミング

（1）カウント・ソース（$f_{SUB}$）選択時

TRTCRnレジスタのTSTARTni（n = 0, 1, i = 0, 1）ビットに1を書き込み後，次のサブシステム・クロック（$f_{SUB}$）でカウントが開始され，その次のカウント・ソース（$f_{SUB}$）でカウンタが00Hから01Hにカウント・アップされます。同様に，TSTARTniビットに0を書き込み後，サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）でカウント・アップ後にカウントが停止します。

カウント動作の開始/停止タイミングを図11－9，カウント停止→コンペア値設定（カウント・クリア）→カウント開始のタイミングを図11－10に示します。図11－9，図11－10は，8ビット・カウンタ・モード時の反映タイミングですが，16ビット・カウンタ・モードでも同タイミングの動作となります。

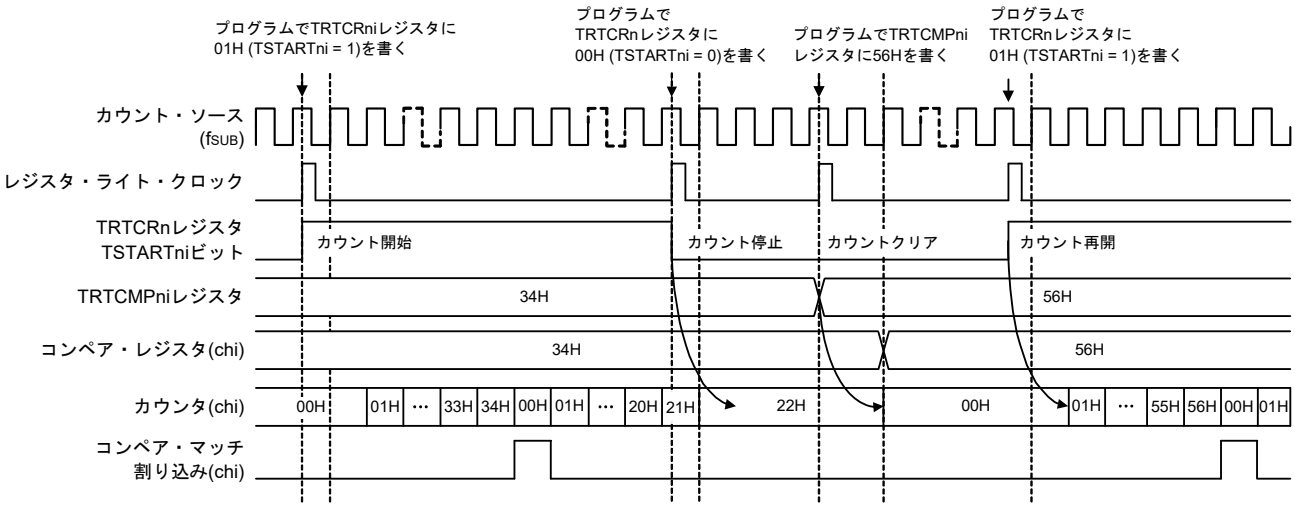
図11－9　カウント開始/停止動作例（$f_{SUB}$選択時）




TRTCRnレジスタのTCSMDnビットが0（8ビット・カウンタ動作）

備考　n = 0, 1, i = 0, 1

図11－10　カウント停止→カウント・クリア→カウント再開動作例（$f_{SUB}$選択時）




TRTCRnレジスタのTCSMDnビットが0（8ビット・カウンタ動作）

備考　n = 0, 1, i = 0, 1

（2）カウント・ソース（$f_{SUB}/2^m$）選択時

TRTCRnレジスタのTSTARTni（n = 0, 1, i = 0, 1）ビットに1を書き込み後，次のサブシステム・クロック（$f_{SUB}$）でカウントが開始され，その次のカウント・ソース（$f_{SUB}/2^m$）でカウンタが00Hから01Hにカウント・アップされます。同様に，TSTARTniビットに0を書き込み後，サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）でカウント・アップ後にカウントが停止します。

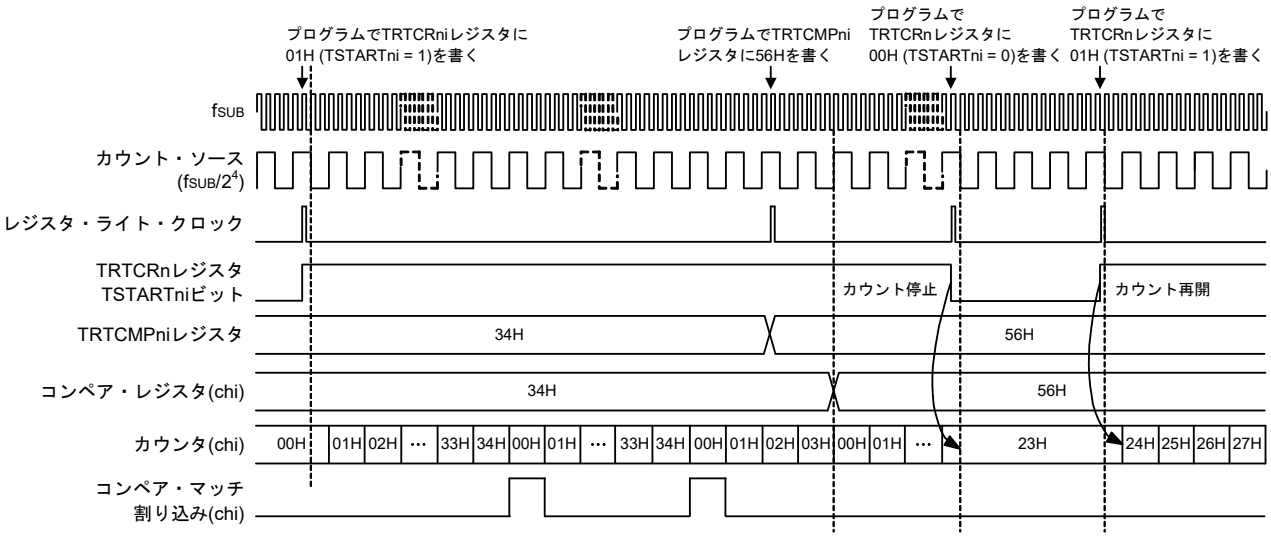
ただし，タイマ・カウント開始時の最初の00H カウント期間は，TSTARTniビットの書き込みタイミングと次のカウント・ソースのタイミングによって次のようにカウント・ソース1サイクルよりも短くなります。

最小：サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）1サイクル

最大：カウント・ソース1サイクル

カウント動作の開始/停止タイミングを図11－11，カウント停止→コンペア・レジスタ設定（カウント・クリア）→カウント開始のタイミングを図11－12に示します。図11－11，図11－12は，8ビット・カウンタ・モード時の反映タイミングですが，16ビット・カウンタ・モードでも同タイミングの動作となります。

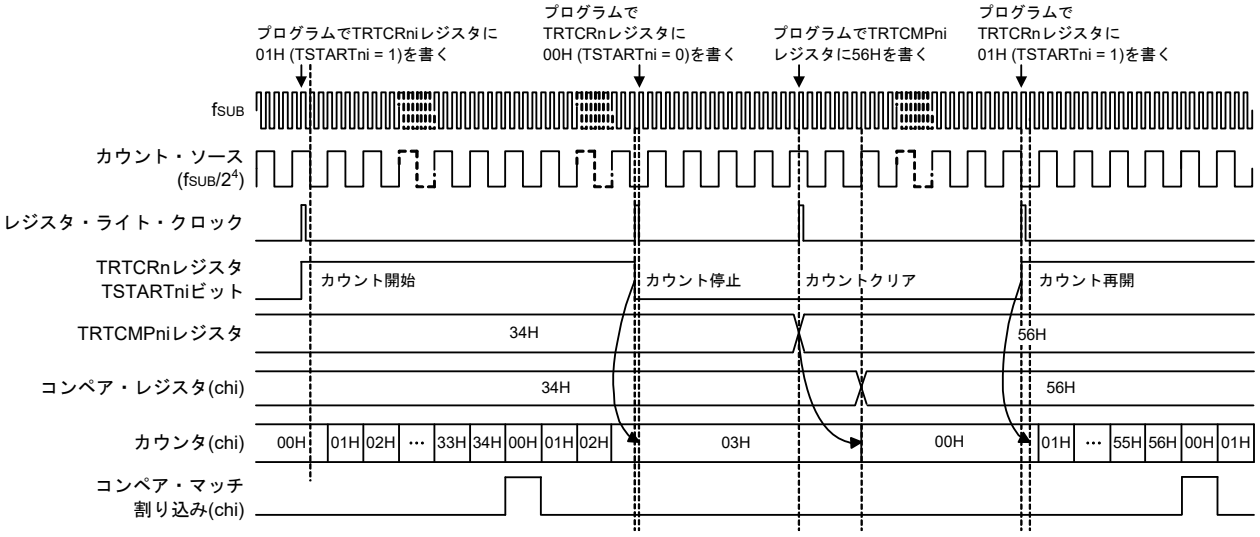
図11－11　カウント開始/停止動作例（$f_{SUB}$選択時）




TRTCRnレジスタのTCSMDnビットが0（8ビット・カウンタ動作）

備考　n = 0, 1, i = 0, 1

図11－12　カウント停止→カウント・クリア→カウント開始動作例（$f_{SUB}/2^m$選択時）




TRTCRnレジスタのTCSMDnビットが0（8ビット・カウンタ動作）

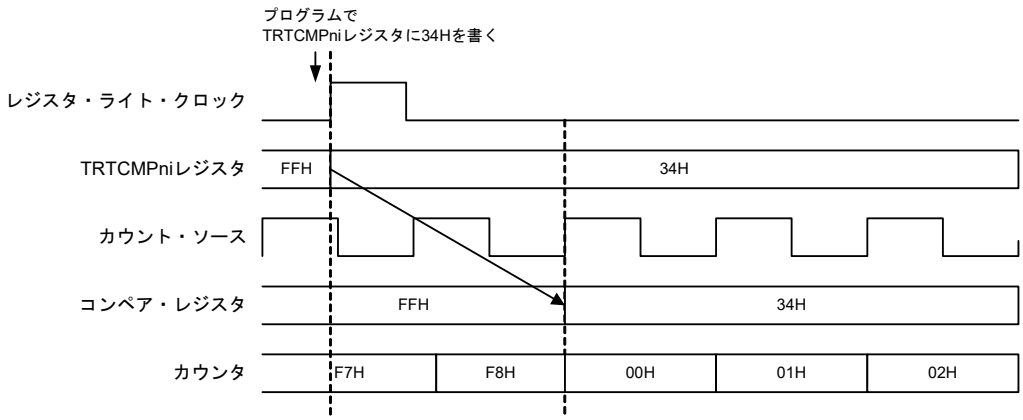
備考　n = 0, 1,  i = 0, 1

### 11. 4. 4　コンペア・レジスタ値の反映タイミング

TRTCMPni（n = 0, 1, i = 0, 1）レジスタの値が反映されるタイミングはTRTCRnレジスタのTSTARTniビットの値によらず，同じタイミングとなります。TRTCMPniへの書き込みアクセス後，カウント・ソースで2サイクル後にコンペア・レジスタに格納されます。コンペア・レジスタ格納時にカウント値はクリア（8ビット・カウンタ・モードでは00H，16ビット・カウンタ・モードでは0000H）されます。

図11－13に書き換え動作のタイミング図を示します。図11－13は，8ビット・カウンタ・モード時の反映タイミングですが，16ビット・カウンタ・モードでも同タイミングの動作となります。

図11－13　コンペア値書き換え動作のタイミング図




備考　n = 0, 1, i = 0, 1

## 11. 5　8ビット・インターバル・タイマの注意事項

### 11. 5. 1　動作モードおよびクロック設定変更について

TCSMDnビット，TCKni（n = 0, 1, i = 0, 1）ビットの設定変更は，TRTCRnレジスタのTSTARTniビットが0（カウント停止）中に設定してください。また，TSTARTniビットを1から0に書き換え後（カウント停止），8ビット・インターバル・タイマ関連レジスタ（TRTCRn, TRTMDn）にアクセスする場合，$f_{SUB}$で1サイクル以上経過後にアクセスしてください。

### 11. 5. 2　コンペア・レジスタへのアクセスについて

同一のコンペア・レジスタ（TRTCMPn0，TRTCMPn1，TRTCMPn）に連続して書き込みしないでください。連続して書くときは，書き込み間隔をカウント・ソースの2サイクル以上空けてください。

また，コンペア・レジスタ（TRTCMPn0, TRTCMPn1, TRTCMPn）への書き込みは，必ずカウント・ソースが発振している状態で，8ビット・インターバル・タイマ・クロック許可ビット（TCLKENn）を1に設定した後に書き込みを実施してください。

### 11. 5. 3　8ビット・インターバル・タイマ設定手順について

クロックを供給する場合，最初に8ビット・インターバル・タイマ制御レジスタ（TRTCRn）の8ビット・インターバル・タイマ・クロック許可ビット（TCLKENn）を1に設定した後に，TSTARTniビットを設定してください。（TCLKENn, TSTARTniビットを同時に変更しないでください。）

クロックを停止させる場合，TSTARTniを0に設定した後，$f_{SUB}$で1サイクル以上経過後にTCLKENnビットを0に設定してください。

# 第12章　クロック出力／ブザー出力制御回路

## 12. 1　クロック出力／ブザー出力制御回路の機能

クロック出力は周辺ICに供給するクロックを出力する機能です。また，ブザー出力はブザー周波数の方形波を出力する機能です。

1つの端子で，クロック出力用とブザー出力用のいずれかを選択して出力できます。

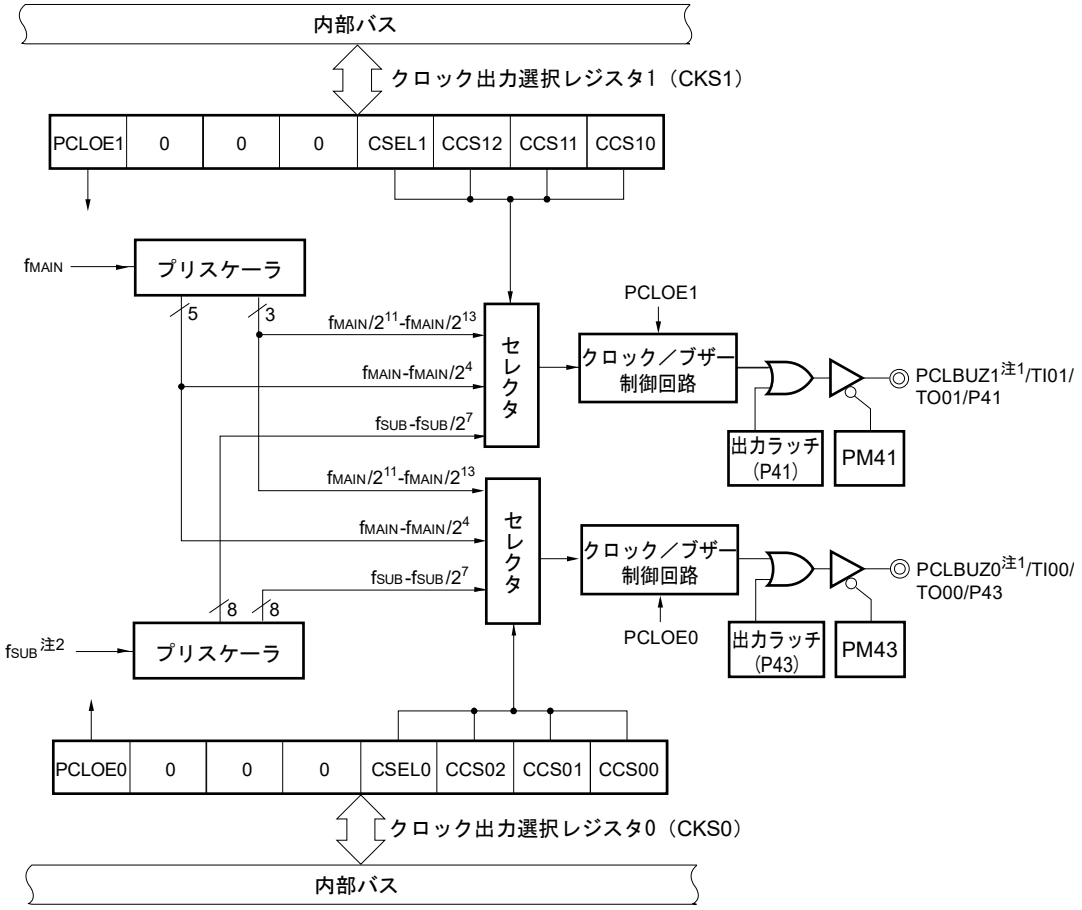
PCLBUZn端子は，クロック出力選択レジスタn（CKSn）で選択したクロックを出力します。

図12－1にクロック出力／ブザー出力制御回路のブロック図を示します。

注意　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のRTCLPC ＝ 1かつサブシステム・クロック（$f_{SUB}$）でCPU動作中のHALTモード時は，PCLBUZn端子から，サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）を出力することはできません。

備考　n = 0, 1

図12－1　クロック出力／ブザー出力制御回路のブロック図




注1.　PCLBUZ0, PCLBUZ1端子から出力可能な周波数は，37. 4　AC特性を参照してください。

2.　OSMCレジスタのWUTMMCK0 = 1設定時に，クロック出力／ブザー出力の出力クロックとして$f_{SUB}$を選択することは禁止です。

備考　この図のクロック出力／ブザー出力端子は，PIOR3 = 0の場合です。

## 12. 2　クロック出力／ブザー出力制御回路の構成

クロック出力／ブザー出力制御回路は，次のハードウエアで構成されています。

表12－1　クロック出力／ブザー出力制御回路の構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | クロック出力選択レジスタn（CKSn）<br>ポート・モード・レジスタ3, 4（PM3, PM4）<br>ポート・レジスタ3, 4（P3, P4） |

## 12. 3　クロック出力／ブザー出力制御回路を制御するレジスタ

### 12. 3. 1　クロック出力選択レジスタn（CKSn）

クロック出力またはブザー周波数出力の端子（PCLBUZn）の出力許可／禁止，および出力クロックを設定するレジスタです。

CKSnレジスタで，PCLBUZn端子の出力するクロックを選択します。

CKSnレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図12－2　クロック出力選択レジスタn（CKSn）のフォーマット

アドレス：FFFA5H（CKS0），FFFA6H（CKS1）　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CKSn | PCLOEn | 0 | 0 | 0 | CSELn | CCSn2 | CCSn1 | CCSn0 |

| PCLOEn | PCLBUZn端子の出力許可／禁止の指定 |
|---|---|
| 0 | 出力禁止（デフォルト） |
| 1 | 出力許可 |

| CSELn | CCSn2 | CCSn1 | CCSn0 | PCLBUZn端子の出力クロックの選択 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | $f_{MAIN}$ = 5 MHz | $f_{MAIN}$ = 10 MHz | $f_{MAIN}$ = 20 MHz | $f_{MAIN}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 0 | $f_{MAIN}$ | 5 MHz | 10 MHz注1 | 設定禁止注1 | 設定禁止注1 |
| 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{MAIN}/2$ | 2.5 MHz | 5 MHz | 10 MHz注1 | 12 MHz注1 |
| 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{MAIN}/2^2$ | 1.25 MHz | 2.5 MHz | 5 MHz | 6 MHz |
| 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{MAIN}/2^3$ | 625 kHz | 1.25 MHz | 2.5 MHz | 3 MHz |
| 0 | 1 | 0 | 0 | $f_{MAIN}/2^4$ | 312.5 kHz | 625 kHz | 1.25 MHz | 1.5 MHz |
| 0 | 1 | 0 | 1 | $f_{MAIN}/2^{11}$ | 2.44 kHz | 4.88 kHz | 9.77 kHz | 11.7 kHz |
| 0 | 1 | 1 | 0 | $f_{MAIN}/2^{12}$ | 1.22 kHz | 2.44 kHz | 4.88 kHz | 5.86 kHz |
| 0 | 1 | 1 | 1 | $f_{MAIN}/2^{13}$ | 610 Hz | 1.22 kHz | 2.44 kHz | 2.93 kHz |
| 1 | 0 | 0 | 0 | $f_{SUB}$注2 | 32.768 kHz | | | |
| 1 | 0 | 0 | 1 | $f_{SUB}/2$注2 | 16.384 kHz | | | |
| 1 | 0 | 1 | 0 | $f_{SUB}/2^2$注2 | 8.192 kHz | | | |
| 1 | 0 | 1 | 1 | $f_{SUB}/2^3$注2 | 4.096 kHz | | | |
| 1 | 1 | 0 | 0 | $f_{SUB}/2^4$注2 | 2.048 kHz | | | |
| 1 | 1 | 0 | 1 | $f_{SUB}/2^5$注2 | 1.024 kHz | | | |
| 1 | 1 | 1 | 0 | $f_{SUB}/2^6$注2 | 512 Hz | | | |
| 1 | 1 | 1 | 1 | $f_{SUB}/2^7$注2 | 256 Hz | | | |

注1.　出力クロックは，16 MHz以内の範囲で使用してください。詳しくは，37. 4　AC特性を参照してください。

2.　OSMCレジスタのWUTMMCK0 = 1設定時に，クロック出力／ブザー出力の出力クロックとして$f_{SUB}$を選択することは禁止です。

注意1.　出力クロックの切り替えは，出力禁止（PCLOEn = 0）にしてから行ってください。

2.　メイン・システム・クロック選択時（CSELn = 0）にSTOPモードに移行する場合は，STOP命令前にPCLOEn = 0にしてください。サブシステム・クロック選択時（CSELn = 1）は，STOPモード時にクロック出力が可能なためPCLOEn = 1に設定可能です。

3.　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のRTCLPC ＝ 1かつサブシステム・クロック（$f_{SUB}$）でCPU動作中のHALTモード時は，PCLBUZn端子から，サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）を出力することはできません。

備考1.　n = 0, 1

2.　$f_{MAIN}$ ：メイン・システム・クロック周波数

$f_{SUB}$ ：サブシステム・クロック周波数

### 12. 3. 2　クロック出力／ブザー出力端子のポート機能を制御するレジスタ

クロック出力／ブザー出力機能として使用する時は，対象チャネルと兼用するポート機能を制御するレジスタ（ポート・モード・レジスタ（PMxx），ポート・レジスタ（Pxx））を設定してください。詳細は，4. 3. 1 ポート・モード・レジスタ（PMxx），4. 3. 2 ポート・レジスタ（Pxx）を参照してください。

クロック出力／ブザー出力端子を兼用するポート（P43/TI00/TO00/PCLBUZ0, P41/TI01/TO01/PCLBUZ1）をクロック出力／ブザー出力として使用するときは，各ポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットおよびポート・レジスタ（Pxx）のビットに0を設定してください。

例）P43/TI00/TO00/PCLBUZ0をクロック出力／ブザー出力として使用する場合
ポート・モード・レジスタ4のPM43ビットを0に設定
ポート・レジスタ4のP43ビットを0に設定
タイマ・アレイ・ユニットのチャネル0を使用しない設定

## 12. 4　クロック出力／ブザー出力制御回路の動作

1つの端子で，クロック出力用とブザー出力用のいずれかを選択して出力できます。

PCLBUZ0端子は，クロック出力選択レジスタ0（CKS0）で選択したクロック／ブザーを出力します。

PCLBUZ1端子は，クロック出力選択レジスタ1（CKS1）で選択したクロック／ブザーを出力します。

### 12. 4. 1　出力端子の動作

PCLBUZn端子は，次の手順で出力します。

① PCLBUZn端子として使用するポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）およびポート・レジスタ（Pxx）のビットに0を設定する。

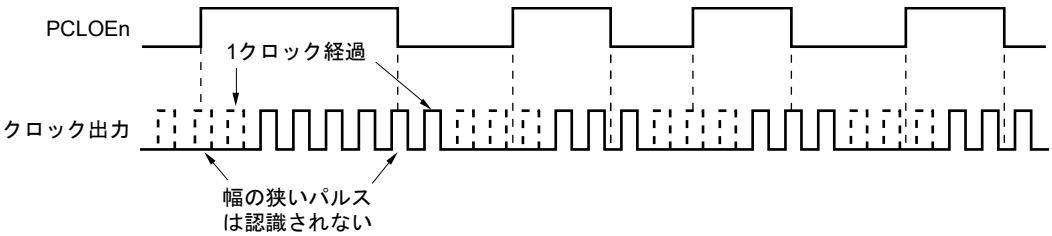
② PCLBUZn端子のクロック出力選択レジスタ（CKSn）のビット0-3（CCSn0-CCSn2，CSELn）で出力周波数を選択する（出力は禁止の状態）。

③ CKSnレジスタのビット7（PCLOEn）に1を設定し，クロック出力／ブザー出力を許可する。

備考1.　クロック出力用として使用するときの制御回路は，クロック出力の出力許可／禁止（PCLOEnビット）を切り替えてから1クロック後にクロック出力を開始／停止します。このとき幅の狭いパルスは出力されません。PCLOEnビットによる出力の許可／停止とクロック出力のタイミングを図12－3に示します。

2.　n = 0, 1

図12－3　PCLBUZn端子からのクロック出力のタイミング




## 12. 5　クロック出力／ブザー出力制御回路の注意事項

PCLBUZn出力にメイン・システム・クロックを選択（CSELn = 0）している場合は，出力停止設定（PCLOEn = 0）にしてからPCLBUZn端子の出力クロックの1.5クロック以内にSTOPモードへ移行すると，PCLBUZnの出力幅が短くなります。

# 第13章　ウォッチドッグ・タイマ

## 13. 1　ウォッチドッグ・タイマの機能

ウォッチドッグ・タイマは，オプション・バイト（000C0H）でカウント動作を設定します。

ウォッチドッグ・タイマは低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$）で動作します。

ウォッチドッグ・タイマはプログラムの暴走を検出するために使用します。暴走検出時，内部リセット信号を発生します。

次の場合，プログラムの暴走と判断します。

・ウォッチドッグ・タイマ・カウンタがオーバフローした場合
・ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）に1ビット操作命令を使用した場合
・WDTEレジスタに“ACH”以外のデータを書き込んだ場合
・ウインドウ・クローズ期間中にWDTEレジスタにデータを書き込んだ場合

ウォッチドッグ・タイマによるリセットが発生した場合，リセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF）のビット4（WDTRF）がセット（1）されます。RESFレジスタの詳細については第25章　リセット機能を参照してください。

また，オーバフロー時間の75%＋1/2$f_{IL}$到達時にインターバル割り込みを発生することもできます。

## 13. 2　ウォッチドッグ・タイマの構成

ウォッチドッグ・タイマは，次のハードウエアで構成されています。

表13－1　ウォッチドッグ・タイマの構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| カウンタ | 内部カウンタ（17ビット） |
| 制御レジスタ | ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE） |

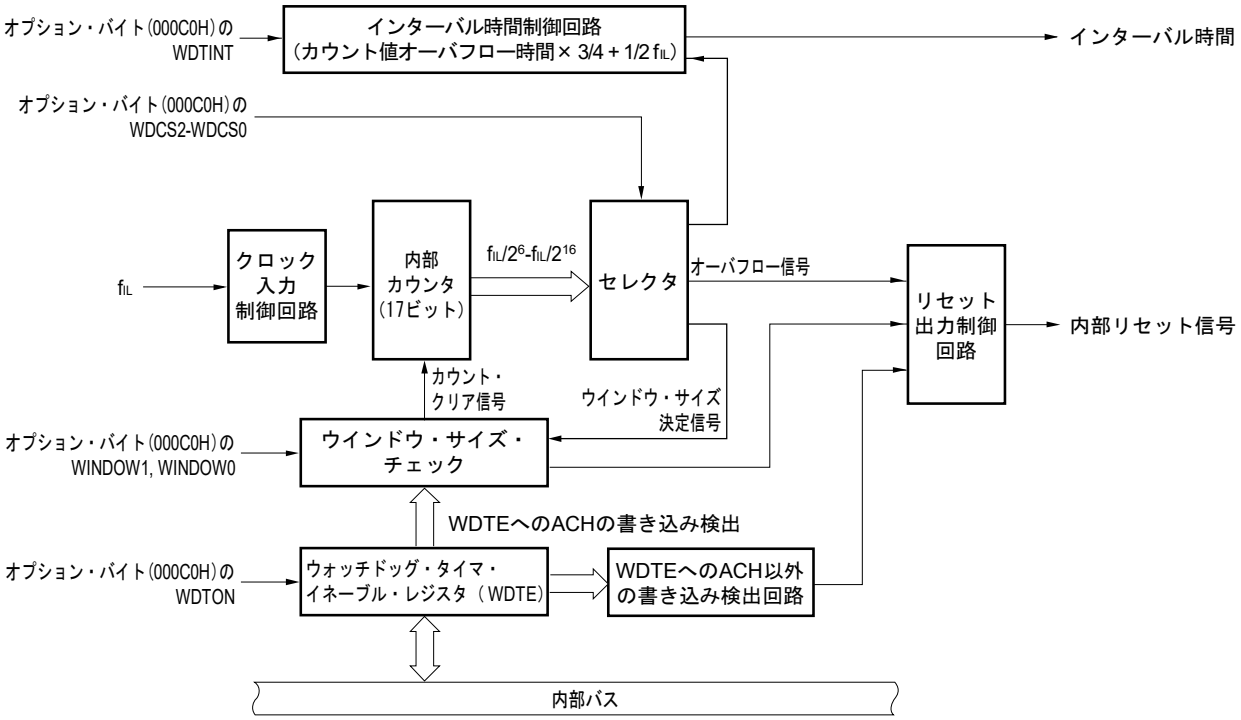
また，オプション・バイトで，カウンタの動作制御，オーバフロー時間の設定，ウインドウ・オープン期間の設定，インターバル割り込みの設定を行います。

表13－2　オプション・バイトとウォッチドッグ・タイマの設定内容

| ウォッチドッグ・タイマの設定内容 | オプション・バイト（000C0H） |
|---|---|
| ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定 | ビット7（WDTINT） |
| ウインドウ・オープン期間設定 | ビット6, 5（WINDOW1, WINDOW0） |
| ウォッチドッグ・タイマのカウンタ動作制御 | ビット4（WDTON） |
| ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間設定 | ビット3-1（WDCS2- WDCS0） |
| ウォッチドッグ・タイマのカウンタ動作制御（HALT/STOPモード時） | ビット0（WDSTBYON） |

備考　オプション・バイトについては，第32章　オプション・バイトを参照してください。

図13－1　ウォッチドッグ・タイマのブロック図




備考　fIL：低速オンチップ・オシレータ・クロック

## 13. 3　ウォッチドッグ・タイマを制御するレジスタ

ウォッチドッグ・タイマは，ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）で制御します。

### 13. 3. 1　ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）

WDTEレジスタに“ACH”を書き込むことにより，ウォッチドッグ・タイマのカウンタをクリアし，再びカウント開始します。

WDTEレジスタは8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，9AHまたは1AH注になります。

図13－2　ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）のフォーマット

アドレス：FFFABH　リセット時：9AH／1AH注　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| WDTE | | | | | | | | |

注　WDTEレジスタのリセット値は，オプション･バイト（000C0H）のWDTONビットの設定値によって，異なります。ウォッチドッグ・タイマを動作する場合は，WDTONビットに1を設定してください。

| WDTONビットの設定値 | WDTEレジスタのリセット値 |
|---|---|
| 0（ウォッチドッグ・タイマのカウント動作禁止） | 1AH |
| 1（ウォッチドッグ・タイマのカウント動作許可） | 9AH |

注意1.　WDTEレジスタに“ACH”以外の値を書き込んだ場合，内部リセット信号を発生します。

2.　WDTEレジスタに1ビット・メモリ操作命令を実行した場合，内部リセット信号を発生します。

3.　WDTEレジスタのリード値は，“9AH／1AH”（書き込んだ値（“ACH”）とは異なる値）になります。

# 13. 4　ウォッチドッグ・タイマの動作

## 13. 4. 1　ウォッチドッグ・タイマの動作制御

1. ウォッチドッグ・タイマを使用する場合，オプション・バイト（000C0H）で次の内容を設定します。

・オプション・バイト（000C0H）のビット4（WDTON）を1に設定し，ウォッチドッグ・タイマのカウント動作を許可（リセット解除後，カウンタは動作開始）にしてください（詳細は，第32章を参照）。

| WDTON | ウォッチドッグ・タイマのカウンタ |
|---|---|
| 0 | カウント動作禁止（リセット解除後，カウント停止） |
| 1 | カウント動作許可（リセット解除後，カウント開始） |

・オプション・バイト（000C0H）のビット3-1（WDCS2-WDCS0）で，オーバフロー時間を設定してください（詳細は，13. 4. 2および第32章を参照）。

・オプション・バイト（000C0H）のビット6, 5（WINDOW1, WINDOW0）で，ウインドウ・オープン期間を設定してください（詳細は，13. 4. 3および第32章を参照）。

2. リセット解除後，ウォッチドッグ・タイマはカウント動作を開始します。
3. カウント動作開始したあと，オプション・バイトで設定したオーバフロー時間前に，ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）に“ACH”を書き込むことにより，ウォッチドッグ・タイマはクリアされ，再度カウント動作を開始します。
4. 以後，リセット解除後2回目以降のWDTEレジスタへの書き込みについては，ウインドウ・オープン期間中に行ってください。ウインドウ・クローズ期間中に書き込んだ場合，内部リセット信号を発生します。
5. WDTEレジスタに“ACH”を書き込まずに，オーバフロー時間を越えてしまった場合は，内部リセット信号を発生します。
   また，次の場合も，内部リセット信号を発生します。

・WDTEレジスタに1ビット操作命令を使用した場合

・WDTEレジスタに“ACH”以外のデータを書き込んだ場合

注意1. リセット解除後1回目のウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）への書き込みだけは，ウインドウ・オープン時間に関係なく，オーバフロー時間前であればどのタイミングで行ってもウォッチドッグ・タイマはクリアされ，再度カウント動作を開始します。

2. WDTEレジスタに“ACH”を書き込んでから，ウォッチドッグ・タイマのカウンタがクリアされるまで，最大$f_{IL}$の2クロックの誤差が生じる場合があります。
3. ウォッチドッグ・タイマのクリアは，カウント値がオーバフローする直前まで有効です。

注意4.　オプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON）の設定値により，ウォッチドッグ・タイマのHALT，STOP，およびSNOOZEモード時の動作は，次のように異なります。

| | WDSTBYON = 0 | WDSTBYON = 1 |
|---|---|---|
| HALTモード時 | ウォッチドッグ・タイマ動作停止 | ウォッチドッグ・タイマ動作継続 |
| STOPモード時 | | |
| SNOOZEモード時 | | |

WDSTBYON = 0の場合，HALTおよびSTOPモード解除後は，ウォッチドッグ・タイマのカウントを再開します。このとき，カウンタはクリア（0）して，カウント開始します。
STOPモード解除後にX1発振クロックで動作する場合は，CPUは発振安定時間経過後に動作を開始します。
そのため，STOPモード解除後からウォッチドッグ・タイマがオーバフローするまでの時間が短いと，発振安定時間中にオーバフローしてリセットが発生します。
よって，インターバル割り込みによるSTOPモード解除後にX1発振クロックで動作し，ウォッチドッグ・タイマをクリアする場合は，発振安定時間経過後にクリアすることになるため，その時間を考慮してオーバフロー時間を設定してください。

### 13. 4. 2　ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定

ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間は，オプション・バイト（000C0H）のビット3-1（WDCS2-WDCS0）で設定します。

オーバフロー時は，内部リセット信号を発生します。オーバフロー時間前の，ウインドウ・オープン期間中にウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）に“ACH”を書き込むことにより，カウントはクリアされ，再度カウント動作を開始します。

設定可能なオーバフロー時間を次に示します。

表13－3　ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定

| WDCS2 | WDCS1 | WDCS0 | ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間（$f_{IL}$ = 17.25 kHz（MAX.）の場合） |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | $2^6/f_{IL}$（3.71 ms） |
| 0 | 0 | 1 | $2^7/f_{IL}$（7.42 ms） |
| 0 | 1 | 0 | $2^8/f_{IL}$（14.84 ms） |
| 0 | 1 | 1 | $2^9/f_{IL}$（29.68 ms） |
| 1 | 0 | 0 | $2^{11}/f_{IL}$（118.72 ms） |
| 1 | 0 | 1 | $2^{13}/f_{IL}$（474.89 ms） |
| 1 | 1 | 0 | $2^{14}/f_{IL}$（949.79 ms） |
| 1 | 1 | 1 | $2^{16}/f_{IL}$（3799.18 ms） |

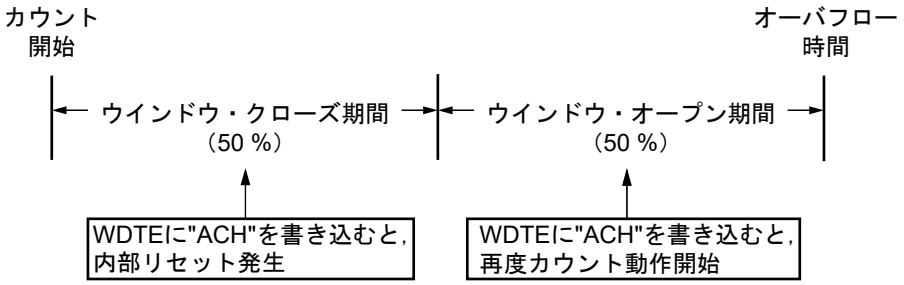
備考　$f_{IL}$：低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

### 13. 4. 3　ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間の設定

ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間は，オプション・バイト（000C0H）のビット6，5（WINDOW1, WINDOW0）で設定します。ウインドウの概要は次のとおりです。

・ウインドウ・オープン期間中は，ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）に“ACH”を書き込むと，ウォッチドッグ・タイマをクリアし，再度カウント動作を開始します。
・ウインドウ・クローズ期間中は，WDTEレジスタに“ACH”を書き込んでも，異常検出され，内部リセットを発生します。

例　ウインドウ・オープン期間が50 %の場合




注意　リセット解除後1回目のWDTEレジスタへの書き込みだけは，ウインドウ・オープン時間に関係なく，オーバフロー時間前であればどのタイミングで行ってもウォッチドッグ・タイマはクリアされ，再度カウント動作を開始します。

設定可能なウインドウ・オープン期間を次に示します。

表13－4　ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間の設定

| WINDOW1 | WINDOW0 | ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 設定禁止 |
| 0 | 1 | 50 % |
| 1 | 0 | 75 % |
| 1 | 1 | 100 % |

注意　オプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON）= 0のときは，WINDOW1，WINDOW0ビットの値に関係なく，ウインドウ・オープン期間100%となります。

備考　オーバフロー時間を$2^9/f_{IL}$に設定した場合，ウインドウ・クローズ時間とオープン時間は，次のようになります。

| | ウインドウ・オープン期間の設定 | | |
|---|---|---|---|
| | 50 % | 75 % | 100 % |
| ウインドウ・クローズ時間 | 0～20.08 ms | 0～10.04 ms | なし |
| ウインドウ・オープン時間 | 20.08～29.68 ms | 10.04～29.68 ms | 0～29.68 ms |

<ウインドウ・オープン期間50 %のとき>

・オーバフロー時間：

$2^9/f_{IL}$ (MAX.) = $2^9$ /17.25 kHz = 29.68 ms

・ウインドウ・クローズ時間：

0～$2^9/f_{IL}$ (MIN.) ×（1－0.5）= 0～$2^9$/12.75 kHz ×0.5 = 0～20.08 ms

・ウインドウ・オープン時間：

$2^9/f_{IL}$ (MIN.) ×（1－0.5）～$2^9/f_{IL}$ (MAX.) = $2^9$/12.75 kHz ×0.5～$2^9$ /17.25 kHz

= 20.08～29.68 ms

### 13. 4. 4　ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定

オプション・バイト（000C0H）のビット7（WDTINT）の設定により，オーバフロー時間の75%＋1/2$f_{IL}$到達時にインターバル割り込み（INTWDTI）を発生することができます。

表13－5　ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定

| WDTINT | ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの使用／不使用 |
|---|---|
| 0 | インターバル割り込みを使用しない |
| 1 | オーバフロー時間の75%＋1/2$f_{IL}$到達時にインターバル割り込みを発生する |

注意　STOPモード解除後にX1発振クロックで動作する場合は，CPUは発振安定時間経過後に動作を開始します。

そのため，STOPモード解除後からウォッチドッグ・タイマがオーバフローするまでの時間が短いと，発振安定時間中にオーバフローしてリセットが発生します。

よって，インターバル割り込みによるSTOPモード解除後にX1発振クロックで動作し，ウォッチドッグ・タイマをクリアする場合は，発振安定時間経過後にクリアすることになるため，その時間を考慮してオーバフロー時間を設定してください。

備考　INTWDTI発生後も（ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）にACHを書き込むまで）カウントを継続します。オーバフロー時間までにACHが書き込まれない場合は，内部リセット信号を発生します。

# 第14章　A/Dコンバータ

A/Dコンバータのアナログ入力チャネル数は，製品によって異なります。

| | 80ピン | 100ピン |
|---|---|---|
| アナログ入力チャネル | 4ch<br>(ANI0-ANI3) | 6ch<br>(ANI0-ANI5) |

## 14. 1　A/Dコンバータの機能

A/Dコンバータは，アナログ入力をデジタル値に変換するコンバータで，最大6チャネルのA/Dコンバータ・アナログ入力（ANI0-ANI5）を制御できる構成になっています。A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のADTYPビットにより，10ビット分解能と8ビット分解能を選択できます。

A/Dコンバータには，次のような機能があります。

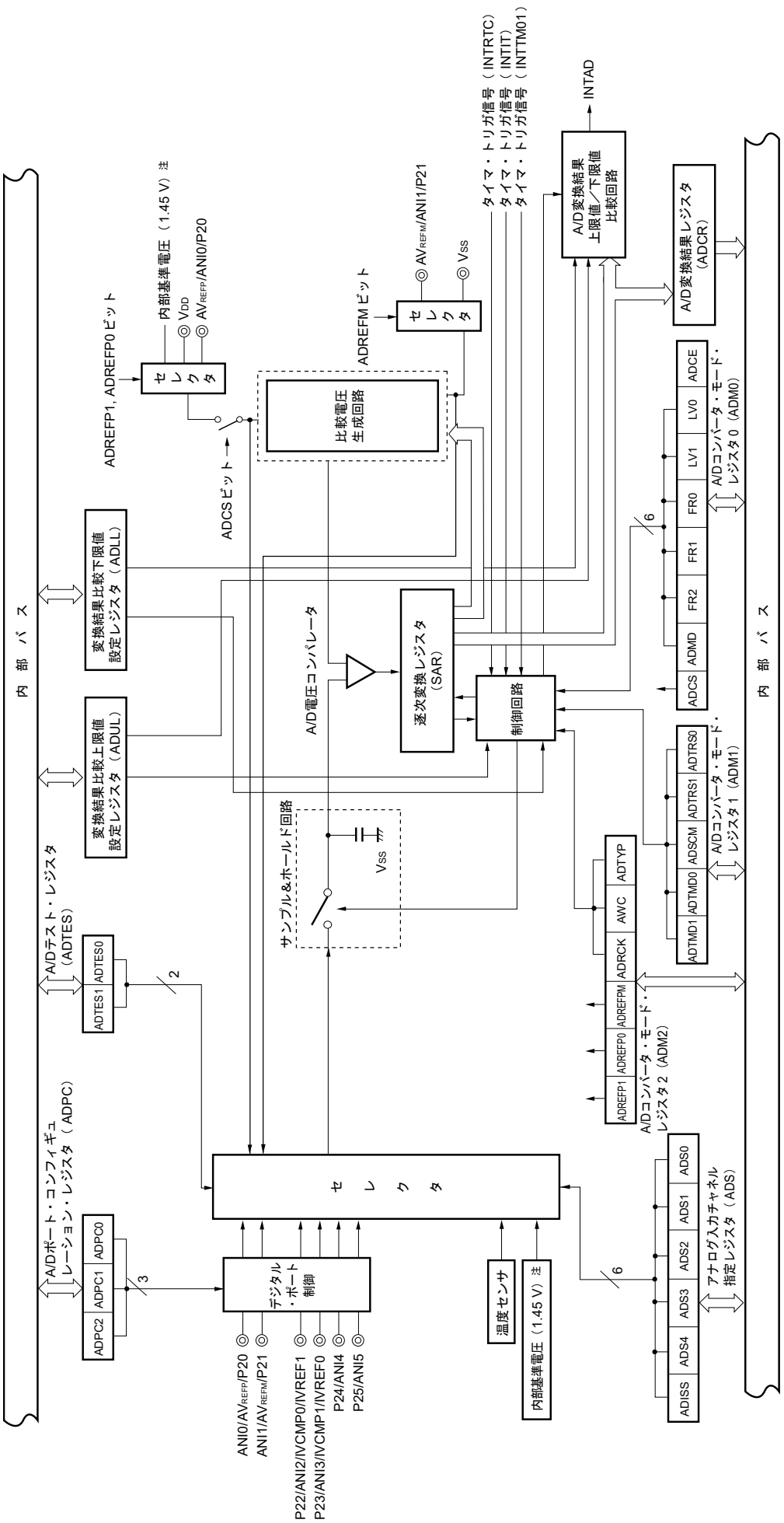
・10ビット／8ビット分解能A/D変換

ANI0-ANI5からアナログ入力を1チャネル選択し，10ビット／8ビット分解能のA/D変換動作を繰り返します。A/D変換を1回終了するたびに，割り込み要求（INTAD）を発生します（セレクト・モード時の場合）。

下記のモードの組み合わせにより，様々なA/D変換モードを設定することが可能です。

| | | |
|---|---|---|
| トリガ・モード | ソフトウエア・トリガ | ソフトウエア操作で，変換動作を開始します。 |
| | ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード | ハードウエア・トリガを検出することにより，変換動作を開始します。 |
| | ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード | パワー・オフでの変換待機状態でハードウエア・トリガを検出することにより，パワー・オンとなり，A/D電源安定待ち時間経過後に自動的に変換動作を開始します。SNOOZEモード機能を使用する時は，ハードウエア・トリガ・ウエイト・モードを選択してください。 |
| チャネル選択モード | セレクト・モード | アナログ入力を1チャネル選択し，A/D変換します。 |
| | スキャン・モード | 4チャネルのアナログ入力を順番にA/D変換します。ANI0-ANI5のうち連続した4チャネルをアナログ入力に選択できます。 |
| 変換動作モード | ワンショット変換モード | 選択したチャネルを1回A/D変換します。 |
| | 連続変換モード | 選択したチャネルをソフトウエアで停止するまで，連続してA/D変換します。 |
| 動作電圧モード | 標準1／標準2 モード | 2.7 V ≦ $V_{DD}$ ≦ 5.5 Vの動作電圧範囲で変換動作する時に選択します。 |
| | 低電圧1／低電圧2モード | 1.9 V ≦ $V_{DD}$ ≦ 5.5 Vの動作電圧範囲で変換動作が可能です。<br>低電圧時に変換動作する時に選択します。低電圧動作のため，変換動作時に内部ゲート昇圧しています。 |
| サンプリング時間の選択 | サンプリング・クロック数：7 $f_{AD}$ | 標準1／低電圧1モードのサンプリング時間は，変換クロック（$f_{AD}$）の7クロックです。アナログ入力源の出力インピーダンスが高くサンプリング時間を長くしたい時に選択します。 |
| | サンプリング・クロック数：5 $f_{AD}$ | 標準2／低電圧2モードのサンプリング時間は，変換クロック（$f_{AD}$）の5クロックです。アナログ入力源の出力インピーダンスが低いなどサンプリング時間が十分確保できている時に選択します。 |

図14－1　A/Dコンバータのブロック図




備考　この図のアナログ入力端子は，100ピン製品の場合です。

注　内部基準電圧を使用する場合は，HSモードで使用する必要があります。
HSモードの動作下限電圧は2.4 Vです。
2.4 V以下の電圧で動作させたい場合は，外部の基準電圧を使用してください。

## 14. 2　A/Dコンバータの構成

A/Dコンバータは，次のハードウエアで構成しています。

（1）ANI0-ANI5端子

A/Dコンバータの6チャネルのアナログ入力端子です。A/D変換するアナログ信号を入力します。アナログ入力として選択した端子以外は，入出力ポートとして使用できます。

（2）サンプル&ホールド回路

入力回路から順次送られてくるアナログ入力電圧を1つ1つサンプリングし，A/D電圧コンパレータに送ります。A/D変換動作中は，サンプリングしたアナログ入力電圧を保持します。

（3）A/D電圧コンパレータ

比較電圧生成回路の電圧タップから発生した電圧と，アナログ入力電圧をA/D電圧コンパレータで比較します。比較した結果，アナログ入力電圧がリファレンス電圧（1/2 $AV_{REF}$）より大きい場合には，逐次変換レジスタ（SAR）の最上位ビット（MSB）をセットします。アナログ入力電圧がリファレンス電圧（1/2 $AV_{REF}$）より小さい場合には，SARレジスタのMSBビットをリセットします。

次にSARレジスタのビット8が自動的にセットされ，次の比較に移ります。ここではすでに結果がセットされているビット9の値によって，比較電圧生成回路の電圧タップが選択されます。

ビット9 = 0：（1/4 $AV_{REF}$）
ビット9 = 1：（3/4 $AV_{REF}$）

比較電圧生成回路の電圧タップとアナログ入力電圧を比較し，その結果でSARレジスタのビット8を操作します。

アナログ入力電圧≧比較電圧生成回路の電圧タップ：ビット8 = 1
アナログ入力電圧≦比較電圧生成回路の電圧タップ：ビット8 = 0

このような比較をSARレジスタのビット0まで続けます。
8ビット分解能でA/D変換する場合は，SARレジスタのビット2まで続けます。

備考　$AV_{REF}$ : A/Dコンバータの＋側基準電圧。$AV_{REFP}$，内部基準電圧（1.45 V），$V_{DD}$から選択可能です。

（4）比較電圧生成回路

アナログ入力より入力された電圧の比較電圧を生成します。

（5）逐次変換レジスタ（SAR：Successive Approximation Register）

SARレジスタは，比較電圧生成回路からの電圧タップの値がアナログ入力端子の電圧値と一致するデータを，最上位ビット（MSB）から1ビットずつ設定するレジスタです。

SARレジスタの最下位ビット（LSB）まで設定すると（A/D変換終了），そのSARレジスタの内容（変換結果）は，A/D変換結果レジスタ（ADCR）に保持されます。また，指定されたすべてのA/D変換が終了すると，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生します。

（6）10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR）

A/D変換が終了するたびに，逐次変換レジスタから変換結果がロードされ，A/D変換結果を上位10ビットに保持します（下位6ビットは0に固定）。

（7）8ビットA/D変換結果レジスタ（ADCRH）

A/D変換が終了するたびに，逐次変換レジスタから変換結果がロードされ，A/D変換結果の上位8ビットを格納します。

（8）制御回路

A/D変換するアナログ入力の変換時間，変換動作の開始／停止などを制御します。A/D変換が終了した場合，A/D変換結果上限値/下限値比較回路を通りINTADを発生します。

（9）$AV_{REFP}$端子

外部から基準電圧（$AV_{REFP}$）を入力する端子です。

$AV_{REFP}$をA/Dコンバータの＋側基準電圧として使用する場合は，A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のADREFP1ビットに0を，ADREFP0ビットに1を設定してください。

$AV_{REFP}$と－側基準電圧（$AV_{REFM}$/$V_{SS}$）間にかかる電圧に基づいて，ANI2-ANI5に入力されるアナログ信号をデジタル信号に変換します。

A/Dコンバータの＋側基準電圧には，$AV_{REFP}$のほかに$V_{DD}$と内部基準電圧（1.45 V）を選択することが可能です。

（10）$AV_{REFM}$端子

外部から基準電圧（$AV_{REFM}$）を入力する端子です。$AV_{REFM}$をA/Dコンバータの－側基準電圧として使用する場合は，ADM2レジスタのADREFMビットをセット（1）してください。

A/Dコンバータの－側基準電圧には，$AV_{REFM}$のほかに$V_{SS}$を選択することが可能です。

## 14. 3　A/Dコンバータを制御するレジスタ

A/Dコンバータを制御するレジスタを次に示します。

・周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）
・A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）
・A/Dコンバータ・モード・レジスタ1（ADM1）
・A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）
・10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR）
・8ビットA/D変換結果レジスタ（ADCRH）
・アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）
・変換結果比較上限値設定レジスタ（ADUL）
・変換結果比較下限値設定レジスタ（ADLL）
・A/Dテスト・レジスタ（ADTES）
・A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）
・ポート・モード・レジスタ2（PM2）

### 14. 3. 1 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）

PER0レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

A/Dコンバータを使用するときは，必ずビット5（ADCEN）を1に設定してください。

PER0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図14－2 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット

アドレス：F00F0H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |

| ADCEN | A/Dコンバータの入力クロックの制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・A/Dコンバータで使用するSFRへのライト不可<br>・A/Dコンバータはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・A/Dコンバータで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意1. A/Dコンバータの設定をする際には，必ず最初にADCEN = 1の状態で，下記のレジスタの設定を行ってください。

ADCEN = 0の場合は，A/Dコンバータの制御レジスタは初期値となり，書き込みは無視されます（ポート・モード・レジスタ2（PM2）），A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）は除く）。

・A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）
・A/Dコンバータ・モード・レジスタ1（ADM1）
・A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）
・10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR）
・8ビットA/D変換結果レジスタ（ADCRH）
・アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）
・変換結果比較上限値設定レジスタ（ADUL）
・変換結果比較下限値設定レジスタ（ADLL）
・A/Dテスト・レジスタ（ADTES）

2. ビット1には必ず“0”を設定してください。

### 14. 3. 2 A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）

A/D変換するアナログ入力の変換時間，変換動作の開始／停止を設定するレジスタです。

ADM0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図14－3 A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のフォーマット

アドレス：FFF30H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADM0 | ADCS | ADMD | FR2注1 | FR1注1 | FR0注1 | LV1注1 | LV0注1 | ADCE |

| ADCS | A/D変換動作の制御 |
|---|---|
| 0 | 変換動作停止<br>［リード時］<br>変換動作停止／待機状態 |
| 1 | 変換動作許可<br>［リード時］<br>ソフトウエア・トリガ・モード時：変換動作状態<br>ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード時：A/D電源安定待ち状態＋変換動作状態 |

| ADMD | A/D変換チャネル選択モードを設定 |
|---|---|
| 0 | セレクト・モード |
| 1 | スキャン・モード |

| ADCE | A/D電圧コンパレータの動作制御注2 |
|---|---|
| 0 | A/D電圧コンパレータの動作停止 |
| 1 | A/D電圧コンパレータの動作許可 |

注1. FR2-FR0, LV1, LV0ビットおよびA/D変換に関する詳細は，表14－3 A/D変換時間の選択を参照してください。

2. ソフトウエア・トリガ・モード時およびハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード時，A/D電圧コンパレータはADCSビットとADCEビットで動作制御され，動作開始から安定するまでに，1 μsかかります。このため，ADCEビットに1を設定してから1 μs以上経過したあとに，ADCSビットに1を設定することで，最初の変換データより有効となります。1 μs以上ウエイトしないでADCSビットに1を設定した場合は，最初の変換データを無視してください。

注意 1. ADMD，FR2-FR0, LV1, LV0ビット, ADCEの変更は変換停止状態（ADCS = 0，ADCE = 0）で行ってください。

2. ADCS = 1，ADCE = 0は設定しないでください。

3. ADCE = 0, ADCS = 0設定状態から8ビット操作命令でADCE = 1, ADCS = 1に設定することは禁止します。必ず14. 7 A/Dコンバータの設定フロー・チャートの手順に従ってください。

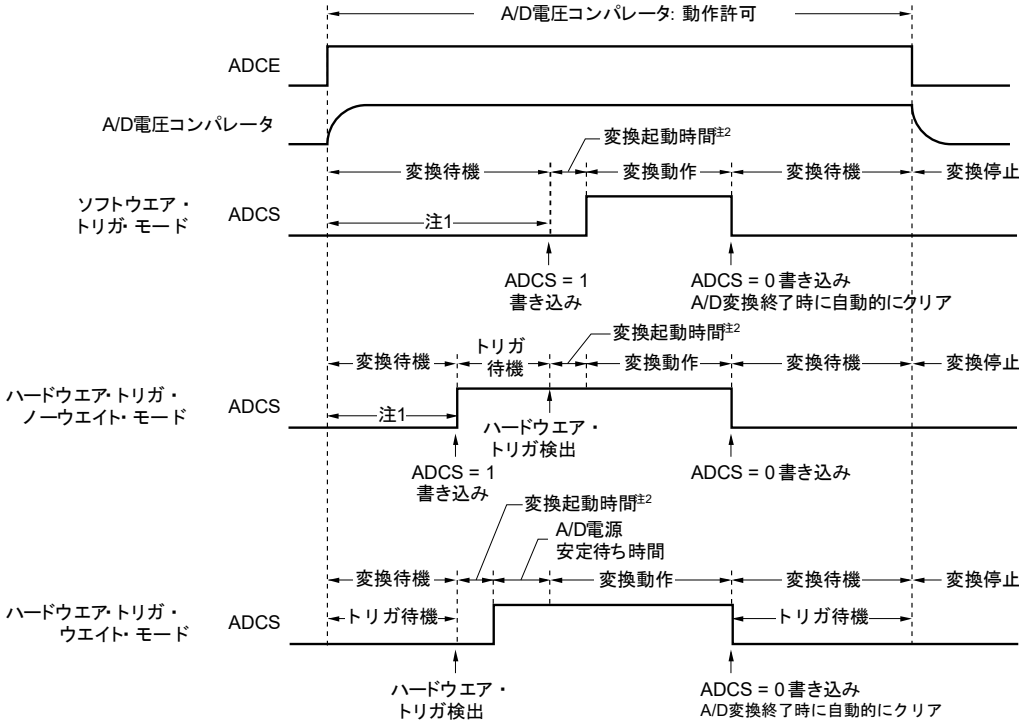
表14－1 ADCSビットとADCEビットの設定

| ADCS | ADCE | A/D変換動作 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 変換停止状態 |
| 0 | 1 | 変換待機状態 |
| 1 | 0 | 設定禁止 |
| 1 | 1 | 変換動作状態 |

表14－2 ADCSビットのセット／クリア条件

| A/D変換モード | | | セット条件 | クリア条件 |
|---|---|---|---|---|
| ソフトウエア・トリガ | セレクト・モード | 連続変換モード | ADCS = 1ライトした場合 | ADCS = 0ライトした場合 |
| | | ワンショット変換モード | | ・ADCS = 0ライトした場合<br>・AD変換終了時に自動的に“0”にクリア |
| | スキャン・モード | 連続変換モード | | ADCS = 0ライトした場合 |
| | | ワンショット変換モード | | ・ADCS = 0ライトした場合<br>・設定した4チャネル分の変換が終了すると，自動的に“0”にクリア |
| ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード | セレクト・モード | 連続変換モード | | ADCS = 0ライトした場合 |
| | | ワンショット変換モード | | ADCS = 0ライトした場合 |
| | スキャン・モード | 連続変換モード | | ADCS = 0ライトした場合 |
| | | ワンショット変換モード | | ADCS = 0ライトした場合 |
| ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード | セレクト・モード | 連続変換モード | ハードウエア・トリガが入力された場合 | ADCS = 0ライトした場合 |
| | | ワンショット変換モード | | ・ADCS = 0ライトした場合<br>・AD変換終了時に自動的に“0”にクリア |
| | スキャン・モード | 連続変換モード | | ADCS = 0ライトした場合 |
| | | ワンショット変換モード | | ・ADCS = 0ライトした場合<br>・設定した4チャネル分の変換が終了すると，自動的に“0”にクリア |

図14－4 A/D電圧コンパレータ使用時のタイミング・チャート




注 1. ソフトウエア・トリガ・モード時およびハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード時，ADCEビットの立ち上がりから，ADCSビットの立ち上がりまでの時間は，内部回路安定のため，1 μs以上必要です。

2. 変換起動には，最大で次の時間がかかります。

| ADM0 | | | 変換クロック（$f_{AD}$） | 起動時間（$f_{CLK}$クロック数） | |
|---|---|---|---|---|---|
| FR2 | FR1 | FR0 | | ソフトウエア・トリガ・モード／ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード | ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード |
| 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}$/64 | 63 | 1 |
| 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}$/32 | 31 | |
| 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}$/16 | 15 | |
| 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}$/8 | 7 | |
| 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}$/6 | 5 | |
| 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}$/5 | 4 | |
| 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}$/4 | 3 | |
| 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}$/2 | 1 | |

ただし，連続変換モードの2回目以降では，ハードウエア・トリガ検出後に，変換起動時間やA/D電源安定待ち時間は発生しません。

注意1. ハードウエア・トリガ・ウエイト・モードで使用する場合，ADCSビットに1を設定するのは禁止です（ハードウエア・トリガ信号検出時に，自動的に1に切り替わります)。ただし，AD変換待機状態にするために，ADCSビットに0を設定することは可能です。

2. ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モードでのワンショット変換モード時，AD変換終了時にADCSフラグは，自動的に“0”にクリアされません。“1”のまま保持されます。

3. ADCEビットの書き換えは，ADCS = 0（変換停止／変換待機状態）のときに行ってください。

4. A/D変換を完了させるためには，ハード・トリガ間隔を次の時間以上としてください。
ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード時：$f_{CLK}$の2クロック＋変換起動時間＋A/D変換時間
ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード時：$f_{CLK}$の2クロック＋変換起動時間＋A/D電源安定待ち時間＋A/D変換時間

**備考** $f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

表14－3　A/D変換時間の選択（1/4）

（1）A/D電源安定待ち時間なし　標準モード1, 2

（ソフトウエア・トリガ・モード／ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード）

| A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0） | | | | | モード | 変換クロック（$f_{AD}$） | 変換クロック数[注] | 変換時間 | 10ビット分解能時の変換時間の選択 2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| FR2 | FR1 | FR0 | LV1 | LV0 | | | | | $f_{CLK}$ = 1 MHz | $f_{CLK}$ = 4 MHz | $f_{CLK}$ = 8 MHz | $f_{CLK}$ = 16 MHz | $f_{CLK}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 標準1 | $f_{CLK}$/64 | 19 $f_{AD}$（サンプリング・クロック数：7 $f_{AD}$） | 1216/$f_{CLK}$ | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | |
| 0 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/32 | | 608/$f_{CLK}$ | | | | 38 μs | 25.3333 μs |
| 0 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/16 | | 304/$f_{CLK}$ | | | 38 μs | 19 μs | 12.6667 μs |
| 0 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/8 | | 152/$f_{CLK}$ | | 38 μs | 19 μs | 9.5 μs | 6.3333 μs |
| 1 | 0 | 0 | | | | $f_{CLK}$/6 | | 114/$f_{CLK}$ | | 28.5 μs | 14.25 μs | 7.125 μs | 4.75 μs |
| 1 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/5 | | 95/$f_{CLK}$ | | 23.75 μs | 11.875 μs | 5.938 μs | 3.9583 μs |
| 1 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/4 | | 76/$f_{CLK}$ | | 19 μs | 9.5 μs | 4.75 μs | 3.1667 μs |
| 1 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/2 | | 38/$f_{CLK}$ | 38 μs | 9.5 μs | 4.75 μs | 2.375 μs | 設定禁止 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 標準2 | $f_{CLK}$/64 | 17 $f_{AD}$（サンプリング・クロック数：5 $f_{AD}$） | 1088/$f_{CLK}$ | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | |
| 0 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/32 | | 544/$f_{CLK}$ | | | | 34 μs | 22.6667 μs |
| 0 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/16 | | 272/$f_{CLK}$ | | | 34 μs | 17 μs | 11.3333 μs |
| 0 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/8 | | 136/$f_{CLK}$ | | 34 μs | 17 μs | 8.5 μs | 5.6667 μs |
| 1 | 0 | 0 | | | | $f_{CLK}$/6 | | 102/$f_{CLK}$ | | 25.5 μs | 12.75 μs | 6.375 μs | 4.25 μs |
| 1 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/5 | | 85/$f_{CLK}$ | | 21.25 μs | 10.625 μs | 5.3125 μs | 3.5417 μs |
| 1 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/4 | | 68/$f_{CLK}$ | | 17 μs | 8.5 μs | 4.25 μs | 2.8333 μs |
| 1 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/2 | | 34/$f_{CLK}$ | 34 μs | 8.5 μs | 4.25 μs | 2.125 μs | 設定禁止 |

注 10ビット分解能時の変換クロック数です。8ビット分解能を選択した場合は，変換クロック（$f_{AD}$）の2クロック分短くなります。

注意 1.　A/D変換時間は，37. 6. 1　A/Dコンバータ特性に示す変換時間（$t_{CONV}$）の範囲内で使用してください。

2.　FR2-FR0, LV1, LV0ビットを同一データ以外に書き換える場合は，いったんA/D変換動作を停止（ADCS = 0，ADCE = 0）させたのちに行ってください。

3.　変換時間は変換起動時間を含みません。1回目の変換では，変換起動時間を加算してください。
また変換時間は，クロック周波数の誤差を含みません。誤差を考慮して，変換時間を選択してください。

備考　$f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

表14－3　A/D変換時間の選択（2/4）

（2）A/D電源安定待ち時間なし　低電圧**モード**1, 2

（ソフトウエア・トリガ・モード／ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード）

| A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0） | | | | | モード | 変換クロック（$f_{AD}$） | 変換クロック数[注1] | 変換時間 | 10ビット分解能時の変換時間の選択 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | 注2 | 注3 |
| FR2 | FR1 | FR0 | LV1 | LV0 | | | | | $f_{CLK}$ = 1 MHz | $f_{CLK}$ = 4 MHz | $f_{CLK}$ = 8 MHz | $f_{CLK}$ = 16 MHz | $f_{CLK}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 低電圧1 | $f_{CLK}$/64 | 19 $f_{AD}$（サンプリング・クロック数：7 $f_{AD}$） | 1216/$f_{CLK}$ | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | |
| 0 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/32 | | 608/$f_{CLK}$ | | | | 38 μs | 25.3333 μs |
| 0 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/16 | | 304/$f_{CLK}$ | | | 38 μs | 19 μs | 12.6667 μs |
| 0 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/8 | | 152/$f_{CLK}$ | | 38 μs | 19 μs | 9.5 μs | 6.3333 μs |
| 1 | 0 | 0 | | | | $f_{CLK}$/6 | | 114/$f_{CLK}$ | | 28.5 μs | 14.25 μs | 7.125 μs | 4.75 μs |
| 1 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/5 | | 95/$f_{CLK}$ | | 23.75 μs | 11.875 μs | 5.938 μs | 3.9587 μs |
| 1 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/4 | | 76/$f_{CLK}$ | | 19 μs | 9.5 μs | 4.75 μs | 3.1667 μs |
| 1 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/2 | | 38/$f_{CLK}$ | 38 μs | 9.5 μs | 4.75 μs | 2.375 μs | 設定禁止 |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 低電圧2 | $f_{CLK}$/64 | 17 $f_{AD}$（サンプリング・クロック数：5 $f_{AD}$） | 1088/$f_{CLK}$ | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | |
| 0 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/32 | | 544/$f_{CLK}$ | | | | 34 μs | 22.6667 μs |
| 0 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/16 | | 272/$f_{CLK}$ | | | 34 μs | 17 μs | 11.3333 μs |
| 0 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/8 | | 136/$f_{CLK}$ | | 34 μs | 17 μs | 8.5 μs | 5.6667 μs |
| 1 | 0 | 0 | | | | $f_{CLK}$/6 | | 102/$f_{CLK}$ | | 25.5 μs | 12.75 μs | 6.375 μs | 4.25 μs |
| 1 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/5 | | 85/$f_{CLK}$ | | 21.25 μs | 10.625 μs | 5.3125 μs | 3.5417 μs |
| 1 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/4 | | 68/$f_{CLK}$ | | 17 μs | 8.5 μs | 4.25 μs | 2.8333 μs |
| 1 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/2 | | 34/$f_{CLK}$ | 34 μs | 8.5 μs | 4.25 μs | 2.125 μs | 設定禁止 |

注1.　10ビット分解能時の変換クロック数です。8ビット分解能を選択した場合は，変換クロック（$f_{AD}$）の2クロック分短くなります。

2.　2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V

3.　2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V

注意1.　A/D変換時間は，37. 6. 1　A/Dコンバータ特性に示す変換時間（$t_{CONV}$）の範囲内で使用してください。

2.　FR2-FR0, LV1, LV0ビットを同一データ以外に書き換える場合は，いったんA/D変換動作を停止（ADCS = 0，ADCE = 0）させたのちに行ってください。

3.　変換時間は変換起動時間を含みません。1回目の変換では，変換起動時間を加算してください。
また変換時間は，クロック周波数の誤差を含みません。誤差を考慮して，変換時間を選択してください。

備考　$f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

表14－3　A/D変換時間の選択（3/4）

（3）A/D電源安定待ち時間あり　標準モード1, 2

（ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード注1）

| A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0） | | | | | モード | 変換クロック（$f_{AD}$） | A/D電源安定待ちクロック数 | 変換クロック数注2 | A/D電源安定待ち時間＋変換時間 | A/D電源安定待ちクロック＋10ビット分解能時の変換時間 2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| FR2 | FR1 | FR0 | LV1 | LV0 | | | | | | $f_{CLK}$ = 1 MHz | $f_{CLK}$ = 4 MHz | $f_{CLK}$ = 8 MHz | $f_{CLK}$ = 16 MHz | $f_{CLK}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 標準1 | $f_{CLK}$/64 | 8 $f_{AD}$ | 19 $f_{AD}$（サンプリング・クロック数：7 $f_{AD}$） | 1728/$f_{CLK}$ | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | |
| 0 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/32 | | | 864/$f_{CLK}$ | | | | 54 μs | 36 μs |
| 0 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/16 | | | 432/$f_{CLK}$ | | | 54 μs | 27 μs | 18 μs |
| 0 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/8 | | | 216/$f_{CLK}$ | | 54 μs | 27 μs | 13.5 μs | 9 μs |
| 1 | 0 | 0 | | | | $f_{CLK}$/6 | | | 162/$f_{CLK}$ | | 40.5 μs | 20.25 μs | 10.125 μs | 6.75 μs |
| 1 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/5 | | | 135/$f_{CLK}$ | | 33.75 μs | 16.875 μs | 8.4375 μs | 5.625 μs |
| 1 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/4 | | | 108/$f_{CLK}$ | | 27 μs | 13.5 μs | 6.75 μs | 4.5 μs |
| 1 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/2 | | | 54/$f_{CLK}$ | 54 μs | 13.5 μs | 6.75 μs | 3.375 μs | 設定禁止 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 標準2 | $f_{CLK}$/64 | 8 $f_{AD}$ | 17 $f_{AD}$（サンプリング・クロック数：5 $f_{AD}$） | 1600/$f_{CLK}$ | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | |
| 0 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/32 | | | 800/$f_{CLK}$ | | | | 50 μs | 33.3333 μs |
| 0 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/16 | | | 400/$f_{CLK}$ | | | 50 μs | 25 μs | 16.6667 μs |
| 0 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/8 | | | 200/$f_{CLK}$ | | 50 μs | 25 μs | 12.5 μs | 8.3333 μs |
| 1 | 0 | 0 | | | | $f_{CLK}$/6 | | | 150/$f_{CLK}$ | | 37.5 μs | 18.75 μs | 9.375 μs | 6.25 μs |
| 1 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/5 | | | 125/$f_{CLK}$ | | 31.25 μs | 15.625 μs | 7.8125 μs | 5.2083 μs |
| 1 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/4 | | | 100/$f_{CLK}$ | | 25 μs | 12.5 μs | 6.25 μs | 4.1667 μs |
| 1 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/2 | | | 50/$f_{CLK}$ | 50 μs | 12.5 μs | 6.25 μs | 3.125 μs | 設定禁止 |

注1.　連続変換モードの2回目以降では，ハードウエア・トリガ検出後に，変換起動時間やA/D電源安定待ち時間は発生しません（表14－3（1/4）参照）。

2.　10ビット分解能時の変換クロック数です。8ビット分解能を選択した場合は，変換クロック（$f_{AD}$）の2クロック分短くなります。

注意1.　A/D変換時間は，37. 6. 1　A/Dコンバータ特性に示す変換時間（$t_{CONV}$）の範囲内で使用してください。なお，変換時間（$t_{CONV}$）はA/D電源安定待ち時間を含みません。

2.　FR2-FR0, LV1, LV0ビットを同一データ以外に書き換える場合は，いったんA/D変換動作を停止（ADCS = 0，ADCE = 0）させたのちに行ってください。

3.　変換時間は変換起動時間を含みません。1回目の変換では，変換起動時間を加算してください。
また変換時間は，クロック周波数の誤差を含みません。誤差を考慮して，変換時間を選択してください。

4.　ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード時の変換時間は，ハードウエア・トリガ検出からのA/D電源安定待ち時間を含みます。

備考　$f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

表14－3 A/D変換時間の選択（4/4）

（4）A/D電源安定待ち時間あり 低電圧モード1, 2

（ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード[注1]）

| A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0） | | | | | モード | 変換クロック（$f_{AD}$） | A/D電源安定待ちクロック数 | 変換クロック数[注2] | A/D電源安定待ち時間＋変換時間 | A/D電源安定待ちクロック＋10ビット分解能時の変換時間 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | 注3 | 注4 |
| FR2 | FR1 | FR0 | LV1 | LV0 | | | | | | $f_{CLK}$ = 1 MHz | $f_{CLK}$ = 4 MHz | $f_{CLK}$ = 8 MHz | $f_{CLK}$ = 16 MHz | $f_{CLK}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 低電圧1 | $f_{CLK}$/64 | 2 $f_{AD}$ | 19 $f_{AD}$（サンプリング・クロック数：7 $f_{AD}$） | 1344/$f_{CLK}$ | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | |
| 0 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/32 | | | 672/$f_{CLK}$ | | | | 42 μs | 28 μs |
| 0 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/16 | | | 336/$f_{CLK}$ | | | 42 μs | 21 μs | 14 μs |
| 0 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/8 | | | 168/$f_{CLK}$ | | 42 μs | 21 μs | 10.5 μs | 7 μs |
| 1 | 0 | 0 | | | | $f_{CLK}$/6 | | | 126/$f_{CLK}$ | | 31.25 μs | 15.75 μs | 7.875 μs | 5.25 μs |
| 1 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/5 | | | 105/$f_{CLK}$ | | 26.25 μs | 13.125 μs | 6.5625 μs | 4.375 μs |
| 1 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/4 | | | 84/$f_{CLK}$ | | 21 μs | 10.5 μs | 5.25 μs | 3.5 μs |
| 1 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/2 | | | 42/$f_{CLK}$ | 42 μs | 10.5 μs | 5.25 μs | 2.625 μs | 設定禁止 |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 低電圧2 | $f_{CLK}$/64 | 2 $f_{AD}$ | 17 $f_{AD}$（サンプリング・クロック数：5 $f_{AD}$） | 1216/$f_{CLK}$ | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | 設定禁止 | |
| 0 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/32 | | | 608/$f_{CLK}$ | | | | 38 μs | 25.3333 μs |
| 0 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/16 | | | 304/$f_{CLK}$ | | | 38 μs | 19 μs | 12.6667 μs |
| 0 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/8 | | | 152/$f_{CLK}$ | | 38 μs | 19 μs | 9.5 μs | 6.3333 μs |
| 1 | 0 | 0 | | | | $f_{CLK}$/6 | | | 114/$f_{CLK}$ | | 28.5 μs | 14.25 μs | 7.125 μs | 4.75 μs |
| 1 | 0 | 1 | | | | $f_{CLK}$/5 | | | 95/$f_{CLK}$ | | 23.75 μs | 11.875 μs | 5.938 μs | 3.9583 μs |
| 1 | 1 | 0 | | | | $f_{CLK}$/4 | | | 76/$f_{CLK}$ | | 19 μs | 9.5 μs | 4.75 μs | 3.1667 μs |
| 1 | 1 | 1 | | | | $f_{CLK}$/2 | | | 38/$f_{CLK}$ | 38 μs | 9.5 μs | 4.75 μs | 2.375 μs | 設定禁止 |

注1. 連続変換モードの2回目以降では，ハードウエア・トリガ検出後に，変換起動時間やA/D電源安定待ち時間は発生しません（表14－3（2/4）参照）。

2. 10ビット分解能時の変換クロック数です。8ビット分解能を選択した場合は，変換クロック（$f_{AD}$）の2クロック分短くなります。

3. 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V

4. 2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V

注意1. A/D変換時間は，37. 6. 1 A/Dコンバータ特性に示す変換時間（$t_{CONV}$）の範囲内で使用してください。なお，変換時間（$t_{CONV}$）はA/D電源安定待ち時間を含みません。

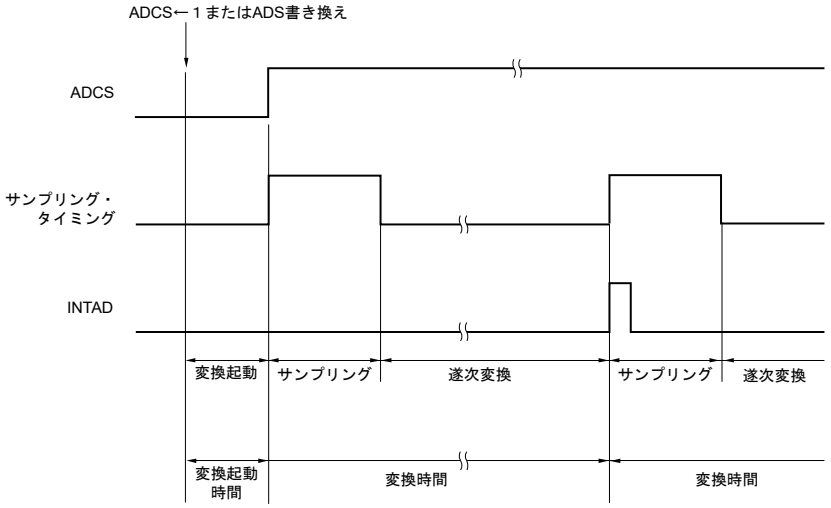
2. FR2-FR0, LV1, LV0ビットを同一データ以外に書き換える場合は，いったんA/D変換動作を停止（ADCS = 0，ADCE = 0）させたのちに行ってください。

3. 変換時間は変換起動時間を含みません。1回目の変換では，変換起動時間を加算してください。
また変換時間は，クロック周波数の誤差を含みません。誤差を考慮して，変換時間を選択してください。

4. ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード時の変換時間は，ハードウエア・トリガ検出からのA/D電源安定待ち時間を含みます。

備考 $f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

図14－5 A/Dコンバータのサンプリングと A/D変換のタイミング（例 ソフトウエア・トリガ・モードの場合）




## 14. 3. 3 A/Dコンバータ・モード・レジスタ1（ADM1）

A/D変換トリガ，変換モード，ハードウエア・トリガ信号を設定するレジスタです。

ADM1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図14－6 A/Dコンバータ・モード・レジスタ1（ADM1）のフォーマット

アドレス：FFF32H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADM1 | ADTMD1 | ADTMD0 | ADSCM | 0 | 0 | 0 | ADTRS1 | ADTRS0 |

| ADTMD1 | ADTMD0 | A/D変換トリガ・モードの選択 |
|---|---|---|
| 0 | × | ソフトウエア・トリガ・モード |
| 1 | 0 | ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード |
| 1 | 1 | ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード |

| ADSCM | A/D変換動作モードの設定 |
|---|---|
| 0 | 連続変換モード |
| 1 | ワンショット変換モード |

| ADTRS1 | ADTRS0 | ハードウエア・トリガ信号の選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | タイマ・チャネル01のカウント完了またはキャプチャ完了割り込み信号（INTTM01） |
| 0 | 1 | 設定禁止 |
| 1 | 0 | リアルタイム・クロック2割り込み信号（INTRTC） |
| 1 | 1 | 12ビット・インターバル・タイマ割り込み信号（INTIT） |

注意1. 変換停止状態（ADCS = 0, ADCE = 0）のときに，ADM1レジスタを書き換えてください。

2. A/D変換を完了させるためには，ハードウエア・トリガ間隔を次の時間以上としてください。

ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード時：$f_{CLK}$の2クロック＋変換起動時間＋A/D変換時間

ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード時：$f_{CLK}$の2クロック＋変換起動時間＋A/D電源安定待ち時間＋A/D変換時間

注意3. SNOOZE機能以外のモードにおいて，INTRTC, INTIT入力後最大$f_{CLK}$の4クロック間は，次のINTRTC, INTIT入力がトリガとして有効になりません。

備考 1. ×：Don't care

2. $f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

### 14. 3. 4 A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）

A/Dコンバータの＋側基準電圧および－側基準電圧の選択，A/D変換結果の上限値／下限値のチェック，分解能の選択，およびSNOOZEモードを設定するレジスタです。

ADM2レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図14－7 A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のフォーマット（1/2）

アドレス：F0010H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADM2 | ADREFP1 | ADREFP0 | ADREFM | 0 | ADRCK | AWC | 0 | ADTYP |

| ADREFP1 | ADREFP0 | A/Dコンバータの＋側の基準電圧の選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | $V_{DD}$から供給[注2] |
| 0 | 1 | P20/$AV_{REFP}$/ANI0から供給 |
| 1 | 0 | 内部基準電圧（1.45 V）から供給[注1] |
| 1 | 1 | 設定禁止 |

・ADREFP1, ADREFP0ビットを書き換える場合，次の手順で設定してください。

① ADCE = 0に設定

② ADREFP1, ADREFP0の値を変更

③ 基準電圧安定待ち時間ウエイト（A）

④ ADCE = 1に設定

⑤ 基準電圧安定待ち時間ウエイト（B）

ADREFP1, ADREFP0 = 1, 0に変更する場合： A = 5 μs， B = 1 μs

ADREFP1, ADREFP0 = 0, 0または0, 1に変更する場合： Aはウエイト不要，B = 1 μs

⑤のウエイトのあとに，A/D変換開始してください。

・ADREFP1, ADREFP 0 = 1, 0に設定した場合，温度センサ出力電圧と内部基準電圧（1.45 V）をA/D変換することはできません。

必ずADISS = 0としてA/D変換を行なってください。

| ADREFM | A/Dコンバータの－側の基準電圧源の選択 |
|---|---|
| 0 | $V_{SS}$から供給 |
| 1 | P21/$AV_{REFM}$/ANI1から供給 |

注1. HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

温度センサを使用する場合は，必ず内部基準電圧を使用してください。

2. 基準電圧（＋）= $V_{DD}$を使用する場合は，バッテリバックアップ機能の電源切り替え回路の影響による電圧降下を考慮に入れて，A/D変換結果を使用してください。また，A/D変換中HALTモードに移行し，$V_{DD}$系のポートは入力に設定してください。

（注意は次ページにあります。）

注意1. ADM2レジスタを書き換える場合は，必ず変換停止状態（ADCS = 0, ADCE = 0）のときに行ってください。

2. STOPモードもしくはサブシステム・クロックでCPU動作中にHALTモードへ移行する場合は，ADREFP1 = 1に設定しないでください。内部基準電圧（ADREFP1, ADREFP0 = 1, 0）選択時は，37. 3. 2 電源電流特性に示すA/Dコンバータ基準電圧電流（$I_{ADREF}$）の電流値が加算されます。

3. $AV_{REFP}$と$AV_{REFM}$を使用する場合は，ANI0とANI1をアナログ入力に設定し，ポート・モード・レジスタは入力モードに設定してください。

図14－7 A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のフォーマット（2/2）

アドレス：F0010H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADM2 | ADREFP1 | ADREFP0 | ADREFM | 0 | ADRCK | AWC | 0 | ADTYP |

| ADRCK | 変換結果上限／下限値チェック |
|---|---|
| 0 | ADLLレジスタ≦ADCRレジスタ≦ADULレジスタ（AREA1）のとき割り込み信号（INTAD）が発生。 |
| 1 | ADCRレジスタ＜ADLLレジスタ（AREA2），ADULレジスタ＜ADCRレジスタ（AREA3）のとき割り込み信号（INTAD）が発生。 |
| AREA 1～AREA 3の割り込み信号（INTAD）発生範囲を図14－8に示します。 | |

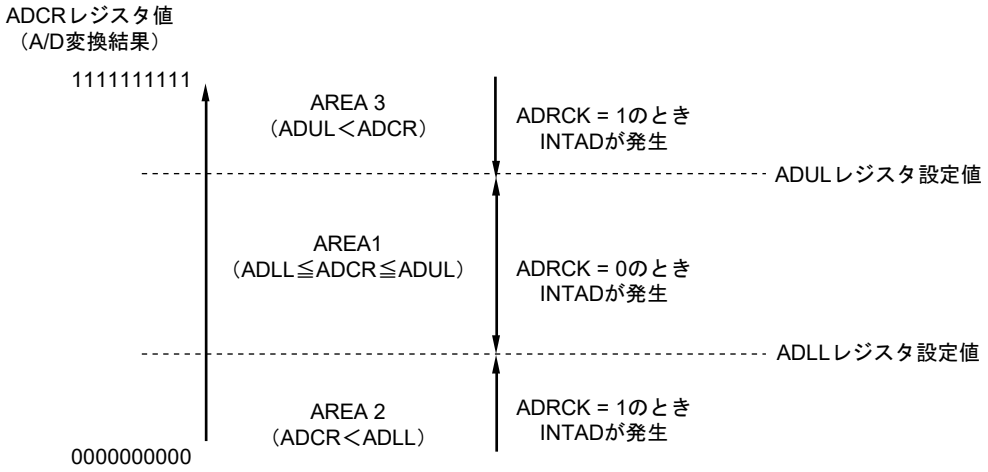
| AWC | SNOOZEモードの設定 |
|---|---|
| 0 | SNOOZEモード機能を使用しない |
| 1 | SNOOZEモード機能を使用する |
| STOPモード中のハードウエア・トリガ信号で，STOPモードを解除し，CPUを動作させることなくA/D変換を行います（SNOOZEモード）。<br>・SNOOZEモード機能は，CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）に高速オンチップ・オシレータ・クロックが選択されているときのみ設定可能です。高速オンチップ・オシレータ・クロック以外が選択されている場合は設定禁止です。<br>・ソフトウエア・トリガ・モード，およびハードウエア・トリガ・ノー・ウエイト・モードでのSNOOZEモード機能は使用禁止です。<br>・連続変換モードでのSNOOZEモード機能は使用禁止です。<br>・SNOOZEモード機能を使用するとき，ハードウエア・トリガ間隔は，「SNOOZEモードの遷移時間注＋変換起動時間＋A/D電源安定待ち時間＋A/D変換時間＋$f_{CLK}$の2クロック」以上の間隔を空けて設定してください。<br>・SNOOZE機能を使用する場合でも，通常動作時はAWCを0に設定し，STOPモードへ移行する直前にAWCを1に変更してください。<br>またSTOPモードから通常動作へ復帰後，必ずAWCを0に変更してください。<br>AWC = 1のままでは，その後のSNOOZEモード，通常動作に関係なく正常にA/D変換が開始されません。 | |

| ADTYP | A/D変換分解能の選択 |
|---|---|
| 0 | 10ビット分解能 |
| 1 | 8ビット分解能 |

注 24. 3. 3 SNOOZEモードの「STOPモード→SNOOZEモードの遷移時間」を参照してください。

注意 ADM2レジスタを書き換える場合は，必ず変換停止状態（ADCS = 0, ADCE = 0）のときに行ってください。

図14－8　ADRCKビットによる割り込み信号発生範囲




備考　INTADが発生しない場合は，A/D変換結果がADCR, ADCRHレジスタに格納されません。

## 14. 3. 5　10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR）

A/D変換結果を保持する16ビットのレジスタです。下位6ビットは“0”固定です。A/D変換が終了するたびに，逐次変換レジスタ（SAR）から変換結果がロードされます。変換結果の上位8ビットがFFF1FHに，下位2ビットがFFF1EHの上位2ビットに格納されます[注]。

ADCRレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により，0000Hになります。

注　A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタで設定（図14－8参照））で設定した値の範囲外の場合は格納されません。

図14－9　10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR）のフォーマット

アドレス：FFF1FH，FFF1EH　リセット値：0000H　R

| 略号 | FFF1FH | | | | | | | | FFF1EH | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADCR | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

注意1.　8ビット分解能A/D変換を選択時（A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のADTYP = 1）にADCRレジスタをリードした場合，下位2ビット（ADCRレジスタのビット7，ビット6）は，0が読み出されます。

2.　ADCRレジスタへ16ビット・アクセスした場合，変換結果上位10ビットがADCRレジスタのビット15から順に読み出せます。

### 14. 3. 6　8ビットA/D変換結果レジスタ（ADCRH）

A/D変換結果を保持する8ビットのレジスタです。10ビット分解能の上位8ビットを格納します[注]。

ADCRHレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により，00Hになります。

注　A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタで設定（図14－8参照））で設定した値の範囲外の場合は格納されません。

図14－10　8ビットA/D変換結果レジスタ（ADCRH）のフォーマット

アドレス：FFF1FH　リセット時：00H　R

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADCRH | | | | | | | | |

注意　A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0），アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS），A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）に対して書き込み動作を行ったとき，ADCRHレジスタの内容は不定となることがあります。変換結果は，変換動作終了後，ADM0, ADS, ADPCレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。上記以外のタイミングでは，正しい変換結果が読み出されないことがあります。

### 14. 3. 7 アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）

A/D変換するアナログ電圧の入力チャネルを指定するレジスタです。

ADSレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図14－11 アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）のフォーマット

アドレス：FFF31H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADS | ADISS | 0 | 0 | ADS4 | ADS3 | ADS2 | ADS1 | ADS0 |

○セレクト・モード（ADMD = 0）

| ADISS | ADS4 | ADS3 | ADS2 | ADS1 | ADS0 | アナログ入力チャネル | 入力ソース |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ANI0 | P20/ANI0/$AV_{REFP}$端子 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | ANI1 | P21/ANI1/$AV_{REFM}$端子 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | ANI2 | P22/ANI2端子 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | ANI3 | P23/ANI3端子 |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | ANI4 | P24/ANI4端子 |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | ANI5 | P25/ANI5端子 |
| 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | － | 温度センサ出力電圧注 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | － | 内部基準電圧（1.45 V）注 |
| 上記以外 | | | | | | 設定禁止 | |

○スキャン・モード（ADMD = 1）

| ADS4 | ADS3 | ADS2 | ADS1 | ADS0 | アナログ入力チャネル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | Scan 0 | Scan 1 | Scan 2 | Scan 3 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ANI0 | ANI1 | ANI2 | ANI3 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | ANI1 | ANI2 | ANI3 | ANI4 |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | ANI2 | ANI3 | ANI4 | ANI5 |
| 上記以外 | | | | | 設定禁止 | | | |

注 HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。
温度センサを使用する場合は，必ず内部基準電圧を使用してください。

注意1. ビット5, 6には必ず0を設定してください。

2. ADPCレジスタでアナログ入力に設定したポートは，ポート・モード・レジスタ2（PM2）で入力モードに選択してください。

3. A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）でデジタル入出力として設定する端子を，ADSレジスタで設定しないでください。

4. 変換停止状態（ADCS = 0, ADCE = 0）のときに，ADISSビットを書き換えてください。

5. $AV_{REFP}$をA/Dコンバータの＋側の基準電圧として使用している場合，ANI0をA/D変換チャネルとして選択しないでください。

6. $AV_{REFM}$をA/Dコンバータの－側の基準電圧として使用している場合，ANI1をA/D変換チャネルとして選択しないでください。

注意7.　ADISS = 1を設定した場合，＋側の基準電圧に内部基準電圧（1.45 V）は使用できません。
また，ADISS = 1に設定後，1回目の変換結果は使用できません。詳細設定フローは，14. 7. 4　温度センサ出力電圧／内部基準電圧を選択時の設定を参照してください。

8.　STOPモードへ移行，もしくはサブシステム・クロックでCPU動作中にHALTモードへ移行する場合は，ADISS = 1に設定しないでください。ADISS = 1設定時は，37. 3. 2　電源電流特性に示すA/Dコンバータ基準電圧電流（$I_{ADREF}$）の電流値が加算されます。

9.　製品により，対応するANI端子が存在しない場合は，変換結果を無視してください。

### 14. 3. 8　変換結果比較上限値設定レジスタ（ADUL）

A/D変換結果に対し，上限値をチェックするために設定するレジスタです。

A/D変換結果とADULレジスタ値の比較を行い，A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のADRCKビットの設定範囲（図14－8参照）で割り込み信号（INTAD）の発生を制御します。

ADULレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります。

図14－12　変換結果比較上限値設定レジスタ（ADUL）のフォーマット

アドレス：F0011H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADUL | ADUL7 | ADUL6 | ADUL5 | ADUL4 | ADUL3 | ADUL2 | ADUL1 | ADUL0 |

### 14. 3. 9　変換結果比較下限値設定レジスタ（ADLL）

A/D変換結果に対し，下限値をチェックするために設定するレジスタです。

A/D変換結果とADLLレジスタ値の比較を行い，A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のADRCKビットの設定範囲（図14－8参照）で割り込み信号（INTAD）の発生を制御します。

ADLLレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図14－13　変換結果比較下限値設定レジスタ（ADLL）のフォーマット

アドレス：F0012H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADLL | ADLL7 | ADLL6 | ADLL5 | ADLL4 | ADLL3 | ADLL2 | ADLL1 | ADLL0 |

注意1.　10ビット分解能A/D変換選択時は，10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR）の上位8ビットをADULレジスタおよびADLLレジスタと比較します。

2.　ADULレジスタおよびADLLレジスタの書き換えは，必ず変換停止状態（ADCS = 0, ADCE = 0）のときに行ってください。

3.　ADULレジスタおよびADLLレジスタは，ADUL＞ADLLになるように設定を行ってください。

### 14. 3. 10　A/Dテスト・レジスタ（ADTES）

A/D変換対象にA/Dコンバータの＋側の基準電圧，－側の基準電圧，アナログ入力チャネル（ANIxx）を選択するレジスタです。A/Dテスト機能として使用する場合は，以下の設定にします。

・ゼロスケールを測定するときは，A/D変換対象に－側の基準電圧を選択。

・フルスケールを測定するときは、A/D変換対象に＋側の基準電圧を選択。

ADTESレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図14－14　A/Dテスト・レジスタ（ADTES）のフォーマット

アドレス：F0013H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADTES | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ADTES1 | ADTES0 |

| ADTES1 | ADTES0 | A/D変換対象 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | ANIxx/温度センサ出力電圧[注]/内部基準電圧（1.45 V）[注]（アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で設定） |
| 1 | 0 | －側の基準電圧（ADM2レジスタのADREFMビットで選択） |
| 1 | 1 | ＋側の基準電圧（ADM2レジスタのADREFP1, ADREFP0ビットで選択） |
| 上記以外 | | 設定禁止 |

注　温度センサ出力電圧，内部基準電圧（1.45V）は，HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

注意　A/Dテスト機能についての詳細は，第30章　安全機能を参照してください。

### 14. 3. 11　アナログ入力端子のポート機能を制御するレジスタ

A/Dコンバータのアナログ入力と兼用するポート機能を制御するレジスタ（ポート・モード・レジスタ（PMxx），A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC））を設定してください。

詳細は，以下を参照してください。

・4. 3. 1　ポート・モード・レジスタ（PMxx）

・4. 3. 6　A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）

ANI0-ANI5端子をA/Dコンバータのアナログ入力として使用するときは，各ポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットに1を設定し，A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）でアナログ入力に設定してください。

## 14. 4 A/Dコンバータの変換動作

A/Dコンバータの変換動作を次に示します。

① 選択したアナログ入力チャネルに入力している電圧を，サンプル＆ホールド回路でサンプリングします。

② 一定時間サンプリングを行うとサンプル＆ホールド回路はホールド状態となり，サンプリングされた電圧をA/D変換が終了するまで保持します。

③ 逐次変換レジスタ（SAR）のビット9をセットし，タップ・セレクタは直列抵抗ストリングの電圧タップを（1/2）$AV_{REF}$にします。

④ 直列抵抗ストリングの電圧タップとサンプリングされた電圧との電圧差をA/D電圧コンパレータで比較します。もし，アナログ入力が（1/2）$AV_{REF}$よりも大きければ，SARレジスタのMSBビットをセットしたままです。また，（1/2）$AV_{REF}$よりも小さければ，MSBビットはリセットします。

⑤ 次にSARレジスタのビット8が自動的にセットし，次の比較に移ります。ここではすでに結果がセットしているビット9の値によって，次に示すように直列抵抗ストリングの電圧タップを選択します。

・ビット9 = 1：（3/4）$AV_{REF}$

・ビット9 = 0：（1/4）$AV_{REF}$

この電圧タップとサンプリングされた電圧を比較し，その結果でSARレジスタのビット8を次のように操作します。

・サンプリングされた電圧≧電圧タップ：ビット8 = 1

・サンプリングされた電圧＜電圧タップ：ビット8 = 0

⑥ このような比較をSARレジスタのビット0まで続けます。

⑦ 10ビットの比較が終了したとき，SARレジスタには有効なデジタルの結果が残り，その値がA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に転送され，ラッチします[注1]。
同時に，A/D変換終了割り込み要求（INTAD）を発生させることができます[注1]。

⑧ 以降①から⑦までの動作をADCS = 0になるまで繰り返します[注2]。
A/Dコンバータを停止する場合は，ADCS = 0にしてください。

注 1. A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタで設定（図14－8参照））で設定した値の範囲外の場合，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）は発生しません。この場合，ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

2. 連続変換モード時は，ADCSフラグは自動的に“0”にクリアされません。また，ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モードでのワンショット変換モード時でも，ADCSフラグは，自動的に“0”にクリアされません。“1”のまま保持されます。

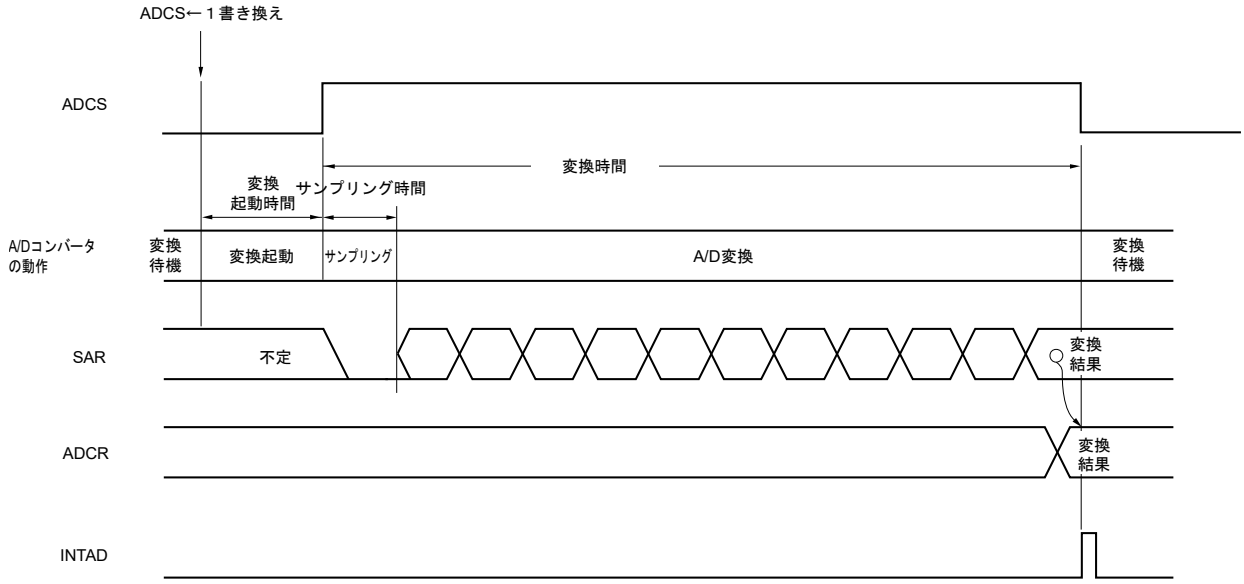
備考1. A/D変換結果レジスタは2種類あります。

・ADCRレジスタ（16ビット）　：10ビットのA/D変換値を格納します。

・ADCRHレジスタ（8ビット）　：8ビットのA/D変換値を格納します。

2. $AV_{REF}$：A/Dコンバータの＋側基準電圧。$AV_{REFP}$，内部基準電圧（1.45 V），$V_{DD}$から選択可能です。

図14－15　A/Dコンバータの変換動作（ソフトウエア・トリガ・モードの場合）




ワンショット変換モード時のA/D変換動作は, A/D変換終了後にADCSビットが自動的にクリア（0）されます。

連続変換モード時のA/D変換動作は，ソフトウエアによりA/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のビット7（ADCS）をクリア（0）するまで連続的に行われます。

A/D変換動作中に，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）に対して書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

A/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）は，リセット信号の発生により0000Hまた00Hとなります。

## 14. 5　入力電圧と変換結果

アナログ入力端子（ANI0-ANI5）に入力されたアナログ入力電圧と理論上のA/D変換結果（10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR））には次式に示す関係があります。

$$SAR = INT\left(\frac{V_{AIN}}{AV_{REF}} \times 1024 + 0.5\right)$$

$$ADCR = SAR \times 64$$

または,

$$\left(\frac{ADCR}{64} - 0.5\right) \times \frac{AV_{REF}}{1024} \leqq V_{AIN} < \left(\frac{ADCR}{64} + 0.5\right) \times \frac{AV_{REF}}{1024}$$

INT（　）　：（　）内の値の整数部を返す関数

$V_{AIN}$　：アナログ入力電圧

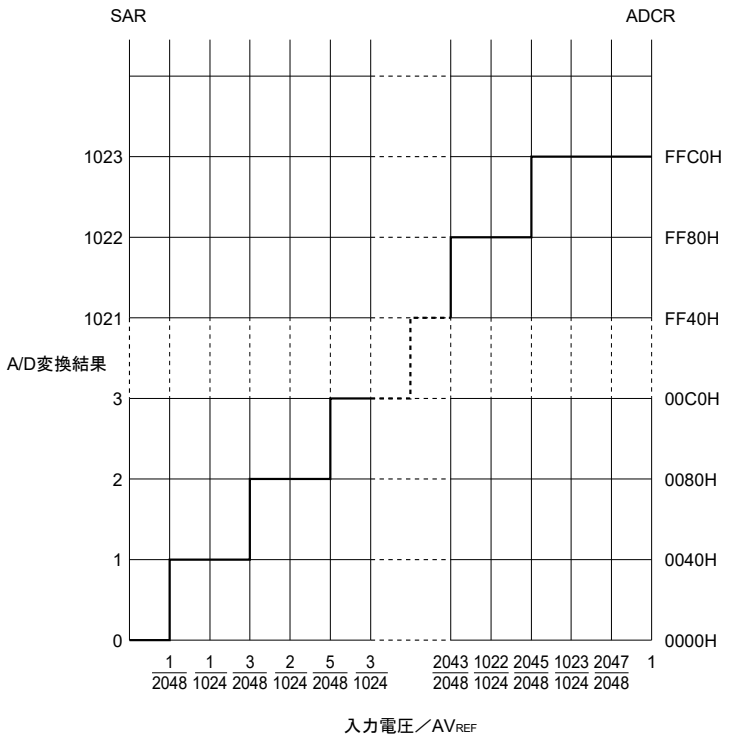
$AV_{REF}$　：$AV_{REF}$端子電圧

ADCR　：A/D変換結果レジスタ（ADCR）の値

SAR　：逐次変換レジスタ

図14－16にアナログ入力電圧とA/D変換結果の関係を示します。

図14－16　アナログ入力電圧とA/D変換結果の関係




備考　$AV_{REF}$：A/Dコンバータの＋側基準電圧。$AV_{REFP}$，内部基準電圧（1.45 V），$V_{DD}$から選択可能です。

## 14. 6 A/Dコンバータの動作モード

A/Dコンバータの各モードの動作を次に示します。また，各モードの設定手順を14. 7 A/Dコンバータの設定フロー・チャートに示します。

### 14. 6. 1 ソフトウエア・トリガ・モード（セレクト・モード，連続変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ソフトウエアで安定待ち時間（1 μs）をカウント後，ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。

③ A/D変換が終了すると，変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR，ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。A/D変換終了後は，すぐに次のA/D変換を開始します。

④ 変換動作中にADCS = 1を上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

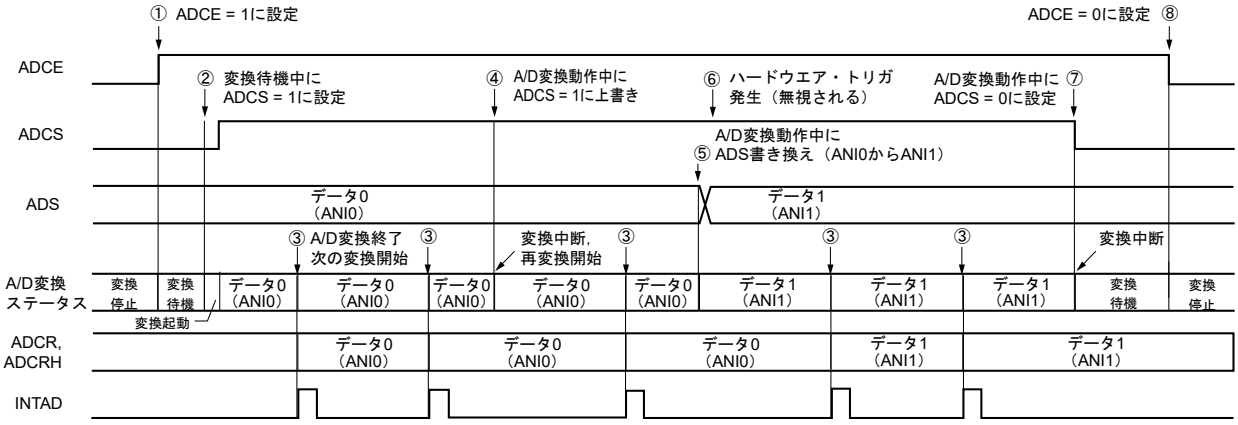
⑤ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑥ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力されても，A/D変換は開始しません。

⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，A/D変換待機状態となります。

⑧ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ADCS = 1に設定しても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－17 ソフトウエア・トリガ・モード（セレクト・モード，連続変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 2 ソフトウエア・トリガ・モード（セレクト・モード，ワンショット変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ソフトウエアで安定待ち時間（1 μs）をカウント後，ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。

③ A/D変換が終了すると，変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR，ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

④ A/D変換が終了後，ADCSビットは自動的に0にクリアされ，A/D変換待機状態となります。

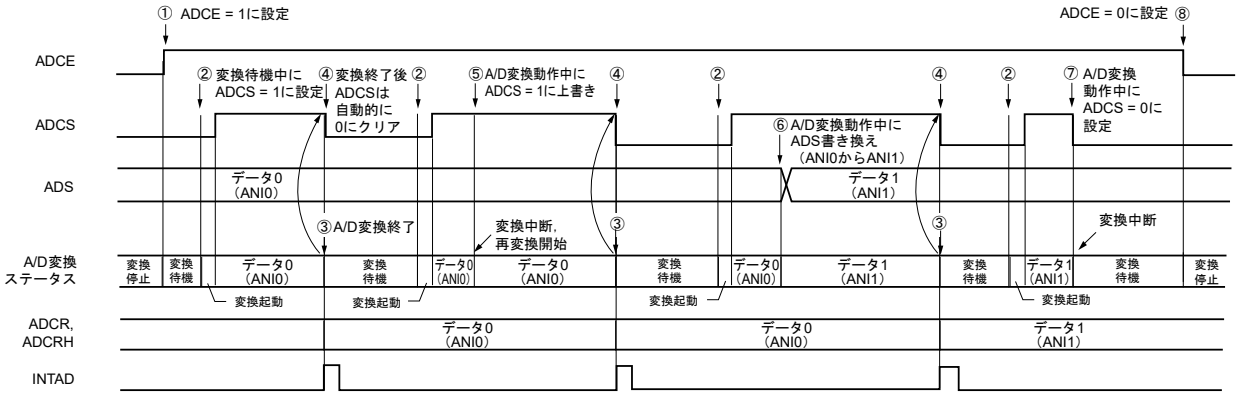
⑤ 変換動作中にADCS = 1を上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，A/D変換待機状態となります。

⑧ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ADCS = 1に設定しても無視され，A/D変換は開始しません。A/D変換待機中にハードウエア・トリガが入力されても，A/D変換は開始しません。

図14－18 ソフトウエア・トリガ・モード（セレクト・モード，ワンショット変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 3 ソフトウエア・トリガ・モード（スキャン・モード，連続変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ソフトウエアで安定待ち時間（1 μs）をカウント後，ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたスキャン0～スキャン3までの4つのアナログ入力チャネルのA/D変換を行います。A/D変換はスキャン0で指定されたアナログ入力チャネルから順に行います。

③ 4つのアナログ入力チャネルのA/D変換は連続して行われ，変換が完了するごとに変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。4チャネルのA/D変換終了後は，設定しているチャネルからすぐに次のA/D変換が自動的に開始されます（4チャネル分）。

④ 変換動作中にADCS = 1を上書きすると，現在のA/D変換は中断され，最初のチャネルから再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

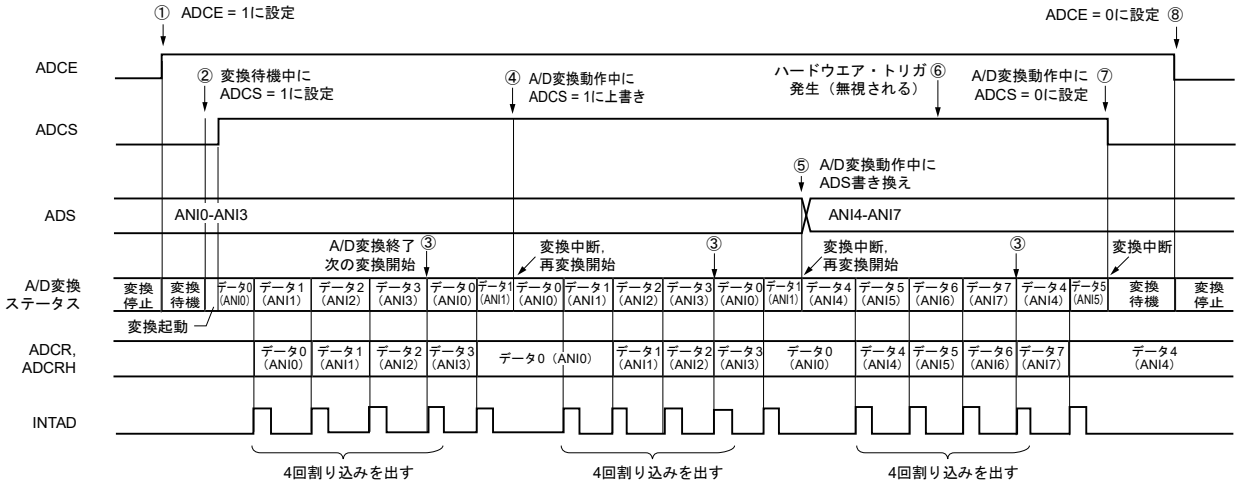
⑤ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたチャネルの最初からA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑥ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力されても，A/D変換は開始しません。

⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，A/D変換待機状態となります。

⑧ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ADCS = 1に設定しても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－19 ソフトウエア・トリガ・モード（スキャン・モード，連続変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 4 ソフトウエア・トリガ・モード（スキャン・モード，ワンショット変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ソフトウエアで安定待ち時間（1 μs）をカウント後，ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたスキャン0～スキャン3までの4つのアナログ入力チャネルのA/D変換を行います。A/D変換はスキャン0で指定されたアナログ入力チャネルから順に行います。

③ 4つのアナログ入力チャネルのA/D変換は連続して行われ，変換が完了するごとに変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

④ 4チャネルのA/D変換が終了後，ADCSビットは自動的に0にクリアされ，A/D変換待機状態となります。

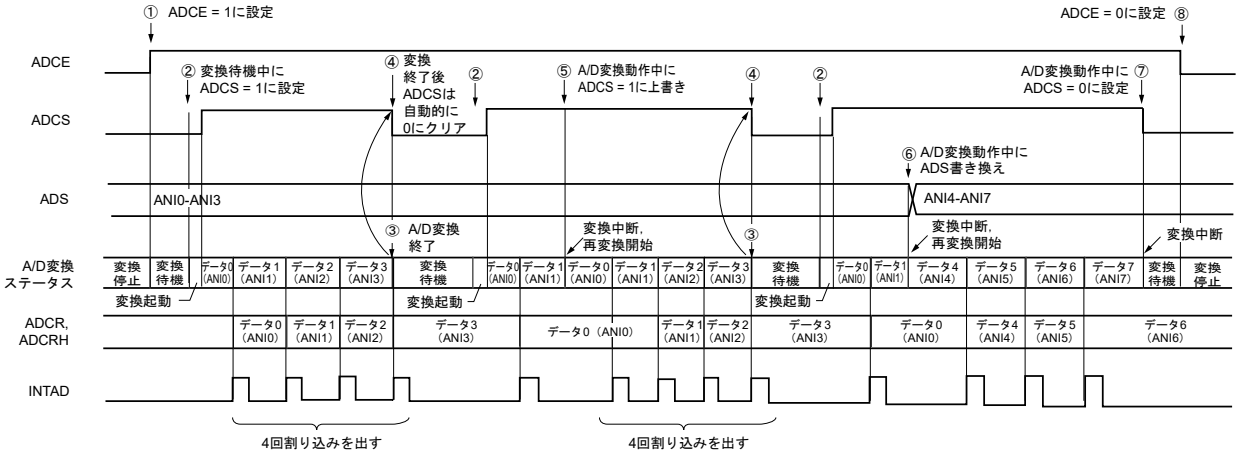
⑤ 変換動作中にADCS = 1を上書きすると，現在のA/D変換は中断され，最初のチャネルから再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたチャネルの最初からA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，A/D変換待機状態となります。

⑧ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ADCS = 1に設定しても無視され，A/D変換は開始しません。A/D変換待機中にハードウエア・トリガが入力されても，A/D変換は開始しません。

図14－20 ソフトウエア・トリガ・モード（スキャン・モード，ワンショット変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 5 ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード（セレクト・モード，連続変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ソフトウエアで安定待ち時間（1 μs）をカウント後，ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで，ハードウエア・トリガ待機状態となります（この段階では変換を開始しません）。なお，ハードウエア・トリガ待機状態のとき，ADCS = 1に設定しても，A/D変換は開始しません。

③ ADCS = 1の状態で，ハードウエア・トリガが入力されると，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。

④ A/D変換が終了すると，変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR，ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。A/D変換終了後は，すぐに次のA/D変換を開始します。

⑤ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力された場合，現在のA/D変換は中断され，再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

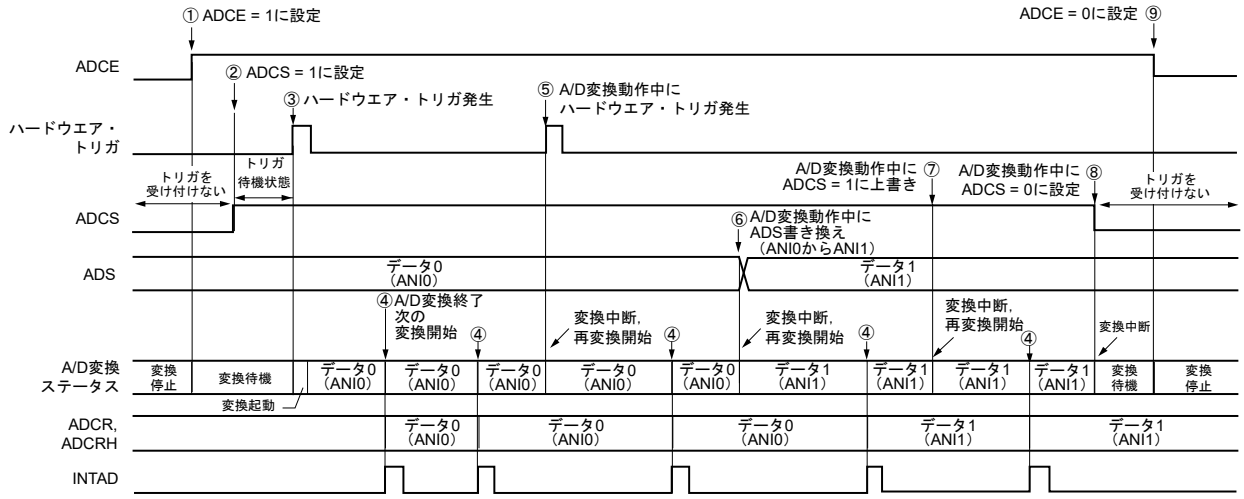
⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑦ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑧ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，A/D変換待機状態となります。ただし，この状態でA/Dコンバータは停止状態になりません。

⑨ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCS = 0のとき，ハードウエア・トリガが入力されても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－21 ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード（セレクト・モード，連続変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 6　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード（セレクト・モード，ワンショット変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ソフトウエアで安定待ち時間（1 μs）をカウント後，ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで，ハードウエア・トリガ待機状態となります（この段階では変換を開始しません）。なお，ハードウエア・トリガ待機状態のとき，ADCS = 1に設定しても，A/D変換は開始しません。

③ ADCS = 1の状態で，ハードウエア・トリガが入力されると，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。

④ A/D変換が終了すると，変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR，ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

⑤ A/D変換が終了後，ADCSビットは1の設定のまま，A/D変換待機状態となります。

⑥ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力された場合，現在のA/D変換は中断され，再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

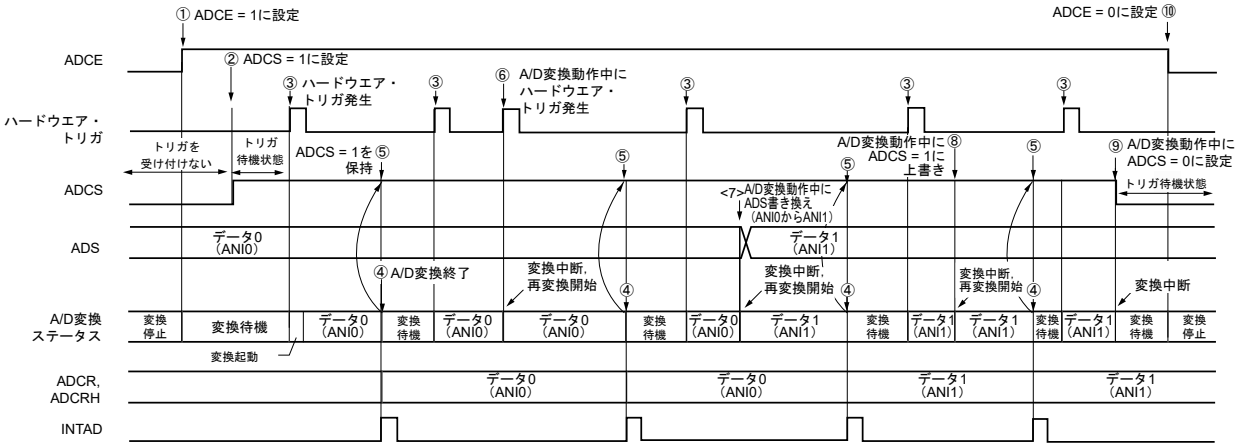
⑦ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑧ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑨ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，A/D変換待機状態となります。ただし，この状態でA/Dコンバータは停止状態になりません。

⑩ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCS = 0のとき，ハードウエア・トリガが入力されても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－22　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード（セレクト・モード，ワンショット変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 7　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード（スキャン・モード，連続変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ソフトウエアで安定待ち時間（1 μs）をカウント後，ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで，ハードウエア・トリガ待機状態となります（この段階では変換を開始しません）。なお，ハードウエア・トリガ待機状態のとき，ADCS = 1に設定しても，A/D変換は開始しません。

③ ADCS = 1の状態で，ハードウエア・トリガが入力されると，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたスキャン0～スキャン3までの4つのアナログ入力チャネルのA/D変換を行います。A/D変換はスキャン0で指定されたアナログ入力チャネルから順に行います。

④ 4つのアナログ入力チャネルのA/D変換は連続して行われ，変換が完了するごとに変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。4チャネルのA/D変換終了後は，設定しているチャネルからすぐに次のA/D変換が自動的に開始されます。

⑤ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力された場合，現在のA/D変換は中断され，最初のチャネルから再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

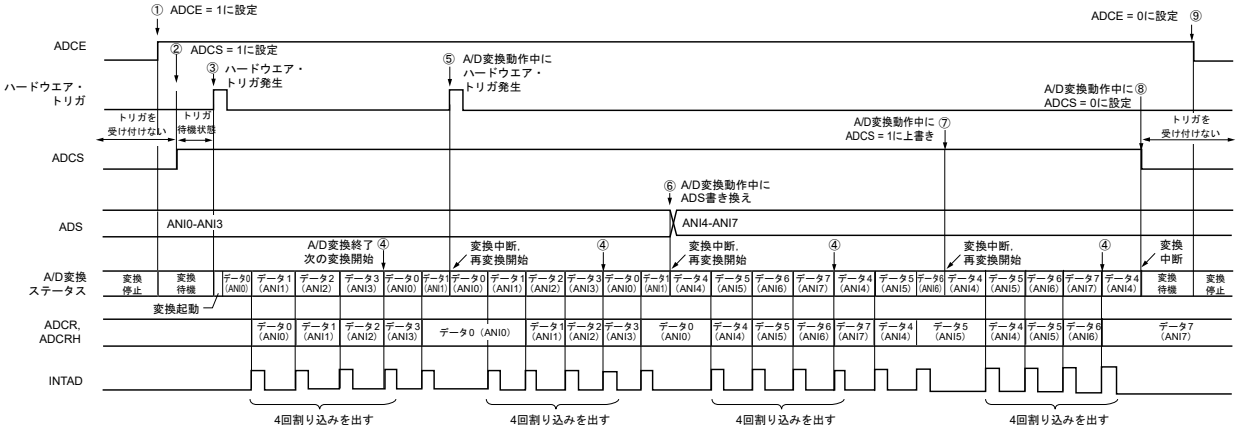
⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたチャネルの最初からA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑦ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑧ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，A/D変換待機状態となります。ただし，この状態でA/Dコンバータは停止状態になりません。

⑨ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ADCS = 1に設定しても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－23　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード（スキャン・モード，連続変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 8　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード（スキャン・モード，ワンショット変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ソフトウエアで安定待ち時間（1 μs）をカウント後，ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで，ハードウエア・トリガ待機状態となります（この段階では変換を開始しません）。なお，ハードウエア・トリガ待機状態のとき，ADCS = 1に設定しても，A/D変換は開始しません。

③ ADCS = 1の状態で，ハードウエア・トリガが入力されると，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたスキャン0～スキャン3までの4つのアナログ入力チャネルのA/D変換を行います。A/D変換はスキャン0で指定されたアナログ入力チャネルから順に行います。

④ 4つのアナログ入力チャネルのA/D変換は連続して行われ，変換が完了するごとに変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

⑤ 4チャネルのA/D変換が終了後，ADCSビットは1の設定のまま，A/D変換待機状態となります。

⑥ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力された場合，現在のA/D変換は中断され，最初のチャネルから再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

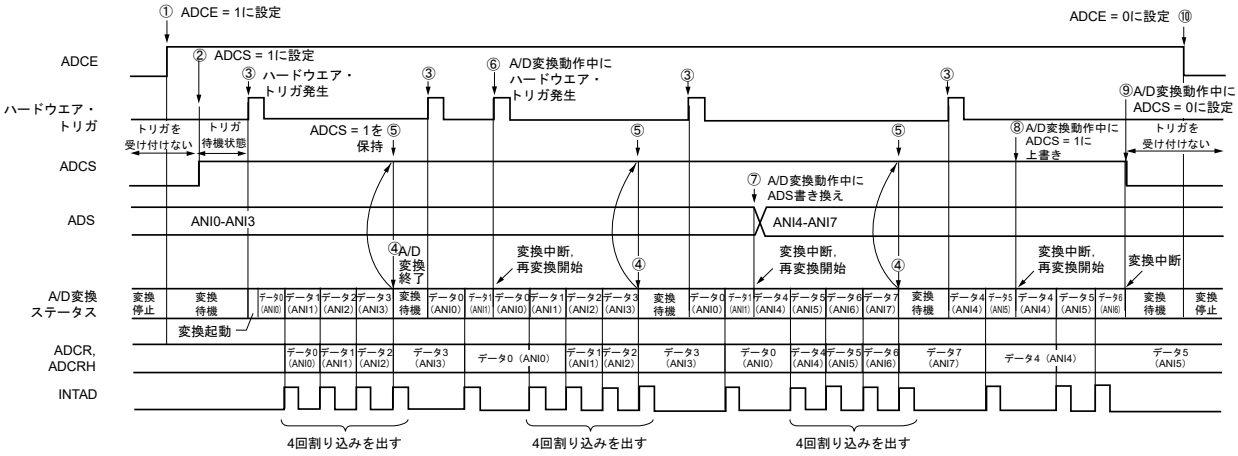
⑦ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたチャネルの最初からA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑧ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると，現在のA/D変換は中断され，最初のチャネルから再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑨ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，A/D変換待機状態となります。ただし，この状態ではA/Dコンバータは停止状態になりません。

⑩ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCS = 0のとき，ハードウエア・トリガが入力されても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－24　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード（スキャン・モード，ワンショット変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 9 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（セレクト・モード，連続変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，ハードウエア・トリガ待機状態となります。

② ハードウエア・トリガ待機状態で，ハードウエア・トリガが入力されると，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。ハードウエア・トリガの入力に合わせて，自動的にADM0レジスタのADCS = 1に設定されます。

③ A/D変換が終了すると，変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR，ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。A/D変換終了後は，すぐに次のA/D変換を開始します（このとき，ハードウエア・トリガは不要です）。

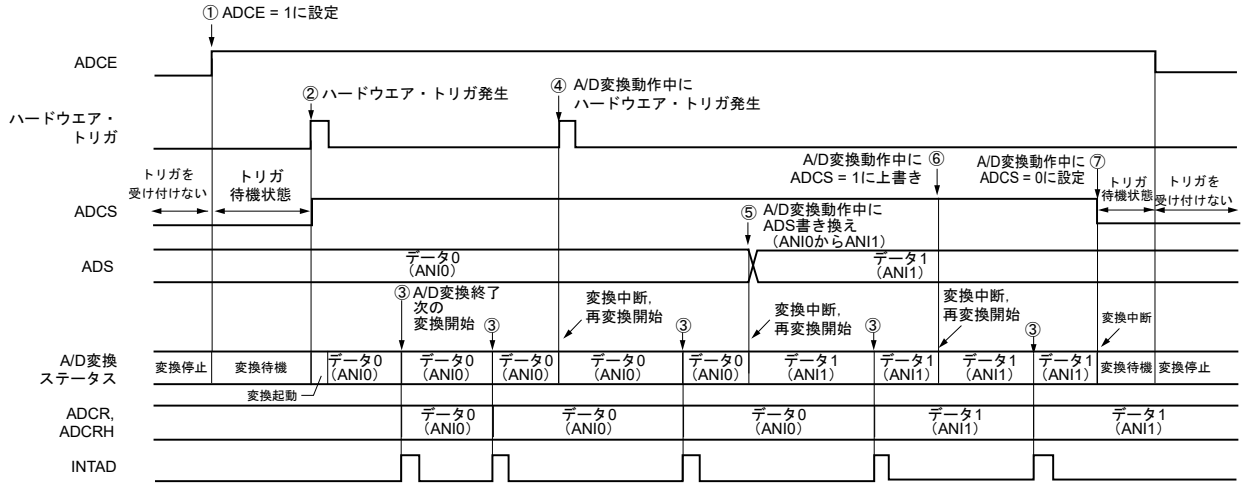
④ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力された場合，現在のA/D変換は中断され，再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑤ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑥ 変換動作中にADCS= 1に上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，ハードウエア・トリガ待機状態となり，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ハードウエア・トリガが入力されても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－25 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（セレクト・モード，連続変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 10 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（セレクト・モード，ワンショット変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，ハードウエア・トリガ待機状態となります。

② ハードウエア・トリガ待機状態で，ハードウエア・トリガが入力されると，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。ハードウエア・トリガの入力に合わせて，自動的にADM0レジスタのADCS = 1に設定されます。

③ A/D変換が終了すると，変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR，ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

④ A/D変換が終了後，ADCSビットは自動的に0にクリアされ，A/Dコンバータは停止状態になります。

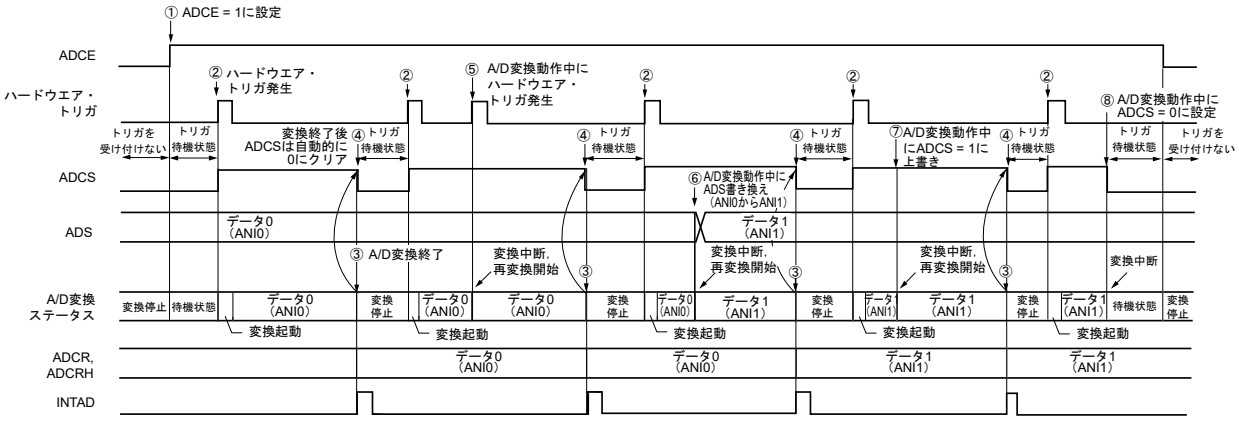
⑤ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力された場合，現在のA/D変換は中断され，再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑦ 変換動作中にADCS= 1に上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を行います。変換動作途中のデータは初期化されます。

⑧ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，ハードウエア・トリガ待機状態となり，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ハードウエア・トリガが入力されても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－26 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（セレクト・モード，ワンショット変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 11 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（スキャン・モード，連続変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ハードウエア・トリガ待機状態で，ハードウエア・トリガが入力されると，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたスキャン0～スキャン3までの4つのアナログ入力チャネルのA/D変換を行います。ハードウエア・トリガの入力に合わせて，自動的にADM0レジスタのADCS = 1に設定されます。A/D変換はスキャン0で指定されたアナログ入力チャネルから順に行います。

③ 4つのアナログ入力チャネルのA/D変換は連続して行われ，変換が完了するごとに変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。4チャネルのA/D変換終了後は，設定しているチャネルからすぐに次のA/D変換が自動的に開始されます。

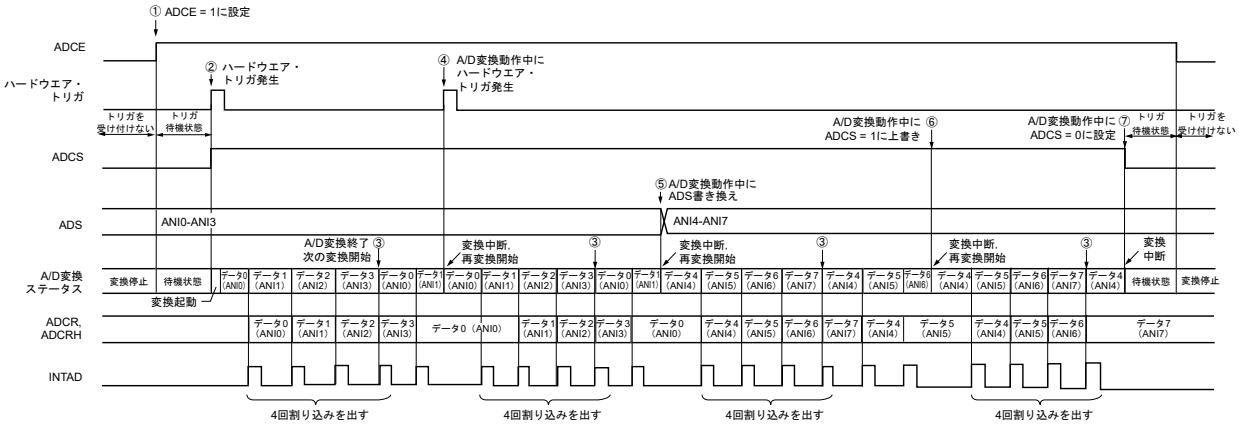
④ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力された場合，現在のA/D変換は中断され，最初のチャネルから再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑤ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたチャネルの最初からA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑥ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，ハードウエア・トリガ待機状態となり，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ハードウエア・トリガが入力されても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－27 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（スキャン・モード，連続変換モード）動作タイミング例



### 14. 6. 12 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（スキャン・モード，ワンショット変換モード）

① 停止状態で，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し，A/D変換待機状態となります。

② ハードウエア・トリガ待機状態で，ハードウエア・トリガが入力されると，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたスキャン0～スキャン3までの4つのアナログ入力チャネルのA/D変換を行います。ハードウエア・トリガの入力に合わせて，自動的にADM0レジスタのADCS = 1に設定されます。A/D変換はスキャン0で指定されたアナログ入力チャネルから順に行います。

③ 4つのアナログ入力チャネルのA/D変換は連続して行われ，変換が完了するごとに変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

④ A/D変換が終了後，ADCSビットは自動的に0にクリアされ，A/Dコンバータは停止状態になります。

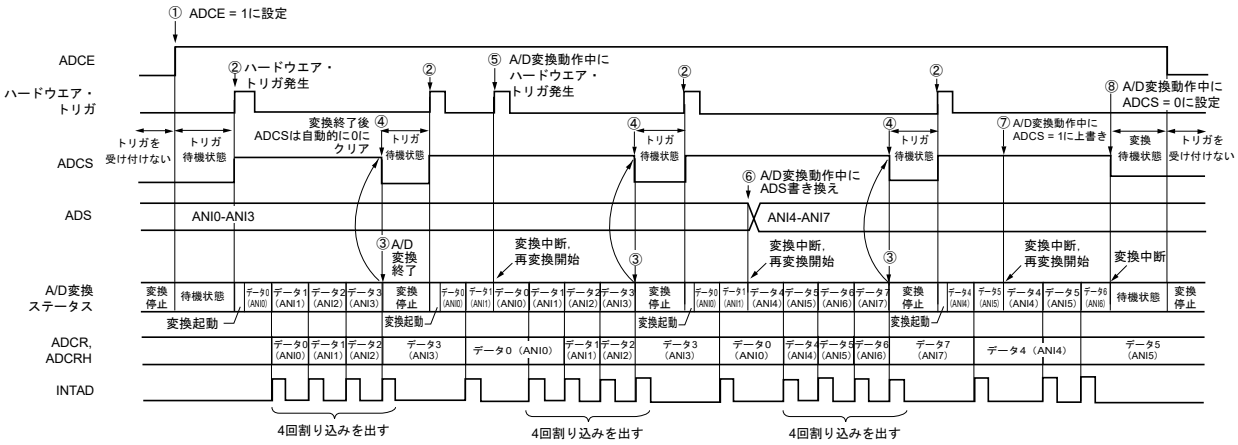
⑤ 変換動作中にハードウエア・トリガが入力された場合，現在のA/D変換は中断され，最初のチャネルから再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると，現在のA/D変換は中断され，ADSレジスタで再度指定されたチャネルの最初からA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑦ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると，現在のA/D変換は中断され，再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

⑧ 変換動作中にADCS = 0に設定すると，現在のA/D変換は中断され，ハードウエア・トリガ待機状態となり，A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき，ハードウエア・トリガが入力されても無視され，A/D変換は開始しません。

図14－28 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（スキャン・モード，ワンショット変換モード）動作タイミング例

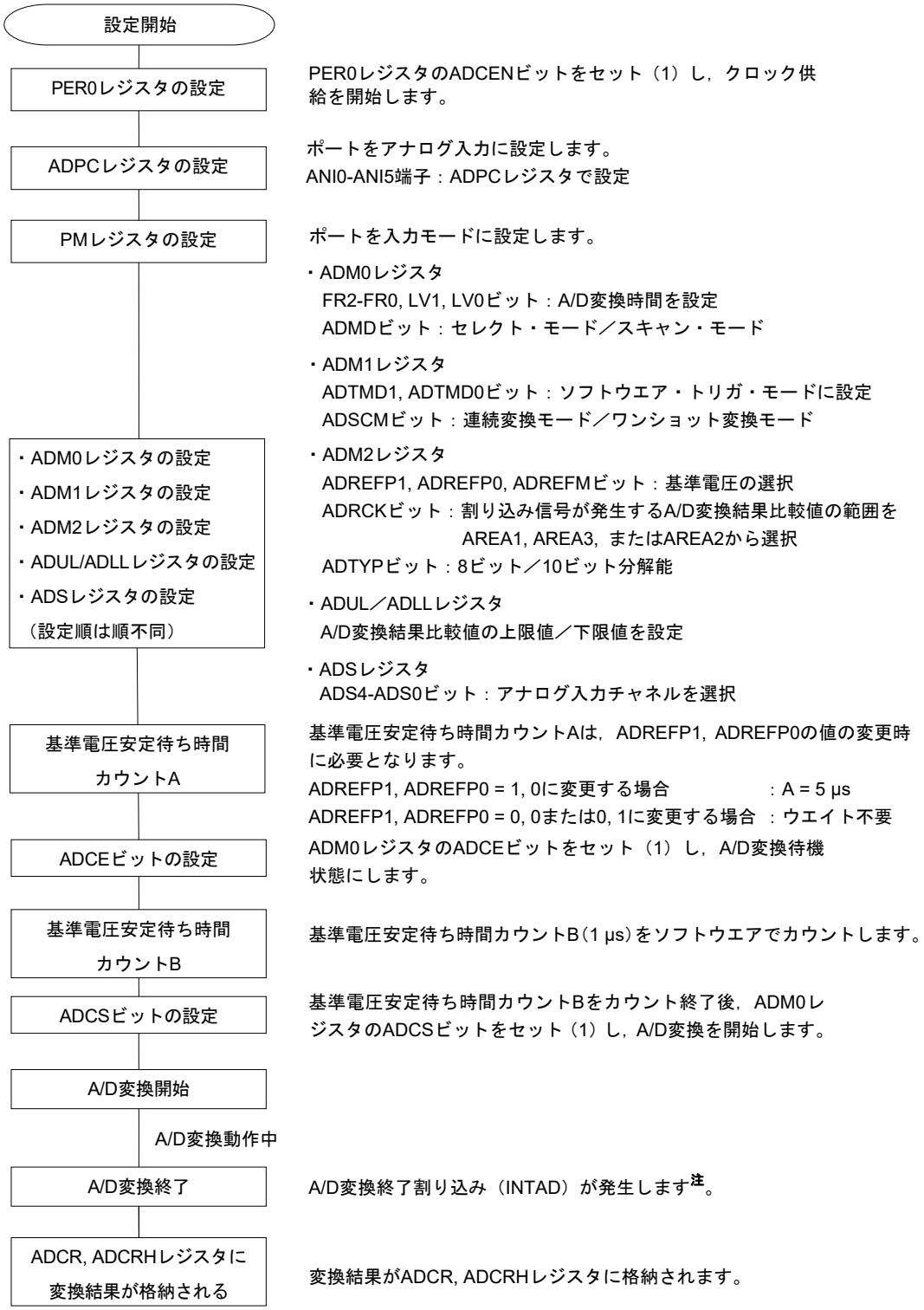


# 14. 7　A/Dコンバータの設定フロー・チャート

各動作モード時のA/Dコンバータの設定フロー・チャートを次に示します。

## 14. 7. 1　ソフトウエア・トリガ・モード設定

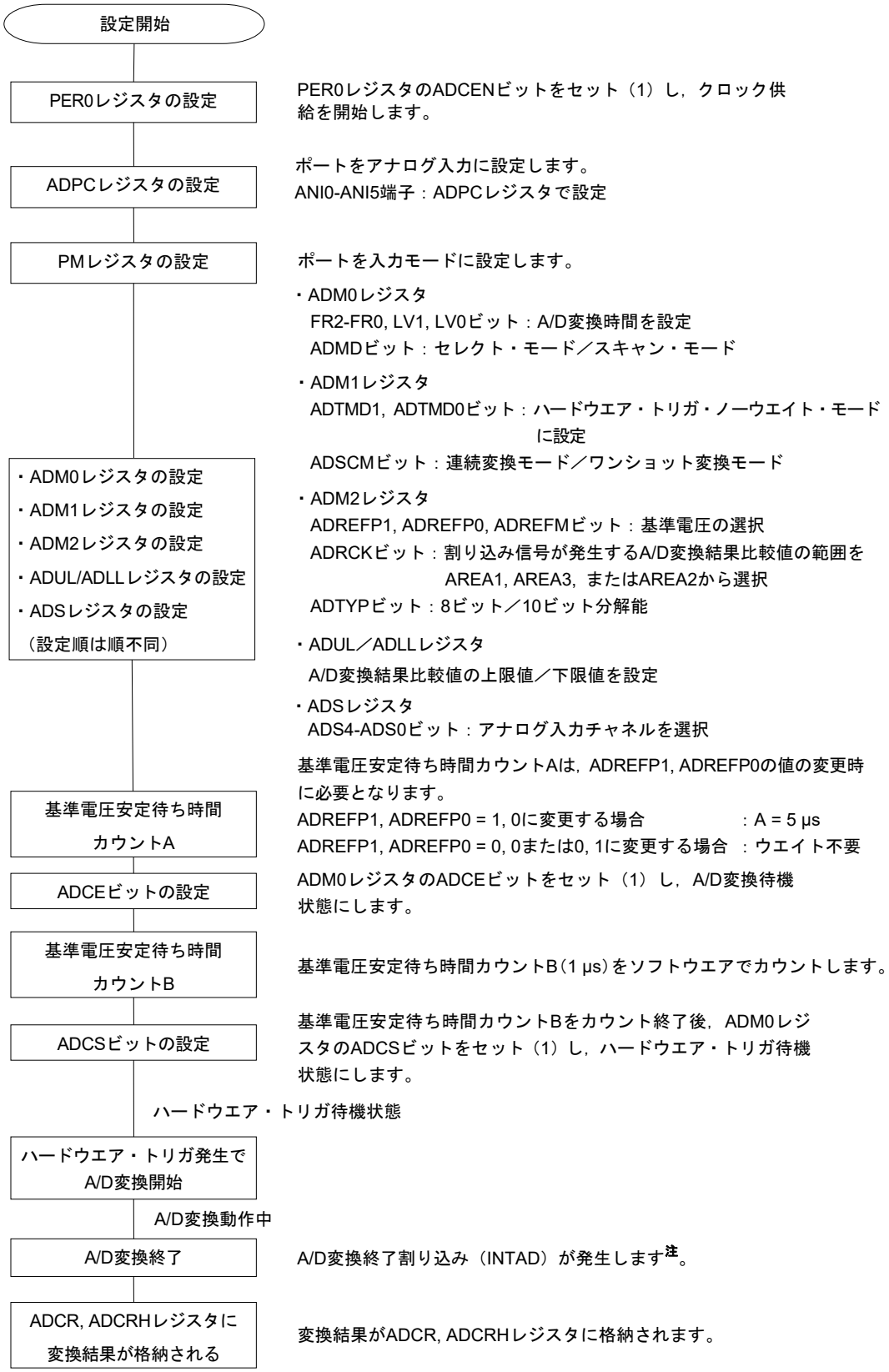
図14－29　ソフトウエア・トリガ・モード設定




注　ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタの設定により，割り込み信号が発生しない場合があります。この場合，ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

### 14. 7. 2　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード設定

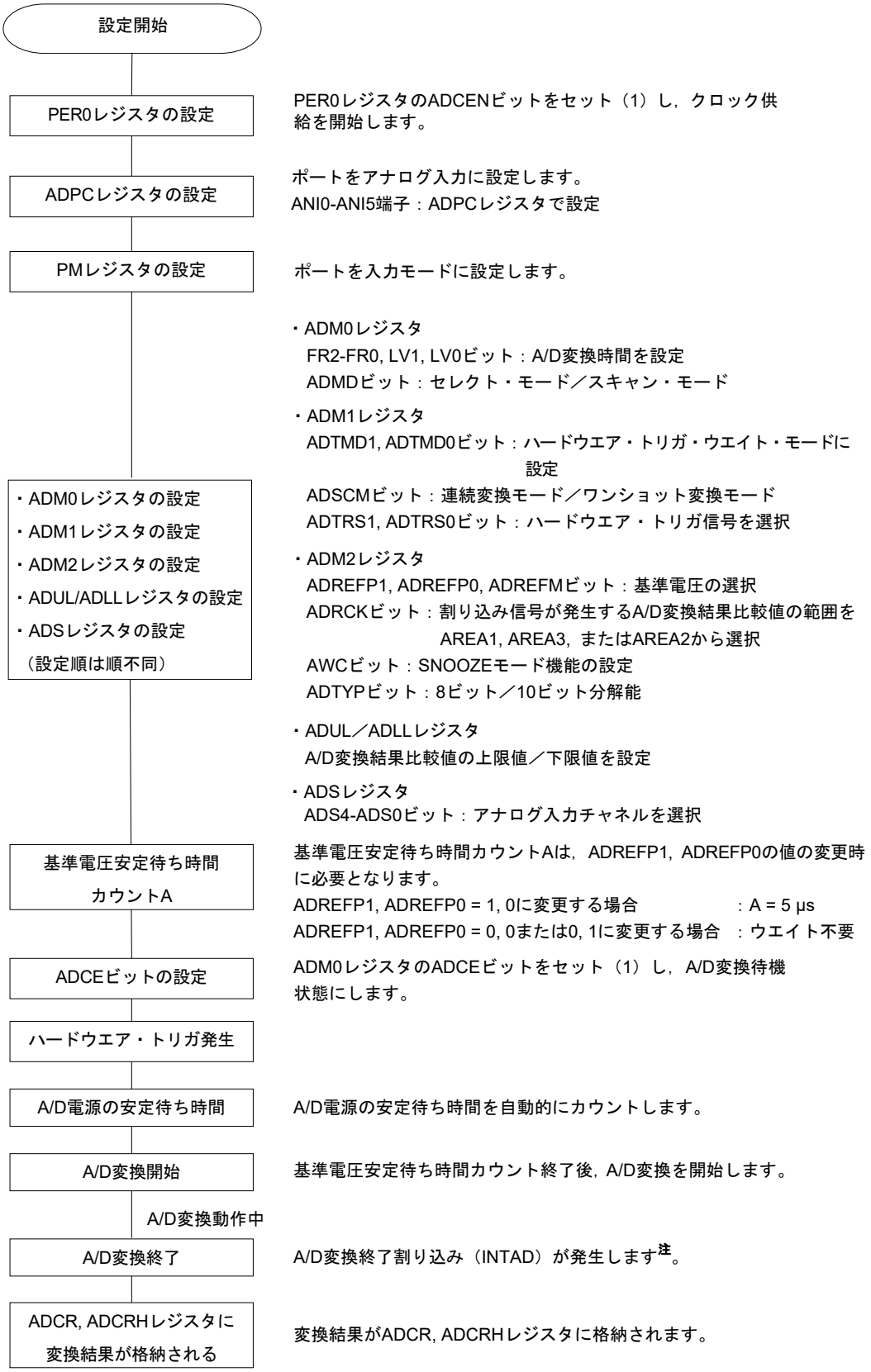
図14－30　ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モード設定




注　ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタの設定により，割り込み信号が発生しない場合があります。この場合，ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

### 14. 7. 3　ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード設定

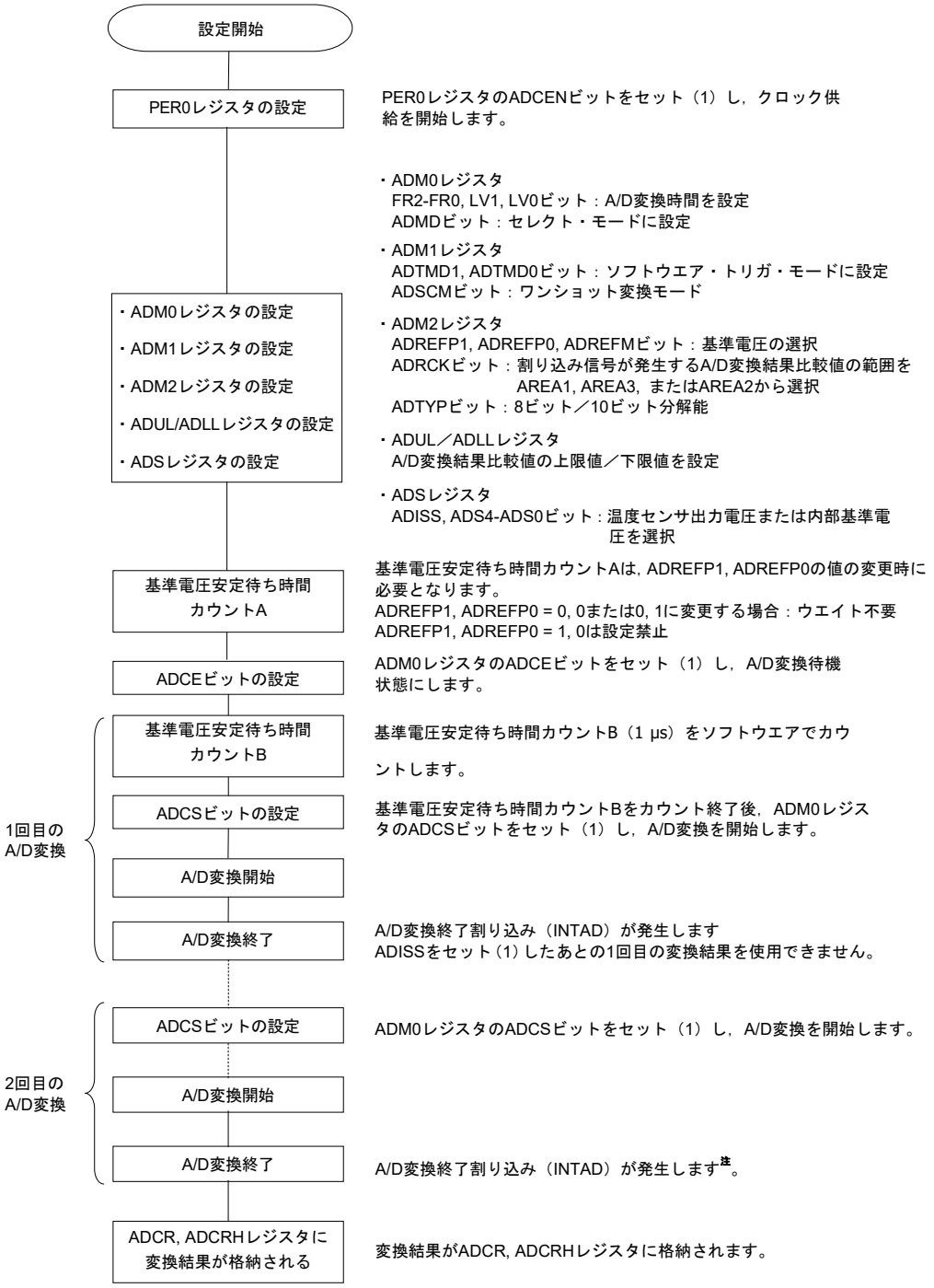
図14－31　ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード設定




注　ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタの設定により，割り込み信号が発生しない場合があります。この場合，ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

### 14. 7. 4　温度センサ出力電圧／内部基準電圧を選択時の設定（例　ソフトウエア・トリガ・モード，ワンショット変換モード時）

図14－32　温度センサ出力電圧／内部基準電圧を選択時の設定

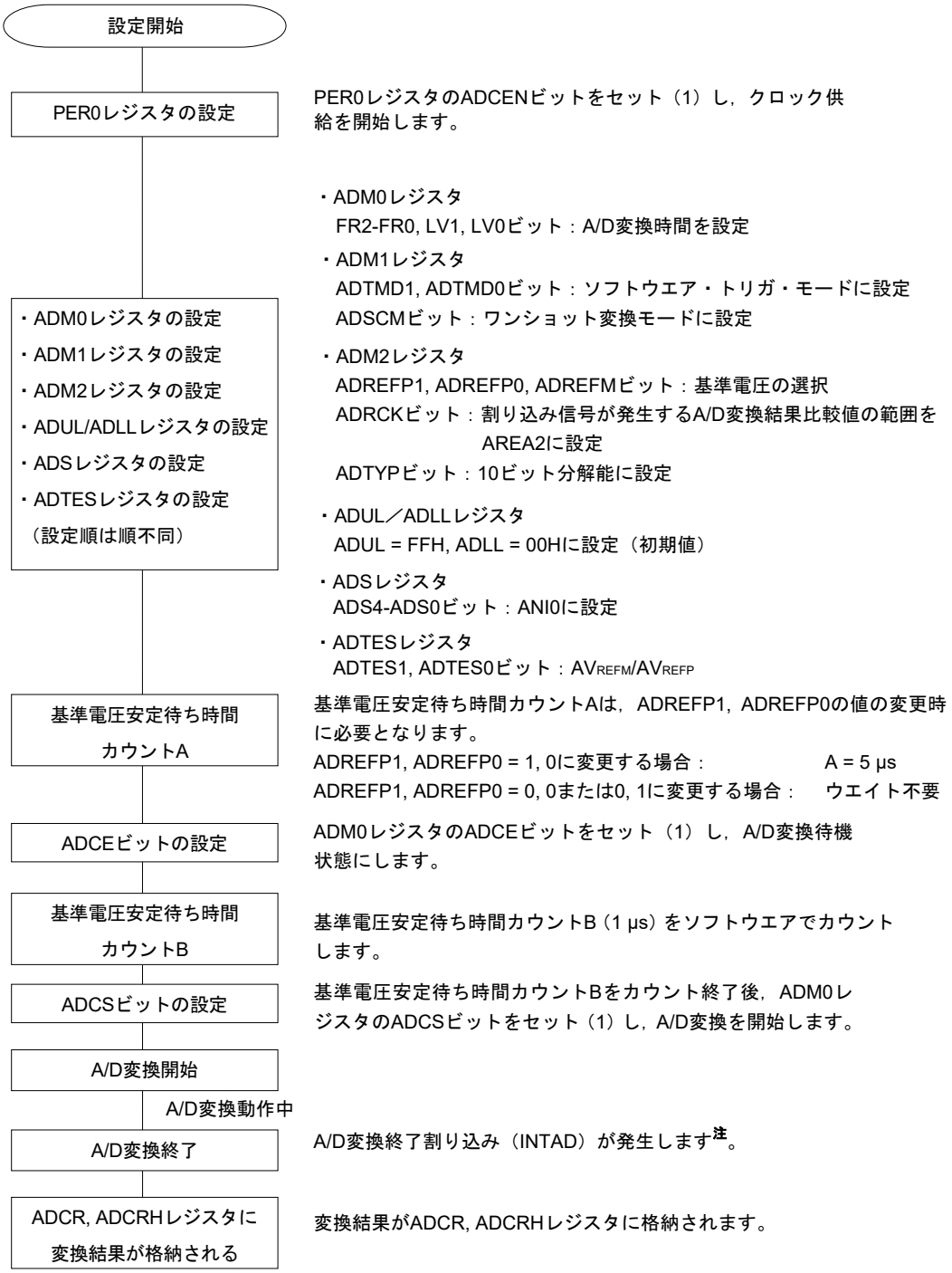



注　ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタの設定により，割り込み信号が発生しない場合があります。この場合，ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

注意　HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

### 14. 7. 5　テスト・モード設定

図14－33　テスト・モード設定




注　ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタの設定により，割り込み信号が発生しない場合があります。この場合，ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

注意　A/Dコンバータのテスト方法については，30. 3. 8　A/Dテスト機能を参照してください。

## 14. 8 SNOOZEモード機能

STOPモード時にハードウエア・トリガの入力によりA/D変換を動作させるモードです。通常STOPモード時はA/D変換動作を停止しますが, SNOOZE機能を使用することで, CPUを動作させずにA/D変換することができます。動作電流を低減させたい場合に有効です。

SNOOZEモードでは，ADUL, ADLLで変換結果の範囲を指定すれば，一定時間ごとにA/D変換結果の判断ができます。これにより，電源電圧監視やA/D入力による入力キーの判定などができます。

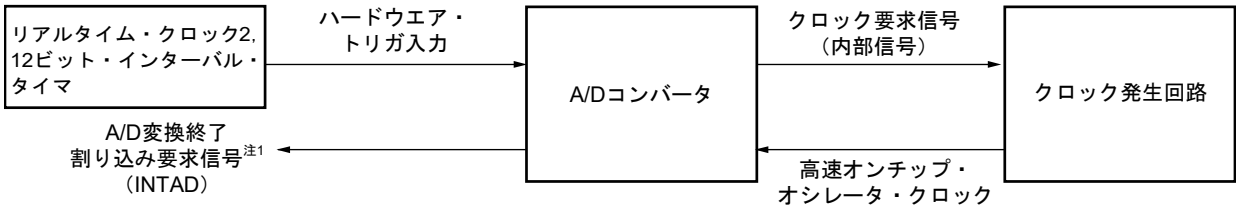
SNOOZEモードでは，次の変換モードのみ使用可能です。

・ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（セレクト・モード，ワンショット変換モード）

・ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード（スキャン・モード，ワンショット変換モード）

注意 SNOOZEモードは, $f_{CLK}$に高速オンチップ･オシレータ･クロックを選択している場合のみ設定可能です。

図14－34 SNOOZEモード機能時のブロック図




SNOOZEモード機能を使用する場合は，STOPモードに移行する前に各レジスタの初期設定を行います（14. 7. 3 ハードウエア・トリガ・ウエイト・モード設定を参照注2）。STOPモードへ移行する直前に，A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のビット2（AWC）に1を設定します。初期設定完了後，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のビット0（ADCE）に1を設定します。

STOPモードに移行後，ハードウエア・トリガが入力されると，高速オンチップ・オシレータ・クロックがA/Dコンバータに供給されます。高速オンチップ・オシレータ・クロック供給後，A/D電源安定待ち時間が自動的にカウントされ，A/D変換が開始します。

A/D変換終了後のSNOOZEモードの動作は，割り込み信号発生の有無によって異なります注1。

注1. A/D変換結果比較機能の設定（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタ）により，割り込み信号が発生しない場合があります。

2. ADM1レジスタは必ずE2HまたはE3Hに設定してください。

備考 ハードウエア・トリガは，INTRTCまたはINTITです。

ハードウエア・トリガは，A/Dコンバータ・モード・レジスタ1（ADM1）で設定してください。

（1）A/D変換終了後に割り込みが発生する場合

A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタで設定）で設定した値の範囲内の場合，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）は発生します。

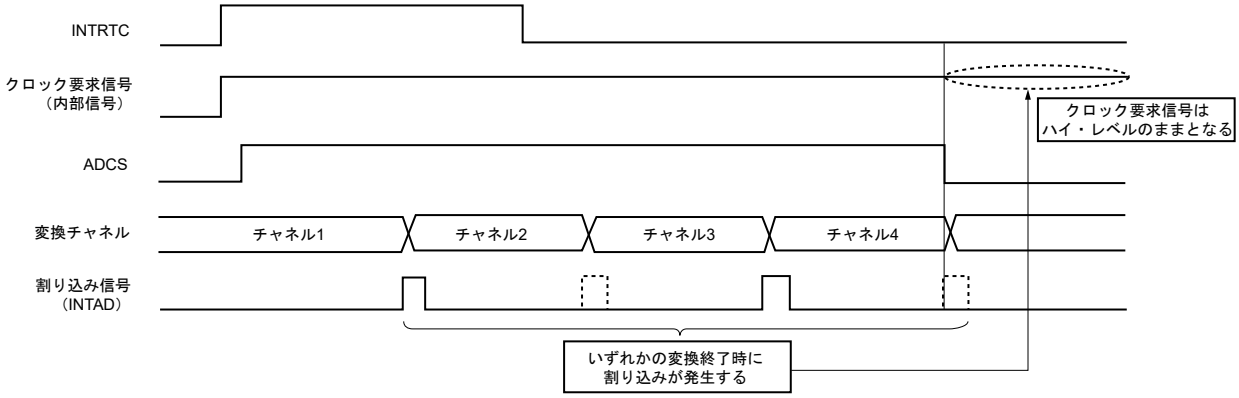
● セレクト・モード時

A/D変換が終了してA/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生すると，A/Dコンバータは SNOOZEモードから通常動作モードに移行します。ここで，A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のビット2を必ずクリア（AWC = 0：SNOOZEモードを解除）してください。AWC = 1のままでは，その後のSNOOZEモード，通常動作モードに関係なく正常にA/D変換が開始されません。

● スキャン・モード時

4チャネル分のA/D変換で1回でもA/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生した場合， A/DコンバータはSNOOZEモードから通常動作モードに移行します。ここで，A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のビット2を必ずクリア（AWC = 0：SNOOZEモードを解除）してください。AWC = 1のままでは，その後のSNOOZEモード，通常動作モードに関係なく正常にA/D変換が開始されません。

図14－35　A/D変換終了後に割り込みが発生する場合の動作例（スキャン・モード時）



（2）A/D変換終了後に割り込みが発生しない場合

A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタで設定）で設定した値の範囲外の場合，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）は発生しません。

● セレクト・モード時

A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生しなかった場合，A/D変換終了後にクロック要求信号（内部信号）は自動的にロウ・レベルとなり，高速オンチップ・オシレータ・クロックの供給は停止されます。その後，ハードウエア・トリガが入力された場合は，再度SNOOZEモードでA/D変換作業を行います。

● スキャン・モード時

4チャネル分のA/D変換で1回もA/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生しなかった場合，4チャネル分のA/D変換が終了した後にクロック要求信号（内部信号）は自動的にロウ・レベルとなり，高速オンチップ・オシレータ・クロックの供給は停止されます。その後，ハードウエア・トリガが入力された場合は，再度SNOOZEモードでA/D変換作業を行います。

図14－36　A/D変換終了後に割り込みが発生しない場合の動作例（スキャン・モード時）

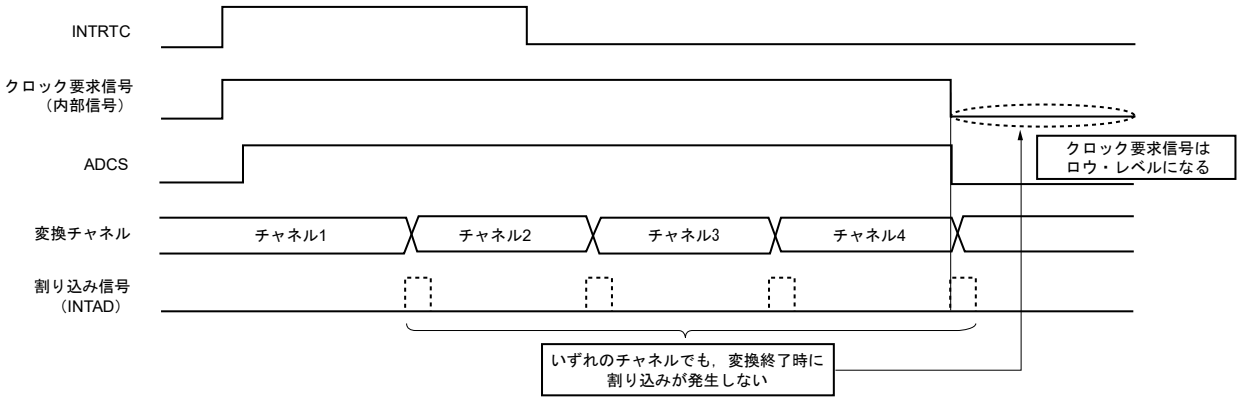
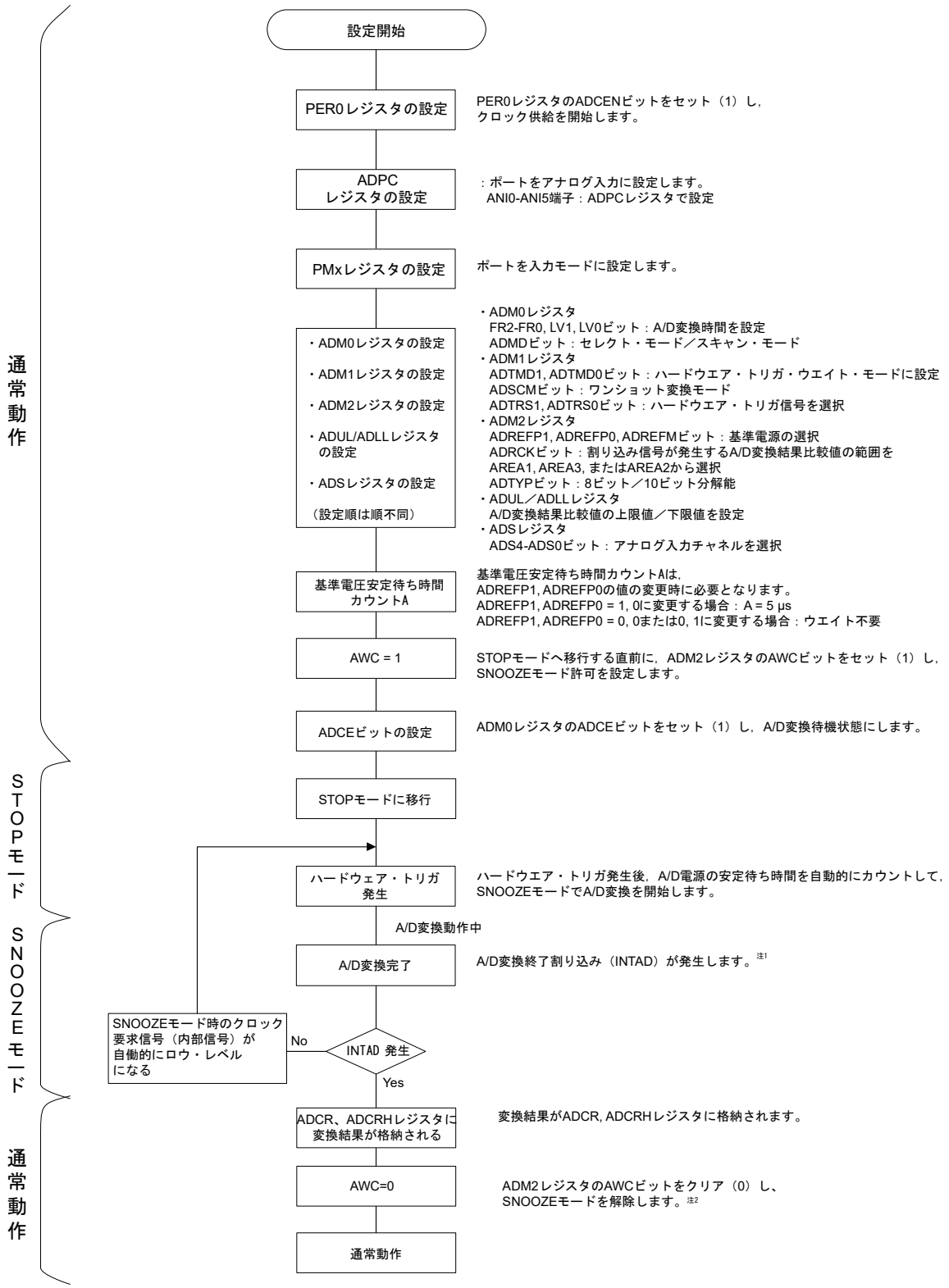


図14－37 SNOOZEモード設定のフローチャート




注 1. ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタの設定により，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生しなかった場合，ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。再びSTOPモードに移行します。その後，ハードウエア・トリガが入力された場合は，再度SNOOZEモードでA/D変換動作を行います。

2. AWC = 1のままでは，その後のSNOOZEモード，通常動作モードに関係なく正常にA/D変換が開始されません。必ずAWC = 0にしてください。

## 14. 9 A/Dコンバータ特性表の読み方

A/Dコンバータに特有な用語について説明します。

(1) 分 解 能

識別可能な最小アナログ入力電圧，つまり，デジタル出力1ビットあたりのアナログ入力電圧の比率を1 LSB（Least Significant Bit）といいます。1 LSBのフルスケールに対する比率を%FSR（Full Scale Range）で表します。

分解能10ビットのとき

$$1\ \mathrm{LSB} = 1/2^{10} = 1/1024$$
$$= 0.098\ \%\mathrm{FSR}$$

精度は分解能とは関係なく，総合誤差によって決まります。

(2) 総合誤差

実測値と理論値との差の最大値を指しています。

ゼロスケール誤差，フルスケール誤差，積分直線性誤差，微分直線性誤差およびそれらの組み合わせから生じる誤差を総合した誤差を表しています。

なお，特性表の総合誤差には量子化誤差は含まれていません。

(3) 量子化誤差

アナログ値をデジタル値に変換するとき，必然的に生じる±1/2 LSBの誤差です。A/Dコンバータでは，±1/2 LSBの範囲にあるアナログ入力電圧は，同じデジタル・コードに変換されるため，量子化誤差を避けることはできません。

なお，特性表の総合誤差，ゼロスケール誤差，フルスケール誤差，積分直線性誤差，微分直線性誤差には含まれていません。

図14－38 総合誤差

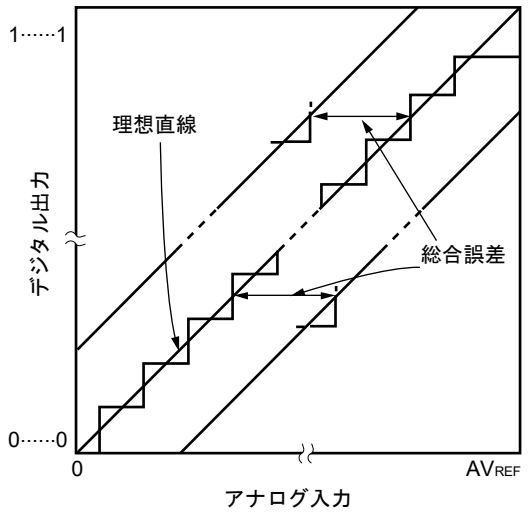
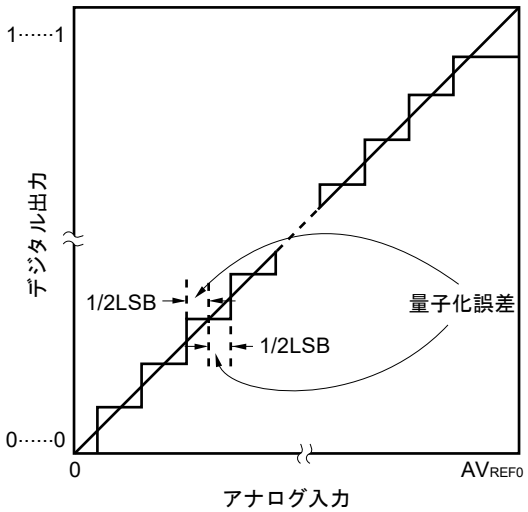



図14－39 量子化誤差



（4）ゼロスケール誤差

デジタル出力が0……000から0……001に変化するときの，アナログ入力電圧の実測値と理論値（1/2 LSB）との差を表します。実測値が理論値よりも大きい場合は，デジタル出力が0……001から0……010に変化するときの，アナログ入力電圧の実測値と理論値（3/2 LSB）との差を表します。

（5）フルスケール誤差

デジタル出力が1……110から1……111に変化するときの，アナログ入力電圧の実測値と理論値（フルスケール－3/2 LSB）との差を表します。

（6）積分直線性誤差

変換特性が，理想的な直線関係から外れている程度を表します。ゼロスケール誤差，フルスケール誤差を0としたときの，実測値と理想直線との差の最大値を表します。

（7）微分直線性誤差

理想的にはあるコードを出力する幅は1 LSBですが，あるコードを出力する幅の実測値と理想値との差を表します。

図14－40　ゼロスケール誤差

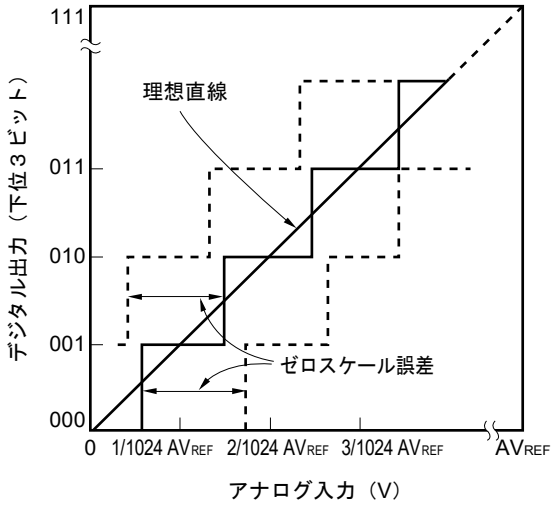



図14－41　フルスケール誤差

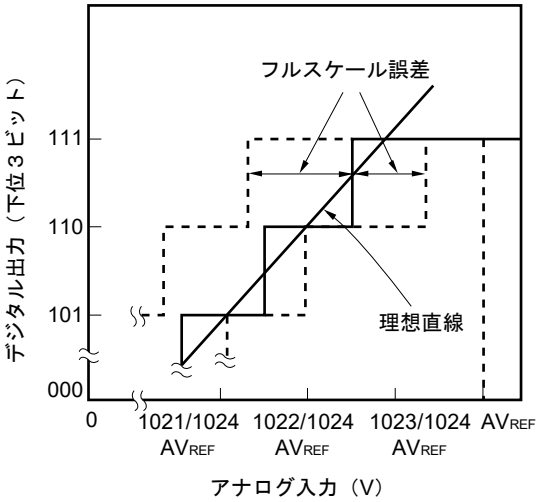


図14－42 積分直線性誤差

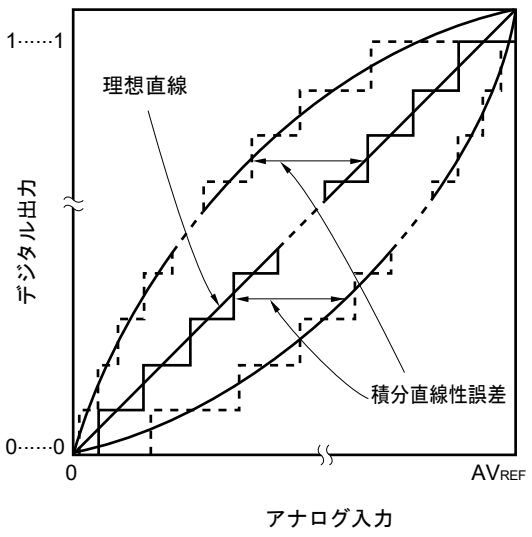
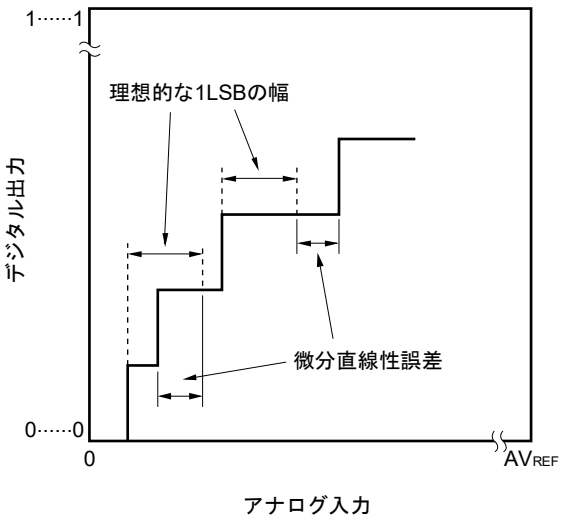



図14－43 微分直線性誤差



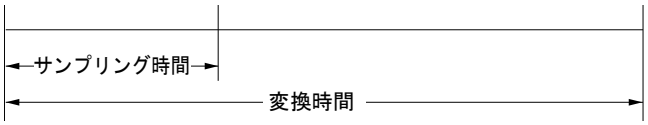

（8）変換時間

サンプリングを開始してから，デジタル出力が得られるまでの時間を表します。

特性表の変換時間にはサンプリング時間が含まれています。

（9）サンプリング時間

アナログ電圧をサンプル＆ホールド回路に取り込むため，アナログ・スイッチがオンしている時間です。



## 14. 10　A/Dコンバータの注意事項

（1）STOPモード時の動作電流について

STOPモードに移行する場合は，A/Dコンバータを停止（A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のビット7（ADCS）を0）させてから移行してください。このときADM0レジスタのビット0（ADCE）も0にすることにより，動作電流を低減させることができます。

スタンバイ状態から再度動作する場合，割り込み要求フラグ・レジスタ1H（IF1H）のビット0（ADIF）をクリア（0）してから，動作開始してください。

（2）ANI0-ANI5端子入力範囲について

ANI0-ANI5端子入力電圧は規格の範囲内でご使用ください。特に$V_{DD}$, $AV_{REFP}$を超える電圧，$V_{SS}$, $AV_{REFM}$未満（絶対最大定格の範囲内でも）の電圧が入力されると，そのチャネルの変換値が不定となります。また，ほかのチャネルの変換値にも影響を与えることがあります。

内部基準電圧（1.45 V）をA/Dコンバータの＋側の基準電圧に選択した場合は，ADSレジスタで選択されている端子には内部基準電圧（1.45 V）を超える電圧を入れないでください。ただし，ADSレジスタで選択されていない端子が内部基準電圧（1.45 V）を超える電圧になっていても問題ありません。

注意　内部基準電圧（1.45 V）は，HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

（3）競合動作について

① 変換終了時のA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）へのライトと，命令によるADCR, ADCRHレジスタのリードとの競合
ADCR, ADCRHレジスタのリードが優先されます。リードしたあと，新しい変換結果がADCR, ADCRHレジスタにライトされます。

② 変換終了時のADCR，ADCRHレジスタへのライトとA/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）へのライト，アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）またはA/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）へのライトの競合
ADM0, ADS, ADPCレジスタへのライトが優先されます。ADCR, ADCRHレジスタへのライトはされません。また，変換終了割り込み信号（INTAD）も発生しません。

（4）ノイズ対策について

10ビット分解能を保つためには，$AV_{REFP}$, $V_{DD}$, ANI0-ANI5端子へのノイズに注意する必要があります。

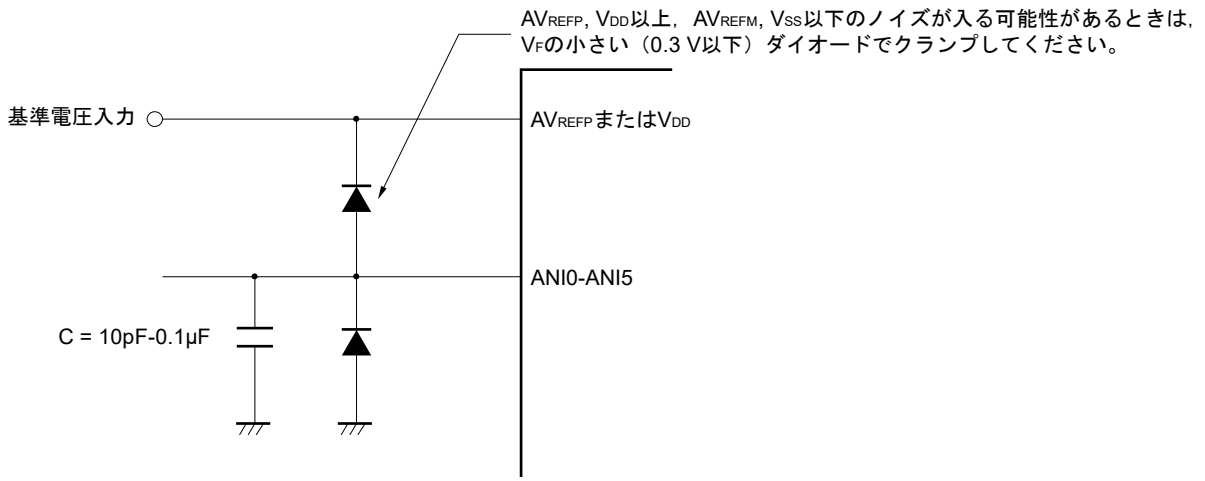
① 電源には等価抵抗が小さく，周波数応答のよいコンデンサ（0.01 μF程度）を最短距離かつ，比較的太い配線を使って接続してください。

② アナログ入力源の出力インピーダンスが高いほど影響が大きくなりますので，ノイズを低減するために図14－44のようにコンデンサを外付けすることを推奨します。

③ 変換中においては，他の端子をスイッチングしないようにしてください。

④ 変換開始直後にHALTモードに設定すると，精度が向上します。

図14－44　アナログ入力端子の処理




（5）アナログ入力（ANIn）端子

① アナログ入力（ANI0-ANI5）端子は入力ポート（P20-P25）端子と兼用になっています。
ANI0-ANI5端子のいずれかを選択してA/D変換をする場合，変換中にP20-P25に対して出力値を変更しないでください。変換精度が低下することがあります。

② A/D変換中の端子に隣接する端子をデジタル入出力ポートとして使用すると，カップリング・ノイズによってA/D変換値が期待値と異なることがあります。A/D変換中は，デジタル信号の様に急激に変化するパルスが入出力されないようにしてください。

（6）アナログ入力（ANIn）端子の入力インピーダンスについて

このA/Dコンバータでは，サンプリング時間で内部のサンプリング・コンデンサに充電して，サンプリングを行っています。

したがって，サンプリング中以外はリーク電流だけであり，サンプリング中にはコンデンサに充電するための電流も流れるので，入力インピーダンスはサンプリング中とそれ以外の状態で変動します。

ただし，十分にサンプリングするためには，アナログ入力源の出力インピーダンスを1 kΩ以下にしてください。出力インピーダンスが1 kΩ以下にできないときはサンプリング時間を長く設定するかANI0-ANI5端子に 0.1 μF程度のコンデンサを付けることを推奨します（図14－44参照）。また，変換動作中にADCS = 0に設定した場合および再変換を開始した場合は，サンプリング・コンデンサに充電された電圧は不定となります。そのため，ADCS = 0を設定時は次の変換が，再変換時はその変換が不定状態から充電を開始します。そのため十分に充電するためには，アナログ信号の変化の大きさによらず，アナログ入力源の出力インピーダンスを低くするか十分なサンプリング時間を確保してください。

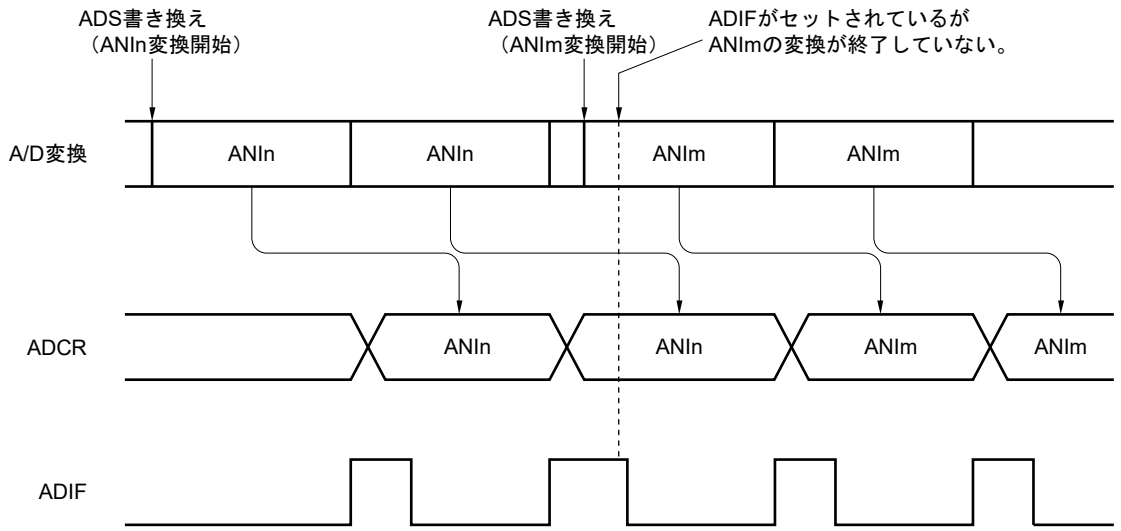
（7）割り込み要求フラグ（ADIF）について

アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）を変更しても割り込み要求フラグ（ADIF）はクリア（0）されません。

したがって，A/D変換中にアナログ入力端子の変更を行った場合，ADSレジスタ書き換え直前に，変更前のアナログ入力に対するA/D変換結果およびADIFフラグがセットされている場合があります。ADSレジスタ書き換え直後にADIFフラグを読み出すと，変換後のアナログ入力に対するA/D変換が終了していないにもかかわらずADIFフラグがセットされていることになりますので注意してください。

また，A/D変換を一度停止させて再開する場合は，再開する前にADIFフラグをクリア（0）してください。

図14－45　A/D変換終了割り込み要求発生タイミング




（8）A/D変換スタート直後の変換結果について

ソフトウエア・トリガ・モード，ハードウエア・トリガ・ノーウエイト・モードでADCEビット ＝1にしてから，1 μs以内にADCSビット ＝ 1にした場合，A/D変換動作をスタートした直後のA/D変換値は定格を満たさないことがあります。A/D変換終了割り込み要求（INTAD）をポーリングし，最初の変換結果を廃棄するなどの対策を行ってください。

（9）A/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）の読み出しについて

A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0），アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS），A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）に対して書き込み動作を行ったとき，ADCR，ADCRHレジスタの内容は不定となることがあります。変換結果は，変換動作終了後，ADM0, ADS, ADPCレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。上記以外のタイミングでは，正しい変換結果が読み出されないことがあります。

（10）内部等価回路について

アナログ入力部の等価回路を次に示します。

図14－46　ANIn端子内部等価回路

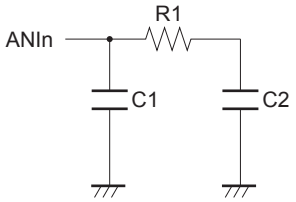



表14－4　等価回路の各抵抗と容量値（参考値）

| $AV_{REFP}$, $V_{DD}$ | ANIn端子 | R1 [kΩ] | C1 [pF] | C2 [pF] |
|---|---|---|---|---|
| 3.6 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | ANI0-ANI5 | 14 | 8 | 2.5 |
| 2.7 V≦$V_{DD}$≦3.6 V | ANI0-ANI5 | 39 | 8 | 2.5 |
| 1.9 V≦$V_{DD}$＜2.7 V | ANI0-ANI5 | 231 | 8 | 2.5 |

備考　表14－4の各抵抗と容量値は保証値ではありません。

（11）A/Dコンバータの動作開始について

A/Dコンバータの動作は，$AV_{REFP}$, $V_{DD}$の電圧が安定してから開始してください。

# 第15章　温度センサ2

## 15. 1　温度センサの機能

RL78/I1Bでは温度センサを搭載しています。温度センサの出力電圧を10ビットA/Dコンバータで測定することで，温度を測定することができます。温度センサ・コントロール・テスト・レジスタの設定により，温度センサのモードを以下の3つのモードに切り替えることができます。

- 高温域モード：Mode 1, 0℃～90℃（出力イメージ図　Mode 1）
- 常温域モード：Mode 2，－20℃～70℃（出力イメージ図　Mode 2）
- 低温域モード：Mode 3，－40℃～50℃（出力イメージ図　Mode 3）

温度センサは，HS（高速メイン）モードで使用可能です。

図15－1に温度センサのブロック図を示します。

図15－1　ブロック図

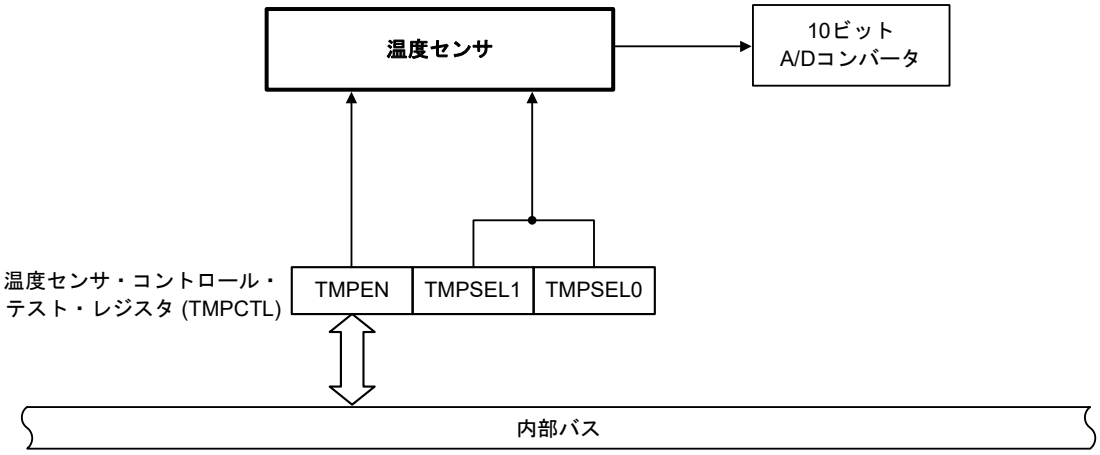
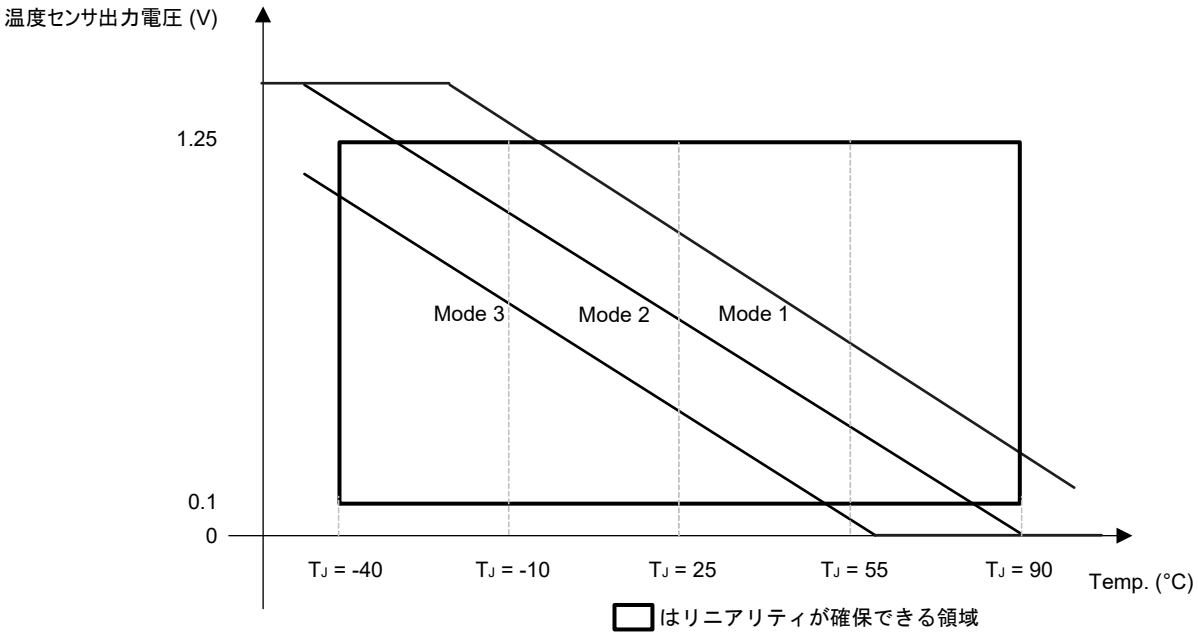



図15－2　出力イメージ図



## 15. 2　レジスタの説明

表15－1に温度センサで使用するレジスター覧を示します。

表15－1　レジスター覧

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | 温度センサ・コントロール・テスト・レジスタ（TMPCTL） |

### 15. 2. 1　温度センサ・コントロール・テスト・レジスタ（TMPCTL）

TMPCTLレジスタは，温度センサの動作停止／動作開始の設定，温度センサのモードの選択をするレジスタです。

TMPCTLレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図15－3　温度センサ・コントロール・テスト・レジスタ（TMPCTL）のフォーマット

アドレス：F03B0H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TMPCTL | TMPEN注1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TMPSEL1注2 | TMPSEL0注2 |

| TMPEN | 温度センサの動作制御 |
|---|---|
| 0 | 温度センサ動作停止 |
| 1 | 温度センサ動作開始 |

| TMPSEL1 | TMPSEL0 | 温度センサのモード選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 常温域（Mode 2） |
| 0 | 1 | 低温域（Mode 3） |
| 1 | 0 | 高温域（Mode 1） |
| 上記以外 | | 設定禁止 |

注1.　TMPENビットを0から1に設定後，50 μsの動作可能安定待ち時間が必要です。

2.　TMPSEL1-TMPSEL0ビットへの設定値変更後，15 μsのモード切り替え安定待ち時間が必要です。

注意1.　ビット6-2には必ず0を設定してください。

2.　温度センサを使用する場合は，10bitA/Dコンバータを内部基準電圧で使用してください。
基準電圧に$V_{DD}$を選択した場合，正しく動作しません。

## 15. 3　設定手順

温度センサの設定手順を以下に示します。

### 15. 3. 1　A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）

図15－4に温度センサ動作開始時の設定フローを示します。

図15－4　温度センサ動作開始時の設定フロー

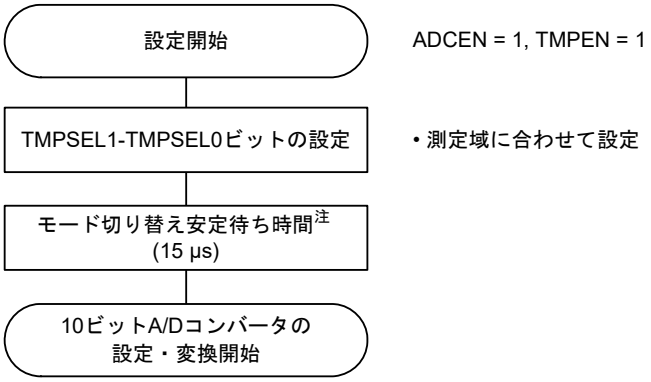
注　動作可能安定待ち時間は，A/Dコンバータ変換開始までに必要となる時間です。

注意　10bitA/Dコンバータは内部基準電圧出力を選択してください。

### 15. 3. 2　モード切り替え

図15－5に温度センサモード切り替え時の設定フローを示します。

図15－5　温度センサモード切り替え時の設定フロー




注　モード切り替え安定待ち時間は，A/Dコンバータ変換開始までに必要となる時間です。

注意　10bitA/Dコンバータは内部基準電圧出力を選択してください。

# 第16章　24ビットΔΣA/Dコンバータ

24ビットΔΣA/Dコンバータはアナログ入力をデジタル値に変換する24ビット分解能のコンバータです。

## 16. 1　24ビットΔΣA/Dコンバータの機能

24ビットΔΣA/Dコンバータの機能を示します。

○S/N+D比80 dB以上（プリアンプ・ゲイン1倍選択時）
○24ビット分解能（変換結果レジスタ：24ビット）
○3チャネル（電流チャネル：2チャネル　電圧チャネル：1チャネル）（80ピン製品）
○4チャネル（電流チャネル：2チャネル　電圧チャネル：2チャネル）（100ピン製品）
○アナログ入力8本（正側，負側入力／チャネル）
○ΔΣ変換方式
○プリアンプ・ゲイン選択：　1倍，2倍，4倍，8倍，16倍，32倍注（チャネル0, 2：電流チャネル）
　1倍，2倍，4倍，8倍，16倍（チャネル1, 3：電圧チャネル）
○動作電圧：　$AV_{DD}$ = 2.4～5.5 V，$AV_{SS}$ = 0 V
○アナログ入力電圧：　±0.500 V（プリアンプ・ゲイン1倍選択時）
　±0.250 V（プリアンプ・ゲイン2倍選択時）
　±0.125 V（プリアンプ・ゲイン4倍選択時）
　±62.5 mV（プリアンプ・ゲイン8倍選択時）
　±31.25 mV（プリアンプ・ゲイン16倍選択時）
　±15.625 mV（プリアンプ・ゲイン32倍注選択時）
○基準電圧生成（0.8 V [TYP.]：出力可能）
○サンプリング周波数：　3906.25 Hz（4 kHzサンプリング・モード）／1953.125 Hz（2 kHzサンプリング・モード）
○HPFカットオフ周波数：　0.607 Hz, 1.214 Hz, 2.429 Hz, 4.857 Hzを選択可能
○動作クロック：　高速システム・クロック（$f_{MX}$）（12 MHz水晶振動子のみ使用可能）
　高速オンチップ・オシレータ（$f_{IH}$）

注　32倍はデジタルフィルタでゲインを2倍します。

注意　PCKCレジスタのDSADCK = 1により高速システム・クロック（$f_{MX}$）を使用する場合は，12 MHzを供給してください。

表16－1に24ビットΔΣA/Dコンバータの構成を，図16－1，図16－2に24ビットΔΣA/Dコンバータのブロック図を示します。

表16－1　24ビットΔΣA/Dコンバータの構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| アナログ入力 | 3チャネル6入力（80ピン製品）<br>4チャネル8入力（100ピン製品） |
| 内部ユニット | プリアンプ部<br>ΔΣA/Dコンバータ部<br>基準電圧発生部<br>位相調整部（PHC0, PHC1）<br>デジタル・フィルタ部（DF）<br>ハイパス・フィルタ部（HPF） |

図16－1　24ビットΔΣA/Dコンバータのブロック図（100ピン製品）

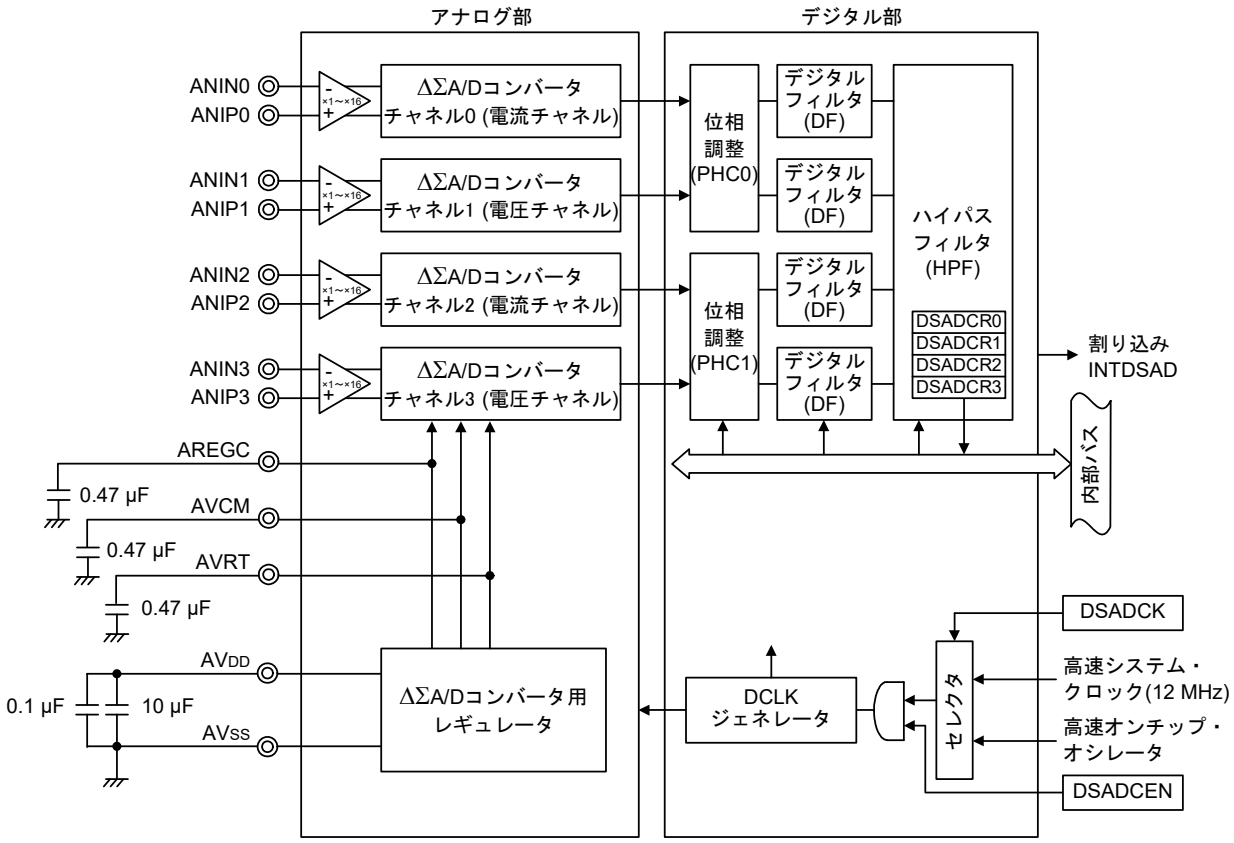
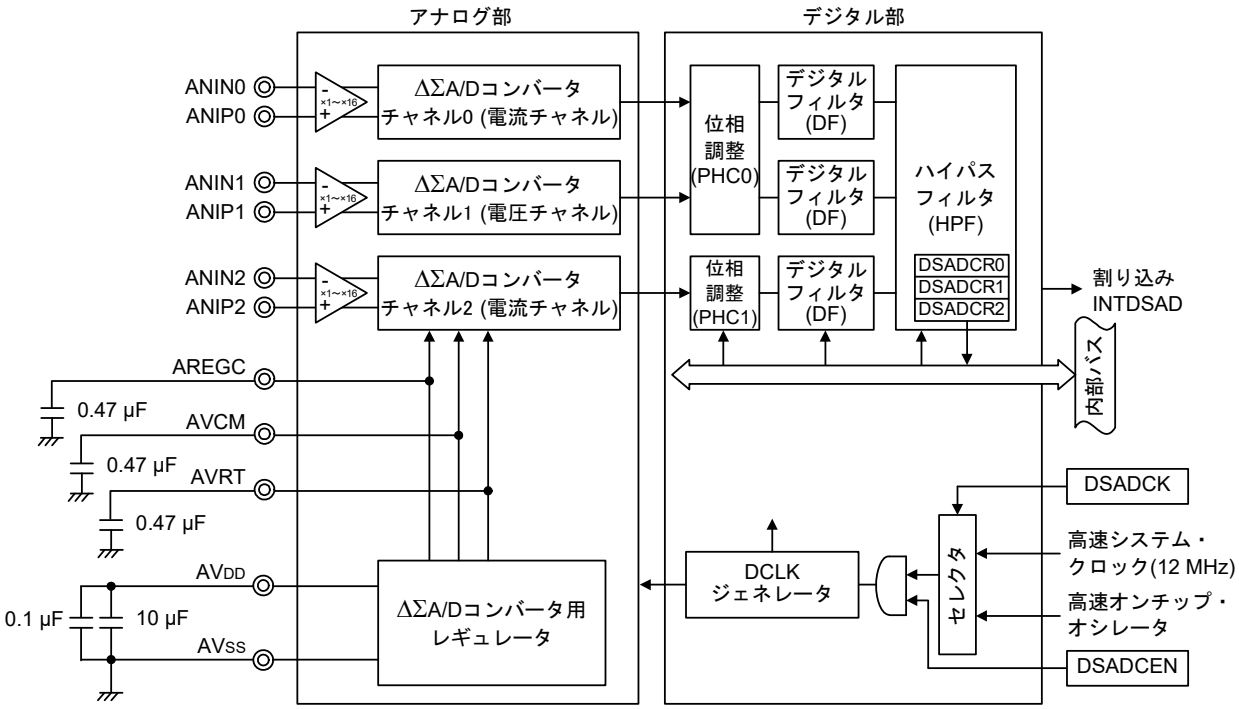



図16－2　24ビットΔΣA/Dコンバータのブロック図（80ピン製品）



### 16. 1. 1　入出力端子

24ビットΔΣA/Dコンバータには，表16－2の入出力端子があります。

表16－2　端子構成

| 名称 | 記号 | 入出力 | 機能 |
|---|---|---|---|
| アナログ入力正端子0～アナログ入力正端子3 | ANIPn | 入力 | ΔΣA/Dコンバータへのアナログ入力端子（正側入力）注1, 2, 4 |
| アナログ入力負端子0～アナログ入力負端子3 | ANINn | 入力 | ΔΣA/Dコンバータへのアナログ入力端子（負側入力）注1, 2, 4 |
| ΔΣA/Dコンバータ用電源電圧端子 | AREGC | — | ΔΣA/Dコンバータ用電源電圧 |
| 同相電圧端子 | AVCM | — | 同相電圧 |
| リファレンス電圧端子 | AVRT | — | リファレンス電圧 |
| アナログ電源端子 | $AV_{DD}$ | — | アナログ電源注3 |
| アナログGND端子 | $AV_{SS}$ | — | アナログGND |

注1.　1チャネル2入力であり，ANINn端子が負側入力，ANIPn端子が正側入力となります。

2.　チャネル0およびチャネル2側が電流チャネル，チャネル1およびチャネル3側が電圧チャネルになります。

3.　$AV_{SS}$端子との間に安定化容量として10 μF + 0.1 μFのコンデンサを接続してください。

4.　単相2線式メータでは，センサ遅延を考慮して端子を選択してください。

備考　100ピン製品はn = 0～3，80ピン製品はn = 0～2

### 16. 1. 2　プリアンプ

ANINn, ANIPn端子に入力するアナログ入力信号を増幅するユニットです。

レジスタ設定により1倍，2倍，4倍，8倍，16倍，32倍注の切り替えが可能です。

注　電流チャネル（チャネル0，チャネル2）のみ

備考　100ピン製品はn = 0～3，80ピン製品はn = 0～2

### 16. 1. 3　ΔΣA/Dコンバータ

ΔΣA/Dコンバータ回路を4回路内蔵し，計4チャネルのアナログ入力を2ビットのデジタル値へ変換します。

この4つのΔΣA/Dコンバータ回路は同期して動作し，それぞれの2ビットのデジタル値は，位相調整回路，デジタル・フィルタ，ハイパス・フィルタを通過して，各チャネルの変換結果として，変換結果レジスタ（DSADCR0-DSADCR3）に格納されます。4チャネル分の変換を終了するたびに，割り込み要求信号を発行して，CPUに対し変換結果の読み出しが可能であることを知らせます。サンプリング周波数（fs）は，3906.25 Hzと1953.125 Hzから選択可能です。サンプリング周波数によって，最大保留時間，オーバサンプリング周波数は，下記のように可変します。最大保留時間までにΔΣA/D変換結果レジスタの読み出しを完了させてください。

| サンプリング周波数（fs） | 最大保留時間 | オーバサンプリング周波数 |
|---|---|---|
| 3906.25 Hz（4kHzサンプリング） | 192 μs | 1.5 MHz |
| 1953.125 Hz（2kHzサンプリング） | 384 μs | 750 kHz |

### 16. 1. 4　基準電圧発生

基準電圧源（バンド・ギャップ・リファレンス回路）を内蔵し，基準電圧出力端子AVRTより出力します。外付け容量として0.47 μFのコンデンサを接続してください。

### 16. 1. 5　位相調整回路（PHC0, PHC1）

入力されるアナログ信号の位相を調整する機能です。384 fsを1ステップとして1151ステップまでアナログ信号間の位相を調整します。

外部部品（電流センサなど）により，入力アナログ信号間で位相ずれが生じます。この位相ずれにより，電力演算精度が低下するため，DSADPHC0，DSADPHC1レジスタを使用し，位相ずれを修正してください。

位相ずれの補正1ステップは，ライン周波数が60 Hzの場合は0.0144°，50 Hzの場合0.0120°単位での調整が可能です。

位相調整回路は2回路（PHC0，PHC1）搭載されており，最大2入力信号に対して位相を調整できます。組み合わせは，ch0とch1の一方，ch2とch3の一方になります。

### 16. 1. 6　デシタル・フィルタ（DF）

ΔΣA/Dコンバータ出力に含まれる高調波ノイズを除去し，かつデータ・レートを384分の1に間引きます。

### 16. 1. 7　ハイパス・フィルタ（HPF）

入力信号に含まれるDC成分およびアナログ回路で生じたDCオフセットを除去します。チャネルごとにハイパス・フィルタの挿入／非挿入の選択が可能です。

## 16. 2　レジスタの説明

表16－3に24ビットΔΣA/Dコンバータで使用するレジスター覧を示します。

表16－3　レジスター覧

| 項　　目 | レジスタ名 |
|---|---|
| 制御レジスタ | ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR） |
| | ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ0（DSADGCR0） |
| | ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ1（DSADGCR1） |
| | ΔΣA/DコンバータHPFコントロール・レジスタ（DSADHPFCR） |
| | ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ0（DSADPHCR0） |
| | ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ1（DSADPHCR1） |
| レジスタ | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ0L（DSADCR0L） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ0M（DSADCR0M） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ0H（DSADCR0H） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ1L（DSADCR1L） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ1M（DSADCR1M） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ1H（DSADCR1H） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ2L（DSADCR2L） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ2M（DSADCR2M） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ2H（DSADCR2H） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ3L（DSADCR3L） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ3M（DSADCR3M） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ3H（DSADCR3H） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ0（DSADCR0） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ1（DSADCR1） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ2（DSADCR2） |
| | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ3（DSADCR3） |
| 制御レジスタ | 周辺イネーブル・レジスタ1（PER1） |
| | 周辺クロック制御レジスタ（PCKC） |

### 16. 2. 1　ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）

DSADMRレジスタは，ΔΣA/Dコンバータのモードを設定するレジスタです。サンプリング周期の選択，ΔΣA/Dコンバータの分解能選択，各チャネルのパワーオン制御や動作許可制御を行います。

DSADMRレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，DSADMRレジスタは0000Hとなります。

図16－3　ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）のフォーマット

アドレス：F03C0H　　リセット時：0000H　　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADMR | DSADFR | DSADTYP | 0 | 0 | DSADPON3 | DSADPON2 | DSADPON1 | DSADPON0 | 0 | 0 | 0 | 0 | DSADCE3 | DSADCE2 | DSADCE1 | DSADCE0 |

| DSADFR | サンプリング周波数選択 |
|---|---|
| 0 | 3906.25 Hz |
| 1 | 1953.125 Hz |
| サンプリング周波数を選択するビットです。 | |

| DSADTYP | ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタの読み出し分解能の選択 |
|---|---|
| 0 | 24ビット分解能 |
| 1 | 16ビット分解能 |
| DSADTYP = 0の場合：<br>ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ（DSADCRn）の読み出しにより，ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタの下位16ビットを読み出せます。上位8ビットはDSADCRnHを読み出してください。<br>DSADTYP = 1の場合：<br>ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ（DSADCRn）の読み出しにより，ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタの上位16ビットを読み出せます。 | |

| DSADPONn[注] | チャネルnのΔΣA/Dコンバータパワーオン制御（アナログ部） |
|---|---|
| 0 | パワーダウン |
| 1 | パワーオン |

| DSADCEn[注] | チャネルnのΔΣA/Dコンバータ動作許可（アナログ，デジタル部） |
|---|---|
| 0 | 電荷リセット |
| 1 | 通常動作 |
| ΔΣA/Dコンバータの変換動作許可するビットです。アナログ部の電荷，デジタル部の変換結果をリセットします。ΔΣA/Dコンバータの電荷リセットを正常に行うためには，DSADCEnビットを1→0に設定後，1.4 μs以上待ってから再変換してください。 | |

（注，注意，備考は次ページにあります。）

注　80ピン製品では，ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ1（DSADPHCR1）を使用して，電流チャネル（I1：チャネル2）の位相調整を行う場合，ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）のDSADCE3ビットを必ず1に設定してください。それ以外では，DSADCE3ビットを必ず0に設定してください。

注意1. CPUクロック（$f_{CLK}$）に12 MHzより早いクロックを選択時は，DSADMRレジスタに連続して書き込みをしないでください。連続して書き込みを行う場合は，書き込み間隔をfCLKで1サイクル以上空けてください。DSADPONnビットに0を設定してからΔΣA/Dコンバータがパワーダウンするまで$f_{CLK}$で3サイクル必要です。再度DSADPONnビットに1を設定する場合は，必ず$f_{CLK}$で3サイクル以上空けてからΔΣA/Dコンバータをパワーオンするようにしてください。

2. ビット13, 12, 7-4には必ず0を設定してください。

備考　n = 0～3

表16－4　チャネルモード表

| DSADPON3-DSADPON0 | チャネル3 | チャネル2 | チャネル1 | チャネル0 | チャネルモード |
|---|---|---|---|---|---|
| 0000B | － | － | － | － | パワーダウン |
| 0001B | － | － | － | I0 | |
| 0010B | － | － | V0 | － | |
| 0011B | － | － | V0 | I0 | 単相二線　I：1チャネル，V：1チャネル |
| 0100B | － | I1 | － | － | |
| 0101B | － | I1 | － | I0 | |
| 0110B | － | I1 | V0 | － | |
| 0111B | － | I1 | V0 | I0 | 単相二線　I：2チャネル，V：1チャネル |
| 1000B | V1 | － | － | － | |
| 1001B | V1 | － | － | I0 | |
| 1010B | V1 | － | V0 | － | |
| 1011B | V1 | － | V0 | I0 | |
| 1100B | V1 | I1 | － | － | 単相二線　I：1チャネル，V：1チャネル |
| 1101B | V1 | I1 | － | I0 | 単相二線　I：2チャネル，V：1チャネル |
| 1110B | V1 | I1 | V0 | － | |
| 1111B | V1 | I1 | V0 | I0 | 単相三線　I：2チャネル，V：2チャネル |

注意　ΔΣA/Dコンバータ・位相コントロール・レジスタ0（DSADPHCR0）を使用して位相調整を行う場合は，ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）レジスタのDSADCE0ビット及びDSADCE1ビットを必ず“1”に設定してください。

特に単相二線（I0：チャネル0, I1：チャネル2, V1：チャネル3）で使用する場合で，電流チャネル（I0：チャネル0）に対して位相調整を行う場合は，DSADPHCCTL0 = 1，DSADPON0 = 1，DSADCE0 = 1，DSADPON1 = 0, DSADCE1 = 1の設定でご使用ください。

また，ΔΣA/Dコンバータ・位相コントロール・レジスタ1（DSADPHCR1）を使用して位相調整を行う場合は，ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）のDSADCE2ビットおよびDSADCE3ビットを必ず“1”に設定してください。

特に単相二線（I0：チャネル0, V0：チャネル1, I1：チャネル2）で使用する場合で，電流チャネル（I1：チャネル2）に対して位相調整を行う場合は，DSADPHCCTL1 = 1，DSADPON2 = 1，DSADCE2 = 1，DSADPON3 = 0, DSADCE3 = 1の設定でご使用ください。

### 16. 2. 2　ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ0（DSADGCR0）

DSADGCR0レジスタは，チャネル0とチャネル1のプログラマブル・ゲイン・アンプのゲインを選択するレジスタです。

DSADGCR0は，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，DSADGCR0レジスタは00Hになります。

図16－4　ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ0（DSADGCR0）のフォーマット

アドレス：F03C2H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADGCR0 | 0 | DSADGAIN12 | DSADGAIN11 | DSADGAIN10 | 0 | DSADGAIN02 | DSADGAIN01 | DSADGAIN00 |

| DSADGAIN12 | DSADGAIN11 | DSADGAIN10 | チャネル1のプログラマブル・アンプ・ゲイン選択 |
|---|---|---|---|
| ビット6 | ビット5 | ビット4 | |
| 0 | 0 | 0 | PGAゲイン × 1 |
| 0 | 0 | 1 | PGAゲイン × 2 |
| 0 | 1 | 0 | PGAゲイン × 4 |
| 0 | 1 | 1 | PGAゲイン × 8 |
| 1 | 0 | 0 | PGAゲイン × 16 |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |
| PGAゲインを制御するビットです。設定可能なゲインは，× 1～ × 16です。 | | | |

| DSADGAIN02 | DSADGAIN01 | DSADGAIN00 | チャネル0のプログラマブル・アンプ・ゲイン選択 |
|---|---|---|---|
| ビット2 | ビット1 | ビット0 | |
| 0 | 0 | 0 | PGAゲイン × 1 |
| 0 | 0 | 1 | PGAゲイン × 2 |
| 0 | 1 | 0 | PGAゲイン × 4 |
| 0 | 1 | 1 | PGAゲイン × 8 |
| 1 | 0 | 0 | PGAゲイン × 16 |
| 1 | 0 | 1 | PGAゲイン × 32[注] |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |
| PGAゲインを制御するビットです。設定可能なゲインは，× 1～ × 32です。 | | | |

注　デジタルフィルタでゲインを2倍します（電流チャネル（ch0, ch2）のみ）。

注意　ビット7, 3には必ず0を設定してください。

### 16. 2. 3　ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ1（DSADGCR1）

DSADGCR1レジスタは，チャネル2とチャネル3のプログラマブル・ゲイン・アンプのゲインを選択するレジスタです。

DSADGCR1は，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，DSADGCR1レジスタは00Hになります。

図16－5　ΔΣA/Dコンバータ・ゲイン・コントロール・レジスタ1（DSADGCR1）のフォーマット

アドレス：F03C3H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADGCR1 | 0 | DSADGAIN32 | DSADGAIN31 | DSADGAIN30 | 0 | DSADGAIN22 | DSADGAIN21 | DSADGAIN20 |

| DSADGAIN32 | DSADGAIN31 | DSADGAIN30 | チャネル3のプログラマブル・アンプ・ゲイン選択 |
|---|---|---|---|
| ビット6 | ビット5 | ビット4 | |
| 0 | 0 | 0 | PGAゲイン × 1 |
| 0 | 0 | 1 | PGAゲイン × 2 |
| 0 | 1 | 0 | PGAゲイン × 4 |
| 0 | 1 | 1 | PGAゲイン × 8 |
| 1 | 0 | 0 | PGAゲイン × 16 |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |
| PGAゲインを制御するビットです。設定可能なゲインは，× 1～ × 16です。 | | | |

| DSADGAIN22 | DSADGAIN21 | DSADGAIN20 | チャネル2のプログラマブル・アンプ・ゲイン選択 |
|---|---|---|---|
| ビット2 | ビット1 | ビット0 | |
| 0 | 0 | 0 | PGAゲイン × 1 |
| 0 | 0 | 1 | PGAゲイン × 2 |
| 0 | 1 | 0 | PGAゲイン × 4 |
| 0 | 1 | 1 | PGAゲイン × 8 |
| 1 | 0 | 0 | PGAゲイン × 16 |
| 1 | 0 | 1 | PGAゲイン × 32[注] |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |
| PGAゲインを制御するビットです。設定可能なゲインは，× 1～ × 32です。 | | | |

注　デジタルフィルタでゲインを2倍します（電流チャネル（ch0, ch2）のみ）。

注意　ビット7, 3には必ず0を設定してください。

### 16. 2. 4　ΔΣA/DコンバータHPFコントロール・レジスタ（DSADHPFCR）

DSADHPFCRレジスタは，ハイパス・フィルタのカットオフ周波数の選択，各チャネルのハイパス・フィルタの無効／有効を設定するレジスタです。

DSADHPFCRは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，DSADHPFCRレジスタは00Hになります。

図16－6　ΔΣA/DコンバータHPFコントロール・レジスタ（DSADHPFCR）のフォーマット

アドレス：F03C5H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADHPFCR | DSADCOF1 | DSADCOF0 | 0 | 0 | DSADTHR3 | DSADTHR2 | DSADTHR1 | DSADTHR0 |

| DSADCOF1<br>ビット7 | DSADCOF0<br>ビット6 | ハイパス・フィルタのカットオフ周波数選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 0.607 Hz |
| 0 | 1 | 1.214 Hz |
| 1 | 0 | 2.429 Hz |
| 1 | 1 | 4.857 Hz |

| DSADTHR3 | チャネル3のハイパス・フィルタ無効 |
|---|---|
| 0 | ハイパス・フィルタを使用する |
| 1 | ハイパス・フィルタを使用しない |

| DSADTHR2 | チャネル2のハイパス・フィルタ無効 |
|---|---|
| 0 | ハイパス・フィルタを使用する |
| 1 | ハイパス・フィルタを使用しない |

| DSADTHR1 | チャネル1のハイパス・フィルタ無効 |
|---|---|
| 0 | ハイパス・フィルタを使用する |
| 1 | ハイパス・フィルタを使用しない |

| DSADTHR0 | チャネル0のハイパス・フィルタ無効 |
|---|---|
| 0 | ハイパス・フィルタを使用する |
| 1 | ハイパス・フィルタを使用しない |

注意　ビット5, 4には必ず0を設定してください。

備考　ハイパス・フィルタのカットオフ周波数を変更することで，ハイパス・フィルタの収束時間が変わります。カットオフ周波数が高いほど，収束時間は早くなります。
ハイパス・フィルタをクリアするには，周辺イネーブル・レジスタ（PRE1）のDSADENビットでリセットする必要があります。

### 16. 2. 5　ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ0（DSADPHCR0）

DSADPHCR0レジスタは，位相調整0回路へ入力するチャネルの選択および位相調整量を設定するレジスタです。

DSADPHCR0は，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，DSADPHCR0レジスタは00Hになります。

図16－7　ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ0（DSADPHCR0）のフォーマット

アドレス：F03C6H　　リセット時：0000H　　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADPHCR0 | DSADPHCCTL0 | 0 | 0 | 0 | 0 | DSADPHC010 | DSADPHC009 | DSADPHC008 | DSADPHC007 | DSADPHC006 | DSADPHC005 | DSADPHC004 | DSADPHC003 | DSADPHC002 | DSADPHC001 | DSADPHC000 |

| DSADPHCCTL0 | PHC0入力チャネル選択 |
|---|---|
| 0 | 電圧チャネル選択（V0：チャネル1） |
| 1 | 電流チャネル選択（I0：チャネル0） |

| DSADPHC010-DSADPHC00注 | I0-V0の位相調整 |
|---|---|
| 000H | スルー（位相調整無し） |
| 001H | 1段分 |
| : | : |
| 47EH | 1150段分 |
| 47FH | 1151段分 |
| アナログ部から入力される2ビットΔΣA/D変換データに対して位相調整します。<br>DSADPHC010-DSADPHC00ビットで位相調整量を指定（1段分 = 384 fs）します。<br>調整値の計算式にはサンプリング周波数（3906.25 Hz）がのるため，1段の補正で調整できる位相は，1 [s]/（384 [fs] × 3906.25 [Hz]）= 0.6667 [μs]です。<br>例：V0をI0に対して100 μs位相調整を行いたい場合，100/0.6667 = 150 [段]となるため，レジスタ設定値は96Hとなります。 | |

注　480H以上は設定禁止です。

注意1.　ビット14-11には必ず0を設定してください。

2.　ΔΣA/Dコンバータ・位相コントロール・レジスタ0（DSADPHCR0）を使用して位相調整を行う場合は，ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）レジスタのDSADCE0ビットおよびDSADCE1ビットを必ず“1”に設定してください。
特に単相二線（I0：チャネル0, I1：チャネル2, V1：チャネル3）で使用する場合で，電流チャネル（I0：チャネル0）に対して位相調整を行う場合は，DSADPHCCTL0 = 1, DSADPON0 = 1, DSADCE0 = 1, DSADPON1 = 0, DSADCE1 = 1の設定でご使用ください。

### 16. 2. 6　ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ1（DSADPHCR1）

DSADPHCR1レジスタは，位相調整1回路へ入力するチャネルの選択および位相調整量を設定するレジスタです。

DSADPHCR1は，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，DSADPHCR1レジスタは0000Hになります。

図16－8　ΔΣA/Dコンバータ位相コントロール・レジスタ1（DSADPHCR1）のフォーマット

アドレス：F03C8H　　リセット時：0000H　　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADPHCR1 | DSADPHCCTL1 | 0 | 0 | 0 | 0 | DSADPHC110 | DSADPHC19 | DSADPHC18 | DSADPHC17 | DSADPHC16 | DSADPHC15 | DSADPHC14 | DSADPHC13 | DSADPHC12 | DSADPHC11 | DSADPHC10 |

| DSADPHCCTL1 | PHC1入力チャネル選択 |
|---|---|
| 0 | 電圧チャネル選択（V1：チャネル3） |
| 1 | 電流チャネル選択（I1：チャネル2） |

| DSADPHC110-DSADPHC10注 | I1-V1の位相調整 |
|---|---|
| 000H | スルー（位相調整無し） |
| 001H | 1段分 |
| : | : |
| 47EH | 1150段分 |
| 47FH | 1151段分 |
| アナログ部から入力される2ビットΔΣA/D変換データに対して位相調整します。<br>DSADPHC110-DSADPHC10ビットで位相調整量を指定（1段分 = 384 fs）します。<br>調整値の計算式にはサンプリング周波数（3906.25 Hz）がのるため，1段の補正で調整できる位相は，1 [s]/（384 [fs] × 3906.25 [Hz]）= 0.6667 [μs]です。<br>例：V1をI1に対して100 μs位相調整を行いたい場合，100/0.6667 = 150 [段]となるため，レジスタ設定値は96Hとなります。 | |

注　480H以上は設定禁止です。

注意1.　ビット14-11には必ず0を設定してください。

2.　ΔΣA/Dコンバータ・位相コントロール・レジスタ1（DSADPHCR1）を使用して位相調整を行う場合は，ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）レジスタのDSADCE2ビットおよびDSADCE3ビットを必ず“1”に設定してください。
特に単相二線（I0：チャネル0, V0：チャネル1, I1：チャネル2）で使用する場合で，電流チャネル（I1：チャネル2）に対して位相調整を行う場合は，DSADPHCCTL1 = 1, DSADPON2 = 1, DSADCE2 = 1, DSADPON3 = 0, DSADCE3 = 1の設定でご使用ください。

### 16. 2. 7　ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタn（DSADCRnL, DSADCRnM, DSADCRnH）（n = 0, 1, 2, 3）

DSADCRn（H/M/L）レジスタは，各チャネルのΔΣA/Dコンバータの変換結果を保持する24ビット・レジスタです。

DSADCRnL, DSADCRnM, DSADCRnHレジスタは，それぞれ8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）のDSADTYPビットの設定によりΔΣA/Dコンバータの変換結果の読み出し動作が異なります。

ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）のDSADCEnビットを0にするか，またはリセット信号の発生によりDSADCRnL, DSADCRnM, DSADCRnHレジスタは，00Hに初期化されます。

図16－9　ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタn（DSADCRnL, DSADCRnM, DSADCRnH）（n = 0, 1, 2, 3）のフォーマット

| | | | |
|---|---|---|---|
| アドレス： | F03D0H（DSADCR0L） | F03D1H（DSADCR0M） | F03D2H（DSADCR0H） |
| | F03D4H（DSADCR1L） | F03D5H（DSADCR1M） | F03D6H（DSADCR1H） |
| | F03D8H（DSADCR2L） | F03D9H（DSADCR2M） | F03DAH（DSADCR2H） |
| | F03DCH（DSADCR3L） | F03DDH（DSADCR3M） | F03DEH（DSADCR3H） |
| リセット時： | 00H　R | | |

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADCRnH | DSADCRnH [7：0] | | | | | | | |

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADCRnM | DSADCRnM [7：0] | | | | | | | |

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADCRnL | DSADCRnL [7：0] | | | | | | | |

• 24ビット分解能設定時（DSADMRレジスタのDSADTYP = 0）

| | DSADCRnH | DSADCRnM | DSADCRnL |
|---|---|---|---|
| ビット | b23　b16 | b15　b8 | b7　b0 |
| | ΔΣA/D変換結果n [23：16] | ΔΣA/D変換結果n [15：8] | ΔΣA/D変換結果n [7：0] |

| ビット | シンボル | チャネルnの変換結果 |
|---|---|---|
| b7-b0 | DSADCRnL [7：0] | チャネルnの変換結果ビット7-0 |
| b15-b8 | DSADCRnM [7：0] | チャネルnの変換結果ビット15-8 |
| b23-b16 | DSADCRnH [7：0] | チャネルnの変換結果ビット23-16 |

（注意は次ページにあります。）

• 16ビット分解能設定時（DSADMRレジスタのDSADTYP = 1）

| | DSADCRnH | DSADCRnM | DSADCRnL |
|---|---|---|---|
| ビット | b23　　b16 | b15　　b8 | b7　　b0 |
| | ΔΣA/D変換結果n [23：16] | ΔΣA/D変換結果n [23：16] | ΔΣA/D変換結果n [15：8] |

| ビット | シンボル | チャネルnの変換結果 |
|---|---|---|
| b7-b0 | DSADCRnL [7：0] | チャネルnの変換結果ビット15-8 |
| b15-b8 | DSADCRnM [7：0] | チャネルnの変換結果ビット23-16 |
| b23-b16 | DSADCRnH [7：0] | チャネルnの変換結果ビット23-16 |

注意　必ずΔΣA/D変換完了割り込みが発生してから，ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタの最大保留時間内に読み出してください。

### 16. 2. 8　ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタn（DSADCRn）（n = 0, 1, 2, 3）

DSADCRnレジスタは，各チャネルの変換結果を16ビット・メモリ操作命令でアクセスするためのレジスタです。

DSADCRnレジスタは，それぞれ16ビット・メモリ操作命令で読み出せます。ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）のDSADTYPビットの設定により，ΔΣA/Dコンバータの変換結果の読み出し動作が異なります。

ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）のDSADCEnビットを0にするか，またはリセット信号の発生により，DSADCRnレジスタは0000Hに初期化されます。

図16－10　ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタn（DSADCRn）（n = 0, 1, 2, 3）のフォーマット

アドレス：　F03D0H（DSADCR0）　F03D4H（DSADCR1）　F03D8H（DSADCR2）
F03DCH（DSADCR3）

リセット時：0000H　R

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADCRn | DSADCRn [15：0] | | | | | | | |

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DSADCRn [15：0] | | | | | | | |

• 24ビット分解能設定時（DSADMRレジスタのDSADTYP = 0）注

| ビット | シンボル | チャネルnの変換結果 |
|---|---|---|
| b15-b0 | DSADCRn [15：0] | チャネルnの変換結果ビット15-0 |

• 16ビット分解能設定時（DSADMRレジスタのDSADTYP = 1）注

| ビット | シンボル | チャネルnの変換結果 |
|---|---|---|
| b15-b0 | DSADCRn [15：0] | チャネルnの変換結果ビット23-8 |

注　ΔΣA/D変換結果へのアクセスはDSADMRレジスタのDSADTYPの設定で変わります

• DSADTYP = 0：　下位16ビットを読み出すことができます。
上位8ビットはDSADCRnHを読み出してください。

• DSADTYP = 1：　上位16ビットを読み出すことができます。

注意　必ずΔΣA/D変換完了割り込みが発生してから，ΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタの最大保留時間内に読み出してください。

### 16. 2. 9　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）

PER1レジスタは，各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

24ビットΔΣA/Dコンバータを使用するときは，必ずビット0（DSADEN）を1に設定してください。

PER1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図16－11　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のフォーマット

アドレス：F007AH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER1 | TMKAEN | FMCEN | CMPEN | OSDCEN | DTCEN | 0 | 0 | DSADEN |

| DSADEN | 24ビットΔΣA/Dコンバータの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>• 24ビットΔΣA/Dコンバータで使用するSFRへのライト不可<br>• 24ビットΔΣA/Dコンバータはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>• 24ビットΔΣA/Dコンバータで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意1. 24ビットΔΣA/Dコンバータの設定をする際には，必ず最初にDSADEN ＝ 1の設定を行ってください。

DSADEN = 0の場合は，ΔΣA/Dコンバータの制御レジスタへの書き込みは無視され，読み出し値もすべて初期値となります。

2. ビット2, 1には必ず0を設定してください。

3. 入力クロックに高速オンチップ・オシレータが選択されている場合，必ず高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能を動作させ，周波数精度の高いクロックを入力してください。

### 16. 2. 10　周辺クロック制御レジスタ（PCKC）

周辺クロックを制御するレジスタです。ビット0で24ビットΔΣA/Dコンバータのクロックを選択します。

PCKCレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図16－12　周辺クロック制御レジスタ（PCKC）のフォーマット

アドレス：F0098H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PCKC | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | DSADCK |

| DSADCK | 24ビットΔΣA/Dコンバータの動作クロックの選択 |
|---|---|
| 0 | 高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）供給。（$f_{MX}$供給停止）注1 |
| 1 | 高速システム・クロック供給（$f_{MX}$）供給注2 |

注1.　高速オンチップ・オシレータ・クロックを選択時は，必ず高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能を動作させてください。

2.　高速システム・クロックの周波数（$f_{MX}$）は水晶発振子12 MHzのみ使用可能です。

注意　ビット7-1には必ず0を設定してください。

## 16. 3　動作説明

24ビットΔΣA/Dコンバータは，4本のΔΣA/Dコンバータ変換結果としてデジタル信号の入力端子を持ちます。このΔΣA/Dコンバータ結果から2ビット値をデジタルフィルタに通すことで，24ビットのデジタル値に変換します。

アナログ部のΔΣA/Dコンバータのモード設定はDSADMR, DSADGCR0, DSADGCR1レジスタの値によって決まります。表16－5にモード設定表を示します。

表16－5　モード設定表

| 信号／モード | ①通常 | ②ΔΣA/D変換停止 | ③パワーダウン |
|---|---|---|---|
| DSADGAINn2-DSADGAINn0 | 任意 | 任意 | 任意 |
| DSADPONn | 1 | 1 | 0 |
| DSADCEn | 1 | 0 | 0 |

備考　n = 0～3

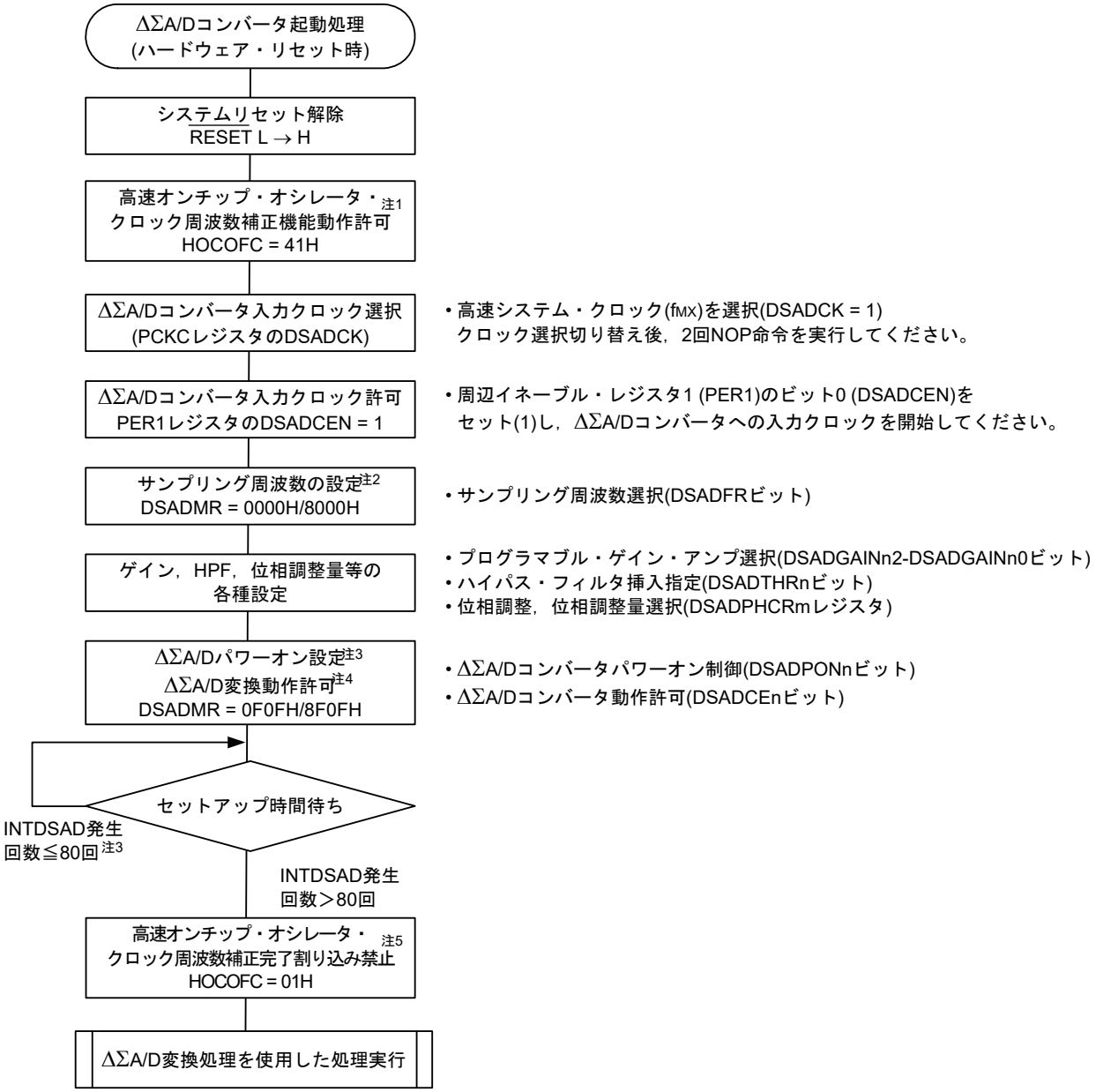
### 16. 3. 1　24ビットΔΣA/Dコンバータの動作

高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）を選択する場合は，ΔΣA/Dコンバータを動作させる前に，「6. 3. 2　動作手順」に従い必ず高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能を動作させてください。

高速システム・クロック（$f_{MX}$）を選択する場合は，クロック選択切り替え後に2回NOP命令を実行してください。

DSADMRレジスタのDSADPONnビット（n = 0～3），DSADCEnビットに1を設定することにより，変換動作を開始します。パワーオン後および変換開始後は，アナログ部やデジタルフィルタ部のセットアップ時間が必要になります。次のフローに従い初期設定を行ってください。

図16－13　初期設定フロー図




（注，備考は次ページにあります。）

注1.　高速オンチップ・オシレータ・クロックを選択する場合のみ，ΔΣA/Dコンバータを動作させる前に必ず高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能を動作させてください。

2.　ΔΣA/Dコンバータがパワーダウン中に設定してください。

3.　DSADPONnを0 → 1にした場合のセットアップ時間（INTDSAD発生回数）は，評価後正式決定します。

4.　初期化のために一時停止（DSADPONn = 1状態でDSADCEn = 0）にした後，再起動した場合も，セットアップ時間待ちは必要です。この場合はコンバータの安定時間が必要なため，INTDSAD1発分をセットアップ時間としてウェイトしてください。
初期化するためには，1.4 μs以上DSADCEnを0の状態にしてください。

5.　高速オンチップ・オシレータ・クロックを選択する場合のみ実施してください。

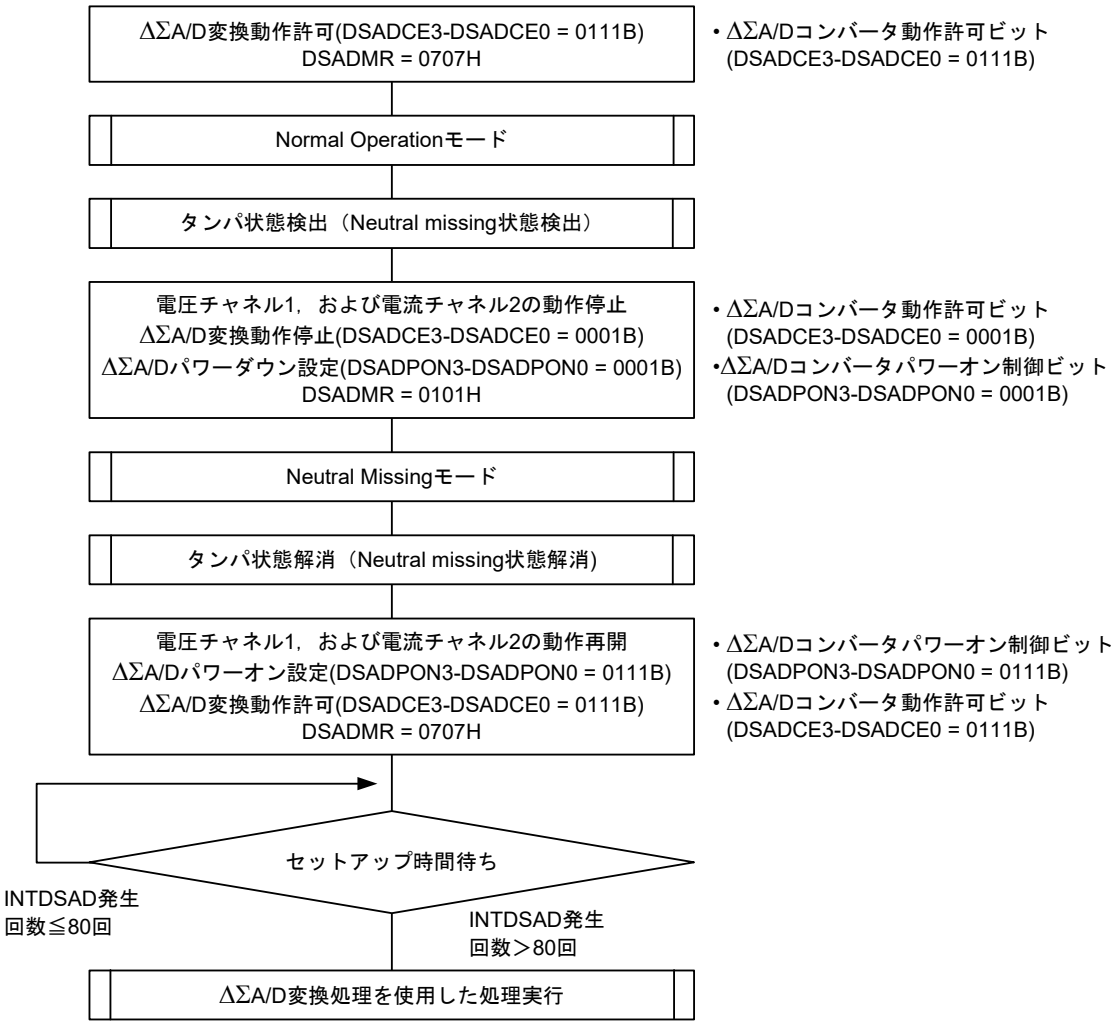
備考　n = 0～3, m = 0, 1

### 16. 3. 2　Normal OperationモードからNeutral Missingモードへの切替手順

単相二線におけるNormal Operation（アンチタンパ有り）（電流チャネル0，電圧チャネル1，電流チャネル2合計3チャネル動作）からNeutral Missingモード（電流チャネル0のみ動作）への切り替え手順を図16－14に示します。

Neutral Missingモードは電流チャネル0のみ動作と電流チャネル2のみ動作があり，同様の手順で切り替えてください。

図16－14　Normal OperationからNeutral Missingモードへの切替手順

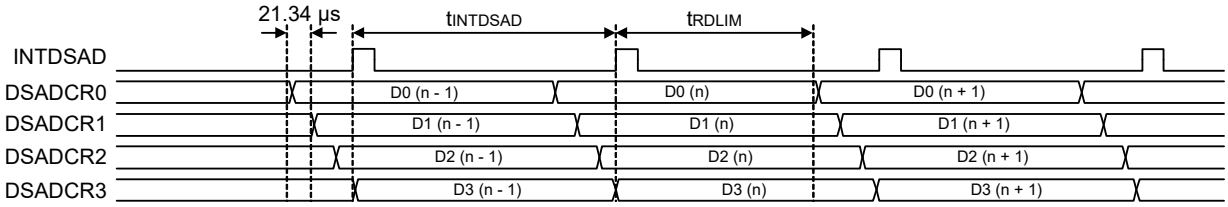


### 16. 3. 3　割り込み動作

ΔΣA/D変換動作を許可すると，4チャネルのアナログ入力端子（ANINn, ANIPn）の変換を開始します。ΔΣA/Dコンバータ回路を4セット内蔵しており，それぞれ独立して変換を実施します。全4チャネル分の変換を終了するたびに，割り込み要求信号（INTDSAD）を発行して，CPUに対し変換結果の読み出しが可能であることを知らせます。

INTDSADの発生周期（$t_{INTDSAD}$）は，DSADMRレジスタのDSADFRビットで指定するサンプリング周波数により異なります。また，割り込み処理によりΔΣA/Dコンバータ変換結果レジスタ（DSADCRn）を読み出す場合，最大保留時間は図16－15に示す値になりますので，それまでにDSADCRnレジスタの読み出しを完了させてください。

図16－15　INTDSAD信号発生とDSADCRnレジスタ格納タイミング




$t_{INTDSAD}$：割り込み発生周期：　256 μs（DSADFR = 0）
512 μs（DSADFR = 1）

$t_{RDLIM}$：DSADCR読み出し保留時間（max）：　192 μs（DSADFR = 0）
384 μs（DSADFR = 1）

備考　n = 0～3

### 16. 3. 4　スタンバイ時の動作

STOP動作モード時は，ΔΣA/Dコンバータ，デジタルフィルタは動作しません。消費電流を低減させるため，STOP命令実行前にΔΣA/Dコンバータの動作を停止（DSADMRレジスタのDSADCEn = 0000B）およびパワーダウン（DSADMRレジスタのDSADPONn = 0000B）させてください。

備考　n = 0～3

# 16. 4　24ビットΔΣA/Dコンバータ使用上の注意事項

## 16. 4. 1　外部端子

$AV_{DD}$端子はΔΣA/Dコンバータのアナログ電源端子です。ΔΣA/Dコンバータを使用しないときでも，常に$V_{DD}$端子と同電位で使用してください。

$AV_{SS}$端子はΔΣA/Dコンバータのグランド電源端子です。ΔΣA/Dコンバータを使用しないときでも，常に$V_{SS}$端子と同電位で使用してください。

## 16. 4. 2　SFRアクセス

（1） DSADCRnレジスタの読み出しは，ΔΣA/D変換終了割り込み（INTDSAD）処理にて行ってください。ΔΣA/D変換完了割り込み発生前にDSADCRnレジスタを読み出した場合，DSADCRnレジスタへの変換値格納と読み出しの競合により，不正な値を読み出すことがあります。INTDSAD処理でのDSADCRnレジスタの読み出し保留期間は，

　192 μs（DSADFR = 0設定時）

　384 μs（DSADFR = 1設定時）

になりますので，それまでにDSADCRnレジスタの読み出しを完了させてください。

（2） パワーオン（DSADMRレジスタのDSADPONn = 1）後，ΔΣA/Dコンバータ内部のセットアップ時間が必要になるため，最初の80変換は無効データになります。

（3） 初期化のために一時停止（DSADMRレジスタのDSADCEnビット = 0，DSADPONn = 1状態）した後，再起動した場合もセットアップ時間待ちは必要です。この場合はコンバータの安定時間が必要なため，INTDSAD1発分をセットアップ時間としてウェイトしてください。初期化するためには1.4 μs以上，DSADCEn = 0の状態にしてください。

（4） 変換動作許可（DSADCEnビット = 1）後，正常なデータが出力されるまでの時間は，その時のアナログ入力状態に依存します。これはアナログ入力状態によりハイパス・フィルタの安定時間が変化するためです。

（5） 変換速度の設定はDSADMRレジスタのDSADPONnビットが0の状態で実施してください。ゲインの設定およびDSADPHCR0，DSADPHCR1レジスタの設定は，必ず変換停止（DSADCEn = 0）状態で実施してください。

（6） DSADCRnレジスタはDSADCEnビット = 0時に初期化されるため，DSADCRnレジスタの読み出しはDSADCEnビット = 1の状態で実施してください。

（7） ソフトウェアSTOPモードに移行する前に，DSADMRレジスタのDSADPONnビット = 0にしてください。DSADPONnビット = 1の状態でソフトウェアSTOPモードに入ると電流が流れます。

備考　n = 0～3

### 16. 4. 3　動作クロックの設定

PCKCレジスタのDSADCK = 1により高速システム・クロック（$f_{MX}$）を使用する場合は，12 MHzを供給してください。

また，高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）を選択する場合は，必ず高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能を動作させてください。

注1. 動作開始後80回分のINTDSAD信号をカウントし，それ以降のINTDSAD信号発生から変換データを取り込んでください。セットアップ時間は変更の可能性があります。使用する前に，当社まで確認してください。

2. 安定時間については，使用する環境に合わせて十分な評価を行ってください。

24ビットΔΣA/Dコンバータを動作中から停止する場合は，DSADMRレジスタのDSADPON3-DSADPON0ビットに0000Bを設定後，PER1レジスタのDSADCENビットに0を設定してください。

### 16. 4. 4　単相二線式における位相調整

ΔΣA/Dコンバータ・位相コントロール・レジスタ0（DSADPHCR0）を使用して位相調整を行う場合は，ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ　（DSADMR）レジスタのDSADCE0ビットおよびDSADCE1ビットを必ず“1”に設定してください。

特に単相二線（I0：チャネル0, I1：チャネル2, V1：チャネル3）で使用する場合で，電流チャネル（I0：チャネル0）に対して位相調整を行う場合は, DSADPHCCTL0 = 1, DSADPON0 = 1, DSADCE0 = 1, DSADPON1 = 0, DSADCE1 = 1の設定でご使用ください。

また，ΔΣA/Dコンバータ・位相コントロール・レジスタ1（DSADPHCR1）を使用して位相調整を行う場合は，ΔΣA/Dコンバータ・モード・レジスタ（DSADMR）レジスタのDSADCE2ビットおよびDSADCE3ビットを必ず“1”に設定してください。

特に単相二線（I0：チャネル0, V0：チャネル1, I1：チャネル2）で使用する場合で，電流チャネル（I1：チャネル2）に対して位相調整を行う場合は, DSADPHCCTL1 = 1, DSADPON2 = 1, DSADCE2 = 1, DSADPON3 = 0, DSADCE3 = 1の設定でご使用ください。

# 第17章　コンパレータ

コンパレータはリファレンス入力電圧と，アナログ入力電圧を比較します。コンパレータ0とコンパレータ1の独立した2つのコンパレータで構成されています。

## 17. 1　コンパレータの機能

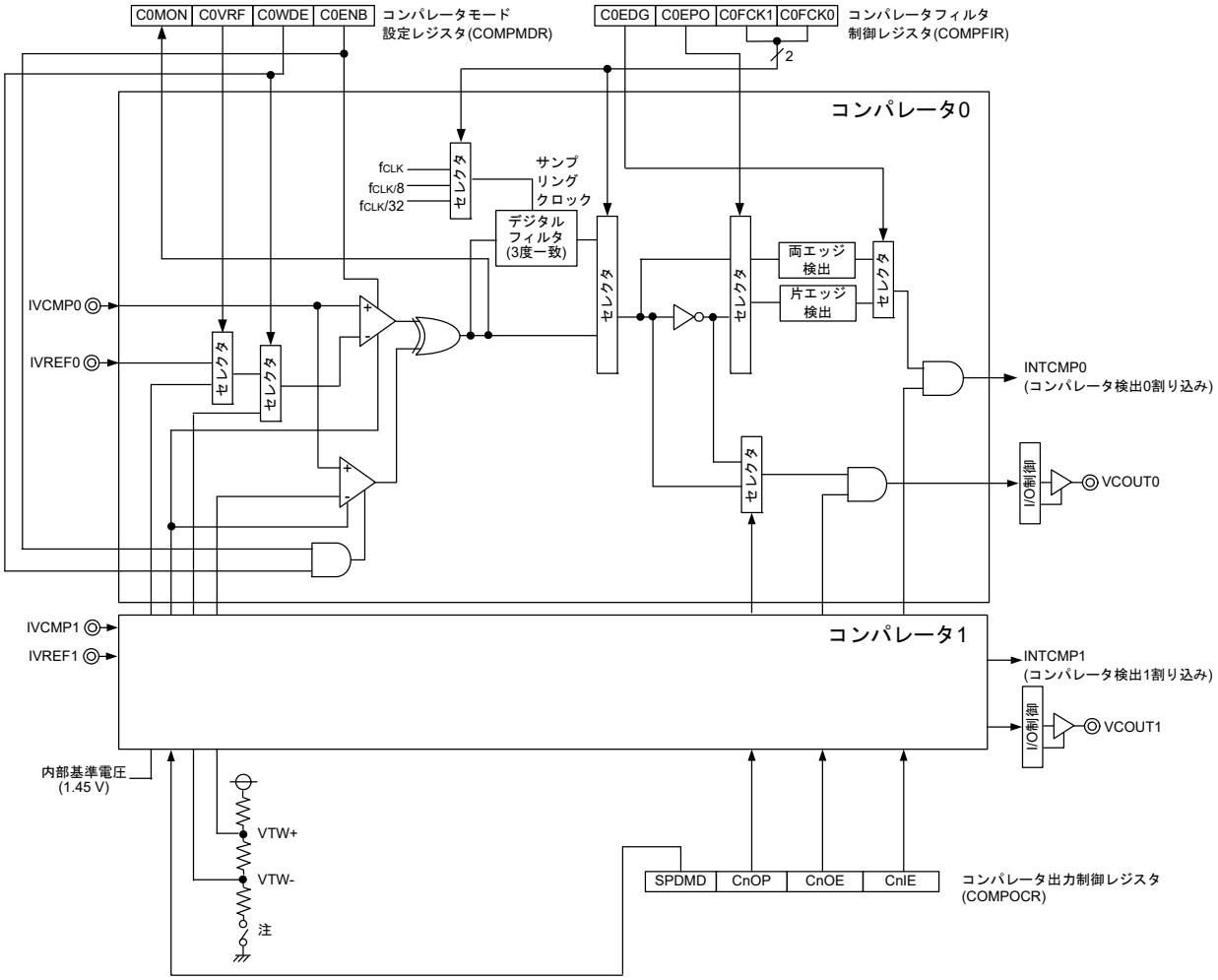
コンパレータには，次のような機能があります。

・コンパレータ高速モード/コンパレータ低速モード／コンパレータウィンドウモードが選択できます。
・基準電圧には外部基準電圧入力と内部基準電圧が選択できます。
・ノイズ除去デジタルフィルタの除去幅が選択できます。
・コンパレータ出力の有効エッジを検出し，割り込み信号を発生できます。

## 17. 2　コンパレータの構成

図17－1にコンパレータのブロック図を示します。

図17－1　コンパレータのブロック図




注　C0WDEビット，C1WDEビットのいずれか一方又は両方を1にすると，このスイッチはONになり，比較電圧発生用分割抵抗が有効になります。

備考　n = 0, 1

## 17. 3　コンパレータを制御するレジスタ

表17－1にコンパレータを制御するレジスタを示します。

表17－1　コンパレータを制御するレジスタ

| レジスタ名 | シンボル |
|---|---|
| 周辺イネーブル・レジスタ1 | PER1 |
| コンパレータ・モード設定レジスタ | COMPMDR |
| コンパレータ・フィルタ制御レジスタ | COMPFIR |
| コンパレータ出力制御レジスタ | COMPOCR |
| A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ | ADPC |
| ポート・モード・レジスタ0, 2 | PM0, PM2 |
| ポート・レジスタ0, 2 | P0, P2 |

### 17. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）

PER1レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

コンパレータを使用するときは，必ずビット5（CMPEN）を1に設定してください。

PER1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図17－2　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のフォーマット

アドレス：F007AH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER1 | TMKAEN | FMCEN | CMPEN | OSDCEN | DTCEN | 0 | 0 | DSADCEN |

| CMPEN | コンパレータの入力クロックの制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・コンパレータで使用するSFRへのライト不可<br>・コンパレータはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・コンパレータで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意1. コンパレータの設定をする際には，必ず最初にCMPEN = 1の設定を行ってください。
CMPEN = 0の場合は，コンパレータの制御レジスタへの書き込みは無視され，読み出し値もすべて初期値となります（A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC），ポート・モード・レジスタ0, 2（PM0, PM2），ポート・レジスタ0, 2（P0, P2）は除く）。
・コンパレータ・モード設定レジスタ（COMPMDR）
・コンパレータ・フィルタ制御レジスタ（COMPFIR）
・コンパレータ出力制御レジスタ（COMPOCR）

2. ビット2, 1には必ず“0”を設定してください。

## 17. 3. 2　コンパレータ・モード設定レジスタ（COMPMDR）

図17－3　コンパレータ・モード設定レジスタ（COMPMDR）のフォーマット

アドレス：F0340H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| COMPMDR | C1MON | C1VRF | C1WDE | C1ENB | C0MON | C0VRF | C0WDE | C0ENB |

| C1MON | コンパレータ1モニタフラグ注3, 7 |
|---|---|
| 0 | 基本モード時：<br>IVCMP1＜コンパレータ1リファレンス電圧 または コンパレータ1停止<br>ウィンドウモード時：<br>IVCMP1＜低電圧側リファレンス または IVCMP1＞高電圧側リファレンス |
| 1 | 基本モード時：<br>IVCMP1＞コンパレータ1リファレンス電圧<br>ウィンドウモード時：<br>低電圧側リファレンス＜IVCMP1＜高電圧側リファレンス |

| C1VRF | コンパレータ1リファレンス電圧選択注1, 4, 5, 6 |
|---|---|
| 0 | コンパレータ1リファレンス電圧はIVREF1入力 |
| 1 | コンパレータ1リファレンス電圧は内部基準電圧（1.45 V） |

| C1WDE | コンパレータ1ウィンドウモード選択注2 |
|---|---|
| 0 | コンパレータ1基本モード |
| 1 | コンパレータ1ウィンドウモード |

| C1ENB | コンパレータ1動作許可 |
|---|---|
| 0 | コンパレータ1動作禁止 |
| 1 | コンパレータ1動作許可 |

| C0MON | コンパレータ0モニタフラグ注3, 7 |
|---|---|
| 0 | 基本モード時：<br>IVCMP0＜コンパレータ0リファレンス電圧 または コンパレータ0停止<br>ウィンドウモード時：<br>IVCMP0＜低電圧側リファレンス または IVCMP0＞高電圧側リファレンス |
| 1 | 基本モード時：<br>IVCMP0＞コンパレータ0リファレンス電圧<br>ウィンドウモード時：<br>低電圧側リファレンス＜IVCMP0＜高電圧側リファレンス |

（注は次ページにあります。）

| C0VRF | コンパレータ0リファレンス電圧選択[注1, 4, 5, 6] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ0リファレンス電圧はIVREF0入力 |
| 1 | コンパレータ0リファレンス電圧は内部基準電圧（1.45 V） |

| C0WDE | コンパレータ0ウィンドウモード選択[注2] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ0基本モード |
| 1 | コンパレータ0ウィンドウモード |

| C0ENB | コンパレータ0動作許可 |
|---|---|
| 0 | コンパレータ0動作禁止 |
| 1 | コンパレータ0動作許可 |

注1. 基本モード選択時のみ有効です。ウィンドウモードでは，本ビットの設定に関わらずコンパレータ内のリファレンス電圧が選択されます。

2. 低速モード選択時（COMPOCRレジスタのSPDMDビットが0）はウィンドウモードにできません。

3. リセット解除直後は初期値“0”ですが，一度コンパレータを動作許可にした後にC0ENB = 0かつC1ENB = 0の設定にすると値は不定となります。

4. HS（高速メイン）モードの時に内部基準電圧（1.45 V）が選択可能です。

5. STOPモード時は，内部基準電圧を選択しないでください。

6. CPUクロックにサブシステム・クロック（$f_{XT}$）を選択し，高速システム・クロック（$f_{MX}$）と高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）がともに停止している場合は，内部基準電圧を選択しないでください。

7. このビットに書き込まれた値は無視されます。

### 17. 3. 3　コンパレータ・フィルタ制御レジスタ（COMPFIR）

図17－4　コンパレータ・フィルタ制御レジスタ（COMPFIR）のフォーマット

アドレス：F0341H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| COMPFIR | C1EDG | C1EPO | C1FCK1 | C1FCK0 | C0EDG | C0EPO | C0FCK1 | C0FCK0 |

| C1EDG | コンパレータ1エッジ検出選択[注1] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ1片エッジ検出での割り込み要求 |
| 1 | コンパレータ1両エッジ検出での割り込み要求 |

| C1EPO | コンパレータ1エッジ極性切り替え[注1] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ1立ち上がりエッジで割り込み要求 |
| 1 | コンパレータ1立ち下がりエッジで割り込み要求 |

| C1FCK1 | C1FCK0 | コンパレータ1フィルタ選択[注1] |
|---|---|---|
| 0 | 0 | コンパレータ1フィルタなし |
| 0 | 1 | コンパレータ1フィルタあり，$f_{CLK}$でサンプリング |
| 1 | 0 | コンパレータ1フィルタあり，$f_{CLK}/8$でサンプリング |
| 1 | 1 | コンパレータ1フィルタあり，$f_{CLK}/32$でサンプリング |

| C0EDG | コンパレータ0エッジ検出選択[注2] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ0片エッジ検出での割り込み要求 |
| 1 | コンパレータ0両エッジ検出での割り込み要求 |

| C0EPO | コンパレータ0エッジ極性切り替え[注2] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ0立ち上がりエッジで割り込み要求 |
| 1 | コンパレータ0立ち下がりエッジで割り込み要求 |

| C0FCK1 | C0FCK0 | コンパレータ0フィルタ選択[注2] |
|---|---|---|
| 0 | 0 | コンパレータ0フィルタなし |
| 0 | 1 | コンパレータ0フィルタあり，$f_{CLK}$でサンプリング |
| 1 | 0 | コンパレータ0フィルタあり，$f_{CLK}/8$でサンプリング |
| 1 | 1 | コンパレータ0フィルタあり，$f_{CLK}/32$でサンプリング |

注1. C1FCK1-C1FCK0ビット，C1EPOビット，C1EDGビットを変更するとコンパレータ1割り込み要求を発生することがあります。割り込み要求フラグ・レジスタ2L（IF2L）のビット7（CMPIF1）をクリア（0）してください。また，C1FCK1-C1FCK0ビットを00B（コンパレータ1フィルタなし）から00B以外（コンパレータ1フィルタあり）に変更した場合は，フィルタ出力が更新されるまでのサンプリング4回を経過した後に，コンパレータ1割り込み要求を使用してください。

2. C0FCK1-C0FCK0ビット，C0EPOビット，C0EDGビットを変更するとコンパレータ0割り込み要求を発生することがあります。割り込み要求フラグ・レジスタ2L（IF2L）のビット6（CMPIF0）をクリア（0）してください。また，C0FCK1-C0FCK0ビットを00B（コンパレータ0フィルタなし）から00B以外（コンパレータ0フィルタあり）に変更した場合は，フィルタ出力が更新されるまでのサンプリング4回を経過した後に，コンパレータ0割り込み要求を使用してください。

### 17. 3. 4　コンパレータ出力制御レジスタ（COMPOCR）

図17－5　コンパレータ出力制御レジスタ（COMPOCR）のフォーマット

アドレス：F0342H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| COMPOCR | SPDMD | C1OP | C1OE | C1IE | 0 | C0OP | C0OE | C0IE |

| SPDMD | コンパレータ速度選択[注1] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ低速モード |
| 1 | コンパレータ高速モード |

| C1OP | VCOUT1出力極性選択 |
|---|---|
| 0 | コンパレータ1出力をVCOUT1へ出力 |
| 1 | コンパレータ1出力の反転をVCOUT1へ出力 |

| C1OE | VCOUT1端子出力許可 |
|---|---|
| 0 | コンパレータ1のVCOUT1端子出力禁止 |
| 1 | コンパレータ1のVCOUT1端子出力許可 |

| C1IE | コンパレータ1割り込み要求許可[注2] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ1割り込み要求禁止 |
| 1 | コンパレータ1割り込み要求許可 |

| C0OP | VCOUT0出力極性選択 |
|---|---|
| 0 | コンパレータ0出力をVCOUT0へ出力 |
| 1 | コンパレータ0出力の反転をVCOUT0へ出力 |

| C0OE | VCOUT0端子出力許可 |
|---|---|
| 0 | コンパレータ0のVCOUT0端子出力禁止 |
| 1 | コンパレータ0のVCOUT0端子出力許可 |

| C0IE | コンパレータ0割り込み要求許可[注3] |
|---|---|
| 0 | コンパレータ0割り込み要求禁止 |
| 1 | コンパレータ0割り込み要求許可 |

注1. SPDMDビットを書き換える場合は，必ずCOMPMDRレジスタのCiENBビット（i = 0, 1）を0にしてから書き換えてください。

2. C1IEを0（割り込み要求禁止）から1（割り込み要求許可）にした場合，割り込み要求フラグ・レジスタ2L（IF2L）のビット7（CMPIF1）が1（割り込み要求あり）になることがありますので，割り込み要求フラグ・レジスタ2L（IF2L）のビット7（CMPIF1）をクリア（0）してから割り込みを使用してください。

3. C0IEを0（割り込み要求禁止）から1（割り込み要求許可）にした場合，割り込み要求フラグ・レジスタ2L（IF2L）のビット6（CMPIF0）が1（割り込み要求あり）になることがありますので，割り込み要求フラグ・レジスタ2L（IF2L）のビット6（CMPIF0）をクリア（0）してから割り込みを使用してください。

### 17. 3. 5　アナログ入力端子のポート機能を制御するレジスタ

IVCMP0, IVCMP1端子，IVREF0, IVREF1端子をコンパレータのアナログ入力として使用するときは，各ポートに対応するA/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）をアナログ入力チャネルに設定し，ポート・モード・レジスタ（PMxx）を入力モードに設定してください。

VCOUT0，VCOUT1機能を使用する場合は，対象チャネルと兼用するポート機能を制御するレジスタ（ポート・モード・レジスタ（PMxx），ポート・レジスタ（Pxx））を設定してください。詳細は，4. 3. 1　ポート・モード・レジスタ（PMxx），4. 3. 2　ポート・レジスタ（Pxx）を参照してください。

## 17. 4　動作説明

コンパレータ0とコンパレータ1はそれぞれ独立して動作できます。設定方法と動作は同じです。表17－2にコンパレータ関連レジスタの設定手順を示します。

表17－2　コンパレータ関連レジスタの設定手順

<table>
<tr><th>順番</th><th>レジスタ</th><th>ビット</th><th colspan="3">設定値</th></tr>
<tr><td>1</td><td>PER1</td><td>CMPEN</td><td colspan="3">1（入力クロック供給）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>ADPC</td><td>ADPC2-ADPC0</td><td colspan="3" rowspan="2">IVCMPi, IVREFi端子の機能選択<br>ADPC2-ADPC0ビットに101B, 110B, 000B（アナログ入力）<br>PM2nビットに1（入力モード）<br>「17. 3. 5　アナログ入力端子のポート機能を制御するレジスタ」参照</td></tr>
<tr><td>PM2</td><td>PM2n</td></tr>
<tr><td>3</td><td>COMPOCR</td><td>SPDMD</td><td colspan="3">コンパレータ応答速度の選択（0：低速モード/1：高速モード）注1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">4</td><td rowspan="3">COMPMDR</td><td>CiWDE</td><td colspan="2">0（基本モード）</td><td>1（ウィンドウモード）注2</td></tr>
<tr><td>CiVRF</td><td>0<br>（リファレンス=IVREFi入力）</td><td>1<br>（リファレンス=内部基準電圧（1.45 V））注4</td><td>ウィンドウコンパレータ動作（リファレンス=内部VREF）</td></tr>
<tr><td>CiENB</td><td colspan="3">1（動作許可）</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">コンパレータ安定時間$t_{CMP}$待ち</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">COMPFIR</td><td>CiFCK1, CiFCK0</td><td colspan="3">デジタルフィルタ使用する／しない，サンプリングクロック選択</td></tr>
<tr><td>CiEPO, CiEDG</td><td colspan="3">割り込み要求のためのエッジ検出条件選択（立ち上がり／立ち下がり／両エッジ）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7</td><td rowspan="2">COMPOCR</td><td>CiOP, CiOE</td><td colspan="3">VCOUTi出力の設定（極性選択，出力許可／禁止を設定）<br>「17. 4. 3　コンパレータi出力（i = 0, 1）」参照</td></tr>
<tr><td>CiIE</td><td colspan="3">割り込み要求出力の許可／禁止を設定<br>「17. 4. 3　コンパレータi出力（i = 0, 1）」参照</td></tr>
<tr><td>8</td><td>PR2L</td><td>CMPPR0i, CMPPR1i</td><td colspan="3">割り込みを使用する場合：割り込み優先レベル選択</td></tr>
<tr><td>9</td><td>MK2L</td><td>CMPMKi</td><td colspan="3">割り込みを使用する場合：割り込みマスク選択</td></tr>
<tr><td>10</td><td>IF2L</td><td>CMPIFi</td><td colspan="3">割り込みを使用する場合：0（割り込み要求なし：初期化）注3</td></tr>
</table>

注1. コンパレータ0とコンパレータ1を独立に設定することはできません。
2. 高速モード（SPDMD = 1）の場合のみ設定可能
3. コンパレータの設定後，安定動作するまでに不要な割り込みが発生することがありますので，割り込みフラグを初期化してください。
4. HS（高速メイン）モードの時に設定可能です。

備考　i = 0, 1, n = 2, 3

図17－6と図17－7にコンパレータi（i = 0, 1）の動作例を示します。基本モード時は，リファレンス入力よりアナログ入力の電圧が高い場合にCOMPMDRレジスタのCiMONビットが1になり，リファレンス入力よりアナログ入力の電圧が低い場合にCiMONビットが0になります。

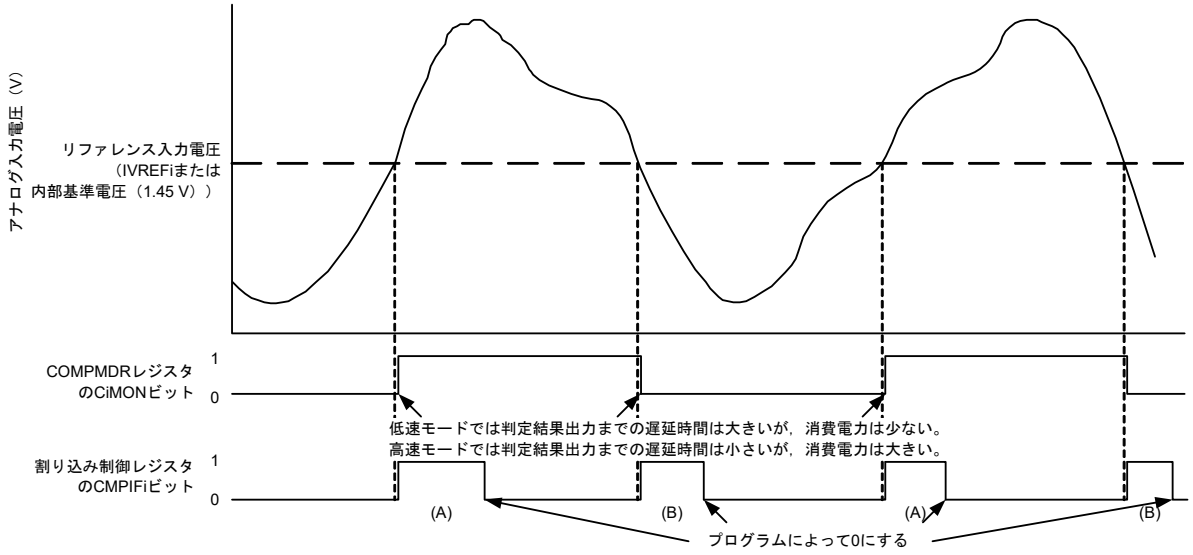
ウィンドウモード時は，アナログ入力の電圧が，次の条件を満たす場合に，COMPMDRレジスタのCiMONビットが1になり，アナログ入力の電圧がこの条件を満たさない場合はCiMONビットが0になります。

低電圧側リファレンス電圧 ＜ アナログ入力の電圧 ＜ 高電圧側リファレンス電圧

コンパレータi割り込みを使用する場合は，COMPOCRレジスタのCiIEを1（割り込み要求出力許可）にしてください。このとき比較結果が変化すれば，コンパレータi割り込み要求が発生します。割り込み要求の詳細については「17. 4. 2　コンパレータi割り込み（i = 0, 1）」を参照してください。

図17－6　コンパレータi（i ＝ 0, 1）の動作例（基本モード）

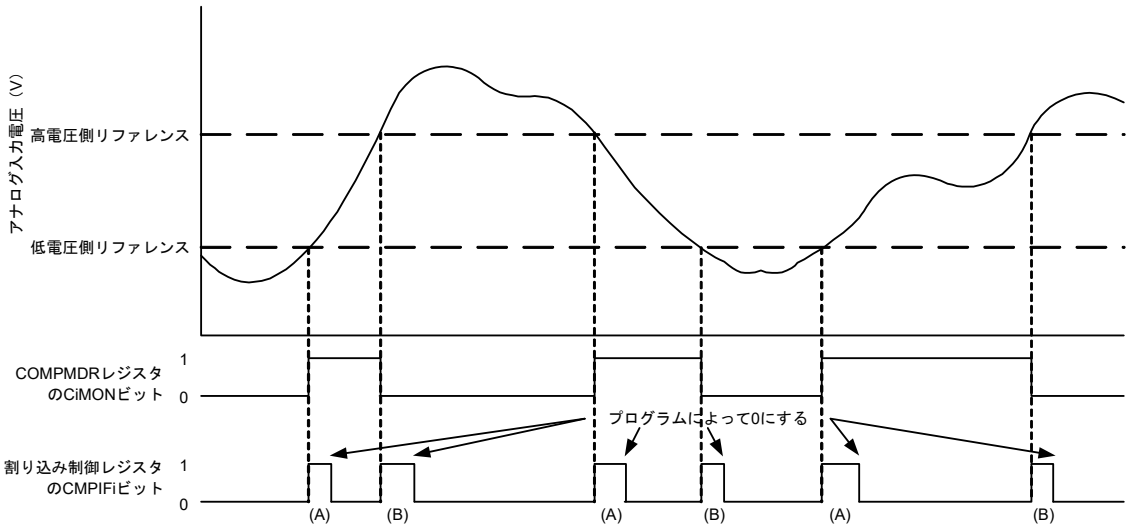
• 基本モード動作の例




注意　上図は，COMPFIRレジスタのCiFCK1-CiFCK0 = 00B（フィルタなし），CiEDG = 1（両エッジ）の場合です（CiEDG = 0, CiEPO = 0（立ち上がりエッジ）のときのCMPIFiは(A)の変化のみ，CiEDG = 0, CiEPO = 1（立ち下がりエッジ）のときのCMPIFiは(B)の変化のみとなります）。

図17－7　コンパレータi（i ＝ 0, 1）の動作例（ウィンドウモード）

• ウィンドウモード動作の例

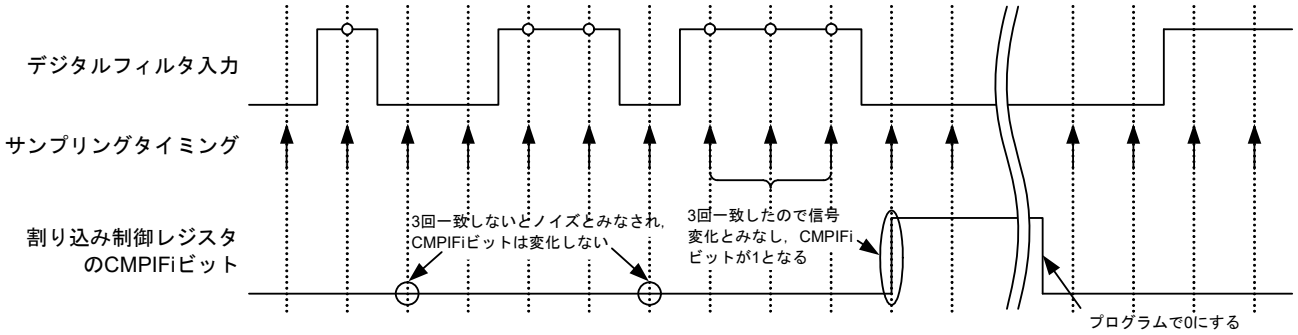



注意　上図は，COMPFIRレジスタのCiFCK1 - CiFCK0 = 00B（フィルタなし），CiEDG = 1（両エッジ）の場合です（CiEDG = 0, CiEPO = 0（立ち上がりエッジ）のときのCMPIFiは(A)の変化のみ，CiEDG = 0, CiEPO = 1（立ち下がりエッジ）のときのCMPIFiは(B)の変化のみとなります）。

### 17. 4. 1　コンパレータiデジタルフィルタ（i = 0, 1）

コンパレータiは，デジタルフィルタを内蔵しています。サンプリングクロックはCOMPFIRレジスタのCiFCK1-CiFCK0 ビットで選択できます。サンプリングクロックごとにコンパレータiの出力信号をサンプリングし，レベルが3度一致した次のサンプリングクロックで，デジタルフィルタ出力がその値になります。図17－8にコンパレータi（i ＝ 0, 1）デジタルフィルタと割り込み動作例を示します。

図17－8　コンパレータi（i ＝ 0, 1）デジタルフィルタと割り込み動作例




注意　上図は，COMPFIRレジスタのCiFCK1-CiFCK0ビットが，01B, 10B, 11Bのいずれか（デジタルフィルタあり）の場合の動作例です。

### 17. 4. 2　コンパレータi割り込み（i = 0, 1）

コンパレータはコンパレータ0およびコンパレータ1の2つの割り込み要求を発生します。コンパレータi割り込みは，それぞれ1つずつの優先順位指定フラグ，割り込みマスクフラグ，割り込み要求フラグ，割り込みベクタを持ちます。

コンパレータi割り込みを使用するときは，COMPOCRレジスタのCiIE ビットを1（割り込み要求出力許可）にしてください。割り込み要求を発生する条件は，COMPFIRレジスタにより設定します。また，コンパレータ出力にはデジタルフィルタを付けることが可能です。デジタルフィルタは，3種類のサンプリングクロックを選択可能です。

レジスタ設定と割り込み要求発生の対応については，「17. 3. 3　コンパレータ・フィルタ制御レジスタ（COMPFIR）」および「17. 3. 4　コンパレータ出力制御レジスタ（COMPOCR）」を参照してください。

### 17. 4. 3　コンパレータi出力（i = 0, 1）

コンパレータの比較結果を外部端子へ出力することができます。COMPOCRレジスタのCiOP, CiOEビットにより出力極性（そのまま出力／反転出力）や出力許可／禁止を設定できます。レジスタ設定とコンパレータ出力の対応は，「17. 3. 4　コンパレータ出力制御レジスタ（COMPOCR）」を参照してください。

VCOUTi出力端子へコンパレータ比較結果を出力する場合は，以下の手順に従ってポート設定してください（リセット後，ポートは入力設定になっています）。

①コンパレータのモード設定をする（表17－2　コンパレータ関連レジスタの設定手順の順番1～4）。
②コンパレータのVCOUTi出力を設定する（COMPOCRレジスタを設定し，極性選択，出力許可にする）。
③VCOUTi出力端子に対応するポート・レジスタのビットを0にする。
④VCOUTi出力端子に対応するポート方向レジスタを出力に設定する（端子から出力開始）。

### 17. 4. 4　コンパレータクロック停止／供給

周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）の設定により，コンパレータのクロックを停止する場合は，以下の手順に従ってください。

①COMPMDRレジスタのCiENBビットを0にする（コンパレータを停止する）。
②IF2Lレジスタの CMPIFiビットを0にする（コンパレータ停止前の不要な割り込みをクリア）。
③PER1レジスタのCMPENビットを0にする。

PER1の設定によりクロック停止するとコンパレータ内部のレジスタはすべて初期化されますので，コンパレータを再度使用する場合は，表17－2の手順に従ってレジスタ設定してください。

注意　コンパレータを片エッジ検出での割り込み要求に設定（CnEDG = 0）かつコンパレータの立ち上がりエッジで割り込み要求に設定（CnEPO = 0）かつIVCMP＞IVREF（または内部基準電圧1.45 V）の状態または，コンパレータを片エッジ検出での割り込み要求に設定（CnEDG = 0），コンパレータの立ち下がりエッジで割り込み要求に設定（CnEPO = 1），IVCMP＜IVREF（または内部基準電圧1.45 V）の状態で，DTC起動許可した場合，DTC転送を開始し，転送終了後に割り込み要求が発生します。そのため必要に応じて，コンパレータのモニタフラグ（CnMON）を確認してからDTC起動許可にしてください。（n = 0-1）

# 第18章　シリアル・アレイ・ユニット

シリアル・アレイ・ユニットは1つのユニットに最大4つのシリアル・チャネルを持ちます。各チャネルは簡易SPI (CSI注)，UART，簡易I²Cの通信機能を実現できます。

RL78/I1Bで対応している各チャネルの機能割り当ては，次のようになっています。

注　一般的にはSPIと呼ばれる機能ですが、本製品ではCSIとも呼称しているため、本マニュアルでは併記します。

| ユニット | チャネル | 簡易SPI (CSI)として使用 | UARTとして使用 | 簡易I²Cとして使用 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | CSI00 | UART0（LIN-bus対応） | IIC00 |
| | 1 | － | | － |
| | 2 | － | UART1 | IIC10 |
| | 3 | － | | － |
| 1 | 0 | － | UART2（IrDA対応） | － |
| | 1 | － | | － |

ユニット0のチャネル0, 1で「UART0」を使用するときは，CSI00やIIC00を使用することはできませんが，チャネル2, 3のUART1やIIC10は使用することができます。

# 18. 1　シリアル・アレイ・ユニットの機能

RL78/I1Bで対応している各シリアル・インタフェースの特徴を示します。

## 18. 1. 1　簡易SPI（CSI00）

マスタから出力されるシリアル・クロック（SCK）に同期してデータの送信／受信を行います。

シリアル・クロック（SCK）1本と送信，受信のシリアル・データ（SO, SI）2本の計3本の通信ラインを使用して通信を行うクロック同期式通信機能です。

具体的な設定例は，「18. 5　簡易SPI（CSI00）通信の動作」を参照してください。

［データ送受信］

・7, 8ビットのデータ長

・送受信データの位相制御

・MSB/LSBファーストの選択

［クロック制御］

・マスタ／スレーブの選択

・入出力クロックの位相制御

・プリスケーラとチャネル内カウンタによる転送周期の設定

・最大転送レート注　マスタ通信時：Max. $f_{MCK}/2$

スレーブ通信時：Max. $f_{MCK}/6$

［割り込み機能］

・転送完了割り込み／バッファ空き割り込み

［エラー検出フラグ］

・オーバラン・エラー

また，CSI00は，SNOOZEモードに対応しています。SNOOZEモードとは，STOPモード状態でSCK入力を検出すると，CPU動作を必要とせずにデータ受信を行う機能です。

注　SCKサイクル・タイム（$t_{KCY}$）の特性を満たす範囲内で使用してください。詳細は，第37章　電気的特性を参照してください。

### 18. 1. 2　UART（UART0-UART2）

シリアル・データ送信（TxD）とシリアル・データ受信（RxD）の2本のラインによる，調歩同期式通信機能です。この2本の通信ラインを使用し，スタート・ビット，データ，パリティ・ビット，ストップ・ビットからなる1データ・フレームごとに通信相手と非同期で（内部ボー・レートを使用して）データを送受信します。送信専用（偶数チャネル）と受信専用（奇数チャネル）の2チャネルを使用することで，全2重UART通信が実現できます。また，タイマ・アレイ・ユニットと外部割り込み（INTP0）を組み合わせてLIN-busにも対応可能です。

具体的な設定例は，「18. 6　UART（UART0-UART2）通信の動作」を参照してください。

［データ送受信］

- 7, 8, 9ビットのデータ長[注]
- MSB/LSBファーストの選択
- 送受信データのレベル設定，反転の選択
- パリティ・ビット付加，パリティ・チェック機能
- ストップ・ビット付加

［割り込み機能］

- 転送完了割り込み／バッファ空き割り込み
- フレーミング・エラー，パリティ・エラー，オーバラン・エラーによるエラー割り込み

［エラー検出フラグ］

- フレーミング・エラー，パリティ・エラー，オーバラン・エラー

また，UART0受信は，SNOOZEモードに対応しています。SNOOZEモードとは，STOPモード状態でRxD入力を検出すると，CPU動作を必要とせずにデータ受信を行う機能です。

UART0（ユニット0のチャネル0, 1）は，LIN-busに対応しています。

［LIN-bus機能］

- ウエイクアップ信号検出
- ブレーク・フィールド（BF）検出
- シンク・フィールド測定，ボー・レート算出

} 外部割り込み（INTP0），タイマ・アレイ・ユニットを使用

注　9ビット・データ長は，UART0のみ対応しています。

### 18. 1. 3　簡易I²C（IIC00, IIC10）

シリアル・クロック（SCL）とシリアル・データ（SDA）の2本のラインによる，複数デバイスとのクロック同期式通信機能です。この簡易I²Cでは，EEPROM，フラッシュ・メモリ，A/Dコンバータなどのデバイスとシングル通信を行うために設計されているので，マスタとしてのみ機能します。

スタート・コンディション，ストップ・コンディションは，制御レジスタの操作とともに，ACスペックを守るようにソフトウエアで処理してください。

具体的な設定例は，「18. 8　簡易I²C（IIC00, IIC10）通信の動作」を参照してください。

［データ送受信］

・マスタ送信，マスタ受信（シングル・マスタでのマスタ機能のみ）

・ACK出力機能[注]，ACK検出機能

・8ビットのデータ長

（アドレス送信時は，上位7ビットでアドレス指定し，最下位1ビットでR/W制御）

・スタート・コンディション，ストップ・コンディション手動発生

［割り込み機能］

・転送完了割り込み

［エラー検出フラグ］

・ACKエラー，オーバラン・エラー

※［簡易I²Cでサポートしていない機能］

・スレーブ送信，スレーブ受信

・アービトレーション負け検出機能

・ウエイト検出機能

注　最終データの受信時は，SOEmnビット（シリアル出力許可レジスタm（SOEm））ビットに0を書き込み，シリアル通信のデータ出力を停止することによりACKを出力しません。詳細は，18. 8. 3（2）処理フローを参照してください。

備考 1.　フル機能のI²Cバスをご使用の場合は，第19章　シリアル・インタフェースIICAを参照してください。

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）

### 18. 1. 4　IrDA

シリアル・アレイ・ユニットのUART2とIrDAモジュールを組み合わせることで，IrDA (Infrared Data Association) 規格バージョン1.0に基づいてIrDA通信波形を送受信します。詳細は，第20章　IrDAを参照してください。

［データ送受信］

・転送レート：115.2 kbps/57.6 kbps/38.4 kbps/19.2 kbps/9600 bps/2400 bps

## 18. 2　シリアル・アレイ・ユニットの構成

シリアル・アレイ・ユニットは，次のハードウエアで構成されています。

表18－1　シリアル・アレイ・ユニットの構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| シフト・レジスタ | 8ビットまたは9ビット注1 |
| バッファ・レジスタ | シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）の下位8ビットまたは9ビット注1, 2 |
| シリアル・クロック入出力 | SCK00端子（簡易SPI用），SCL00, SCL10端子（簡易I²C用） |
| シリアル・データ入力 | SI00端子（簡易SPI用），RxD1-RxD2端子（UART用），RxD0端子（LIN-bus対応UART用） |
| シリアル・データ出力 | SO00端子（簡易SPI用），TxD1-TxD2端子（UART用），TxD0端子（LIN-bus対応UART用） |
| シリアル・データ入出力 | SDA00, SDA10端子（簡易I²C用） |
| 制御レジスタ | ＜ユニット設定部のレジスタ＞<br>・周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）<br>・シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）<br>・シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）<br>・シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）<br>・シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）<br>・シリアル出力許可レジスタm（SOEm）<br>・シリアル出力レジスタm（SOm）<br>・シリアル出力レベル・レジスタm（SOLm）<br>・シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0（SSC0）<br>・入力切り替え制御レジスタ（ISC）<br>・ノイズ・フィルタ許可レジスタ0（NFEN0） |
| | ＜各チャネル部のレジスタ＞<br>・シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）<br>・シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）<br>・シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）<br>・シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）<br>・シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn） |
| | ・ポート入力モード・レジスタ0, 1, 8（PIM0, PIM1, PIM8）<br>・ポート出力モード・レジスタ0, 1, 8（POM0, POM1, POM8）<br>・ポート・モード・レジスタ0, 1, 8（PM0, PM1, PM8）<br>・ポート・レジスタ0, 1, 8（P0, P1, P8） |

（注，備考は次ページにあります。）

注1.　シフト・レジスタ，バッファ・レジスタとして使用されるビット数は，ユニット，チャネルによって異なります。

・mn = 00, 01の場合：　下位9ビット

・上記以外の場合：　下位8ビット

2.　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）の下位8ビットは，通信方式により，次のSFR名称でリード／ライト可能です。

・CSIp通信時・・・SIOp（CSIpデータ・レジスタ）

・UARTq受信時・・・RXDq（UARTq受信データ・レジスタ）

・UARTq送信時・・・TXDq（UARTq送信データ・レジスタ）

・IICr通信時・・・SIOr（IICrデータ・レジスタ）

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　p：CSI番号（p = 00）

q：UART番号（q = 0-2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00-03, 10, 11

図18－1にシリアル・アレイ・ユニット0のブロック図を示します。

図18－1　シリアル・アレイ・ユニット0のブロック図

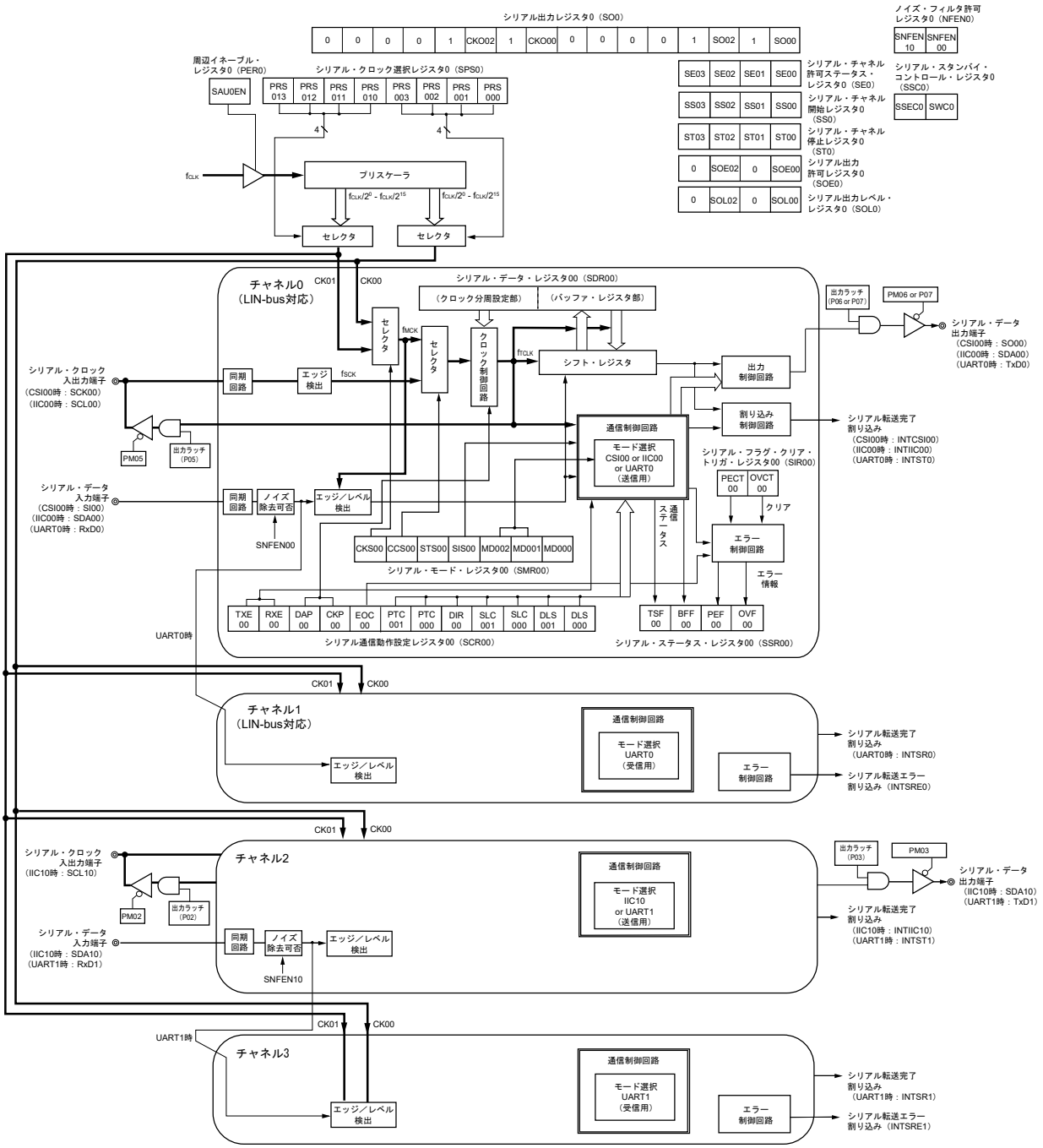
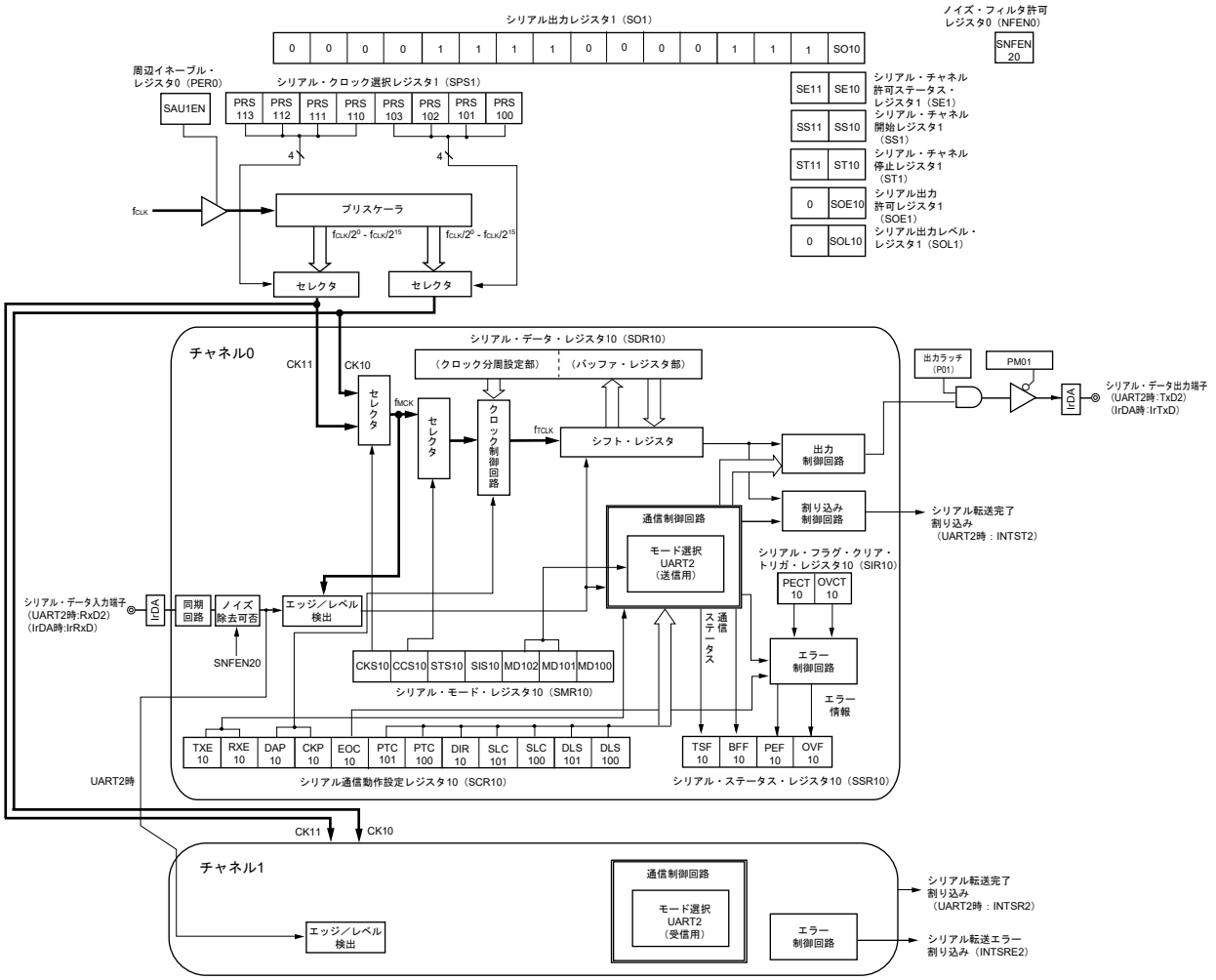


図18－2にシリアル・アレイ・ユニット1のブロック図を示します。

図18－2　シリアル・アレイ・ユニット1のブロック図



### 18. 2. 1　シフト・レジスタ

パラレル⇔シリアルの変換を行う9ビットのレジスタです。

9ビット・データ長でのUART通信時は，9ビット（ビット0～8）を使用します[注1]。

受信時はシリアル入力端子に入力されたデータをパラレル・データに変換します。送信時はこのレジスタに転送された値をシリアル・データとしてシリアル出力端子から出力します。

シフト・レジスタをプログラムで直接操作することはできません。

シフト・レジスタのデータをリード／ライトするには，シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）の下位8/9ビットを使用します。

| | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| シフト・レジスタ | | | | | | | | | |

### 18. 2. 2　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）の下位8/9ビット

SDRmnレジスタは，チャネルnの送受信データ・レジスタ（16ビット）です。

ビット8-0（下位9ビット）[注1]，またはビット7-0（下位8ビット）は，送受信バッファ・レジスタとして機能し，ビット15-9の部分は動作クロック（$f_{MCK}$）の分周設定レジスタとして使われます。

受信時には，シフト・レジスタで変換したパラレル・データを下位8/9ビットに格納します。送信時は，シフト・レジスタに転送する送信データを下位8/9ビットに設定します。

下位8/9ビットに格納するデータは，データ出力順序に関わらず，シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）のビット0, 1（DLSmn0, DLSmn1）の設定によって，次のようになります。

・7ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-6に格納）
・8ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-7に格納）
・9ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-8に格納）[注1]

SDRmnレジスタは16ビット単位でリード／ライト可能です。

またSDRmnレジスタの下位8/9ビットは，通信方式により，次のSFR名称で8ビット単位でリード／ライト可能[注2]です。

・CSIp通信時・・・SIOp（CSIpデータ・レジスタ）
・UARTq受信時・・・RXDq（UARTq受信データ・レジスタ）
・UARTq送信時・・・TXDq（UARTq送信データ・レジスタ）
・IICr通信時・・・SIOr（IICrデータ・レジスタ）

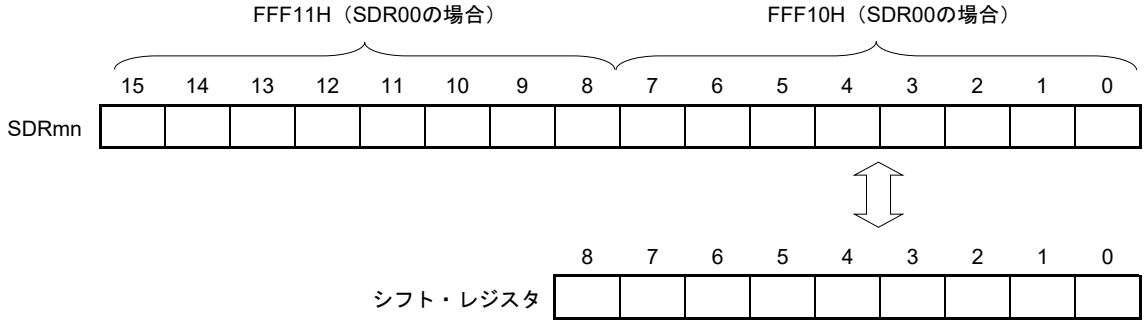
リセット信号の発生により，SDRmnレジスタは0000Hになります。

注1.　9ビット・データ長は，UART0のみ対応しています。
　2.　動作停止（SEmn = 0）時は，8ビット・メモリ操作命令によるSDRmn[7:0]の書き換えは禁止です（SDRmn[15:9]がすべてクリア（0）されます）。

備考1.　受信完了後，ビット0-8内でデータ長を越える部分のビットには，“0”が格納されます。
　2.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　p：CSI番号（p = 00）
　　q：UART番号（q = 0-2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00-03, 10, 11

図18－3　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（mn = 00, 01, 10, 11）のフォーマット

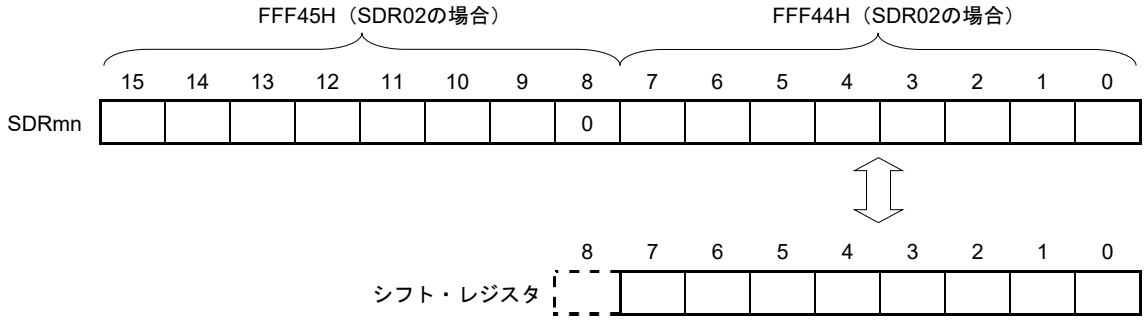
アドレス：FFF10H, FFF11H（SDR00）, FFF12H, FFF13H（SDR01）,　リセット時：0000H　R/W
FFF48H, FFF49H（SDR10）, FFF4AH, FFF4BH（SDR11）




備考　SDRmnレジスタの上位7ビットの機能については，18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを参照してください。

図18－4　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（mn = 02, 03）のフォーマット

アドレス：FFF44H, FFF45H（SDR02）, FFF46H, FFF47H（SDR03）,　リセット時：0000H　R/W




注意　ビット8は，必ず0を設定してください。

備考　SDRmnレジスタの上位7ビットの機能については，18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを参照してください。

## 18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ

シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを次に示します。

・周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）
・シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）
・シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）
・シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）
・シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）
・シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）
・シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）
・シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）
・シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）
・シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）
・シリアル出力許可レジスタm（SOEm）
・シリアル出力レベル・レジスタm（SOLm）
・シリアル出力レジスタm（SOm）
・シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0（SSC0）
・入力切り替え制御レジスタ（ISC）
・ノイズ・フィルタ許可レジスタ0（NFEN0）
・ポート入力モード・レジスタ0, 1, 8（PIM0, PIM1, PIM8）
・ポート出力モード・レジスタ0, 1, 8（POM0, POM1, POM8）
・ポート・モード・レジスタ0, 1, 8（PM0, PM1, PM8）
・ポート・レジスタ0, 1, 8（P0, P1, P8）

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

### 18. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）

PER0レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

シリアル・アレイ・ユニット0を使用するときは，必ずビット2（SAU0EN）に1を設定してください。

シリアル・アレイ・ユニット1を使用するときは，必ずビット3（SAU1EN）に1を設定してください。

PER0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，PER0レジスタは00Hになります。

図18－5　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット

アドレス：F00F0H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |

| SAUmEN | シリアル・アレイ・ユニットmの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・シリアル・アレイ・ユニットmで使用するSFRへのライト不可<br>・シリアル・アレイ・ユニットmはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給許可<br>・シリアル・アレイ・ユニットmで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意1.　シリアル・アレイ・ユニットmの設定をする際には，必ず最初にSAUmEN = 1の状態で，下記のレジスタ設定を行ってください。SAUmEN = 0の場合は，シリアル・アレイ・ユニットmの制御レジスタへの書き込みは無視され，読み出しても値はすべて初期値となります（入力切り替え制御レジスタ（ISC），ノイズ・フィルタ許可レジスタ0（NFEN0），ポート入力モード・レジスタ0, 1, 8（PIM0, PIM1, PIM8），ポート出力モード・レジスタ0, 1, 8（POM0, POM1, POM8），ポート・モード・レジスタ0, 1, 8（PM0, PM1, PM8），ポート・レジスタ0, 1, 8（P0, P1, P8）は除く）。

・シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）
・シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）
・シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）
・シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）
・シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）
・シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）
・シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）
・シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）
・シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）
・シリアル出力許可レジスタm（SOEm）
・シリアル出力レベル・レジスタm（SOLm）
・シリアル出力レジスタm（SOm）
・シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm（SSCm）

2.　ビット1には必ず“0”を設定してください。

### 18. 3. 2　シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）

SPSmレジスタは，各チャネルに共通して供給される2種類の動作クロック（CKm0, CKm1）を選択する16ビット・レジスタです。SPSmレジスタのビット7-4でCKm1を，ビット3-0でCKm0を選択します。

SPSmレジスタは，動作中（SEmn = 1のとき）の書き換えは禁止です。

SPSmレジスタは16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSPSmレジスタの下位8ビットは，SPSmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，SPSmレジスタは0000Hになります。

図18－6　シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）のフォーマット

アドレス：F0126H, F0127H（SPS0）, F0166H, F0167H（SPS1）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SPSm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | PRS m13 | PRS m12 | PRS m11 | PRS m10 | PRS m03 | PRS m02 | PRS m01 | PRS m00 |

| PRS mk3 | PRS mk2 | PRS mk1 | PRS mk0 | 動作クロック（CKmk）の選択[注] | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | $f_{CLK}$ = 4 MHz | $f_{CLK}$ = 8 MHz | $f_{CLK}$ = 12 MHz | $f_{CLK}$ = 20 MHz | $f_{CLK}$ = 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}$ | 4 MHz | 8 MHz | 12 MHz | 20 MHz | 24 MHz |
| 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2$ | 2 MHz | 4 MHz | 6 MHz | 10 MHz | 12 MHz |
| 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^2$ | 1 MHz | 2 MHz | 3 MHz | 5 MHz | 6 MHz |
| 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^3$ | 500 kHz | 1 MHz | 1.5 MHz | 2.5 MHz | 3 MHz |
| 0 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^4$ | 250 kHz | 500 kHz | 750 kHz | 1.25 MHz | 1.5 MHz |
| 0 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^5$ | 125 kHz | 250 kHz | 375 kHz | 625 kHz | 750 kHz |
| 0 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^6$ | 62.5 kHz | 125 kHz | 187.5 kHz | 313 kHz | 375 kHz |
| 0 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^7$ | 31.25 kHz | 62.5 kHz | 93.8 kHz | 156 kHz | 187.5 kHz |
| 1 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^8$ | 15.62 kHz | 31.25 kHz | 46.9 kHz | 78.1 kHz | 93.8 kHz |
| 1 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^9$ | 7.81 kHz | 15.62 kHz | 23.4 kHz | 39.1 kHz | 46.9 kHz |
| 1 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{10}$ | 3.91 kHz | 7.81 kHz | 11.7 kHz | 19.5 kHz | 23.4 kHz |
| 1 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{11}$ | 1.95 kHz | 3.91 kHz | 5.86 kHz | 9.77 kHz | 11.7 kHz |
| 1 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^{12}$ | 976 Hz | 1.95 kHz | 2.93 kHz | 4.88 kHz | 5.86 kHz |
| 1 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^{13}$ | 488 Hz | 976 Hz | 1.46 kHz | 2.44 kHz | 2.93 kHz |
| 1 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{14}$ | 244 Hz | 488 Hz | 732 Hz | 1.22 kHz | 1.46 kHz |
| 1 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{15}$ | 122 Hz | 244 Hz | 366 Hz | 610 Hz | 732 Hz |

注　シリアル・アレイ・ユニット（SAU）動作中に$f_{CLK}$で選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は，SAUの動作を停止（シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）　= 000FH）させてから変更してください。

注意　ビット15-8には，必ず0を設定してください。

備考1.　$f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

2.　m：ユニット番号（m = 0, 1）

3.　k = 0, 1

### 18. 3. 3　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）

SMRmnレジスタは，チャネルnの動作モード設定レジスタです。動作クロック（$f_{MCK}$）の選択，シリアル・クロック（$f_{SCK}$）入力の使用可否，スタート・トリガ設定，動作モード（簡易SPI(CSI), UART，簡易$I^2C$）設定，割り込み要因の選択を行います。またUARTモード時のみ，受信データのレベル反転の設定を行います。

SMRmnレジスタは，動作中（SEmn = 1のとき）の書き換えは禁止です。ただしMDmn0ビットは，動作中でも書き換えをすることができます。

SMRmnレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，SMRmnレジスタは0020Hになります。

図18－7　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のフォーマット（1/2）

アドレス：F0110H, F0111H（SMR00）-F0116H, F0117H（SMR03），　リセット時：0020H　R/W
F0150H, F0151H（SMR10）, F0152H, F0153H（SMR11）

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn | CCSmn | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | STSmn注 | 0 | SISmn0注 | 1 | 0 | 0 | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |

| CKSmn | チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）の選択 |
|---|---|
| 0 | SPSmレジスタで設定した動作クロックCKm0 |
| 1 | SPSmレジスタで設定した動作クロックCKm1 |
| 動作クロック（$f_{MCK}$）は，エッジ検出回路に使用されます。また，CCSmnビットとSDRmnレジスタの上位7ビットの設定により，転送クロック（$f_{TCLK}$）を生成します。 | |

| CCSmn | チャネルnの転送クロック（$f_{TCLK}$）の選択 |
|---|---|
| 0 | CKSmnビットで指定した動作クロック$f_{MCK}$の分周クロック |
| 1 | SCKp端子からの入力クロック$f_{SCK}$（簡易SPI(CSI)モードのスレーブ転送） |
| 転送クロック$f_{TCLK}$は，シフト・レジスタ，通信制御回路，出力制御回路，割り込み制御回路，エラー制御回路に使用されます。CCSmn = 0の場合は，SDRmnレジスタの上位7ビットで動作クロック（$f_{MCK}$）の分周設定を行います。 | |

| STSmn注 | スタート・トリガ要因の選択 |
|---|---|
| 0 | ソフトウエア・トリガのみ有効（簡易SPI(CSI), UART送信，簡易$I^2C$時に選択） |
| 1 | RxDq端子の有効エッジ（UART受信時に選択） |
| SSmレジスタに1を設定後，上記の要因が満たされてから転送開始となります。 | |

注　SMR01, SMR03, SMR11レジスタのみ。

注意　ビット13-9, 7, 4, 3（SMR00, SMR02, SMR10レジスタの場合は，ビット13-6, 4, 3）には，必ず0を設定してください。ビット5には，必ず1を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　p：CSI番号（p = 00）
q：UART番号（q = 0-2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00-03, 10, 11

図18－7　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のフォーマット（2/2）

アドレス：F0110H, F0111H（SMR00）-F0116H, F0117H（SMR03），　リセット時：0020H　R/W
F0150H, F0151H（SMR10）, F0152H, F0153H（SMR11）

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKS mn | CCS mn | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | STS mn注 | 0 | SIS mn0注 | 1 | 0 | 0 | MD mn2 | MD mn1 | MD mn0 |

| SIS mn0注 | UARTモードでのチャネルnの受信データのレベル反転の制御 |
|---|---|
| 0 | 立ち下がりエッジをスタート・ビットとして検出します。<br>入力される通信データは，そのまま取り込まれます。 |
| 1 | 立ち上がりエッジをスタート・ビットとして検出します。<br>入力される通信データは，反転して取り込まれます。 |

| MD mn2 | MD mn1 | チャネルnの動作モードの設定 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 簡易SPI (CSI)モード |
| 0 | 1 | UARTモード |
| 1 | 0 | 簡易$I^2C$モード |
| 1 | 1 | 設定禁止 |

| MD mn0 | チャネルnの割り込み要因の選択 |
|---|---|
| 0 | 転送完了割り込み |
| 1 | バッファ空き割り込み<br>（転送データがSDRmnレジスタからシフト・レジスタに転送されたタイミングで発生） |
| 連続送信時はMDmn0 = 1として，SDRmnデータが空になったら次送信データの書き込みを行う。 | |

注　SMR01, SMR03, SMR11レジスタのみ。

注意　ビット13-9, 7, 4, 3（SMR00, SMR02, SMR10レジスタの場合は，ビット13-6, 4, 3）には，必ず0を設定してください。ビット5には，必ず1を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　p：CSI番号（p = 00）
q：UART番号（q = 0-2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00-03, 10, 11

## 18. 3. 4　シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）

チャネルnの通信動作設定レジスタです。データ送受信モード，データとクロックの位相，エラー信号のマスク可否，パリティ・ビット，先頭ビット，ストップ・ビット，データ長などの設定を行います。

SCRmnレジスタは，動作中（SEmn = 1のとき）の書き換えは禁止です。

SCRmnレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

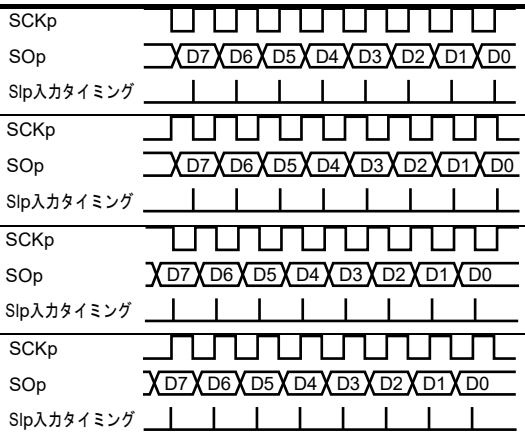
リセット信号の発生により，SCRmnレジスタは0087Hになります。

図18－8　シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）のフォーマット（1/2）

アドレス：F0118H, F0119H（SCR00）-F011EH, F011FH（SCR03），　リセット時：0087H　R/W
F0158H, F0159H（SCR10），F015AH, F015BH（SCR11）

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | 0 | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | 0 | SLCmn1注1 | SLCmn0 | 0 | 1 | DLSmn1注2 | DLSmn0 |

| TXEmn | RXEmn | チャネルnの動作モードの設定 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 通信禁止 |
| 0 | 1 | 受信のみを行う |
| 1 | 0 | 送信のみを行う |
| 1 | 1 | 送受信を行う |

| DAPmn | CKPmn | 簡易SPI (CSI)モードでのデータとクロックの位相選択 | タイプ |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 |  | 1 |
| 0 | 1 |  | 2 |
| 1 | 0 |  | 3 |
| 1 | 1 |  | 4 |
| UARTモード，簡易I²Cモード時には，必ずDAPmn, CKPmn = 0, 0に設定してください。 | | | |

| EOCmn | エラー割り込み信号（INTSREx（x = 0-2））のマスク制御 |
|---|---|
| 0 | エラー割り込みINTSRExの発生を禁止する（INTSRxが発生する） |
| 1 | エラー割り込みINTSRExの発生を許可する（エラー発生時，INTSRxは発生しない） |
| 簡易SPI (CSI)モード，簡易I²Cモード，UART送信時には，EOCmn = 0に設定してください注3。 | |

注1.　SCR00, SCR02, SCR10レジスタのみ。
　2.　SCR00, SCR01レジスタのみ。その他は1固定になります。
　3.　CSImnをEOCmn = 0で使用しない場合，エラー割り込みINTSREnが発生する場合があります。

注意　ビット3, 6, 11には，必ず0を設定してください（SCR01, SCR03, SCR11レジスタはビット5も0に設定してください）。ビット2には，必ず1を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　p：CSI番号（p = 00）
mn = 00-03, 10, 11

図18－8　シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）のフォーマット（2/2）

アドレス：F0118H, F0119H（SCR00）-F011EH, F011FH（SCR03），　リセット時：0087H　R/W
F0158H, F0159H（SCR10），F015AH, F015BH（SCR11）

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | 0 | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | 0 | SLCmn1注1 | SLCmn0 | 0 | 1 | DLSmn1注2 | DLSmn0 |

| PTCmn1 | PTCmn0 | UARTモードでのパリティ・ビットの設定 | |
|---|---|---|---|
| | | 送信動作 | 受信動作 |
| 0 | 0 | パリティ・ビットを出力しない | パリティなしで受信 |
| 0 | 1 | 0パリティを出力注3 | パリティ判定を行わない |
| 1 | 0 | 偶数パリティを出力 | 偶数パリティとして判定を行う |
| 1 | 1 | 奇数パリティを出力 | 奇数パリティとして判定を行う |
| 簡易SPI (CSI)モード，簡易I²Cモード時には，必ずPTCmn1, PTCmn0 = 0, 0に設定してください。 | | | |

| DIRmn | 簡易SPI (CSI), UARTモードでのデータ転送順序の選択 |
|---|---|
| 0 | MSBファーストで入出力を行う |
| 1 | LSBファーストで入出力を行う |
| 簡易I²Cモード時には，必ずDIRmn = 0に設定してください。 | |

| SLCmn1注1 | SLCmn0 | UARTモードでのストップ・ビットの設定 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | ストップ・ビットなし |
| 0 | 1 | ストップ・ビット長 = 1ビット |
| 1 | 0 | ストップ・ビット長 = 2ビット（mn = 00, 02, 10のみ） |
| 1 | 1 | 設定禁止 |
| 転送完了割り込みを選択している場合は，全部のストップ・ビットが完了してから割り込みを発生します。<br>UART受信時，簡易I²Cモード時には，1ビット（SLCmn1, SLCmn0 = 0, 1）に設定してください。<br>簡易SPI (CSI)モード時には，ストップ・ビットなし（SLCmn1, SLCmn0 = 0, 0）に設定してください。<br>UART送信時は，1ビット（SLCmn1, SLCmn0 = 0, 1）または2ビット（SLCmn1, SLCmn0 = 1, 0）に設定してください。 | | |

| DLSmn1注2 | DLSmn0 | 簡易SPI (CSI), UARTモードでのデータ長の設定 |
|---|---|---|
| 0 | 1 | 9ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-8に格納）<br>（UARTモード時のみ選択可） |
| 1 | 0 | 7ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-6に格納） |
| 1 | 1 | 8ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-7に格納） |
| その他 | | 設定禁止 |
| 簡易I²Cモード時には，必ずDLSmn1, DLSmn0 = 1, 1に設定してください。 | | |

注1.　SCR00, SCR02, SCR10レジスタのみ。
　2.　SCR00, SCR01レジスタのみ。その他は1固定になります。
　3.　データの内容にかかわらず必ず0が付加されます。

注意　ビット3, 6, 11には，必ず0を設定してください（SCR01, SCR03, SCR11レジスタはビット5も0に設定してください）。ビット2には，必ず1を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　p：CSI番号（p = 00）
mn = 00-03, 10, 11

### 18. 3. 5　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）

SDRmnレジスタは，チャネルnの送受信データ・レジスタ（16ビット）です。

SDR00, SDR01, SDR10, SDR11のビット8-0（下位9ビット），またはSDR02, SDR03のビット7-0（下位8ビット）は，送受信バッファ・レジスタとして機能し，ビット15-9（上位7ビット）の部分は動作クロック（$f_{MCK}$）の分周設定レジスタとして使われます。

シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）でCCSmnビットを0に設定した場合は，動作クロックをこのSDRmnレジスタのビット15-9（上位7ビット）で分周設定したクロックが，転送クロックとして使用されます。

また，CCSmnビットを1に設定した場合は，SDR00のビット15-9（上位7ビット）に”0000000B”を設定してください。SCKp端子からの入力クロック$f_{SCK}$（簡易SPI (CSI)モードのスレーブ転送）が転送クロックとなります。

SDRmnレジスタの下位8/9ビットは，送受信バッファ・レジスタとして機能します。受信時には，シフト・レジスタで変換したパラレル・データを下位8/9ビットに格納し，送信時には，シフト・レジスタに転送する送信データを下位8/9ビット設定します。

SDRmnレジスタは16ビット単位でリード／ライト可能です。

ただし上位7ビットへの書き込みおよび読み出しは動作停止状態（SEmn = 0）のときのみ有効です。動作中（SEmn = 1）にSDRmnレジスタに書き込みを行ったときは，下位8/9ビットのみ値が書き込まれます。動作中にSDRmnレジスタの読み出しを行った場合は，上位7ビットは常に0が読み出されます。

リセット信号の発生により，SDRmnレジスタは0000Hになります。

図18－9　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）のフォーマット

アドレス：FFF10H, FFF11H（SDR00），FFF12H, FFF13H（SDR01）　リセット時：0000H　R/W

| | FFF11H（SDR00の場合） | | | | | | | | FFF10H（SDR00の場合） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| SDRmn | | | | | | | | | | | | | | | | |

アドレス：FFF44H, FFF45H（SDR02），FFF46H, FFF47H（SDR03）　リセット時：0000H　R/W
FFF48H, FFF49H（SDR10），FFF4AH, FFF4BH（SDR11）

| | FFF45H（SDR02の場合） | | | | | | | | FFF44H（SDR02の場合） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| SDRmn | | | | | | | | 0 | | | | | | | | |

| SDRmn[15:9] | | | | | | | 動作クロックの分周による転送クロック設定 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | $f_{MCK}/2$ |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{MCK}/4$ |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{MCK}/6$ |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{MCK}/8$ |
| ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | $f_{MCK}/254$ |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | $f_{MCK}/256$ |

（注意，備考は次ページにあります。）

注意1.　SDR02, SDR03, SDR10, SDR11レジスタのビット8は，必ず0を設定してください。

2.　UART使用時は，SDRmn[15:9] =（0000000B, 0000001B）は設定禁止です。

3.　簡易$I^2C$使用時は，SDRmn[15:9] = 0000000Bは設定禁止です。SDRmn[15:9] = 0000001B以上に設定してください。

4.　動作停止（SEmn = 0）時は，8ビット・メモリ操作命令によるSDRmn[7:0]の書き換えは禁止です（SDRmn[15:9]がすべてクリア（0）されます）。

備考1.　SDRmnレジスタの下位8/9ビットの機能については，18．2　シリアル・アレイ・ユニットの構成を参照してください。

2.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

### 18. 3. 6　シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）

チャネルnの各エラー・フラグをクリアするためのトリガ・レジスタです。

各ビット（FECTmn, PECTmn, OVCTmn）を1にセットすると，シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）の対応ビット（FEFmn, PEFmn, OVFmn）が0にクリアされます。SIRmnレジスタはトリガ・レジスタなので，SSRmnレジスタの対応ビットをクリアするとすぐSIRmnレジスタもクリアされます。

SIRmnレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSIRmnレジスタの下位8ビットは，SIRmnLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，SIRmnレジスタは0000Hになります。

図18－10　シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）のフォーマット

アドレス：F0108H, F0109H（SIR00）-F010EH, F010FH（SIR03），　リセット時：0000H　R/W
F0148H, F0149H（SIR10），F014AH, F014BH（SIR11）

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SIRmn | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | FECTmn注 | PECTmn | OVCTmn |

| FECTmn | チャネルnのフレーミング・エラー・フラグのクリア・トリガ |
|---|---|
| 0 | クリアしない |
| 1 | SSRmnレジスタのFEFmnビットを0にクリアする |

| PECTmn | チャネルnのパリティ・エラー・フラグのクリア・トリガ |
|---|---|
| 0 | クリアしない |
| 1 | SSRmnレジスタのPEFmnビットを0にクリアする |

| OVCTmn | チャネルnのオーバラン・エラー・フラグのクリア・トリガ |
|---|---|
| 0 | クリアしない |
| 1 | SSRmnレジスタのOVFmnビットを0にクリアする |

注　SIR01, SIR03, SIR11レジスタのみ。

注意　ビット15-3（SIR00, SIR02, SIR10レジスタの場合は，ビット15-2）には，必ず0を設定してください。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

2.　SIRmnレジスタの読み出し値は常に0000Hとなります。

### 18. 3. 7　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）

SSRmnレジスタは，チャネルnの通信ステータス，エラー発生状況を表示するレジスタです。表示するエラーは，フレーミング・エラー，パリティ・エラー，オーバラン・エラーです。

SSRmnレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で読み出します。

またSSRmnレジスタの下位8ビットは，SSRmnLで8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により，SSRmnレジスタは0000Hになります。

図18－11　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）のフォーマット（1/2）

アドレス：F0100H, F0101H（SSR00）-F0106H, F0107H（SSR03），　リセット時：0000H　R
F0140H, F0141H（SSR10），F0142H, F0143H（SSR11）

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSRmn | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TSFmn | BFFmn | 0 | 0 | FEFmn注 | PEFmn | OVFmn |

| TSFmn | チャネルnの通信状態表示フラグ |
|---|---|
| 0 | 通信動作停止状態または通信動作待機状態 |
| 1 | 通信動作状態 |

＜クリア条件＞
・STmレジスタのSTmnビットに1を設定時（通信停止状態），もしくはSSmレジスタのSSmnビットに1を設定時（通信待機状態）
・通信動作が終了時
＜セット条件＞
・通信動作を開始時

| BFFmn | チャネルnのバッファ・レジスタ状態表示フラグ |
|---|---|
| 0 | 有効なデータがSDRmnレジスタに格納されていない |
| 1 | 有効なデータがSDRmnレジスタに格納されている |

＜クリア条件＞
・送信時においてSDRmnレジスタからシフト・レジスタへ送信データの転送が終了したとき
・受信時においてSDRmnレジスタから受信データの読み出しが終了したとき
・STmレジスタのSTmnビットに1を設定時（通信停止状態），SSmレジスタのSSmnビットに1を設定時（通信許可状態）。
＜セット条件＞
・SCRmnレジスタのTXEmnビット ＝1（各通信モードでの送信，送受信モード時）の状態でSDRmnレジスタに送信データを書き込んだとき
・SCRmnレジスタのRXEmnビット ＝1（各通信モードでの受信，送受信モード時）の状態でSDRmnレジスタに受信データが格納されたとき
・受信エラー時

注　SSR01, SSR03, SSR11レジスタのみ。

注意　SNOOZEモード（SWCm = 1）で簡易SPI (CSI)受信する場合，BFFmnフラグは動作しません。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

図18－11　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）のフォーマット（2/2）

アドレス：F0100H, F0101H（SSR00）-F0106H, F0107H（SSR03），　リセット時：0000H　R
F0140H, F0141H（SSR10），F0142H, F0143H（SSR11）

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSRmn | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TSFmn | BFFmn | 0 | 0 | FEFmn注 | PEFmn | OVFmn |

| FEFmn | チャネルnのフレーミング・エラー検出フラグ |
|---|---|
| 0 | エラーなし |
| 1 | エラー発生（UART受信時） |

＜クリア条件＞
・SIRmnレジスタのFECTmnビットに1を書き込んだとき
＜セット条件＞
・UART受信完了時に，ストップ・ビットが検出されないとき

| PEFmn | チャネルnのパリティ／ACKエラー検出フラグ |
|---|---|
| 0 | エラーなし |
| 1 | パリティ・エラー発生（UART受信時），またはACK未検出発生（$I^2C$送信時） |

＜クリア条件＞
・SIRmnレジスタのPECTmnビットに1を書き込んだとき
＜セット条件＞
・UART受信完了時に，送信データのパリティとパリティ・ビットが一致しないとき（パリティ・エラー）
・$I^2C$送信時に，ACK受信タイミングにスレーブ側からACK信号の応答がなかったとき（ACK未検出）

| OVFmn | チャネルnのオーバラン・エラー検出フラグ |
|---|---|
| 0 | エラーなし |
| 1 | エラー発生 |

＜クリア条件＞
・SIRmnレジスタのOVCTmnビットに1を書き込んだとき
＜セット条件＞
・SCRmnレジスタのRXEmnビット ＝ 1（各通信モードでの受信，送受信モード時）の状態で，受信データがSDRmnレジスタに格納されているのに，読み出しをせずに送信データの書き込みもしくは次の受信データの書き込みをしたとき
・簡易SPI (CSI)モードのスレーブ送信／送受信で，送信データが準備できていないとき

注　SSR01, SSR03, SSR11レジスタのみ。

注意1. BFFmn = 1のときにSDRmnレジスタに書き込みをすると，格納されている送信／受信データが破壊され，オーバラン・エラー（OVEmn = 1）と検出されます。
2. SNOOZEモード（SWCm = 1）で簡易SPI (CSI)受信する場合，OVFmnフラグは動作しません。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

### 18. 3. 8　シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）

SSmレジスタは，通信／カウント開始の許可をチャネルごとに設定するトリガ・レジスタです。

各ビット（SSmn）に1を書き込むと，シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）の対応ビット（SEmn）が1にセット（動作許可状態）されます。SSmnビットはトリガ・ビットなので，SEmn = 1になるとすぐSSmnビットはクリアされます。

SSmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSSmレジスタの下位8ビットは，SSmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，SSmレジスタは0000Hになります。

図18－12　シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）のフォーマット

アドレス：F0122H, F0123H（SS0）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SS0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SS03 | SS02 | SS01 | SS00 |

アドレス：　F0162H, F0163H（SS1）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SS1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SS11 | SS10 |

| SSmn | チャネルnの動作開始トリガ |
|---|---|
| 0 | トリガ動作せず |
| 1 | SEmnビットに1をセットし，通信待機状態に遷移する[注] |

注　通信動作中にSSmn = 1を設定すると，通信を停止して待機状態になります。このとき，制御レジスタ，シフト・レジスタの値，SCKmn, SOmn端子とFEFmn, PEFmn, OVFmnフラグは状態を保持します。

注意1.　SS0レジスタのビット15-4，SS1レジスタのビット15-2には，必ず0を設定してください。

2.　UART受信の場合は，SCRmnレジスタのRXEmnビットを“1”に設定後に，$f_{MCK}$の4クロック以上間隔をあけてからSSmn = 1を設定してください。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

2.　SSmレジスタの読み出し値は常に0000Hとなります。

### 18. 3. 9　シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）

STmレジスタは，通信／カウント停止の許可をチャネルごとに設定するトリガ・レジスタです。

各ビット（STmn）に1を書き込むと，シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）の対応ビット（SEmn）が0にクリア（動作停止状態）されます。STmnビットはトリガ・ビットなので，SEmn = 0になるとすぐSTmnビットはクリアされます。

STmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSTmレジスタの下位8ビットは，STmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，STmレジスタは0000Hになります。

図18－13　シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）のフォーマット

アドレス：F0124H, F0125H（ST0）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ST0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ST03 | ST02 | ST01 | ST00 |

アドレス：　F0164H, F0165H（ST1）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ST1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ST11 | ST10 |

| STmn | チャネルnの動作停止トリガ |
|---|---|
| 0 | トリガ動作せず |
| 1 | SEmnビットを0にクリアし，通信動作を停止する[注] |

注　制御レジスタ，シフト・レジスタの値，SCKmn, SOmn端子とFEFmn, PEFmn, OVFmnフラグは状態を保持します。

注意　ST0レジスタのビット15-4，ST1レジスタのビット15-2には，必ず0を設定してください。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

2.　STmレジスタの読み出し値は常に0000Hとなります。

### 18. 3. 10　シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）

SEmレジスタは，各チャネルのシリアル送受信動作許可／停止状態を確認するレジスタです。

シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）の各ビットに1を書き込むと，その対応ビットが1にセットされます。シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）の各ビットに1を書き込むと，その対応ビットが0にクリアされます。

動作を許可したチャネルnは，後述のシリアル出力レジスタm（SOm）のCKOmnビット（チャネルnのシリアル・クロック出力）の値をソフトウエアによって書き換えできなくなり，通信動作によって反映された値がシリアル・クロック端子から出力されます。

動作を停止したチャネルnは，SOmレジスタのCKOmnビットの値をソフトウエアで設定することができ，その値をシリアル・クロック端子から出力できます。これにより，スタート・コンディション／ストップ・コンディションなどの任意の波形をソフトウエアで作成することができます。

SEmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で読み出します。

またSEmレジスタの下位8ビットは，SEmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により，SEmレジスタは0000Hになります。

図18－14　シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）のフォーマット

アドレス：F0120H, F0121H（SE0）　リセット時：0000H　R

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SE0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SE03 | SE02 | SE01 | SE00 |

アドレス：　F0160H, F0161H（SE1）　リセット時：0000H　R

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SE1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SE11 | SE10 |

| SEmn | チャネルnの動作許可／停止状態の表示 |
|---|---|
| 0 | 動作停止状態 |
| 1 | 動作許可状態 |

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

### 18. 3. 11　シリアル出力許可レジスタm（SOEm）

SOEmレジスタは，各チャネルのシリアル通信動作の出力許可／停止を設定するレジスタです。

シリアル出力を許可したチャネルnは，後述のシリアル出力レジスタm（SOm）のSOmnビットの値をソフトウエアによって書き換えできなくなり，通信動作によって反映された値がシリアル・データ出力端子から出力されます。

シリアル出力を停止したチャネルnは，SOmレジスタのSOmnビットの値をソフトウエアで設定することができ，その値をシリアル・データ出力端子から出力できます。これにより，スタート・コンディション／ストップ・コンディションなどの任意の波形をソフトウエアで作成することができます。

SOEmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSOEmレジスタの下位8ビットは，SOEmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，SOEmレジスタは0000Hになります。

図18－15　シリアル出力許可レジスタm（SOEm）のフォーマット

アドレス：F012AH, F012BH（SOE0）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOE0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SOE02 | 0 | SOE00 |

アドレス：F016AH, F016BH（SOE1）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOE1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SOE10 |

| SOEmn | チャネルnのシリアル出力許可／停止 |
|---|---|
| 0 | シリアル通信動作による出力停止 |
| 1 | シリアル通信動作による出力許可 |

注意　SOE0レジスタのビット15-3, 1, SOE1レジスタのビット15-3, 1には，必ず0を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00-03, 10, 11

### 18. 3. 12　シリアル出力レジスタm（SOm）

SOmレジスタは，各チャネルのシリアル出力のバッファ・レジスタです。

このレジスタのSOmnビットの値が，チャネルnのシリアル・データ出力端子から出力されます。

このレジスタのCKOmnビットの値が，チャネルnのシリアル・クロック出力端子から出力されます。

このレジスタのSOmnビットのソフトウエアによる書き換えは，シリアル出力禁止（SOEmn = 0）時のみ可能です。シリアル出力許可（SOEmn = 1）時は，ソフトウエアによる書き換えは無視され，シリアル通信動作によってのみ値が変更されます。

このレジスタのCKOmnビットのソフトウエアによる書き換えは，チャネル動作停止（SEmn = 0）時のみ可能です。チャネル動作許可（SEmn = 1）時は，ソフトウエアによる書き換えは無視され，シリアル通信動作によってのみ値が変更されます。

また，シリアル・インタフェース用端子をポート機能として使用する場合は，該当するCKOmn，SOmnビットに“1”を設定してください。

SOmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，SO0レジスタは0F0FH，SO1レジスタは0303Hになります。

図18－16　シリアル出力レジスタm（SOm）のフォーマット

アドレス：F0128H, F0129H（SO0）　リセット時：0F0FH　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SO0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | CKO02 | 1 | CKO00 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | SO02 | 1 | SO00 |

アドレス：F0168H, F0169H（SO1）　リセット時：0303H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SO1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | SO10 |

| CKOmn | チャネルnのシリアル・クロック出力 |
|---|---|
| 0 | シリアル・クロック出力値が“0” |
| 1 | シリアル・クロック出力値が“1” |

| SOmn | チャネルnのシリアル・データ出力 |
|---|---|
| 0 | シリアル・データ出力値が“0” |
| 1 | シリアル・データ出力値が“1” |

注意　SO0レジスタのビット15-12, 7-4には，必ず0を設定してください。また，ビット11, 9, 3, 1には必ず1を設定してください。
SO1レジスタのビット15-10, 7-2には，必ず0を設定してください。また，ビット9, 8, 1には，必ず1を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00-03, 10, 11

### 18. 3. 13　シリアル出力レベル・レジスタm（SOLm）

SOLmレジスタは，各チャネルのデータ出力レベルの反転を設定するレジスタです。

このレジスタはUARTモード時のみ設定できます。簡易SPI (CSI)モード，簡易I²Cモード時は，必ず対応するビットに0を設定してください。

このレジスタによる各チャネルnの反転設定は，シリアル出力許可（SOEmn = 1）時のみ端子出力に反映されます。シリアル出力禁止（SOEmn = 0）時はSOmnビットの値がそのまま出力されます。

SOLmレジスタは，動作中（SEmn = 1のとき）の書き換えは禁止です。

SOLmレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSOLmレジスタの下位8ビットは，SOLmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，SOLmレジスタは0000Hになります。

図18－17　シリアル出力レベル・レジスタm（SOLm）のフォーマット

アドレス：F0134H, F0135H（SOL0）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOL0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SOL02 | 0 | SOL00 |

アドレス：F0174H, F0175H（SOL1）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOL1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SOL10 |

| SOLmn | UARTモードでのチャネルnの送信データのレベル反転の選択 |
|---|---|
| 0 | 通信データは，そのまま出力されます。 |
| 1 | 通信データは，反転して出力されます。 |

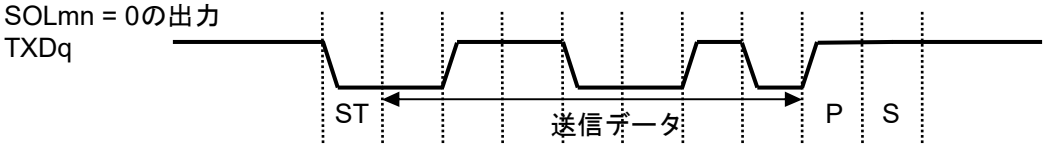
注意　SOL0レジスタのビット15-3, 1, SOL1レジスタのビット15-1には，必ず0を設定してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00-03, 10, 11

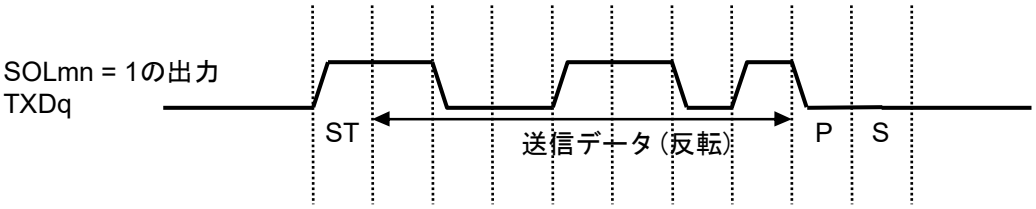
UART送信時，送信データのレベル反転例を図18－18に示します。

図18－18　送信データのレベル反転例

（a）非反転出力（SOLmn = 0）




（b）反転出力（SOLmn = 1）




備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00-03, 10, 11

### 18. 3. 14　シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0（SSC0）

SSC0レジスタは，CSI00，UART0のシリアル・データ受信による，STOPモード状態からの受信動作起動（SNOOZEモード）を制御するレジスタです。

SSC0レジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSSC0レジスタの下位8ビットは，SSC0Lで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により，SSC0レジスタは0000Hになります。

注意　SNOOZEモード時の最大転送レートは，次のようになります。

・CSI00の場合：～1 Mbps

・UART0の場合：4800 bpsのみ

図18－19　シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0（SSC0）のフォーマット

アドレス：F0138H（SSC0）　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSC0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SSEC0 | SWC0 |

| SSEC0 | SNOOZEモード時の通信エラー割り込み発生許可／停止の選択 |
|---|---|
| 0 | エラー割り込み（INTSRE0）発生許可 |
| 1 | エラー割り込み（INTSRE0）発生停止 |

・SNOOZEモード時のUART受信で，SWC0 = 1かつEOCmn = 1の時のみ，SSECmビットを1/0に設定することができます。その他の場合は，SSEC0ビットを0に設定してください。

・SSEC0, SWC0 = 1, 0は設定禁止です。

| SWC0 | SNOOZEモードの設定 |
|---|---|
| 0 | SNOOZEモード機能を使用しない |
| 1 | SNOOZEモード機能を使用する |

・STOPモード中のハードウエア・トリガ信号で，STOPモードを解除し，CPUを動作させることなく，簡易SPI (CSI)/UARTの受信動作を行います（SNOOZEモード）。

・SNOOZEモード機能は，CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）に高速オンチップ・オシレータ・クロックが選択されているときのみ設定可能です。高速オンチップ・オシレータ・クロック以外が選択されている場合は設定禁止です。

・SNOOZEモードを使用する場合でも，通常動作モード時はSWC0を0に設定し，STOPモードへ移行する直前にSWC0を1に変更してください。
またSTOPモードから通常動作モードへ復帰後，必ずSWC0を0に変更してください。

図18－20　SNOOZEモードでUART受信したときの割り込み

| EOCmnビット | SSECmビット | 正常受信時 | 受信エラー時 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | INTSRxが発生する | INTSRxが発生する |
| 0 | 1 | INTSRxが発生する | INTSRxが発生する |
| 1 | 0 | INTSRxが発生する | INTSRExが発生する |
| 1 | 1 | INTSRxが発生する | 割り込みは発生しない |

### 18. 3. 15　入力切り替え制御レジスタ（ISC）

ISCレジスタのISC1, ISC0ビットは，UART0でLIN-bus通信動作を実現するときに，外部割り込みやタイマ・アレイ・ユニットと連携するために使用します。

ビット0に1を設定すると，シリアル・データ入力（RxD0）端子の入力信号が外部割り込み入力（INTP0）として選択されます。これによって，ウエイクアップ信号をINTP0割り込みで検出できます。

ビット1に1を設定すると，シリアル・データ入力（RxD0）端子の入力信号がタイマ入力として選択されます。これによって，ウエイクアップ信号検出とブレーク・フィールドのロウ幅とシンク・フィールドのパルス幅をタイマで測定できます。

ISCレジスタは1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，ISCレジスタは00Hになります。

図18－21　入力切り替え制御レジスタ（ISC）のフォーマット

アドレス：F0073H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ISC | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ISC1 | ISC0 |

| ISC1 | タイマ・アレイ・ユニットのチャネル7の入力切り替え |
|---|---|
| 0 | TI07端子の入力信号をタイマ入力とする（通常動作） |
| 1 | RxD0端子の入力信号をタイマ入力とする（ウエイクアップ信号検出とブレーク・フィールドのロウ幅とシンク・フィールドのパルス幅測定） |

| ISC0 | 外部割り込み（INTP0）の入力切り替え |
|---|---|
| 0 | INTP0端子の入力信号を外部割り込み入力とする（通常動作） |
| 1 | RxD0端子の入力信号を外部割り込み入力とする（ウエイクアップ信号検出） |

注意　ビット7-2に必ず0を設定してください。

### 18. 3. 16　ノイズ・フィルタ許可レジスタ0（NFEN0）

NFEN0レジスタは，シリアル・データ入力端子からの入力信号に対するノイズ・フィルタの使用可否をチャネルごとに設定するレジスタです。

簡易SPI (CSI)，簡易$I^2C$通信に使用する端子は，対応するビットに0を設定して，ノイズ・フィルタを無効にしてください。

UART通信に使用する端子は，対応するビットに1を設定して，ノイズ・フィルタを有効にしてください。

ノイズ・フィルタ有効時は，対象チャネルの動作クロック（$f_{MCK}$）で同期化のあと，2クロックの一致検出を行います。ノイズ・フィルタ無効時は，対象チャネルの動作クロック（$f_{MCK}$）で同期化だけ行います。

NFEN0レジスタは1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，NFEN0レジスタは00Hになります。

図18－22　ノイズ・フィルタ許可レジスタ0（NFEN0）のフォーマット

アドレス：F0070H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| NFEN0 | 0 | 0 | 0 | SNFEN20 | 0 | SNFEN10 | 0 | SNFEN00 |

| SNFEN20 | RxD2端子のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |
| RxD2端子として使用するときは，SNFEN20 = 1に設定してください。<br>RxD2以外の機能として使用するときは，SNFEN20 = 0に設定してください。 | |

| SNFEN10 | RxD1端子のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |
| RxD1端子として使用するときは，SNFEN10 = 1に設定してください。<br>RxD1以外の機能として使用するときは，SNFEN10 = 0に設定してください。 | |

| SNFEN00 | RxD0端子のノイズ・フィルタ使用可否 |
|---|---|
| 0 | ノイズ・フィルタOFF |
| 1 | ノイズ・フィルタON |
| RxD0端子として使用するときは，SNFEN00 = 1に設定してください。<br>RxD0以外の機能として使用するときは，SNFEN00 = 0に設定してください。 | |

注意　ビット7-5, 3, 1には，必ず0を設定してください。

### 18. 3. 17　シリアル入出力端子のポート機能を制御するレジスタ

シリアル・アレイ・ユニット使用時は，対象チャネルと兼用するポートに関するレジスタ（ポート・モード・レジスタ（PMxx），ポート・レジスタ（Pxx），ポート入力モード・レジスタ（PIMxx），ポート出力モード・レジスタ（POMxx）を設定してください。

詳細は，4. 3. 1　ポート・モード・レジスタ（PMxx），4. 3. 2　ポート・レジスタ（Pxx），4. 3. 4　ポート入力モード・レジスタ（PIMxx），4. 3. 5　ポート出力モード・レジスタ（POMxx）を参照してください。

シリアル・データ出力またはシリアル・クロック出力端子を兼用するポート（P07/SO00/TxD0/TI02/TO02/INTP2/TOOLTxD，P15/SEG9/(SCK00)/(SCL00)など）をシリアル・データ出力またはシリアル・クロック出力として使用するとき，各ポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットに0を設定してください。また，ポート・レジスタ（Pxx）のビットに1を設定してください。

なお，N-ch オープン・ドレイン出力（$V_{DD}$ 耐圧）モードで使用する場合は，各ポートに対応するポート出力モード・レジスタ（POMxx）のビットに1を設定してください。異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）で動作している外部デバイスと接続する場合は，4. 4. 4　異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）外部デバイスとの接続方法を参照してください。

例）P07/SO00/TI02/TO02/INTP2/TOOLTxDをシリアル・データ出力として使用する場合
　　ポート・モード・レジスタ0のPM07ビットを0に設定
　　ポート・レジスタ0のP07ビットを1に設定

シリアル・データ入力またはシリアル・クロック入力端子を兼用するポート（P05/SCK00/SCL00/TI04/TO04/INTP3，P06/SI00/RxD0/TI03/TO03/SDA00/TOOLRxDなど）をシリアル・データ入力またはシリアル・クロック入力として使用するとき，各ポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットに1を設定してください。このときポート・レジスタ（Pxx）のビットは，0または1のどちらでもかまいません。

なお，TTL入力バッファで使用する場合は，各ポートに対応するポート入力モード・レジスタ（PIMxx）のビットに1を設定してください。異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）で動作している外部デバイスと接続する場合は，4. 4. 4　異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）外部デバイスとの接続方法を参照してください。

例）P06/SI00/RxD0/TI03/TO03/SDA00/TOOLRxDをシリアル・データ入力として使用する場合
　　ポート・モード・レジスタ0のPM06ビットを1に設定
　　ポート・レジスタ0のP06ビットを0または1に設定

PM0, PM1, PM8レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。
リセット信号の発生により，PM0, PM1, PM8レジスタはFFHになります。
製品ごとのPMxxレジスタの有無は，表4－3を参照してください。

## 18. 4　動作停止モード

シリアル・アレイ・ユニットの各シリアル・インタフェースには，動作停止モードがあります。

動作停止モードでは，シリアル通信を行いません。したがって，消費電力を低減できます。

また動作停止モードでは，シリアル・インタフェース用端子をポート機能として使用できます。

### 18. 4. 1　ユニット単位で動作停止とする場合

ユニット単位で動作停止とする場合の設定は，周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）で行います。

PER0レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

シリアル・アレイ・ユニット0を停止するときは，ビット2（SAU0EN）に0を設定してください。シリアル・アレイ・ユニット1を停止するときは，ビット3（SAU1EN）に0を設定してください。

図18－23　ユニット単位で動作停止とする場合の周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）の設定

（a）周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）　・・・停止するSAUmのビットのみ0に設定する

| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |
| | × | × | × | × | 0/1 | 0/1 | | × |

SAUmの入力クロックの制御
0：入力クロック供給停止
1：入力クロック供給

注意1.　SAUmEN = 0の場合は，シリアル・アレイ・ユニットmの制御レジスタへの書き込みは無視され，読み出しても値はすべて初期値となります。
ただし，次のレジスタは除きます。
- ・入力切り替え制御レジスタ（ISC）
- ・ノイズ・フィルタ許可レジスタ0（NFEN0）
- ・ポート入力モード・レジスタ0, 1, 8（PIM0, PIM1, PIM8）
- ・ポート出力モード・レジスタ0, 1, 8（POM0, POM1, POM8）
- ・ポート・モード・レジスタ0, 1, 8（PM0, PM1, PM8）
- ・ポート・レジスタ0, 1, 8（P0, P1, P8）

2.　ビット1は必ず“0”にしてください。

備考　×：シリアル・アレイ・ユニットでは使用しないビット（他の周辺機能の設定による）
0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

### 18. 4. 2　チャネルごとに動作停止とする場合

チャネルごとに動作停止とする場合の設定は，次の各レジスタで行います。

図18－24　チャネルごとに動作停止とする場合の各レジスタの設定

(a) シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）

・・・各チャネルの通信／カウント停止の許可を設定するレジスタ

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| STm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | STm3注 0/1 | STm2注 0/1 | STm1 0/1 | STm0 0/1 |

1：SEmnビットを0にクリアし，通信動作を停止

※ STmnビットはトリガ・ビットなので，SEmn = 0になるとすぐSTmnビットはクリアされます。

(b) シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）

・・・各チャネルのシリアル送受信動作許可／停止状態が表示されるレジスタ

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SEm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SEm3注 0/1 | SEm2注 0/1 | SEm1 0/1 | SEm0 0/1 |

0：動作停止状態

※SEmレジスタはRead Onlyのステータス・レジスタであり，STmレジスタにて動作停止にします。
動作を停止したチャネルは，SOmレジスタのCKOmnビットの値をソフトウエアで設定できます。

(c) シリアル出力許可レジスタm（SOEm）

・・・各チャネルのシリアル通信動作の出力許可／停止を設定するレジスタ

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SOEm2注 0/1 | 0 | SOEm0 0/1 |

0：シリアル通信動作による出力停止

※ シリアル出力を停止したチャネルは，SOmレジスタのSOmnビットの値をソフトウエアで設定できます。

(d) シリアル出力レジスタm（SOm）

・・・各チャネルのシリアル出力のバッファ・レジスタ

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | CKOm0注 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | SOm2注 0/1 | 1 | SOm0 0/1 |

1：シリアル・クロック出力値が“1”　　1：シリアル・データ出力値が“1”

※ 各チャネルに対応した端子をポート機能として使用する場合は，該当するCKOmn, SOmnビットに“1”を設定してください。

注　シリアル・アレイ・ユニット0のみ。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）

2.　□：設定不可（初期値を設定）　0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

## 18. 5　簡易SPI（CSI00）通信の動作

シリアル・クロック（SCK）とシリアル・データ（SI, SO）の3本のラインによる，クロック同期式通信機能です。

［データ送受信］

・7, 8ビットのデータ長

・送受信データの位相制御

・MSB/LSBファーストの選択

［クロック制御］

・マスタ／スレーブの選択

・入出力クロックの位相制御

・プリスケーラとチャネル内カウンタによる転送周期の設定

・最大転送レート注　マスタ通信時：Max. $f_{MCK}/2$

スレーブ通信時：Max. $f_{MCK}/6$

［割り込み機能］

・転送完了割り込み／バッファ空き割り込み

［エラー検出フラグ］

・オーバラン・エラー

また，CSI00は，SNOOZEモードに対応しています。SNOOZEモードとは，STOPモード状態でSCK入力を検出すると，CPU動作を必要とせずにデータ受信を行う機能です。CSI00は，非同期受信動作に対応しています。

注　SCKサイクル・タイム（$t_{KCY}$）の特性を満たす範囲内で使用してください。詳細は，第37章　電気的特性を参照してください。

簡易SPI（CSI00）に対応しているチャネルは，SAU0のチャネル0です。

| ユニット | チャネル | 簡易SPI (CSI)として使用 | UARTとして使用 | 簡易I²Cとして使用 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | CSI00 | UART0（LIN-bus対応） | IIC00 |
| | 1 | － | | － |
| | 2 | － | UART1 | IIC10 |
| | 3 | － | | － |
| 1 | 0 | － | UART2 | － |
| | 1 | － | | － |

簡易SPI（CSI00）の通信動作は，以下の7種類があります。

- マスタ送信　（18. 5. 1項を参照）
- マスタ受信　（18. 5. 2項を参照）
- マスタ送受信　（18. 5. 3項を参照）
- スレーブ送信　（18. 5. 4項を参照）
- スレーブ受信　（18. 5. 5項を参照）
- スレーブ送受信　（18. 5. 6項を参照）
- SNOOZEモード機能　（18. 5. 7項を参照）

### 18. 5. 1　マスタ送信

マスタ送信とは，このRL78マイクロコントローラが転送クロックを出力し，RL78マイクロコントローラから他デバイスへデータを送信する動作です。

| 簡易SPI | CSI00 |
|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 |
| 使用端子 | SCK00, SO00 |
| 割り込み | INTCSI00 |
| | 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か，バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能 |
| エラー検出フラグ | なし |
| 転送データ長 | 7ビットまたは8ビット |
| 転送レート注 | Max. $f_{CLK}/2$ [Hz]<br>Min. $f_{CLK}/(2\times2^{15}\times128)$ [Hz]　　$f_{CLK}$：システム・クロック周波数 |
| データ位相 | SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能<br>・DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ出力を開始<br>・DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ出力を開始 |
| クロック位相 | SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能<br>・CKPmn = 0の場合：非反転（SCKの立ち下がりでデータ出力，立ち上がりでデータ入力）<br>・CKPmn = 1の場合：反転（SCKの立ち上がりでデータ出力，立ち下がりでデータ入力） |
| データ方向 | MSBファーストまたはLSBファースト |

注　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　mn = 00

（1）レジスタ設定

図18－25　簡易SPI（CSI00）のマスタ送信時のレジスタ設定内容例

（a）シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn | CCSmn | | | | | | STSmn | | SISmn0 | | | | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 |

チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）
0：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm0”
1：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm1”

チャネルnの割り込み要因
0：転送完了割り込み
1：バッファ空き割り込み

（b）シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | | SLCmn1 | SLCmn0 | | | DLSmn1 | DLSmn0 |
| | 1 | 0 | 0/1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0/1 |

データとクロックの位相選択
（設定内容詳細は「18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ」参照）

データ転送順序の選択
0：MSBファーストで入出力を行う
1：LSBファーストで入出力を行う

データ長の設定
0：7ビット・データ長
1：8ビット・データ長

（c）シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（下位8ビット：SIOp）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SDRmn | ボー・レート設定（動作クロック（$f_{MCK}$）の分周設定） | | | | | | | 0 | 送信データ（送信データを設定） | | | | | | | |

SIOp

（d）シリアル出力レジスタm（SOm）・・・対象チャネルのビットのみ設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | | | | | | | | CKOm0 | | | | | | SOm2 | | SOm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | × | 1 | 0/1 |

クロック位相が“非反転”（SCRmnレジスタのCKPmnビット ＝0）のときは“1”で通信開始し，クロック位相が“反転”（CKPmnビット ＝1）のときは“0”で通信開始する。

（e）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | | | | | | | | | | | | | | SOEm2 | | SOEm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 0 | 0/1 |

（f）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | | | | | | | | | | | | | SSm3 | SSm2 | SSm1 | SSm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | × | × | 0/1 |

備考1.　m：ユニット番号（m＝0）　n：チャネル番号（n＝0）　p：CSI番号（p＝00）　mn＝00

2.　□：簡易SPI (CSI)マスタ送信モードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）操作手順

図18－26　マスタ送信の初期設定手順

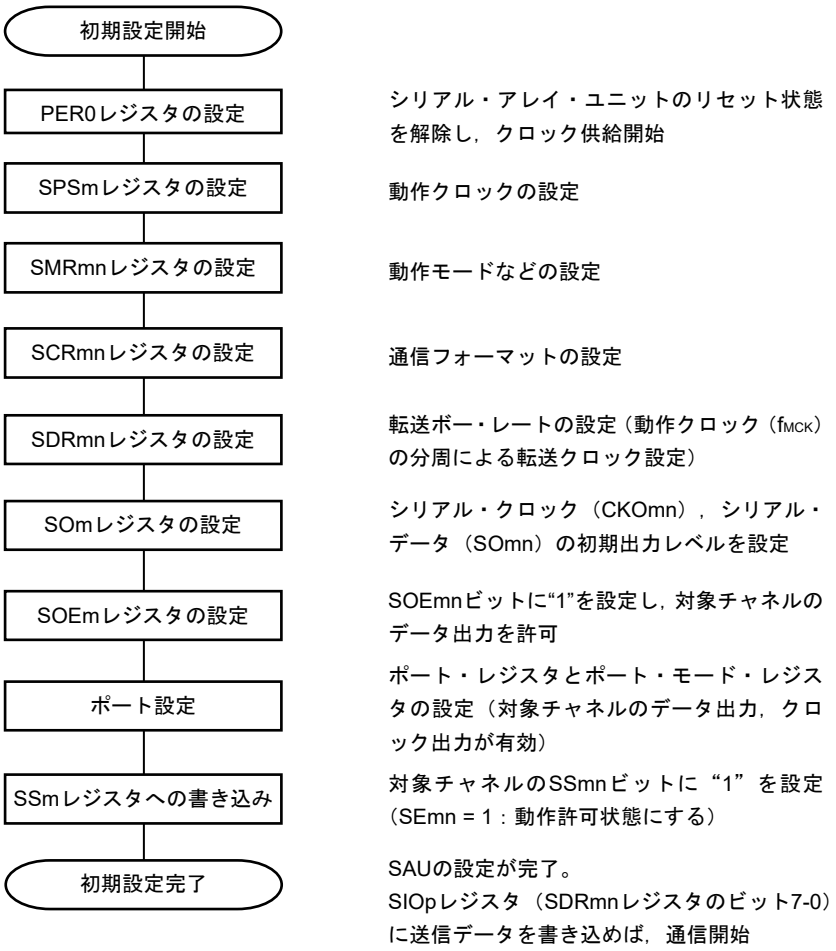



図18－27　マスタ送信の中断手順

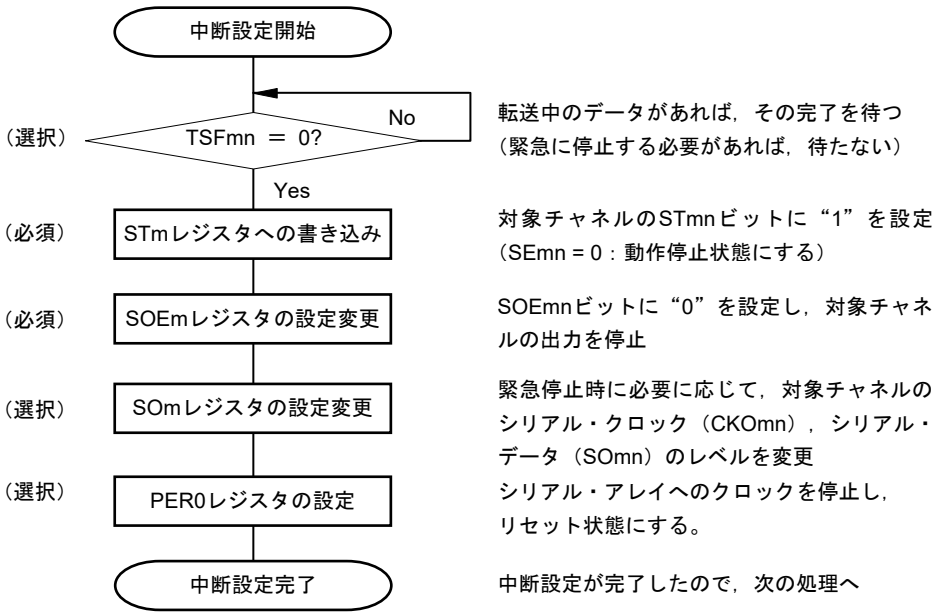
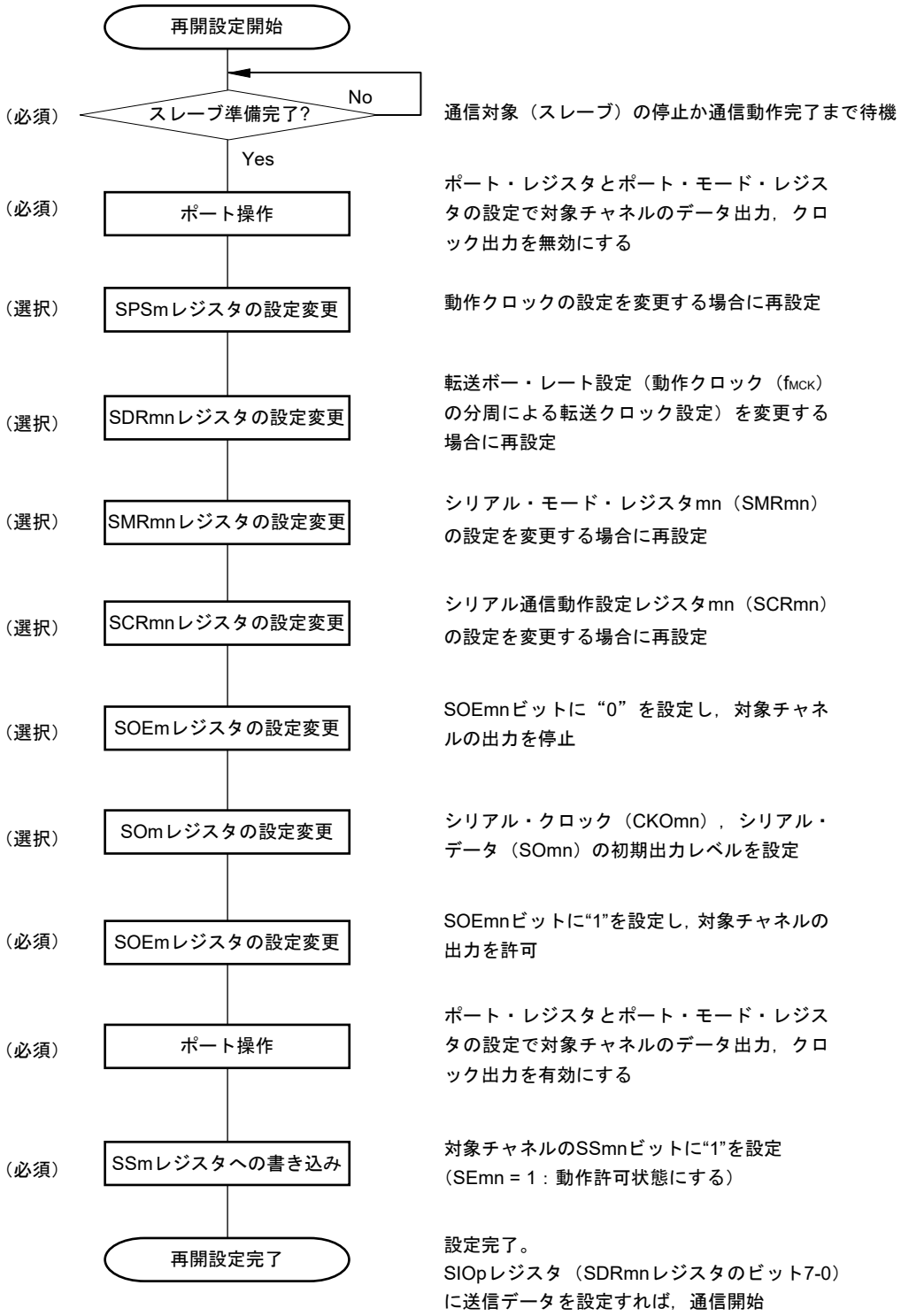


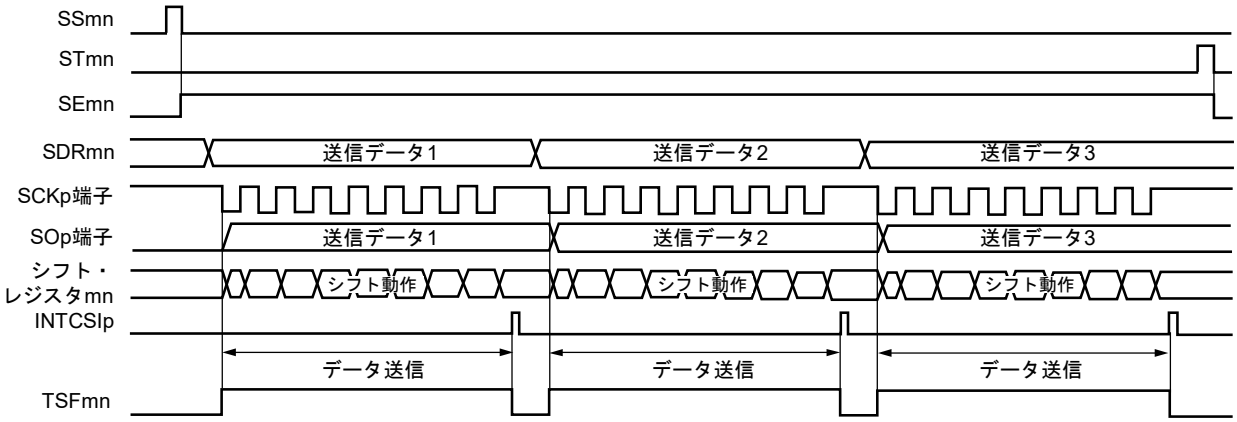
図18－28　マスタ送信の再開設定手順




**備考**　中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合は，通信対象（スレーブ）の停止か通信動作完了を待って，再開設定ではなく初期設定をしてください。

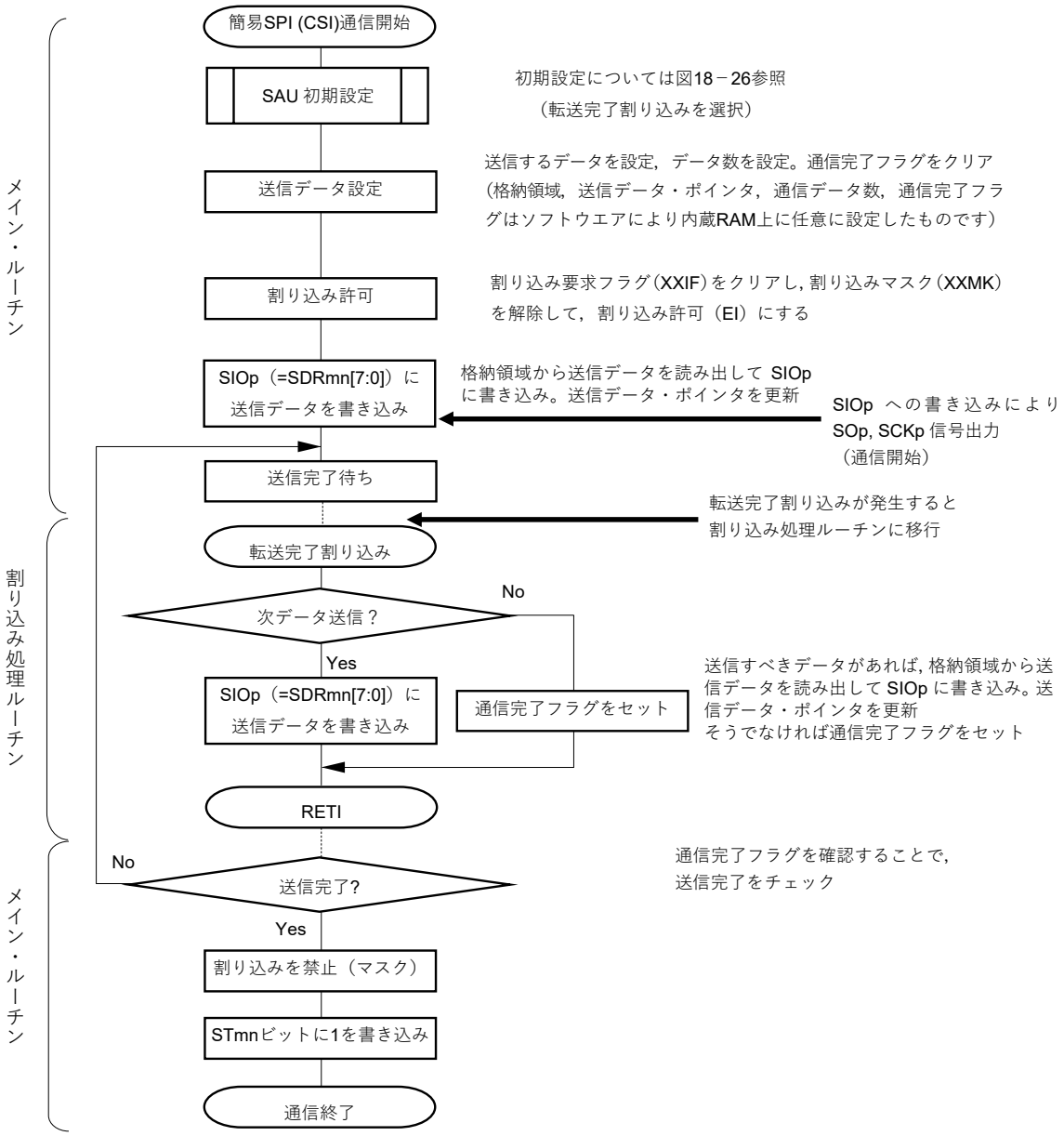
（3）処理フロー（シングル送信モード時）

図18－29　マスタ送信（シングル送信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）



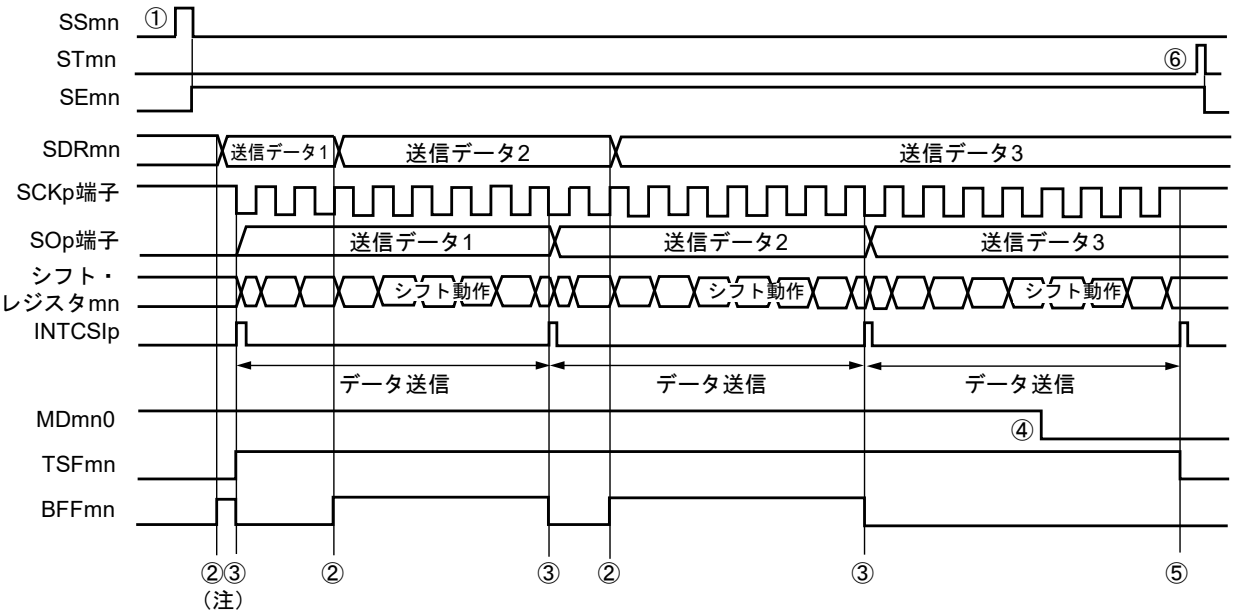

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－30　マスタ送信（シングル送信モード時）のフロー・チャート



（4）処理フロー（連続送信モード時）

図18－31　マスタ送信（連続送信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）

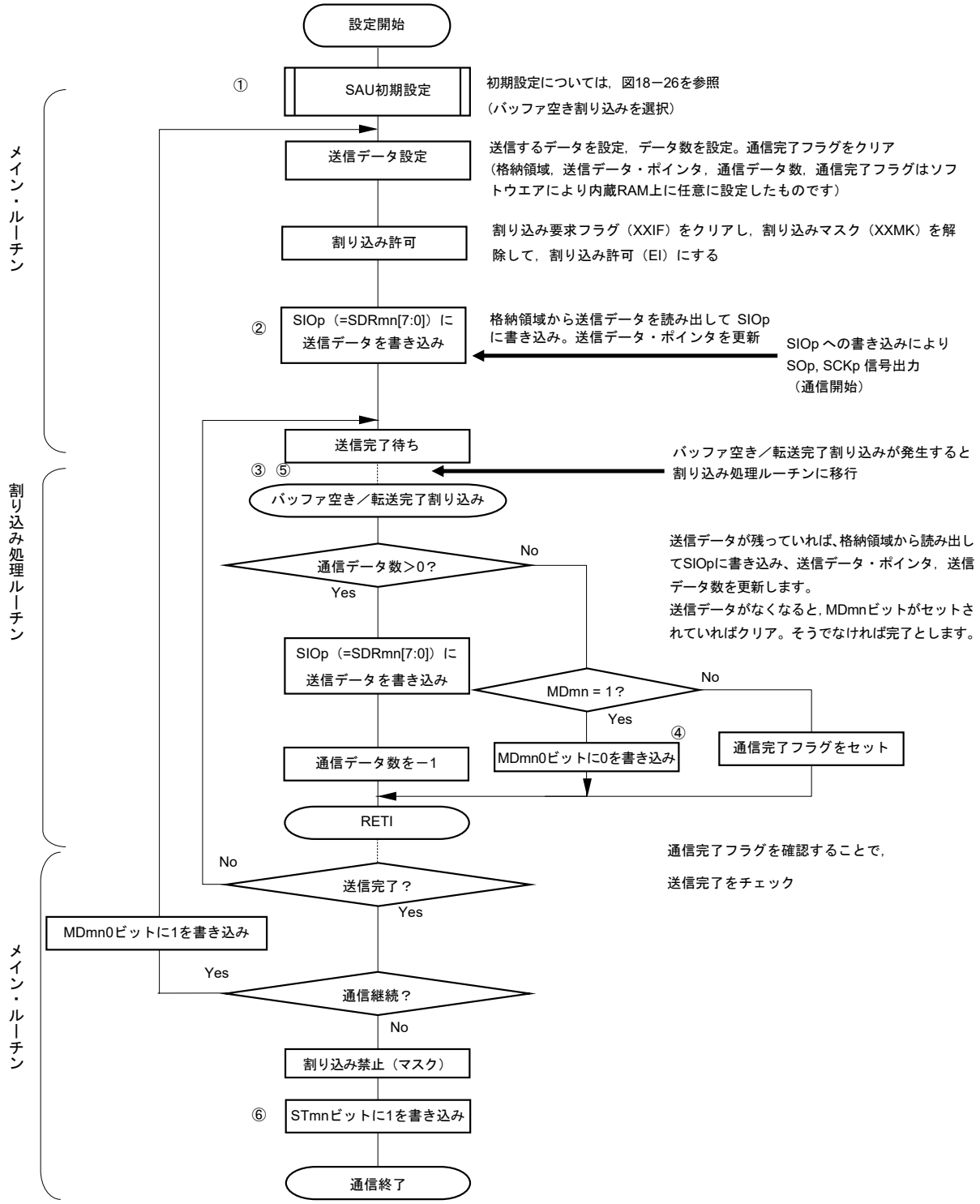



注　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）に格納されているとき）にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと，送信データが上書きされます。

注意　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のMDmn0ビットは，動作中でも書き換えることができます。ただし，最後の送信データの転送完了割り込みに間に合わせるために，最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－32　マスタ送信（連続送信モード時）のフロー・チャート




備考　図中の①~⑥は，図18－31　マスタ送信（連続送信モード時）のタイミング・チャートの①~⑥に対応しています。

### 18. 5. 2　マスタ受信

マスタ受信とは，このRL78マイクロコントローラが転送クロックを出力し，RL78マイクロコントローラが他デバイスからデータを受信する動作です。

| 簡易SPI | CSI00 |
|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 |
| 使用端子 | SCK00, SI00 |
| 割り込み | INTCSI00 |
| | 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か，バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能 |
| エラー検出フラグ | オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ |
| 転送データ長 | 7ビットまたは8ビット |
| 転送レート注 | Max. $f_{CLK}/2$ [Hz]<br>Min. $f_{CLK}/(2\times2^{15}\times128)$ [Hz]　　$f_{CLK}$：システム・クロック周波数 |
| データ位相 | SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能<br>・DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ入力を開始<br>・DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ入力を開始 |
| クロック位相 | SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能<br>・CKPmn = 0の場合：非反転<br>・CKPmn = 1の場合：反転 |
| データ方向 | MSBファーストまたはLSBファースト |

注　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　mn = 00

（1）レジスタ設定

図18－33　簡易SPI（CSI00）のマスタ受信時のレジスタ設定内容例

（a）シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn | CCSmn | | | | | | STSmn | | SISmn0 | | | | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 |

チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）
0：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm0”
1：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm1”

チャネルnの割り込み要因
0：転送完了割り込み
1：バッファ空き割り込み

（b）シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | | SLCmn1 | SLCmn0 | | | DLSmn1 | DLSmn0 |
| | 0 | 1 | 0/1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0/1 |

データとクロックの位相選択
（設定内容詳細は「18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ」参照）

データ転送順序の選択
0：MSBファーストで入出力を行う
1：LSBファーストで入出力を行う

データ長の設定
0：7ビット・データ長
1：8ビット・データ長

（c）シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（下位8ビット：SIOp）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SDRmn | ボー・レート設定（動作クロック（$f_{MCK}$）の分周設定） | | | | | | | 0 | 受信データ（ダミー・データとしてFFHを書き込む） | | | | | | | |
| | | | | | | | | | SIOp | | | | | | | |

（d）シリアル出力レジスタm（SOm）・・・対象チャネルのビットのみ設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | | | | | | | | CKOm0 | | | | | | SOm2 | | SOm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | × | 1 | × |

クロック位相が“非反転”（SCRmnレジスタのCKPmnビット = 0）のときは“1”で通信開始し，クロック位相が“反転”（CKPmnビット = 1）のときは“0”で通信開始する。

（e）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）・・・このモードでは使用しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | | | | | | | | | | | | | | SOEm2 | | SOEm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 0 | × |

（f）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | | | | | | | | | | | | | SSm3 | SSm2 | SSm1 | SSm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | × | × | 0/1 |

備考1.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

2.　□：簡易SPI (CSI)マスタ受信モードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）操作手順

図18－34　マスタ受信の初期設定手順

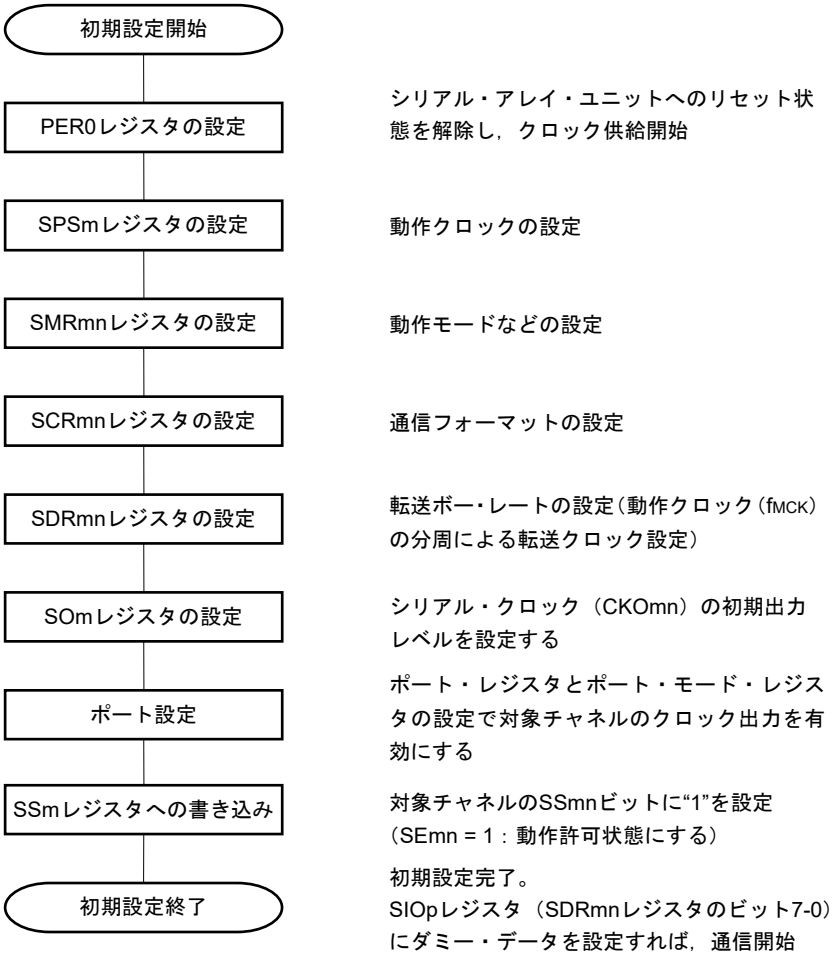



図18－35　マスタ受信の中断手順

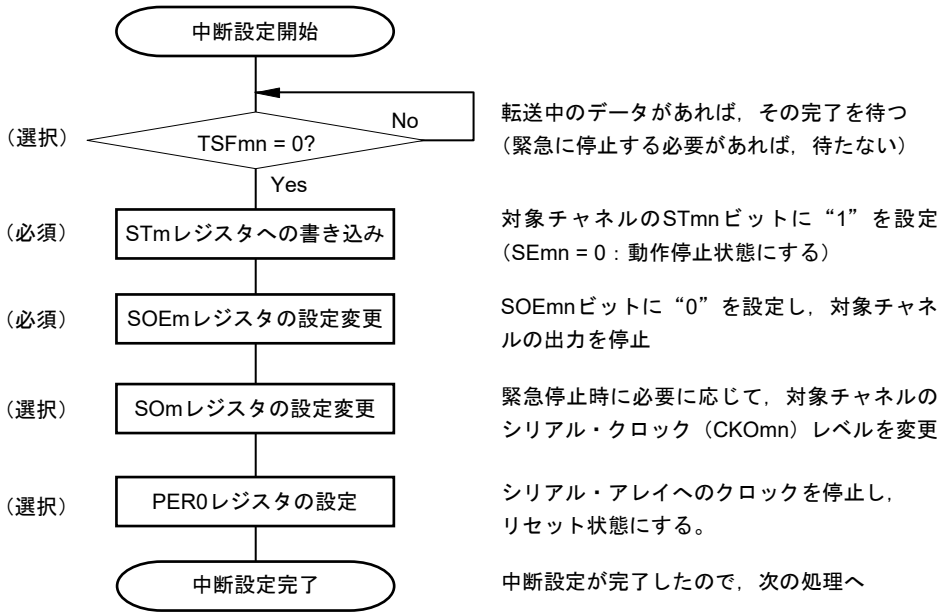
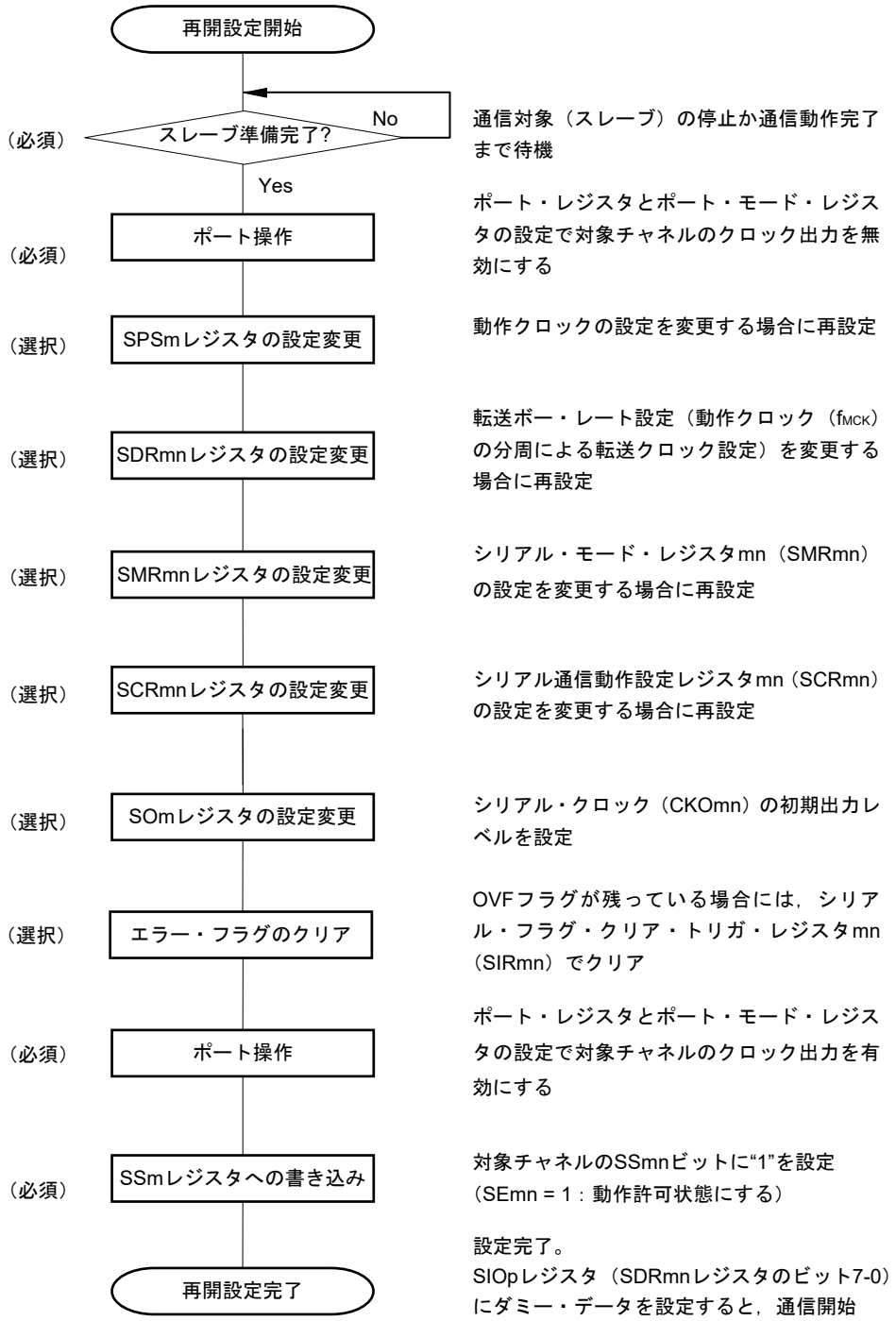


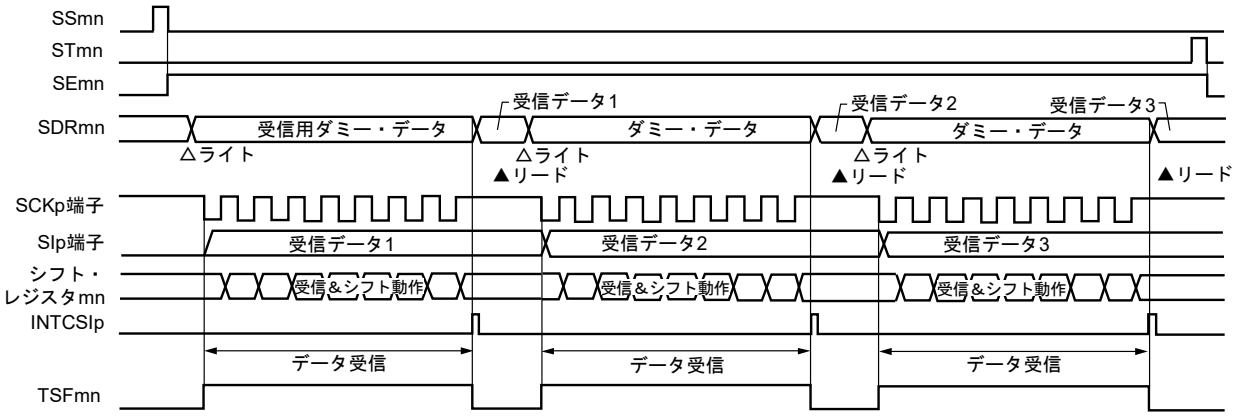
図18－36　マスタ受信の再開設定手順




**備考**　中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合は，通信対象（スレーブ）の停止か通信動作完了を待って，再開設定ではなく初期設定をしてください。

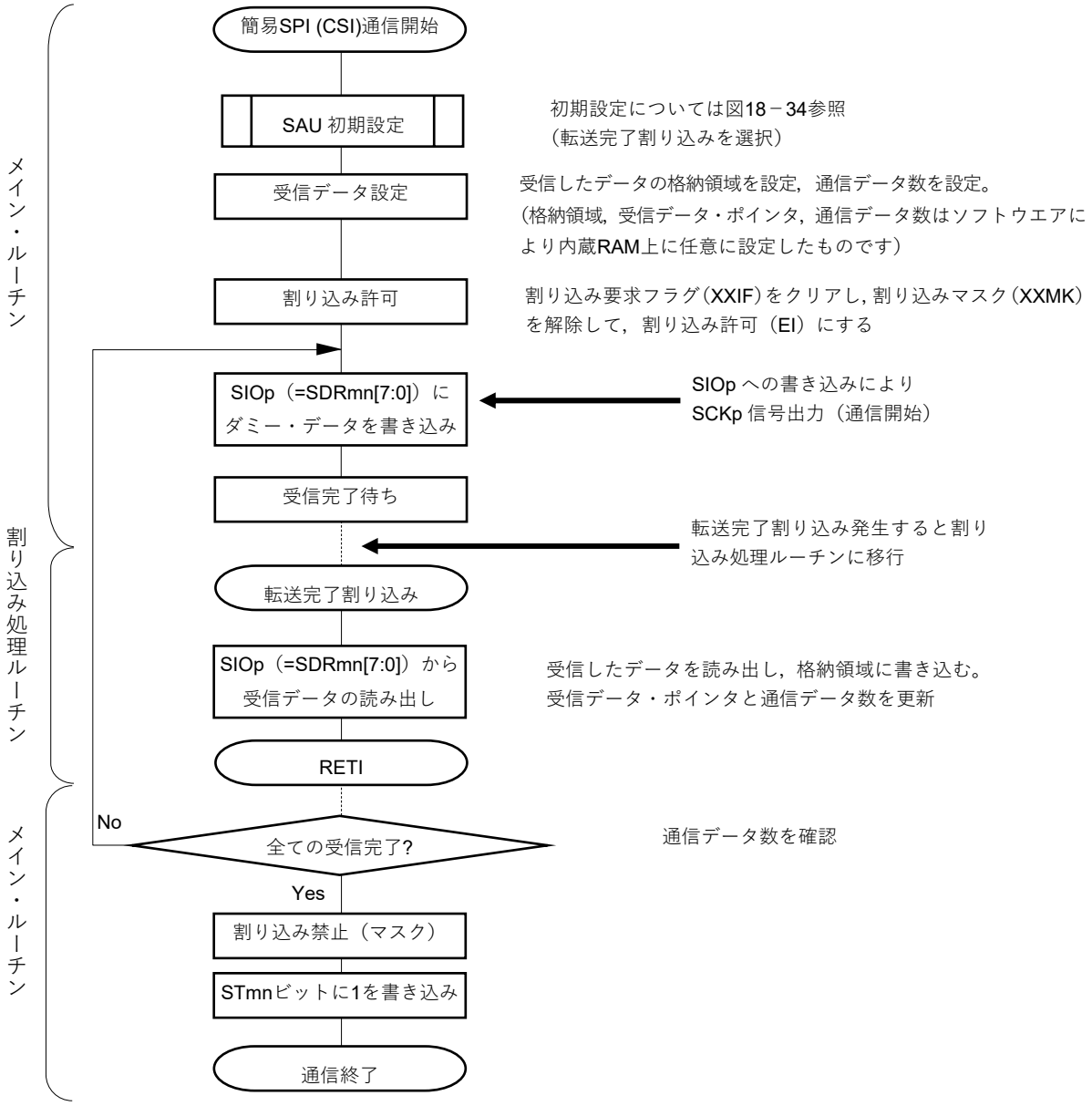
（3）処理フロー（シングル受信モード時）

図18－37　マスタ受信（シングル受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）



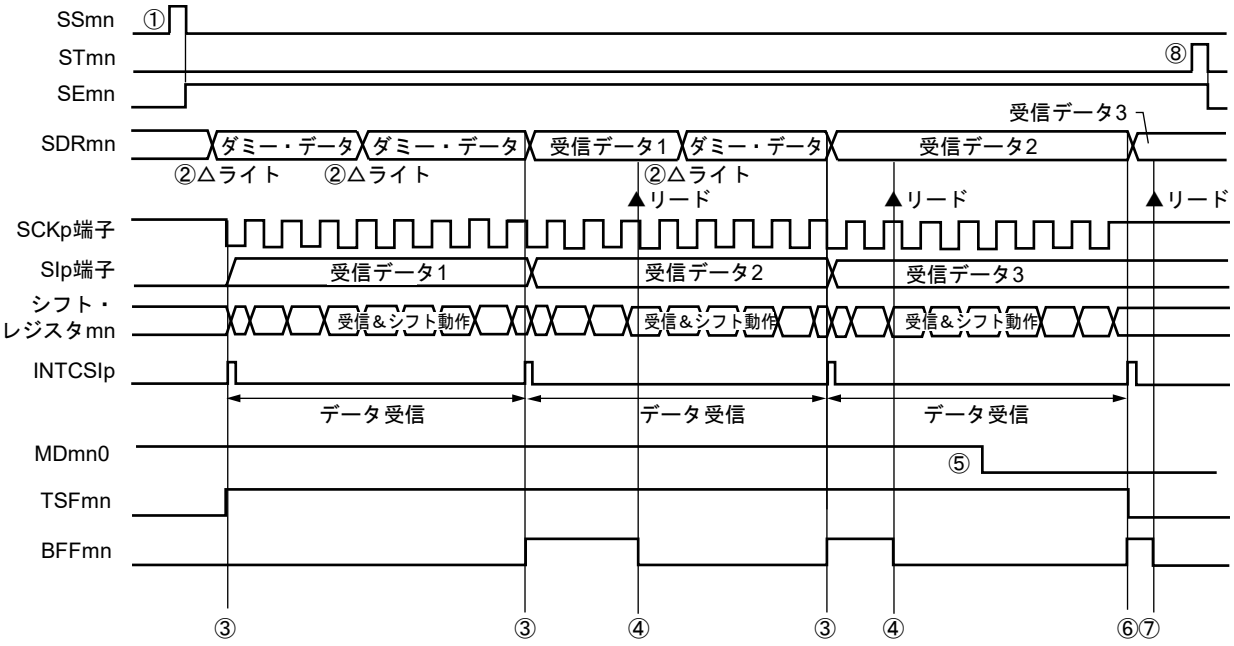

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－38　マスタ受信（シングル受信モード時）のフロー・チャート



（4）処理フロー（連続受信モード時）

図18－39　マスタ受信（連続受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）

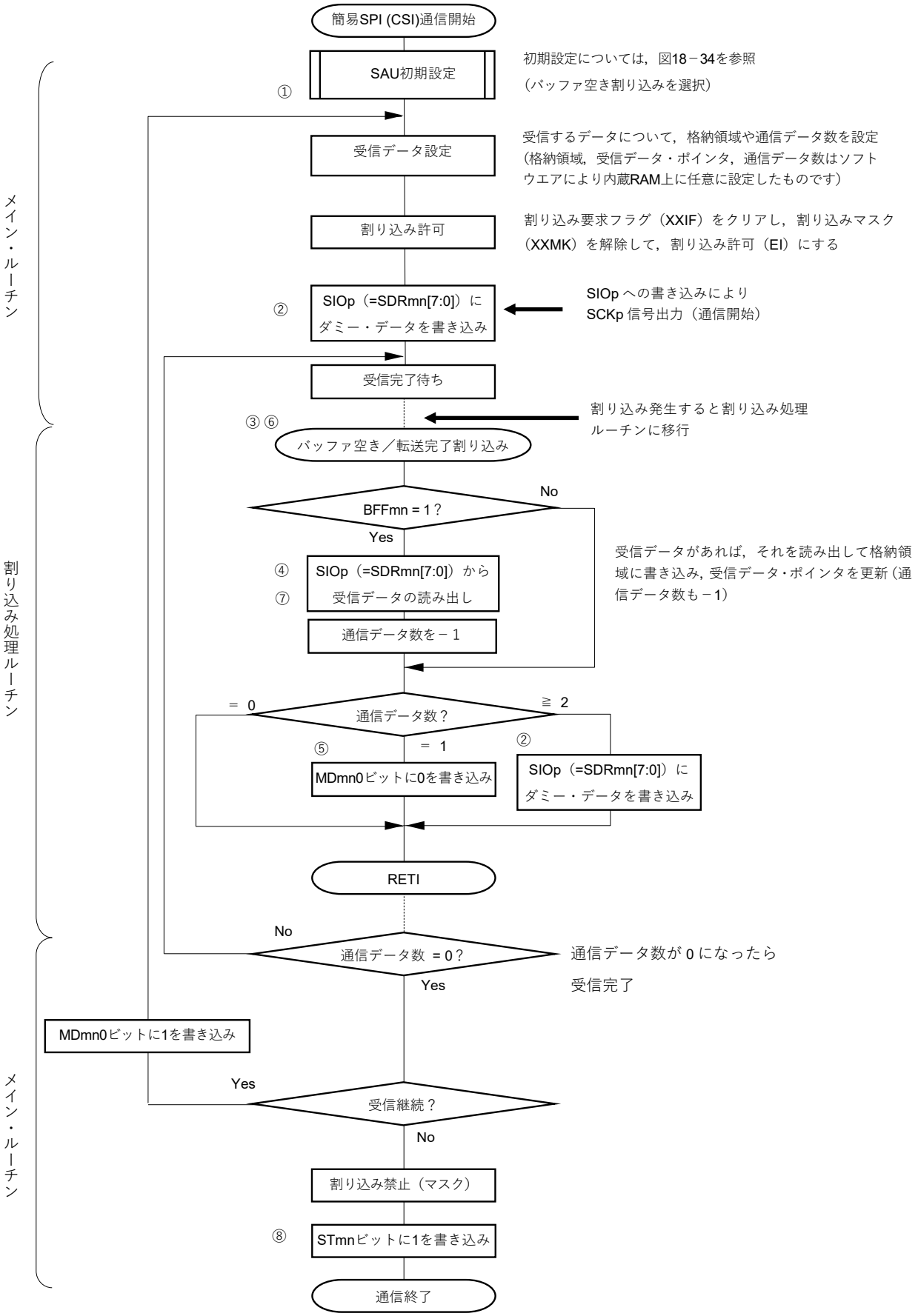



注意　MDmn0ビットは，動作中でも書き換えることができます。
ただし，最後の受信データの転送完了割り込みに間に合わせるために，最終ビットの受信開始前までに書き換えてください。

備考1.　図中の①~⑧は，図18－40　マスタ受信（連続受信モード時）のフロー・チャートの①~⑧に対応しています。

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－40　マスタ受信（連続受信モード時）のフロー・チャート




備考　図中の①~⑧は，図18－39　マスタ受信（連続受信モード時）のタイミング・チャートの①~⑧に対応しています。

### 18. 5. 3　マスタ送受信

マスタ送受信とは，このRL78マイクロコントローラが転送クロックを出力し，RL78マイクロコントローラと他デバイスでデータを送受信する動作です。

| 簡易SPI | CSI00 |
|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 |
| 使用端子 | SCK00, SI00, SO00 |
| 割り込み | INTCSI00 |
| | 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か，バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能 |
| エラー検出フラグ | オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ |
| 転送データ長 | 7ビットまたは8ビット |
| 転送レート注 | Max. $f_{CLK}/2$ [Hz]<br>Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [Hz]　　$f_{CLK}$：システム・クロック周波数 |
| データ位相 | SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能<br>・DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ入出力を開始<br>・DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ入出力を開始 |
| クロック位相 | SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能<br>・CKPmn = 0の場合：非反転<br>・CKPmn = 1の場合：反転 |
| データ方向 | MSBファーストまたはLSBファースト |

注　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　mn = 00

（1）レジスタ設定

図18－41　簡易SPI（CSI00）のマスタ送受信時のレジスタ設定内容例

（a）シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn | CCSmn | | | | | | STSmn | | SISmn0 | | | | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 |

チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）
0：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm0”
1：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm1”

チャネルnの割り込み要因
0：転送完了割り込み
1：バッファ空き割り込み

（b）シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | | SLCmn1 | SLCmn0 | | | DLSmn1 | DLSmn0 |
| | 1 | 1 | 0/1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0/1 |

データとクロックの位相選択
（設定内容詳細は「18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ」参照）

データ転送順序の選択
0：MSBファーストで入出力を行う
1：LSBファーストで入出力を行う

データ長の設定
0：7ビット・データ長
1：8ビット・データ長

（c）シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（下位8ビット：SIOp）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SDRmn | ボー・レート設定（動作クロック（$f_{MCK}$）の分周設定） | | | | | | | 0 | 送信データ設定／受信データ・レジスタ | | | | | | | |

SIOp

（d）シリアル出力レジスタm（SOm）・・・対象チャネルのビットのみ設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | | | | | | | | CKOm0 | | | | | | SOm2 | | SOm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | × | 1 | 0/1 |

クロック位相が“非反転”（SCRmnレジスタのCKPmnビット = 0）のときは“1”で通信開始し，クロック位相が“反転”（CKPmnビット = 1）のときは“0”で通信開始する。

（e）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | | | | | | | | | | | | | | SOEm2 | | SOEm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 0 | 0/1 |

（f）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | | | | | | | | | | | | | SSm3 | SSm2 | SSm1 | SSm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | × | × | 0/1 |

備考1.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

2.　□：簡易SPI (CSI)マスタ送受信モードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）操作手順

図18－42　マスタ送受信の初期設定手順

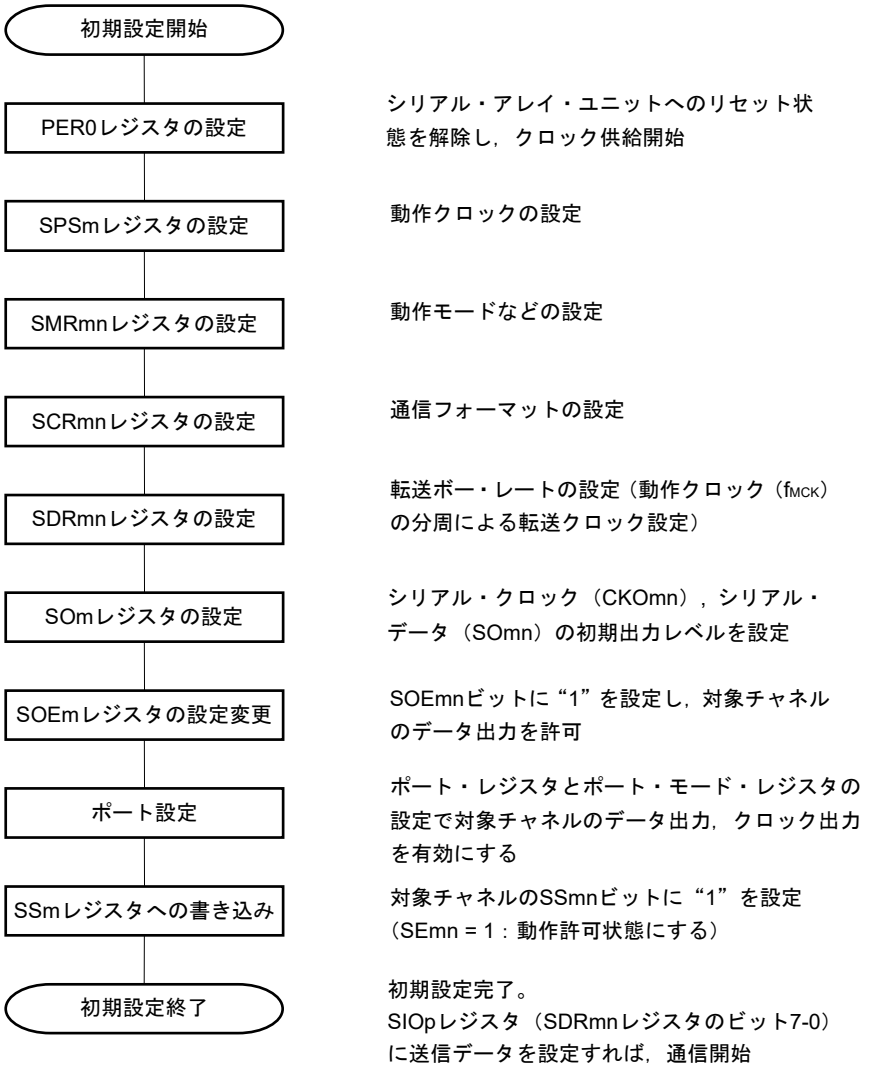



図18－43　マスタ送受信の中断手順

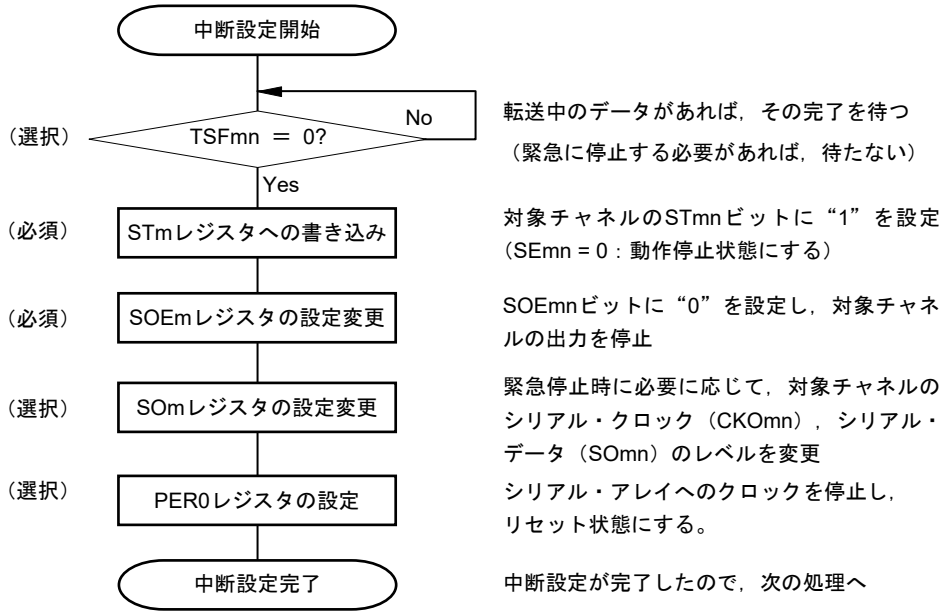
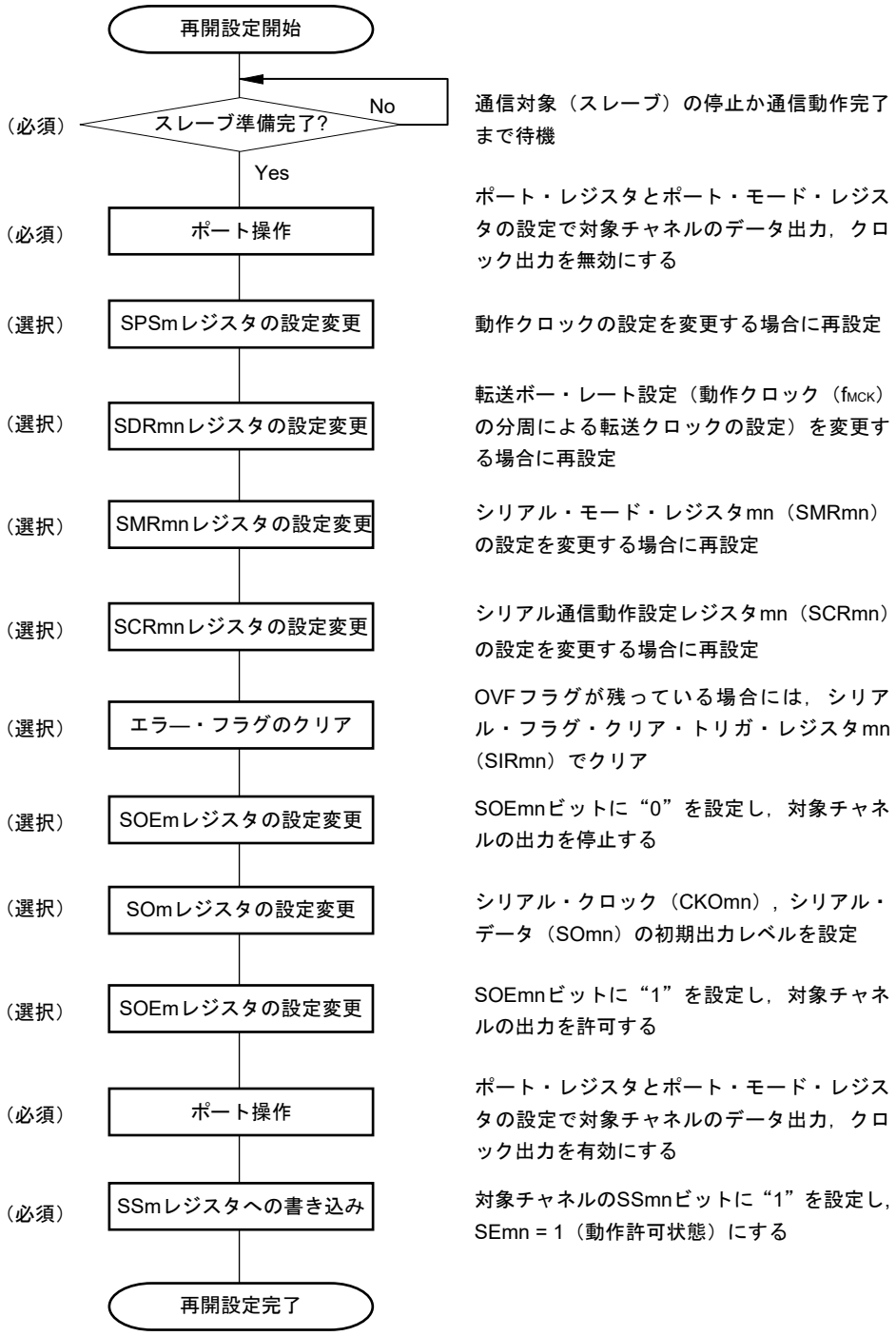
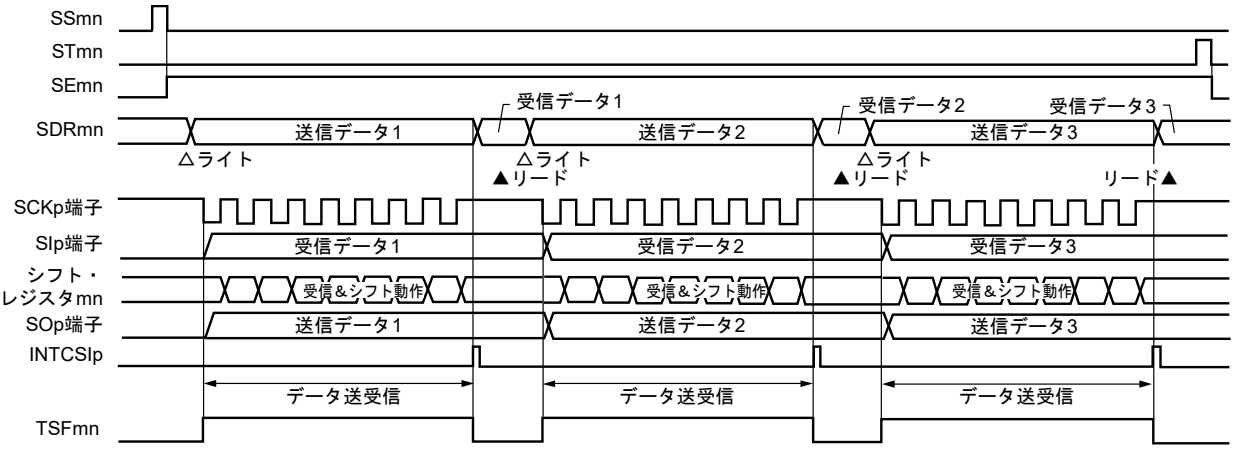


図18－44　マスタ送受信の再開設定手順



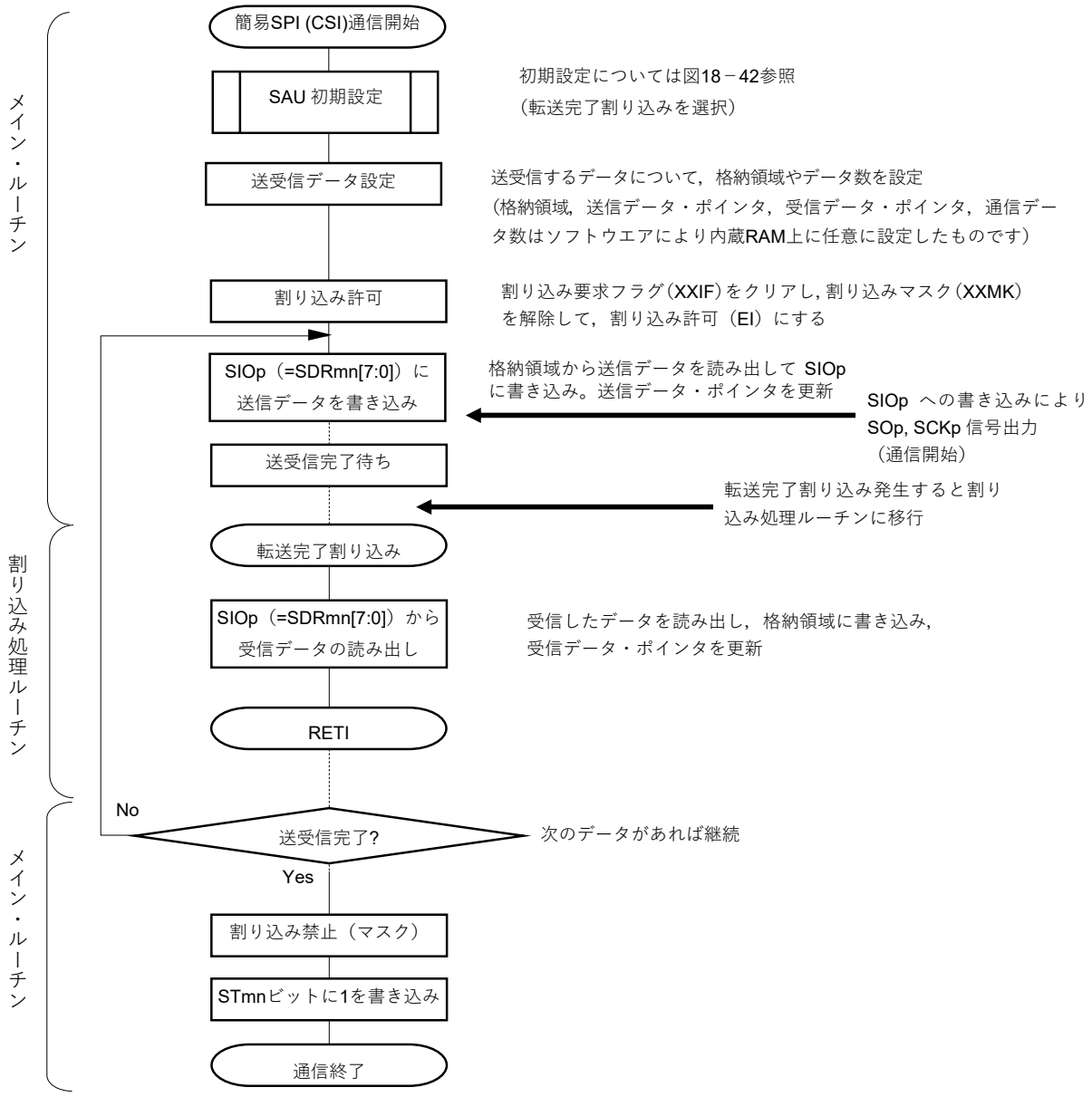
（3）処理フロー（シングル送受信モード時）

図18－45　マスタ送受信（シングル送受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）



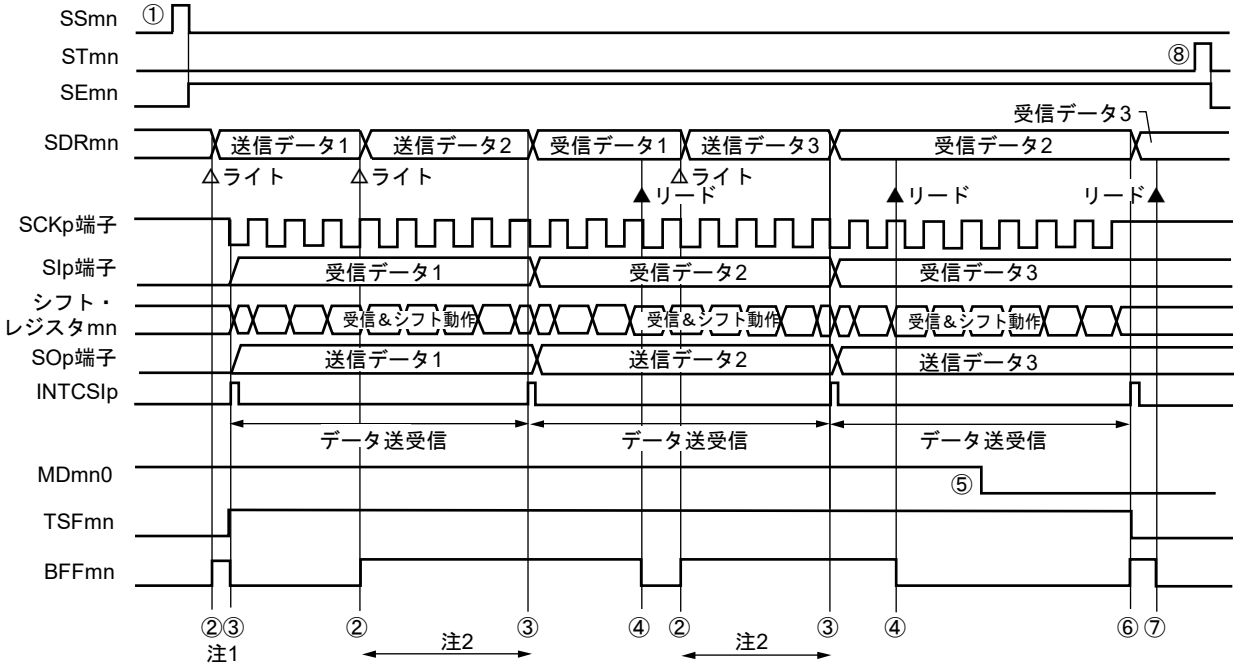

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－46　マスタ送受信（シングル送受信モード時）のフロー・チャート



（4）処理フロー（連続送受信モード時）

図18－47　マスタ送受信（連続送受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）




注 1.　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）に格納されている時）にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと，送信データが上書きされます。

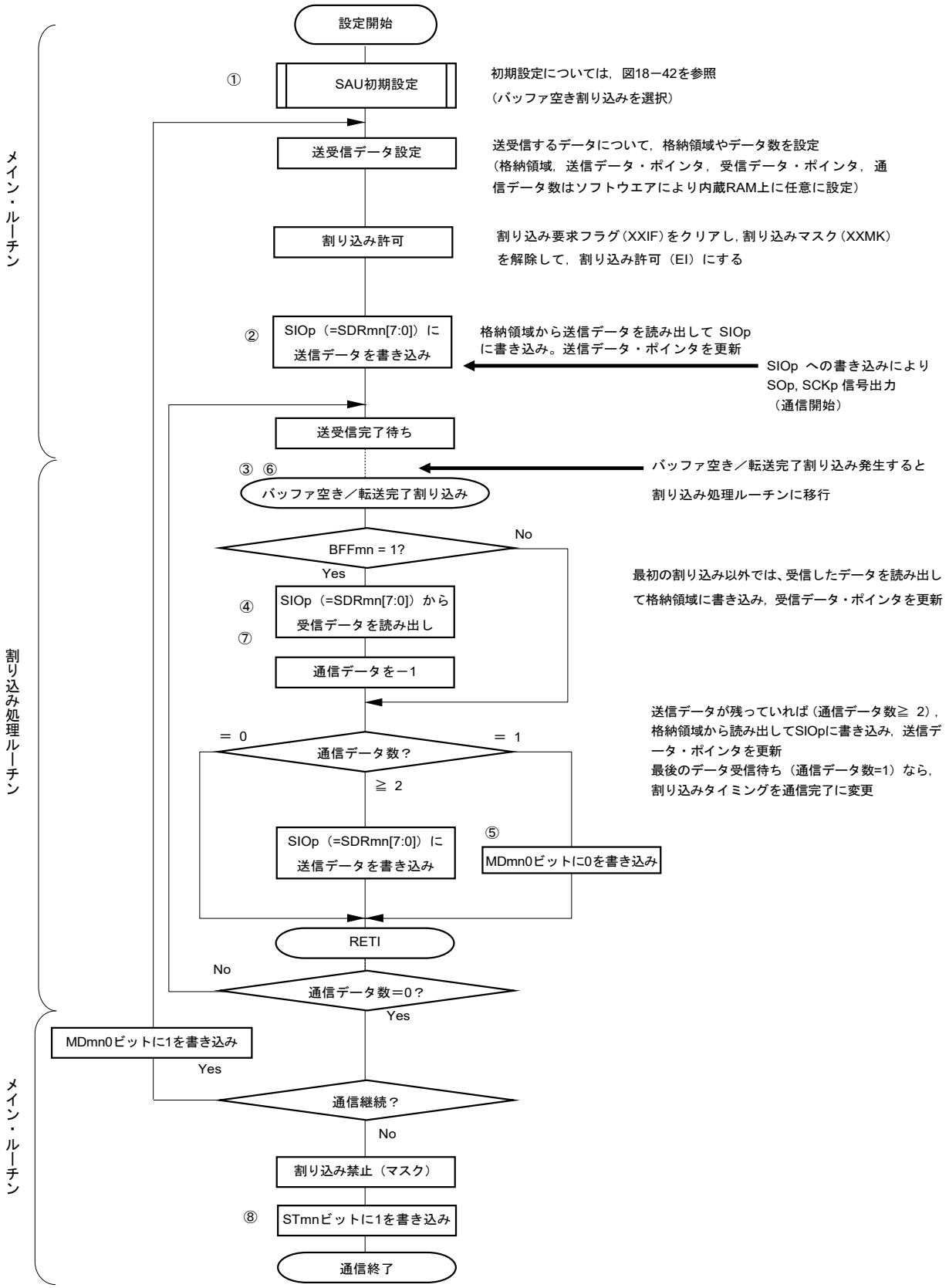
2.　この期間にSDRmnレジスタをリードすると，送信データを読み出すことができます。その際，転送動作には影響はありません。

注意　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のMDmn0ビットは，動作中でも書き換えることができます。ただし，最後の送信データの転送完了割り込みに間に合わせるために，最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考1.　図中の①~⑧は，図18－48　マスタ送受信（連続送受信モード時）のフロー・チャートの①~⑧に対応しています。

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－48　マスタ送受信（連続送受信モード時）のフロー・チャート




備考　図中の①~⑧は，図18－47　マスタ送受信（連続送受信モード時）のタイミング・チャートの①~⑧に対応しています。

### 18. 5. 4　スレーブ送信

スレーブ送信とは，他デバイスから転送クロックを入力される状態で，RL78マイクロコントローラから他デバイスへデータを送信する動作です。

| 簡易SPI | CSI00 |
|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 |
| 使用端子 | SCK00, SO00 |
| 割り込み | INTCSI00 |
| | 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か，バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能 |
| エラー検出フラグ | オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ |
| 転送データ長 | 7ビットまたは8ビット |
| 転送レート | Max. $f_{MCK}$/6[Hz]注1, 2 |
| データ位相 | SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能<br>・DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ出力を開始<br>・DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ出力を開始 |
| クロック位相 | SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能<br>・CKPmn = 0の場合：非反転<br>・CKPmn = 1の場合：反転 |
| データ方向 | MSBファーストまたはLSBファースト |

注1.　SCK00端子に入力された外部シリアル・クロックは，内部でサンプリングして使用されるため，最大転送レートは$f_{MCK}$/6 [Hz]となります。

2.　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考1.　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　mn = 00

（1）レジスタ設定

図18－49　簡易SPI（CSI00）のスレーブ送信時のレジスタ設定内容例

（a）シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn | CCSmn | | | | | | STSmn | | SISmn0 | | | | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 0/1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 |

チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）
0：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm0”
1：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm1”

チャネルnの割り込み要因
0：転送完了割り込み
1：バッファ空き割り込み

（b）シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | | SLCmn1 | SLCmn0 | | | DLSmn1 | DLSmn0 |
| | 1 | 0 | 0/1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1注 | 0/1 |

データとクロックの位相選択
（設定内容詳細は「18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ」参照）

データ転送順序の選択
0：MSBファーストで入出力を行う
1：LSBファーストで入出力を行う

データ長の設定
0：7ビット・データ長
1：8ビット・データ長

（c）シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（下位8ビット：SIOp）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SDRmn | 0000000<br>ボー・レート設定 | | | | | | | 0 | 送信データ設定 | | | | | | | |

SIOp

（d）シリアル出力レジスタm（SOm）・・・対象チャネルのビットのみ設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | | | | | | | | CKOm0 | | | | | | SOm2 | | SOm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | × | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | × | 1 | 0/1 |

（e）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | | | | | | | | | | | | | | SOEm2 | | SOEm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 0 | 0/1 |

（f）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | | | | | | | | | | | | | SSm3 | SSm2 | SSm1 | SSm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | × | × | 0/1 |

注　SCR00レジスタのみ。その他は1固定になります。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

2.　□：簡易SPI (CSI)スレーブ送信モードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）操作手順

図18－50　スレーブ送信の初期設定手順

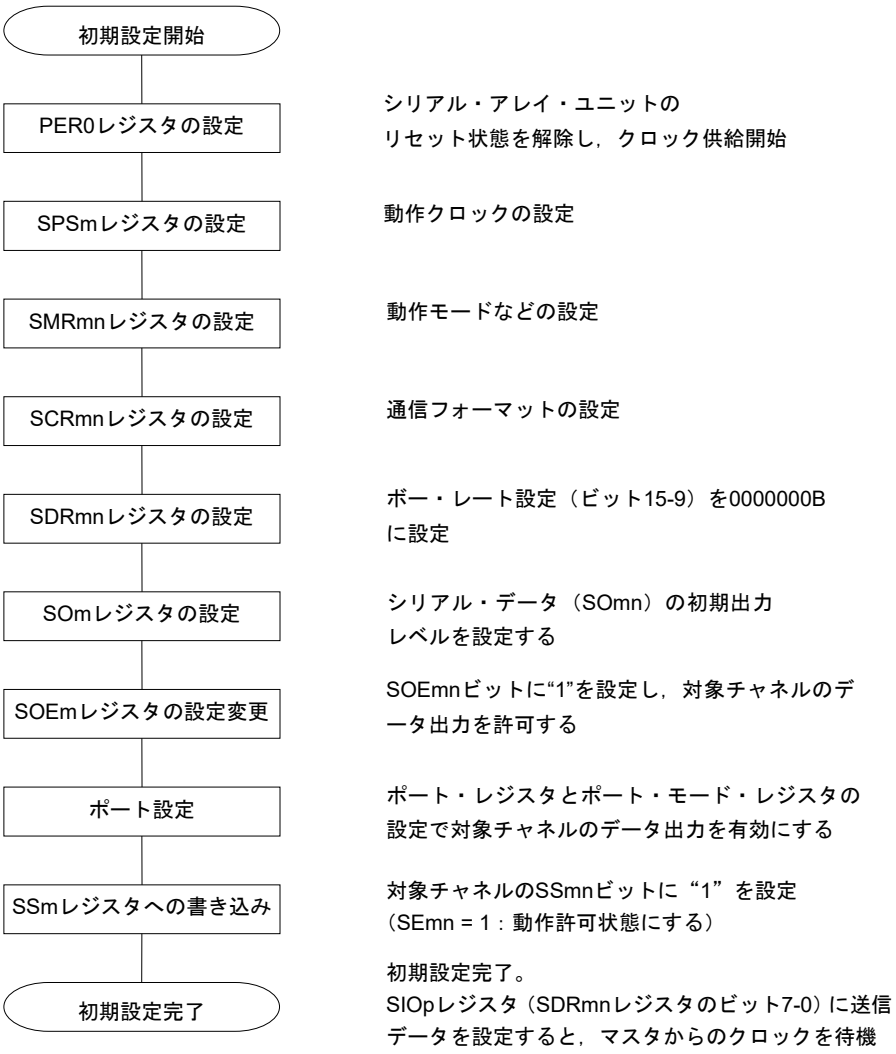



図18－51　スレーブ送信の中断手順

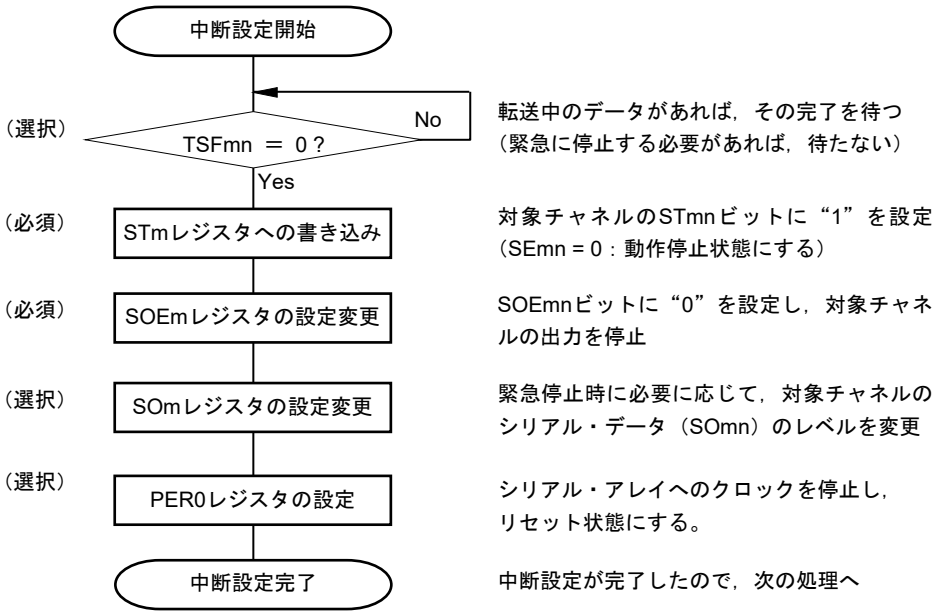
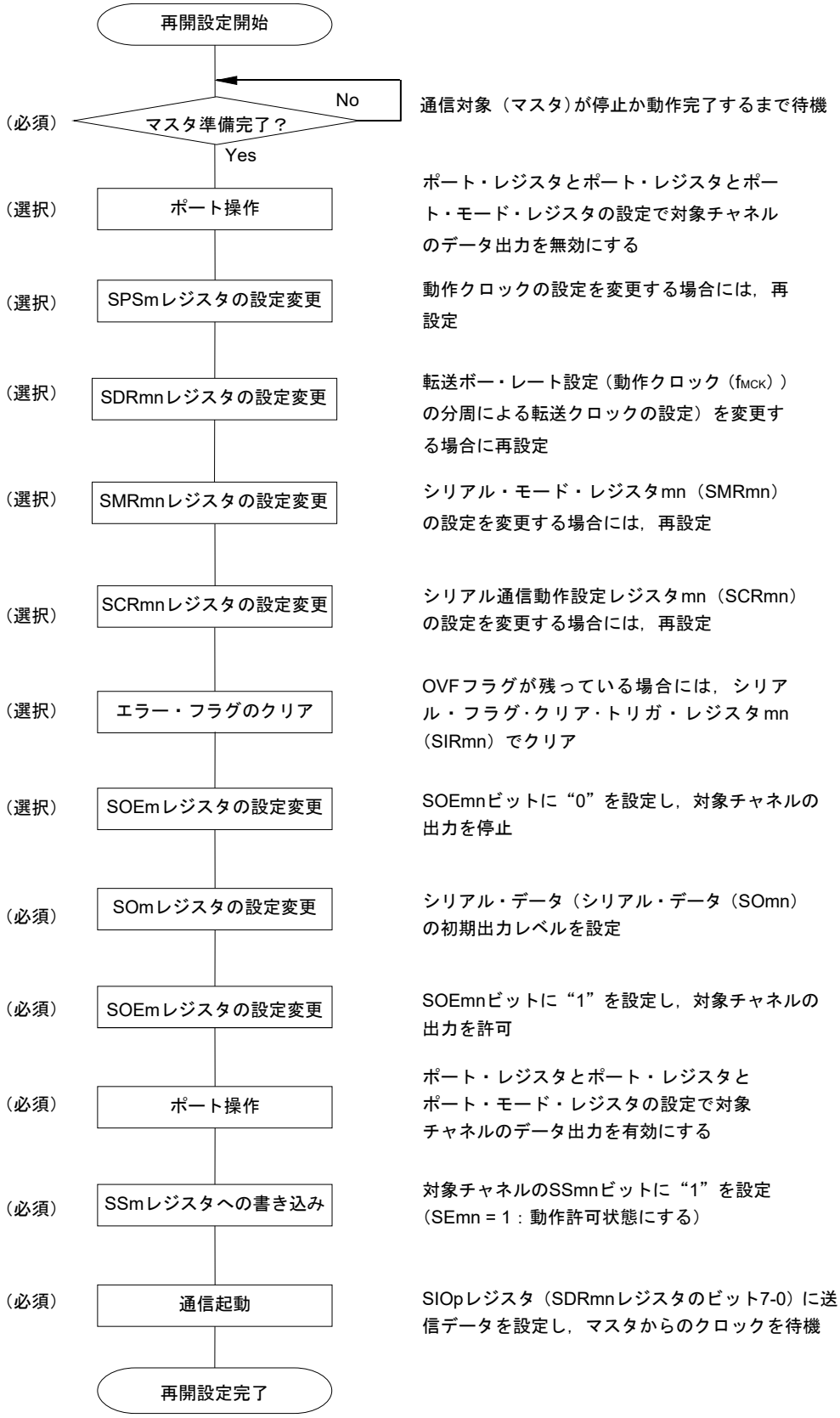


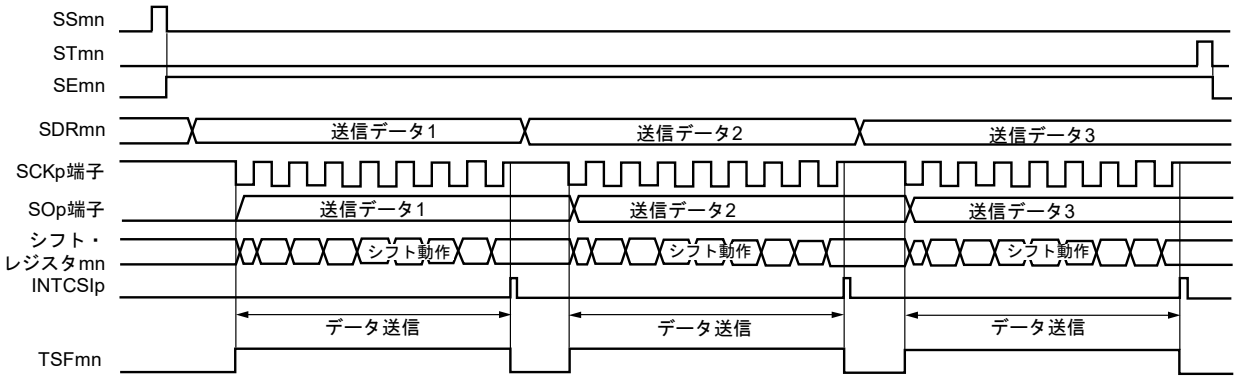
図18－52　スレーブ送信の再開設定手順




**備考**　中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には，通信対象（マスタ）の停止か通信動作完了を待って，再開設定ではなく初期設定をしてください。

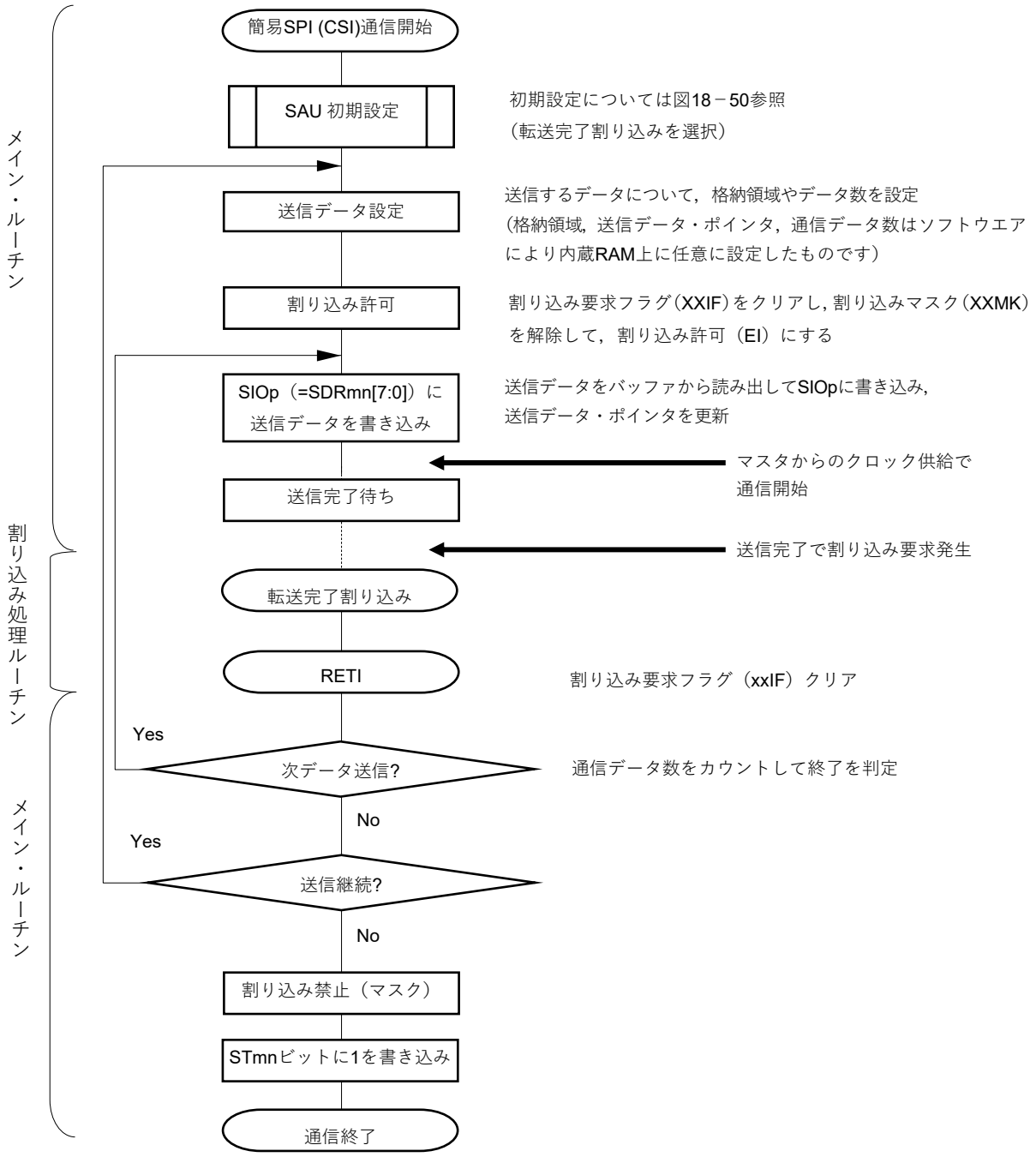
（3）処理フロー（シングル送信モード時）

図18－53　スレーブ送信（シングル送信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）



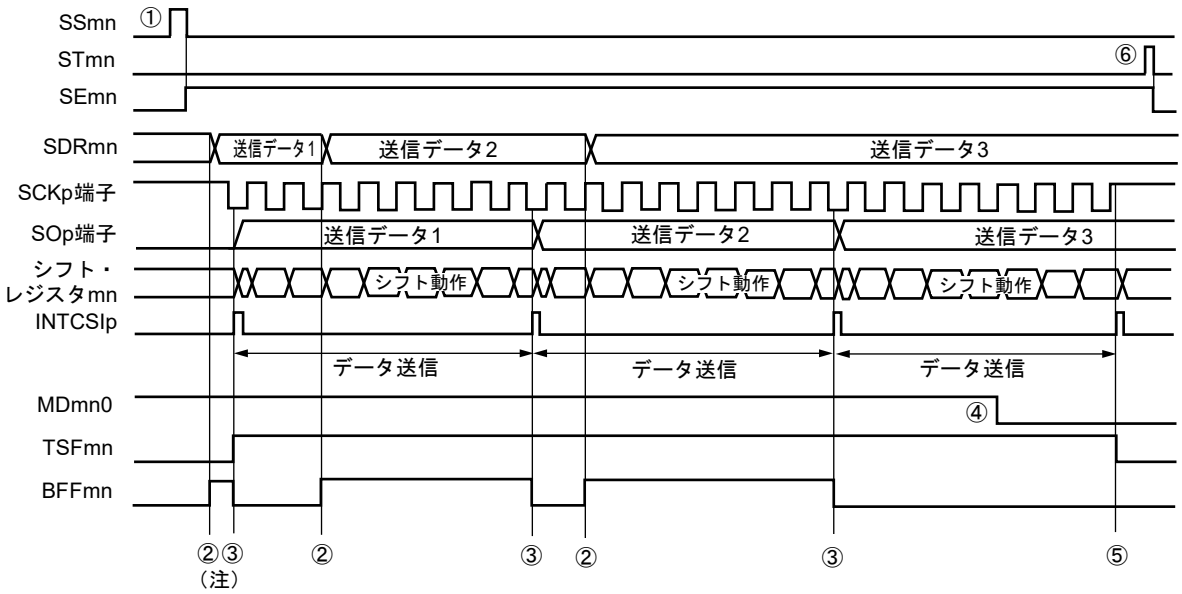

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－54　スレーブ送信（シングル送信モード時）のフロー・チャート



（4）処理フロー（連続送信モード時）

図18－55　スレーブ送信（連続送信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）

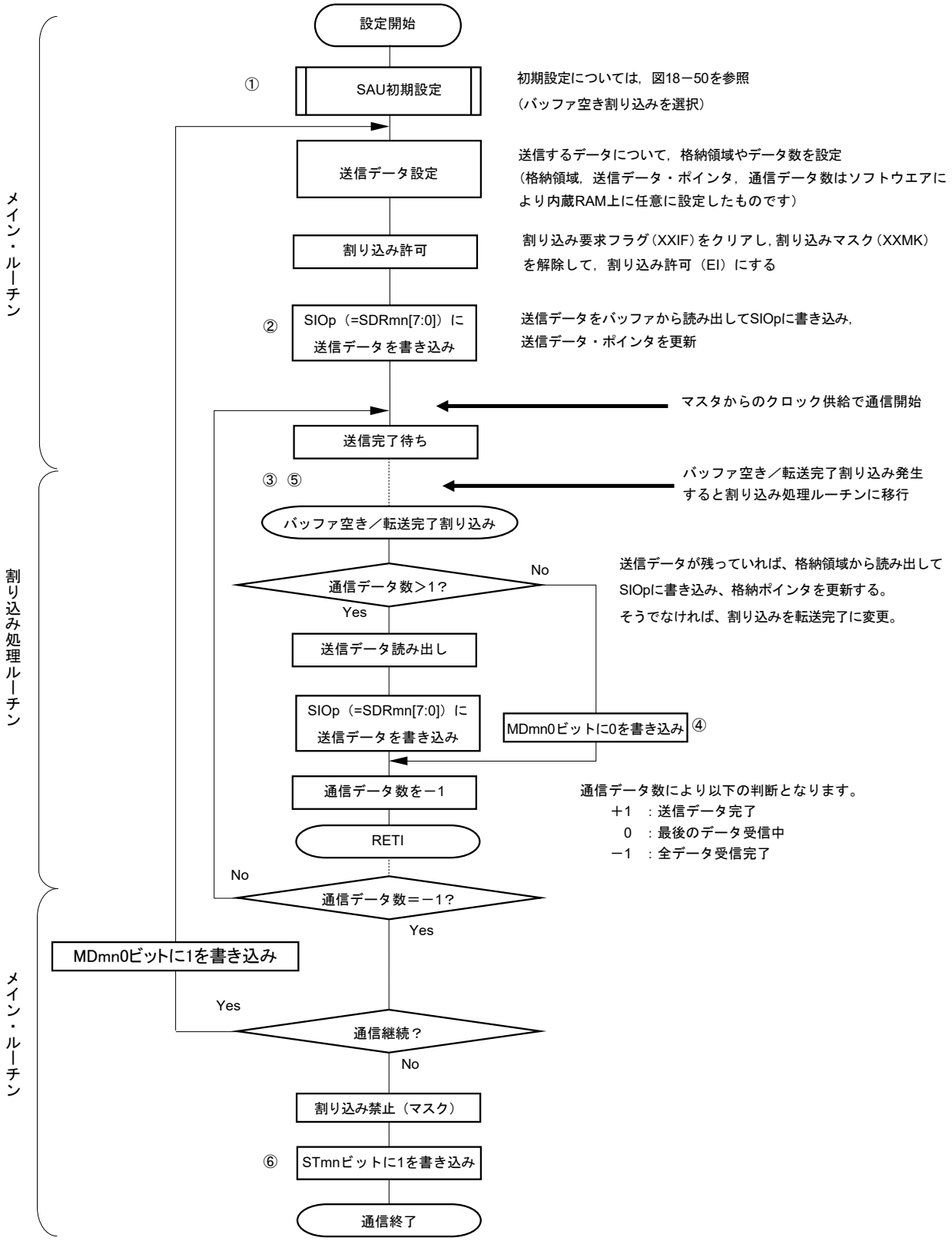



注　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）に格納されているとき）にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと，送信データが上書きされます。

注意　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のMDmn0ビットは，動作中でも書き換えることができます。ただし，最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－56　スレーブ送信（連続送信モード時）のフロー・チャート




備考　図中の①~⑥は，図18－55　スレーブ送信（連続送信モード時）のタイミング・チャートの①~⑥に対応しています。

### 18. 5. 5　スレーブ受信

スレーブ受信とは，他デバイスから転送クロックを入力される状態で，RL78マイクロコントローラが他デバイスからデータを受信する動作です。

| 簡易SPI | CSI00 |
|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 |
| 使用端子 | SCK00, SI00 |
| 割り込み | INTCSI00 |
| | 転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは設定禁止） |
| エラー検出フラグ | オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ |
| 転送データ長 | 7ビットまたは8ビット |
| 転送レート | Max. $f_{MCK}$/6 [Hz]注1, 2 |
| データ位相 | SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能<br>・DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ入力を開始<br>・DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ入力を開始 |
| クロック位相 | SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能<br>・CKPmn = 0の場合：非反転<br>・CKPmn = 1の場合：反転 |
| データ方向 | MSBファーストまたはLSBファースト |

注1.　SCK00端子に入力された外部シリアル・クロックは，内部でサンプリングして使用されるため，最大転送レートは$f_{MCK}$/6 [Hz]となります。

2.　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考1.　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　mn = 00

（1）レジスタ設定

図18－57　簡易SPI（CSI00）のスレーブ受信時のレジスタ設定内容例

（a）シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn | CCSmn | | | | | | STSmn | | SISmn0 | | | | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 0/1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）
0：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm0”
1：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm1”

チャネルnの割り込み要因
0：転送完了割り込み

（b）シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | | SLCmn1 | SLCmn0 | | | DLSmn1 | DLSmn0 |
| | 0 | 1 | 0/1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0/1 |

データとクロックの位相選択
（設定内容詳細は「18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ」参照）

データ転送順序の選択
0：MSBファーストで入出力を行う
1：LSBファーストで入出力を行う

データ長の設定
0：7ビット・データ長
1：8ビット・データ長

（c）シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（下位8ビット：SIOp）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SDRmn | 0000000<br>ボー・レート設定 | | | | | | | 0 | 受信データ | | | | | | | |

SIOp

（d）シリアル出力レジスタm（SOm）・・・このモードでは使用しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | | | | | | | | CKOm0 | | | | | | SOm2 | | SOm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | × | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | × | 1 | × |

（e）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）・・・このモードでは使用しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | | | | | | | | | | | | | | SOEm2 | | SOEm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 0 | × |

（f）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | | | | | | | | | | | | | SSm3 | SSm2 | SSm1 | SSm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | × | × | 0/1 |

備考1.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

2.　□：簡易SPI (CSI)スレーブ受信モードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）操作手順

図18－58　スレーブ受信の初期設定手順

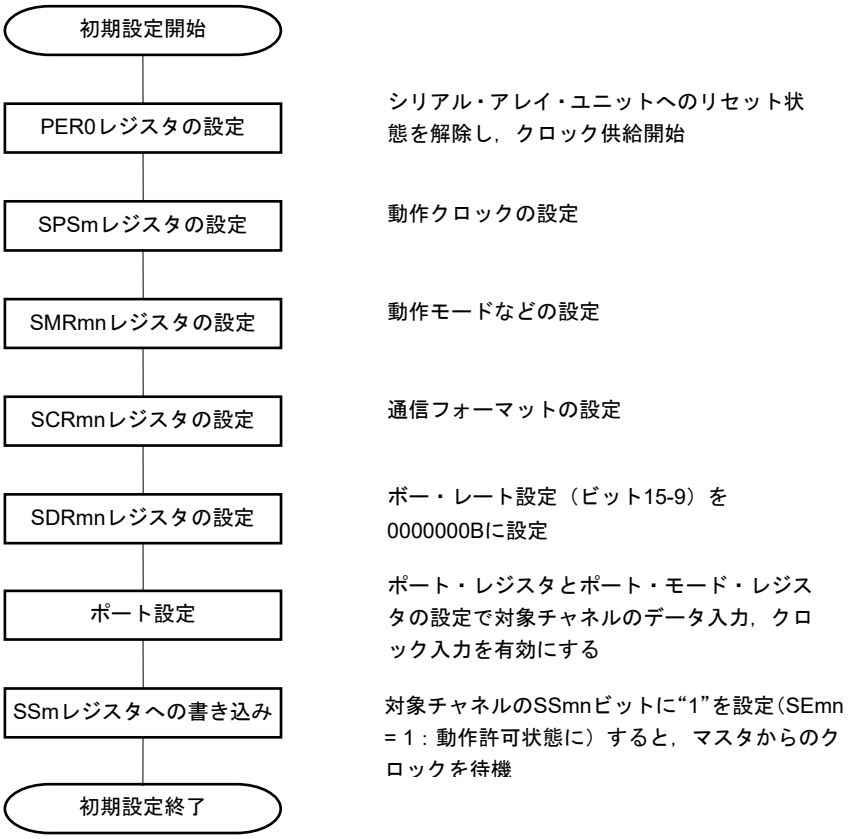



図18－59　スレーブ受信の中断手順

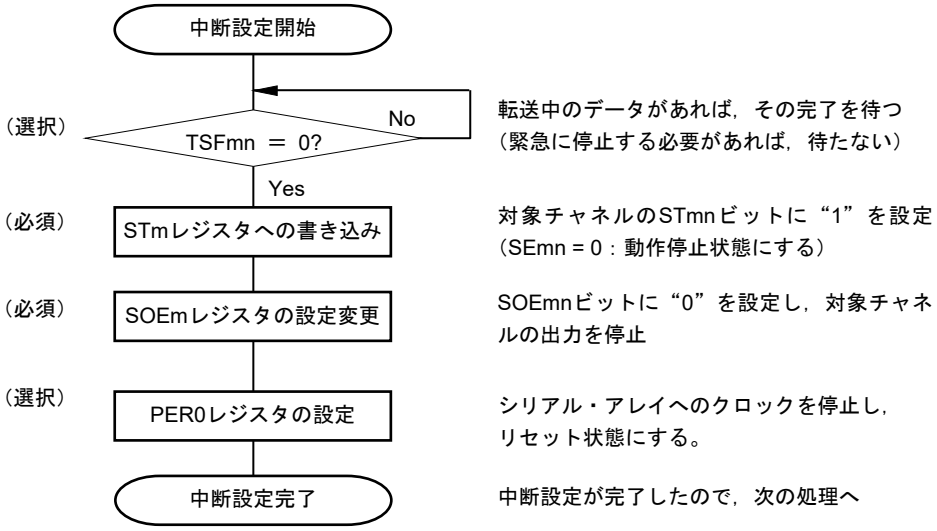
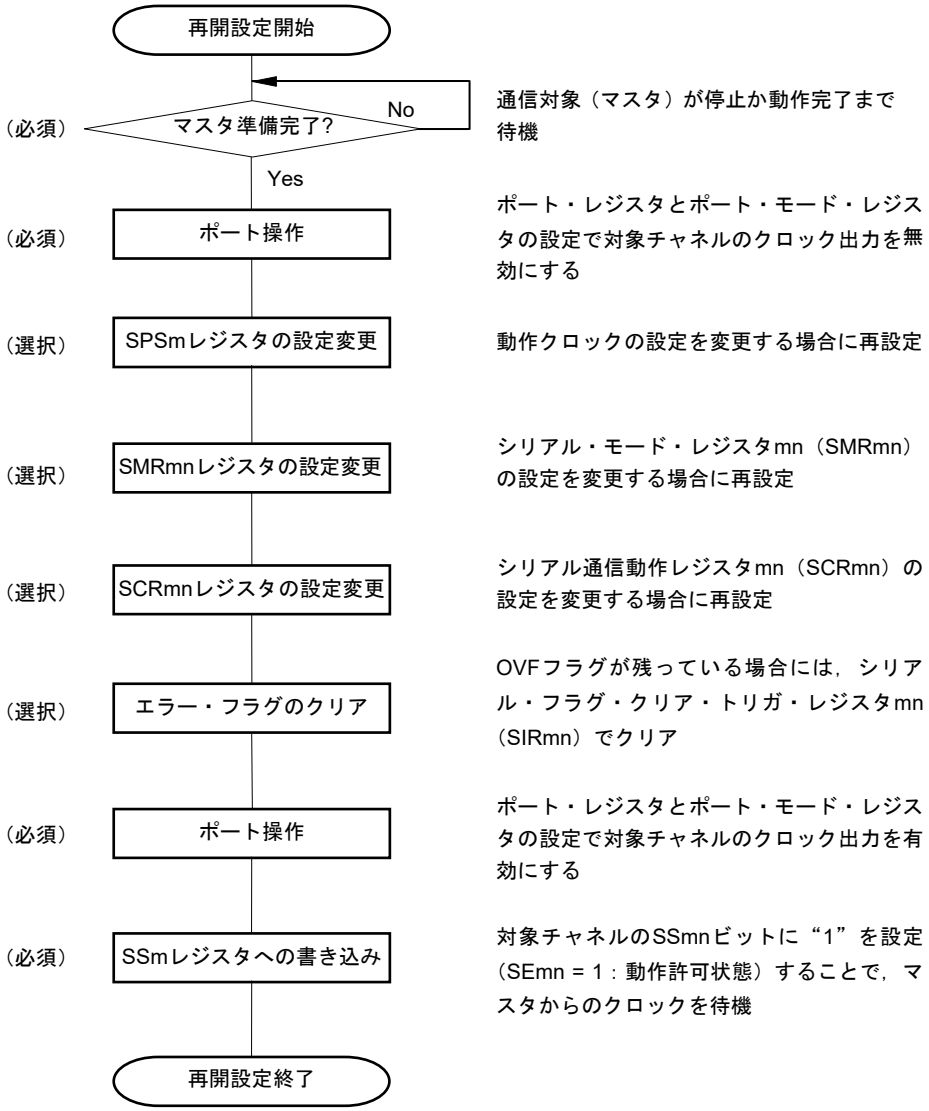


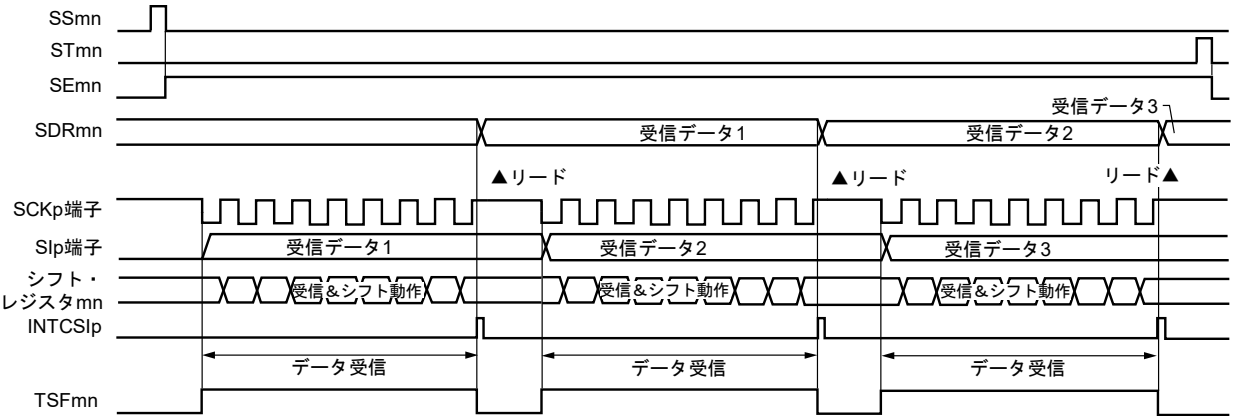
図18－60　スレーブ受信の再開設定手順




**備考**　中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には，通信対象（マスタ）の停止か通信動作完了を待って，再開設定ではなく初期設定をしてください。

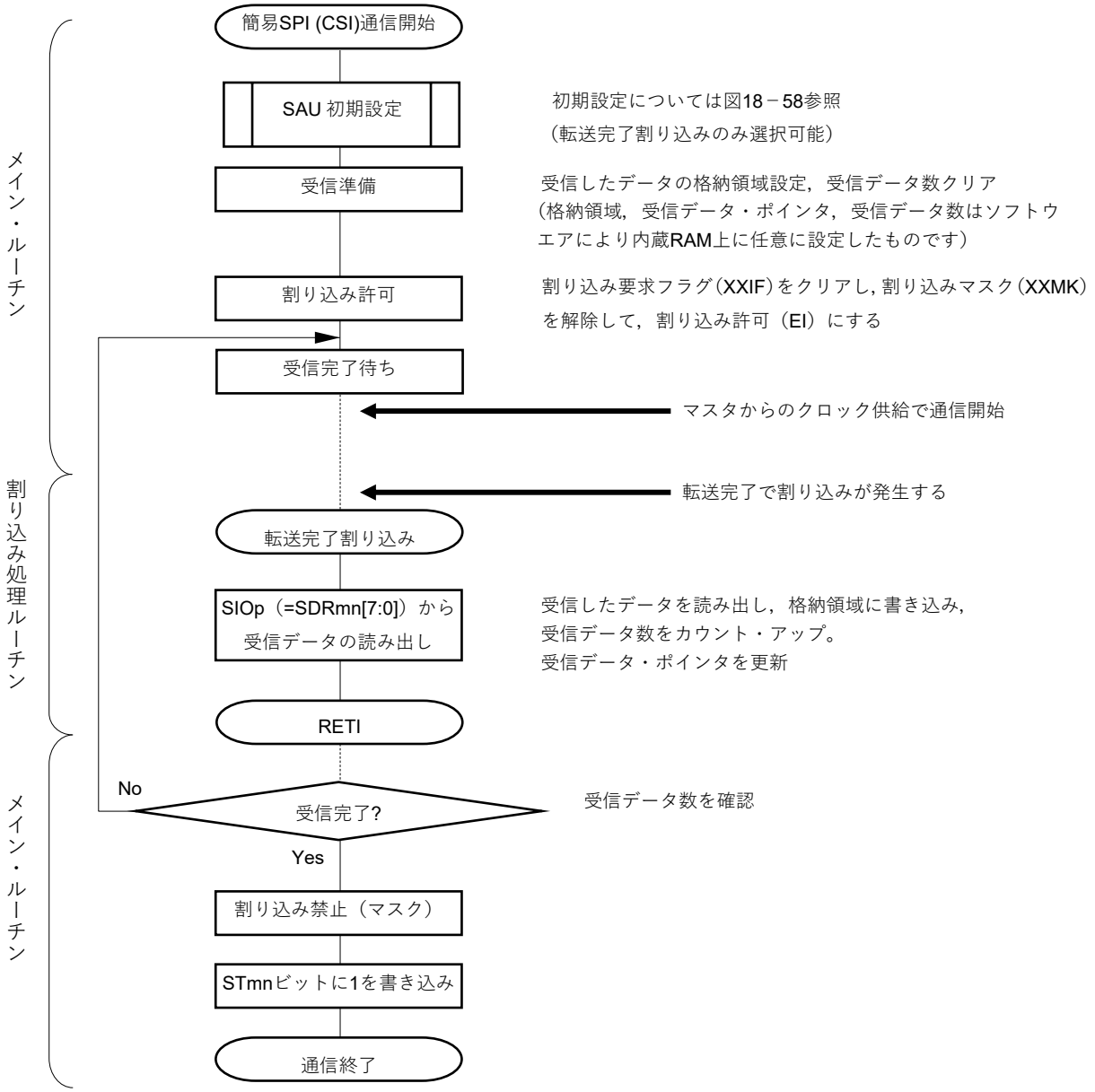
（3）処理フロー（シングル受信モード時）

図18－61　スレーブ受信（シングル受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）




備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－62　スレーブ受信（シングル受信モード時）のフロー・チャート



### 18. 5. 6　スレーブ送受信

スレーブ送受信とは，他デバイスから転送クロックを入力される状態で，RL78マイクロコントローラと他デバイスでデータを送受信する動作です。

| 簡易SPI | CSI00 |
|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 |
| 使用端子 | SCK00, SI00, SO00 |
| 割り込み | INTCSI00 |
| | 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か，バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能 |
| エラー検出フラグ | オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ |
| 転送データ長 | 7ビットまたは8ビット |
| 転送レート | Max. $f_{MCK}$/6 [Hz]注1, 2 |
| データ位相 | SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能<br>・DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ入出力を開始<br>・DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ入出力を開始 |
| クロック位相 | SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能<br>・CKPmn = 0の場合：非反転<br>・CKPmn = 1の場合：反転 |
| データ方向 | MSBファーストまたはLSBファースト |

注1.　SCK00端子に入力された外部シリアル・クロックは，内部でサンプリングして使用されるため，最大転送レートは$f_{MCK}$/6 [Hz]となります。

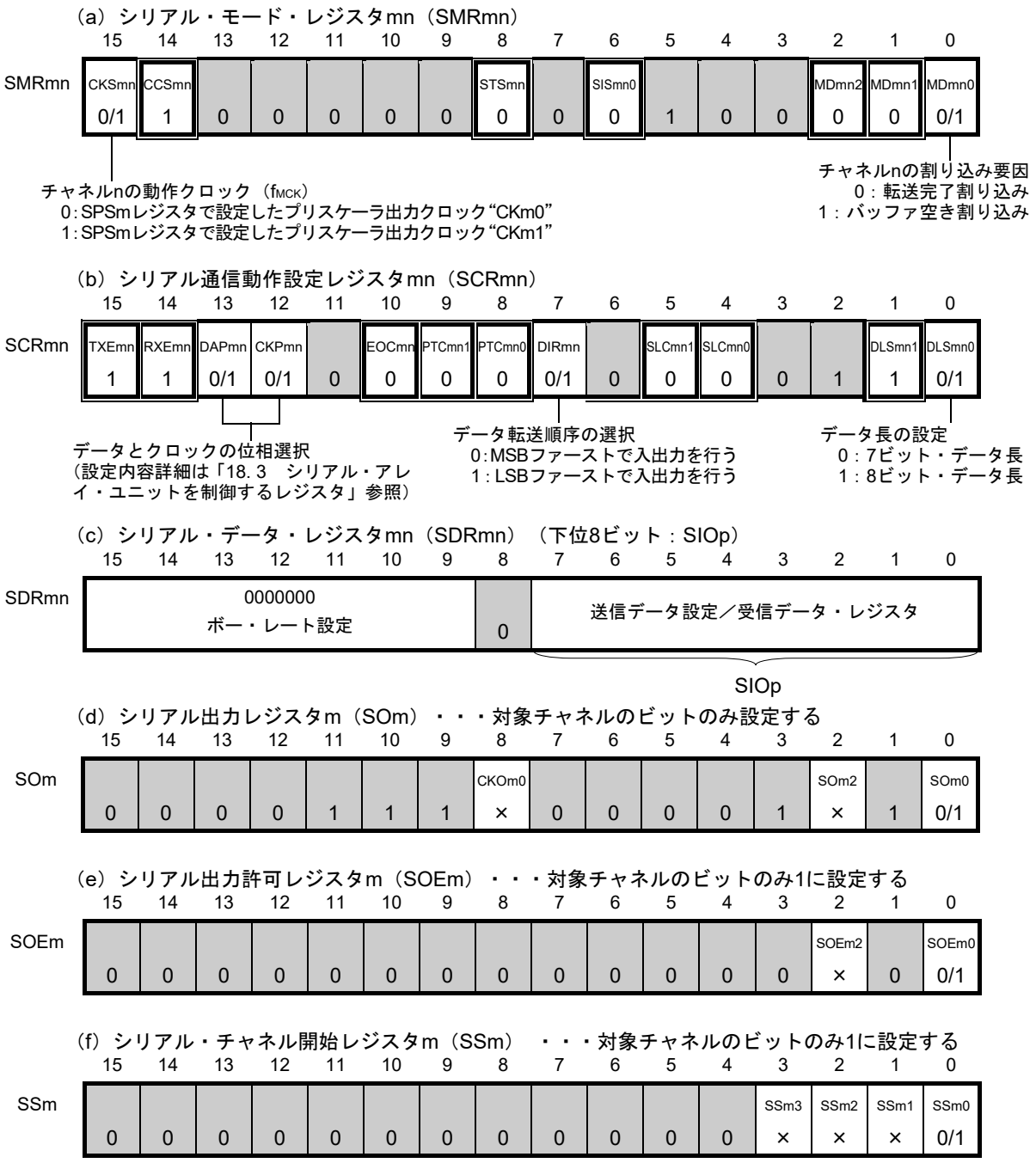
2.　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考1.　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　mn = 00

（1）レジスタ設定

図18－63　簡易SPI（CSI00）のスレーブ送受信時のレジスタ設定内容例




注意　マスタからのクロックが開始される前に，必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

備考1.　m：ユニット番号（m＝0）　n：チャネル番号（n＝0）　p：CSI番号（p＝00）　mn＝00

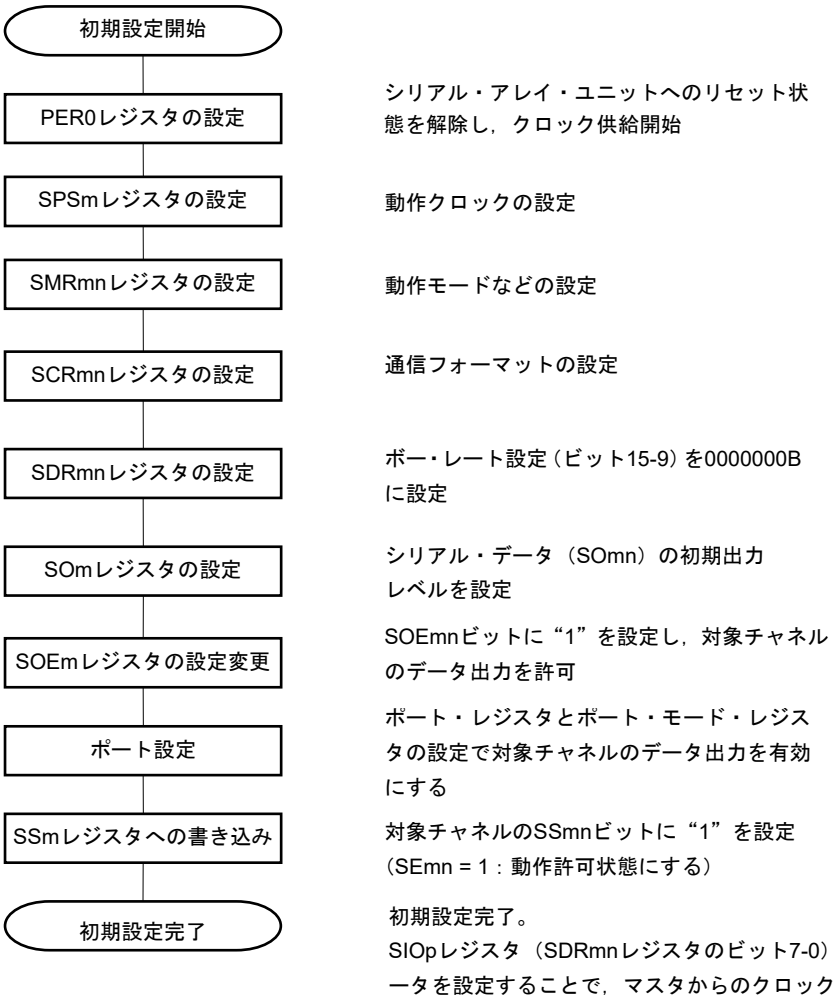
2.　□：簡易SPI (CSI)スレーブ送受信モードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）操作手順

図18－64　スレーブ送受信の初期設定手順




注意　マスタからのクロックが開始される前に，必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

図18－65　スレーブ送受信の中断手順

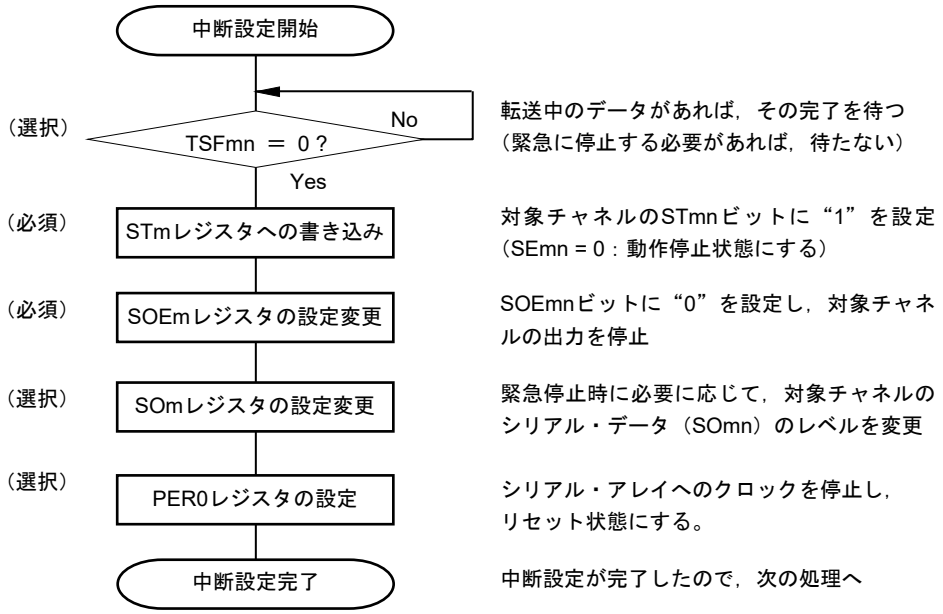
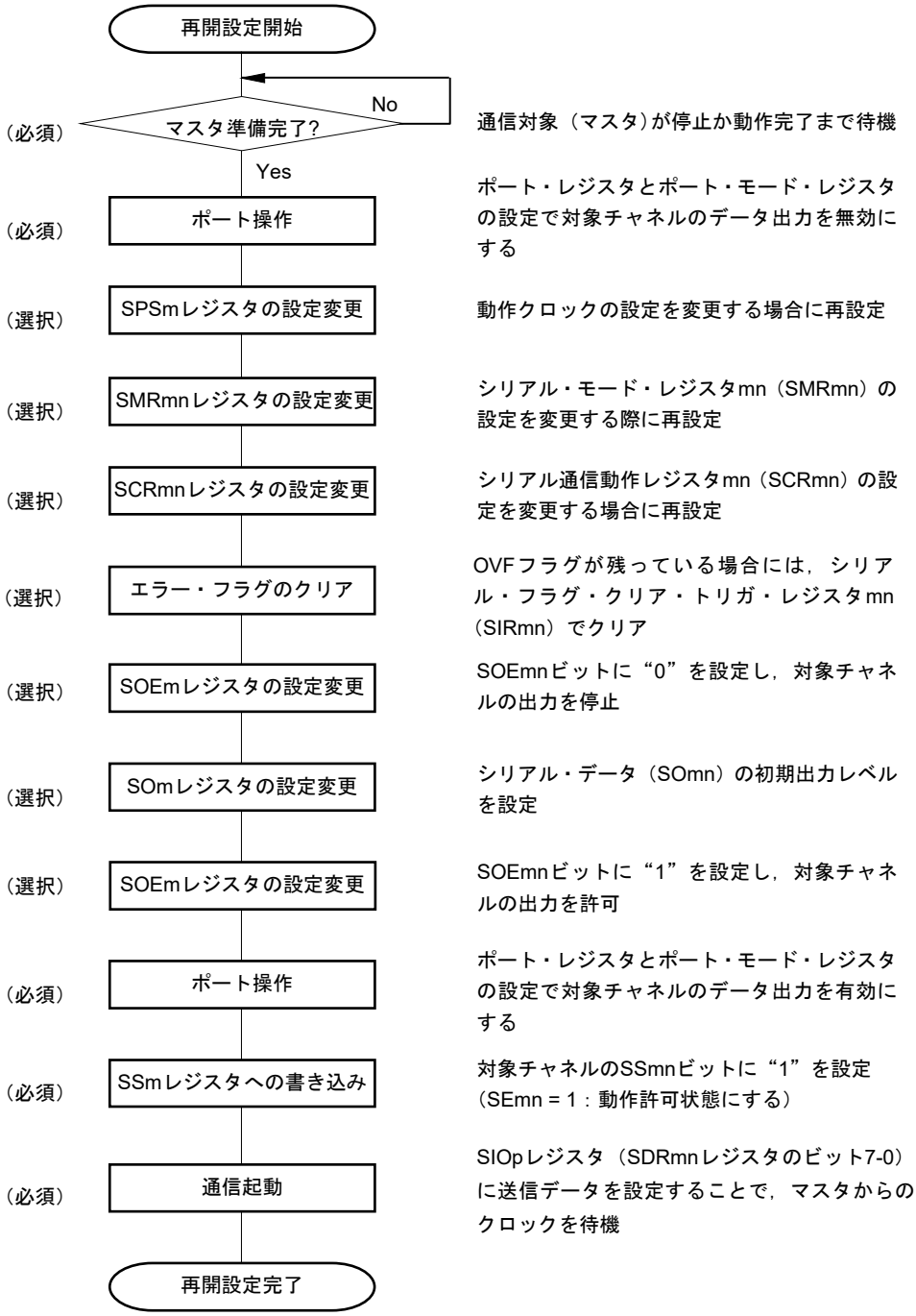


図18－66　スレーブ送受信の再開設定手順

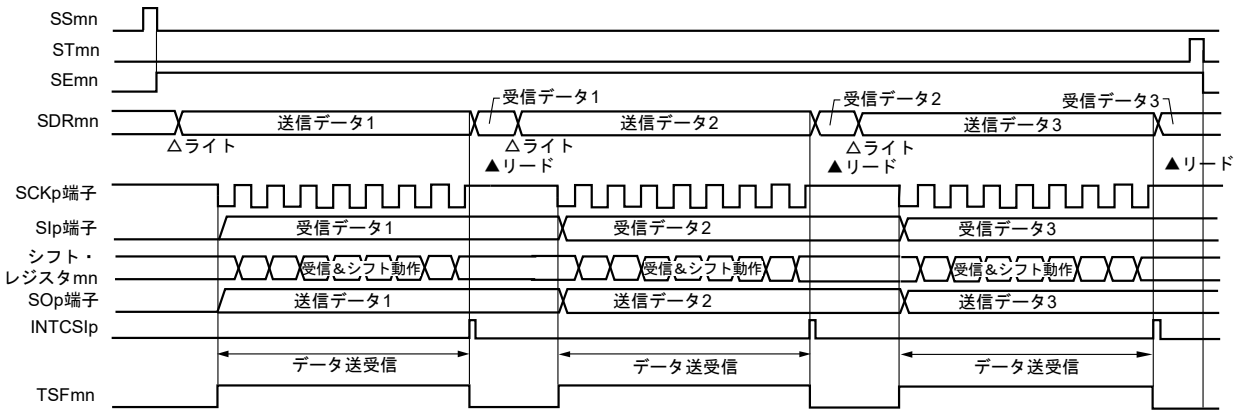



注意 1.　マスタからのクロックが開始される前に，必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

2.　中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には，通信対象（マスタ）の停止か通信動作完了を待って，再開設定ではなく初期設定をしてください。

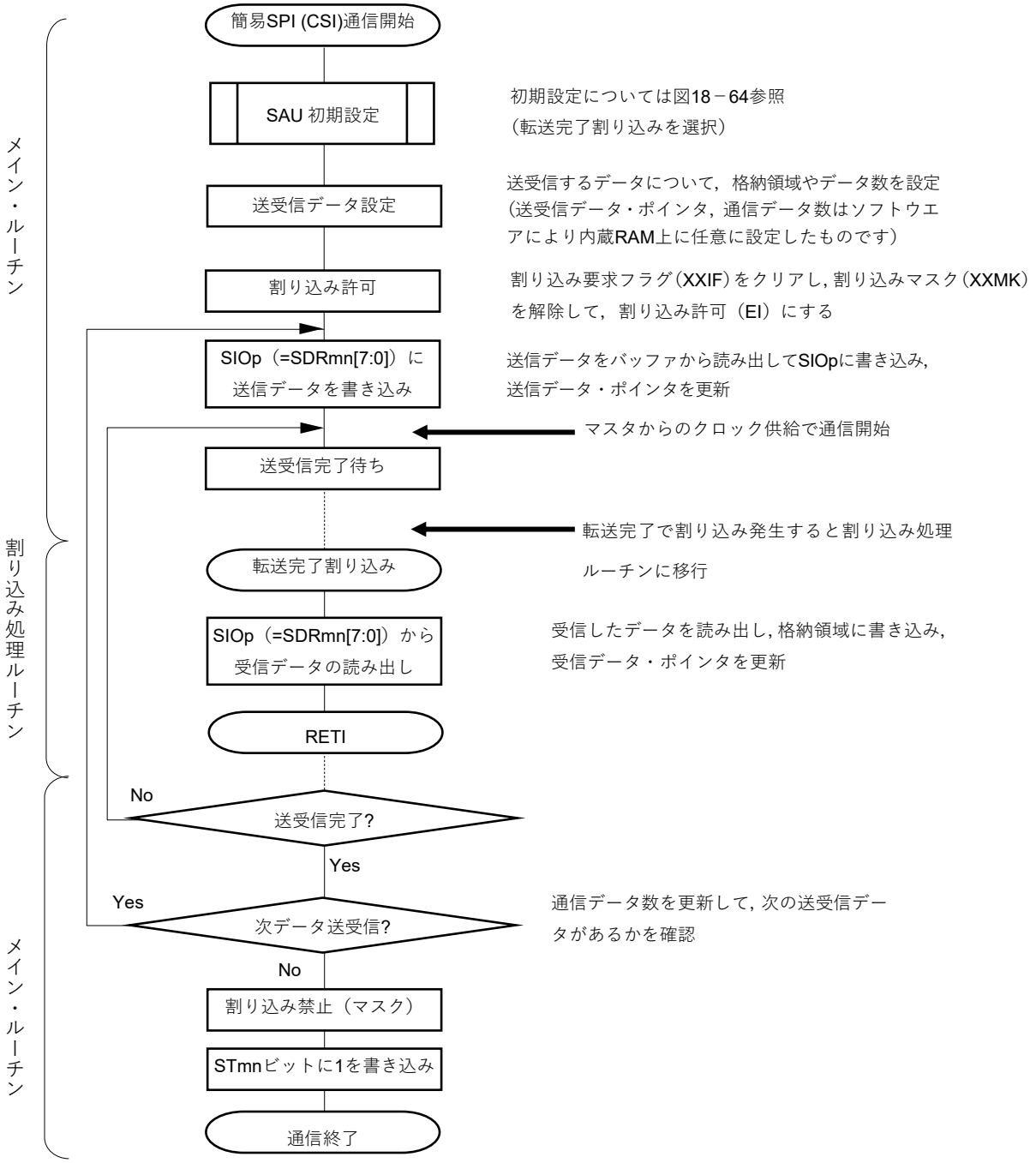
（3）処理フロー（シングル送受信モード時）

図18－67　スレーブ送受信（シングル送受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）




備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

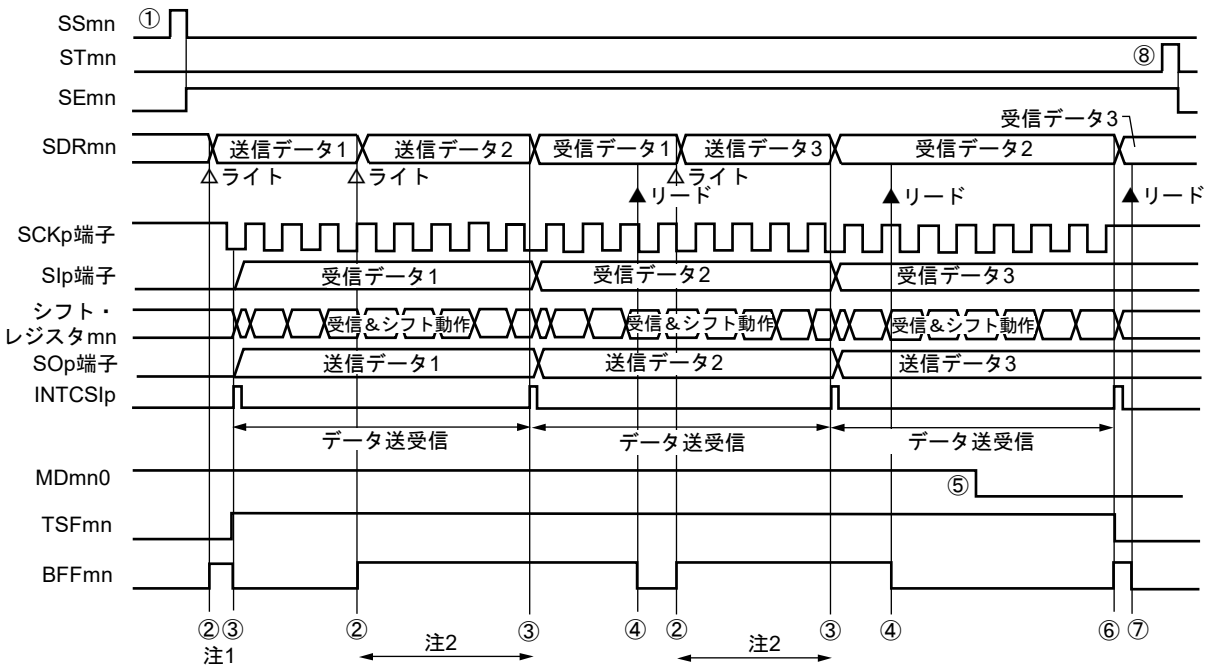
図18－68　スレーブ送受信（シングル送受信モード時）のフロー・チャート




注意　マスタからのクロックが開始される前に，必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

（4）処理フロー（連続送受信モード時）

図18－69　スレーブ送受信（連続送受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn =0, CKPmn = 0）




注1.　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）に格納されている時）にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと，送信データが上書きされます。

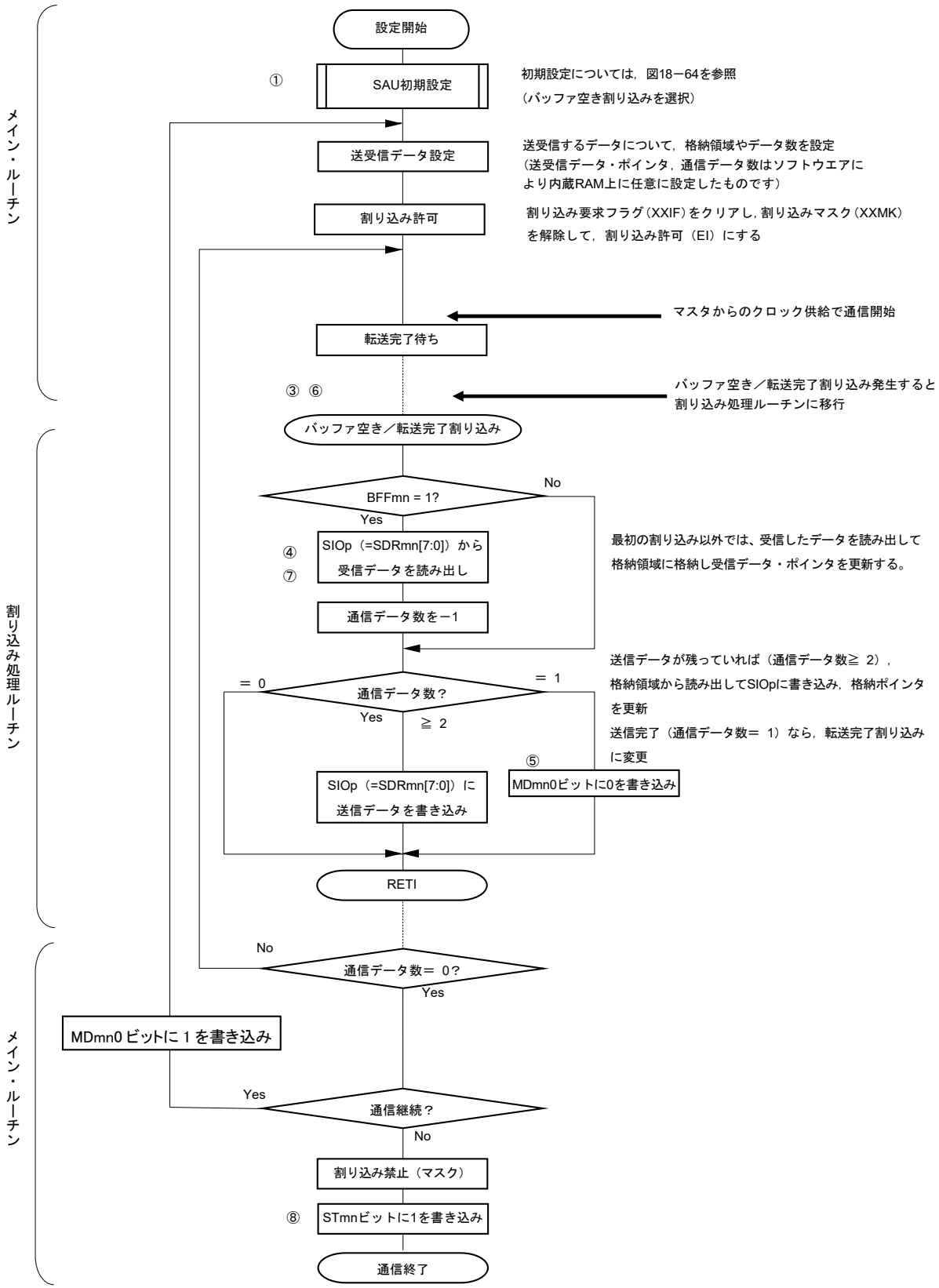
2.　この期間にSDRmnレジスタをリードすると，送信データを読み出すことができます。その際，転送動作には影響はありません。

注意　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のMDmn0ビットは，動作中でも書き換えることができます。ただし，最後の送信データの転送完了割り込みに間に合わせるために，最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考1.　図中の①~⑧は，図18－70　スレーブ送受信（連続送受信モード時）のフロー・チャートの①~⑧に対応しています。

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　p：CSI番号（p = 00）　mn = 00

図18－70　スレーブ送受信（連続送受信モード時）のフロー・チャート




注意　マスタからのクロックが開始される前に，必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

備考　図中の①~⑧は，図18－69　スレーブ送受信（連続送受信モード時）のタイミング・チャートの①~⑧に対応しています。

### 18. 5. 7　SNOOZEモード機能

STOPモード時にSCKp端子入力の検出により簡易SPI (CSI)の受信動作をさせるモードです。通常STOPモード時に簡易SPI (CSI)は通信動作を停止しますが，このモードを使うことで，SCKp端子入力の検出によってCPUを動作させずに簡易SPI (CSI)の受信動作を行うことができます。

簡易SPI (CSI)をSNOOZEモードで使用する場合は，STOPモードに移行する前に次の設定を行います。（図18－72，図18－74　SNOOZEモード動作時のフローチャートを参照）

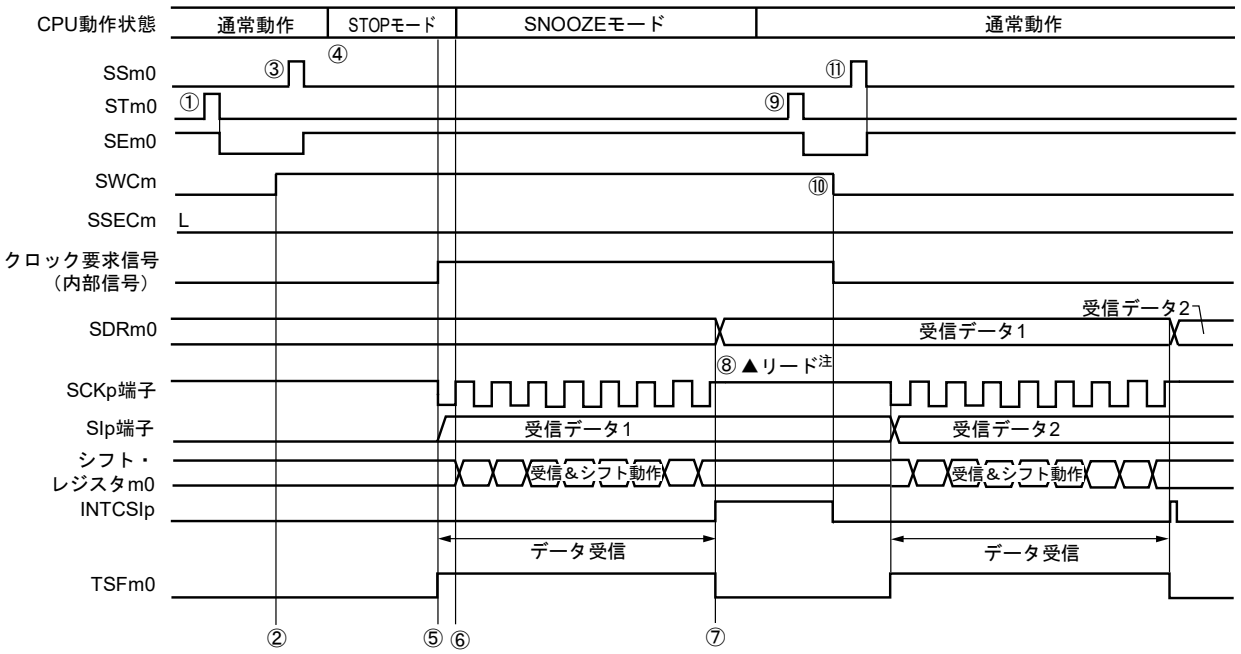
・STOPモードに移行する直前にシリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm（SSCm）のSWCmビットをセット（1）してください。初期設定完了後，シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）のSSm0ビットをセット（1）します。

・STOPモードに移行後，SCKp端子の有効エッジを検出すると SNOOZEモードへ移行します。
SCKp端子のシリアル・クロック入力により，CSIpは受信動作を開始します。

注意1.　SNOOZEモードは，$f_{CLK}$に高速オンチップ・オシレータ・クロックを選択している場合のみ設定可能です。
2.　SNOOZEモードで使用するときの最大転送レートは1 Mbpsです。

（1）SNOOZEモード動作（1回起動）

図18－71　SNOOZEモード動作（1回起動）時のタイミング・チャート（タイプ1：DAPm0 =0, CKPm0 = 0）

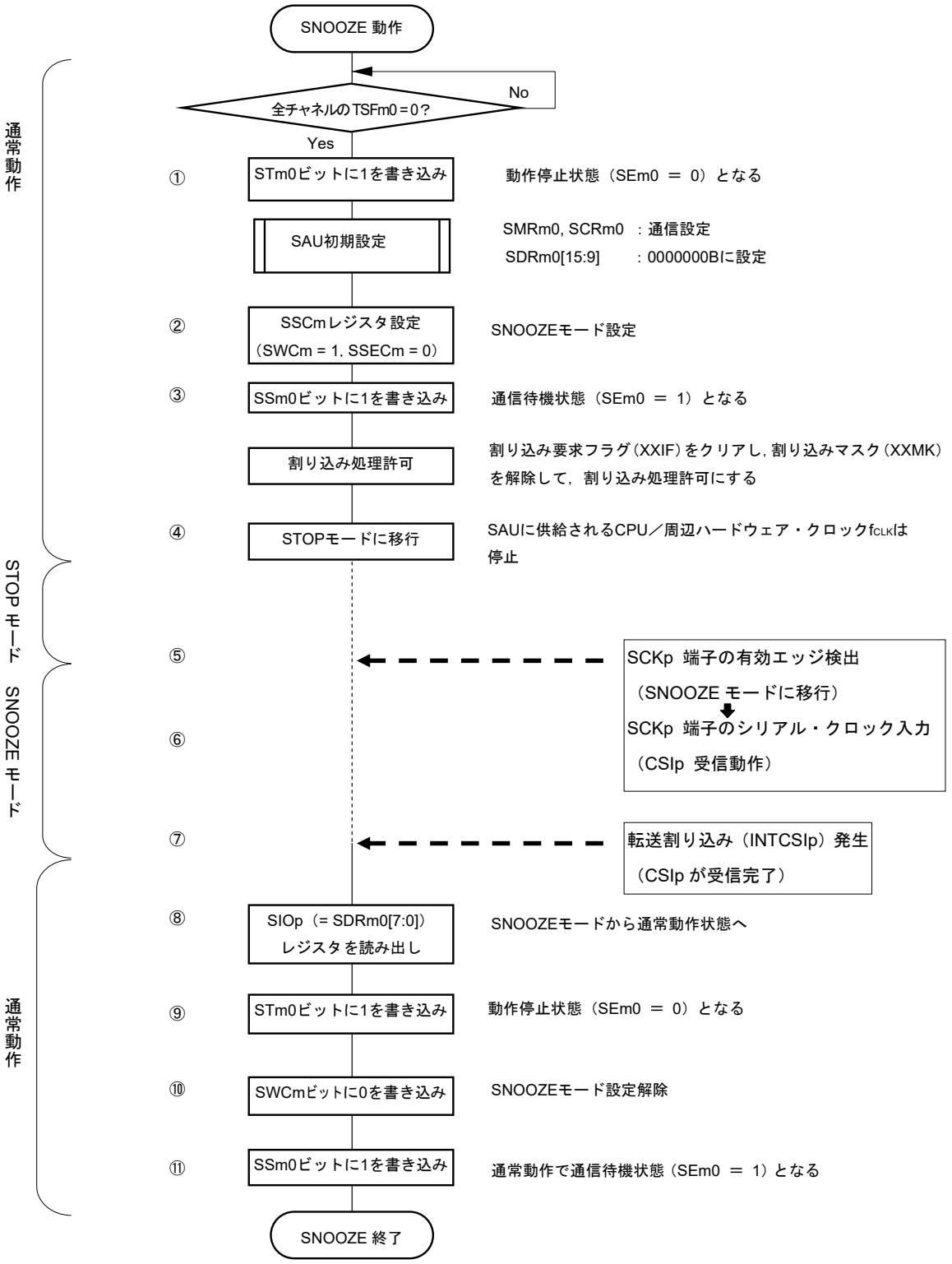



注　受信データの読み出しは，SWCm = 1の状態，次のSCKp端子の有効エッジ検出前に行ってください。

注意1.　SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは，STm0ビットを1に設定してください（SEm0ビットがクリアされ動作停止）。
また，受信動作を完了したあとは，SWCmビットもクリアしてください（SNOOZE解除）。
2.　SWCm = 1のときは，BFFm1, OVFm1フラグは動作しません。

備考1.　図中の①~⑪は，図18－72　SNOOZEモード動作（1回起動）時のフロー・チャートの①~⑪に対応しています。
2.　m = 0; p = 00

図18－72　SNOOZEモード動作（1回起動）時のフロー・チャート

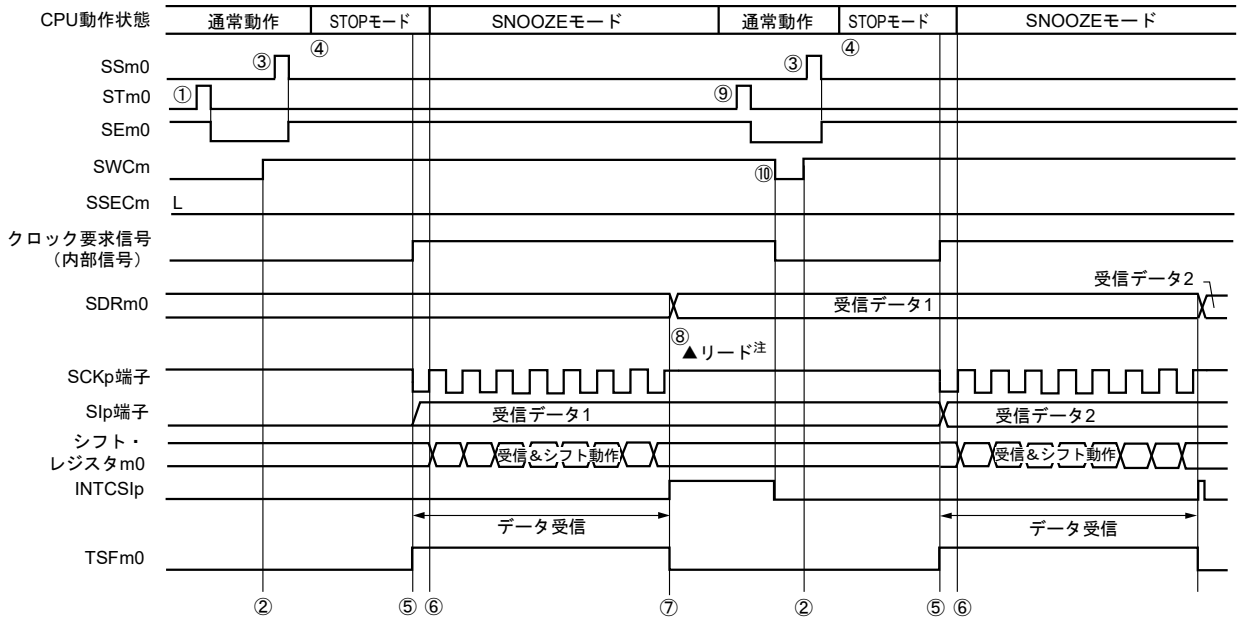



備考1.　図中の①~⑪は，図18－71　SNOOZEモード動作（1回起動）時のタイミング・チャートの①~⑪に対応しています。

2.　m = 0; p = 00

（2）SNOOZEモード動作（連続起動）

図18－73　SNOOZEモード動作（連続起動）時のタイミング・チャート（タイプ1：DAPm0 =0, CKPm0 = 0）




注　受信データの読み出しは，SWCm = 1の状態，次のSCKp端子の有効エッジ検出前に行ってください。

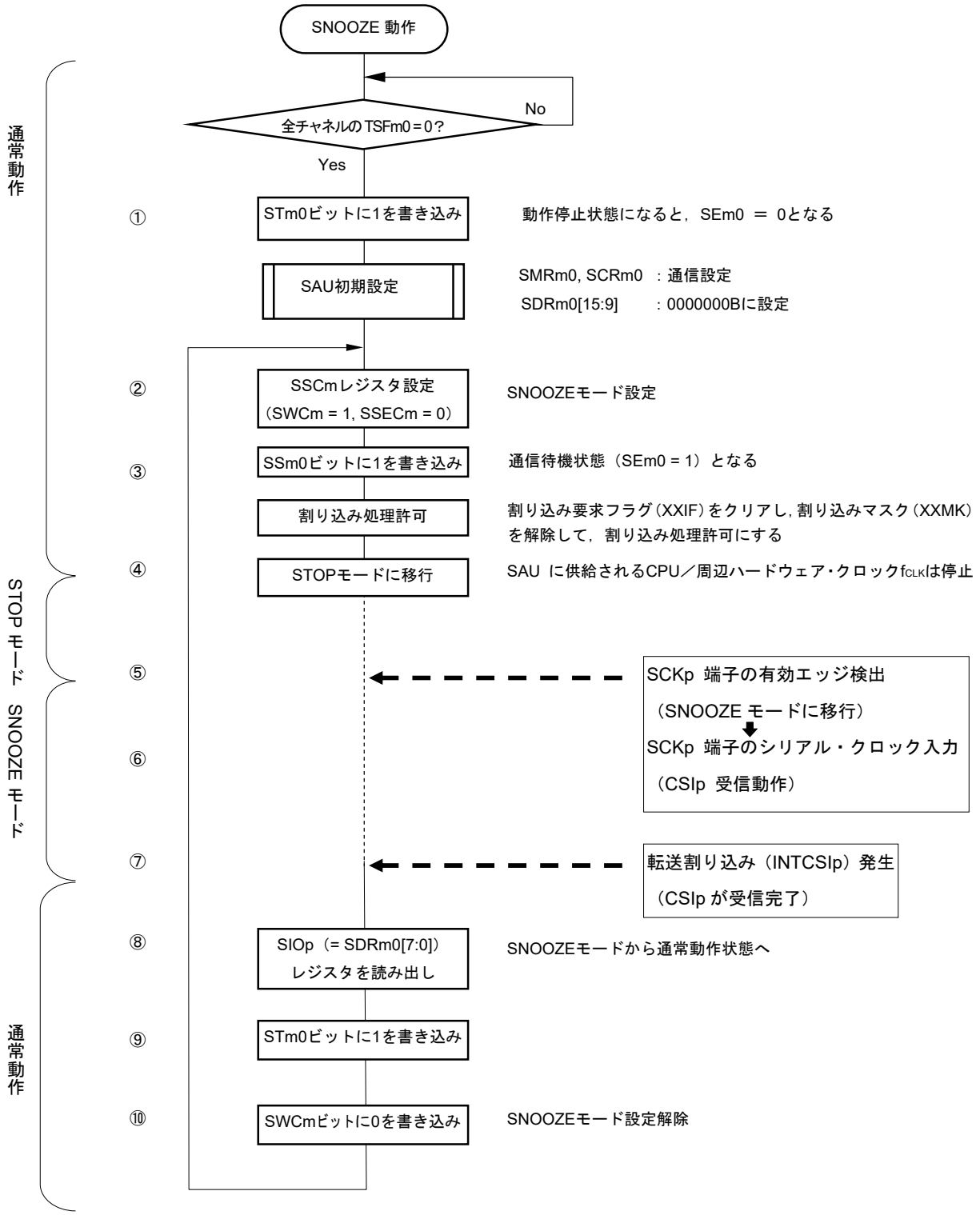
注意1.　SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは，STm0ビットを1に設定してください（SEm0ビットがクリアされ動作停止）。
また，受信動作を完了したあとは，SWCmビットもクリアしてください（SNOOZE解除）。

2.　SWCm = 1のときは，BFFm1，OVFm1フラグは動作しません。

備考1.　図中の①~⑩は，図18－74　SNOOZEモード動作（連続起動）時のフロー・チャートの①~⑩に対応しています。

2.　m = 0; p = 00

図18－74　SNOOZEモード動作（連続起動）時のフロー・チャート




備考1.　図中の①~⑩は，図18－73　SNOOZEモード動作（連続起動）時のタイミング・チャートの①~⑩に対応しています。

2.　m = 0; p = 00

### 18. 5. 8　転送クロック周波数の算出

簡易SPI（CSI00）通信での転送クロック周波数は下記の計算式にて算出できます。

（1）マスタの場合

（転送クロック周波数）　=　{対象チャネルの動作クロック（$f_{MCK}$）周波数}　÷（SDRmn[15:9]＋1）÷ 2 [Hz]

（2）スレーブの場合

（転送クロック周波数）　=　{マスタが供給するシリアル・クロック（SCK）周波数}注　[Hz]

注　ただし，許容最大転送クロック周波数は$f_{MCK}$/6となります。

備考　SDRmn[15:9] は，シリアル・データ・レジスタ mn（SDRmn）のビット 15-9 の値（0000000B-1111111B）なので，0-127になります。

動作クロック（$f_{MCK}$）は，シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のビット15（CKSmn）で決まります。

表18－2　簡易SPI動作クロックの選択

| SMRmn レジスタ | SPSmレジスタ | | | | | | | | 動作クロック（$f_{MCK}$）注 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CKSmn | PRS m13 | PRS m12 | PRS m11 | PRS m10 | PRS m03 | PRS m02 | PRS m01 | PRS m00 | | $f_{CLK}$ = 24 MHz 動作時 |
| 0 | X | X | X | X | 0 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}$ | 24 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2$ | 12 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^2$ | 6 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^3$ | 3 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^4$ | 1.5 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^5$ | 750 kHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^6$ | 375 kHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^7$ | 187.5 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^8$ | 93.8 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^9$ | 46.9 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{10}$ | 23.4 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{11}$ | 11.7 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^{12}$ | 5.86 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^{13}$ | 2.93 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{14}$ | 1.46 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{15}$ | 732 Hz |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}$ | 24 MHz |
| | 0 | 0 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2$ | 12 MHz |
| | 0 | 0 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^2$ | 6 MHz |
| | 0 | 0 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^3$ | 3 MHz |
| | 0 | 1 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^4$ | 1.5 MHz |
| | 0 | 1 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^5$ | 750 kHz |
| | 0 | 1 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^6$ | 375 kHz |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^7$ | 187.5 kHz |
| | 1 | 0 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^8$ | 93.8 kHz |
| | 1 | 0 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^9$ | 46.9 kHz |
| | 1 | 0 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{10}$ | 23.4 kHz |
| | 1 | 0 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{11}$ | 11.7 kHz |
| | 1 | 1 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{12}$ | 5.86 kHz |
| | 1 | 1 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{13}$ | 2.93 kHz |
| | 1 | 1 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{14}$ | 1.46 kHz |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{15}$ | 732 Hz |
| 上記以外 | | | | | | | | | 設定禁止 | |

注　$f_{CLK}$に選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は，シリアル・アレイ・ユニット（SAU）の動作を停止（シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）　= 000FH）させてから変更してください。

備考1.　X：Don’t care

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　mn = 00

### 18. 5. 9　簡易SPI（CSI00）通信時におけるエラー発生時の処理手順

簡易SPI（CSI00）通信時にエラーが発生した場合の処理手順を図18－75に示します。

図18－75　オーバラン・エラー発生時の処理手順

| ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 | 備考 |
|---|---|---|
| シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）をリードする → | SSRmnレジスタのBFFmnビットが“0”となり，チャネルnは受信可能状態になる | エラー処理中に次の受信を完了した場合にオーバラン・エラーになるのを防ぐために行う |
| シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）をリードする | | エラーの種類の判別を行い，リード値はエラー・フラグのクリアに使用する |
| シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）に“1”をライトする → | エラー・フラグがクリアされる | SSRmnレジスタのリード値をそのままSIRmnレジスタに書き込むことで，読み出し時のエラーのみをクリアできる |

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0）　mn = 00

## 18. 6　UART（UART0-UART2）通信の動作

シリアル／データ送信（TxD）とシリアル／データ受信（RxD）の2本のラインによる，調歩同期式通信機能です。この2本の通信ラインを使用し，スタート・ビット，データ，パリティ・ビット，ストップ・ビットからなる1データ・フレームごとに通信相手と非同期で（内部ボー・レートを使用して），データを送受信します。送信専用（偶数チャネル）と受信専用（奇数チャネル）の2チャネルを使用することで，全2重調歩同期UART通信が実現できます。また，UART0とタイマ・アレイ・ユニット0（チャネル7）と外部割り込み（INTP0）を組み合わせてLIN-busにも対応可能です。

［データ送受信］
- 7, 8, 9ビットのデータ長注
- MSB/LSBファーストの選択
- 送受信データのレベル設定（レベルを，反転するかどうかの選択）
- パリティ・ビット付加，パリティ・チェック機能
- ストップ・ビット付加，ストップ・ビット・チェック機能

［割り込み機能］
- 転送完了割り込み／バッファ空き割り込み
- フレーミング・エラー，パリティ・エラー，オーバラン・エラーによるエラー割り込み

［エラー検出フラグ］
- フレーミング・エラー，パリティ・エラー，オーバラン・エラー

また，UART0受信は，SNOOZEモードに対応しています。SNOOZEモードとは，STOPモード状態でRxD入力を検出すると，CPU動作を必要とせずにデータ受信を行う機能です。受信時ボー・レート調整機能に対応している，UART0のみ設定可能です。

UART0（ユニット0のチャネル0, 1）は，LIN-busに対応しています。

［LIN-bus機能］
- ウエイクアップ信号検出
- ブレーク・フィールド（BF）検出
- シンク・フィールド測定，ボー・レート算出

} 外部割り込み（INTP0），タイマ・アレイ・ユニット0（チャネル7）を使用

注　9ビット・データ長は，UART0のみ対応しています。

UART0では，SAU0のチャネル0, 1を使用します。
UART1では，SAU0のチャネル2, 3を使用します。
UART2では，SAU1のチャネル0, 1を使用します。

| ユニット | チャネル | 簡易SPI (CSI)として使用 | UARTとして使用 | 簡易$I^2C$として使用 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | CSI00 | UART0（LIN-bus対応） | IIC00 |
| | 1 | － | | － |
| | 2 | － | UART1 | IIC10 |
| | 3 | － | | － |
| 1 | 0 | － | UART2（IrDA対応） | － |
| | 1 | － | | － |

各チャネルはどれか一つの機能を選択して使用します。選択された機能以外の動作はできません。例えば，ユニット0のチャネル0, 1で「UART0」を使用するときは，CSI00を使用することはできません。しかし，UART0と同時にチャネルが異なるチャネル2, 3をUART1やIIC10で使用することはできます。

注意　**UART**として使用する場合は，送信側（偶数チャネル）と受信側（奇数チャネル）のどちらも**UART**にしか使用できません。

UARTの通信動作は，以下の4種類があります。

・UART送信　（18. 6. 1項を参照）
・UART受信　（18. 6. 2項を参照）
・LIN送信（UART0のみ）　（18. 7. 1項を参照）
・LIN受信（UART0のみ）　（18. 7. 2項を参照）

### 18. 6. 1　UART送信

UART送信は，RL78マイクロコントローラから他デバイスへ，非同期（調歩同期）でデータを送信する動作です。

UART送信では，そのUARTに使用する2チャネルのうち，偶数チャネルのほうを使用します。

| UART | UART0 | UART1 | UART2 |
|---|---|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 | SAU0のチャネル2 | SAU1のチャネル0 |
| 使用端子 | TxD0 | TxD1 | TxD2 |
| 割り込み | INTST0 | INTST1 | INTST2 |
| | 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か，バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能 | | |
| エラー検出フラグ | なし | | |
| 転送データ長 | 7ビットまたは8ビットまたは9ビット[注1] | | |
| 転送レート | Max. $f_{MCK}/6$ [bps]（SDRmn[15:9] = 2以上），Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [bps][注2] | | |
| データ位相 | 非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル）<br>反転出力（デフォルト：ロウ・レベル） | | |
| パリティ・ビット | 以下の選択が可能<br>・パリティ・ビットなし<br>・0パリティ・ビット付加<br>・偶数パリティ付加<br>・奇数パリティ付加 | | |
| ストップ・ビット | 以下の選択が可能<br>・1ビット付加<br>・2ビット付加 | | |
| データ方向 | MSBファーストまたはLSBファースト | | |

注1.　9ビット・データ長は，UART0のみ対応しています。

2.　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

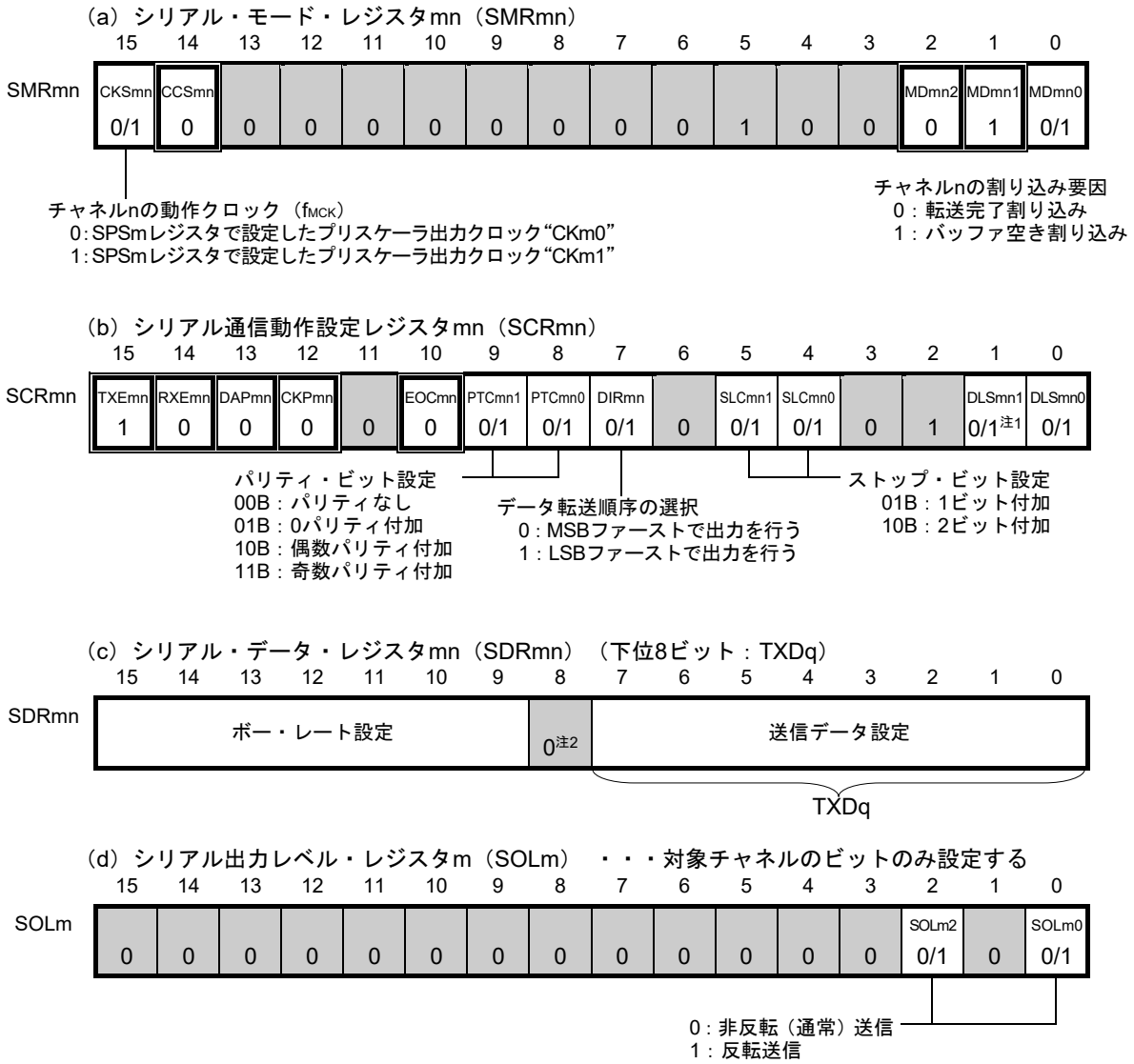
備考1.　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数

$f_{CLK}$：システム・クロック周波数

2.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00, 02, 10

（1）レジスタ設定

図18－76　UART（UART0-UART2）のUART送信時のレジスタ設定内容例（1/2）




注 1.　SCR00, SCR01, SCR10, SCR11レジスタのみ。その他は1固定になります。

2.　9ビット・データ長での通信を行う場合は，SDRm0レジスタのビット0-8が送信データ設定領域になります。9ビット・データ長での通信が行えるのは，UART0のみです。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　q：UART番号（q = 0-2），mn = 00, 02, 10

2.　□：UART送信モードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

図18－76　UART（UART0-UART2）のUART送信時のレジスタ設定内容例（2/2）

（e）シリアル出力レジスタm（SOm）　・・・対象チャネルのビットのみ設定する

SOm

| 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | CKOm0[注2] | | | | | | SOm2 | | SOm0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | × | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0/1[注1,2] | 1 | 0/1[注1] |

0：シリアル・データ出力値が“0”
1：シリアル・データ出力値が“1”

（f）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

SOEm

| 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | SOEm2[注2] | | SOEm0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0/1 |

（g）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

SSm

| 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | SSm3[注2] | SSm2[注2] | SSm1 | SSm0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 0/1 | × | 0/1 |

注1.　該当するチャネルのSOLmnビットに0を設定している場合は“1”に，SOLmnビットに1を設定している場合は“0”を送信開始前に必ず設定してください。通信動作中は通信データにより値が変わります。

2.　シリアル・アレイ・ユニット0のみ

備考1.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　q：UART番号（q = 0-2）
mn = 00, 02, 10

2.　□: 設定不可（初期値を設定）
×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）
0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）操作手順

図18－77　UART送信の初期設定手順

図18－78　UART送信の中断手順

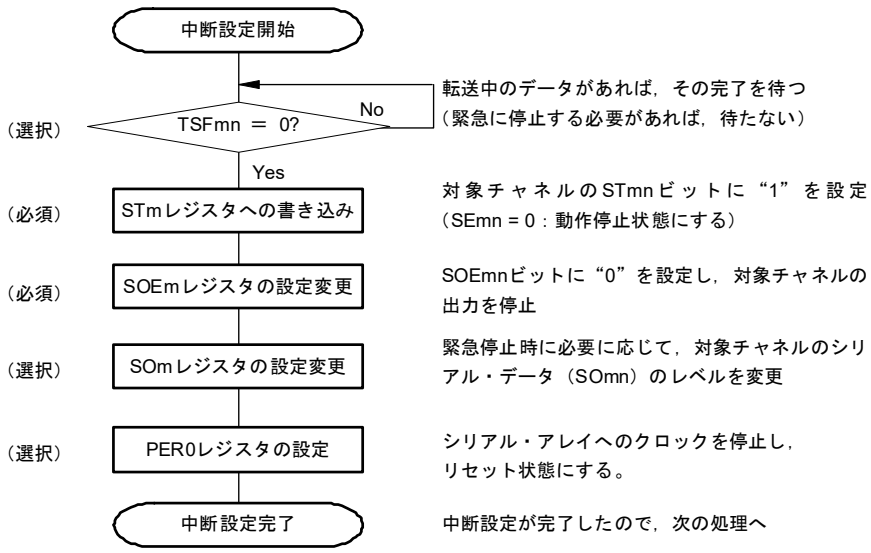
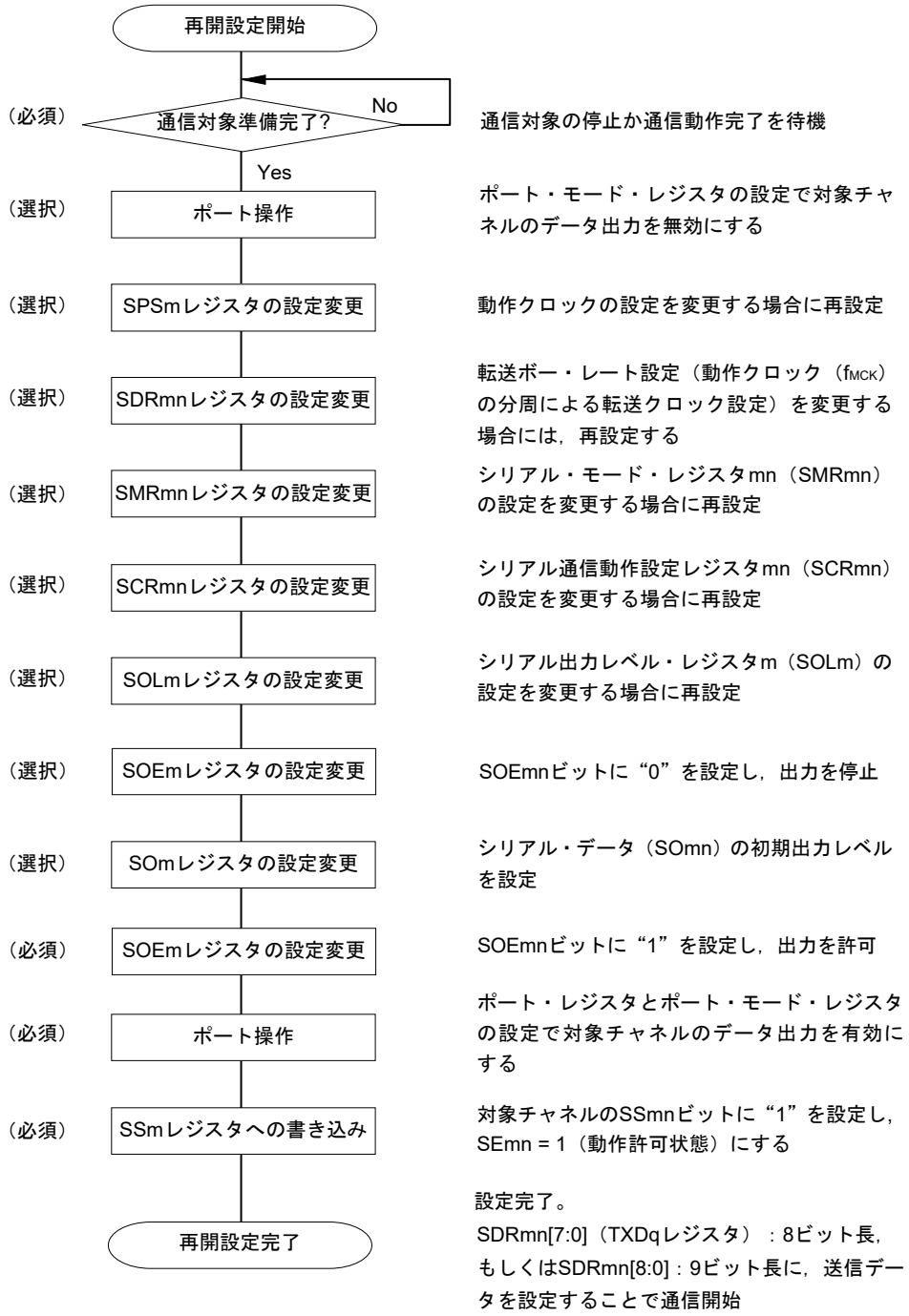


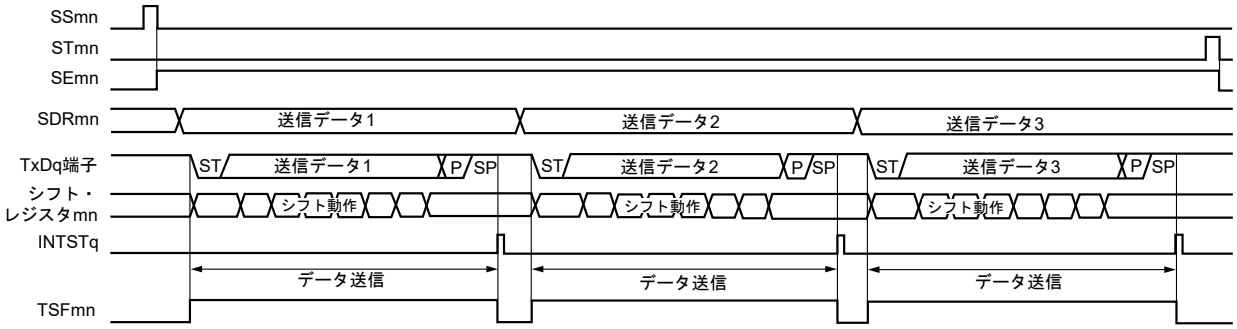
図18－79　UART送信の再開設定手順




**備考**　中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には，通信対象の停止か通信動作完了を待って，再開設定ではなく初期設定をしてください。

（3）処理フロー（シングル送信モード時）

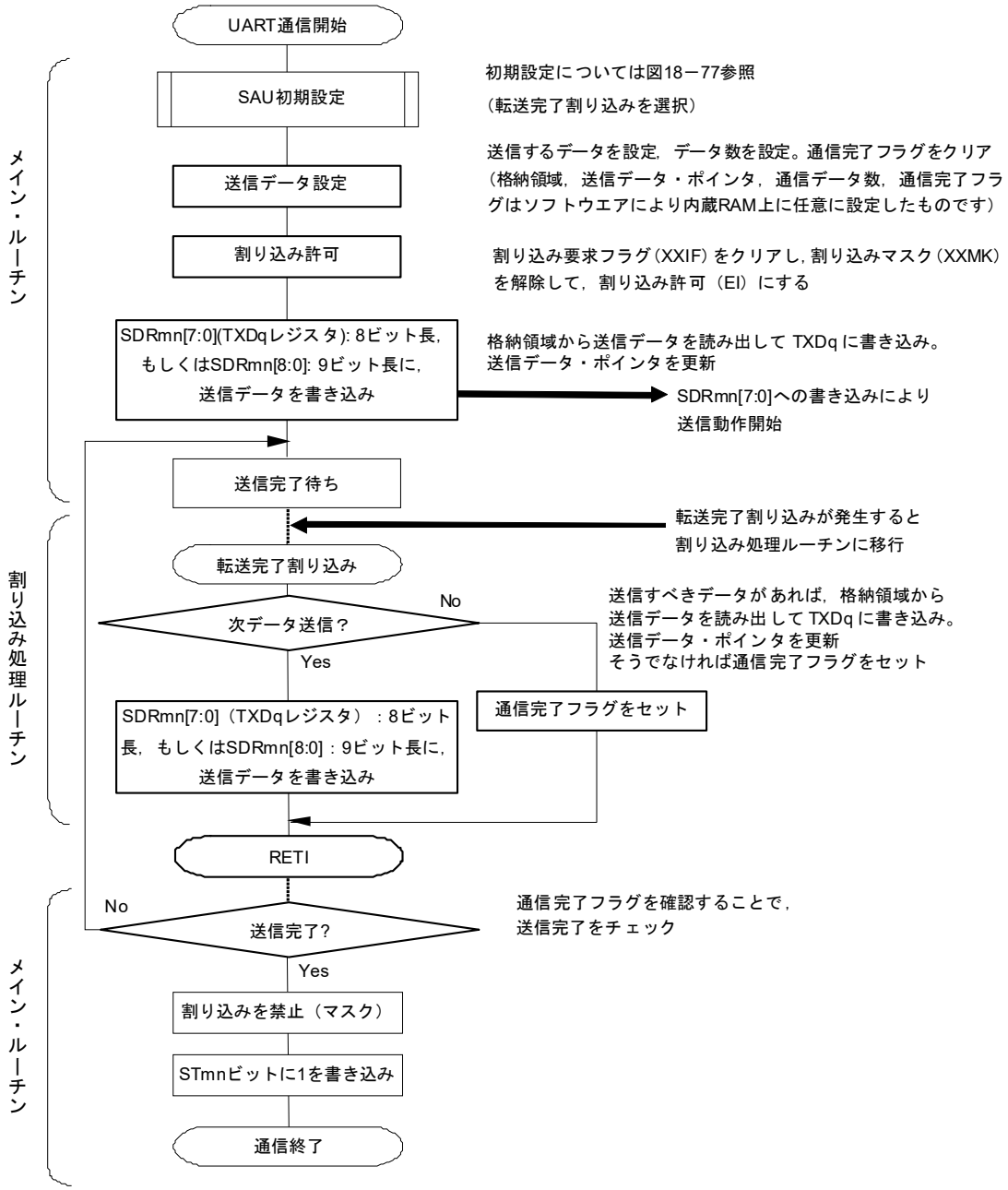
図18－80　UART送信（シングル送信モード時）のタイミング・チャート




備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　q：UART番号（q = 0-2）

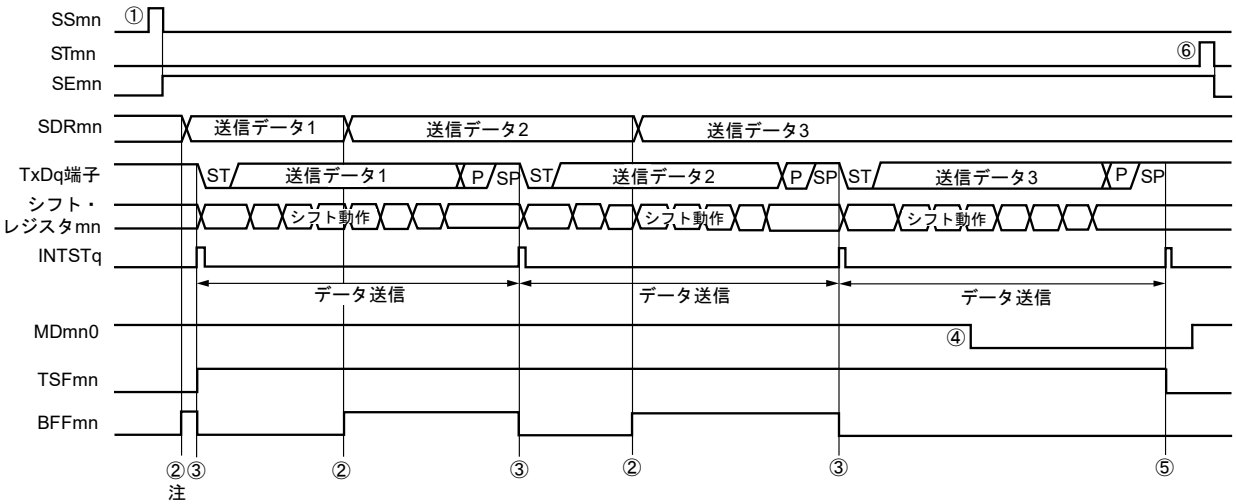
mn = 00, 02, 10

図18－81　UART送信（シングル送信モード時）のフロー・チャート



（4）処理フロー（連続送信モード時）

図18－82　UART送信（連続送信モード時）のタイミング・チャート

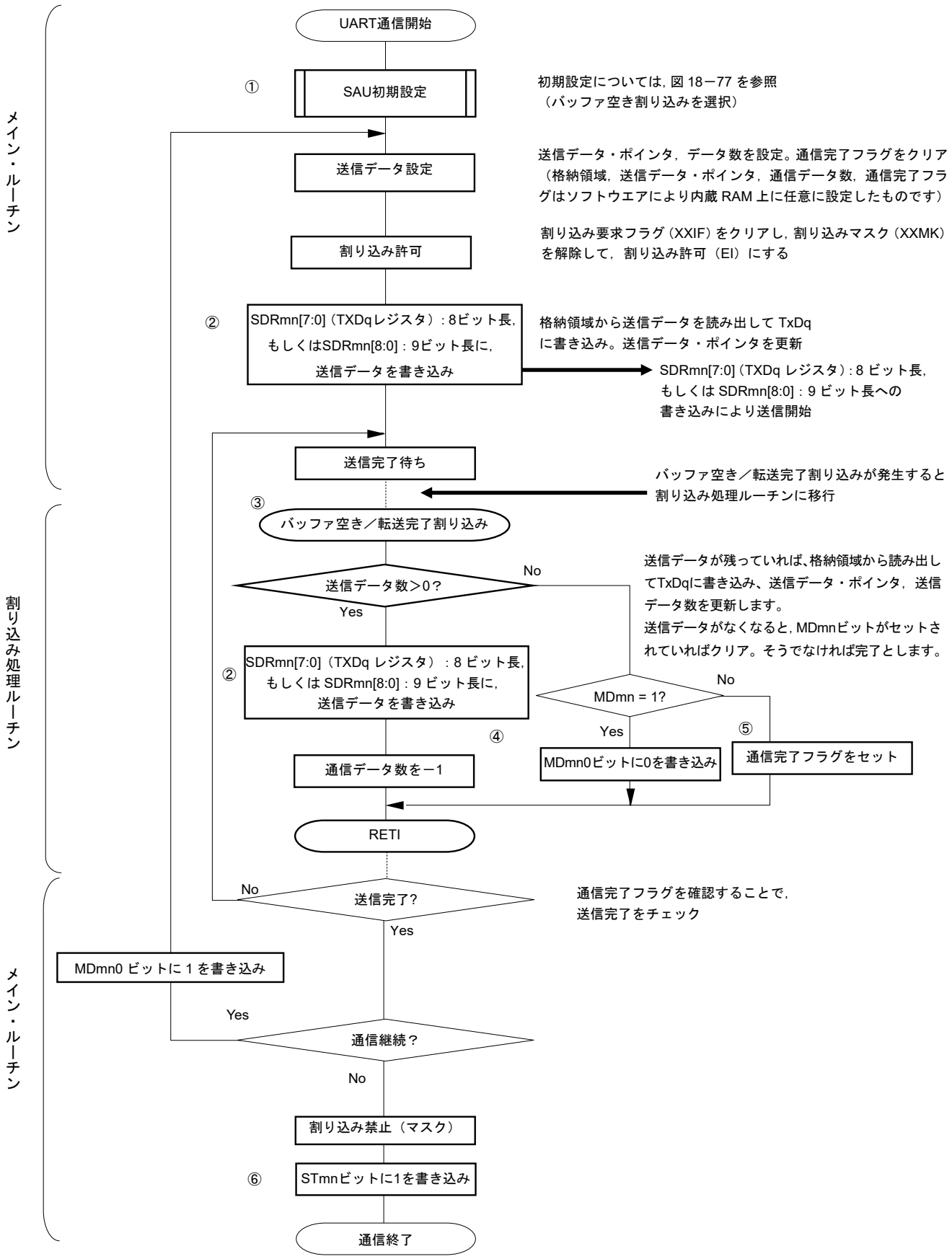



注　シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）に格納されているとき）にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと，送信データが上書きされます。

注意　シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のMDmn0ビットは，動作中でも書き換えることができます。ただし，最後の送信データの転送完了割り込みに間に合わせるために，最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　q：UART番号（q = 0-2）
mn = 00, 02, 10

図18－83　UART送信（連続送信モード時）のフロー・チャート




備考　図中の①~⑥は，図18－82　UART送信（連続送信モード時）のタイミング・チャートの①~⑥に対応しています。

### 18. 6. 2　UART受信

UART受信は，他デバイスからRL78マイクロコントローラが非同期（調歩同期）でデータを受信する動作です。

UART受信では，そのUARTに使用する2チャネルのうち，奇数チャネルのほうを使用します。ただし，SMRレジスタは，偶数チャネルと奇数チャネルの両方のレジスタを設定する必要があります。

| UART | UART0 | UART1 | UART2 |
|---|---|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル1 | SAU0のチャネル3 | SAU1のチャネル1 |
| 使用端子 | RxD0 | RxD1 | RxD2 |
| 割り込み | INTSR0 | INTSR1 | INTSR2 |
| | 転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは設定禁止） | | |
| エラー割り込み | INTSRE0 | INTSRE1 | INTSRE2 |
| エラー検出フラグ | ・フレーミング・エラー検出フラグ（FEFmn）<br>・パリティ・エラー検出フラグ（PEFmn）<br>・オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn） | | |
| 転送データ長 | 7ビットまたは8ビットまたは9ビット注1 | | |
| 転送レート | Max. $f_{MCK}$/6 [bps]（SDRmn[15:9] = 2以上），Min. $f_{CLK}$/（$2 \times 2^{15} \times 128$）[bps] 注2 | | |
| データ位相 | 非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル）<br>反転出力（デフォルト：ロウ・レベル） | | |
| パリティ・ビット | 以下の選択が可能<br>・パリティ・ビットなし（パリティ・チェックなし）<br>・パリティ判定なし（0パリティ）<br>・偶数パリティ・チェック<br>・奇数パリティ・チェック | | |
| ストップ・ビット | 1ビット付加 | | |
| データ方向 | MSBファーストまたはLSBファースト | | |

注1.　9ビット・データ長は，UART0のみ対応しています。

2.　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

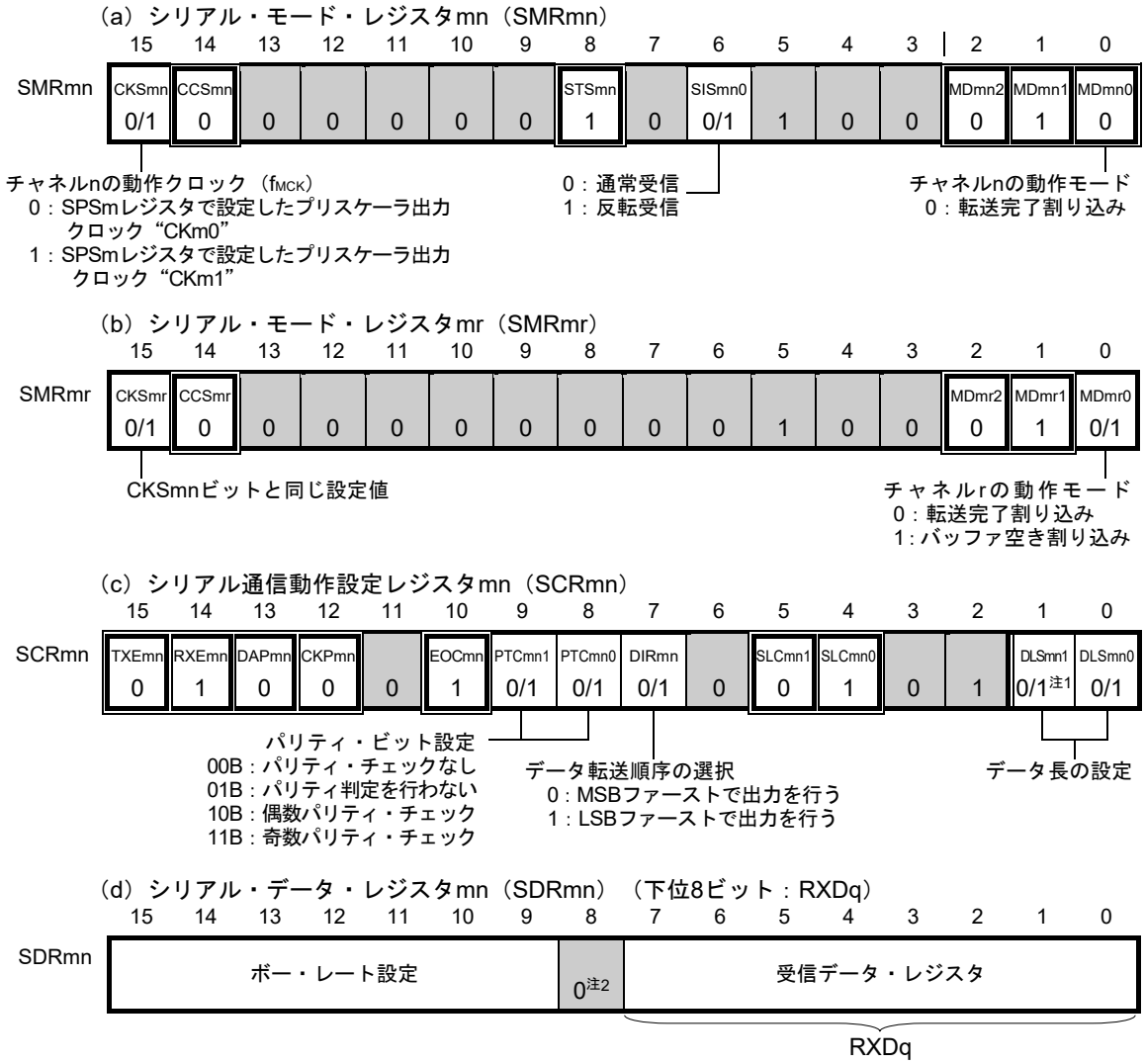
備考1.　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数

$f_{CLK}$：システム・クロック周波数

2.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 1, 3）　mn = 01, 03, 11

（1）レジスタ設定

図18－84　UART（UART0-UART2）のUART受信時のレジスタ設定内容例（1/2）




注 1.　SCR00, SCR01, SCR10, SCR11レジスタのみ。その他は1固定になります。

2.　9ビット・データ長での通信を行う場合は，SDRm1レジスタのビット0-8が送信データ設定領域になります。9ビット・データ長での通信が行えるのは，UART0のみです。

注意　UART受信時は，チャネルnとペアになるチャネルrのSMRmrレジスタも必ずUART送信モードに設定してください。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 1, 3）　mn = 01, 03, 11

r：チャネル番号（r = n－1）　q：UART番号（q = 0-2）

2.　□：UART受信モードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

図18－84　UART（UART0-UART2）のUART受信時のレジスタ設定内容例（2/2）

（e）シリアル出力レジスタm（SOm）・・・このモードでは使用しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | CKOm0 注 × | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | SOm2 注 × | 1 | SOm0 × |

（f）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）・・・このモードでは使用しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SOEm2 注 × | 0 | SOEm0 × |

（g）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SSm3 注 0/1 | SSm2 注 × | SSm1 0/1 | SSm0 × |

注　シリアル・アレイ・ユニット0のみ

注意　UART受信時は，チャネルnとペアになるチャネルrのSMRmrレジスタも必ずUART送信モードに設定してください。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 1, 3）　mn = 01, 03, 11

r：チャネル番号（r = n－1）　q：UART番号（q = 0-2）

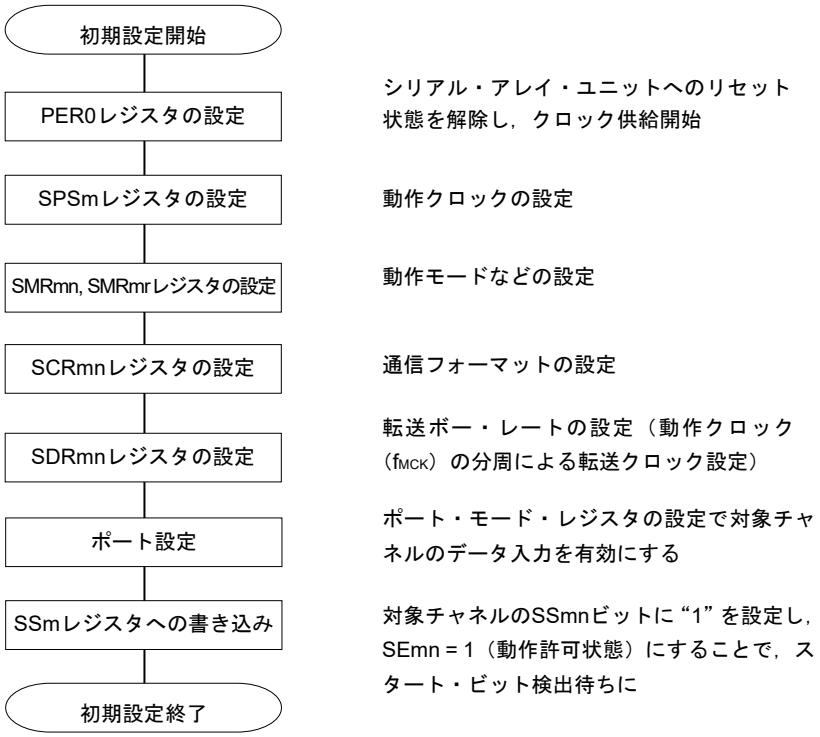
2.　□: UART受信モードでは設定固定　■: 設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）操作手順

図18－85　UART受信の初期設定手順




注意　SCRmnレジスタのRXEmnビットを“1”に設定後に，$f_{MCK}$の4クロック以上間隔をあけてからSSmn = 1を設定してください。

図18－86　UART受信の中断手順

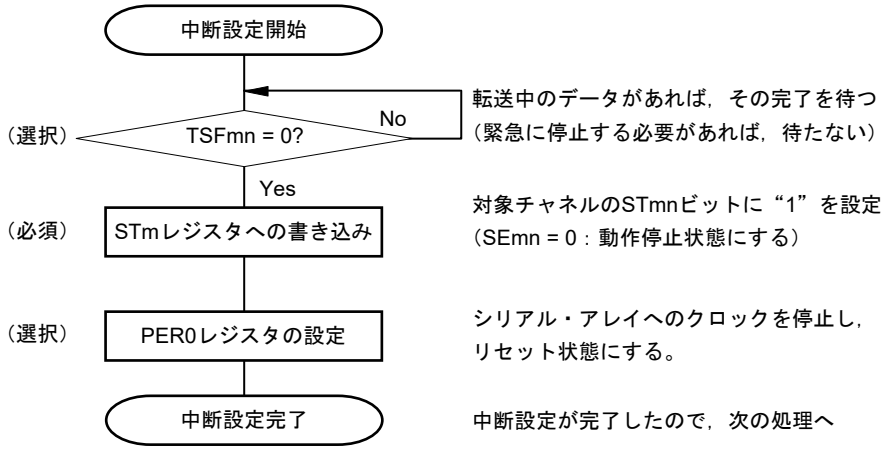
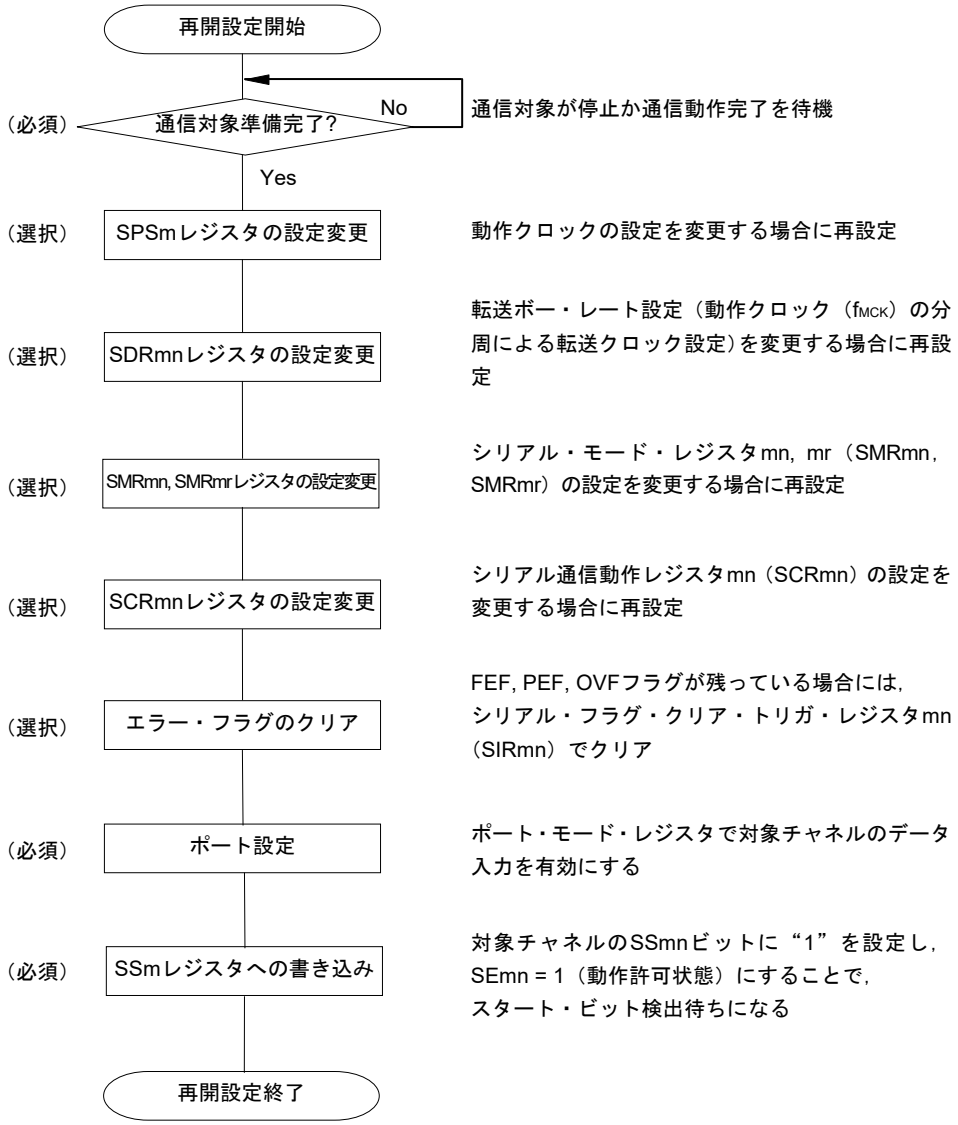


図18－87　UART受信の再開設定手順

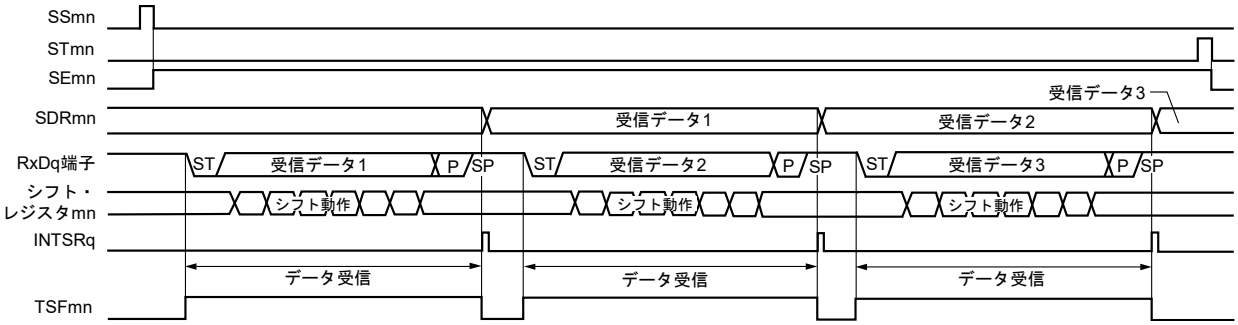



注意　SCRmnレジスタのRXEmnビットを“1”に設定後に，$f_{MCK}$の4クロック以上間隔をあけてからSSmn = 1を設定してください。

備考　中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には，通信対象の停止か通信動作完了を待って，再開設定ではなく初期設定をしてください。

（3）処理フロー

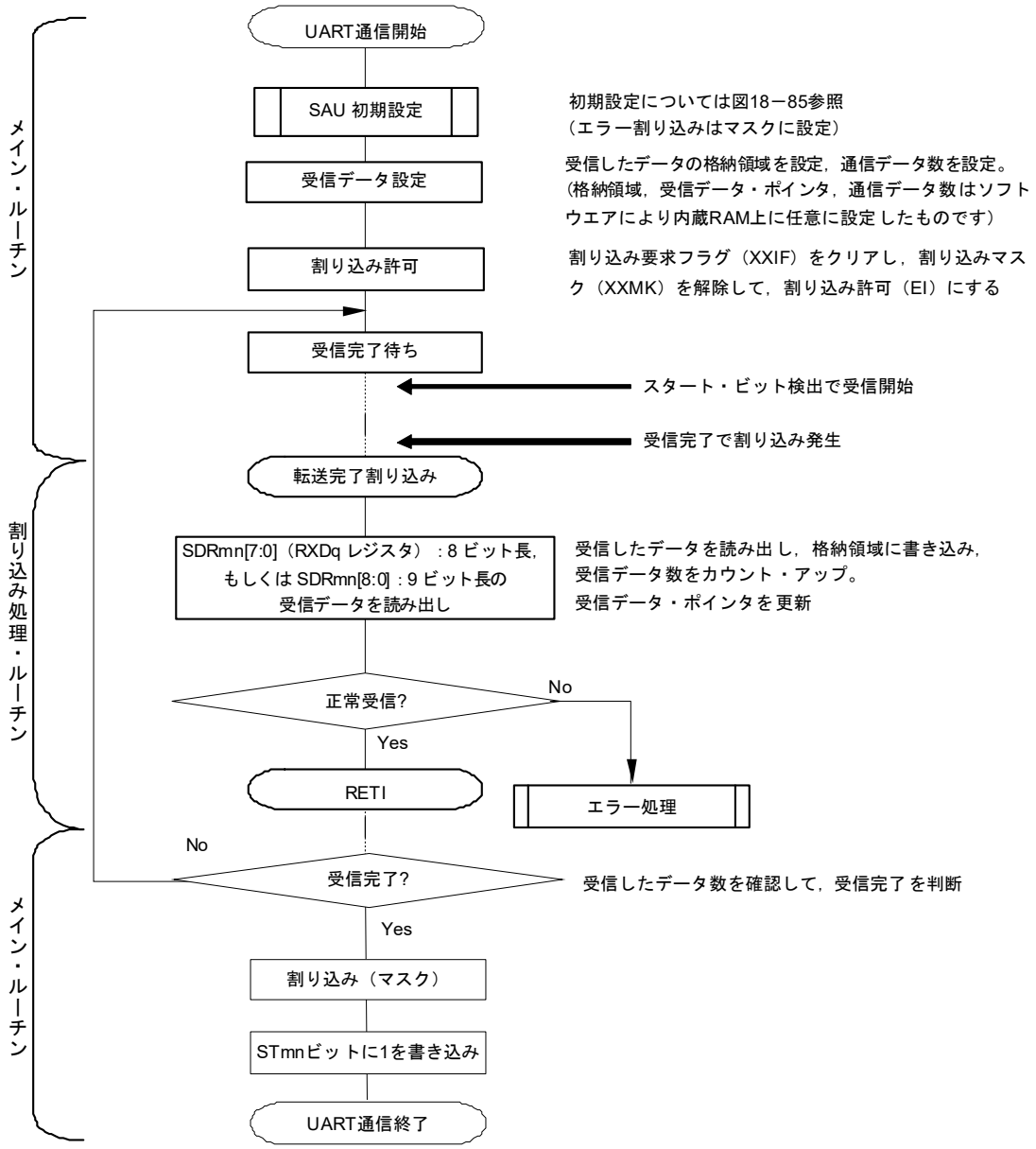
図18－88　UART受信のタイミング・チャート




備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 1, 3）　mn = 01, 03, 11

r：チャネル番号（r = n－1）　q：UART番号（q = 0-2）

図18－89　UART受信のフロー・チャート



### 18. 6. 3　SNOOZEモード機能

STOPモード時にRxDq端子入力の検出によりUARTの受信動作をさせるモードです。通常STOP時にUARTは通信動作を停止しますが，SNOOZEモード機能を使用することで，CPUを動作させずにUARTの受信動作を行うことができます。SNOOZEモードは，UART0のみ設定可能です。

UARTqをSNOOZEモードで使用する場合は，STOPモードに移行する前に次の設定を行います。（図18－92，図18－94　SNOOZEモード動作時のフローチャートを参照）

- SNOOZEモード時は，UART受信ボー・レートの設定を通常動作時とは異なる値に変更する必要があります。表18－3を参照してSPSmレジスタ，SDRmnレジスタ[15:9]を設定してください。
- EOCmnビット，SSECmnビットを設定します。通信エラーが発生した場合にエラー割り込み（INTSRE0）の発生許可／停止を設定することができます。
- STOPモードに移行する直前にシリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm（SSCm）のSWCmビットをセット（1）してください。初期設定完了後，シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）のSSm1ビットをセット（1）します。
- STOPモードに移行後，RxDq のスタート・ビット入力を検出すると，UARTqは受信動作を開始します。

注意1.　SNOOZEモードは，$f_{CLK}$に高速オンチップ・オシレータ・クロックを選択している場合のみ設定可能です。

2.　UARTqをSNOOZEモードで使用するときの最大転送レートは4800 bpsです。

3.　SWCm=1の設定では，STOPモード中に受信開始した時のみUARTqを使用できます。他のSNOOZE機能や割り込みと同時に使用して，次のようなSTOPモード以外の状態で受信開始した場合は，正しくデータ受信できず，フレーミング・エラーもしくはパリティ・エラーが発生することがあります。

- SWCm=1に設定後，STOPモードに移行する前に受信開始した場合
- 他のSNOOZEモード中に受信開始した場合
- STOPモードから割り込みなどで通常動作に復帰後，SWCm=0に戻す前に受信開始した場合

4.　SSECm=1の設定では，パリティ・エラー，フレーミング・エラー，オーバラン・エラー時にPEFmn，FEFmn，OVFmnフラグはセットされず，エラー割り込み（INTSREq）も発生しません。そのため，SSECm＝１で使用するときは，SWC0=１に設定する前にPEFmn，FEFmn，OVFmnフラグをクリアし，また，SDRm1レジスタのビット7-0（RxDq）を読み出してください。

5.　RxDq端子の有効エッジ検出によりSNOOZEモードへ移行します。
また，スタート・ビット入力を検出できないような短いパルスを受けるとUART受信が開始されず，SNOOZEモードを継続することがあります。この場合，次のUART受信で正しくデータ受信できず，フレーミング・エラーもしくはパリティ・エラーが発生することがあります。

表18－3　SNOOZEモード時のUART受信ボー・レート設定

| 高速オンチップ・オシレータ（$f_{IH}$） | SNOOZEモード時のUART受信ボー・レート | | | |
|---|---|---|---|---|
| | ボー・レート4800 bps | | | |
| | 動作クロック（$f_{MCK}$） | SDRmn [15:9] | 最大許容値 | 最小許容値 |
| 24MHz±1.0%注 | $f_{CLK}/2^5$ | 79 | 1.60% | - 2.18% |
| 12MHz±1.0%注 | $f_{CLK}/2^4$ | 79 | 1.60% | - 2.19% |
| 6MHz±1.0%注 | $f_{CLK}/2^3$ | 79 | 1.60% | - 2.19% |
| 3MHz±1.0%注 | $f_{CLK}/2^2$ | 79 | 1.60% | - 2.19% |

注　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数精度が±1.5%の場合は，次のように許容範囲が狭くなります。

・$f_{IH}$±1.5%の場合は，上表の最大許容値に－0.5%，最小許容値に＋0.5%してください。

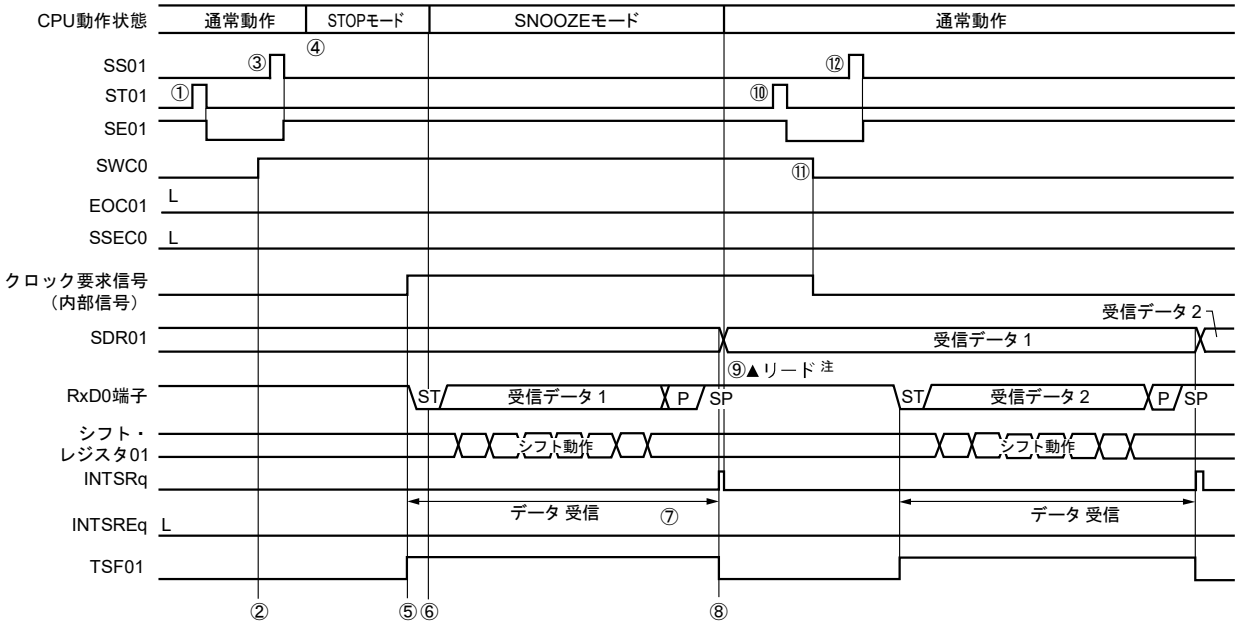
備考　最大許容値，最小許容値は，UART受信時のボー・レート許容値です。

この範囲に送信側のボー・レートが収まるように設定してください。

（1）SNOOZEモード動作（EOCm1 = 0, SSECm = 0/1）

EOCm1 = 0のためSSECmビットの設定にかかわらず，通信エラーが発生してもエラー割り込み（INTSREq）は発生しません。転送完了割り込み（INTSRq）は発生します。

図18－90　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 0, SSECm = 0/1）時のタイミング・チャート




注　SWCm = 1の状態で，受信データの読み出しを行ってください。

注意　SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは，必ずSTm1ビットを1に設定してください（SEm1ビットがクリアされ動作停止）。
また，受信動作を完了した後は，SWCmビットもクリアしてください（SNOOZE解除）。

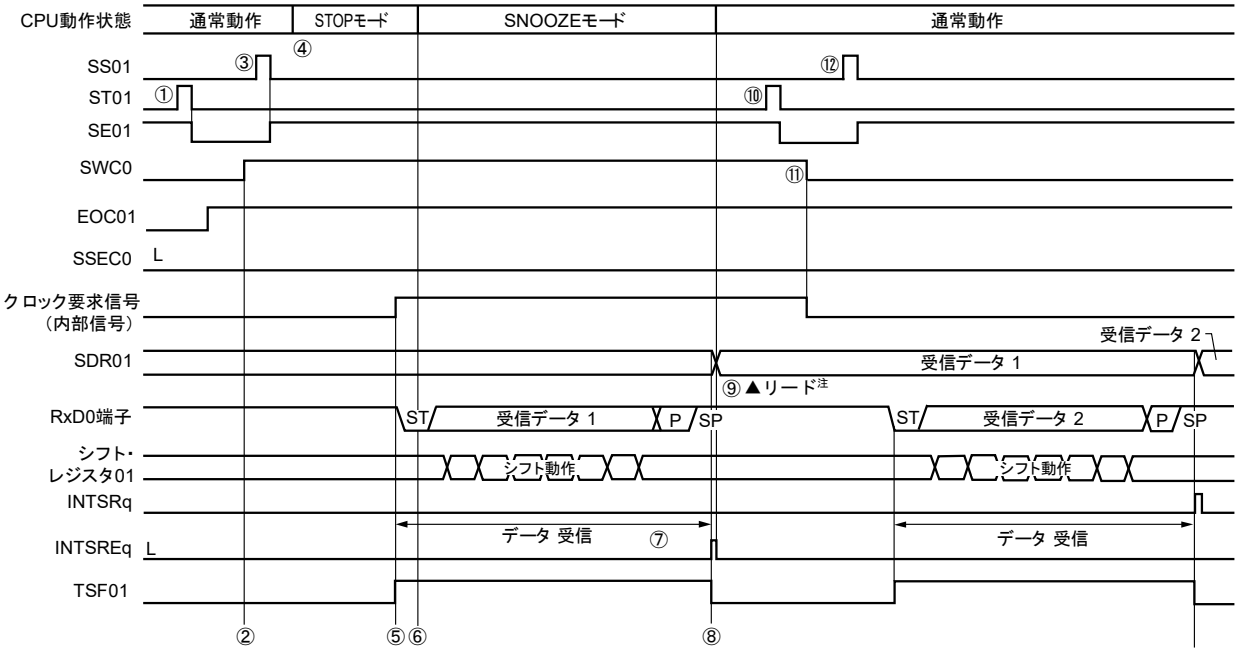
備考1.　図中の①~⑫は，図18－92　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 0, SSECm = 0/1もしくはEOCm1 = 1, SSECm = 0）時のフロー・チャートの①~⑫に対応しています。

2.　m = 0; q = 0

（2）SNOOZEモード動作（EOCm1 = 1, SSECm = 0：エラー割り込み（INTSREq）発生許可）

EOCm1 = 1, SSECm = 0のため，通信エラーが発生した場合にエラー割り込み（INTSREq）を発生します。

図18－91　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 1, SSECm = 0）時のタイミング・チャート




注　SWCm = 1の状態で，受信データの読み出しを行ってください。

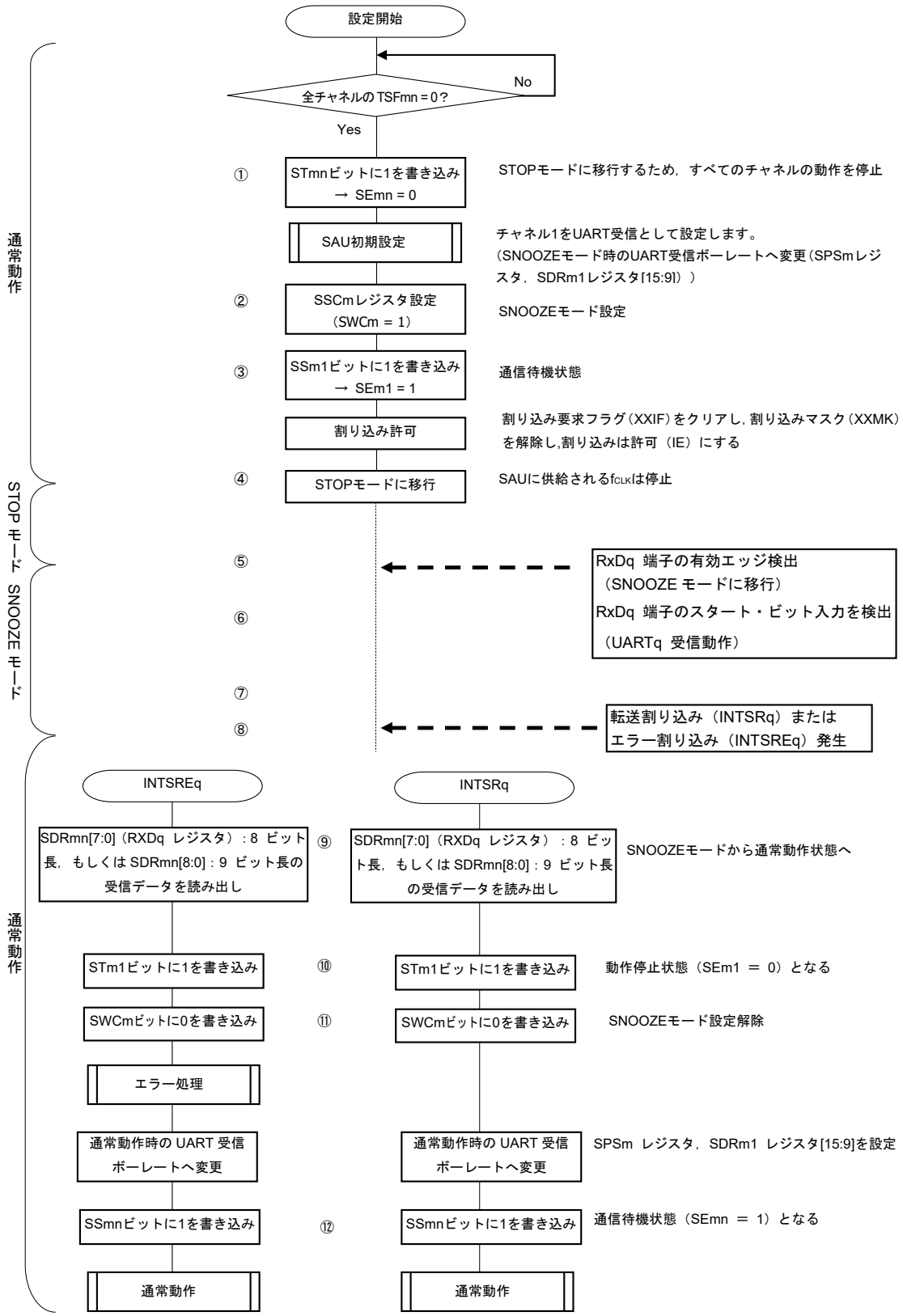
注意　SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは，必ずSTm1ビットを1に設定してください（SEm1ビットがクリアされ動作停止）。

また，受信動作を完了した後は，SWCmビットもクリアしてください（SNOOZE解除）。

備考1.　図中の①~⑫は，図18－92　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 0, SSECm = 0/1もしくはEOCm1 = 1, SSECm = 0）時のフロー・チャートの①~⑫に対応しています。

2.　m = 0; q = 0

図18－92　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 0, SSECm = 0/1もしくはEOCm1 = 1, SSECm = 0）時のフロー・チャート



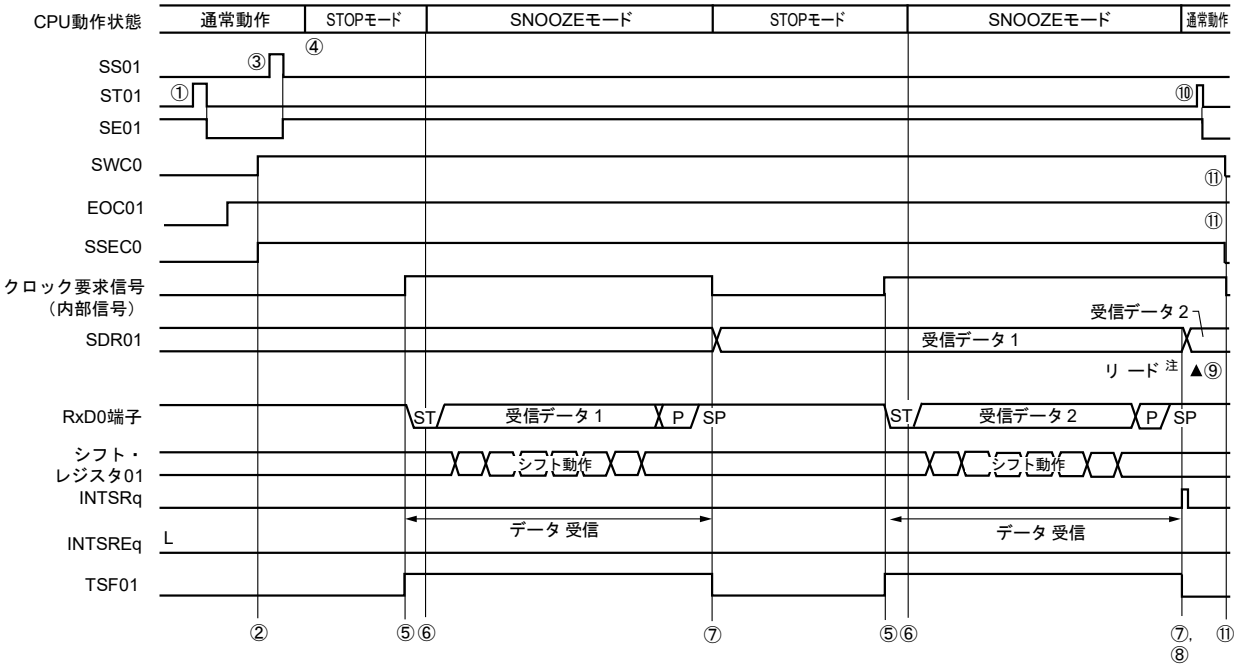

備考1.　図中の①~⑫は，図18－90　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 0, SSECm = 0/1）時のタイミング・チャート，図18－91　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 1, SSECm = 0）時のタイミング・チャートの①~⑫に対応しています。

2.　m = 0; q = 0

（3）SNOOZEモード動作（EOCm1 = 1, SSECm = 1：エラー割り込み（INTSREq）発生停止）

EOCm1 = 1, SSECm = 1のため，通信エラーが発生した場合にエラー割り込み（INTSREq）を発生しません。

図18－93　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 1, SSECm = 1）時のタイミング・チャート




注　SWCm = 1の状態で，受信データの読み出しを行ってください。

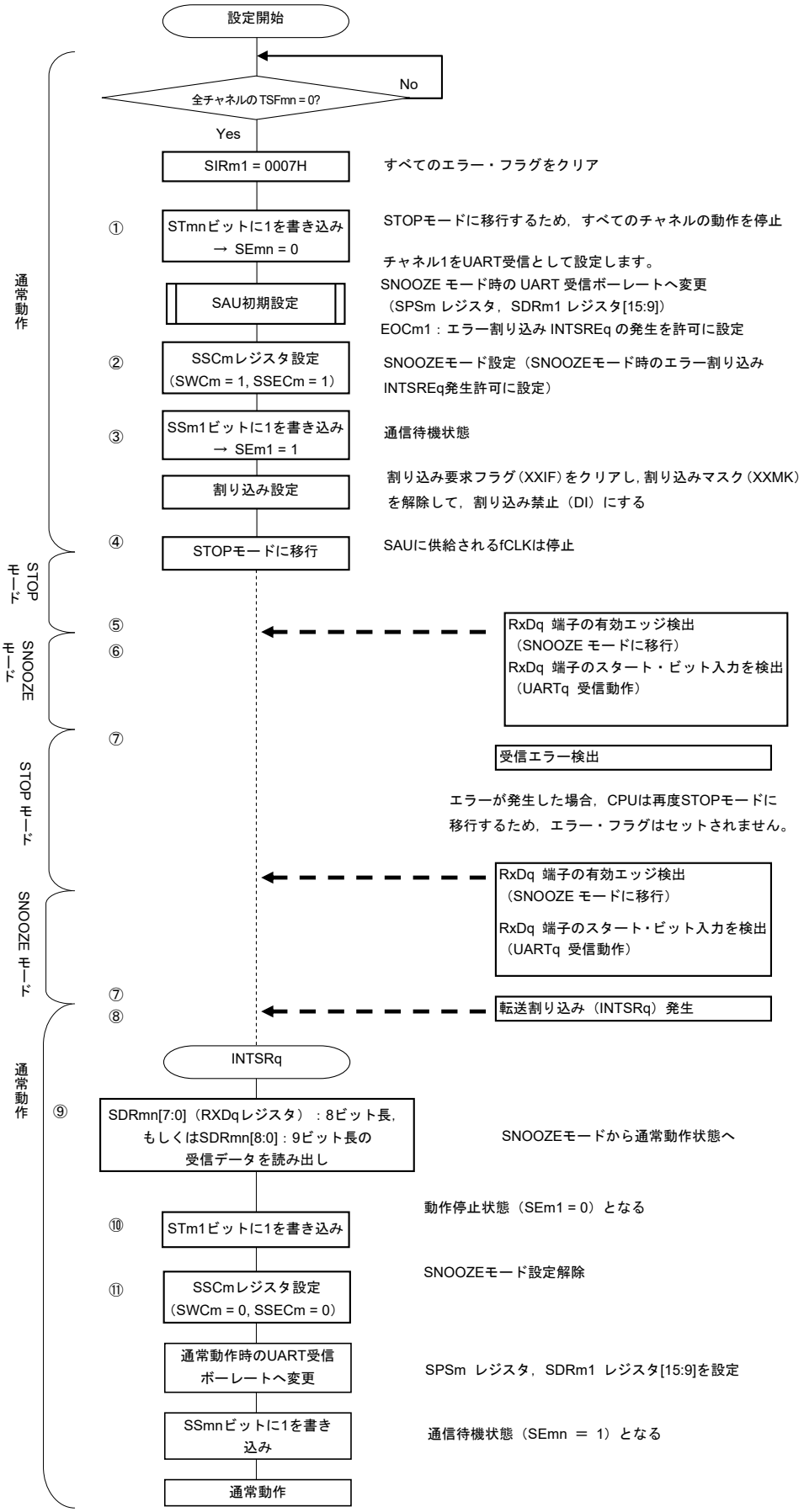
注意1.　SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは，必ずSTm1ビットを1に設定してください（SEm1ビットがクリアされ動作停止）。
また，受信動作を完了した後は，SWCmビットもクリアしてください（SNOOZE解除）。

2.　SSECm = 1のときは，パリティ・エラー，フレーミング・エラー，オーバラン・エラー時にPEFm1, FEFm1，OVFm1フラグはセットされず，エラー割り込み（INTSREq）も発生しません。そのため，SSECm = 1で使用するときは, SWCm = 1に設定する前にPEFm1, FEFm1, OVFm1フラグをクリアし，また，SDRm1[7:0]（RXDqレジスタ）：8ビット長，もしくはSDRm1[8:0]：9ビット長を読み出してください。

備考1.　図中の①~⑪は，図18－94　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 1, SSECm = 1）時のフロー・チャートの①~⑪に対応しています。

2.　m = 0; q = 0

図18－94　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 1, SSECm = 1）時のフロー・チャート




（注意，備考は次ページにあります。）

注意　SSECm = 1のときは，パリティ・エラー，フレーミング・エラー，オーバラン・エラー時にPEFm1, FEFm1, OVFm1フラグはセットされず，エラー割り込み（INTSREq）も発生しません。そのため，SSECm = 1で使用するときは，SWC0 = 1に設定する前にPEFm1，FEFm1，OVFm1フラグをクリアし，また，SDRm1[7:0]（RXDqレジスタ）：8ビット長，もしくはSDRm1[8:0]：9ビット長を読み出してください。

備考1.　図中の①~⑪は，図18－93　SNOOZEモード動作（EOCm1 = 1, SSECm = 1）時のタイミング・チャートの①~⑪に対応しています。

2.　m = 0; q = 0

### 18. 6. 4　ボー・レートの算出

（1）ボー・レート算出式

UART（UART0-UART2）通信でのボー・レートは下記の計算式にて算出できます。

| |
|---|
| （ボー・レート） ＝ {対象チャネルの動作クロック（$f_{MCK}$）周波数} ÷（SDRmn[15:9]＋1）÷ 2 [bps] |

注意　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）SDRmn[15:9] =（0000000B，0000001B）は設定禁止です。

備考1. UART使用時は，SDRmn[15:9]はSDRmnレジスタのビット15-9の値（0000010B-1111111B）なので，2-127になります。

2. m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-2）　mn = 00-03, 10, 11

動作クロック（$f_{MCK}$）は，シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のビット15（CKSmnビット）で決まります。

表18－4　UART動作クロックの選択

| SMRmn レジスタ | SPSmレジスタ | | | | | | | | 動作クロック（$f_{MCK}$）注 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CKSmn | PRS m13 | PRS m12 | PRS m11 | PRS m10 | PRS m03 | PRS m02 | PRS m01 | PRS m00 | | $f_{CLK}$ = 24 MHz 動作時 |
| 0 | X | X | X | X | 0 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}$ | 24 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2$ | 12 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^2$ | 6 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^3$ | 3 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^4$ | 1.5 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^5$ | 750 kHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^6$ | 375 kHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^7$ | 187.5 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^8$ | 93.8 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^9$ | 46.9 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{10}$ | 23.4 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{11}$ | 11.7 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^{12}$ | 5.86 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^{13}$ | 2.93 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{14}$ | 1.46 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{15}$ | 732 Hz |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}$ | 24 MHz |
| | 0 | 0 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2$ | 12 MHz |
| | 0 | 0 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^2$ | 6 MHz |
| | 0 | 0 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^3$ | 3 MHz |
| | 0 | 1 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^4$ | 1.5 MHz |
| | 0 | 1 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^5$ | 750 kHz |
| | 0 | 1 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^6$ | 375 kHz |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^7$ | 187.5 kHz |
| | 1 | 0 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^8$ | 93.8 kHz |
| | 1 | 0 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^9$ | 46.9 kHz |
| | 1 | 0 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{10}$ | 23.4 kHz |
| | 1 | 0 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{11}$ | 11.7 kHz |
| | 1 | 1 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{12}$ | 5.86 kHz |
| | 1 | 1 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{13}$ | 2.93 kHz |
| | 1 | 1 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{14}$ | 1.46 kHz |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{15}$ | 732 Hz |

注　$f_{CLK}$に選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は，シリアル・アレイ・ユニット（SAU）の動作を停止（シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）　= 000FH）させてから変更してください。

備考1.　X：Don’t care

2.　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

（2）送信時のボー・レート誤差

UART（UART0-UART2）通信での，送信時のボー・レート誤差は，下記の計算式にて算出できます。送信側のボー・レートが，受信側の許容ボー・レート範囲内に収まるように設定してください。

（ボー・レート誤差）　=　（算出ボー・レート値）÷（目標ボー・レート値）×　100　－　100 [%]

$f_{CLK}$ = 24 MHzの場合のUARTボー・レート設定例を示します。

| UARTボー・レート（目標ボー・レート） | $f_{CLK}$ = 24 MHz時 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 動作クロック（$f_{MCK}$） | SDRmn[15:9] | 算出ボー・レート | 目標ボー・レートとの誤差 |
| 300 bps | $f_{CLK}/2^9$ | 77 | 300.48 bps | +0.16 % |
| 600 bps | $f_{CLK}/2^8$ | 77 | 600.96 bps | +0.16 % |
| 1200 bps | $f_{CLK}/2^7$ | 77 | 1201.92 bps | +0.16 % |
| 2400 bps | $f_{CLK}/2^6$ | 77 | 2403.85 bps | +0.16 % |
| 4800 bps | $f_{CLK}/2^5$ | 77 | 4807.69 bps | +0.16 % |
| 9600 bps | $f_{CLK}/2^4$ | 77 | 9615.38 bps | +0.16 % |
| 19200 bps | $f_{CLK}/2^3$ | 77 | 19230.8 bps | +0.16 % |
| 31250 bps | $f_{CLK}/2^3$ | 47 | 31250.0 bps | ±0.0 % |
| 38400 bps | $f_{CLK}/2^2$ | 77 | 38461.5 bps | +0.16 % |
| 76800 bps | $f_{CLK}/2$ | 77 | 76923.1 bps | +0.16 % |
| 153600 bps | $f_{CLK}$ | 77 | 153846 bps | +0.16 % |
| 312500 bps | $f_{CLK}$ | 37 | 315789 bps | +1.05 % |

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00, 02, 10

(3) 受信時のボー・レート許容範囲

UART（UART0-UART2）通信での，受信時のボー・レート許容範囲は，下記の計算式にて算出できます。受信側の許容ボー・レート範囲に送信側のボー・レートが収まるように設定してください。

$$（受信可能な最大ボー・レート）= \frac{2 \times k \times Nfr}{2 \times k \times Nfr - k + 2} \times Brate$$

$$（受信可能な最小ボー・レート）= \frac{2 \times k \times (Nfr - 1)}{2 \times k \times Nfr - k - 2} \times Brate$$

Brate ：受信側の算出ボー・レート値（18. 6. 4（1）ボー・レート算出式参照）

k ：SDRmn[15:9] ＋1

Nfr ：1データ・フレーム長［ビット］

=（スタート・ビット）＋（データ長）＋（パリティ・ビット）＋（ストップ・ビット）

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 1, 3）　mn = 01, 03, 11

図18－95　受信時の許容ボー・レート範囲（1データ・フレーム長 = 11ビットの場合）

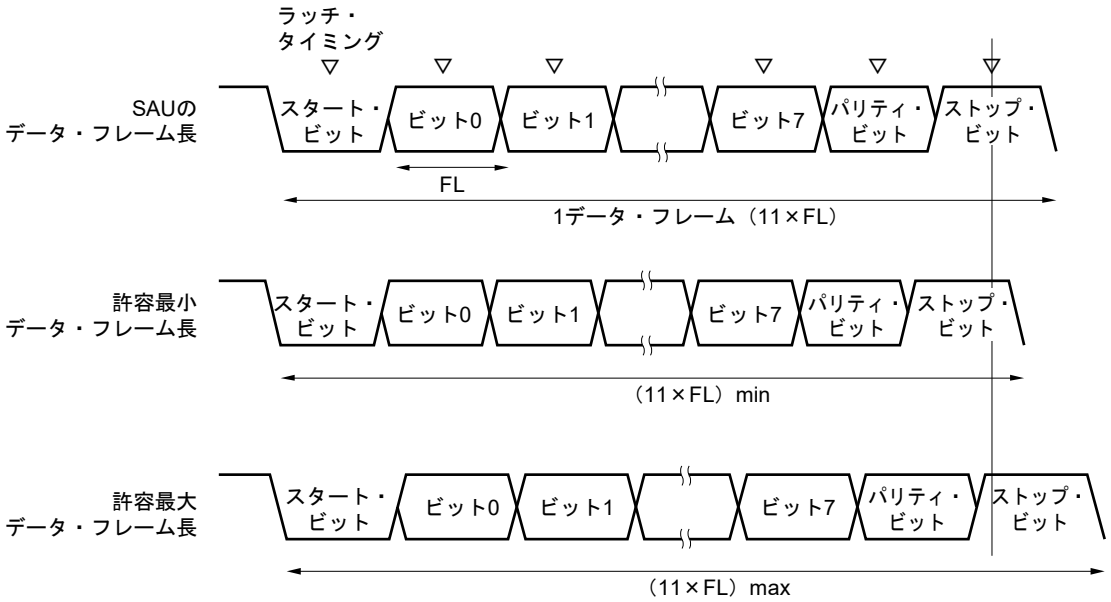



図18－95に示すように，スタート・ビット検出後はシリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）のビット15-9で設定した分周比により，受信データのラッチ・タイミングが決定されます。このラッチ・タイミングに最終データ（ストップ・ビット）までが間に合えば正常に受信できます。

### 18. 6. 5　UART（UART0-UART2）通信時におけるエラー発生時の処理手順

UART（UART0-UART2）通信時にエラーが発生した場合の処理手順を図18－96，図18－97に示します。

図18－96　パリティ・エラーおよびオーバラン・エラー発生時の処理手順

| ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 | 備考 |
|---|---|---|
| シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）をリードする | → SSRmnレジスタのBFFmnビットが“0”となり，チャネルnは受信可能状態になる | エラー処理中に次の受信を完了した場合にオーバラン・エラーになるのを防ぐために行う |
| シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）をリードする | | エラーの種類の判別を行い，リード値はエラー・フラグのクリアに使用する |
| シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）に“1”をライトする | → エラー・フラグがクリアされる | SSRmnレジスタのリード値をそのままSIRmnレジスタに書き込むことで，読み出し時のエラーのみをクリアできる |

図18－97　フレーミング・エラー発生時の処理手順

| ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 | 備考 |
|---|---|---|
| シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）をリードする | → SSRmnレジスタのBFFmnビットが“0”となり，チャネルnは受信可能状態になる | エラー処理中に次の受信を完了した場合にオーバラン・エラーになるのを防ぐために行う |
| シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）をリードする | | エラーの種類の判別を行い，リード値はエラー・フラグのクリアに使用する |
| シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）をライトする | → エラー・フラグがクリアされる | SSRmnレジスタのリード値をそのままSIRmnレジスタに書き込むことで，読み出し時のエラーのみをクリアできる |
| シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）のSTmnビットに“1”を設定する | → シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）のSEmnビットが“0”となり，チャネルnは動作停止状態になる | |
| 通信相手との同期処理を行う | | スタートがずれているためにフレーミング・エラーが起きたと考えられるため，通信相手との同期を取り直して通信を再開する |
| シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）のSSmnビットに“1”を設定する | → シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）のSEmnビットが“1”となり，チャネルnは動作許可状態になる | |

備考　m：ユニット番号（m = 0, 1）　n：チャネル番号（n = 0-3）　mn = 00-03, 10, 11

# 18. 7　LIN通信の動作

## 18. 7. 1　LIN送信

UART送信のうち，UART0はLIN通信に対応しています。

LIN送信では，ユニット0のチャネル0を使用します。

| UART | UART0 | UART1 | UART2 |
|---|---|---|---|
| LIN通信対応 | 可 | 不可 | 不可 |
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 | － | － |
| 使用端子 | TxD0 | － | － |
| 割り込み | INTST0 | － | － |
| | 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か，バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能 | | |
| エラー検出フラグ | なし | | |
| 転送データ長 | 8ビット | | |
| 転送レート | Max. $f_{MCK}$/6 [bps]（SDR00[15:9] = 2以上），Min. $f_{CLK}$/（2×$2^{15}$×128）[bps]注 | | |
| データ位相 | 非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル）<br>反転出力（デフォルト：ロウ・レベル） | | |
| パリティ・ビット | パリティ・ビットなし | | |
| ストップ・ビット | 1ビット付加 | | |
| データ方向 | LSBファースト | | |

注　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。なお，LIN通信では通常2.4/9.6/19.2 kbpsがよく用いられます。

備考　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数

$f_{CLK}$：システム・クロック周波数

LINとは，Local Interconnect Networkの略称で，車載ネットワークのコストダウンを目的とする低速（1～20 kbps）のシリアル通信プロトコルです。

LINの通信はシングル・マスタ通信で，1つのマスタに対し最大15のスレーブが接続可能です。

LINのスレーブは，スイッチ，アクチュエータ，センサなどの制御に使用され，これらがLINのネットワークを介してLINのマスタに接続されます。

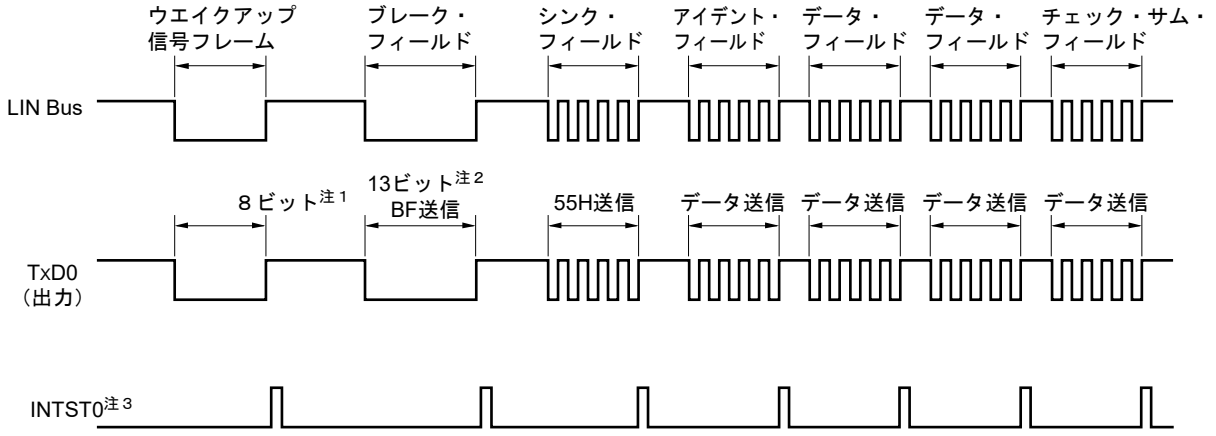
LINのマスタは通常，CAN（Controller Area Network）などのネットワークに接続されます。

また，LINバスはシングル・ワイヤ方式で，ISO9141に準拠したトランシーバを介して各ノードが接続されます。

LINのプロトコルでは，マスタはフレームにボー・レート情報をつけて送信し，スレーブはこれを受信してマスタとのボー・レート誤差を補正します。このため，スレーブのボー・レート誤差が±15 %以下であれば，通信可能です。

LINのマスタ送信操作の概略を，図18－98に示します。

図18－98　LINの送信操作




注1. ウエイクアップ信号の規定を満たせるようにボー・レートを設定し，80Hのデータ送信をすることで対応します。

2. ブレーク・フィールドは13ビット幅のロウ・レベル出力と規定されているので，メイン転送で使用するボー・レートをN [bps]とすると，ブレーク・フィールドで使用するボー・レートは次のようになります。

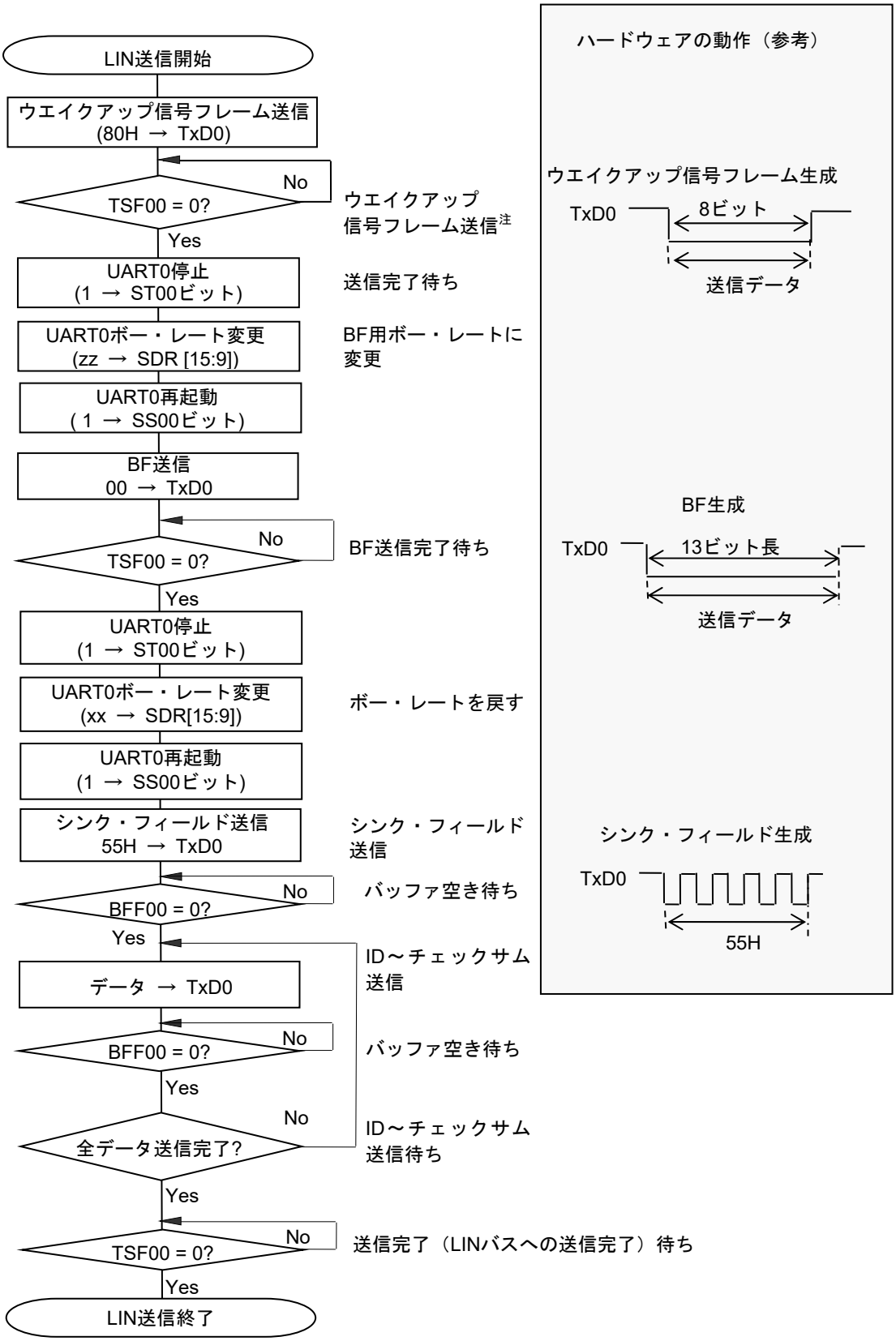
   （ブレーク・フィールド時のボー・レート）　= 9/13×N

   このボー・レートで00Hのデータ送信をすることでブレーク・フィールドを生成します。

3. 各送信終了時にはINTST0を出力します。またBF送信時もINTST0を出力します。

備考　各フィールド間の間隔はソフトウエアで制御します。

図18－99　LIN送信のフロー・チャート




注　LIN-busがスリープ状態からの起動時のみ

備考　UARTの初期設定は完了し，送信許可状態からのフローです。

### 18. 7. 2　LIN受信

UART受信のうち，UART0はLIN通信に対応しています。

LIN受信では，ユニット1のチャネル1を使用します。

| UART | UART0 | UART1 | UART2 |
|---|---|---|---|
| LIN通信対応 | 可 | 不可 | 不可 |
| 対象チャネル | SAU0のチャネル1 | － | － |
| 使用端子 | RxD0 | － | － |
| 割り込み | INTSR0 | － | － |
| | 転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは設定禁止） | | |
| エラー割り込み | INTSRE0 | － | － |
| エラー検出フラグ | ・フレーミング・エラー検出フラグ（FEF01）<br>・オーバラン・エラー検出フラグ（OVF01） | | |
| 転送データ長 | 8ビット | | |
| 転送レート | Max. $f_{MCK}$/6 [bps]（SDR01[15:9] = 2以上），Min. $f_{CLK}$/（2×$2^{15}$×128）[bps]注 | | |
| データ位相 | 非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル）<br>反転出力（デフォルト：ロウ・レベル） | | |
| パリティ・ビット | パリティ・ビットなし（パリティ・チェックしない） | | |
| ストップ・ビット | 1ビット目チェック | | |
| データ方向 | LSBファースト | | |

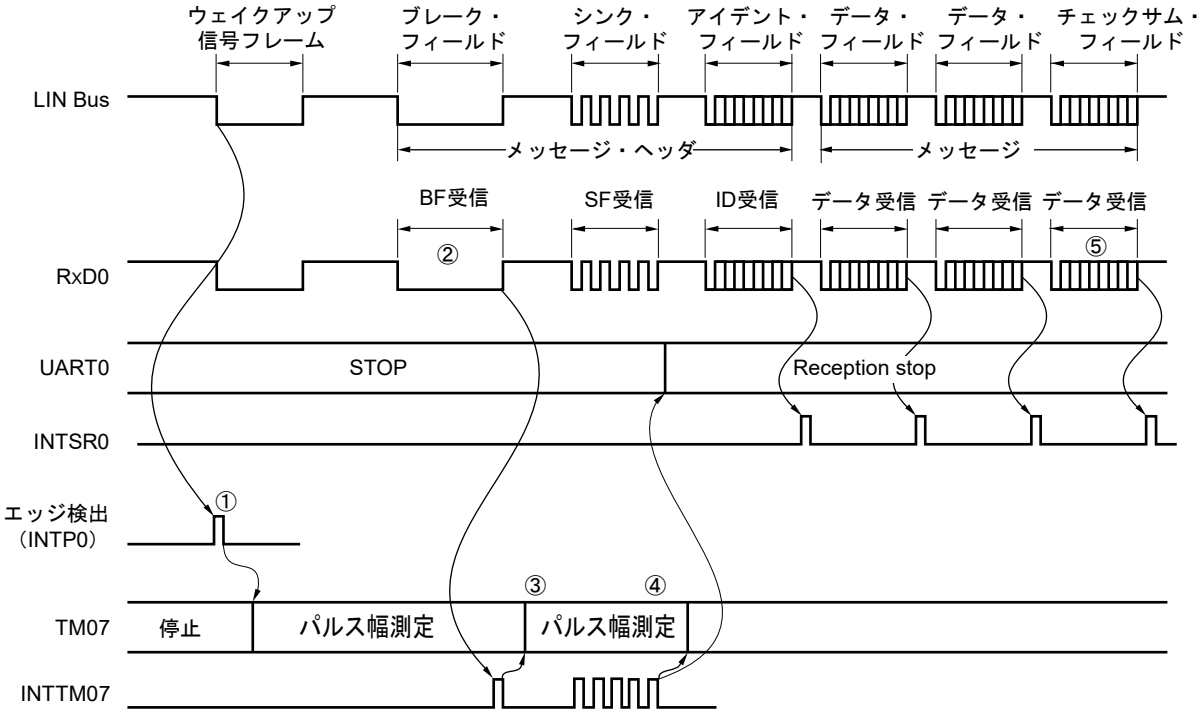
注　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数

$f_{CLK}$：システム・クロック周波数

LINの受信操作の概略を，図18－100に示します。

図18－100　LINの受信操作




受信処理の流れを次に示します。

① ウエイクアップ信号の検出は，端子の割り込みエッジ検出（INTP0）で行います。ウエイクアップ信号を検出したら，TM07をBFのロウ・レベル幅測定のためにパルス幅測定に設定して，BF受信待ち状態にします。

② BFの立ち下がりを検出したら，TM07はロウ・レベル幅の測定を開始し，立ち上がりでキャプチャを行います。キャプチャされた値からBF信号かどうかの判定を行います。

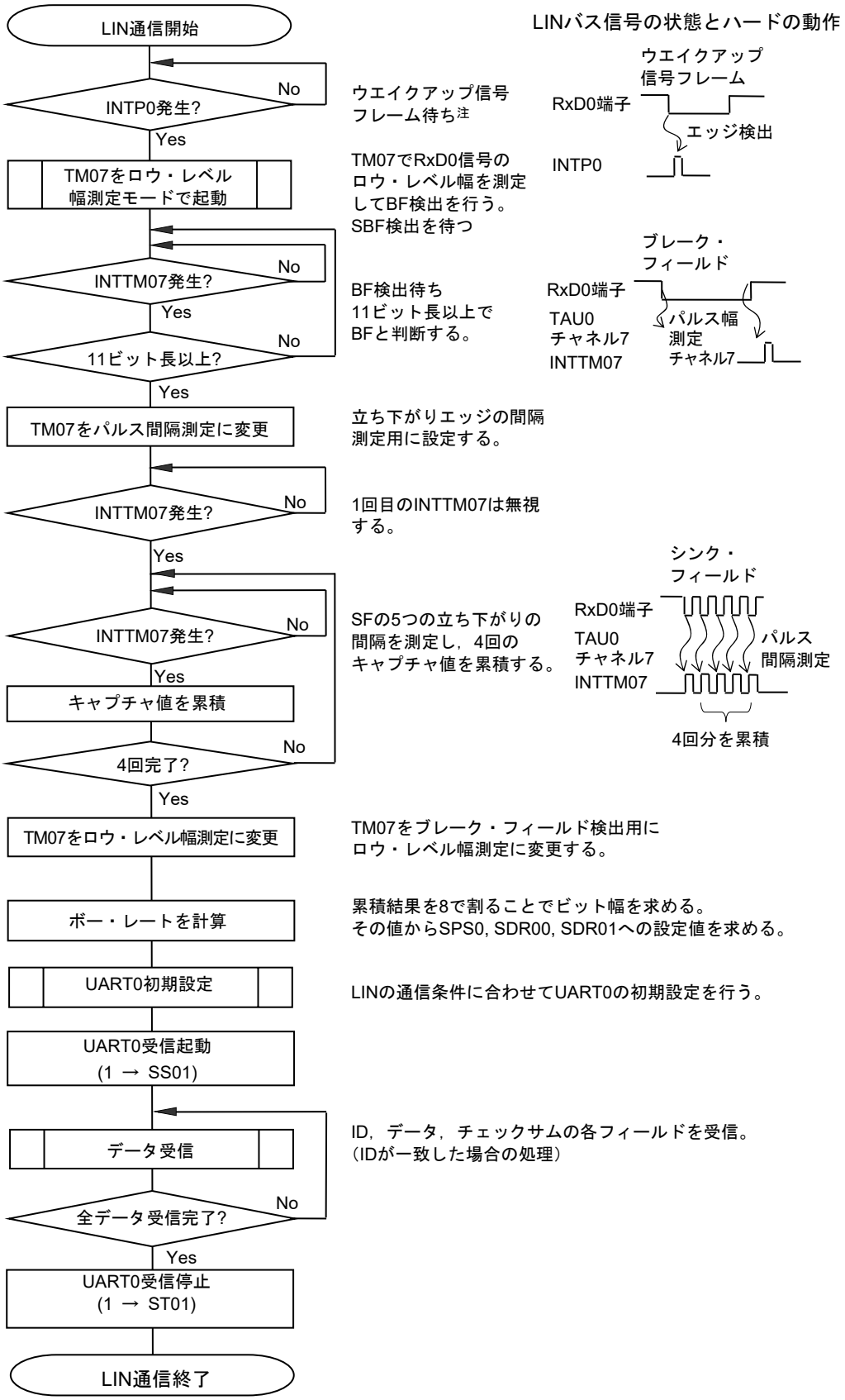
③ BF受信を正常終了した場合，TM07をパルス間隔測定に設定し，シンク・フィールドのRxD0信号の立ち下がりの間隔を4回測定してください。

④ BF受信を正常終了した場合，タイマ・アレイ・ユニットのチャネル7を起動し，シンク・フィールドのビット間隔（パルス幅）を測定してください（7. 8. 3　入力パルス間隔測定としての動作を参照）。

⑤ シンク・フィールド（SF）のビット間隔からボー・レート誤差を算出します。そして，いったんUART0を動作停止にしてからボー・レートを調整（再設定）してください。

⑥ チェック・サム・フィールドの区別はソフトウエアで行ってください。チェック・サム・フィールド受信後にUART0を初期化し，再びBF受信待ちに設定する処理もソフトウエアにて行ってください。

図18－101　LIN受信のフロー・チャート



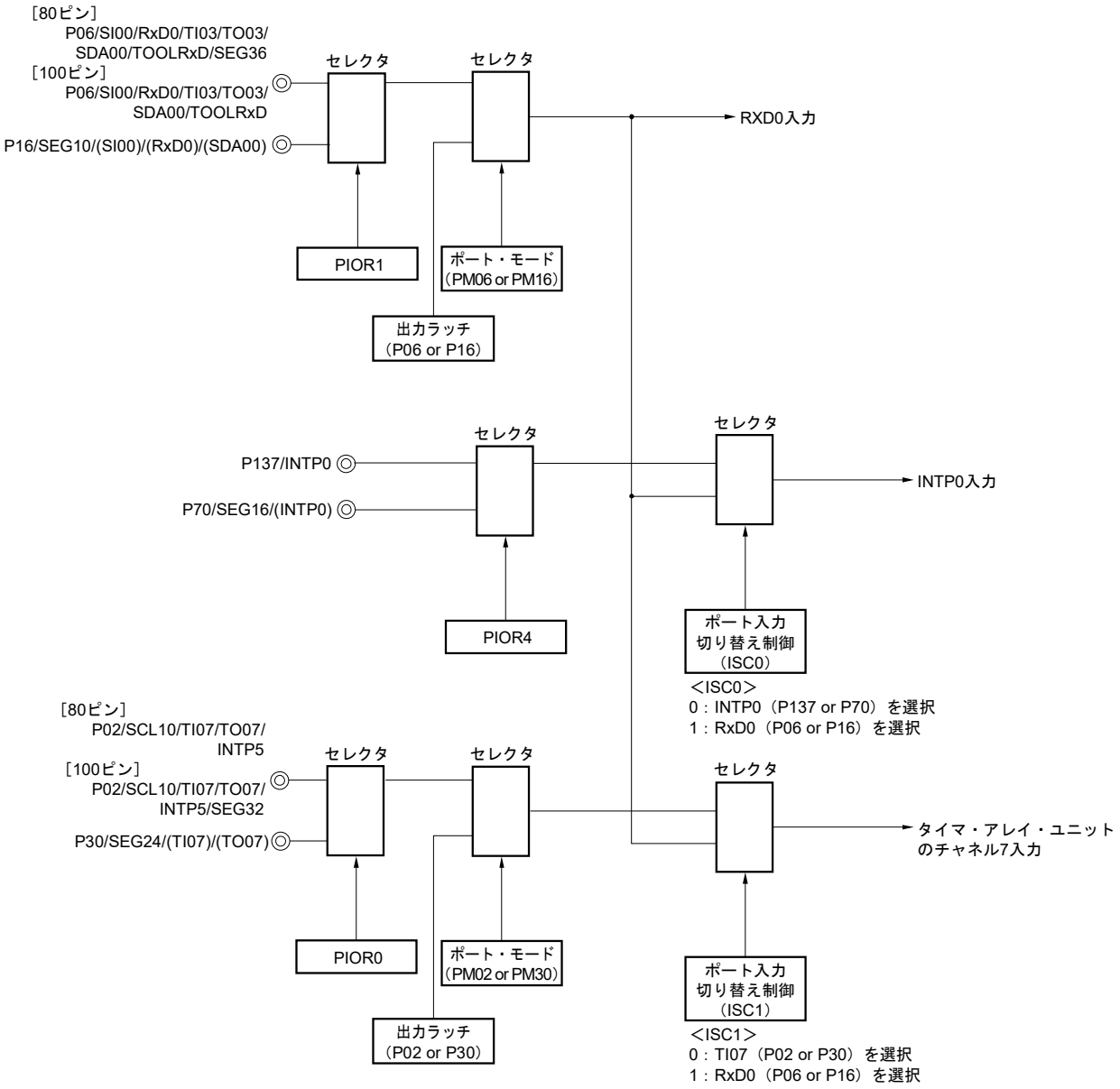

注　スリープ状態でのみ必要となります。

図18－102はLINの受信操作用のポート構成図です。

LINのマスタから送信されるウエイクアップ信号の受信を，外部割り込み（INTP0）のエッジ検出にて行います。また，LINのマスタから送信されるシンク・フィールドの長さをタイマ・アレイ・ユニット0の外部イベント・キャプチャ動作で計測し，ボー・レート誤差を算出することができます。

ポート入力切り替え制御（ISC0/ISC1）により，外部で結線をせずに，受信用ポート入力（RxD0）の入力ソースを外部割り込み（INTP0）およびタイマ・アレイ・ユニットへ入力することができます。

図18－102　LINの受信操作用のポート構成図




備考1.　ISC0, ISC1：入力切り替え制御レジスタ（ISC）のビット0, 1（図18－21参照）

PIOR0, PIOR1, PIOR4：周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のビット0-4（図4－8参照）

2.　上図の（ ）内の機能は，周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により，割り当て可能です。図4－8　周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

LIN通信動作で使用する周辺機能をまとめると，次のようになります。

＜使用する周辺機能＞

・外部割り込み（INTP0）；ウエイクアップ信号検出

　用途：ウエイクアップ信号のエッジを検出し，通信開始を検出

・タイマ・アレイ・ユニットのチャネル7；ボー・レート誤差検出，ブレーク・フィールド（BF）検出

　用途：シンク・フィールド（SF）の長さを検出し，ビット数で割ることでボー・レート誤差を検出（RxD0入力エッジの間隔をキャプチャ・モードで測定）

　　ロウ・レベル幅を測定し，ブレーク・フィールド（BF）かを判定

・シリアル・アレイ・ユニット0（SAU0）のチャネル0, 1（UART0）

## 18. 8　簡易I²C（IIC00, IIC10）通信の動作

シリアル・クロック（SCL）とシリアル・データ（SDA）の2本のラインによる，複数デバイスとのクロック同期式通信機能です。この簡易I²Cでは，EEPROM，フラッシュ・メモリ，A/Dコンバータなどのデバイスとシングル通信を行うために設計されているので，マスタとしてのみ機能します。

スタート・コンディション，ストップ・コンディションは，I²Cバスのバス・ラインの特性を遵守して，ソフトウエアで制御レジスタを操作してください。

［データ送受信］

・マスタ送信，マスタ受信（シングル・マスタでのマスタ機能のみ）

・ACK出力機能[注]，ACK検出機能

・8ビットのデータ長

（アドレス送信時は，上位7ビットでアドレス指定し，最下位1ビットでR/W制御）

・ソフトウエアによるスタート・コンディション，ストップ・コンディションの発生

［割り込み機能］

・転送完了割り込み

［エラー検出フラグ］

・パリティ・エラー（ACKエラー）

※［簡易I²Cでサポートしていない機能］

・スレーブ送信，スレーブ受信

・マルチ・マスタ機能（アービトレーション負け検出機能）

・ウエイト検出機能

注　最終データの受信時は，SOEmn（SOEmレジスタ）ビットに0を書き込み，シリアル通信のデータ出力を停止することによりACKを出力しません。詳細は，18. 8. 3（2）　処理フローを参照してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00, 02

簡易I²C（IIC00, IIC10）に対応しているチャネルは，SAU0のチャネル0, 2です。

| ユニット | チャネル | 簡易SPI (CSI)として使用 | UARTとして使用 | 簡易I²Cとして使用 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | CSI00 | UART0（LIN-bus対応） | IIC00 |
| | 1 | － | | － |
| | 2 | － | UART1 | IIC10 |
| | 3 | － | | － |
| 1 | 0 | － | UART2（IrDA対応） | － |
| | 1 | － | | － |

簡易I²C（IIC00, IIC10）の通信動作は，以下の4種類があります。

- アドレス・フィールド送信　（18. 8. 1項を参照）
- データ送信　（18. 8. 2項を参照）
- データ受信　（18. 8. 3項を参照）
- ストップ・コンディション発生　（18. 8. 4項を参照）

### 18. 8. 1　アドレス・フィールド送信

アドレス・フィールド送信は，転送対象（スレーブ）を特定するために，I²C通信で最初に行う送信動作です。スタート・コンディションを発生したあとに，アドレス（7ビット）と転送方向（1ビット）を1フレームとして送信します。

| 簡易I²C | IIC00 | IIC10 |
|---|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 | SAU0のチャネル2 |
| 使用端子 | SCL00, SDA00注1 | SCL10, SDA10注1 |
| 割り込み | INTIIC00 | INTIIC10 |
| | 転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは選択不可） | |
| エラー検出フラグ | ACKエラー検出フラグ（PEFmn） | |
| 転送データ長 | 8ビット（上位7ビットをアドレス，下位1ビットをR/W制御として送信） | |
| 転送レート注2 | Max.$f_{MCK}$/4 [Hz]（SDRmn[15:9] = 1以上）　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数<br>ただし，I²Cの各モードにより，以下の条件を満たしてください。<br>・Max. 1 MHz（ファースト・モード・プラス）<br>・Max. 400 kHz（ファースト・モード）<br>・Max. 100 kHz（標準モード） | |
| データ・レベル | 非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル） | |
| パリティ・ビット | パリティ・ビットなし | |
| ストップ・ビット | 1ビット付加（ACK受信タイミング用） | |
| データ方向 | MSBファースト | |

注1.　簡易I²Cによる通信を行う場合は，ポート出力モード・レジスタ（POM0）にてN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを設定してください（詳細は4. 3. 5　ポート出力モード・レジスタ（POMxx）を参照）。IIC00，IIC10を異電位外部デバイスと通信する場合は，クロック入力／出力端子（SCL00, SCL10）も同様にN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを設定してください（詳細は，4. 4. 4　異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）外部デバイスとの接続方法を参照）。

2.　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00, 02

（1）レジスタ設定

図18－103　簡易I²C（IIC00, IIC10）のアドレス・フィールド送信時のレジスタ設定内容例

（a）シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn | CCSmn | | | | | | STSmn | | SISmn0 | | | | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |

チャネルnの動作クロック（$f_{MCK}$）
0：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm0”
1：SPSmレジスタで設定したプリスケーラ出力クロック“CKm1”

チャネルnの動作モード
0：転送完了割り込み

（b）シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | | SLCmn1 | SLCmn0 | | | DLSmn1 | DLSmn0 |
| | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1注 | 1 |

パリティ・ビット設定
00B：パリティなし

ストップ・ビット設定
01B：1ビット付加（ACK）

（c）シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（下位8ビット：SIOr）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SDRmn | ボー・レート設定 | | | | | | | 0 | 送信データ設定（アドレス＋R/W） | | | | | | | |

SIOr

（d）シリアル出力レジスタm（SOm）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | | | | | | | | CKOm0 | | | | | | SOm2 | | SOm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0/1 | 1 | 0/1 |

SOmnビットを操作して，スタート・コンディションを発生する

（e）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | | | | | | | | | | | | | | SOEm2 | | SOEm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0/1 | 0 | 0/1 |

スタート・コンディションを発生まではSOEmn = 0とし，
発生後はSOEmn = 1とする

（f）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・対象チャネルのビットのみ1に設定する

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | | | | | | | | | | | | | SSm3 | SSm2 | SSm1 | SSm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 0/1 | × | 0/1 |

スタート・コンディションを発生まではSSmn = 0とし，
発生後はSSmn = 1とする

注　SCR00レジスタのみ。その他は1固定になります。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00, 02

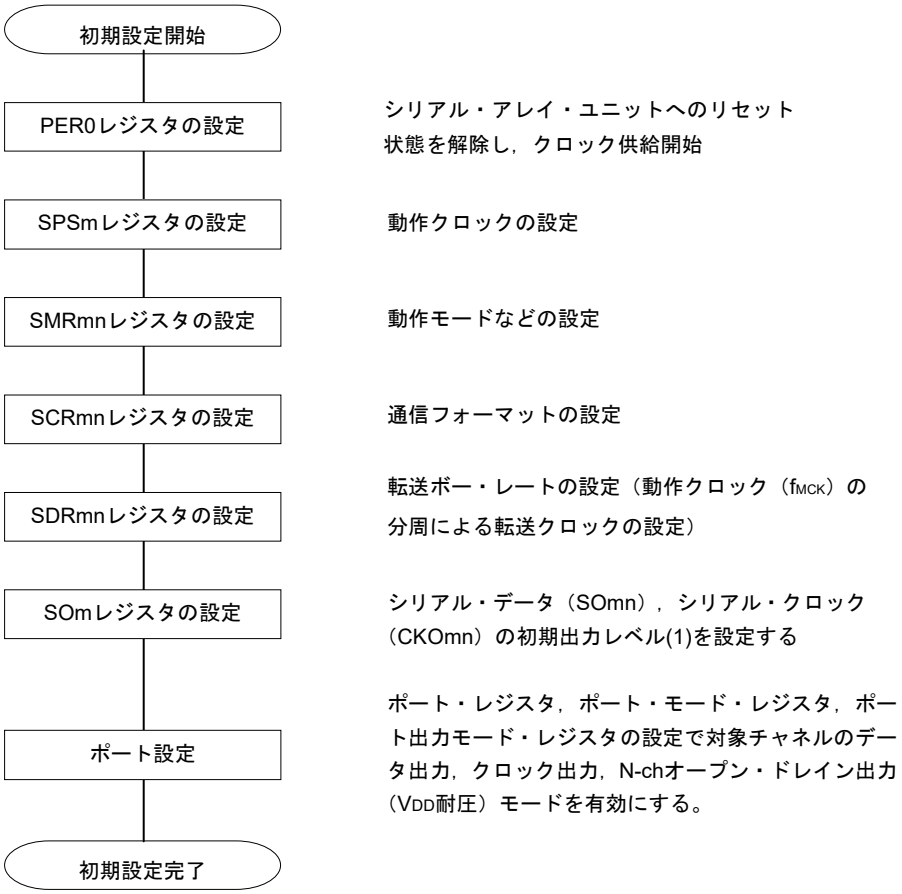
2.　□: IICモードでは設定固定　■：設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

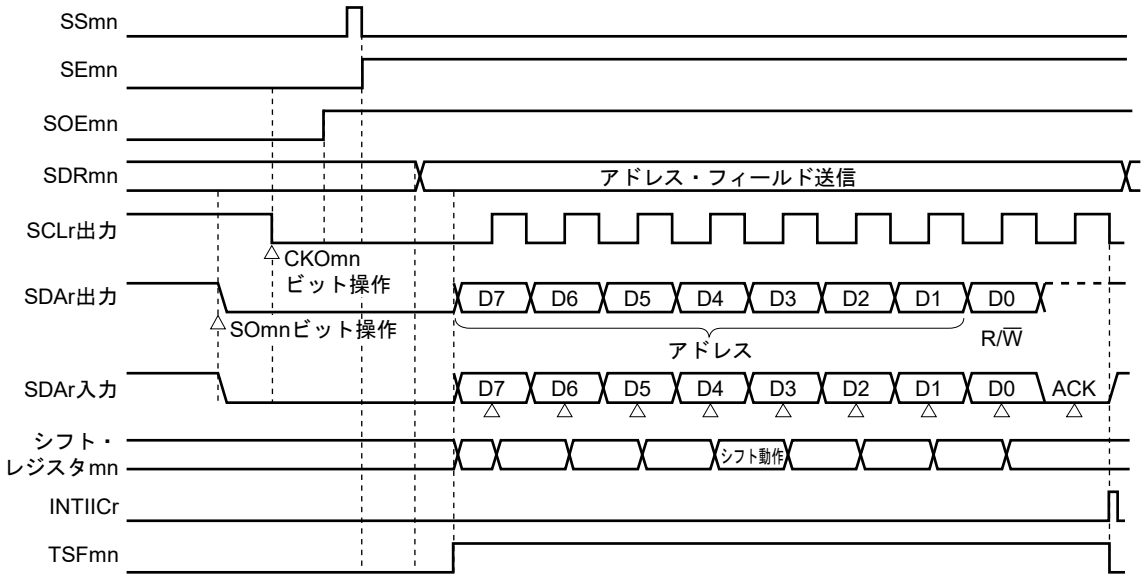
（2）操作手順

図18－104　簡易I²Cアドレス・フィールド送信の初期設定手順



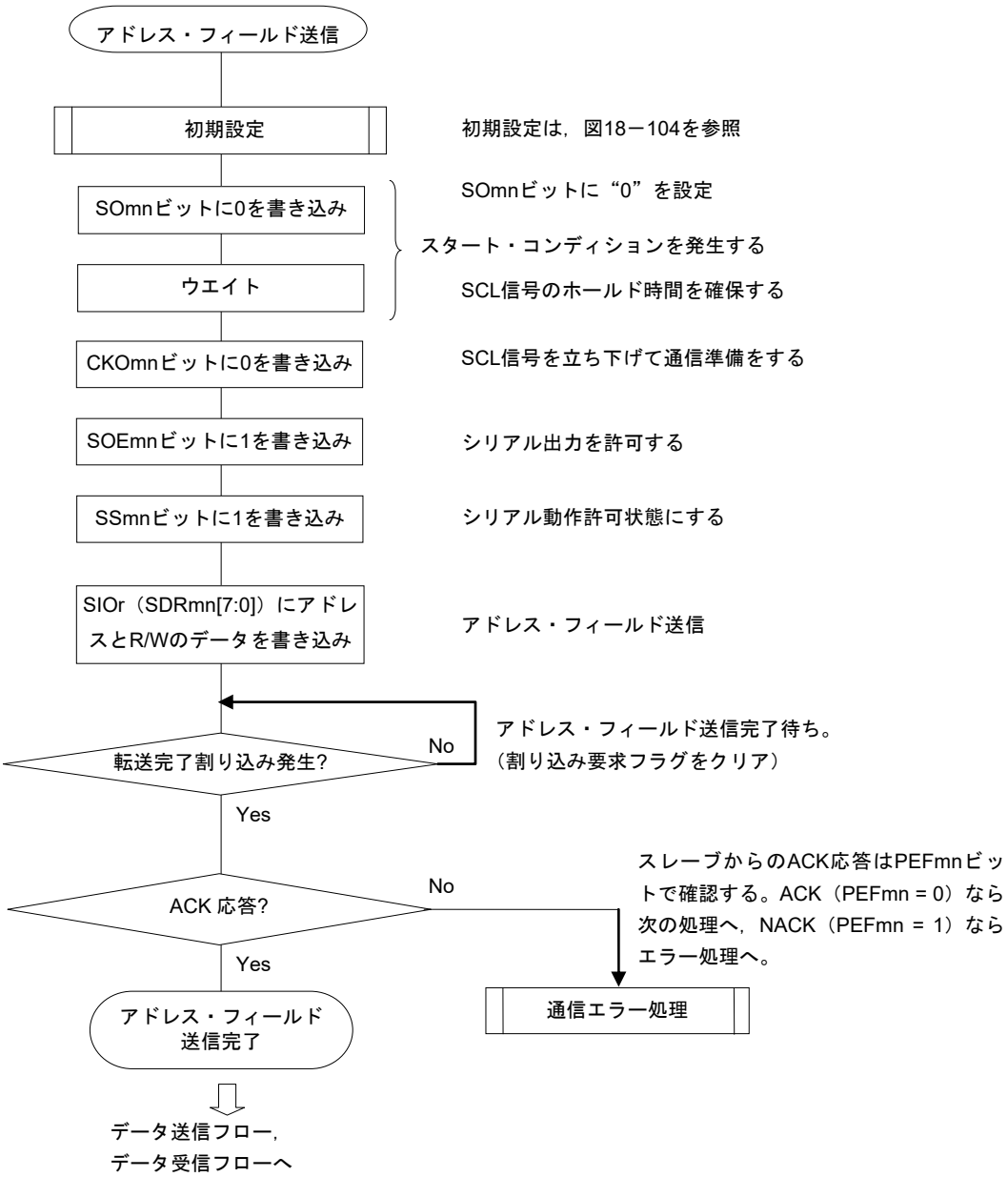
（3）処理フロー

図18－105　アドレス・フィールド送信のタイミング・チャート




備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00, 02

図18－106　簡易I²Cアドレス・フィールド送信のフロー・チャート



### 18. 8. 2　データ送信

データ送信は，アドレス・フィールド送信後にその転送対象（スレーブ）にデータを送信する動作です。対象スレーブにすべてのデータを送信した後は，ストップ・コンディションを発生し，バスを開放します。

| 簡易I²C | IIC00 | IIC10 |
|---|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 | SAU0のチャネル2 |
| 使用端子 | SCL00, SDA00[注1] | SCL10, SDA10[注1] |
| 割り込み | INTIIC00 | INTIIC10 |
| | 転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは選択不可） | |
| エラー検出フラグ | ACKエラー・フラグ（PEFmn） | |
| 転送データ長 | 8ビット | |
| 転送レート[注2] | Max.$f_{MCK}$/4 [Hz]（SDRmn[15:9] = 1以上）　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数<br>ただし，I²Cの各モードにより，以下の条件を満たしてください。<br>・Max. 1 MHz（ファースト・モード・プラス）<br>・Max. 400 kHz（ファースト・モード）<br>・Max. 100 kHz（標準モード） | |
| データ・レベル | 非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル） | |
| パリティ・ビット | パリティ・ビットなし | |
| ストップ・ビット | 1ビット付加（ACK受信タイミング用） | |
| データ方向 | MSBファースト | |

注1.　簡易I²Cによる通信を行う場合は，ポート出力モード・レジスタ（POM0）にてN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを設定してください（詳細は4. 3. 5　ポート出力モード・レジスタ（POMxx）を参照）。IIC00，IIC10を異電位外部デバイスと通信する場合は，クロック入力／出力端子（SCL00, SCL10）も同様にN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを設定してください（詳細は，4. 4. 4　異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）外部デバイスとの接続方法を参照）。

2.　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00, 02

（1）レジスタ設定

図18－107　簡易I²C（IIC00, IIC10）のデータ送信時のレジスタ設定内容例

（a）シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）　・・・データ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn | CCSmn | | | | | | STSmn | | SISmn0 | | | | MDmn2 | MDmn1 | MDmn0 |
| | 0/1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |

（b）シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）・・・TXEmn, RXEmnビット以外はデータ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn | RXEmn | DAPmn | CKPmn | | EOCmn | PTCmn1 | PTCmn0 | DIRmn | | SLCmn1 | SLCmn0 | | | DLSmn1 | DLSmn0 |
| | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1注1 | 1 |

（c）シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（下位8ビット：SIOr）・・・データ送受信中は下位8ビット（SIOr）のみ有効

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SDRmn | ボー・レート設定注2 | | | | | | | 0 | 送信データ設定 | | | | | | | |

SIOr

（d）シリアル出力レジスタm（SOm）　・・・データ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | | | | | | CKOm2 | | CKOm0 | | | | | | SOm2 | | SOm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0/1注3 | 1 | 0/1注3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0/1注3 | 1 | 0/1注3 |

（e）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）　・・・データ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | | | | | | | | | | | | | | SOEm2 | | SOEm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |

（f）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・データ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | | | | | | | | | | | | | SSm3 | SSm2 | SSm1 | SSm0 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | × | 0/1 | × | 0/1 |

注1.　SCR00レジスタのみ。その他は1固定になります

2.　アドレス・フィールド送信で設定済みなので，設定不要です。

3.　通信動作中は通信データにより値が変わります。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00, 02

2.　□: IICモードでは設定固定　■: 設定不可（初期値を設定）

×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

（2）処理フロー

図18－108　データ送信のタイミング・チャート

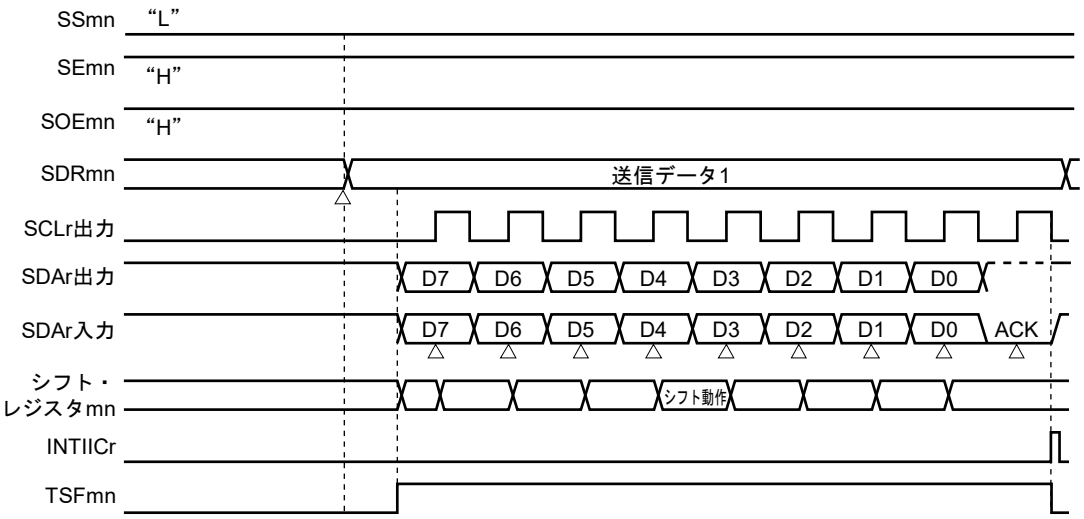
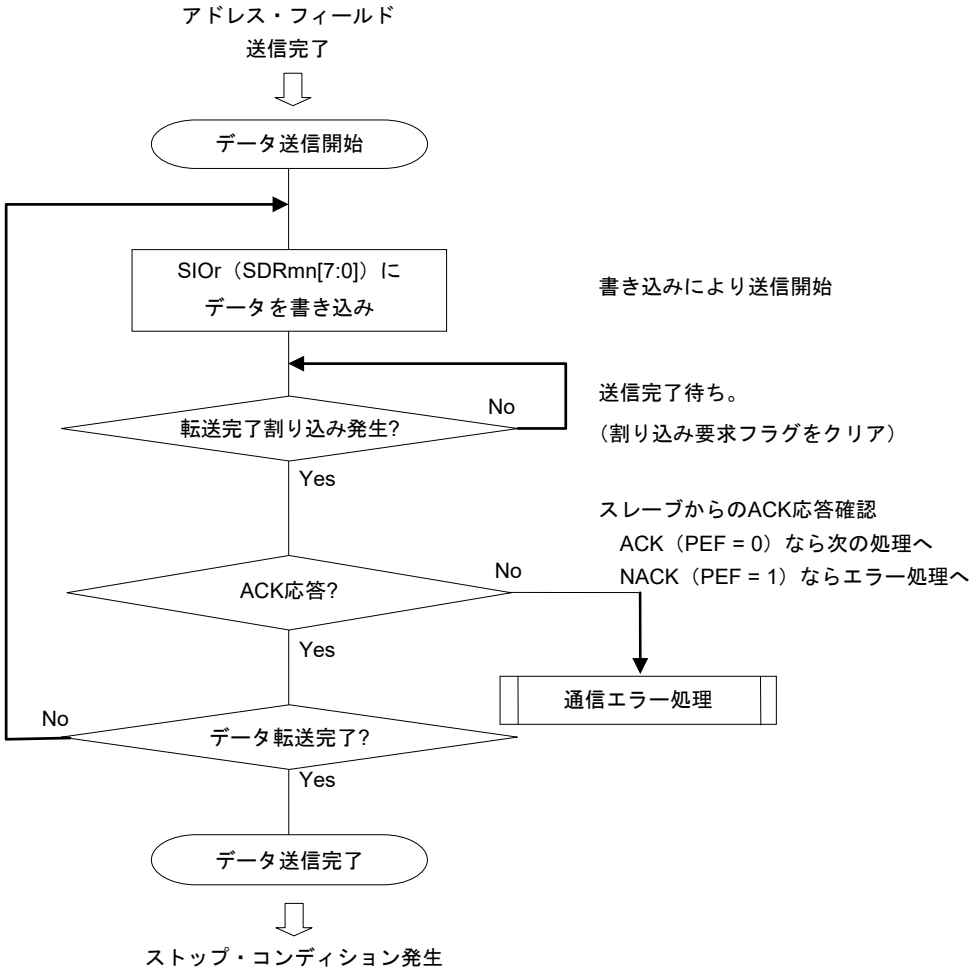



図18－109　簡易I²Cデータ送信のフロー・チャート



### 18. 8. 3　データ受信

データ受信は，アドレス・フィールド送信後にその転送対象（スレーブ）からデータを受信する動作です。対象スレーブからすべてのデータを受信した後は，ストップ・コンディションを発生し，バスを開放します。

| 簡易I²C | IIC00 | IIC10 |
|---|---|---|
| 対象チャネル | SAU0のチャネル0 | SAU0のチャネル2 |
| 使用端子 | SCL00, SDA00[注1] | SCL10, SDA10[注1] |
| 割り込み | INTIIC00 | INTIIC10 |
| | 転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは選択不可） | |
| エラー検出フラグ | オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ | |
| 転送データ長 | 8ビット | |
| 転送レート[注2] | Max.$f_{MCK}$/4 [Hz]（SDRmn[15:9] = 1以上）　$f_{MCK}$：対象チャネルの動作クロック周波数<br>ただし，I²Cの各モードにより，以下の条件を満たしてください。<br>・Max. 1 MHz（ファースト・モード・プラス）<br>・Max. 400 kHz（ファースト・モード）<br>・Max. 100 kHz（標準モード） | |
| データ・レベル | 非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル） | |
| パリティ・ビット | パリティ・ビットなし | |
| ストップ・ビット | 1ビット付加（ACK送信） | |
| データ方向 | MSBファースト | |

注1.　簡易I²Cによる通信を行う場合は，ポート出力モード・レジスタ（POM0）にてN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを設定してください（詳細は4. 3. 5　ポート出力モード・レジスタ（POMxx）を参照）。IIC00，IIC10を異電位外部デバイスと通信する場合は，クロック入力／出力端子（SCL00, SCL10）も同様にN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを設定してください（詳細は，4. 4. 4　異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）外部デバイスとの接続方法を参照）。

2.　この条件を満たし，かつ電気的特性の周辺機能特性（第37章　電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00, 02

（1）レジスタ設定

図18－110　簡易I²C（IIC00, IIC10）のデータ受信時のレジスタ設定内容例

（a）シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）　・・・データ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SMRmn | CKSmn<br>0/1 | CCSmn<br>0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | STSmn<br>0 | 0 | SISmn0<br>0 | 1 | 0 | 0 | MDmn2<br>1 | MDmn1<br>0 | MDmn0<br>0 |

（b）シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）・・・TXEmn, RXEmnビット以外はデータ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCRmn | TXEmn<br>0 | RXEmn<br>1 | DAPmn<br>0 | CKPmn<br>0 | 0 | EOCmn<br>0 | PTCmn1<br>0 | PTCmn0<br>0 | DIRmn<br>0 | 0 | SLCmn1<br>0 | SLCmn0<br>1 | 0 | 1 | DLSmn1<br>1注1 | DLSmn0<br>1 |

（c）シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）（下位8ビット：SIOr）

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SDRmn | ボー・レート設定注2 | | | | | | | 0 | ダミー送信データ設定（FFH） | | | | | | | |

SIOr

（d）シリアル出力レジスタm（SOm）　・・・データ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOm | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | CKOm2<br>0/1注3 | 1 | CKOm0<br>0/1注3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | SOm2<br>0/1注3 | 1 | SOm0<br>0/1注3 |

（e）シリアル出力許可レジスタm（SOEm）　・・・データ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SOEm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SOEm2<br>0/1 | 0 | SOEm0<br>0/1 |

（f）シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）　・・・データ送受信中は操作しない

| | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SSm | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | SSm3<br>× | SSm2<br>0/1 | SSm1<br>× | SSm0<br>0/1 |

注 1.　SCR00レジスタのみ。その他は1固定になります

2.　アドレス・フィールド送信で設定済みなので，設定不要です。

3.　通信動作中は通信データにより値が変わります。

備考1.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00, 02

2.　□: IICモードでは設定固定　■: 設定不可（初期値を設定）

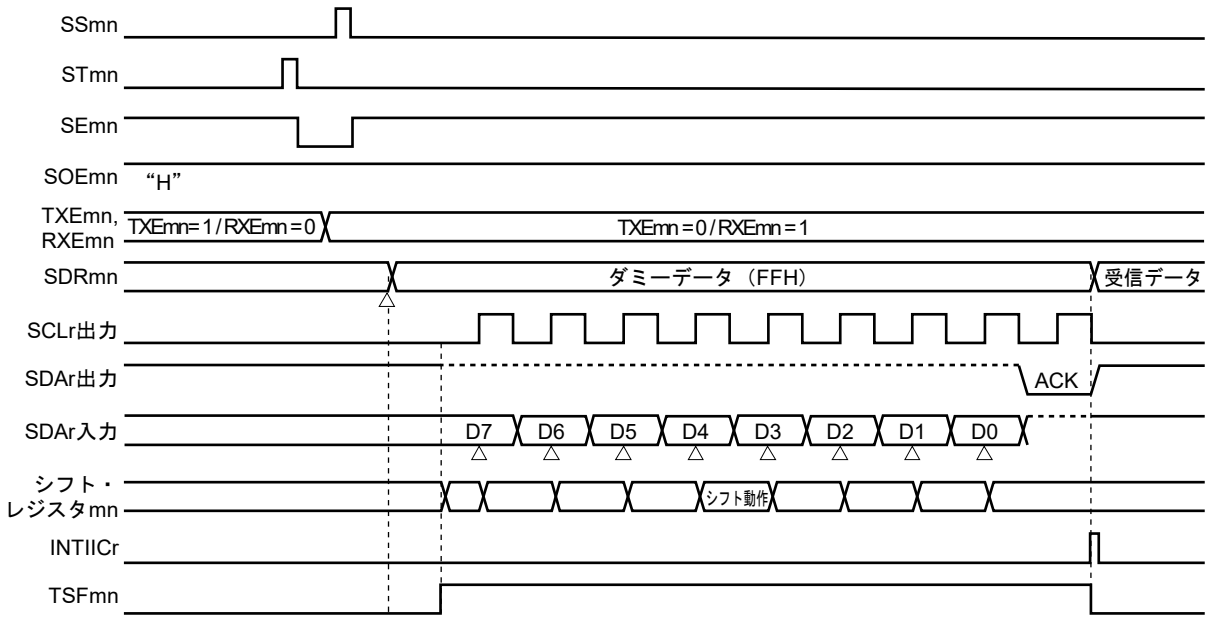
×：このモードでは使用できないビット（他のモードでも使用しない場合は初期値を設定）

0/1：ユーザの用途に応じて0または1に設定

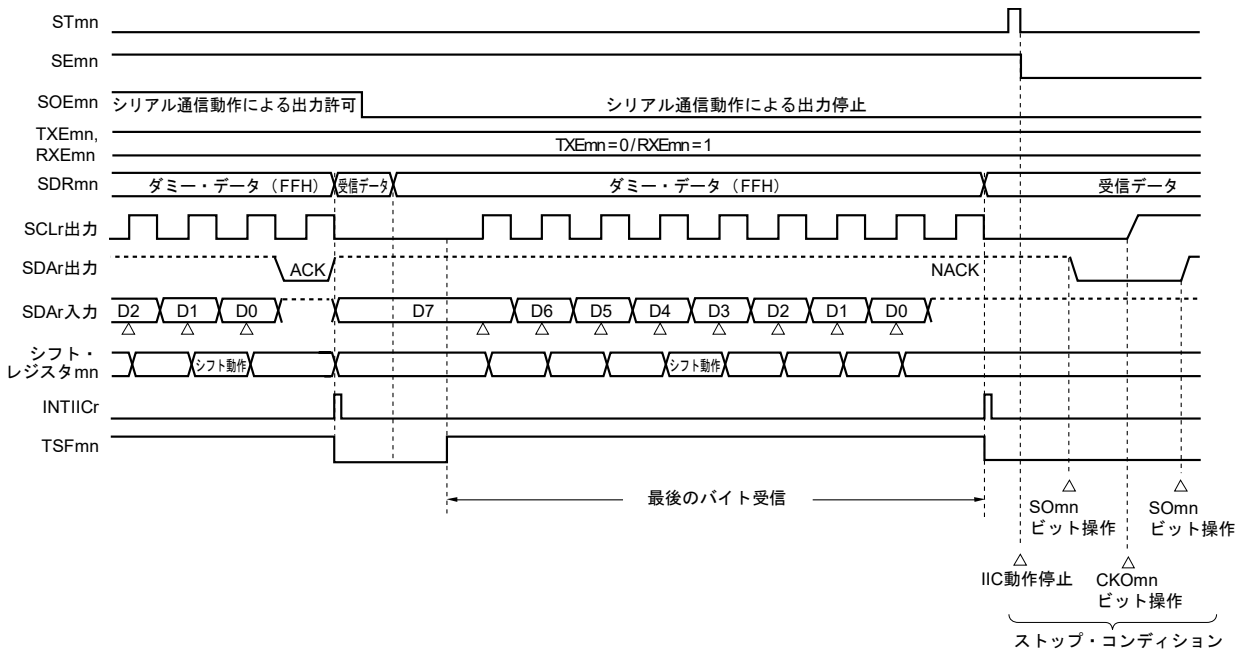
（2）処理フロー

図18－111　データ受信のタイミング・チャート

（a）データ受信開始時

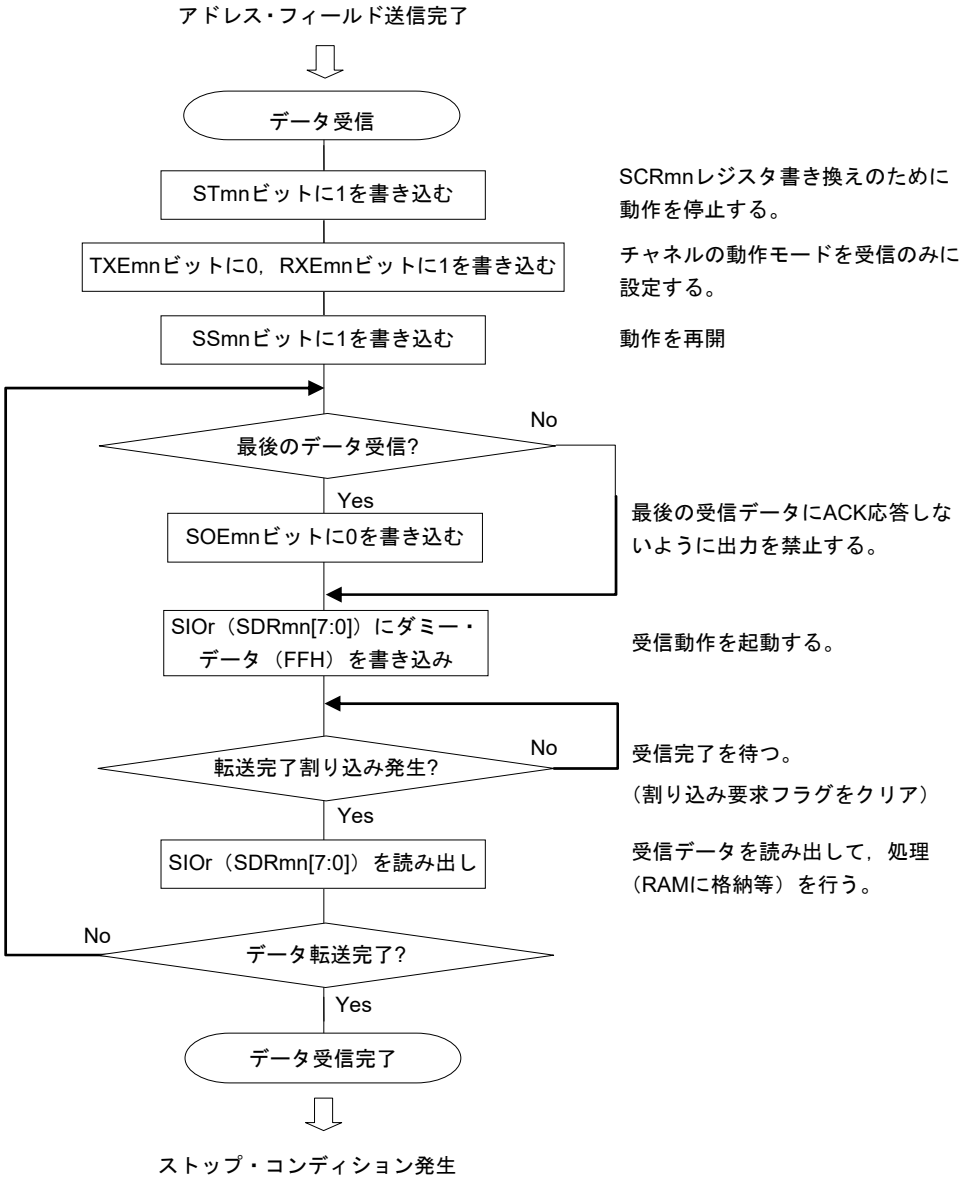



（b）最終データ受信時




備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00, 02

図18－112　データ受信のフロー・チャート



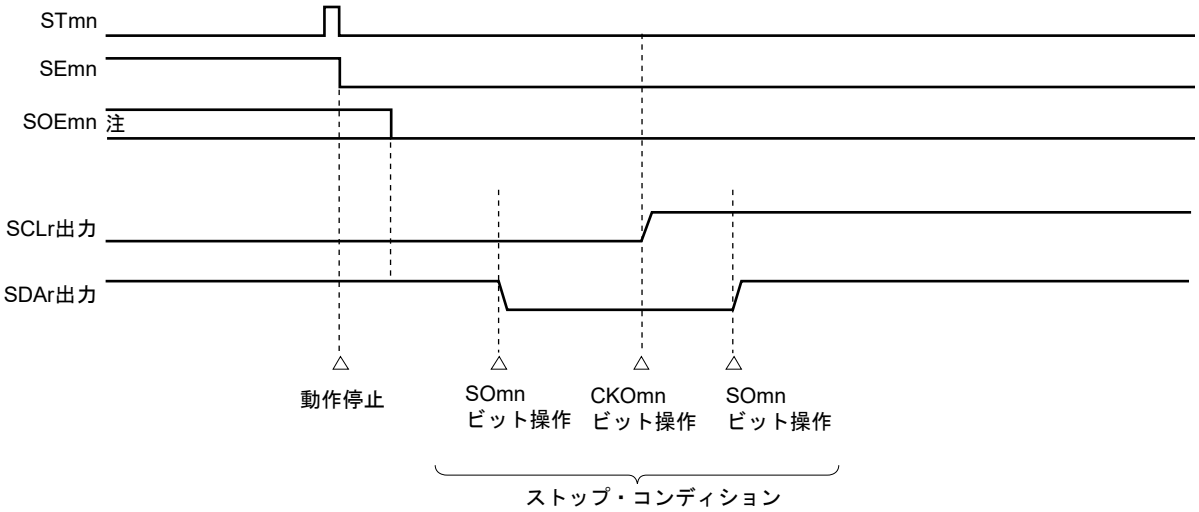

注意　最終データの受信時はACKを出力しません（NACK）。その後，シリアル・チャンネル停止レジスタm（STm）のSTmnビットに“1”を設定して動作停止としてから，ストップ・コンディションを発生することにより通信完了します。

### 18. 8. 4　ストップ・コンディション発生

対象スレーブにすべてのデータを送信／受信した後は，ストップ・コンディションを発生し，バスを開放します。

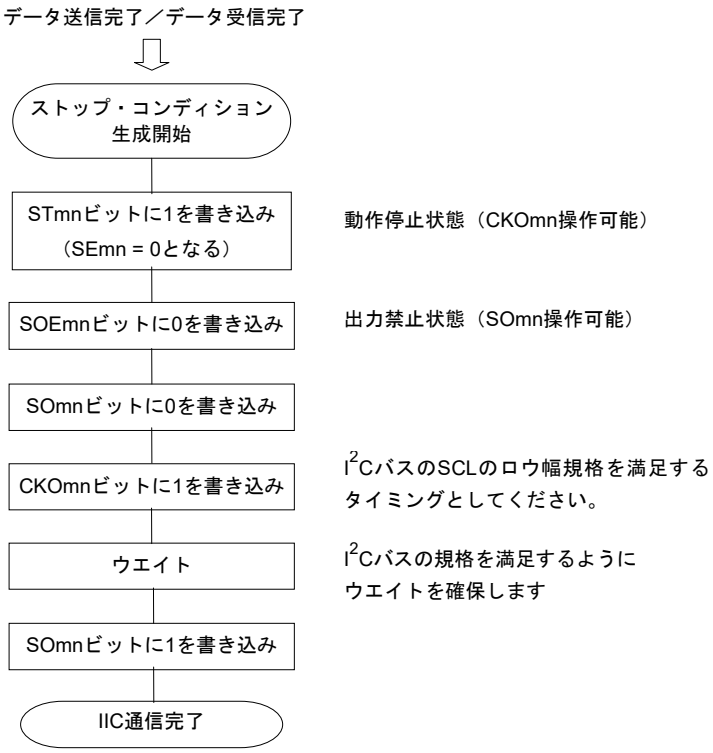
（1）処理フロー

図18－113　ストップ・コンディション発生のタイミング・チャート




注　受信動作時は最終データを受信する前に，シリアル出力許可レジスタm（SOEm）のSOEmnビットを“0”に設定しています。

図18－114　ストップ・コンディション発生のフロー・チャート



### 18. 8. 5　転送レートの算出

簡易I²C（IIC00, IIC10）通信での転送レートは下記の計算式にて算出できます。

| |
|---|
| （転送レート）　=　{対象チャネルの動作クロック（$f_{MCK}$）周波数}　÷（SDRmn[15:9]＋1）÷ 2 |

注意　SDRmn[15:9] = 0000000Bは設定禁止です。SDRmn[15:9] = 0000001B以上に設定してください。
簡易I²C出力のSCL信号のデューティ比は50%です。I²Cバス規格では，SCL信号のロウ・レベル幅がハイ・レベル幅より長くなっています。このため，ファースト・モードの400 kbpsやファースト・モード・プラスの1 Mbpsに設定すると，SCL信号出力のロウ・レベル幅がI²Cバスの規格値より短くなります。SDRmn[15:9]には，この規格を満足できる値を設定してください。

備考 1.　（SDRmn[15:9]）は，シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）のビット15-9の値（0000001B-1111111B）なので，1-127になります。
2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00, 02

動作クロック（$f_{MCK}$）は，シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のビット15（CKSmnビット）で決まります。

表18－5　簡易I²C動作クロックの選択

| SMRmn レジスタ | SPSmレジスタ | | | | | | | | 動作クロック（$f_{MCK}$）注 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CKSmn | PRS m13 | PRS m12 | PRS m11 | PRS m10 | PRS m03 | PRS m02 | PRS m01 | PRS m00 | | $f_{CLK}$ = 24 MHz 動作時 |
| 0 | X | X | X | X | 0 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}$ | 24 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2$ | 12 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^2$ | 6 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^3$ | 3 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^4$ | 1.5 MHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^5$ | 750 kHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^6$ | 375 kHz |
| | X | X | X | X | 0 | 1 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^7$ | 187.5 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 0 | 0 | $f_{CLK}/2^8$ | 93.8 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2^9$ | 46.9 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/2^{10}$ | 23.4 kHz |
| | X | X | X | X | 1 | 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/2^{11}$ | 11.7 kHz |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}$ | 24 MHz |
| | 0 | 0 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2$ | 12 MHz |
| | 0 | 0 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^2$ | 6 MHz |
| | 0 | 0 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^3$ | 3 MHz |
| | 0 | 1 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^4$ | 1.5 MHz |
| | 0 | 1 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^5$ | 750 kHz |
| | 0 | 1 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^6$ | 375 kHz |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^7$ | 187.5 kHz |
| | 1 | 0 | 0 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^8$ | 93.8 kHz |
| | 1 | 0 | 0 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^9$ | 46.9 kHz |
| | 1 | 0 | 1 | 0 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{10}$ | 23.4 kHz |
| | 1 | 0 | 1 | 1 | X | X | X | X | $f_{CLK}/2^{11}$ | 11.7 kHz |
| 上記以外 | | | | | | | | | 設定禁止 | |

注　$f_{CLK}$に選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は，シリアル・アレイ・ユニット（SAU）の動作を停止（シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）　= 000FH）させてから変更してください。

備考1.　X：Don't care

2.　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　mn = 00, 02

$f_{MCK}$ = $f_{CLK}$ = 24 MHzの場合のI²C転送レート設定例を示します。

| I²C転送モード（希望転送レート） | $f_{CLK}$ = 24 MHz時 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 動作クロック（$f_{MCK}$） | SDRmn[15:9] | 算出転送レート | 希望転送レートとの誤差 |
| 100 kHz | $f_{CLK}/2$ | 59 | 100 kHz | 0.0% |
| 400 kHz | $f_{CLK}$ | 29 | 380 kHz | 5.0%注 |
| 1 MHz | $f_{CLK}$ | 5 | 0.84 MHz | 16.0%注 |

注　SCL信号がデューティ比50%なので，誤差を0%程度に設定することはできません。

### 18. 8. 6　簡易I²C（IIC00, IIC10）通信時におけるエラー発生時の処理手順

簡易I²C（IIC00, IIC10）通信時にエラーが発生した場合の処理手順を図18－117，図18－118に示します。

図18－115　オーバラン・エラー発生時の処理手順

| ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 | 備考 |
|---|---|---|
| シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）をリードする | → SSRmnレジスタのBFFmnビットが“0”となり，チャネルnは受信可能状態になる | エラー処理中に次の受信を完了した場合にオーバラン・エラーになるのを防ぐために行う |
| シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）をリードする | | エラーの種類の判別を行い，リード値はエラー・フラグのクリアに使用する |
| シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）に“1”をライトする | → エラー・フラグがクリアされる | SSRmnレジスタのリード値をそのままSIRmnレジスタに書き込むことで，読み出し時のエラーのみをクリアできる |

図18－116　簡易I²Cモード時のACKエラー発生時の処理手順

| ソフトウエア操作 | ハードウエアの状態 | 備考 |
|---|---|---|
| シリアル・ステータス・レジスタmn（SSRmn）をリードする | | エラーの種類の判別を行い，リード値はエラー・フラグのクリアに使用する |
| シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn（SIRmn）をライトする | → エラー・フラグがクリアされる | SSRmnレジスタのリード値をそのままSIRmnレジスタに書き込むことで，読み出し時のエラーのみをクリアできる |
| シリアル・チャネル停止レジスタm（STm）のSTmnビットに“1”を設定する | → シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）のSEmnビットが“0”となり，チャネルnは動作停止状態になる | ACKが返信されていないので，スレーブの受信準備ができていない。そのため，ストップ・コンディションを作成してバスを開放し，再度スタート・コンディションから通信を開始する。もしくはリスタート・コンディションを生成し，アドレス送信からやり直すことも可能。 |
| ストップ・コンディション作成 | | |
| スタート・コンディション作成 | | |
| シリアル・チャネル開始レジスタm（SSm）のSSmnビットに“1”を設定する | → シリアル・チャネル許可ステータス・レジスタm（SEm）のSEmnビットが“1”となり，チャネルnは動作許可状態になる | |

備考　m：ユニット番号（m = 0）　n：チャネル番号（n = 0, 2）　r：IIC番号（r = 00, 10）　mn = 00, 02

# 第19章　シリアル・インタフェースIICA

## 19. 1　シリアル・インタフェースIICAの機能

シリアル・インタフェースIICAには，次の3種類のモードがあります。

（1）動作停止モード

シリアル転送を行わないときに使用するモードです。消費電力を低減できます。

（2）$I^2C$バス・モード（マルチマスタ対応）

シリアル・クロック（SCLAn）とシリアル・データ・バス（SDAAn）の2本のラインより，複数のデバイスと8ビット・データ転送を行うモードです。

$I^2C$バス・フォーマットに準拠しており，マスタはスレーブに対して，シリアル・データ・バス上に“スタート・コンディション”，“アドレス”，“転送方向指定”，“データ”および“ストップ・コンディション”を生成できます。スレーブは，受信したこれらの状態およびデータをハードウエアにより自動的に検出します。この機能により応用プログラムの$I^2C$バス制御部分を簡単にすることができます。

シリアル・インタフェースIICAでは，SCLAn端子とSDAAn端子はオープン・ドレイン出力で使用するため，シリアル・クロック・ラインおよびシリアル・データ・バス・ラインにはプルアップ抵抗が必要です。

（3）ウエイクアップ・モード

STOPモード状態で，マスタからの拡張コードもしくは自局アドレスを受信した場合に，割り込み要求信号（INTIICAn）を発生しSTOPモードを解除することができます。IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）のWUPnビットにより設定します。

図19－1に，シリアル・インタフェースIICAのブロック図を示します。

備考　n = 0

図19－1　シリアル・インタフェースIICA0のブロック図

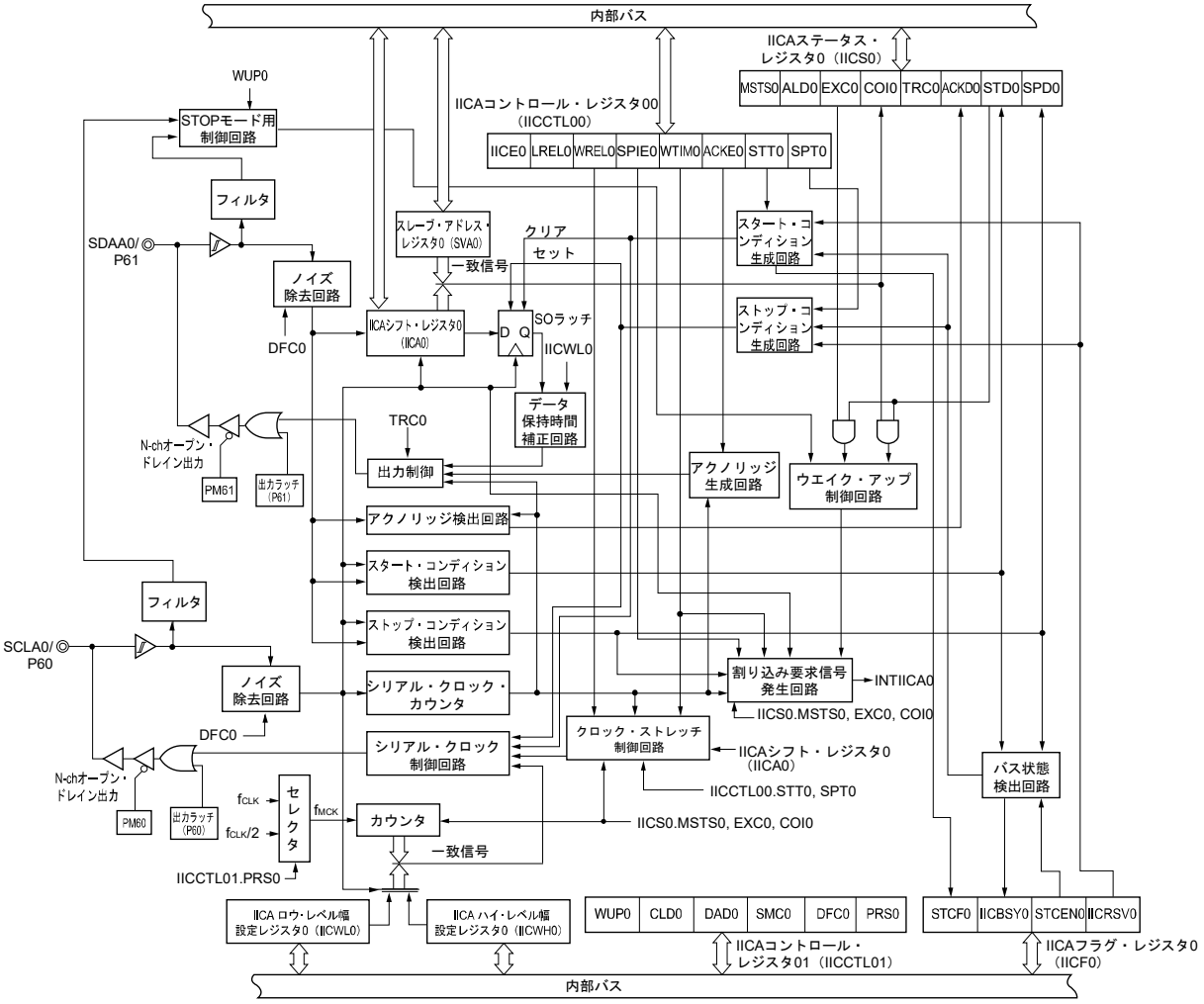
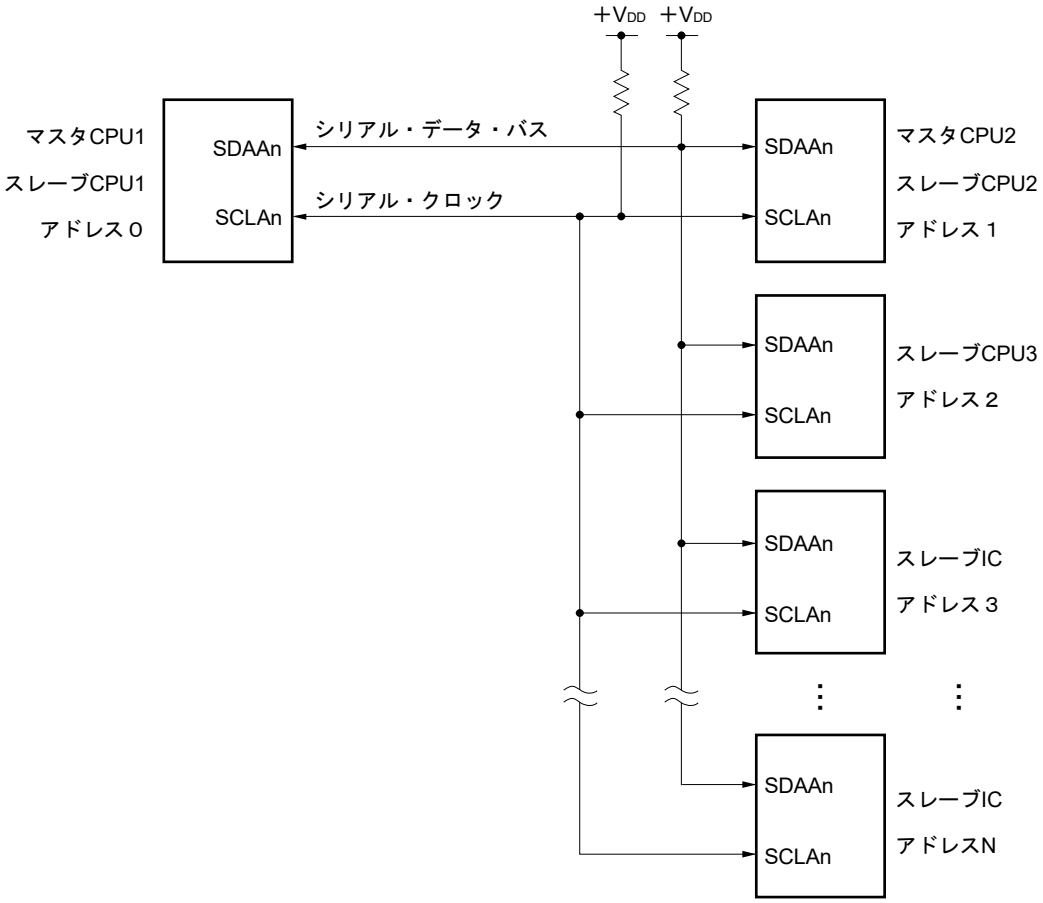


図19－2にシリアル・バス構成例を示します。

図19－2　I²Cバスによるシリアル・バス構成例




備考　n = 0

## 19. 2　シリアル・インタフェースIICAの構成

シリアル・インタフェースIICAは，次のハードウエアで構成されています。

表19－1　シリアル・インタフェースIICAの構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| レジスタ | IICAシフト・レジスタn（IICAn）<br>スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn） |
| 制御レジスタ | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）<br>IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）<br>IICAステータス・レジスタn（IICSn）<br>IICAフラグ・レジスタn（IICFn）<br>IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）<br>IICAロウ･レベル幅設定レジスタn（IICWLn）<br>IICAハイ･レベル幅設定レジスタn（IICWHn）<br>ポート・モード・レジスタ6（PM6）<br>ポート・レジスタ6（P6） |

備考　n = 0

（1）IICAシフト・レジスタn（IICAn）

IICAnレジスタは，シリアル・クロックに同期して，8ビットのシリアル・データを8ビットのパラレル・データに，8ビットのパラレル・データを8ビットのシリアル・データに変換するレジスタです。IICAnレジスタは送信および受信の両方に使用されます。

IICAnレジスタに対する書き込み／読み出しにより，実際の送受信動作が制御できます。

クロック・ストレッチ期間中のIICAnレジスタへの書き込みにより，クロック・ストレッチを解除し，データ転送を開始します。

IICAnレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図19－3　IICAシフト・レジスタn（IICAn）のフォーマット

アドレス：FFF50H　　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IICAn | | | | | | | | |

注意1.　データ転送中はIICAnレジスタにデータを書き込まないでください。

2.　IICAnレジスタには，クロック・ストレッチ期間中にだけ，書き込み／読み出しをしてください。クロック・ストレッチ期間中を除く通信状態でのIICAnレジスタへのアクセスは禁止です。ただし，マスタになる場合は，通信トリガ・ビット（STTn）をセット（1）したあと，1回書き込みできます。

3.　通信予約時は，ストップ・コンディションによる割り込み検出のあとにIICAnレジスタにデータを書き込んでください。

備考　n = 0

(2) スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）

スレーブとして使用する場合に，自局アドレスの7ビット｛A6, A5, A4, A3, A2, A1, A0｝を格納するレジスタです。

SVAnレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

ただし，STDn = 1（スタート・コンディション検出）のときの書き換えは禁止です。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図19－4　スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）のフォーマット

アドレス：F0234H　　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SVAn | A6 | A5 | A4 | A3 | A2 | A1 | A0 | 0注 |

注　ビット0は0固定です。

(3) SOラッチ

SOラッチは，SDAAn端子出力レベルを保持するラッチです。

(4) ウエイク・アップ制御回路

スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）に設定したアドレス値と受信アドレスが一致した場合，または拡張コードを受信した場合に割り込み要求（INTIICAn）を発生させる回路です。

(5) シリアル・クロック・カウンタ

送信／受信動作時に出力する，または入力されるシリアル・クロックをカウントし，8ビット・データの送受信が行われたことを調べます。

(6) 割り込み要求信号発生回路

割り込み要求信号（INTIICAn）の発生を制御します。

$I^2C$割り込み要求は，次の2つのトリガで発生します。

・シリアル・クロックの8クロック目または9クロック目の立ち下がり（WTIMnビットで設定）

・ストップ・コンディション検出による割り込み要求発生（SPIEnビットで設定）

備考　WTIMnビット　　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット3

　　SPIEnビット　　：　　〃　　のビット4

(7) シリアル・クロック制御回路

マスタ・モード時に，SCLAn端子に出力するクロックをサンプリング・クロックから生成します。

(8) クロック・ストレッチ制御回路

クロック・ストレッチ・タイミングを制御します。

備考　n = 0

（9）アクノリッジ生成回路，ストップ・コンディション検出回路，スタート・コンディション検出回路，アクノリッジ検出回路

各状態の生成および検出を行います。

（10）データ保持時間補正回路

シリアル・クロックの立ち下がりに対するデータの保持時間を生成するための回路です。

（11）スタート・コンディション生成回路

STTnビットがセット（1）されるとスタート・コンディションを生成します。

ただし通信予約禁止状態（IICRSVnビット = 1）で，かつバスが解放されていない（IICBSYnビット = 1）場合には，スタート・コンディション要求は無視し，STCFnビットをセット（1）します。

（12）ストップ・コンディション生成回路

SPTnビットがセット（1）されるとストップ・コンディションを生成します。

（13）バス状態検出回路

スタート・コンディションおよびストップ・コンディションの検出により，バスが解放されているか，解放されていないかを検出します。

ただし動作直後はバス状態を検出できないため，STCENnビットにより，バス状態検出回路の初期状態を設定してください。

備考1.　STTnビット　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）　のビット1
　　SPTnビット　：　〃　のビット0
　　IICRSVnビット：IICAフラグ・レジスタn（IICFn）　のビット0
　　IICBSYnビット：　〃　のビット6
　　STCFnビット　：　〃　のビット7
　　STCENnビット：　〃　のビット1
　　2.　n = 0

## 19. 3　シリアル・インタフェースIICAを制御するレジスタ

シリアル・インタフェースIICAは，次の8種類のレジスタで制御します。

・周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）
・IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）
・IICAフラグ・レジスタn（IICFn）
・IICAステータス・レジスタn（IICSn）
・IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）
・IICAロウ・レベル幅設定レジスタn（IICWLn）
・IICAハイ・レベル幅設定レジスタn（IICWHn）
・ポート・モード・レジスタ6（PM6）
・ポート・レジスタ6（P6）

備考　n = 0

### 19. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）

PER0レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

シリアル・インタフェースIICAnを使用するときは，必ずビット4（IICA0EN）を1に設定してください。

PER0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図19－5　周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット

アドレス：F00F0H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |

| IICAnEN | シリアル・インタフェースIICAnの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・シリアル・インタフェースIICAnで使用するSFRへのライト不可<br>・シリアル・インタフェースIICAnはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給許可<br>・シリアル・インタフェースIICAnで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意1.　シリアル・インタフェースIICAnの設定をする際には，必ず最初にIICAnEN = 1の状態で，下記のレジスタの設定を行ってください。IICAnEN = 0の場合は，シリアル・インタフェースIICAの制御レジスタは初期値となり，書き込みは無視されます（ポート・モード・レジスタ6（PM6），ポート・レジスタ6（P6）は除く）。
・IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）
・IICAフラグ・レジスタn（IICFn）
・IICAステータス・レジスタn（IICSn）
・IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）
・IICAロウ・レベル幅設定レジスタn（IICWLn）
・IICAハイ・レベル幅設定レジスタn（IICWHn）

2.　ビット1には必ず“0”を設定してください。

備考　n = 0

### 19. 3. 2　IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）

I²Cの動作許可／停止，クロック・ストレッチ・タイミングの設定，その他I²Cの動作を設定するレジスタです。

IICCTLn0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。ただし，SPIEn, WTIMn, ACKEnビットは，IICEn = 0のとき，またはクロック・ストレッチ期間中に設定してください。またIICEnビットを“0”から“1”に設定するときに，これらのビットを同時に設定できます。

リセット信号の発生により，00Hになります。

備考　n = 0

図19－6　IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のフォーマット（1/4）

アドレス：F0230H　　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IICCTLn0 | IICEn | LRELn | WRELn | SPIEn | WTIMn | ACKEn | STTn | SPTn |

| IICEn | $I^2C$の動作許可 |
|---|---|
| 0 | 動作停止。IICAステータス・レジスタn（IICSn）をリセット[注1]。内部動作も停止。 |
| 1 | 動作許可。 |
| このビットのセット（1）は，必ずSCLAn, SDAAnラインがハイ･レベルの状態で行ってください。 | |
| クリアされる条件（IICEn = 0） | セットされる条件（IICEn = 1） |
| ・命令によるクリア<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

| LRELn[注2, 3] | 通信退避 |
|---|---|
| 0 | 通常動作。 |
| 1 | 現在行っている通信から退避し，待機状態。実行後自動的にクリア（0）される。<br>自局に関係ない拡張コードを受信したときなどに使用する。<br>SCLAn, SDAAnラインはハイ・インピーダンス状態になる。<br>IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0），IICAステータス・レジスタn（IICSn）のうち，次のフラグがクリア（0）される。<br>・STTn　・SPTn　・MSTSn　・EXCn　・COIn　・TRCn　・ACKDn　・STDn |
| 次の通信参加条件が満たされるまでは，通信から退避した待機状態となる。<br>・ストップ・コンディション検出後，マスタとしての起動<br>・スタート・コンディション後のアドレス一致または拡張コード受信 | |
| クリアされる条件（LRELn = 0） | セットされる条件（LRELn = 1） |
| ・実行後，自動的にクリア<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

| WRELn[注2, 3] | クロック・ストレッチ解除 |
|---|---|
| 0 | クロック・ストレッチを解除しない。 |
| 1 | クロック・ストレッチを解除する。クロック・ストレッチ解除後，自動的にクリアされる。 |
| 送信状態（TRCn = 1）で，9クロック目のクロック・ストレッチ期間中にWRELnビットをセット（クロック・ストレッチを解除）した場合，SDAAnラインをハイ・インピーダンス（TRCn = 0）にします。 | |
| クリアされる条件（WRELn = 0） | セットされる条件（WRELn = 1） |
| ・実行後，自動的にクリア<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

注1.　リセットされるのは，IICAステータス・レジスタn（IICA0），IICAフラグ・レジスタn（IICF0）のSTCFn，IICBSYnビット，IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）レジスタのCLDn，DADnビットです。

2.　IICEn = 0の状態では，このビットの信号は無効になります。

3.　LRELn, WRELnビットの読み出し値は常に0になります。

注意　SCLAnラインがハイ･レベル，SDAAnラインがロウ・レベルの状態かつ，デジタル・フィルタ・オン（IICCTLn1レジスタのDFCn = 1）のときに$I^2C$を動作許可（IICEn = 1）した場合，直後にスタート・コンディションを検出してしまいます。この場合は，$I^2C$を動作許可（IICEn = 1）したあと，連続して1ビット・メモリ操作命令により，LRELnビットをセット（1）してください。

備考　n = 0

図19－6　IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のフォーマット（2/4）

| SPIEn[注1] | ストップ・コンディション検出による割り込み要求発生の許可／禁止 |
|---|---|
| 0 | 禁止 |
| 1 | 許可 |
| IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）のWUPn = 1の場合には，SPIEn = 1にしてもストップ・コンディション割り込みは発生しません。 | |
| クリアされる条件（SPIEn = 0） | セットされる条件（SPIEn = 1） |
| ・命令によるクリア<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

| WTIMn[注1] | クロック・ストレッチおよび割り込み要求発生の制御 |
|---|---|
| 0 | 8クロック目の立ち下がりで割り込み要求発生。<br>マスタの場合　：8クロック出力後，クロック出力をロウ・レベルにしたままクロック・ストレッチ<br>スレーブの場合：8クロック入力後，クロックをロウ・レベルにしてマスタをクロック・ストレッチ |
| 1 | 9クロック目の立ち下がりで割り込み要求発生。<br>マスタの場合　：9クロック出力後，クロック出力をロウ・レベルにしたままクロック・ストレッチ<br>スレーブの場合：9クロック入力後，クロックをロウ・レベルにしてマスタをクロック・ストレッチ |
| アドレス転送中はこのビットの設定にかかわらず，9クロック目の立ち下がりで割り込みが発生します。アドレス転送終了後このビットの設定が有効になります。またマスタ時，アドレス転送中は9クロックの立ち下がりにクロック・ストレッチが入ります。自局アドレスを受信したスレーブは，アクノリッジ（ACK）発生後の9クロック目の立ち下がりでクロック・ストレッチに入ります。ただし拡張コードを受信したスレーブは，8クロック目の立ち下がりでクロック・ストレッチに入ります。 | |
| クリアされる条件（WTIMn = 0） | セットされる条件（WTIMn = 1） |
| ・命令によるクリア<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

| ACKEn<br>注1, 2 | アクノリッジ制御 |
|---|---|
| 0 | アクノリッジを禁止。 |
| 1 | アクノリッジを許可。9クロック期間中にSDAAnラインをロウ・レベルにする。 |
| クリアされる条件（ACKEn = 0） | セットされる条件（ACKEn = 1） |
| ・命令によるクリア<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

注1.　IICEn = 0の状態では，このビットの信号は無効になります。その期間にビットの設定を行ってください。

2.　アドレス転送中で，かつ拡張コードでない場合，設定値は無効です。
スレーブかつアドレスが一致した場合は，設定値に関係なくアクノリッジを生成します。

備考　n = 0

図19－6　IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のフォーマット（3/4）

| STTn[注1, 2] | スタート・コンディション・トリガ |
|---|---|
| 0 | スタート・コンディションを生成しない。 |
| 1 | バスが解放されているとき（待機状態，IICBSYnが0のとき）：<br>セット（1）すると，スタート・コンディションを生成する（マスタとしての起動）。<br>第三者が通信中のとき：<br>・通信予約機能許可の場合（IICRSVn = 0）<br>スタート・コンディション予約フラグとして機能する。セット（1）すると，バスが解放されたあと自動的にスタート・コンディションを生成する。<br>・通信予約機能禁止の場合（IICRSVn = 1）<br>セット（1）してもSTTnビットはクリアされ，STTnクリア・フラグ（STCFn）がセット（1）される。スタート・コンディションは生成しない。<br>クロック・ストレッチ状態（マスタ時）：<br>クロック・ストレッチを解除してリスタート・コンディションを生成する。 |

セット・タイミングに関する注意

・マスタ受信の場合：転送中のセット（1）は禁止です。ACKEn = 0に設定し，受信の最後であることをスレーブに伝えたあとのクロック・ストレッチ期間中にだけセット（1）可能です。

・マスタ送信の場合：アクノリッジ期間中は，正常にスタート・コンディションが生成されないことがあります。9クロック目出力後のクロック・ストレッチ期間中にセット（1）してください。

・ストップ・コンディション・トリガ（SPTn）と同時セット（1）することは禁止です。

・STTnビットをセット（1）後，クリア条件になる前に再度セット（1）することは禁止です。

| クリアされる条件（STTn = 0） | セットされる条件（STTn = 1） |
|---|---|
| ・通信予約禁止状態でのSTTnビットのセット（1）<br>・アービトレーションに負けたとき<br>・マスタでのスタート・コンディション生成<br>・LRELn = 1（通信退避）によるクリア<br>・IICEn = 0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

注1.　IICEn = 0の状態では，このビットの信号は無効になります。

2.　STTnビットの読み出し値は，常に0になります。

備考1.　IICRSVn　：IICフラグ・レジスタn（IICFn）のビット0

STCFn　：　〃　のビット7

2.　n = 0

図19－6　IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のフォーマット（4/4）

| SPTn[注] | ストップ・コンディション・トリガ |
|---|---|
| 0 | ストップ・コンディションを生成しない。 |
| 1 | ストップ・コンディションを生成する（マスタとしての転送終了）。 |

セット・タイミングに関する注意

・マスタ受信の場合：転送中のセット（1）は禁止です。
ACKEn = 0に設定し，受信の最後であることをスレーブに伝えたあとのクロック・ストレッチ期間中にだけセット（1）可能です。

・マスタ送信の場合：アクノリッジ期間中は，正常にストップ・コンディションが生成されないことがあります。9クロック出力後のクロック・ストレッチ期間中にセットしてください。

・スタート・コンディション・トリガ（STTn）と同時にセット（1）することは禁止です。

・SPTnビットのセット（1）は，マスタのときのみ行ってください。

・WTIMn = 0設定時に，8クロック出力後のクロック・ストレッチ期間中にSPTnビットをセット（1）すると，クロック・ストレッチ解除後，9クロック目のハイ・レベル期間中にストップ・コンディションを生成するので注意してください。8クロック出力後のクロック・ストレッチ期間中にWTIMn = 0→1に設定し，9クロック目出力後のクロック・ストレッチ期間中にSPTnビットをセット（1）してください。

・SPTnビットをセット（1）後，クリア条件になる前に，再度セット（1）することは禁止です。

| クリアされる条件（SPTn = 0） | セットされる条件（SPTn = 1） |
|---|---|
| ・アービトレーションに負けたとき<br>・ストップ・コンディション検出後，自動的にクリア<br>・LRELn = 1（通信退避）によるクリア<br>・IICEn = 0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

注　SPTnビットの読み出し値は，常に0になります。

注意　IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット3（TRCn）= 1（送信状態）のとき，9クロック目にIICCTLn0レジスタのビット5（WRELn）をセット（1）してクロック・ストレッチ解除すると，TRCnビットをクリア（受信状態）してSDAAnラインをハイ・インピーダンスにします。TRCn = 1（送信状態）におけるクロック・ストレッチ解除は，IICAシフト・レジスタnへの書き込みで行ってください。

備考　n = 0

### 19. 3. 3　IICAステータス・レジスタn（IICSn）

I²Cのステータスを表すレジスタです。

IICSnレジスタは，STTn = 1およびクロック・ストレッチ期間中のみ，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で読み出します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

注意　STOPモード状態時のアドレス一致ウエイク・アップ機能動作許可（WUPn = 1）状態でのIICSnレジスタの読み出しは禁止です。WUPn = 1の状態から，INTIICAn割り込み要求と関係なくWUPnビットを1→0（ウエイク・アップ動作停止）に変更した場合には，次のスタート・コンディション／ストップ・コンディション検出までは状態が反映されません。そのため，ウエイク・アップ機能を使用する場合には必ずストップ・コンディション検出による割り込みを許可（SPIEn = 1）して割り込み検出後にIICSnレジスタを読み出してください。

備考　STTn　　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット1
　　WUPn　　：IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）のビット7

図19－7　IICAステータス・レジスタn（IICSn）のフォーマット（1/3）

アドレス：FFF51H　　リセット時：00H　R

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IICSn | MSTSn | ALDn | EXCn | COIn | TRCn | ACKDn | STDn | SPDn |

| MSTSn | マスタ状態確認フラグ | |
|---|---|---|
| 0 | スレーブ状態または通信待機状態。 | |
| 1 | マスタ通信状態。 | |
| クリアされる条件（MSTSn = 0） | | セットされる条件（MSTSn = 1） |
| ・ストップ・コンディション検出時<br>・ALDn = 1（アービトレーション負け）のとき<br>・LRELn = 1（通信退避）によるクリア<br>・IICEn = 1→0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | | ・スタート・コンディション生成時 |

| ALDn | アービトレーション負け検出 | |
|---|---|---|
| 0 | アービトレーションが起こっていない状態。またはアービトレーションに勝った状態。 | |
| 1 | アービトレーションに負けた状態。MSTSnビットがクリアされる。 | |
| クリアされる条件（ALDn = 0） | | セットされる条件（ALDn = 1） |
| ・IICSnレジスタ読み出し後，自動的にクリア注<br>・IICEn = 1→0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | | ・アービトレーションに負けたとき |

注　IICSnレジスタのほかのビットに対し1ビット・メモリ操作命令を実行した場合もクリアされます。したがって，ALDnビット使用時は，ほかのビットよりも先にデータをリードしてください。

備考 1.　LRELn　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット6
　　IICEn　：　　〃　　のビット7
　　2.　n = 0

図19－7　IICAステータス・レジスタn（IICSn）のフォーマット（2/3）

| EXCn | 拡張コード受信検出 |
|---|---|
| 0 | 拡張コードを受信していない。 |
| 1 | 拡張コードを受信している。 |

| クリアされる条件（EXCn = 0） | セットされる条件（EXCn = 1） |
|---|---|
| ・スタート・コンディション検出時<br>・ストップ・コンディション検出時<br>・LRELn = 1（通信退避）によるクリア<br>・IICEn = 1→0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・受信したアドレス・データの上位4ビットが“0000”または“1111”のとき（8クロック目の立ち上がりでセット） |

| COIn | アドレス一致検出 |
|---|---|
| 0 | アドレスが一致していない。 |
| 1 | アドレスが一致している。 |

| クリアされる条件（COIn = 0） | セットされる条件（COIn = 1） |
|---|---|
| ・スタート・コンディション検出時<br>・ストップ・コンディション検出時<br>・LRELn = 1（通信退避）によるクリア<br>・IICEn = 1→0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・受信アドレスが自局アドレス（スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn））と一致したとき（8クロック目の立ち上がりでセット） |

| TRCn | 送信／受信状態検出 |
|---|---|
| 0 | 受信状態（送信状態以外）。SDAAnラインをハイ・インピーダンスにする。 |
| 1 | 送信状態。SDAAnラインにSOnラッチの値が出力できるようにする（1バイト目の9クロック目の立ち下がり以降有効）。 |

| クリアされる条件（TRCn = 0） | セットされる条件（TRCn = 1） |
|---|---|
| ＜マスタ，スレーブ共通＞<br>・ストップ・コンディション検出時<br>・LRELn = 1（通信退避）によるクリア<br>・IICEn = 1→0（動作停止）のとき<br>・WRELn = 1（クロック・ストレッチ解除）によるクリア注<br>・ALDn = 0→1（アービトレーション負け）のとき<br>・リセット時<br>・通信不参加の場合（MSTSn, EXCn, COIn = 0）<br>＜マスタの場合＞<br>・1バイト目のLSB（転送方向指定ビット）に“1”を出力したとき<br>＜スレーブの場合＞<br>・スタート・コンディション検出時<br>・1バイト目のLSB（転送方向指定ビット）に“0”を入力したとき | ＜マスタの場合＞<br>・スタート・コンディション生成時<br>・1バイト目（アドレス転送時）のLSB（転送方向指定ビット）に“0”（マスタ送信）を出力したとき<br>＜スレーブの場合＞<br>・マスタからの1バイト目（アドレス転送時）のLSB（転送方向指定ビット）に“1”（スレーブ送信）が入力されたとき |

注　IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット3（TRCn）= 1（送信状態）のとき，9クロック目にIICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット5（WRELn）をセット（1）してクロック・ストレッチを解除すると，TRCnビットをクリア（受信状態）してSDAAnラインをハイ・インピーダンスにします。TRCn = 1（送信状態）におけるクロック・ストレッチ解除は，IICAシフト・レジスタnへの書き込みで行ってください。

備考 1.　LRELn　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット6
　　IICEn　：　〃　のビット7
　　2.　n = 0

図19－7　IICAステータス・レジスタn（IICSn）のフォーマット（3/3）

| ACKDn | アクノリッジ（ACK）検出 |
|---|---|
| 0 | アクノリッジを検出していない。 |
| 1 | アクノリッジを検出している。 |

| クリアされる条件（ACKDn = 0） | セットされる条件（ACKDn = 1） |
|---|---|
| ・ストップ・コンディション検出時<br>・次のバイトの1クロック目の立ち上がり時<br>・LRELn = 1（通信退避）によるクリア<br>・IICEn = 1→0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・SCLAnラインの9クロック目の立ち上がり時にSDAAnラインがロウ・レベルであったとき |

| STDn | スタート・コンディション検出 |
|---|---|
| 0 | スタート・コンディションを検出していない。 |
| 1 | スタート・コンディションを検出している。アドレス転送期間であることを示す。 |

| クリアされる条件（STDn = 0） | セットされる条件（STDn = 1） |
|---|---|
| ・ストップ・コンディション検出時<br>・アドレス転送後の次のバイトの1クロック目の立ち上がり時<br>・LRELn = 1（通信退避）によるクリア<br>・IICEn = 1→0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・スタート・コンディション検出時 |

| SPDn | ストップ・コンディション検出 |
|---|---|
| 0 | ストップ・コンディションを検出していない。 |
| 1 | ストップ・コンディションを検出している。マスタでの通信が終了し，バスが解放されている。 |

| クリアされる条件（SPDn = 0） | セットされる条件（SPDn = 1） |
|---|---|
| ・このビットのセット後で，スタート・コンディション検出後の，アドレス転送バイトの1クロック目の立ち上がり時<br>・WUPn = 1→0のとき<br>・IICEn = 1→0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・ストップ・コンディション検出時 |

備考 1.　LRELn　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット6
　　IICEn　：　〃　のビット7
　　2.　n = 0

## 19. 3. 4　IICAフラグ・レジスタn（IICFn）

I²Cの動作モードの設定と，I²Cバスの状態を表すレジスタです。

IICFnレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。ただし，STTnクリア・フラグ（STCFn），I²Cバス状態フラグ（IICBSYn）は読み出しのみ可能です。

IICRSVnビットにより，通信予約機能の禁止／許可を設定します。

またSTCENnビットにより，IICBSYnビットの初期値を設定します。

IICRSVn, STCENnビットはI²Cが動作禁止（IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット7（IICEn）= 0）のときのみ書き込み可能です。動作許可後，IICFnレジスタは読み出しのみ可能となります。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図19－8　IICAフラグ・レジスタn（IICFn）のフォーマット

アドレス：FFF52H　　リセット時：00H　R/W注

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IICFn | STCFn | IICBSYn | 0 | 0 | 0 | 0 | STCENn | IICRSVn |

| STCFn | STTnクリア・フラグ |
|---|---|
| 0 | スタート・コンディション発行。 |
| 1 | スタート・コンディション発行できず，STTnフラグ・クリア。 |

| クリアされる条件（STCFn = 0） | セットされる条件（STCFn = 1） |
|---|---|
| ・STTn = 1によるクリア<br>・IICEn = 0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・通信予約禁止（IICRSVn = 1）設定時にスタート・コンディション発行できず，STTnビットがクリア（0）されたとき |

| IICBSYn | $I^2C$バス状態フラグ |
|---|---|
| 0 | バス解放状態（STCENn = 1時の通信初期状態）。 |
| 1 | バス通信状態（STCENn = 0時の通信初期状態）。 |

| クリアされる条件（IICBSYn = 0） | セットされる条件（IICBSYn = 1） |
|---|---|
| ・ストップ・コンディション検出時<br>・IICEn = 0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・スタート・コンディション検出時<br>・STCENn = 0時のIICEnビットのセット |

| STCENn | 初期スタート許可トリガ |
|---|---|
| 0 | 動作許可（IICEn = 1）後，ストップ・コンディションの検出により，スタート・コンディションを生成許可。 |
| 1 | 動作許可（IICEn = 1）後，ストップ・コンディションを検出せずに，スタート・コンディションを生成許可。 |

| クリアされる条件（STCENn = 0） | セットされる条件（STCENn = 1） |
|---|---|
| ・命令によるクリア<br>・スタート・コンディション検出時<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

| IICRSVn | 通信予約機能禁止ビット |
|---|---|
| 0 | 通信予約許可。 |
| 1 | 通信予約禁止。 |

| クリアされる条件（IICRSVn = 0） | セットされる条件（IICRSVn = 1） |
|---|---|
| ・命令によるクリア<br>・リセット時 | ・命令によるセット |

注　ビット6, 7はRead onlyです。

注意1.　STCENnビットへの書き込みは動作停止（IICEn = 0）時のみ行ってください。

2.　STCENn = 1とした場合，実際のバス状態にかかわらずバス解放状態（IICBSYn = 0）と認識しますので，1回目のスタート・コンディションを発行（STTn = 1）する場合は他の通信を破壊しないように第三者の通信が行われていないことを確認する必要があります。

3.　IICRSVnへの書き込みは動作停止（IICEn = 0）時のみ行ってください。

備考 1.　STTn　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット1
　　IICEn　：　〃　のビット7

2.　n = 0

### 19. 3. 5　IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）

I²Cの動作モードの設定やSCLAn, SDAAn端子状態を検出するためのレジスタです。

IICCTLn1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。ただし，CLDn, DADnビットは読み出しのみ可能です。

IICCTLn1レジスタは，WUPnビットを除きI²Cが動作禁止（IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット7（IICEn）= 0）のときに設定してください。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図19－9　IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）のフォーマット（1/2）

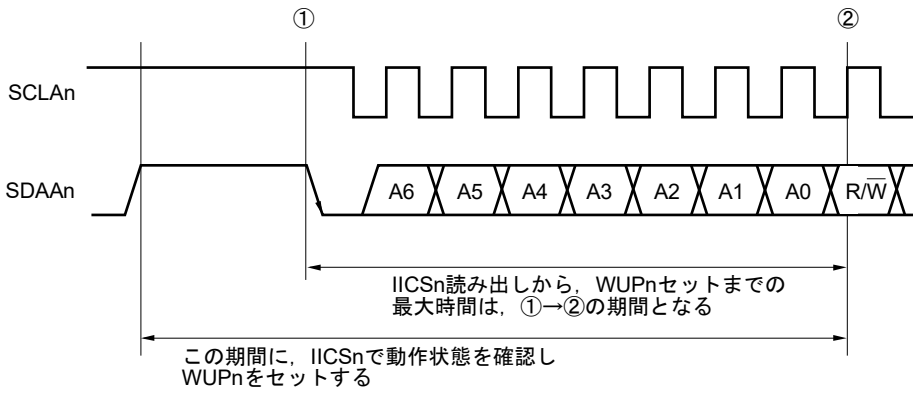
アドレス：F0231H　　リセット時：00H　R/W注1

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IICCTLn1 | WUPn | 0 | CLDn | DADn | SMCn | DFCn | 0 | PRSn |

| WUPn | アドレス一致ウエイク・アップの制御 |
|---|---|
| 0 | STOPモード状態時のアドレス一致ウエイク・アップ機能動作停止 |
| 1 | STOPモード状態時のアドレス一致ウエイク・アップ機能動作許可 |
| WUPn = 1でSTOPモードに移行する場合は，WUPnビットをセット（1）してfMCKの3クロック以上経過後にSTOP命令を実行してください（図19－22　WUPn = 1を設定する場合のフロー参照）。<br>アドレス一致，または拡張コード受信後はWUPnビットをクリア（0）してください。WUPnビットをクリア（0）することで，その後の通信に参加する事ができます（クロック・ストレッチ解除および送信データ書き込みは，WUPnビットをクリア（0）したあとに行う必要があります）。<br>WUPn = 1の状態における，アドレス一致および拡張コード受信時の割り込みタイミングは，WUPn = 0の場合の割り込みタイミングと同じです（クロックによるサンプリング誤差分の遅延差は生じます）。また，WUPn = 1の場合には，SPIEn = 1にしてもストップ・コンディション割り込みは発生しません。 | |
| クリアされる条件（WUPn = 0） | セットされる条件（WUPn = 1） |
| ・命令によるクリア（アドレス一致もしくは拡張コード受信後） | ・命令によるセット（MSTSn, EXCn, COIn = 0であり，STDn = 0（通信に不参加である事）のとき）注2 |

注1.　ビット4, 5はRead Onlyです。

2.　次に示す期間に，IICAステータス・レジスタn（IICSn）の状態を確認しセットする必要があります。




備考　n = 0

図19－9　IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）のフォーマット（2/2）

| CLDn | SCLAn端子のレベル検出（IICEn = 1のときのみ有効） |
|---|---|
| 0 | SCLAn端子がロウ・レベルであることを検出 |
| 1 | SCLAn端子がハイ・レベルであることを検出 |

| クリアされる条件（CLDn = 0） | セットされる条件（CLDn = 1） |
|---|---|
| ・SCLAn端子がロウ・レベルのとき<br>・IICEn = 0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・SCLAn端子がハイ・レベルのとき |

| DADn | SDAAn端子のレベル検出（IICEn = 1のときのみ有効） |
|---|---|
| 0 | SDAAn端子がロウ・レベルであることを検出 |
| 1 | SDAAn端子がハイ・レベルであることを検出 |

| クリアされる条件（DADn = 0） | セットされる条件（DADn = 1） |
|---|---|
| ・SDAAn端子がロウ・レベルのとき<br>・IICEn = 0（動作停止）のとき<br>・リセット時 | ・SDAAn端子がハイ・レベルのとき |

| SMCn | 動作モードの切り替え |
|---|---|
| 0 | 標準モードで動作（最大転送レート：100 kbps） |
| 1 | ファースト・モード（最大転送レート：400 kbps）またはファースト・モード・プラス（最大転送レート：1 Mbps）で動作 |

| DFCn | デジタル・フィルタの動作の制御 |
|---|---|
| 0 | デジタル・フィルタ・オフ |
| 1 | デジタル・フィルタ・オン |

デジタル・フィルタは，ファースト・モードおよびファースト・モード・プラス時に使用してください。
デジタル・フィルタは，ノイズ除去のために使用します。DFCnビットのセット（1）／クリア（0）により，転送クロックが変化することはありません。

| PRSn | IICA動作クロック（$f_{MCK}$）の制御 |
|---|---|
| 0 | $f_{CLK}$を選択（1 MHz≦$f_{CLK}$≦20 MHz） |
| 1 | $f_{CLK}$/2を選択（20MHz＜$f_{CLK}$） |

注意1.　IICA動作クロック（$f_{MCK}$）の最高動作周波数は20 MHz（Max.）です。
$f_{CLK}$が20 MHzを越える場合のみ，IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）のビット0（PRSn）に“1”を設定してください。

2.　転送クロックを設定する場合は，$f_{CLK}$の最低動作周波数に注意してください。
シリアル・インタフェースIICAはモードによって$f_{CLK}$の最低動作周波数が決められています。
ファースト・モード時：$f_{CLK}$ = 3.5 MHz（Min.）
ファースト・モード・プラス時：$f_{CLK}$ = 10 MHz（Min.）
標準モード時：$f_{CLK}$ = 1 MHz（Min.）

3.　ファースト・モード・プラスは，A:民生用途（$T_A$ = －40～＋85 ℃）D:産業用途（$T_A$ = －40～＋85 ℃）のみです。

備考　1.　IICEn：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット7
2.　n = 0

### 19. 3. 6　IICAロウ・レベル幅設定レジスタn（IICWLn）

シリアル・インタフェースIICAが，出力するSCLAn端子信号のロウ・レベル幅（$t_{LOW}$）とSDAAn端子信号を制御するレジスタです。

IICWLnレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

IICWLnレジスタは，$I^2C$が動作禁止（IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット7（IICEn）= 0）のときに設定してください。

リセット信号の発生により，FFHになります。

IICWLnの設定方法については，19. 4. 2　IICWLn, IICWHnレジスタによる転送クロック設定方法を参照してください。

また、データ・ホールド時間はIICWLnで設定した時間の1/4になります。

図19－10　IICAロウ･レベル幅設定レジスタn（IICWLn）のフォーマット

アドレス：F0232H　　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IICWLn | | | | | | | | |

### 19. 3. 7　IICAハイ・レベル幅設定レジスタn（IICWHn）

シリアル・インタフェースIICAが，出力するSCLAn端子信号のハイ・レベル幅とSDAAn端子信号を制御するレジスタです。

IICWHnレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

IICWHnレジスタは，$I^2C$が動作禁止（IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット7（IICEn）= 0）のときに設定してください。

リセット信号の発生により，FFHになります。

図19－11　IICAハイ･レベル幅設定レジスタn（IICWHn）のフォーマット

アドレス：F0233H　　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IICWHn | | | | | | | | |

備考 1.　マスタ側の転送クロックの設定方法は19. 4. 2（1）を，スレーブ側のIICWLn, IICWHnレジスタの設定方法は，19. 4. 2（2）を参照してください。

2.　n = 0

### 19. 3. 8　ポート・モード・レジスタ6（PM6）

ポート6の入力／出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

P60/SCLA0端子をクロック入出力，P61/SDAA0端子をシリアル・データ入出力として使用するとき，PM60, PM61およびP60, P61の出力ラッチに0を設定してください。

IICEn（IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット7）が0の場合，P60/SCLA0端子およびP61/SDAA0端子はロウ・レベル出力（固定）となるため，出力モードへの切り替えは，IICEnビットに1を設定してから，行ってください。

PM6レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります。

図19－12　ポート・モード・レジスタ6（PM6）のフォーマット

アドレス：FFF26H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PM6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | PM62 | PM61 | PM60 |

| PM6n | P6n端子の入出力モードの選択（n = 0-2） |
|---|---|
| 0 | 出力モード（出力バッファ・オン） |
| 1 | 入力モード（出力バッファ・オフ） |

# 19. 4　I²Cバス・モードの機能

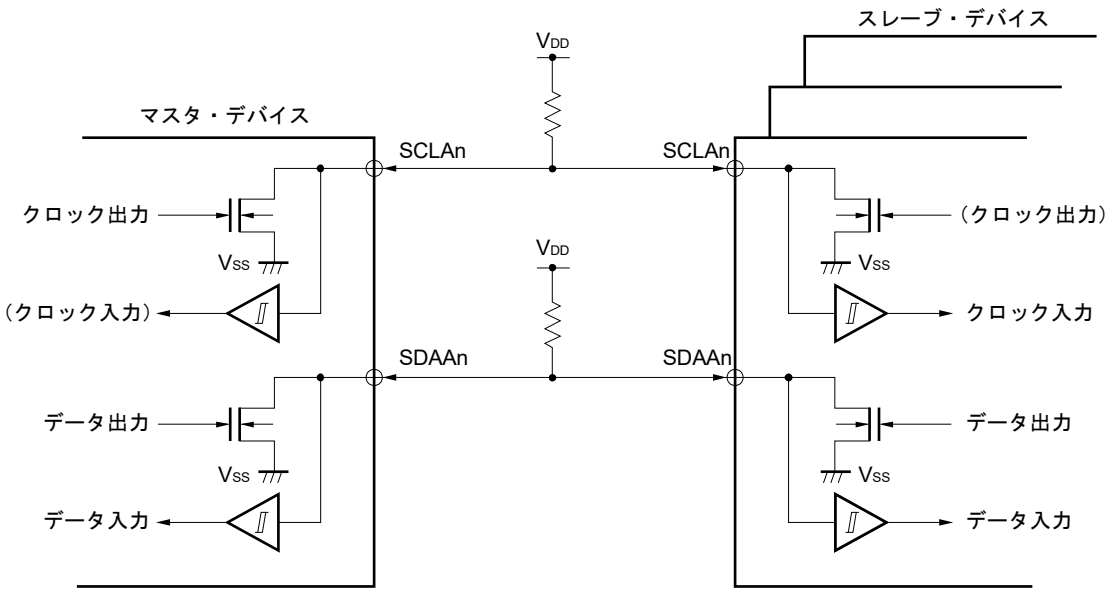
## 19. 4. 1　端子構成

シリアル・クロック端子（SCLAn）と，シリアル・データ・バス端子（SDAAn）の構成は，次のようになっています。

（1）SCLAn……シリアル・クロックを入出力するための端子。
　　マスタ，スレーブともに，出力はN-chオープン・ドレイン。入力はシュミット入力。
（2）SDAAn……シリアル・データの入出力兼用端子。
　　マスタ，スレーブともに，出力はN-chオープン・ドレイン。入力はシュミット入力。

シリアル・クロック・ラインおよびシリアル・データ・バス・ラインは，出力がN-chオープン・ドレインのため，外部にプルアップ抵抗が必要となります。

図19－13　端子構成図




備考　n = 0

### 19. 4. 2　IICWLn, IICWHnレジスタによる転送クロック設定方法

（1）マスタ側の転送クロック設定方法

$$\text{転送クロック} = \frac{f_{MCK}}{IICWLn + IICWHn + f_{MCK}(t_R + t_F)}$$

このとき，最適なIICWLnレジスタとIICWHnレジスタの設定値は次のようになります。
（設定値はすべて小数点以下切り上げ）

・ファースト･モード時

$$IICWLn = \frac{0.52}{\text{転送クロック}} \times f_{MCK}$$

$$IICWHn = \left(\frac{0.48}{\text{転送クロック}} - t_R - t_F\right) \times f_{MCK}$$

・標準モード時

$$IICWLn = \frac{0.47}{\text{転送クロック}} \times f_{MCK}$$

$$IICWHn = \left(\frac{0.53}{\text{転送クロック}} - t_R - t_F\right) \times f_{MCK}$$

・ファースト･モード･プラス時

$$IICWLn = \frac{0.50}{\text{転送クロック}} \times f_{MCK}$$

$$IICWHn = \left(\frac{0.50}{\text{転送クロック}} - t_R - t_F\right) \times f_{MCK}$$

（2）スレーブ側のIICWLn, IICWHnレジスタ設定方法
（設定値はすべて小数点以下切り上げ）

・ファースト･モード時

$IICWLn = 1.3\ \mu s \times f_{MCK}$

$IICWHn = (1.2\ \mu s - t_R - t_F) \times f_{MCK}$

・標準モード時

$IICWLn = 4.7\ \mu s \times f_{MCK}$

$IICWHn = (5.3\ \mu s - t_R - t_F) \times f_{MCK}$

・ファースト･モード･プラス時

$IICWLn = 0.50\ \mu s \times f_{MCK}$

$IICWHn = (0.50\ \mu s - t_R - t_F) \times f_{MCK}$

注意1.　IICA動作クロック（$f_{MCK}$）の最高動作周波数は20 MHz（Max.）です。
$f_{CLK}$が20 MHzを越える場合のみ，IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）のビット0（PRSn）に“1”を設定してください。

2.　転送クロックを設定する場合は，$f_{CLK}$の最低動作周波数に注意してください。シリアル・インタフェースIICAはモードによって$f_{CLK}$の最低動作周波数が決められています。

ファースト・モード時　：$f_{CLK}$ = 3.5 MHz（Min.）

ファースト・モード・プラス時　：$f_{CLK}$ = 10 MHz（Min.）

標準モード時　：$f_{CLK}$ = 1 MHz（Min.）

（備考は次ページにあります。）

備考1.　SDAAn, SCLAn信号の立ち上がり時間（$t_R$）と立ち下がり時間（$t_F$）は，プルアップ抵抗と配線容量によって異なるため，各自で算出してください。

2.　IICWLn　：IICAロウ・レベル幅設定レジスタn

IICWHn　：IICAハイ・レベル幅設定レジスタn

$t_F$　：SDAAn, SCLAn信号の立ち下がり時間

$t_R$　：SDAAn, SCLAn信号の立ち上がり時間

$f_{MCK}$　：IICA動作クロック周波数

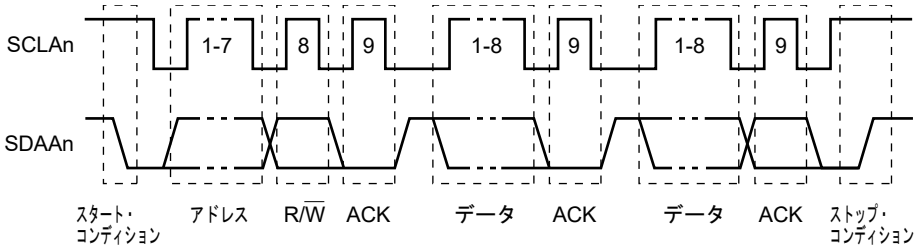
3.　n = 0

## 19. 5　I²Cバスの定義および制御方法

I²Cバスのシリアル・データ通信フォーマットおよび，使用する信号の意味について次に説明します。

I²Cバスのシリアル・データ・バス上に生成されている“スタート・コンディション”，“アドレス”，“データ”および“ストップ・コンディション”の各転送タイミングを図19－14に示します。

図19－14　I²Cバスのシリアル・データ転送タイミング




スタート・コンディション，スレーブ・アドレス，ストップ・コンディションはマスタが生成します。

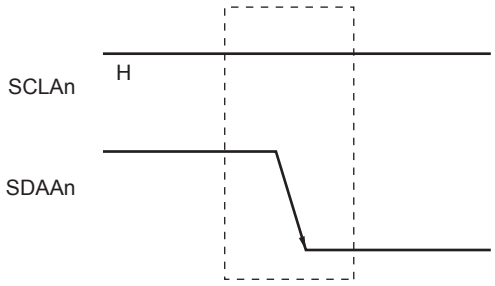
アクノリッジ（ACK）は，マスタ，スレーブのどちらでも生成できます（通常，8ビット・データの受信側が出力します）。

シリアル・クロック（SCLAn）は，マスタが出力し続けます。ただし，スレーブはSCLAn端子のロウ・レベル期間を延長し，クロック・ストレッチを挿入できます。

### 19. 5. 1　スタート・コンディション

SCLAn端子がハイ・レベルのときに，SDAAn端子がハイ・レベルからロウ・レベルに変化するとスタート・コンディションとなります。SCLAn端子，SDAAn端子のスタート・コンディションはマスタがスレーブに対してシリアル転送を開始するときに生成する信号です。スレーブとして使用する場合は，スタート・コンディションを検出できます。

図19－15　スタート・コンディション




スタート・コンディションは，ストップ・コンディション検出状態（SPDn：IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット0 = 1）のときにIICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット1（STTn）をセット（1）すると出力されます。また，スタート・コンディションを検出すると，IICSnレジスタのビット1（STDn）がセット（1）されます。

備考　n = 0

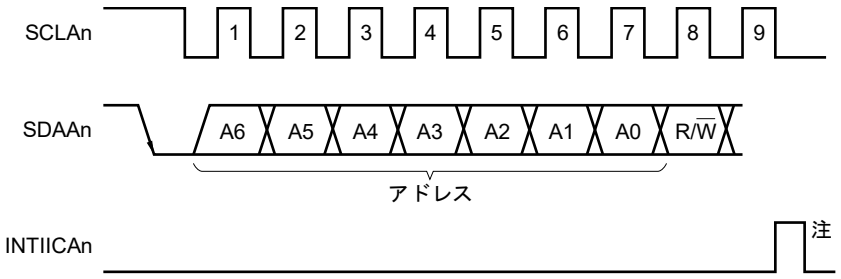
### 19. 5. 2　アドレス

スタート・コンディションに続く7ビット・データはアドレスと定義されています。

アドレスは，マスタがバス・ラインに接続されている複数のスレーブの中から，特定のスレーブを選択するために出力する7ビット・データです。したがって，バス・ライン上のスレーブは，すべて異なるアドレスにしておく必要があります。

スレーブは，ハードウエアでこの条件を検出し，さらに，7ビット・データがスレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）と一致しているかを調べます。このとき，7ビット・データとSVAnレジスタの値が一致すると，そのスレーブが選択されたことになり，以後，マスタがスタート・コンディションまたはストップ・コンディションを生成するまでマスタとの通信を行います。

図19－16　アドレス




注　スレーブ動作時に自局アドレスまたは拡張コード以外を受信した場合は，INTIICAnは発生しません。

アドレスは，スレーブのアドレスと19. 5. 3　転送方向指定に説明する転送方向を合わせて8ビットとしてIICAシフト・レジスタn（IICAn）に書き込むと出力します。また，受信したアドレスはIICAnレジスタに書き込まれます。

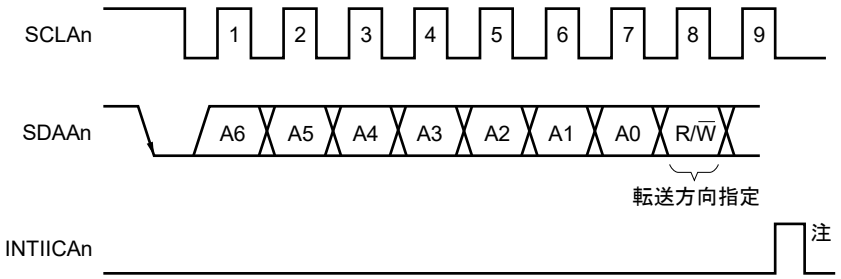
なお，スレーブのアドレスは，IICAnレジスタの上位7ビットに割り当てられます。

### 19. 5. 3　転送方向指定

マスタは，7ビットのアドレスに続いて，転送方向を指定するための1ビット・データを送信します。

この転送方向指定ビットが0のとき，マスタがスレーブにデータを送信することを示します。また，転送方向指定ビットが1のとき，マスタがスレーブからデータを受信することを示します。

図19－17　転送方向指定




注　スレーブ動作時に自局アドレスまたは拡張コード以外を受信した場合は，INTIICAnは発生しません。

備考　n = 0

### 19. 5. 4　アクノリッジ（ACK）

アクノリッジ（ACK）によって，送信側と受信側におけるシリアル・データの状態を確認することができます。

受信側は，8ビット・データを受信するごとにアクノリッジを返します。

送信側は通常，8ビット・データ送信後，アクノリッジを受信します。受信側からアクノリッジが返されたとき，受信が正しく行われたものとして処理を続けます。アクノリッジの検出は，IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット2（ACKDn）で確認できます。

マスタが受信で最終データを受信したときはアクノリッジを返さず，ストップ・コンディションを生成します。スレーブが受信でアクノリッジを返さないとき，マスタはストップ・コンディションまたはリスタート・コンディションを出力し，送信を中止します。アクノリッジが返らない場合，次の要因が考えられます。

① 受信が正しく行われていない。
② 最終データの受信が終わっている。
③ アドレス指定した受信側が存在しない。

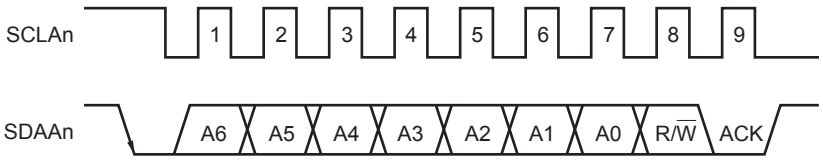
アクノリッジ生成は，受信側が9クロック目にSDAAnラインをロウ・レベルにすることによって行われます（正常受信）。

IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット2（ACKEn）をセット（1）することによって，アクノリッジが自動生成可能な状態になります。7ビットのアドレス情報に続く8ビット目のデータによりIICSnレジスタのビット3（TRCn）が設定されます。受信（TRCn = 0）の場合は，通常，ACKEnビットをセット（1）してください。

スレーブ受信動作時（TRCn = 0）にデータを受信できなくなったとき，または次のデータを必要としないときには，ACKEnビットをクリア（0）し，マスタ側に受信ができないことを示してください。

マスタ受信動作時（TRCn = 0）に，次のデータを必要としない場合，アクノリッジを生成しないようにACKEnビットをクリア（0）してください。これによって，スレーブ送信側にデータの終わりを知らせます（送信停止）。

図19－18　アクノリッジ




自局アドレス受信時は，ACKEnビットの値にかかわらずアクノリッジを自動生成します。自局アドレス以外の受信時は，アクノリッジを生成しません（NACK）。

拡張コード受信時は，あらかじめACKEnビットをセット（1）しておくことによってアクノリッジを生成します。

データ受信時のアクノリッジ生成方法は，クロック・ストレッチ・タイミングの設定により次のように異なります。

・8クロック・クロック・ストレッチ選択時（IICCTLn0レジスタのビット3（WTIMn）　= 0）：
　クロック・ストレッチ解除を行う前にACKEnビットをセット（1）することによって，SCLAn端子の8クロック目の立ち下がりに同期してアクノリッジを生成します。
・9クロック・クロック・ストレッチ選択時（IICCTLn0レジスタのビット3（WTIMn）　= 1）：
　あらかじめACKEnビットをセット（1）することによって，アクノリッジを生成します。

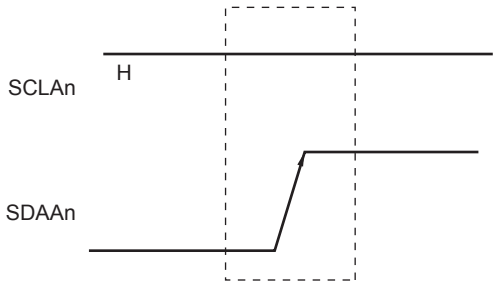
備考　n = 0

### 19. 5. 5　ストップ・コンディション

SCLAn端子がハイ・レベルのときに，SDAAn端子がロウ・レベルからハイ・レベルに変化すると，ストップ・コンディションとなります。

ストップ・コンディションは，マスタがスレーブに対してシリアル転送が終了したときに生成します。スレーブとして使用する場合は，ストップ・コンディションを検出できます。

図19－19　ストップ・コンディション




ストップ・コンディションは，IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット0（SPTn）をセット（1）すると発生します。また，ストップ・コンディションを検出するとIICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット0（SPDn）がセット（1）され，IICCTLn0レジスタのビット4（SPIEn）がセット（1）されている場合にはINTIICAnが発生します。

備考　n = 0

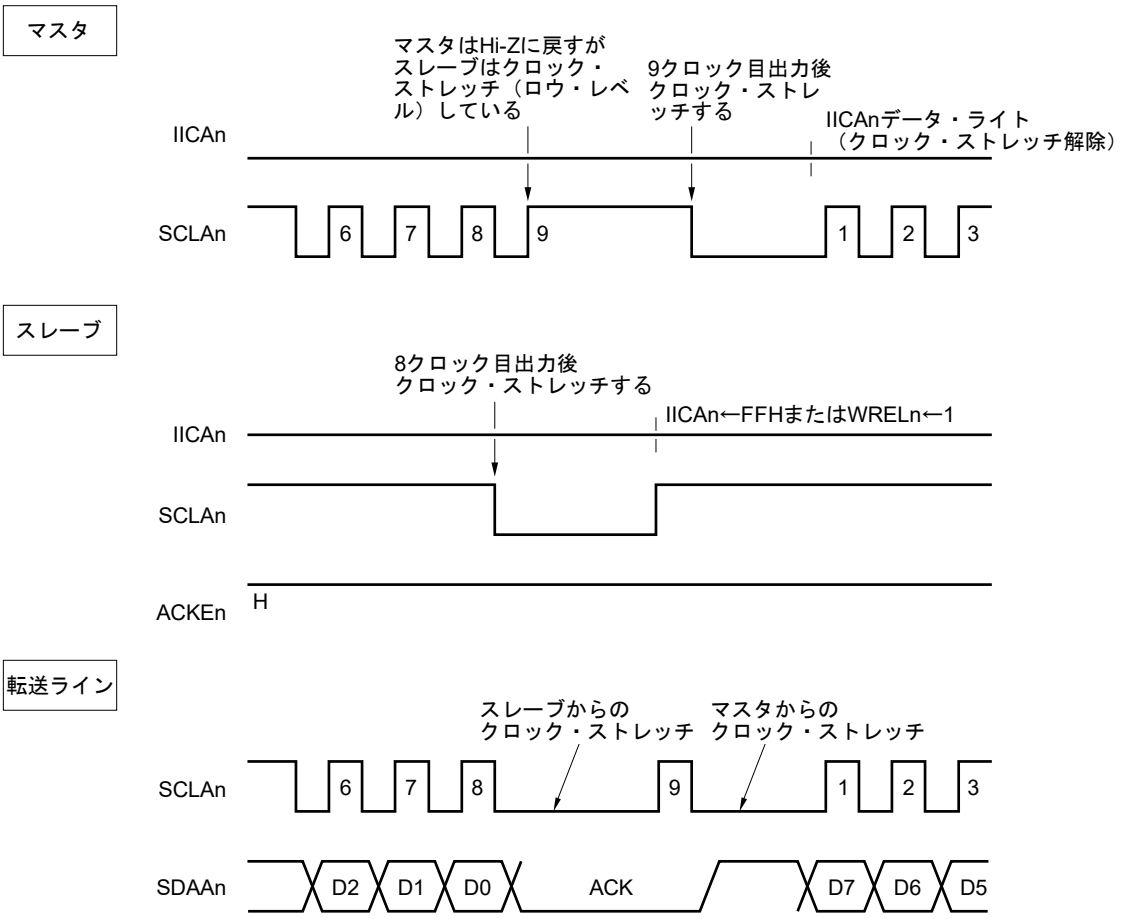
### 19. 5. 6　クロック・ストレッチ

クロック・ストレッチによっては，マスタまたはスレーブがデータの送受信のための準備中（クロック・ストレッチ状態）であることを相手に知らせます。

SCLAn端子をロウ・レベルにすることにより，相手にクロック・ストレッチ状態を知らせます。マスタ，スレーブ両方のクロック・ストレッチ状態が解除されると，次の転送を開始できます。

図19－20　クロック・ストレッチ（1/2）

（1）マスタは9クロック・クロック・ストレッチ，スレーブは8クロック・クロック・ストレッチ時
（マスタ：送信，スレーブ：受信，ACKEn = 1）

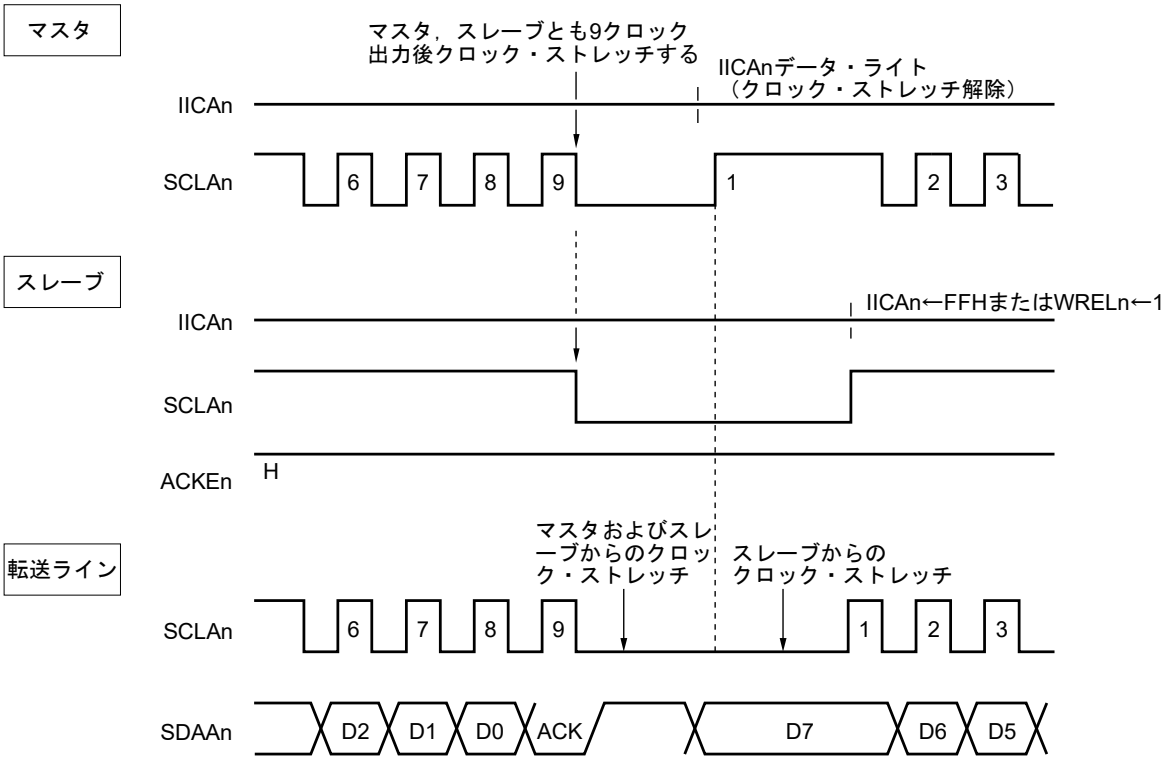



備考　n = 0

図19－20　クロック・ストレッチ（2/2）

（2）マスタ，スレーブとも9クロック・クロック・ストレッチ時

（マスタ：送信，スレーブ：受信，ACKEn = 1）




備考　ACKEn　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット2

WRELn　：　　〃　　のビット5

クロック・ストレッチは，IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット3（WTIMn）の設定により自動的に発生します。

通常，受信側はIICCTLn0レジスタのビット5（WRELnビット）= 1またはIICAシフト・レジスタn（IICAn）にFFHを書き込むとクロック・ストレッチを解除し，送信側はIICAnレジスタにデータを書き込むとクロック・ストレッチを解除します。

マスタの場合は，次の方法でもクロック・ストレッチを解除できます。

・IICCTLn0レジスタのビット1（STTn）= 1

・IICCTLn0レジスタのビット0（SPTn）= 1

備考　n = 0

### 19. 5. 7　クロック・ストレッチ解除方法

I²Cでは，通常，次のような処理でクロック・ストレッチを解除できます。

- IICAシフト・レジスタn（IICAn）へのデータ書き込み
- IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット5（WRELn）のセット（クロック・ストレッチ解除）
- IICCTLn0レジスタのビット1（STTn）のセット（スタート・コンディションの生成）注
- IICCTLn0レジスタのビット0（SPTn）のセット（ストップ・コンディションの生成）注

注　マスタのみ。

これらのクロック・ストレッチ解除処理を実行した場合，I²Cはクロック・ストレッチを解除し，通信が再開されます。

クロック・ストレッチを解除してデータ（アドレスを含む）を送信する場合には，IICAnレジスタにデータを書き込んでください。

クロック・ストレッチ解除後にデータを受信する場合，またはデータ送信を完了する場合には，IICCTLn0レジスタのビット5（WRELn）をセット（1）してください。

クロック・ストレッチ解除後にリスタート・コンディションを生成する場合には，IICCTLn0レジスタのビット1（STTn）をセット（1）してください。

クロック・ストレッチ解除後にストップ・コンディションを生成する場合には，IICCTLn0レジスタのビット0（SPTn）をセット（1）してください。

1回のクロック・ストレッチ状態に対して1回だけ解除処理を実行してください。

たとえば，WRELnビットにセット（1）によるクロック・ストレッチ解除後，IICAnレジスタへのデータ書き込みを実施した場合には，SDAAnラインの変化タイミングとIICAnレジスタへの書き込みタイミングの競合により，SDAAnラインへの出力データが間違った値になる可能性があります。

このような処理以外でも，通信を途中で中止した場合には，IICEnビットをクリア（0）すると通信を停止するので，クロック・ストレッチを解除できます。

I²Cバスの状態がノイズなどによりデッド・ロックしてしまった場合には，IICCTLn0レジスタのビット6（LRELn）をセット（1）すると通信から退避するので，クロック・ストレッチを解除できます。

注意　WUPn = 1のときにクロック・ストレッチ解除処理を実行した場合，クロック・ストレッチは解除されません。

備考　n = 0

### 19. 5. 8　割り込み要求（INTIICAn）発生タイミングおよびクロック・ストレッチ制御

IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット3（WTIMn）の設定で，表19－2に示すタイミングでINTIICAnが発生し，また，クロック・ストレッチ制御を行います。

表19－2　INTIICAn発生タイミングおよびクロック・ストレッチ制御

| WTIMn | スレーブ動作時 | | | マスタ動作時 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | アドレス | データ受信 | データ送信 | アドレス | データ受信 | データ送信 |
| 0 | 9注1, 2 | 8注2 | 8注2 | 9 | 8 | 8 |
| 1 | 9注1, 2 | 9注2 | 9注2 | 9 | 9 | 9 |

注1.　スレーブのINTIICAn信号およびクロック・ストレッチは，スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）に設定しているアドレスと一致したときにのみ，9クロック目の立ち下がりで発生します。
また，このとき，IICCTLn0レジスタのビット2（ACKEn）の設定にかかわらず，アクノリッジが生成されます。拡張コードを受信したスレーブは8クロック目の立ち下がりでINTIICAnを発生します。
ただし，リスタート後にアドレス不一致になった場合には，9クロック目の立ち下がりでINTIICAnを発生しますが，クロック・ストレッチは発生しません。

2.　スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）と受信したアドレスが一致せず，かつ拡張コードを受信していない場合は，INTIICAnもクロック・ストレッチも発生しません。

備考　表中の数字は，シリアル・クロックのクロック数を示しています。また，割り込み要求，クロック・ストレッチ制御ともにシリアル・クロックの立ち下がりに同期します。

（1）アドレス送受信時

・スレーブ動作時：WTIMnビットにかかわらず，上記の注1, 2の条件により，割り込みおよびクロック・ストレッチ・タイミングが決まります。
・マスタ動作時　：WTIMnビットにかかわらず，割り込みおよびクロック・ストレッチ・タイミングは，9クロック目の立ち下がりで発生します。

（2）データ受信時

・マスタ／スレーブ動作時：WTIMnビットにより，割り込みおよびクロック・ストレッチ・タイミングが決まります。

（3）データ送信時

・マスタ／スレーブ動作時：WTIMnビットにより，割り込みおよびクロック・ストレッチ・タイミングが決まります。

備考　n = 0

(4) クロック・ストレッチ解除方法

クロック・ストレッチの解除方法には次の4つがあります。

・IICAシフト・レジスタn（IICAn）へのデータ書き込み
・IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット5（WRELn）のセット（クロック・ストレッチ解除）
・IICCTLn0レジスタのビット1（STTn）のセット（スタート・コンディションの生成）注
・IICCTLn0レジスタのビット0（SPTn）のセット（ストップ・コンディションの生成）注

注　マスタのみ。

8クロック・クロック・ストレッチ選択（WTIMn = 0）時は，クロック・ストレッチ解除前にアクノリッジの生成の有無を決定する必要があります。

(5) ストップ・コンディション検出

INTIICAnは，ストップ・コンディションを検出すると発生します（SPIEn = 1のときのみ）。

### 19. 5. 9　アドレスの一致検出方法

I²Cバス・モードでは，マスタがスレーブ・アドレスを送信することにより，特定のスレーブ・デバイスを選択できます。

アドレス一致は，ハードウエアで自動的に検出できます。マスタから送信されたスレーブ・アドレスとスレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）に設定したアドレスが一致したとき，または拡張コードを受信した場合だけ，INTIICAn割り込み要求が発生します。

### 19. 5. 10　エラーの検出

I²Cバス・モードでは，送信中のシリアル・バス（SDAAn）の状態が，送信しているデバイスのIICAシフト・レジスタn（IICAn）にも取り込まれるため，送信開始前と送信終了後のIICAデータを比較することにより，送信エラーを検出できます。この場合，2つのデータが異なっていれば送信エラーが発生したものと判断します。

備考　n = 0

### 19. 5. 11　拡張コード

(1) 受信アドレスの上位4ビットが“0000”と“1111”のときを拡張コード受信として，拡張コード受信フラグ（EXCn）をセット（1）し，8クロック目の立ち下がりで割り込み要求（INTIICAn）を発生します。
スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）に格納された自局アドレスは影響しません。

(2) SVAnレジスタに“11110xx0”を設定されているときに，10ビット・アドレス転送でマスタから“11110xx0”が転送されてきた場合は，次のようになります。ただし割り込み要求（INTIICAn）は，8クロック目の立ち下がりで発生します。

・上位4ビット・データの一致 ：EXCn = 1
・7ビット・データの一致　　：COIn = 1

備考　EXCn　　：IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット5
　　COIn　　：　　〃　　のビット4

(3) 割り込み要求発生後の処理は，拡張コードに続くデータによって異なるため，ソフトウエアで行います。
スレーブ動作時に，拡張コードを受信した場合は，アドレス不一致でも通信に参加しています。
たとえば拡張コード受信後，スレーブとして動作したくない場合は，IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット6（LRELn）= 1に設定してください。次の通信待機状態にします。

表19－3　主な拡張コードのビットの定義

| スレーブ・アドレス | R/Wビット | 説　　明 |
|---|---|---|
| 0000　000 | 0 | ジェネラル・コール・アドレス |
| 1111　0xx | 0 | 10ビット・スレーブ・アドレス指定（アドレス認証時） |
| 1111　0xx | 1 | 10ビット・スレーブ・アドレス指定（アドレス一致後，リード・コマンド発行時） |

備考 1.　上記以外の拡張コードについては，NXP社発行の$I^2C$バスの仕様書を参照してください。
　　2.　n = 0

### 19. 5. 12　アービトレーション

複数のマスタがスタート・コンディションを同時に生成した場合（STDn = 1になる前にSTTn = 1にしたとき），データが異なるまでクロックの調整をしながら，マスタ通信を行います。この動作をアービトレーションと呼びます。

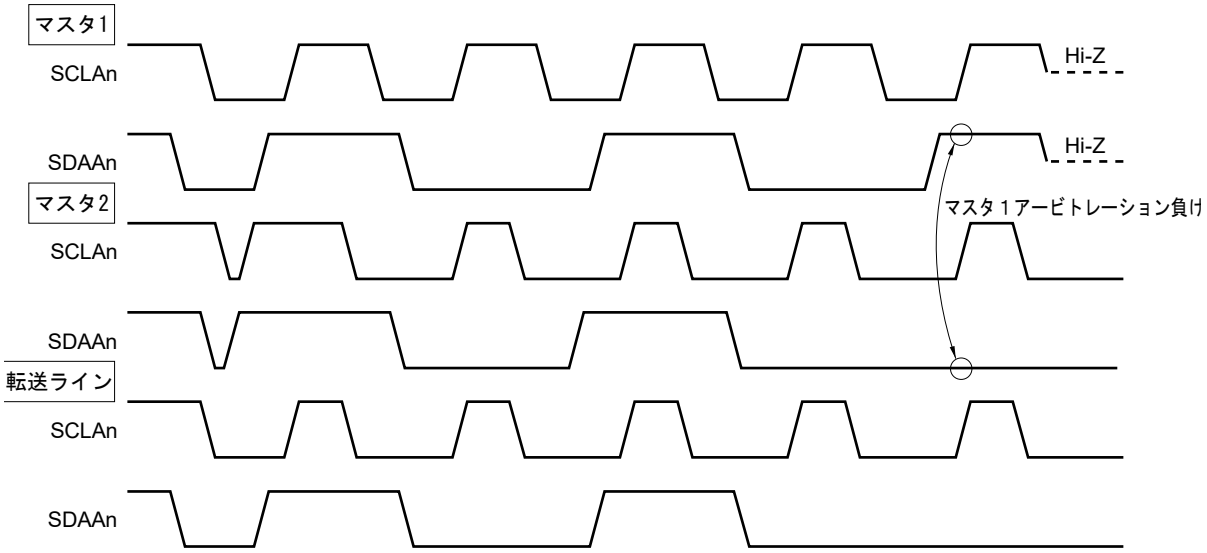
アービトレーションに負けたマスタは，アービトレーションに負けたタイミングで，IICAステータス・レジスタn（IICSn）のアービトレーション負けフラグ（ALDn）をセット（1）し，SCLAn, SDAAnラインともハイ・インピーダンス状態にしてバスを解放します。

アービトレーションに負けたことは，次の割り込み要求発生タイミング（8または9クロック目，ストップ・コンディション検出など）で，ソフトウエアでALDn = 1になっていることで検出します。

割り込み要求発生タイミングについては，19. 5. 8　割り込み要求（INTIICAn）発生タイミングおよびクロック・ストレッチ制御を参照してください。

備考　STDn　：IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット1
　　STTn　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット1

図19－21　アービトレーション・タイミング例




備考　n = 0

表19－4　アービトレーション発生時の状態と割り込み要求発生タイミング

| アービトレーション発生時の状態 | 割り込み要求発生タイミング |
|---|---|
| アドレス送信中 | バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり注1 |
| アドレス送信後のリード／ライト情報 | |
| 拡張コード送信中 | |
| 拡張コード送信後のリード／ライト情報 | |
| データ送信中 | |
| データ送信後のアクノリッジ転送期間中 | |
| データ転送中，リスタート・コンディション検出 | |
| データ転送中，ストップ・コンディション検出 | ストップ・コンディション生成時（SPIEn = 1時）注2 |
| リスタート・コンディションを生成しようとしたがデータがロウ・レベル | バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり注1 |
| リスタート・コンディションを生成しようとしたがストップ・コンディション検出 | ストップ・コンディション生成時（SPIEn = 1時）注2 |
| ストップ・コンディションを生成しようとしたがデータがロウ・レベル | バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり注1 |
| リスタート・コンディションを生成しようとしたがSCLAnがロウ・レベル | |

注1.　WTIMnビット（IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット3）= 1の場合には，9クロック目の立ち下がりタイミングで割り込み要求を発生します。WTIMn = 0および拡張コードのスレーブ・アドレス受信時には，8クロック目の立ち下がりタイミングで割り込み要求を発生します。

2.　アービトレーションが起こる可能性がある場合，マスタ動作ではSPIEn = 1に設定してください。

備考 1.　SPIEn：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット4

2.　n = 0

### 19. 5. 13　ウエイク・アップ機能

I²Cのスレーブ機能で，自局アドレスと拡張コードを受信したときに割り込み要求信号（INTIICAn）を発生する機能です。

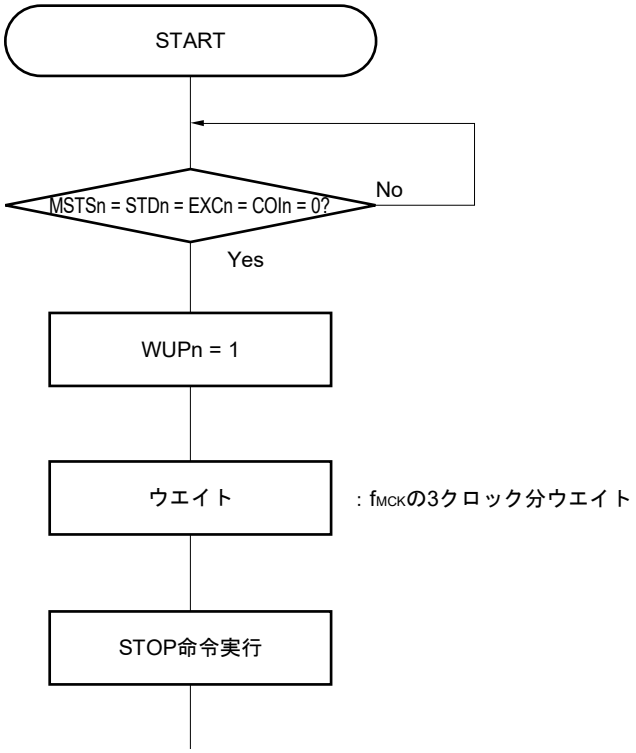
アドレスが一致しないときは不要なINTIICAn信号を発生せず，効率よく処理できます。

スタート・コンディションを検出すると，ウエイク・アップ待機状態となります。マスタ（スタート・コンディションを生成した場合）でも，アービトレーション負けでスレーブになる可能性があるため，アドレスを送信しながらウエイク・アップ待機状態になります。

STOPモード状態時にウエイク・アップ機能を使用する場合には，WUPn = 1に設定してください。動作クロックに関係なくアドレス受信を行う事ができます。この場合も，自局アドレスおよび拡張コードを受信したときに割り込み要求信号（INTIICAn）を発生します。この割り込み発生後に命令でWUPnビットをクリア（0）することで通常動作に戻ります。

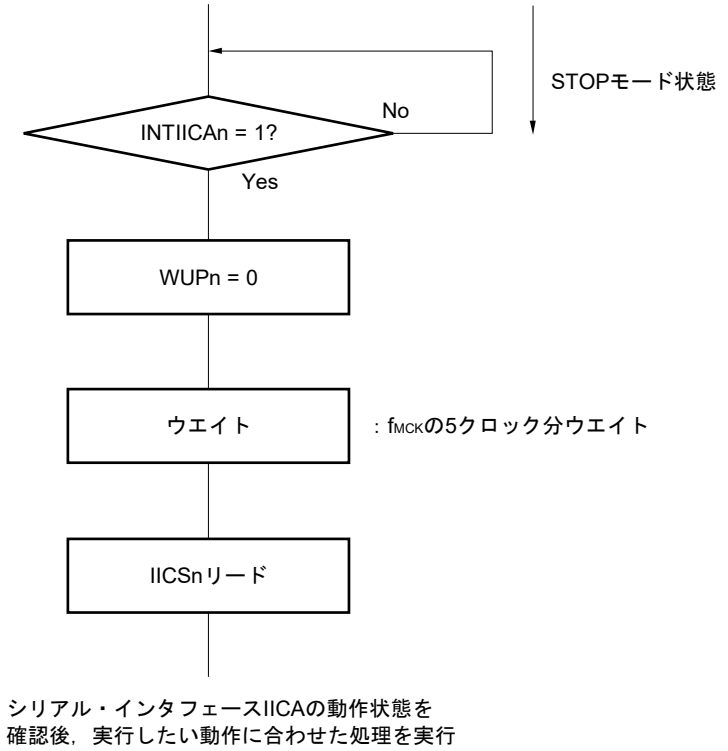
WUPn = 1に設定する場合のフローを図19－22に，アドレス一致によりWUPn = 0に設定する場合のフローを図19－23に示します。

図19－22　WUPn = 1を設定する場合のフロー




備考　n = 0

図19－23　アドレス一致によりWUPn = 0に設定する場合のフロー（拡張コード受信含む）

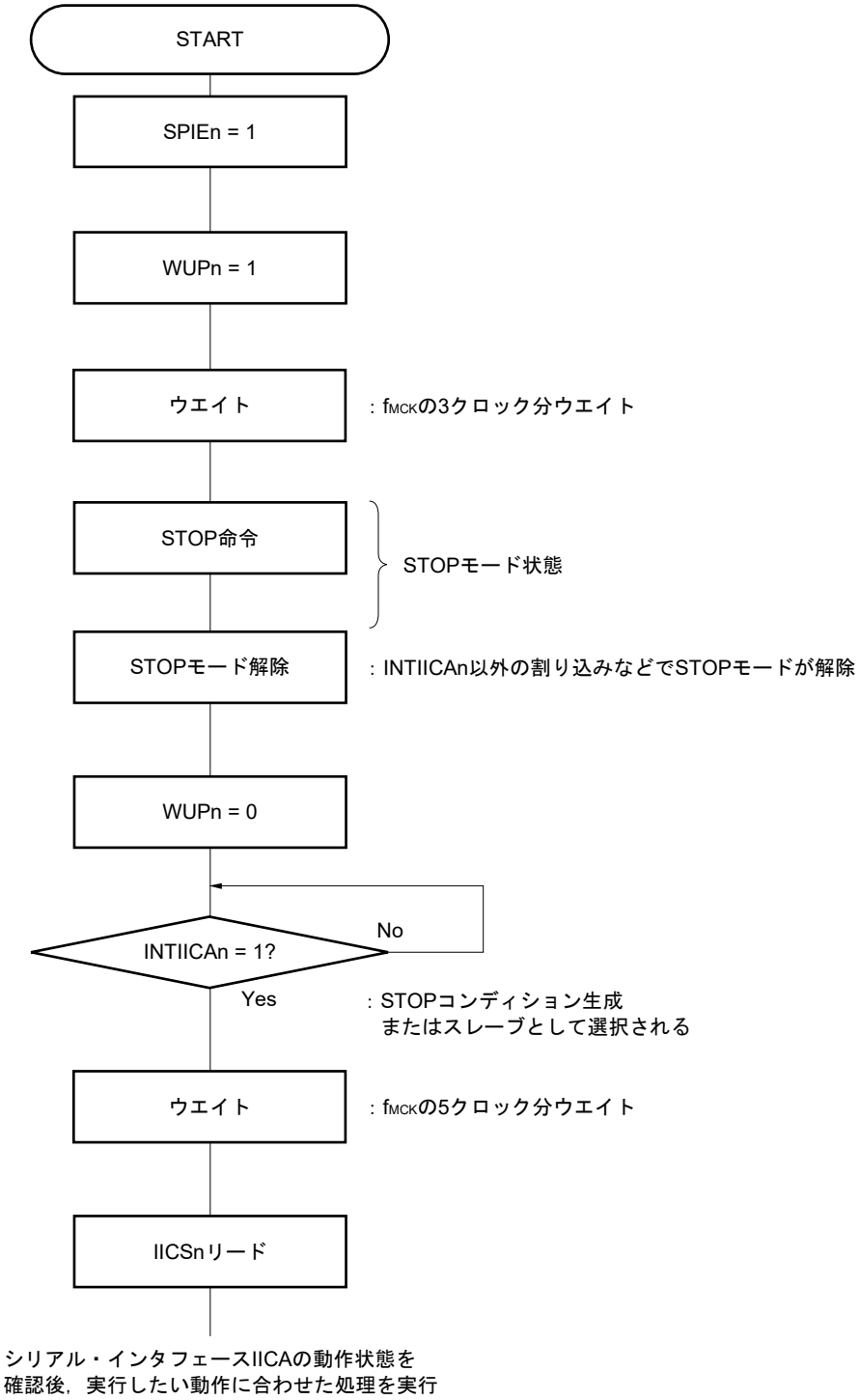



また，シリアル・インタフェースIICAからの割り込み要求（INTIICAn）以外でSTOPモードを解除する場合の処理は次のフローを行ってください。

・次のIIC通信をマスタとして動作させる場合　　：図19－24のフロー
・次のIIC通信をスレーブとして動作させる場合：
　INTIICAn割り込みで復帰した場合：図19－23のフローと同じになります。
　INTIICAn割り込み以外の割り込みで復帰した場合：　INTIICAn割り込みが発生するまでWUPn = 1のまま動作を継続してください。

備考　n = 0

図19－24　INTIICAn以外でSTOPモードが解除後にマスタとして動作させる場合




備考　n = 0

### 19. 5. 14　通信予約

（1）通信予約機能許可の場合（IICAフラグ・レジスタn（IICFn）のビット0（IICRSVn）= 0）

バスに不参加の状態で，次にマスタ通信を行いたい場合は，通信予約を行うことにより，バス解放時にスタート・コンディションを送信できます。この場合のバスの不参加とは次の2つの状態を含みます。

・アービトレーションでマスタにもスレーブにもなれなかった場合
・拡張コードを受信してスレーブとして動作しない（アクノリッジを返さず，IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット6（LRELn）= 1で通信退避してバスを解放した）とき

バスに不参加の状態で，IICCTLn0レジスタのビット1（STTn）をセット（1）すると，バスが解放されたあと（ストップ・コンディション検出時）に，自動的にスタート・コンディションを生成し，ウエイト状態になります。

IICCTLn0レジスタのビット4（SPIEn）をセット（1）し，割り込み要求信号（INTIICAn）発生でバスの解放を検出（ストップ・コンディション検出）したあと，IICAシフト・レジスタn（IICAn）にアドレスを書き込むと，自動的にマスタとしての通信を開始します。ストップ・コンディションを検出する前に，IICAnレジスタに書き込まれたデータは，無効です。

STTnビットをセット（1）したとき，スタート・コンディションとして動作するか通信予約として動作するかはバスの状態により決定されます。

・バスが解放されているとき……スタート・コンディション生成
・バスが解放されていないとき（待機状態）……通信予約

通信予約として動作するのかどうかは，STTnビットをセット（1）し，ウエイト時間をとったあと，MSTSnビット（IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット7）で確認します。

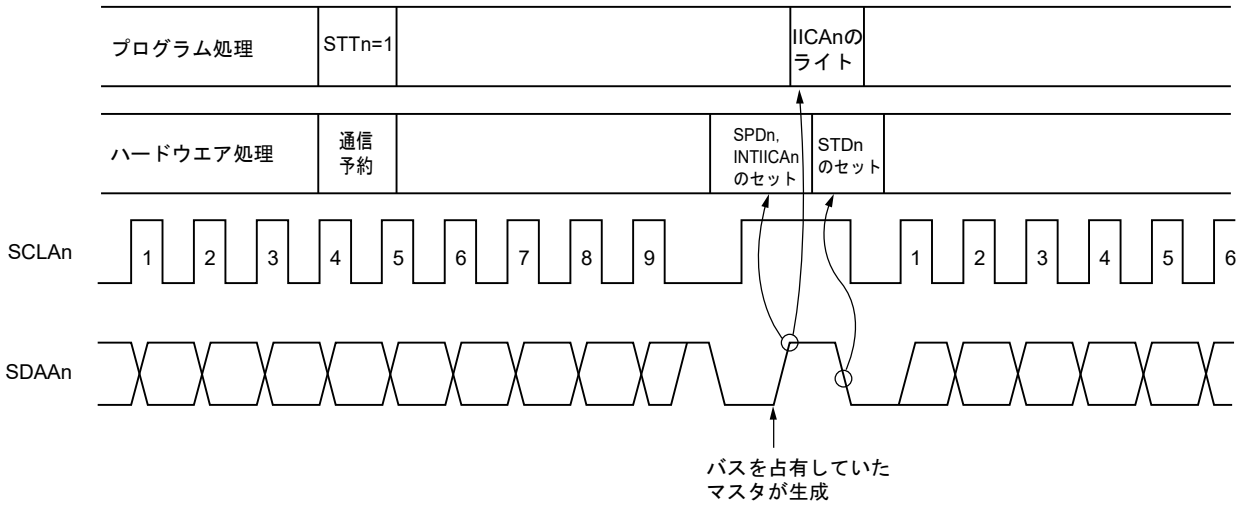
ウエイト時間は，次の式から算出した時間をソフトウエアにより確保してください。

| |
|---|
| STTn = 1からMSTSnフラグ確認までのウエイト時間： |
| (IICWLnの設定値+IICWHnの設定値+4)/fMCK + tF　×　2 |

備考1.　IICWLn　：IICAロウ・レベル幅設定レジスタn
　　IICWHn　：IICAハイ・レベル幅設定レジスタn
　　$t_F$　：SDAAn, SCLAn信号の立ち下がり時間
　　$f_{MCK}$　：IICA動作クロック周波数
　2.　n = 0

通信予約のタイミングを図19－25に示します。

図19－25　通信予約のタイミング




備考　IICAn ：IICAシフト・レジスタn

STTn ：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット1

STDn ：IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット1

SPDn ：　　〃　　のビット0

通信予約は図19－26に示すタイミングで受け付けられます。IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット1（STDn）＝ 1になったあと，ストップ・コンディション検出までにIICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット1（STTn）＝1で通信予約をします。

図19－26　通信予約受け付けタイミング

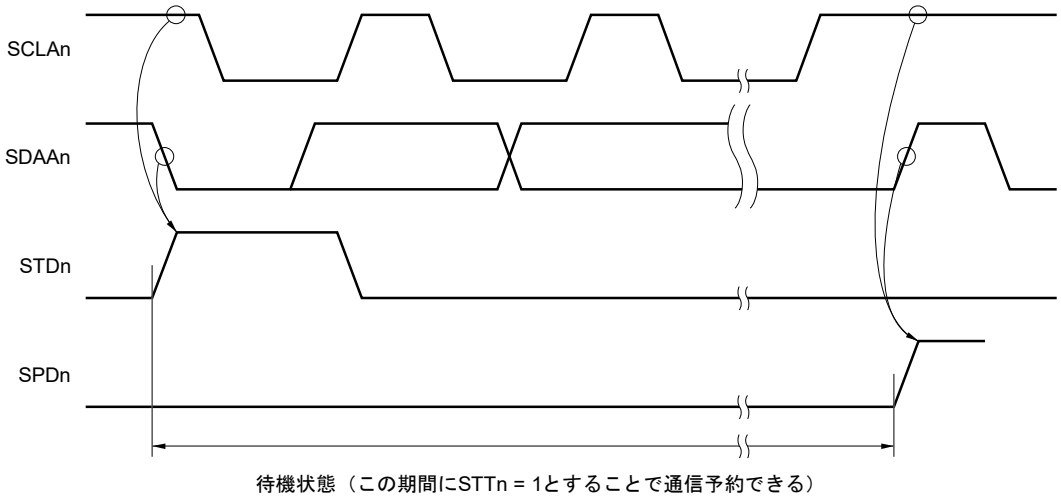
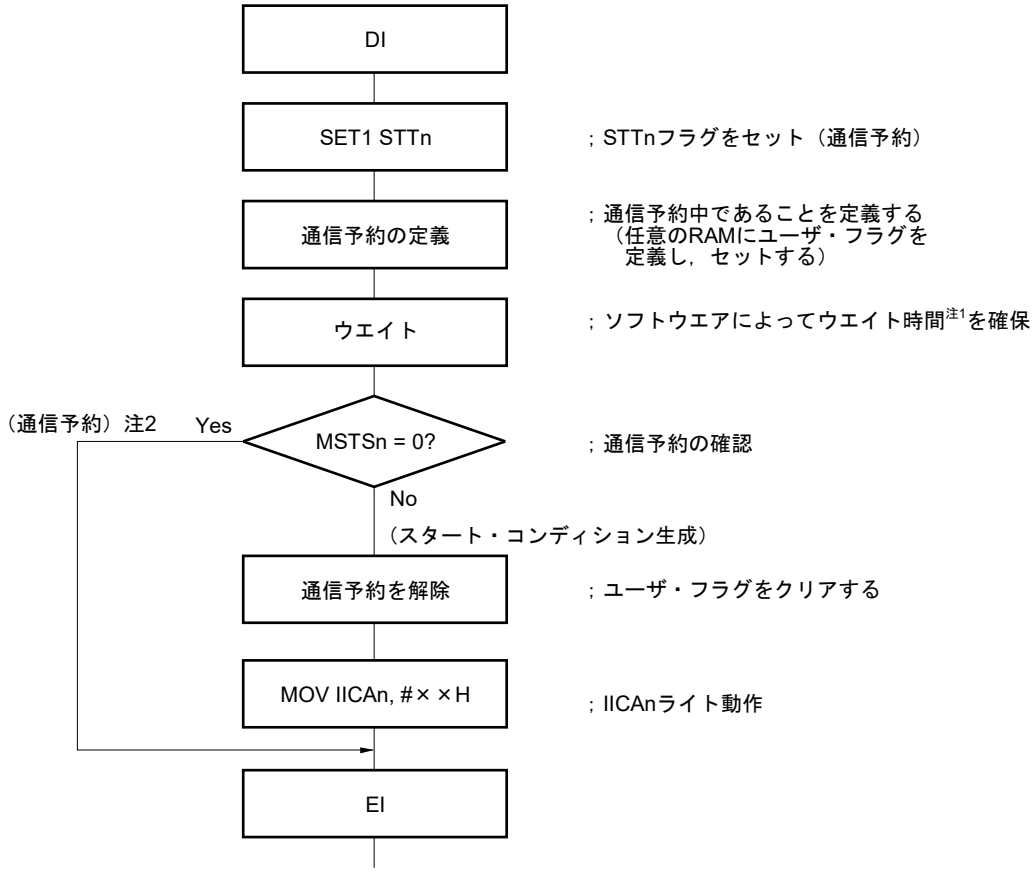



図19－27に通信予約の手順を示します。

備考　n = 0

図19－27　通信予約の手順




注1.　ウエイト時間は次のようになります。

(IICWLnの設定値+IICWHnの設定値+4)/fMCK + tF × 2

2.　通信予約動作時は，ストップ・コンディション割り込み要求でIICAシフト・レジスタn（IICAn）への書き込みを実行します。

備考 1.　STTn　：IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット1

MSTSn　：IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット7

IICAn　：IICAシフト・レジスタn

IICWLn　：IICAロウ・レベル幅設定レジスタn

IICWHn　：IICAハイ・レベル幅設定レジスタn

$t_F$　：SDAAn, SCLAn信号の立ち下がり時間

$f_{MCK}$　：IICA動作クロック周波数

2.　n = 0

（2）通信予約機能禁止の場合（IICAフラグ・レジスタn（IICFn）のビット0（IICRSVn）= 1）

バスが通信中で，この通信に不参加の状態でIICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット1（STTn）をセット（1）すると，この要求を拒絶しスタート・コンディションを生成しません。この場合のバスの不参加とは次の2つの状態を含みます。

・アービトレーションでマスタにもスレーブにもなれなかった場合
・拡張コードを受信してスレーブとして動作しない（アクノリッジを返さず，IICCTLn0レジスタのビット6（LRELn）= 1で通信退避してバスを解放した）とき。

スタート・コンディションが生成されたかまたは拒絶されたかは，STCFn（IICFnレジスタのビット7）で確認できます。STTn = 1としてからSTCFnがセット（1）されるまで$f_{MCK}$の5クロックの時間がかかりますので，ソフトウエアによりこの時間を確保してください。

備考　n = 0

### 19. 5. 15　その他の注意事項

（1）STCENn = 0の場合

I²C動作許可（IICEn = 1）直後，実際のバス状態にかかわらず通信状態（IICBSYn = 1）と認識します。ストップ・コンディションを検出していない状態からマスタ通信を行おうとする場合は，まずストップ・コンディションを生成し，バスを解放してからマスタ通信を行ってください。

マルチマスタでは，バスが解放されていない（ストップ・コンディションを検出していない）状態では，マスタ通信を行うことができません。

ストップ・コンディションの生成は次の順番で行ってください。

① IICAコントロール・レジスタn1（IICCTLn1）を設定する
② IICAコントロール・レジスタn0（IICCTLn0）のビット7（IICEn）をセット（1）する
③ IICCTLn0レジスタのビット0（SPTn）をセット（1）する

（2）STCENn = 1の場合

I²C動作許可（IICEn = 1）直後，実際のバス状態にかかわらず解放状態（IICBSYn = 0）と認識しますので，1回目のスタート・コンディションを生成（STTn = 1）する場合は，ほかの通信を破壊しないようにバスが解放されていることを確認する必要があります。

（3）すでに他者との間でI²C通信が行われている場合

SDAAn端子がロウ・レベルで，かつSCLAn端子がハイ・レベルのときに，I²C動作を許可して通信に途中参加すると，I²CのマクロはSDAAn端子がハイ・レベルからロウ・レベルに変化したと認識（スタート・コンディション検出）します。このときにバス上の値が拡張コードと認識できる値の場合は，アクノリッジを返し，他者との間のI²C通信を妨害してしまいます。これを回避するために，次の順番でI²Cを起動してください。

① IICCTLn0レジスタのビット4（SPIEn）をクリア（0）し，ストップ・コンディション検出による割り込み要求信号（INTIICAn）発生を禁止する
② IICCTLn0レジスタのビット7（IICEn）をセット（1）し，I²Cの動作を許可する
③ スタート・コンディションを検出するまで待つ
④ アクノリッジを返すまで（IICEnビットをセット（1）してから，$f_{MCK}$の4～72クロック中）に，IICCTLn0レジスタのビット6（LRELn）をセット（1）にし，強制的に検出を無効とする

（4）STTn，SPTnビット（IICCTLn0レジスタのビット1，0）をセットしたあと，クリア（0）される前の再セットは禁止します。

（5）送信予約をした場合には，SPIEnビット（IICCTLn0レジスタのビット4）をセット（1）してストップ・コンディション検出で割り込み要求が発生するようにしてください。割り込み要求発生後に，IICAシフト・レジスタn（IICAn）に通信データを書き込むことによって，転送が開始されます。ストップ・コンディション検出で割り込みを発生させないと，スタート時には割り込み要求が発生しないため，ウエイト状態で停止します。ただし，ソフトウエアでMSTSnビット（IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット7）を検出する場合には，SPIEnビットをセット（1）する必要はありません。

備考　n = 0

### 19. 5. 16　通信動作

ここでは，次の3つの動作手順をフローとして示します。

(1) シングルマスタ・システムでのマスタ動作

シングルマスタ・システムで，RL78/I1Bをマスタとして使用する場合のフローを示します。

このフローは大きく「初期設定」と「通信処理」に分かれています。起動時に「初期設定」部分を実行し，スレーブとの通信が必要になったら通信に必要な準備を行って「通信処理」部分を実行します。

(2) マルチマスタ・システムでのマスタ動作

$I^2C$バスのマルチマスタ・システムでは，通信に参加した段階ではバスが解放状態にあるか使用状態にあるかが$I^2C$バスの仕様だけでは判断できません。ここでは，一定（1フレーム）期間，データとクロックがハイ・レベルであれば，RL78/I1Bが解放状態としてバスに参加するようにしています。

このフローは大きく「初期設定」，「通信待ち」，「通信処理」に分かれています。ここでは，RL78/I1Bがアービトレーションで負けてスレーブに指定された場合の処理は省略し，マスタとしての処理だけを示しています。起動時に「初期設定」部分を実行してバスに参加します。そのあとは「通信待ち」で，マスタとしての通信要求，またはスレーブとしての指定を待ちます。実際に通信を行うのは「通信処理」部分で，スレーブとのデータ送受信以外に，ほかのマスタとのアービトレーションにも対応しています。

(3) スレーブ動作

RL78/I1Bを$I^2C$バスのスレーブとして使用する場合の例を示します。

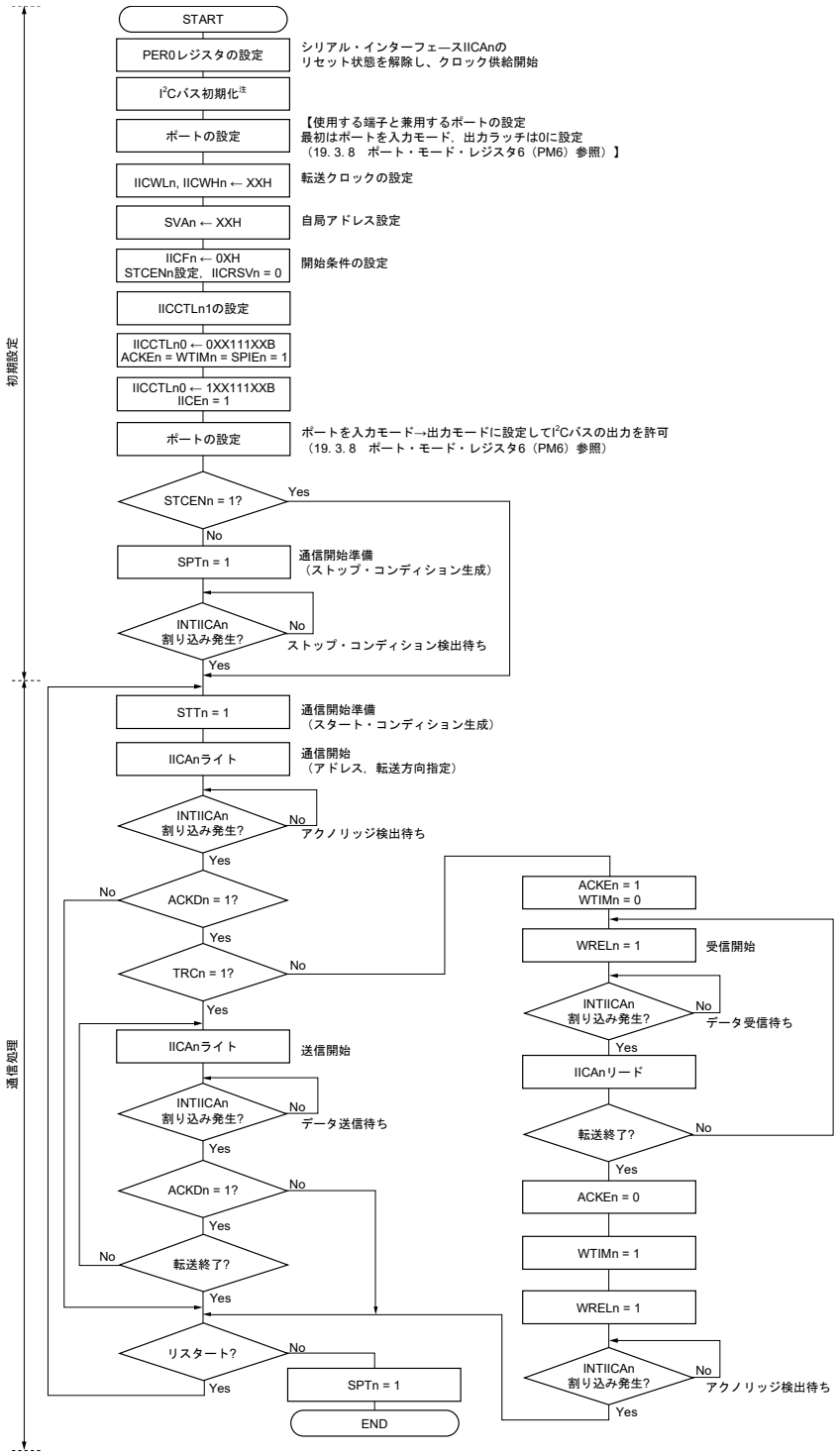
スレーブの場合には，割り込みによって動作を開始します。起動時に「初期設定」部分を実行し，そのあとは通信待ちでINTIICAn割り込みの発生を待ちます。INTIICAn割り込みが発生すると，通信状態を判定し，フラグとしてメイン処理に引き渡します。

各フラグをチェックすることにより，必要な「通信処理」を行います。

備考　n = 0

（1）シングルマスタ・システムでのマスタ動作

図19－28　シングルマスタ・システムでのマスタ動作

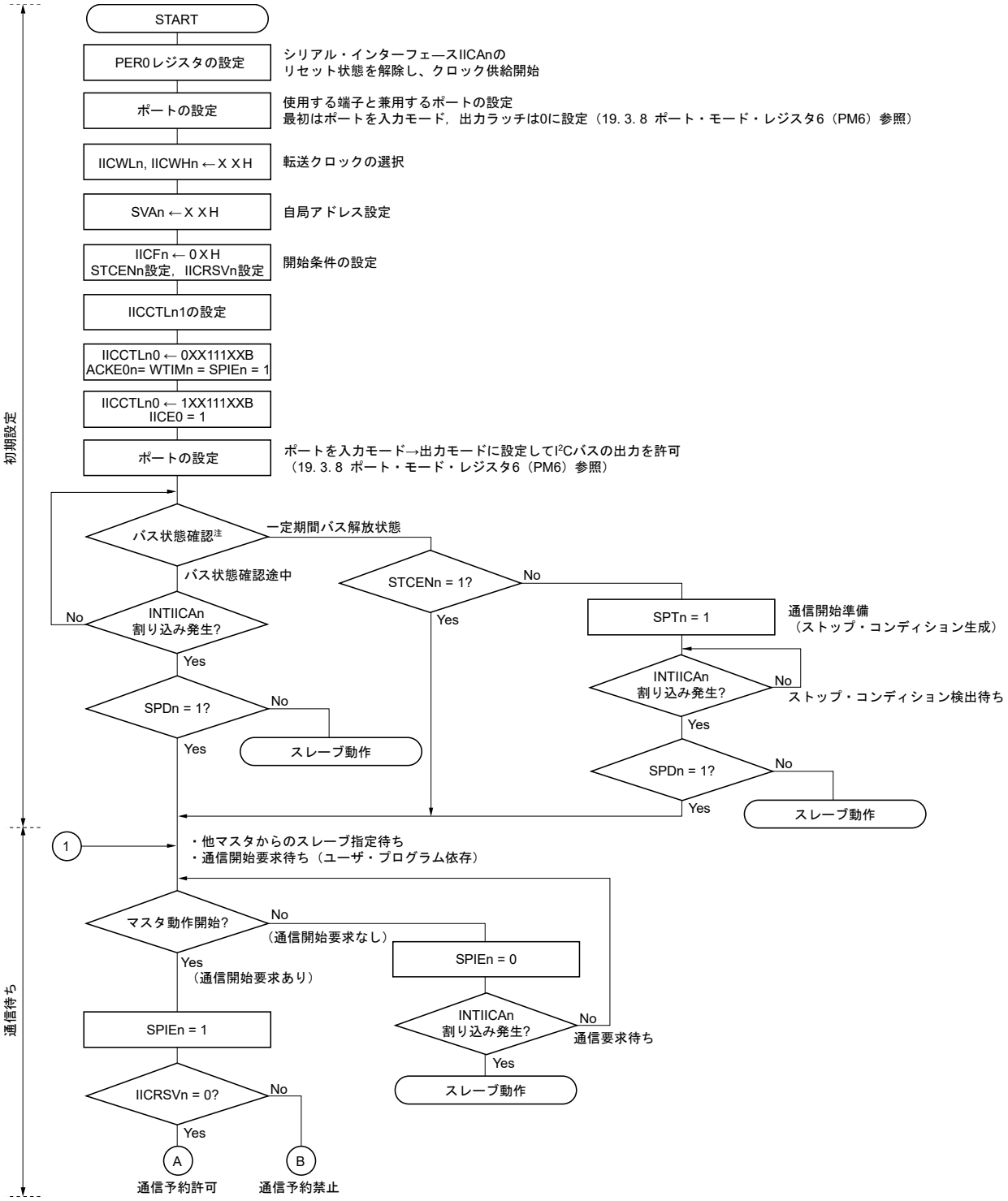



注　通信している製品の仕様に準拠し，I²Cバスを解放（SCLAn, SDAAn端子 = ハイ・レベル）してください。たとえば，EEPROMがSDAAn端子にロウ・レベルを出力した状態であれば，SCLAn端子を出力ポートに設定し，SDAAn端子が定常的にハイ・レベルになるまで，出力ポートからクロック・パルスを出力してください。

備考 1.　送信および受信フォーマットは，通信している製品の仕様に準拠してください。
　　2.　n = 0

（2）マルチマスタ・システムでのマスタ動作

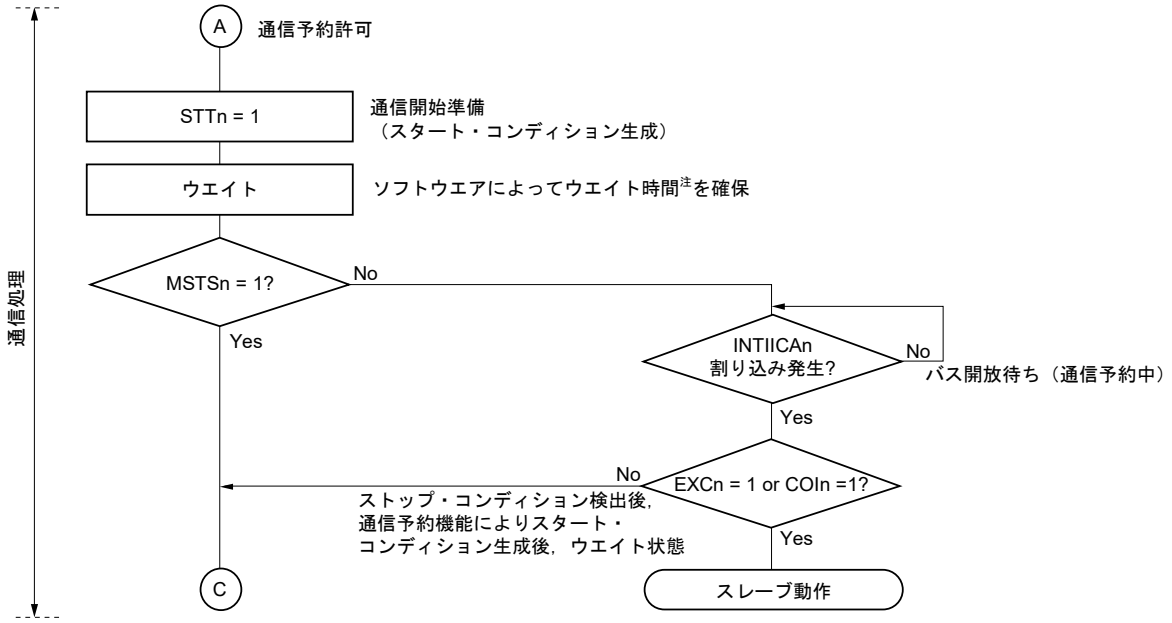
図19－29　マルチマスタ・システムでのマスタ動作（1/3）




注　一定期間（たとえば1フレーム分），バス解放状態（CLDnビット = 1, DADnビット = 1）であることを確認してください。定常的にSDAAn端子がロウ・レベルの場合は，通信している製品の仕様に準拠し，I²Cバスを解放（SCLAn, SDAAn端子 = ハイ・レベル）するか判断してください。

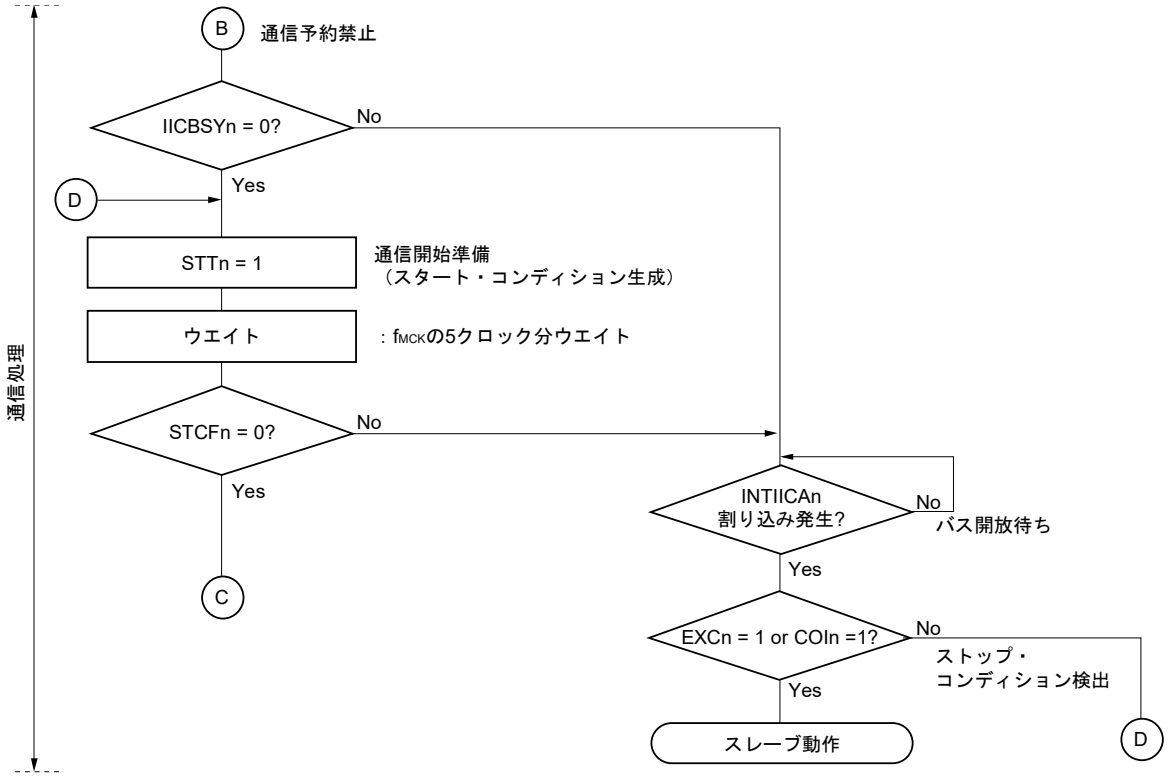
備考　n = 0

図19－29　マルチマスタ・システムでのマスタ動作（2/3）




注　ウエイト時間は次のようになります。

(IICWLnの設定値+IICWHnの設定値+4)/fMCK + tF　×　2




備考1.　IICWLn　：IICAロウ・レベル幅設定レジスタn

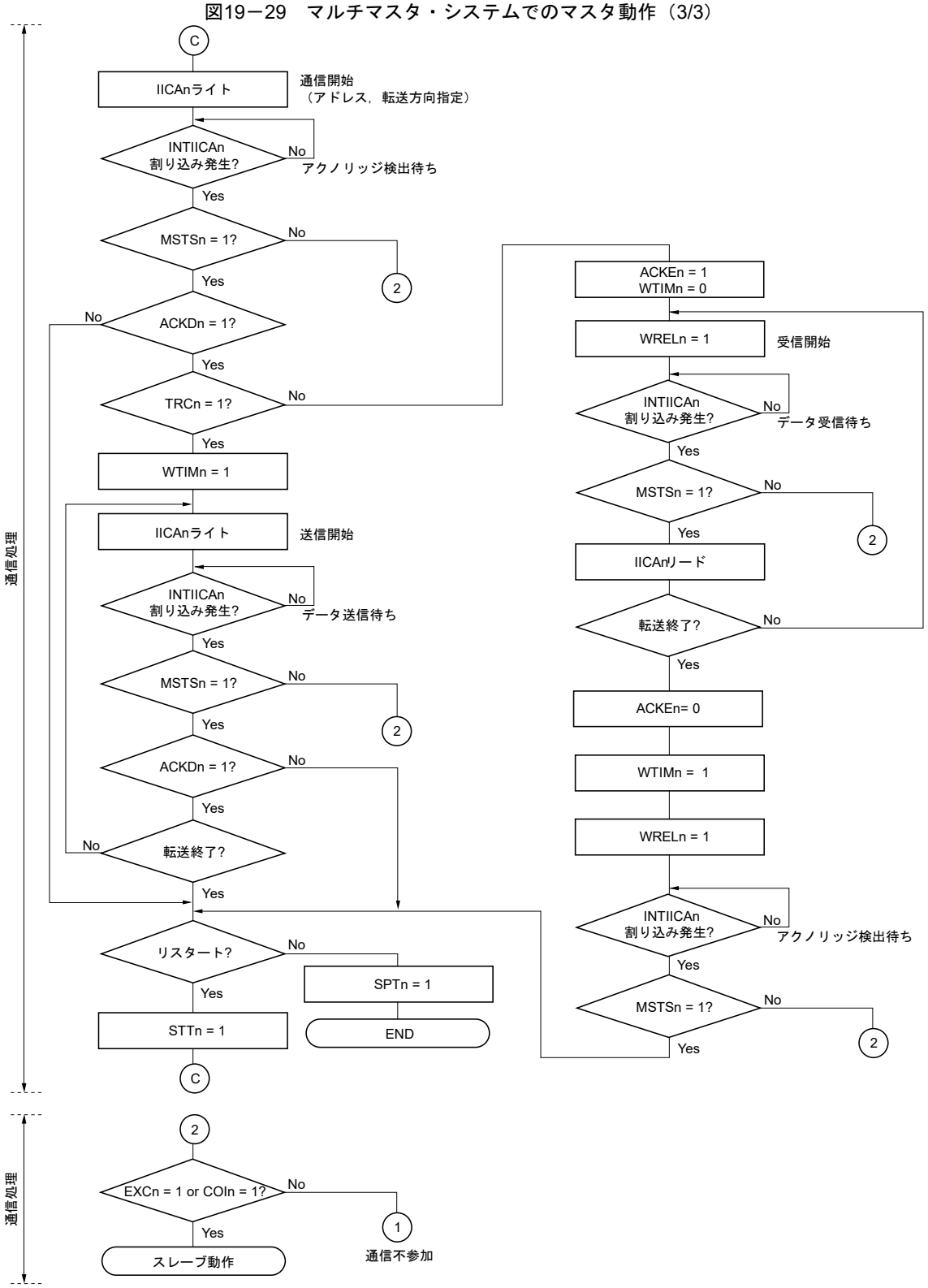
IICWHn　：IICAハイ・レベル幅設定レジスタn

$t_F$　：SDAAn, SCLAn信号の立ち下がり時間

$f_{MCK}$　：IICA動作クロック周波数

2.　n = 0

図19－29　マルチマスタ・システムでのマスタ動作（3/3）




備考 1.　送信および受信フォーマットは通信している製品の仕様に準拠してください。

2.　マルチマスタ・システムでマスタとして使用する場合は，INTIICAn割り込み発生ごとにMSTSnビットをリードし，アービトレーション結果を確認してください。

3.　マルチマスタ・システムでスレーブとして使用する場合は，INTIICAn割り込み発生ごとにIICAステータス・レジスタn（IICSn），IICAフラグ・レジスタn（IICFn）でステータスを確認して次に行う処理を決定してください。

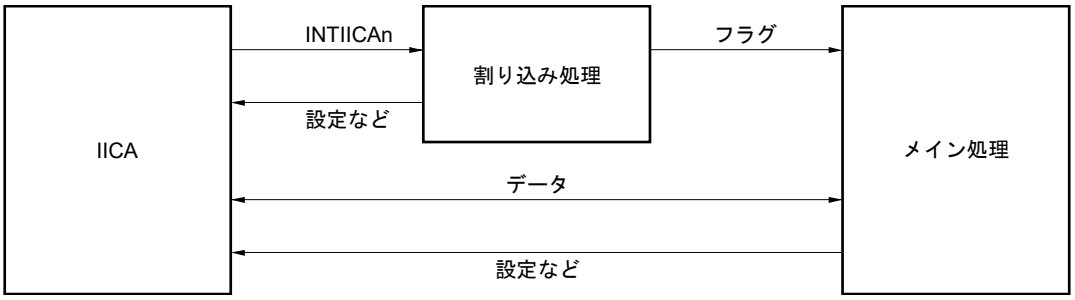
4.　n = 0

（3）スレーブ動作

スレーブ動作の処理手順を次に示します。

基本的にスレーブの場合には，イベント・ドリブンでの動作となります。このためINTIICAn割り込みによる処理（通信中のストップ・コンディション検出など，動作状態を大きく変更する必要がある処理）が必要となります。

この説明では，データ通信は拡張コードには対応しないものとします。またINTIICAn割り込み処理では状態遷移の処理だけを行い，実際のデータ通信はメイン処理で行うものとします。




このため，次の3つのフラグを準備し，これをINTIICAnの代わりにメイン処理に渡すという方法で，データ通信処理を行います。

① 通信モード・フラグ

次の2つの通信状態を示します。

・クリア・モード：データ通信を行っていない状態

・通信モード　　：データ通信を行っている状態（有効アドレス検出～ストップ・コンディション検出，マスタからのアクノリッジ未検出，アドレス不一致）

② レディ・フラグ

データ通信が可能になったことを示します。通常のデータ通信ではINTIICAn割り込みと同じです。割り込み処理部でセットし，メイン処理部でクリアします。通信の開始時には，割り込み処理部でクリアしておきます。ただし，送信の最初のデータでは，レディ・フラグは割り込み処理部でセットされませんので，クリア処理をしないで最初のデータを送信することになります（アドレス一致自体が次のデータの要求と解釈します）。

③ 通信方向フラグ

通信の方向を示します。TRCnビットの値と同じです。

備考　n = 0

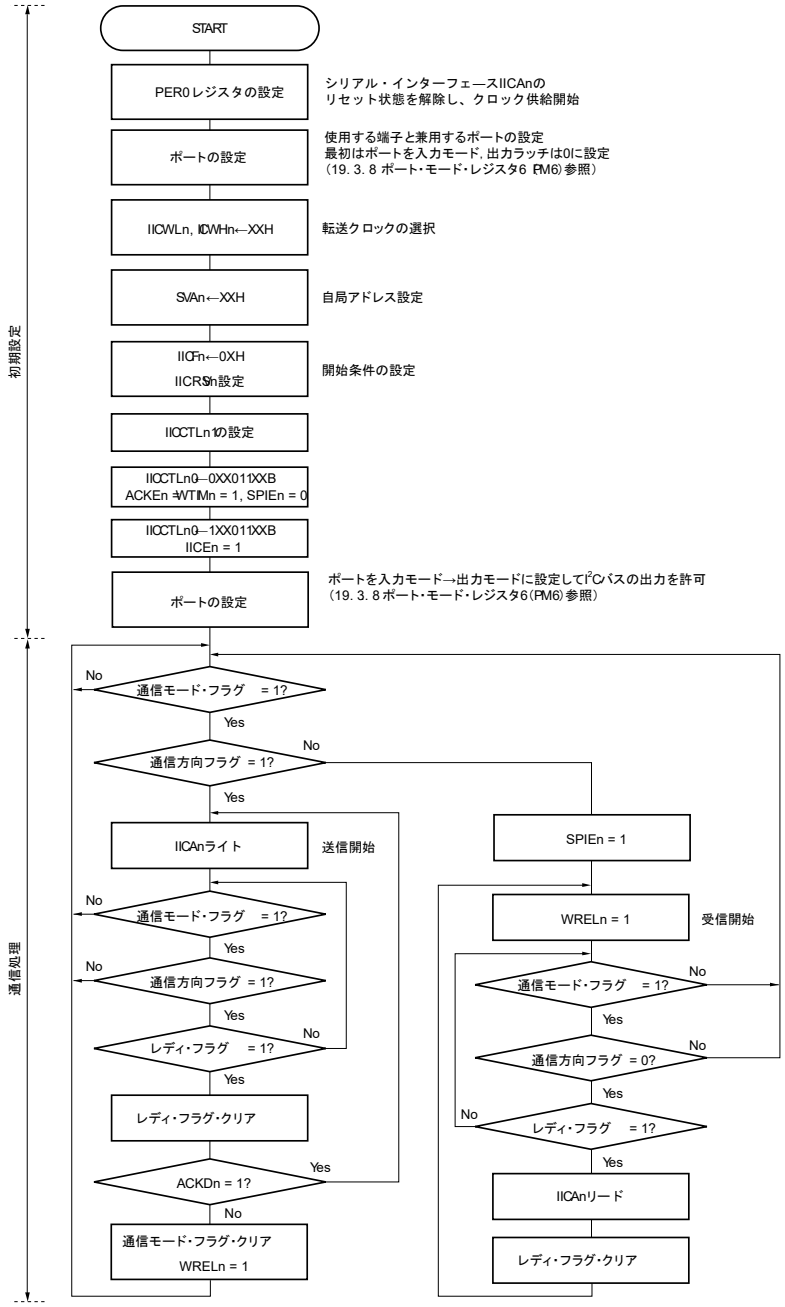
次にスレーブ動作でのメイン処理部の動作を示します。

シリアル・インタフェースIICAを起動し，通信可能状態になるのを待ちます。通信可能状態になったら，通信モード・フラグとレディ・フラグを使って通信を行います（ストップ・コンディションやスタート・コンディションの処理は割り込みで行いますので，ここではフラグで状態を確認します）。

送信ではマスタからアクノリッジがこなくなるまで送信動作を繰り返します。マスタからアクノリッジが戻らなかったら通信を完了します。

受信では必要な数のデータ受信し，通信完了したら次のデータでアクノリッジを戻さないようにします。その後，マスタはストップ・コンディションまたはリスタート・コンディションを生成します。これにより，通信状態から抜け出します。

図19－30　スレーブ動作手順（1）




備考 1.　送信および受信フォーマットは通信している製品の仕様に準拠してください。

2.　n = 0

スレーブのINTIICAn割り込みでの処理手順例を示します（ここでは拡張コードはないものとして処理します）。INTIICAn割り込みではステータスを確認して，次のように行います。

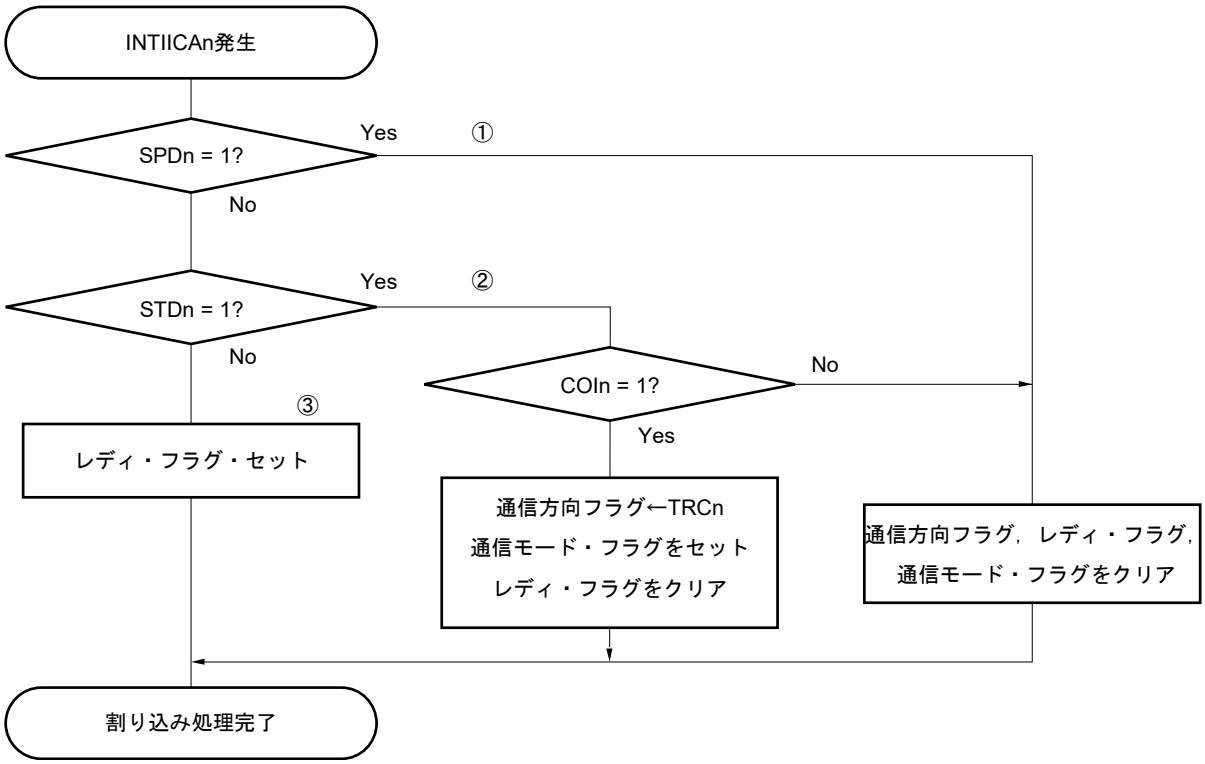
① ストップ・コンディションの場合，通信を終了します。

② スタート・コンディションの場合，アドレスを確認し，一致していなければ通信を終了します。アドレスが一致していれば，モードを通信モードに設定し，ウエイトを解除して，割り込みから戻ります（レディ・フラグはクリアする）。

③ データ送受信の場合，レディ・フラグをセットするだけで，I²Cバスはウエイト状態のまま，割り込みから戻ります。

備考　上述の①～③は，図19－31　スレーブ動作手順（2）の①～③と対応しています。

図19－31　スレーブ動作手順（2）




備考　n = 0

### 19. 5. 17　I²C割り込み要求（INTIICAn）の発生タイミング

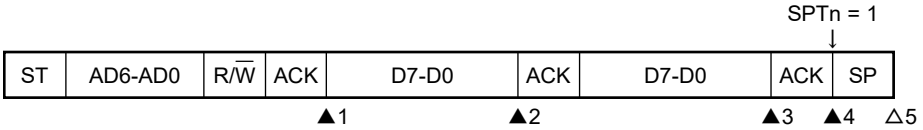
次に，データの送受信，INTIICAn割り込み要求信号発生タイミングと，INTIICAn信号タイミングでのIICAステータス・レジスタn（IICSn）の値を示します。

備考1.　ST　　：スタート・コンディション
　　AD6-AD0　：アドレス
　　R/$\overline{W}$　　：転送方向指定
　　ACK　　：アクノリッジ
　　D7-D0　　：データ
　　SP　　：ストップ・コンディション
　2.　n = 0

（1）マスタ動作

（a）Start～Address～Data～Data～Stop（送受信）

（i）WTIMn = 0のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000×000B

▲3：IICSn = 1000×000B（WTIMnビットをセット（1））注

▲4：IICSn = 1000××00B（SPTnビットをセット（1））

△5：IICSn = 00000001B

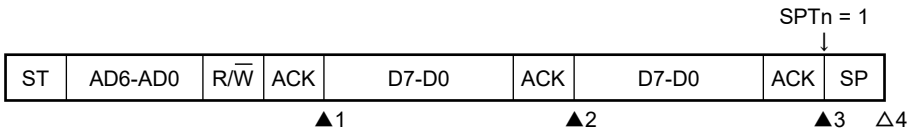
注　ストップ・コンディションを生成するために，WTIMnビットをセット（1）し，INTIICAn割り込み要求信号の発生タイミングを変更してください。

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000×100B

▲3：IICSn = 1000××00B（SPTnビットをセット（1））

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

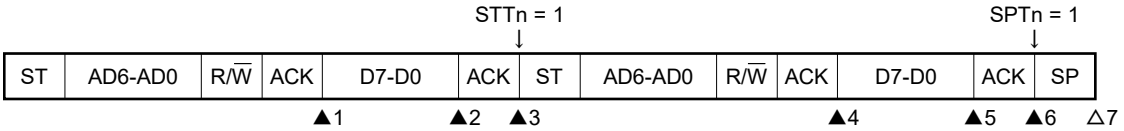
△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（b）Start～Address～Data～Start～Address～Data～Stop（リスタート）

（i）WTIMn = 0のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000×000B（WTIMnビットをセット（1）[注1]）

▲3：IICSn = 1000××00B（WTIMnビットをクリア（0）[注2]，STTnビットをセット（1））

▲4：IICSn = 1000×110B

▲5：IICSn = 1000×000B（WTIMnビットをセット（1）[注3]）

▲6：IICSn = 1000××00B（SPTnビットをセット（1））

△7：IICSn = 00000001B

注1.　スタート・コンディションを生成するために，WTIMnビットをセット（1）し，INTIICAn割り込み要求信号の発生タイミングを変更してください。

2.　設定を元に戻すために，WTIMnビットをクリア（0）してください。

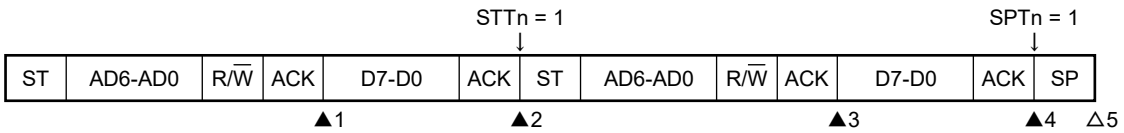
3.　ストップ・コンディションを生成するために，WTIMnビットをセット（1）し，INTIICAn割り込み要求信号の発生タイミングを変更してください。

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000××00B（STTnビットをセット（1））

▲3：IICSn = 1000×110B

▲4：IICSn = 1000××00B（SPTnビットをセット（1））

△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（c）Start～Code～Data～Data～Stop（拡張コード送信）

（i）WTIMn = 0のとき

▲1：IICSn = 1010×110B

▲2：IICSn = 1010×000B

▲3：IICSn = 1010×000B（WTIMnビットをセット（1）注）

▲4：IICSn = 1010××00B（SPTnビットをセット（1））

△5：IICSn = 00000001B

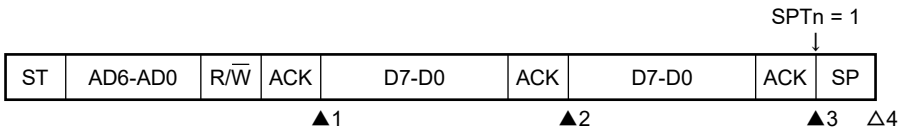
注　ストップ・コンディションを生成するために，WTIMnビットをセット（1）し，INTIICAn割り込み要求信号の発生タイミングを変更してください。

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき




▲1：IICSn = 1010×110B

▲2：IICSn = 1010×100B

▲3：IICSn = 1010××00B（SPTnビットをセット（1））

△4：IICSn = 00001001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（2）スレーブ動作（スレーブ・アドレス受信時）

（a）Start～Address～Data～Data～Stop

（i）WTIMn = 0のとき

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | ▲2 | | ▲3 | △4 |

▲1：IICSn = 0001×110B

▲2：IICSn = 0001×000B

▲3：IICSn = 0001×000B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | | ▲2 | ▲3 | △4 |

▲1：IICSn = 0001×110B

▲2：IICSn = 0001×100B

▲3：IICSn = 0001××00B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（b）Start～Address～Data～Start～Address～Data～Stop

（i）WTIMn = 0のとき（リスタート後，SVAn一致）

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | ▲2 | | | | | ▲3 | ▲4 | △5 |

▲1：IICSn = 0001×110B

▲2：IICSn = 0001×000B

▲3：IICSn = 0001×110B

▲4：IICSn = 0001×000B

△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき（リスタート後，SVAn一致）

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | | ▲2 | | | | ▲3 | ▲4 | △5 |

▲1：IICSn = 0001×110B

▲2：IICSn = 0001××00B

▲3：IICSn = 0001×110B

▲4：IICSn = 0001××00B

△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（c）Start～Address～Data～Start～Code～Data～Stop

（i）WTIMn = 0のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード））

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | ▲2 | | | | ▲3 | | ▲4 | △5 |

▲1：IICSn = 0001×110B

▲2：IICSn = 0001×000B

▲3：IICSn = 0010×010B

▲4：IICSn = 0010×000B

△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード））

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | | ▲2 | | | ▲3 | ▲4 | ▲5 | △6 |

▲1：IICSn = 0001×110B

▲2：IICSn = 0001××00B

▲3：IICSn = 0010×010B

▲4：IICSn = 0010×110B

▲5：IICSn = 0010××00B

△6：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（d）Start～Address～Data～Start～Address～Data～Stop

（i）WTIMn = 0のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | ▲2 | | | | | ▲3 | | △4 |

▲1：IICSn = 0001×110B

▲2：IICSn = 0001×000B

▲3：IICSn = 00000×10B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | | ▲2 | | | | ▲3 | | △4 |

▲1：IICSn = 0001×110B

▲2：IICSn = 0001××00B

▲3：IICSn = 00000×10B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（3）スレーブ動作（拡張コード受信時）

拡張コード受信時は，常に通信に参加しています

（a）Start～Code～Data～Data～Stop

（i）WTIMn = 0のとき

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | | ▲2 | | ▲3 | △4 |

▲1：IICSn = 0010×010B

▲2：IICSn = 0010×000B

▲3：IICSn = 0010×000B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | ▲2 | | ▲3 | ▲4 | △5 |

▲1：IICSn = 0010×010B

▲2：IICSn = 0010×110B

▲3：IICSn = 0010×100B

▲4：IICSn = 0010××00B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（b）Start～Code～Data～Start～Address～Data～Stop

（i）WTIMn = 0のとき（リスタート後，SVAn一致）

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | | ▲2 | | | | | ▲3 | ▲4 | △5 |

▲1：IICSn = 0010×010B

▲2：IICSn = 0010×000B

▲3：IICSn = 0001×110B

▲4：IICSn = 0001×000B

△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき（リスタート後，SVAn一致）

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | ▲2 | | ▲3 | | | | ▲4 | ▲5 | △6 |

▲1：IICSn = 0010×010B

▲2：IICSn = 0010×110B

▲3：IICSn = 0010××00B

▲4：IICSn = 0001×110B

▲5：IICSn = 0001××00B

△6：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（c）Start～Code～Data～Start～Code～Data～Stop

（i）WTIMn = 0のとき（リスタート後，拡張コード受信）

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | | ▲2 | | | | ▲3 | | ▲4 | △5 |

▲1：IICSn = 0010×010B

▲2：IICSn = 0010×000B

▲3：IICSn = 0010×010B

▲4：IICSn = 0010×000B

△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき（リスタート後，拡張コード受信）

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | ▲2 | | ▲3 | | | ▲4 | ▲5 | ▲6 | △7 |

▲1：IICSn = 0010×010B

▲2：IICSn = 0010×110B

▲3：IICSn = 0010××00B

▲4：IICSn = 0010×010B

▲5：IICSn = 0010×110B

▲6：IICSn = 0010××00B

△7：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（d）Start～Code～Data～Start～Address～Data～Stop

（i）WTIMn = 0のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | | ▲2 | | | | | ▲3 | | △4 |

▲1：IICSn = 0010×010B

▲2：IICSn = 0010×000B

▲3：IICSn = 00000×10B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | ▲2 | | ▲3 | | | | ▲4 | | △5 |

▲1：IICSn = 0010×010B

▲2：IICSn = 0010×110B

▲3：IICSn = 0010××00B

▲4：IICSn = 00000×10B

△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（4）通信不参加の動作

（a）Start～Code～Data～Data～Stop

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | △1 |

△1：IICSn = 00000001B

備考　△　SPIEn = 1のときだけ発生

（5）アービトレーション負けの動作（アービトレーション負けのあと，スレーブとして動作）

マルチマスタ・システムでマスタとして使用する場合は，INTIICAn割り込み要求信号の発生ごとにMSTSnビットをリードし，アービトレーション結果を確認してください。

（a）スレーブ・アドレス・データ送信中にアービトレーションに負けた場合

（i）WTIMn = 0のとき

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | | ▲2 | | ▲3 | △4 |

▲1：IICSn = 0101×110B

▲2：IICSn = 0001×000B

▲3：IICSn = 0001×000B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（ii）WTIMn = 1のとき

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | | ▲2 | ▲3 | △4 |

▲1：IICSn = 0101×110B

▲2：IICSn = 0001×100B

▲3：IICSn = 0001××00B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（b）拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合

（i）WTIMn = 0のとき

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ▲1 | | ▲2 | | ▲3 | △4 |

▲1：IICSn = 0110×010B

▲2：IICSn = 0010×000B

▲3：IICSn = 0010×000B

△4：IICSn = 00000001B

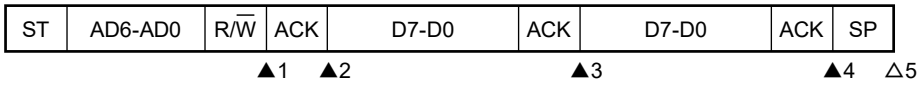
備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（ii）WTIMn = 1のとき




▲1：IICSn = 0110×010B

▲2：IICSn = 0010×110B

▲3：IICSn = 0010×100B

▲4：IICSn = 0010××00B

△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

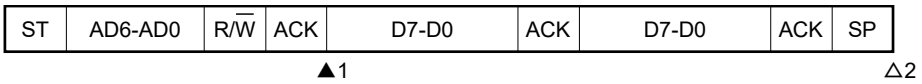
△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（6）アービトレーション負けの動作（アービトレーション負けのあと，不参加）

マルチマスタ・システムでマスタとして使用する場合は，INTIICAn割り込み要求信号の発生ごとにMSTSnビットをリードし，アービトレーション結果を確認してください。

（a）スレーブ・アドレス・データ送信中にアービトレーションに負けた場合（WTIMn = 1のとき）




▲1：IICSn = 01000110B

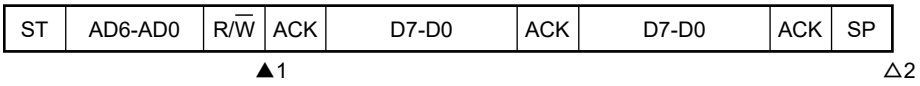
△2：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

備考　n = 0

（b）拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合




▲1：IICSn = 0110×010B

ソフトウエアでLRELn = 1を設定

△2：IICSn = 00000001B

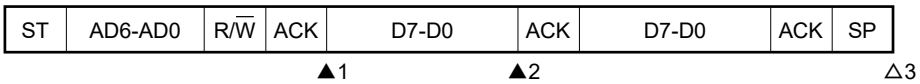
備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（c）データ転送時にアービトレーションに負けた場合

（i）WTIMn = 0のとき




▲1：IICSn = 10001110B

▲2：IICSn = 01000000B

△3：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

備考　n = 0

（ii）WTIMn = 1のとき

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | | ▲2 | | △3 |

▲1：IICSn = 10001110Ｂ

▲2：IICSn = 01000100Ｂ

△3：IICSn = 00000001Ｂ

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

（d）データ転送時にリスタート・コンディションで負けた場合

（i）拡張コード以外（例　SVAn不一致）

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-Dm | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | | | | | ▲2 | | △3 |

▲1：IICSn = 1000×110Ｂ

▲2：IICSn = 01000110Ｂ

△3：IICSn = 00000001Ｂ

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

m = 6-0

備考　n = 0

（ii）拡張コード

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-Dm | ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-D0 | ACK | SP |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | | | | ▲2 | | | △3 |

▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 01100010B

ソフトウエアでLRELn = 1を設定

△3：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

m = 6-0

（e）データ転送時にストップ・コンディションで負けた場合

| ST | AD6-AD0 | R/$\overline{W}$ | ACK | D7-Dm | SP |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ▲1 | △2 |

▲1：IICSn = 10000110B

△2：IICSn = 01000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

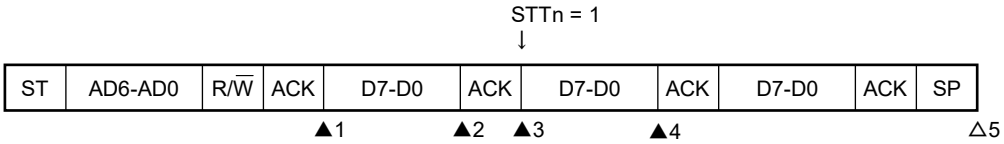
×　任意

m = 6-0

備考　n = 0

(f) リスタート・コンディションを発生しようとしたが，データがロウ・レベルでアービトレーションに負けた場合

(i) WTIMn = 0のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000×000B（WTIMnビットをセット（1））

▲3：IICSn = 1000×100B（WTIMnビットをクリア（0））

▲4：IICSn = 01000000B

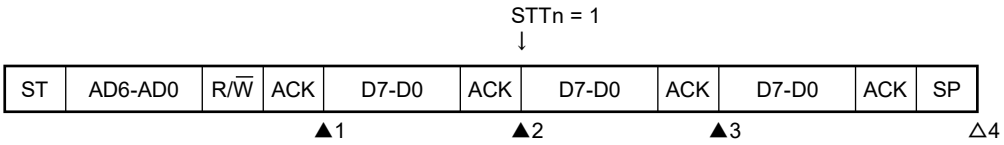
△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

(ii) WTIMn = 1のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000×100B（STTnビットをセット（1））

▲3：IICSn = 01000100B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

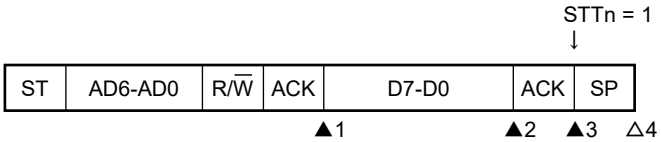
△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（g）リスタート・コンディションを発生しようとして，ストップ・コンディションでアービトレーションに負けた場合

（i）WTIMn = 0のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000×000B（WTIMnビットをセット（1））

▲3：IICSn = 1000××00B（STTnビットをセット（1））

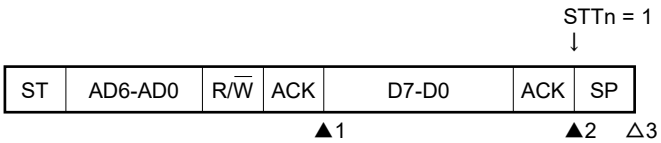
△4：IICSn = 01000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000××00B（STTnビットをセット（1））

△3：IICSn = 01000001B

備考　▲　必ず発生

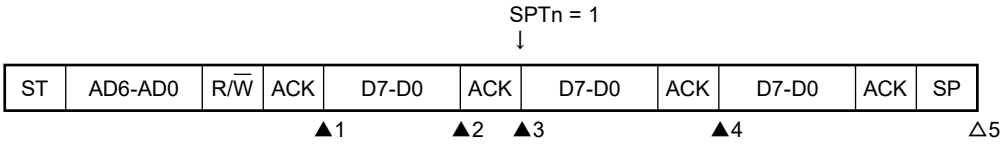
△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

（h）ストップ・コンディションを発生しようとしたが，データがロウ・レベルでアービトレーションに負けた場合

（i）WTIMn = 0のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000×000B（WTIMnビットをセット（1））

▲3：IICSn = 1000×100B（WTIMnビットをクリア（0））

▲4：IICSn = 01000100B

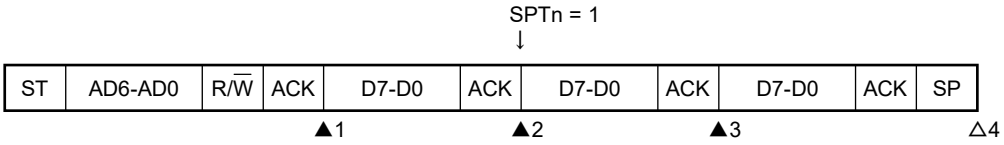
△5：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

（ii）WTIMn = 1のとき




▲1：IICSn = 1000×110B

▲2：IICSn = 1000×100B（SPTnビットをセット（1））

▲3：IICSn = 01000100B

△4：IICSn = 00000001B

備考　▲　必ず発生

△　SPIEn = 1のときだけ発生

×　任意

備考　n = 0

## 19. 6　タイミング・チャート

I²Cバス・モードでは，マスタがシリアル・バス上にアドレスを出力することで複数のスレーブ・デバイスの中から通信対象となるスレーブ・デバイスを1つ選択します。

マスタは，スレーブ・アドレスの次にデータの転送方向を示すTRCnビット（IICAステータス・レジスタn（IICSn）のビット3）を送信し，スレーブとのシリアル通信を開始します。

データ通信のタイミング・チャートを図19－32，図19－33に示します。

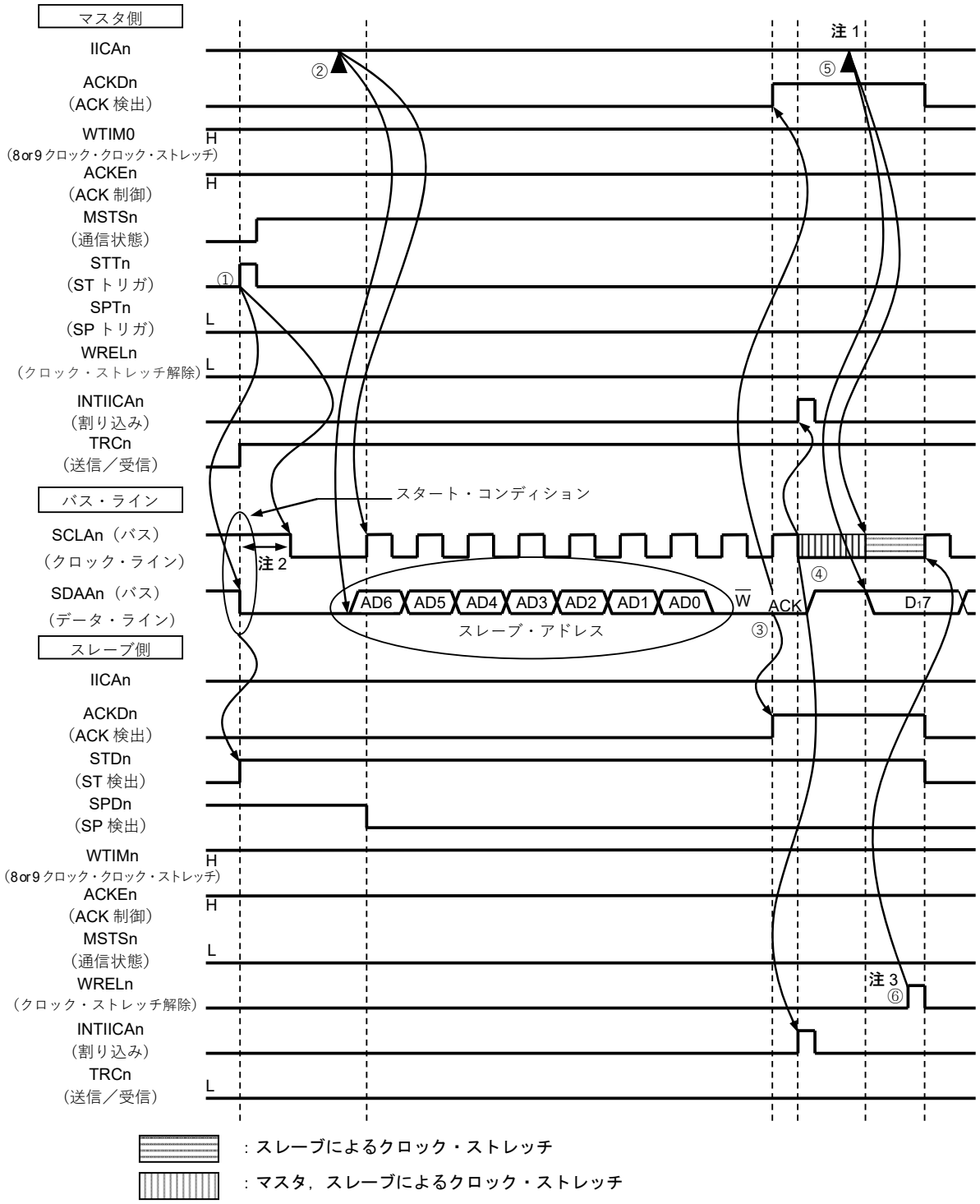
シリアル・クロック（SCLAn）の立ち下がりに同期してIICAシフト・レジスタn（IICAn）のシフト動作が行われ，送信データがSOラッチに転送され，SDAAn端子からMSBファーストで出力されます。

また，SCLAnの立ち上がりでSDAAn端子に入力されたデータがIICAnに取り込まれます。

備考　n = 0

図19－32　マスタ→スレーブ通信例（マスタ : 9クロック，スレーブ : 9クロックでクロック・ストレッチ選択）（1/4）

（1）スタート・コンディション～アドレス～データ




注1.　マスタ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は，WRELnビットのセットではなく，IICAnへのデータ書き込みで行ってください。

2.　SDAAn端子信号が立ち下がってからSCLAn端子信号が立ち下がるまでの時間は，標準モード設定時は4.0 μs以上，ファースト・モード設定時は0.6 μs以上です。

3.　スレーブ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は，IICAn←FFHまたはWRELnビットのセットのどちらかで行ってください。

備考　n = 0

図19－32（1）スタート・コンディション～アドレス～データの①～⑥の説明を次に示します。

① マスタ側でスタート・コンディション・トリガがセット（STTn = 1）されると，バス・データ・ライン（SDAAn）が立ち下がり，スタート・コンディション（SCLAn = 1でSDAAn = 1→0）が生成されます。その後，スタート・コンディションを検出すると，マスタ側はマスタ通信状態（MSTSn = 1）となり，ホールド時間経過後，バス・クロック・ラインが立ち下がり（SCLAn = 0），通信準備が完了となります。

② マスタ側でIICAシフト・レジスタn（IICAn）にアドレス＋W（送信）が書き込まれると，スレーブ・アドレスが送信されます。

③ スレーブ側では，受信したアドレスと自局のアドレス（SVAnの値）が一致した場合[注]，ハードウエアによりACKがマスタ側へ送信されます。9クロック目の立ち上がり時に，マスタ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

④ 9クロック目の立ち下がりで，マスタ側の割り込み（INTIICAn：アドレス送信完了割り込み）が発生します。アドレスが一致したスレーブは，クロック・ストレッチ（SCLAn = 0）をかけ，割り込み（INTIICAn：アドレス一致割り込み）が発生します[注]。

⑤ マスタ側がIICAnレジスタに送信データを書き込み，マスタ側によるクロック・ストレッチを解除します。

⑥ スレーブ側がクロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）すると，マスタ側からスレーブ側にデータ転送を開始します。

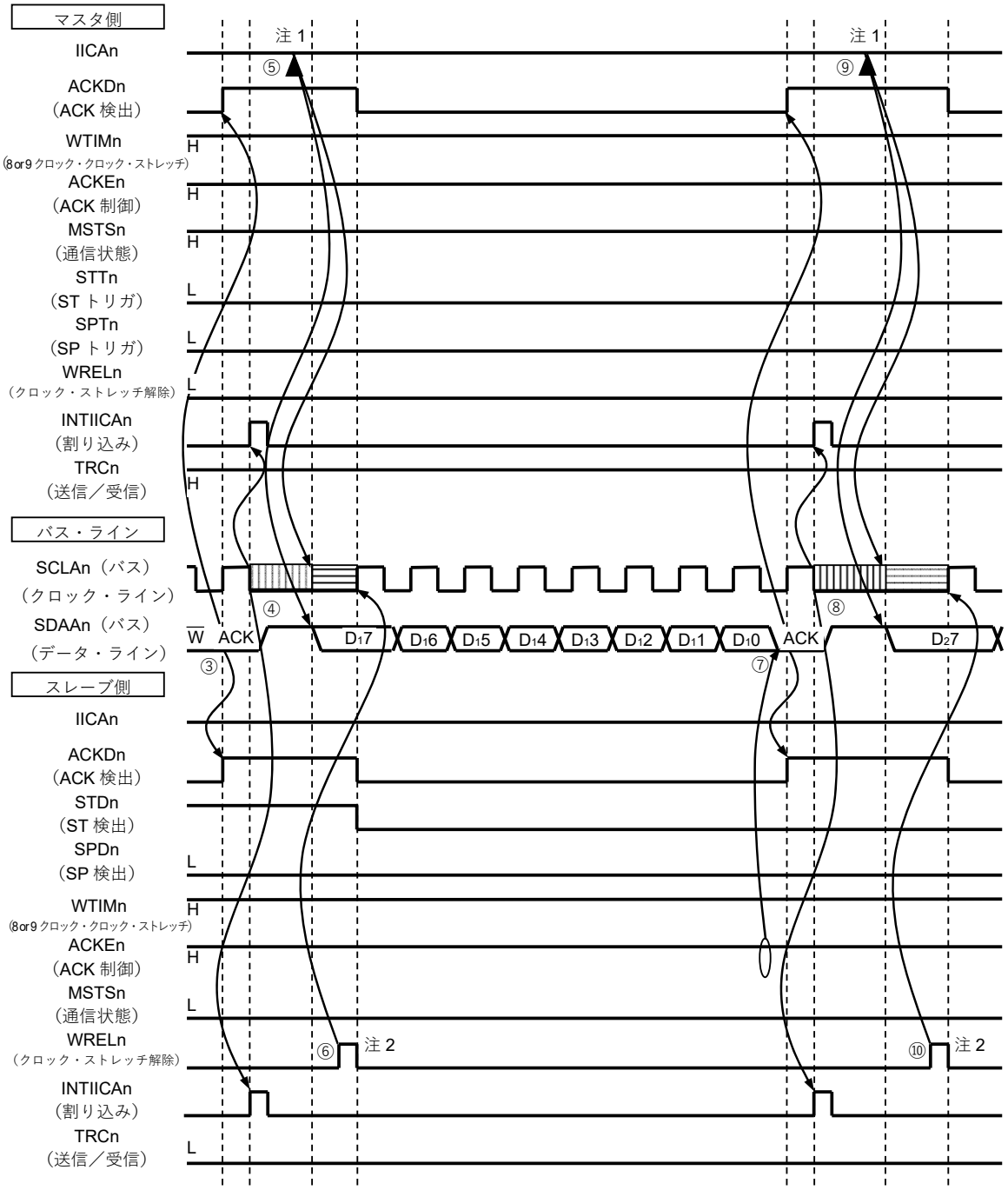
**注** 送信したアドレスとスレーブのアドレスが不一致の場合は，スレーブ側はACKをマスタ側へ返しません（NACK：SDAAn = 1）。また，スレーブ側のINTIICAn割り込み（アドレス一致割り込み）は発生せず，スレーブ側のクロック・ストレッチもかかりません。
ただし，マスタ側はACK，NACKの両方に対して，INTIICAn割り込み（アドレス送信完了割り込み）が発生します。

備考 1. 図19－32の①～⑮は，I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。
図19－32（1）スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑥
図19－32（2）アドレス～データ～データでは手順③～⑩
図19－32（3）データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑦～⑮
について説明しています。

2. n = 0

図19－32　マスタ→スレーブ通信例（マスタ : 9クロック，スレーブ : 9クロックでクロック・ストレッチ選択）（2/4）

（2）アドレス～データ～データ




注1.　マスタ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は，WRELnビットのセットではなく，IICAnへのデータ書き込みで行ってください。

2.　スレーブ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は，IICAn←FFHまたはWRELnビットのセットのどちらかで行ってください。

備考　n = 0

図19－32（2）アドレス～データ～データの③～⑩の説明を次に示します。

③ スレーブ側では，受信したアドレスと自局のアドレス（SVAnの値）が一致した場合[注]，ハードウエアによりACKがマスタ側へ送信されます。9クロック目の立ち上がり時に，マスタ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

④ 9クロック目の立ち下がりで，マスタ側の割り込み（INTIICAn：アドレス送信完了割り込み）が発生します。アドレスが一致したスレーブはクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）をかけ，割り込み（INTIICAn：アドレス一致割り込み）が発生します[注]。

⑤ マスタ側がIICAシフト・レジスタn（IICAn）に送信データを書き込み，マスタ側によるクロック・ストレッチを解除します。

⑥ スレーブ側がクロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）すると，マスタ側からスレーブ側にデータ転送を開始します。

⑦ データ転送完了後，スレーブ側はACKEn = 1なのでハードウエアによりACKがマスタ側へ送信され，9クロック目の立ち上がり時に，マスタ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

⑧ 9クロック目の立ち下がりで，マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，マスタ側，スレーブ側で割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生します。

⑨ マスタ側がIICAnレジスタに送信データを書き込み，マスタ側によるクロック・ストレッチを解除します。

⑩ スレーブ側が受信データを読み出して，クロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）すると，マスタ側からスレーブ側にデータ転送を開始します。

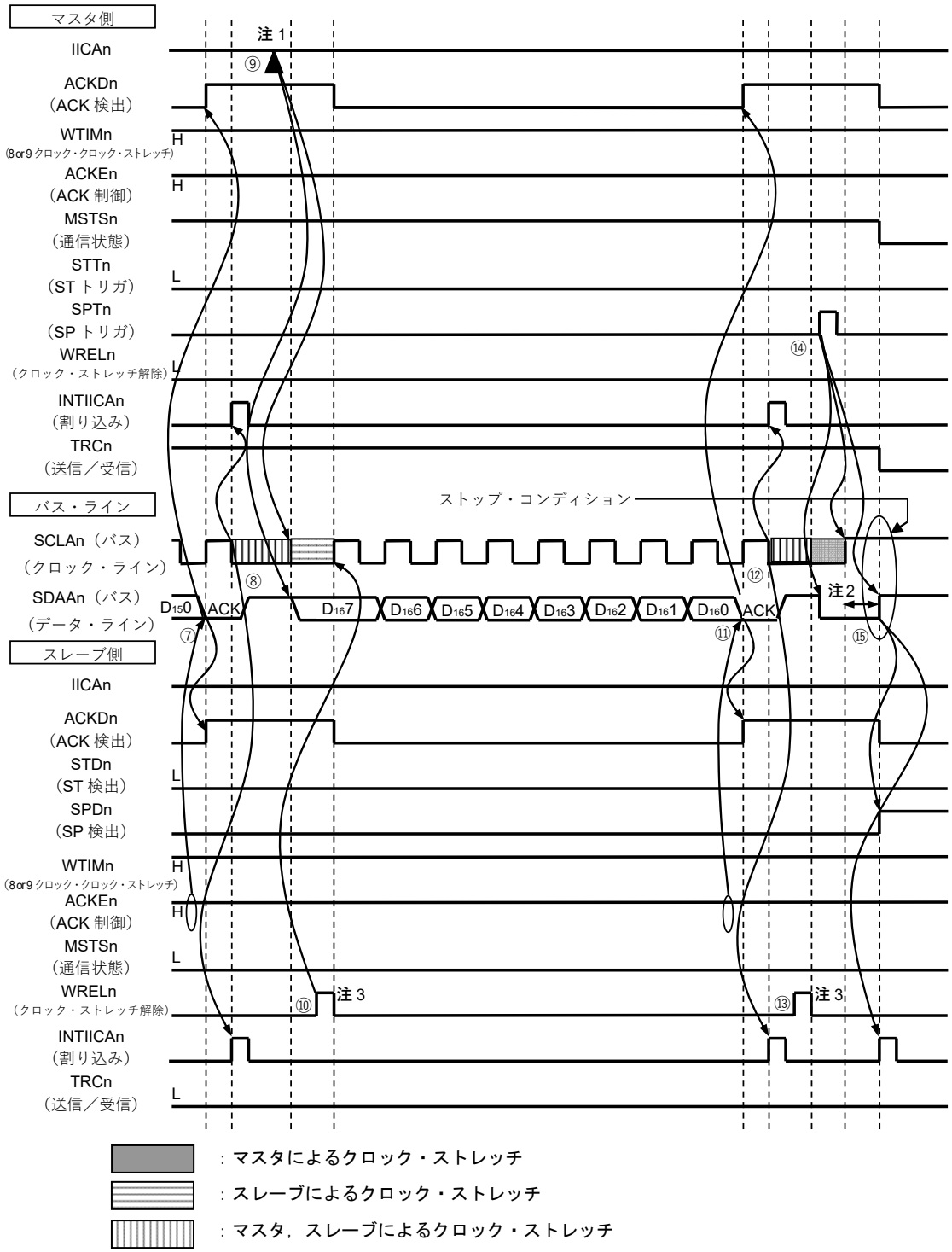
**注** 送信したアドレスとスレーブのアドレスが不一致の場合は，スレーブ側はACKをマスタ側へ返しません（NACK：SDAAn = 1）。また，スレーブ側のINTIICAn割り込み（アドレス一致割り込み）は発生せず，スレーブ側のクロック・ストレッチもかかりません。
ただし，マスタ側はACK，NACKの両方に対して，INTIICAn割り込み（アドレス送信完了割り込み）が発生します。

備考 1. 図19－32の①～⑮は，I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。
図19－32（1）スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑥
図19－32（2）アドレス～データ～データでは手順③～⑩
図19－32（3）データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑦～⑮
について説明しています。

2. n = 0

図19－32　マスタ→スレーブ通信例（マスタ : 9クロック，スレーブ : 9クロックでクロック・ストレッチ選択）（3/4）

（3）データ～データ～ストップ・コンディション




注1.　マスタ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は，WRELnビットのセットではなく，IICAnへのデータ書き込みで行ってください。

2.　ストップ・コンディションの発行後，SCLAn端子信号が立ち上がってからストップ・コンディションが生成されるまでの時間は，標準モード設定時は4.0 μs以上，ファースト・モード設定時は0.6 μs以上です。

3.　スレーブ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は，IICAn←FFHまたはWRELnビットのセットのどちらかで行ってください。

備考　n = 0

図19－32（3）データ～データ～ストップ・コンディションの⑦～⑮の説明を次に示します。

⑦ データ転送完了後，スレーブ側はACKEn = 1なのでハードウエアによりACKがマスタ側へ送信され，9クロック目の立ち上がり時に，マスタ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

⑧ 9クロック目の立ち下がりで，マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，マスタ側，スレーブ側で割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生します。

⑨ マスタ側がIICAシフト・レジスタn（IICAn）に送信データを書き込み，マスタ側によるクロック・ストレッチを解除します。

⑩ スレーブ側が受信データを読み出して，クロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）すると，マスタ側からスレーブ側にデータ転送を開始します。

⑪ データ転送完了後，スレーブ側（ACKEn = 1）のハードウエアによりACKがマスタ側へ送信され，9クロック目の立ち上がり時に，マスタ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

⑫ 9クロック目の立ち下がりで，マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，マスタ側，スレーブ側で割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生します。

⑬ スレーブ側が受信データを読み出し，クロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）します。

⑭ マスタ側でストップ・コンディション・トリガをセット（SPTn = 1）すると，バス・データ・ラインがクリア（SDAAn = 0）され，バス・クロック・ラインがセット（SCLAn = 1）され，ストップ・コンディション・セットアップ時間経過後，バス・データ・ラインがセット（SDAAn = 1）されることでストップ・コンディション（SCLAn = 1でSDAAn = 0→1）が生成されます。

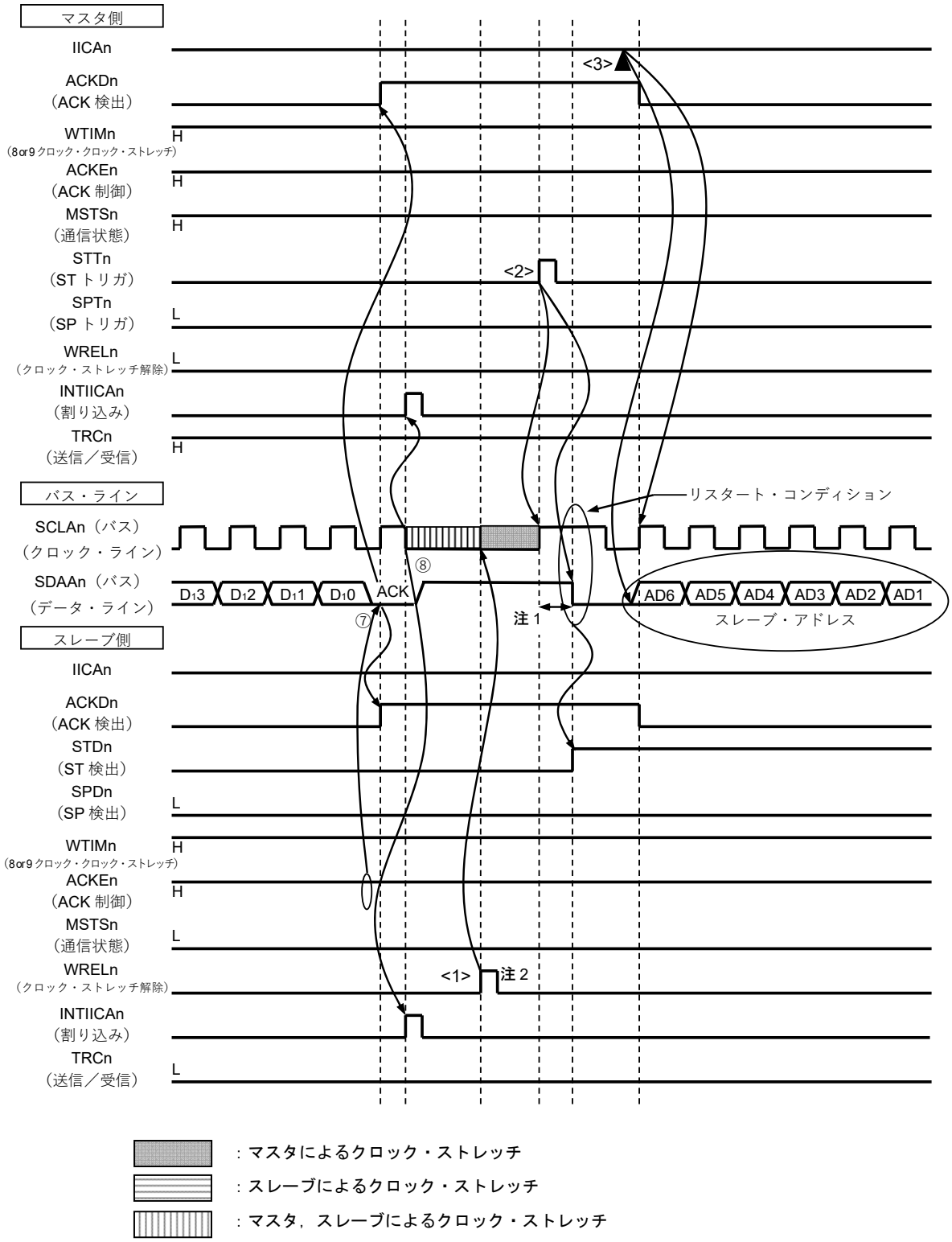
⑮ ストップ・コンディションが生成されると，スレーブ側でストップ・コンディションが検出され，割り込み（INTIICAn：ストップ・コンディション割り込み）が発生します。

備考 1. 図19－32の①～⑮は，I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。
図19－32（1）スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑥
図19－32（2）アドレス～データ～データでは手順③～⑩
図19－32（3）データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑦～⑮
について説明しています。

2. n = 0

図19－32　マスタ→スレーブ通信例（マスタ：9クロック，スレーブ：9クロックでクロック・ストレッチ選択）（4/4）

（4）データ～リスタート・コンディション～アドレス




注1.　リスタート・コンディションの発行後，SCLAn端子信号が立ち上がってからスタート・コンディションが生成される時間は，標準モード設定時は4.7 μs以上，ファースト・モード設定時は0.6 μs以上です。

2.　スレーブ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は，IICAn←FFHまたはWRELnビットのセットのどちらかで行ってください。

備考　n = 0

図19－32（4）データ～リスタート・コンディション～アドレスの動作説明を次に示します。手順⑦，⑧の動作後，<1>～<3>の動作を行います。それにより，手順③のデータの送信手順に戻ります。

⑦　データ転送完了後，スレーブ側はACKEn = 1なのでハードウエアによりACKがマスタ側へ送信され，9クロック目の立ち上がり時に，マスタ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

⑧　9クロック目の立ち下がりで，マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，マスタ側，スレーブ側で割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生します。

<1>　スレーブ側が受信データを読み出して，クロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）します。

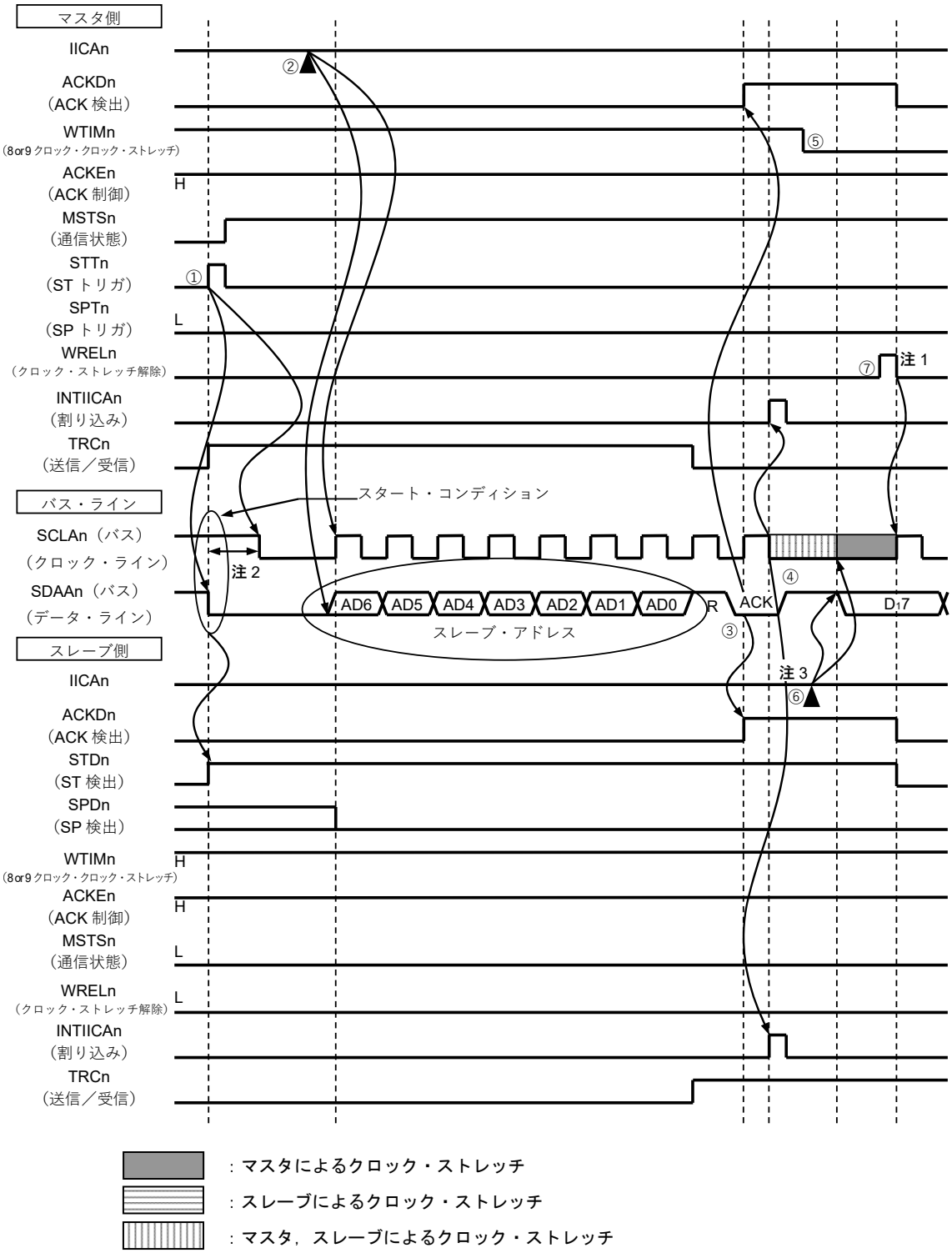
<2>　マスタ側で再度スタート・コンディション・トリガがセット（STTn = 1）されると，バス・クロック・ラインが立ち上がり（SCLAn = 1），リスタート・コンディション・セットアップ時間後バス・データ・ライン（SDAAn = 0）が立ち下がり，スタート・コンディション（SCLAn = 1でSDAAn = 1→0）が生成されます。その後，スタート・コンディションを検出すると，ホールド時間経過後，バス・クロック・ラインが立ち下がり（SCLAn = 0），通信準備が完了となります。

<3>　マスタ側がIICAシフト・レジスタn（IICAn）にアドレス＋R/W（送信）を書き込むと，スレーブ・アドレスが送信されます。

備考　n = 0

図19－33　スレーブ→マスタ通信例（マスタ : 8クロック，スレーブ : 9クロックでクロック・ストレッチ選択）（1/3）

（1）スタート・コンディション～アドレス～データ




注1.　マスタ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は，IICAn←FFHまたはWRELnビットのセットのどちらかで行ってください。

2.　SDAAn端子信号が立ち下がってからSCLAn端子信号が立ち下がるまでの時間は，標準モード設定時は4.0 μs以上，ファースト・モード設定時は0.6 μs以上です。

3.　スレーブ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は，WRELnビットのセットではなく，IICAnへのデータ書き込みで行ってください。

備考　n = 0

図19－33（1）スタート・コンディション～アドレス～データの①～⑦の説明を次に示します。

① マスタ側でスタート・コンディション・トリガがセット（STTn = 1）されると，バス・データ・ライン（SDAAn）が立ち下がり，スタート・コンディション（SCLAn = 1でSDAAn = 1→0）が生成されます。その後，スタート・コンディションを検出すると，マスタ側はマスタ通信状態（MSTSn = 1）となり，ホールド時間経過後，バス・クロック・ラインが立ち下がり（SCLAn = 0），通信準備が完了となります。

② マスタ側でIICAシフト・レジスタn（IICAn）にアドレス＋R（受信）が書き込まれると，スレーブ・アドレスが送信されます。

③ スレーブ側で，受信したアドレスと自局のアドレス（SVAnの値）が一致した場合[注]，ハードウエアによりACKがマスタ側へ送信され，9クロック目の立ち上がり時に，マスタ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

④ 9クロック目の立ち下がりで，マスタ側の割り込み（INTIICAn：アドレス送信完了割り込み）が発生します。アドレスが一致したスレーブはクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）をかけ，割り込み（INTIICAn：アドレス一致割り込み）が発生します[注]。

⑤ マスタ側のクロック・ストレッチ・タイミングを8クロック目に（WTIMn = 0）に変更します。

⑥ スレーブ側がIICAnレジスタに送信データを書き込み，スレーブ側によるクロック・ストレッチを解除します。

⑦ マスタ側がクロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）して，スレーブからのデータ転送を開始します。

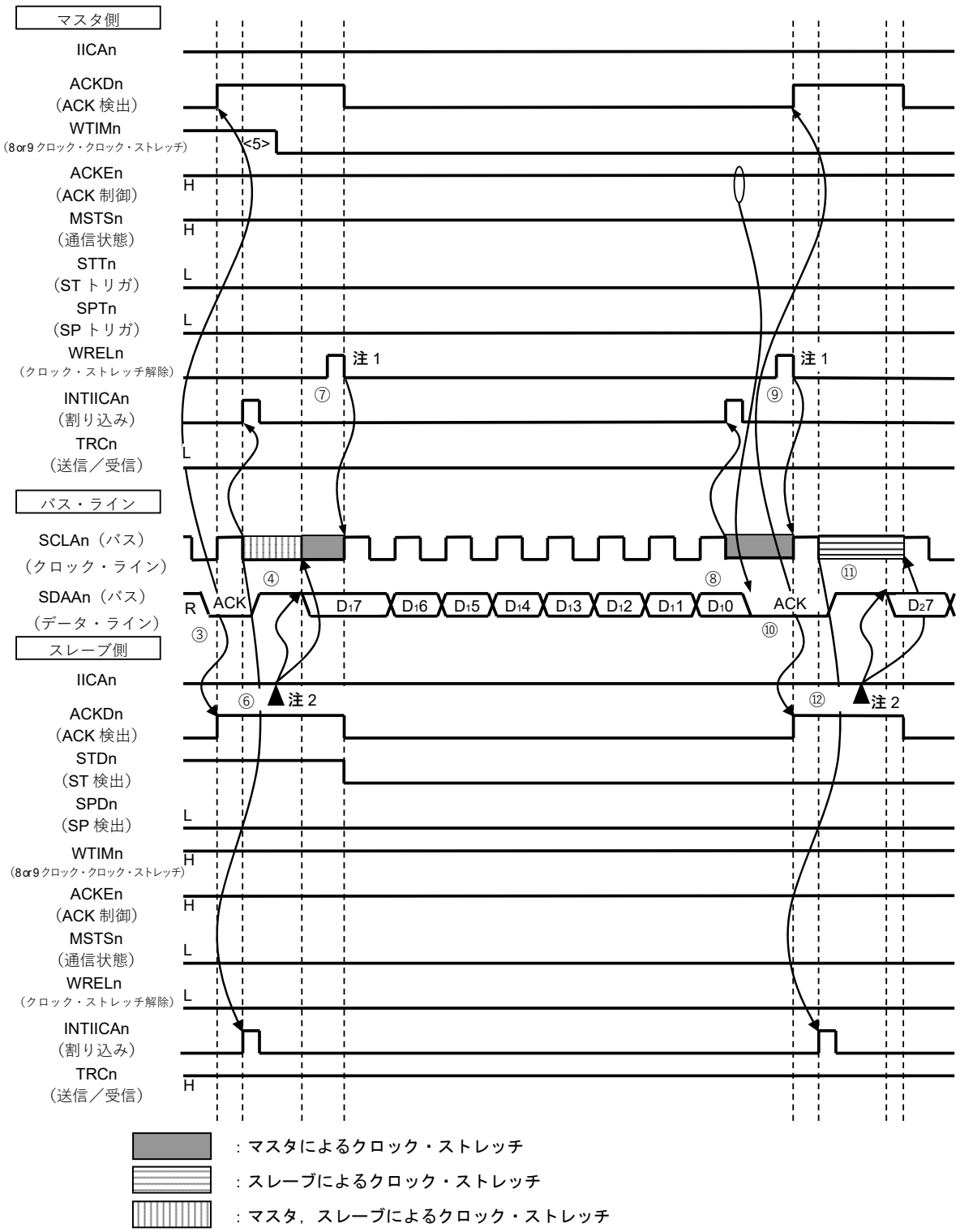
**注** 送信したアドレスとスレーブのアドレスが不一致の場合は，スレーブ側はACKをマスタ側へ返しません（NACK：SDAAn = 1）。また，スレーブ側のINTIICAn割り込み（アドレス一致割り込み）は発生せず，スレーブ側のクロック・ストレッチもかかりません。
ただし，マスタ側はACK，NACKの両方に対して，INTIICAn割り込み（アドレス送信完了割り込み）が発生します。

備考 1. 図19－33の①～⑲は，I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。
図19－33（1）スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑦
図19－33（2）アドレス～データ～データでは手順③～⑫
図19－33（3）データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑧～⑲
について説明しています。

2. n = 0

図19－33　スレーブ→マスタ通信例（マスタ：8クロック，スレーブ：9クロックでクロック・ストレッチ選択）（2/3）

（2）アドレス～データ～データ




注1.　マスタ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は，IICAn←FFHまたはWRELnビットのセットのどちらかで行ってください。

2.　スレーブ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は，WRELnビットのセットではなく，IICAnへのデータ書き込みで行ってください。

備考　n = 0

図19－33（2）アドレス～データ～データの③～⑫の説明を次に示します。

③ スレーブ側で，受信したアドレス自局のアドレス（SVAnの値）が一致した場合[注]，ハードウエアによりACKがマスタ側へ送信され，9クロック目の立ち上がり時に，マスタ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

④ 9クロック目の立ち下がりで，マスタ側の割り込み（INTIICAn：アドレス送信完了割り込み）が発生します。アドレスが一致したスレーブはクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）をかけ，割り込み（INTIICAn：アドレス一致割り込み）が発生します[注]。

⑤ マスタ側はクロック・ストレッチ・タイミングを8クロック目に（WTIMn = 0）に変更します。

⑥ スレーブ側がIICAシフト・レジスタn（IICAn）に送信データを書き込み，スレーブ側によるクロック・ストレッチを解除します。

⑦ マスタ側がクロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）して，スレーブからのデータ転送を開始します。

⑧ 8クロック目の立ち下がりで，マスタ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，マスタ側の割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生し，マスタ側ACKEn = 1なのでハードウエアによりACKがスレーブ側へ送信されます。

⑨ マスタ側は受信したデータを読み出して，クロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）します。

⑩ 9クロック目の立ち上がり時に，スレーブ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

⑪ 9クロック目の立ち下がりで，スレーブ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，スレーブ側は割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生します。

⑫ スレーブ側がIICAnレジスタに送信データを書き込むと，スレーブ側によるクロック・ストレッチが解除され，スレーブ→マスタにデータ転送を開始します。

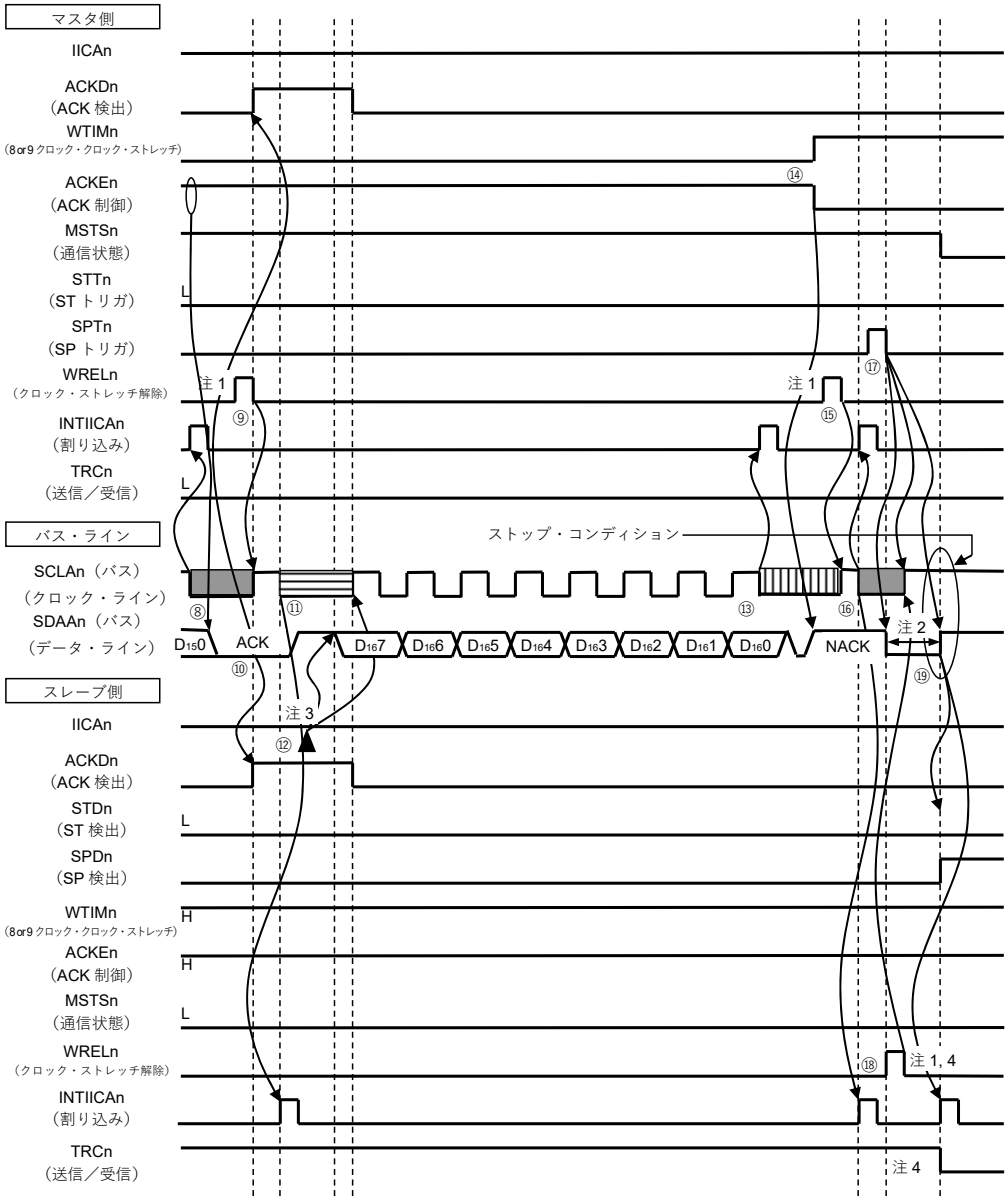
**注** 送信したアドレスとスレーブのアドレスが不一致の場合は，スレーブ側はACKをマスタ側へ返しません（NACK：SDAAn = 1）。また，スレーブ側のINTIICAn割り込み（アドレス一致割り込み）は発生せず，スレーブ側のクロック・ストレッチもかかりません。
ただし，マスタ側はACK，NACKの両方に対して，INTIICAn割り込み（アドレス送信完了割り込み）が発生します。

備考 1. 図19－33の①～⑲は，I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。
図19－33（1）スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑦
図19－33（2）アドレス～データ～データでは手順③～⑫
図19－33（3）データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑧～⑲
について説明しています。

2. n = 0

図19－33　スレーブ→マスタ通信例（マスタ：8→9クロック，スレーブ：9クロックでクロック・ストレッチ選択）（3/3）

（3）データ～データ～ストップ・コンディション




注1.　クロック・ストレッチ解除は，IICAn←FFHまたはWRELnビットのセットのどちらかで行ってください。

2.　ストップ・コンディションの発行後，SCLAn端子信号が立ち上がってからストップ・コンディションが生成されるまでの時間は，標準モード設定時は4.0 μs以上，ファースト・モード設定時は0.6 μs以上です。

3.　スレーブ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は，WRELnビットのセットではなく，IICAnへのデータ書き込みで行ってください。

4.　スレーブ側での送信時のクロック・ストレッチをWRELnビットのセットで解除すると，TRCnビットはクリアされます。

備考　n = 0

図19－33（3）データ～データ～ストップ・コンディションの⑧～⑲の説明を次に示します。

⑧ 8クロック目の立ち下がりで，マスタ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，マスタ側の割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生し，マスタ側はACKEn = 0なので，ハードウエアによりACKがスレーブ側へ送信されます。

⑨ マスタ側は受信したデータを読み出して，クロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）します。

⑩ 9クロック目の立ち上がり時に，スレーブ側でACKが検出（ACKDn = 1）されます。

⑪ 9クロック目の立ち下がりで，スレーブ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，スレーブ側は割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生します。

⑫ スレーブ側がIICAシフト・レジスタn（IICAn）に送信データを書き込むと，スレーブ側によるクロック・ストレッチが解除され，スレーブ→マスタにデータ転送を開始します。

⑬ 8クロック目の立ち下がりで，マスタ側の割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生し，マスタ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかります。ACK制御（ACKEn = 1）されているので，この段階でのバス・データ・ラインはロウ・レベル（SDAAn = 0）となります。

⑭ マスタ側はNACK応答に設定（ACKEn = 0）し，クロック・ストレッチ・タイミングを9クロック目クロック・ストレッチ（WTIMn = 1）に変更します。

⑮ マスタ側がクロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）すると，スレーブ側は9クロック目の立ち上がりでNACKを検出（ACKDn = 0）します。

⑯ 9クロック目の立ち下がりで，マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ（SCLAn = 0）がかかり，マスタ側，スレーブ側で割り込み（INTIICAn：転送完了割り込み）が発生します。

⑰ マスタ側でストップ・コンディション発行（SPTn = 1）すると，バス・データ・ラインがクリア（SDAAn = 0）され，マスタ側のクロック・ストレッチが解除されます。その後，マスタ側はバス・クロック・ラインがセット（SCLAn = 1）されるまで待機します。

⑱ スレーブ側はNACKを確認して，送信を止めて通信を完了するためにクロック・ストレッチを解除（WRELn = 1）します。スレーブによるクロック・ストレッチが解除されると，バス・クロック・ラインがセット（SCLAn = 1）されます。

⑲ マスタ側はバス・クロック・ラインがセット（SCLAn = 1）されたことを確認すると，ストップ・コンディション・セットアップ時間経過後，バス・データ・ラインをセット（SDAAn = 1）してストップ・コンディション（SCLAn = 1でSDAAn = 0→1）を発行します。ストップ・コンディションが生成されると，スレーブ側でストップ・コンディションが検出され，スレーブ側で割り込み（INTIICAn：ストップ・コンディション割り込み）が発生します。

備考 1. 図19－33の①～⑲は，I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。
図19－33（1）スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑦
図19－33（2）アドレス～データ～データでは手順③～⑫
図19－33（3）データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑧～⑲
について説明しています。

2. n = 0

# 第20章　IrDA

IrDAはシリアル・アレイ・ユニット（SAU）と連携してIrDA（Infrared Data Association）規格バージョン1.0に基づくIrDA通信波形の送受信を実現します。

## 20. 1　IrDAの機能

IRCRレジスタのIREビットでIrDA機能を有効にすると，SAUのTxD2，RxD2信号はIrDA規格バージョン1.0に準拠した波形のエンコード／デコードを行います（IrTxD/IrRxD端子）。これを赤外線送受信トランスミッタ／レシーバと接続することで，IrDA規格バージョン1.0システムに準拠した赤外線送受信を実現できます。

IrDA規格バージョン1.0システムでは，9600 bpsの転送レートで通信を開始し，その後，必要に応じて転送レートを変化させることができます。IrDAでは，自動的に転送レートを変更する機能は内蔵していません。転送レートはソフトウェアにより，設定を変更してください。

高速オンチップオシレータ（$f_{IH}$ = 24/12/6/3 MHz）選択時，以下のボーレートを設定可能です。

- 115.2 kbps/57.6 kbps/38.4 kbps/19.2 kbps/9600 bps/2400 bps

図20－1にIrDAとSAUの連携イメージのブロック図を示します。

図20－1　IrDAとSAUの連携イメージのブロック図

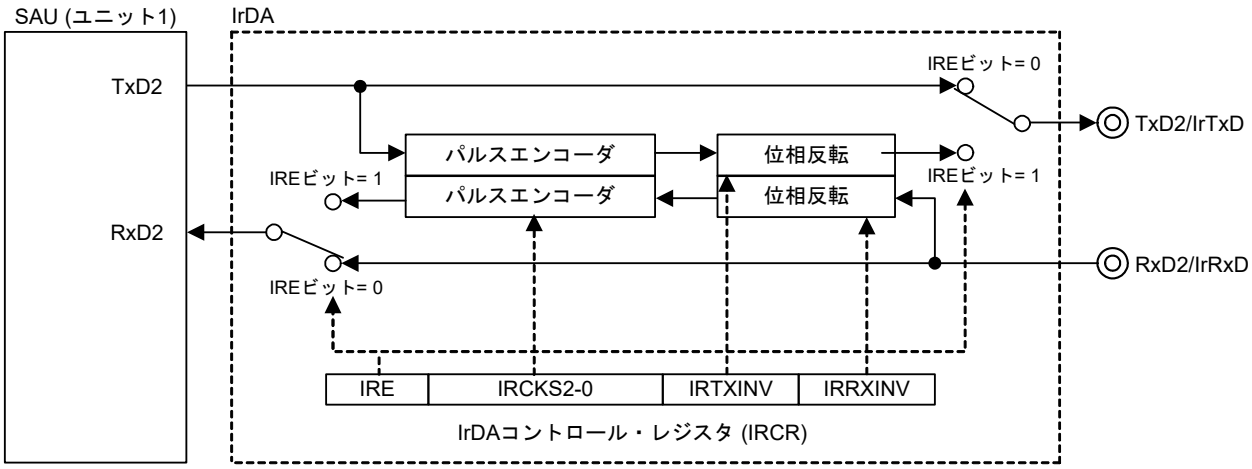



表20－1　IrDAの端子構成

| 端子名 | 入出力 | 機能 |
|---|---|---|
| IrTxD | 出力 | 送信データ出力端子 |
| IrRxD | 入力 | 受信データ入力端子 |

## 20. 2 レジスタの説明

表20－2にIrDAのレジスタ構成を示します。

表20－2 IrDAのレジスタ構成

| 項 目 | 構 成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0） |
| | IrDAコントロール・レジスタ（IRCR） |

### 20. 2. 1 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）

PER0レジスタは，各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

IrDAを使用するときは，必ずビット6（IRDAEN）を1に設定してください。

PER0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図20－2 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット

アドレス：F00F0H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER0 | RTCWEN | IRDAEN | ADCEN | IICA0EN | SAU1EN | SAU0EN | 0 | TAU0EN |

| IRDAEN | IrDAの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>• IrDAで使用するSFRへのライト不可<br>• IrDAはリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>• IrDAで使用するSFRへのリード／ライト可 |

注意1. IrDAの設定をする際には，必ず最初にIRDAEN = 1の設定を行ってください。
IRDAEN = 0の場合は，IrDAの制御レジスタへの書き込みは無視され，読み出し値もすべて初期値となります。

2. ビット1には必ず0を設定してください。

### 20. 2. 2 IrDAコントロール・レジスタ（IRCR）

IrDA機能を制御するレジスタです。受信データ，送信データの極性切り替え，IrDAのクロックの選択，シリアル入出力端子機能（通常のシリアル機能／IrDA機能）の切り替えを選択します。

IRCRレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図20－3 IrDAコントロール・レジスタ（IRCR）のフォーマット

アドレス：F03A0H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IRCR | IRE | IRCKS2 | IRCKS1 | IRCKS0 | IRTXINV | IRRXINV | 0 | 0 |

| IRE | IrDAイネーブル |
|---|---|
| 0 | シリアル入出力端子は，通常のシリアル機能として動作 |
| 1 | シリアル入出力端子は，IrDA機能として動作 |

| IRCKS2 | IRCKS1 | IRCKS0 | IrDAクロックセレクト |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | B × 3/16（B = ビットレート） |
| 0 | 0 | 1 | $f_{CLK}/2$ |
| 0 | 1 | 0 | $f_{CLK}/4$ |
| 0 | 1 | 1 | $f_{CLK}/8$ |
| 1 | 0 | 0 | $f_{CLK}16$ |
| 1 | 0 | 1 | $f_{CLK}/32$ |
| 1 | 1 | 0 | $f_{CLK}/64$ |
| 1 | 1 | 1 | 設定禁止 |

| IRTXINV | IrTxDデータ極性切り替え |
|---|---|
| 0 | 送信データをそのままIrTxD出力 |
| 1 | 送信データを反転してIrTxD出力 |

| IRRXINV | IrRxDデータ極性切り替え |
|---|---|
| 0 | IrRxD入力をそのまま受信データとして使用 |
| 1 | IrRxD入力を反転して受信データとして使用 |

注意1. ビット1，0には必ず0を設定してください。

2. IRCKS[2:0], IRTXINV, IRRXINVは，IREビットが0の時のみ設定可能です。

# 20. 3 動作説明

## 20. 3. 1 IrDA通信操作手順

（1）IrDA通信 初期設定フロー

IrDA初期設定は，以下の手順で行ってください。

1. PER0レジスタのIRDAENビットに1を設定します。
2. IRCRレジスタを設定します。
3. SAU関連レジスタ（UARTモード設定の手順を参照）を設定します。

（2）IrDA通信停止フロー

1. ポート・レジスタとポート・モード・レジスタの設定で，IrDA通信停止後のIrTxD端子の状態を設定します。

   備考 手順3でIrDAリセット時にIrTxD端子は通常のシリアル・インタフェースUARTのデータ出力に切り替わるため，出力状態が変化する場合があります。

   ・IrTxD端子からロウ・レベルを出力する場合
   ポート・レジスタに0を設定します。本設定の直後にIrTxD端子はロウ・レベルに固定されます。
   ・IrTxD端子からハイ・レベルを出力する場合
   ポート・レジスタに1を設定します。本設定により，手順3 IrDAリセット直後，IrTxD端子はハイ・レベルに固定されます。
   ・IrTxD端子をHi-Z状態に設定する場合
   ポート・モード・レジスタに1を設定します。本設定の直後にIrTxD端子はHi-Z状態となります。
2. STmレジスタ（SAU関連レジスタ）のSTm0ビットおよびSTm1ビットに1を設定（SAUのチャネル0，チャネル1動作停止）します。
3. PER0レジスタのIRDAENビットに0を設定し，IrDAをリセットします。

上記手順以外でSTmレジスタのSTm0ビットおよびSTm1ビットに1を設定，またはIrDAのIREビットに0を設定しないでください。

（3）IrDAフレーミング・エラー発生時の手順

IrDA通信中にフレーミング・エラーが発生した場合，後続のデータを受信可能な状態にするため，以下の手順が必要です。

1. SAU STmレジスタのSTm1ビットに1を設定（SAU CH1動作停止）
2. SAU SSmレジスタのSSm1ビットに1を設定（SAU CH1動作開始）

   備考 m：ユニット番号（m = 0, 1）

SAUフレーミング・エラー処理については，SAUの章も参照してください。

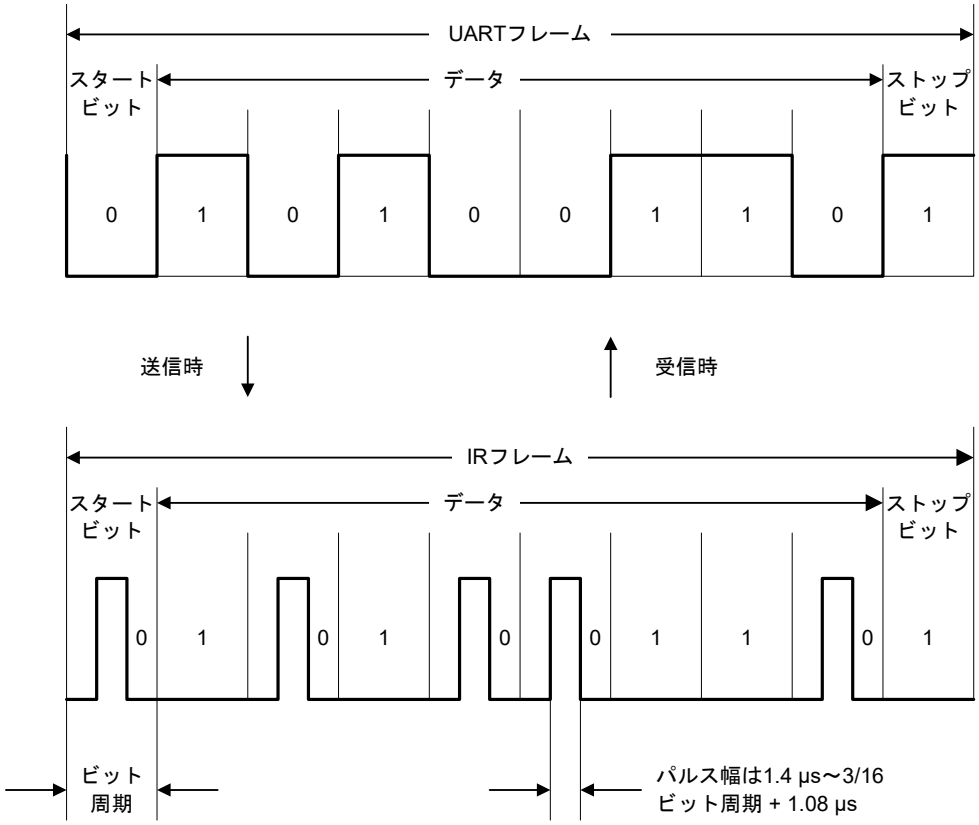
### 20. 3. 2 送信

送信時には，SAUからの出力信号（UARTフレーム）はIrDAによりIRフレームに変換されます（図20－4参照）。

IRTXINVビットが0でシリアルデータが0のとき，ビットレート（1ビット幅の期間）の3/16のハイ・パルスが出力されます（初期値）。なお，ハイ・パルス幅は，IRCKS2-IRCKS0ビットの設定値により変化させることもできます。規格では，ハイ・パルス幅は最小1.41 μs，最大（3/16 + 2.5%）× ビットレート，または（3/16 × ビットレート）+ 1.08 μsと定められています。

CPU／周辺ハードウェア・クロック（$f_{CLK}$）が20 MHzのとき，1.41 μs以上で最大のハイ・パルス幅としては1.6 μsが設定可能です。また，シリアルデータが1のときは，パルスは出力されません。

図20－4 IrDAの送信／受信動作図



### 20. 3. 3 受信

受信時には，IRフレームのデータはIrDAによりUARTフレームに変換され，SAUに入力されます。IRRXINVビットが0で，ハイ・パルスが検出されたときにロウ・データを出力し，1ビット期間中にパルスがない場合にはハイ・データを出力します。最小パルス幅の1.41 μsより短いパルスは認識されませんので注意してください。

### 20. 3. 4 ハイ・パルス幅の選択

送信時にビットレート × 3/16よりパルス幅を短くする場合に，適用可能なIRCKS2-IRCKS0ビットの設定（最小パルス幅）と設定時のハイ・パルス幅を表20－3に示します。

表20－3 IRCKS2-IRCKS0ビットの設定値

| $f_{CLK}$ [MHz] | 項目 | ＜上段＞ビットレート [kbps]<br>＜下段＞ビットレート × 3/16 [μs] | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 2.4 | 9.6 | 19.2 | 38.4 | 57.6 | 115.2 |
| | | 78.13 | 19.53 | 9.77 | 4.87 | 3.26 | 1.63 |
| 1 | IRCKS2-IRCKS0 | 001 | 001 | 001 | －注1 | －注1 | －注1 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.00 | 2.00 | 2.00 | －注1 | －注1 | －注1 |
| 2 | IRCKS2-IRCKS0 | 010 | 010 | 010 | 010 | 010 | －注1 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | －注1 |
| 3 | IRCKS2-IRCKS0 | 011 | 011 | 011 | 011 | 011 | －注1 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 2.67 | －注1 |
| 4 | IRCKS2-IRCKS0 | 011 | 011 | 011 | 011 | 011 | 000注2 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 1.50 |
| 6 | IRCKS2-IRCKS0 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 000注2 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 1.50 |
| **8** | IRCKS2-IRCKS0 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 000注2 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 1.50 |
| 12 | IRCKS2-IRCKS0 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 | 000注2 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 1.50 |
| 16 | IRCKS2-IRCKS0 | 101 | 101 | 101 | 101 | 101 | 000注2 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 2.00 | 1.50 |
| 24 | IRCKS2-IRCKS0 | 110 | 110 | 110 | 110 | 110 | 000注2 |
| | ハイパルス幅[μs] | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 2.67 | 1.50 |

注1. “－”の意味は，通信Specを満たせないことです。

2. ビットレート × 3/16よりパルス幅を小さくすることはできません。

## 20. 4 IrDA使用上の注意事項

(1) IrDA機能を使用してIrRxD受信によるSNOOZE遷移はできません。

(2) 周辺イネーブルレジスタにより，IrDAの動作クロックの供給禁止/許可を設定することができます。初期状態では，クロック供給が禁止状態であるため，レジスタへのアクセスができません。レジスタ設定の前に，周辺イネーブルレジスタによりIrDAの動作クロックを供給許可状態にしてください。

(3) HALTモード時は，IrDA機能は動作を継続します。

(4) IrDA通信中にSAUの初期化機能（SSビット= 1）は使用禁止です。

(5) IRCRレジスタのIRRXINVビット，IRTXINVビット，及びIRCKS[2:0]ビットは，IREビットが0の時のみ設定可能です。

# 第21章　LCDコントローラ／ドライバ

RL78/I1BのLCD表示機能端子は製品ごとに搭載する数が異なります。次の表に製品ごとのLCD表示機能端子数を示します。

表21－1　製品ごとのLCD表示機能端子

| 項　目 | | RL78/I1B | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 80ピン（R5F10MMx（x = G, E）） | | | | | | | | 100ピン（R5F10MPx（x = G, E）） | | | | | | | |
| LCDコントローラ／ドライバ | | セグメント信号出力：34（30）注<br>コモン信号出力：8 | | | | | | | | セグメント信号出力：42（38）注<br>コモン信号出力：8 | | | | | | | |
| 兼用I/Oポート | | bit 7 | bit 6 | bit 5 | bit 4 | bit 3 | bit 2 | bit 1 | bit 0 | bit 7 | bit 6 | bit 5 | bit 4 | bit 3 | bit 2 | bit 1 | bit 0 |
| セグメント | P0 | SEG 37 | SEG 36 | SEG 35 | SEG 34 | SEG 33 | SEG 32 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| | P1 | SEG 11 | SEG 10 | SEG 9 | SEG 8 | SEG 7 | SEG 6 | SEG 5 | SEG 4 | SEG 11 | SEG 10 | SEG 9 | SEG 8 | SEG 7 | SEG 6 | SEG 5 | SEG 4 |
| | P3 | － | － | － | － | SEG 27 | SEG 26 | SEG 25 | SEG 24 | SEG 31 | SEG 30 | SEG 29 | SEG 28 | SEG 27 | SEG 26 | SEG 25 | SEG 24 |
| | P5 | － | － | － | － | － | － | － | － | SEG 39 | SEG 38 | SEG 37 | SEG 36 | SEG 35 | SEG 34 | SEG 33 | SEG 32 |
| | P7 | SEG 23 | SEG 22 | SEG 21 | SEG 20 | SEG 19 | SEG 18 | SEG 17 | SEG 16 | SEG 23 | SEG 22 | SEG 21 | SEG 20 | SEG 19 | SEG 18 | SEG 17 | SEG 16 |
| | P8 | － | － | － | － | SEG 15 | SEG 14 | SEG 13 | SEG 12 | － | － | SEG 41 | SEG 40 | SEG 15 | SEG 14 | SEG 13 | SEG 12 |
| COM信号出力端子とI/Oポートの兼用関係 | | － | | | | | | | | | | | | | | | |
| COM信号出力端子と他のLCD表示機能端子の兼用関係 | COM4 | SEG0 | | | | | | | | SEG0 | | | | | | | |
| | COM5 | SEG1 | | | | | | | | SEG1 | | | | | | | |
| | COM6 | SEG2 | | | | | | | | SEG2 | | | | | | | |
| | COM7 | SEG3 | | | | | | | | SEG3 | | | | | | | |

注　（ ）内は8 com使用時の信号出力本数です。

## 21. 1　LCDコントローラ／ドライバの機能

RL78/I1Bに内蔵しているLCDコントローラ／ドライバの機能を次に示します。

（1） A波形，B波形の選択が可能
（2） LCD駆動電圧生成回路は，内部昇圧／容量分割／外部抵抗分割の切り替えが可能
（3） 表示データ・レジスタの自動読み出しによるセグメント信号とコモン信号の自動出力が可能
（4） 昇圧回路動作時に生成する基準電圧を16段階から選択可能（コントラスト調整）
（5） LCD点滅が可能

各表示モードにおける表示可能な最大画素数を表21－2に示します。

表21－2　最大表示画素数（1/2）

（a）80ピン製品

| LCDドライバ用駆動波形 | LCDドライバ用駆動電圧生成回路 | バイアス法 | 時分割 | 最大表示画素数 |
|---|---|---|---|---|
| A波形 | 外部抵抗分割 | － | スタティック | 34（34セグメント×1コモン） |
| | | 1/2 | 2 | 68（34セグメント×2コモン） |
| | | | 3 | 102（34セグメント×3コモン） |
| | | 1/3 | 3 | |
| | | | 4 | 136（34セグメント×4コモン） |
| | | 1/4 | 8 | 240（30セグメント×8コモン） |
| | 内部昇圧 | 1/3 | 3 | 102（34セグメント×3コモン） |
| | | | 4 | 136（34セグメント×4コモン） |
| | | 1/4 | 6 | 192（32セグメント×6コモン） |
| | | | 8 | 240（30セグメント×8コモン） |
| | 容量分割 | 1/3 | 3 | 102（34セグメント×3コモン） |
| | | | 4 | 136（34セグメント×4コモン） |
| B波形 | 外部抵抗分割，内部昇圧 | 1/3 | 4 | |
| | | 1/4 | 8 | 240（30セグメント×8コモン） |
| | 容量分割 | 1/3 | 4 | 136（34セグメント×4コモン） |

表21－2　最大表示画素数（2/2）

（b）100ピン製品

| LCDドライバ用駆動波形 | LCDドライバ用駆動電圧生成回路 | バイアス法 | 時分割 | 最大表示画素数 |
|---|---|---|---|---|
| A波形 | 外部抵抗分割 | － | スタティック | 42（42セグメント×1コモン） |
| | | 1/2 | 2 | 84（42セグメント×2コモン） |
| | | | 3 | 126（42セグメント×3コモン） |
| | | 1/3 | 3 | |
| | | | 4 | 168（42セグメント×4コモン） |
| | | 1/4 | 8 | 304（38セグメント×8コモン） |
| | 内部昇圧 | 1/3 | 3 | 126（42セグメント×3コモン） |
| | | | 4 | 168（42セグメント×4コモン） |
| | | 1/4 | 6 | 240（40セグメント×6コモン） |
| | | | 8 | 304（38セグメント×8コモン） |
| | 容量分割 | 1/3 | 3 | 126（42セグメント×3コモン） |
| | | | 4 | 168（42セグメント×4コモン） |
| B波形 | 外部抵抗分割，内部昇圧 | 1/3 | 4 | |
| | | 1/4 | 8 | 304（38セグメント×8コモン） |
| | 容量分割 | 1/3 | 4 | 168（42セグメント×4コモン） |

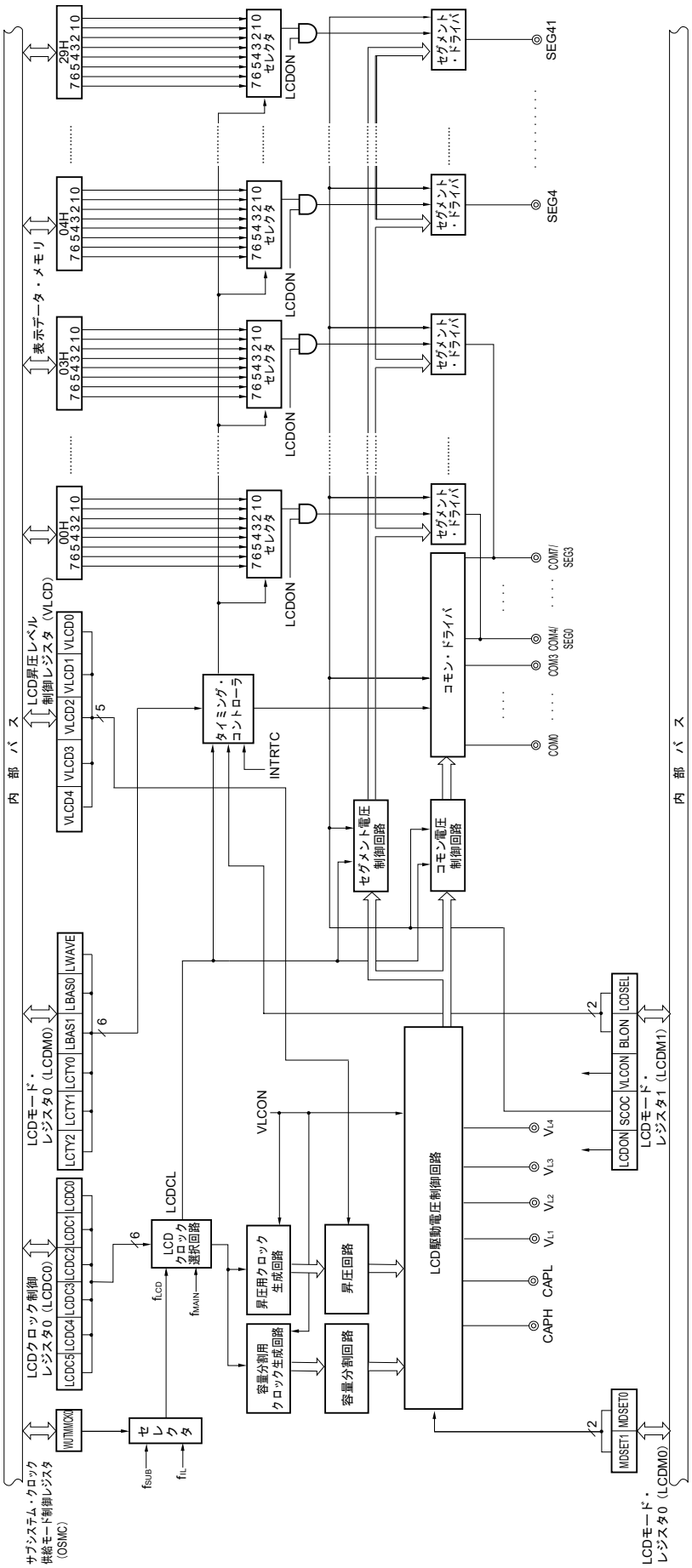
## 21. 2　LCDコントローラ／ドライバの構成

LCDコントローラ／ドライバは，次のハードウエアで構成しています。

表21－3　LCDコントローラ／ドライバの構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | LCDモード・レジスタ0（LCDM0）<br>LCDモード・レジスタ1（LCDM1）<br>サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）<br>LCDクロック制御レジスタ0（LCDC0）<br>LCD昇圧レベル制御レジスタ（VLCD）<br>LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD）<br>LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5）<br>ポート・モード・レジスタ0, 1, 3, 5, 7, 8（PM0, PM1, PM3, PM5, PM7, PM8） |

図21－1 LCDコントローラ／ドライバのブロック図



## 21. 3　LCDコントローラ／ドライバを制御するレジスタ

LCDコントローラ／ドライバは，次の8種類のレジスタで制御します。

・LCDモード・レジスタ0（LCDM0）
・LCDモード・レジスタ1（LCDM1）
・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）
・LCDクロック制御レジスタ0（LCDC0）
・LCD昇圧レベル制御レジスタ（VLCD）
・LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD）
・LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5）
・ポート・モード・レジスタ0, 1, 3, 5, 7, 8（PM0, PM1, PM3, PM5, PM7, PM8）

### 21. 3. 1　LCDモード・レジスタ0（LCDM0）

LCDの動作を設定するレジスタです。

LCDM0は，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図21－2　LCDモード・レジスタ0（LCDM0）のフォーマット（1/2）

アドレス：FFF40H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LCDM0 | MDSET1 | MDSET0 | LWAVE | LDTY2 | LDTY1 | LDTY0 | LBAS1 | LBAS0 |

| MDSET1 | MDSET0 | LCD駆動電圧生成回路の選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 外部抵抗分割方式 |
| 0 | 1 | 内部昇圧方式 |
| 1 | 0 | 容量分割方式 |
| 1 | 1 | 設定禁止 |

| LWAVE | LCD表示波形の選択 |
|---|---|
| 0 | A波形 |
| 1 | B波形 |

| LDTY2 | LDTY1 | LDTY0 | LCD表示の時分割数選択 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | スタティック |
| 0 | 0 | 1 | 2時分割 |
| 0 | 1 | 0 | 3時分割 |
| 0 | 1 | 1 | 4時分割 |
| 1 | 0 | 0 | 6時分割 |
| 1 | 0 | 1 | 8時分割 |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |

図21－2　LCDモード・レジスタ0（LCDM0）のフォーマット（2/2）

アドレス：FFF40H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LCDM0 | MDSET1 | MDSET0 | LWAVE | LDTY2 | LDTY1 | LDTY0 | LBAS1 | LBAS0 |

| LBAS1 | LBAS0 | LCD表示のバイアス法選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 1/2バイアス法 |
| 0 | 1 | 1/3バイアス法 |
| 1 | 0 | 1/4バイアス法 |
| 1 | 1 | 設定禁止 |

注意1. LCDM1のSCOC = 1のときに，LCDM0の値を書き換えないでください。

2. スタティックを選択した場合（LDTY2-LDTY0ビット = 000B），LBAS1, LBAS0ビットの設定は必ず初期値（00B）にしてください。初期値以外の値を設定した場合の動作は保証しません。

3. 表示波形，時分割数，バイアス法の設定は表21－4に示す組み合わせのみサポートします。表21－4で示す組み合わせ以外は設定禁止です。

表21－4　表示波形／時分割数／バイアス法とフレーム周波数の組み合わせ

| 表示モード | | | 設定値 | | | | | | 駆動電圧生成方式 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 表示波形 | 時分割数 | バイアス法 | LWAVE | LDTY2 | LDTY1 | LDTY0 | LBAS1 | LBAS0 | 外部抵抗分割 | 内部昇圧 | 容量分割 |
| A波形 | 8 | 1/4 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | ○ (24～128 Hz) | ○ (24～64 Hz) | × |
| A波形 | 6 | 1/4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | × | ○ (32～86 Hz) | × |
| A波形 | 4 | 1/3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | ○ (24～128 Hz) | ○ (24～128 Hz) | ○ (24～128 Hz) |
| A波形 | 3 | 1/3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | ○ (32～128 Hz) | ○ (32～128 Hz) | ○ (32～128 Hz) |
| A波形 | 3 | 1/2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | ○ (32～128 Hz) | × | × |
| A波形 | 2 | 1/2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | ○ (24～128 Hz) | × | × |
| A波形 | スタティック | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ○ (24～128 Hz) | × | × |
| B波形 | 8 | 1/4 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | ○ (24～128 Hz) | ○ (24～64 Hz) | × |
| B波形 | 4 | 1/3 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | ○ (24～128 Hz) | ○ (24～128 Hz) | ○ (24～128 Hz) |

備考　○：対応

×：非対応

### 21. 3. 2　LCDモード・レジスタ1（LCDM1）

表示動作の許可／禁止，昇圧回路もしくは容量分割回路の動作許可／停止，表示データ領域，低電圧モードを設定するレジスタです。

LCDM1は，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図21－3　LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のフォーマット（1/2）

アドレス：FFF41H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LCDM1 | LCDON | SCOC | VLCON | BLON | LCDSEL | 0 | 0 | LCDVLM |

| SCOC | LCDON | LCD表示の許可／禁止<br>通常液晶波形（A波形／B波形）出力時 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | セグメント端子／コモン端子にグランド・レベルを出力 |
| 0 | 1 | |
| 1 | 0 | 表示オフ（セグメント出力はすべて非選択信号出力） |
| 1 | 1 | 表示オン |

| VLCON注1 | 昇圧回路もしくは容量分割回路の動作許可／停止 |
|---|---|
| 0 | 昇圧回路もしくは容量分割回路の動作停止 |
| 1 | 昇圧回路もしくは容量分割回路の動作許可 |

| BLON注2 | LCDSEL | 表示データ領域の制御 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | Aパターン領域（LCD表示データ・レジスタの下位4ビット）のデータを表示 |
| 0 | 1 | Bパターン領域（LCD表示データ・レジスタの上位4ビット）のデータを表示 |
| 1 | 0 | Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示（リアルタイム・クロック2（RTC2）の定周期割り込み（INTRTC）タイミングに対応した点滅表示） |
| 1 | 1 | |

注1.　外部抵抗分割モード時には設定禁止。

2.　LCDソース・クロック（$f_{LCD}$）として$f_{IL}$を選択する場合は，必ずBLONビット ＝0にしてください。

（注意は次ページにあります。）

図21－3　LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のフォーマット（2/2）

アドレス：FFF41H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LCDM1 | LCDON | SCOC | VLCON | BLON | LCDSEL | 0 | 0 | LCDVLM |

| LCDVLM注 | 昇圧端子の初期値の切り替え制御 |
|---|---|
| 0 | $V_{DD}$電圧≧2.7 Vの場合 |
| 1 | $V_{DD}$電圧≦4.2 Vの場合 |

注　昇圧回路使用時に，$V_{Lx}$端子の初期状態を設定して効率的に昇圧を行うための機能です。
昇圧開始時の$V_{DD}$電圧が2.7 V以上の場合はLCDVLMビット = 0，$V_{DD}$電圧が4.2 V以下の場合はLCDVLMビット = 1としてください。
ただし，2.7 V≦$V_{DD}$≦4.2 Vでは，LCDVLM = 0, LCDVLM = 1のいずれでも動作可能です。

注意1. 昇圧回路使用時にLCD表示を行わないときに消費電力を削減したい場合は，SCOC = 0, VLCON = 0を設定し，さらにMDSET1, MDSET0 = 00を設定してください。MDSET1, MDSET0 = 01の場合，内部の基準電圧生成部が動作するため電力を消費します。
2. 外部抵抗分割方式設定時（LCDM0のMDSET1，MDSET0ビット = 00B）または容量分割方式設定時（MDSET1, MDSET0ビット = 10B）は，LCDVLMに0を設定してください。
3. SCOC = 1のときVLCON, LCDVLMを書き換えないでください。
4. 表示モードに8時分割数を選択した場合，BLONとLCDSELに0を設定してください。
5. 内部昇圧方式を使用する場合は，VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット = 01B）にしてから），基準電圧セットアップ時間（5 ms (MIN.) ）をウエイトしたあとに，VLCONに1を設定してください。

備考　RTCE　：リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）のビット7
RINTE　：インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ（ITMC）のビット15
SCOC　：LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のビット6
VLCON　：LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のビット5

### 21. 3. 3　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）

OSMCレジスタは，不要なクロック機能を停止させることにより，低消費電力化することを目的としたレジスタです。

RTCLPC = 1に設定すると，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時に，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力，LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へのクロック供給を停止するので，消費電力を低減することが可能です。

また，OSMCレジスタではリアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力，LCDコントローラ／ドライバ，サブシステム・クロック周波数測定回路の動作クロックを選択できます。

OSMCレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図21－4　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のフォーマット

アドレス：F00F3H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSMC | RTCLPC | 0 | 0 | WUTMMCK0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| RTCLPC | STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の設定 |
|---|---|
| 0 | 周辺機能へのサブシステム・クロック供給許可<br>（動作許可となる周辺機能については，表24－1，表24－2参照） |
| 1 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力，LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給停止 |

| WUTMMCK0 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの動作クロックの選択 | クロック出力／ブザー出力制御回路のPCLBUZn端子の出力クロックの選択および8ビット・インターバル・タイマの動作クロックの選択 | サブシステム・クロック周波数測定回路の動作 |
|---|---|---|---|
| 0 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択許可 | 許可 |
| 1 | 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択禁止 | 禁止 |

注意1.　サブシステム・クロック発振中の場合は，必ずサブシステム・クロックを選択（WUTMMCK0ビット ＝0）にしてください。

2.　WUTMMCK0を“1”に設定すると低速オンチップ・オシレータ・クロックが発振します。

3.　WUTMMCK0ビットによるサブシステム・クロックと低速オンチップ・オシレータ・クロックの切り替えは，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの全ての機能が動作停止中のみ可能です。

### 21. 3. 4　LCDクロック制御レジスタ0（LCDC0）

LCDソース・クロック，LCDクロックを設定するレジスタです。

LCDクロックと時分割数で，フレーム周波数が決まります。

LCDC0は，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図21－5　LCDクロック制御レジスタ（LCDC0）のフォーマット

アドレス：FFF42 H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LCDC0 | 0 | 0 | LCDC05 | LCDC04 | LCDC03 | LCDC02 | LCDC01 | LCDC00 |

| LCDC05 | LCDC04 | LCDC03 | LCDC02 | LCDC01 | LCDC00 | LCDクロック（LCDCL） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | WUTMMCK0 = 0 | WUTMMCK0 = 1 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{SUB}/2^2$ | $f_{IL}/2^2$ |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{SUB}/2^3$ | $f_{IL}/2^3$ |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{SUB}/2^4$ | $f_{IL}/2^4$ |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | $f_{SUB}/2^5$ | $f_{IL}/2^5$ |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | $f_{SUB}/2^6$ | $f_{IL}/2^6$ |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | $f_{SUB}/2^7$ | $f_{IL}/2^7$ |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | $f_{SUB}/2^8$ | $f_{IL}/2^8$ |
| 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | $f_{SUB}/2^9$ | $f_{IL}/2^9$ |
| 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | $f_{SUB}/2^{10}$ | |
| 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | $f_{MAIN}/2^8$ | |
| 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | $f_{MAIN}/2^9$ | |
| 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | $f_{MAIN}/2^{10}$ | |
| 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | $f_{MAIN}/2^{11}$ | |
| 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | $f_{MAIN}/2^{12}$ | |
| 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | $f_{MAIN}/2^{13}$ | |
| 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | $f_{MAIN}/2^{14}$ | |
| 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | $f_{MAIN}/2^{15}$ | |
| 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | $f_{MAIN}/2^{16}$ | |
| 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | $f_{MAIN}/2^{17}$ | |
| 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | $f_{MAIN}/2^{18}$ | |
| 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | $f_{MAIN}/2^{19}$ | |
| 上記以外 | | | | | | 設定禁止 | |

注意1.　ビット6, 7には，必ず0を設定してください。

2.　フレーム周波数は32～128 Hz（$f_{IL}$選択時は24～128 Hz）の範囲内で設定してください。さらに，内部昇圧方式，容量分割方式に設定した場合，LCDクロック（LCDCL）は，512 Hz以下（$f_{IL}$選択時は235 Hz以下）に設定してください。

3.　LCDM1レジスタのSCOCビット ＝1のときLCDC0を設定しないでください。

備考　$f_{MAIN}$　：メイン・システム・クロック周波数

$f_{SUB}$　：サブシステム・クロック周波数

$f_{IL}$　：低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

### 21. 3. 5　LCD昇圧レベル制御レジスタ（VLCD）

昇圧回路動作時に生成する基準電圧を選択（コントラスト調整）するレジスタです。基準電圧は，16段階から選択することができます。

VLCDは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，04Hになります。

図21－6　LCD昇圧レベル制御レジスタ（VLCD）のフォーマット

アドレス：FFF43H　リセット時：04H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| VLCD | 0 | 0 | 0 | VLCD4 | VLCD3 | VLCD2 | VLCD1 | VLCD0 |

| VLCD4 | VLCD3 | VLCD2 | VLCD1 | VLCD0 | 基準電圧選択（コントラスト調整） | $V_{L4}$電圧 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1/3バイアス法時 | 1/4バイアス法時 |
| 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1.00 V（デフォルト） | 3.00 V | 4.00 V |
| 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1.05 V | 3.15 V | 4.20 V |
| 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1.10 V | 3.30 V | 4.40 V |
| 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1.15 V | 3.45 V | 4.60 V |
| 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1.20 V | 3.60 V | 4.80 V |
| 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1.25 V | 3.75 V | 5.00 V |
| 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1.30 V | 3.90 V | 5.20 V |
| 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1.35 V | 4.05 V | 設定禁止 |
| 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1.40 V | 4.20 V | 設定禁止 |
| 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1.45 V | 4.35 V | 設定禁止 |
| 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1.50 V | 4.50 V | 設定禁止 |
| 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1.55 V | 4.65 V | 設定禁止 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1.60 V | 4.80 V | 設定禁止 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1.65 V | 4.95 V | 設定禁止 |
| 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1.70 V | 5.10 V | 設定禁止 |
| 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1.75 V | 5.25 V | 設定禁止 |
| 上記以外 | | | | | 設定禁止 | | |

注意1. VLCDレジスタの設定は，昇圧回路動作時のみ有効です。

2. ビット5-7には，必ず0を設定してください。

3. VLCDレジスタの値を変更する場合は，必ず昇圧回路の動作を停止（VLCON = 0）してから行ってください。

4. 内部昇圧方式を使用する場合は，VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット = 01B）にしてから），基準電圧セットアップ時間（5 ms (MIN.)）をウエイトしたあとに，VLCONに1を設定してください。

5. 外部抵抗分割方式または容量分割方式では，VLCDレジスタは初期値（04H）で使用してください。

### 21. 3. 6　LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD）

CAPL/P126, CAPH/P127, $V_{L3}$/P125端子をLCD機能として動作するように設定を行うまでの期間，貫通電流の進入を防ぐためにシュミット・トリガ・バッファを入力禁止にする必要があります。

ISCLCDレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図21－7　LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD）

アドレス：F0308H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ISCLCD | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ISCVL3 | ISCCAP |

| ISCVL3 | $V_{L3}$/P125端子のシュミット・トリガ・バッファの制御 |
|---|---|
| 0 | 入力無効 |
| 1 | 入力有効 |

| ISCCAP | CAPL/ P126, CAPH/P127端子のシュミット・トリガ・バッファの制御 |
|---|---|
| 0 | 入力無効 |
| 1 | 入力有効 |

注意1. ISCVL3ビット ＝0の場合，対応するポート制御レジスタは，次のように設定してください。

PU12レジスタのPU125ビット ＝0, P12レジスタのP125ビット ＝0

2. ISCCAPビット ＝0の場合，対応するポート制御レジスタは，次のように設定してください。

PU12レジスタのPU126ビット ＝0, P12レジスタのP126ビット ＝0

PU12レジスタのPU127ビット ＝0, P12レジスタのP127ビット ＝0

（1）$V_{L3}$, CAPL, CAPH端子兼用ポートの動作

$V_{L3}$/P125, CAPL/P126, CAPH/P127端子の機能は，LCD入力切り替え制御レジスタ（ISCLCD），LCDモード・レジスタ0（LCDM0），ポート・モード・レジスタ12（PM12）の設定で決定します。.

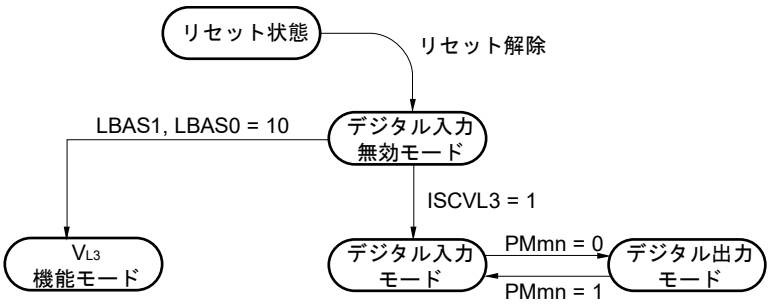
・$V_{L3}$/P125

表21－5　$V_{L3}$/P125端子機能の設定

| バイアス法設定（LCDM0レジスタのLBAS1, LBAS0 ビットで設定） | ISCLCDレジスタのISCVL3ビット | PM12レジスタのPM125ビット | 端子機能 | 初期状態 |
|---|---|---|---|---|
| 1/4バイアス法以外（LBAS1, LBAS0 ＝ 00または01） | 0 | 1 | デジタル入力無効モード | ○ |
| | 1 | 0 | デジタル出力モード | － |
| | 1 | 1 | デジタル入力モード | － |
| 1/4バイアス法（LBAS1, LBAS0 = 10） | 0 | 1 | $V_{L3}$機能モード | － |
| 上記以外 | | | 設定禁止 | |

$V_{L3}$/P125端子機能の状態遷移を次に示します。

図21－8　$V_{L3}$/P125端子機能の状態遷移図




注意　$V_{L3}$機能モードに設定する場合は，セグメント出力開始前（LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のSCOCビット ＝0の期間）に設定してください。

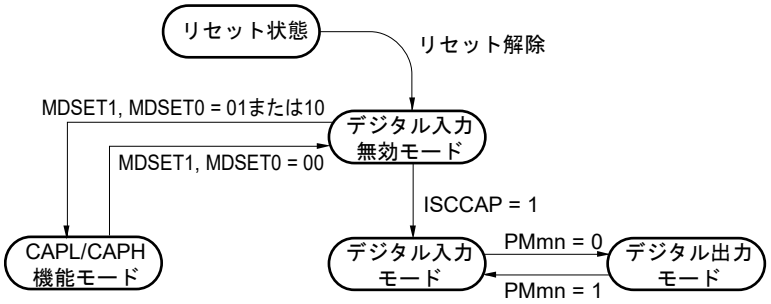
・CAPL/P126, CAPH/P127

表21－6　CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の設定

| LCD駆動電圧生成（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット） | ISCLCDレジスタのISCCAPビット | PM12レジスタのPM126, PM127ビット | 端子機能 | 初期状態 |
|---|---|---|---|---|
| 外部抵抗分割（MDSET1, MDSET0 = 00） | 0 | 1 | デジタル入力無効モード | ○ |
| | 1 | 0 | デジタル出力モード | － |
| | 1 | 1 | デジタル入力モード | － |
| 内部昇圧または容量分割（MDSET1, MDSET0 ＝ 01または10） | 0 | 1 | CAPL/CAPH機能モード | － |
| 上記以外 | | | 設定禁止 | |

CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の状態遷移を次に示します。

図21－9　CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の状態遷移図




注意　CAPL/CAPH機能モードに設定する場合は，セグメント出力開始前（LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のSCOCビット ＝0の期間）に設定してください。

### 21. 3. 7　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5）

P02-P07, P10-P17, P30-P37, P50-P57, P70-P77, P80-P85端子をポート（セグメント出力以外）／セグメント出力のどちらかで使用するかを設定するレジスタです。PFSEG0-PFSEG5レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります（PFSEG0はF0H, PFSEG5は02H）。

備考　セグメント出力端子（SEGxx）とPFSEGレジスタ（PFSEGxxビット）の対応と，製品によるSEGxx端子の有無を表21－7　各製品で搭載しているセグメント出力端子と対応するPFSEGレジスタ（PFSEGビット）に示します。

図21－10　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5のフォーマット

アドレス：F0300H　リセット時：F0H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG0 | PFSEG07 | PFSEG06 | PFSEG05 | PFSEG04 | 0 | 0 | 0 | 0 |

アドレス：F0301H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG1 | PFSEG15 | PFSEG14 | PFSEG13 | PFSEG12 | PFSEG11 | PFSEG10 | PFSEG09 | PFSEG08 |

アドレス：F0302H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG2 | PFSEG23 | PFSEG22 | PFSEG21 | PFSEG20 | PFSEG19 | PFSEG18 | PFSEG17 | PFSEG16 |

アドレス：F0303H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG3 | PFSEG31注 | PFSEG30注 | PFSEG29注 | PFSEG28注 | PFSEG27 | PFSEG26 | PFSEG25 | PFSEG24 |

アドレス：F0304H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG4 | PESEG39注 | PFSEG38注 | PFSEG37 | PFSEG36 | PFSEG35 | PFSEG34 | PFSEG33 | PFSEG32 |

アドレス：F0305H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PFSEG5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | PFSEG41注 | PFSEG40注 |

| PFSEGxx (xx = 04-41) | Pmn端子のポート（セグメント出力以外）／セグメント出力の指定（mn = 02-07, 10-17, 30-37, 50-57, 70-77, 80-85） |
|---|---|
| 0 | ポート（セグメント出力以外）として使用 |
| 1 | セグメント出力として使用 |

注　80ピン製品では必ず”1”を設定してください。

注意　セグメント出力として使用する（PFSEGxx = 1）場合には必ずPUmレジスタのPUmnビット = 0，POMmレジスタのPOMmnビット = 0，PIMmレジスタのPIMmnビット = 0に設定してください。

表21－7　各製品で搭載しているセグメント出力端子と対応するPFSEGレジスタ（PFSEGビット）

| PFSEGレジスタのビット名 | 対応するSEGxx端子 | 兼用するポート | 100-pin | 80-pin |
|---|---|---|---|---|
| PFSEG04 | SEG4 | P10 | ○ | ○ |
| PFSEG05 | SEG5 | P11 | ○ | ○ |
| PFSEG06 | SEG6 | P12 | ○ | ○ |
| PFSEG07 | SEG7 | P13 | ○ | ○ |
| PFSEG08 | SEG8 | P14 | ○ | ○ |
| PFSEG09 | SEG9 | P15 | ○ | ○ |
| PFSEG10 | SEG10 | P16 | ○ | ○ |
| PFSEG11 | SEG11 | P17 | ○ | ○ |
| PFSEG12 | SEG12 | P80 | ○ | ○ |
| PFSEG13 | SEG13 | P81 | ○ | ○ |
| PFSEG14 | SEG14 | P82 | ○ | ○ |
| PFSEG15 | SEG15 | P83 | ○ | ○ |
| PFSEG16 | SEG16 | P70 | ○ | ○ |
| PFSEG17 | SEG17 | P71 | ○ | ○ |
| PFSEG18 | SEG18 | P72 | ○ | ○ |
| PFSEG19 | SEG19 | P73 | ○ | ○ |
| PFSEG20 | SEG20 | P74 | ○ | ○ |
| PFSEG21 | SEG21 | P75 | ○ | ○ |
| PFSEG22 | SEG22 | P76 | ○ | ○ |
| PFSEG23 | SEG23 | P77 | ○ | ○ |
| PFSEG24 | SEG24 | P30 | ○ | ○ |
| PFSEG25 | SEG25 | P31 | ○ | ○ |
| PFSEG26 | SEG26 | P32 | ○ | ○ |
| PFSEG27 | SEG27 | P33 | ○ | ○ |
| PFSEG28 | SEG28 | P34 | ○ | － |
| PFSEG29 | SEG29 | P35 | ○ | － |
| PFSEG30 | SEG30 | P36 | ○ | － |
| PFSEG31 | SEG31 | P37 | ○ | － |
| PFSEG32 | SEG32 | P50 | ○ | － |
| | | P02 | － | ○ |
| PFSEG33 | SEG33 | P51 | ○ | － |
| | | P03 | － | ○ |
| PFSEG34 | SEG34 | P52 | ○ | － |
| | | P04 | － | ○ |
| PFSEG35 | SEG35 | P53 | ○ | － |
| | | P05 | － | ○ |
| PFSEG36 | SEG36 | P54 | ○ | － |
| | | P06 | － | ○ |
| PFSEG37 | SEG37 | P55 | ○ | － |
| | | P07 | － | ○ |
| PFSEG38 | SEG38 | P56 | ○ | － |
| PFSEG39 | SEG39 | P57 | ○ | － |
| PFSEG40 | SEG40 | P84 | ○ | － |
| PFSEG41 | SEG41 | P85 | ○ | － |

（1）SEGxx端子兼用ポートの動作

セグメント出力端子（SEGxx）の機能は，ポート・モード・レジスタ（PMxx），LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5（PFSEG0-PFSEG5）の設定で決定します。

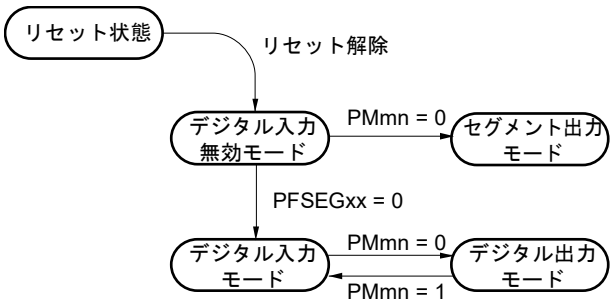
・P02-P07, P10-P17, P30-P37, P50-P57, P70-P77, P80-P85
（アナログ入力端子（ANIxx）を兼用していないポート）

表21－8　SEGxx/ポート端子機能の設定

| PFSEG0-PFSEG5レジスタのPFSEGxxビット | PMxxレジスタのPMxxビット | 端子機能 | 初期状態 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | デジタル入力無効モード | ○ |
| 0 | 0 | デジタル出力モード | － |
| 0 | 1 | デジタル入力モード | － |
| 1 | 0 | セグメント出力モード | － |

SEGxx/Pxx端子機能の状態遷移を次に示します。

図21－11　SEGxx/Pxx端子機能の状態遷移図




注意　セグメント出力モードに設定する場合は，セグメント出力開始前（LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のSCOCビット ＝0の期間）に設定してください。

### 21. 3. 8　ポート・モード・レジスタ0, 1, 3, 5, 7, 8（PM0, PM1, PM3, PM5, PM7, PM8）

ポート0, 1, 3, 5, 7, 8の入力／出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

セグメント出力端子を兼用するポート（P10/SEG4など）をセグメント出力として使用するとき，各ポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットおよびポート・レジスタ（Pxx）のビットに0を設定してください。

例）P10/SEG4をセグメント出力として使用する場合

ポート・モード・レジスタ1のPM10ビットを0に設定

ポート・レジスタ1のP10ビットを0に設定

PM0, PM1, PM3, PM5, PM7, PM8レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります。

図21－12　ポート・モード・レジスタ0, 1, 3, 5, 7, 8（PM0, PM1, PM3, PM5, PM7, PM8）のフォーマット

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | アドレス | リセット時 | R/W |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PM0 | PM07 | PM06 | PM05 | PM04 | PM03 | PM02 | PM01 | PM00 | FFF20H | FFH | R/W |
| PM1 | PM17 | PM16 | PM15 | PM14 | PM13 | PM12 | PM11 | PM10 | FFF21H | FFH | R/W |
| PM3 | 1 | 1 | PM35 | PM34 | PM33 | PM32 | PM31 | PM30 | FFF23H | FFH | R/W |
| PM5 | PM57 | PM56 | PM55 | PM54 | PM53 | PM52 | PM51 | PM50 | FFF25H | FFH | R/W |
| PM7 | PM77 | PM76 | PM75 | PM74 | PM73 | PM72 | PM71 | PM70 | FFF27H | FFH | R/W |
| PM8 | 1 | 1 | 1 | 1 | PM83 | PM82 | PM81 | PM80 | FFF28H | FFH | R/W |

| PMmn | Pmn端子の入出力モードの選択<br>（m = 0, 1, 3, 5, 7, 8; n = 0-7） |
|---|---|
| 0 | 出力モード（出力バッファ・オン） |
| 1 | 入力モード（出力バッファ・オフ） |

備考　上記は，80ピン製品のポート・モード・レジスタ0, 1, 3, 5, 7, 8のフォーマットです。他の製品のポート・モード・レジスタのフォーマットについては，表4－3　各製品で搭載しているPMxx，Pxx, PUxx, PIMxx, POMxxレジスタとそのビットを参照してください。

## 21. 4　LCD表示データ・レジスタ

LCD表示データ・レジスタは，表21－9のようにマッピングしています。LCD表示データ・レジスタの内容を変更することでLCD表示内容を変更できます。

表21－9　LCD表示データ・レジスタの内容とセグメント出力／コモン出力の関係（1/4）

（a）6時分割，8時分割以外（スタティック，2時分割，3時分割，4時分割）（1/2）

| レジスタ名 | アドレス | bit 7 | bit 6 | bit 5 | bit 4 | bit 3 | bit 2 | bit 1 | bit 0 | 100-pin | 80-pin |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | COM7 | COM6 | COM5 | COM4 | COM3 | COM2 | COM1 | COM0 | | |
| SEG0 | F0400H | SEG0（Bパターン領域） | | | | SEG0（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG1 | F0401H | SEG1（Bパターン領域） | | | | SEG1（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG2 | F0402H | SEG2（Bパターン領域） | | | | SEG2（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG3 | F0403H | SEG3（Bパターン領域） | | | | SEG3（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG4 | F0404H | SEG4（Bパターン領域） | | | | SEG4（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG5 | F0405H | SEG5（Bパターン領域） | | | | SEG5（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG6 | F0406H | SEG6（Bパターン領域） | | | | SEG6（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG7 | F0407H | SEG7（Bパターン領域） | | | | SEG7（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG8 | F0408H | SEG8（Bパターン領域） | | | | SEG8（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG9 | F0409H | SEG9（Bパターン領域） | | | | SEG9（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG10 | F040AH | SEG10（Bパターン領域） | | | | SEG10（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG11 | F040BH | SEG11（Bパターン領域） | | | | SEG11（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG12 | F040CH | SEG12（Bパターン領域） | | | | SEG12（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG13 | F040DH | SEG13（Bパターン領域） | | | | SEG13（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG14 | F040EH | SEG14（Bパターン領域） | | | | SEG14（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG15 | F040FH | SEG15（Bパターン領域） | | | | SEG15（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG16 | F0410H | SEG16（Bパターン領域） | | | | SEG16（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG17 | F0411H | SEG17（Bパターン領域） | | | | SEG17（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG18 | F0412H | SEG18（Bパターン領域） | | | | SEG18（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG19 | F0413H | SEG19（Bパターン領域） | | | | SEG19（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG20 | F0414H | SEG20（Bパターン領域） | | | | SEG20（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG21 | F0415H | SEG21（Bパターン領域） | | | | SEG21（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG22 | F0416H | SEG22（Bパターン領域） | | | | SEG22（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG23 | F0417H | SEG23（Bパターン領域） | | | | SEG23（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG24 | F0418H | SEG24（Bパターン領域） | | | | SEG24（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG25 | F0419H | SEG25（Bパターン領域） | | | | SEG25（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG26 | F041AH | SEG26（Bパターン領域） | | | | SEG26（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG27 | F041BH | SEG27（Bパターン領域） | | | | SEG27（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG28 | F041CH | SEG28（Bパターン領域） | | | | SEG28（Aパターン領域） | | | | ○ | － |
| SEG29 | F041DH | SEG29（Bパターン領域） | | | | SEG29（Aパターン領域） | | | | ○ | － |
| SEG30 | F041EH | SEG30（Bパターン領域） | | | | SEG30（Aパターン領域） | | | | ○ | － |
| SEG31 | F041FH | SEG31（Bパターン領域） | | | | SEG31（Aパターン領域） | | | | ○ | － |
| SEG32 | F0420H | SEG32（Bパターン領域） | | | | SEG32（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG33 | F0421H | SEG33（Bパターン領域） | | | | SEG33（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |

表21－9　LCD表示データ・レジスタの内容とセグメント出力／コモン出力の関係（2/4）

（a）6時分割，8時分割以外（スタティック，2時分割，3時分割，4時分割）（2/2）

| レジスタ名 | アドレス | bit 7 | bit 6 | bit 5 | bit 4 | bit 3 | bit 2 | bit 1 | bit 0 | 100-pin | 80-pin |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | COM7 | COM6 | COM5 | COM4 | COM3 | COM2 | COM1 | COM0 | | |
| SEG34 | F0422H | SEG34（Bパターン領域） | | | | SEG34（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG35 | F0423H | SEG35（Bパターン領域） | | | | SEG35（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG36 | F0424H | SEG36（Bパターン領域） | | | | SEG36（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG37 | F0425H | SEG37（Bパターン領域） | | | | SEG37（Aパターン領域） | | | | ○ | ○ |
| SEG38 | F0426H | SEG38（Bパターン領域） | | | | SEG38（Aパターン領域） | | | | ○ | － |
| SEG39 | F0427H | SEG39（Bパターン領域） | | | | SEG39（Aパターン領域） | | | | ○ | － |
| SEG40 | F0428H | SEG40（Bパターン領域） | | | | SEG40（Aパターン領域） | | | | ○ | － |
| SEG41 | F0429H | SEG41（Bパターン領域） | | | | SEG41（Aパターン領域） | | | | ○ | － |

備考　○：サポートする　－：サポートしない

表21－9　LCD表示データ・レジスタの内容とセグメント出力／コモン出力の関係（3/4）

（b）6時分割，8時分割（1/2）

| レジスタ名 | アドレス | bit 7 | bit 6 | bit 5 | bit 4 | bit 3 | bit 2 | bit 1 | bit 0 | 100-pin | 80-pin |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | COM7 | COM6 | COM5 | COM4 | COM3 | COM2 | COM1 | COM0 | | |
| SEG0 | F0400H | SEG0注 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG1 | F0401H | SEG1注 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG2 | F0402H | SEG2注 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG3 | F0403H | SEG3注 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG4 | F0404H | SEG4 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG5 | F0405H | SEG5 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG6 | F0406H | SEG6 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG7 | F0407H | SEG7 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG8 | F0408H | SEG8 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG9 | F0409H | SEG9 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG10 | F040AH | SEG10 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG11 | F040BH | SEG11 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG12 | F040CH | SEG12 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG13 | F040DH | SEG13 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG14 | F040EH | SEG14 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG15 | F040FH | SEG15 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG16 | F0410H | SEG16 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG17 | F0411H | SEG17 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG18 | F0412H | SEG18 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG19 | F0413H | SEG19 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG20 | F0414H | SEG20 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG21 | F0415H | SEG21 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG22 | F0416H | SEG22 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG23 | F0417H | SEG23 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG24 | F0418H | SEG24 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG25 | F0419H | SEG25 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG26 | F041AH | SEG26 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG27 | F041BH | SEG27 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG28 | F041CH | SEG28 | | | | | | | | ○ | － |
| SEG29 | F041DH | SEG29 | | | | | | | | ○ | － |
| SEG30 | F041EH | SEG30 | | | | | | | | ○ | － |
| SEG31 | F041FH | SEG31 | | | | | | | | ○ | － |
| SEG32 | F0420H | SEG32 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG33 | F0421H | SEG33 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG34 | F0422H | SEG34 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG35 | F0423H | SEG35 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG36 | F0424H | SEG36 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG37 | F0425H | SEG37 | | | | | | | | ○ | ○ |
| SEG38 | F0426H | SEG38 | | | | | | | | ○ | － |
| SEG39 | F0427H | SEG39 | | | | | | | | ○ | － |
| SEG40 | F0428H | SEG40 | | | | | | | | ○ | － |

表21－9　LCD表示データ・レジスタの内容とセグメント出力／コモン出力の関係（4/4）

（b）6時分割，8時分割（2/2）

| レジスタ名 | アドレス | bit 7 | bit 6 | bit 5 | bit 4 | bit 3 | bit 2 | bit 1 | bit 0 | 100-pin | 80-pin |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | COM7 | COM6 | COM5 | COM4 | COM3 | COM2 | COM1 | COM0 | | |
| SEG41 | F0429H | SEG41 | | | | | | | | ○ | － |

注　COM4-COM7端子とSEG0-SEG3端子は兼用しています。

備考　○：サポートする　－：サポートしない

スタティック，2時分割，3時分割，または4時分割で使用する場合，LCD表示データ・レジスタの各アドレスの下位4ビットはAパターン領域，上位4ビットはBパターン領域となります。

Aパターン領域のデータとCOM信号の対応は，ビット0⇔COM0，ビット1⇔COM1，ビット2⇔COM2，ビット3⇔COM3となります。

Bパターン領域のデータとCOM信号の対応は，ビット4⇔COM0，ビット5⇔COM1，ビット6⇔COM2，ビット7⇔COM3となります。

BLON = LCDSEL = 0選択時にはAパターン領域のデータを，BLON = 0, LCDSEL=1選択時には，Bパターン領域のデータを，LCDパネルに表示します。

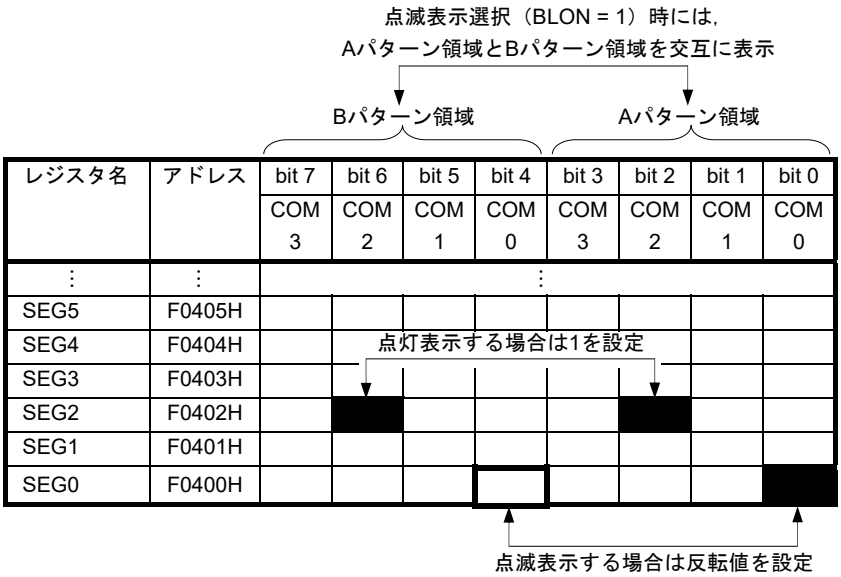
## 21. 5　LCD表示レジスタの選択

RL78/I1Bでは，スタティック，2時分割，3時分割，または4時分割で使用する場合，BLONビットとLCDSELビットの設定により，LCD表示データ・レジスタを次の3種類から選択することができます。

・Aパターン領域（LCD表示データ・レジスタの下位4ビット）のデータ表示
・Bパターン領域（LCD表示データ・レジスタの上位4ビット）のデータ表示
・Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示（リアルタイム・クロック2（RTC2）の定周期割り込みタイミングに対応した点滅表示）

注意　6時分割または8時分割使用時は，LCD表示データ・レジスタ（Aパターン，Bパターンまたは点滅表示）を選択することはできません。

図21－13　パターン切り替え表示時のLCD表示レジスタの設定例



### 21. 5. 1　Aパターン領域，Bパターン領域のデータ表示

BLON = LCDSEL =0設定時では，Aパターン領域（LCD表示データ・レジスタの下位4ビット）のデータがLCD表示レジスタとして出力されます。

BLON = 0, LCDSEL =1設定時では，Bパターン領域（LCD表示データ・レジスタの上位4ビット）のデータがLCD表示レジスタとして出力されます。

表示領域については，21. 4　LCD表示データ・レジスタを参照してください。

### 21. 5. 2　点滅表示（Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示）

BLON = 1設定時では，リアルタイム・クロック2（RTC2）の定周期割り込み（INTRTC）タイミングに対応して，Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示します。RTCの定周期割り込み（INTRTC，0.5 s設定のみ）タイミングの設定については，第8章　リアルタイム・クロック2を参照してください。

LCDを点滅表示する場合，Aパターン領域のビットに対応するBパターン領域のビットに反転値を設定してください（ex.　F0400Hのビット0に1を設定し，点滅表示する場合は，F0400Hのビット4に0を設定）。また，LCDを点滅表示しない場合は，同値を設定してください（ex.　F0402Hのビット2に1を設定し，点灯表示する場合は，F0402Hのビット6に1を設定）。

表示領域については，21. 4　LCD表示データ・レジスタを参照してください。

次に，表示切り替えのタイミング動作を示します。

図21－14　Aパターン表示から点滅表示への切り替え動作

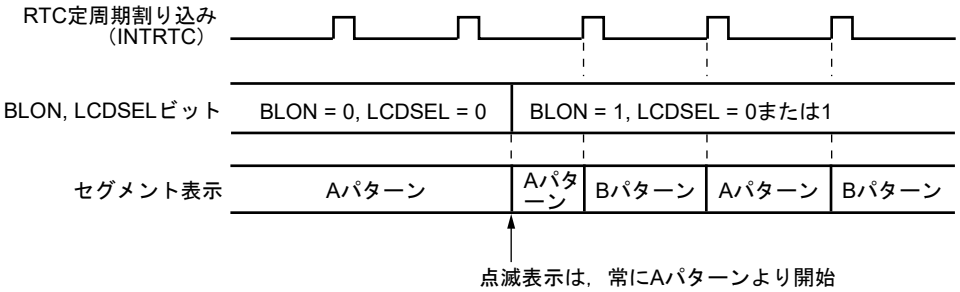
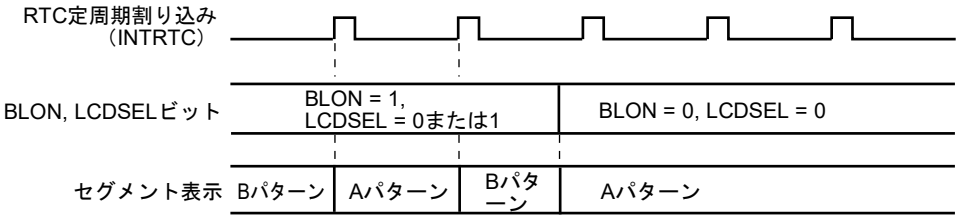



図21－15　点滅表示からAパターン表示への切り替え動作



## 21. 6　LCDコントローラ／ドライバの設定

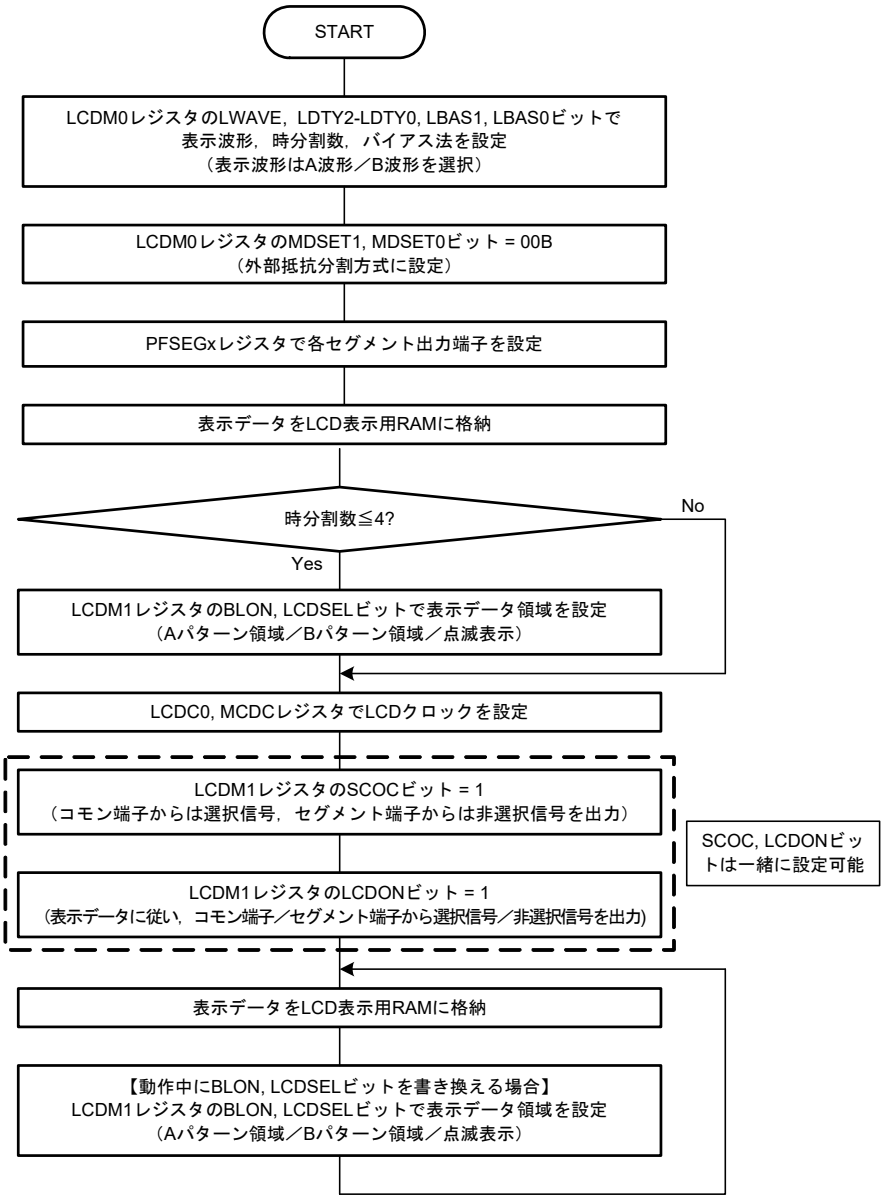
LCDコントローラ／ドライバの設定は，次のように行ってください。

注意1.　LCDコントローラ／ドライバを動作させる場合は，必ず（1）-（3）の設定手順に従って動作させてください。設定手順を守らない場合の動作は保証しません。

2.　（1）-（3）の設定手順は全てCPUの処理となっています。

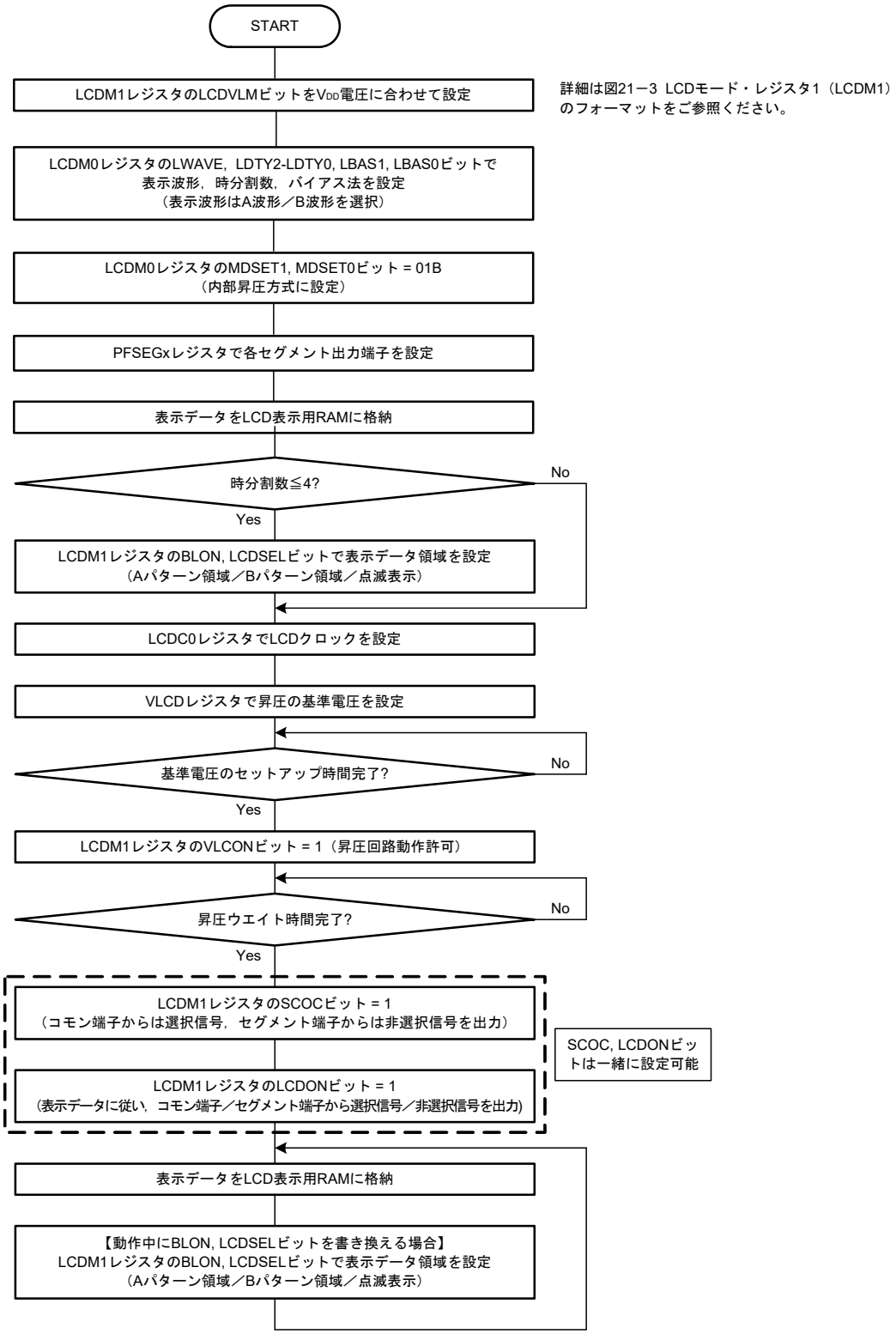
（1）外部抵抗分割方式

図21－16　外部抵抗分割方式の設定手順



（2）内部昇圧方式

図21－17　内部昇圧方式の設定手順

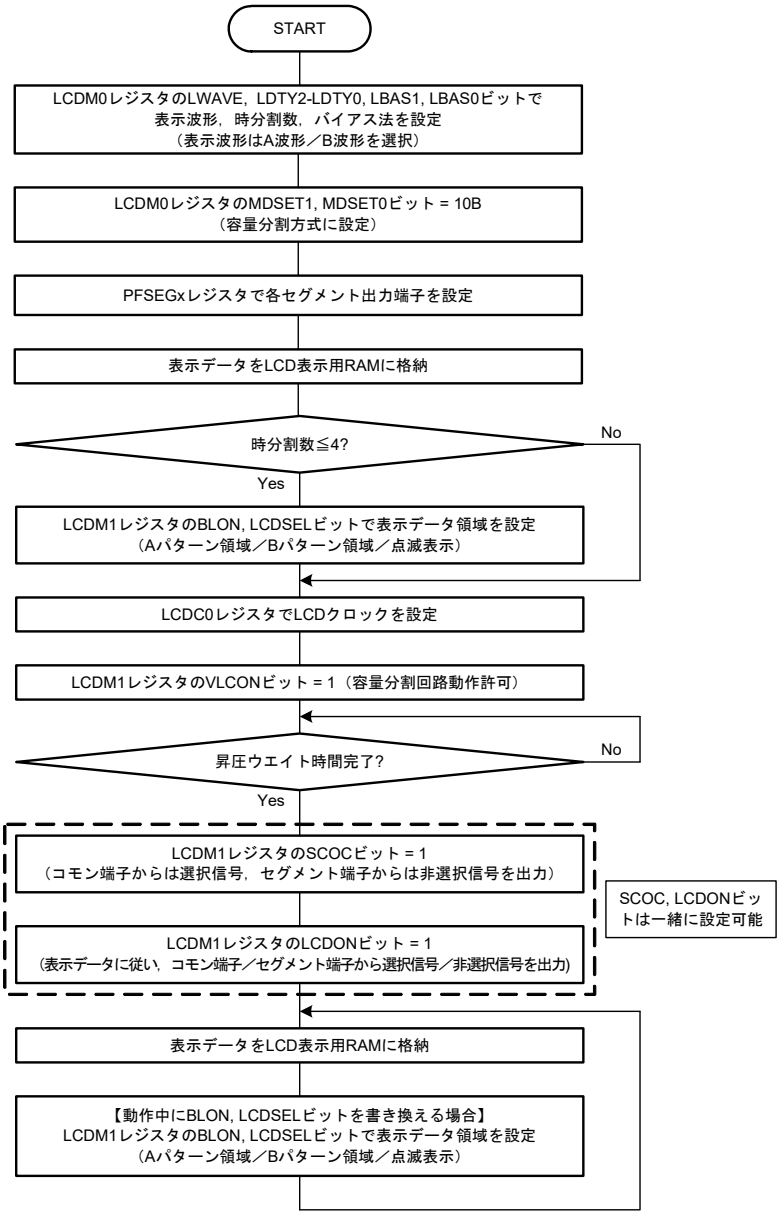



注意1.　VLCDレジスタを変更しない場合でもセットアップ時間完了まで待ってください。

2.　基準電圧セットアップ時間，および昇圧ウエイト時間のスペックについては，第37章　電気的特性を参照してください。

（3）容量分割方式

図21－18　容量分割方式の設定手順



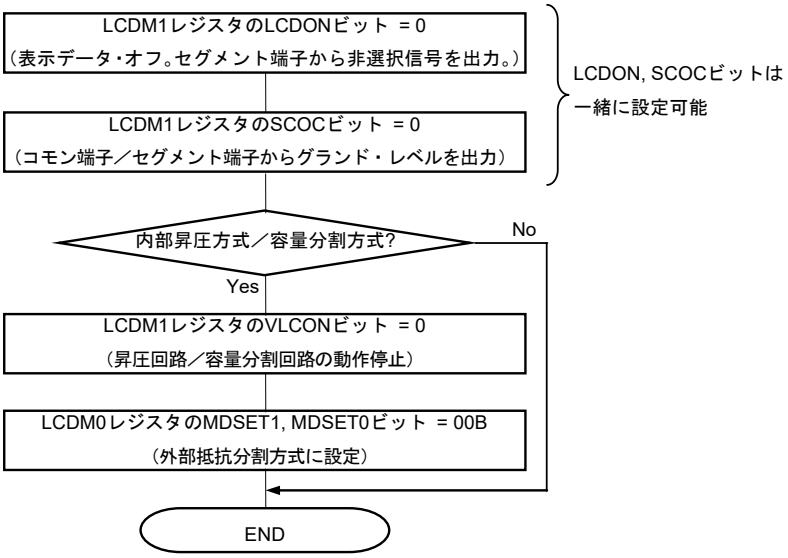

注意　昇圧ウエイト時間のスペックについては，第37章　電気的特性を参照してください。

## 21.7　動作停止手順

LCDパネル表示中に動作を停止させたい場合は，次に示すフロー・チャートの設定で行ってください。

LCDM1レジスタのLCDONビット = 0かつLCDM1レジスタのSCOCビット = 0に設定することで，LCDの動作は停止します。

図21－19　動作停止手順




注意　表示オン状態（LCDM1レジスタのSCOC, LCDONビット = 11B）で，昇圧／容量分割回路を停止すること（LCDM1レジスタのVLCONビット = 0）は禁止です。設定した場合の動作は保証しません。必ず表示オフ（LCDM1レジスタのSCOC, LCDONビット = 00B）にしてから昇圧／容量分割回路を停止（LCDM1レジスタのVLCONビット = 0）してください。

# 21. 8　LCD駆動電圧$V_{L1}$, $V_{L2}$, $V_{L3}$, $V_{L4}$の供給

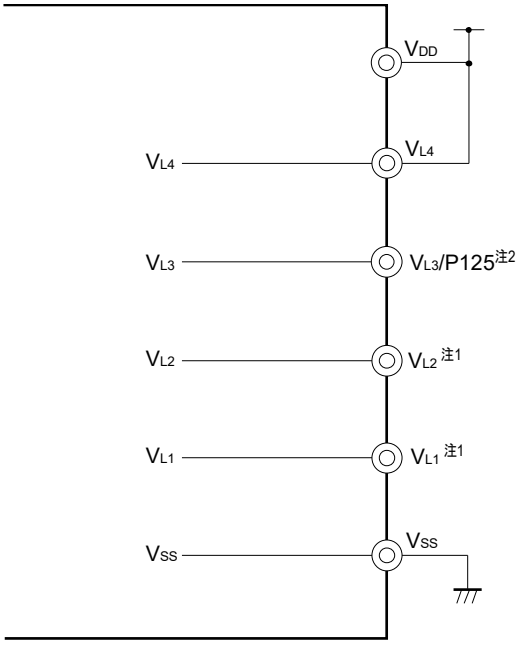
LCD駆動用電源の生成方法として，外部抵抗分割方式，内部昇圧方式，容量分割方式の3種類を選択できます。

## 21. 8. 1　外部抵抗分割方式

図21－20に各バイアス法に応じたLCD駆動電圧の接続例を示します。

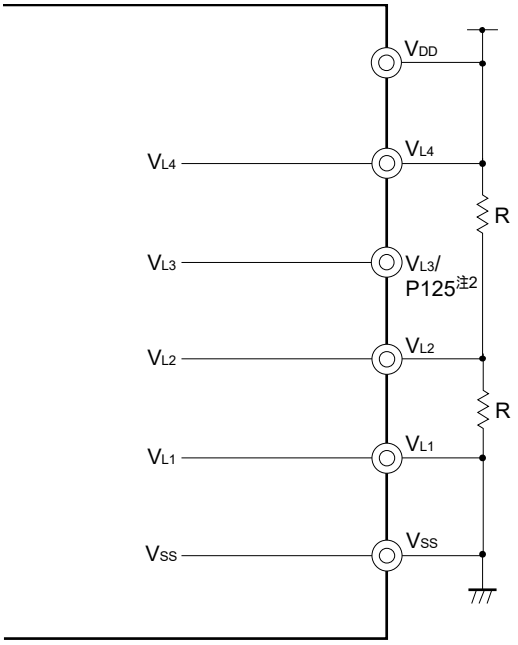
図21－20　LCD駆動用電源の接続例（外部抵抗分割方式）（1/2）

（a）スタティック表示モード




$V_{L4}$ = $V_{DD}$

（b）1/2バイアス法



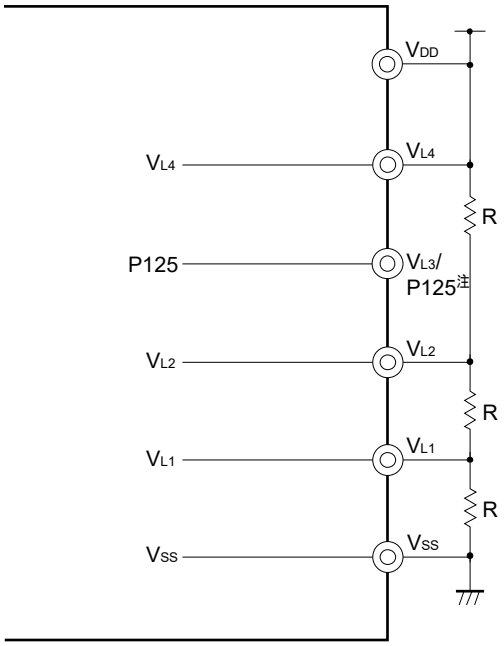

$V_{L4}$ = $V_{DD}$

注1.　$V_{L1}$,$V_{L2}$は，GNDもしくはオープンにしてください。

2.　$V_{L3}$は，ポート（P125）として使用できます。

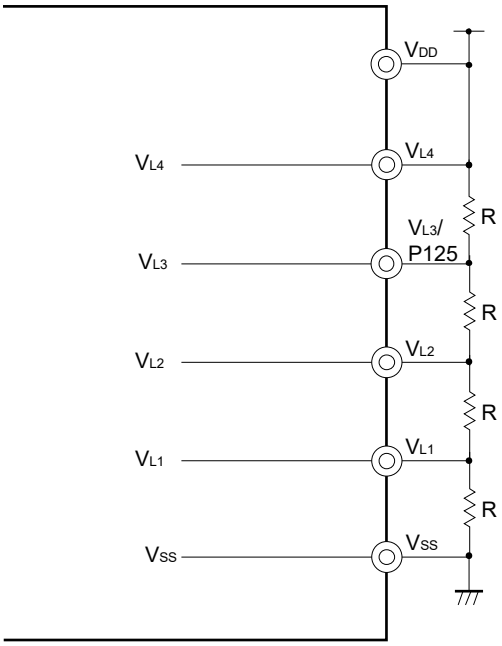
図21－20　LCD駆動用電源の接続例（外部抵抗分割方式）（2/2）

（c）1/3バイアス法




$V_{L4} = V_{DD}$

（d）1/4バイアス法




$V_{L4} = V_{DD}$

注　$V_{L3}$は，ポート（P125）として使用できます。

注意　外部抵抗分割用抵抗Rの参考値は，10 kΩ～1 MΩです。また，$V_{L1}$-$V_{L4}$端子の電位を安定させる場合には，必要に応じて，$V_{L1}$-$V_{L4}$端子－GND間にコンデンサを接続してください。これらの参考値は，0.47 μF程度です。使用するLCDパネル，セグメント端子数，コモン端子数，フレーム周波数，使用環境に依存します。システムに合わせた評価を十分に行った上で，値を調整して決定してください。

### 21. 8. 2　内部昇圧方式

RL78/I1Bは，LCD駆動電源用に内部昇圧回路を内蔵しています。内部昇圧回路と外付けのコンデンサ（0.47 μF ±30%）により，LCD駆動電圧を生成します。内部昇圧方式は，1/3バイアス法または1/4バイアス法のみ使用できます。

内部昇圧方式のLCD駆動電圧は，本体とは別の電源なので，$V_{DD}$の変化に関わらず，一定の電圧を供給できます。

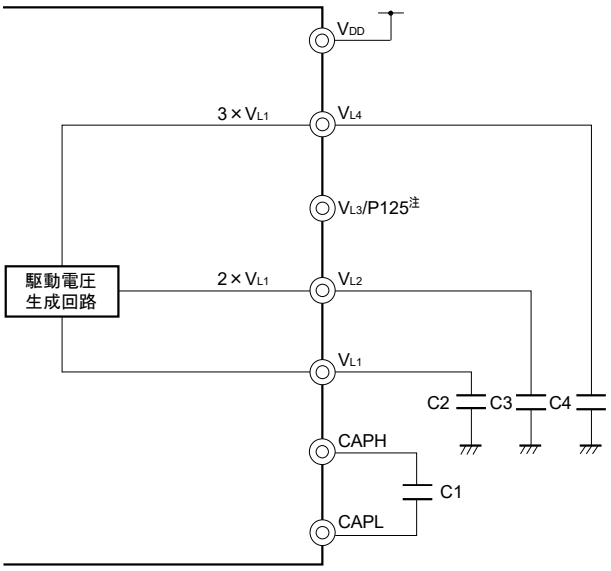
また，LCD昇圧制御レジスタ（VLCD）の設定により，コントラストを調整することができます。

表21－10　LCD駆動電圧（内部昇圧方式）

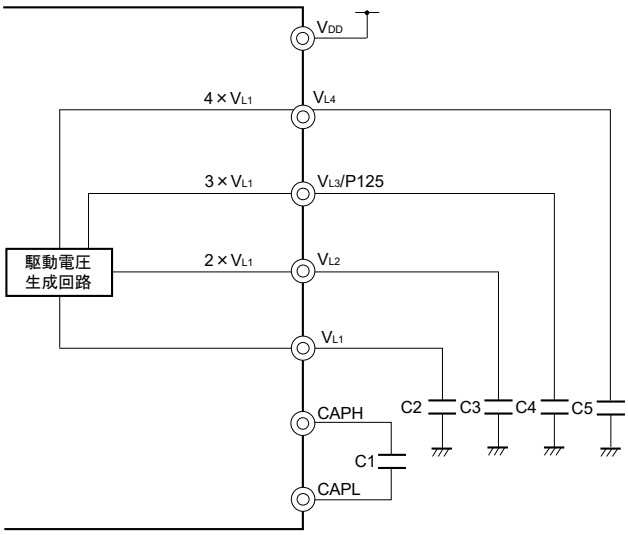
| 表示モード / LCD駆動用電源端子 | 1/3バイアス法 | 1/4バイアス法 |
|---|---|---|
| $V_{L4}$ | 3×$V_{L1}$ | 4×$V_{L1}$ |
| $V_{L3}$ | － | 3×$V_{L1}$ |
| $V_{L2}$ | 2×$V_{L1}$ | 2×$V_{L1}$ |
| $V_{L1}$ | LCD基準電圧 | LCD基準電圧 |

図21－21　LCD駆動用電源の接続例（内部昇圧方式）

（a）1/3バイアス法




（b）1/4バイアス法




注　$V_{L3}$は，ポート（P125）として使用できます。

備考　なるべくリークの少ないコンデンサをご使用ください。
　　なお，C1は無極性コンデンサにしてください。

### 21. 8. 3　容量分割方式

RL78/I1Bは，LCD駆動電源用に容量分割回路を内蔵しています。容量分割回路と外付けのコンデンサ（0.47 μF ±30%）により，LCD駆動電圧を生成します。容量分割方式は，1/3バイアス法のみ使用できます。

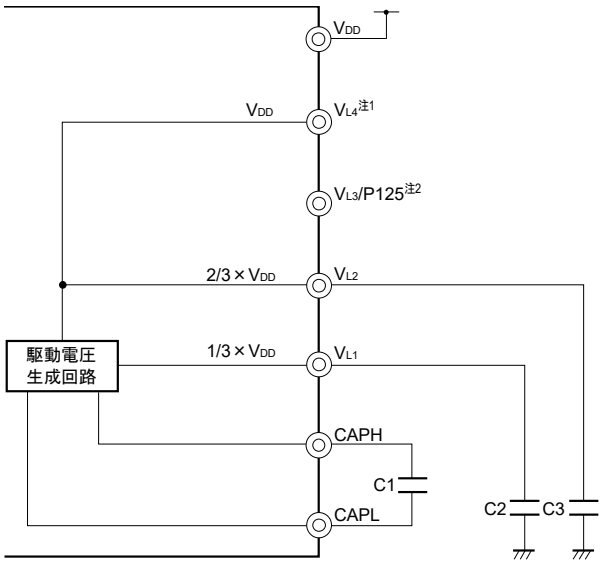
外部抵抗分割方式とは異なり，容量分割方式では常時電流が流れないため，消費電流を低減することができます。

表21－11　LCD駆動電圧（容量分割方式）

| 表示モード / LCD駆動用電源端子 | 1/3バイアス法 |
|---|---|
| $V_{L4}$ | $V_{DD}$ |
| $V_{L3}$ | － |
| $V_{L2}$ | 2/3×$V_{L4}$ |
| $V_{L1}$ | 1/3×$V_{L4}$ |

図21－22　LCD駆動用電源の接続例（容量分割方式）

・1/3バイアス法




注1.　内部昇圧方式に切り替えて使用する場合は，図21－21　LCD駆動用電源の接続例（内部昇圧方式）のようにコンデンサC4を接続してください。

2.　$V_{L3}$は，ポート（P125）として使用できます。

備考　なるべくリークの少ないコンデンサをご使用ください。
なお，C1は無極性コンデンサにしてください。

# 21.9　コモン信号とセグメント信号

## 21.9.1　通常液晶波形の場合

LCDパネルの各画素は，それに対応するコモン信号とセグメント信号の電位差が一定電圧（LCD駆動電圧 $V_{LCD}$）以上になると点灯します。$V_{LCD}$以下の電位差になると消灯します。

LCDパネルは，コモン信号とセグメント信号にDC電圧が加えられると劣化するため，AC電圧によって駆動されます。

（1）コモン信号

コモン信号は，設定する時分割数に応じて表21－12に示す順序で選択タイミングとなり，それらを一周期として繰り返し動作を行います。スタティック・モードの場合はCOM0-COM3に同一信号が出力されます。

なお，2時分割の場合のCOM2, COM3端子および3時分割の場合のCOM3端子は，オープンにして使用してください。

また，6時分割，8時分割以外の場合のCOM4-COM7端子および6時分割の場合のCOM6，COM7端子は，オープンまたはセグメント端子として使用してください。

表21－12　COM信号

| COM信号 / 時分割数 | COM0 | COM1 | COM2 | COM3 | COM4 | COM5 | COM6 | COM7 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| スタティック | | | | | 注 | 注 | 注 | 注 |
| 2時分割 | | | オープン | オープン | 注 | 注 | 注 | 注 |
| 3時分割 | | | | オープン | 注 | 注 | 注 | 注 |
| 4時分割 | | | | | 注 | 注 | 注 | 注 |
| 6時分割 | | | | | | | 注 | 注 |
| 8時分割 | | | | | | | | |

注　オープン，またはセグメント端子として使用してください。

（2）セグメント信号

セグメント信号は，LCD表示データ・レジスタ（21. 4　LCD表示データ・レジスタ参照）に対応しています。

8時分割方式で使用する場合，各表示データ・レジスタのビット0からビット7が，COM0からCOM7に対応します。コモン信号出力の各タイミングに同期して，データ・メモリのデータが読み出され，各ビットの内容が1なら選択電圧に変換され，0なら非選択電圧に変換されてセグメント端子（SEG4-SEG41）に出力されます。

8時分割方式以外で使用する場合，Aパターン領域では，各表示データ・レジスタのビット0からビット3がCOM0からCOM3に，Bパターン領域では，各表示データ・レジスタのビット4からビット7がCOM0からCOM3に対応します。コモン信号出力の各タイミングに同期して，データ・メモリのデータが読み出され，各ビットの内容が1なら選択電圧に変換され，0なら非選択電圧に変換されてセグメント端子（SEG0-SEG41）に出力されます。

以上のことから，LCD表示データ・レジスタには使用するLCDパネルの前面電極（セグメント信号に対応）と背面電極（コモン信号に対応）がどのような組み合わせで表示パターンを形成するのかを確認のうえ，表示したいパターンに1対1に対応するビット・データを書き込むようにしてください。

備考　搭載するセグメント端子は，製品により異なります。

・80ピン製品：　SEG0-SEG27, SEG32-SEG37

・100ピン製品：SEG0-SEG41

（3）コモン信号とセグメント信号の出力波形

コモン信号とセグメント信号には表21－13に示す電圧が出力されます。

コモン信号およびセグメント信号がともに選択電圧になったときのみ±$V_{LCD}$の点灯電圧となり，それ以外の組み合わせでは消灯電圧となります。

表21－13　LCD駆動電圧

（a）スタティック表示モード

| コモン信号＼セグメント信号 | 選択信号レベル | 非選択信号レベル |
|---|---|---|
| | $V_{SS}/V_{L4}$ | $V_{L4}/V_{SS}$ |
| $V_{L4}/V_{SS}$ | $-V_{LCD}/+V_{LCD}$ | 0 V/0 V |

（b）1/2バイアス法

| コモン信号＼セグメント信号 | | 選択信号レベル | 非選択信号レベル |
|---|---|---|---|
| | | $V_{SS}/V_{L4}$ | $V_{L4}/V_{SS}$ |
| 選択信号レベル | $V_{L4}/V_{SS}$ | $-V_{LCD}/+V_{LCD}$ | 0 V/0 V |
| 非選択信号レベル | $V_{L2}$ | $-\frac{1}{2}V_{LCD}/+\frac{1}{2}V_{LCD}$ | $+\frac{1}{2}V_{LCD}/-\frac{1}{2}V_{LCD}$ |

（c）1/3バイアス法（A波形，B波形）

| コモン信号＼セグメント信号 | | 選択信号レベル | 非選択信号レベル |
|---|---|---|---|
| | | $V_{SS}/V_{L4}$ | $V_{L2}/V_{L1}$ |
| 選択信号レベル | $V_{L4}/V_{SS}$ | $-V_{LCD}/+V_{LCD}$ | $-\frac{1}{3}V_{LCD}/+\frac{1}{3}V_{LCD}$ |
| 非選択信号レベル | $V_{L1}/V_{L2}$ | $-\frac{1}{3}V_{LCD}/+\frac{1}{3}V_{LCD}$ | $+\frac{1}{3}V_{LCD}/-\frac{1}{3}V_{LCD}$ |

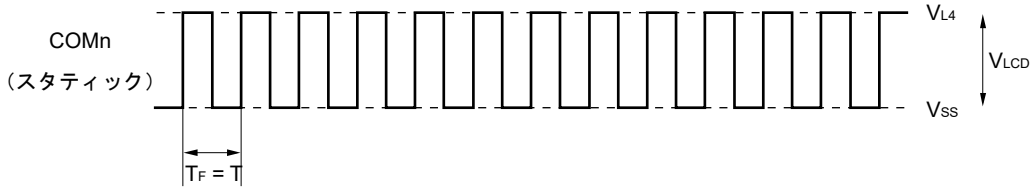
（d）1/4バイアス法（A波形，B波形）

| コモン信号＼セグメント信号 | | 選択信号レベル | 非選択信号レベル |
|---|---|---|---|
| | | $V_{SS}/V_{L4}$ | $V_{L2}$ |
| 選択信号レベル | $V_{L4}/V_{SS}$ | $-V_{LCD}/+V_{LCD}$ | $-\frac{1}{2}V_{LCD}/+\frac{1}{2}V_{LCD}$ |
| 非選択信号レベル | $V_{L1}/V_{L3}$ | $-\frac{1}{4}V_{LCD}/+\frac{1}{4}V_{LCD}$ | $+\frac{1}{4}V_{LCD}/-\frac{1}{4}V_{LCD}$ |

図21－23にコモン信号波形を，図21－24にコモン信号とセグメント信号の電圧と位相を示します。

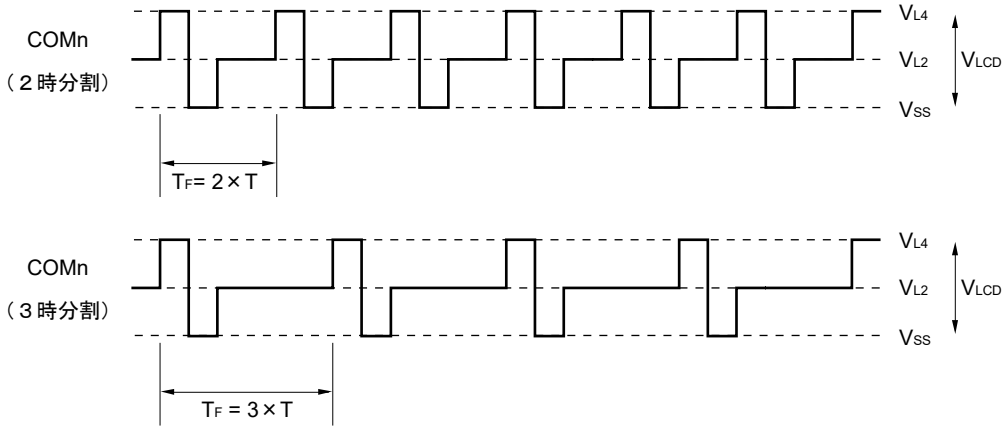
図21－23　コモン信号波形（1/2）

（a）スタティック表示モード




T：LCDクロックの1周期分　　TF：フレーム周波数

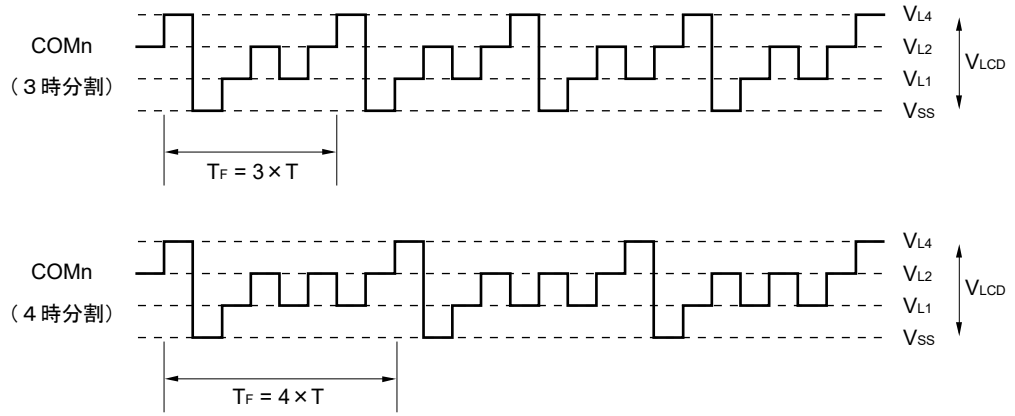
（b）1/2バイアス法




T：LCDクロックの1周期分　　TF：フレーム周波数

図21－23　コモン信号波形（2/2）

（c）1/3バイアス法



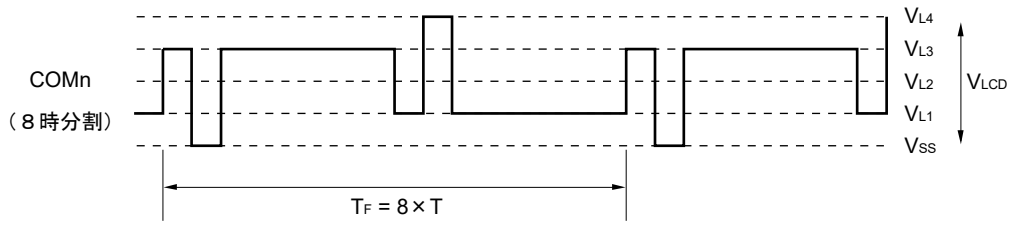

T：LCDクロックの1周期分　　$T_F$：フレーム周波数

＜LCDフレーム周波数の算出例（4時分割使用時）＞

LCDクロック　　：$32768/2^7$ = 256 Hz　（LCDC0 = 06H設定時）

LCDフレーム周波数　：64 Hz

（d）1/4バイアス法




T：LCDクロックの1周期分　　$T_F$：フレーム周波数

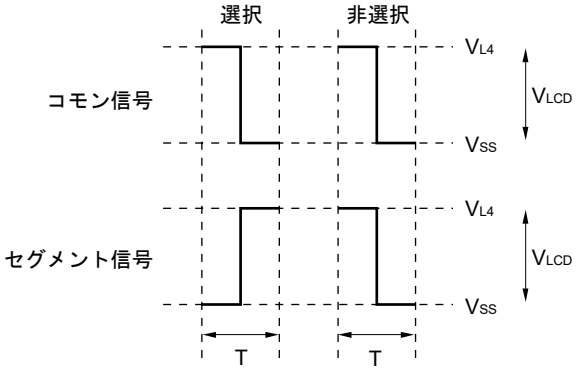
＜LCDフレーム周波数の算出例（8時分割使用時）＞

LCDクロック　　：$32768/2^7$ = 256 Hz　（LCDC0 = 06H設定時）

LCDフレーム周波数　：32 Hz

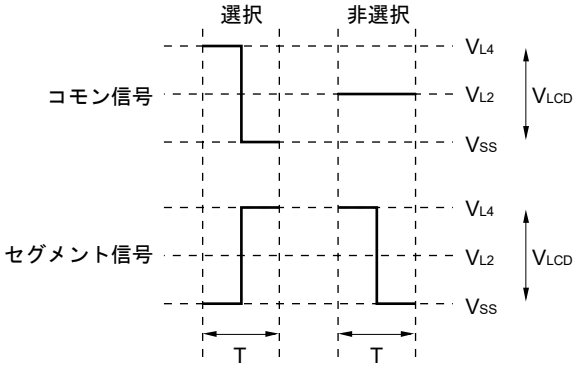
図21－24　コモン信号とセグメント信号の電圧と位相（1/3）

（a）スタティック表示モード（A波形）




T：LCDクロックの1周期分

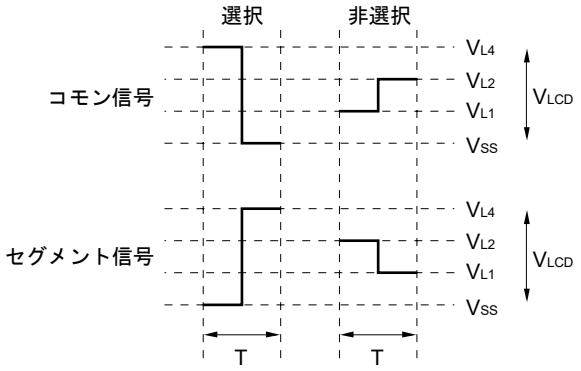
（b）1/2バイアス法（A波形）




T：LCDクロックの1周期分

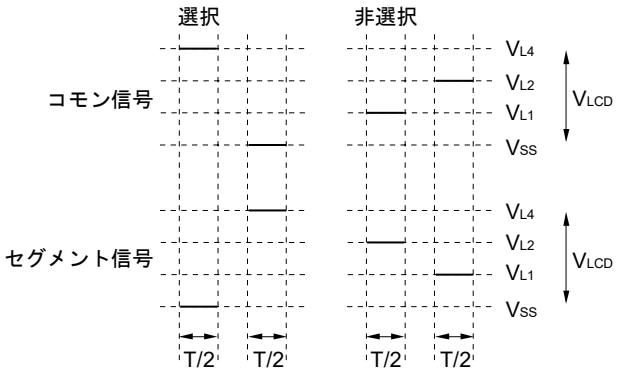
図21－24　コモン信号とセグメント信号の電圧と位相（2/3）

（c）1/3バイアス法（A波形）




T：LCDクロックの1周期分

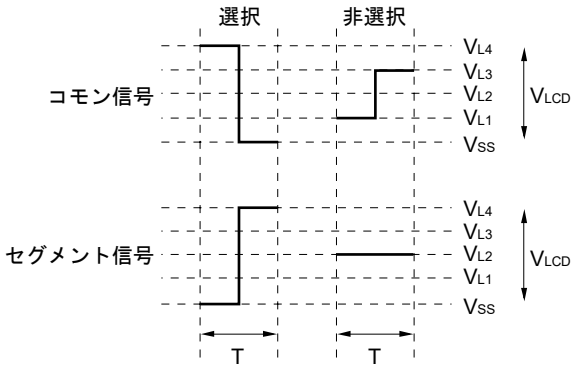
（d）1/3バイアス法（B波形）




T：LCDクロックの1周期分

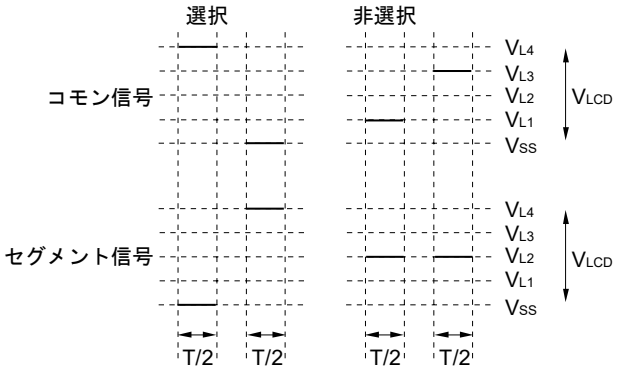
図21－24　コモン信号とセグメント信号の電圧と位相（3/3）

（e）1/4バイアス法（A波形）




T：LCDクロックの1周期分

（f）1/4バイアス法（B波形）




T：LCDクロックの1周期分

# 21. 10　表示モード

## 21. 10. 1　スタティック表示例

図21－26は，図21－25の表示パターンを持つスタティック方式の3桁のLCDパネルとセグメント信号（SEG0-SEG23）およびコモン信号（COM0）との接続を示します。表示例は12.3で，表示データ・レジスタ（F0400H-F0417H）の内容はこれに対応しています。

ここでは2桁目の2.（2.）を例にとって説明します。図21－25の表示パターンに従って，COM0のコモン信号のタイミングで表21－14に示すような選択，非選択電圧をSEG8-SEG15端子に出力する必要があります。

表21－14　選択，非選択電圧（COM0）

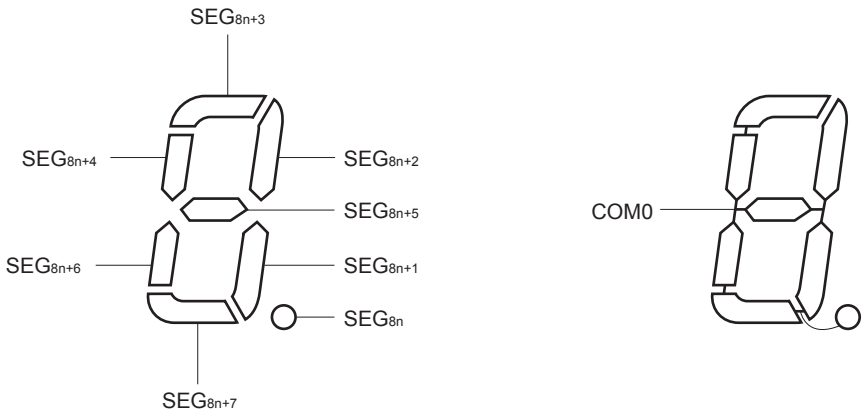
| セグメント／コモン | SEG8 | SEG9 | SEG10 | SEG11 | SEG12 | SEG13 | SEG14 | SEG15 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| COM0 | 選 | 非 | 選 | 選 | 非 | 選 | 選 | 選 |

これによりSEG8-SEG15に対応する表示データ・レジスタ（F0408H-F040FH）のビット0には，10110111を用意すればよいことが分かります。

SEG11，SEG12とCOM0とのLCD駆動波形を図21－27に示します。COM0との選択タイミングでSEG11が選択電圧になるときに，LCD点灯レベルである＋$V_{LCD}$/－$V_{LCD}$の交流矩形波が発生することが分かります。

COM1-COM3にはCOM0と同じ波形が出力されますので，COM0-COM3を接続してドライブ能力を上げることができます。

図21－25　スタティックLCDの表示パターンと電極結線




備考　100ピン製品　　：n = 0-4

図21－26　スタティックLCDパネルの結線例

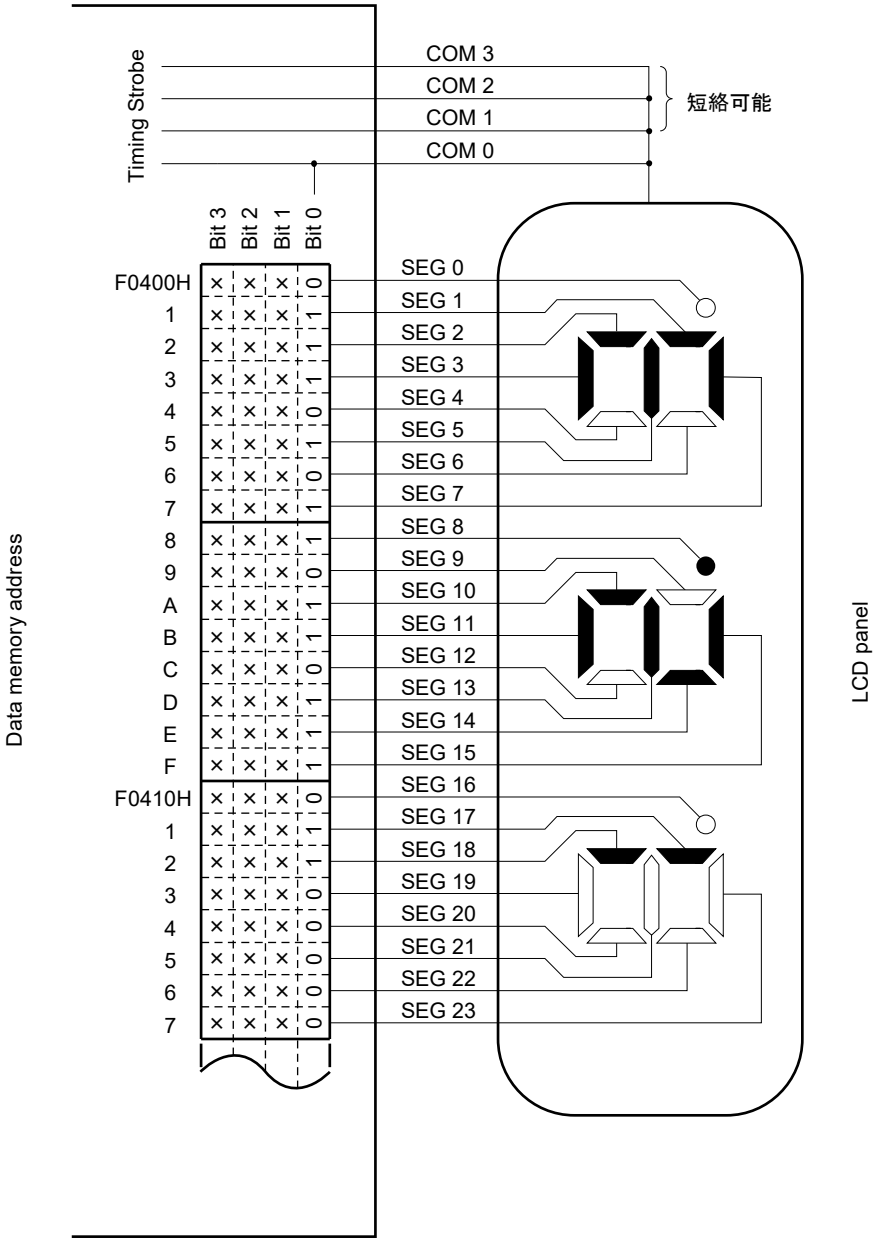
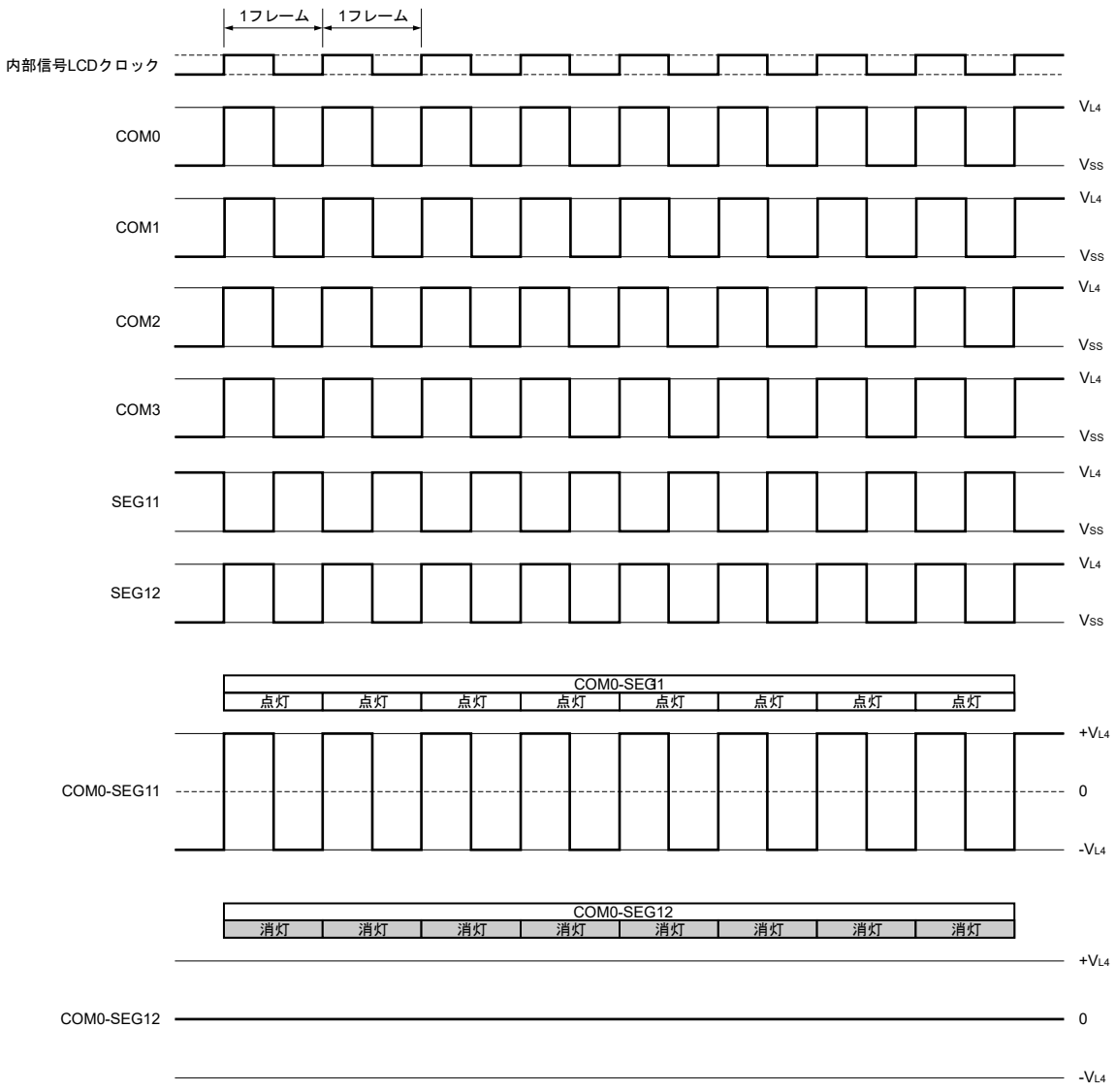


図21－27　SEG11, SEG12とCOM0とのスタティックLCD駆動波形例



### 21. 10. 2　2時分割表示例

図21－29は，図21－28の表示パターンを持つ2時分割方式の6桁LCDパネルとセグメント信号（SEG0-SEG23）およびコモン信号（COM0, COM1）との接続を示します。表示例は12345.6で，表示データ・レジスタ（F0400H-F0417H）の内容はそれらに対応しています。

ここでは4桁目の3（∃）を例にとって説明します。図21－28の表示パターンに従って，COM0, COM1の各コモン信号のタイミングで表21－15に示すような選択，非選択電圧をSEG12-SEG15端子に出力する必要があります。

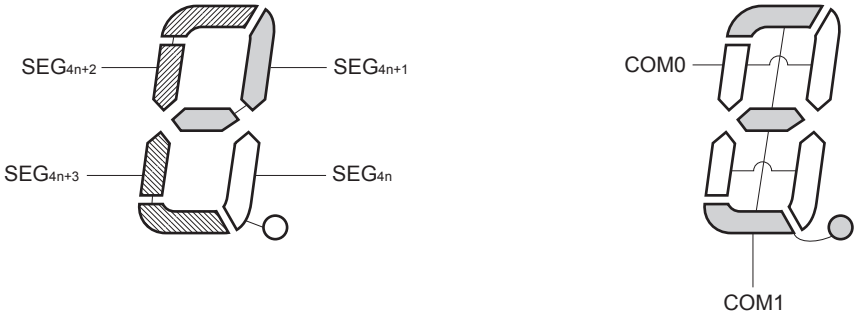
表21－15　選択，非選択電圧（COM0, COM1）

| セグメント／コモン | SEG12 | SEG13 | SEG14 | SEG15 |
|---|---|---|---|---|
| COM0 | 選 | 選 | 非 | 非 |
| COM1 | 非 | 選 | 選 | 選 |

これにより，たとえばSEG15に対応する表示データ・レジスタ（F040FH番地）には，××10を用意すればよいことが分かります。

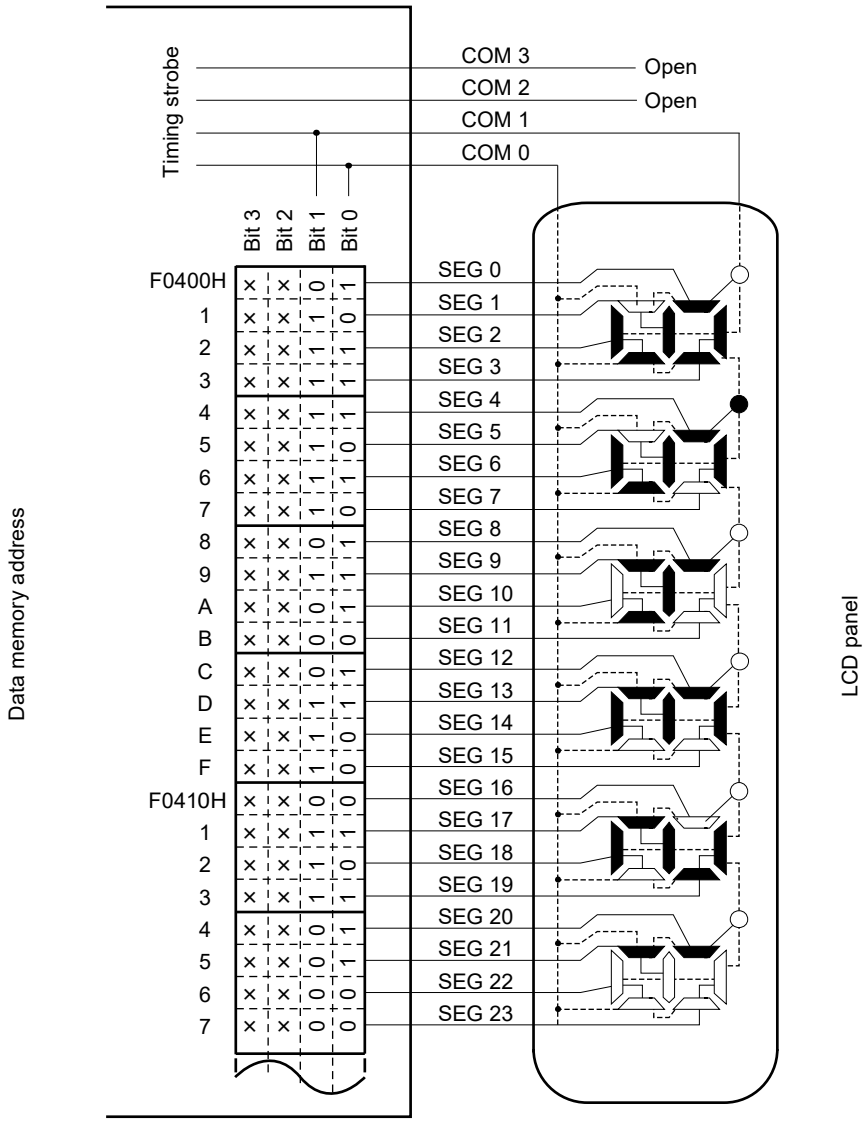
SEG15と各コモン信号間のLCD駆動波形例を図21－30に示します。COM1の選択タイミングでSEG15が選択電圧のときに，LCD点灯レベルである＋$V_{LCD}$/－$V_{LCD}$の交流矩形波が発生することが分かります。

図21－28　2時分割LCD表示パターンと電極結線



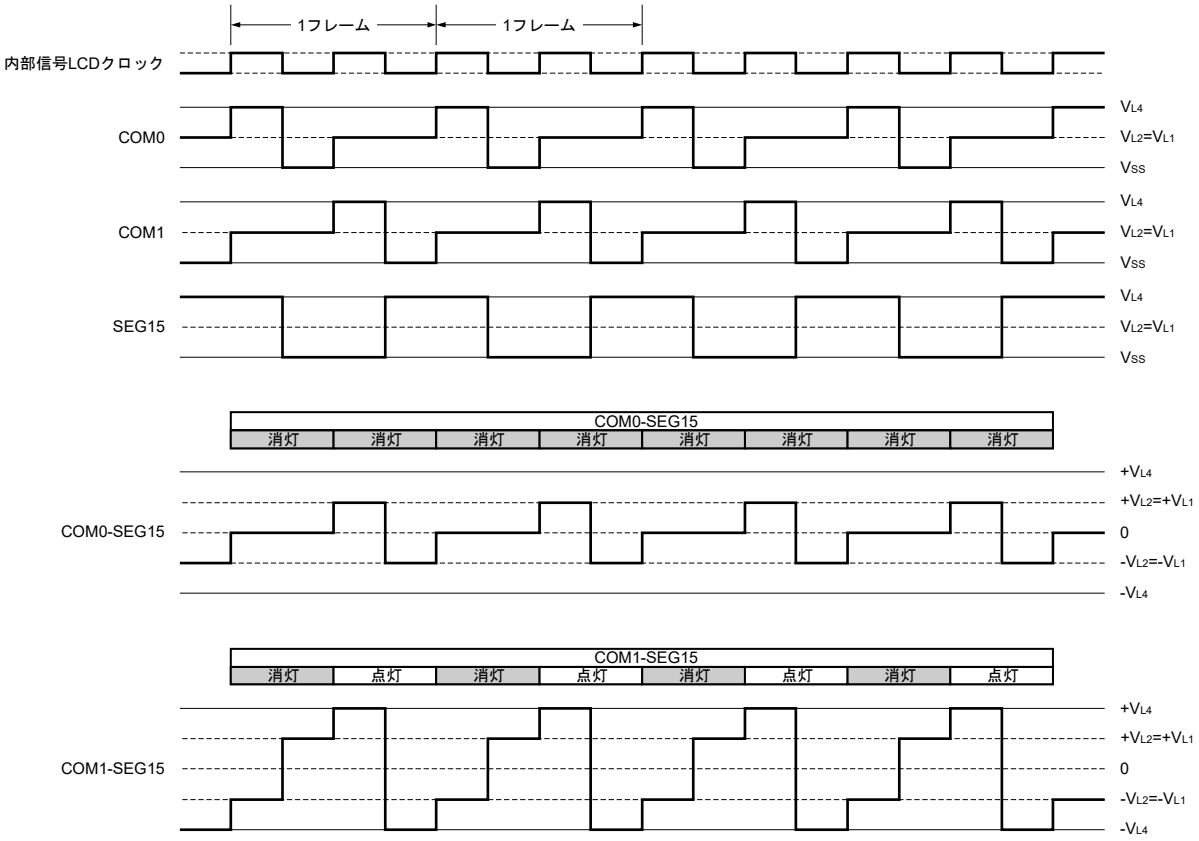

備考　100ピン製品　　：n = 0-9

図21－29　2時分割LCDパネルの結線例




×：2時分割表示のため，常に任意のデータをストア可能です。

図21－30　SEG15と各コモン信号間の2時分割LCD駆動波形例（1/2バイアス法）



### 21. 10. 3　3時分割表示例

図21－32は，図21－31の表示パターンを持つ3時分割方式の8桁LCDパネルとセグメント信号（SEG0-SEG23）およびコモン信号（COM0-COM2）との接続を示します。表示例は123456.78で，表示データ・レジスタ（F0400H-F0417H）の内容はこれに対応しています。

ここでは3桁目の6.（6.）を例にとって説明します。図21－31の表示パターンに従って，COM0-COM2の各コモン信号のタイミングで表21－16に示すような選択，非選択電圧をSEG6-SEG8端子に出力する必要があります。

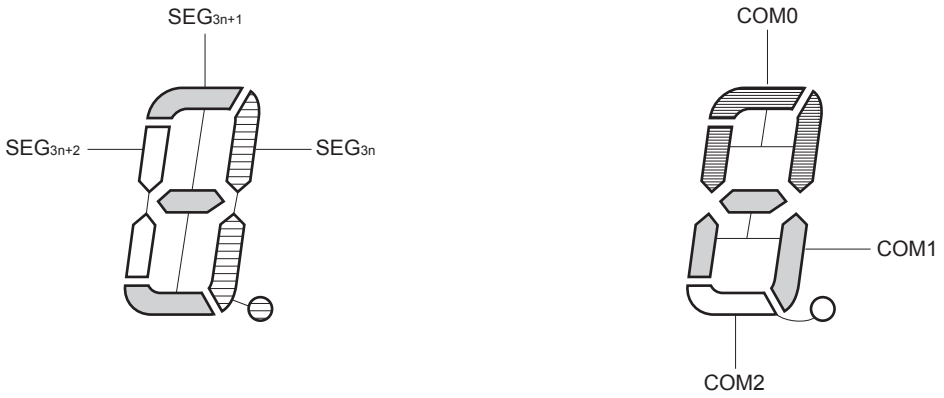
表21－16　選択，非選択電圧（COM0-COM2）

| コモン＼セグメント | SEG6 | SEG7 | SEG8 |
|---|---|---|---|
| COM0 | 非 | 選 | 選 |
| COM1 | 選 | 選 | 選 |
| COM2 | 選 | 選 | — |

これによりSEG6に対応する表示データ・レジスタ（F0406H番地）には，×110を用意すればよいことが分かります。

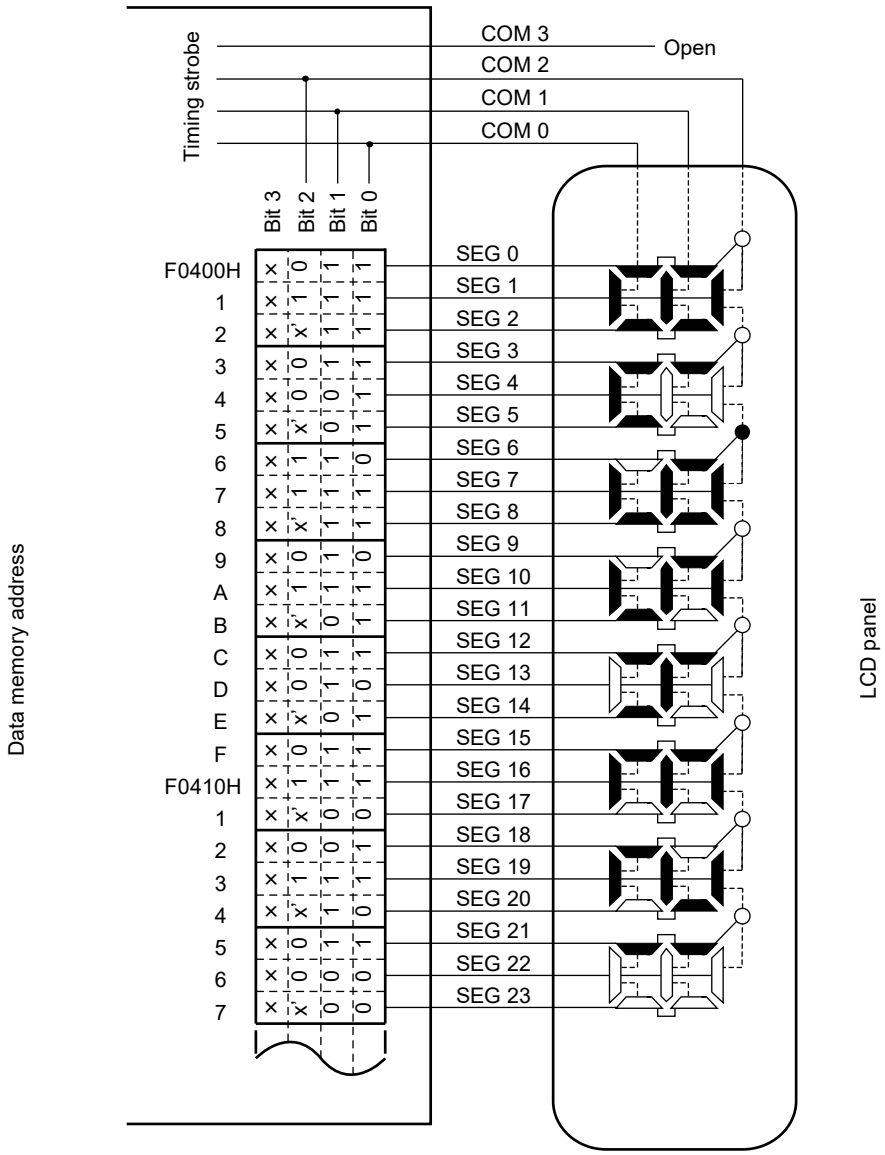
SEG6と各コモン信号間のLCD駆動波形例を図21－33（1/2バイアス法），図21－34（1/3バイアス法）に示します。COM1の選択タイミングでSEG6が選択電圧のとき，およびCOM2の選択タイミングでSEG6が選択電圧のときに，LCD点灯レベルである＋$V_{LCD}$/－$V_{LCD}$の交流矩形波が発生することが分かります。

図21－31　3時分割LCD表示パターンと電極結線




備考　100ピン製品　　：n = 0-13

図21－32　3時分割LCDパネルの結線例




X′　：LCDパネルに対応セグメントがないため任意のデータをストア可能です。

×　：3時分割表示のため，常に任意のデータをストア可能です。

図21－33　SEG6と各コモン信号間の3時分割LCD駆動波形例（1/2バイアス法）

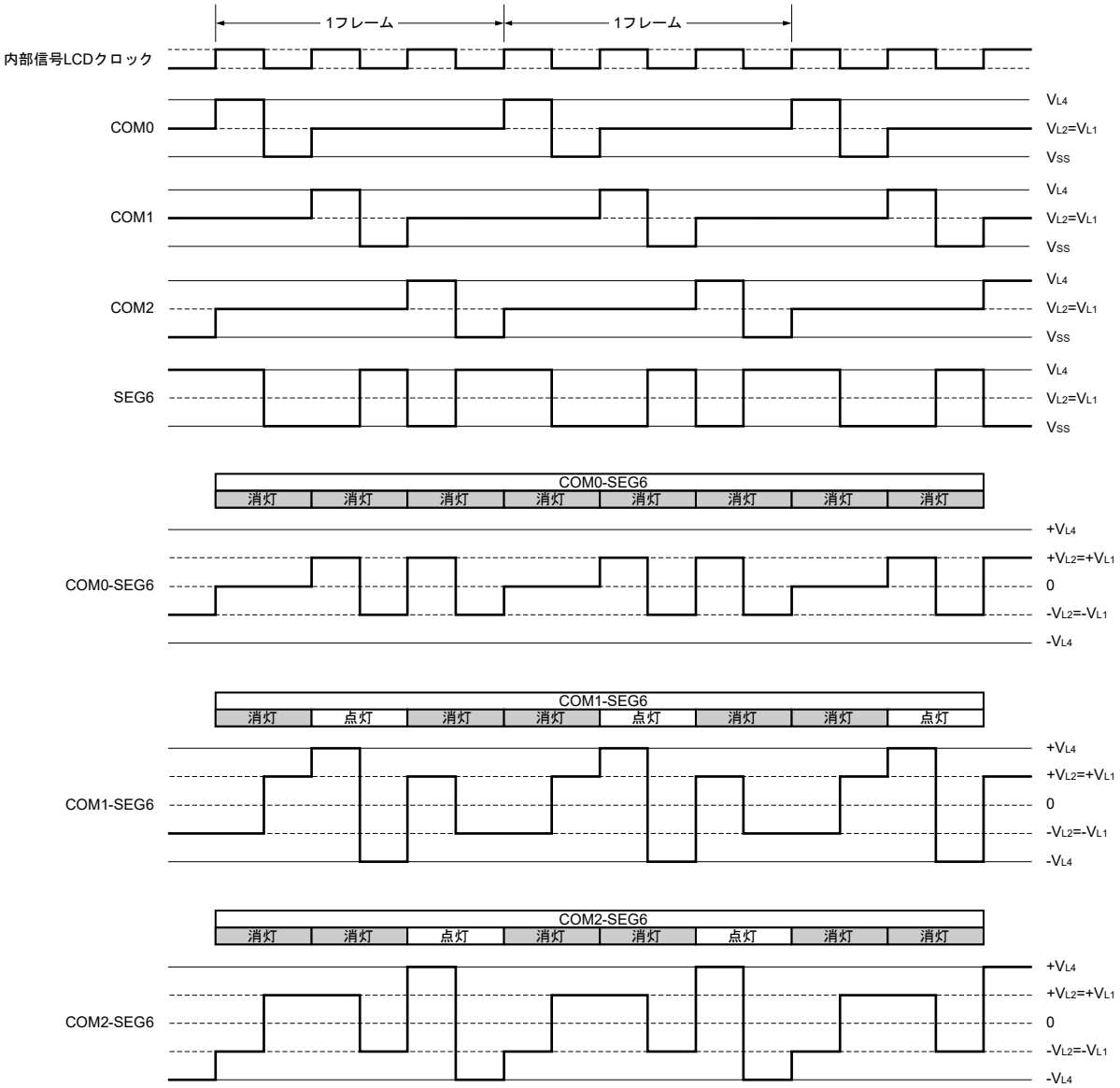
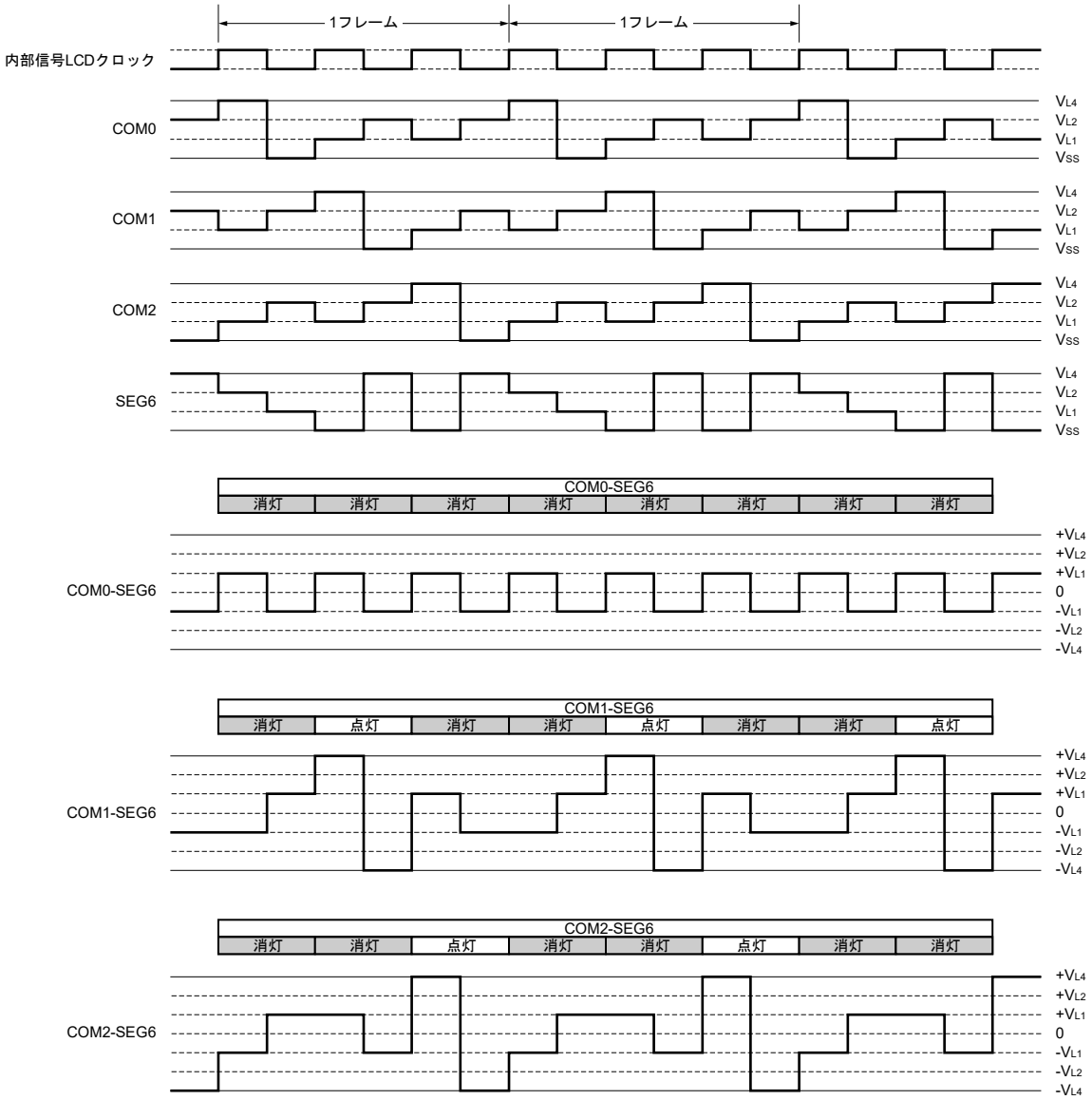


図21－34　SEG6と各コモン信号間の3時分割LCD駆動波形例（1/3バイアス法）



### 21. 10. 4　4時分割表示例

図21－36は，図21－35の表示パターンを持つ4時分割方式の12桁LCDパネルとセグメント信号（SEG0-SEG23）およびコモン信号（COM0-COM3）との接続を示します。表示例は123456.789012で，表示データ・レジスタ（F0400H-F0417H番地）の内容はこれに対応しています。

ここでは7桁目の6.（6.）を例にとって説明します。図21－35の表示パターンに従って，COM0-COM3の各コモン信号のタイミングで表21－17に示すような選択，非選択電圧をSEG12, SEG13端子に出力する必要があります。

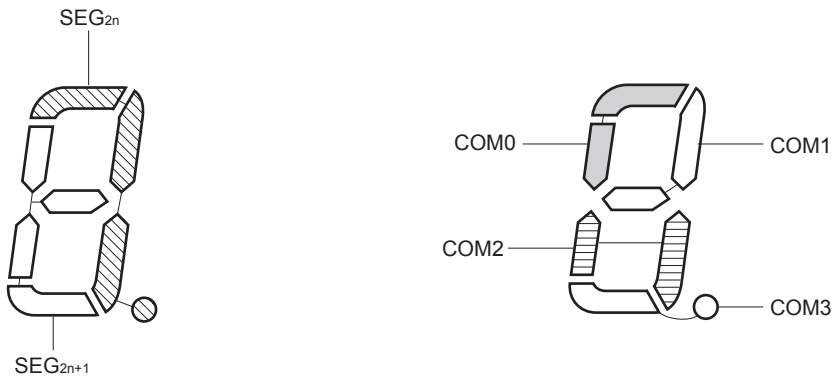
表21－17　選択，非選択電圧（COM0-COM3）

| コモン＼セグメント | SEG12 | SEG13 |
|---|---|---|
| COM0 | 選 | 選 |
| COM1 | 非 | 選 |
| COM2 | 選 | 選 |
| COM3 | 選 | 選 |

これによりSEG12に対応する表示データ・レジスタ（F040CH番地）には，1101を用意すればよいことが分かります。

SEG12と各コモン信号間のLCD駆動波形例を図21－37に示します。COM0の選択タイミングでSEG12が選択電圧になるときに，LCD点灯レベルである＋$V_{LCD}$/－$V_{LCD}$の交流矩形波が発生することが分かります。

図21－35　4時分割LCD表示パターンと電極結線




備考　100ピン製品　　：n = 0-20

図21－36　4時分割LCDパネルの結線例

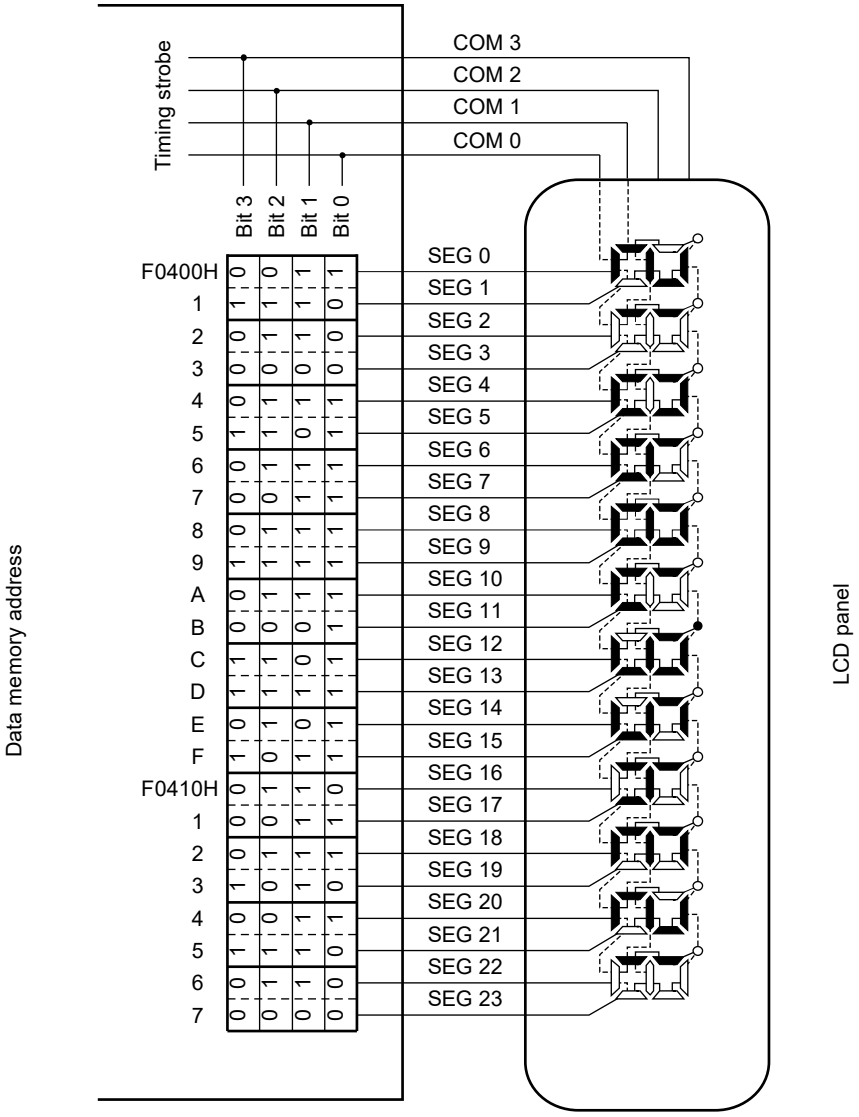


図21－37　SEG12と各コモン信号間の4時分割LCD駆動波形例（1/3バイアス法）（1/2）

（a）A波形の場合

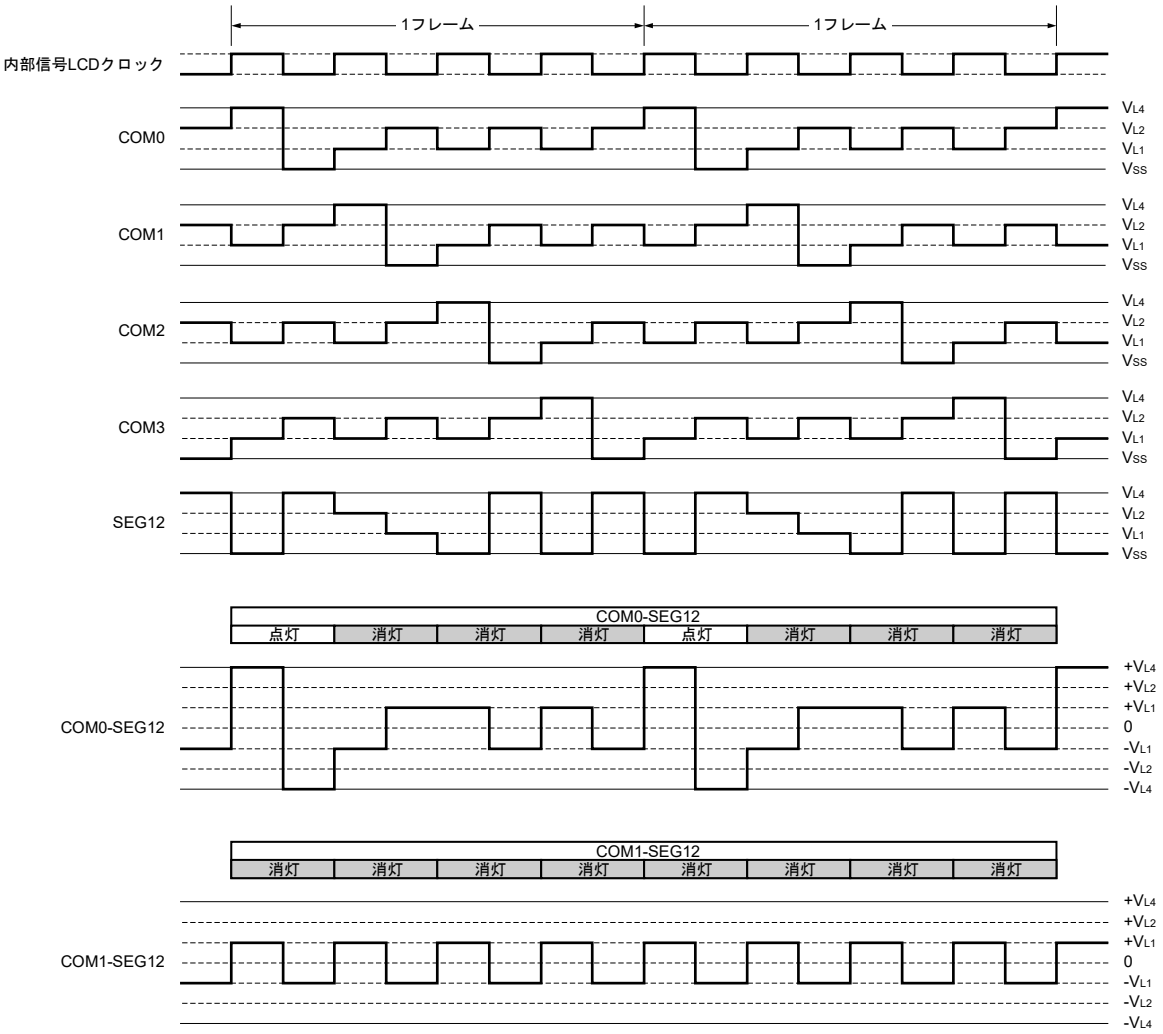
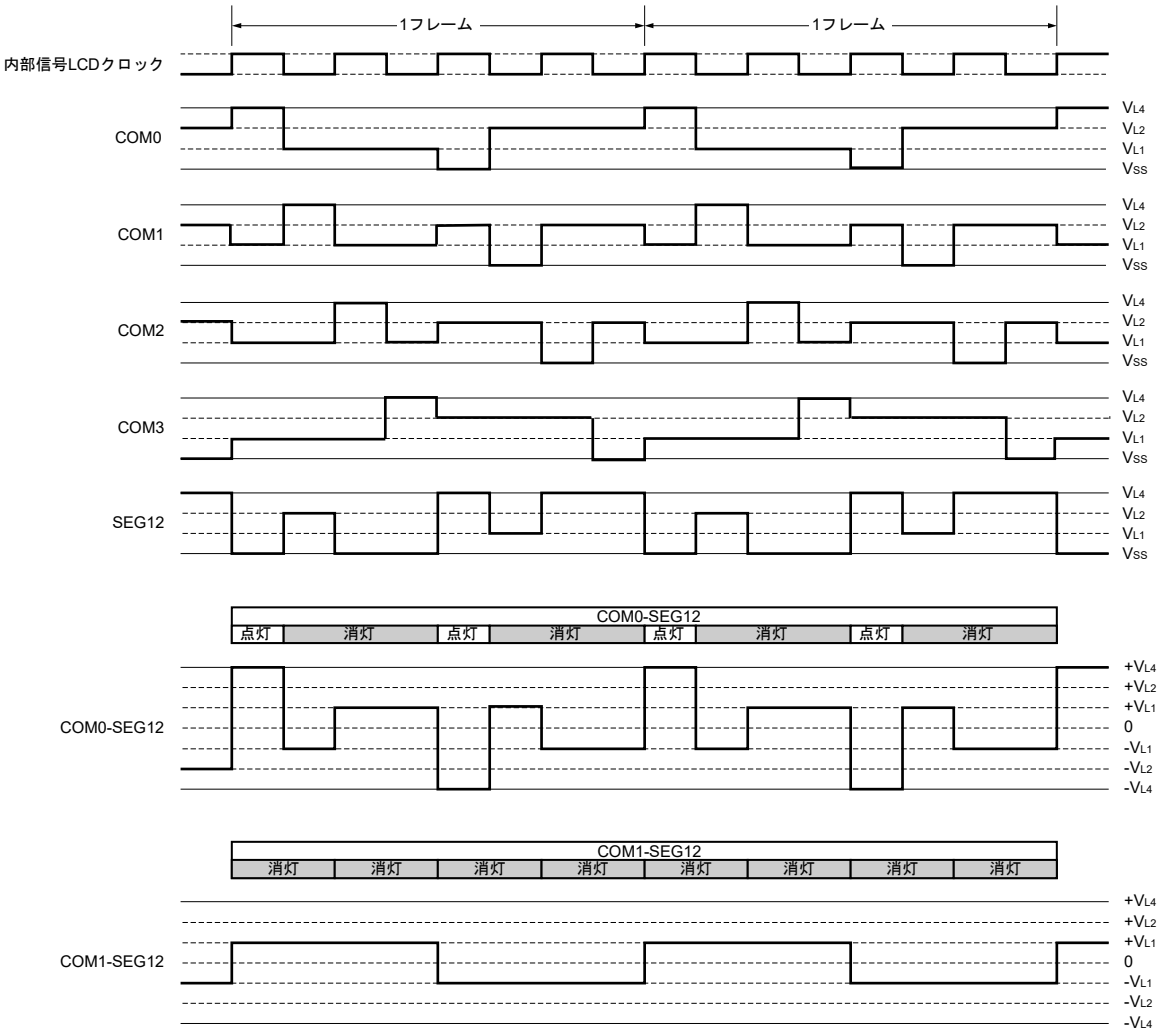


図21－37　SEG12と各コモン信号間の4時分割LCD駆動波形例（1/3バイアス法）（2/2）

（b）B波形の場合



### 21. 10. 5　6時分割表示例

図21－39は，図21－38の表示パターンを持つ6時分割方式の15×6のドットLCDパネルとセグメント信号（SEG2-SEG16）およびコモン信号（COM0-COM5）との接続を示します。表示例は123で，表示データ・レジスタ（F0402H-F0410H番地）の内容はこれに対応しています。

ここでは1桁目の3（3）を例にとって説明します。図21－38の表示パターンに従って，COM0-COM5の各コモン信号のタイミングで表21－18に示すような選択，非選択電圧をSEG2-SEG6端子に出力する必要があります。

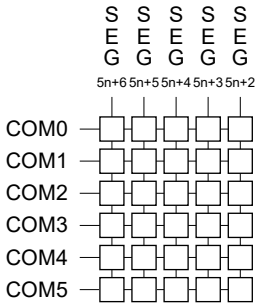
表21－18　選択，非選択電圧（COM0-COM5）

| セグメント／コモン | SEG2 | SEG3 | SEG4 | SEG5 | SEG6 |
|---|---|---|---|---|---|
| COM0 | 選 | 選 | 選 | 選 | 選 |
| COM1 | 非 | 選 | 非 | 非 | 非 |
| COM2 | 非 | 非 | 選 | 非 | 非 |
| COM3 | 非 | 選 | 非 | 非 | 非 |
| COM4 | 選 | 非 | 非 | 非 | 選 |
| COM5 | 非 | 選 | 選 | 選 | 非 |

これによりSEG2に対応する表示データ・レジスタ（F0402H番地）には，010001を用意すればよいことが分かります。

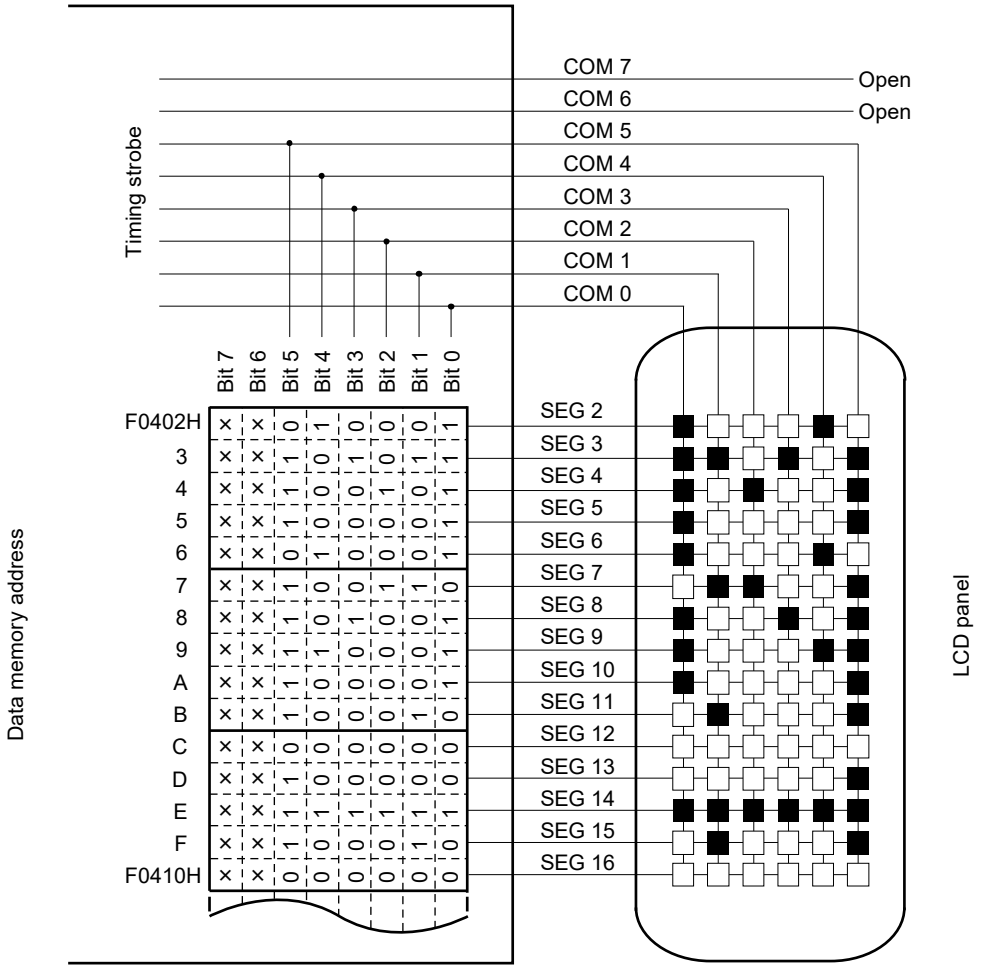
SEG2と各コモン信号間のLCD駆動波形例を図21－40に示します。COM0の選択タイミングでSEG2が選択電圧になるときに，LCD点灯レベルの波形が発生することが分かります。

図21－38　6時分割LCD表示パターンと電極結線




備考　100ピン製品　　：n = 0-7

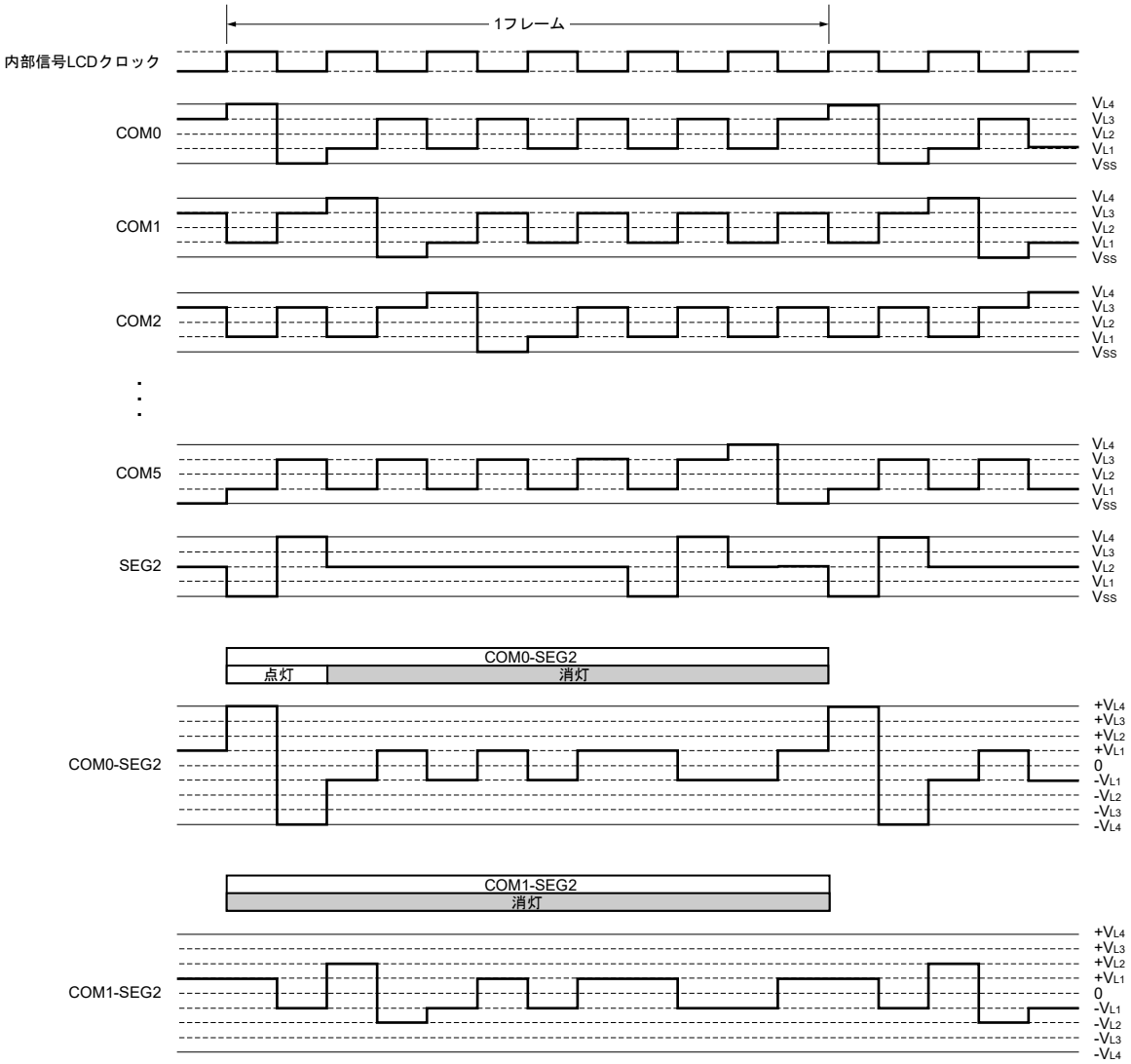
図21－39　6時分割LCDパネルの結線例




×　：6時分割表示のため，常に任意のデータをストア可能です。

図21－40　SEG2と各コモン信号間の6時分割LCD駆動波形例（1/4バイアス法）

（a）A波形の場合



### 21. 10. 6　8時分割表示例

図21－42は，図21－41の表示パターンを持つ8時分割方式の15×8のドットLCDパネルとセグメント信号（SEG4-SEG18）およびコモン信号（COM0-COM7）との接続を示します。表示例は123で，表示データ・レジスタ（F0404H-F0412H番地）の内容はこれに対応しています。

ここでは1桁目の3（∃）を例にとって説明します。図21－41の表示パターンに従って，COM0-COM7の各コモン信号のタイミングで表21－19に示すような選択，非選択電圧をSEG4-SEG8端子に出力する必要があります。

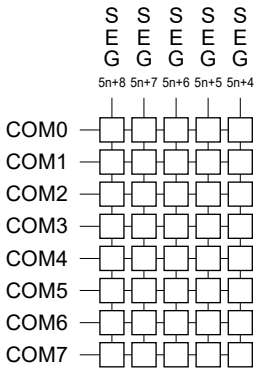
表21－19　選択，非選択電圧（COM0-COM7）

| セグメント／コモン | SEG4 | SEG5 | SEG6 | SEG7 | SEG8 |
|---|---|---|---|---|---|
| COM0 | 選 | 選 | 選 | 選 | 選 |
| COM1 | 非 | 選 | 非 | 非 | 非 |
| COM2 | 非 | 非 | 選 | 非 | 非 |
| COM3 | 非 | 選 | 非 | 非 | 非 |
| COM4 | 選 | 非 | 非 | 非 | 非 |
| COM5 | 選 | 非 | 非 | 非 | 選 |
| COM6 | 非 | 選 | 選 | 選 | 非 |
| COM7 | 非 | 非 | 非 | 非 | 非 |

これによりSEG4に対応する表示データ・レジスタ（F0404H番地）には，00110001を用意すればよいことが分かります。

SEG4と各コモン信号間のLCD駆動波形例を図21－43に示します。COM0の選択タイミングでSEG4が選択電圧になるときに，LCD点灯レベルの波形が発生することが分かります。

図21－41　8時分割LCD表示パターンと電極結線




備考　100ピン製品　　：n = 0-6

図21－42　8時分割LCDパネルの結線例

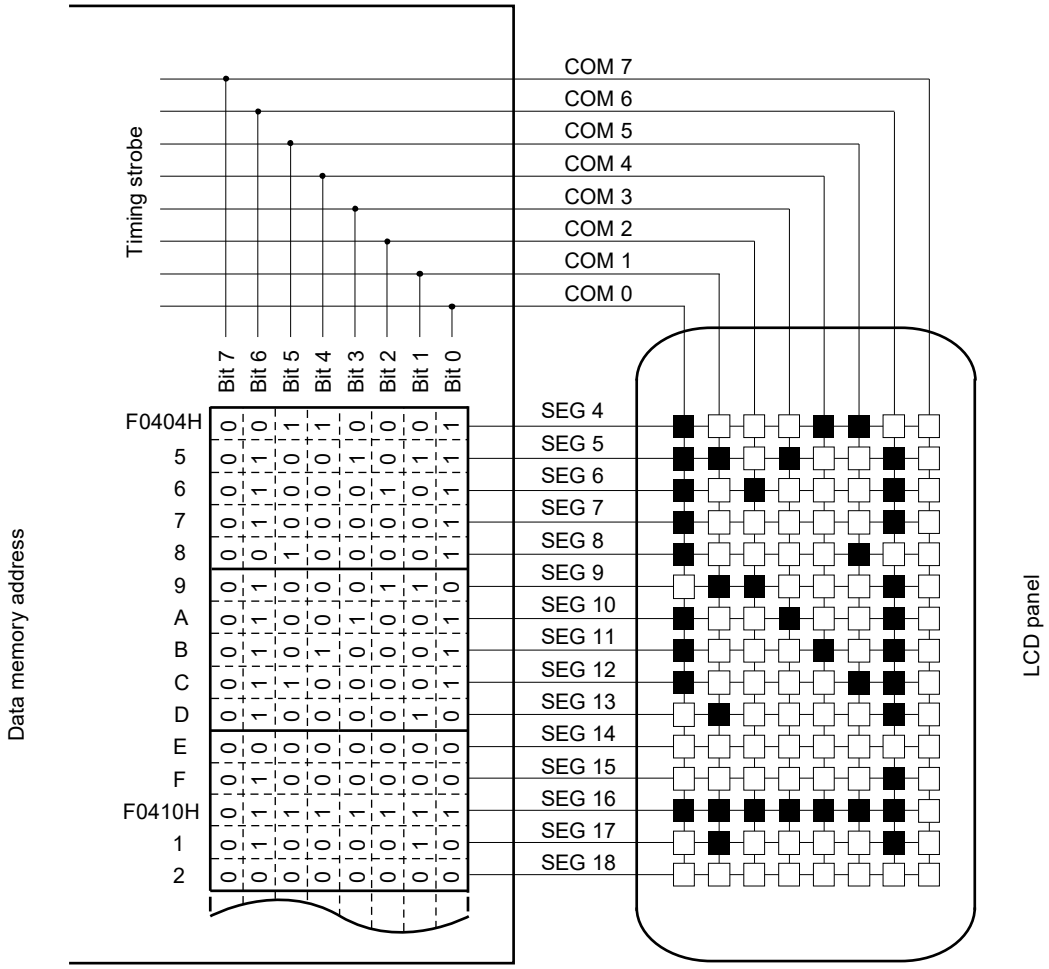


図21－43　SEG4と各コモン信号間の8時分割LCD駆動波形例（1/4バイアス法）（1/2）

（a）A波形の場合

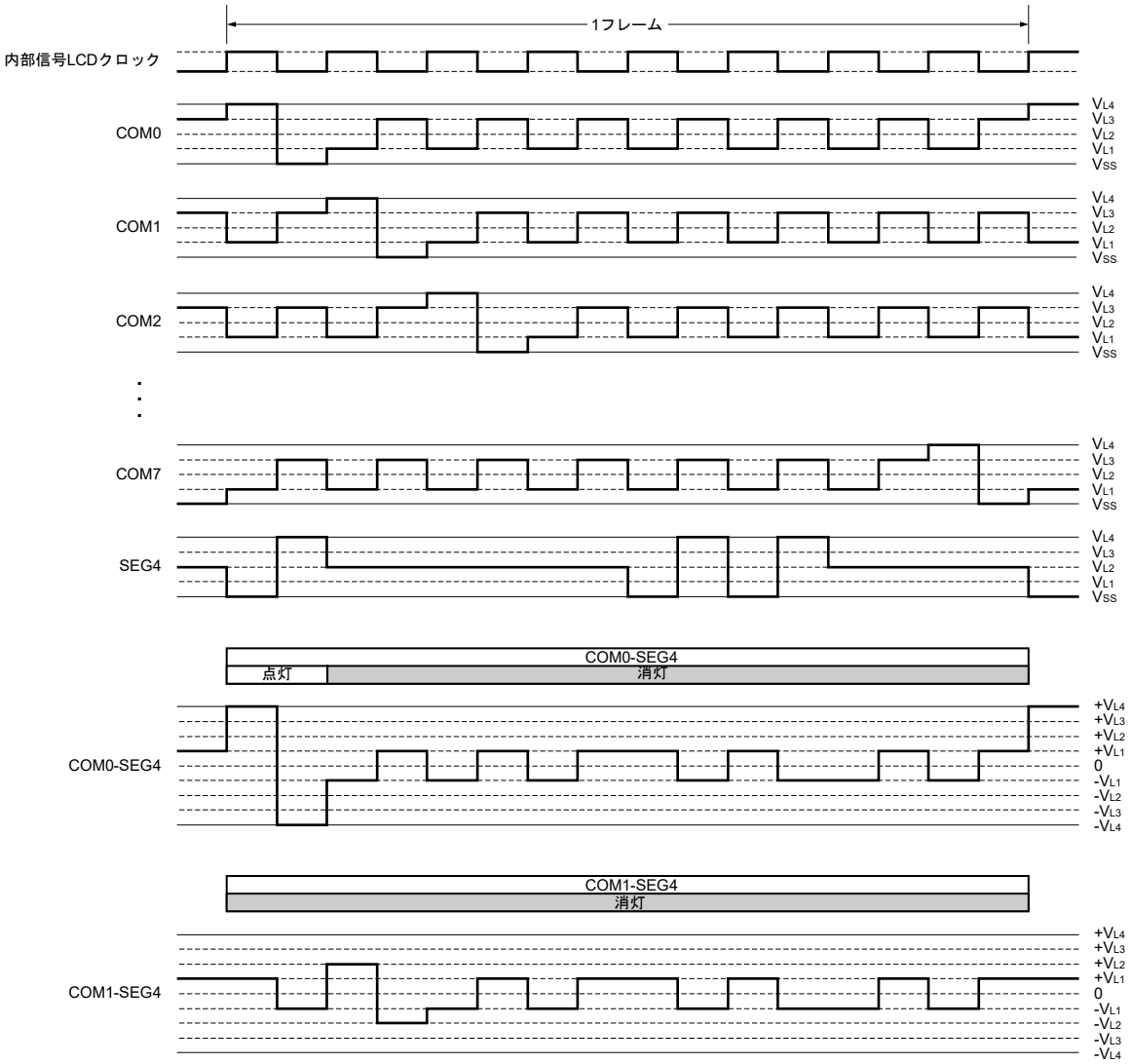
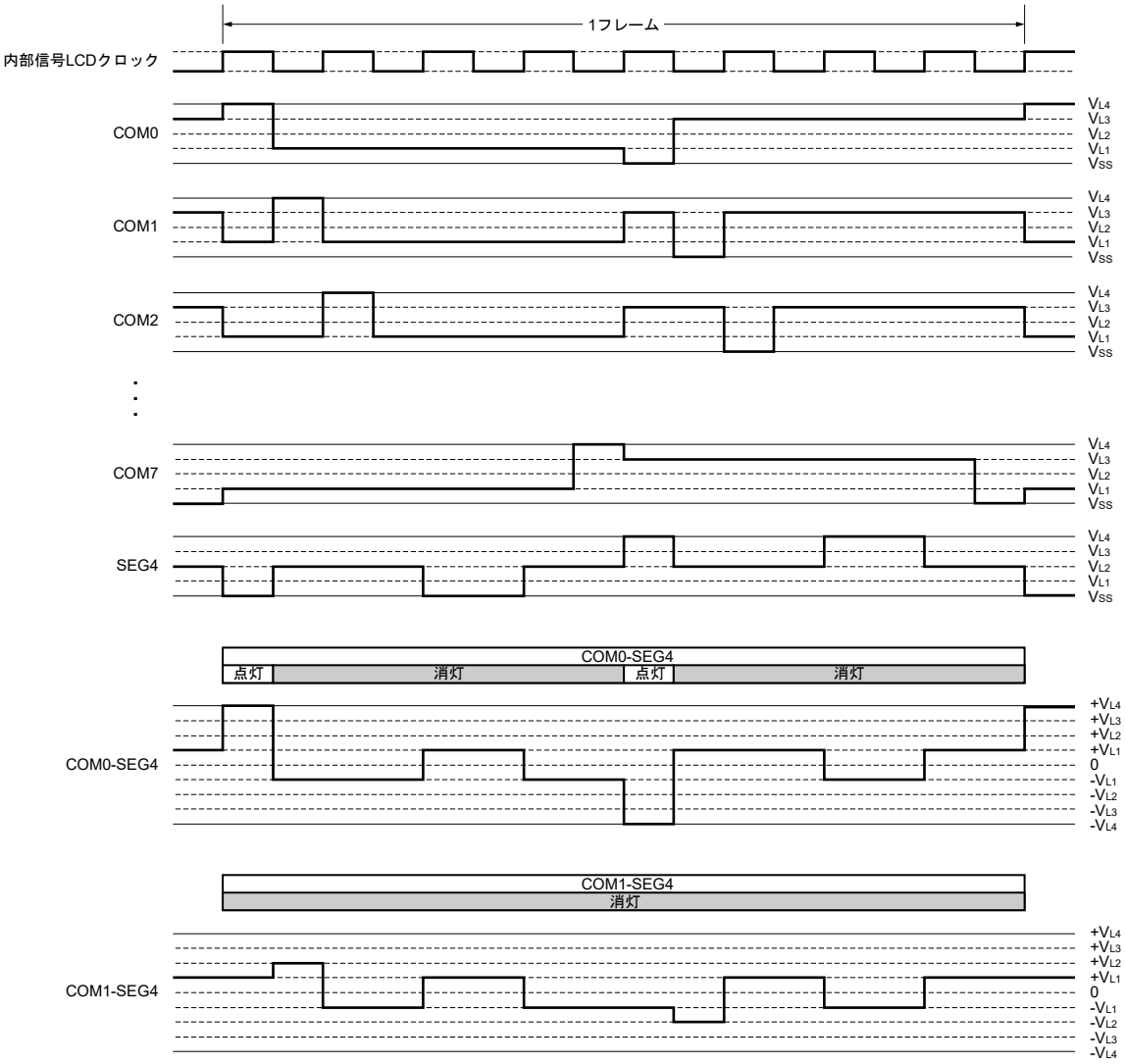


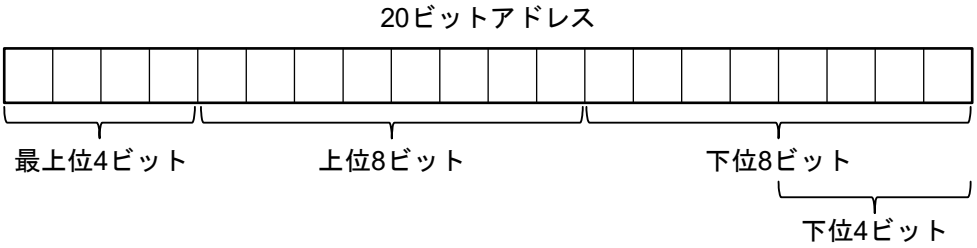
図21－43　SEG4と各コモン信号間の8時分割LCD駆動波形例（1/4バイアス法）（2/2）

（b）B波形の場合



# 第22章　データ・トランスファ・コントローラ（DTC）

本章の説明で記載されているアドレスの上位8ビットとは下記のとおり、20ビットアドレスのビット(15-8)になります。




また、本章の説明の中で、特に指定が無い場合、アドレスの最上位4ビットは全て1(FxxxxH)になります。

## 22. 1　DTCの機能

データ・トランスファ・コントローラ（DTC）は，CPUを使わずにメモリとメモリの間でデータを転送する機能です。DTCは周辺機能割り込みによって起動し，データ転送します。DTCはCPUと同じデータバスを使用し，DTCのバス使用権はCPUよりも優先されます。

表22－1にDTCの仕様を示します。

表22－1　DTCの仕様

| 項目 | | 仕様 |
|---|---|---|
| 起動要因 | | 30要因 |
| 配置可能なコントロールデータ | | 24通り |
| 転送可能なアドレス空間 | アドレス空間 | 64 Kバイト空間（F0000H～FFFFFH）ただし，汎用レジスタを除く |
| | ソース | 特殊機能レジスタ（SFR），RAM領域（汎用レジスタを除く），ミラー領域[注]，拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR） |
| | デスティネーション | 特殊機能レジスタ（SFR），RAM領域（汎用レジスタを除く），拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR） |
| 最大転送回数 | ノーマルモード | 256回 |
| | リピートモード | 255回 |
| 最大転送ブロックサイズ | ノーマルモード（8ビット転送） | 256バイト |
| | ノーマルモード（16ビット転送） | 512バイト |
| | リピートモード | 255バイト |
| 転送単位 | | 8ビット/16ビット |
| 転送モード | ノーマルモード | DTCCTjレジスタが1から0になる転送で終了する |
| | リピートモード | DTCCTjレジスタが1から0になる転送終了後，リピートエリアのアドレスを初期化し，DTRLDjレジスタの値がDTCCTjレジスタへリロードして転送を継続する |
| アドレス制御 | ノーマルモード | 固定，または加算 |
| | リピートモード | リピートエリアでないアドレスを固定，または加算 |
| 起動要因優先度 | | 表22－5　DTC起動要因とDTCベクタアドレス参照 |
| 割り込み要求 | ノーマルモード | DTCCTjレジスタが1から0になるデータ転送時に，CPUへ起動要因となった割り込み要求が発生し，データ転送終了後に割り込み処理を行う |
| | リピートモード | DTCCRjレジスタのRPTINTビットが1（割り込み発生許可）のとき，DTCCTjレジスタが1から0になるデータ転送時に，CPUへ起動要因となった割り込み要求を発生し，データ転送終了後に割り込み処理を行う |
| 転送開始 | | DTCENiレジスタのDTCENi0～DTCENi7 ビットを1（起動許可）にすると，DTC起動要因が発生するたびにデータ転送を開始する |
| 転送停止 | ノーマルモード | ・DTCENi0～DTCENi7ビットを0（起動禁止）にする<br>・DTCCTjレジスタが1から0になるデータ転送が終了したとき |
| | リピートモード | ・DTCENi0～DTCENi7ビットを0（起動禁止）にする<br>・RPTINTビットが1（割り込み発生許可）のとき，DTCCTjレジスタが1から0になるデータ転送が終了したとき |

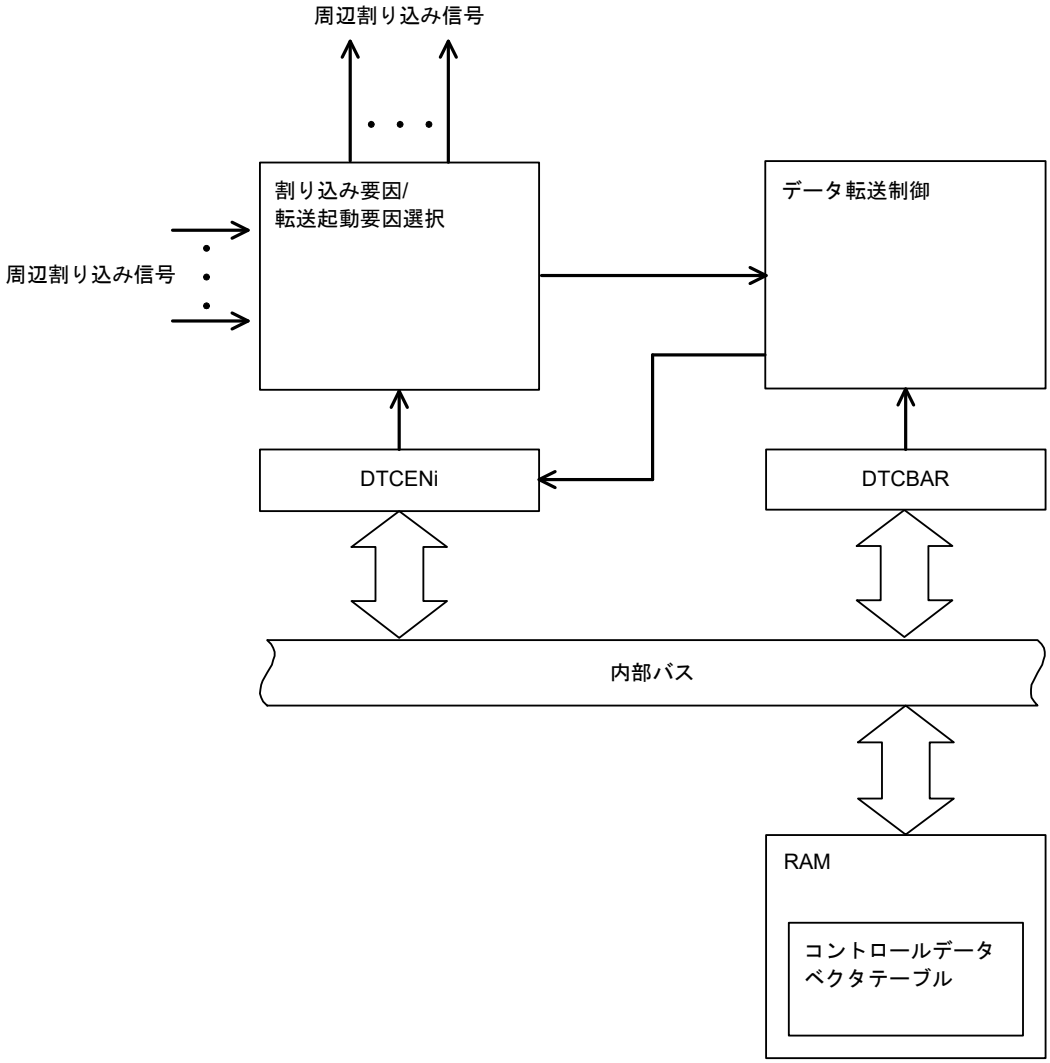
注　HALTモードおよびSNOOZEモードでは，フラッシュ・メモリが停止しているため，DTC転送のソースにできません。

備考　i = 0～3, j = 0～23

## 22. 2　DTCの構成

図22－1にDTCのブロック図を示します。

図22－1　DTCのブロック図



## 22. 3　DTCを制御するレジスタ

表22－2にDTCを制御するレジスタを示します。

表22－2　DTCを制御するレジスタ

| レジスタ名 | シンボル |
|---|---|
| 周辺イネーブル・レジスタ1 | PER1 |
| DTC起動許可レジスタ0 | DTCEN0 |
| DTC起動許可レジスタ1 | DTCEN1 |
| DTC起動許可レジスタ2 | DTCEN2 |
| DTC起動許可レジスタ3 | DTCEN3 |
| DTCベース・アドレス・レジスタ | DTCBAR |

表22－3にDTCのコントロールデータを示します。

DTCのコントロールデータはRAMのDTCコントロールデータ領域に配置されます。

DTCBARレジスタでDTCコントロールデータ領域と，コントロールデータの先頭番地を格納するDTCベクタテーブル領域を含めた256バイトの領域を設定します。

表22－3　DTCのコントロールデータ

| レジスタ名 | シンボル |
|---|---|
| DTC制御レジスタj | DTCCRj |
| DTCブロック・サイズ・レジスタj | DTBLSj |
| DTC転送回数レジスタj | DTCCTj |
| DTC転送回数リロード・レジスタj | DTRLDj |
| DTCソース・アドレス・レジスタj | DTSARj |
| DTCデスティネーション・アドレス・レジスタj | DTDARj |

備考　j ＝ 0～23

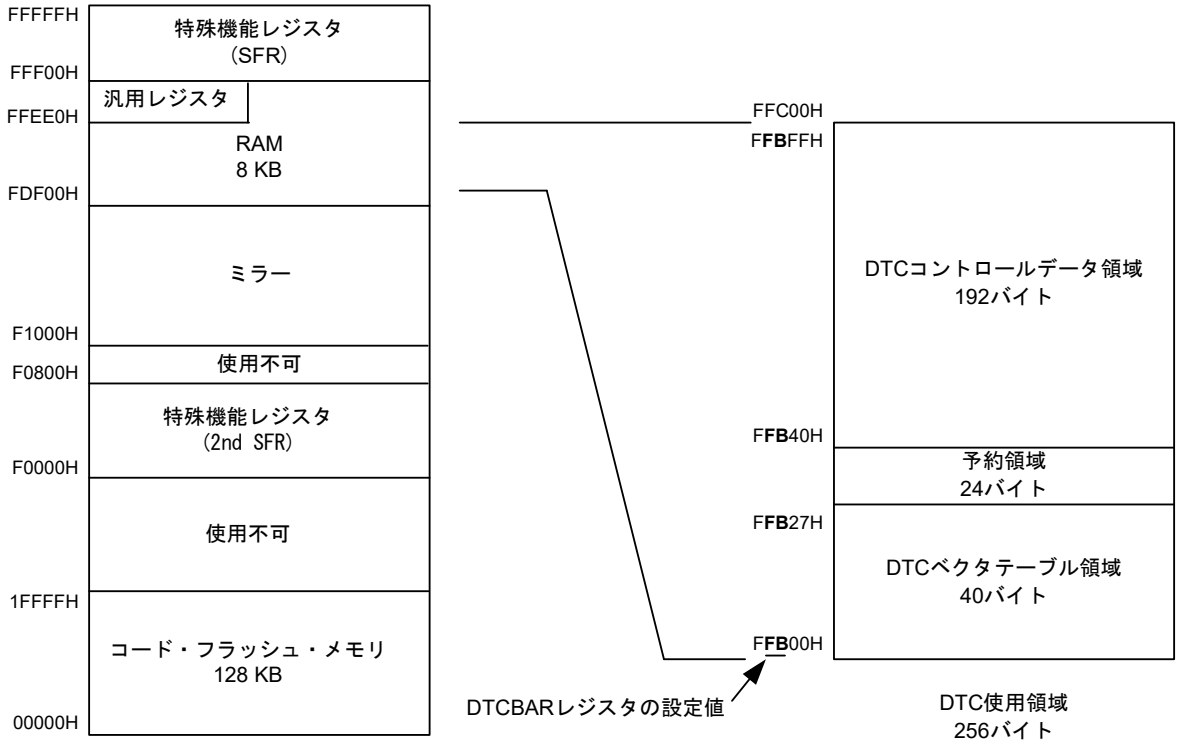
### 22. 3. 1　DTCコントロールデータ領域とDTCベクタテーブル領域の配置

DTCBARレジスタで，DTCのコントロールデータとベクタテーブルを配置する256バイトの領域をRAM領域内に設定します。

図22－2にDTCBARレジスタにFBHを設定したときのメモリマップ例を示します。

DTCコントロールデータ領域192バイトのうち，DTCで使用しない空間はRAMとして使用できます。

図22－2　DTCBARレジスタにFBHを設定したときのメモリマップ例（R5F10MMGDFB, R5F10MPGDF）




DTCコントロールデータとベクタテーブルを配置できる領域は製品によって異なります。

注意1.　汎用レジスタ（FFEE0H-FFEFFH）の空間は，DTCコントロールデータ領域およびDTCベクタテーブル領域としての使用を禁止します。

2.　スタック領域とDTCコントロールデータ領域およびDTCベクタテーブル領域が重ならないようにしてください。

3.　次に示す製品の内部RAM領域は，セルフ・プログラミング機能使用時にDTCコントロールデータ領域およびDTCベクタテーブル領域として使用できません。

R5F10MMGDFB, R5F10MPGDFB：FDF00H-FE309H

R5F10MMEDFB, R5F10MPEDFB：FE700H-FEB09H

4.　次に示す製品の内部RAM領域は，オンチップ・デバッキングのトレース機能使用時にDTCコントロールデータ領域およびDTCベクタテーブル領域として使用できません。

R5F10MME, R5F10MPE, R5F10MMG, R5F10MPG：FE300H-FE6FFH

### 22. 3. 2　コントロールデータの配置

コントロールデータは先頭アドレスから，DTCCRj, DTBLSj, DTCCTj, DTRLDj, DTSARj, DTDARj（j = 0～23）レジスタの順に配置します。

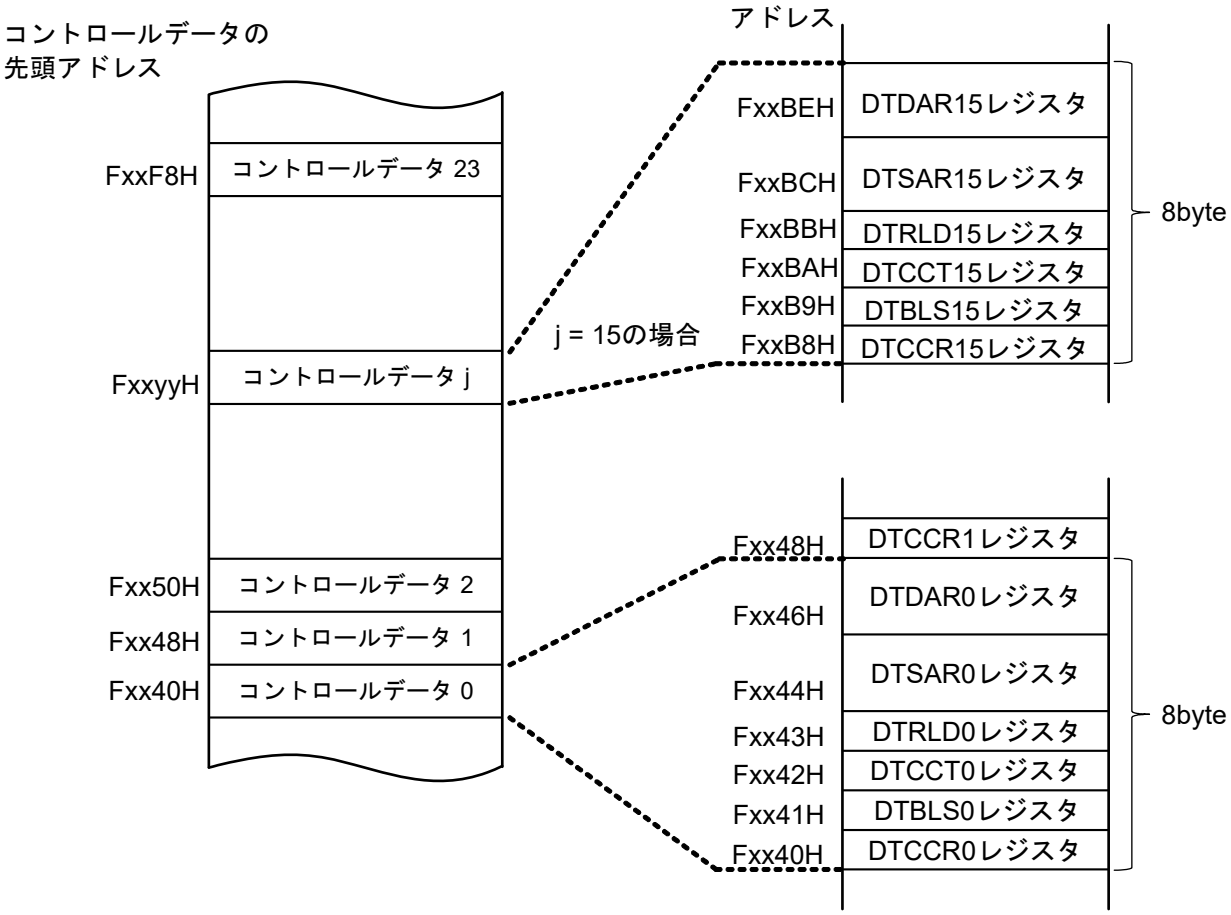
先頭アドレス0～23の上位8ビットはDTCBARレジスタで設定し，下位8ビットは起動要因ごとに割り当てられているベクタテーブルでそれぞれ設定します。

図22－3にコントロールデータの配置を示します。

注1.　DTCCRj, DTBLSj, DTCCTj, DTRLDj, DTSARj, DTDARjレジスタのデータは対応するDTCENi（i = 0～3）のDTCENi0～DTCENi7ビットが0（DTC起動禁止）のときに変更してください。

2.　DTC 転送でDTCCRj, DTBLSj, DTCCTj, DTRLDj, DTSARj, DTDARjをアクセスしないでください。

図22－3　コントロールデータの配置




**備考**　xx：DTCBARレジスタの設定値

表22－4　コントロールデータの先頭アドレス

| j | アドレス | j | アドレス |
|---|---|---|---|
| 11 | Fxx98H | 23 | FxxF8H |
| 10 | Fxx90H | 22 | FxxF0H |
| 9 | Fxx88H | 21 | FxxE8H |
| 8 | Fxx80H | 20 | FxxE0H |
| 7 | Fxx78H | 19 | FxxD8H |
| 6 | Fxx70H | 18 | FxxD0H |
| 5 | Fxx68H | 17 | FxxC8H |
| 4 | Fxx60H | 16 | FxxC0H |
| 3 | Fxx58H | 15 | FxxB8H |
| 2 | Fxx50H | 14 | FxxB0H |
| 1 | Fxx48H | 13 | FxxA8H |
| 0 | Fxx40H | 12 | FxxA0H |

**備考**　xx：　DTCBARレジスタの設定値

### 22. 3. 3　ベクタテーブル

DTCが起動すると，起動要因ごとに割り当てられているベクタテーブルから読み出したデータによりコントロールデータを決定し，DTCコントロールデータ領域上に配置されたコントロールデータを読み出します。

表22－5にDTC起動要因とベクタアドレスを示します。起動要因ごとにベクタテーブルが1バイトあり，40HからF8Hのデータを格納し，24組のコントロールデータから１つを選択します。ベクタアドレスの上位8ビットはDTCBARレジスタで設定し，下位8ビットは起動要因に対応して00Hから27Hまでが割り当てられます。

注　ベクタテーブルに設定するDTCコントロールデータ領域の先頭番地は，対応するDTCENi（i = 0～3）レジスタのDTCENi0～DTCENi7ビットが0（起動禁止）のときに変更してください。

図22－4　コントロールデータの先頭アドレスとベクタテーブル

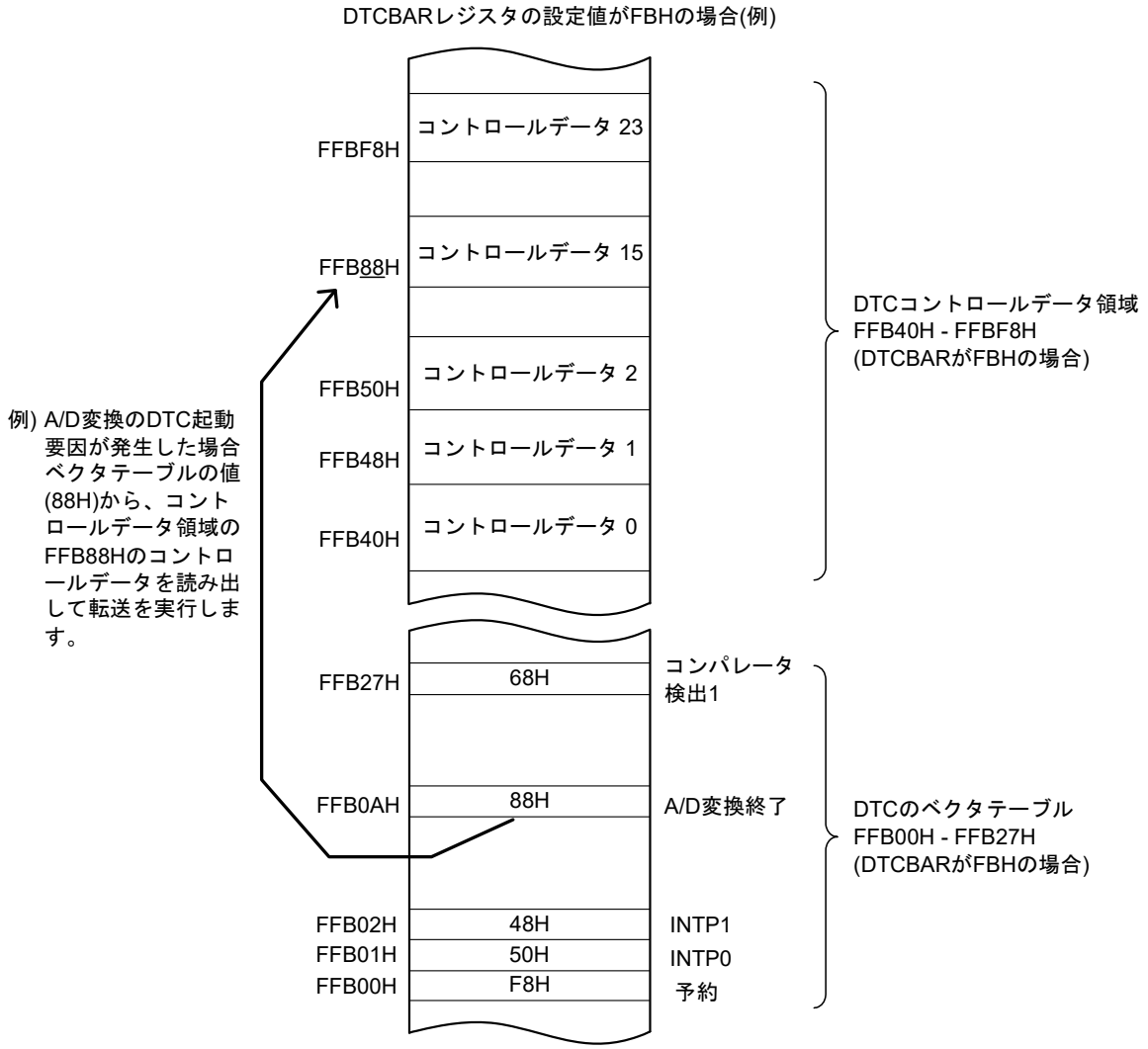


表22－5　DTC起動要因とベクタアドレス

| 割り込み要因発生元 | 要因番号 | ベクタアドレス | 優先順位 |
|---|---|---|---|
| 予約 | 0 | DTCBARレジスタの設定アドレス+00H | 高 |
| INTP0 | 1 | DTCBARレジスタの設定アドレス+01H | ↑ |
| INTP1 | 2 | DTCBARレジスタの設定アドレス+02H | |
| INTP2 | 3 | DTCBARレジスタの設定アドレス+03H | |
| INTP3 | 4 | DTCBARレジスタの設定アドレス+04H | |
| INTP4 | 5 | DTCBARレジスタの設定アドレス+05H | |
| INTP5 | 6 | DTCBARレジスタの設定アドレス+06H | |
| INTP6 | 7 | DTCBARレジスタの設定アドレス+07H | |
| INTP7 | 8 | DTCBARレジスタの設定アドレス+08H | |
| 24ビットΔΣA/Dコンバータ | 9 | DTCBARレジスタの設定アドレス+09H | |
| 10ビットSAR型A/D変換終了 | 10 | DTCBARレジスタの設定アドレス+0AH | |
| UART0受信の転送完了 | 11 | DTCBARレジスタの設定アドレス+0BH | |
| UART0送信の転送完了/CSI00の転送完了またはバッファ空き/IIC00の転送完了 | 12 | DTCBARレジスタの設定アドレス+0CH | |
| UART1受信の転送完了 | 13 | DTCBARレジスタの設定アドレス+0DH | |
| UART1送信の転送完了/CSI10の転送完了またはIIC10の転送完了 | 14 | DTCBARレジスタの設定アドレス+0EH | |
| UART2受信の転送完了 | 15 | DTCBARレジスタの設定アドレス+0FH | |
| UART2送信の転送完了 | 16 | DTCBARレジスタの設定アドレス+10H | |
| タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル0のカウント完了またはキャプチャ完了 | 17 | DTCBARレジスタの設定アドレス+11H | |
| タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル1のカウント完了またはキャプチャ完了 | 18 | DTCBARレジスタの設定アドレス+12H | |
| タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル2のカウント完了またはキャプチャ完了 | 19 | DTCBARレジスタの設定アドレス+13H | |
| タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル3のカウント完了またはキャプチャ完了 | 20 | DTCBARレジスタの設定アドレス+14H | |
| タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル4のカウント完了またはキャプチャ完了 | 21 | DTCBARレジスタの設定アドレス+15H | |
| タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル5のカウント完了またはキャプチャ完了 | 22 | DTCBARレジスタの設定アドレス+16H | |
| タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル6のカウント完了またはキャプチャ完了 | 23 | DTCBARレジスタの設定アドレス+17H | |
| タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル7のカウント完了またはキャプチャ完了 | 24 | DTCBARレジスタの設定アドレス+18H | |
| 8ビット・インターバル・タイマ00 | 25 | DTCBARレジスタの設定アドレス+19H | |
| 8ビット・インターバル・タイマ01 | 26 | DTCBARレジスタの設定アドレス+1AH | |
| 8ビット・インターバル・タイマ10 | 27 | DTCBARレジスタの設定アドレス+1BH | |
| 8ビット・インターバル・タイマ11 | 28 | DTCBARレジスタの設定アドレス+1CH | |
| コンパレータ検出0 | 29 | DTCBARレジスタの設定アドレス+1DH | |
| コンパレータ検出1 | 30 | DTCBARレジスタの設定アドレス+1EH | |
| 予約 | 31 | DTCBARレジスタの設定アドレス+1FH | |
| 予約 | 32 | DTCBARレジスタの設定アドレス+20H | |
| 予約 | 33 | DTCBARレジスタの設定アドレス+21H | |
| 予約 | 34 | DTCBARレジスタの設定アドレス+22H | |
| 予約 | 35 | DTCBARレジスタの設定アドレス+23H | |
| 予約 | 36 | DTCBARレジスタの設定アドレス+24H | |
| 予約 | 37 | DTCBARレジスタの設定アドレス+25H | |
| 予約 | 38 | DTCBARレジスタの設定アドレス+26H | ↓ |
| 予約 | 39 | DTCBARレジスタの設定アドレス+27H | 低 |

### 22. 3. 4　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）

PER1レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

DTCを使用する場合は，必ずビット3（DTCEN）を1に設定してください。

PER1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図22－5　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のフォーマット

アドレス：F007AH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER1 | TMKAEN | FMCEN | CMPEN | OSDCEN | DTCEN | 0 | 0 | DSACDEN |

| DTCEN | DTCの入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・DTCは動作不可 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・DTCは動作可 |

注意　ビット1, 2には必ず“0”を設定してください。

### 22. 3. 5　DTC制御レジスタj（DTCCRj）（j = 0～23）

DTCCRjレジスタは，DTCの動作モードを制御します。

図22－6　DTC制御レジスタj（DTCCRj）のフォーマット

アドレス：22. 3. 2　コントロールデータの配置参照　リセット時：不定　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTCCRj | 0 | SZ | RPTINT | CHNE | DAMOD | SAMOD | RPTSEL | MODE |

| SZ | 転送データサイズの選択 |
|---|---|
| 0 | 8ビット |
| 1 | 16ビット |

| RPTINT | リピートモード割り込みの許可・禁止 |
|---|---|
| 0 | 割り込み発生禁止 |
| 1 | 割り込み発生許可 |
| MODEビットが0（ノーマルモード）のときRPTINTビットの設定は無効です。 | |

| CHNE | チェイン転送の許可・禁止 |
|---|---|
| 0 | チェイン転送禁止 |
| 1 | チェイン転送許可 |
| DTCCR23レジスタのCHNEビットは0（チェイン転送禁止）にしてください。 | |

| DAMOD | 転送先アドレスの制御 |
|---|---|
| 0 | 固定 |
| 1 | 加算 |
| MODEビットが1（リピートモード）でRPTSELビットが0（転送先がリピートエリア）のときDAMODビットの設定は無効です。 | |

| SAMOD | 転送元アドレスの制御 |
|---|---|
| 0 | 固定 |
| 1 | 加算 |
| MODEビットが1（リピートモード）でRPTSELビットが1（転送元がリピートエリア）のときSAMODビットの設定は無効です。 | |

| RPTSEL | リピートエリアの選択 |
|---|---|
| 0 | 転送先がリピートエリア |
| 1 | 転送元がリピートエリア |
| MODEビットが0（ノーマルモード）のときRPTSELビットの設定は無効です。 | |

| MODE | 転送モードの選択 |
|---|---|
| 0 | ノーマルモード |
| 1 | リピートモード |

注意　DTC転送でDTCCRjレジスタをアクセスしないでください。

## 22. 3. 6　DTCブロック・サイズ・レジスタj（DTBLSj）（j = 0～23）

1回の起動で転送されるデータのブロックサイズを設定します。

図22－7　DTCブロック・サイズ・レジスタj（DTBLSj）のフォーマット

アドレス：22. 3. 2　コントロールデータの配置参照　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTBLSj | DTBLSj7 | DTBLSj6 | DTBLSj5 | DTBLSj4 | DTBLSj3 | DTBLSj2 | DTBLSj1 | DTBLSj0 |

| DTBLSj | 転送ブロックサイズ | |
|---|---|---|
| | 8ビット転送 | 16ビット転送 |
| 00H | 256バイト | 512バイト |
| 01H | 1バイト | 2バイト |
| 02H | 2バイト | 4バイト |
| 03H | 3バイト | 6バイト |
| ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ |
| FDH | 253バイト | 506バイト |
| FEH | 254バイト | 508バイト |
| FFH | 255バイト | 510バイト |

注意　DTC転送でDTBLSjレジスタをアクセスしないでください。

## 22. 3. 7　DTC転送回数レジスタj（DTCCTj）（j = 0～23）

DTCのデータ転送回数を設定します。DTC転送が1回起動するたびに1減算されます。

図22－8　DTC転送回数レジスタj（DTCCTj）のフォーマット

アドレス：22. 3. 2　コントロールデータの配置参照　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTCCTj | DTCCTj7 | DTCCTj6 | DTCCTj5 | DTCCTj4 | DTCCTj3 | DTCCTj2 | DTCCTj1 | DTCCTj0 |

| DTCCTj | 転送回数 |
|---|---|
| 00H | 256回 |
| 01H | 1回 |
| 02H | 2回 |
| 03H | 3回 |
| ・<br>・<br>・ | ・<br>・<br>・ |
| FDH | 253回 |
| FEH | 254回 |
| FFH | 255回 |

注意　DTC転送でDTCCTjレジスタをアクセスしないでください。

### 22. 3. 8　DTC転送回数リロード・レジスタj（DTRLDj）（j = 0～23）

リピートモードで転送回数レジスタの初期値を設定します。リピートモード時は，本レジスタの値がDTCCTレジスタにリロードされますので，DTCCTレジスタの初期値と同じ値を設定してください。

図22－9　DTC転送回数リロード・レジスタj（DTRLDj）のフォーマット

アドレス：22. 3. 2　コントロールデータの配置参照　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTRLDj | DTRLDj7 | DTRLDj6 | DTRLDj5 | DTRLDj4 | DTRLDj3 | DTRLDj2 | DTRLDj1 | DTRLDj0 |

注意　DTC転送でDTRLDjレジスタをアクセスしないでください。

### 22. 3. 9　DTCソース・アドレス・レジスタj（DTSARj）（j = 0～23）

データ転送時の転送元アドレスを指定します。

DTCCRjレジスタのSZビットが1（16ビット転送）のとき，最下位ビットは無視され，偶数番地として扱われます。

図22－10　DTCソース・アドレス・レジスタj（DTSARj）のフォーマット

アドレス：22. 3. 2　コントロールデータの配置参照　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTSARj | DTS ARj15 | DTS ARj14 | DTS ARj13 | DTS ARj12 | DTS ARj11 | DTS ARj10 | DTS ARj9 | DTS ARj8 | DTS ARj7 | DTS ARj6 | DTS ARj5 | DTS ARj4 | DTS ARj3 | DTS ARj2 | DTS ARj1 | DTS ARj0 |

注意1.　転送元アドレスに汎用レジスタ（FFEE0H～FFEFFH）空間を設定しないでください。

2.　DTC転送でDTSARjレジスタをアクセスしないでください。

### 22. 3. 10　DTCデスティネーション・アドレス・レジスタj（DTDARj）（j = 0～23）

データ転送時の転送先アドレスを指定します。

DTCCRjレジスタのSZビットが1（16ビット転送）のとき，最下位ビットは無視され，偶数番地として扱われます。

図22－11　DTCデスティネーション・アドレス・レジスタj（DTDARj）のフォーマット

アドレス：22. 3. 2　コントロールデータの配置参照　リセット時：不定　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTDARj | DTD ARj15 | DTD ARj14 | DTD ARj13 | DTD ARj12 | DTD ARj11 | DTD ARj10 | DTD ARj9 | DTD ARj8 | DTD ARj7 | DTD ARj6 | DTD ARj5 | DTD ARj4 | DTD ARj3 | DTD ARj2 | DTD ARj1 | DTD ARj0 |

注意1.　転送先アドレスに汎用レジスタ（FFEE0H～FFEFFH）空間を設定しないでください。

2.　DTC転送でDTDARjレジスタをアクセスしないでください。

### 22. 3. 11　DTC起動許可レジスタi（DTCENi）（i = 0～3）

各割り込み要因によるDTC起動の許可または禁止を制御する8ビット・レジスタです。表22－6に割り込み要因とDTCENi0～DTCENi7ビットの対応を示します。

DTCENiレジスタは8ビット・メモリ操作命令，および1ビット・メモリ操作命令で設定できます。

注1. DTCENi0～DTCENi7ビットは，そのビットに対応する起動要因が発生しない箇所で変更してください。
2. DTC転送でDTCENiレジスタをアクセスしないでください。

図22－12　DTC起動許可レジスタi（DTCENi）（i = 0～3）のフォーマット

アドレス：F02E8H（DTCEN0），F02E9H（DTCEN1），F02EAH（DTCEN2），F02EBH（DTCEN3）　　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTCENi | DTCENi7 | DTCENi6 | DTCENi5 | DTCENi4 | DTCENi3 | DTCENi2 | DTCENi1 | DTCENi0 |

| DTCENi7 | DTC起動許可i7 |
|---|---|
| 0 | 起動禁止 |
| 1 | 起動許可 |
| 転送完了割り込みが発生する条件でDTCENi7ビットは0（起動禁止）になります。 | |

| DTCENi6 | DTC起動許可i6 |
|---|---|
| 0 | 起動禁止 |
| 1 | 起動許可 |
| 転送完了割り込みが発生する条件でDTCENi6ビットは0（起動禁止）になります。 | |

| DTCENi5 | DTC起動許可i5 |
|---|---|
| 0 | 起動禁止 |
| 1 | 起動許可 |
| 転送完了割り込みが発生する条件でDTCENi5ビットは0（起動禁止）になります。 | |

| DTCENi4 | DTC起動許可i4 |
|---|---|
| 0 | 起動禁止 |
| 1 | 起動許可 |
| 転送完了割り込みが発生する条件でDTCENi4ビットは0（起動禁止）になります。 | |

| DTCENi3 | DTC起動許可i3 |
|---|---|
| 0 | 起動禁止 |
| 1 | 起動許可 |
| 転送完了割り込みが発生する条件でDTCENi3ビットは0（起動禁止）になります。 | |

| DTCENi2 | DTC起動許可i2 |
|---|---|
| 0 | 起動禁止 |
| 1 | 起動許可 |
| 転送完了割り込みが発生する条件でDTCENi2ビットは0（起動禁止）になります。 | |

| DTCENi1 | DTC起動許可i1 |
|---|---|
| 0 | 起動禁止 |
| 1 | 起動許可 |
| 転送完了割り込みが発生する条件でDTCENi1ビットは0（起動禁止）になります。 | |

| DTCENi0 | DTC起動許可i0 |
|---|---|
| 0 | 起動禁止 |
| 1 | 起動許可 |
| 転送完了割り込みが発生する条件でDTCENi0ビットは0（起動禁止）になります。 | |

表22－6　割り込み要因とDTCENi0～DTCENi7ビットの対応

| レジスタ | DTCENi7ビット | DTCENi6ビット | DTCENi5ビット | DTCENi4ビット | DTCENi3ビット | DTCENi2ビット | DTCENi1ビット | DTCENi0ビット |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTCEN0 | 予約 | INTP0 | INTP1 | INTP2 | INTP3 | INTP4 | INTP5 | INTP6 |
| DTCEN1 | INTP7 | 24ビットΔΣA/Dコンバータ | A/D変換終了 | UART0受信の転送完了 | UART0送信の転送完了/CSI00の転送完了またはバッファ空き/IIC00の転送完了 | UART1受信の転送完了 | UART1送信の転送完了/IIC10の転送完了 | UART2受信の転送完了 |
| DTCEN2 | UART2送信の転送完了 | タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル0のカウント完了またはキャプチャ完了 | タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル1のカウント完了またはキャプチャ完了 | タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル2のカウント完了またはキャプチャ完了 | タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル3のカウント完了またはキャプチャ完了 | タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル4のカウント完了またはキャプチャ完了 | タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル5のカウント完了またはキャプチャ完了 | タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル6のカウント完了またはキャプチャ完了 |
| DTCEN3 | タイマ・アレイ・ユニット0のチャネル7のカウント完了またはキャプチャ完了 | 8ビット・インターバル・タイマ00 | 8ビット・インターバル・タイマ01 | 8ビット・インターバル・タイマ10 | 8ビット・インターバル・タイマ11 | コンパレータ検出0 | コンパレータ検出1 | 予約 |

備考　i = 0～3

### 22. 3. 12　DTCベース・アドレス・レジスタ（DTCBAR）

DTCコントロールデータ領域の先頭番地を格納するベクタアドレスと，DTCコントロールデータ領域のアドレスを設定する8ビット・レジスタです。DTCBARレジスタの値を上位8ビットとして16ビットのアドレスを生成します。

注意1.　DTCBARレジスタは，全てのDTC起動要因を起動禁止に設定した状態で変更してください。
2.　DTCBARレジスタを2回以上書き換えないでください。
3.　DTC転送でDTCBARレジスタをアクセスしないでください。
4.　DTCコントロールデータ領域とDTCベクタテーブル領域の配置については，22. 3. 1　DTCコントロールデータ領域とDTCベクタテーブル領域の配置の注意を参照してください。

図22－13　DTCベース・アドレス・レジスタ（DTCBAR）のフォーマット

アドレス：F02E0H　　リセット時：FDH　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DTCBAR | DTCBAR7 | DTCBAR6 | DTCBAR5 | DTCBAR4 | DTCBAR3 | DTCBAR2 | DTCBAR1 | DTCBAR0 |

## 22. 4　DTCの動作

DTCが起動すると，DTCコントロールデータ領域からコントロールデータを読み出し，このコントロールデータに従ってデータ転送を行い，データ転送後のコントロールデータをDTCコントロールデータ領域へ書き戻します。24組のコントロールデータをDTCコントロール領域へ格納でき，24通りのデータ転送ができます。

転送モードにはノーマルモードとリピートモードがあり，転送サイズは8ビット転送と16ビット転送があります。また，DTCCTj（j = 0～23）レジスタのCHNEビットが1（チェイン転送許可）のとき，１つの起動要因に対して複数のコントロールデータを読み出し，連続してデータを転送します（チェイン転送）。

転送元アドレスは16ビット長のDTSARjレジスタ，転送先は16ビット長のDTDARjレジスタで指定します。DTSARjレジスタとDTDARjレジスタは，データ転送後，コントロールデータに従って加算されるか固定されます。

### 22. 4. 1　起動要因

DTCは，周辺機能からの割り込み信号により起動します。DTCを起動する割り込み信号は，DTCENi（i = 0～3）レジスタで選択します。

データ転送（チェイン転送の場合，連続して行う最初の転送）の設定が，

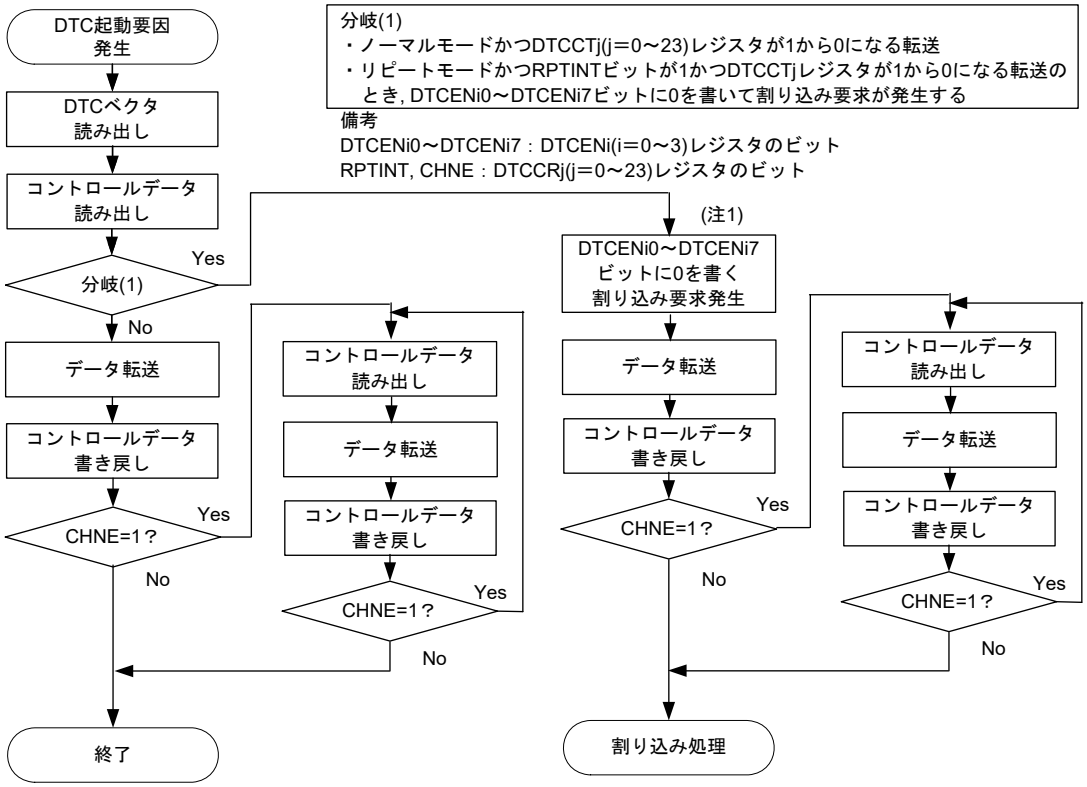
・ノーマルモードでDTCCTj（j = 0～23）レジスタが0になる転送

・リピートモードでDTCCRjレジスタのRPTINTビットが1（割り込み発生許可）かつDTCCTjレジスタが0になる転送

のとき，DTCは動作中にDTCENiレジスタの対応するDTCENi0～DTCENi7ビットを0（起動禁止）にします。

図22－14にDTC内部動作フローチャートを示します。

図22－14　DTC内部動作フローチャート




注1.チェイン転送の許可(CHNEビットが1)の設定により起動されたデータ転送では, DTCENi0～DTCENi7ビットに0を書きません。また, 割り込み要求は発生しません。

### 22. 4. 2　ノーマルモード

1回の起動で，8ビット転送の場合1～256バイト，16ビット転送の場合2～512バイトをデータ転送します。転送回数は1～256回です。DTCCTj（j = 0～23）レジスタが0になるデータ転送を行うとき，DTCは動作中に割り込みコントローラへ起動要因に対応した割り込み要求を発生し，DTCENi（i ＝ 0～3）レジスタの対応するDTCENi0～DTCENi7ビットを0（起動禁止）にします。

表22－7にノーマルモードでのレジスタ機能を示します。図22－15にノーマルモードでのデータ転送を示します。

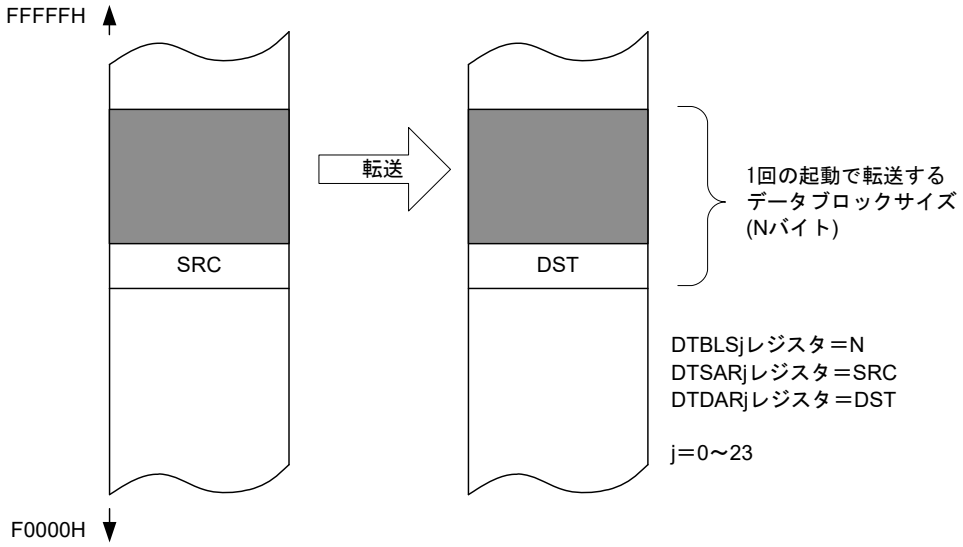
表22－7　ノーマルモードでのレジスタ機能

| レジスタ名 | シンボル | 機能 |
|---|---|---|
| DTCブロック・サイズ・レジスタj | DTBLSj | 1回の起動で転送するデータブロックサイズ |
| DTC転送回数レジスタj | DTCCTj | データ転送回数 |
| DTC転送回数リロード・レジスタj | DTRLDj | 使用しません注 |
| DTCソース・アドレス・レジスタj | DTSARj | データの転送元アドレス |
| DTCデスティネーション・アドレス・レジスタj | DTDARj | データの転送先アドレス |

注　RAMパリティ・エラー検出機能でパリティ・エラー・リセット発生を許可(RPERDIS ＝ 0)している場合は，初期化(00H)してください。

備考　j ＝ 0～23

図22－15　ノーマルモードでのデータ転送




| DTCCRレジスタ設定 | | | | ソースアドレス制御 | デスティネーションアドレス制御 | 転送後のソースアドレス | 転送後のデスティネーションアドレス |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DAMOD | SAMOD | RPTSEL | MODE | | | | |
| 0 | 0 | X | 0 | 固定 | 固定 | SRC | DST |
| 0 | 1 | X | 0 | 加算 | 固定 | SRC+N | DST |
| 1 | 0 | X | 0 | 固定 | 加算 | SRC | DST+N |
| 1 | 1 | X | 0 | 加算 | 加算 | SRC+N | DST+N |

X：0または1

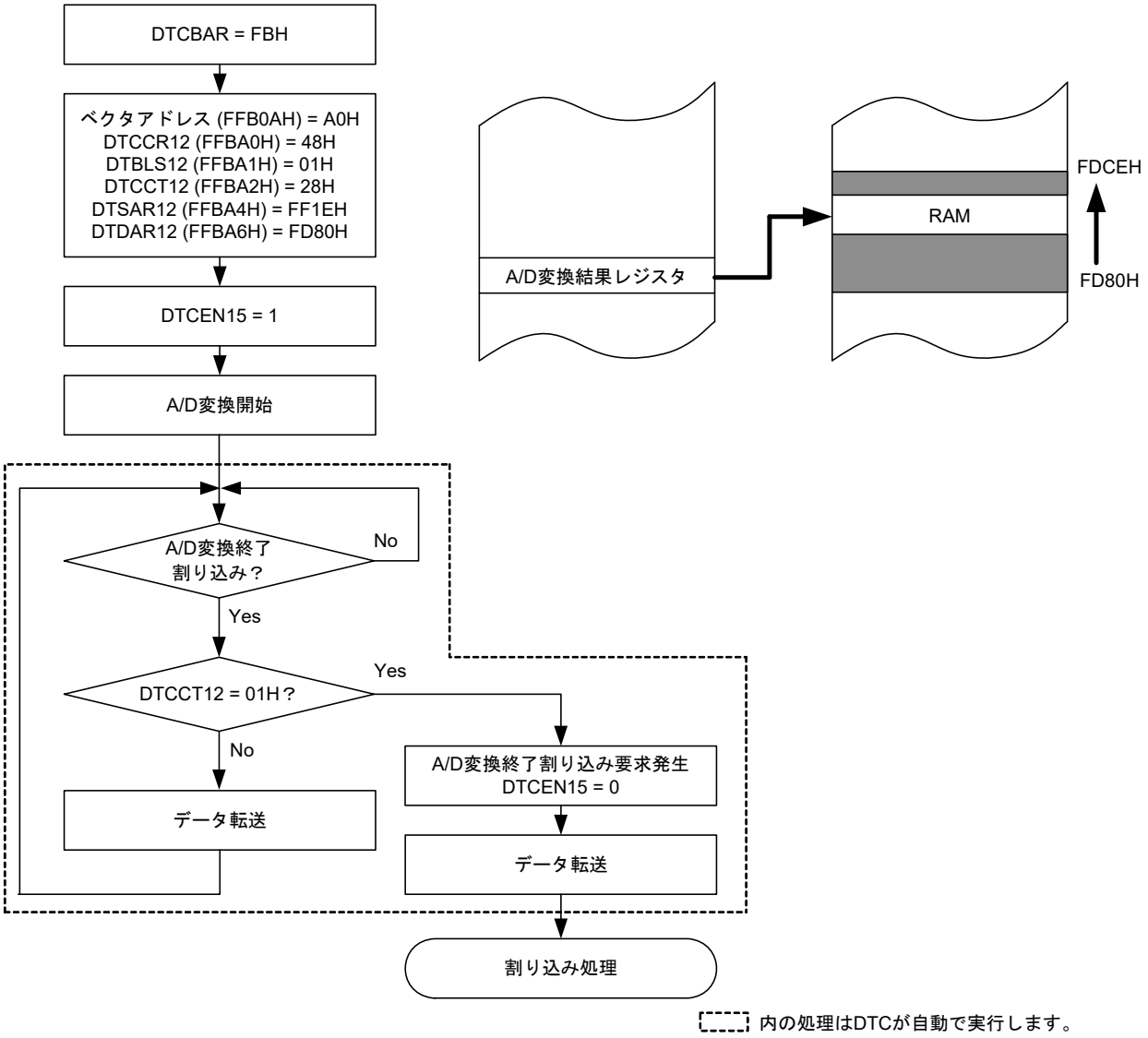
（1）ノーマルモードの使用例1：A/D変換結果の連続取り込み

A/D変換終了割り込みでDTCを起動し，A/D変換結果レジスタの値をRAMに転送します。

・ベクタアドレスはFFB0AH，コントロールデータはFFBA0H～FFBA7Hに配置

・A/D変換結果レジスタ（FFF1EH, FFF1FH）の2バイトデータをRAMのFFD80H～FFDCFHの80バイトへ40回転送

図22－16　ノーマルモードの使用例1：A/D変換結果の連続取り込み




ノーマルモードのため，DTRLD12レジスタの値は使用しませんが，RAMパリティ・エラー検出機能でパリティ・エラー・リセット発生を許可（RPERDIS = 0）している場合は，DTRLD12レジスタを初期化（00H）してください。

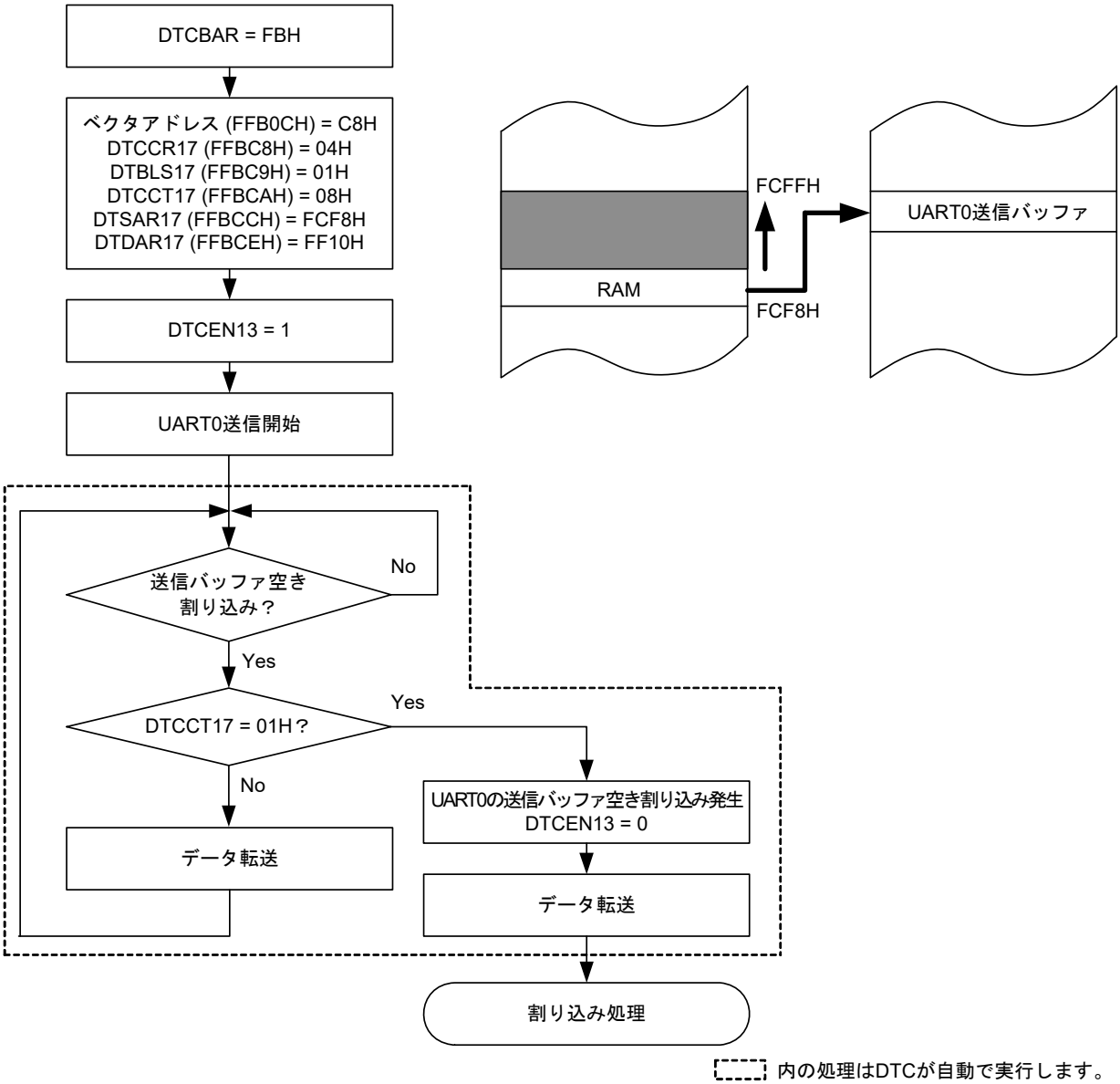
（2）ノーマルモードの使用例2：UART0連続送信

UART0の送信バッファ空き割り込みでDTCを起動し，RAMの値をUART0の送信バッファに転送します。

・ベクタアドレスはFFB0CH，コントロールデータはFFBC8H～FFBCFHに配置

・RAMのFFCF8H～FFCFFHの8バイトをUART0の送信バッファ（FFF10H）へ転送

図22－17　ノーマルモードの使用例2：UART0連続送信




ノーマルモードのため，DTRLD17レジスタの値は使用しませんが，RAMパリティ・エラー検出機能でパリティ・エラー・リセット発生を許可（RPERDIS = 0）している場合は，DTRLD17レジスタを初期化（00H）してください。

UART0の最初の送信は，ソフトウェアで開始してください。2回目以降の送信は送信バッファ空き割り込みでDTCが起動することにより，自動的に送信されます。

### 22. 4. 3　リピートモード

1回の起動で，1～255バイトを転送します。転送元，転送先のいずれか一方をリピートエリアに指定します。転送回数は1～255回です。指定回数の転送が終了すると，DTCCTj（j = 0～23）レジスタおよびリピートエリアに指定したアドレスが初期化され，転送を繰り返します。DTCCRjレジスタのRPTINTビットが1（割り込み発生許可）でDTCCTjレジスタが0になるデータ転送をDTCが行うとき，DTCは動作中に割り込みコントローラへ起動要因に対応した割り込み要求を発生し，DTCENi（i = 0～3）レジスタの対応するDTCENi0～DTCENi7ビットを0（起動禁止）にします。DTCCRjレジスタのRPTINTビットが0（割り込み発生禁止）の場合は，DTCCTjレジスタが0になるデータ転送を行っても，割り込み要求は発生しません。また，DTCENi0～DTCENi7ビットは0になりません。

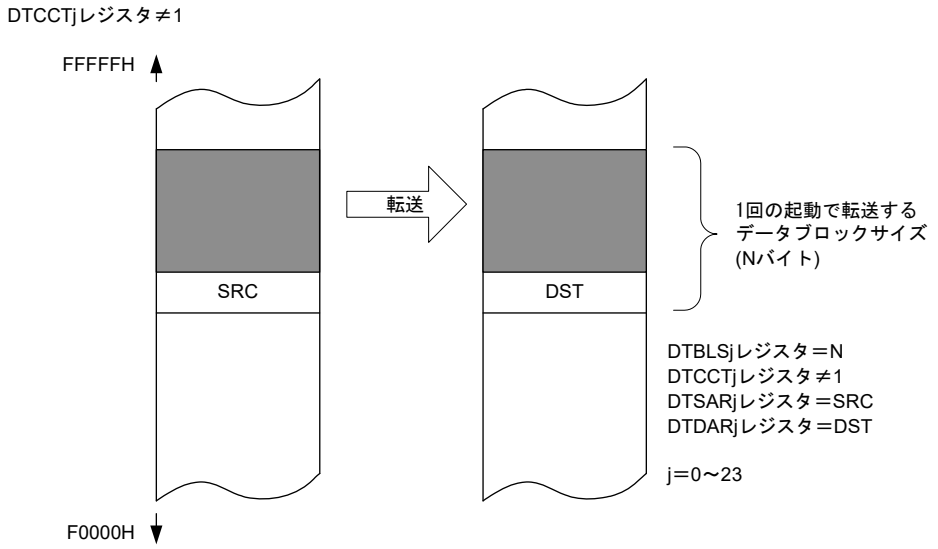
表22－8にリピートモードでのレジスタ機能を示します。図22－18にリピートモードでのデータ転送を示します。

表22－8　リピートモードでのレジスタ機能

| レジスタ名称 | シンボル | 機能 |
|---|---|---|
| DTCブロック・サイズ・レジスタj | DTBLSj | 1回の起動で転送するデータブロックサイズ |
| DTC転送回数レジスタj | DTCCTj | データ転送回数 |
| DTC転送回数リロード・レジスタj | DTRLDj | このレジスタの値をDTCCTレジスタへリロード<br>（データ転送回数を初期化） |
| DTCソース・アドレス・レジスタj | DTSARj | データの転送元アドレス |
| DTCデスティネーション・アドレス・レジスタj | DTDARj | データの転送先アドレス |

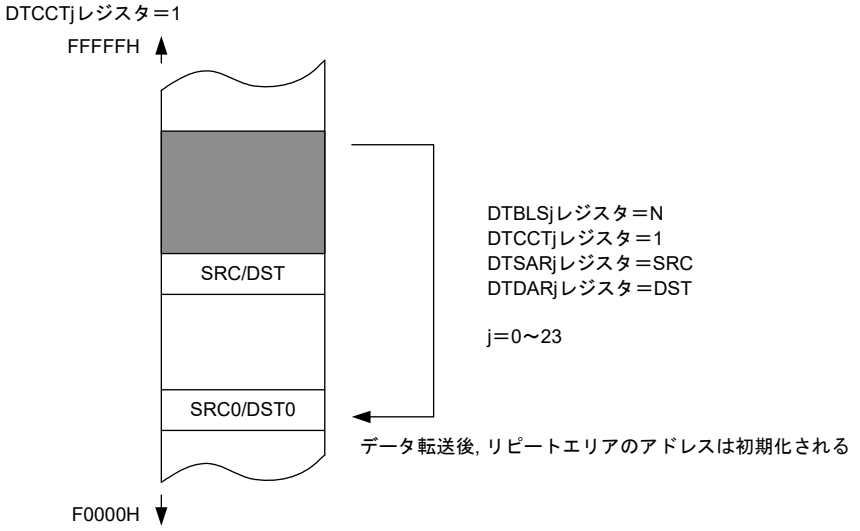
備考　j = 0～23

図22－18　リピートモードでのデータ転送




| DTCCRレジスタ設定 | | | | ソースアドレス制御 | デスティネーションアドレス制御 | 転送後のソースアドレス | 転送後のデスティネーションアドレス |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DAMOD | SAMOD | RPTSEL | MODE | | | | |
| 0 | X | 1 | 1 | リピートエリア | 固定 | SRC+N | DST |
| 1 | X | 1 | 1 | リピートエリア | 加算 | SRC+N | DST+N |
| X | 0 | 0 | 1 | 固定 | リピートエリア | SRC | DST+N |
| X | 1 | 0 | 1 | 加算 | リピートエリア | SRC+N | DST+N |

X：0または1




| DTCCRレジスタ設定 | | | | ソースアドレス制御 | デスティネーションアドレス制御 | 転送後のソースアドレス | 転送後のデスティネーションアドレス |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DAMOD | SAMOD | RPTSEL | MODE | | | | |
| 0 | X | 1 | 1 | リピートエリア | 固定 | SRC0 | DST |
| 1 | X | 1 | 1 | リピートエリア | 加算 | SRC0 | DST+N |
| X | 0 | 0 | 1 | 固定 | リピートエリア | SRC | DST0 |
| X | 1 | 0 | 1 | 加算 | リピートエリア | SRC+N | DST0 |

SRC0：ソースアドレス初期値
DST0：デスティネーションアドレス初期値
X：0または1

注意1.　リピートモード使用時は，リピートエリアに指定したアドレスの初期値の下位8ビットを00Hにしてください。

2.　リピートモード使用時は，リピートエリアのデータサイズを255バイト以内にしてください。

（1）リピートモードの使用例：ポートを使ったステッピングモータ制御パルス出力

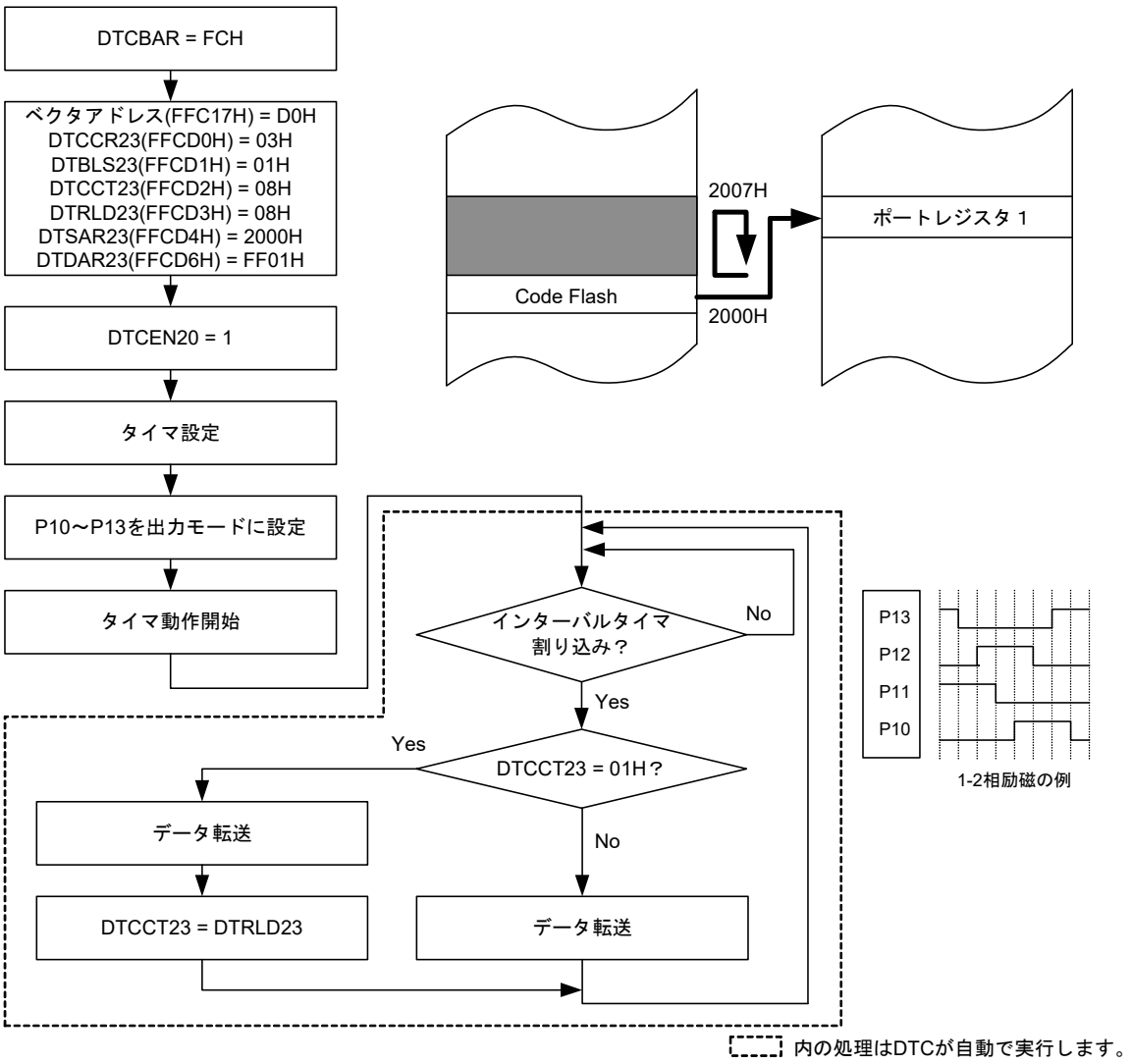
インターバルタイマの割り込みでDTCを起動し，Code Flashに格納されたモータ制御パルスのパタンを汎用ポートに転送します。

・ベクタアドレスはFFC0CH，コントロールデータはFFCD0H～FFCD7Hに配置

・Code Flashの02000H～02007Hの8バイトデータをミラー空間F2000H～F2007Hからポートレジスタ1（FFF01H）へ転送

・リピートモード割り込みは禁止

図22－19　リピートモードの使用例1：ポートを使ったステッピングモータ制御パルス出力




出力を停止する場合は，タイマを停止してから，DTCEN20をクリアしてください。

### 22. 4. 4　チェイン転送

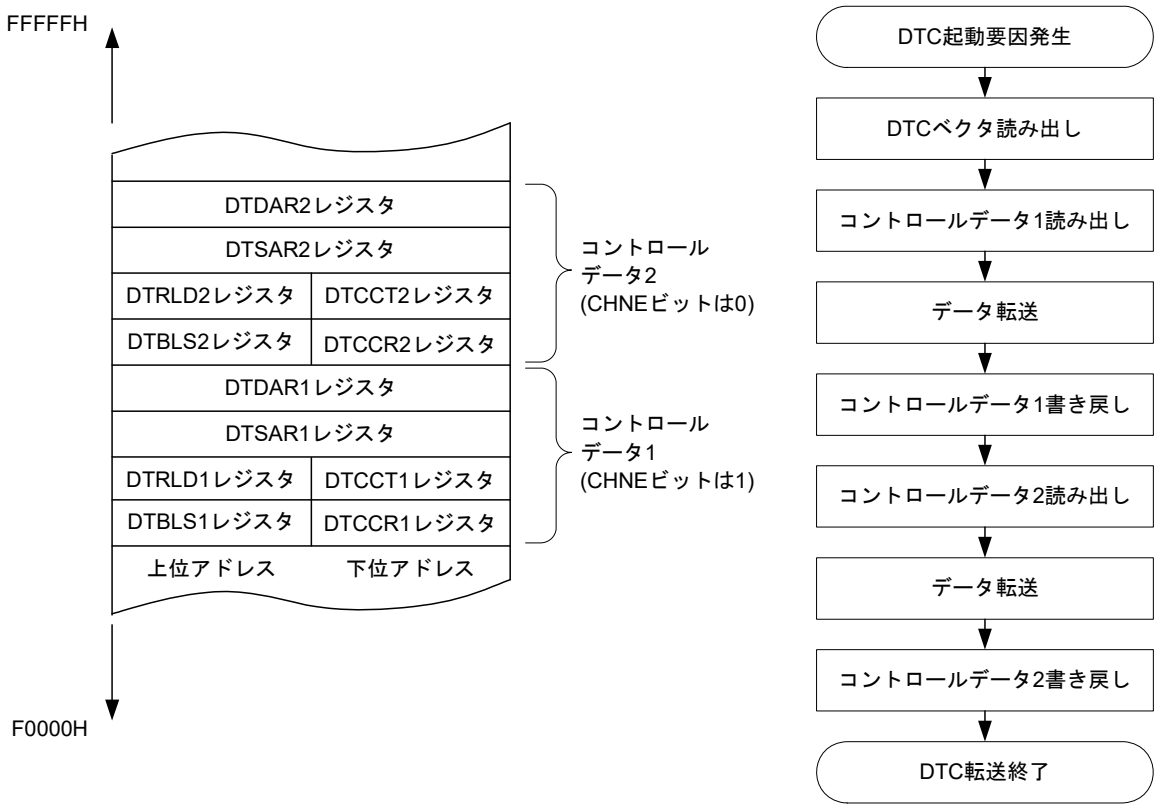
DTCCRj（j = 0～22）レジスタのCHNEビットが1（チェイン転送許可）のとき，１つの起動要因で複数のデータ転送を連続してできます。

DTCが起動すると，起動要因に対応したDTCベクタアドレスから読み出されたデータによりコントロールデータを選択し，DTCコントロールデータ領域上に配置されたコントロールデータを読み出します。読み出したコントロールデータのCHNEビットが1（チェイン転送許可）であれば，転送終了後，連続して配置した次のコントロールデータを読み出して転送します。この動作をCHNEビットが0（チェイン転送禁止）のコントロールデータのデータ転送が終了するまで続けます。

複数のコントロールデータを用いてチェイン転送を行う場合は，最初のコントロールデータに設定された転送回数が有効となり，2番目以降に処理されるコントロールデータの転送回数は無効となります。

図22－20にチェイン転送でのデータ転送を示します。

図22－20　チェイン転送でのデータ転送




注1.　DTCCR23レジスタのCHNEビットは0（チェイン転送禁止）にしてください。

2.　チェイン転送の場合，2回目以降のデータ転送では，DTCENi（i = 0～3）レジスタのDTCENi0～DTCENi7ビットは0（DTC起動禁止）になりません。また，割り込み要求は発生しません。

（1）チェイン転送の使用例：A/D変換結果の連続取り込みとUART送信

A/D変換終了割り込みでDTCを起動し，A/D変換結果をRAMに転送し，UARTで送信します。

・ベクタアドレスはFFB0AH

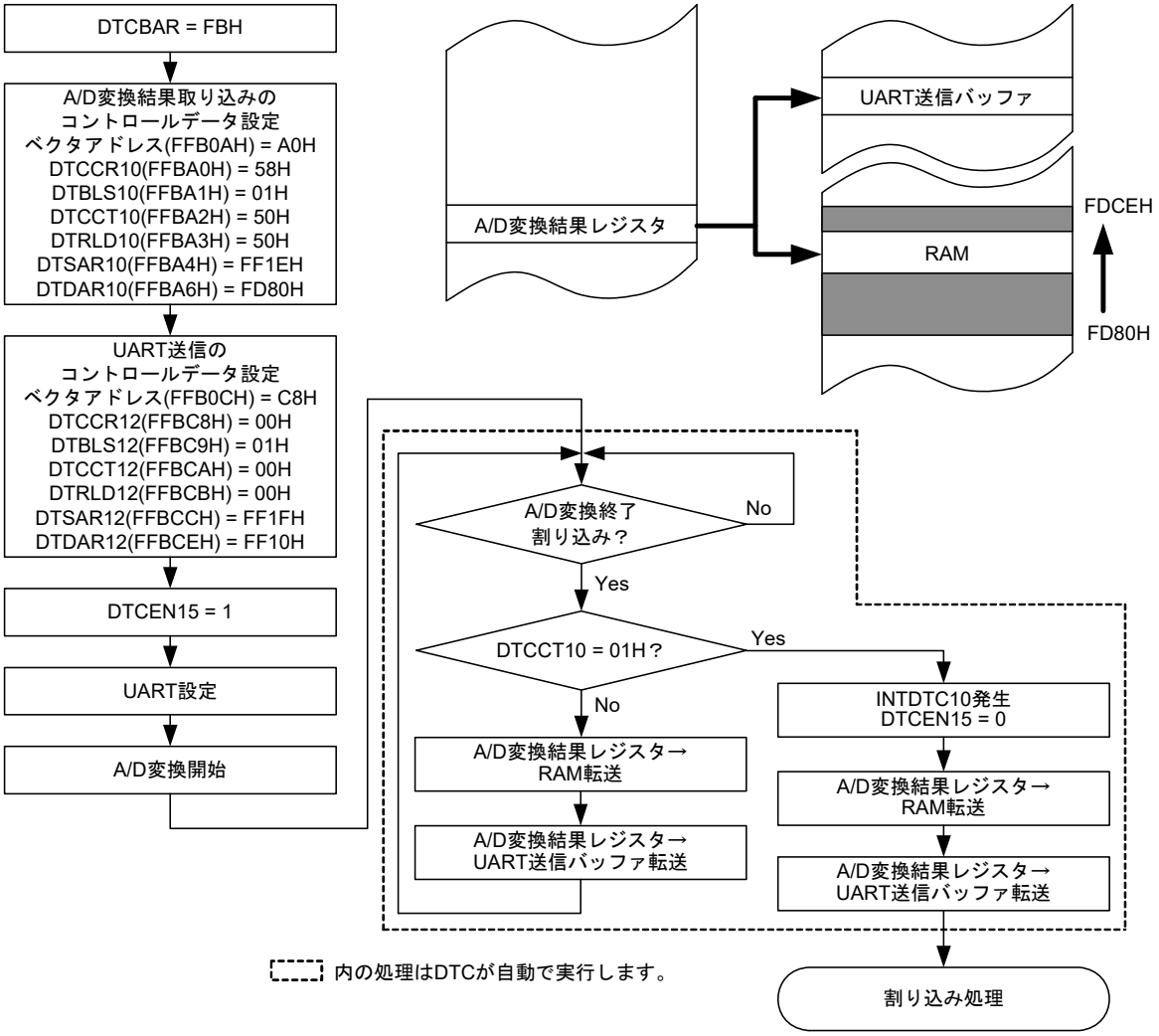
・A/D変換結果取り込みのコントロールデータはFFBA0H～FFBA7Hに配置

・UART送信のコントロールデータはFFBA8H～FFBAFHに配置

・A/D変換終了割り込みはTRIGER23に割り当て

・A/D変換結果レジスタ（FFF1FH，FFF1EH）の2バイトデータをRAMのFFD80H～FFDCFHに転送し，A/D変換結果レジスタの上位1バイト（FFF1FH）をUARTの送信バッファ（FFF10H）へ転送

図22－21　チェイン転送の使用例：A/D変換結果の連続取り込みとUART送信



## 22. 5　DTC使用上の注意事項

### 22. 5. 1　DTCのコントロールデータおよびベクタテーブルの設定

- DTC転送でDTCのSFRおよびDTCコントロールデータ領域，DTCベクタテーブル領域，汎用レジスタ（FFEE0H-FFEFFH）空間をアクセスしないでください。
- DTCベース・アドレス・レジスタ（DTCBAR）は，全てのDTC起動要因を起動禁止に設定した状態で変更してください。
- DTCベース・アドレス・レジスタ（DTCBAR）を2回以上書き換えないでください。
- DTCCRj, DTBLSj, DTCCTj, DTRLDj, DTSARj, DTDARjレジスタのデータは対応するDTCENi（i = 0-3）レジスタのDTCENi0-DTCENi7ビットが0（DTC起動禁止）のときに変更してください。
- ベクタテーブルに設定するDTCコントロールデータ領域の先頭番地は，対応するDTCENi（i = 0-3）レジスタのDTCENi0-DTCENi7ビットが0（DTC起動禁止）のときに変更してください。
- セルフ・プログラミング時は，DTCによる転送先／転送元で利用するRAMアドレスをFFE20H-FFEDFHの領域に設定しないでください。

### 22. 5. 2　DTCコントロールデータ領域とDTCベクタテーブル領域の配置

DTCコントロールデータとベクタテーブルを配置できる領域は製品によって異なります。

- 汎用レジスタ（FFEE0H-FFEFFH）の空間は，DTCコントロールデータ領域およびDTCベクタテーブル領域としての使用を禁止します。
- スタック領域とDTCコントロールデータ領域およびDTCベクタテーブル領域が重ならないようにしてください。
- 次に示す製品の内部RAM領域は，セルフ・プログラミング機能使用時にDTCコントロールデータ領域およびDTCベクタテーブル領域として使用できません。

  R5F10MMGDFB，R5F10MPGDFB：FDF00H-FE309H

  R5F10MMEDFB，R5F10MPEDFB：FE700H-FEB09H
- 次に示す製品の内部RAM領域は，オンチップ・デバッキングのトレース機能使用時にDTC コントロールデータ領域およびDTCベクタテーブル領域として使用できません。

  R5F10MME, R5F10MPE, R5F10MMG, R5F10MPG：FE300H-FE6FFH
- RAMパリティ・エラー検出機能でパリティ・エラー・リセット発生を許可(RPERDIS = 0)している場合は，ノーマルモード使用時においてもDTRLDレジスタを初期化(00H)してください。

### 22. 5. 3　DTC保留命令

DTC転送要求が発生しても，次の命令直後ではデータ転送は保留されます。また，PREFIX命令コードと直後の1命令の間にDTCが起動されることはありません。

- コールリターン命令
- 無条件分岐命令
- 条件付き分岐命令
- コード・フラッシュ・メモリへのリードアクセス命令
- IFxx, MKxx, PRxx, PSWへのビット操作命令とオペランドにESレジスタを含んだ8ビット操作命令
- 乗除積和算命令（MULU命令を除く）

注意1.　DTC転送要求を受け付けると，DTC転送が完了するまで，全ての割り込み要求が保留されます。

2.　DTC保留命令によるDTC保留中は，全ての割り込み要求が保留されます。

### 22. 5. 4　DTC実行クロック数

表22－9にDTC起動時の実行状況と必要なクロック数を示します。

表22－9　DTC起動時の実行状況と必要なクロック数

| ベクタ読み出し | コントロールデータ | | データ読み出し | データ書き込み |
|---|---|---|---|---|
| | 読み出し | 書き戻し | | |
| 1 | 4 | **注1** | **注2** | **注2** |

注1.　コントロールデータの書き戻しに必要なクロック数は，表22－10　コントロールデータの書き戻しに必要なクロック数を参照してください。

2.　データの読み出し/書き込みに必要なクロック数は，表22－11　データの読み出し/書き込みに必要なクロック数を参照してください。

表22－10　コントロールデータの書き戻しに必要なクロック数

| DTCCRレジスタ設定 | | | | アドレス設定 | | 書き戻すコントロール・レジスタ | | | | クロック数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DAMOD | SAMOD | RPTSEL | MODE | ソース | デスティネーション | DTCCTjレジスタ | DTRLDjレジスタ | DTSARjレジスタ | DTDARjレジスタ | |
| 0 | 0 | X | 0 | 固定 | 固定 | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻さない | 書き戻さない | 1 |
| 0 | 1 | X | 0 | 加算 | 固定 | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻さない | 2 |
| 1 | 0 | X | 0 | 固定 | 加算 | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻さない | 書き戻す | 2 |
| 1 | 1 | X | 0 | 加算 | 加算 | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻す | 3 |
| 0 | X | 1 | 1 | リピートエリア | 固定 | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻さない | 2 |
| 1 | X | 1 | 1 | | 加算 | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻す | 3 |
| X | 0 | 0 | 1 | 固定 | リピートエリア | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻さない | 書き戻す | 2 |
| X | 1 | 0 | 1 | 加算 | | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻す | 書き戻す | 3 |

備考　j = 0～23, X: 0または1

表22－11　データの読み出し/書き込みに必要なクロック数

| 実行状態 | RAM | コード・フラッシュ・メモリ | SFR | 2nd SFR | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ウェイトなし | ウェイトあり |
| データ読み出し | 1 | 2 | 1 | 1 | 1+ウェイト数[注] |
| データ書き込み | 1 | － | 1 | 1 | 1+ウェイト数[注] |

注　ウェイト数はアクセスする2nd SFRに配置されたレジスタの仕様によって異なります。

### 22. 5. 5　DTC応答時間

表22－12にDTCにおける応答時間を示します。DTC応答時間とはDTC起動要因の検出からDTC転送開始までの時間であり，DTC実行クロック数は含まれません。

表22－12　DTCにおける応答時間

| | 最小時間 | 最大時間 |
|---|---|---|
| 応答時間 | 3クロック | 19クロック |

ただし，以下の場合は更にDTCの応答が遅れる場合があります。遅れるクロック数は条件により異なります。

- 内部RAMからの命令実行の場合

  最大応答時間：20クロック

- DTC保留命令実行の場合（22. 5. 3　DTC保留命令を参照）

  最大応答時間：各条件時の最大応答時間＋その条件での保留する命令の実行クロック

- ウエイトが発生するレジスタをアクセスした場合

  最大応答時間：各条件時の最大応答時間＋1クロック

備考　1クロック：1/$f_{CLK}$（$f_{CLK}$：CPU／周辺ハードウェアクロック）

### 22. 5. 6　DTC起動要因

- DTC起動要因を入力してからDTC転送が完了するまでは同一起動要因を入力しないでください。
- DTC起動要因が発生する箇所で，その起動要因に対応したDTC起動許可ビットを操作しないでください。
- DTC起動要因が競合した場合は，CPUがDTC転送を受け付けたときに優先順位を判定して起動する要因を決定します。起動要因の優先順位は22. 3. 3　ベクタテーブルを参照してください。
- 次のいずれかの条件でDTC起動を許可した場合，DTC転送を開始し，転送終了後に割り込み要求が発生します。そのため必要に応じて，コンパレータのモニタフラグ（CnMON）を確認してからDTC起動許可にしてください。（n = 0-1）
  - コンパレータを片エッジ検出での割り込み要求に設定（CnEDG = 0），コンパレータの立ち上がりエッジで割り込み要求に設定（CnEPO = 0），かつIVCMP＞IVREF（または内部基準電圧1.45 V）の状態
  - コンパレータを片エッジ検出での割り込み要求に設定（CnEDG = 0），コンパレータの立ち下がりエッジで割り込み要求に設定（CnEPO = 1），かつIVCMP＜IVREF（または内部基準電圧1.45 V）の状態

### 22. 5. 7　スタンバイ・モード時の動作

| 状態 | DTC動作 |
|---|---|
| HALTモード | 動作可能（低消費RTCモード時は動作禁止） |
| STOPモード | DTC起動要因受付可能注2 |
| SNOOZEモード | 動作可能注1, 3, 4, 5 |

注1. SNOOZEモードは，$f_{CLK}$に高速オンチップ・オシレータ・クロックを選択している場合のみ設定可能です。

2. STOPモード時にDTC起動要因の検出によりSNOOZEモードに遷移して，DTC転送が可能です。また転送完了後はSTOPモードに戻ります。ただし，HALTモード，SNOOZEモード中はコード･フラッシュ・メモリが停止しているため，フラッシュ・メモリを転送元（ソース）にすることはできません。

3. CSIpのSNOOZEモード機能から転送完了割り込みをDTC起動要因とした場合，DTC転送完了後に転送完了割り込みでSNOOZEモードを解除しCPU処理を開始するか，チェイン転送を使い，CSIpの受信再設定（STm0ビットに1を書き込み，SWCmビットに0を書き込み，SSCmレジスタ設定，SSm0ビットに1を書き込み）をDTC転送で行ってください。

4. UARTqのSNOOZEモード機能から転送完了割り込みをDTC起動要因とした場合，DTC転送完了後に転送完了割り込みでSNOOZEモードを解除しCPU処理を開始するか，チェイン転送を使い，UARTqの受信再設定（STm1ビットに1を書き込み，SWCmビットに0を書き込み，SSCmレジスタ設定，SSm1ビットに1を書き込み）を行ってください。

5. A/DコンバータのSNOOZEモード機能からA/D変換終了割り込みをDTC起動要因とした場合，DTC転送完了後にA/D変換終了割り込みでSNOOZEモードを解除しCPU処理を開始するか，チェイン転送を使い，A/DコンバータのSNOOZEモード機能の再設定（AWCビットをクリアしたのちにセットする）を行ってください。

注意　DTCのSNOOZE機能とUARTのSNOOZE機能を同時に使用することはできません。

備考　p = 00;　q = 0;　m = 0

# 第23章　割り込み機能

プログラム実行中に，別の処理が必要になると，その処理プログラムに切り替える機能です。分岐先の処理を終えると，中断していた元のプログラム実行に戻ります。

| | | 割り込み要因 |
|---|---|---|
| マスカブル割り込み | 外部 | 10 |
| | 内部 | 33 |

## 23. 1　割り込み機能の種類

割り込み機能には，次の2種類があります。

（1）マスカブル割り込み

マスク制御を受ける割り込みです。優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L，PR00H，PR01L，PR01H，PR02L, PR02H, PR03L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PR12H, PR13L）の設定により，割り込み優先順位を4段階のグループに分けることができます。高い優先順位の割り込みは，低い優先順位の割り込みに対して，多重割り込みをすることができます。また，同一優先順位を持つ複数の割り込み要求が同時に発生しているときは，ベクタ割り込み処理のデフォルト・プライオリティにしたがって処理されます。デフォルト・プライオリティについては表23－1を参照してください。

スタンバイ・リリース信号を発生し，STOPモード，HALTモード，SNOOZEモードを解除します。

マスカブル割り込みには，外部割り込み要求と内部割り込み要求があります。

（2）ソフトウエア割り込み

BRK命令の実行によって発生するベクタ割り込みです。割り込み禁止状態でも受け付けられます。また，割り込み優先順位制御の対象になりません。

## 23. 2　割り込み要因と構成

割り込み要因には，マスカブル割り込み，ソフトウエア割り込みがあります。また，それ以外にリセット要因が最大で合計7要因あります（表23－1参照）。リセット，各割り込み要求発生により分岐するときのプログラム・スタート・アドレスを格納しておくベクタ・コードは，各2バイトとしているため割り込みの飛び先アドレスは00000H-0FFFFHの64 Kアドレスとなります。

表23－1　割り込み要因一覧（1/3）

| 割り込みの処理 | デフォルト・プライオリティ注1 | 割り込み要因 名称 | 割り込み要因 トリガ | 内部／外部 | ベクタ・テーブル・アドレス | 基本構成タイプ注2 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| マスカブル | 0 | INTWDTI | ウォッチドッグ・タイマのインターバル注3（オーバフロー時間の75%＋1/2fIL） | 内部 | 0004H | （A） |
| | 1 | INTLVI | 電圧検出注4 | | 0006H | |
| | 2 | INTP0注5 | 端子入力エッジ検出 | 外部 | 0008H | （B） |
| | 3 | INTP1 | | | 000AH | |
| | 4 | INTP2 | | | 000CH | |
| | 5 | INTP3 | | | 000EH | |
| | 6 | INTP4 | | | 0010H | |
| | 7 | INTP5 | | | 0012H | |
| | 8 | INTST2 | UART2送信の転送完了，バッファ空き割り込み | 内部 | 0014H | （A） |
| | 9 | INTSR2 | UART2受信の転送完了 | | 0016H | |
| | 10 | INTSRE2 | UART2受信の通信エラー発生 | | 0018H | |
| | 11 | INTST0 /INTCSI00 /INTIIC00 | UART0送信の転送完了，バッファ空き割り込み／CSI00の転送完了，バッファ空き割り込み／IIC00の転送完了 | | 001EH | |
| | 12 | INTTM00 | タイマ・チャネル00のカウント完了またはキャプチャ完了 | | 0020H | |
| | 13 | INTSR0 | UART0受信の転送完了 | | 0022H | |
| | 14 | INTSRE0 | UART0受信の通信エラー発生 | | 0024H | |
| | | INTTM01H | タイマ・チャネル01のカウント完了またはキャプチャ完了（上位8ビット・タイマ動作時） | | | |
| | 15 | INTST1 /INTIIC10 | UART1送信の転送完了，バッファ空き割り込み／IIC10の転送完了 | | 0026H | |
| | 16 | INTSR1 | UART1受信の転送完了 | | 0028H | |
| | 17 | INTSRE1 | UART1受信の通信エラー発生 | | 002AH | |
| | | INTTM03H | タイマ・チャネル03のカウント完了またはキャプチャ完了（上位8ビット・タイマ動作時） | | | |
| | 18 | INTIICA0 | IICA0通信完了 | | 002CH | |
| | 19 | INTRTIT | RTC補正タイミング | | 002EH | |
| | 20 | INTFM | 周波数測定完了 | | 0030H | |
| | 21 | INTTM01 | タイマ・チャネル01のカウント完了またはキャプチャ完了（16ビット／下位8ビット・タイマ動作時） | | 0032H | |

注 1.　デフォルト・プライオリティは，複数のマスカブル割り込みが発生している場合に，優先する順位です。0が最高順位，42が最低順位です。

2.　基本構成タイプの（A）-（C）は，それぞれ図23－1の（A）-（C）に対応しています。

3.　オプション・バイト（000C0H）のビット7（WDTINT）= 1選択時。

4.　電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）のビット7（LVIMD）= 0選択時。

5.　INTP0端子の入力バッファ電源は，内部$V_{DD}$に接続されています。バッテリ・バックアップ機能を使用し，VBAT端子から給電されている場合でも割り込みを受け付けることが可能です。

表23－1　割り込み要因一覧（2/3）

| 割り込みの処理 | デフォルト・プライオリティ注1 | 割り込み要因 名称 | 割り込み要因 トリガ | 内部／外部 | ベクタ・テーブル・アドレス | 基本構成タイプ注2 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| マスカブル | 22 | INTTM02 | タイマ・チャネル02のカウント完了またはキャプチャ完了 | 内部 | 0034H | （A） |
| | 23 | INTTM03 | タイマ・チャネル03のカウント完了またはキャプチャ完了（16ビット／下位8ビット・タイマ動作時） | | 0036H | |
| | 24 | INTAD | A/D変換終了 | | 0038H | |
| | 25 | INTRTC | リアルタイム・クロック2の定周期信号／アラーム一致検出 | | 003AH | |
| | 26 | INTIT | 12ビット・インターバル・タイマのインターバル信号検出 | | 003CH | |
| | 27 | INTDSAD | ΔΣA/D変換完了 | | 0044H | |
| | 28 | INTTM04 | タイマ・チャネル04のカウント完了またはキャプチャ完了 | | 0046H | |
| | 29 | INTTM05 | タイマ・チャネル05のカウント完了またはキャプチャ完了 | | 0048H | |
| | 30 | INTP6 | 端子入力エッジ検出 | 外部 | 004AH | （B） |
| | 31 | INTP7 | | | 004CH | |
| | 32 | INTCMP0 | コンパレータ検出0 | | 0050H | |
| | 33 | INTCMP1 | コンパレータ検出1 | | 0052H | |
| | 34 | INTTM06 | タイマ・チャネル06のカウント完了またはキャプチャ完了 | 内部 | 0054H | （A） |
| | 35 | INTTM07 | タイマ・チャネル07のカウント完了またはキャプチャ完了 | | 0056H | |
| | 36 | INTIT00 | 8ビット・インターバル・タイマ・チャネル00／チャネル0（カスケード時）比較一致検出 | | 0058H | |
| | 37 | INTIT01 | 8ビット・インターバル・タイマ・チャネル01比較一致検出 | | 005AH | |
| | 38 | INTCR | 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正完了 | | 005CH | |
| | 39 | INTOSDC | 発振停止検出 | | 0060H | |
| | 40 | INTIT10 | 8ビット・インターバル・タイマ・チャネル10／チャネル1（カスケード時）比較一致検出 | | 0068H | |
| | 41 | INTIT11 | 8ビット・インターバル・タイマ・チャネル11比較一致検出 | | 006AH | |
| | 42 | INTVBAT | 電源切り替え検出割り込み | | 006CH | |

注 1.　デフォルト・プライオリティは，複数のマスカブル割り込みが発生している場合に，優先する順位です。0が最高順位，42が最低順位です。

2.　基本構成タイプの（A）-（C）は，それぞれ図23－1の（A）-（C）に対応しています。

表23－1　割り込み要因一覧（3/3）

| 割り込みの処理 | デフォルト・プライオリティ[注1] | 割り込み要因 | | 内部／外部 | ベクタ・テーブル・アドレス | 基本構成タイプ[注2] |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 名称 | トリガ | | | |
| ソフトウエア | － | BRK | BRK命令の実行 | － | 007EH | （C） |
| リセット | － | RESET | $\overline{\text{RESET}}$端子入力 | － | 0000H | － |
| | | POR | パワーオン・リセット | | | |
| | | LVD | 電圧検出[注3] | | | |
| | | WDT | ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー | | | |
| | | TRAP | 不正命令の実行[注4] | | | |
| | | IAW | 不正メモリ・アクセス | | | |
| | | RPE | RAMパリティ・エラー | | | |

注 1.　デフォルト・プライオリティは，複数のマスカブル割り込みが発生している場合に，優先する順位です。0が最高順位，42が最低順位です。

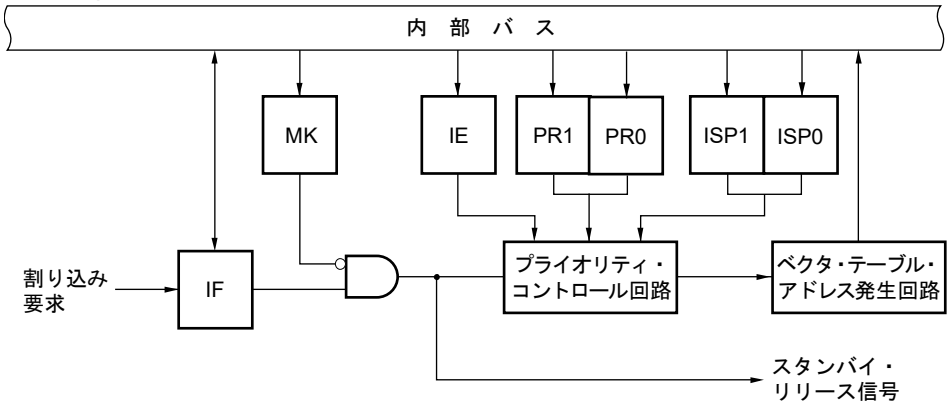
2.　基本構成タイプの（A）-（C）は，それぞれ図23－1の（A）-（C）に対応しています。

3.　電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）のビット7（LVIMD）= 1選択時。

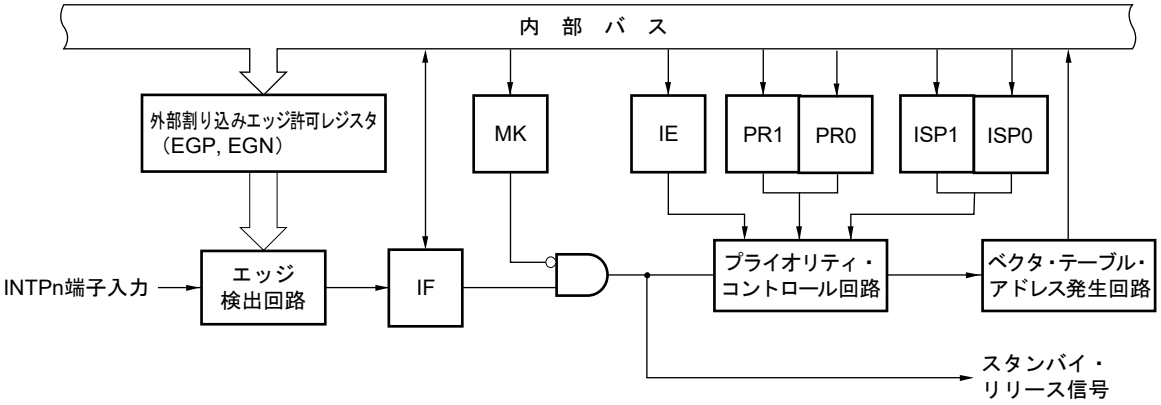
4.　FFHの命令コードを実行したときに発生します。
不正命令の実行によるリセットは，インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

図23－1　割り込み機能の基本構成

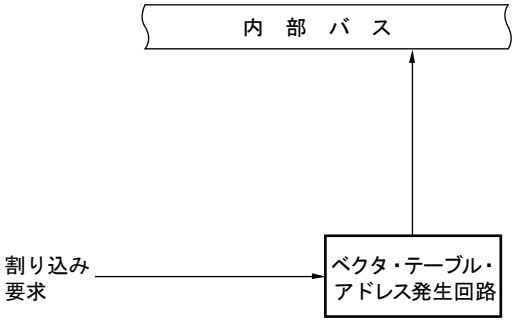
（A）内部マスカブル割り込み




（B）外部マスカブル割り込み（INTPn）




（C）ソフトウエア割り込み




IF　　：割り込み要求フラグ

IE　　：割り込み許可フラグ

ISP0　：インサービス・プライオリティ・フラグ0

ISP1　：インサービス・プライオリティ・フラグ1

MK　　：割り込みマスク・フラグ

PR0　　：優先順位指定フラグ0

PR1　　：優先順位指定フラグ1

備考　n = 0-7

## 23. 3　割り込み機能を制御するレジスタ

割り込み機能は，次の6種類のレジスタで制御します。

・割り込み要求フラグ・レジスタ（IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L, IF2H, IF3L）
・割り込みマスク・フラグ・レジスタ（MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L, MK2H, MK3L）
・優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR02H, PR03L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PR12H, PR13L）
・外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ（EGP0）
・外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ（EGN0）
・プログラム・ステータス・ワード（PSW）

各割り込み要求ソースに対応する割り込み要求フラグ，割り込みマスク・フラグ，優先順位指定フラグ名称を表23－2に示します。

表23－2　割り込み要求ソースに対応する各種フラグ（1/3）

| 割り込み要因 | 割り込み要求フラグ | レジスタ | 割り込みマスク・フラグ | レジスタ | 優先順位指定フラグ | レジスタ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| INTWDTI | WDTIIF | IF0L | WDTIMK | MK0L | WDTIPR0, WDTIPR1 | PR00L, PR10L |
| INTLVI | LVIIF | | LVIMK | | LVIPR0, LVIPR1 | |
| INTP0 | PIF0 | | PMK0 | | PPR00, PPR10 | |
| INTP1 | PIF1 | | PMK1 | | PPR01, PPR11 | |
| INTP2 | PIF2 | | PMK2 | | PPR02, PPR12 | |
| INTP3 | PIF3 | | PMK3 | | PPR03, PPR13 | |
| INTP4 | PIF4 | | PMK4 | | PPR04, PPR14 | |
| INTP5 | PIF5 | | PMK5 | | PPR05, PPR15 | |
| INTST2 | STIF2 | IF0H | STMK2 | MK0H | STPR02, STPR12 | PR00H, PR10H |
| INTSR2 | SRIF2 | | SRMK2 | | SRPR02, SRPR12 | |
| INTSRE2 | SREIF2 | | SREMK2 | | SREPR02, SREPR12 | |
| INTCSI00注 | CSIIF00注 | | CSIMK00注 | | CSIPR000, CSIPR100注 | |
| INTIIC00注 | IICIF00注 | | IICMK00注 | | IICPR000, IICPR100注 | |
| INTST0注 | STIF0注 | | STMK0注 | | STPR00, STPR10注 | |
| INTTM00 | TMIF00 | | TMMK00 | | TMPR000, TMPR100 | |
| INTSR0 | SRIF0 | | SRMK0 | | SRPR00, SRPR10 | |

注　割り込み要因INTST0, INTCSI00, INTIIC00のうち，いずれかが発生したら，IF0Hレジスタのビット5はセット（1）されます。また，MK0H, PR00H, PR10Hレジスタのビット5は，3つすべての割り込み要因に対応しています。

表23－2　割り込み要求ソースに対応する各種フラグ（2/3）

| 割り込み要因 | 割り込み要求フラグ | レジスタ | 割り込みマスク・フラグ | レジスタ | 優先順位指定フラグ | レジスタ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| INTSRE0[注1] | SREIF0[注1] | IF1L | SREMK0[注1] | MK1L | SREPR00, SREPR10[注1] | PR01L, PR11L |
| INTTM01H[注1] | TMIF01H[注1] | | TMMK01H[注1] | | TMPR001H, TMPR101H[注1] | |
| INTST1[注2] | STIF1[注2] | | STMK1[注2] | | STPR01, STPR11[注2] | |
| INTIIC10[注2] | IICIF10[注2] | | IICMK10[注2] | | IICPR010, IICPR110[注2] | |
| INTSR1 | SRIF1 | | SRMK1 | | SRPR01, SRPR11 | |
| INTSRE1[注3] | SREIF1[注3] | | SREMK1[注3] | | SREPR01, SREPR11[注3] | |
| INTTM03H[注3] | TMIF03H[注3] | | TMMK03H[注3] | | TMPR003H, TMPR103H[注3] | |
| INTIICA0 | IICAIF0 | | IICAMK0 | | IICAPR00, IICAPR10 | |
| INTRTIT | RTITIF | | RTITMK | | RTITPR0, RTITPR1 | |
| INTFM | FMIF | | FMMK | | FMPR0, FMPR1 | |
| INTTM01 | TMIF01 | | TMMK01 | | TMPR001, TMPR101 | |
| INTTM02 | TMIF02 | IF1H | TMMK02 | MK1H | TMPR002, TMPR102 | PR01H, PR11H |
| INTTM03 | TMIF03 | | TMMK03 | | TMPR003, TMPR103 | |
| INTAD | ADIF | | ADMK | | ADPR0, ADPR1 | |
| INTRTC | RTCIF | | RTCMK | | RTCPR0, RTCPR1 | |
| INTIT | TMKAIF | | TMKAMK | | TMKAPR0, TMKAPR1 | |
| INTDSAD | DSAIF | IF2L | DSAMK | MK2L | DSAPR0, DSAPR1 | PR02L, PR12L |
| INTTM04 | TMIF04 | | TMMK04 | | TMPR004, TMPR104 | |
| INTTM05 | TMIF05 | | TMMK05 | | TMPR005, TMPR105 | |
| INTP6 | PIF6 | | PMK6 | | PPR06, PPR16 | |
| INTP7 | PIF7 | | PMK7 | | PPR07, PPR17 | |
| INTCMP0 | CMPIF0 | | CMPMK0 | | CMPPR00, CMPPR10 | |
| INTCMP1 | CMPIF1 | | CMPMK1 | | CMPPR01, CMPPR11 | |

注 1. UART0受信のエラー割り込み, TAU0のチャネル1（上位8ビット・タイマ動作時）の割り込みは，割り込み要求ソースに対する各種フラグを兼用しているため，同時に使用しないでください。UART0受信のエラー割り込みを使用しない（EOC01 = 0）場合は，UART0, TAU0のチャネル1（上位8ビット・タイマ動作時）を同時に使用できます。割り込み要因INTSRE0, INTTM01Hのうち，どちらかが発生したら，IF1Lレジスタのビット0はセット（1）されます。また，MK1L, PR01L, PR11Lレジスタのビット0は，両方の割り込み要因に対応しています。

2. 割り込み要因INTST1, INTIIC10のうち，どちらかが発生したら，IF1Lレジスタのビット1はセット（1）されます。また，MK1L, PR01L, PR11Lレジスタのビット1は，2つすべての割り込み要因に対応しています。

3. UART1受信のエラー割り込み, TAU0のチャネル3（上位8ビット・タイマ動作時）の割り込みは，割り込み要求ソースに対する各種フラグを兼用しているため，同時に使用しないでください。UART1受信のエラー割り込みを使用しない（EOC03 = 0）場合は，UART1, TAU0のチャネル3（上位8ビット・タイマ動作時）を同時に使用できます。割り込み要因INTSRE1, INTTM03Hのうち，どちらかが発生したら，IF1Lレジスタのビット3はセット（1）されます。また，MK1L, PR01L, PR11Lレジスタのビット3は，両方の割り込み要因に対応しています。

表23－2　割り込み要求ソースに対応する各種フラグ（3/3）

| 割り込み要因 | 割り込み要求フラグ | レジスタ | 割り込みマスク・フラグ | レジスタ | 優先順位指定フラグ | レジスタ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| INTTM06 | TMIF06 | IF2H | TMMK06 | MK2H | TMPR006, TMPR106 | PR02H, PR12H |
| INTTM07 | TMIF07 | | TMMK07 | | TMPR007, TMPR107 | |
| INTIT00 | ITIF00 | | ITMK00 | | ITPR000, ITPR100 | |
| INTIT01 | ITIF01 | | ITMK01 | | ITPR001, ITPR101 | |
| INTCR | CRIF | | CRMK | | CRPR0, CRPR1 | |
| INTOSDC | OSDIF | | OSDMK | | OSDPR0, OSDPR1 | |
| INTIT10 | ITIF10 | IF3L | ITMK10 | MK3L | ITPR010, ITPR110 | PR03L, PR13L |
| INTIT11 | ITIF11 | | ITMK11 | | ITPR011, ITPR111 | |
| INTVBAT | VBAIF | | VBAMK | | VBAPR0, VBAPR1 | |

### 23. 3. 1　割り込み要求フラグ・レジスタ（IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L, IF2H, IF3L）

割り込み要求フラグは，対応する割り込み要求の発生または命令の実行によりセット（1）され，割り込み要求受け付け時，リセット信号発生時または命令の実行によりクリア（0）されるフラグです。

割り込みが受け付けられた場合，まず割り込み要求フラグが自動的にクリアされてから割り込みルーチンに入ります。

IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L, IF2H, IF3Lレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。また，IF0LレジスタとIF0Hレジスタ，IF1LレジスタとIF1Hレジスタ，IF2LレジスタとIF2Hレジスタをあわせて16ビット・レジスタIF0, IF1, IF2として使用するときは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

備考　このレジスタへの書き込み命令を行った場合，命令実行クロック数が2クロック長くなります。

図23－2　割り込み要求フラグ・レジスタ（IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L, IF2H, IF3L）のフォーマット（1/2）

アドレス：FFFE0H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IF0L | PIF5 | PIF4 | PIF3 | PIF2 | PIF1 | PIF0 | LVIIF | WDTIIF |

アドレス：FFFE1H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IF0H | SRIF0 | TMIF00 | STIF0<br>CSIIF00<br>IICIF00 | 0 | 0 | SREIF2 | SRIF2 | STIF2 |

アドレス：FFFE2H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IF1L | TMIF01 | FMIF | RTITIF | IICAIF0 | SREIF1<br>TMIF03H | SRIF1 | STIF1<br>IICIF10 | SREIF0<br>TMIF01H |

アドレス：FFFE3H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IF1H | 0 | 0 | 0 | TMKAIF | RTCIF | ADIF | TMIF03 | TMIF02 |

アドレス：FFFD0H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IF2L | CMPIF1 | CMPIF0 | 0 | PIF7 | PIF6 | TMIF05 | TMIF04 | DSAIF |

アドレス：FFFD1H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IF2H | 0 | OSDIF | 0 | CRIF | ITIF01 | ITIF00 | TMIF07 | TMIF06 |

図23－2　割り込み要求フラグ・レジスタ（IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L, IF2H, IF3L）のフォーマット（2/2）

アドレス：FFFD2H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IF3L | 0 | 0 | 0 | VBAIF | ITIF11 | ITIF10 | 0 | 0 |

| XXIFX | 割り込み要求フラグ |
|---|---|
| 0 | 割り込み要求信号が発生していない |
| 1 | 割り込み要求信号が発生し，割り込み要求状態 |

注意1.　ビットについては，表23－2を参照してください。また，搭載していないビットには必ず0を設定してください。

2.　割り込み要求フラグ・レジスタのフラグ操作には，1ビット・メモリ操作命令（CLR1）を使用してください。C言語での記述の場合は，コンパイルされたアセンブラが1ビット・メモリ操作命令（CLR1）になっている必要があるため，「IF0L.0 = 0;」や「_asm(“clr1 IF0L,0”);」のようなビット操作命令を使用してください。

なお，C言語で「IF0L & = 0xfe;」のように8ビット・メモリ操作命令で記述した場合，コンパイルすると3命令のアセンブラになります。

```
mov a, IF0L
and a, #0FEH
mov IF0L, a
```

この場合，「mov a, IF0L」後から「mov IF0L, a」の間のタイミングで，同一の割り込み要求フラグ・レジスタ（IF0L）の他ビットの要求フラグがセット（1）されても，「mov IF0L, a」でクリア（0）されます。したがって，C言語で8ビット・メモリ操作命令を使用する場合は注意が必要です。

### 23. 3. 2　割り込みマスク・フラグ・レジスタ（MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L, MK2H, MK3L）

割り込みマスク・フラグは，対応するマスカブル割り込みの許可／禁止を設定するフラグです。

MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L, MK2H, MK3Lレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。また，MK0LレジスタとMK0Hレジスタ，MK1LレジスタとMK1Hレジスタ，MK2LレジスタとMK2Hレジスタをあわせて16ビット・レジスタMK0, MK1, MK2として使用するときは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります。

備考　このレジスタへの書き込み命令を行った場合，命令実行クロック数が2クロック長くなります。

図23－3　割り込みマスク・フラグ・レジスタ（MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L, MK2H, MK3L）のフォーマット

アドレス：FFFE4H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MK0L | PMK5 | PMK4 | PMK3 | PMK2 | PMK1 | PMK0 | LVIMK | WDTIMK |

アドレス：FFFE5H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MK0H | SRMK0 | TMMK00 | STMK0<br>CSIMK00<br>IICMK00 | 1 | 1 | SREMK2 | SRMK2 | STMK2 |

アドレス：FFFE6H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MK1L | TMMK01 | FMMK | RTITMK | IICAMK0 | SREMK1<br>TMMK03H | SRMK1 | STMK1<br>IICMK10 | SREMK0<br>TMMK01H |

アドレス：FFFE7H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MK1H | 1 | 1 | 1 | TMKAMK | RTCMK | ADMK | TMMK03 | TMMK02 |

アドレス：FFFD4H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MK2L | CMPMK1 | CMPMK0 | 1 | PMK7 | PMK6 | TMMK05 | TMMK04 | DSAMK |

アドレス：FFFD5H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MK2H | 1 | OSDMK | 1 | CRMK | ITMK01 | ITMK00 | TMMK07 | TMMK06 |

アドレス：FFFD6H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MK3L | 1 | 1 | 1 | VBAMK | ITMK11 | ITMK10 | 1 | 1 |

| XXMKX | 割り込み処理の制御 |
|---|---|
| 0 | 割り込み処理許可 |
| 1 | 割り込み処理禁止 |

注意　ビットについては，表23－2を参照してください。また，搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

### 23. 3. 3　優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR02H, PR03L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PR12H, PR13L）

優先順位指定フラグは，対応するマスカブル割り込みの優先順位レベルを設定するフラグです。

PR0xyレジスタとPR1xyレジスタを組み合わせて，優先順位レベルを設定します（xy = 0L, 0H, 1L, 1H, 2L, 2H）。

PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR02H, PR03L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PR12H, PR13Lレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。また，PR00LレジスタとPR00Hレジスタ，PR01LレジスタとPR01Hレジスタ，PR02LレジスタとPR02Hレジスタ，PR10LレジスタとPR10Hレジスタ，PR11LレジスタとPR11Hレジスタ，PR12LレジスタとPR12Hレジスタをあわせて16ビット・レジスタPR00, PR01, PR02, PR10, PR11, PR12として使用するときは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，FFHになります。

備考　このレジスタへの書き込み命令を行った場合，命令実行クロック数が2クロック長くなります。

図23－4　優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR02H, PR03L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PR12H, PR13L）のフォーマット（1/2）

アドレス：FFFE8H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR00L | PPR05 | PPR04 | PPR03 | PPR02 | PPR01 | PPR00 | LVIPR0 | WDTIPR0 |

アドレス：FFFECH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR10L | PPR15 | PPR14 | PPR13 | PPR12 | PPR11 | PPR10 | LVIPR1 | WDTIPR1 |

アドレス：FFFE9H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR00H | SRPR00 | TMPR000 | STPR00<br>CSIPR000<br>IICPR000 | 1 | 1 | SREPR02 | SRPR02 | STPR02 |

アドレス：FFFEDH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR10H | SRPR10 | TMPR100 | STPR10<br>CSIPR100<br>IICPR100 | 1 | 1 | SREPR12 | SRPR12 | STPR12 |

アドレス：FFFEAH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR01L | TMPR001 | FMPR0 | RTITPR0 | IICAPR00 | SREPR01<br>TMPR003H | SRPR01 | STPR01<br>IICPR010 | SREPR00<br>TMPR001H |

図23－4　優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR02H, PR03L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PR12H, PR13L）のフォーマット（2/2）

アドレス：FFFEEH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR11L | TMPR101 | FMPR1 | RTITPR1 | IICAPR10 | SREPR11<br>TMPR103H | SRPR11 | STPR11<br>IICPR110 | SREPR10<br>TMPR101H |

アドレス：FFFEBH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR01H | 1 | 1 | 1 | TMKAPR0 | RTCPR0 | ADPR0 | TMPR003 | TMPR002 |

アドレス：FFFEFH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR11H | 1 | 1 | 1 | TMKAPR1 | RTCPR1 | ADPR1 | TMPR103 | TMPR102 |

アドレス：FFFD8H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR02L | CMPPR01 | CMPPR00 | 1 | PPR07 | PPR06 | TMPR005 | TMPR004 | DSAPR0 |

アドレス：FFFDCH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR12L | CMPPR11 | CMPPR10 | 1 | PPR17 | PPR16 | TMPR105 | TMPR104 | DSAPR1 |

アドレス：FFFD9H　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR02H | 1 | OSDPR0 | 1 | CRPR0 | ITPR001 | ITPR000 | TMPR007 | TMPR006 |

アドレス：FFFDDH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR12H | 1 | OSDPR1 | 1 | CRPR1 | ITPR101 | ITPR100 | TMPR107 | TMPR106 |

アドレス：FFFDAH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR03L | 1 | 1 | 1 | VBAPR0 | ITPR011 | ITPR010 | 1 | 1 |

アドレス：FFFDEH　リセット時：FFH　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PR13L | 1 | 1 | 1 | VBAPR1 | ITPR111 | ITPR110 | 1 | 1 |

| XXPR1X | XXPR0X | 優先順位レベルの選択 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | レベル0を指定（高優先順位） |
| 0 | 1 | レベル1を指定 |
| 1 | 0 | レベル2を指定 |
| 1 | 1 | レベル3を指定（低優先順位） |

注意　ビットについては，表23－2を参照してください。また，搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

### 23. 3. 4　外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ（EGP0），外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ（EGN0）

INTP0-INTP7の有効エッジを設定するレジスタです。

EGP0, EGN0レジスタは，それぞれ1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図23－5　外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ（EGP0），外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ（EGN0）のフォーマット

アドレス：FFF38H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| EGP0 | EGP7 | EGP6 | EGP5 | EGP4 | EGP3 | EGP2 | EGP1 | EGP0 |

アドレス：FFF39H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| EGN0 | EGN7 | EGN6 | EGN5 | EGN4 | EGN3 | EGN2 | EGN1 | EGN0 |

| EGPn | EGNn | INTPn端子の有効エッジの選択（n = 0-7） |
|---|---|---|
| 0 | 0 | エッジ検出禁止 |
| 0 | 1 | 立ち下がりエッジ |
| 1 | 0 | 立ち上がりエッジ |
| 1 | 1 | 立ち上がり，立ち下がりの両エッジ |

EGPnビットとEGNnビットに対応するポートを表23－3に示します。

表23－3　EGPnビットとEGNnビットに対応する割り込み要求信号

| 検出許可ビット | | 割り込み要求信号 |
|---|---|---|
| EGP0 | EGN0 | INTP0 |
| EGP1 | EGN1 | INTP1 |
| EGP2 | EGN2 | INTP2 |
| EGP3 | EGN3 | INTP3 |
| EGP4 | EGN4 | INTP4 |
| EGP5 | EGN5 | INTP5 |
| EGP6 | EGN6 | INTP6 |
| EGP7 | EGN7 | INTP7 |

注意　外部割り込み機能で使用している入力ポートを出力モードに切り替えると，有効エッジを検出してINTPn割り込みが発生する可能性があります。
出力モードに切り替える場合は，エッジ検出禁止（EGPn, EGNn=0, 0）にしてからポート・モード・レジスタ（PMxx）を0に設定してください。

備考 1.　エッジ検出ポートに関しては，2. 1　ポート機能を参照してください。
2.　n = 0-7

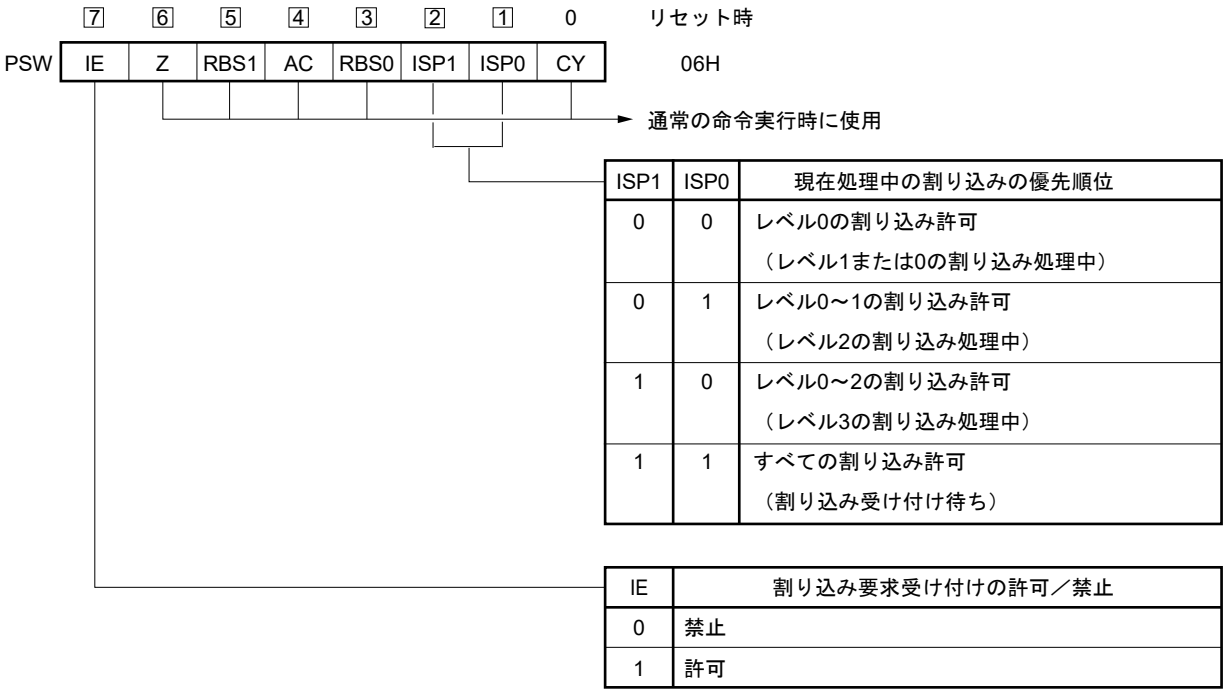
### 23. 3. 5　プログラム・ステータス・ワード（PSW）

プログラム・ステータス・ワードは，命令の実行結果や割り込み要求に対する現在の状態を保持するレジスタです。マスカブル割り込みの許可／禁止を設定するIEフラグと多重割り込み処理の制御を行うISP0, ISP1フラグがマッピングされています。

8ビット単位で読み出し／書き込み操作ができるほか，ビット操作命令や専用命令（EI，DI）により操作ができます。また，ベクタ割り込み要求受け付け時および，BRK命令実行時には，PSWの内容は自動的にスタックに退避され，IEフラグはリセット（0）されます。また，マスカブル割り込み要求受け付け時には，受け付けた割り込みの優先順位指定フラグ・レジスタの内容が00以外は，“－1”された値がISP0, ISP1フラグに転送されます。PUSH PSW命令によってもPSWの内容はスタックに退避されます。RETI, RETB, POP PSW命令により，スタックから復帰します。

リセット信号の発生により，PSWは06Hとなります。

図23－6　プログラム・ステータス・ワードの構成




| ISP1 | ISP0 | 現在処理中の割り込みの優先順位 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | レベル0の割り込み許可<br>（レベル1または0の割り込み処理中） |
| 0 | 1 | レベル0～1の割り込み許可<br>（レベル2の割り込み処理中） |
| 1 | 0 | レベル0～2の割り込み許可<br>（レベル3の割り込み処理中） |
| 1 | 1 | すべての割り込み許可<br>（割り込み受け付け待ち） |

| IE | 割り込み要求受け付けの許可／禁止 |
|---|---|
| 0 | 禁止 |
| 1 | 許可 |

## 23. 4　割り込み処理動作

### 23. 4. 1　マスカブル割り込み要求の受け付け動作

マスカブル割り込み要求は，割り込み要求フラグがセット（1）され，その割り込み要求のマスク（MK）フラグがクリア（0）されていると受け付けが可能な状態になります。ベクタ割り込み要求は，割り込み許可状態（IEフラグがセット（1）されているとき）であれば受け付けます。ただし，優先順位の高い割り込みを処理中に低い優先順位に指定されている割り込み要求は受け付けられません。

マスカブル割り込み要求が発生してからベクタ割り込み処理が行われるまでの時間は表23－4のようになります。

割り込み要求の受け付けタイミングについては，図23－8, 23－9を参照してください。

表23－4　マスカブル割り込み要求発生から処理までの時間

| | 最小時間 | 最大時間注 |
|---|---|---|
| 処理時間 | 9クロック | 16クロック |

注　内部RAM 領域からの命令実行時は除きます。

備考　1クロック：1/$f_{CLK}$（$f_{CLK}$：CPUクロック）

複数のマスカブル割り込み要求が同時に発生したときは，優先順位指定フラグで高優先順位に指定されているものから受け付けられます。また，優先順位指定フラグで同一優先順位に指定されているときは，デフォルト優先順位の高い割り込みから受け付けられます。

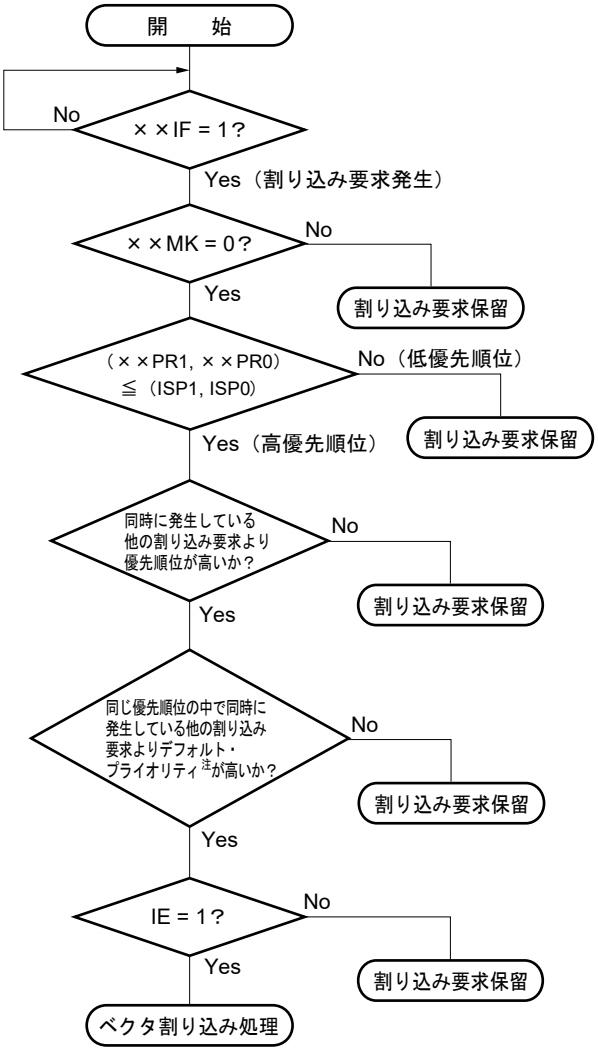
保留された割り込み要求は受け付け可能な状態になると受け付けられます。

割り込み要求受け付けのアルゴリズムを図23－7に示します。

マスカブル割り込み要求が受け付けられると，プログラム・ステータス・ワード（PSW），プログラム・カウンタ（PC）の順に内容をスタックに退避し，IEフラグをリセット（0）し，受け付けた割り込みの優先順位指定フラグの内容をISP1，ISP0フラグへ転送します。さらに，割り込み要求ごとに決められたベクタ・テーブル中のデータをPCへロードし，分岐します。

RETI命令によって，割り込みから復帰できます。

図23－7　割り込み要求受け付け処理アルゴリズム




××IF　　：割り込み要求フラグ

××MK　　：割り込みマスク・フラグ

××PR0　　：優先順位指定フラグ0

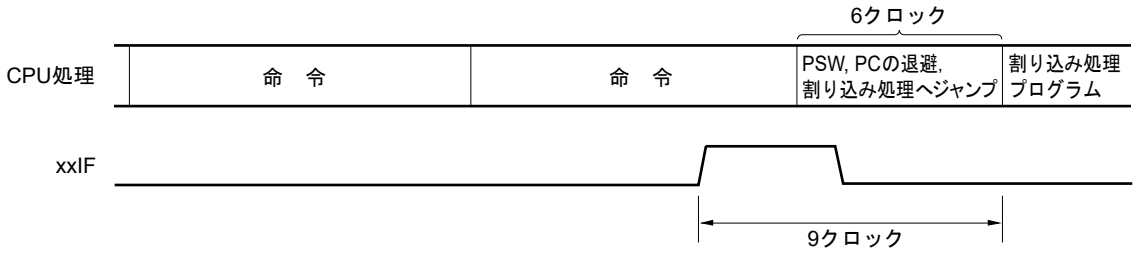
××PR1　　：優先順位指定フラグ1

IE　　：マスカブル割り込み要求の受け付けを制御するフラグ（1 = 許可，0 = 禁止）

ISP0, ISP1　　：現在処理中の割り込みの優先順位を示すフラグ（図23－6参照）

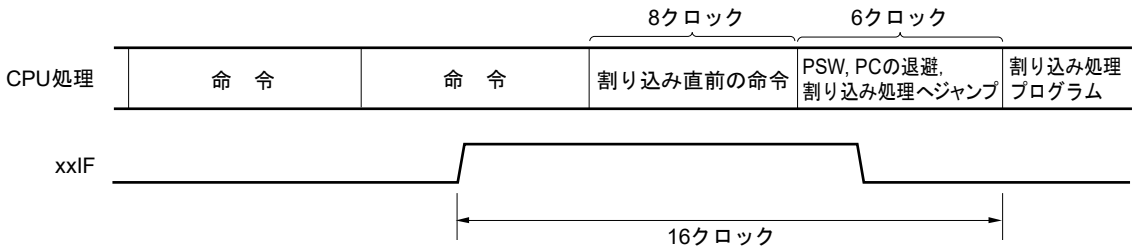
注　デフォルト・プライオリティは，表23－1　割り込み要因一覧を参照してください。

図23－8　割り込み要求の受け付けタイミング（最小時間）




備考　1クロック：1/$f_{CLK}$（$f_{CLK}$：CPUクロック）

図23－9　割り込み要求の受け付けタイミング（最大時間）




備考　1クロック：1/$f_{CLK}$（$f_{CLK}$：CPUクロック）

### 23. 4. 2　ソフトウエア割り込み要求の受け付け動作

ソフトウエア割り込み要求はBRK命令の実行により受け付けられます。ソフトウエア割り込みは禁止することはできません。

ソフトウエア割り込み要求が受け付けられると，プログラム・ステータス・ワード（PSW），プログラム・カウンタ（PC）の順に内容をスタックに退避し，IEフラグをリセット（0）し，ベクタ・テーブル（0007EH, 0007FH）の内容をPCにロードして分岐します。

RETB命令によって，ソフトウエア割り込みから復帰できます。

注意　ソフトウエア割り込みからの復帰にRETI命令は使用できません。

### 23. 4. 3　多重割り込み処理

割り込み処理中に，さらに別の割り込み要求を受け付けることを多重割り込みといいます。

多重割り込みは，割り込み要求受け付け許可状態（IE = 1）になっていなければ発生しません。割り込み要求が受け付けられた時点で，割り込み要求は受け付け禁止状態（IE = 0）になります。したがって，多重割り込みを許可するには，割り込み処理中にEI命令によってIEフラグをセット（1）して，割り込み許可状態にする必要があります。

また，割り込み許可状態であっても，多重割り込みが許可されない場合がありますが，これは割り込みの優先順位によって制御されます。割り込みの優先順位には，デフォルト優先順位とプログラマブル優先順位の2つがありますが，多重割り込みの制御はプログラマブル優先順位制御により行われます。

割り込み許可状態で，現在処理中の割り込みより高い優先順位の割り込み要求が発生した場合には，多重割り込みとして受け付けられます。現在処理中の割り込みと同レベルか，より低い優先順位の割り込み要求が発生した場合には，多重割り込みとして受け付けられません。ただし，レベル0の割り込み中にIEフラグをセット（1）した場合には，レベル0の他の割り込みも許可されます。

割り込み禁止，または低優先順位のために多重割り込みが許可されなかった割り込み要求は保留されます。そして，現在の割り込み処理終了後，メイン処理の命令を少なくとも1命令実行後に受け付けられます。

表23－5に多重割り込み可能な割り込み要求の関係を，図23－10に多重割り込みの例を示します。

表23－5　割り込み処理中に多重割り込み可能な割り込み要求の関係

| 多重割り込み要求 ＼ 処理中の割り込み | | マスカブル割り込み要求 | | | | | | | | ソフトウエア割り込み要求 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 優先順位レベル0（PR = 00） | | 優先順位レベル1（PR = 01） | | 優先順位レベル2（PR = 10） | | 優先順位レベル3（PR = 11） | | |
| | | IE = 1 | IE = 0 | IE = 1 | IE = 0 | IE = 1 | IE = 0 | IE = 1 | IE = 0 | |
| マスカブル割り込み | ISP1 = 0<br>ISP0 = 0 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | ○ |
| | ISP1 = 0<br>ISP0 = 1 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | ○ |
| | ISP1 = 1<br>ISP0 = 0 | ○ | × | ○ | × | ○ | × | × | × | ○ |
| | ISP1 = 1<br>ISP0 = 1 | ○ | × | ○ | × | ○ | × | ○ | × | ○ |
| ソフトウエア割り込み | | ○ | × | ○ | × | ○ | × | ○ | × | ○ |

備考1. ○：多重割り込み可能。

2. ×：多重割り込み不可能。

3. ISP0, ISP1, IEはPSWに含まれるフラグです。

ISP1 = 0, ISP0 = 0　：レベル1またはレベル0の割り込み処理中

ISP1 = 0, ISP0 = 1　：レベル2の割り込み処理中

ISP1 = 1, ISP0 = 0　：レベル3の割り込み処理中

ISP1 = 1, ISP0 = 1　：割り込み受け付け待ち（すべての割り込み許可）

IE = 0　：割り込み要求受け付け禁止

IE = 1　：割り込み要求受け付け許可

4. PRはPR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR02H, PR03L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PR12H, PR13Lジスタに含まれるフラグです。

PR = 00：××PR1× = 0, ××PR0× = 0でレベル0を指定（高優先順位）

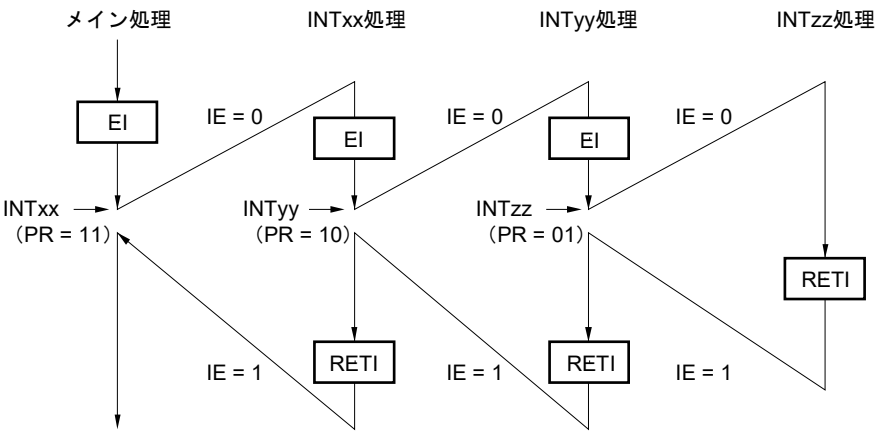
PR = 01：××PR1× = 0, ××PR0× = 1でレベル1を指定

PR = 10：××PR1× = 1, ××PR0× = 0でレベル2を指定

PR = 11：××PR1× = 1, ××PR0× = 1でレベル3を指定（低優先順位）

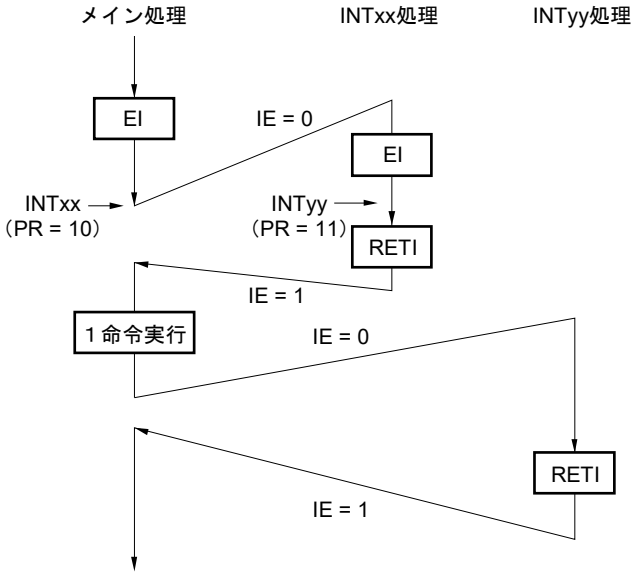
図23－10　多重割り込みの例（1/2）

例1.　多重割り込みが2回発生する例




割り込みINTxx処理中に，2つの割り込み要求INTyy, INTzzが受け付けられ，多重割り込みが発生する。各割り込み要求受け付けの前には，必ずEI命令を発行し，割り込み要求受け付け許可状態になっている。

例2.　優先順位制御により，多重割り込みが発生しない例

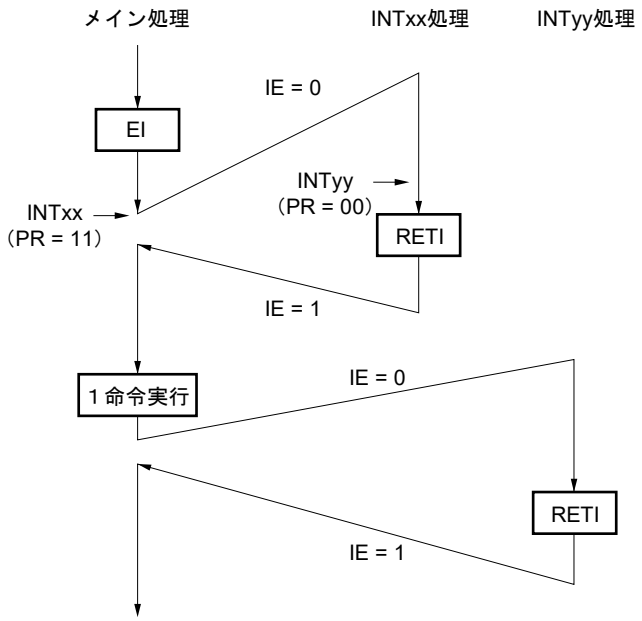



割り込みINTxx処理中に発生した割り込み要求INTyyは，割り込みの優先順位がINTxxより低いため受け付けられず，多重割り込みは発生しない。INTyy要求は保留され，メイン処理1命令実行後に受け付けられる。

PR = 00：××PR1× = 0，××PR0× = 0でレベル0を指定（高優先順位）
PR = 01：××PR1× = 0，××PR0× = 1でレベル1を指定
PR = 10：××PR1× = 1，××PR0× = 0でレベル2を指定
PR = 11：××PR1× = 1，××PR0× = 1でレベル3を指定（低優先順位）
IE = 0　：割り込み要求受け付け禁止
IE = 1　：割り込み要求受け付け許可

図23－10　多重割り込みの例（2/2）

例3.　割り込みが許可されてないため，多重割り込みが発生しない例




割り込みINTxx処理では割り込みが許可されていない（EI命令が発行されていない）ので，割り込み要求INTyyは受け付けられず，多重割り込みは発生しない。INTyy要求は保留され，メイン処理1命令実行後に受け付けられる。

PR = 00：××PR1×= 0，××PR0×= 0でレベル0を指定（高優先順位）
PR = 01：××PR1×= 0，××PR0×= 1でレベル1を指定
PR = 10：××PR1×= 1，××PR0×= 0でレベル2を指定
PR = 11：××PR1×= 1，××PR0×= 1でレベル3を指定（低優先順位）
IE = 0　：割り込み要求受け付け禁止
IE = 1　：割り込み要求受け付け許可

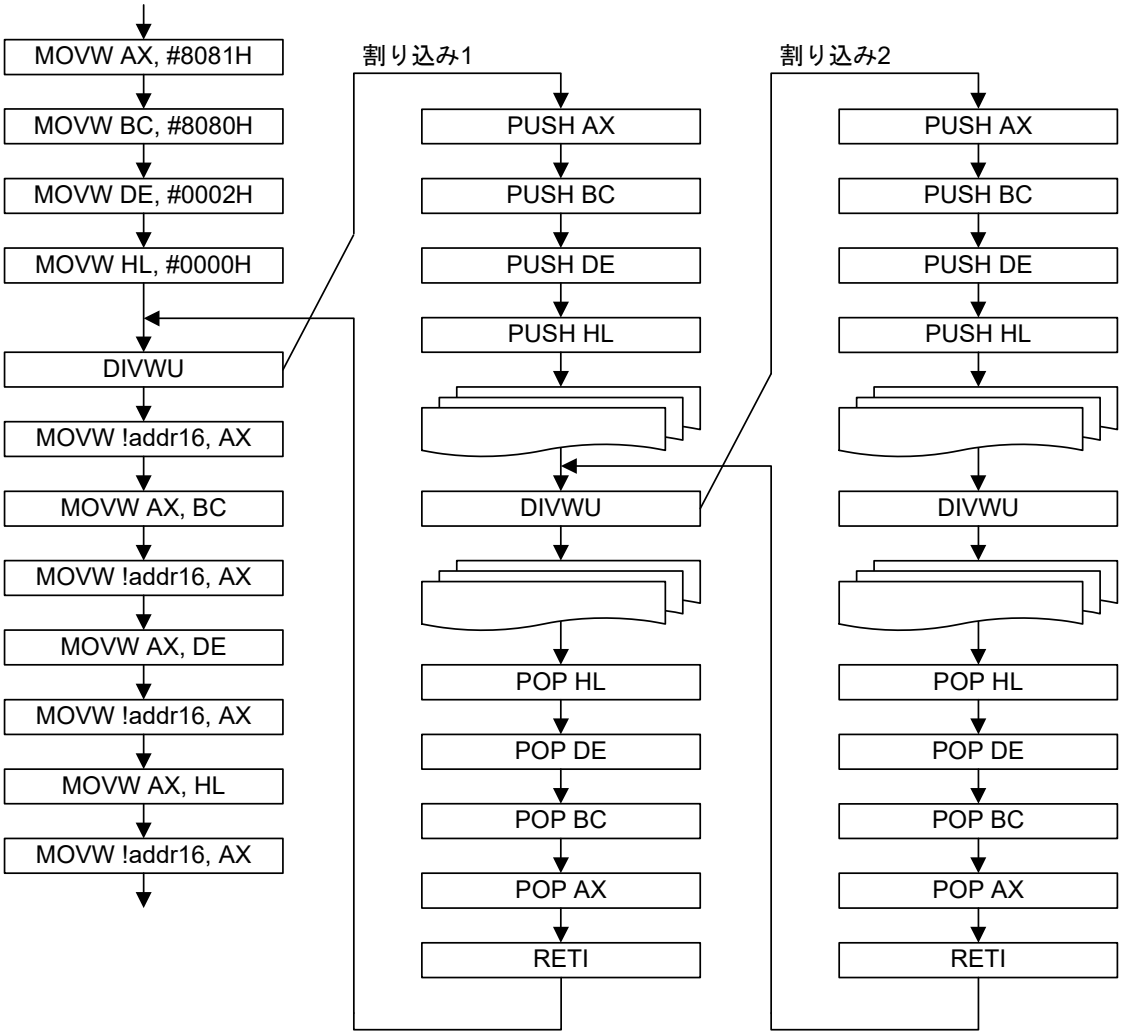
### 23. 4. 4　除算命令中の割り込み処理

RL78/I1Bは，除算命令実行時に割り込み応答性を向上させるため，DIVHU/DIVWU命令中の割り込みに対応します。

- DIVHU/DIVWU命令実行中に割り込みが発生した場合は，DIVHU/DIVWU命令を中断します。
- 中断する事によりPCはDIVHU/DIVWUの次の命令を指します。
- 次の命令で割り込みが発生します。
- DIVHU/DIVWU命令を再実行するために，PC-3をスタックします。

| 通常の割り込み | DIVHU/DIVWU命令実行中の割り込み |
|---|---|
| (SP-1) ← PSW | (SP-1) ← PSW |
| (SP-2) ← (PC)S | (SP-2) ← (PC-3)S |
| (SP-3) ← (PC)H | (SP-3) ← (PC-3)H |
| (SP-4) ← (PC)L | (SP-4) ← (PC-3)L |
| PCS ← 0000 | PCS ← 0000 |
| PCH ← (Vector) | PCH ← (Vector) |
| PCL ← (Vector) | PCL ← (Vector) |
| SP ← SP-4 | SP ← SP-4 |
| IE ← 0 | IE ← 0 |

DIVHU/DIVWUではAX, BC, DE, HLレジスタを使用します。そのため割り込み処理ではAX, BC, DE, HLレジスタをスタックして使用してください。




**注意　割り込み処理中にDIVHU, DIVWU命令を実行する場合, 割り込み禁止状態(DI)で実行してください。ただし，RAM 領域での命令実行を除き，アセンブリ言語ソースにてDIVHU，DIVWU 命令の直後にNOP命令を追加した場合は, 割り込み許可状態でもDIVHU, DIVWU命令を実行することができます。下記のコンパイラはビルド時にDIVHU、DIVWU命令が出力される場合，その直後に自動でNOP命令が挿入されます。**

- **CA78K0R（ルネサスエレクトロニクス社コンパイラ製品）V1.71以降のC言語ソースおよびアセンブリ言語ソース**
- **EWRL78 (IAR社コンパイラ製品) Service pack 1.40.6以降のC言語ソース**
- **GNURL78 (KPIT社コンパイラ)のC言語ソース**

### 23. 4. 5　割り込み要求の保留

命令の中には，その命令実行中に割り込み要求が発生しても，その次の命令の実行終了まで割り込み要求の受け付けを保留するものがあります。このような命令（割り込み要求の保留命令）を次に示します。

- MOV PSW，#byte
- MOV PSW, A
- MOV1 PSW. bit, CY
- SET1 PSW. bit
- CLR1 PSW. bit
- RETB
- RETI
- POP PSW
- BTCLR PSW. bit, $addr20
- EI
- DI
- SKC
- SKNC
- SKZ
- SKNZ
- SKH
- SKNH
- MULHU
- MULH
- MACHU
- MACH
- IF0L，IF0H，IF1L，IF1H，IF2L，IF2H，IF3L，MK0L，MK0H，MK1L，MK1H，MK2L，MK2H，MK3L，PR00L，PR00H，PR01L，PR01H，PR02L，PR02H，PR03L，PR10L，PR10H，PR11L，PR11H，PR12L，PR12H，PR13Lレジスタの各レジスタに対する書き込み命令

割り込み要求が保留されるタイミングを図23－11に示します。

図23－11　割り込み要求の保留

備考1.　命令N：割り込み要求の保留命令

2.　命令M：割り込み要求の保留命令以外の命令

# 第24章　スタンバイ機能

## 24. 1　スタンバイ機能

スタンバイ機能は，システムの動作電流をより低減するための機能で，次の3種類のモードがあります。

（1）HALTモード

HALT命令の実行により，HALTモードとなります。HALTモードは，CPUの動作クロックを停止させるモードです。HALTモード設定前に高速システム・クロック発振回路，高速オンチップ・オシレータ，サブシステム・クロック発振回路が動作している場合，それぞれのクロックは発振を継続します。このモードでは，STOPモードほどの動作電流の低減はできませんが，割り込み要求により，すぐに処理を再開したい場合や，頻繁に間欠動作をさせたい場合に有効です。

（2）STOPモード

STOP命令の実行により，STOPモードとなります。STOPモードは，高速システム・クロック発振回路，高速オンチップ・オシレータを停止させ，システム全体が停止するモードです。CPUの動作電流を，大幅に低減することができます。

さらに，割り込み要求によって解除できるため，間欠動作も可能です。ただし，X1クロックの場合，STOPモード解除時に発振安定時間確保のためのウエイト時間がとられるため，割り込み要求によって，すぐに処理を開始しなければならないときにはHALTモードを選択してください。

（3）SNOOZEモード

CSI00，UART0のデータ受信，タイマ・トリガ信号（割り込み要求信号（INTRTC/INTIT））によるA/D変換要求，およびDTC開始要因により，STOPモードを解除し，CPUを動作させることなくCSI00, UART0のデータ受信，A/D変換，DTC変換を行います。CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）に高速オンチップ・オシレータが選択されているときのみ設定可能です。

いずれのモードでも，スタンバイ・モードに設定される直前のレジスタ，フラグ，データ・メモリの内容はすべて保持されます。また，入出力ポートの出力ラッチ，出力バッファの状態も保持されます。

注意1. STOPモードはCPUがメイン・システム・クロックで動作しているときだけ使用します。CPUがサブシステム・クロックで動作しているときは，STOPモードに設定しないでください。HALTモードはCPUがメイン・システム・クロック，サブシステム・クロックのいずれかの動作状態でも使用できます。

2. STOPモードに移行するとき，メイン・システム・クロックで動作する周辺ハードウエアの動作を必ず停止させたのち，STOP命令を実行してください（SNOOZEモード設定ユニットを除く）。

3. CSI00, UART0, A/DコンバータをSNOOZEモードで使用する場合は，シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0（SSC0），A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）をSTOPモードに移行前に設定してください。詳細は，18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ，14. 3　A/Dコンバータを制御するレジスタを参照してください。

4. A/Dコンバータ部の消費電力を低減させるためには，A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のビット7（ADCS）とビット0（ADCE）を0にクリアし，A/D変換動作を停止させてから，STOP命令を実行してください。

5. 低速オンチップ・オシレータをHALT, STOPモード時に発振継続／停止するかは，オプション・バイトで選択できます。詳細は第32章　オプション・バイトを参照してください。

## 24. 2　スタンバイ機能を制御するレジスタ

スタンバイを制御するレジスタを次に示します。

・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）
・発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）
・発振安定時間選択レジスタ（OSTS）

備考　上記レジスタの詳細は，**第5章　クロック発生回路**を参照してください。また，SNOOZEモード機能を制御するレジスタは，第14章　A/Dコンバータ，第18章　シリアル・アレイ・ユニットを参照してください。

# 24. 3　スタンバイ機能の動作

## 24. 3. 1　HALTモード

（1）HALTモード

HALTモードは，HALT命令の実行により設定されます。設定前のCPUクロックは，高速システム・クロック，高速オンチップ・オシレータ・クロック，サブシステム・クロックのいずれの場合でも設定可能です。

次にHALTモード時の動作状態を示します。

注意　割り込みマスク・フラグが“0”（割り込み処理許可）で且つ割り込み要求フラグが“1”（割り込み要求信号が発生）の場合，HALTモードの解除に割り込み要求信号が用いられるため，その状況下でHALT命令を実行しても，HALTモードに移行しません。

表24－1　HALTモード時の動作状態（1/2）

| 項目 ＼ HALTモードの設定 | | | メイン・システム・クロックでCPU動作中のHALT命令実行時 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）でCPU動作時 | X1クロック（$f_X$）でCPU動作時 | 外部メイン・システム・クロック（$f_{EX}$）でCPU動作時 |
| システム・クロック | | | CPUへのクロック供給は停止 | | |
| | メイン・システム・クロック | $f_{IH}$ | 動作継続（停止不可） | 動作禁止 | |
| | | $f_X$ | 動作禁止 | 動作継続（停止不可） | 動作不可 |
| | | $f_{EX}$ | | 動作不可 | 動作継続（停止不可） |
| | サブシステム・クロック | $f_{XT}$ | HALTモード設定前の状態を継続 | | |
| | | $f_{EXS}$ | | | |
| | $f_{IL}$ | | オプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON），ビット4（WDTON）およびサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のWUTMMCK0ビットにて設定<br>・WUTMMCK0 = 1：発振<br>・WUTMMCK0 = 0かつWDTON = 0：停止<br>・WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 1のとき：発振<br>・WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 0のとき：停止 | | |
| CPU | | | 動作停止 | | |
| コード・フラッシュ・メモリ | | | | | |
| RAM | | | 動作停止（DTC実行時は動作可能） | | |
| ポート（ラッチ） | | | HALTモード設定前の状態を保持 | | |
| タイマ・アレイ・ユニット | | | 動作可能 | | |
| リアルタイム・クロック2 | | | 動作可能 | 動作可能（高精度1 Hz出力モードは動作禁止） | |
| サブシステム・クロック周波数測定回路 | | | 動作禁止 | 動作可能 | |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 | | | 動作可能（$f_{XT}$または$f_{EXS}$供給時） | 動作禁止 | |
| 発振停止検出 | | | 動作可能（$f_{IL}$発振時のみ） | | |
| バッテリ・バックアップ機能 | | | 動作可能（VBATEN = 1とVBATSEL = 0の場合） | | |
| 12ビット・インターバル・タイマ | | | 動作可能 | | |
| 8ビット・インターバル・タイマ | | | | | |
| ウォッチドッグ・タイマ | | | 動作可能（第13章　ウォッチドッグ・タイマ参照） | | |
| クロック出力／ブザー出力 | | | 動作可能 | | |
| A/Dコンバータ | | | | | |
| ΔΣA/Dコンバータ | | | | | |
| 温度センサ2 | | | | | |
| コンパレータ | | | | | |
| シリアル・アレイ・ユニット（SAU） | | | | | |
| IrDA | | | | | |
| シリアル・インタフェース（IICA） | | | | | |
| LCDコントローラ／ドライバ | | | 動作可能（ただし，LCDソース・クロックとして選択したクロックの状態にしたがう（選択クロックが動作中なら動作可能，停止中なら動作停止）） | | |
| データ・トランスファ・コントローラ（DTC） | | | 動作可能 | | |
| パワーオン・リセット機能 | | | | | |
| 電圧検出機能 | | | | | |
| 外部割り込み | | | | | |
| CRC演算機能 | 高速CRC | | | | |
| | 汎用CRC | | | | |
| RAMパリティ・エラー検出機能 | | | 動作停止（DTC実行時のみ動作可能） | | |
| RAMガード機能 | | | | | |
| SFRガード機能 | | | | | |
| 不正メモリ・アクセス検出機能 | | | | | |

（備考は次ページにあります。）

備考　動作停止：HALTモード移行時に自動的に動作停止
動作禁止：HALTモード移行前に動作を停止させる
$f_{IH}$　：高速オンチップ・オシレータ・クロック
$f_{IL}$　：低速オンチップ・オシレータ・クロック
$f_X$　：X1クロック
$f_{EX}$　：外部メイン・システム・クロック
$f_{XT}$　：XT1クロック
$f_{EXS}$　：外部サブシステム・クロック

表24－1　HALTモード時の動作状態（2/2）

| 項目 ＼ HALTモードの設定 | | | サブシステム・クロックでCPU動作中のHALT命令実行時 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | XT1クロック（$f_{XT}$）でCPU動作時 | 外部サブシステム・クロック（$f_{EXS}$）でCPU動作時 |
| システム・クロック | | | CPUへのクロック供給は停止 | |
| | メイン・システム・クロック | $f_{IH}$ | 動作禁止 | |
| | | $f_X$ | | |
| | | $f_{EX}$ | | |
| | サブシステム・クロック | $f_{XT}$ | 動作継続（停止不可） | 動作不可 |
| | | $f_{EXS}$ | 動作不可 | 動作継続（停止不可） |
| | $f_{IL}$ | | オプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON），ビット4（WDTON）およびサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のWUTMMCK0ビットにて設定（ただし，サブシステム・クロックでのCPU動作時はWUTMMCK0 = 1の設定禁止）<br>・WUTMMCK0 = 0かつWDTON = 0：停止<br>・WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 1のとき：発振<br>・WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 0のとき：停止 | |
| CPU | | | 動作停止 | |
| コード・フラッシュ・メモリ | | | | |
| RAM | | | 動作停止（DTC実行時は動作可能） | |
| ポート（ラッチ） | | | HALTモード設定前の状態を保持 | |
| タイマ・アレイ・ユニット | | | RTCLPC = 0のときは動作可能（それ以外は動作禁止） | |
| リアルタイム・クロック2 | | | 動作可能（高精度1 Hz出力モードは動作禁止） | |
| サブシステム・クロック周波数測定回路 | | | 動作禁止 | |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 | | | | |
| 発振停止検出 | | | | |
| バッテリ・バックアップ機能 | | | 動作可能（VBATEN = 1とVBATSEL = 0の場合） | |
| 12ビット・インターバル・タイマ | | | 動作可能 | |
| 8ビット・インターバル・タイマ | | | | |
| ウォッチドッグ・タイマ | | | 動作可能（第13章　ウォッチドッグ・タイマ参照） | |
| クロック出力／ブザー出力 | | | 動作可能 | |
| A/Dコンバータ | | | 動作禁止 | |
| ΔΣA/Dコンバータ | | | | |
| 温度センサ2 | | | | |
| コンパレータ | | | コンパレータのリファレンス電圧は外部入力（IVREFn）選択時に動作可能 | |
| シリアル・アレイ・ユニット（SAU） | | | RTCLPC = 0のときは動作可能（それ以外は動作禁止） | |
| IrDA | | | 動作禁止 | |
| シリアル・インタフェース（IICA） | | | 動作禁止 | |
| LCDコントローラ／ドライバ | | | 動作可能（ただし，LCDソース・クロックとして選択したクロックの状態にしたがう（選択クロックが動作中なら動作可能，停止中なら動作停止）） | |
| データ・トランスファ・コントローラ（DTC） | | | RTCLPC = 0のときは動作可能（それ以外は動作禁止） | |
| パワーオン・リセット機能 | | | 動作可能 | |
| 電圧検出機能 | | | | |
| 外部割り込み | | | | |
| CRC演算機能 | 高速CRC | | 動作禁止 | |
| | 汎用CRC | | RAM領域の演算で，DTC実行時は動作可能 | |
| RAMパリティ・エラー検出機能 | | | 動作停止（DTC実行時のみ動作可能） | |
| RAMガード機能 | | | | |
| SFRガード機能 | | | | |
| 不正メモリ・アクセス検出機能 | | | | |

（備考は次ページにあります。）

備考　動作停止：HALTモード移行時に自動的に動作停止
　　動作禁止：HALTモード移行前に動作を停止させる
　　$f_{IH}$　：高速オンチップ・オシレータ・クロック
　　$f_{IL}$　：低速オンチップ・オシレータ・クロック
　　$f_X$　：X1クロック
　　$f_{EX}$　：外部メイン・システム・クロック
　　$f_{XT}$　：XT1クロック
　　$f_{EXS}$　：外部サブシステム・クロック

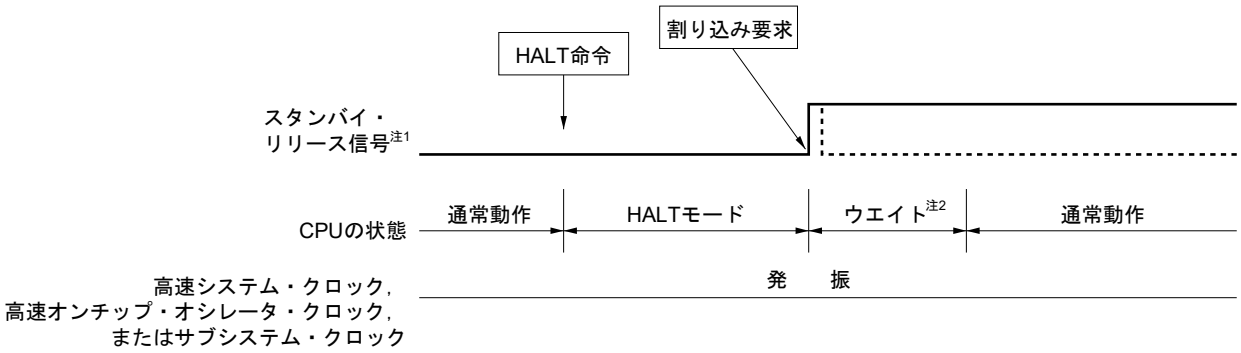
(2) HALTモードの解除

HALTモードは，次の2種類のソースによって解除できます。

(a) マスクされていない割り込み要求による解除

マスクされていない割り込み要求が発生すると，HALTモードは解除されます。そして，割り込み受け付け許可状態であれば，ベクタ割り込み処理が行われます。割り込み受け付け禁止状態であれば，次のアドレスの命令が実行されます。

図24－1　HALTモードの割り込み要求発生による解除




注1.　スタンバイ・リリース信号に関しての詳細は，図23－1を参照してください。

2.　HALTモード解除のウエイト時間

・ベクタ割り込み処理を行う場合

| | |
|---|---|
| メイン・システム・クロック時 | ：15～16クロック |
| サブシステム・クロック時（RTCLPC = 0） | ：10～11クロック |
| サブシステム・クロック時（RTCLPC = 1） | ：11～12クロック |

・ベクタ割り込み処理を行わない場合

| | |
|---|---|
| メイン・システム・クロック時 | ：9～10クロック |
| サブシステム・クロック時（RTCLPC = 0） | ：4～5クロック |
| サブシステム・クロック時（RTCLPC = 1） | ：5～6クロック |

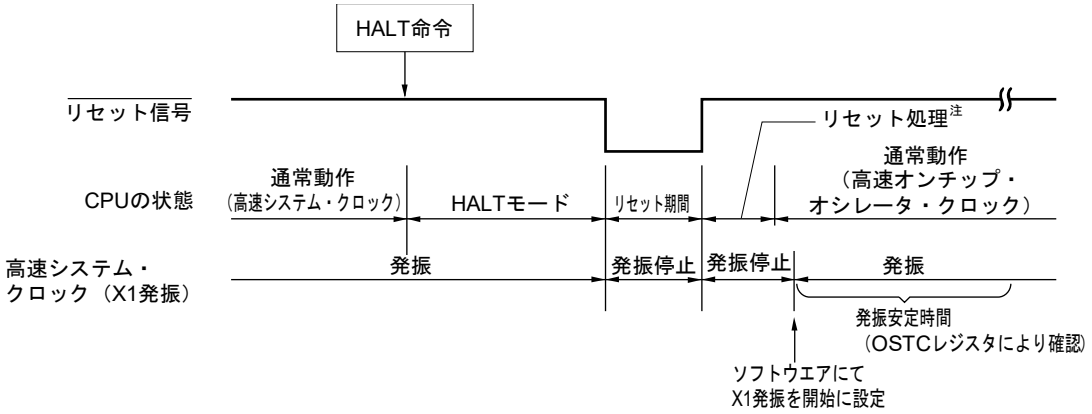
備考　破線は，スタンバイを解除した割り込み要求が受け付けられた場合です。

（b）リセット信号の発生による解除

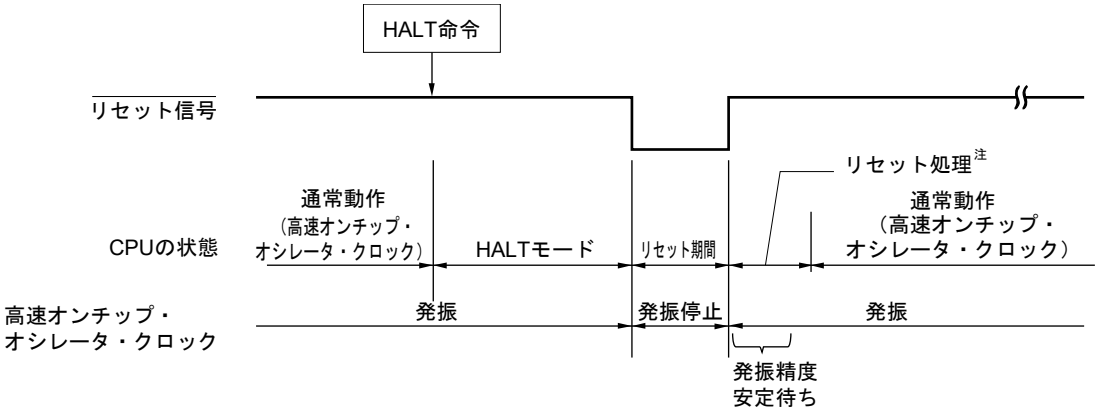
リセット信号の発生により，HALTモードは解除されます。そして，通常のリセット動作と同様にリセット・ベクタ・アドレスに分岐したあと，プログラムが実行されます。

図24－2　HALTモードのリセットによる解除

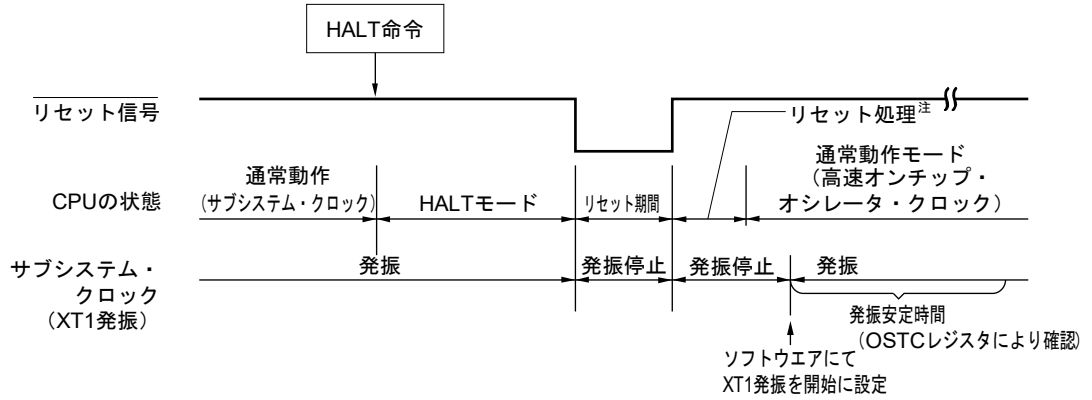
（1）CPUクロックが高速システム・クロックの場合




（2）CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合




（3）CPUクロックがサブシステム・クロックの場合




注　リセット処理時間は，第25章　リセット機能を参照してください。なお，パワーオン・リセット（POR）回路と電圧検出（LVD）回路のリセット処理時間は，第26章　パワーオン・リセット回路を参照してください。

### 24. 3. 2　STOPモード

（1）STOPモードの設定および動作状態

STOPモードは，STOP命令の実行により設定されます。設定前のCPUクロックが，メイン・システム・クロックの場合のみ設定可能です。

注意　割り込みマスク・フラグが“0”（割り込み処理許可）で且つ割り込み要求フラグが“1”（割り込み要求信号が発生）の場合，STOPモードの解除に割り込み要求信号が用いられるため，その状況でSTOP命令を実行すると，いったんSTOPモードに入ってただちに解除されます。
したがって，STOP命令実行後，STOPモード解除時間を経過したあと動作モードに戻ります。

次にSTOPモード時の動作状態を示します。

表24－2　STOPモード時の動作状態

| 項目 ＼ STOPモードの設定 | メイン・システム・クロックでCPU動作中のSTOP命令実行時 | | |
|---|---|---|---|
| | 高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）でCPU動作時 | X1クロック（$f_X$）でCPU動作時 | 外部メイン・システム・クロック（$f_{EX}$）でCPU動作時 |
| システム・クロック | CPUへのクロック供給は停止 | | |
| メイン・システム・クロック $f_{IH}$ | 停止 | | |
| メイン・システム・クロック $f_X$ | | | |
| メイン・システム・クロック $f_{EX}$ | | | |
| サブシステム・クロック $f_{XT}$ | STOPモード設定前の状態を継続 | | |
| サブシステム・クロック $f_{EXS}$ | | | |
| $f_{IL}$ | オプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON），ビット4（WDTON）およびサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のWUTMMCK0ビットにて設定<br>・WUTMMCK0 = 1：発振<br>・WUTMMCK0 = 0かつWDTON = 0：停止<br>・WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 1のとき：発振<br>・WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 0のとき：停止 | | |
| CPU | 動作停止 | | |
| コード・フラッシュ・メモリ | | | |
| RAM | | | |
| ポート（ラッチ） | STOPモード設定前の状態を継続 | | |
| タイマ・アレイ・ユニット | 動作禁止 | | |
| リアルタイム・クロック2 | 動作可能（高精度1 Hz出力モードは動作禁止） | | |
| サブシステム・クロック周波数測定回路 | 動作禁止 | | |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 | | | |
| 発振停止検出 | 動作可能（$f_{IL}$発振時のみ） | | |
| バッテリ・バックアップ機能 | 動作可能（VBATEN = 1とVBATSEL = 0の場合） | | |
| 12ビット・インターバル・タイマ | 動作可能 | | |
| 8ビット・インターバル・タイマ | | | |
| ウォッチドッグ・タイマ | 動作可能（第13章　ウォッチドッグ・タイマ参照） | | |
| クロック出力／ブザー出力 | カウント・クロックにサブシステム・クロック選択時のみ動作可能（低消費RTCモード時（OSMCレジスタのRTCLPC = 1）は，動作禁止） | | |
| A/Dコンバータ | ウエイク・アップ動作可能（SNOOZEモードへ移行） | | |
| ΔΣA/Dコンバータ | 動作禁止 | | |
| 温度センサ2 | | | |
| コンパレータ | 動作可能（デジタルフィルタ未使用時かつコンパレータのリファレンス電圧は外部入力（IVREFn）選択時のみ） | | |
| シリアル・アレイ・ユニット（SAU） | CSI00, UART0のみウエイク・アップ動作可能（SNOOZEモードへ移行）<br>CSI00, UART0以外は動作禁止 | | |
| IrDA | 動作禁止 | | |
| シリアル・インタフェース（IICA） | アドレス一致によるウエイク・アップ動作可能 | | |
| LCDコントローラ／ドライバ | 動作可能（ただし，LCDソース・クロックとして選択したクロックの状態にしたがう（選択クロックが動作中なら動作可能，停止中なら動作停止）） | | |
| データ・トランスファ・コントローラ（DTC） | DTC起動要因受付動作可能（SNOOZEモードへ移行） | | |
| パワーオン・リセット機能 | 動作可能 | | |
| 電圧検出機能 | | | |
| 外部割り込み | | | |
| CRC演算機能　高速CRC | 動作停止 | | |
| CRC演算機能　汎用CRC | | | |
| RAMパリティ・エラー検出機能 | | | |
| RAMガード機能 | | | |
| SFRガード機能 | | | |
| 不正メモリ・アクセス検出機能 | | | |

（備考は次ページにあります。）

備考　動作停止：STOPモード移行時に自動的に動作停止
動作禁止：STOPモード移行前に動作を停止させる
$f_{IH}$　：高速オンチップ・オシレータ・クロック
$f_X$　：X1クロック
$f_{XT}$　：XT1クロック
$f_{IL}$　：低速オンチップ・オシレータ・クロック
$f_{EX}$　：外部メイン・システム・クロック
$f_{EXS}$　：外部サブシステム・クロック

（2）STOPモードの解除

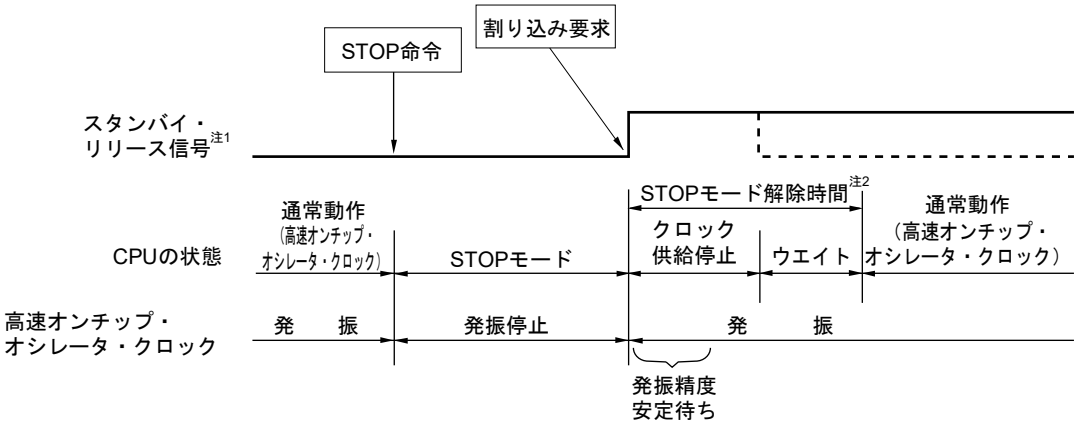
STOPモードは，次の2種類のソースによって解除することができます。

（a）マスクされていない割り込み要求による解除

マスクされていない割り込み要求が発生すると，STOPモードを解除します。発振安定時間経過後，割り込み受け付け許可状態であれば，ベクタ割り込み処理を行います。割り込み受け付け禁止状態であれば，次のアドレスの命令を実行します。

図24－3　STOPモードの割り込み要求発生による解除（1/2）

（1）CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合




注1.　スタンバイ・リリース信号に関しての詳細は，図23－1を参照してください。

2.　STOPモード解除時間

クロック供給停止　：18 μs～65 μs

ウエイト

・ベクタ割り込み処理を行う場合　　：7クロック

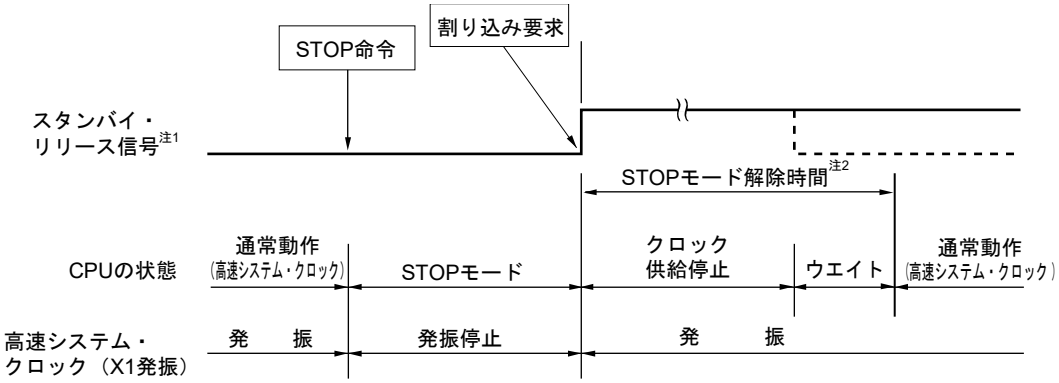
・ベクタ割り込み処理を行わない場合　：1クロック

備考1.　クロック供給停止時間は，温度条件とSTOPモード期間によって変化します。

2.　破線は，スタンバイを解除した割り込み要求が受け付けられた場合です。

図24－3　STOPモードの割り込み要求発生による解除（2/2）

（2）CPUクロックが高速システム・クロック（X1発振）の場合




注1.　スタンバイ・リリース信号に関しての詳細は，図23－1を参照してください。

2.　STOPモード解除時間

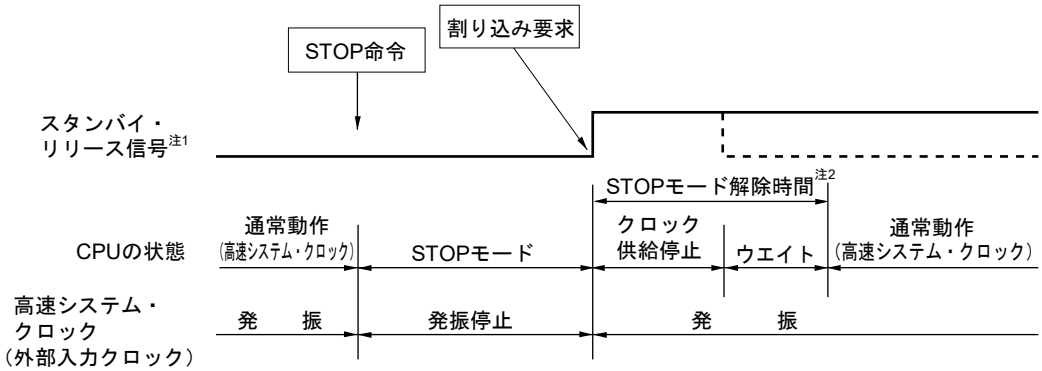
クロック供給停止　：18 μs～“65 μsと発振安定時間（OSTSで設定）の長い方”

ウエイト

・ベクタ割り込み処理を行う場合　　：10～11クロック

・ベクタ割り込み処理を行わない場合　：4～5クロック

（3）CPUクロックが高速システム・クロック（外部クロック入力）の場合




注1.　スタンバイ・リリース信号に関しての詳細は，図23－1を参照してください。

2.　STOPモード解除時間

クロック供給停止　：18 μs～65 μs

ウエイト

・ベクタ割り込み処理を行う場合　　：7クロック

・ベクタ割り込み処理を行わない場合　：1クロック

注意　高速システム・クロック（X1発振）でCPU動作していて，STOPモード解除後の発振安定時間を短縮したい場合は，STOP命令実行前に，CPUクロックを一時的に高速オンチップ・オシレータ・クロックに切り替えてください。

備考1.　クロック供給停止時間は，温度条件とSTOPモード期間によって変化します。

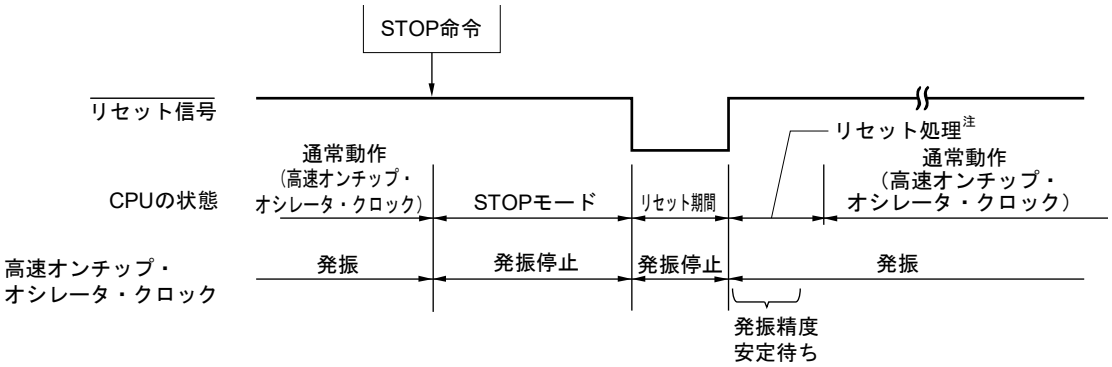
2.　破線は，スタンバイを解除した割り込み要求が受け付けられた場合です。

（b）リセット信号の発生による解除

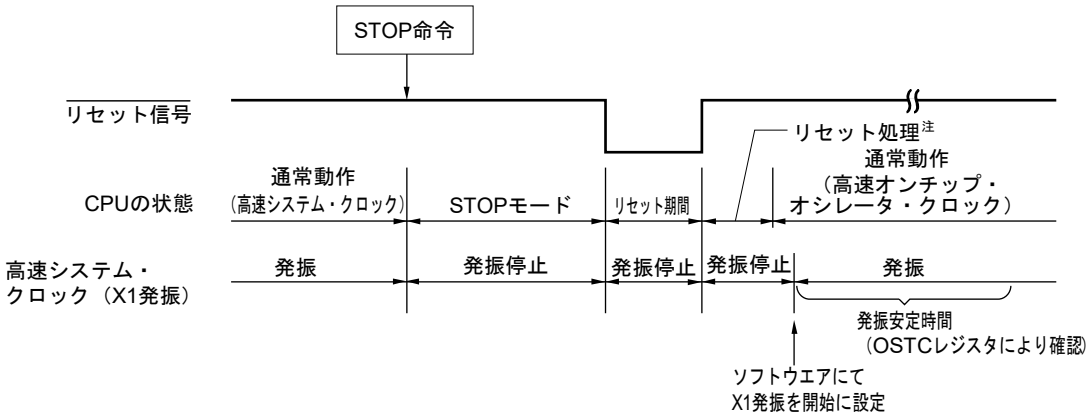
リセット信号の発生により，STOPモードは解除されます。そして，通常のリセット動作と同様にリセット・ベクタ・アドレスに分岐したあと，プログラムが実行されます。

図24－4　STOPモードのリセットによる解除

（1）CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合




（2）CPUクロックが高速システム・クロックの場合




注　リセット処理時間は，第25章　リセット機能を参照してください。なお，パワーオン・リセット（POR）回路と電圧検出（LVD）回路のリセット処理時間は，第26章　パワーオン・リセット回路を参照してください。

### 24. 3. 3　SNOOZEモード

（1）SNOOZEモードの設定および動作状態

CSI00, UART0, DTCまたは，A/Dコンバータのみ設定可能です。また，設定前のCPUクロックが，高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合のみ設定可能です。

CSI00, UART0をSNOOZEモードで使用する場合は，STOPモードに移行する直前にシリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm（SSCm）のSWCmビットを1に設定してください。詳細は，18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを参照してください。

A/DコンバータをSNOOZEモードで使用する場合は，STOPモードに移行する直前にA/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のAWCビットを1に設定してください。詳細は，14. 3　A/Dコンバータを制御するレジスタを参照してください。

SNOOZEモードでDTC転送をする場合は，STOPモード移行前に使用割り込みでDTCを起動してください。STOPモードでは，割り込みによるDTC起動を検出すると，DTCは自動的にSNOOZEモードに移行します。詳細は，22. 3　DTCを制御するレジスタを参照してください。

SNOOZEモードの移行では，次の時間だけウエイト状態になります。

STOPモード→ SNOOZEモードの遷移時間：18 μs～65 μs

備考　STOPモード→SNOOZEモードの遷移時間は，温度条件とSTOPモード期間によって変化します。

SNOOZEモード→通常動作の遷移時間：

・ベクタ割り込み処理を行う場合

HS（高速メイン）モード：　“4.99～9.44 μs”＋7クロック

LS（低速メイン）モード：　“1.10～5.08 μs”＋7クロック

・ベクタ割り込み処理を行わない場合

HS（高速メイン）モード：　“4.99～9.44 μs”＋1クロック

LS（低速メイン）モード：　“1.10～5.08 μs”＋1クロック

次にSNOOZEモード時の動作状態を示します。

表24－3　SNOOZEモード時の動作状態

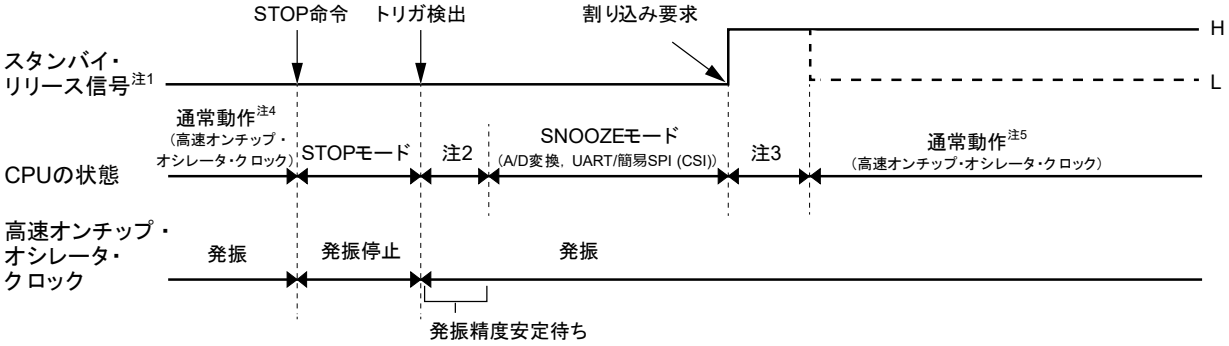
| 項　目 ＼ STOPモードの設定 | | | STOPモード中にCSI00, UART0のデータ受信信号およびA/Dコンバータのタイマ・トリガ信号入力時<br>高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）でCPU動作時 |
|---|---|---|---|
| システム・クロック | | | CPUへのクロック供給は停止 |
| | メイン・システム・クロック | $f_{IH}$ | 動作開始 |
| | | $f_X$ | 停止 |
| | | $f_{EX}$ | |
| | サブシステム・クロック | $f_{XT}$ | STOPモード中の状態を継続 |
| | | $f_{EXS}$ | |
| | $f_{IL}$ | | オプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON），ビット4（WDTON）およびサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のWUTMMCK0ビットにて設定<br>・WUTMMCK0 = 1：発振<br>・WUTMMCK0 = 0かつWDTON = 0：停止<br>・WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 1のとき：発振<br>・WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 0のとき：停止 |
| CPU | | | 動作停止 |
| コード・フラッシュ・メモリ | | | |
| RAM | | | 動作停止(DTC実行時は動作可能) |
| ポート（ラッチ） | | | STOPモード中の状態を継続 |
| タイマ・アレイ・ユニット | | | 動作禁止 |
| リアルタイム・クロック2 | | | 動作可能 |
| サブシステム・クロック周波数測定回路 | | | 動作禁止 |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 | | | |
| 発振停止検出 | | | 動作可能（$f_{IL}$発振時のみ） |
| バッテリ・バックアップ機能 | | | 動作可能（VBATEN = 1とVBATSEL = 0の場合） |
| 12ビット・インターバル・タイマ | | | 動作可能 |
| 8ビット・インターバル・タイマ | | | |
| ウォッチドッグ・タイマ | | | 動作可能（第13章　ウォッチドッグ・タイマ参照） |
| クロック出力／ブザー出力 | | | カウント・クロックにサブシステム・クロック選択時のみ動作可能（低消費RTCモード時（OSMCレジスタのRTCLPC = 1）は，動作禁止） |
| A/Dコンバータ | | | 動作可能 |
| ΔΣA/Dコンバータ | | | 動作禁止 |
| 温度センサ2 | | | |
| コンパレータ | | | 動作可能（デジタルフィルタ未使用時のみ） |
| シリアル・アレイ・ユニット（SAU） | | | CSI00, UART0のみ動作可能。CSI00, UART0以外は動作禁止。 |
| IrDA | | | 動作禁止 |
| シリアル・インタフェース（IICA） | | | |
| LCDコントローラ／ドライバ | | | 動作可能（ただし，LCDソース・クロックとして選択したクロックの状態にしたがう（選択クロックが動作中なら動作可能，停止中なら動作停止）） |
| データ・トランスファ・コントローラ（DTC） | | | 動作可能 |
| パワーオン・リセット機能 | | | |
| 電圧検出機能 | | | |
| 外部割り込み | | | |
| CRC演算機能 | 高速CRC | | 動作停止 |
| | 汎用CRC | | |
| RAMパリティ・エラー検出機能 | | | |
| RAMガード機能 | | | |
| SFRガード機能 | | | |
| 不正メモリ・アクセス検出機能 | | | |

（備考は次ページにあります。）

備考　動作停止　：STOPモード移行時に自動的に動作停止　$f_X$　：X1クロック
動作禁止　：STOPモード移行前に動作を停止させる　$f_{EX}$　：外部メイン・システム・クロック
$f_{IH}$　：高速オンチップ・オシレータ・クロック　$f_{XT}$　：XT1クロック
$f_{IL}$　：低速オンチップ・オシレータ・クロック　$f_{EXS}$　：外部サブシステム・クロック

（2）　SNOOZEモードで割り込み要求信号が発生した場合のタイミング図

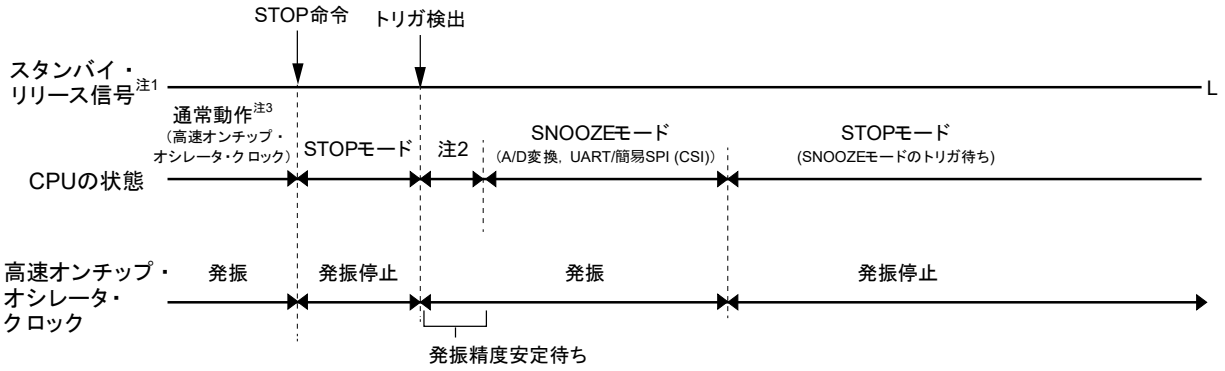
図24－5　SNOOZEモードの割り込み要求が発生する場合




注1.　スタンバイ・リリース信号に関しての詳細は，図23－1を参照してください。
2.　STOPモード→SNOOZEモードの遷移時間
3.　SNOOZEモード→通常動作の遷移時間
4.　STOPモードへ移行する直前に，SNOOZEモード許可（AWC=1/SWC=1）に設定してください。
5.　通常動作に復帰後すぐに，必ずSNOOZEモード解除（AWC=0/SWC=0）に設定してください。

（3）　SNOOZEモードで割り込み要求信号が発生しなかった場合のタイミング図

図24－6　SNOOZEモードの割り込み要求が発生しない場合




注 1.　スタンバイ・リリース信号に関しての詳細は，図23－1を参照してください。

2.　STOPモード→SNOOZEモードの遷移時間

3.　STOPモードへ移行する直前に，SNOOZEモード許可（AWC=1/SWC=1）に設定してください。

備考　SNOOZEモード機能の詳細は，第14章　A/Dコンバータ，第18章　シリアル・アレイ・ユニットを参照してください。

# 第25章　リセット機能

リセット信号を発生させる方法には，次の7種類があります。

(1) $\overline{\text{RESET}}$端子による外部リセット入力
(2) ウォッチドッグ・タイマのプログラム暴走検出による内部リセット
(3) パワーオン・リセット（POR）回路の電源電圧と検出電圧との比較による内部リセット
(4) 電圧検出回路（LVD）の電源電圧と検出電圧の比較による内部リセット
(5) 不正命令の実行による内部リセット注
(6) RAMパリティ・エラーによる内部リセット
(7) 不正メモリ・アクセスによる内部リセット

外部リセットと内部リセットは同様に，リセット信号の発生により，0000H, 0001H番地に書かれてあるアドレスからプログラムの実行を開始します。

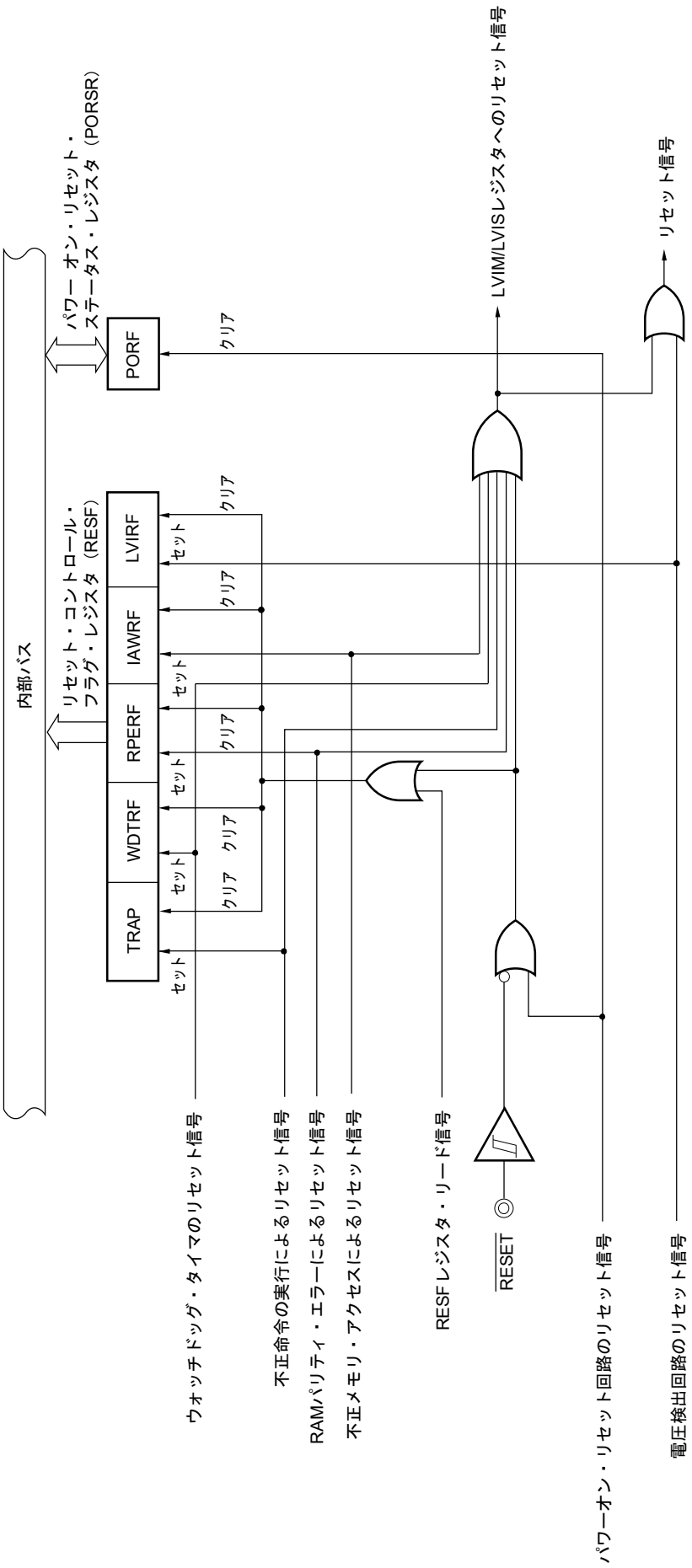
$\overline{\text{RESET}}$端子にロウ・レベルが入力されるか，ウォッチドッグ・タイマがプログラム暴走を検出するか，POR回路，LVD回路の電圧検出，不正命令の実行注，RAMパリティ・エラーの発生，または不正メモリ・アクセスにより，リセットがかかり，各ハードウエアは表25－1に示すような状態になります。

注　FFHの命令コードを実行したときに発生します。
　　このリセットは，インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

注意1.　外部リセットを行う場合，$\overline{\text{RESET}}$端子に10 μs以上のロウ・レベルを入力してください。
　　電源立ち上げ時に外部リセットを行う場合は，$\overline{\text{RESET}}$端子にロウ・レベルを入力してから電源を投入し，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲内の期間で10 μs以上ロウ・レベルを継続した後に，ハイ・レベルを入力してください。
　2.　リセット信号発生中では，X1クロック，高速オンチップ・オシレータ・クロック，低速オンチップ・オシレータ・クロックの発振は停止します。また，外部メイン・システム・クロック，外部サブシステム・クロックの入力は無効となります。
　3.　リセットがかかると各SFRと2nd SFRは初期化されるため，ポート端子は次の状態になります。
　　・P40　：外部リセットかPORによるリセット期間中はハイ・インピーダンス。それ以外のリセット期間中およびリセット受け付け後はハイ・レベル（内部プルアップ抵抗接続）
　　・P130　：リセット期間中はハイ・インピーダンス。リセット受け付け後はロウ・レベル出力
　　・P40, P130以外のポート　：リセット期間中およびリセット受け付け後はハイ・インピーダンス

備考　$V_{POR}$　：POR電源立ち上がり検出電圧
　　$V_{LVD}$　：LVD検出電圧

図25－1　リセット機能のブロック図



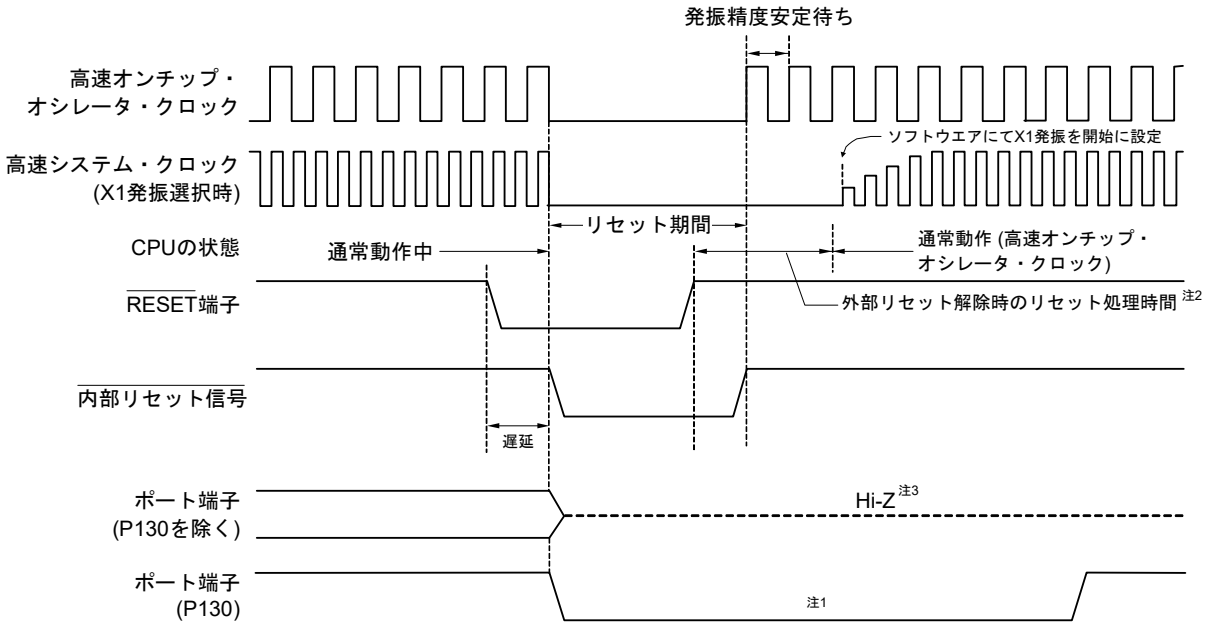

注意　LVD回路の内部リセットの場合，LVD回路はリセットされません。

備考1.　LVIM：電圧検出レジスタ
　　2.　LVIS：電圧検出レベル・レジスタ

## 25. 1　リセット動作のタイミング

$\overline{\text{RESET}}$端子にロウ･レベルが入力されて，リセットがかかり，$\overline{\text{RESET}}$端子にハイ・レベルが入力されると，リセットが解除され，リセット処理後，高速オンチップ・オシレータ・クロックでプログラムの実行を開始します。

図25－2　$\overline{\text{RESET}}$入力によるリセット・タイミング

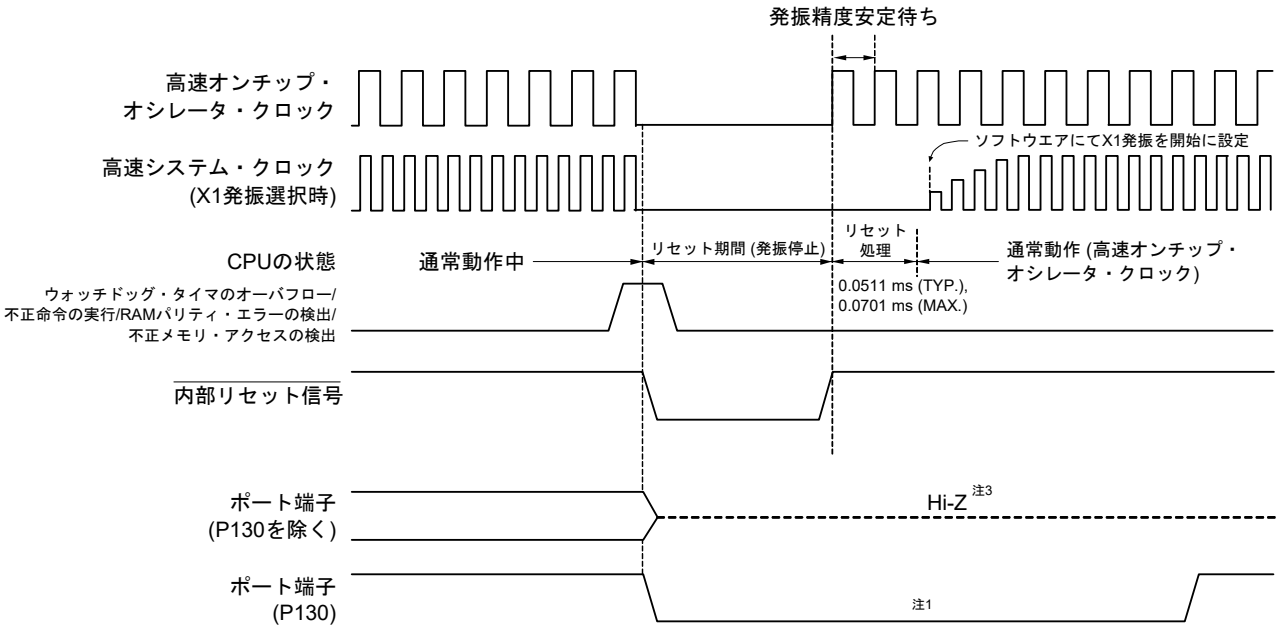



$\overline{\text{RESET}}$端子の入力バッファは，内部$V_{DD}$に接続されています。バッテリ・バックアップ機能を使用する場合は，選択されている電源ソース($V_{DD}$端子またはVBAT端子)の電圧をもとに，信号を入力してください。

ウォッチドッグ・タイマのオーバーフロー／不正命令の実行／RAMパリティ・エラーの検出／不正メモリ・アクセスの検出によるリセットは，自動的にリセットが解除され，リセット処理後，高速オンチップ・オシレータ・クロックでプログラムの実行を開始します。

（注，注意は，次ページにあります。）

図25－3　ウォッチドッグ・タイマのオーバーフロー／不正命令の実行／RAMパリティ・エラーの検出／不正メモリ・アクセスの検出によるリセット・タイミング




注1.　リセットがかかるとP130はロウ・レベルを出力するため，リセットがかかる前にP130をハイ・レベル出力にした場合，P130からの出力を外部デバイスへのリセット信号として疑似的に出力するという使い方ができます。外部デバイスへのリセット信号を解除する場合には，P130をソフトウエアでハイ・レベル出力にしてください。

2.　リセット処理時間（外部リセット状態を解除する時間）

1回目のPOR解除後　：LVD使用時，0.672 ms (typ.), 0.832 ms (max.)
LVDオフ時，0.399 ms (typ.), 0.519 ms (max.)

2回目のPOR解除後　：LVD使用時，0.531 ms (typ.), 0.675 ms (max.)
LVDオフ時，0.259 ms (typ.), 0.362 ms (max.)

電源立ち上がり時は，外部リセット解除時のリセット処理時間の前に電圧安定待ち時間 0.99 ms (TYP.)，2.30 ms (MAX.)がかかります。

3.　ポート端子P40は次の状態になります。

・外部リセットかPORによるリセット期間中はハイ・インピーダンスになります。
・それ以外のリセット期間中およびリセット受け付け後はハイ・レベル（内部プルアップ抵抗接続）になります。

POR回路，LVD回路の電圧検出によるリセットは，リセット後内部$V_{DD} \geqq V_{POR}$または内部$V_{DD} \geqq V_{LVD}$になったときにリセットが解除され，リセット処理後，高速オンチップ・オシレータ・クロックでプログラムの実行を開始します。

詳細は，第26章　パワーオン・リセット回路または第27章　電圧検出回路を参照してください。

備考　$V_{POR}$：POR電源立ち上がり検出電圧
$V_{LVD}$：LVD検出電圧

## 25. 2　リセット期間中の動作状態

表25－1にリセット期間中の動作状態を，表25－2にリセット受け付け後の各ハードウエアの状態を示します。

表25－1　リセット期間中の動作状態

| 項　　目 | | | リセット期間中 |
|---|---|---|---|
| システム・クロック | | | CPUへのクロック供給は停止 |
| | メイン・システム・クロック | $f_{IH}$ | 動作停止 |
| | | $f_X$ | 動作停止（X1, X2端子は入力ポート・モード） |
| | | $f_{EX}$ | クロックの入力無効（端子は入力ポート・モード） |
| | サブシステム・クロック | $f_{XT}$ | 動作可能（XT1, XT2端子は入力ポート・モード） |
| | | $f_{EXS}$ | クロックの入力無効（端子は入力ポート・モード） |
| | $f_{IL}$ | | 動作停止 |
| CPU | | | |
| コード・フラッシュ・メモリ | | | |
| RAM | | | |
| ポート（ラッチ） | P40 | | 端子リセット，PORリセット以外：プルアップ機能許可<br>端子リセット，PORリセット：ハイ・インピーダンス |
| | P130 | | 不定 |
| | P40, P130以外 | | ハイ・インピーダンス注 |
| タイマ・アレイ・ユニット | | | 動作停止 |
| リアルタイム・クロック2 | | | PORリセット以外：動作可能<br>PORリセット：カレンダー動作可能，RTCC0, RTCC1, SUBCUDレジスタは動作停止 |
| サブシステム・クロック周波数測定回路 | | | 動作停止 |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 | | | |
| 発振停止検出 | | | |
| バッテリ・バックアップ機能 | | | |
| 12ビット・インターバル・タイマ | | | |
| 8ビット・インターバル・タイマ | | | |
| ウォッチドッグ・タイマ | | | |
| クロック出力／ブザー出力 | | | |
| A/Dコンバータ | | | |
| ΔΣA/Dコンバータ | | | |
| 温度センサ2 | | | |
| コンパレータ | | | |
| シリアル・アレイ・ユニット（SAU） | | | |
| IrDA | | | |
| シリアル・インタフェース（IICA） | | | |
| LCDコントローラ／ドライバ | | | |
| データ・トランスファ・コントローラ（DTC） | | | |
| パワーオン・リセット機能 | | | 検出動作可能 |
| 電圧検出機能 | | | LVDリセット時は動作可能。それ以外のリセット時は動作停止。 |
| 外部割り込み | | | 動作停止 |
| CRC演算機能 | 高速CRC | | |
| | 汎用CRC | | |
| RAMパリティ・エラー検出機能 | | | |
| RAMガード機能 | | | |
| SFRガード機能 | | | |
| 不正メモリ・アクセス検出機能 | | | |

（注，備考は，次ページにあります。）

注　ポート端子P40, P130は次の状態になります。

・P40：　外部リセットかPORによるリセット期間中はハイ・インピーダンス。それ以外のリセット期間中はハイ・レベル（内蔵プルアップ抵抗接続）

・P130：　リセット期間中はロウ・レベル出力

備考　$f_{IH}$　：高速オンチップ・オシレータ・クロック

$f_X$　：X1発振クロック

$f_{EX}$　：外部メイン・システム・クロック

$f_{XT}$　：XT1発振クロック

$f_{EXS}$　：外部サブシステム・クロック周波数

$f_{IL}$　：低速オンチップ・オシレータ・クロック

表25－2　リセット受け付け後の各ハードウェアの状態

| ハードウエア | | リセット受け付け後の状態注 |
|---|---|---|
| プログラム・カウンタ（PC） | | リセット・ベクタ・テーブル（0000H，0001H）の内容がセットされる。 |
| スタック・ポインタ（SP） | | 不定 |
| プログラム・ステータス・ワード（PSW） | | 06H |
| RAM | データ・メモリ | 不定 |
| | 汎用レジスタ | 不定 |

注　リセット信号発生中および発振安定時間ウエイト中の各ハードウエアの状態は，PCの内容のみ不定となります。その他は，リセット後の状態と変わりありません。

備考　製品により，搭載している特殊機能レジスタ（SFR : Special Function Register）のリセット受付後の状態は，3. 2. 4　特殊機能レジスタ（SFR : Special Function Register），3. 2. 5　拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR : 2nd Special Function Register）を参照してください。

# 25. 3　リセット要因を確認するレジスタ

## 25. 3. 1　リセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF）

RL78マイクロコントローラは内部リセット発生要因が多数存在します。リセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF）は，どの要因から発生したリセット要求かを格納するレジスタです。

RESFレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で，読み出すことができます。

$\overline{\text{RESET}}$入力，パワーオン・リセット（POR）回路によるリセットおよびRESFレジスタのデータを読み出すことにより，TRAP, WDTRF, RPERF, IAWRF, LVIRFフラグはクリアされます。

図25－4　リセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF）のフォーマット

アドレス：FFFA8H　　リセット時：不定[注1]　　R

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RESF | TRAP | 0 | 0 | WDTRF | 0 | RPERF | IAWRF | LVIRF |

| TRAP | 不正命令の実行による内部リセット要求[注2] |
|---|---|
| 0 | 内部リセット要求は発生していない，またはRESFレジスタをクリアした |
| 1 | 内部リセット要求は発生した |

| WDTRF | ウォッチドッグ・タイマ（WDT）による内部リセット要求 |
|---|---|
| 0 | 内部リセット要求は発生していない，またはRESFレジスタをクリアした |
| 1 | 内部リセット要求は発生した |

| RPERF | RAMパリティ・エラーによる内部リセット要求 |
|---|---|
| 0 | 内部リセット要求は発生していない，またはRESFレジスタをクリアした |
| 1 | 内部リセット要求は発生した |

| IAWRF | 不正メモリ・アクセスによる内部リセット要求 |
|---|---|
| 0 | 内部リセット要求は発生していない，またはRESFレジスタをクリアした |
| 1 | 内部リセット要求は発生した |

| LVIRF | 電圧検出（LVD）回路による内部リセット要求 |
|---|---|
| 0 | 内部リセット要求は発生していない，またはRESFレジスタをクリアした |
| 1 | 内部リセット要求は発生した |

注1.　リセット要因により異なります。表25－3を参照してください。

2.　FFHの命令コードを実行したときに発生します。
このリセットは，インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

注意1.　1ビット・メモリ操作命令でデータを読み出さないでください。

2.　RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可（RPERDIS = 0）で使用する場合，データ・アクセス時は「使用するRAM領域」を，RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域 ＋10バイト」の領域を必ず初期化してください。リセット発生により，RAMパリティ・エラー・リセット発生許可（RPERDIS = 0）となります。詳細は，30. 3. 3　RAMパリティ・エラー検出機能を参照してください。

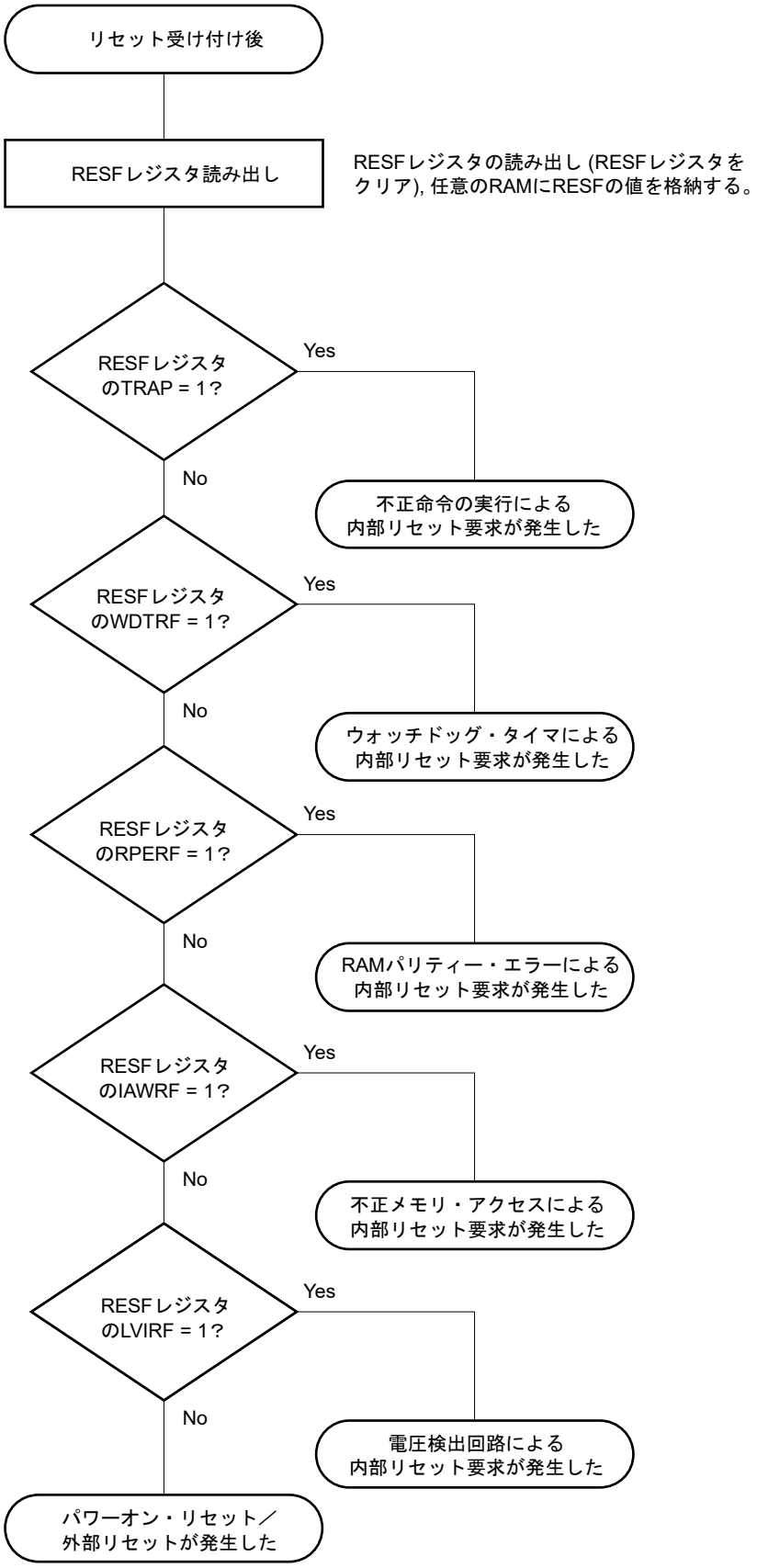
リセット要求時のRESFレジスタの状態を表25－3に示します。

表25－3　リセット要求時のRESFレジスタの状態

<table>
<tr><th>リセット要因<br>フラグ</th><th>$\overline{\text{RESET}}$入力</th><th>PORによるリセット</th><th>不正命令の実行によるリセット</th><th>WDTによるリセット</th><th>RAMパリティ・エラーによるリセット</th><th>不正メモリ・アクセスによるリセット</th><th>LVDによるリセット</th></tr>
<tr><td>TRAP</td><td rowspan="5">クリア（0）</td><td rowspan="5">クリア（0）</td><td>セット（1）</td><td>保持</td><td rowspan="2">保持</td><td rowspan="3">保持</td><td rowspan="4">保持</td></tr>
<tr><td>WDTRF</td><td rowspan="4">保持</td><td>セット（1）</td></tr>
<tr><td>RPERF</td><td rowspan="3">保持</td><td>セット（1）</td></tr>
<tr><td>IAWRF</td><td rowspan="2">保持</td><td>セット（1）</td></tr>
<tr><td>LVIRF</td><td>保持</td><td>セット（1）</td></tr>
</table>

RESFレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で読み出すと，自動的にクリアされます。
リセット要因の手順を図25－5に示します

図25－5　リセット要因の確認手順例



### 25. 3. 2　パワーオン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）

PORSRレジスタは，パワーオン・リセットの発生を確認するレジスタです。

PORSRレジスタのビット0（PORF）への“1”書き込みは有効であり，“0”書き込みは無視されます。

パワーオン・リセット発生の有無を確認するときは，あらかじめPORFビットに“1”を書き込んでおいてください。

PORSRレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

パワーオン・リセット信号の発生により，00Hになります。

注意1. PORSRレジスタはパワーオン・リセットによるリセット時のみ初期化され，その他のリセット要因では，値を保持します）。

2. PORFが“1”のとき，パワーオン・リセットが発生していないことは保証されますが，RAMの値が保持されていることを保証するものではありません。

図25－6　パワーオン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）のフォーマット

アドレス：F00F9H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PORSR | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | PORF |

| PORF | パワーオン・リセット発生確認 |
|---|---|
| 0 | “1”書き込みが行われていない，またはパワーオン・リセットが発生 |
| 1 | パワーオン・リセットは発生していない |

# 第26章　パワーオン・リセット回路

## 26. 1　パワーオン・リセット回路の機能

パワーオン・リセット（POR）回路は次のような機能を持ちます。

・電源投入時に内部リセット信号を発生します。
電源電圧（$V_{DD}$）注が検出電圧（$V_{POR}$）を越えた場合に，リセットを解除します。ただし，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲まで，電圧検出機能か外部リセット端子でリセット状態を保ってください。

・電源電圧（$V_{DD}$）注と検出電圧（$V_{PDR}$）を比較し，$V_{DD}$注＜$V_{PDR}$になったとき内部リセット信号を発生します。
ただし，電源立ち下がり時は，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは，電源電圧が動作電圧範囲内に復帰したことを確認してください。

注　バッテリ・バックアップ機能を使用時は，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）です。

注意　パワーオン・リセット回路による内部リセット信号が発生した場合，リセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF）およびパワーオン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）がクリア（00H）されます。

備考1.　RL78マイクロコントローラには内部リセット信号を発生するハードウエアが複数内蔵されています。ウォッチドッグ・タイマ（WDT）／電圧検出（LVD）回路／不正命令の実行／RAMパリティ・エラー／不正メモリ・アクセスによる内部リセット信号が発生した場合，そのリセット要因を示すためのフラグがRESFレジスタに配置されています。RESFレジスタはWDT／LVD／不正命令の実行／RAMパリティ・エラー／不正メモリ・アクセスのいずれかによる内部リセット信号が発生した場合は，クリア（00H）されずフラグがセット（1）されます。RESFレジスタの詳細については，第25章　リセット機能を参照してください。

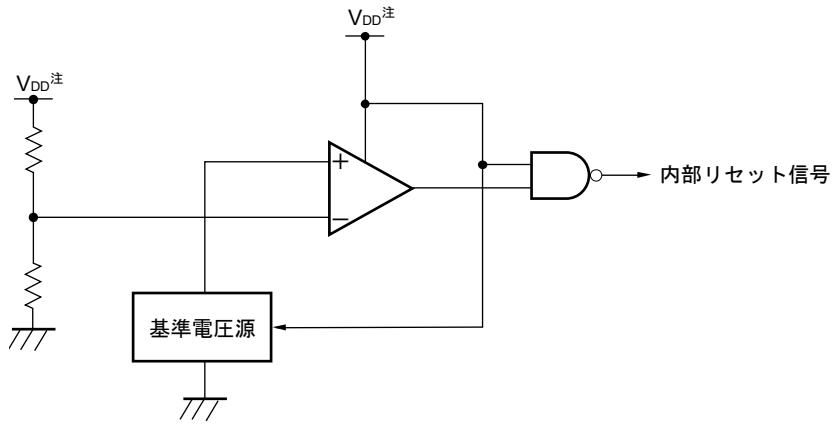
2.　パワーオン・リセット回路による内部リセットの発生は，パワーオン・リセット・ステータス・レジスタ（PORSR）で確認することができます。PORSRレジスタの詳細については，第25章　リセット機能を参照してください。

3.　$V_{POR}$：POR電源立ち上がり検出電圧
$V_{PDR}$：POR電源立ち下がり検出電圧
詳細は，37. 6. 5　POR回路特性を参照してください。

## 26. 2　パワーオン・リセット回路の構成

パワーオン・リセット回路のブロック図を図26－1に示します。

図26－1　パワーオン・リセット回路のブロック図



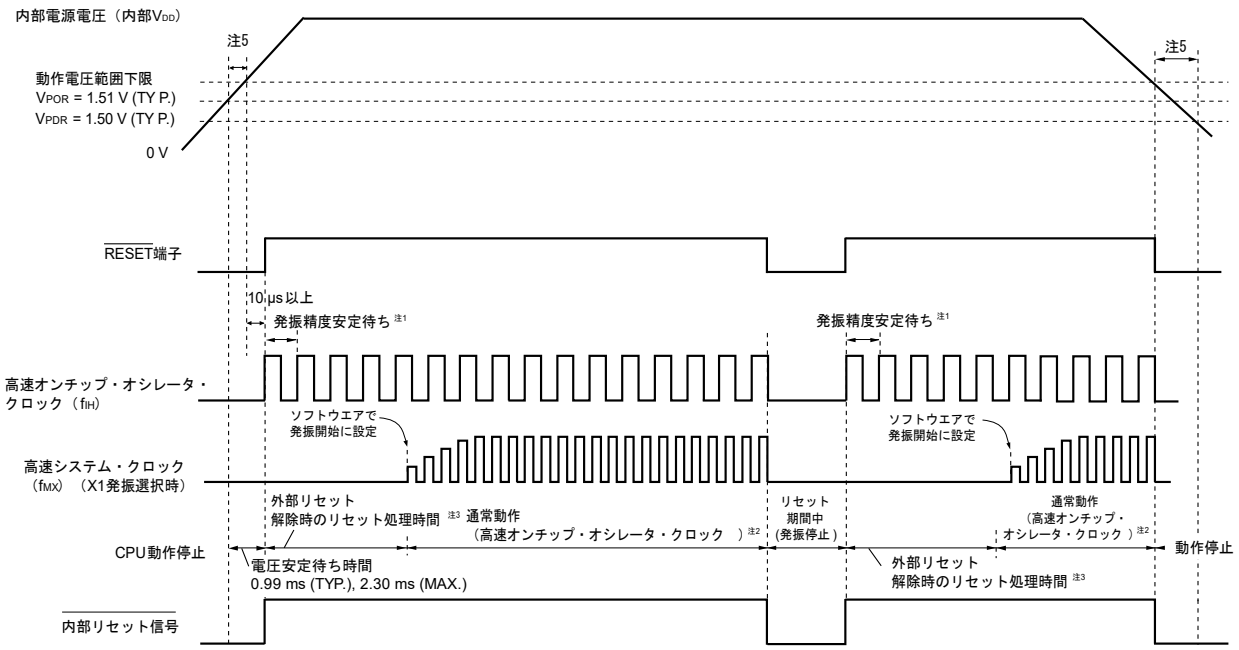

注　バッテリ・バックアップ機能を使用時は，内部電源電圧（内部VDD）です。

## 26. 3　パワーオン・リセット回路の動作

パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生タイミングを次に示します。

図26－2　パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生のタイミング（1/3）

（1）$\overline{\text{RESET}}$端子による外部リセット使用時




注 1.　高速オンチップ･オシレータ･クロックの発振精度安定待ち時間は，内部のリセット処理時間に含まれます。

2.　CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックから高速システム・クロックまたはサブシステム・クロックに切り替え可能です。
X1クロックを使用する場合は，発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で，XT1クロックを使用する場合はタイマ機能などを用いて，発振安定時間を確認してから切り替えてください。

3.　通常動作が開始されるまでの時間は，VPOR (1.51 V (TYP.))に達してからの“電圧安定待ち時間”に加えて，$\overline{\text{RESET}}$信号をハイ・レベル(1)にしてから次の“外部リセット解除時のリセット処理時間（POR解除後1回目）”が掛かります。外部リセット解除時のリセット処理時間を次に示します。
POR解除後1回目：　0.672 ms (TYP.), 0.832 ms (MAX.)（LVD使用時）
0.399 ms (TYP.), 0.519 ms (MAX.)（LVDオフ時）

4.　POR解除後2回目以降の外部リセット解除時のリセット処理時間を次に示します。
POR解除後2回目以降：　0.531 ms (TYP.), 0.675 ms (MAX.)（LVD使用時）
0.259 ms (TYP.), 0.362 ms (MAX.)（LVDオフ時）

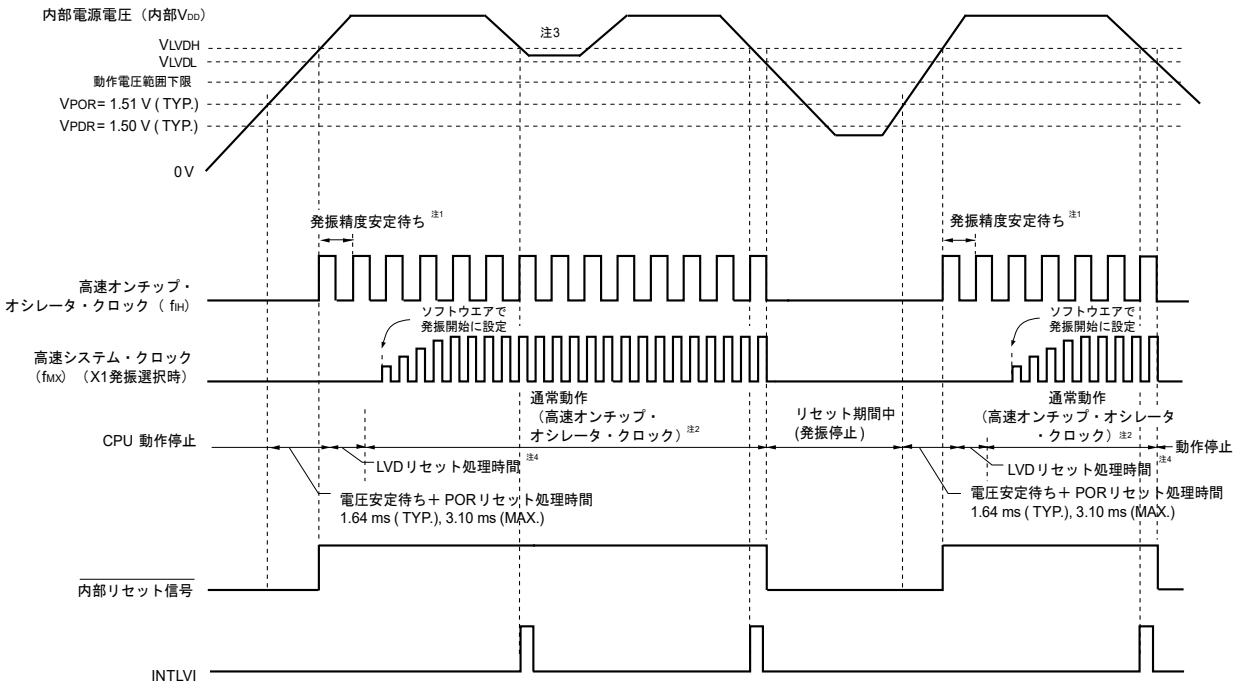
5.　電源立ち上がり時は，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲まで，外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は，動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは，電源電圧が動作電圧範囲まで復帰したことを確認してください。

備考　VPOR　：POR電源立ち上がり検出電圧
VPDR　：POR電源立ち下がり検出電圧

注意 LVDオフ時は必ず$\overline{\text{RESET}}$端子による外部リセットを使用してください。詳細は，第27章　電圧検出回路を参照してください。

図26－2　パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生のタイミング（2/3）

（2）LVD割り込み＆リセット・モード時　（オプション・バイト000C1HのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）




注1.　高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ち時間は，内部のリセット処理時間に含まれます。

2.　CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックから高速システム・クロックまたはサブシステム・クロックに切り替え可能です。X1クロックを使用する場合は，発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で，XT1クロックを使用する場合はタイマ機能などを用いて，発振安定時間を確認してから，切り替えてください。

3.　割り込み要求信号（INTLVI）が発生したあと，電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）のLVILV, LVIMDビットは自動的に1に設定されます。そのため，電源電圧が低電圧検出電圧（$V_{LVDL}$）を下回らずに，高電圧検出電圧（$V_{LVDH}$）以上に復帰する場合を考慮して，INTLVI発生後は，“図27－8　動作電圧確認／リセットの設定手順”と，“図27－9　割り込み＆リセット・モードの初期設定の設定手順”に従って設定をしてください。

4.　通常動作が開始されるまでの時間は，$V_{POR}$ (1.51 V (TYP.))に達してからの“電圧安定待ち＋PORリセット処理時間”に加えて，LVD検出レベル（$V_{LVDH}$）に達してから次の“LVDリセット処理時間”が掛かります。

LVDリセット処理時間：　0 ms　～　0.0701 ms (MAX.)

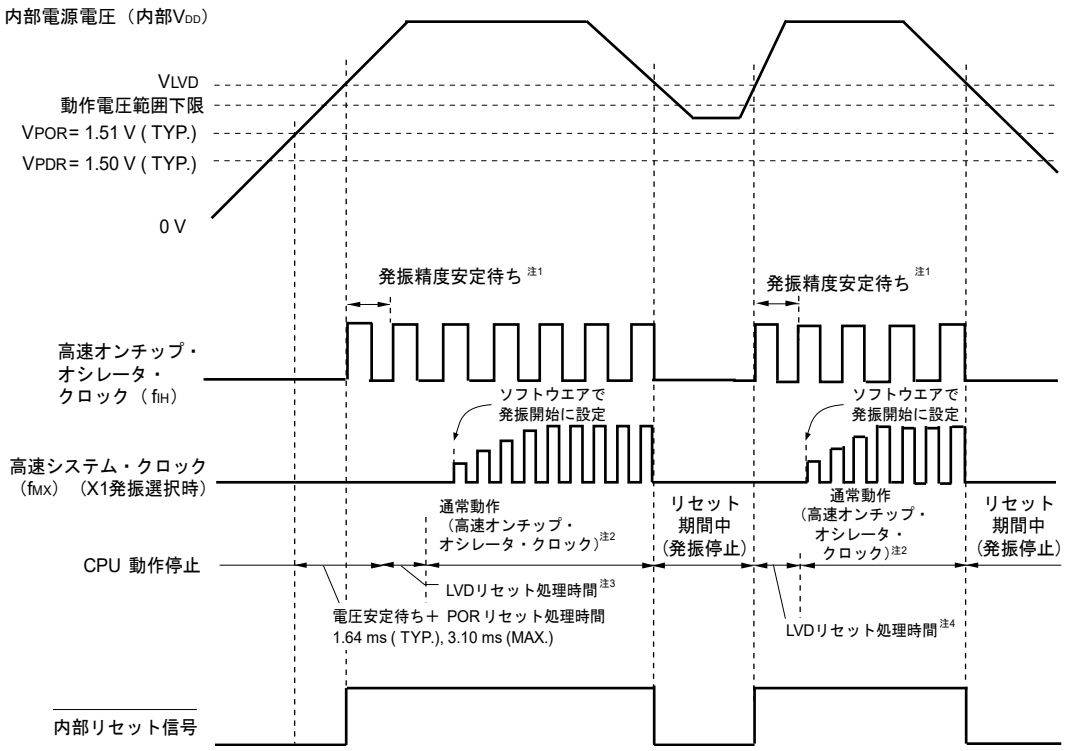
備考　$V_{LVDH}$, $V_{LVDL}$　：LVD検出電圧

$V_{POR}$　：POR電源立ち上がり検出電圧

$V_{PDR}$　：POR電源立ち下がり検出電圧

図26－2　パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生のタイミング（3/3）

（3）LVD リセット・モード時 (オプション・バイト000C1H のLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1)




注1.　高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ち時間は，内部のリセット処理時間に含まれます。

2.　CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックから高速システム・クロックまたはサブシステム・クロックに切り替え可能です。X1クロックを使用する場合は，発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で，XT1クロックを使用する場合はタイマ機能などを用いて，発振安定時間を確認してから，切り替えてください。

3.　通常動作が開始されるまでの時間は，VPOR (1.51 V (TYP.))に達してからの“電圧安定待ち＋PORリセット処理時間”に加えて，LVD検出レベル（VLVD）に達してから次の“LVDリセット処理時間”が掛かります。

LVDリセット処理時間：　0 ms ～ 0.0701 ms (MAX.)

4.　電源電圧降下時，電圧検出回路（LVD）による内部リセットのみ発生後に電源電圧が復帰した場合，LVD検出レベル（VLVD）に達してから次の“LVDリセット処理時間”が掛かります。

LVDリセット処理時間：　0.0511 ms (TYP.), 0.0701ms (MAX.)

備考1. VLVDH, VLVDL　：LVD検出電圧

VPOR　：POR電源立ち上がり検出電圧

VPDR　：POR電源立ち下がり検出電圧

2. LVD割り込みモード（オプション・バイト000C1HのLVIMD1，LVIMD0=0,1）を選択した場合，電源投入後に通常動作が開始されるまでの時間は，図26－2（3）LVDリセット・モード時の“注3”の時間と同じです。

# 第27章　電圧検出回路

## 27. 1　電圧検出回路の機能

電圧検出回路は，オプション・バイト（000C1H）で動作モードと検出電圧（$V_{LVDH}$, $V_{LVDL}$, $V_{LVD}$）を設定します。
電圧検出（LVD）回路は，次のような機能を持ちます。

・$V_{DD}$端子またはVBAT端子から供給される内部電源電圧（内部$V_{DD}$）と検出電圧（$V_{LVDH}$, $V_{LVDL}$, $V_{LVD}$）を比較し，内部リセットまたは割り込み要求信号を発生します。
・内部電源電圧の検出電圧（$V_{LVDH}$, $V_{LVDL}$, $V_{LVD}$）は，オプション・バイトにて検出レベルを11段階より選択できます（第32章　オプション・バイト参照）。
・STOPモード時においても動作可能です。
・電源立ち上がり時は，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲まで，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は，動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。
動作電圧範囲は，ユーザ・オプション・バイト（000C2H/010C2H）の設定により変わります。

（a）割り込み＆リセット・モード（オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）
　オプション・バイト000C1Hで2つの検出電圧（$V_{LVDH}$, $V_{LVDL}$）を選択します。高電圧検出レベル（$V_{LVDH}$）はリセット解除用／割り込み発生用として使用します。低電圧検出レベル（$V_{LVDL}$）はリセット発生用として使用します。

（b）リセット・モード（オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1）
　オプション・バイト000C1Hで選択する1つの検出電圧（$V_{LVD}$）を，リセット発生／解除用として使用します。

（c）割り込みモード（オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1）
　オプション・バイト000C1Hで選択する1つの検出電圧（$V_{LVD}$）を，リセット解除用／割り込み発生用として使用します。

各モードにおける割り込み信号と内部リセット信号は，次のように発生します。

| 割り込み＆リセット・モード<br>（LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0） | リセット・モード<br>（LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1） | 割り込みモード<br>（LVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1） |
|---|---|---|
| 動作電圧降下時に，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）＜$V_{LVDH}$を検出して割り込み要求信号を発生，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）＜$V_{LVDL}$を検出して内部リセットを発生。<br>内部電源電圧（内部$V_{DD}$）≧$V_{LVDH}$を検出して内部リセットを解除。 | 内部電源電圧（内部$V_{DD}$）≧$V_{LVD}$を検出して内部リセットを解除。内部電源電圧（内部$V_{DD}$）＜$V_{LVD}$を検出して内部リセットを発生。 | リセット発生直後，LVDの内部リセットは内部$V_{DD}$≧$V_{LVD}$になるまでリセット状態を継続します。内部$V_{DD}$≧$V_{LVD}$を検出してLVDの内部リセットは解除されます。<br>LVDの内部リセット解除後は，内部$V_{DD}$＜$V_{LVD}$または内部$V_{DD}$≧$V_{LVD}$を検出して割り込み要求信号（INTLVI）を発生します。 |

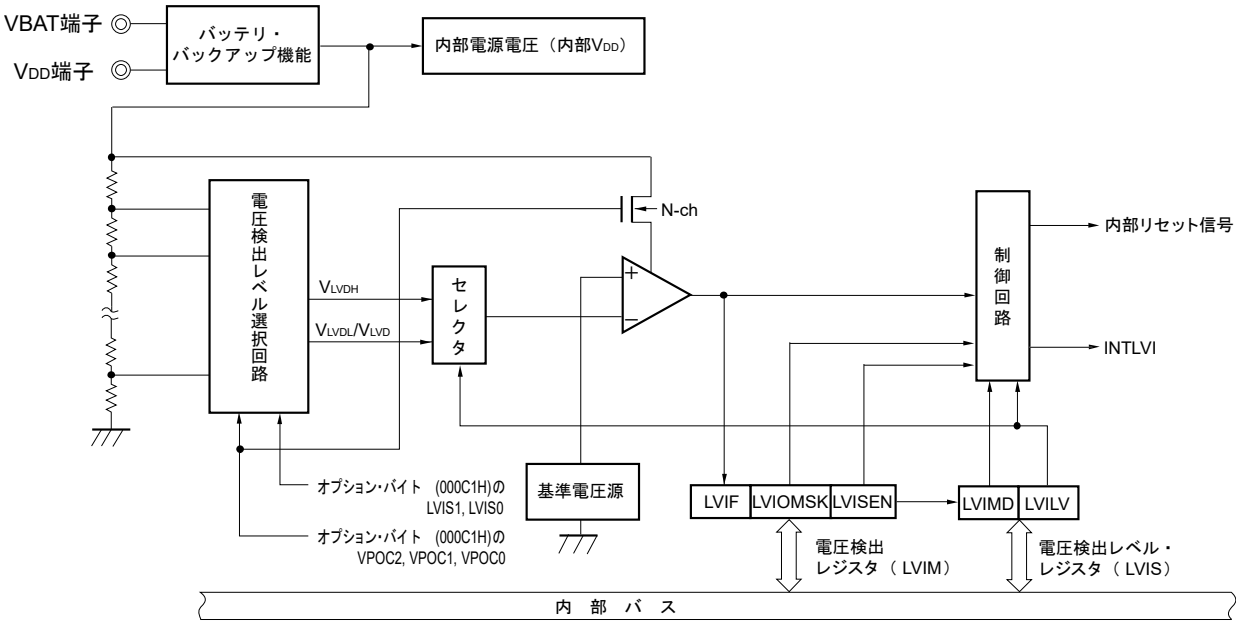
電圧検出回路動作時では，電圧検出フラグ（LVIF：電圧検出レジスタ（LVIM）のビット0）を読み出すことにより，内部電源電圧が検出レベル以上か未満かを知ることができます。

リセットが発生するとリセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF）のビット0（LVIRF）がセット（1）されます。RESFレジスタについての詳細は，第25章　リセット機能を参照してください。

## 27. 2　電圧検出回路の構成

電圧検出回路のブロック図を図27－1に示します。

図27－1　電圧検出回路のブロック図




## 27. 3　電圧検出回路を制御するレジスタ

電圧検出回路は次のレジスタで制御します。

・電圧検出レジスタ（LVIM）
・電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）

### 27. 3. 1　電圧検出レジスタ（LVIM）

電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の書き換え許可／禁止の設定，LVD出力のマスク状態を確認するレジスタです。

LVIMレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図27－2　電圧検出レジスタ（LVIM）のフォーマット

アドレス：FFFA9H　リセット時：00H注1　R/W注2

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LVIM | LVISEN注3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | LVIOMSK | LVIF |

| LVISEN注3 | 電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の書き換え許可／禁止の設定 |
|---|---|
| 0 | LVISレジスタの書き換え禁止（LVIOMSK=0（LVD出力マスク無効）になる） |
| 1 | LVISレジスタの書き換え許可（LVIOMSK=1（LVD出力マスク有効）になる） |

| LVIOMSK | LVD出力マスク状態フラグ |
|---|---|
| 0 | LVD出力マスク無効 |
| 1 | LVD出力マスク有効 注3, 4 |

| LVIF | 電圧検出フラグ |
|---|---|
| 0 | 内部電源電圧（内部$V_{DD}$）≧検出電圧（$V_{LVD}$），またはLVDオフ時 |
| 1 | 内部電源電圧（内部$V_{DD}$）＜検出電圧（$V_{LVD}$） |

注1.　リセット値は，リセット要因により変化します。
LVDによるリセットのときには，LVIMレジスタの値はリセットされず，そのままの値を保持します。その他のリセットでは，LVISENは“0”にクリアされます。

2.　ビット0, 1は，Read Onlyです。

3.　割り込み＆リセット・モード（オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）選択時のみ設定できます。その他モードでは初期値から変更しないでください。

4.　割り込み＆リセット・モード（オプション・バイトLVIMDS1，LVIMDS0=1，0）選択時のみ，LVIOMSKビットは以下の期間に自動で“1”となり，LVDによるリセットまたは割り込み発生がマスクされます。
・LVISEN = 1の期間
・LVD割り込み発生から，LVD検出電圧が安定するまでの待ち時間
・LVILVビットの値変更から，LVD検出電圧が安定するまでの待ち時間

### 27. 3. 2　電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）

電圧検出レベルを設定するレジスタです。

LVISレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00H/01H/81H[注1]になります。

図27－3　電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）のフォーマット

アドレス：FFFAAH　リセット時：00H/01H/81H[注1]　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LVIS | LVIMD[注2] | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | LVILV[注2] |

| LVIMD[注2] | 電圧検出の動作モード |
|---|---|
| 0 | 割り込みモード |
| 1 | リセット・モード |

| LVILV[注2] | LVD検出レベル |
|---|---|
| 0 | 高電圧検出レベル（$V_{LVDH}$） |
| 1 | 低電圧検出レベル（$V_{LVDL}$または$V_{LVD}$） |

注1.　リセット値は，リセット要因およびオプション・バイトの設定により変化します。
LVDリセット時は，クリア（00H）されません。
LVD以外のリセット時は，次のようになります。
・オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0のとき：00H
・オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1のとき：81H
・オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1のとき：01H

2.　割り込み＆リセット・モード（オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）選択時に“0”書き込みのみ可能です。その他の場合は設定しないでください。割り込み＆リセット・モードでのリセットまたは割り込み発生により，自動で値が切り替わります。

注意1.　LVISレジスタを書き換える場合は，図27－8，図27－9の手順で行ってください。

2.　LVDの動作モードと各モードの検出電圧（$V_{LVDH}$，$V_{LVDL}$，$V_{LVD}$）は，オプション・バイト000C1Hで選択します。ユーザ・オプション・バイト（000C1H/010C1H）のフォーマットを図27－4に示します。オプション・バイトの詳細は第32章　オプション・バイトを参照してください。

図27－4　ユーザ・オプション・バイト（000C1H）によるLVD動作モード・検出電圧設定（1/2）

アドレス：000C1H/010C1H[注]

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | 1 | LVIS1 | LVIS0 | LVIMDS1 | LVIMDS0 |

・LVDの設定（割り込み＆リセット・モード）

| 検出電圧 | | | オプション・バイト設定値 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{LVDH}$ | | $V_{LVDL}$ | VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | LVIS1 | LVIS0 | モード設定 | |
| 立ち上がり | 立ち下がり | 立ち下がり | | | | | | LVIMDS1 | LVIMDS0 |
| 2.61 V | 2.55 V | 2.45 V | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 2.71 V | 2.65 V | | | | | 0 | 1 | | |
| 3.75 V | 3.67 V | | | | | 0 | 0 | | |
| 2.92 V | 2.86 V | 2.75 V | | 1 | 1 | 1 | 0 | | |
| 3.02 V | 2.96 V | | | | | 0 | 1 | | |
| 4.06 V | 3.98 V | | | | | 0 | 0 | | |
| － | | | 上記以外は設定禁止 | | | | | | |

・LVDの設定（リセット・モード）

| 検出電圧 | | オプション・バイト設定値 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{LVD}$ | | VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | LVIS1 | LVIS0 | モード設定 | |
| 立ち上がり | 立ち下がり | | | | | | LVIMDS1 | LVIMDS0 |
| 1.98 V | 1.94 V | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 2.09 V | 2.04 V | | 0 | 1 | 0 | 1 | | |
| 2.50 V | 2.45 V | | 1 | 0 | 1 | 1 | | |
| 2.61 V | 2.55 V | | 1 | 0 | 1 | 0 | | |
| 2.71 V | 2.65 V | | 1 | 0 | 0 | 1 | | |
| 2.81 V | 2.75 V | | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 2.92 V | 2.86 V | | 1 | 1 | 1 | 0 | | |
| 3.02 V | 2.96 V | | 1 | 1 | 0 | 1 | | |
| 3.13 V | 3.06 V | | 0 | 1 | 0 | 0 | | |
| 3.75 V | 3.67 V | | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 4.06 V | 3.98 V | | 1 | 1 | 0 | 0 | | |
| － | | 上記以外は設定禁止 | | | | | | |

注　ブート・スワップ時は，000C1Hと010C1Hが切り替わるので，010C1Hにも000C1Hと同じ値を設定してください。

備考1.　LVD回路の詳細は，第27章　電圧検出回路を参照してください。

2.　検出電圧はTYP.値です。詳細は，37. 6. 6　LVD回路特性を参照してください。

(注意は，次ページにあります。)

図27－4　ユーザ・オプション・バイト（000C1H）によるLVD動作モード・検出電圧設定（2/2）

アドレス：000C1H/010C1H[注]

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | 1 | LVIS1 | LVIS0 | LVIMDS1 | LVIMDS0 |

・LVDの設定（割り込みモード）

| 検出電圧 | | オプション・バイト設定値 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{LVD}$ | | VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | LVIS1 | LVIS0 | モード設定 | |
| 立ち上がり | 立ち下がり | | | | | | LVIMDS1 | LVIMDS0 |
| 1.98 V | 1.94 V | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 2.09 V | 2.04 V | | 0 | 1 | 0 | 1 | | |
| 2.50 V | 2.45 V | | 1 | 0 | 1 | 1 | | |
| 2.61 V | 2.55 V | | 1 | 0 | 1 | 0 | | |
| 2.71 V | 2.65 V | | 1 | 0 | 0 | 1 | | |
| 2.81 V | 2.75 V | | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 2.92 V | 2.86 V | | 1 | 1 | 1 | 0 | | |
| 3.02 V | 2.96 V | | 1 | 1 | 0 | 1 | | |
| 3.13 V | 3.06 V | | 0 | 1 | 0 | 0 | | |
| 3.75 V | 3.67 V | | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 4.06 V | 3.98 V | | 1 | 1 | 0 | 0 | | |
| － | | 上記以外は設定禁止 | | | | | | |

・LVDオフの設定（$\overline{\text{RESET}}$端子による外部リセットを使用）

| 検出電圧 | | オプション・バイト設定値 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{LVD}$ | | VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | LVIS1 | LVIS0 | モード設定 | |
| 立ち上がり | 立ち下がり | | | | | | LVIMDS1 | LVIMDS0 |
| — | — | 1 | × | × | × | × | × | 1 |
| － | | 上記以外は設定禁止 | | | | | | |

注　ブート・スワップ時は，000C1Hと010C1Hが切り替わるので，010C1Hにも000C1Hと同じ値を設定してください。

注意1.　ビット4には必ず“1”を設定してください。

2.　電源立ち上がり時は，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲まで，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は，動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。
動作電圧範囲は，ユーザ・オプション・バイト（000C2H/010C2H）の設定により変わります。

備考1.　×：don’t care

2.　LVD回路の詳細は，第27章　電圧検出回路を参照してください。

3.　検出電圧はTYP.値です。詳細は，37. 6. 6　LVD回路特性を参照してください。

# 27. 4　電圧検出回路の動作

## 27. 4. 1　リセット・モードとして使用する場合の設定

動作モード（リセット・モード（LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1））と検出電圧（$V_{LVD}$）の設定は，
オプション・バイト000C1Hで設定します。

リセット・モードを設定した場合，次の初期設定の状態で動作を開始します。

・電圧検出レジスタ（LVIM）のビット7（LVISEN）は，“0”（電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の書き換え禁止）に設定されます。

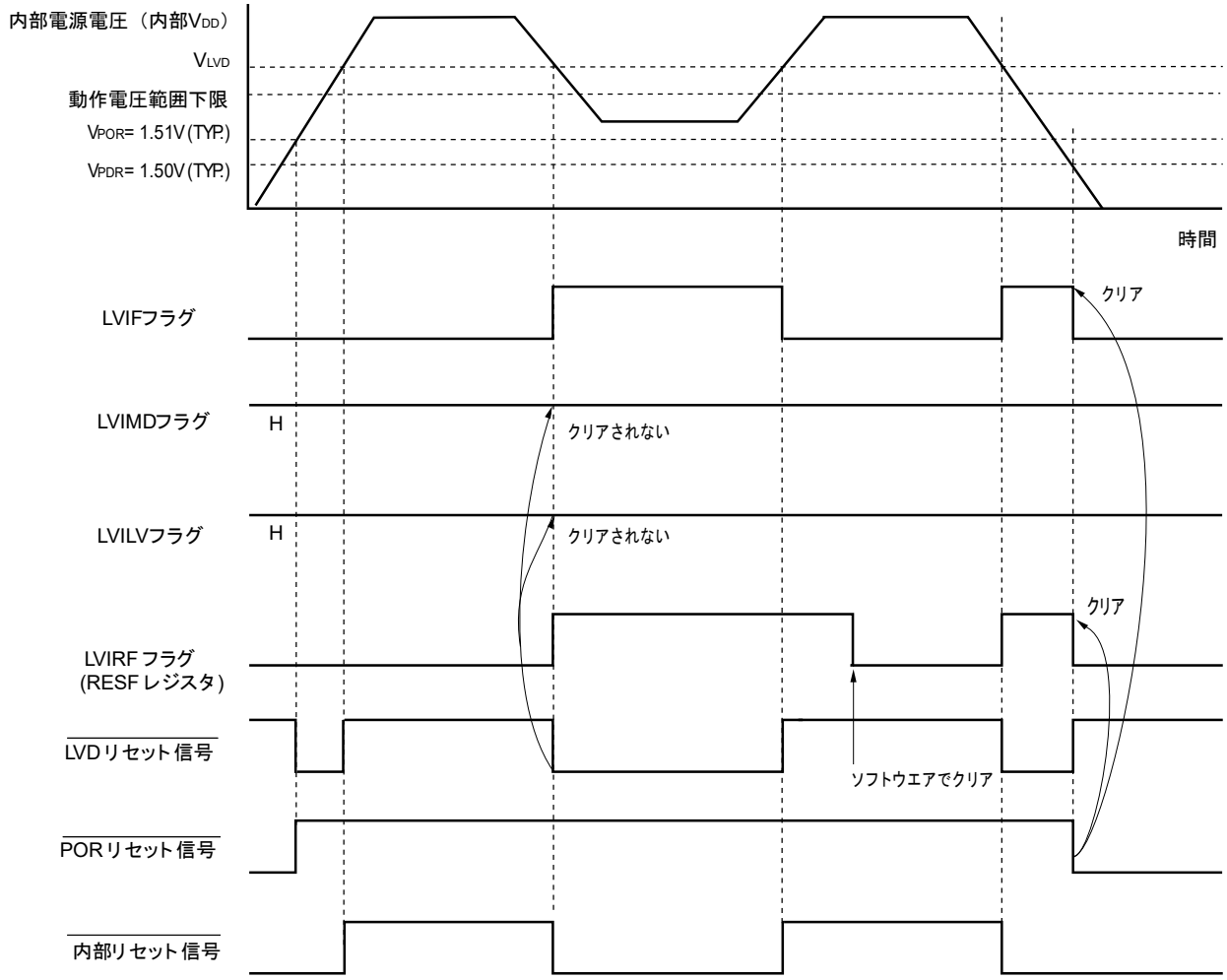
・電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の初期値は，81Hに設定されます。
ビット7（LVIMD）は“1”（リセット・モード）
ビット0（LVILV）は“1”（電圧検出レベル：$V_{LVD}$）

●LVDリセット・モードの動作

リセット・モード（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1）は，電源投入時，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が電圧検出レベル（$V_{LVD}$）を超えるまではLVDによる内部リセット状態を保ちます。内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が電圧検出レベル（$V_{LVD}$）を超えると内部リセットを解除します。
動作電圧降下時は内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が電圧検出レベル（$V_{LVD}$）を下回るとLVDによる内部リセットが発生します。

図27－5に，LVDリセット・モードの内部リセット信号発生のタイミングを示します。

図27－5　内部リセット信号発生のタイミング（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1）




備考　VPOR：POR電源立ち上がり検出電圧

VPDR：POR電源立ち下がり検出電圧

### 27. 4. 2　割り込みモードとして使用する場合の設定

動作モード（割り込みモード（LVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1））と検出電圧（$V_{LVD}$）の設定は，オプション・バイト000C1Hで設定します。

割り込みモードを設定した場合，次の初期設定の状態で動作を開始します。

・電圧検出レジスタ（LVIM）のビット7（LVISEN）は，“0”（電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の書き換え禁止）に設定されます。

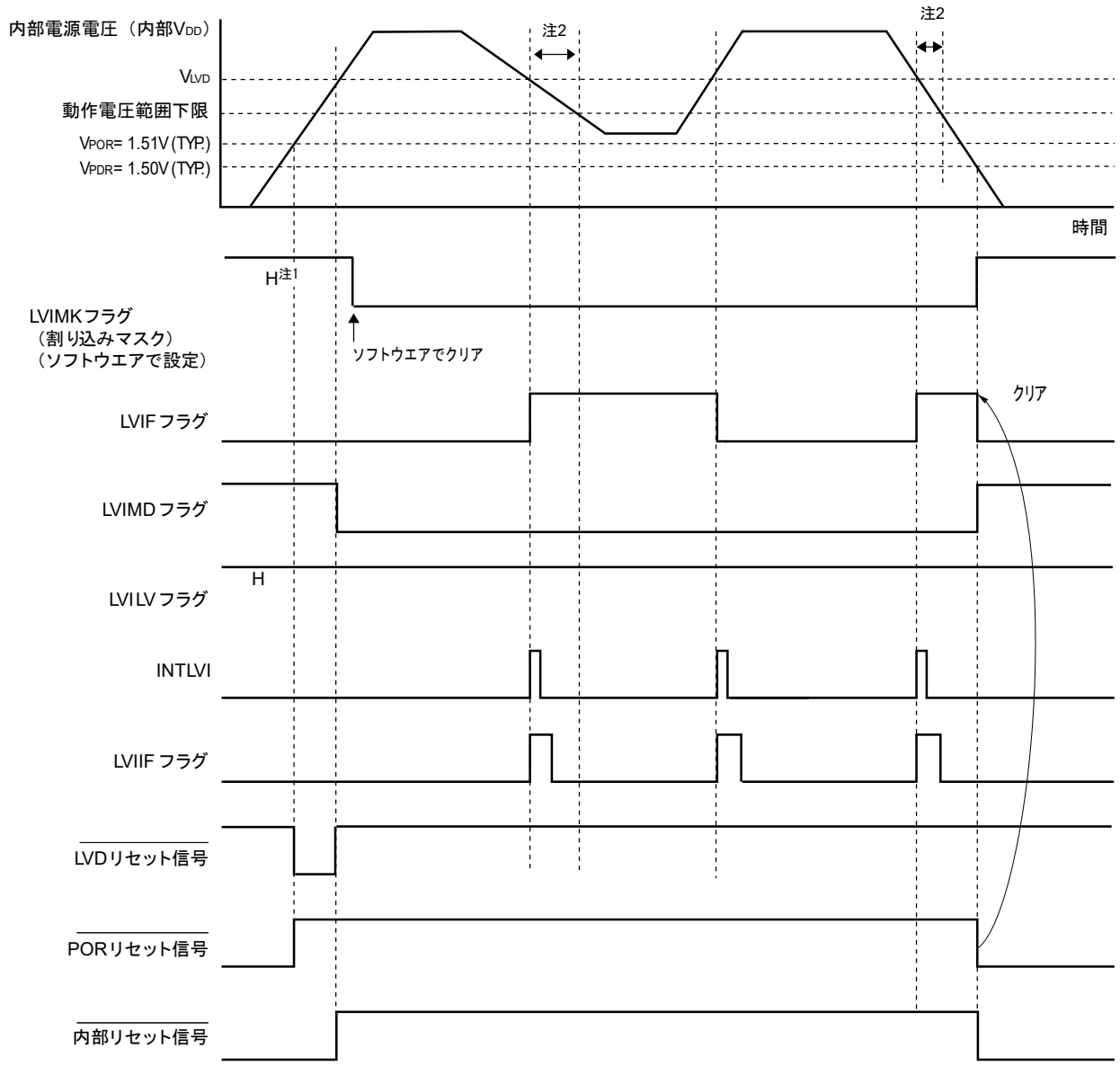
・電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の初期値は，01Hに設定されます。
ビット7（LVIMD）は“0”（割り込みモード）
ビット0（LVILV）は“1”（電圧検出レベル：$V_{LVD}$）

●LVD割り込みモードの動作

割り込みモード（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1）では，リセット発生直後，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が電圧検出レベル（$V_{LVD}$）を上回るまではLVDによる内部リセット状態を保ちます。内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が電圧検出レベル（$V_{LVD}$）を上回るとLVDによる内部リセットを解除します。
LVDの内部リセット解除後は，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が電圧検出レベル（$V_{LVD}$）を超えるとLVDによる割り込み要求信号（INTLVI）が発生します。動作電圧降下時は，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは，内部電源電圧が動作電圧範囲内に復帰したことを確認してください。

図27－6に，LVD割り込みモードの割り込み要求信号発生のタイミングを示します。

図27－6　割り込み信号発生のタイミング（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1）




注1.　LVIMKフラグはリセット信号の発生により，“1”になっています。

2.　動作電圧降下時は，37．4　AC特性に示す動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは，内部電源電圧が動作電圧範囲内に復帰したことを確認してください。

備考　$V_{POR}$：POR電源立ち上がり検出電圧

$V_{PDR}$：POR電源立ち下がり検出電圧

### 27. 4. 3　割り込み＆リセット・モードとして使用する場合の設定

動作モード（割り込み＆リセット・モード（LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0））と検出電圧（$V_{LVDH}$, $V_{LVDL}$）の設定は，オプション・バイト000C1Hで設定します。

割り込み＆リセット・モードを設定した場合，次の初期設定の状態で動作を開始します。

・電圧検出レジスタ（LVIM）のビット7（LVISEN）は，“0”（電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の書き換え禁止）に設定されます。

・電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の初期値は，00Hに設定されます。ビット7（LVIMD）は“0”（割り込みモード），ビット0（LVILV）は“0”（高電圧検出レベル：$V_{LVDH}$）

●LVD割り込み＆リセット・モードの動作

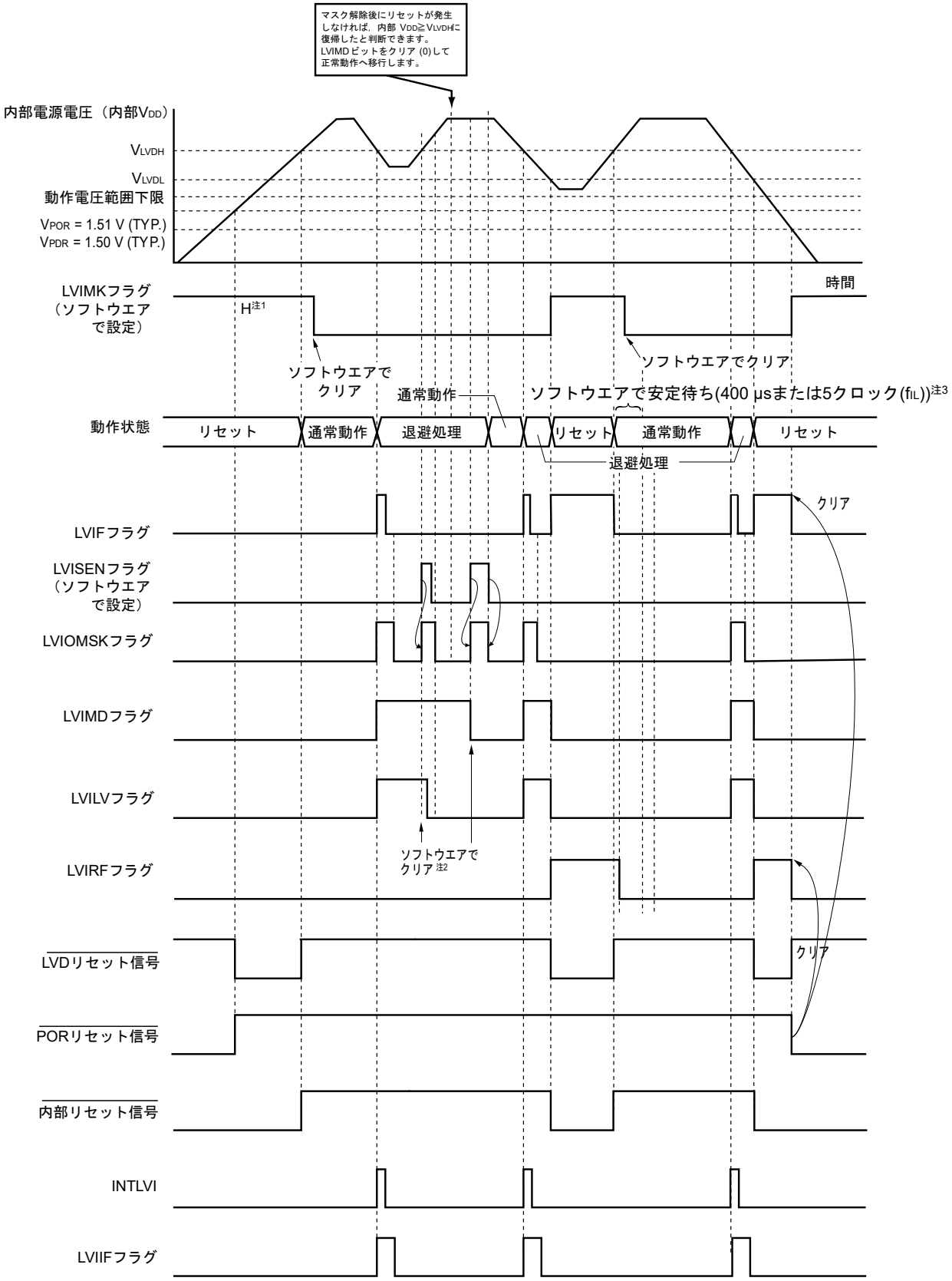
割り込み＆リセット・モード（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）は，電源投入時，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が高電圧検出レベル（$V_{LVDH}$）を超えるまではLVDによる内部リセット状態を保ちます。内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が高電圧検出レベル（$V_{LVDH}$）を超えると内部リセットを解除します。

動作電圧降下時は内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が高電圧検出レベル（$V_{LVDH}$）を下回るとLVDによる割り込み要求信号（INTLVI）が発生し，任意の退避処理を行うことができます。その後，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が低電圧検出レベル（$V_{LVDL}$）を下回るとLVDによる内部リセットが発生します。ただし，INTLVI発生後，内部電源電圧（内部$V_{DD}$）が低電圧検出電圧（$V_{LVDL}$）を下回らずに高電圧検出電圧（$V_{LVDH}$）以上に復帰しても割り込み要求信号は発生しません。

LVD割り込み＆リセット・モードの使用する場合は，“図27－8　動作電圧確認／リセットの設定手順”と，“図27－9　割り込み＆リセット・モードの初期設定の設定手順”に示すフローチャートの手順に従って設定をしてください。

図27－7に，LVD割り込み＆リセット・モードの内部リセット信号と割り込み信号発生のタイミングを示します。

図27－7　割り込み＆リセット信号発生のタイミング（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）（1/2）




（注，備考は次ページにあります。）

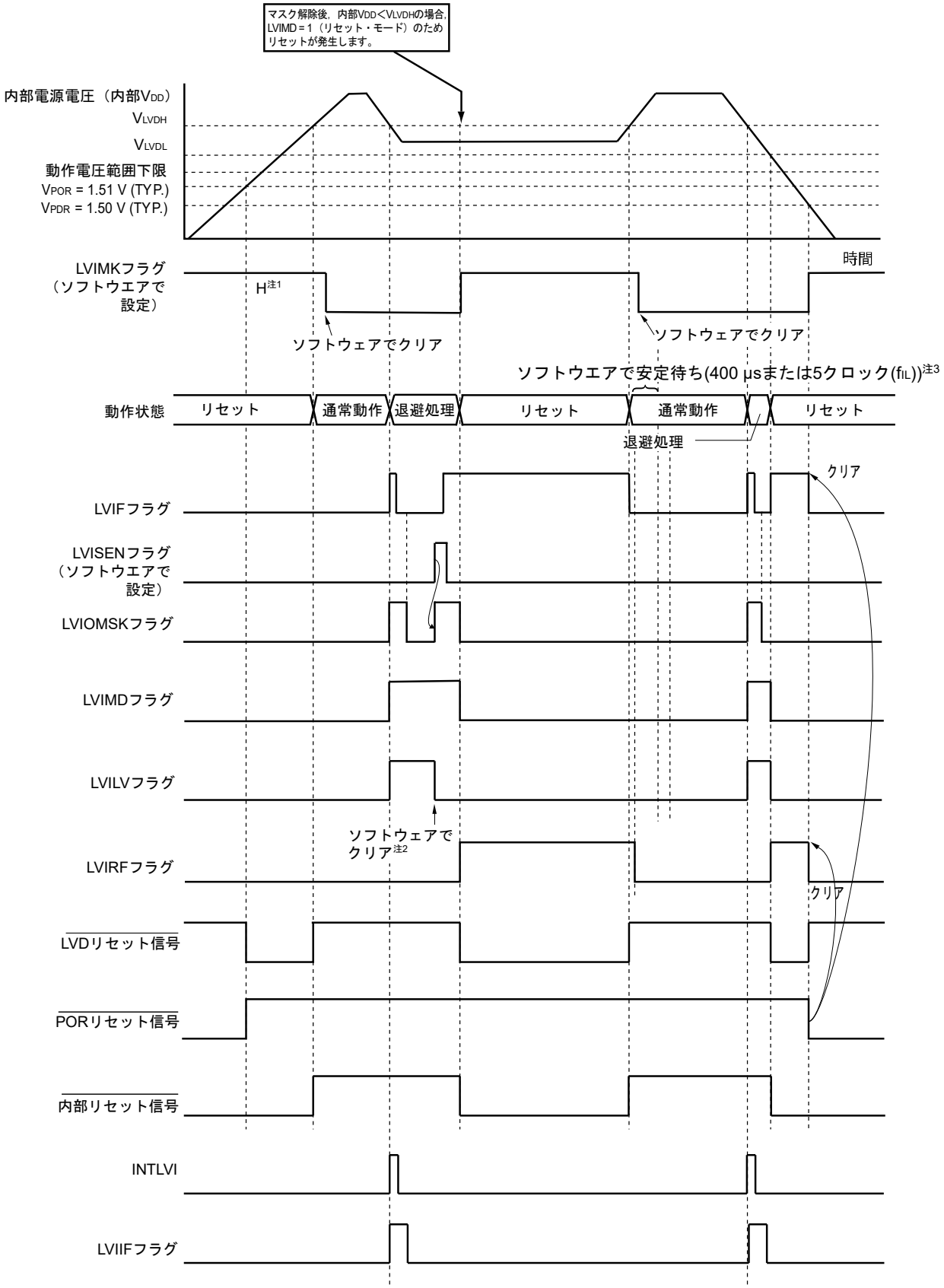
注 1.　LVIMKフラグはリセット信号の発生により，“1”になっています。

2.　割り込み＆リセット・モード使用時，割り込み発生後は，図27－8　動作電圧確認／リセットの設定手順に従って設定をしてください。

備考　$V_{POR}$：POR電源立ち上がり検出電圧

$V_{PDR}$：POR電源立ち下がり検出電圧

図27－7　割り込み＆リセット信号発生のタイミング（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）（2/2）




（注，備考は次ページにあります。）

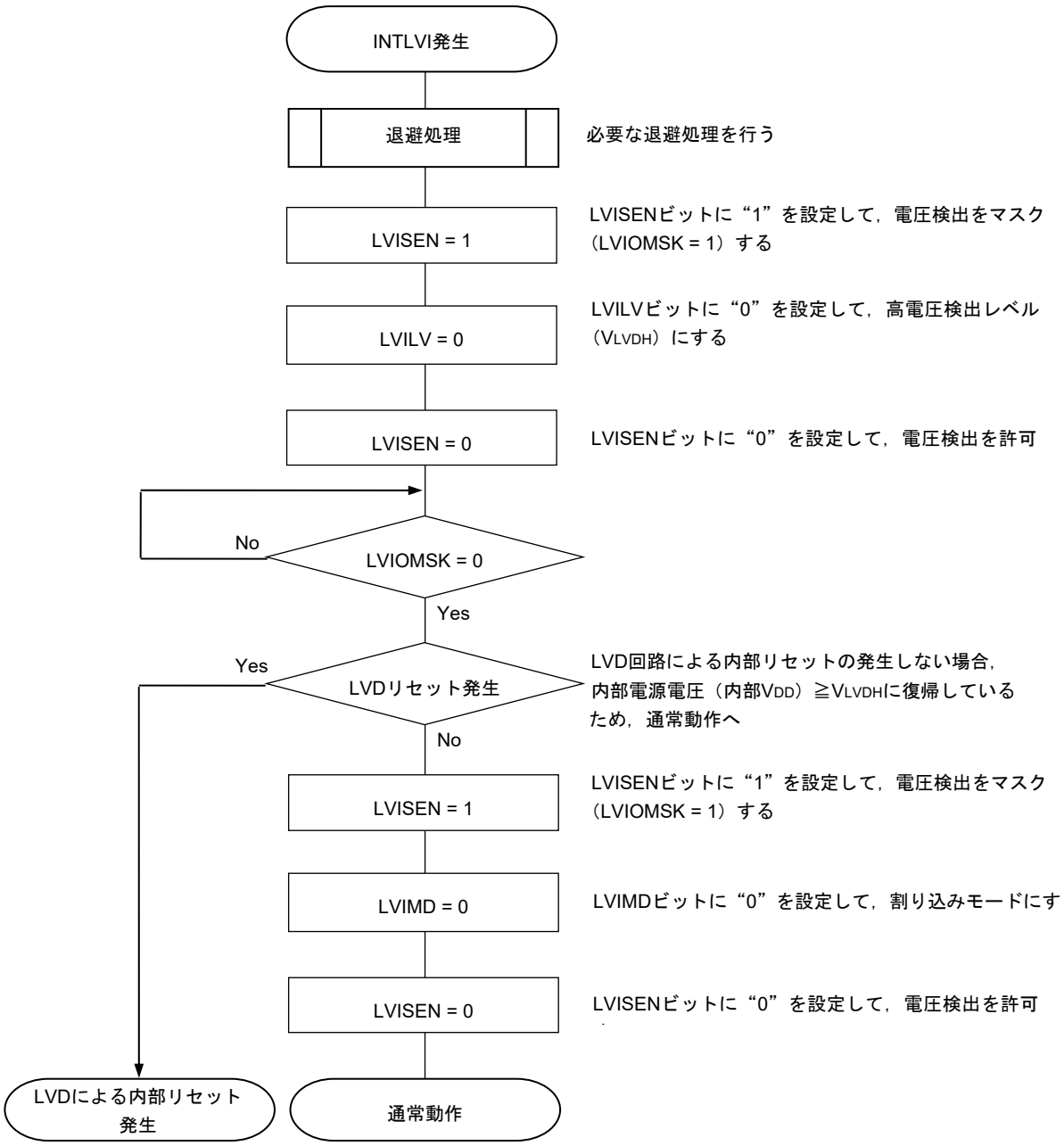
注 1.　LVIMKフラグはリセット信号の発生により，“1”になっています。

2.　割り込み＆リセット・モード使用時，割り込み発生後は，**図27－8　動作電圧確認／リセットの設定手順**に従って設定をしてください。

備考　$V_{POR}$：POR電源立ち上がり検出電圧

$V_{PDR}$：POR電源立ち下がり検出電圧

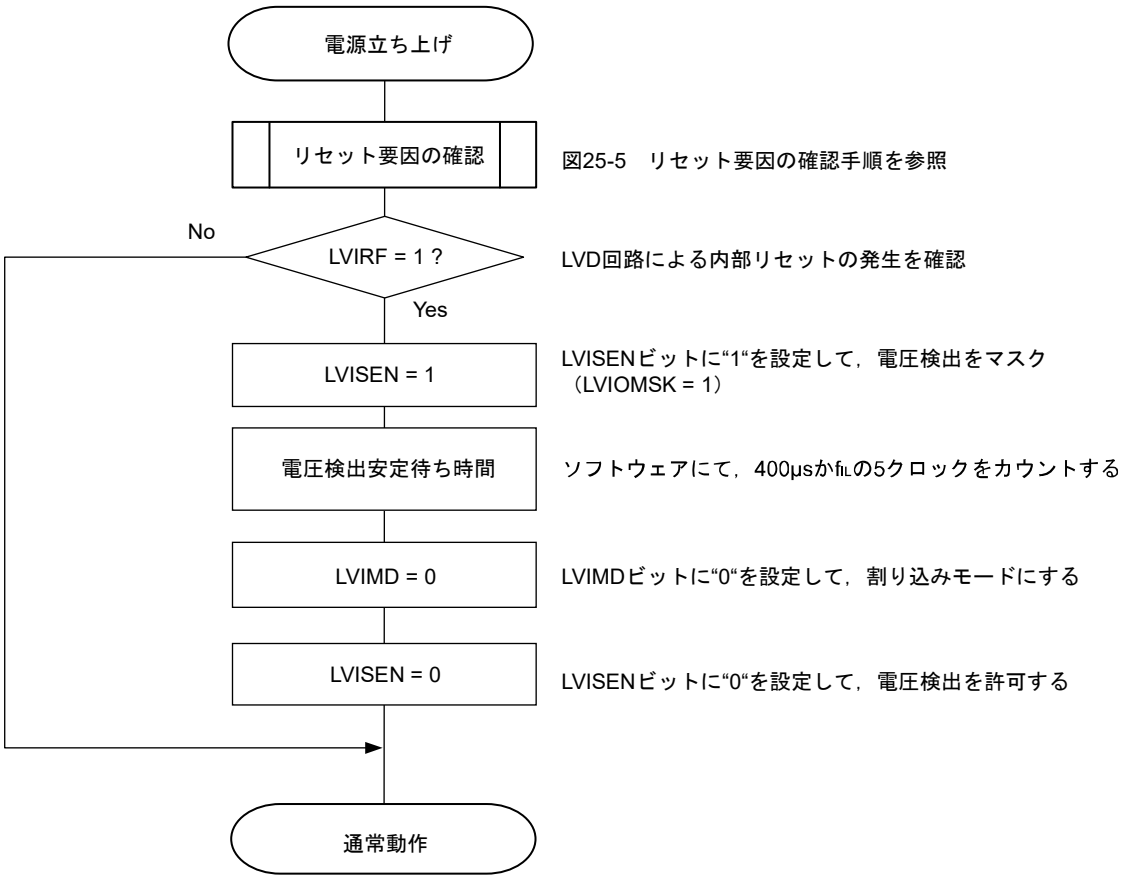
図27－8　動作電圧確認／リセットの設定手順



割り込み＆リセット・モード（LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）を設定した場合，LVDリセット解除後（LVIRF = 1）から400 μsかfILの5クロック分の電圧検出安定待ち時間が必要です。電圧検出安定待ち後，LVIMDビットをクリア（0）して初期化してください。電圧検出安定待ち時間のカウント中およびLVIMDビットの書き換え時は，LVISEN = 1に設定してLVDによるリセットまたは割り込み発生をマスクしてください。

図27－9に割り込み＆リセット・モードの初期設定の手順を示します。

図27－9　割り込み＆リセット・モードの初期設定の設定手順




備考　fIL：低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

## 27. 5　電圧検出回路の注意事項

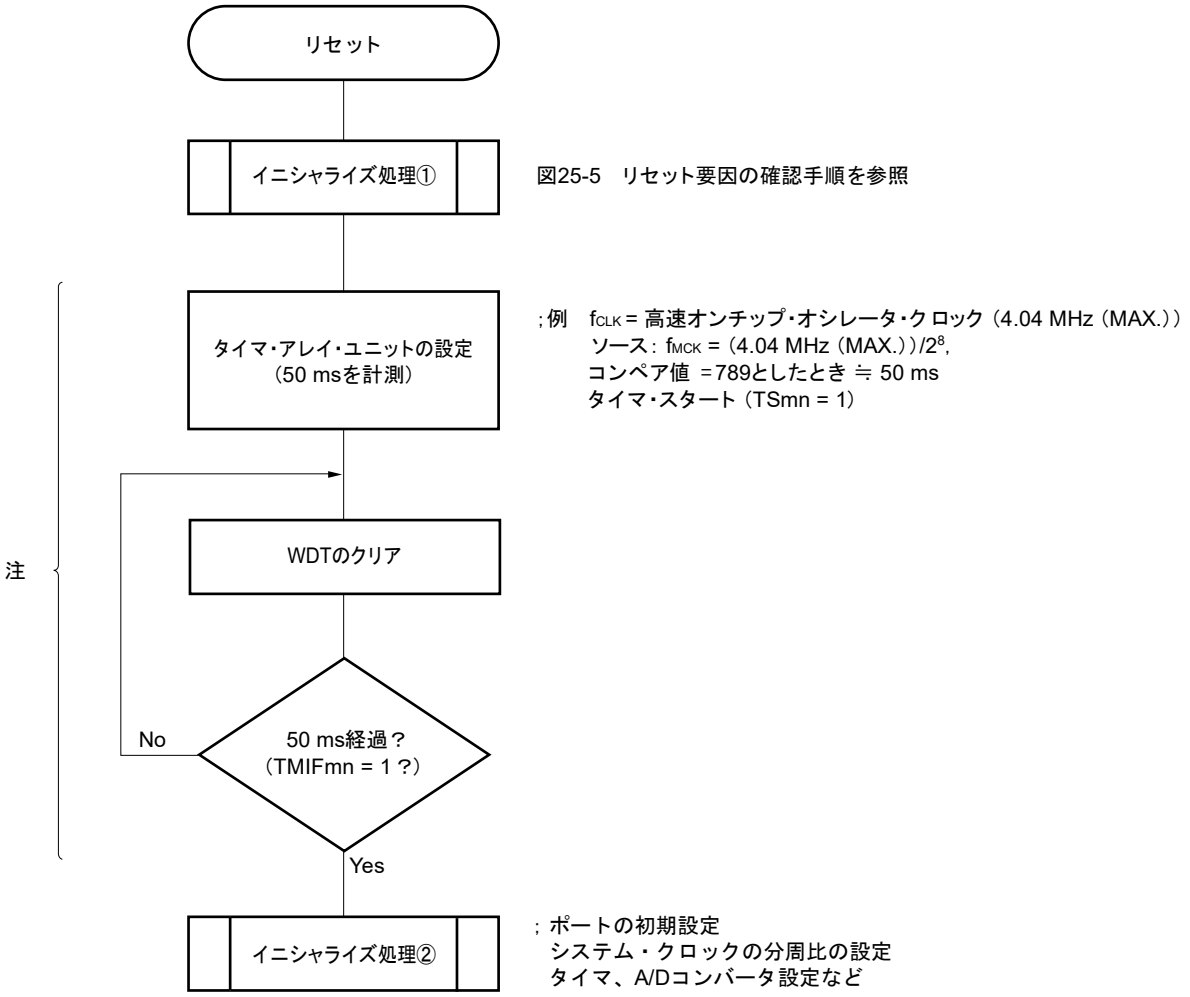
(1)　電源投入時の電圧変動について

内部電源電圧（内部$V_{DD}$）がLVD検出電圧付近で，ある期間ふらつくような構成のシステムでは，リセット状態／リセット解除状態を繰り返すことがあります。次のように処置をすることによって，リセット解除からマイコン動作開始までの時間を任意に設定できます。

＜処　置＞

リセット解除後，タイマなどを使用するソフトウエア・カウンタにて，システムごとに異なる内部電源電圧変動期間をウエイトしてから，ポートなどを初期設定してください。

図27－10　LVD検出電圧付近での内部電源電圧変動が50 ms以下の場合のソフト処理例



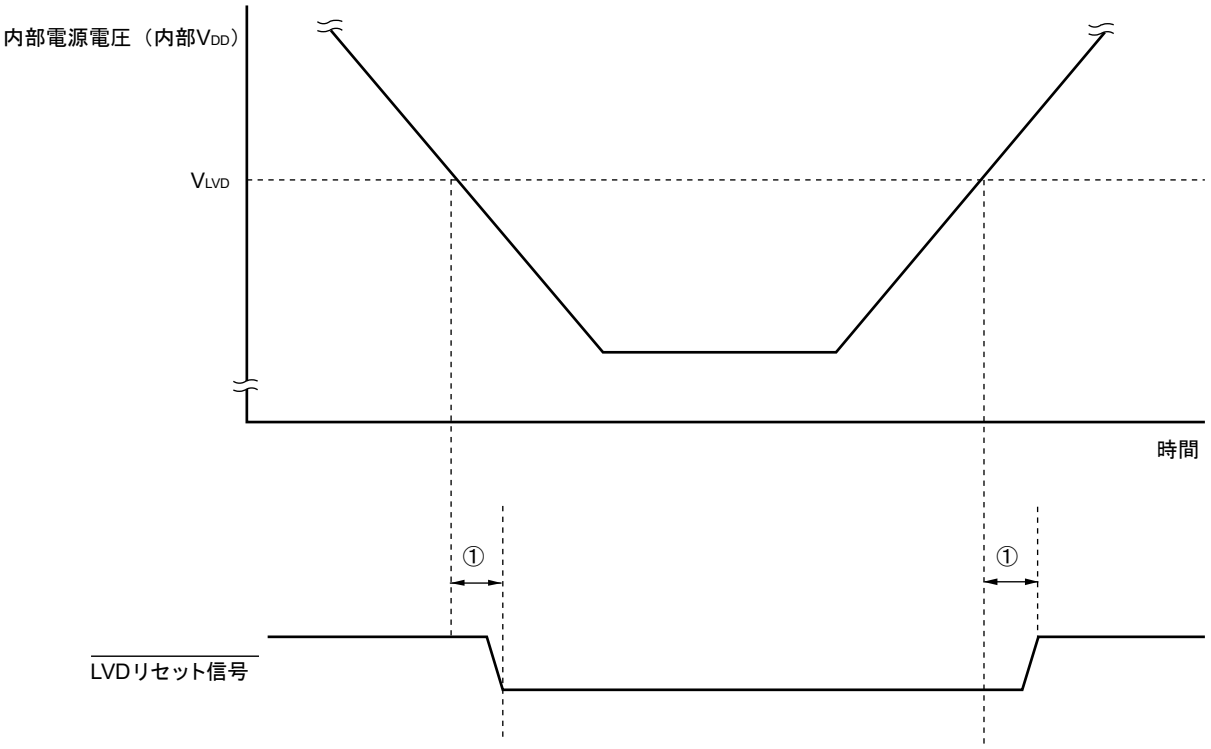

注　この間に再度リセットが発生した場合，イニシャライズ処理②には移行しません。

備考　m = 0, 1 n = 0-7

(2) LVDリセット要因発生からLVDリセットが発生または解除されるまでの遅延について

内部電源電圧（内部$V_{DD}$）＜LVD検出電圧（$V_{LVD}$）になってから，LVDリセットが発生するまでには遅延が生じます。同じようにLVD検出電圧（$V_{LVD}$）≦内部電源電圧（内部$V_{DD}$）になってから，LVDリセットが解除されるまでにも遅延が生じます（図27－11参照）。

図27－11　LVDリセット要因発生からLVDリセット発生または解除までの遅延




①　：検出遅延（300 μs（MAX.））

(3) LVDオフに設定した場合の電源立ち上げについて

LVDオフに設定したときは必ず$\overline{\text{RESET}}$端子による外部リセットを使用してください。

外部リセットを行う場合，$\overline{\text{RESET}}$端子に10 μs以上のロウ・レベルを入力してください。電源立ち上げ時に外部リセットを行う場合は，$\overline{\text{RESET}}$端子にロウ・レベルを入力してから電源を投入し，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲内の期間で10 μs以上ロウ・レベルを継続した後に，ハイ・レベルを入力してください。

(4) LVDオフおよびLVD割り込みモードに設定した場合の動作電圧降下時について

LVDオフおよびLVD割り込みモードに設定したときの動作電圧降下時は，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは，内部電源電圧が動作電圧範囲内に復帰したことを確認してください。

# 第28章　バッテリ・バックアップ機能

## 28. 1　バッテリ・バックアップの機能

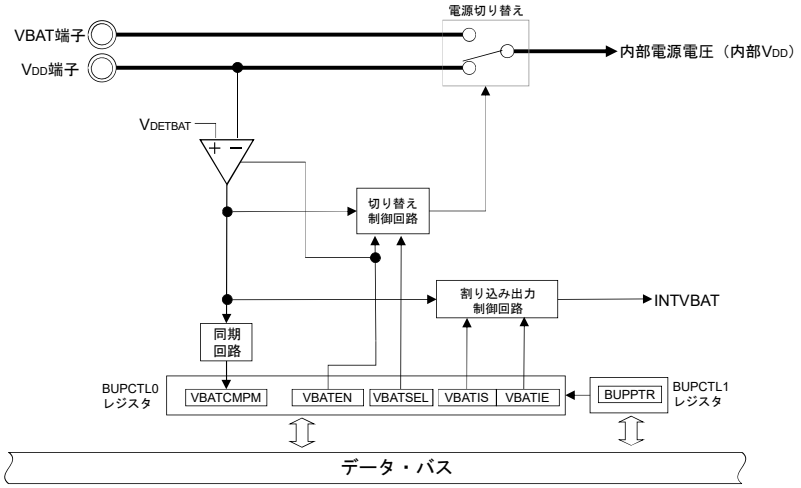
VDD端子の電源電圧を監視し，VDD端子の電圧が検出電圧よりも低下したとき，専用のバッテリ・バックアップ用電源端子（VBAT端子）からの内部電源供給に切り替えを行います。VBAT端子から内部電源を供給するモードをバッテリ・バックアップ・モードと呼びます。停電発生等によりVDD端子からの電源供給が遮断された場合でも，ハードウェアでバッテリ・バックアップ・モードに切り替わることで，リアルタイム・クロック2（RTC2）の動作を継続することができます。バッテリ・バックアップ・モードではリアルタイム・クロック2（RTC2）の他に，CPU，10ビットA/Dコンバータ，内蔵温度センサ，コンパレータ，外部割り込み，VDD電源系I/O注を動作することができます。

- VDD端子の電圧が検出電圧以下に低下した場合，内部電源供給をVDD供給からVBAT供給に切り替えることができます。また，VDD端子の電圧が検出電圧以上に復帰した場合，内部電源供給をVBAT供給からVDD供給に切り替えることができます。
- VBAT≧VDDの条件においてソフトウェアにより内部電源供給をVBAT供給に切り替えることができます。
- 電源切り替え時に電源切り替え検出割り込み（INTVBAT）を発生させることができます。ただし，ソフトウェアによる電源切り替え時は割込みは発生せず，VDD端子の電源電圧が検出電圧に達した時点で割り込みが発生します。

注　P20-P25, P121-P124, P137

図28－1にバッテリ・バックアップ機能の構成図を示します。

図28－1　バッテリ・バックアップ機能の構成図




### 28. 1. 1　端子構成

表28－1にバッテリ・バックアップ機能の端子構成を示します。

表28－1　バッテリ・バックアップ機能の端子構成

| 名称 | 機能 |
|---|---|
| VDD | 端子の正電源 |
| VBAT | バッテリ・バックアップ用電源 |

## 28. 2　レジスタ説明

表28－2にバッテリ・バックアップで使用するレジスター覧を示します。

表28－2　レジスター覧

| レジスタ名 | シンボル |
|---|---|
| バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ0 | BUPCTL0 |
| バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ1 | BUPCTL1 |
| グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ | GDIDIS |

### 28. 2. 1　バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ0（BUPCTL0）

BUPCTL0レジスタは，電源切り替えの動作制御，電源切り替え割り込み許可／禁止の選択，給電元端子の選択を行うレジスタです。

BUPCTL0レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

VBATEN（ビット7），VBATSEL（ビット0）は，パワーオン・リセットの発生のみにより0にクリアされます。その他のビットは，リセット信号の発生により0にクリアされます。

図28－2　バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ0（BUPCTL0）のフォーマット（1/2）

アドレス：F0330H　　リセット時：00H[注1]　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| BUPCTL0 | VBATEN | 0 | 0 | 0 | VBATCMPM | VBATIE | VBATIS | VBATSEL |

| VBATEN[注2] | 電源切り替えの動作制御 |
|---|---|
| 0 | 電源切り替え機能停止[注3] |
| 1 | 電源切り替え機能動作 |

注1.　VBATEN（ビット7），VBATSEL（ビット0）はパワーオン・リセットの発生のみにより，0にクリアされます。

2.　VBATENビットを1にする場合，0を書いた後に1を書き込んでください。0を書いた後に，BUPCTL0以外のSFRに書き込みを行った場合は，VBATENビットを1にすることはできません。
また，VBATENビットを0にする場合は，1を書いた後に0を書き込んでください。1を書いた後に，BUPCTL0以外のSFRに書き込みを行った場合は，VBATENビットを0にすることはできません。

3.　内部電源供給をVBAT給電中に，電源切り替え機能停止設定（VBATEN = 0）を禁止します。
電源切り替え機能停止設定（VBATEN = 0）は，必ずVBATCMPMビットが0である事を確認して，内部電源供給が$V_{DD}$給電の状態で行ってください。

図28－2　バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ0（BUPCTL0）のフォーマット（2/2）

| VBATCMPM | 電源切り替え用コンパレータ出力モニタ |
|---|---|
| 0 | $V_{DD}$端子電圧≧電源切り替え検出電圧（$V_{DETBAT2}$）<br>または，電源切り替え機能停止（VBATEN = 0）の状態 |
| 1 | $V_{DD}$端子電圧＜電源切り替え検出電圧（$V_{DETBAT1}$） |

| VBATIE | 電源切り替え割り込み制御 |
|---|---|
| 0 | 割り込み発生禁止 |
| 1 | 割り込み発生許可 |

| VBATIS | 電源切り替え割り込み選択 |
|---|---|
| 0 | $V_{DD}$端子電圧＜電源切り替え検出電圧（$V_{DETBAT1}$）になったとき，割り込み信号発生<br>$V_{DD}$ → VBAT切り替え時に割り込み発生注 |
| 1 | $V_{DD}$端子電圧≧電源切り替え検出電圧（$V_{DETBAT2}$）になったとき，割り込み信号発生<br>VBAT → $V_{DD}$切り替え時に割り込み発生注 |

注　VBATSELによる電源切り替え時には割り込みは発生しません。

| VBATSEL注 | 給電元端子の選択 |
|---|---|
| 0 | $V_{DD}$端子の電位に応じて供給元をハードウェアで切り替える |
| 1 | VBAT端子から給電する |

注　VBATSELビットを1にする場合，0を書いた後に1を書き込んでください。0を書いた後に，BUPCTL0以外のSFRに書き込みを行った場合は，VBATSELビットを1にすることはできません。また，VBATSELビットを0にする場合は，1を書いた後に0を書き込んでください。1を書いた後に，BUPCTL0以外のSFRに書き込みを行った場合は，VBATSELビットを0にすることはできません。

注意1.　$V_{DD}$＞VBATにおいてVBATSEL = 1設定は禁止です。

2.　ビット6-4には必ず0を設定してください。

### 28. 2. 2　バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ1（BUPCTL1）

BUPCTL1レジスタは, BUPCTL0レジスタの書き換え無効／可能を設定するレジスタです。BUPPRTビット = 0の場合，BUPCTL0レジスタの書き換えが無効なため，BUPCTL0レジスタの誤書き込み防止ができます。

BUPCTL1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図28－3　バックアップ電源切り替えコントロール・レジスタ1（BUPCTL1）のフォーマット

アドレス：F0331H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| BUPCTL1 | BUPPRT | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| BUPPRT | BUPCTL0レジスタのライトプロテクト制御 |
|---|---|
| 0 | BUPCTL0レジスタのライト無効，BUPCTL0レジスタのリード可能 |
| 1 | BUPCTL0レジスタのリード･ライト可能 |

注意　ビット6-0には必ず0を設定してください。

### 28. 2. 3　グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ（GDIDIS）

$EV_{DD}$と$V_{DD}$を同電位で使用している場合，停電発生等により$V_{DD}$端子からの電源供給が遮断された場合，$EV_{DD}$供給も遮断され0 Vになります。GDIDISレジスタは$EV_{DD}$ = 0 V時に入力バッファの貫通電流を防止するレジスタです。GDIDIS0ビットを1に設定することにより，$EV_{DD}$に接続されているすべての入力バッファ注を入力禁止とし，$EV_{DD}$に接続されている電源がオフになったときの貫通電流を防止します。GDIDISレジスタを使用する場合は，$EV_{DD}$の電源がOFFになる前にGDIDIS0 = 1に設定し，$EV_{DD}$に電源投入後GDIDIS0 = 0に設定します。

GDIDISレジスタは，1ビット・メモリ操作または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

注　P20-P25, P121-P124, P137以外のポート端子です。
P20-P25, P121-P124, P137はバッテリ・バックアップ機能によりI/Oバッファの電源供給が$V_{DD}$端子またはVBAT端子供給に切り替わるため，GDIDIS = 1に設定してもI/Oは使用可能です。
端子の入出力バッファ電源は表2－1　各端子の入出力バッファ電源を参照してください。

図28－4　グローバル・デジタル・インプット・ディスエーブル・レジスタ（GDIDIS)のフォーマット

アドレス：F007DH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| GDIDIS | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | GDIDIS0 |

| GDIDIS0 | $EV_{DD}$電源の入力バッファ設定 |
|---|---|
| 0 | 入力バッファの入力許可（デフォルト） |
| 1 | 入力バッファの入力禁止。入力バッファへの貫通電流防止。 |

## 28. 3　動作説明

### 28. 3. 1　バッテリ・バックアップ機能

$V_{DD}$端子からの電圧が検出電圧よりも低下したとき，専用のバッテリ・バックアップ用電源端子（VBAT端子）から内部電源供給へ切り替えることができます。$V_{DD}$端子からの供給電圧が検出電圧（$V_{DETBAT1}$）以下に低下した場合，内部電源が$V_{DD}$供給からVBAT供給へ切り替わります。

電源起動時は，内部電源は必ず$V_{DD}$端子から供給されるように固定されます。パワーオン・リセットの発生により，BUPCTL0レジスタのVBATENビットが0にリセットされます。BUPCTL0レジスタのVBATENビットが0の場合，電源切り替え機能は停止し，内部電源は$V_{DD}$端子から供給されます。BUPCTL0レジスタのVBATENビットを1に設定すると，電源切り替え機能が動作します。電源切り替え機能が動作した状態では，VBAT端子からの電源供給中に$V_{DD}$電圧が検出電圧（$V_{DETBAT2}$）以上に復帰した場合，内部電源供給がVBAT供給から$V_{DD}$供給へ切り替わります。

また，ソフトウェアで$V_{DD}$端子からの電源供給をVBAT端子からの電源供給に切り替えることができます。

BUPCTL0レジスタのVBATENビットが1（電源切り替え機能動作）のときに，BUPCTL0レジスタのVBATSELビットを1（VBATから給電する）にするとVBAT端子からの電源供給に切り替わります。

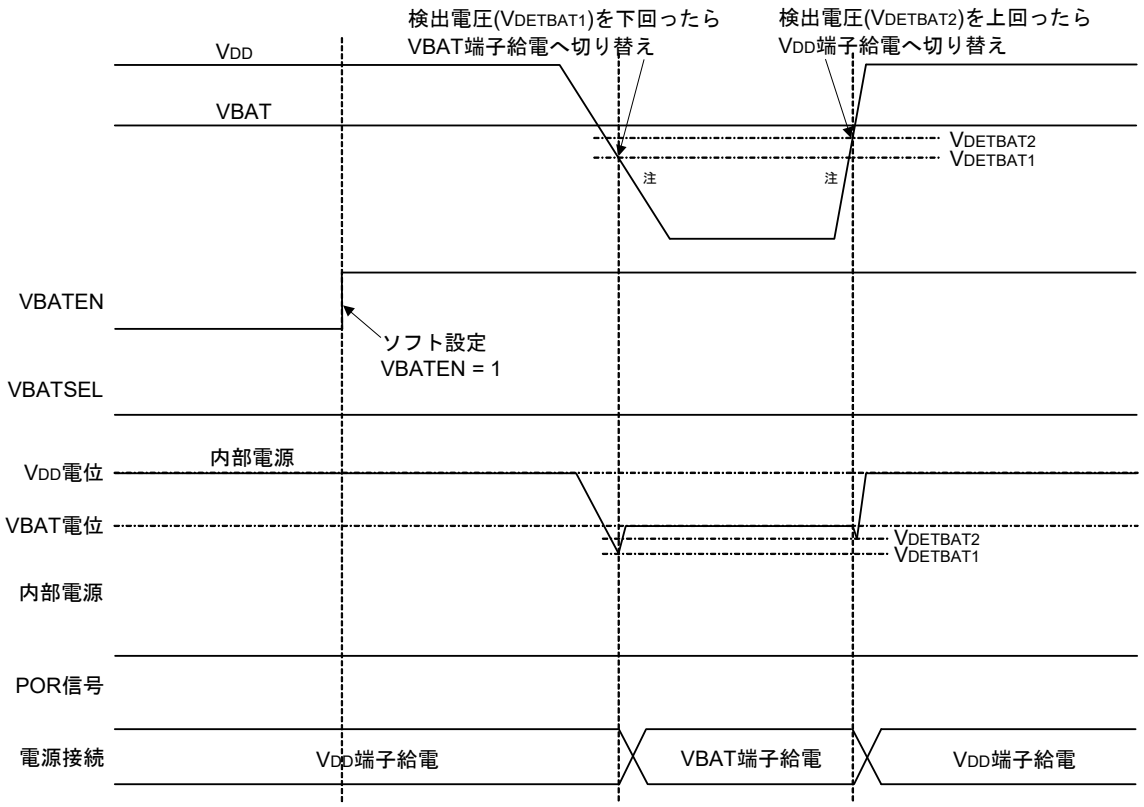
表28－3にバッテリ・バックアップ動作仕様を，図28－5，図28－6にバッテリ・バックアップ動作を示します。

表28－3　バッテリ・バックアップ動作仕様

| 電源 | VBATEN | VBATSEL | 条件 | 内部電源接続 |
|---|---|---|---|---|
| 起動時 | × | × | — | $V_{DD}$端子給電 |
| 起動後 | 0 | × | — | $V_{DD}$端子給電 |
| | 1 | 0 | $V_{DD} \geqq V_{DETBAT2}$ | $V_{DD}$端子給電 |
| | | | $V_{DETBAT1} < V_{DD} < V_{DETBAT2}$ | $V_{DD}$端子給電またはVBAT端子給電（ヒステリシス特性を持ちます） |
| | | | $V_{DD} \leqq V_{DETBAT1}$ | VBAT端子給電 |
| | | 1 | — | VBAT端子給電 |

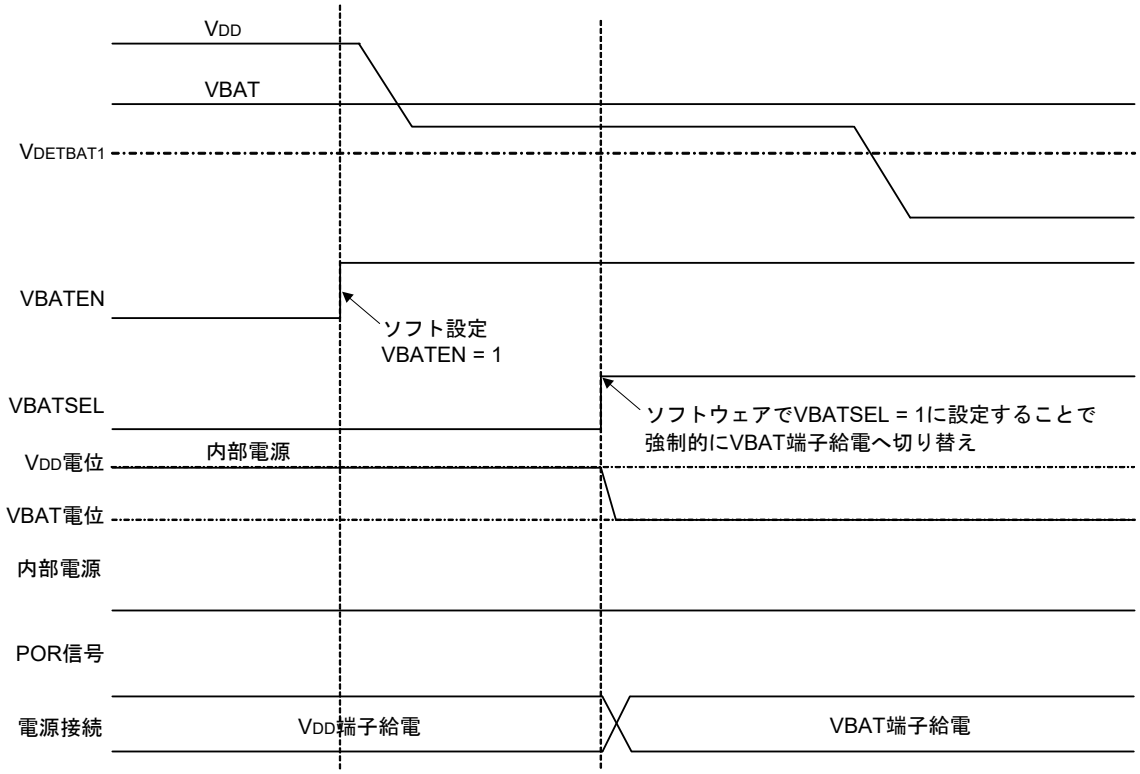
備考　×：don’t care

図28－5　バッテリ・バックアップ動作（1）（VBATEN = 1, VBATSEL = 0）




注　電源の立ち上がりと立ち下がりのスロープは，第37章　電気的特性を参照してください。

図28－6　バッテリ・バックアップ動作（2）（VBATEN = 1, VBATSEL = 1）




## 28. 4　使用上の注意事項

（1）　バッテリ・バックアップ機能を使用しない場合は，VBAT端子をVSS端子と同電位に接続してください。

（2）　VDD＞VBATにおいてVBATSEL = 1設定は禁止です。

（3）　VBATSEL = 1の状態では，VBAT＜1.9 Vにならないようにしてください。

（4）　VBATENとVBATSELの同時設定は禁止です。

（5）　VBATSEL = 1の状態でVBATEN = 0の設定は禁止です。

（6）　電源の立ち上がりと立ち下がりのスロープは，第37章　電気的特性を参照してください。

（7）　VBAT端子から電源供給されている場合は，セルフ・プログラミング機能は使用できません。

（8）　VBAT端子から内部電源を供給されている場合は，オンチップ・デバッグ機能は使用できません。

（9）　電源切替えをハードウェアで行う（VBATEN=1，VBATSEL=0）場合は，電源がVBATへ切替わった際，EVDD系ポート端子でのリーク電流発生を回避するため，GDIDISレジスタにより入力バッファをディスエーブルに設定（GDIDIS=01H）にしてください。

（10）　電源切換えをハードウェアで行う（VBATEN=1，VBATSEL=0）場合は，電源がVBATへ切替わった際，EVDD系ポート端子の入力バッファはEVDD電圧にて制御されているため，入力信号がEVDD電圧を超えないように設計時に配慮が必要です。

（11）　内部電源供給をVBAT給電中に，電源切り替え機能停止設定（VBATEN = 0）を禁止します。電源切り替え機能停止設定（VBATEN = 0）は，必ずVBATCMPMビットが0である事を確認して，内部電源供給がVDD給電の状態で行ってください。

# 第29章　発振停止検出回路

## 29. 1　発振停止検出回路の機能

発振停止検出回路は，低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$）でサブシステム・クロック（$f_{SUB}$）の動作状態を監視し，一定期間以上の間の動作停止を検出した場合は，XT1発振回路に異常が発生したと判断し，発振停止検出割り込み信号を出力します。

発振停止検出回路は，リセット解除後にソフトウエアで動作許可する必要があります。

発振停止検出回路は，ソフトウエアで発振停止検出動作を停止します。あるいは，$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセットまたは不正命令の実行[注]による内部リセットによって，発振停止検出動作を停止します。また，内部リセットの発生によりXT1発振クロックの発振も停止するため，リセット発生後は，再度ソフトウエアでXT1発振クロックの発振を再開させたあと，発振停止検出動作を許可にしてください。

注　FFHの命令コードを実行したときに発生します。
　　不正命令の実行によるリセットは，インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

発振停止検出回路が発振停止の判断をする期間（発振停止判定時間）は発振停止検出制御レジスタ（OSDC）のOSDCCMP11-OSDCCMP0ビットで設定できます。

発振停止判定時間 ＝ 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$）周期×（（OSDCCMP11-OSDCCMP0設定値）＋1）

・OSDCCMP11-OSDCCMP0= 003H設定時：232 μs（MIN.），267 μs（TYP.），314 μs（MAX.）
・OSDCCMP11-OSDCCMP0= FFFH設定時：237 ms（MIN.），273 ms（TYP.），322 ms（MAX.）

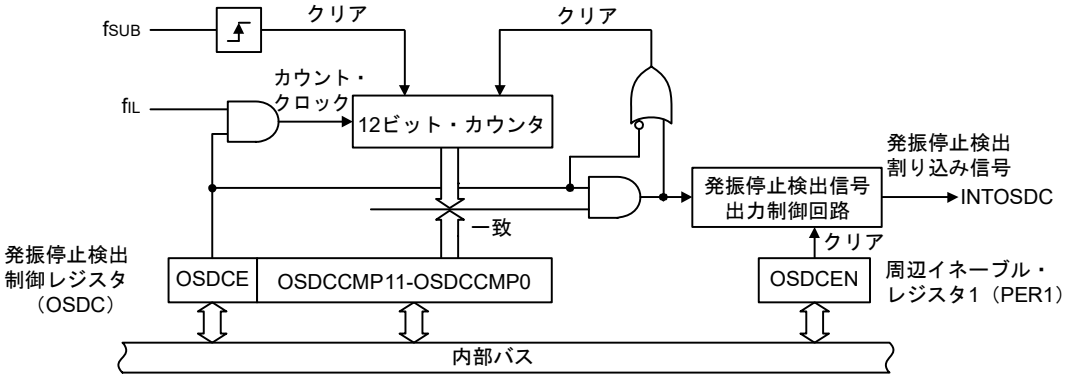
## 29. 2　発振停止検出回路の構成

発振停止検出回路は，以下のハードウエアで構成されています。

表29－1　発振停止検出回路の構成

| 項　　目 | 構　　成 |
|---|---|
| 制御レジスタ | 周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）<br>サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）<br>発振停止検出制御レジスタ（OSDC） |

図29－1　発振停止検出回路のブロック図



# 29. 3　発振停止検出回路で使用するレジスタ

## 29. 3. 1　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）

PER1レジスタは，各周辺ハードウエアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウエアへはクロック供給も停止させることで，低消費電力化とノイズ低減をはかります。

発振停止検出回路を使用するときは，必ずビット0（OSDCEN）を1に設定してください。

PER1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図29－2　周辺イネーブル・レジスタ1（PER1）のフォーマット

アドレス：F007AH　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PER1 | TMKAEN | FMCEN | CMPEN | OSDCEN | DTCEN | 0 | 0 | DSADCEN |

| OSDCEN | 発振停止検出回路の入力クロック供給の制御 |
|---|---|
| 0 | 入力クロック供給停止<br>・発振停止検出回路で使用するSFRへのライト不可<br>・発振停止検出回路ではリセット状態 |
| 1 | 入力クロック供給<br>・発振停止検出回路で使用する SFR へのリード／ライト可 |

注意1.　発振停止検出回路の設定をする際には，必ず最初にOSDCEN = 1の設定を行ってください。OSDCEN = 0の場合は，発振停止検出回路の制御レジスタへの書き込みは無視され，読み出し値もすべて初期値となります。

2.　ビット2, 1 には必ず“0”を設定してください。

### 29. 3. 2　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）

OSMCレジスタは，不要なクロック機能を停止させることにより，低消費電力化することを目的としたレジスタです。

RTCLPC = 1に設定すると，STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時に，リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのクロック供給を停止するので，消費電力を低減することが可能です。

また，OSMCレジスタではリアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，サブシステム・クロック周波数測定回路の動作クロックを選択できます。

OSMCレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図29－3　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のフォーマット

アドレス：F00F3H　　リセット時：00H　　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSMC | RTCLPC | 0 | 0 | WUTMMCK0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| RTCLPC | STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の設定 |
|---|---|
| 0 | 周辺機能へのサブシステム・クロック供給許可<br>（動作許可となる周辺機能については，表24－1，表24－2参照） |
| 1 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，クロック出力／ブザー出力制御回路，LCDコントローラ／ドライバ，8ビット・インターバル・タイマ，発振停止検出回路以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給停止 |

| WUTMMCK0<br>注1, 2, 3 | リアルタイム・クロック2，12ビット・インターバル・タイマ，LCDコントローラ／ドライバの動作クロックの選択 | クロック出力／ブザー出力制御回路のPCLBUZn端子の出力クロックの選択および8ビット・インターバル・タイマの動作クロックの選択 | サブシステム・クロック周波数測定回路の動作 |
|---|---|---|---|
| 0 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択許可 | 許可 |
| 1 | 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$） | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）選択禁止 | 禁止 |

注1.　$f_{IL}$クロックを選択（WUTMMCK0 = 1）する場合は，サブシステム・クロック発振動作停止（CSCレジスタのXTSTOPビット = 1）時のみ可能です。

2.　WUTMMCK0を“1”に設定すると低速オンチップ・オシレータ・クロックが発振します。

3.　WUTMMCK0を“1”に設定した場合，リアルタイム・クロック2の1Hz出力機能は使用できません。

注意　リアルタイム・クロック2の動作クロックにサブシステム・クロック（$f_{SUB}$ = 32.768 kHz）を選択時のみ，年，月，曜日，日，時，分，秒のカウントができます。
低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$ = 15 kHz）を選択時は，定周期割り込み機能のみ使用できます。
ただし，$f_{IL}$選択時の定周期割り込み間隔は，定周期（RTCC0レジスタで選択した値）×1/$f_{IL}$で算出される値になります。

### 29. 3. 3　発振停止検出制御レジスタ（OSDC）

発振停止検出回路を制御するレジスタです。発振停止検出回路の動作開始，動作停止を選択します。また，発振停止判定時間を設定します。

OSDCEビットが“0”の状態では，発振停止検出回路は動作を開始しません。

OSDCレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，0FFFHになります

図29－4　発振停止検出制御レジスタ（OSDC）のフォーマット

アドレス：F0390H　　リセット時：0FFFH　　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSDC | OSDCE | 0 | 0 | 0 | OSDCCMP11 | OSDCCMP10 | OSDCCMP9 | OSDCCMP8 |

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OSDC | OSDCCMP7 | OSDCCMP6 | OSDCCMP5 | OSDCCMP4 | OSDCCMP3 | OSDCCMP2 | OSDCCMP1 | OSDCCMP0 |

| OSDCE | 発振停止検出動作の制御 |
|---|---|
| 0 | 発振停止検出動作停止 |
| 1 | 発振停止検出動作開始 |

| OSDCCMP11-OSDCCMP0 | 発振停止判定時間 |
|---|---|
| 000H<br>…<br>002H | 設定禁止 |
| 003H<br>…<br>FFFH | 発振停止判定時間を設定します。<br>OSDCCMPの設定値（A）に対し，（A-2）サイクル～最大（A+1）サイクルの期間発振停止した場合は，発振停止と判定されます。<br>発振停止判定時間 ＝ 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$）周期×（（OSDCCMP11-OSDCCMP0ビットの設定値）＋1） |

注意1.　OSDCCMP11-OSDCCMP0ビットの設定を変更する場合は，必ずOSDCE = 0（発振停止検出動作停止）にしてください。

2.　発振停止検出回路は，ソフトウエアでOSDCEビットに“0”（発振停止検出動作停止）を設定，あるいは$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセットまたは不正命令の実行[注]による内部リセットによって発振停止検出動作を停止します。
また，内部リセットの発生によりXT1発振クロックの発振も停止するため，リセット発生後は，再度ソフトウエアでXT1発振クロックの発振を再開させたあと，発振停止検出動作を許可にしてください。

3.　ビット14-12には必ず“0”を設定してください。

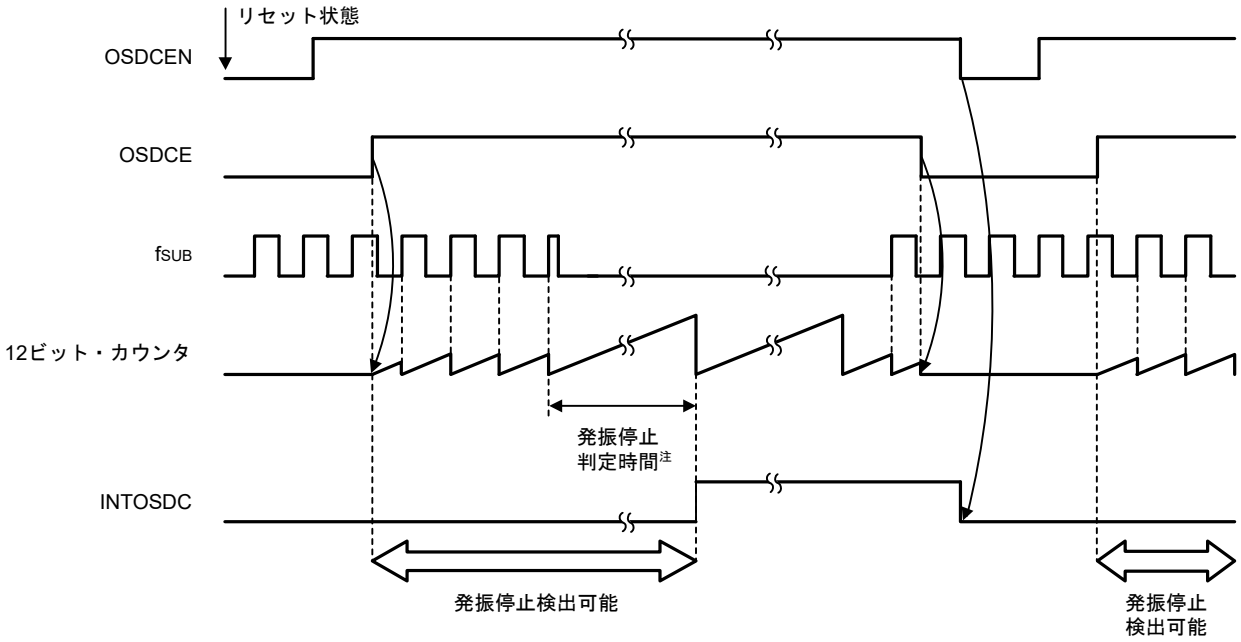
注　FFHの命令コードを実行したときに発生します。
不正命令の実行によるリセットは，インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

# 29. 4　発振停止検出回路の動作

## 29. 4. 1　発振停止検出回路の動作方法

1. 外部リセット解除後，サブシステム・クロックの発振を開始します。
2. 発振停止検出制御レジスタ（OSDC）に書き込みを行うことにより，発振停止検出回路が動作を開始します。
3. 発振停止検出回路が動作中に，サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）が発振停止判定時間以上連続して停止すると，発振停止検出割り込み（INTOSDC）を出力します。

図29－5　発振停止検出回路のタイミング




注　OSDCCMPの設定値（A）に対し，（A-2）サイクル～最大（A+1）サイクルの期間発振停止した場合は，発振停止と判定されます。

## 29. 5　発振停止検出機能使用時の注意事項

発振停止検出回路は，ウォッチドッグ・タイマと一緒に使用してください。

発振停止検出は，次のいずれかの条件で使用できます。

・オプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON），ビット4（WDTON）を“1”，OSMCレジスタのビット4（WUTMMCK0）を“0”に設定した場合

・OSMCレジスタのビット4（WUTMMCK0）を“1”に設定した場合

# 第30章　安全機能

## 30. 1　安全機能の概要

安全規格IEC60730，IEC61508に対応するため，RL78/I1Bでは以下の安全機能を搭載しています。
この安全機能は，マイコンで自己診断することで，故障を検出して安全に停止することを目的としています。

（1）フラッシュ・メモリCRC演算機能（高速CRC，汎用CRC）

CRC演算を行うことにより，フラッシュ・メモリのデータ誤りを検出します。
用途や使用条件に応じて，以下の2つのCRCを使い分けていただくことができます。

・「高速CRC」… 初期設定ルーチンの中で，CPUを停止させてコード・フラッシュ・メモリ領域全体を高速にチェックすることができます。

・「汎用CRC」… CPU動作中に，コード・フラッシュ・メモリ領域に限らず，多用途のチェックに使用できます。

（2）RAMパリティ・エラー検出機能

RAMをデータとして読み出すとき，パリティ・エラーを検出します。

（3）RAMガード機能

CPUの暴走によるRAMデータの書き換えを防止します。

（4）SFRガード機能

CPUの暴走によるSFRの書き換えを防止します。

（5）不正メモリ・アクセス検出機能

不正メモリ領域（メモリが存在しない，アクセスが制限されている領域）への不正なアクセスを検出します。

（6）周波数検出機能

タイマ・アレイ・ユニットを使用して，CPU/周辺ハードウエア・クロック周波数の自己チェックができます。

（7）A/Dテスト機能

A/Dコンバータの＋側基準電圧，－側基準電圧，アナログ入力チャネル（ANI），温度センサ出力電圧および内部基準電圧をA/D変換することにより，A/Dコンバータの自己チェックができます。

（8）入出力端子のデジタル出力信号レベル検出機能

入出力端子が出力モード時に，端子の出力レベルをリードすることができます。

備考　安全規格IEC60730に対応する安全機能の使用例は，RL78 MCU シリーズのIEC60730/60335 セルフテスト・ライブラリ アプリケーションノート（R01AN1062，R01AN1296）を参照してください。

## 30. 2　安全機能で使用するレジスタ

安全機能では，各機能で次のレジスタを使用します。

| レジスタ名 | 安全機能の各機能 |
|---|---|
| ・フラッシュ・メモリCRC制御レジスタ（CRC0CTL）<br>・フラッシュ・メモリCRC演算結果レジスタ（PGCRCL） | フラッシュ・メモリCRC演算機能<br>（高速CRC） |
| ・CRC入力レジスタ（CRCIN）<br>・CRCデータ・レジスタ（CRCD） | CRC演算機能<br>（汎用CRC） |
| ・RAMパリティ・エラー制御レジスタ（RPECTL） | RAMパリティ・エラー検出機能 |
| ・不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL） | RAMガード機能 |
| | SFRガード機能 |
| | 不正メモリ・アクセス検出機能 |
| ・タイマ入力選択レジスタ0（TIS0） | 周波数検出機能 |
| ・A/Dテスト・レジスタ（ADTES） | A/Dテスト機能 |
| ・ポート・モード選択レジスタ（PMS） | 入出力ポートのデジタル出力信号レベル検出機能 |

各レジスタの内容については，30. 3　安全機能の動作の中で説明します。

## 30. 3　安全機能の動作

### 30. 3. 1　フラッシュ・メモリCRC演算機能（高速CRC）

IEC60730ではフラッシュ・メモリ内のデータ確認が義務付けられており，その確認手段としてCRCが推奨されています。この高速CRCでは，初期設定（イニシャライズ）ルーチンの間に，コード・フラッシュ・メモリ領域全体をチェックすることができます。RAM上のプログラムによるメイン・システム・クロックでのHALTモードでのみ動作可能です。

高速CRCは，CPUを停止させて，フラッシュ・メモリから1クロックで32ビットのデータを読み出して演算します。そのため，チェック終了までの時間が短いことが特徴です（例　フラッシュ・メモリ32 KB：341 μs@24 MHz）。

CRC生成多項式はCRC-16-CCITTの「$X^{16}+X^{12}+X^{5}+1$」に対応しています。

ビット31→ビット0のMSBファーストで演算します。

注意　オンチップ・デバッグでは，モニタ・プログラムを配置するため，CRC演算結果が異なります。

備考　汎用CRCはLSBファーストのため，演算結果は異なります。

#### 30. 3. 1. 1　フラッシュ・メモリ CRC 制御レジスタ（CRC0CTL）

高速CRC演算器の動作制御と演算範囲の設定を行うレジスタです。

CRC0CTLレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－1　フラッシュ・メモリCRC制御レジスタ（CRC0CTL）のフォーマット

アドレス：F02F0H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CRC0CTL | CRC0EN | 0 | 0 | 0 | 0 | FEA2注 | FEA1 | FEA0 |

| CRC0EN | 高速CRC演算器の動作制御 |
|---|---|
| 0 | 動作停止 |
| 1 | HALT命令実行により演算開始 |

| FEA2注 | FEA1 | FEA0 | 高速CRC演算範囲 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | 0000H-3FFBH（16 K−4バイト） |
| 0 | 0 | 1 | 00000H-7FFBH（32 K−4バイト） |
| 0 | 1 | 0 | 00000H-BFFBH（48 K−4バイト） |
| 0 | 1 | 1 | 00000H-FFFBH（64 K−4バイト） |
| 1 | 0 | 0 | 00000H-13FFBH（80 K−4バイト） |
| 1 | 0 | 1 | 00000H-17FFBH（96 K−4バイト） |
| 1 | 1 | 0 | 00000H-1BFFBH（112 K−4バイト） |
| 1 | 1 | 1 | 00000H-1FFFBH（128 K−4バイト） |

注　R5F10MMEおよびR5F10MPEでは，FEA2ビットを必ず“0”に設定してください。

備考　フラッシュ・メモリの最後の4バイトには，あらかじめ比較用のCRC演算結果期待値を入れてください。そのため，演算範囲は4バイト引いた範囲になっています。

#### 30. 3. 1. 2　フラッシュ・メモリ CRC 演算結果レジスタ（PGCRCL）

高速CRC演算結果を格納するレジスタです。

PGCRCLレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，0000Hになります。

図30－2　フラッシュ・メモリCRC演算結果レジスタ（PGCRCL）のフォーマット

アドレス：F02F2H　リセット時：0000H　R/W

| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PGCRCL | PGCRC15 | PGCRC14 | PGCRC13 | PGCRC12 | PGCRC11 | PGCRC10 | PGCRC9 | PGCRC8 |
| | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | PGCRC7 | PGCRC6 | PGCRC5 | PGCRC4 | PGCRC3 | PGCRC2 | PGCRC1 | PGCRC0 |

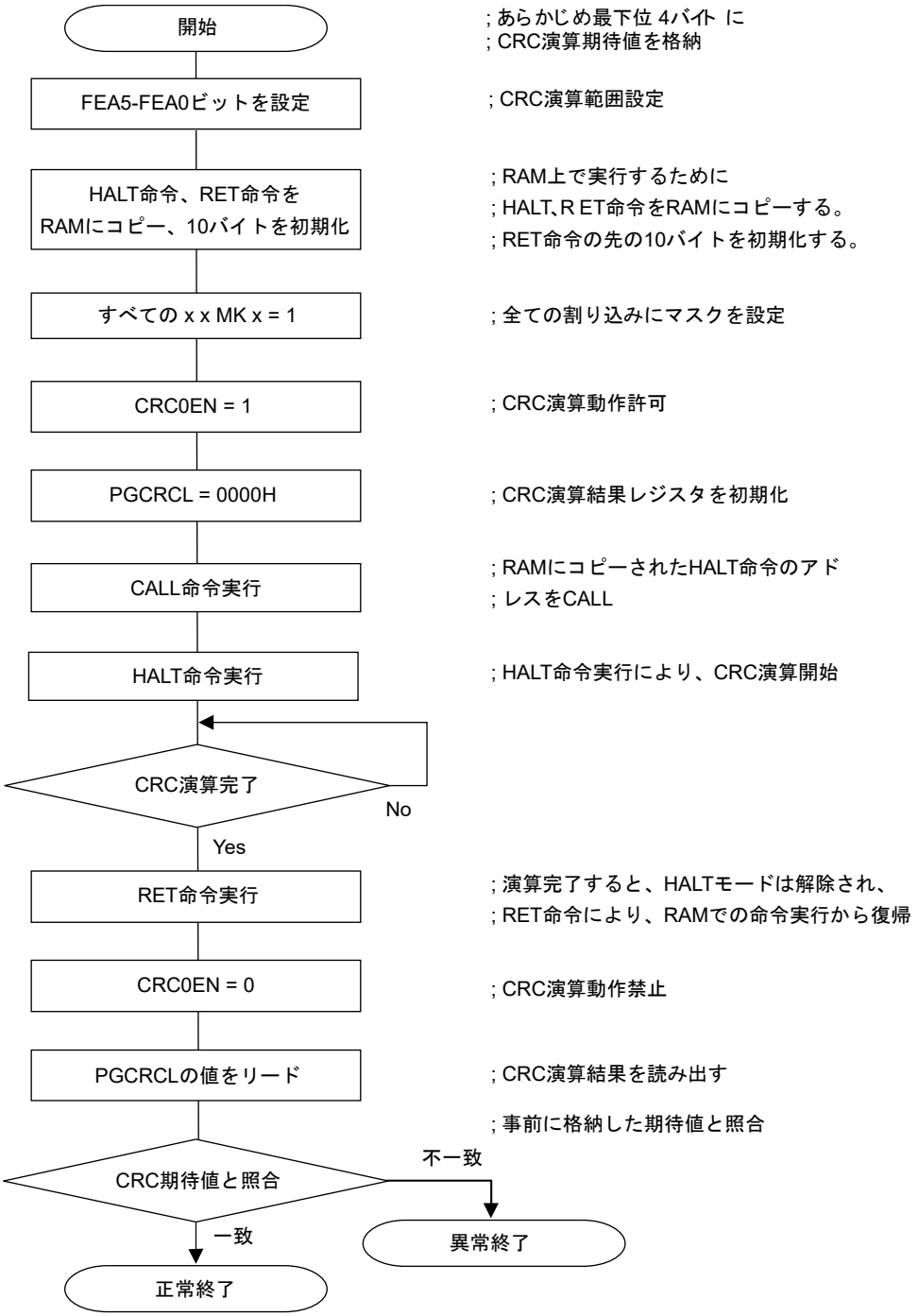
| PGCRC15-0 | 高速CRC演算結果 |
|---|---|
| 0000H-FFFFH | 高速CRC演算結果を格納 |

注意　PGCRCLレジスタは，CRC0EN（CRC0CTLレジスタのビット7）= 1の場合のみライト可能です。

フラッシュ・メモリCRC演算機能（高速CRC）のフロー・チャートを図30－3に示します。

＜動作フロー＞

図30－3　フラッシュ・メモリCRC演算機能（高速CRC）のフロー・チャート




注意1.　CRC演算の対象は，コード・フラッシュのみです。

2.　CRC演算の期待値は，コード・フラッシュ内の演算範囲の後に格納してください。

3.　RAM領域にて，HALT命令を実行することで，CRC演算が有効になります。
必ずRAM領域でHALT命令を実行してください。

CRC演算の期待値は，総合開発環境 CubeSuite+を使用して算出することができます。詳細は，CubeSuite+ 統合開発環境ユーザーズマニュアルを参照してください。

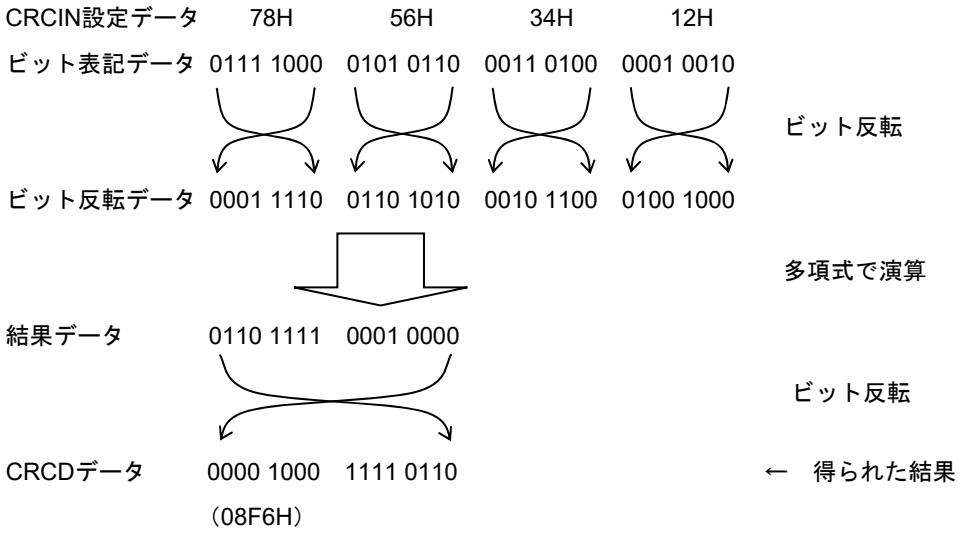
## 30. 3. 2　CRC演算機能（汎用CRC）

IEC61508では動作中の安全を保証しなければならないため，CPU動作中にもデータ確認する手段が必要です。

この汎用CRCでは，CPU動作中に，周辺機能としてCRC演算を実行できます。汎用CRCは，コード・フラッシュ・メモリ領域に限らず，多用途のチェックに使用することができます。確認するデータは，ソフトウエア（ユーザ・プログラム）で指定します。HALTモード時のCRC演算機能は，DTC転送中だけ使用できます。

メイン・システム・クロック動作モードでも，サブシステム・クロック動作モードでも使用可能です。

CRC生成多項式はCRC-16-CCITTの「$X^{16}+X^{12}+X^{5}+1$」を使用します。入力するデータはLSBファーストでの通信を考慮して，ビットの並びを反転して演算します。たとえば，データ12345678HをLSBから送信する場合には78H，56H，34H，12Hの順でCRCINレジスタに値を書き込むことで，CRCDレジスタから08F6Hの値が得られます。これは，データ12345678Hのビットの並びを反転した以下のビット列に対してCRC演算を行った結果です。




注意　プログラム実行中，デバッガはソフトウエア・ブレーク設定行をブレーク命令へ書き変えるため，CRC演算の対象領域にソフトウエア・ブレークを設定すると，CRC演算結果が異なります。

### 30. 3. 2. 1　CRC 入力レジスタ（CRCIN）

汎用CRCのCRC計算するデータを設定する8ビットのレジスタです。

設定可能範囲は，00H-FFHです。

CRCINレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－4　CRC入力レジスタ（CRCIN）のフォーマット

アドレス：FFFACH　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CRCIN | | | | | | | | |

| ビット7-0 | 機　能 |
|---|---|
| 00H-FFH | データ入力 |

#### 30. 3. 2. 2　CRC データ・レジスタ（CRCD）

汎用CRCのCRC演算結果を格納するレジスタです。

設定可能範囲は，0000H-FFFFHです。

CRCINレジスタ書き込みから，CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）の1クロック経過後に，CRC演算結果がCRCDレジスタに格納されます。

CRCDレジスタは，16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，0000Hになります。

図30－5　CRCデータ・レジスタ（CRCD）のフォーマット

アドレス：F02FAH　リセット時：0000H　R/W

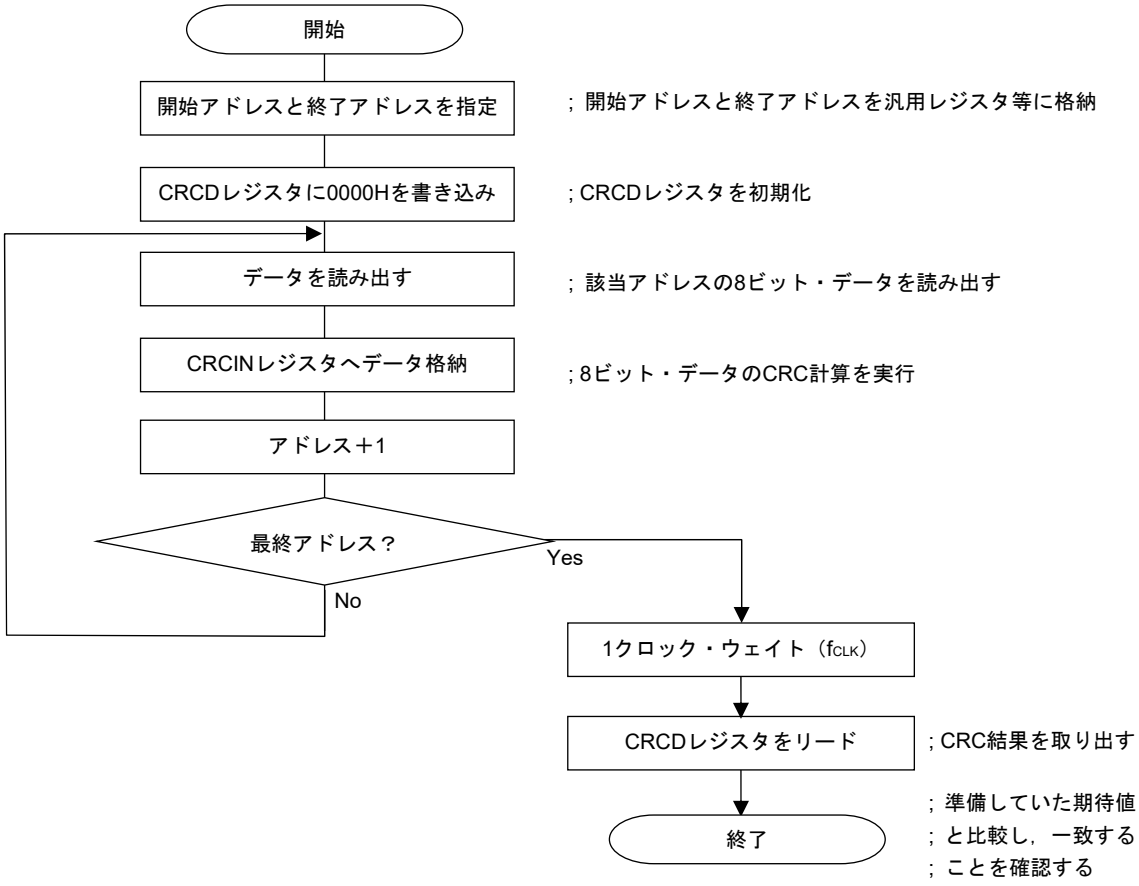
| 略号 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CRCD | | | | | | | | | | | | | | | | |

注意1.　CRCDレジスタに書き込まれた値を読み出す場合は，CRCINレジスタへの書き込みを行う前にリードしてください。

2.　CRCDレジスタへの書き込みと演算結果の格納が競合した場合，書き込みは無視されます。

＜動作フロー＞

図30－6　CRC演算機能（汎用CRC）のフロー・チャート



### 30. 3. 3 RAMパリティ・エラー検出機能

IEC60730ではRAMデータ確認が義務付けられています。そのため，RL78/I1BのRAMには，8ビットにつき1ビットのパリティが付加されています。このRAMパリティ・エラー検出機能では，データ書き込み時にパリティが書き込まれ，データ読み出し時にパリティをチェックします。また，パリティ・エラー発生時にリセットを発生することもできます。

#### 30. 3. 3. 1 RAM パリティ・エラー制御レジスタ（RPECTL）

パリティ・エラーの発生確認ビットと，パリティ・エラーによるリセット発生を制御するレジスタです。

RPECTLレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－7 RAMパリティ・エラー制御レジスタ（RPECTL）のフォーマット

アドレス：F00F5H リセット時：00H R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RPECTL | RPERDIS | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | RPEF |

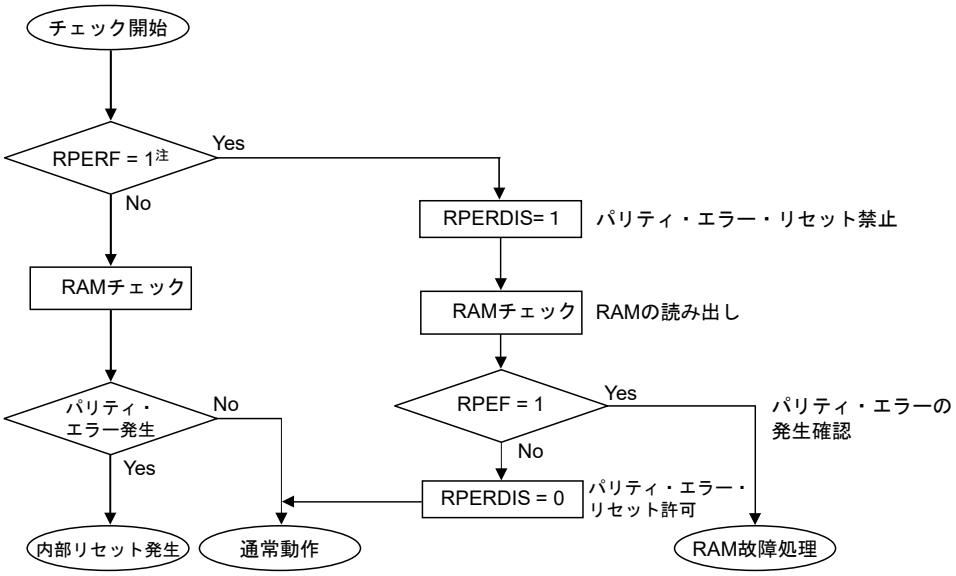
| RPERDIS | パリティ・エラー・リセット・マスク・フラグ |
|---|---|
| 0 | パリティ・エラー・リセット発生を許可 |
| 1 | パリティ・エラー・リセット発生を禁止 |

| RPEF | パリティ・エラー・ステータス・フラグ |
|---|---|
| 0 | パリティ・エラーが発生していない |
| 1 | パリティ・エラーが発生した |

注意 データ書き込み時にパリティが書き込まれ，データ読み出し時にパリティをチェックします。
そのため，RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可する（RPERDIS = 0）場合，データ・アクセス時は「使用するRAM領域」をデータ読み出し前に必ず初期化してください。
また，RL78はパイプライン動作のためCPUが先読みを行い，使用しているRAM領域の先にある初期化されていないRAM領域を読み込むことで，RAMパリティ・エラーが発生する場合があります。
したがって，RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可する（RPERDIS = 0）場合，RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域＋10バイト」の領域を必ず初期化してください。

備考1. 初期状態では，パリティ・エラー・リセット発生許可（RPERDIS = 0）になっています。
2. パリティ・エラー・リセット発生禁止（RPERDIS = 1）を設定時に，パリティ・エラーが発生した場合も，RPEFフラグはセット（1）されます。なお，RPEF = 1の状態で，パリティ・エラー・リセット発生許可（RPERDIS = 0）に設定すると，RPERDISをクリア（0）した時点でパリティ・エラー・リセットが発生します。
3. RPECTLレジスタのRPEFフラグは，パリティ・エラー発生時にセット（1）され，0の書き込み，またはすべてのリセット要因によりクリア（0）されます。RPEF = 1のときに，パリティ・エラーが発生しないRAMを読み出してもRPEF = 1を保持します。
4. 汎用レジスタは，RAMパリティ・エラー検出の範囲に含みません。

図30－8　RAMパリティ・チェックのフローチャート




注　RAMパリティ・エラーによる内部リセットの確認は，第25章　リセット機能を参照してください。

## 30. 3. 4　RAMガード機能

IEC61508では動作中の安全を保証しなければならないため, CPUが暴走してもRAMに格納されている重要なデータを保護する必要があります。

このRAMガード機能は，指定した空間のデータを保護するための機能です。

RAMガード機能を設定すると，指定した空間へのRAM書き込みは無効になり，読み出しは通常通りに可能となります。

### 30. 3. 4. 1　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL）

不正メモリ・アクセスの検出可否，RAM/SFRガード機能を制御するレジスタです。

RAMガード機能では，GRAM1, GRAM0ビットを使用します。

IAWCTLレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－9　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL）のフォーマット

アドレス：F0078H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IAWCTL | IAWEN | 0 | GRAM1 | GRAM0 | 0 | GPORT | GINT | GCSC |

| GRAM1 | GRAM0 | RAMガード空間注 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 無効。RAMへのライト可能 |
| 0 | 1 | RAM先頭アドレスから128バイト |
| 1 | 0 | RAM先頭アドレスから256バイト |
| 1 | 1 | RAM先頭アドレスから512バイト |

注　RAMの先頭アドレスは，製品の搭載RAMサイズにより変わります。

## 30. 3. 5　SFRガード機能

IEC61508では動作中の安全を保証しなければならないため，CPUが暴走しても重要なSFRが書き換わってしまわないように保護する必要があります。

SFRガード機能は，ポート機能，割り込み機能，クロック制御機能，電圧検出回路，RAMパリティ･エラー検出機能の制御レジスタのデータを保護するための機能です。

SFRガード機能を設定すると，ガードされたSFRへの書き込みは無効になり，読み出しは通常通りに可能となります。

### 30. 3. 5. 1　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL）

不正メモリ・アクセスの検出可否，RAM/SFRガード機能を制御するレジスタです。

SFRガード機能では，GPORT, GINT, GCSCビットを使用します。

IAWCTLレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－10　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL）のフォーマット

アドレス：F0078H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IAWCTL | IAWEN | 0 | GRAM1 | GRAM0 | 0 | GPORT | GINT | GCSC |

| GPORT | ポート機能の制御レジスタのガード |
|---|---|
| 0 | 無効。ポート機能の制御レジスタのリード／ライト可能。 |
| 1 | 有効。ポート機能の制御レジスタのライト無効。リード可能。<br>［ガードされるSFR］PMxx, PUxx, PIMxx, POMxx, ADPC, PIOR, PFSEGxx, ISCLCD 注 |

| GINT | 割り込み機能のレジスタのガード |
|---|---|
| 0 | 無効。割り込み機能の制御レジスタのリード／ライト可能。 |
| 1 | 有効。割り込み機能の制御レジスタのライト無効。リード可能。<br>［ガードされるSFR］IFxx, MKxx, PRxx, EGPx, EGNx |

| GCSC | クロック制御機能，電圧検出回路，RAMパリティ･エラー検出機能の制御レジスタのガード |
|---|---|
| 0 | 無効。クロック制御機能，電圧検出回路，RAMパリティ･エラー検出機能の制御レジスタのリード／ライト可能。 |
| 1 | 有効。クロック制御機能，電圧検出回路，RAMパリティ･エラー検出機能の制御レジスタのライト無効。リード可能。<br>［ガードされるSFR］CMC, CSC, OSTS, CKC, PERx, OSMC, LVIM, LVIS, RPECTL |

注　Pxx（ポート・レジスタ）はガードされません。

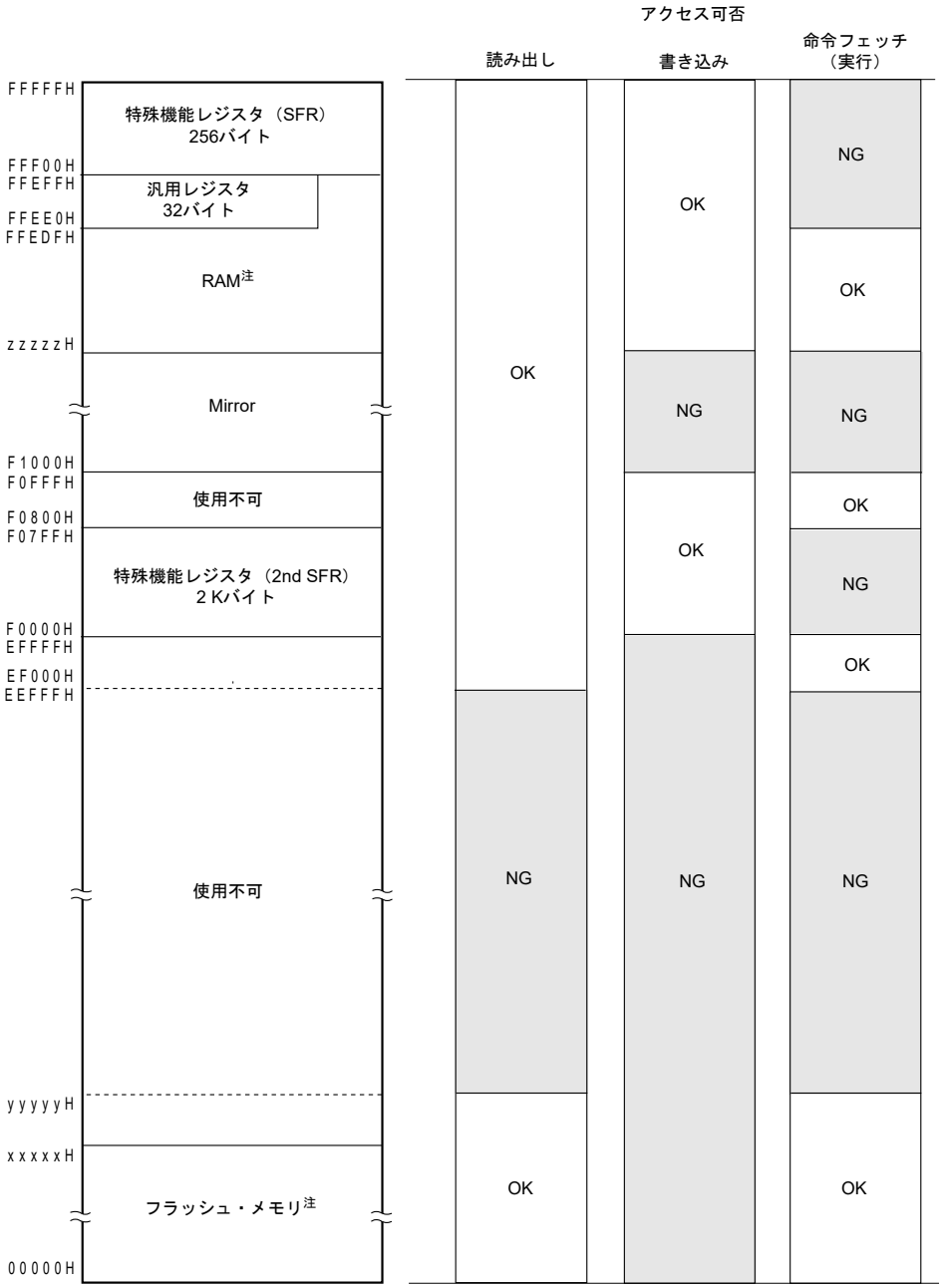
### 30. 3. 6　不正メモリ・アクセス検出機能

IEC60730ではCPUと割り込みの動作が正しいことを確認する必要があります。

不正メモリ・アクセス検出機能は，規定された不正アクセス検出空間をアクセスした際に，リセットを発生させる機能です。

不正アクセス検出空間は，図30－10で「NG」と記載した範囲になります。

図30－11　不正アクセス検出空間




注　各製品のコード・フラッシュ・メモリ，RAMのアドレスは次のようになります。

| 製　　品 | コード・フラッシュ・メモリ（00000H-xxxxxH） | RAM（zzzzzH-FFEFFH） | 読み出し／命令フェッチ（実行）時の検出最下位アドレス(yyyyyH) |
|---|---|---|---|
| R5F10MME, R5F10MPE | 65536×8ビット（00000H-0FFFFH） | 6144×8ビット（FE700H-FFEFFH） | 10000H |
| R5F10MMG, R5F10MPG | 131072×8ビット（00000H-1FFFFH） | 8192×8ビット（FDF00H-FFEFFH） | 20000H |

#### 30. 3. 6. 1　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL）

不正メモリ・アクセスの検出可否，RAM/SFRガード機能を制御するレジスタです。

不正メモリ・アクセス検出機能では，IAWENビットを使用します。

IAWCTLレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－12　不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ（IAWCTL）のフォーマット

アドレス：F0078H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IAWCTL | IAWEN | 0 | GRAM1 | GRAM0 | 0 | GPORT | GINT | GCSC |

| IAWEN注 | 不正メモリ・アクセスの検出制御 |
|---|---|
| 0 | 不正メモリ・アクセスの検出無効 |
| 1 | 不正メモリ・アクセスの検出有効 |

注　IAWENビットは1の書き込みのみを有効とし，IAWEN = 1としたあとの0の書き込みは無効です。

備考　オプション・バイト（000C0H）のWDTON = 1（ウォッチドッグ・タイマ動作許可）のとき，IAWEN = 0でも不正メモリ・アクセスの検出機能は有効となります。

### 30. 3. 7　周波数検出機能

IEC60730では発振周波数が正しいことを確認することが義務付けられています。

周波数検出機能は，CPU/周辺ハードウエア・クロック周波数（$f_{CLK}$）を使用し，タイマ・アレイ・ユニット0(TAU0)のチャネル5の入力パルスを測定することで，2つのクロックの比率関係が正しいか判定することができます。ただし，片一方のクロック，もしくは両方のクロックが停止している場合は，クロックの比率関係を判定することができません。

＜比較するクロック＞

①CPU/周辺ハードウエア・クロック周波数（$f_{CLK}$）：

・高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）

・高速システム・クロック（$f_{MX}$）

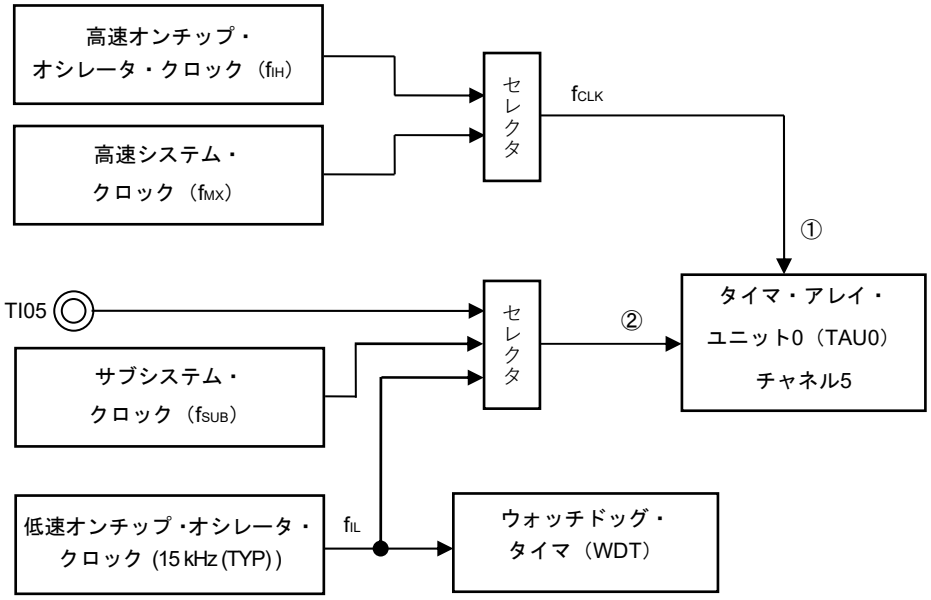
②タイマ・アレイ・ユニットのチャネル5入力：

・チャネル5のタイマ入力(TI05)

・低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$：15 kHz（TYP.））

・サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）

図30－13　周波数検出機能の構成




入力パルス間隔の測定結果が異常な値になった場合は，「クロック周波数に異常がある」と判定できます。

入力パルス間隔測定の方法については，7. 8. 3　入力パルス間隔測定としての動作を参照してください。

#### 30. 3. 7. 1　タイマ入力選択レジスタ 0（TIS0）

TIS0レジスタは，タイマ・アレイ・ユニット0(TAU0)のチャネル5のタイマ入力を選択するレジスタです。

TIS0レジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－14　タイマ入力選択レジスタ0（TIS0）のフォーマット

アドレス：F0074H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TIS0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | TIS02 | TIS01 | TIS00 |

| TIS02 | TIS01 | TIS00 | チャネル1で使用するタイマ入力の選択 |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | タイマ入力端子（TI05）の入力信号 |
| 0 | 0 | 1 | |
| 0 | 1 | 0 | |
| 0 | 1 | 1 | |
| 1 | 0 | 0 | 低速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IL}$） |
| 1 | 0 | 1 | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$） |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |

### 30. 3. 8　A/Dテスト機能

IEC60730ではA/Dコンバータのテストが義務付けられています。このA/Dテスト機能では，A/Dコンバータの＋側基準電圧，－側基準電圧，アナログ入力チャネル（ANI），温度センサ出力電圧および内部基準電圧のA/D変換を実施することで，A/Dコンバータの正常動作を確認します。確認方法の詳細は，安全機能（A/Dテスト）アプリケーションノート（R01AN0955）を参照してください。

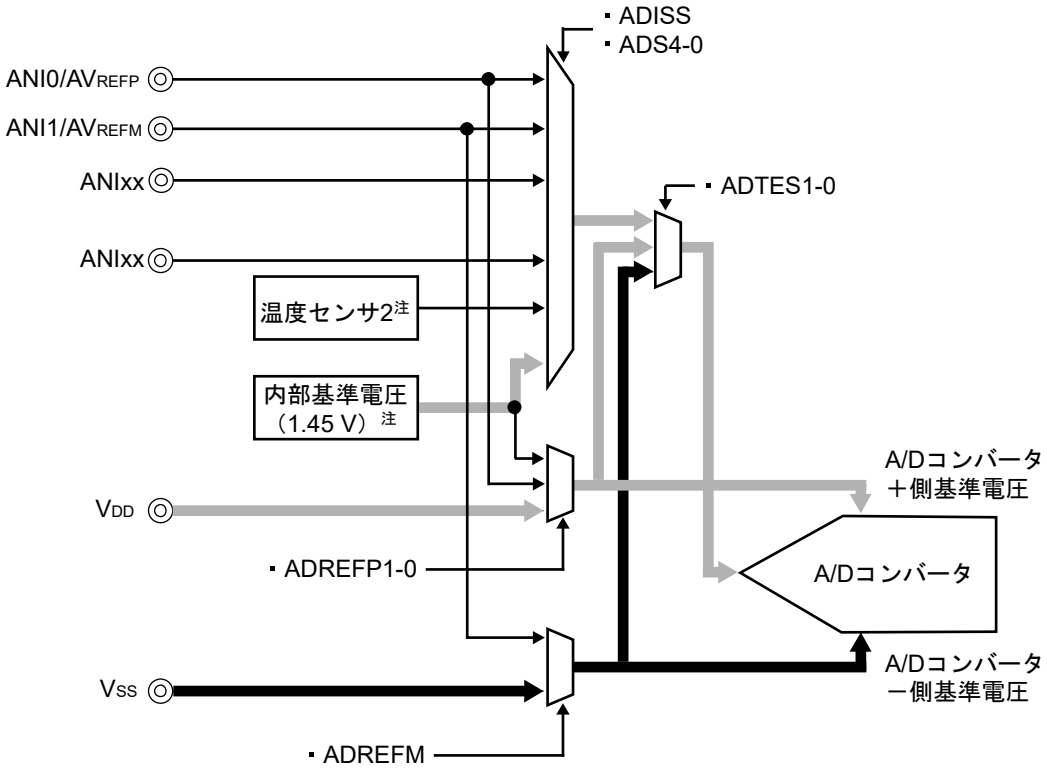
また，アナログ・マルチプレクサは，以下の手順で確認できます。

① ADTESレジスタでA/D変換対象にANIx端子を選択（ADTES1, ADTES0=0,0）
② ANIx端子のA/D変換を行う（変換結果1-1）。
③ ADTESレジスタでA/D変換対象にA/Dコンバータの－側基準電圧を選択（ADTES1, ADTES0=1,0）
④ A/Dコンバータの－側基準電圧のA/D変換を行う（変換結果2-1）
⑤ ADTESレジスタでA/D変換対象にANIx端子を選択（ADTES1, ADTES0=0,0）
⑥ ANIx端子のA/D変換を行う（変換結果1-2）
⑦ ADTESレジスタでA/D変換対象にA/Dコンバータの＋側基準電圧を選択（ADTES1, ADTES0=1,1）
⑧ A/Dコンバータの＋側基準電圧のA/D変換を行う（変換結果2-2）
⑨ ADTESレジスタでA/D変換対象にANIx端子を選択（ADTES1, ADTES0=0,0）
⑩ ANIx端子のA/D変換を行う（変換結果1-3）
⑪ 「変換結果1-1」 = 「変換結果1-2」 = 「変換結果1-3」であることを確認する。
⑫ 「変換結果2-1」のA/D変換結果がオール０，「変換結果2-2」のA/D変換結果がオール１であることを確認する。

以上の手順で，アナログ・マルチプレクサが選択されていることと，配線が断線していないことが確認できます。

備考1.　①～⑩の変換動作中にアナログ入力電圧を可変とする場合は，別の手段でアナログ・マルチプレクサの確認をしてください。
2.　変換結果は誤差を含むので，変換結果を比較するときは，適切な誤差を考慮してください。

図30－15　A/Dテスト機能の構成




注　HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

#### 30. 3. 8. 1　A/D テスト・レジスタ（ADTES）

A/D変換対象にA/Dコンバータの＋側の基準電圧，－側の基準電圧，アナログ入力チャネル（ANIxx），温度センサ出力電圧，内部基準電圧（1.45V）を選択するレジスタです。

A/Dテスト機能として使用する場合は，以下の設定にします。

・ゼロスケールを測定するときは，A/D変換対象に－側の基準電圧を選択。

・フルスケールを測定するときは，A/D変換対象に＋側の基準電圧を選択。

ADTESレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－16　A/Dテスト・レジスタ（ADTES）のフォーマット

アドレス：F0013H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADTES | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ADTES1 | ADTES0 |

| ADTES1 | ADTES0 | A/D変換対象 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | ANIxx/温度センサ出力電圧[注]／内部基準電圧（1.45 V）[注]（アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で設定） |
| 1 | 0 | －側の基準電圧（ADM2レジスタのADREFMビットで選択） |
| 1 | 1 | ＋側の基準電圧（ADM2レジスタのADREFP1, ADREFP0ビットで選択） |
| 上記以外 | | 設定禁止 |

注　温度センサ出力電圧，内部基準電圧（1.45 V）は，HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

#### 30. 3. 8. 2　アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）

A/D変換するアナログ電圧の入力チャネルを指定するレジスタです。

A/Dテスト機能でANIxx／温度センサ出力／内部基準電圧（1.45 V）を測定するときは，A/Dテスト・レジスタ（ADTES）を00Hに設定してください。

ADSレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－17　アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）のフォーマット

アドレス：FFF31H　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ADS | ADISS | 0 | 0 | ADS4 | ADS3 | ADS2 | ADS1 | ADS0 |

| ADISS | ADS4 | ADS3 | ADS2 | ADS1 | ADS0 | アナログ入力チャネル | 入力ソース |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ANI0 | P20/ANI0/$AV_{REFP}$端子 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | ANI1 | P21/ANI1/$AV_{REFM}$端子 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | ANI2 | P22/ANI2端子 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | ANI3 | P23/ANI3端子 |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | ANI4 | P24/ANI4端子 |
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | ANI5 | P25/ANI5端子 |
| 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | － | 温度センサ2出力電圧注 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | － | 内部基準電圧（1.45 V）注 |
| 上記以外 | | | | | | 設定禁止 | |

注　HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

注意1.　ビット5, 6には必ず0を設定してください。

2.　ADPCレジスタでアナログ入力に設定したポートは，ポート・モード・レジスタ2（PM2）で入力モードに選択してください。

3.　A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）でデジタル入出力として設定する端子を，ADSレジスタで設定しないでください。

4.　ADISSビットを書き換える場合は，必ず変換停止状態（ADCE = 0, ADCS = 0）のときに行ってください。

5.　$AV_{REFP}$をA/Dコンバータの＋側の基準電圧として使用している場合，ANI0をA/D変換チャネルとして選択しないでください。

6.　$AV_{REFM}$をA/Dコンバータの－側の基準電圧として使用している場合，ANI1をA/D変換チャネルとして選択しないでください。

7.　ADISS = 1を設定した場合，＋側の基準電圧に内部基準電圧（1.45 V）は使用できません。また，ADISS = 1に設定後，1回目の変換結果は使用できません。

8.　STOPモードへ移行，もしくはサブシステム・クロックでCPU動作中にHALTモードへ移行する場合は，ADISS = 1に設定しないでください。ADISS = 1設定時は，37. 3. 2　電源電流特性に示すA/Dコンバータ基準電圧電流（$I_{ADREF}$）の電流値が加算されます。

## 30. 3. 9　入出力ポートのデジタル出力信号レベル検出機能

IEC60730ではI/O機能が正しいことを確認することが義務付けられています。

入出力端子のデジタル出力信号レベル検出機能では，端子が出力モード時に，端子のデジタル出力レベルをリードすることができます。

### 30. 3. 9. 1　ポート・モード選択レジスタ（PMS）

ポートが出力モード（ポート・モード・レジスタ（PMm）のPMmnビットが0）時に，ポートの出力ラッチの値をリードするか，端子の出力レベルをリードするかを選択するレジスタです。

PMSレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図30－18　ポート・モード選択レジスタ（PMS）のフォーマット

アドレス：F007BH　リセット時：00H　R/W

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PMS | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | PMS0 |

| PMS0 | ポートが出力モード時（PMmn = 0）にリードするデータの選択 |
|---|---|
| 0 | Pmnレジスタの値を読み出す |
| 1 | 端子のデジタル出力レベルを読み出す |

備考　m = 0-8, 12

n = 0-7

注意1.　PMSレジスタのPMS0ビットを“1”に設定時は，リード・モディファイ命令でPxレジスタを書き換えないでください。Pxレジスタを書き換える場合は，8ビットの操作命令を使用してください。

2.　PMS制御は，LCD専用端子および入力専用端子（P121-P124, P137）については無効となります。

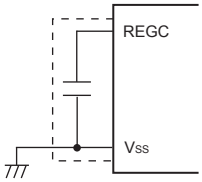
3.　SEG兼用端子をSEG出力として使用する場合には，PMS制御は無効となります（リード時は”L”固定）。

4.　IICA0EN（PER0レジスタのビット4）= 0の場合，P61, P60端子はPMS制御が無効となります。

# 第31章　レギュレータ

## 31. 1　レギュレータの概要

RL78/I1Bは，デバイス内部を定電圧動作させるための回路を内蔵しています。このときレギュレータ出力電圧を安定させるために，REGC端子にはレギュレータ安定として，コンデンサ（0.47～1 μF）を介し，Vssに接続してください。また，内部電圧の安定のために使用するため，特性のよいコンデンサを使用してください。




注意　上図の破線部分の配線を極力短くしてください。

レギュレータ出力電圧は，表31－1のようになります。

表31－1　レギュレータ出力電圧条件

| モード | 出力電圧 | 条　　件 |
|---|---|---|
| LS（低速メイン）モード | 1.8 V | |
| HS（高速メイン）モード | 1.8 V | STOPモード時 |
| | | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）でCPU動作中で，高速システム・クロック（$f_{MX}$）と高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）が共に停止 |
| | | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）でCPU動作設定時のHALTモード中で，高速システム・クロック（$f_{MX}$）と高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）が共に停止 |
| | 2.1 V | 上記以外（オンチップ・デバッグ中を含む）注 |

注　オンチップ・デバッグ中に，サブシステム・クロック動作やSTOPモードに移行する場合は，レギュレータ出力電圧は2.1 Vを継続します（1.8 Vにはなりません）。

# 第32章　オプション・バイト

## 32. 1　オプション・バイトの機能

RL78/I1Bのフラッシュ・メモリの000C0H-000C3Hは，オプション・バイト領域です。

オプション・バイトは，ユーザ・オプション・バイト（000C0H-000C2H）とオンチップ・デバッグ・オプション・バイト（000C3H）で構成されています。

電源投入時またはリセットからの起動時に，自動的にオプション・バイトを参照して，指定された機能の設定を行います。製品使用の際には，必ずオプション・バイトにて次に示す機能の設定を行ってください。なお，機能が配置されていないビットは，初期値から変更しないでください。

また，セルフ・プログラミング時にブート・スワップ動作を使用する際には，000C0H-000C3Hは010C0H-010C3Hと切り替わるので，010C0H-010C3Hにも000C0H-000C3Hと同じ値を設定してください。

**注意　オプション・バイトは，各機能の使用の有無にかかわらず必ず設定してください。**

### 32. 1. 1　ユーザ・オプション・バイト（000C0H-000C2H/010C0H-010C2H）

（1）000C0H/010C0H

○ウォッチドッグ・タイマの動作

・カウンタの動作許可／禁止

・HALT/STOPモード時のカウンタの動作可能／停止

○ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定

○ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間の設定

○ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込み

・インターバル割り込みを使用する／使用しない

注意　ブート・スワップ時は，000C0Hと010C0Hが切り替わるので，010C0Hにも000C0Hと同じ値を設定してください。

（2）000C1H/010C1H

○LVDの動作モード設定

・割り込み＆リセット・モード

・リセット・モード

・割り込みモード

・LVDオフ（$\overline{\text{RESET}}$端子による外部リセットを使用）

○LVD検出レベル（$V_{LVDH}$, $V_{LVDL}$, $V_{LVD}$）の設定

注意1.　電源立ち上がり時は，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲まで，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は，動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。
動作電圧範囲は，ユーザ・オプション・バイト（000C2H/010C2H）の設定により変わります。

注意2.　ブート・スワップ時は，000C1Hと010C1Hが切り替わるので，010C1Hにも000C1Hと同じ値を設定してください。

（3）000C2H/010C2H

○フラッシュの動作モード設定

使用するメイン・システム・クロック周波数(fMAIN)，電源電圧(VDD)に応じて設定

・LS（低速メイン）モード

・HS（高速メイン）モード

○高速オンチップ・オシレータの周波数設定

・3 MHz, 6 MHz, 12 MHz, 24 MHz から選択

注意　ブート・スワップ時は，000C2Hと010C2Hが切り替わるので，010C2Hにも000C2Hと同じ値を設定してください。

### 32. 1. 2　オンチップ・デバッグ・オプション・バイト（000C3H/010C3H）

○オンチップ・デバッグ動作制御

・オンチップ・デバッグ動作禁止／許可

○セキュリティID認証失敗時のフラッシュ・メモリ・データの処理

・オンチップ・デバッグ・セキュリティID認証失敗時にフラッシュ・メモリのデータを消去する／消去しない

注意　ブート・スワップ時は，000C3Hと010C3Hが切り替わるので，010C3Hにも000C3Hと同じ値を設定してください。

## 32. 2　ユーザ・オプション・バイトのフォーマット

図32－1　ユーザ・オプション・バイト（000C0H/010C0H）のフォーマット

アドレス：000C0H/010C0H[注1]

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| WDTINT | WINDOW1 | WINDOW0 | WDTON | WDCS2 | WDCS1 | WDCS0 | WDSTBYON |

| WDTINT | ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの使用／不使用 |
|---|---|
| 0 | インターバル割り込みを使用しない |
| 1 | オーバフロー時間の75%+1/2$f_{IL}$到達時にインターバル割り込みを発生する |

| WINDOW1 | WINDOW0 | ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間[注2] |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 設定禁止 |
| 0 | 1 | 50 % |
| 1 | 0 | 75 % |
| 1 | 1 | 100 % |

| WDTON | ウォッチドッグ・タイマのカウンタの動作制御 |
|---|---|
| 0 | カウンタ動作禁止（リセット解除後，カウント停止） |
| 1 | カウンタ動作許可（リセット解除後，カウント開始） |

| WDCS2 | WDCS1 | WDCS0 | ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間<br>（$f_{IL}$ = 17.25 kHz（MAX.）の場合） |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | $2^6/f_{IL}$（3.71 ms） |
| 0 | 0 | 1 | $2^7/f_{IL}$（7.42 ms） |
| 0 | 1 | 0 | $2^8/f_{IL}$（14.84 ms） |
| 0 | 1 | 1 | $2^9/f_{IL}$（29.68 ms） |
| 1 | 0 | 0 | $2^{11}/f_{IL}$（118.72 ms） |
| 1 | 0 | 1 | $2^{13}/f_{IL}$（474.89 ms） |
| 1 | 1 | 0 | $2^{14}/f_{IL}$（949.79 ms） |
| 1 | 1 | 1 | $2^{16}/f_{IL}$（3799.18 ms） |

| WDSTBYON | ウォッチドッグ・タイマのカウンタ動作制御（HALT/STOPモード時） |
|---|---|
| 0 | HALT/STOPモード時，カウンタ動作停止[注2] |
| 1 | HALT/STOPモード時，カウンタ動作許可 |

注1.　ブート・スワップ時は，000C0Hと010C0Hが切り替わるので，010C0Hにも000C0Hと同じ値を設定してください。

2.　WDSTBYON = 0のときは，WINDOW1, WINDOW0ビットの値に関係なく，ウインドウ・オープン期間100%となります。

備考　$f_{IL}$：低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

図32－2　ユーザ・オプション・バイト（000C1H/010C1H）のフォーマット（1/2）

アドレス：000C1H/010C1H注

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | 1 | LVIS1 | LVIS0 | LVIMDS1 | LVIMDS0 |

・LVDの設定（割り込み＆リセット・モード）

| 検出電圧 | | | オプション・バイト設定値 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{LVDH}$ | | $V_{LVDL}$ | VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | LVIS1 | LVIS0 | モード設定 | |
| 立ち上がり | 立ち下がり | 立ち下がり | | | | | | LVIMDS1 | LVIMDS0 |
| 2.61 V | 2.55 V | 2.45 V | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 2.71 V | 2.65 V | | | | | 0 | 1 | | |
| 3.75 V | 3.67 V | | | | | 0 | 0 | | |
| 2.92 V | 2.86 V | 2.75 V | | 1 | 1 | 1 | 0 | | |
| 3.02 V | 2.96 V | | | | | 0 | 1 | | |
| 4.06 V | 3.98 V | | | | | 0 | 0 | | |
| － | | | 上記以外は設定禁止 | | | | | | |

・LVDの設定（リセット・モード）

| 検出電圧 | | オプション・バイト設定値 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{LVD}$ | | VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | LVIS1 | LVIS0 | モード設定 | |
| 立ち上がり | 立ち下がり | | | | | | LVIMDS1 | LVIMDS0 |
| 1.98 V | 1.94 V | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 2.09 V | 2.04 V | | 0 | 1 | 0 | 1 | | |
| 2.50 V | 2.45 V | | 1 | 0 | 1 | 1 | | |
| 2.61 V | 2.55 V | | 1 | 0 | 1 | 0 | | |
| 2.71 V | 2.65 V | | 1 | 0 | 0 | 1 | | |
| 2.81 V | 2.75 V | | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 2.92 V | 2.86 V | | 1 | 1 | 1 | 0 | | |
| 3.02 V | 2.96 V | | 1 | 1 | 0 | 1 | | |
| 3.13 V | 3.06 V | | 0 | 1 | 0 | 0 | | |
| 3.75 V | 3.67 V | | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 4.06 V | 3.98 V | | 1 | 1 | 0 | 0 | | |
| － | | 上記以外は設定禁止 | | | | | | |

注　ブート・スワップ時は，000C1Hと010C1Hが切り替わるので，010C1Hにも000C1Hと同じ値を設定してください。

注意　ビット4には，必ず1を書き込んでください。

備考1.　LVDの設定に関しては27. 1　電圧検出回路の機能を参照してください。

2.　検出電圧はTYP.値です。詳細は，37 6. 6　LVD回路特性を参照してください。

（注意は，次ページにあります。）

図32－2　ユーザ・オプション・バイト（000C1H/010C1H）のフォーマット（2/2）

アドレス：000C1H/010C1H注

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | 1 | LVIS1 | LVIS0 | LVIMDS1 | LVIMDS0 |

・LVDの設定（割り込みモード）

| 検出電圧 | | オプション・バイト設定値 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{LVD}$ | | VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | LVIS1 | LVIS0 | モード設定 | |
| 立ち上がり | 立ち下がり | | | | | | LVIMDS1 | LVIMDS0 |
| 1.98 V | 1.94 V | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 2.09 V | 2.04 V | | 0 | 1 | 0 | 1 | | |
| 2.50 V | 2.45 V | | 1 | 0 | 1 | 1 | | |
| 2.61 V | 2.55 V | | 1 | 0 | 1 | 0 | | |
| 2.71 V | 2.65 V | | 1 | 0 | 0 | 1 | | |
| 2.81 V | 2.75 V | | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 2.92 V | 2.86 V | | 1 | 1 | 1 | 0 | | |
| 3.02 V | 2.96 V | | 1 | 1 | 0 | 1 | | |
| 3.13 V | 3.06 V | | 0 | 1 | 0 | 0 | | |
| 3.75 V | 3.67 V | | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 4.06 V | 3.98 V | | 1 | 1 | 0 | 0 | | |
| — | | 上記以外は設定禁止 | | | | | | |

・LVDオフの設定（$\overline{\text{RESET}}$端子による外部リセット入力を使用）

| 検出電圧 | | オプション・バイト設定値 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{LVD}$ | | VPOC2 | VPOC1 | VPOC0 | LVIS1 | LVIS0 | モード設定 | |
| 立ち上がり | 立ち下がり | | | | | | LVIMDS1 | LVIMDS0 |
| — | — | 1 | × | × | × | × | × | 1 |
| — | | 上記以外は設定禁止 | | | | | | |

注　ブート・スワップ時は，000C1Hと010C1Hが切り替わるので，010C1Hにも000C1Hと同じ値を設定してください。

注意1.　ビット4には，必ず1を書き込んでください。

2.　電源立ち上がり時は，37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲まで，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は，動作電圧範囲を下回る前に，STOPモードに移行するか，電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。
動作電圧範囲は，ユーザ・オプション・バイト（000C2H/010C2H）の設定により変わります。

備考 1.　×：don’t care

2.　LVDの設定に関しては27. 1　電圧検出回路の機能を参照してください。

3.　検出電圧はTYP.値です。詳細は，37. 6. 6　LVD回路特性を参照してください。

図32－3　ユーザ・オプション・バイト（000C2H/010C2H）のフォーマット

アドレス：000C2H/010C2H[注1]

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| CMODE1 | CMODE0 | 1 | 0 | 0 | FRQSEL2 | FRQSEL1 | FRQSEL0 |

| CMODE1 | CMODE0 | フラッシュの動作モード設定 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 動作周波数範囲($f_{MAIN}$) | 動作電圧範囲($V_{DD}$) |
| 1 | 0 | LS（低速メイン）モード | 6/3MHz | 1.9 V～5.5 V |
| 1 | 1 | HS（高速メイン）モード | 6/3MHz | 2.1 V～5.5 V[注2] |
| | | | 12/6/3MHz | 2.4 V～5.5 V |
| | | | 24/12/6/3MHz | 2.7 V～5.5 V |
| 上記以外 | | 設定禁止 | | |

| FRQSEL2 | FRQSEL1 | FRQSEL0 | 高速オンチップオシレータ・クロックの周波数 |
|---|---|---|---|
| | | | $f_{IH}$ |
| 0 | 0 | 0 | 24 MHz |
| 0 | 0 | 1 | 12 MHz |
| 0 | 1 | 0 | 6 MHz |
| 0 | 1 | 1 | 3 MHz |
| 上記以外 | | | 設定禁止 |

注1.　ブート・スワップ時は，000C2Hと010C2Hが切り替わるので，010C2Hにも000C2Hと同じ値を設定してください。

2.　－20℃≦$T_A$≦＋85℃で使用してください。

注意1.　ビット5, 4には，必ず10Bを書き込んでください。

2.　動作周波数範囲と動作電圧範囲は，フラッシュの各動作モードによって異なります。詳細は，37. 4　AC特性を参照してください。

## 32. 3　オンチップ・デバッグ・オプション・バイトのフォーマット

オンチップ・デバッグ・オプション・バイトのフォーマットを次に示します。

図32－4　オンチップ・デバッグ・オプション・バイト（000C3H/010C3H）のフォーマット

アドレス：000C3H/010C3H[注]

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| OCDENSET | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | OCDERSD |

| OCDENSET | OCDERSD | オンチップ・デバッグ動作制御 |
|---|---|---|
| 0 | 0 | オンチップ・デバッグ動作禁止 |
| 0 | 1 | 設定禁止 |
| 1 | 0 | オンチップ・デバッグ動作許可。<br>オンチップ・デバッグ・セキュリティID認証失敗時にフラッシュ・メモリのデータを消去する |
| 1 | 1 | オンチップ・デバッグ動作許可。<br>オンチップ・デバッグ・セキュリティID認証失敗時にフラッシュ・メモリのデータを消去しない |

注　ブート・スワップ時は，000C3Hと010C3Hが切り替わるので，010C3Hにも000C3Hと同じ値を設定してください。

注意　ビット7, 0（OCDENSET, OCDERSD）のみ，値を指定できます。
ビット6-1には，必ず000010Bを書き込んでください。

備考　ビット3-1は, オンチップ･デバッグ機能使用時に値が書き変わるので, 設定後は不定となります。
ただし，設定時にはビット3-1にも，必ず初期値（0, 1, 0）を設定してください。

## 32. 4　オプション・バイトの設定

ユーザ・オプション・バイトとオンチップ・デバッグ・オプション・バイトは，ソースへの記述による設定の他にリンク・オプションでも設定できます。その場合，下記のようにソースに記述があってもリンク・オプションでの設定内容が優先されます。

オプション・バイト設定のソフトウエア記述例を次に示します。

```
OPT   CSEG        OPT_BYTE
      DB          36H     ; ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みを使用しない，
                          ; ウォッチドッグ・タイマ動作許可，
                          ; ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間50%，
                          ; ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間2^9/fIL，
                          ; HALT/STOPモード時，ウォッチドッグ・タイマの動作停止
      DB          5AH     ; VLVDLに2.45 Vを選択
                          ; VLVDHに立ち上がり2.61 V，立ち下がり2.55 Vを選択
                          ; LVDの動作モードに割り込み＆リセット・モードを選択
      DB          A3H     ; フラッシュの動作モードにLS（低速メイン）モード，
                            高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数 3 MHzを選択
      DB          85H     ; オンチップ・デバッグ動作許可，セキュリティID認証失敗時に
                          ; フラッシュ・メモリのデータを消去しない。
```

セルフ・プログラミング時にブート・スワップ機能を使用する際には，000C0H-000C3Hは010C0H-010C3Hと切り替わります。そのため010C0H-010C3Hにも000C0H-000C3Hと同じ値を，次のように記述してください。

```
OPT2  CSEG   AT   010C0H
      DB          36H     ; ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みを使用しない，
                          ; ウォッチドッグ・タイマ動作許可，
                          ; ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間50%，
                          ; ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間2^9/fIL，
                          ; HALT/STOPモード時，ウォッチドッグ・タイマの動作停止
      DB          5AH     ; VLVDLに2.45 Vを選択
                          ; VLVDHに立ち上がり2.61 V，立ち下がり2.55 Vを選択
                          ; LVDの動作モードに割り込み＆リセット・モードを選択
      DB          A3H     ; フラッシュの動作モードにLS（低速メイン）モード，
                            高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数 3 MHzを選択
      DB          85H     ; オンチップ・デバッグ動作許可，セキュリティID認証失敗時に
                          ; フラッシュ・メモリのデータを消去しない。
```

注意　オプション・バイトをアセンブリ言語により指定する場合，CSEG疑似命令の再配置属性名はOPT_BYTEを使用してください。なお，ブート・スワップ機能を使用するために010C0H～010C3Hにオプション・バイトを指定する場合は，再配置属性ATを使用して絶対番地を指定してください。

# 第33章　フラッシュ・メモリ

RL78マイクロコントローラは，プログラムの書き込み，消去，再書き込み可能なフラッシュ・メモリを内蔵しています。フラッシュ・メモリには，プログラム実行可能な“コード・フラッシュ”があります。

フラッシュ・メモリのプログラミング方法は，次のとおりです。

コード・フラッシュ・メモリは，フラッシュ・メモリ・プログラマまたは外部デバイス（UART通信）によるシリアル・プログラミングもしくは，セルフ・プログラミングで書き換えることができます。

・フラッシュ・メモリ・プログラマによるシリアル・プログラミング（33. 4参照）
専用フラッシュ・メモリ・プログラマを使用してオンボードまたはオフボードで書き込みができます。

・外部デバイス（UART通信）によるシリアル・プログラミング（33. 2参照）
外部デバイス（マイコンやASIC）とのUART通信を使用してオンボード上で書き込みができます。

・セルフ・プログラミング（33. 5参照）
フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを利用して，ユーザ・アプリケーション上でコード・フラッシュ･メモリの自己書き換えができます。

## 33. 1　フラッシュ・メモリ・プログラマによるシリアル・プログラミング

RL78マイクロコントローラの内蔵フラッシュ・メモリにデータを書き込むために，次の専用フラッシュ・メモリ・プログラマを使用できます。

・PG-FP5, FL-PR5
・E1オンチップデバッギングエミュレータ

専用フラッシュ・メモリ・プログラマにより，オンボードまたはオフボードで書き込みができます。

(1) オンボード・プログラミング

ターゲット・システム上にRL78マイクロコントローラを実装後，フラッシュ・メモリの内容を書き換えます。ターゲット・システム上には，専用フラッシュ・メモリ・プログラマを接続するためのコネクタなどを実装しておいてください。

(2) オフボード・プログラミング

ターゲット・システム上にRL78マイクロコントローラを実装する前に専用プログラム・アダプタ（FAシリーズ）などでフラッシュ・メモリに書き込みます。

備考　FL-PR5, FAシリーズは，（株）内藤電誠町田製作所の製品です。

表33－1　RL78マイクロコントローラと専用フラッシュ・メモリ・プログラマの配線表

| 専用フラッシュ・メモリ・プログラマ接続端子 | | | | 端子名 | ピン番号 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 80ピン | 100ピン |
| 信号名 | | 入出力 | 端子機能 | | LFQFP(12×12) | LFQFP(14×14) |
| PG-FP5, FL-PR5 | E1オンチップデバッギングエミュレータ | | | | | |
| － | TOOL0 | 入出力 | 送受信信号 | TOOL0/P40 | 8 | 14 |
| SI/RxD | － | 入出力 | 送受信信号 | | | |
| － | $\overline{\text{RESET}}$ | 出力 | リセット信号 | $\overline{\text{RESET}}$ | 9 | 15 |
| /RESET | － | 出力 | | | | |
| $V_{DD}$ | | 入出力 | $V_{DD}$電圧生成／電源監視 | $V_{DD}$ | 17 | 23 |
| GND | | － | グランド | $V_{SS}$ | 16 | 22 |
| | | | | $EV_{SS1}$ | － | 54 |
| | | | | REGC注 | 15 | 21 |
| FLMD1 | $EMV_{DD}$ | － | TOOL0端子駆動電源 | $V_{DD}$ | 17 | 23 |
| | | | | $EV_{DD1}$ | － | 63 |

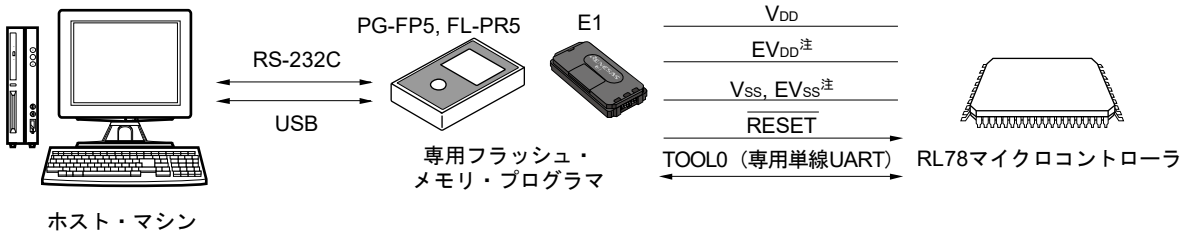
注　REGC端子はコンデンサ（0.47～1 μF）を介してグランドに接続してください。

備考　この表に記載されていない端子は，フラッシュ・メモリ・プログラマによるプログラミング時にはオープンで構いません。

### 33. 1. 1　プログラミング環境

RL78マイクロコントローラのフラッシュ・メモリにプログラムを書き込むために必要な環境を示します。

図33－1　フラッシュ・メモリにプログラムを書き込むための環境




注　100ピン製品のみ

専用フラッシュ・メモリ・プログラマには，これを制御するホスト・マシンが必要です。

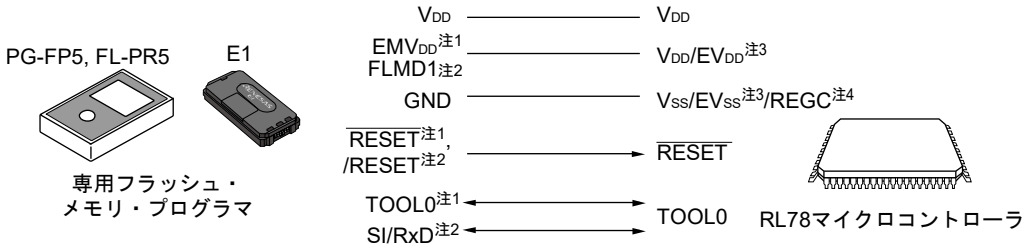
また，専用フラッシュ・メモリ・プログラマとRL78マイクロコントローラとのインタフェースはTOOL0端子を使用して，専用の単線UARTで書き込み／消去の操作を行います。

### 33. 1. 2　通信方式

専用フラッシュ・メモリ・プログラマとRL78マイクロコントローラとの通信は，RL78マイクロコントローラのTOOL0端子を使用して，専用の単線UARTによるシリアル通信で行います。

転送レート：　1 M, 500 k, 250 k, 115.2 kbps

図33－2　専用フラッシュ・メモリ・プログラマとの通信




注1.　E1オンチップデバッギングエミュレータ使用時。

2.　PG-FP5, FL-PR5使用時。

3.　100ピン製品のみ

4.　REGC端子はコンデンサ（0.47～1 μF）を介してグランドに接続してください。

専用フラッシュ・メモリ・プログラマはRL78マイクロコントローラに対して次の信号を生成します。詳細はPG-FP5, FL-PR5またはE1オンチップデバッギングエミュレータの各マニュアルを参照してください。

表33－2　端子接続一覧

| 専用フラッシュ・メモリ・プログラマ | | | | RL78マイクロコントローラ |
|---|---|---|---|---|
| 信号名 | | 入出力 | 端子機能 | 端子名[注2] |
| PG-FP5, FL-PR5 | E1オンチップデバッギングエミュレータ | | | |
| $V_{DD}$ | | 入出力 | $V_{DD}$電圧生成／電圧監視 | $V_{DD}$ |
| GND | | － | グランド | $V_{SS}$, $EV_{SS1}$, REGC[注1] |
| FLMD1 | $EMV_{DD}$ | － | TOOL0端子駆動電源 | $V_{DD}$, $EV_{DD1}$ |
| /RESET | － | 出力 | リセット信号 | $\overline{RESET}$ |
| － | $\overline{RESET}$ | 出力 | | |
| － | TOOL0 | 入出力 | 送受信信号 | TOOL0 |
| SI/RxD | － | 入出力 | 送受信信号 | |

注1.　REGC端子はコンデンサ（0.47～1 μF）を介してグランドに接続してください。

2.　接続先端子は、製品によって異なります。詳細は，表33-1を参照してください。

## 33. 2　外部デバイス（UART内蔵）によるシリアル・プログラミング

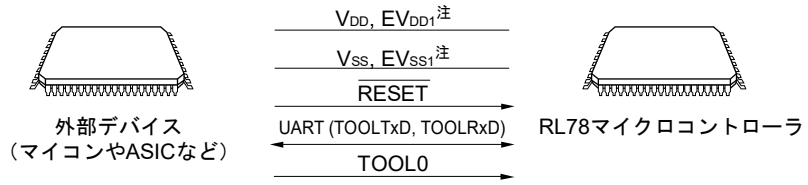
オンボード上でRL78マイクロコントローラとUART接続されている外部デバイス（マイコンやASIC)を使って，内蔵フラッシュ・メモリにデータを書き込むことできます。

ユーザでのフラッシュ・メモリ・プログラマの開発については，RL78マイクロコントローラ（RL78プロトコルA）プログラマ編アプリケーション・ノート（R01AN0815）を参照してください。

### 33. 2. 1　プログラミング環境

RL78マイクロコントローラのフラッシュ・メモリにプログラムを書き込むために必要な環境を示します。

図33－3　フラッシュ・メモリにプログラムを書き込むための環境




**注**　100ピン製品のみ

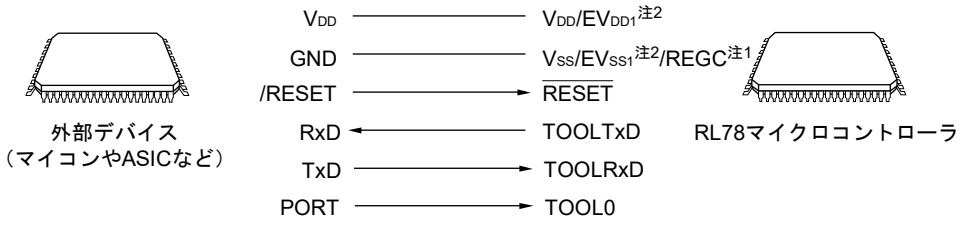
外部デバイスからRL78マイクロコントローラに書き込み／消去する場合はオンボード上で行います。オフボードで書き込むことはできません。

### 33. 2. 2　通信方式

外部デバイスとRL78マイクロコントローラとの通信は，RL78マイクロコントローラのTOOLTxD, TOOLRxD端子を使用して，専用のUARTによるシリアル通信で行います。

転送レート：　1 M, 500 k, 250 k, 115.2 kbps

図33－4　外部デバイスとの通信




注1.　REGC端子はコンデンサ（0.47～1 μF）を介してグランドに接続してください。
　2.　100ピン製品のみ。

注意　**$EV_{DD1}$端子は，$V_{DD}$端子と同電位にしてください。**

外部デバイスはRL78マイクロコントローラに対して次の信号を生成します。

表33－3　端子接続一覧

| 外部デバイス | | | RL78マイクロコントローラ |
|---|---|---|---|
| 信号名 | 入出力 | 端子機能 | 端子名 |
| $V_{DD}$ | 入出力 | $V_{DD}$電圧生成／電圧監視 | $V_{DD}$, $EV_{DD1}$注2 |
| GND | － | グランド | $V_{SS}$, $EV_{SS1}$注2, REGC注1 |
| RESETOUT | 出力 | リセット信号出力 | $\overline{\text{RESET}}$ |
| RxD | 入力 | 受信信号 | TOOLTxD |
| TxD | 出力 | 送信信号 | TOOLRxD |
| PORT | 出力 | モード信号 | TOOL0 |

注1.　REGC端子はコンデンサ（0.47～1 μF）を介してグランドに接続してください。
　2.　100ピン製品のみ。

注意　**$EV_{DD1}$端子は，$V_{DD}$端子と同電位にしてください。**

## 33. 3　オンボード上の端子処理

フラッシュ・メモリ・プログラマによるオンボード書き込みを行う場合は，ターゲット・システム上に専用フラッシュ・メモリ・プログラマと接続するためのコネクタを設けます。また，オンボード上に通常動作モードからフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへの切り替え機能を設けてください。

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移すると，フラッシュ・メモリ・プログラミングに使用しない端子は，すべてリセット直後と同じ状態になります。したがって，外部デバイスがリセット直後の状態を認めない場合は端子処理が必要です。

備考　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに関しては，33. 4 .2　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードを参照してください。

### 33. 3. 1　P40/TOOL0端子

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時は，外部で1 kΩの抵抗でプルアップし，専用フラッシュ・メモリ・プログラマに接続してください。

ポート端子として使用する場合，以下の方法で使用してください。

入力時：端子リセット解除時から$t_{HD}$の期間はロウ・レベルを入力しないでください。ただし，プルダウンで使用する場合は，500 kΩ以上の抵抗を使用してください。

出力時：プルダウンで使用する場合は，500 kΩ以上の抵抗を使用してください。

備考1.　$t_{HD}$：フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに引き込むときに，外部/内部リセット解除からTOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間。37. 12　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードの引き込みタイミングを参照してください。

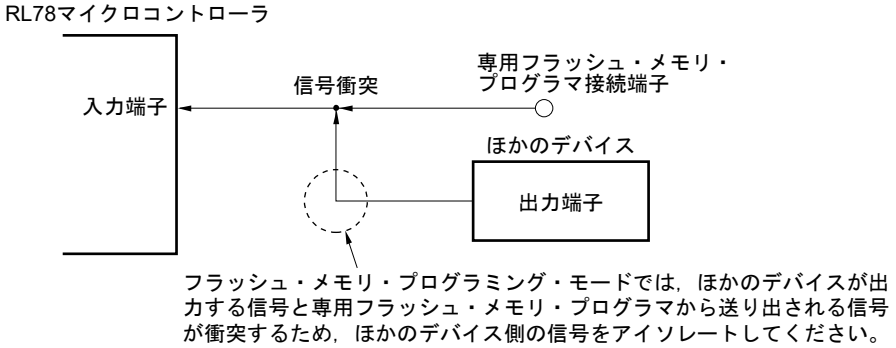
2.　RL78マイクロコントローラと専用フラッシュ・メモリ・プログラマとの通信には，単線UART（TOOL0端子）を使用するので，SAUやIICAの端子は使用しません。

### 33. 3. 2　$\overline{\text{RESET}}$端子

オンボード上で，リセット信号生成回路と接続している$\overline{\text{RESET}}$端子に，専用フラッシュ・メモリ・プログラマや外部デバイスのリセット信号を接続する場合，信号の衝突が発生します。この信号の衝突を避けるため，リセット信号生成回路との接続をアイソレートしてください。

また，フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード期間中に，ユーザ・システムからリセット信号を入力した場合，正常なプログラミング動作が行われなくなるので，専用フラッシュ・メモリ・プログラマまたは外部デバイスからのリセット信号以外は入力しないでください。

図33－5　信号の衝突（$\overline{\text{RESET}}$端子）




### 33. 3. 3　ポート端子

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移すると，フラッシュ・メモリ・プログラミングに使用しない端子は，すべてリセット直後と同じ状態になります。したがって，各ポートに接続された外部デバイスが，リセット直後のポート状態を認めない場合は，抵抗を介して$V_{DD}$または$EV_{DD1}$に接続するか，もしくは抵抗を介して$V_{SS}$または$EV_{SS1}$に接続するなどの端子処理が必要です。

### 33. 3. 4　REGC端子

REGC端子は，通常動作時と同様に，特性の良いコンデンサ（0.47～1 μF）を介し，GNDに接続してください。また，内部電圧の安定のために使用するため，特性のよいコンデンサを使用してください。

### 33. 3. 5　X1, X2端子

X1, X2は，通常動作モード時と同じ状態に接続してください。

備考　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時は，高速オンチップ・オシレータ・クロック（$f_{IH}$）を使用します。

### 33. 3. 6　電　　源

フラッシュ・メモリ・プログラマの電源出力を使用する場合は，$V_{DD}$端子はフラッシュ・メモリ・プログラマの$V_{DD}$に，$V_{SS}$端子はフラッシュ・メモリ・プログラマのGNDに，それぞれ接続してください。

オンボード上の電源を使用する場合は，通常動作モード時に準拠した接続にしてください。

ただしフラッシュ・メモリ・プログラマによる書き込みの場合は，オンボード上の電源を使用する場合においても，フラッシュ・メモリ・プログラマで電圧監視をするため，$V_{DD}$, $V_{SS}$端子はフラッシュ・メモリ・プログラマの$V_{DD}$, GNDと必ず接続してください。

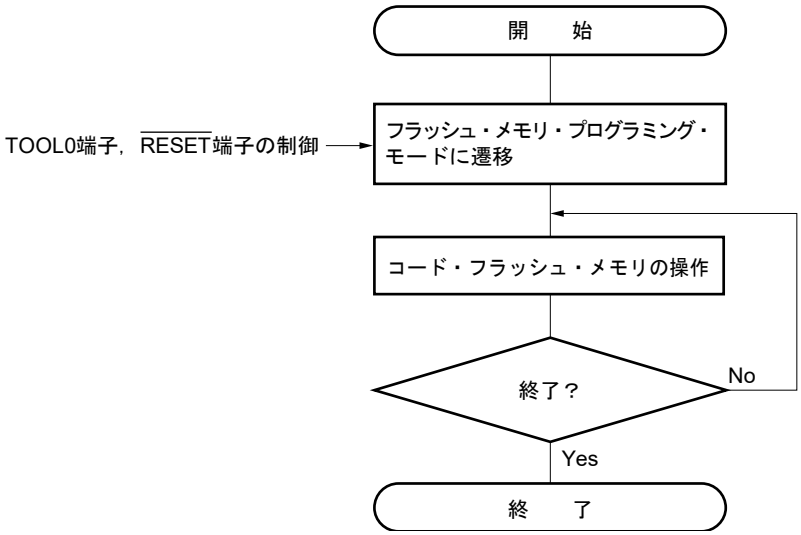
その他の電源（$EV_{DD1}$, $EV_{SS1}$）は，$V_{DD}$, $V_{SS}$と同じ電源を供給してください。

# 33. 4　シリアル・プログラミング方法

## 33. 4. 1　シリアル・プログラミング手順

シリアル・プログラミングでコード・フラッシュ・メモリの書き換えを行う流れを示します。

図33－6　コード・フラッシュ・メモリの操作手順



### 33. 4. 2　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード

コード・フラッシュ・メモリの内容をシリアル・プログラミングで書き換えるときは，フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードにしてください。フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへ遷移するには，次のようにしてください。

＜専用フラッシュ・メモリ・プログラマを使用してシリアル・プログラミングする場合＞

RL78マイクロコントローラを専用フラッシュ・メモリ・プログラマと接続します。専用フラッシュ・メモリ・プログラマとの通信により，自動的にフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移します。

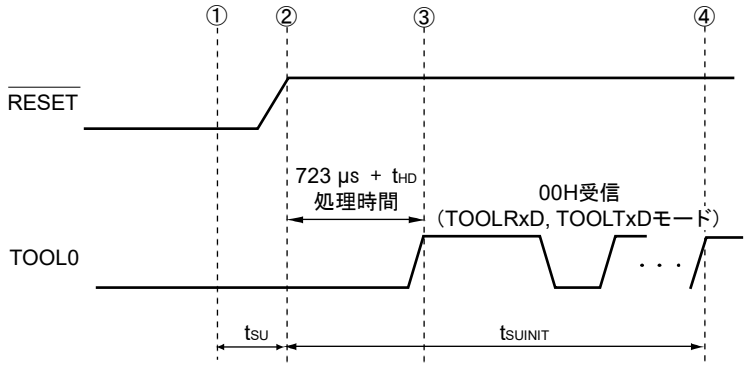
＜外部デバイス（UART通信）を使用してシリアル・プログラミングする場合＞

TOOL0端子をロウ・レベルに設定後，リセットを解除します（表33－4参照）。その後，図33－7に示す①～④の手順でフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへ遷移します。詳細は，RL78マイクロコントローラ（RL78プロトコルA）プログラマ編アプリケーション・ノート（R01AN0815）を参照してください。

表33－4　リセット解除時のTOOL0端子の動作モードとの関係

| TOOL0 | 動作モード |
|---|---|
| $EV_{DD}$ | 通常動作モード |
| 0 V | フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード |

図33－7　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへの引き込み




① TOOL0端子にロウ・レベルを入力

② 端子リセットを解除（その前にPOR, LVDリセットが解除されていること）

③ TOOL0端子のロウ・レベルを解除

④ UART受信によるモード引きこみ，ボー・レート設定完了

備考　$t_{SUINIT}$　：この区間では，リセット解除から100 ms 以内に初期設定通信を完了してください。

$t_{SU}$　：TOOL0端子をロウ・レベルにしてから，端子リセットを解除するまでの時間

$t_{HD}$　：外部／内部リセット解除から，TOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間（フラッシュ・ファーム処理時間を除く）

詳細は，37. 12　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードの引き込みタイミングを参照してください。

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードには，ワイド・ボルテージ・モードとフルスピード・モードの2つのモードがあります。モード選択は，書き込み時マイコンに供給されている電源電圧値およびフラッシュ・メモリ・プログラミング・モード引き込み時のユーザ・オプション・バイトの設定情報によって決定されます。

なお，専用フラッシュ・メモリ・プログラマを使用してシリアル・プログラミングする場合は，GUI上で電圧設定を行うことでモードが自動選択されます。

表33－5　プログラミング・モードと書き込み／消去／ベリファイ実行可能電圧

| 電源電圧（$V_{DD}$） | フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード引き込み時のオプション・バイトの設定 | | フラッシュ書き換えモード |
|---|---|---|---|
| | フラッシュ動作モード | 動作周波数 | |
| 2.7 V ≦ $V_{DD}$ ≦ 5.5 V | ブランク状態 | | フルスピード・モード |
| | HS（高速メイン）モード | 1 MHz～24 MHz | フルスピード・モード |
| | LS（低速メイン）モード | 1 MHz～8 MHz | ワイド・ボルテージ・モード |
| 2.4 V ≦ $V_{DD}$ ＜ 2.7 V | ブランク状態 | | フルスピード・モード |
| | HS（高速メイン）モード | 1 MHz～16 MHz | フルスピード・モード |
| | LS（低速メイン）モード | 1 MHz～8 MHz | ワイド・ボルテージ・モード |
| 1.9 V ≦ $V_{DD}$ ＜ 2.4 V | ブランク状態 | | ワイド・ボルテージ・モード |
| | LS（低速メイン）モード | 1 MHz～8 MHz | ワイド・ボルテージ・モード |

備考1.　ワイド・ボルテージ・モードとフルスピード・モードを併用した場合でも，書き込み／消去／ベリファイを行ううえで制限事項はありません。

2.　通信コマンドの詳細は，33. 4. 4　通信コマンドを参照してください。

### 33. 4. 3　通信方式

RL78マイクロコントローラの通信方式は，次のようになります。

表33－6　通信方式

| 通信方式 | Standard設定注1 | | | | 使用端子 |
|---|---|---|---|---|---|
| | Port | Speed注2 | Frequency | Multiply Rate | |
| 単線UART（フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時，または外部デバイス使用時） | UART | 115200 bps,<br>250000 bps,<br>500000 bps,<br>1 Mbps | － | － | TOOL0 |
| 専用UART（外部デバイス使用時） | UART | 115200 bps,<br>250000 bps,<br>500000 bps,<br>1 Mbps | － | － | TOOLTxD,<br>TOOLRxD |

注1.　フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上のStandard設定における設定項目です。

2.　UART通信にはボー・レート誤差のほかに，信号波形の鈍りなどが影響するため，評価のうえ使用してください。

### 33. 4. 4　通信コマンド

RL78マイクロコントローラは，表33－7に示すコマンドを介してシリアル・プログラミングを実行します。

専用フラッシュ・メモリ・プログラマまたは外部デバイスからRL78マイクロコントローラへ送られる信号を「コマンド」と呼び，そのコマンドに対応した各機能の処理を行います。詳細は，RL78マイクロコントローラ（RL78プロトコルA）プログラマ編アプリケーション・ノート（R01AN0815）を参照してください。

表33－7　フラッシュ・メモリ制御用コマンド

| 分　類 | コマンド名称 | 機　　能 |
|---|---|---|
| ベリファイ | Verify | フラッシュ・メモリの指定された領域の内容とプログラマから送信されたデータを比較します。 |
| 消去 | Block Erase | 指定された領域のフラッシュ・メモリを消去します。 |
| ブランクチェック | Block Blank Check | 指定されたブロックのフラッシュ・メモリの消去状態をチェックします。 |
| 書き込み | Programming | フラッシュ・メモリの指定された領域にデータを書き込みます注。 |
| 情報取得 | Silicon Signature | RL78マイクロコントローラ情報（品名，フラッシュ・メモリ構成，プログラミング用ファームウエア・バージョンなど）を取得します。 |
| | Checksum | 指定された領域のチェックサム・データを取得します。 |
| セキュリティ | Security Set | セキュリティ情報を設定します。 |
| | Security Get | セキュリティ情報を取得します。 |
| | Security Release | 書き込み禁止設定を解除します。 |
| その他 | Reset | 通信の同期検出に使用します。 |
| | Baud Rate Set | UART選択時のボー・レートを設定します。 |

注　書き込み領域に，すでにデータが書き込まれていないことを確認してください。ブロック消去禁止に設定後は消去できないため，データが消去されていない場合は，データを書き込まないでください。

“Silicon Signature”コマンドを実行することで製品情報（品名，ファームウエア・バージョン）を取得することができます。

表33－8にシグネチャ・データ一覧，表33－9にシグネチャ・データ例を示します。

表33－8　シグネチャ・データ一覧

| フィールド名 | 内容 | 送信バイト数 |
|---|---|---|
| デバイス・コード | デバイスに割り振られたシリアル番号 | 3バイト |
| デバイス名 | デバイス名（ASCIIコード） | 10バイト |
| コード・フラッシュ・メモリ領域最終アドレス | コード・フラッシュ・メモリ領域の最終アドレス<br>（アドレス下位から送信されます。<br>例．00000H-0FFFFH (64 KB) → FFH, 1FH, 00H） | 3バイト |
| ファームウエア・バージョン | プログラミング用ファームウエアのバージョン情報<br>（バージョンの上位から送信されます。<br>例．Ver. 1. 23 → 01H, 02H, 03H） | 3バイト |

表33－9　シグネチャ・データ例

| フィールド名 | 内容 | 送信バイト数 | データ（16進数） |
|---|---|---|---|
| デバイス・コード | RL78プロトコルA | 3バイト | 10　00　06 |
| デバイス名 | R5F10MPG | 10バイト | 52 = “R”<br>35 = “5”<br>46 = “F”<br>31 = “1”<br>30 = “0”<br>4D = “M”<br>50 = “P”<br>47 = ”G”<br>20 = “ ”<br>20 = “ ” |
| フラッシュ・メモリ領域<br>最終アドレス | フラッシュ・メモリ領域<br>00000H-0FFFFH (64 KB) | 3バイト | FF<br>FF<br>00 |
| ファームウエア・バージョン | Ver. 1. 23 | 3バイト | 01<br>02<br>03 |

## 33. 5　セルフ・プログラミング

RL78マイクロコントローラは，ユーザ・プログラムでフラッシュ・メモリの書き換えを行うためのセルフ・プログラミング機能をサポートしています。この機能はフラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを利用することにより，ユーザ・アプリケーションでコード・フラッシュ･メモリの書き換えが可能となるので，フィールドでのプログラムのアップグレードなどができるようになります。

注意1.　CPUがサブシステム・クロック動作時の場合，セルフ・プログラミング機能は使用できません。

2.　セルフ・プログラミング中に割り込みを禁止するためには，通常動作モード時と同様に，DI命令によりIEフラグがクリア（0）されている状態でセルフ・プログラミング・ライブラリを実行してください。割り込みを許可する場合は，EI命令によりIEフラグがセット（1）されている状態で，受け付ける割り込みの割り込みマスク・フラグをクリア（0）して，セルフ・プログラミング・ライブラリを実行してください。

3.　セルフ・プログラミング中は，高速オンチップ・オシレータを動作させておく必要があります。高速オンチップ・オシレータを停止させている場合は，高速オンチップ・オシレータ・クロック動作（HIOSTOP= 0）させ，30 μs 経過後にセルフ・プログラミング・ライブラリを実行してください。

4.　VBAT電源供給切り替え時はセルフ・プログラミング機能は使用できません。

備考1.　セルフ・プログラミング機能の詳細については，RL78マイクロコントローラ　フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリ Type01　ユーザーズ・マニュアル（R01US0050）を参照してください。

2.　セルフ・プログラミングの実行処理時間に関してはフラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリのツールに付属している使用上の留意点を参照してください。

また，セルフ・プログラミング機能には，フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードによるワイド・ボルテージ・モードとフルスピード・モードの2つのモードがあります。

オプション・バイト000C2HのCMODE1, CMODE0で設定したフラッシュの動作モードに合わせて，いずれかのモードを設定してください。

HS（高速メイン）モード設定時はフルスピード・モードに，LS（低速メイン）モード設定時はワイド・ボルテージ・モードに設定してください。

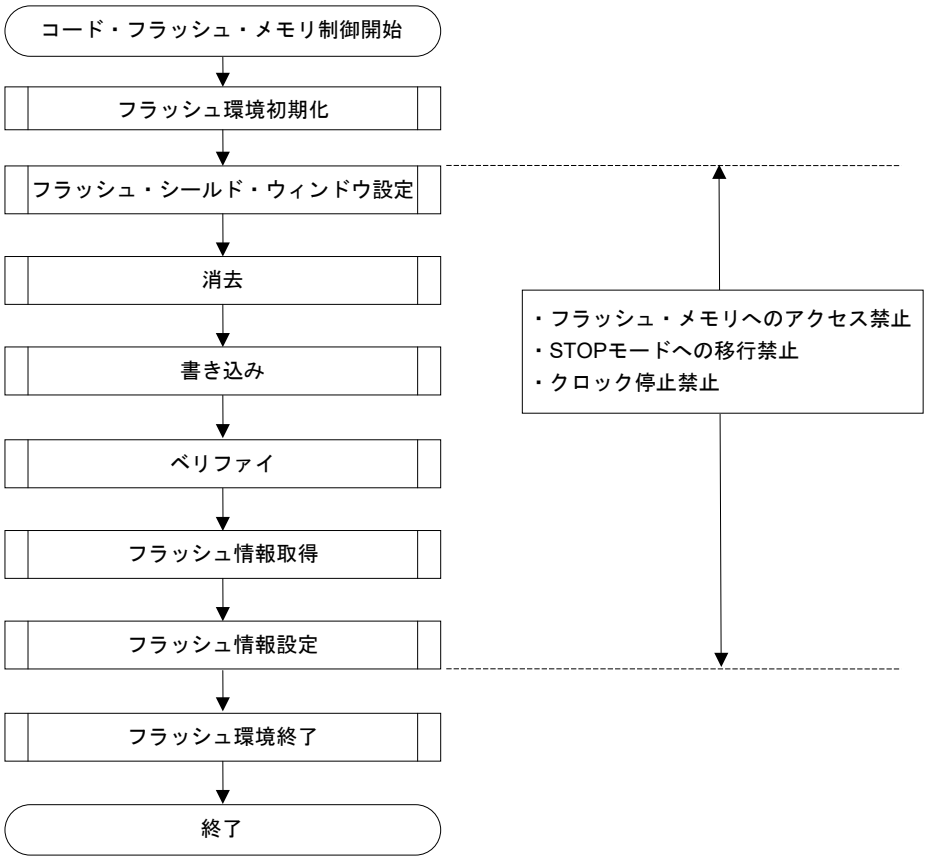
当社提供のフラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリの関数“FSL_Init”実行時に，引数である“fsl_flash_voltage_u08”が00Hであればフルスピード･モードに，00H以外であればワイド・ボルテージ・モードに設定されます。

備考　ワイド・ボルテージ・モードとフルスピード・モードを併用した場合でも，書き込み／消去／ベリファイを行ううえで制限事項はありません。

### 33. 5. 1　セルフ・プログラミング手順

フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを利用してコード・フラッシュ・メモリの書き換えを行う流れを示します。

図33－8　セルフ・プログラミング（フラッシュ・メモリの書き換え）の流れ



### 33. 5. 2　ブート・スワップ機能

セルフ・プログラミングにてブート領域の書き換え中に，電源の瞬断などにより書き換えが失敗した場合，ブート領域のデータが壊れて，リセットによるプログラムの再スタートや，再書き込みができなくなります。

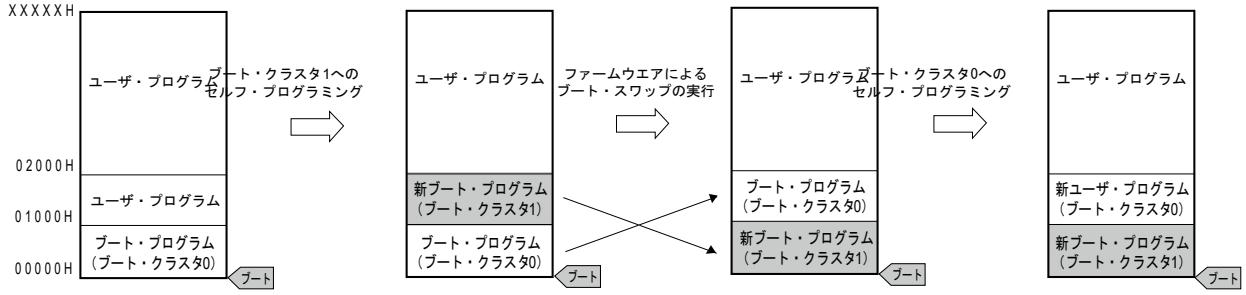
この問題を回避するために，ブート・スワップ機能があります。

セルフ・プログラミングにてブート・プログラム領域であるブート・クラスタ0[注]の消去を行う前に，あらかじめ新しいブート・プログラムをブート・クラスタ1に書き込んでおきます。ブート・クラスタ1への書き込みが正常終了したら，RL78マイクロコントローラ内蔵のファームウエアのセット・インフォメーション機能で，このブート・クラスタ1とブート・クラスタ0をスワップし，ブート・クラスタ1をブート領域にします。このあと，本来の領域であるブート・クラスタ0へ消去や書き込みを行います。

これによって領域の書き換え中に電源瞬断が発生しても，次のリセット・スタートは，スワップ対象のブート・クラスタ1からブートを行うため，正常にプログラムが動作します。

注　ブート・クラスタは4 Kバイトの領域で，ブート・スワップによりブート・クラスタ0とブート・クラスタ1を置換します。

図33－9　ブート・スワップ機能

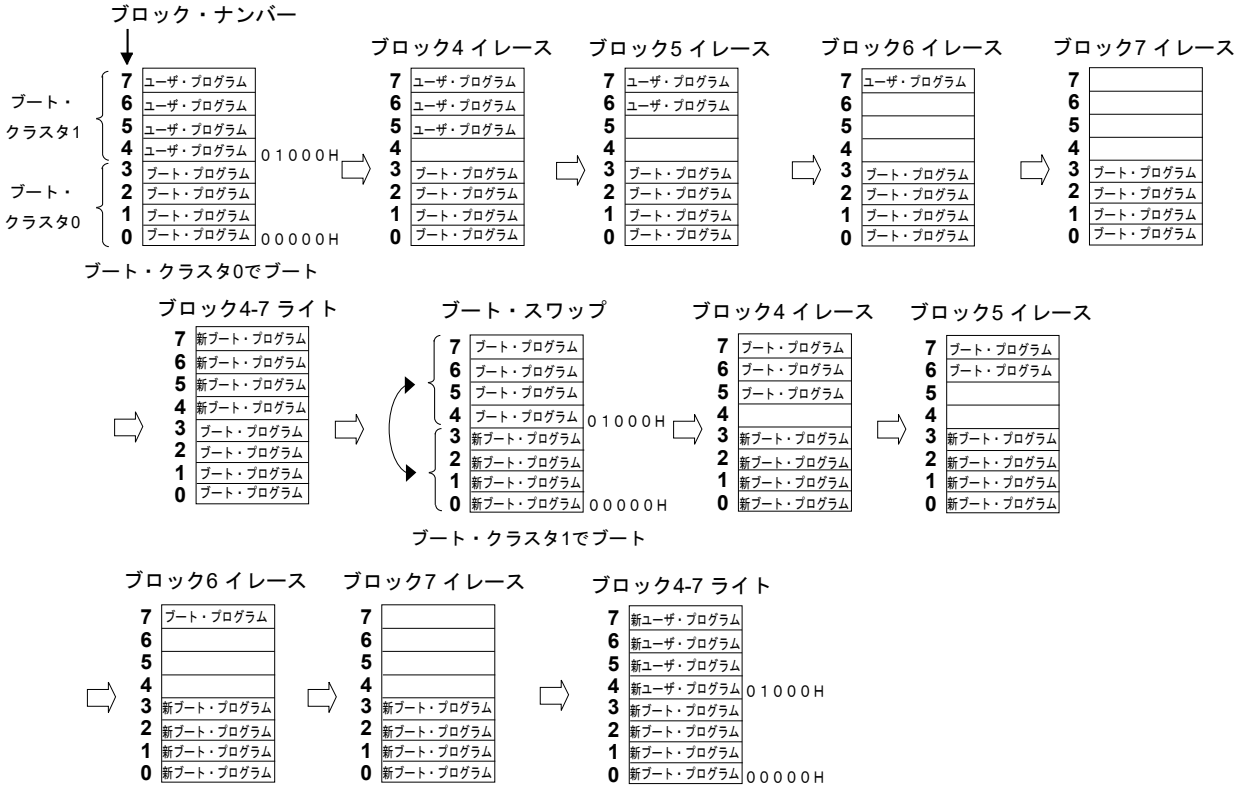



この図の例では，次のようになっています。

ブート・クラスタ0　：ブート・スワップ前のブート領域です。

ブート・クラスタ1　：ブート・スワップ後のブート領域です。

図33－10　ブート・スワップの実行例



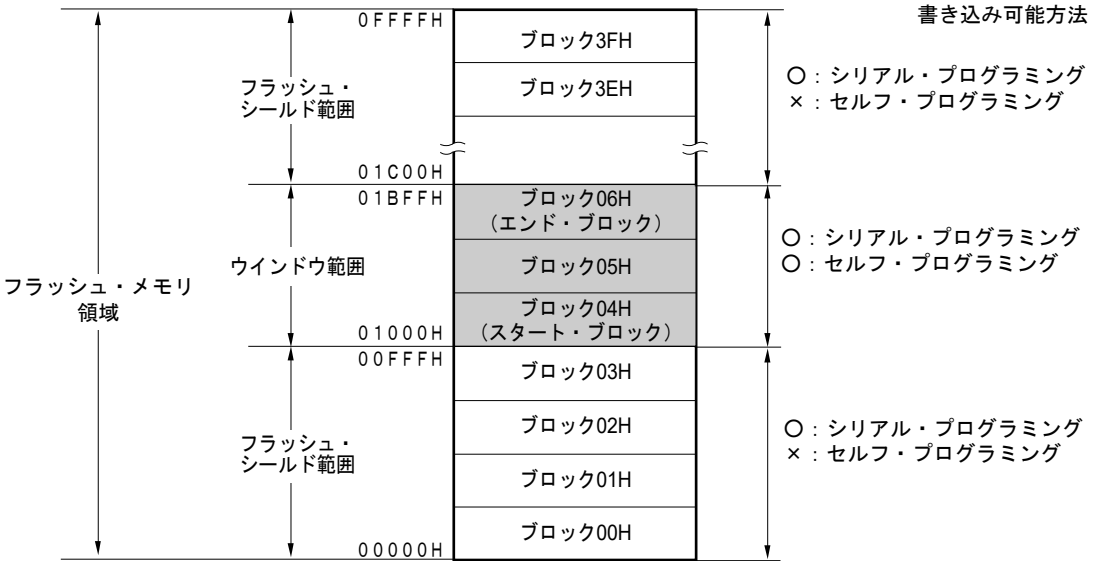
### 33. 5. 3　フラッシュ・シールド・ウインドウ機能

セルフ・プログラミング時のセキュリティ機能の一つとして，フラッシュ・シールド・ウインドウ機能があります。フラッシュ・シールド・ウインドウ機能は，指定したウインドウ範囲以外の書き込みおよび消去を，セルフ・プログラミング時のみ禁止にするセキュリティ機能です。

ウインドウ範囲は，スタート・ブロックとエンド・ブロックを指定することで設定できます。ウインドウ範囲の指定は，シリアル・プログラミングおよびセルフ・プログラミングの両方で設定／変更できます。

ウインドウ範囲以外の領域は，セルフ・プログラミング時には書き込み／消去禁止となります。ただし，シリアル・プログラミング時にはウインドウとして指定した範囲外にも書き込み／消去可能です。

図33－11　フラッシュ・シールド・ウインドウの設定例
（対象デバイス：R5F10MME, R5F10MPE，スタート・ブロック：04H，エンド・ブロック：06Hの場合）




注意　フラッシュ・シールド・ウインドウのウインドウ範囲内にブート・クラスタ0の書き換え禁止領域が重なる場合は，ブート・クラスタ0の書き換え禁止が優先されます。

表33－10　フラッシュ・シールド・ウインドウ機能の設定／変更方法とコマンドの関係

| プログラミング条件 | ウインドウ範囲の設定／変更方法 | 実行コマンド | |
|---|---|---|---|
| | | ブロック消去 | 書き込み |
| セルフ・プログラミング時 | フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリで，ウインドウの先頭ブロック，最終ブロックを指定する | ウインドウ範囲内のみブロック消去できる | ウインドウ範囲内のみ書き込みできる |
| シリアル・プログラミング時 | 専用フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上などで，ウインドウの先頭ブロック，最終ブロックを指定する | ウインドウ範囲外もブロック消去可能 | ウインドウ範囲外も書き込み可能 |

備考　シリアル・プログラミング時の書き込み／消去を禁止したい場合には，33. 6　セキュリティ設定を参照してください。

## 33. 6　セキュリティ設定

RL78マイクロコントローラは，フラッシュ・メモリに書かれたユーザ・プログラムの書き換えを禁止するセキュリティ機能をサポートしており，第三者によるプログラムの改ざん防止などに対応可能となっています。

Security Setコマンドを使用することにより，次の操作をすることができます。

・ブロック消去禁止

シリアル・プログラミング時に，フラッシュ・メモリ内のブロック消去コマンドの実行を禁止します。ただし，セルフ・プログラミング時でのブロック消去は可能です。

・書き込み禁止

シリアル・プログラミング時に，コード・フラッシュ・メモリ内の全ブロックに対しての書き込みコマンドの実行を禁止にします。ただし，セルフ・プログラミング時での書き込みは可能です。

書き込み禁止に設定後，Security Releaseコマンドによる解除はリセットで有効になります。

・ブート・クラスタ0の書き換え禁止

コード・フラッシュ・メモリ内のブート・クラスタ0（00000H-00FFFH）に対して，ブロック消去コマンド，書き込みコマンドの実行を禁止します。

出荷時の初期状態では，ブロック消去／書き込み／ブート・クラスタ0の書き換えはすべて許可になっています。セキュリティは，シリアル・プログラミングおよびセルフ・プログラミングで設定できます。各セキュリティ設定に関しては，同時に組み合わせて使用できます。

RL78マイクロコントローラのセキュリティ機能を有効にした場合の，消去，書き込みコマンドの関係を表33－11に示します。

注意　ただし，フラッシュ・ライタのセキュリティ機能はセルフ・プログラミングに対応していません。

備考　セルフ・プログラミング時の書き込み／消去を禁止したい場合には，フラッシュ・シールド・ウインドウ機能を使います（詳細は33. 5. 3を参照）。

表33－11　セキュリティ機能有効時とコマンドの関係

（1）シリアル・プログラミング時

| 有効なセキュリティ | 実行コマンド | |
|---|---|---|
| | ブロック消去 | 書き込み |
| ブロック消去禁止 | ブロック消去できない | 書き込みできる注 |
| 書き込み禁止 | ブロック消去できる | 書き込みできない |
| ブート・クラスタ0の書き換え禁止 | ブート・クラスタ0は消去できない | ブート・クラスタ0は書き込みできない |

注　書き込み領域に，すでにデータが書き込まれていないことを確認してください。ブロック消去禁止設定後は消去できないため，データが消去されていない場合は，データを書き込まないでください。

（2）セルフ・プログラミング時

| 有効なセキュリティ | 実行コマンド | |
|---|---|---|
| | ブロック消去 | 書き込み |
| ブロック消去禁止 | ブロック消去できる | 書き込みできる |
| 書き込み禁止 | | |
| ブート・クラスタ0の書き換え禁止 | ブート・クラスタ0は消去できない | ブート・クラスタ0は書き込みできない |

備考　セルフ・プログラミング時の書き込み／消去を禁止したい場合には，フラッシュ・シールド・ウインドウ機能を使います（詳細は33. 5. 3を参照）。

表33－12　各プログラミング・モード時のセキュリティ設定方法

（1）シリアル・プログラミング時

| セキュリティ | セキュリティ設定方法 | セキュリティ設定を無効にする方法 |
|---|---|---|
| ブロック消去禁止 | 専用フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上などで設定する | 設定後，無効にできない |
| 書き込み禁止 | | 専用フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上などで設定する |
| ブート・クラスタ0の書き換え禁止 | | 設定後，無効にできない |

注意　“書き込み禁止”設定の解除は，“ブロック消去禁止”，“ブート・クラスタ0の書き換え禁止”に設定されていない状態で，かつコード・フラッシュ領域がブランクの場合でのみ可能です。

（2）セルフ・プログラミング時

| セキュリティ | セキュリティ設定方法 | セキュリティ設定を無効にする方法 |
|---|---|---|
| ブロック消去禁止 | フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリで設定する | 設定後，無効にできない |
| 書き込み禁止 | | セルフ・プログラミングでは無効にできない（シリアル・プログラミング時に，専用フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上などで設定する） |
| ブート・クラスタ0の書き換え禁止 | | 設定後，無効にできない |

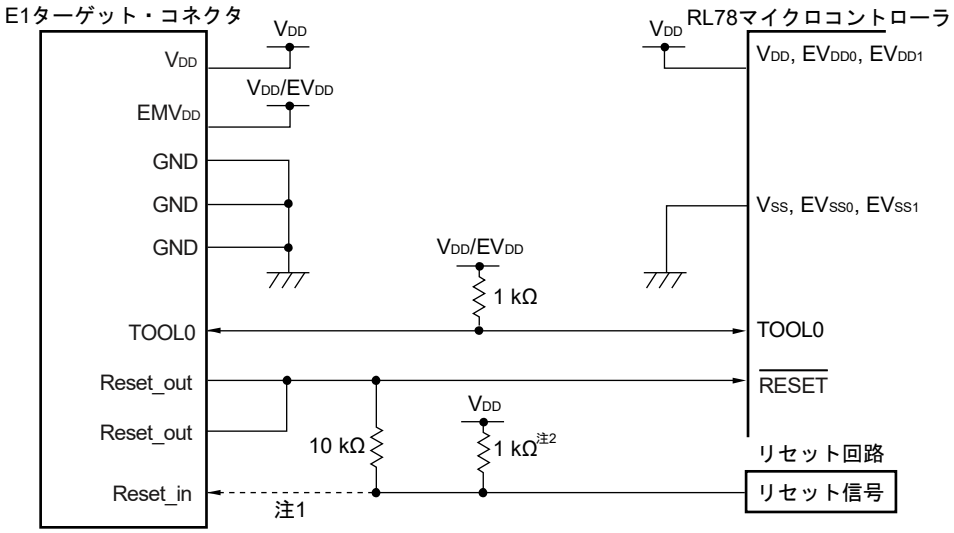
# 第34章　オンチップ・デバッグ機能

## 34. 1　E1オンチップデバッギングエミュレータとの接続

RL78マイクロコントローラは，オンチップ・デバッグ対応のE1オンチップデバッギングエミュレータを介して，ホスト・マシンとの通信を行う場合，$V_{DD}$, $\overline{RESET}$, TOOL0, $V_{SS}$端子を使用します。シリアル通信としては，TOOL0端子を使用した単線UARTを使用します。

注意　RL78マイクロコントローラには開発／評価用にオンチップ・デバッグ機能が搭載されています。オンチップ・デバッグ機能を使用した場合，フラッシュ・メモリの保証書き換え回数を超えてしまう可能性があり，製品の信頼性が保証できませんので，量産用の製品では本機能を使用しないでください。オンチップ・デバッグ機能を使用した製品については，クレーム受け付け対象外となります。
また，バッテリ・バックアップ機能でVBAT端子から給電されている状態では，デバッグ機能が動作しないので注意してください。

図34－1　E1オンチップデバッギングエミュレータとの接続例




注1.　シリアル・プログラミング時，点線部の接続は必要ありません。
　2.　ターゲット・システム上のリセット回路にバッファがなく，抵抗やコンデンサのみでリセット信号を生成する場合，このプルアップは必要ありません。

注意　リセット信号の出力がN-chオープン・ドレインのバッファ（出力抵抗が100Ω以下）を想定した回路例です。

備考　$EV_{DD0}$, $EV_{DD1}$, $EV_{SS0}$, $EV_{SS1}$端子が無い製品は，$EV_{DD0}$と$EV_{DD1}$を$V_{DD}$に，$EV_{SS0}$と$EV_{SS1}$を$V_{SS}$に置き換えてください。

## 34. 2　オンチップ・デバッグ・セキュリティID

RL78マイクロコントローラは，第三者からメモリの内容を読み取られないようにするために，フラッシュ・メモリの000C3Hにオンチップ･デバッグ動作制御ビット（第32章　オプション･バイトを参照）を，000C4H-000CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティID設定領域を用意しています。

セルフ・プログラミング時にブート・スワップ動作を使用する場合は，000C3H，000C4H-000CDHと010C3H，010C4H-010CDHが切り替わるので，あらかじめ010C3H，010C4H-010CDHにも同じ値を設定してください。

表34－1　オンチップ・デバッグ・セキュリティID

| アドレス | オンチップ・デバッグ・セキュリティIDコード |
|---|---|
| 000C4H-000CDH | 10バイトの任意のIDコード |
| 010C4H-010CDH | |

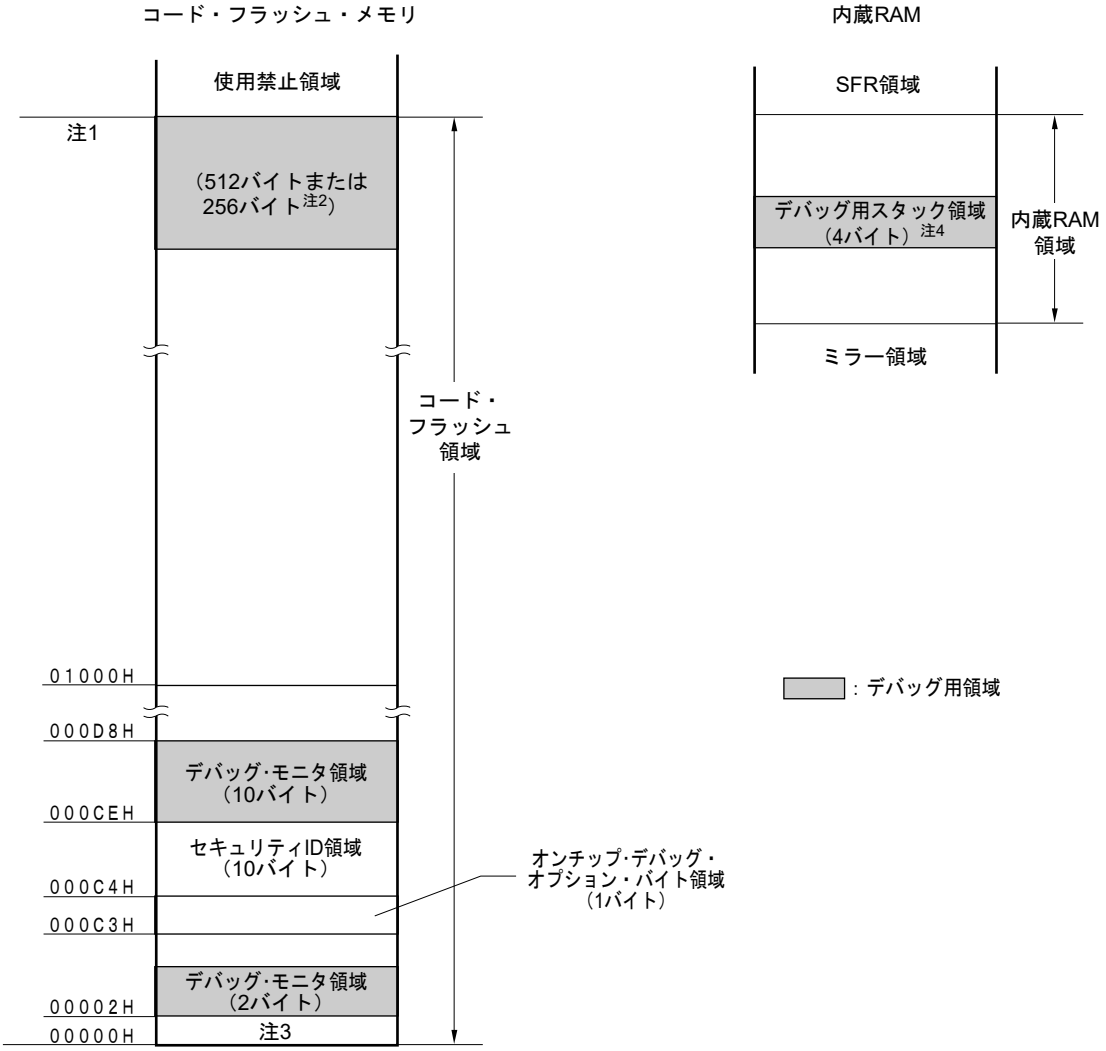
## 34. 3　ユーザ資源の確保

RL78マイクロコントローラとE1オンチップデバッギングエミュレータとの通信，または各デバッグ機能を実現するためには，メモリ空間の確保を事前に行う必要があります。また，当社製アセンブラ，コンパイラを使用している場合は，リンク・オプションで設定することもできます。

（1）メモリ空間の確保

図34－2のグレーで示す領域はデバッグ用のモニタ・プログラムを組み込むために，ユーザ・プログラムやデータを配置できない空間です。オンチップ・デバッグ機能を使用する場合は，この空間を使用しないように領域を確保する必要があります。また，ユーザ・プログラム内でこの空間を書き換えないようにする必要があります。

図34－2　デバッグ用モニタ・プログラムが配置されるメモリ空間




注1.　製品によって，次のようにアドレスが異なります。

| 製品名 | 注1のアドレス |
|---|---|
| R5F10MME, R5F10MPE | 0FFFFH |
| R5F10MMG, R5F10MPG | 1FFFFH |

2.　リアルタイムRAMモニタ（RRM）機能，Dynamic Memory Modification（DMM）機能を使用しない場合は256バイトになります。

3.　デバッグ時，リセット・ベクタはモニタ・プログラムの配置アドレスに書き換えられます。

4.　この領域はスタック領域の直下に配置されるため，スタックの増減によりデバッグ用スタック領域のアドレスも変動します。つまり使用するスタック領域に対し，4バイト余分に消費します。
セルフ・プログラミングを行う場合は，12バイト余分に消費します。

# 第35章　10進補正（BCD）回路

## 35. 1　10進補正回路の機能

BCDコード（2進化10進数）とBCDコード（2進化10進数）の加減算結果を，BCDコード（2進化10進数）で求めることができます。

Aレジスタをオペランドに持つ加減算命令を行ったあと，さらにBCD補正結果レジスタ（BCDADJ）を加減算することで10進補正演算結果が求められます。

## 35. 2　10進補正回路で使用するレジスタ

10進補正回路は，次のレジスタを使用します。

・BCD補正結果レジスタ（BCDADJ）

### 35. 2. 1　BCD補正結果レジスタ（BCDADJ）

BCDADJレジスタには，Aレジスタをオペランドにもつ加減算命令によって，BCDコードで加減算結果を求めるための補正値が格納されます。

また，BCDADJレジスタの読み出し値は，読み出し時のAレジスタとCYフラグおよびACフラグの値によって変わります。

BCDADJレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で読み出します。

リセット信号の発生により，不定になります。

図35－1　BCD補正結果レジスタ（BCDADJ）のフォーマット

アドレス：F00FEH　リセット時：不定　R

| 略号 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| BCDADJ | | | | | | | | |

## 35. 3　10進補正回路の動作

10進補正回路の基本動作を次に示します。

（1）加算　BCDコード値とBCDコード値の加算結果を，BCDコード値で求める

① 加算したいBCDコード値（被加算値）をAレジスタに格納する。

② Aレジスタと第2オペランドの値（もう1つの加算したいBCDコード値，加算値）を，そのまま2進数で加算することにより，2進数での演算結果がAレジスタに格納され，補正値がBCD補正結果レジスタ（BCDADJ）に格納される。

③ Aレジスタ（2進数での加算結果）とBCDADJレジスタの値（補正値）を2進数で加算することにより10進補正演算を行い，AレジスタとCYフラグに補正結果が格納される。

注意　BCDADJレジスタの読み出し値は，読み出し時のAレジスタとCYフラグおよびACフラグの値によって変わります。そのため，②の命令のあとは，他の命令を行わずに③の命令を実施してください。割り込み許可状態でBCD補正を行う場合は，割り込み関数内でAレジスタの退避，復帰が必要となります。PSW（CYフラグ，ACフラグ）は，RETI命令によって復帰されます。

例を次に示します。

例1　99＋89 = 188

| 命　令 | A レジスタ | CY フラグ | AC フラグ | BCDADJ レジスタ |
|---|---|---|---|---|
| MOV　A, #99H　; ① | 99H | － | － | － |
| ADD　A, #89H　; ② | 22H | 1 | 1 | 66H |
| ADD　A, !BCDADJ　; ③ | 88H | 1 | 0 | － |

例2　85＋15 = 100

| 命　令 | A レジスタ | CY フラグ | AC フラグ | BCDADJ レジスタ |
|---|---|---|---|---|
| MOV　A, #85H　; ① | 85H | － | － | － |
| ADD　A, #15H　; ② | 9AH | 0 | 0 | 66H |
| ADD　A, !BCDADJ　; ③ | 00H | 1 | 1 | － |

例3　80＋80 = 160

| 命　令 | A レジスタ | CY フラグ | AC フラグ | BCDADJ レジスタ |
|---|---|---|---|---|
| MOV　A, #80H　; ① | 80H | － | － | － |
| ADD　A, #80H　; ② | 00H | 1 | 0 | 60H |
| ADD　A, !BCDADJ　; ③ | 60H | 1 | 0 | － |

（2）減算　BCDコード値からBCDコード値の減算結果を，BCDコード値で求める

① 減算されるBCDコード値（被減算値）をAレジスタに格納する。

② Aレジスタから第2オペランドの値（減算するBCDコード値，減算値）を，そのまま2進数で減算することにより，2進数での演算結果がAレジスタに格納され，補正値がBCD補正結果レジスタ（BCDADJ）に格納される。

③ Aレジスタ（2進数での減算結果）からBCDADJレジスタの値（補正値）を2進数で減算することにより10進補正演算を行い，AレジスタとCYフラグに補正結果が格納される。

注意　BCDADJレジスタの読み出し値は，読み出し時のAレジスタとCYフラグおよびACフラグの値によって変わります。そのため，②の命令のあとは，他の命令を行わずに③の命令を実施してください。割り込み許可状態でBCD補正を行う場合は，割り込み関数内でAレジスタの退避，復帰が必要となります。PSW（CYフラグ，ACフラグ）は，RETI命令によって復帰されます。

例を次に示します。

例　91－52 = 39

| 命　令 | A レジスタ | CY フラグ | AC フラグ | BCDADJ レジスタ |
|---|---|---|---|---|
| `MOV A, #91H ; ①` | 91H | － | － | － |
| `SUB A, #52H ; ②` | 3FH | 0 | 1 | 06H |
| `SUB A, !BCDADJ ; ③` | 39H | 0 | 0 | － |

# 第36章　命令セットの概要

RL78マイクロコントローラの命令セットを一覧表にして示します。なお，各命令の詳細な動作および機械語（命令コード）については，RL78ファミリ　ユーザーズ・マニュアル　ソフトウェア編（R01US0015）を参照してください。

# 36. 1　凡例

## 36. 1. 1　オペランドの表現形式と記述方法

各命令のオペランド欄には，その命令のオペランド表現形式に対する記述方法に従ってオペランドを記述しています（詳細は，アセンブラ仕様によります）。記述方法の中で複数個あるものは，それらの要素の1つを選択します。大文字で書かれた英字および#，!，!!，$，$!，[ ]，ES:の記号はキーワードであり，そのまま記述します。記号の説明は，次のとおりです。

- #　　：イミーディエト・データ指定
- !　　：16ビット絶対アドレス指定
- !!　　：20ビット絶対アドレス指定
- $　　：8ビット相対アドレス指定
- $!　　：16ビット相対アドレス指定
- [ ]　　：間接アドレス指定
- ES:　　：拡張アドレス指定

イミーディエト・データのときは，適当な数値またはラベルを記述します。ラベルで記述する際も#，!，!!，$，$!，[ ]，ES:記号は必ず記述してください。

また，オペランドのレジスタの記述形式r, rpには，機能名称（X, A, Cなど），絶対名称（表36－1の中のカッコ内の名称，R0, R1, R2など）のいずれの形式でも記述可能です。

表36－1　オペランドの表現形式と記述方法

| 表現形式 | 記述方法 |
|---|---|
| r | X(R0)，A(R1)，C(R2)，B(R3)，E(R4)，D(R5)，L(R6)，H(R7) |
| rp | AX(RP0)，BC(RP1)，DE(RP2)，HL(RP3) |
| sfr | 特殊機能レジスタ略号（SFR略号）FFF00H-FFFFFH |
| sfrp | 特殊機能レジスタ略号（16ビット操作可能なSFR略号。偶数アドレスのみ注）FFF00H-FFFFFH |
| saddr | FFE20H-FFF1FH　イミーディエト・データまたはラベル |
| saddrp | FFE20H-FFF1FH　イミーディエト・データまたはラベル（偶数アドレスのみ注） |
| addr20 | 00000H-FFFFFH　イミーディエト・データまたはラベル |
| addr16 | 0000H-FFFFH　イミーディエト・データまたはラベル<br>（16ビット・データ時は偶数アドレスのみ注） |
| addr5 | 0080H-00BFH　イミーディエト・データまたはラベル（偶数アドレスのみ） |
| word | 16ビット・イミーディエト・データまたはラベル |
| byte | 8ビット・イミーディエト・データまたはラベル |
| bit | 1ビット・イミーディエト・データまたはラベル |
| RBn | RB0-RB3 |

注　奇数アドレスを指定した場合はビット0が“0”になります。

備考　特殊機能レジスタは，オペランドsfrに略号で記述することができます。特殊機能レジスタの略号は表3－5 SFR一覧を参照してください。
拡張特殊機能レジスタは，オペランド !addr16に略号で記述することができます。拡張特殊機能レジスタの略号は表3－6　拡張SFR（2nd SFR）一覧を参照してください。

### 36. 1. 2　オペレーション欄の説明

各命令のオペレーション欄には，その命令実行時の動作を次の記号を用いて表します。

表36－2　オペレーション欄の記号

| 記　　号 | 機　　能 |
|---|---|
| A | Aレジスタ：8ビット・アキュムレータ |
| X | Xレジスタ |
| B | Bレジスタ |
| C | Cレジスタ |
| D | Dレジスタ |
| E | Eレジスタ |
| H | Hレジスタ |
| L | Lレジスタ |
| ES | ESレジスタ |
| CS | CSレジスタ |
| AX | AXレジスタ・ペア：16ビット・アキュムレータ |
| BC | BCレジスタ・ペア |
| DE | DEレジスタ・ペア |
| HL | HLレジスタ・ペア |
| PC | プログラム・カウンタ |
| SP | スタック・ポインタ |
| PSW | プログラム・ステータス・ワード |
| CY | キャリー・フラグ |
| AC | 補助キャリー・フラグ |
| Z | ゼロ・フラグ |
| RBS | レジスタ・バンク選択フラグ |
| IE | 割り込み要求許可フラグ |
| () | () 内のアドレスまたはレジスタの内容で示されるメモリの内容 |
| $X_H$，$X_L$<br>$X_S$，$X_H$，$X_L$ | 16ビット・レジスタの場合は$X_H$ =上位8ビット，$X_L$ =下位8ビット<br>20ビット・レジスタの場合は$X_S$(ビット19-16)，$X_H$(ビット15-8)，$X_L$(ビット7-0) |
| ∧ | 論理積（AND） |
| ∨ | 論理和（OR） |
| ∀ | 排他的論理和（exclusive OR） |
| ― | 反転データ |
| addr5 | 16ビット・イミーディエト・データ（0080H-00BFHの偶数アドレスのみ） |
| addr16 | 16ビット・イミーディエト・データ |
| addr20 | 20ビット・イミーディエト・データ |
| jdisp8 | 符号付き8ビット・データ（ディスプレースメント値） |
| jdisp16 | 符号付き16ビット・データ（ディスプレースメント値） |

### 36. 1. 3　フラグ動作欄の説明

各命令のフラグ欄には，その命令実行時のフラグの変化を下記の記号を用いて表す。

表36－3　フラグ欄の記号

| 記号 | フラグ変化 |
|---|---|
| （ブランク） | 変化なし |
| 0 | 0にクリアされる |
| 1 | 1にセットされる |
| × | 結果にしたがってセット／リセットされる |
| R | 以前に退避した値がリストアされる |

### 36. 1. 4　PREFIX命令

ES:で示される命令は，PREFIX命令コードを頭に付けることで，アクセスできるデータ領域をF0000H-FFFFFHの64 Kバイト空間から，ESレジスタの値を付加した00000H-FFFFFHの1 Mバイト空間に拡張します。PREFIX命令コードは対象となる命令の先頭に付けることで，PREFIX命令コード直後の1命令だけをESレジスタの値を付加したアドレスとして実行します。

なお，PREFIX命令コードと直後の1命令の間に割り込みやDTC転送を受け付けることはありません。

表36－4　PREFIX命令コードの使用例

| 命令 | 命令コード | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| MOV !addr16, #byte | CFH | !addr16 | | #byte | － |
| MOV ES:!addr16, #byte | 11H | CFH | !addr16 | | #byte |
| MOV A, [HL] | 8BH | － | － | － | － |
| MOV A, ES:[HL] | 11H | 8BH | － | － | － |

注意　ESレジスタの値は，PREFIX命令を実行するまでにMOV ES, Aなどで事前に設定しておいてください。

## 36. 2　オペレーション一覧

表36－5　オペレーション一覧（1/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8ビット・データ転送 | MOV | r, #byte | 2 | 1 | － | r ← byte | | | |
| | | PSW, #byte | 3 | 3 | － | PSW ← byte | × | × | × |
| | | CS, #byte | 3 | 1 | － | CS ← byte | | | |
| | | ES, #byte | 2 | 1 | － | ES ← byte | | | |
| | | !addr16, #byte | 4 | 1 | － | (addr16) ← byte | | | |
| | | ES:!addr16, #byte | 5 | 2 | － | (ES, addr16) ← byte | | | |
| | | saddr, #byte | 3 | 1 | － | (saddr) ← byte | | | |
| | | sfr, #byte | 3 | 1 | － | sfr ← byte | | | |
| | | [DE+byte], #byte | 3 | 1 | － | (DE＋byte) ← byte | | | |
| | | ES:[DE+byte],#byte | 4 | 2 | － | ((ES, DE)＋byte) ← byte | | | |
| | | [HL+byte], #byte | 3 | 1 | － | (HL＋byte) ← byte | | | |
| | | ES:[HL+byte],#byte | 4 | 2 | － | ((ES, HL)＋byte) ← byte | | | |
| | | [SP+byte], #byte | 3 | 1 | － | (SP＋byte) ← byte | | | |
| | | word[B], #byte | 4 | 1 | － | (B＋word) ← byte | | | |
| | | ES:word[B], #byte | 5 | 2 | － | ((ES, B)＋word) ← byte | | | |
| | | word[C], #byte | 4 | 1 | － | (C＋word) ← byte | | | |
| | | ES:word[C], #byte | 5 | 2 | － | ((ES, C)＋word) ← byte | | | |
| | | word[BC], #byte | 4 | 1 | － | (BC＋word) ← byte | | | |
| | | ES:word[BC], #byte | 5 | 2 | － | ((ES, BC)＋word) ← byte | | | |
| | | A, r 注3 | 1 | 1 | － | A ← r | | | |
| | | r, A 注3 | 1 | 1 | － | r ← A | | | |
| | | A, PSW | 2 | 1 | － | A ← PSW | | | |
| | | PSW, A | 2 | 3 | － | PSW ← A | × | × | × |
| | | A, CS | 2 | 1 | － | A ← CS | | | |
| | | CS, A | 2 | 1 | － | CS ← A | | | |
| | | A, ES | 2 | 1 | － | A ← ES | | | |
| | | ES, A | 2 | 1 | － | ES ← A | | | |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A ← (addr16) | | | |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A ← (ES, addr16) | | | |
| | | !addr16, A | 3 | 1 | － | (addr16) ← A | | | |
| | | ES:!addr16, A | 4 | 2 | － | (ES, addr16) ← A | | | |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A ← (saddr) | | | |
| | | saddr, A | 2 | 1 | － | (saddr) ← A | | | |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　r = Aを除く。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（2/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック | | オペレーション | フラグ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 注1 | 注2 | | Z　AC　CY |
| 8ビット・データ転送 | MOV | A, sfr | 2 | 1 | － | A ← sfr | |
| | | sfr, A | 2 | 1 | － | sfr ← A | |
| | | A, [DE] | 1 | 1 | 4 | A ← (DE) | |
| | | [DE], A | 1 | 1 | － | (DE) ← A | |
| | | A, ES:[DE] | 2 | 2 | 5 | A ← (ES, DE) | |
| | | ES:[DE], A | 2 | 2 | － | (ES, DE) ← A | |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A ← (HL) | |
| | | [HL], A | 1 | 1 | － | (HL) ← A | |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A ← (ES, HL) | |
| | | ES:[HL], A | 2 | 2 | － | (ES, HL) ← A | |
| | | A, [DE+byte] | 2 | 1 | 4 | A ← (DE＋byte) | |
| | | [DE+byte], A | 2 | 1 | － | (DE＋byte) ← A | |
| | | A, ES:[DE+byte] | 3 | 2 | 5 | A ← ((ES, DE)＋byte) | |
| | | ES:[DE+byte], A | 3 | 2 | － | ((ES, DE)＋byte) ← A | |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A ← (HL＋byte) | |
| | | [HL+byte], A | 2 | 1 | － | (HL＋byte) ← A | |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A ← ((ES, HL)＋byte) | |
| | | ES:[HL+byte], A | 3 | 2 | － | ((ES, HL)＋byte) ← A | |
| | | A, [SP+byte] | 2 | 1 | － | A ← (SP＋byte) | |
| | | [SP+byte], A | 2 | 1 | － | (SP＋byte) ← A | |
| | | A, word[B] | 3 | 1 | 4 | A ← (B＋word) | |
| | | word[B], A | 3 | 1 | － | (B＋word) ← A | |
| | | A, ES:word[B] | 4 | 2 | 5 | A ← ((ES, B)＋word) | |
| | | ES:word[B], A | 4 | 2 | － | ((ES, B)＋word) ← A | |
| | | A, word[C] | 3 | 1 | 4 | A ← (C＋word) | |
| | | word[C], A | 3 | 1 | － | (C＋word) ← A | |
| | | A, ES:word[C] | 4 | 2 | 5 | A ← ((ES, C)＋word) | |
| | | ES:word[C], A | 4 | 2 | － | ((ES, C)＋word) ← A | |
| | | A, word[BC] | 3 | 1 | 4 | A ← (BC＋word) | |
| | | word[BC], A | 3 | 1 | － | (BC＋word) ← A | |
| | | A, ES:word[BC] | 4 | 2 | 5 | A ← ((ES, BC)＋word) | |
| | | ES:word[BC], A | 4 | 2 | － | ((ES, BC)＋word) ← A | |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（3/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z AC CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8ビット・データ転送 | MOV | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A ← (HL＋B) | |
| | | [HL+B], A | 2 | 1 | － | (HL＋B) ← A | |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A ← ((ES, HL)＋B) | |
| | | ES:[HL+B], A | 3 | 2 | － | ((ES, HL)＋B) ← A | |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A ← (HL＋C) | |
| | | [HL+C], A | 2 | 1 | － | (HL＋C) ← A | |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A ← ((ES, HL)＋C) | |
| | | ES:[HL+C], A | 3 | 2 | － | ((ES, HL)＋C) ← A | |
| | | X, !addr16 | 3 | 1 | 4 | X ← (addr16) | |
| | | X, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | X ← (ES, addr16) | |
| | | X, saddr | 2 | 1 | － | X ← (saddr) | |
| | | B, !addr16 | 3 | 1 | 4 | B ← (addr16) | |
| | | B, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | B ← (ES, addr16) | |
| | | B, saddr | 2 | 1 | － | B ← (saddr) | |
| | | C, !addr16 | 3 | 1 | 4 | C ← (addr16) | |
| | | C, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | C ← (ES, addr16) | |
| | | C, saddr | 2 | 1 | － | C ← (saddr) | |
| | | ES, saddr | 3 | 1 | － | ES ← (saddr) | |
| | XCH | A, r 注3 | 1 (r＝X)<br>2 (r＝X以外) | 1 | － | A ⟷ r | |
| | | A, !addr16 | 4 | 2 | － | A ⟷ (addr16) | |
| | | A, ES:!addr16 | 5 | 3 | － | A ⟷ (ES, addr16) | |
| | | A, saddr | 3 | 2 | － | A ⟷ (saddr) | |
| | | A, sfr | 3 | 2 | － | A ⟷ sfr | |
| | | A, [DE] | 2 | 2 | － | A ⟷ (DE) | |
| | | A, ES:[DE] | 3 | 3 | － | A ⟷ (ES, DE) | |
| | | A, [HL] | 2 | 2 | － | A ⟷ (HL) | |
| | | A, ES:[HL] | 3 | 3 | － | A ⟷ (ES, HL) | |
| | | A, [DE+byte] | 3 | 2 | － | A ⟷ (DE＋byte) | |
| | | A, ES:[DE+byte] | 4 | 3 | － | A ⟷ ((ES, DE)＋byte) | |
| | | A, [HL+byte] | 3 | 2 | － | A ⟷ (HL＋byte) | |
| | | A, ES:[HL+byte] | 4 | 3 | － | A ⟷ ((ES, HL)＋byte) | |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　r = Aを除く。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（4/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8ビット・データ転送 | XCH | A, [HL+B] | 2 | 2 | － | A ⟷ (HL＋B) | | | |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 3 | － | A ⟷ ((ES, HL)＋B) | | | |
| | | A, [HL+C] | 2 | 2 | － | A ⟷ (HL＋C) | | | |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 3 | － | A ⟷ ((ES, HL)＋C) | | | |
| | ONEB | A | 1 | 1 | － | A ← 01H | | | |
| | | X | 1 | 1 | － | X ← 01H | | | |
| | | B | 1 | 1 | － | B ← 01H | | | |
| | | C | 1 | 1 | － | C ← 01H | | | |
| | | !addr16 | 3 | 1 | － | (addr16) ← 01H | | | |
| | | ES:!addr16 | 4 | 2 | － | (ES, addr16) ← 01H | | | |
| | | saddr | 2 | 1 | － | (saddr) ← 01H | | | |
| | CLRB | A | 1 | 1 | － | A ← 00H | | | |
| | | X | 1 | 1 | － | X ← 00H | | | |
| | | B | 1 | 1 | － | B ← 00H | | | |
| | | C | 1 | 1 | － | C ← 00H | | | |
| | | !addr16 | 3 | 1 | － | (addr16) ← 00H | | | |
| | | ES:!addr16 | 4 | 2 | － | (ES,addr16) ← 00H | | | |
| | | saddr | 2 | 1 | － | (saddr) ← 00H | | | |
| | MOVS | [HL+byte], X | 3 | 1 | － | (HL＋byte) ← X | × | | × |
| | | ES:[HL+byte], X | 4 | 2 | － | (ES, HL＋byte) ← X | × | | × |
| 16ビット・データ転送 | MOVW | rp, #word | 3 | 1 | － | rp ← word | | | |
| | | saddrp, #word | 4 | 1 | － | (saddrp) ← word | | | |
| | | sfrp, #word | 4 | 1 | － | sfrp ← word | | | |
| | | AX, rp 注3 | 1 | 1 | － | AX ← rp | | | |
| | | rp, AX 注3 | 1 | 1 | － | rp ← AX | | | |
| | | AX, !addr16 | 3 | 1 | 4 | AX ←（addr16） | | | |
| | | !addr16, AX | 3 | 1 | － | （addr16）← AX | | | |
| | | AX, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | AX ← (ES, addr16) | | | |
| | | ES:!addr16, AX | 4 | 2 | － | (ES, addr16) ← AX | | | |
| | | AX, saddrp | 2 | 1 | － | AX ← (saddrp) | | | |
| | | saddrp, AX | 2 | 1 | － | (saddrp) ← AX | | | |
| | | AX, sfrp | 2 | 1 | － | AX ← sfrp | | | |
| | | sfrp, AX | 2 | 1 | － | sfrp ← AX | | | |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしない命令のとき。CPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　rp = AXを除く。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（5/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16ビット・データ転送 | MOVW | AX, [DE] | 1 | 1 | 4 | AX ← (DE) | | | |
| | | [DE], AX | 1 | 1 | － | (DE) ← AX | | | |
| | | AX, ES:[DE] | 2 | 2 | 5 | AX ← (ES, DE) | | | |
| | | ES:[DE], AX | 2 | 2 | － | (ES, DE) ← AX | | | |
| | | AX, [HL] | 1 | 1 | 4 | AX ← (HL) | | | |
| | | [HL], AX | 1 | 1 | － | (HL) ← AX | | | |
| | | AX, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | AX ← (ES, HL) | | | |
| | | ES:[HL], AX | 2 | 2 | － | (ES, HL) ← AX | | | |
| | | AX, [DE+byte] | 2 | 1 | 4 | AX ← (DE＋byte) | | | |
| | | [DE+byte], AX | 2 | 1 | － | (DE＋byte) ← AX | | | |
| | | AX, ES:[DE+byte] | 3 | 2 | 5 | AX ← ((ES, DE)＋byte) | | | |
| | | ES:[DE+byte], AX | 3 | 2 | － | ((ES, DE)＋byte) ← AX | | | |
| | | AX, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | AX ← (HL＋byte) | | | |
| | | [HL+byte], AX | 2 | 1 | － | (HL＋byte) ← AX | | | |
| | | AX, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | AX ← ((ES, HL)＋byte) | | | |
| | | ES:[HL+byte], AX | 3 | 2 | － | ((ES, HL)＋byte) ← AX | | | |
| | | AX, [SP+byte] | 2 | 1 | － | AX ← (SP＋byte) | | | |
| | | [SP+byte], AX | 2 | 1 | － | (SP＋byte) ← AX | | | |
| | | AX, word[B] | 3 | 1 | 4 | AX ← (B＋word) | | | |
| | | word[B], AX | 3 | 1 | － | (B＋word) ← AX | | | |
| | | AX, ES:word[B] | 4 | 2 | 5 | AX ← ((ES, B)＋word) | | | |
| | | ES:word[B], AX | 4 | 2 | － | ((ES, B)＋word) ← AX | | | |
| | | AX, word[C] | 3 | 1 | 4 | AX ← (C＋word) | | | |
| | | word[C], AX | 3 | 1 | － | (C＋word) ← AX | | | |
| | | AX, ES:word[C] | 4 | 2 | 5 | AX ← ((ES, C)＋word) | | | |
| | | ES:word[C], AX | 4 | 2 | － | ((ES, C)＋word) ← AX | | | |
| | | AX, word[BC] | 3 | 1 | 4 | AX ← (BC＋word) | | | |
| | | word[BC], AX | 3 | 1 | － | (BC＋word) ← AX | | | |
| | | AX, ES:word[BC] | 4 | 2 | 5 | AX ← ((ES, BC)＋word) | | | |
| | | ES:word[BC], AX | 4 | 2 | － | ((ES, BC)＋word) ← AX | | | |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（6/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16ビット・データ転送 | MOVW | BC, !addr16 | 3 | 1 | 4 | BC ← (addr16) | | | |
| | | BC, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | BC ← (ES, addr16) | | | |
| | | DE, !addr16 | 3 | 1 | 4 | DE ← (addr16) | | | |
| | | DE, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | DE ← (ES, addr16) | | | |
| | | HL, !addr16 | 3 | 1 | 4 | HL ← (addr16) | | | |
| | | HL, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | HL ← (ES, addr16) | | | |
| | | BC, saddrp | 2 | 1 | － | BC ← (saddrp) | | | |
| | | DE, saddrp | 2 | 1 | － | DE ← (saddrp) | | | |
| | | HL, saddrp | 2 | 1 | － | HL ← (saddrp) | | | |
| | XCHW | AX, rp 注3 | 1 | 1 | － | AX ←→ rp | | | |
| | ONEW | AX | 1 | 1 | － | AX ← 0001H | | | |
| | | BC | 1 | 1 | － | BC ← 0001H | | | |
| | CLRW | AX | 1 | 1 | － | AX ← 0000H | | | |
| | | BC | 1 | 1 | － | BC ← 0000H | | | |
| 8ビット演算 | ADD | A, #byte | 2 | 1 | － | A, CY ← A＋byte | × | × | × |
| | | saddr, #byte | 3 | 2 | － | (saddr), CY ← (saddr)＋byte | × | × | × |
| | | A, r 注4 | 2 | 1 | － | A, CY ← A＋r | × | × | × |
| | | r, A | 2 | 1 | － | r, CY ← r＋A | × | × | × |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(addr16) | × | × | × |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A, CY ← A＋(ES, addr16) | × | × | × |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A, CY ← A＋(saddr) | × | × | × |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(HL) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A,CY ← A＋(ES, HL) | × | × | × |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(HL＋byte) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A＋((ES, HL)＋byte) | × | × | × |
| | | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(HL＋B) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A＋((ES, HL)＋B) | × | × | × |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(HL＋C) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A＋((ES, HL)＋C) | × | × | × |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　rp = AXを除く。

4.　r = Aを除く。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（7/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8ビット演算 | ADDC | A, #byte | 2 | 1 | － | A, CY ← A＋byte＋CY | × | × | × |
| | | saddr, #byte | 3 | 2 | － | (saddr), CY ← (saddr)＋byte＋CY | × | × | × |
| | | A, r 注3 | 2 | 1 | － | A, CY ← A＋r＋CY | × | × | × |
| | | r, A | 2 | 1 | － | r, CY ← r＋A＋CY | × | × | × |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(addr16)＋CY | × | × | × |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A, CY ← A＋(ES, addr16)＋CY | × | × | × |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A, CY ← A＋(saddr)＋CY | × | × | × |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(HL)＋CY | × | × | × |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A,CY ← A＋(ES, HL)＋CY | × | × | × |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(HL＋byte)＋CY | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A＋((ES, HL)＋byte)＋CY | × | × | × |
| | | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(HL＋B)＋CY | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A＋((ES, HL)＋B)＋CY | × | × | × |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A＋(HL＋C)＋CY | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A＋((ES, HL)＋C)＋CY | × | × | × |
| | SUB | A, #byte | 2 | 1 | － | A, CY ← A－byte | × | × | × |
| | | saddr, #byte | 3 | 2 | － | (saddr), CY ← (saddr) －byte | × | × | × |
| | | A, r 注3 | 2 | 1 | － | A, CY ← A－r | × | × | × |
| | | r, A | 2 | 1 | － | r, CY ← r－A | × | × | × |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A, CY ← A－(addr16) | × | × | × |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A, CY ← A－(ES, addr16) | × | × | × |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A, CY ← A－(saddr) | × | × | × |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A, CY ← A－(HL) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A,CY ← A－(ES, HL) | × | × | × |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A－(HL＋byte) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A－((ES, HL)＋byte) | × | × | × |
| | | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A－(HL＋B) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A－((ES, HL)＋B) | × | × | × |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A－(HL＋C) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A－((ES, HL)＋C) | × | × | × |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　r = Aを除く。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（8/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8ビット演算 | SUBC | A, #byte | 2 | 1 | － | A, CY ← A－byte－CY | × | × | × |
| | | saddr, #byte | 3 | 2 | － | (saddr), CY ← (saddr)－byte－CY | × | × | × |
| | | A, r 注3 | 2 | 1 | － | A, CY ← A－r－CY | × | × | × |
| | | r, A | 2 | 1 | － | r, CY ← r－A－CY | × | × | × |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A, CY ← A－(addr16)－CY | × | × | × |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A, CY ← A－(ES, addr16)－CY | × | × | × |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A, CY ← A－(saddr)－CY | × | × | × |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A, CY ← A－(HL)－CY | × | × | × |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A,CY ← A－(ES, HL)－CY | × | × | × |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A－(HL＋byte)－CY | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A－((ES, HL)＋byte)－CY | × | × | × |
| | | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A－(HL＋B)－CY | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A,CY ← A－((ES, HL)＋B)－CY | × | × | × |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A, CY ← A－(HL＋C)－CY | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A, CY ← A－((ES:HL)＋C)－CY | × | × | × |
| | AND | A, #byte | 2 | 1 | － | A ← A∧byte | × | | |
| | | saddr, #byte | 3 | 2 | － | (saddr) ← (saddr)∧byte | × | | |
| | | A, r 注3 | 2 | 1 | － | A ← A∧r | × | | |
| | | r, A | 2 | 1 | － | r ← r∧A | × | | |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A ← A∧(addr16) | × | | |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A ← A∧(ES:addr16) | × | | |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A ← A∧(saddr) | × | | |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A ← A∧(HL) | × | | |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A ← A∧(ES:HL) | × | | |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A ← A∧(HL＋byte) | × | | |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A ← A∧((ES:HL)＋byte) | × | | |
| | | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A ← A∧(HL＋B) | × | | |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A ← A∧((ES:HL)＋B) | × | | |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A ← A∧(HL＋C) | × | | |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A ← A∧((ES:HL)＋C) | × | | |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　r = Aを除く。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（9/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z AC CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8ビット演算 | OR | A, #byte | 2 | 1 | － | A ← A∨byte | × |
| | | saddr, #byte | 3 | 2 | － | (saddr) ← (saddr) ∨byte | × |
| | | A, r 注3 | 2 | 1 | － | A ← A∨r | × |
| | | r, A | 2 | 1 | － | r ← r∨A | × |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A ← A∨(addr16) | × |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A ← A∨(ES:addr16) | × |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A ← A∨(saddr) | × |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A ← A∨(HL) | × |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A ← A∨(ES:HL) | × |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A ← A∨(HL＋byte) | × |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A ← A∨((ES:HL)＋byte) | × |
| | | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A ← A∨(HL＋B) | × |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A ← A∨((ES:HL)＋B) | × |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A ← A∨(HL＋C) | × |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A ← A∨((ES:HL)＋C) | × |
| | XOR | A, #byte | 2 | 1 | － | A ← A∀byte | × |
| | | saddr, #byte | 3 | 2 | － | (saddr) ← (saddr)∀byte | × |
| | | A, r 注3 | 2 | 1 | － | A ← A∀r | × |
| | | r, A | 2 | 1 | － | r ← r∀A | × |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A ← A∀(addr16) | × |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A ← A∀(ES:addr16) | × |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A ← A∀(saddr) | × |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A ← A∀(HL) | × |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A ← A∀(ES:HL) | × |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A ← A∀(HL＋byte) | × |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A ← A∀((ES:HL)＋byte) | × |
| | | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A ← A∀(HL＋B) | × |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A ← A∀((ES:HL)＋B) | × |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A ← A∀(HL＋C) | × |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A ← A∀((ES:HL)＋C) | × |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　r = Aを除く。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（10/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8ビット演算 | CMP | A, #byte | 2 | 1 | － | A－byte | × | × | × |
| | | !addr16, #byte | 4 | 1 | 4 | (addr16)－byte | × | × | × |
| | | ES:!addr16, #byte | 5 | 2 | 5 | (ES:addr16)－byte | × | × | × |
| | | saddr, #byte | 3 | 1 | － | (saddr)－byte | × | × | × |
| | | A, r 注3 | 2 | 1 | － | A－r | × | × | × |
| | | r, A | 2 | 1 | － | r－A | × | × | × |
| | | A, !addr16 | 3 | 1 | 4 | A－(addr16) | × | × | × |
| | | A, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | A－(ES:addr16) | × | × | × |
| | | A, saddr | 2 | 1 | － | A－(saddr) | × | × | × |
| | | A, [HL] | 1 | 1 | 4 | A－(HL) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL] | 2 | 2 | 5 | A－(ES:HL) | × | × | × |
| | | A, [HL+byte] | 2 | 1 | 4 | A－(HL＋byte) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+byte] | 3 | 2 | 5 | A－((ES:HL)＋byte) | × | × | × |
| | | A, [HL+B] | 2 | 1 | 4 | A－(HL＋B) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+B] | 3 | 2 | 5 | A－((ES:HL)＋B) | × | × | × |
| | | A, [HL+C] | 2 | 1 | 4 | A－(HL＋C) | × | × | × |
| | | A, ES:[HL+C] | 3 | 2 | 5 | A－((ES:HL)＋C) | × | × | × |
| | CMP0 | A | 1 | 1 | － | A－00H | × | 0 | 0 |
| | | X | 1 | 1 | － | X－00H | × | 0 | 0 |
| | | B | 1 | 1 | － | B－00H | × | 0 | 0 |
| | | C | 1 | 1 | － | C－00H | × | 0 | 0 |
| | | !addr16 | 3 | 1 | 4 | (addr16)－00H | × | 0 | 0 |
| | | ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | (ES:addr16)－00H | × | 0 | 0 |
| | | saddr | 2 | 1 | － | (saddr)－00H | × | 0 | 0 |
| | CMPS | X, [HL+byte] | 3 | 1 | 4 | X－(HL＋byte) | × | × | × |
| | | X, ES:[HL+byte] | 4 | 2 | 5 | X－((ES:HL)＋byte) | × | × | × |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　r = Aを除く。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（11/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16ビット演算 | ADDW | AX, #word | 3 | 1 | － | AX, CY ← AX＋word | × | × | × |
| | | AX, AX | 1 | 1 | － | AX, CY ← AX＋AX | × | × | × |
| | | AX, BC | 1 | 1 | － | AX, CY ← AX＋BC | × | × | × |
| | | AX, DE | 1 | 1 | － | AX, CY ← AX＋DE | × | × | × |
| | | AX, HL | 1 | 1 | － | AX, CY ← AX＋HL | × | × | × |
| | | AX, !addr16 | 3 | 1 | 4 | AX, CY ← AX＋(addr16) | × | × | × |
| | | AX, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | AX, CY ← AX＋(ES:addr16) | × | × | × |
| | | AX, saddrp | 2 | 1 | － | AX, CY ← AX＋(saddrp) | × | × | × |
| | | AX, [HL+byte] | 3 | 1 | 4 | AX, CY ← AX＋(HL＋byte) | × | × | × |
| | | AX, ES: [HL+byte] | 4 | 2 | 5 | AX, CY ← AX＋((ES:HL)＋byte) | × | × | × |
| | SUBW | AX, #word | 3 | 1 | － | AX, CY ← AX－word | × | × | × |
| | | AX, BC | 1 | 1 | － | AX, CY ← AX－BC | × | × | × |
| | | AX, DE | 1 | 1 | － | AX, CY ← AX－DE | × | × | × |
| | | AX, HL | 1 | 1 | － | AX, CY ← AX－HL | × | × | × |
| | | AX, !addr16 | 3 | 1 | 4 | AX, CY ← AX－(addr16) | × | × | × |
| | | AX, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | AX, CY ← AX－(ES:addr16) | × | × | × |
| | | AX, saddrp | 2 | 1 | － | AX, CY ← AX－(saddrp) | × | × | × |
| | | AX, [HL+byte] | 3 | 1 | 4 | AX, CY ← AX－(HL＋byte) | × | × | × |
| | | AX, ES: [HL+byte] | 4 | 2 | 5 | AX, CY ← AX－((ES:HL)＋byte) | × | × | × |
| | CMPW | AX, #word | 3 | 1 | － | AX－word | × | × | × |
| | | AX, BC | 1 | 1 | － | AX－BC | × | × | × |
| | | AX, DE | 1 | 1 | － | AX－DE | × | × | × |
| | | AX, HL | 1 | 1 | － | AX－HL | × | × | × |
| | | AX, !addr16 | 3 | 1 | 4 | AX－(addr16) | × | × | × |
| | | AX, ES:!addr16 | 4 | 2 | 5 | AX－(ES:addr16) | × | × | × |
| | | AX, saddrp | 2 | 1 | － | AX－(saddrp) | × | × | × |
| | | AX, [HL+byte] | 3 | 1 | 4 | AX－(HL＋byte) | × | × | × |
| | | AX, ES: [HL+byte] | 4 | 2 | 5 | AX－((ES:HL)＋byte) | × | × | × |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（12/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 乗除積和算 | MULU | X | 1 | 1 | － | AX ← A×X | | | |
| | MULHU | | 3 | 2 | － | BCAX ← A X×BC（符号なし） | | | |
| | MULH | | 3 | 2 | － | BCAX ← A X×BC（符号付き） | | | |
| | DIVHU | | 3 | 9 | － | AX（商），DE（余り） ← AX÷DE（符号なし） | | | |
| | DIVWU | | 3 | 17 | － | BCAX（商），HLDE（余り）<br>← BCAX÷HLDE（符号なし） | | | |
| | MACHU | | 3 | 3 | － | MACR ← MACR＋AX×BC（符号なし） | | × | × |
| | MACH | | 3 | 3 | － | MACR ← MACR＋AX×BC（符号付き） | | × | × |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

**注意　割り込み処理中にDIVHU，DIVWU命令を実行する場合，割り込み禁止状態(DI)で実行してください。**
**ただし，RAM領域での命令実行を除き，アセンブリ言語ソースにてDIVHU，DIVWU命令の直後にNOP命令を追加した場合は，割り込み許可状態でもDIVHU，DIVWU命令を実行することができます。下記のコンパイラはビルド時にDIVHU，DIVWU命令が出力される場合，その直後に自動でNOP命令が挿入されます。**

- **CA78K0R (ルネサスエレクトロニクス社コンパイラ製品)V1.71以降のC言語ソースおよびアセンブリ言語ソース**
- **EWRL78 (IAR社コンパイラ製品) Service pack 1.40.6以降のC言語ソース**
- **GNURL78 (KPIT社コンパイラ)のC言語ソース**

備考1.　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

2.　MACR：積和演算累計レジスタ（MACRH, MACRL）

表36－5　オペレーション一覧（13/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 増減 | INC | r | 1 | 1 | － | r ← r＋1 | × | × | |
| | | !addr16 | 3 | 2 | － | (addr16) ← (addr16)＋1 | × | × | |
| | | ES:!addr16 | 4 | 3 | － | (ES, addr16) ← (ES, addr16)＋1 | × | × | |
| | | saddr | 2 | 2 | － | (saddr) ← (saddr)＋1 | × | × | |
| | | [HL+byte] | 3 | 2 | － | (HL＋byte) ← (HL＋byte)＋1 | × | × | |
| | | ES: [HL+byte] | 4 | 3 | － | ((ES:HL)＋byte) ← ((ES:HL)＋byte)＋1 | × | × | |
| | DEC | r | 1 | 1 | － | r ← r－1 | × | × | |
| | | !addr16 | 3 | 2 | － | (addr16) ← (addr16)－1 | × | × | |
| | | ES:!addr16 | 4 | 3 | － | (ES, addr16) ← (ES, addr16) －1 | × | × | |
| | | saddr | 2 | 2 | － | (saddr) ← (saddr)－1 | × | × | |
| | | [HL+byte] | 3 | 2 | － | (HL＋byte) ← (HL＋byte) －1 | × | × | |
| | | ES: [HL+byte] | 4 | 3 | － | ((ES:HL)＋byte) ← ((ES:HL)＋byte) －1 | × | × | |
| | INCW | rp | 1 | 1 | － | rp ← rp＋1 | | | |
| | | !addr16 | 3 | 2 | － | (addr16) ← (addr16)＋1 | | | |
| | | ES:!addr16 | 4 | 3 | － | (ES, addr16) ← (ES, addr16)＋1 | | | |
| | | saddrp | 2 | 2 | － | (saddrp) ← (saddrp)＋1 | | | |
| | | [HL+byte] | 3 | 2 | － | (HL＋byte) ← (HL＋byte)＋1 | | | |
| | | ES: [HL+byte] | 4 | 3 | － | ((ES:HL)＋byte) ← ((ES:HL)＋byte)＋1 | | | |
| | DECW | rp | 1 | 1 | － | rp ← rp－1 | | | |
| | | !addr16 | 3 | 2 | － | (addr16) ← (addr16)－1 | | | |
| | | ES:!addr16 | 4 | 3 | － | (ES, addr16) ← (ES, addr16)－1 | | | |
| | | saddrp | 2 | 2 | － | (saddrp) ← (saddrp)－1 | | | |
| | | [HL+byte] | 3 | 2 | － | (HL＋byte) ← (HL＋byte) －1 | | | |
| | | ES: [HL+byte] | 4 | 3 | － | ((ES:HL)＋byte) ← ((ES:HL)＋byte) －1 | | | |
| シフト | SHR | A, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $A_0$, $A_{m-1}$ ← $A_m$, $A_7$ ← 0) ×cnt | | × | |
| | SHRW | AX, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $AX_0$, $AX_{m-1}$ ← $AX_m$, $AX_{15}$ ← 0) ×cnt | | × | |
| | SHL | A, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $A_7$, $A_m$ ← $A_{m-1}$, $A_0$ ← 0) ×cnt | | × | |
| | | B, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $B_7$, $B_m$ ← $B_{m-1}$, $B_0$ ← 0) ×cnt | | × | |
| | | C, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $C_7$, $C_m$ ← $C_{m-1}$, $C_0$ ← 0) ×cnt | | × | |
| | SHLW | AX, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $AX_{15}$, $AX_m$ ← $AX_{m-1}$, $AX_0$ ← 0) ×cnt | | × | |
| | | BC, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $BC_{15}$, $BC_m$ ← $BC_{m-1}$, $BC_0$ ← 0) ×cnt | | × | |
| | SAR | A, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $A_0$, $A_{m-1}$ ← $A_m$, $A_7$ ← $A_7$) ×cnt | | × | |
| | SARW | AX, cnt | 2 | 1 | － | (CY ← $AX_0$, $AX_{m-1}$ ← $AX_m$, $AX_{15}$ ← $AX_{15}$) ×cnt | | × | |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

備考1.　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

2.　cntはビット・シフト数です。

表36－5　オペレーション一覧（14/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ローテート | ROR | A, 1 | 2 | 1 | － | (CY, $A_7$ ← $A_0$, $A_{m-1}$ ← $A_m$) × 1 | | | × |
| | ROL | A, 1 | 2 | 1 | － | (CY, $A_0$ ← $A_7$, $A_{m+1}$ ← $A_m$) × 1 | | | × |
| | RORC | A, 1 | 2 | 1 | － | (CY ← $A_0$, $A_7$ ← CY, $A_{m-1}$ ← $A_m$) × 1 | | | × |
| | ROLC | A, 1 | 2 | 1 | － | (CY ← $A_7$, $A_0$ ← CY, $A_{m+1}$ ← $A_m$) × 1 | | | × |
| | ROLWC | AX,1 | 2 | 1 | － | (CY ← $AX_{15}$, $AX_0$ ← CY, $AX_{m+1}$ ← $AX_m$) ×1 | | | × |
| | | BC,1 | 2 | 1 | － | (CY ← $BC_{15}$, $BC_0$ ← CY, $BC_{m+1}$ ← $BC_m$) ×1 | | | × |
| ビット操作 | MOV1 | CY, A.bit | 2 | 1 | － | CY ← A.bit | | | × |
| | | A.bit, CY | 2 | 1 | － | A.bit ← CY | | | |
| | | CY, PSW.bit | 3 | 1 | － | CY ← PSW.bit | | | × |
| | | PSW.bit, CY | 3 | 4 | － | PSW.bit ← CY | × | × | |
| | | CY, saddr.bit | 3 | 1 | － | CY ← (saddr).bit | | | × |
| | | saddr.bit, CY | 3 | 2 | － | (saddr).bit ← CY | | | |
| | | CY, sfr.bit | 3 | 1 | － | CY ← sfr.bit | | | × |
| | | sfr.bit, CY | 3 | 2 | － | sfr.bit ← CY | | | |
| | | CY,[HL].bit | 2 | 1 | 4 | CY ← (HL).bit | | | × |
| | | [HL].bit, CY | 2 | 2 | － | (HL).bit ← CY | | | |
| | | CY, ES:[HL].bit | 3 | 2 | 5 | CY ← (ES, HL).bit | | | × |
| | | ES:[HL].bit, CY | 3 | 3 | － | (ES, HL).bit ← CY | | | |
| | AND1 | CY, A.bit | 2 | 1 | － | CY ← CY∧A.bit | | | × |
| | | CY, PSW.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∧PSW.bit | | | × |
| | | CY, saddr.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∧(saddr).bit | | | × |
| | | CY, sfr.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∧sfr.bit | | | × |
| | | CY,[HL].bit | 2 | 1 | 4 | CY ← CY∧(HL).bit | | | × |
| | | CY, ES:[HL].bit | 3 | 2 | 5 | CY ← CY∧(ES, HL).bit | | | × |
| | OR1 | CY, A.bit | 2 | 1 | － | CY ← CY∨A.bit | | | × |
| | | CY, PSW.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∨PSW.bit | | | × |
| | | CY, saddr.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∨(saddr).bit | | | × |
| | | CY, sfr.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∨sfr.bit | | | × |
| | | CY, [HL].bit | 2 | 1 | 4 | CY ← CY∨(HL).bit | | | × |
| | | CY, ES:[HL].bit | 3 | 2 | 5 | CY ← CY∨(ES, HL).bit | | | × |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（15/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ビット操作 | XOR1 | CY, A.bit | 2 | 1 | － | CY ← CY∨A.bit | | | × |
| | | CY, PSW.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∨PSW.bit | | | × |
| | | CY, saddr.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∨(saddr).bit | | | × |
| | | CY, sfr.bit | 3 | 1 | － | CY ← CY∨sfr.bit | | | × |
| | | CY, [HL].bit | 2 | 1 | 4 | CY ← CY∨(HL).bit | | | × |
| | | CY, ES:[HL].bit | 3 | 2 | 5 | CY ← CY∨(ES, HL).bit | | | × |
| | SET1 | A.bit | 2 | 1 | － | A.bit ← 1 | | | |
| | | PSW.bit | 3 | 4 | － | PSW.bit ← 1 | × | × | × |
| | | !addr16.bit | 4 | 2 | － | (addr16).bit ← 1 | | | |
| | | ES:!addr16.bit | 5 | 3 | － | (ES, addr16).bit ← 1 | | | |
| | | saddr.bit | 3 | 2 | － | (saddr).bit ← 1 | | | |
| | | sfr.bit | 3 | 2 | － | sfr.bit ← 1 | | | |
| | | [HL].bit | 2 | 2 | － | (HL).bit ← 1 | | | |
| | | ES:[HL].bit | 3 | 3 | － | (ES, HL).bit ← 1 | | | |
| | CLR1 | A.bit | 2 | 1 | － | A.bit ← 0 | | | |
| | | PSW.bit | 3 | 4 | － | PSW.bit ← 0 | × | × | × |
| | | !addr16.bit | 4 | 2 | － | (addr16).bit ← 0 | | | |
| | | ES:!addr16.bit | 5 | 3 | － | (ES, addr16).bit ← 0 | | | |
| | | saddr.bit | 3 | 2 | － | (saddr.bit) ← 0 | | | |
| | | sfr.bit | 3 | 2 | － | sfr.bit ← 0 | | | |
| | | [HL].bit | 2 | 2 | － | (HL).bit ← 0 | | | |
| | | ES:[HL].bit | 3 | 3 | － | (ES, HL).bit ← 0 | | | |
| | SET1 | CY | 2 | 1 | － | CY ← 1 | | | 1 |
| | CLR1 | CY | 2 | 1 | － | CY ← 0 | | | 0 |
| | NOT1 | CY | 2 | 1 | － | CY ← CY | | | × |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（16/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| コール・リターン | CALL | rp | 2 | 3 | － | (SP－2) ← (PC＋2)S, (SP－3) ← (PC＋2)H,<br>(SP－4) ← (PC＋2)L, PC ← CS, rp,<br>SP ← SP－4 | | | |
| | | $!addr20 | 3 | 3 | － | (SP－2) ← (PC＋3)S, (SP－3) ← (PC＋3)H,<br>(SP－4) ← (PC＋3)L, PC ← PC＋3＋jdisp16,<br>SP ← SP－4 | | | |
| | | !addr16 | 3 | 3 | － | (SP－2) ← (PC＋3)S, (SP－3) ← (PC＋3)H,<br>(SP－4) ← (PC＋3)L, PC ← 0000, addr16,<br>SP ← SP－4 | | | |
| | | !!addr20 | 4 | 3 | － | (SP－2) ← (PC＋4)S, (SP－3) ← (PC＋4)H,<br>(SP－4) ← (PC＋4)L, PC ← addr20,<br>SP ← SP－4 | | | |
| | CALLT | [addr5] | 2 | 5 | － | (SP－2) ← (PC＋2)S , (SP－3) ← (PC＋2)H,<br>(SP－4) ← (PC＋2)L , PCS ← 0000,<br>PCH ← (0000, addr5＋1),<br>PCL ← (0000, addr5),<br>SP ← SP－4 | | | |
| | BRK | － | 2 | 5 | － | (SP－1) ← PSW, (SP－2) ← (PC＋2)S,<br>(SP－3) ← (PC＋2)H, (SP－4) ← (PC＋2)L,<br>PCS ← 0000,<br>PCH ← (0007FH), PCL ← (0007EH),<br>SP ← SP－4, IE ← 0 | | | |
| | RET | － | 1 | 6 | － | PCL ← (SP), PCH ← (SP＋1),<br>PCS ← (SP＋2), SP ← SP＋4 | | | |
| | RETI | － | 2 | 6 | － | PCL ← (SP), PCH ← (SP＋1),<br>PCS ← (SP＋2), PSW ← (SP＋3),<br>SP ← SP＋4 | R | R | R |
| | RETB | － | 2 | 6 | － | PCL ← (SP), PCH ← (SP＋1),<br>PCS ← (SP＋2), PSW ← (SP＋3),<br>SP ← SP＋4 | R | R | R |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5 オペレーション一覧（17/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| スタック操作 | PUSH | PSW | 2 | 1 | － | (SP－1) ← PSW, (SP－2) ← 00H, SP ← SP－2 | | | |
| | | rp | 1 | 1 | － | (SP－1) ← $rp_H$, (SP－2) ← $rp_L$, SP ← SP－2 | | | |
| | POP | PSW | 2 | 3 | － | PSW ← (SP＋1), SP ← SP＋2 | R | R | R |
| | | rp | 1 | 1 | － | $rp_L$ ← (SP), $rp_H$ ← (SP＋1), SP ← SP＋2 | | | |
| | MOVW | SP, #word | 4 | 1 | － | SP ← word | | | |
| | | SP, AX | 2 | 1 | － | SP ← AX | | | |
| | | AX, SP | 2 | 1 | － | AX ← SP | | | |
| | | HL, SP | 3 | 1 | － | HL ← SP | | | |
| | | BC, SP | 3 | 1 | － | BC ← SP | | | |
| | | DE, SP | 3 | 1 | － | DE ← SP | | | |
| | ADDW | SP, #byte | 2 | 1 | － | SP ← SP＋byte | | | |
| | SUBW | SP, #byte | 2 | 1 | － | SP ← SP－byte | | | |
| 無条件分岐 | BR | AX | 2 | 3 | － | PC ← CS, AX | | | |
| | | $addr20 | 2 | 3 | － | PC ← PC＋2＋jdisp8 | | | |
| | | $!addr20 | 3 | 3 | － | PC ← PC＋3＋jdisp16 | | | |
| | | !addr16 | 3 | 3 | － | PC ← 0000, addr16 | | | |
| | | !!addr20 | 4 | 3 | － | PC ← addr20 | | | |
| 条件付き分岐 | BC | $addr20 | 2 | 2/4注3 | － | PC ← PC＋2＋jdisp8 if CY = 1 | | | |
| | BNC | $addr20 | 2 | 2/4注3 | － | PC ← PC＋2＋jdisp8 if CY = 0 | | | |
| | BZ | $addr20 | 2 | 2/4注3 | － | PC ← PC＋2＋jdisp8 if Z = 1 | | | |
| | BNZ | $addr20 | 2 | 2/4注3 | － | PC ← PC＋2＋jdisp8 if Z = 0 | | | |
| | BH | $addr20 | 3 | 2/4注3 | － | PC ← PC+3+jdisp8 if (Z∨CY)=0 | | | |
| | BNH | $addr20 | 3 | 2/4注3 | － | PC ← PC+3+jdisp8 if (Z∨CY)=1 | | | |
| | BT | saddr.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if (saddr).bit = 1 | | | |
| | | sfr.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if sfr.bit = 1 | | | |
| | | A.bit, $addr20 | 3 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋3＋jdisp8 if A.bit = 1 | | | |
| | | PSW.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if PSW.bit = 1 | | | |
| | | [HL].bit, $addr20 | 3 | 3/5注3 | 6/7 | PC ← PC＋3＋jdisp8 if (HL).bit = 1 | | | |
| | | ES:[HL].bit, $addr20 | 4 | 4/6注3 | 7/8 | PC ← PC＋4＋jdisp8 if (ES, HL).bit = 1 | | | |

注1. 内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2. コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3. クロック数は“条件不成立時／条件成立時”を表しています。

備考 クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

表36－5　オペレーション一覧（18/18）

| 命令群 | ニモニック | オペランド | バイト | クロック 注1 | クロック 注2 | オペレーション | フラグ Z | フラグ AC | フラグ CY |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 条件付き分岐 | BF | saddr.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if (saddr).bit = 0 | | | |
| | | sfr.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if sfr.bit = 0 | | | |
| | | A.bit, $addr20 | 3 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋3＋jdisp8 if A.bit = 0 | | | |
| | | PSW.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if PSW.bit = 0 | | | |
| | | [HL].bit, $addr20 | 3 | 3/5注3 | 6/7 | PC ← PC＋3＋jdisp8 if (HL).bit = 0 | | | |
| | | ES:[HL].bit, $addr20 | 4 | 4/6注3 | 7/8 | PC ← PC＋4＋jdisp8 if (ES, HL).bit = 0 | | | |
| | BTCLR | saddr.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if (saddr).bit = 1 then reset (saddr).bit | | | |
| | | sfr.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if sfr.bit = 1 then reset sfr.bit | | | |
| | | A.bit, $addr20 | 3 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋3＋jdisp8 if A.bit = 1 then reset A.bit | | | |
| | | PSW.bit, $addr20 | 4 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if PSW.bit = 1 then reset PSW.bit | × | × | × |
| | | [HL].bit, $addr20 | 3 | 3/5注3 | － | PC ← PC＋3＋jdisp8 if (HL).bit = 1 then reset (HL).bit | | | |
| | | ES:[HL].bit, $addr20 | 4 | 4/6注3 | － | PC ← PC＋4＋jdisp8 if (ES, HL).bit = 1 then reset (ES, HL).bit | | | |
| 条件付きスキップ | SKC | － | 2 | 1 | － | Next instruction skip if CY = 1 | | | |
| | SKNC | － | 2 | 1 | － | Next instruction skip if CY = 0 | | | |
| | SKZ | － | 2 | 1 | － | Next instruction skip if Z = 1 | | | |
| | SKNZ | － | 2 | 1 | － | Next instruction skip if Z = 0 | | | |
| | SKH | － | 2 | 1 | － | Next instruction skip if (Z∨CY)=0 | | | |
| | SKNH | － | 2 | 1 | － | Next instruction skip if (Z∨CY)=1 | | | |
| CPU制御 | SEL注4 | RBn | 2 | 1 | － | RBS[1:0] ← n | | | |
| | NOP | － | 1 | 1 | － | No Operation | | | |
| | EI | － | 3 | 4 | － | IE ← 1 (Enable Interrupt) | | | |
| | DI | － | 3 | 4 | － | IE ← 0 (Disable Interrupt) | | | |
| | HALT | － | 2 | 3 | － | Set HALT Mode | | | |
| | STOP | － | 2 | 3 | － | Set STOP Mode | | | |

注1.　内部RAM領域，SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき，またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

2.　コード・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック（$f_{CLK}$）数。

3.　クロック数は“条件不成立時／条件成立時”を表しています。

4.　nはレジスタ・バンク番号です（n = 0-3）。

備考　クロック数は内部ROM（フラッシュ・メモリ）領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合，最大2倍＋3クロックになります。

# 第37章　電気的特性

注意1.　RL78マイクロコントローラには開発／評価用にオンチップ・デバッグ機能が搭載されています。オンチップ・デバッグ機能を使用した場合，フラッシュ・メモリの保証書き換え回数を越えてしまう可能性があり，製品の信頼性が保証できませんので，量産用の製品では本機能を使用しないでください。オンチップ・デバッグ機能を使用した製品については，クレーム受け付け対象外となります。

2.　製品により搭載している端子が異なります。2. 1　ポート機能 ～2. 2. 1　製品別の搭載機能を参照してください。

備考1.　この章内の記述は，$EV_{DD}$を$EV_{DD0}$, $EV_{DD1}$，また$EV_{SS}$を$EV_{SS0}$, $EV_{SS1}$と読み替えてください。

2.　80ピン製品では，$EV_{DD}$, $EV_{SS}$を$V_{DD}$, $V_{SS}$と読み替えてください。

## 37. 1　絶対最大定格

絶対最大定格（1/3）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | 定　　格 | 単　位 |
|---|---|---|---|---|
| 電源電圧 | $V_{DD}$ | | −0.5～+6.5 | V |
| | $EV_{DD}$ | $EV_{DD1}$ = $V_{DD}$ | −0.5～+6.5 | V |
| | VBAT | | −0.5～+6.5 | V |
| | $AV_{DD}$ | | −0.5～+6.5<br>かつ−0.5～$V_{DD}$注4+0.6 | V |
| REGC端子入力電圧 | $V_{IREGC}$ | REGC | −0.3～+2.8<br>かつ−0.3～$V_{DD}$注4+0.3注1 | V |
| 入力電圧 | $V_{I1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127 | −0.3～$EV_{DD}$+0.3<br>かつ−0.3～$V_{DD}$注4+0.3注2 | V |
| | $V_{I2}$ | P60-P62（N-chオープン・ドレイン） | −0.3～+6.5 | V |
| | $V_{I3}$ | P20-P25, P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS | −0.3～$V_{DD}$注4+0.3注2 | V |
| | $V_{I4}$ | $\overline{\text{RESET}}$ | −0.3～+6.5 | V |
| 出力電圧 | $V_{O1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P60-P62, P70-P77, P80-P85, P125-P127, P130 | −0.3～$EV_{DD}$+0.3<br>かつ−0.3～$V_{DD}$注4+0.3注2 | V |
| | $V_{O2}$ | P20-P25 | −0.3～$V_{DD}$注4+0.3注2 | V |
| アナログ入力電圧 | $V_{AI1}$ | ANI0-ANI5 | −0.3～$V_{DD}$注4+0.3<br>かつ−0.3～$AV_{REF(+)}$+0.3注2, 3 | V |
| | $V_{AI2}$ | ANIP0-ANIP3, ANIN0-ANIN3 | −0.6～+2.8<br>かつ−0.6～AREGC+0.3注5 | V |
| 基準電源電圧 | $V_{IDSAD}$ | AREGC, AVCM, AVRT | −0.3～+2.8<br>かつ−0.3～$AV_{DD}$+0.3注6 | V |

注1.　REGC端子にはコンデンサ（0.47～1 μF）を介して$V_{SS}$に接続してください。この値は，REGC端子の絶対最大定格を規定するものです。電圧印加して使用しないでください。

2.　6.5 V以下であること。

3.　A/D変換対象の端子は，$AV_{REF(+)}$+0.3 Vを越えないでください。

4.　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

5.　ΔΣA/D変換対象の端子は，AREGC+0.3 Vを越えないでください。

6.　AREGC, AVCM, AVRT端子にはコンデンサ（0.47 μF）を介して$V_{SS}$に接続してください。
この値は，AREGC, AVCM, AVRT端子の絶対最大定格を規定するものです。電圧印加して使用しないでください。

注意　各項目のうち1項目でも，また一瞬でも絶対最大定格を越えると，製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは，製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で，製品をご使用ください。

備考 1.　特に指定がないかぎり，兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

2.　$AV_{REF(+)}$：A/Dコンバータの+側基準電圧

3.　$V_{SS}$を基準電圧とする。

絶対最大定格（2/3）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | | 定　　格 | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|
| LCD電圧 | $V_{L1}$ | $V_{L1}$電圧[注1] | | −0.3～＋2.8<br>かつ−0.3～$V_{L4}$＋0.3 | V |
| | $V_{L2}$ | $V_{L2}$電圧[注1] | | −0.3～$V_{L4}$＋0.3[注2] | V |
| | $V_{L3}$ | $V_{L3}$電圧[注1] | | −0.3～$V_{L4}$＋0.3[注2] | V |
| | $V_{L4}$ | $V_{L4}$電圧[注1] | | −0.3～＋6.5 | V |
| | $V_{LCAP}$ | CAPL, CAPH電圧[注1] | | −0.3～$V_{L4}$＋0.3[注2] | V |
| | $V_{OUT}$ | COM0-COM7,<br>SEG0-SEG41<br>出力電圧 | 外部抵抗分割方式 | −0.3～$V_{DD}$[注3]＋0.3[注2] | V |
| | | | 容量分割方式 | −0.3～$V_{DD}$[注3]＋0.3[注2] | V |
| | | | 内部昇圧方式 | −0.3～$V_{L4}$＋0.3[注2] | V |

注1.　この値は，$V_{L1}$, $V_{L2}$, $V_{L3}$, $V_{L4}$端子への電圧印加する場合の絶対最大定格を規定するものであり，電圧印加して使用することを推奨しているわけではありません。内部昇圧方式，容量分割方式の場合，$V_{L1}$, $V_{L2}$, $V_{L3}$, $V_{L4}$端子にはコンデンサ（0.47 μF±30 %）を介して$V_{SS}$に接続し，CAPL端子，CAPH端子間にもコンデンサ（0.47 μF±30 %）を接続してください。

2.　6.5 V以下であること。

3.　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

注意　各項目のうち1項目でも，また一瞬でも絶対最大定格を越えると，製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは，製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で，製品をご使用ください。

備考　$V_{SS}$を基準電圧とする。

絶対最大定格（3/3）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | 定　格 | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|
| ハイ・レベル出力電流 | $I_{OH1}$ | 1端子 | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127, P130 | －40 | mA |
| | | 端子合計 －170 mA | P00-P07, P40-P44, P130 | －70 | mA |
| | | | P10-P17, P30-P37, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127 | －100 | mA |
| | $I_{OH2}$ | 1端子 | P20-P25 | －0.5 | mA |
| | | 端子合計 | | －2 | mA |
| ロウ・レベル出力電流 | $I_{OL1}$ | 1端子 | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P60-P62, P70-P77, P80-P85, P125-P127, P130 | 40 | mA |
| | | 端子合計 170 mA | P00-P07, P40-P44, P130 | 70 | mA |
| | | | P10-P17, P30-P37, P50-P57, P60-P62, P70-P77, P80-P85, P125-P127 | 100 | mA |
| | $I_{OL2}$ | 1端子 | P20-P25 | 1 | mA |
| | | 端子合計 | | 5 | mA |
| 動作周囲温度 | $T_A$ | 通常動作時 | | －40～＋85 | ℃ |
| | | フラッシュ・メモリ・プログラミング時 | | | |
| 保存温度 | $T_{stg}$ | | | －65～＋150 | ℃ |

注意　各項目のうち1項目でも，また一瞬でも絶対最大定格を越えると，製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは，製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で，製品をご使用ください。

備考　特に指定がないかぎり，兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

# 37. 2　発振回路特性

## 37. 2. 1　X1, XT1発振回路特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 発振子 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| X1クロック発振周波数（$f_X$）注1, 2 | セラミック発振子／水晶振動子 | 2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 1.0 | | 20.0 | MHz |
| | | 2.4 V≦$V_{DD}$＜2.7 V | 1.0 | | 16.0 | MHz |
| | | 1.9 V≦$V_{DD}$＜2.4 V | 1.0 | | 8.0 | MHz |
| XT1クロック発振周波数（$f_{XT}$）注1, 2 | 水晶振動子 | | 32 | 32.768 | 35 | kHz |

注1.　発振回路の周波数許容範囲のみを示すものです。命令実行時間は，37. 4　AC特性を参照してください。また，実装回路上での評価を発振子メーカに依頼し，発振特性を確認してご使用ください。

2.　電圧範囲はバッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

注意　リセット解除後は，高速オンチップ・オシレータ・クロックによりCPUが起動されるため，X1クロックの発振安定時間は発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）でユーザにて確認してください。また使用する発振子で発振安定時間を十分に評価してから，OSTCレジスタ，発振安定時間選択レジスタ（OSTS）の発振安定時間を決定してください。

備考　X1, XT1発振回路を使用する場合は，5. 4　システム・クロック発振回路を参照してください。

### 37. 2. 2　オンチップ・オシレータ特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数注1, 2 | $f_{IH}$ | | | 3 | | 24 | MHz |
| 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数精度 | | －20～＋85 ℃ | 1.9 V≦$V_{DD}$注3≦5.5 V | －1.0 | | ＋1.0 | % |
| | | －40～－20 ℃ | 1.9 V≦$V_{DD}$注3≦5.5 V | －1.5 | | ＋1.5 | % |
| 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数 | $f_{IL}$ | | | | 15 | | kHz |
| 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数精度 | | | | －15 | | ＋15 | % |

注1.　高速オンチップ･オシレータの周波数は，オプション･バイト（000C2H/010C2H）のビット0-3およびHOCODIVレジスタのビット0-2によって選択します。

2.　発振回路の特性だけを示すものです。命令実行時間は，37. 4　AC特性を参照してください。

3.　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

# 37. 3　DC特性

## 37. 3. 1　端子特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ハイ・レベル出力電流[注1] | $I_{OH1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127, P130 1端子 | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | －10.0[注2] | mA |
| | | P00-P07, P40-P44, P130 合計 （デューティ = 70 %時[注3]） | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | －55.0 | mA |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V | | | －10.0 | mA |
| | | | 1.9 V≦$EV_{DD}$＜2.7 V | | | －5.0 | mA |
| | | P10-P17, P30-P37, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127 合計 （デューティ = 70 %時[注3]） | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | －80.0 | mA |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V | | | －19.0 | mA |
| | | | 1.9 V≦$EV_{DD}$＜2.7 V | | | －10.0 | mA |
| | | 全端子合計 （デューティ = 70 %時[注3]） | | | | －100.0 | mA |
| | $I_{OH2}$ | P20-P25 1端子 | 1.9 V≦$V_{DD}$[注4]≦5.5 V | | | －0.1[注2] | mA |
| | | 全端子合計 （デューティ = 70 %時[注3]） | 1.9 V≦$V_{DD}$[注4]≦5.5 V | | | －0.6 | mA |

注1.　$EV_{DD}$, $V_{DD}$端子から出力端子に流れ出しても，デバイスの動作を保証する電流値です。

2.　合計の電流値を超えないでください。

3.　デューティ≦70 %の条件でのスペックです。
デューティ＞70 %に変更した出力電流の値は，次の計算式で求めることができます（デューティ比をn %に変更する場合）。

・端子合計の出力電流 =（$I_{OH}$×0.7）／（n×0.01）
＜計算例＞ $I_{OH}$ = －10.0 mAの場合，n = 80 %
端子合計の出力電流 = （－10.0×0.7）／（80×0.01）≒－8.7 mA

ただし，1端子当たりに流せる電流は，デューティによって変わることはありません。また，絶対最大定格以上の電流は流せません。

4.　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

注意　P01-P07, P15-P17, P80-P82は，N-chオープン・ドレイン・モード時には，ハイ・レベル出力しません。

備考　特に指定のないかぎり，兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ロウ・レベル出力電流[注1] | $I_{OL1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127, P130 1端子 | | | | 20.0[注2] | mA |
| | | P60-P62 1端子 | | | | 15.0[注2] | mA |
| | | P00-P07, P40-P44, P130 合計 （デューティ = 70 %時[注3]） | 4.0 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | 70.0 | mA |
| | | | 2.7 V≦$V_{DD}$＜4.0 V | | | 15.0 | mA |
| | | | 1.9 V≦$V_{DD}$＜2.7 V | | | 9.0 | mA |
| | | P10-P17, P30-P37, P50-P57, P60-P62, P70-P77, P80-P85, P125-P127　合計 （デューティ = 70 %時[注3]） | 4.0 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | 80.0 | mA |
| | | | 2.7 V≦$V_{DD}$＜4.0 V | | | 35.0 | mA |
| | | | 1.9 V≦$V_{DD}$＜2.7 V | | | 20.0 | mA |
| | | 全端子合計 （デューティ = 70 %時[注3]） | | | | 150.0 | mA |
| | $I_{OL2}$ | P20-P25 1端子 | 1.9 V≦$V_{DD}$[注4]≦5.5 V | | | 0.4[注2] | mA |
| | | 全端子合計 （デューティ = 70 %時[注3]） | 1.9 V≦$V_{DD}$[注4]≦5.5 V | | | 2.4 | mA |

注1.　出力端子から$EV_{SS}$, $V_{SS}$端子に流れ込んでも，デバイスの動作を保証する電流値です。

2.　合計の電流値を超えないでください。

3.　デューティ≦70 %の条件でのスペックです。

デューティ＞70% に変更した出力電流の値は，次の計算式で求めることができます（デューティ比をn %に変更する場合）。

・端子合計の出力電流 =（$I_{OL}$×0.7）／（n×0.01）

＜計算例＞ $I_{OL}$ = 10.0 mAの場合，n = 80 %

端子合計の出力電流 =（10.0×0.7）／（80×0.01）≒8.7 mA

ただし，1端子当たりに流せる電流は，デューティによって変わることはありません。また，絶対最大定格以上の電流は流せません。

4.　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

備考　特に指定のないかぎり，兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ハイ・レベル入力電圧 | $V_{IH1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127 | 通常入力バッファ | 0.8$EV_{DD}$ | | $EV_{DD}$ | V |
| | $V_{IH2}$ | P00, P03, P05, P06, P15, P16, P81 | TTL入力バッファ 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 2.2 | | $EV_{DD}$ | V |
| | | | TTL入力バッファ 3.3 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V | 2.0 | | $EV_{DD}$ | V |
| | | | TTL入力バッファ 1.9 V≦$EV_{DD}$＜3.3 V | 1.5 | | $EV_{DD}$ | V |
| | $V_{IH3}$ | P20-P25 | | 0.7$V_{DD}$注 | | $V_{DD}$注 | V |
| | $V_{IH4}$ | P60-P62 | | 0.7$EV_{DD}$ | | 6.0 | V |
| | $V_{IH5}$ | P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS | | 0.8$V_{DD}$注 | | $V_{DD}$注 | V |
| | $V_{IH6}$ | $\overline{\text{RESET}}$ | | 0.8$V_{DD}$注 | | 6.0 | V |
| ロウ・レベル入力電圧 | $V_{IL1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127 | 通常入力バッファ | 0 | | 0.2$EV_{DD}$ | V |
| | $V_{IL2}$ | P00, P03, P05, P06, P15, P16, P81 | TTL入力バッファ 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 0 | | 0.8 | V |
| | | | TTL入力バッファ 3.3 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V | 0 | | 0.5 | V |
| | | | TTL入力バッファ 1.9 V≦$EV_{DD}$＜3.3 V | 0 | | 0.32 | V |
| | $V_{IL3}$ | P20-P25 | | 0 | | 0.3$V_{DD}$注 | V |
| | $V_{IL4}$ | P60-P62 | | 0 | | 0.3$EV_{DD}$ | V |
| | $V_{IL5}$ | P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS, $\overline{\text{RESET}}$ | | 0 | | 0.2$V_{DD}$注 | V |

注　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

注意　P01-P07, P15-P17, P80-P82は，N-chオープン・ドレイン・モード時でも$V_{IH}$の最大値（MAX.）は$V_{DD}$です。

備考　特に指定のないかぎり，兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ハイ・レベル出力電圧 | $V_{OH1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127, P130 | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OH1}$ = －10.0 mA | $EV_{DD}$－1.5 | | | V |
| | | | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OH1}$ = －3.0 mA | $EV_{DD}$－0.7 | | | V |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OH}$ = －2.0 mA | $EV_{DD}$－0.6 | | | V |
| | | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OH}$ = －1.5 mA | $EV_{DD}$－0.5 | | | V |
| | $V_{OH2}$ | P20-P25 | 1.9 V≦$V_{DD}$注≦5.5 V, $I_{OH2}$ = －100 μA | $V_{DD}$－0.5 | | | V |
| ロウ・レベル出力電圧 | $V_{OL1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127, P130 | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL1}$ = 20.0 mA | | | 1.3 | V |
| | | | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL1}$ = 8.5 mA | | | 0.7 | V |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL}$ = 3.0 mA | | | 0.6 | V |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL1}$ = 1.5 mA | | | 0.4 | V |
| | | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL1}$ = 0.6 mA | | | 0.4 | V |
| | $V_{OL2}$ | P20-P25 | 1.9 V≦$V_{DD}$注≦5.5 V, $I_{OL2}$ = 400 μA | | | 0.4 | V |
| | $V_{OL3}$ | P60-P62 | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL3}$ = 15.0 mA | | | 2.0 | V |
| | | | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL3}$ = 5.0 mA | | | 0.4 | V |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL3}$ = 3.0 mA | | | 0.4 | V |
| | | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $I_{OL3}$ = 2.0 mA | | | 0.4 | V |

注　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

注意　P01-P07, P15-P17, P80-P82は，N-chオープン・ドレイン・モード時には，ハイ・レベル出力しません。

備考　特に指定のないかぎり，兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略号 | 条　件 | | | MIN. | TYP. | MAX. | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ハイ・レベル入力リーク電流 | $I_{LIH1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P60-P62, P70-P77, P80-P85, P125-P127 | $V_I$ = $EV_{DD}$ | | | | 1 | μA |
| | $I_{LIH2}$ | P20-P25, P137, $\overline{\text{RESET}}$ | $V_I$ = $V_{DD}$注 | | | | 1 | μA |
| | $I_{LIH3}$ | P121-P124（X1，X2，XT1，XT2，EXCLK, EXCLKS） | $V_I$ = $V_{DD}$注 | 入力ポート時，外部クロック入力時 | | | 1 | μA |
| | | | | 発振子接続時 | | | 10 | μA |
| ロウ・レベル入力リーク電流 | $I_{LIL1}$ | P00-P07, P10-P17, P30-P37, P40-P44, P60-P62, P70-P77, P80-P85, P125-P127 | $V_I$ = $EV_{SS}$ | | | | －1 | μA |
| | $I_{LIL2}$ | P20-P25, P137, $\overline{\text{RESET}}$ | $V_I$ = $V_{SS}$ | | | | －1 | μA |
| | $I_{LIL3}$ | P121-P124（X1，X2，XT1，XT2，EXCLK, EXCLKS） | $V_I$ = $V_{SS}$ | 入力ポート時，外部クロック入力時 | | | －1 | μA |
| | | | | 発振子接続時 | | | －10 | μA |
| 内蔵プルアップ抵抗 | $R_{U1}$ | P10-P17, P30-P37, P50-P57, P70-P77, P80-P85, P125-P127 | $V_I$ = $V_{SS}$ | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 10 | 20 | 100 | kΩ |
| | | | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 10 | 30 | 100 | kΩ |
| | $R_{U2}$ | P00-P07, P40-P44 | $V_I$ = $V_{SS}$ | | 10 | 20 | 100 | kΩ |

注　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

備考　特に指定のないかぎり，兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

## 37. 3. 2 電源電流特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃, 1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V） （1/4）

| 項目 | 略号 | 条件 | | | | | | MIN. | TYP. | MAX. | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 電源電流[注1] | $I_{DD1}$ | 動作モード | HS（高速メイン）モード[注5] | $f_{IH}$ = 24 MHz[注3] | 基本動作 | $V_{DD}$ = 5.0 V | | | 1.5 | | mA |
| | | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | | 1.5 | | mA |
| | | | | | 通常動作 | $V_{DD}$ = 5.0 V | | | 4.1 | 6.6 | mA |
| | | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | | 4.1 | 6.6 | mA |
| | | | | $f_{IH}$ = 12 MHz[注3] | 通常動作 | $V_{DD}$ = 5.0 V | | | 2.5 | 3.8 | mA |
| | | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | | 2.5 | 3.8 | mA |
| | | | | $f_{IH}$ = 6 MHz[注3] | 通常動作 | $V_{DD}$ = 5.0 V | | | 1.6 | 2.5 | mA |
| | | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | | 1.6 | 2.5 | mA |
| | | | | $f_{IH}$ = 3 MHz[注3] | 通常動作 | $V_{DD}$ = 5.0 V | | | 1.2 | 1.9 | mA |
| | | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | | 1.2 | 1.9 | mA |
| | | | LS（低速メイン）モード[注5] | $f_{IH}$ = 6 MHz[注3] | 通常動作 | $V_{DD}$ = 3.0 V | | | 1.3 | 2.1 | mA |
| | | | | | | $V_{DD}$ = 2.0 V | | | 1.3 | 2.1 | mA |
| | | | | $f_{IH}$ = 3 MHz[注3] | 通常動作 | $V_{DD}$ = 3.0 V | | | 0.9 | 1.5 | mA |
| | | | | | | $V_{DD}$ = 2.0 V | | | 0.9 | 1.5 | mA |
| | | | HS（高速メイン）モード[注5] | $f_{MX}$ = 20 MHz[注2], $V_{DD}$ = 5.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 3.4 | 5.5 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 3.6 | 5.7 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 20 MHz[注2], $V_{DD}$ = 3.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 3.4 | 5.5 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 3.6 | 5.7 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 16 MHz[注2], $V_{DD}$ = 5.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 2.8 | 4.4 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 2.9 | 4.6 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 16 MHz[注2], $V_{DD}$ = 3.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 2.8 | 4.4 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 2.9 | 4.6 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 12 MHz[注2], $V_{DD}$ = 5.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 2.3 | 3.6 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 2.4 | 3.7 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 12MHz[注2], $V_{DD}$ = 3.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 2.3 | 3.6 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 2.4 | 3.7 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 10 MHz[注2], $V_{DD}$ = 5.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 2.1 | 3.2 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 2.1 | 3.3 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 10 MHz[注2], $V_{DD}$ = 3.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 2.1 | 3.2 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 2.1 | 3.3 | mA |
| | | | LS（低速メイン）モード[注5] | $f_{MX}$ = 8 MHz[注2], $V_{DD}$ = 3.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 1.2 | 2.0 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 1.2 | 2.1 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 8 MHz[注2], $V_{DD}$ = 2.0 V | 通常動作 | 方形波入力 | | | 1.2 | 2.0 | mA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 1.2 | 2.1 | mA |
| | | | サブ・クロック動作 | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注4] $T_A$ = －40℃ | 通常動作 | 方形波入力 | | | 4.8 | 5.9 | μA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 4.9 | 6.0 | μA |
| | | | | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注4] $T_A$ = ＋25℃ | 通常動作 | 方形波入力 | | | 4.9 | 5.9 | μA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 5.0 | 6.0 | μA |
| | | | | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注4] $T_A$ = ＋50℃ | 通常動作 | 方形波入力 | | | 4.9 | 7.6 | μA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 5.0 | 7.7 | μA |
| | | | | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注4] $T_A$ = ＋70℃ | 通常動作 | 方形波入力 | | | 5.2 | 9.3 | μA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 5.3 | 9.4 | μA |
| | | | | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注4] $T_A$ = ＋85℃ | 通常動作 | 方形波入力 | | | 6.1 | 13.3 | μA |
| | | | | | | 発振子接続 | | | 6.2 | 13.4 | μA |

（注，備考は次ページにあります。）

注1. $V_{DD}$, $EV_{DD}$に流れるトータル電流です。入力端子を$V_{DD}$, $EV_{DD}$または$V_{SS}$, $EV_{SS}$に固定した状態での入力リーク
★ 電流を含みます。VBAT端子（バッテリ・バックアップ用電源端子）を選択している場合は，VBATに流れる電流です。HS（高速メイン）モード，LS（低速メイン）モード時，電源電流のTYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし，LCDコントローラ／ドライバ，A/Dコンバータ，ΔΣA/Dコンバータ，LVD回路，コンパレータ，バッテリ・バックアップ回路，I/Oポート，内蔵プルアップ／プルダウン抵抗に流れる電流は含みません。

サブシステム・クロック動作時，電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし，HALTモード時はリアルタイム・クロック2に流れる電流を含みます。

2. 高速オンチップ・オシレータ，サブシステム・クロックは停止時。
3. 高速システム・クロック，サブシステム・クロックは停止時。
★ 4. 高速オンチップ・オシレータ，高速システム・クロックは停止時。超低消費発振（AMPHS1 = 1）設定時。
5. 動作電圧範囲，CPU動作周波数，動作モードの関係を次に示します。

HS（高速メイン）モード　：2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～24 MHz
2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～16 MHz
LS（低速メイン）モード　：1.9V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～8 MHz

備考1. $f_{MX}$　：高速システム・クロック周波数（X1クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数）
2. $f_{IH}$　：高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
3. $f_{SUB}$　：サブシステム・クロック周波数（XT1クロック発振周波数）
4. 「サブシステム・クロック動作」以外のTYP.値の温度条件は，$T_A$ = 25 ℃です。

（$T_A$ = －40～＋85 ℃, 1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V） （2/4）

| 項 目 | 略号 | 条 件 | | | | MIN. | TYP. | MAX. | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ★ 電源電流[注1] | $I_{DD2}$[注2] | HALT モード | HS（高速メイン）モード[注6] | $f_{IH}$ = 24 MHz[注4] | $V_{DD}$ = 5.0 V | | 0.50 | 1.45 | mA |
| | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | 0.50 | 1.45 | mA |
| | | | | $f_{IH}$ = 12 MHz[注4] | $V_{DD}$ = 5.0 V | | 0.40 | 0.91 | mA |
| | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | 0.40 | 0.91 | mA |
| | | | | $f_{IH}$ = 6 MHz[注4] | $V_{DD}$ = 5.0 V | | 0.33 | 0.63 | mA |
| | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | 0.33 | 0.63 | mA |
| | | | | $f_{IH}$ = 3 MHz[注4] | $V_{DD}$ = 5.0 V | | 0.29 | 0.49 | mA |
| | | | | | $V_{DD}$ = 3.0 V | | 0.29 | 0.49 | mA |
| ★ | | | LS（低速メイン）モード[注6] | $f_{IH}$ = 6 MHz[注4] | $V_{DD}$ = 3.0 V | | 290 | 620 | μA |
| | | | | | $V_{DD}$ = 2.0 V | | 290 | 620 | μA |
| | | | | $f_{IH}$ = 3 MHz[注4] | $V_{DD}$ = 3.0 V | | 250 | 534 | μA |
| | | | | | $V_{DD}$ = 2.0 V | | 250 | 534 | μA |
| ★ | | | HS（高速メイン）モード[注6] | $f_{MX}$ = 20 MHz[注3], $V_{DD}$ = 5.0 V | 方形波入力 | | 0.31 | 1.08 | mA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.48 | 1.28 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 20 MHz[注3], $V_{DD}$ = 3.0 V | 方形波入力 | | 0.31 | 1.08 | mA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.48 | 1.28 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 16 MHz[注3], $V_{DD}$ = 5.0 V | 方形波入力 | | 0.26 | 0.86 | mA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.38 | 1.00 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 16 MHz[注3], $V_{DD}$ = 3.0 V | 方形波入力 | | 0.26 | 0.86 | mA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.38 | 1.00 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 12 MHz[注3], $V_{DD}$ = 5.0 V | 方形波入力 | | 0.22 | 0.70 | mA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.31 | 0.79 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 12 MHz[注3], $V_{DD}$ = 3.0 V | 方形波入力 | | 0.22 | 0.70 | mA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.31 | 0.79 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 10 MHz[注3], $V_{DD}$ = 5.0 V | 方形波入力 | | 0.21 | 0.63 | mA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.28 | 0.71 | mA |
| | | | | $f_{MX}$ = 10 MHz[注3], $V_{DD}$ = 3.0 V | 方形波入力 | | 0.21 | 0.63 | mA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.28 | 0.71 | mA |
| ★ | | | LS（低速メイン）モード[注6] | $f_{MX}$ = 8 MHz[注3], $V_{DD}$ = 3.0 V | 方形波入力 | | 110 | 360 | μA |
| | | | | | 発振子接続 | | 160 | 420 | μA |
| | | | | $f_{MX}$ = 8 MHz[注3], $V_{DD}$ = 2.0 V | 方形波入力 | | 110 | 360 | μA |
| | | | | | 発振子接続 | | 160 | 420 | μA |
| | | | サブ・クロック動作 | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注5] $T_A$ = －40℃ | 方形波入力 | | 0.36 | 0.77 | μA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.55 | 0.98 | μA |
| | | | | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注5] $T_A$ = ＋25℃ | 方形波入力 | | 0.42 | 0.91 | μA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.61 | 1.30 | μA |
| | | | | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注5] $T_A$ = ＋50℃ | 方形波入力 | | 0.50 | 2.45 | μA |
| | | | | | 発振子接続 | | 0.69 | 2.64 | μA |
| | | | | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注5] $T_A$ = ＋70℃ | 方形波入力 | | 0.86 | 4.28 | μA |
| | | | | | 発振子接続 | | 1.05 | 4.47 | μA |
| | | | | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz[注5] $T_A$ = ＋85℃ | 方形波入力 | | 2.29 | 8.44 | μA |
| | | | | | 発振子接続 | | 2.48 | 8.63 | μA |
| ★ | $I_{DD3}$ | STOP モード[注7] | $T_A$ = －40℃ | | | | 0.27 | 0.70 | μA |
| | | | $T_A$ = ＋25℃ | | | | 0.33 | 0.82 | μA |
| | | | $T_A$ = ＋50℃ | | | | 0.41 | 2.36 | μA |
| | | | $T_A$ = ＋70℃ | | | | 0.77 | 4.19 | μA |
| | | | $T_A$ = ＋85℃ | | | | 2.20 | 8.35 | μA |

（注，備考は次ページにあります。）

★ 注1. $V_{DD}$, $EV_{DD}$に流れるトータル電流です。入力端子を$V_{DD}$, $EV_{DD}$または$V_{SS}$, $EV_{SS}$に固定した状態での入力リーク電流を含みます。VBAT端子（バッテリ・バックアップ用電源端子）を選択している場合は，VBATに流れる電流です。

HS（高速メイン）モード, LS（低速メイン）モード時，電源電流のTYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし，LCDコントローラ／ドライバ，A/Dコンバータ，ΔΣA/Dコンバータ，LVD回路，コンパレータ，バッテリ・バックアップ回路，I/Oポート，内蔵プルアップ／プルダウン抵抗に流れる電流は含みません。

サブシステム・クロック動作時，電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし，HALTモード時はリアルタイム・クロック2（RTC2）に流れる電流を含みます。

STOPモード時，電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。

2. フラッシュ・メモリでのHALT命令実行時。
3. 高速オンチップ・オシレータ，サブシステム・クロックは停止時。
4. 高速システム・クロック，サブシステム・クロックは停止時。
5. ★ リアルタイム・クロック2（RTC2）動作，かつ超低消費発振（AMPHS1 = 1）設定時。高速オンチップ・オシレータ，高速システム・クロックは停止時。
6. 動作電圧範囲，CPU動作周波数，動作モードの関係を次に示します。

HS（高速メイン）モード　：2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～24 MHz
2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～16 MHz

LS（低速メイン）モード　：1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V@1 MHz～8 MHz

7. STOPモード時にサブシステム・クロックを動作させる場合は，サブシステム・クロック動作のHALTモード時と同じになります。

備考1. $f_{MX}$　：高速システム・クロック周波数（X1クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数）
2. $f_{IH}$　：高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
3. $f_{SUB}$　：サブシステム・クロック周波数（XT1クロック発振周波数）
4. 「サブシステム・クロック動作」，「STOPモード」以外のTYP.値の温度条件は，$T_A$ = 25 ℃です。

（$T_A$ = －40～＋85 ℃, 1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V） （3/4）

| 項　目 | 略号 | 条　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 低速オンチップ・オシレータ動作電流 | $I_{FIL}$ 注1 | | | | 0.24 | | μA |
| RTC2動作電流 | $I_{RTC}$ 注1, 2, 3 | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz | | | 0.02 | | μA |
| 12ビット・インターバル・タイマ動作電流 | $I_{TMKA}$ 注1, 2, 4 | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz, $f_{MAIN}$停止 | | | 0.04 | | μA |
| 8ビット・インターバル・タイマ動作電流 | $I_{TMT}$ 注1, 2, 5 | $f_{SUB}$ = 32.768 kHz, $f_{MAIN}$停止, ユニットあたり | 8ビット・カウンタ・モード×2ch 動作 | | 0.12 | | μA |
| | | | 16ビット・カウンタ・モード動作 | | 0.10 | | μA |
| ウォッチドッグ・タイマ動作電流 | $I_{WDT}$ 注1, 2, 6 | $f_{IL}$ = 15 kHz, $f_{MAIN}$停止 | | | 0.22 | | μA |
| LVD動作電流 | $I_{LVD}$ 注1, 7 | | | | 0.08 | | μA |
| 発振停止検出回路動作電流 | $I_{OSDC}$ 注1 | | | | 0.02 | | μA |
| バッテリ・バックアップ回路動作電流 | $I_{BUP}$ 注1 | | | | 0.05 | | μA |
| A/Dコンバータ動作電流 | $I_{ADC}$ 注1, 8 | 最高速変換時 | 標準モード, $AV_{REFP}$ = $V_{DD}$ = 5.0 V | | 1.3 | 2.4 | mA |
| | | | 低電圧モード, $AV_{REFP}$ = $V_{DD}$ = 3.0 V | | 0.5 | 1.0 | mA |
| A/Dコンバータ基準電圧電流 | $I_{ADREF}$ 注1 | | | | 75.0 | | μA |
| 温度センサ動作電流 | $I_{TMPS}$ 注1 | | | | 105 | | μA |
| コンパレータ動作電流 | $I_{CMP}$ 注1, 9 | $V_{DD}$ = 5.0 V, レギュレータ出力電圧 = 2.1 V | ウィンドウ・モード | | 12.5 | | μA |
| | | | コンパレータ高速モード | | 6.5 | | μA |
| | | | コンパレータ低速モード | | 1.7 | | μA |
| | | $V_{DD}$ = 5.0 V, レギュレータ出力電圧 = 1.8 V | ウィンドウ・モード | | 8.0 | | μA |
| | | | コンパレータ高速モード | | 4.0 | | μA |
| | | | コンパレータ低速モード | | 1.3 | | μA |
| | | $V_{DD}$ = 5.0 V, STOPモード | ウィンドウ・モード | | 8.0 | | μA |
| | | | コンパレータ高速モード | | 4.0 | | μA |
| | | | コンパレータ低速モード | | 1.3 | | μA |
| BGO電流 | $I_{BGO}$ 注1, 10 | | | | 2.00 | 12.20 | mA |
| セルフ・プログラミング動作電流 | $I_{FSP}$ 注1, 11 | | | | 2.00 | 12.20 | mA |

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V） （4/4）

| 項　目 | 略号 | 条　件 | | | MIN. | TYP. | MAX. | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24 ビット ΔΣA/D コンバータ動作電流 | $I_{DSAD}$ 注1, 12 | 4ch ΔΣA/Dコンバータ動作 | | | | 1.50 | 2.25 | mA |
| | | 3ch ΔΣA/Dコンバータ動作 | | | | 1.18 | 1.77 | mA |
| | | 1ch ΔΣA/Dコンバータ動作 | | | | 0.53 | 0.80 | mA |
| SNOOZE動作電流 | $I_{SNOZ}$ 注1, 13 | ADC動作 | モード遷移中 | | | 0.50 | 0.80 | mA |
| | | | 変換動作中，低電圧モード，$AV_{REFP}$ = $V_{DD}$ = 3.0 V | | | 1.20 | 1.80 | mA |
| | | 簡易SPI (CSI)/UART動作 | | | | 0.70 | 1.05 | mA |
| | | DTC動作 | | | | 2.20 | | mA |
| LCD動作電流 | $I_{LCD1}$ 注1, 14, 15 | 外部抵抗分割方式 | $f_{LCD}$ = $f_{SUB}$<br>LCDクロック = 128 Hz<br>1/3バイアス，4時分割 | $V_{DD}$ = 5.0 V<br>$V_{L4}$ = 5.0 V | | 0.06 | | μA |
| | $I_{LCD2}$ 注1, 14 | 内部昇圧方式 | $f_{LCD}$ = $f_{SUB}$<br>LCDクロック = 128 Hz<br>1/3バイアス，4時分割 | $V_{DD}$ = 3.0 V<br>$V_{L4}$ = 3.0 V<br>（VLCD = 04H） | | 0.85 | | μA |
| | | | | $V_{DD}$ = 5.0 V<br>$V_{L4}$ = 5.1 V<br>（VLCD = 12H） | | 1.55 | | μA |
| | $I_{LCD3}$ 注1, 14 | 容量分割方式 | $f_{LCD}$ = $f_{SUB}$<br>LCDクロック = 128 Hz<br>1/3バイアス，4時分割 | $V_{DD}$ = 3.0 V<br>$V_{L4}$ = 3.0 V | | 0.20 | | μA |

注 1. $V_{DD}$に流れる電流です。VBAT端子（バッテリ・バックアップ用電源端子）を選択している場合は，VBATに流れる電流です。

2. 高速オンチップ・オシレータ，高速システム・クロックは停止時。

3. リアルタイム・クロック2にのみ流れる電流です（低速オンチップ・オシレータ，XT1発振回路の動作電流は含みません）。動作モードまたはHALTモードでのリアルタイム・クロック2の動作時は，$I_{DD1}$または$I_{DD2}$に$I_{RTC}$を加算した値が，RL78マイクロコントローラの電流値となります。また，低速オンチップ・オシレータ選択時は$I_{FIL}$を加算してください。$I_{DD2}$のサブシステム・クロック動作にはリアルタイム・クロック2の動作電流が含まれています。

4. 12ビット・インターバル・タイマにのみ流れる電流です（低速オンチップ・オシレータ，XT1発振回路の動作電流は含みません）。動作モードまたはHALTモードでの12ビット・インターバル・タイマの動作時は，$I_{DD1}$または$I_{DD2}$に$I_{TMKA}$を加算した値が，RL78マイクロコントローラの電流値となります。また，低速オンチップ・オシレータ選択時は$I_{FIL}$を加算してください。

5. 8 ビット・インターバル・タイマにのみ流れる電流です（低速オンチップ・オシレータ，XT1発振回路の動作電流は含みません）。動作モードまたはHALTモードでの8ビット・インターバル・タイマの動作時は，$I_{DD1}$または$I_{DD2}$に$I_{TMT}$を加算した値が，RL78マイクロコントローラの電流値となります。また，低速オンチップ・オシレータ選択時は$I_{FIL}$を加算してください。

6. ウォッチドッグ・タイマにのみ流れる電流です（低速オンチップ・オシレータの動作電流を含みます）。ウォッチドッグ・タイマの動作時は，$I_{DD1}$, $I_{DD2}$または$I_{DD3}$に$I_{WDT}$を加算した値が，RL78マイクロコントローラの電流値となります。

7. LVD回路にのみ流れる電流です。LVD回路の動作時は，$I_{DD1}$, $I_{DD2}$または$I_{DD3}$に$I_{LVD}$を加算した値がRL78マイクロコントローラの電流値となります。

8. A/Dコンバータにのみ流れる電流です。動作モードまたはHALTモードでのA/Dコンバータの動作時は$I_{DD1}$または$I_{DD2}$に$I_{ADC}$を加算した値が，RL78マイクロコントローラの電流値となります。

注 9. コンパレータ回路にのみ流れる電流です。コンパレータ回路の動作時は，$I_{DD1}$，$I_{DD2}$または$I_{DD3}$に$I_{CMP}$を加算した値が，RL78マイクロコントローラの電流値となります。

10. コード・フラッシュ1 KB書き換え時に流れる電流です。

11. セルフ・プログラミング時に流れる電流です。

12. 24ビットΔΣA/Dコンバータにのみ流れる電流です。24ビットΔΣA/Dコンバータの動作時は$I_{DD1}$または$I_{DD2}$に$I_{DSAD}$を加算した値が，RL78マイクロコントローラの電流値となります。

13. SNOOZEモードへの移行時間は，24. 3. 3　SNOOZEモードを参照してください。

14. LCDコントローラ／ドライバにのみ流れる電流です。動作モードまたはHALTモード時にLCDコントローラ／ドライバが動作中の場合，電源電流（$I_{DD1}$または$I_{DD2}$）にLCD動作電流（$I_{LCD1}$または$I_{LCD2}$または$I_{LCD3}$）を加算した値が，RL78マイクロコントローラの電流値となります。LCDパネルに流れる電流は含みません。TYP.値，MAX.値は以下の条件の値になります。

・20端子をセグメント機能として設定し，全点灯

・システム・クロックに$f_{SUB}$選択，LCDクロック = 128 Hz時（LCDC0 = 07H）

・4時分割，1/3バイアス設定

15. 外部抵抗分割方式使用時の外部分割抵抗に流れる電流は含みません。

備考1. $f_{IL}$　：低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

2. $f_{SUB}$　：サブシステム・クロック周波数（XT1クロック発振周波数）

3. $f_{CLK}$　：CPU／周辺ハードウエア・クロック周波数

4. TYP.値の温度条件は，$T_A$ = 25 ℃です。

## 37. 4　AC特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 命令サイクル（最小命令実行時間） | $T_{CY}$ | メイン・システム・クロック（$f_{MAIN}$）動作 | HS（高速メイン）モード | 2.7 V≦$V_{DD}$注1≦5.5 V | 0.0417 | | 1 | μs |
| | | | | 2.4 V≦$V_{DD}$注1＜2.7 V | 0.0625 | | 1 | μs |
| | | | LS（低速メイン）モード | 1.9 V≦$V_{DD}$注1≦5.5 V | 0.125 | | 1 | μs |
| | | サブシステム・クロック（$f_{SUB}$）動作 | | 1.9 V≦$V_{DD}$注1≦5.5 V | 28.5 | 30.5 | 31.3 | μs |
| | | セルフ・プログラミング時 | HS（高速メイン）モード | 2.7 V≦$V_{DD}$注1≦5.5 V | 0.0417 | | 1 | μs |
| | | | | 2.4 V≦$V_{DD}$注1＜2.7 V | 0.0625 | | 1 | μs |
| | | | LS（低速メイン）モード | 1.9 V≦$V_{DD}$注1≦5.5 V | 0.125 | | 1 | μs |
| 外部システム・クロック周波数 | $f_{EX}$ | 2.7 V≦$V_{DD}$注1≦5.5 V | | | 1.0 | | 20.0 | MHz |
| | | 2.4 V≦$V_{DD}$注1＜2.7 V | | | 1.0 | | 16.0 | MHz |
| | | 1.9 V≦$V_{DD}$注1＜2.4 V | | | 1.0 | | 8.0 | MHz |
| | $f_{EXS}$ | | | | 32 | | 35 | kHz |
| 外部システム・クロック入力ハイ，ロウ・レベル幅 | $t_{EXH}$, $t_{EXL}$ | 2.7 V≦$V_{DD}$注1≦5.5 V | | | 24 | | | ns |
| | | 2.4 V≦$V_{DD}$注1＜2.7 V | | | 30 | | | ns |
| | | 1.9 V≦$V_{DD}$注1＜2.4 V | | | 60 | | | ns |
| | $t_{EXHS}$, $t_{EXLS}$ | | | | 13.7 | | | μs |
| TI00-TI07入力ハイ・レベル幅，ロウ・レベル幅 | $t_{TIH}$, $t_{TIL}$ | | | | 1/$f_{MCK}$＋10 | | | ns注2 |
| TO00-TO07出力周波数 | $f_{TO}$ | HS（高速メイン）モード | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 12 | MHz |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V | | | | 8 | MHz |
| | | | 2.4 V≦$EV_{DD}$＜2.7 V | | | | 4 | MHz |
| | | LS（低速メイン）モード | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 4 | MHz |
| PCLBUZ0, PCLBUZ1出力周波数 | $f_{PCL}$ | HS（高速メイン）モード | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 16 | MHz |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V | | | | 8 | MHz |
| | | | 2.4 V≦$EV_{DD}$＜2.7 V | | | | 4 | MHz |
| | | LS（低速メイン）モード | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 4 | MHz |
| 割り込み入力ハイ・レベル幅，ロウ・レベル幅 | $t_{INTH}$, $t_{INTL}$ | INTP0 | 1.9 V≦$V_{DD}$注1≦5.5 V | | 1 | | | μs |
| | | INTP1-INTP7 | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 1 | | | μs |
| $\overline{\text{RESET}}$ロウ・レベル幅 | $t_{RSL}$ | | | | 10 | | | μs |

注1.　バッテリ・バックアップ機能で選択された電源電圧（$V_{DD}$端子またはVBAT端子)です。

2.　低電圧インタフェース時は，次の条件も必要になります。

1.9 V≦$V_{DD}$＜2.7 V　：MIN. 125 ns

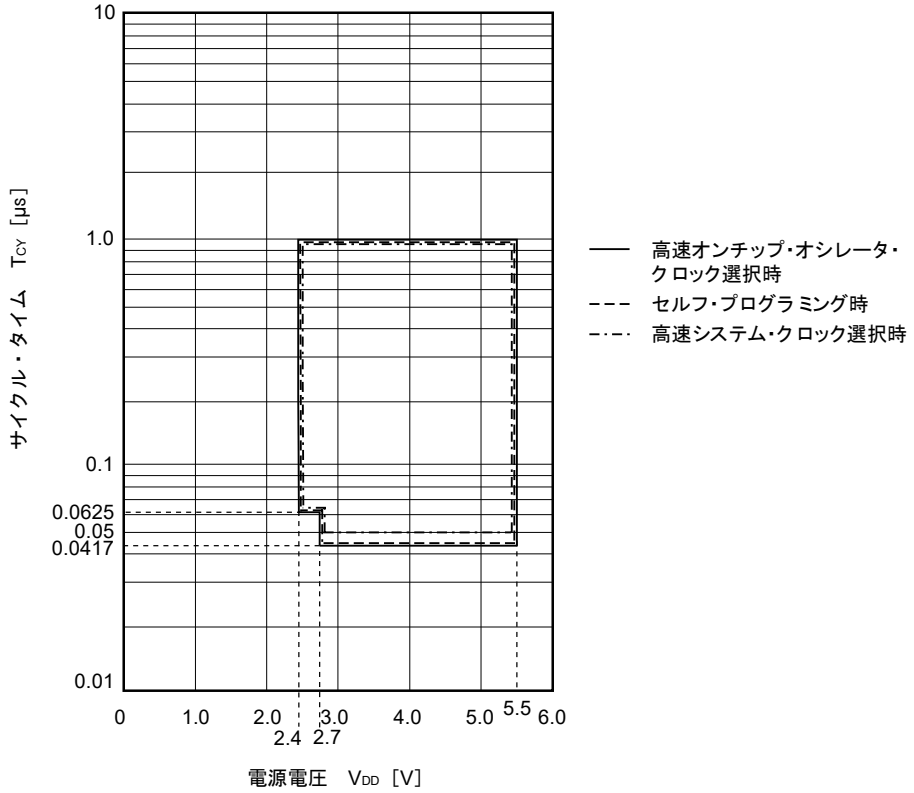
備考　$f_{MCK}$：タイマ・アレイ･ユニットの動作クロック周波数。

（タイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のCKSmn0, CKSmn1ビットで設定する動作クロック。

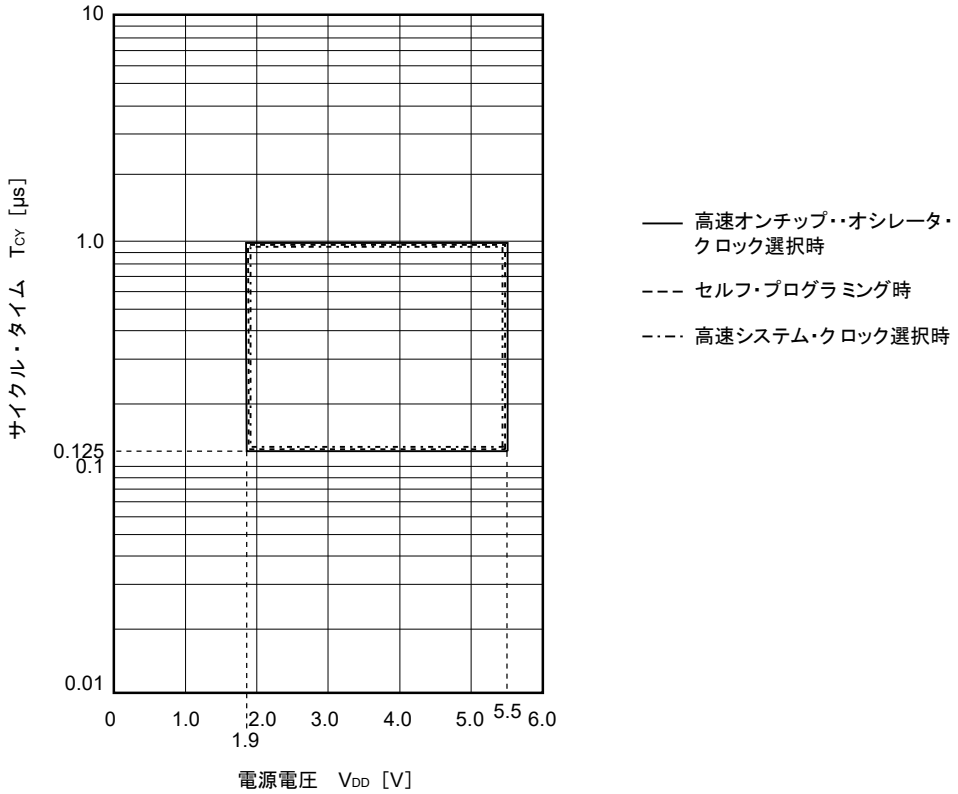
m：ユニット番号(m = 0)，n：チャネル番号（n = 0-7））

メイン・システム・クロック動作時の最小命令実行時間

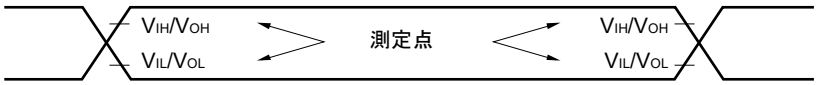
TCY vs VDD（HS（高速メイン）モード）



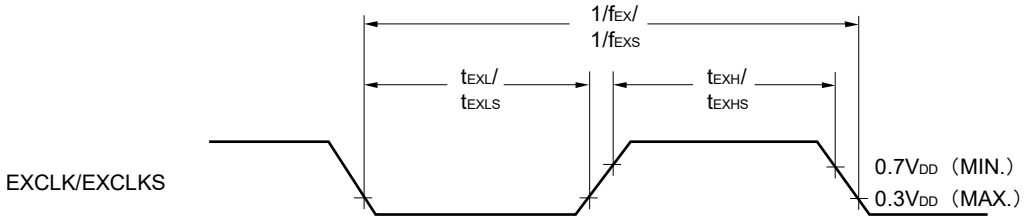

TCY vs VDD（LS（低速メイン）モード）



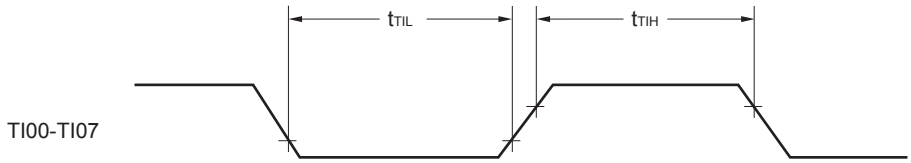
ACタイミング測定点

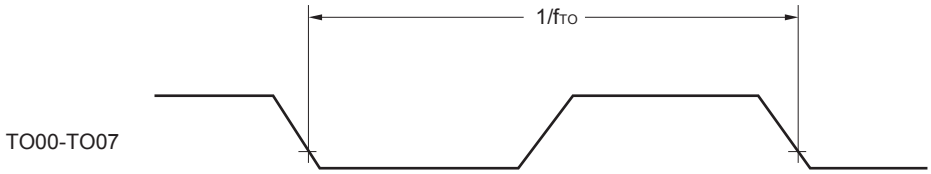



外部システム・クロック・タイミング

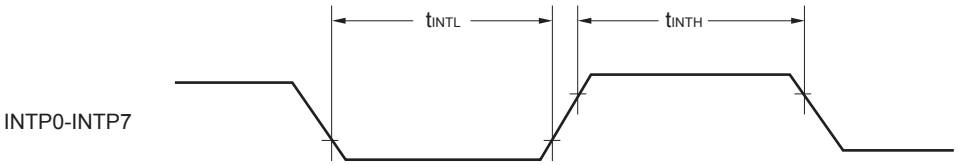



TI/TOタイミング

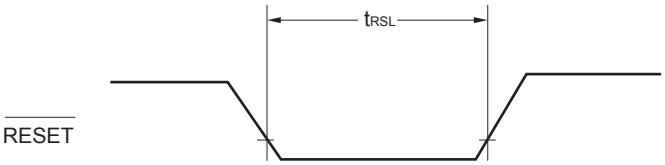



割り込み要求入力タイミング

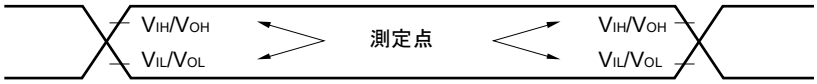



$\overline{\text{RESET}}$入力タイミング



# 37. 5　周辺機能特性

ACタイミング測定点




## 37. 5. 1　シリアル・アレイ・ユニット

（1）同電位通信時（UARTモード）（専用ボー・レート・ジェネレータ出力）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| 転送レート注1 | | 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | $f_{MCK}$/6注2 | | $f_{MCK}$/6注2 | bps |
| | | 最大転送レート理論値 $f_{MCK}$ = $f_{CLK}$注3 | | 4.0 | | 1.3 | Mbps |
| | | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | | $f_{MCK}$/6注2 | bps |
| | | 最大転送レート理論値 $f_{MCK}$ = $f_{CLK}$注3 | | | | 1.3 | Mbps |

注 1.　SNOOZEモードでの転送レートは，4800 bpsのみとなります。

2.　低電圧インタフェース時は，次の条件も必要になります。

2.4 V≦$EV_{DD}$＜2.7 V　：MAX. 2.6 Mbps

1.9 V≦$EV_{DD}$＜2.4 V　：MAX. 1.3 Mbps

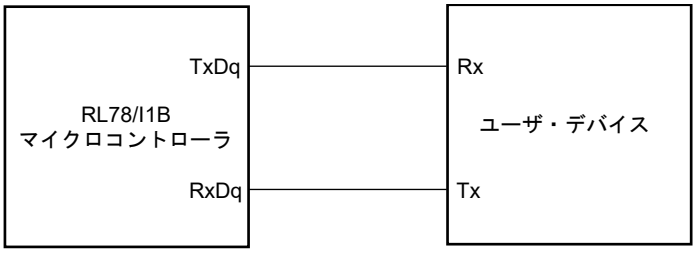
3.　CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）の最高動作周波数を次に示します。

HS（高速メイン）モード　　：24 MHz

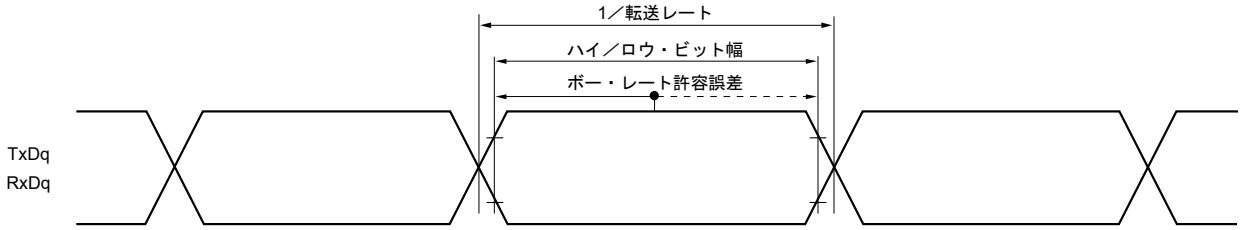
LS（低速メイン）モード　　：8 MHz

注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，RxDq端子は通常入力バッファ，TxDq端子は通常出力モードを選択。

UARTモード接続図（同電位通信時）



UARTモードのビット幅（同電位通信時）（参考）




備考1.　q：UART番号（q = 0-2），g：PIM, POM番号（g = 0, 1, 8）

2.　$f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。

m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00-03, 10, 11））

（2）同電位通信，簡易SPI (CSI)モード時（マスタ・モード，SCKp…内部クロック出力）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCKpサイクル・タイム | $t_{KCY1}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 167 | | 500 | | ns |
| | | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 250 | | 500 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 500 | | ns |
| SCKpハイ，ロウ・レベル幅 | $t_{KH1}$, $t_{KL1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | $t_{KCY1}$/2－12 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | $t_{KCY1}$/2－18 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| | | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | $t_{KCY1}$/2－38 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| SIpセットアップ時間（対SCKp↑）注1 | $t_{SIK1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 44 | | 110 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 44 | | 110 | | ns |
| | | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 75 | | 110 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 110 | | ns |
| SIpホールド時間（対SCKp↑）注1 | $t_{KSI1}$ | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 19 | | 19 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 19 | | ns |
| SCKp↓→SOp出力遅延時間注2 | $t_{KSO1}$ | C = 30 pF注3 | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 25 | | 25 | ns |
| | | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 25 | ns |

注1.　DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↓”となります。

2.　DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↑”となります。

3.　Cは，SCKp, SOp出力ラインの負荷容量です。

注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SIp端子は通常入力バッファ，SOp端子とSCKp端子は通常出力モードを選択。

備考 1.　p：CSI番号（p = 00），m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0），
g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

2.　$f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。
m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00））

（3）同電位通信，簡易SPI (CSI)モード時（スレーブ・モード，SCKp…外部クロック入力）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCKpサイクル・タイム注4 | $t_{KCY2}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 20 MHz＜$f_{MCK}$ | 8/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | $f_{MCK}$≦20 MHz | 6/$f_{MCK}$ | | 6/$f_{MCK}$ | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 16 MHz＜$f_{MCK}$ | 8/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | $f_{MCK}$≦16 MHz | 6/$f_{MCK}$ | | 6/$f_{MCK}$ | | ns |
| | | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 6/$f_{MCK}$ かつ500 | | 6/$f_{MCK}$ | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 6/$f_{MCK}$ | | ns |
| SCKpハイ，ロウ・レベル幅 | $t_{KH2}$, $t_{KL2}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | $t_{KCY2}$/2－7 | | $t_{KCY2}$/2－7 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | $t_{KCY2}$/2－8 | | $t_{KCY2}$/2－8 | | ns |
| | | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | $t_{KCY2}$/2－18 | | $t_{KCY2}$/2－18 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | $t_{KCY2}$/2－18 | | ns |
| SIpセットアップ時間（対SCKp↑）注1 | $t_{SIK2}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 1/$f_{MCK}$＋20 | | 1/$f_{MCK}$＋30 | | ns |
| | | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 1/$f_{MCK}$＋30 | | 1/$f_{MCK}$＋30 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 1/$f_{MCK}$＋30 | | ns |
| SIpホールド時間（対SCKp↑）注1 | $t_{KSI2}$ | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 1/$f_{MCK}$＋31 | | 1/$f_{MCK}$＋31 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 1/$f_{MCK}$＋31 | | ns |
| SCKp↓→SOp出力遅延時間注2 | $t_{KSO2}$ | C = 30 pF注3 | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 2/$f_{MCK}$＋44 | | 2/$f_{MCK}$＋110 | ns |
| | | | 2.4 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 2/$f_{MCK}$＋75 | | 2/$f_{MCK}$＋110 | ns |
| | | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | | | 2/$f_{MCK}$＋110 | ns |

注1. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↓”となります。

2. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↑”となります。

3. Cは，SOp出力ラインの負荷容量です。

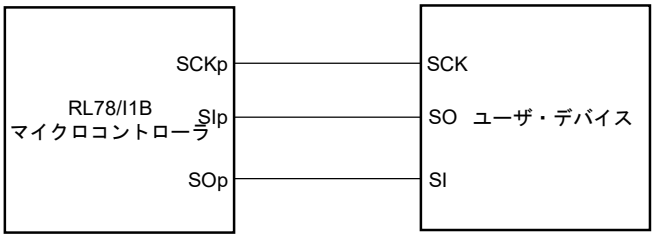
4. SNOOZEモードでの転送レートは，MAX.：1 Mbps

注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SIp端子とSCKp端子は通常入力バッファ，SOp端子は通常出力モードを選択。

備考1. p：CSI番号（p = 00），m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0），
g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

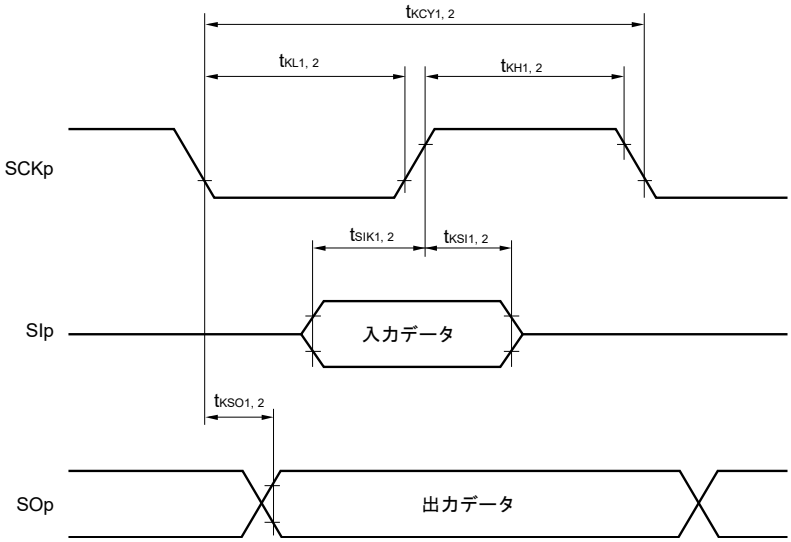
2. $f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。
m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00））

簡易SPI (CSI)モード接続図（同電位通信時）



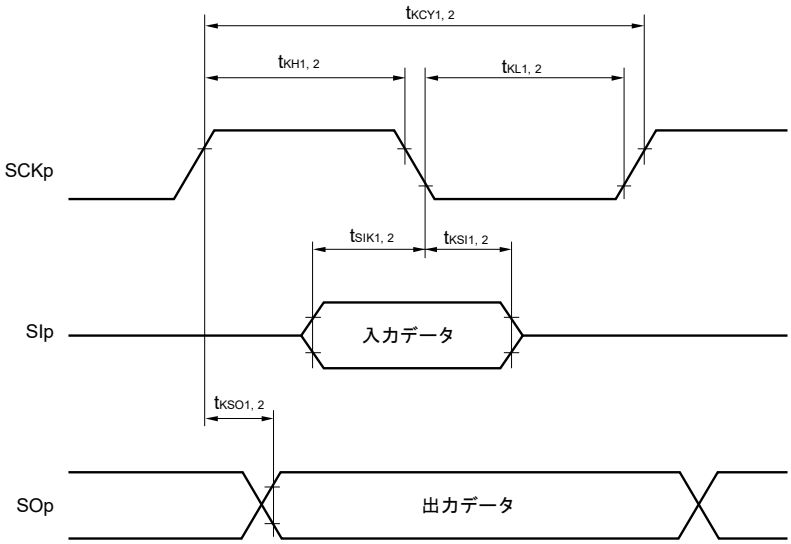

簡易SPI (CSI)モード・シリアル転送タイミング（同電位通信時）

（DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき）




簡易SPI (CSI)モード・シリアル転送タイミング（同電位通信時）

（DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき）




備考1.　p：CSI番号（p = 00）

2.　m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00）

（4）同電位通信時（簡易I²Cモード）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCLrクロック周波数 | $f_{SCL}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 1000注1 | | 400注1 | kHz |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 3 kΩ | | 400注1 | | 400注1 | kHz |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$＜2.7 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5 kΩ | | 300注1 | | 300注1 | kHz |
| SCLr = ”L”のホールド・タイム | $t_{LOW}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 475 | | 1150 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 3 kΩ | 1150 | | 1150 | | ns |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$＜2.7 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5 kΩ | 1550 | | 1550 | | ns |
| SCLr = ”H”のホールド・タイム | $t_{HIGH}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 475 | | 1150 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 3 kΩ | 1150 | | 1150 | | ns |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$＜2.7 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5 kΩ | 1550 | | 1550 | | ns |
| データ・セットアップ時間（受信時） | $t_{SU:DAT}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 1/$f_{MCK}$＋85注1, 2 | | 1/$f_{MCK}$＋145注1, 2 | | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 3 kΩ | 1/$f_{MCK}$＋145注1, 2 | | 1/$f_{MCK}$＋145注1, 2 | | ns |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$＜2.7 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5 kΩ | 1/$f_{MCK}$＋230注1, 2 | | 1/$f_{MCK}$＋230注1, 2 | | ns |
| データ・ホールド時間（送信時） | $t_{HD:DAT}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 0 | 305 | 0 | 305 | ns |
| | | 1.9 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 3 kΩ | 0 | 355 | 0 | 355 | ns |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$＜2.7 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5 kΩ | 0 | 405 | 0 | 405 | ns |

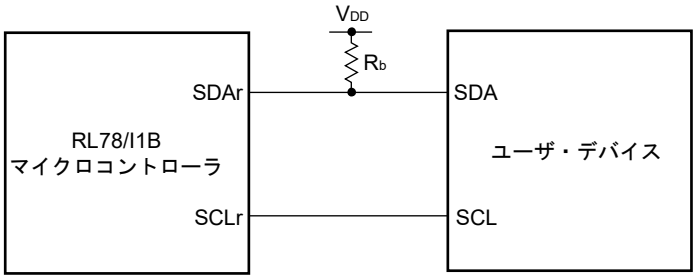
注 1.　かつ$f_{MCK}$/4以下に設定してください。

2.　$f_{MCK}$値は，SCLr = "L"とSCLr = "H"のホールド・タイムを越えない値に設定してください。

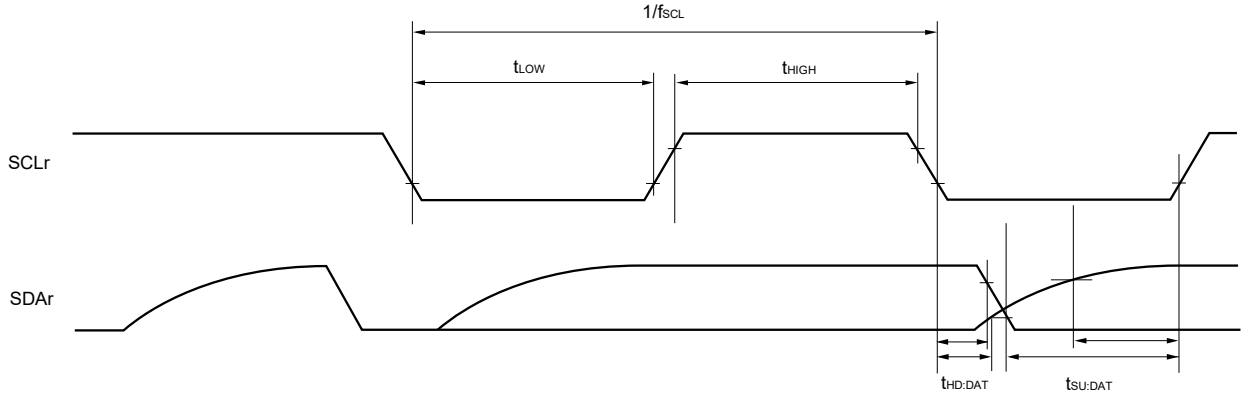
3.　HS（高速メイン）モード時は2.4 Vになります。

（注意，備考は次ページにあります。）

簡易I²Cモード接続図（同電位通信時）




簡易I²Cモード・シリアル転送タイミング（同電位通信時）




注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SDArは通常入力バッファ，N-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択，SCLrは通常出力モードを選択。

備考1.　$R_b$ [Ω]：通信ライン（SDAr）プルアップ抵抗値，$C_b$ [F]：通信ライン（SCLr, SDAr）負荷容量値

2.　r：IIC番号（r = 00, 10），g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

3.　$f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。

m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0, 2），mn = 00, 02）

（5）異電位（1.9 V系，2.5 V系，3 V系）通信時（UARTモード）（1/2）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| 転送レート | | 受信 | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V,<br>2.7 V≦$V_b$≦4.0 V | | $f_{MCK}$/6 注1 | | $f_{MCK}$/6 注1 | bps |
| | | | 最大転送レート理論値<br>$f_{MCK}$ = $f_{CLK}$ 注4 | | 4.0 | | 1.3 | Mbps |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V,<br>2.3 V≦$V_b$≦2.7 V | | $f_{MCK}$/6 注1 | | $f_{MCK}$/6 注1 | bps |
| | | | 最大転送レート理論値<br>$f_{MCK}$ = $f_{CLK}$ 注4 | | 4.0 | | 1.3 | Mbps |
| | | | 1.9 V 注5≦$EV_{DD}$＜3.3 V,<br>1.8 V≦$V_b$≦2.0 V | | $f_{MCK}$/6<br>注1,2,3 | | $f_{MCK}$/6<br>注1,2 | bps |
| | | | 最大転送レート理論値<br>$f_{MCK}$ = $f_{CLK}$ 注4 | | 4.0 | | 1.3 | Mbps |

注 1.　SNOOZEモードでの転送レートは，4800 bpsのみとなります。

2.　$EV_{DD}$≧$V_b$で使用してください。

3.　低電圧インタフェース時は，次の条件も必要になります。

2.4 V≦$EV_{DD}$＜2.7 V　：MAX. 2.6 Mbps

1.9 V≦$EV_{DD}$＜2.4 V　：MAX. 1.3 Mbps

4.　CPU／周辺ハードウエア・クロック（$f_{CLK}$）の最高動作周波数を次に示します。

HS（高速メイン）モード　　：24 MHz

LS（低速メイン）モード　　：8 MHz

5.　HS（高速メイン）モード時は2.4 Vになります。

注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，RxDq端子はTTL入力バッファ，TxDq端子はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考1.　$V_b$ [V]：通信ライン電圧

2.　q：UART番号（q = 0-2），g：PIM, POM番号（g = 0, 1, 8）

3.　$f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。

m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00-03, 10, 11））

（5）異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）通信時（UARTモード）（2/2）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| 転送レート | | 送信 | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V | | 注1, 2 | | 注1, 2 | bps |
| | | | 最大転送レート理論値 $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ, $V_b$ = 2.7 V | | 2.8[注3] | | 2.8[注3] | Mbps |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V | | 注2, 4 | | 注2, 4 | bps |
| | | | 最大転送レート理論値 $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ, $V_b$ = 2.3 V | | 1.2[注5] | | 1.2[注5] | Mbps |
| | | | 1.9 V[注9]≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V | | 注2, 6, 7 | | 注2, 6, 7 | bps |
| | | | 最大転送レート理論値 $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ, $V_b$ = 1.6 V | | 0.43[注8] | | 0.43[注8] | Mbps |

注1. $f_{MCK}$/6または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が，有効な最大転送レートとなります。

4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1-\frac{2.2}{V_b})\} \times 3} \quad [\text{bps}]$$

$$\text{ボー・レート許容誤差（理論値）} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート}\times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1-\frac{2.2}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \quad [\%]$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

2. SNOOZEモードでの転送レートは，4800 bpsのみとなります。
3. この値は，一例として，条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注1により算出してください。
4. $f_{MCK}$/6または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が，有効な最大転送レートとなります。

2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1-\frac{2.0}{V_b})\} \times 3} \quad [\text{bps}]$$

$$\text{ボー・レート許容誤差（理論値）} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート}\times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1-\frac{2.0}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \quad [\%]$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

5. この値は，一例として，条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注4により算出してください。
6. $EV_{DD}$≧$V_b$で使用してください。

注7.　$f_{MCK}$/6または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が，有効な最大転送レートとなります。

1.9 V≦$EV_{DD}$＜2.7 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1-\frac{1.5}{V_b})\} \times 3} \quad [\text{bps}]$$

$$\text{ボー・レート許容誤差（理論値）} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート}\times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1-\frac{1.5}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \quad [\%]$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

8.　この値は，一例として，条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注7により算出してください。

9.　HS（高速メイン）モード時は2.4 Vになります。

注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，RxDq端子はTTL入力バッファ，TxDq端子はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考1.　$R_b$ [Ω]：通信ライン（TxDq）プルアップ抵抗値，$C_b$ [F]：通信ライン（TxDq）負荷容量値，$V_b$ [V]：通信ライン電圧

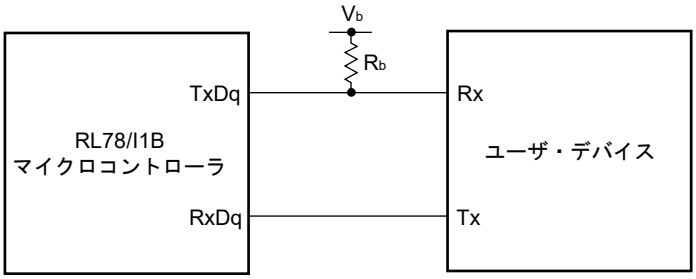
2.　q：UART番号（q = 0-2），g：PIM, POM番号（g = 0, 1, 8）

3.　$f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

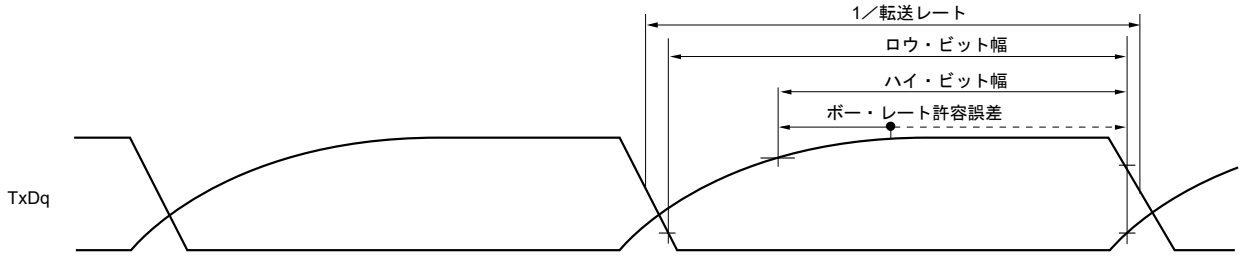
（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。

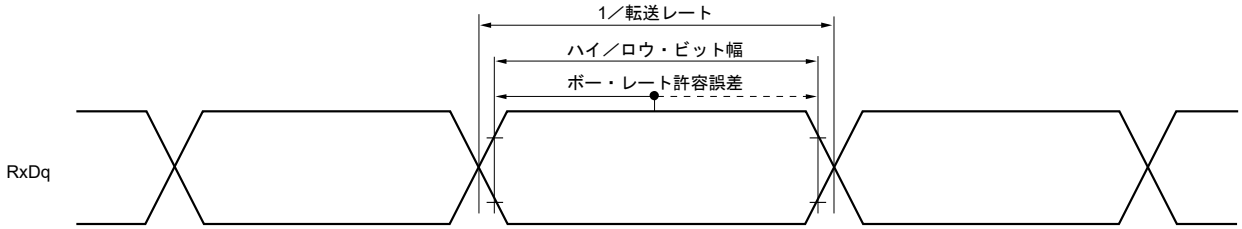
m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00-03, 10, 11））

UARTモード接続図（異電位通信時）



UARTモードのビット幅（異電位通信時）（参考）




注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，RxDq端子はTTL入力バッファ，TxDq端子はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考1.　$R_b$ [Ω]：通信ライン（TxDq）プルアップ抵抗値，$V_b$ [V]：通信ライン電圧

2.　q：UART番号（q = 0-2），g：PIM, POM番号（g = 0, 1, 8）

（6）異電位（2.5 V系，3 V系）通信（$f_{MCK}/2$），簡易SPI (CSI)モード時（マスタ・モード，SCKp…内部クロック出力，CSI00のみ対応）（1/2）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード MIN. | HS（高速メイン）モード MAX. | LS（低速メイン）モード MIN. | LS（低速メイン）モード MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SCKpサイクル・タイム | $t_{KCY1}$ | $t_{KCY1}$≧2/$f_{CLK}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | 200 | | 1150 | | ns |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 300 | | 1150 | | ns |
| SCKpハイ・レベル幅 | $t_{KH1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－50 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－120 | | $t_{KCY1}$/2－120 | | ns |
| SCKpロウ・レベル幅 | $t_{KL1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－7 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－10 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| SIpセットアップ時間（対SCKp↑）注1 | $t_{SIK1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | 58 | | 479 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 121 | | 479 | | ns |
| SIpホールド時間（対SCKp↑）注1 | $t_{KSI1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | 10 | | 10 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 10 | | 10 | | ns |
| SCKp↓→SOp出力遅延時間注1 | $t_{KSO1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | | 60 | | 60 | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | | 130 | | 130 | ns |

（注，注意，備考は次ページにあります。）

(6) 異電位（2.5 V系，3 V系）通信（$f_{MCK}$/2），簡易SPI (CSI)モード時（マスタ・モード，SCKp…内部クロック出力，CSI00のみ対応）（2/2）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

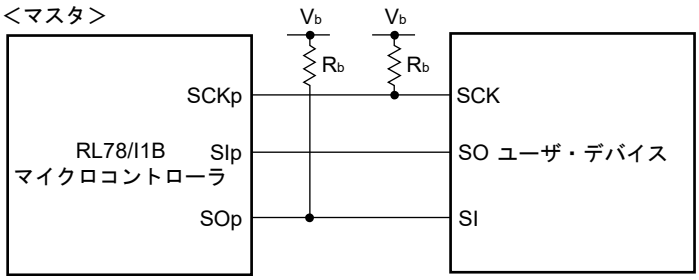
| 項　目 | 略号 | 条　件 | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SIpセットアップ時間（対SCKp↓）注2 | $t_{SIK1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | 23 | | 110 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 33 | | 110 | | ns |
| SIpホールド時間（対SCKp↓）注2 | $t_{KSI1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | 10 | | 10 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 10 | | 10 | | ns |
| SCKp↑→SOp出力遅延時間注2 | $t_{KSO1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | 10 | | 10 | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 20 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 10 | | 10 | ns |

注1. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。

2. DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき。

注意 ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SIp端子はTTL入力バッファ，SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

簡易SPI (CSI)モード接続図（異電位通信時）




備考1. $R_b$ [Ω]：通信ライン（SCKp, SOp）プルアップ抵抗値，$C_b$ [F]：通信ライン（SCKp, SOp）負荷容量値，$V_b$ [V]：通信ライン電圧

2. p：CSI番号（p = 00），m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0），g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

3. $f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。
m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00））

4. このスペックは，CSI00の周辺I/Oリダイレクト機能未使用時のみ対応します。

（7）異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）通信（$f_{MCK}$/4），簡易SPI (CSI)モード時（マスタ・モード，SCKp…内部クロック出力）（1/3）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCKpサイクル・タイム | $t_{KCY1}$ | $t_{KCY1}$≧4/$f_{CLK}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | 300 | | 1150 | | ns |
| | | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 500 | | 1150 | | ns |
| | | | 1.9 V[注4]≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 1150 | | 1150 | | ns |
| SCKpハイ・レベル幅 | $t_{KH1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－75 | | $t_{KCY1}$/2－75 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－170 | | $t_{KCY1}$/2－170 | | ns |
| | | 1.9 V[注4]≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V[注3], $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－458 | | $t_{KCY1}$/2－458 | | ns |
| SCKpロウ・レベル幅 | $t_{KL1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－12 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－18 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |
| | | 1.9 V[注4]≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V[注3], $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | | $t_{KCY1}$/2－50 | | $t_{KCY1}$/2－50 | | ns |

（注，注意，備考は次々ページにあります。）

（7）異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）通信（$f_{MCK}$/4），簡易SPI (CSI)モード時（マスタ・モード，SCKp…内部クロック出力）（2/3）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略号 | 条　件 | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SIpセットアップ時間（対SCKp↑）注1 | $t_{SIK1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | 81 | | 479 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 177 | | 479 | | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注3, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 479 | | 479 | | ns |
| SIpホールド時間（対SCKp↑）注1 | $t_{KSI1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | 19 | | 19 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 19 | | 19 | | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注3, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 19 | | 19 | | ns |
| SCKp↓→SOp出力遅延時間注1 | $t_{KSO1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | 100 | | 100 | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 195 | | 195 | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注3, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | | 483 | | 483 | ns |

（注，注意，備考は次ページにあります。）

（7）異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）通信（$f_{MCK}$/4），簡易SPI (CSI)モード時（マスタ・モード，SCKp…内部クロック出力）（3/3）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略号 | 条　件 | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SIpセットアップ時間（対SCKp↓）注2 | $t_{SIK1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | 44 | | 110 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 44 | | 110 | | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注3, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 110 | | 110 | | ns |
| SIpホールド時間（対SCKp↓）注2 | $t_{KSI1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | 19 | | 19 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 19 | | 19 | | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注3, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 19 | | 19 | | ns |
| SCKp↑→SOp出力遅延時間注2 | $t_{KSO1}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | 25 | | 25 | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 25 | | 25 | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注3, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | | 25 | | 25 | ns |

注1.　DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。

2.　DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき。

3.　$EV_{DD}$≧$V_b$で使用してください。

4.　HS（高速メイン）モード時は2.4 Vになります。

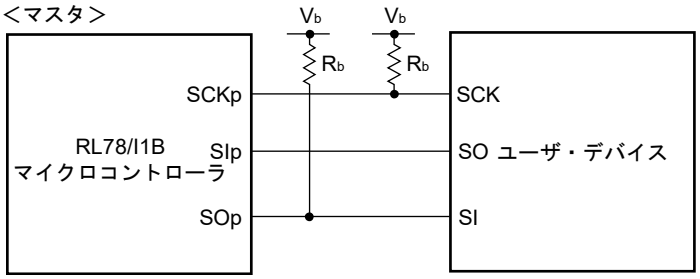
注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SIp端子はTTL入力バッファ，SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考1.　$R_b$ [Ω]：通信ライン（SCKp, SOp）プルアップ抵抗値，$C_b$ [F]：通信ライン（SCKp, SOp）負荷容量値，$V_b$ [V]：通信ライン電圧

2.　p：CSI番号（p = 00），m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00），g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

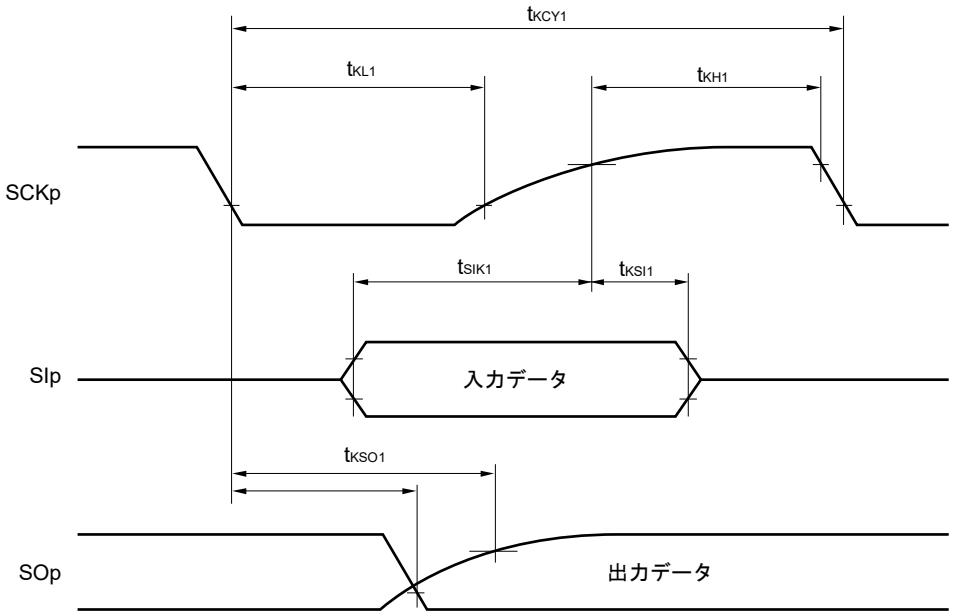
3.　$f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
（シリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定する動作クロック。
m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00））

簡易SPI (CSI)モード接続図（異電位通信時）

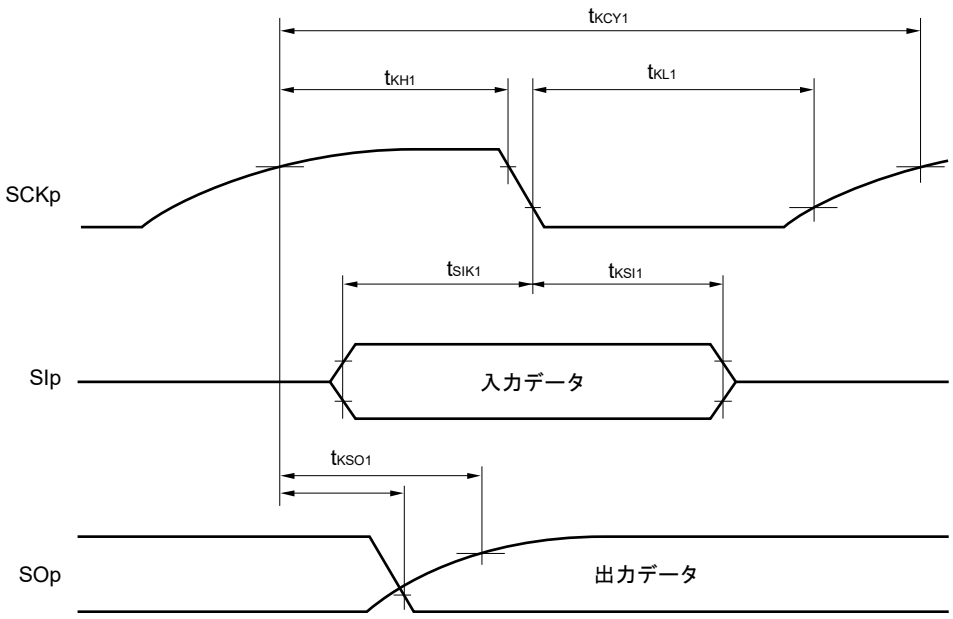



簡易SPI (CSI)モード・シリアル転送タイミング：マスタ・モード（異電位通信時）

（DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき）



簡易SPI (CSI)モード・シリアル転送タイミング：マスタ・モード（異電位通信時）
（DAPmn= 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき）




注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SIp端子はTTL入力バッファ，SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考　p：CSI番号（p = 00），m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00），g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

（8）異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）通信，簡易SPI (CSI)モード時（スレーブ・モード，SCKp…外部クロック入力）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）（1/2）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCKpサイクル・タイム[注1] | $t_{KCY2}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V | 20 MHz＜$f_{MCK}$≦24 MHz | 12/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | 8 MHz＜$f_{MCK}$≦20 MHz | 10/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | 4 MHz＜$f_{MCK}$≦8 MHz | 8/$f_{MCK}$ | | 16/$f_{MCK}$ | | ns |
| | | | $f_{MCK}$≦4 MHz | 6/$f_{MCK}$ | | 10/$f_{MCK}$ | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V | 20 MHz＜$f_{MCK}$≦24 MHz | 16/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | 16 MHz＜$f_{MCK}$≦20 MHz | 14/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | 8 MHz＜$f_{MCK}$≦16 MHz | 12/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | 4 MHz＜$f_{MCK}$≦8 MHz | 8/$f_{MCK}$ | | 16/$f_{MCK}$ | | ns |
| | | | $f_{MCK}$≦4 MHz | 6/$f_{MCK}$ | | 10/$f_{MCK}$ | | ns |
| | | 1.9 V[注5]≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V[注2] | 20 MHz＜$f_{MCK}$≦24 MHz | 36/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | 16 MHz＜$f_{MCK}$≦20 MHz | 32/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | 8 MHz＜$f_{MCK}$≦16 MHz | 26/$f_{MCK}$ | | – | | ns |
| | | | 4 MHz＜$f_{MCK}$≦8 MHz | 16/$f_{MCK}$ | | 16/$f_{MCK}$ | | ns |
| | | | $f_{MCK}$≦4 MHz | 10/$f_{MCK}$ | | 10/$f_{MCK}$ | | ns |

（注，注意，備考は次ページにあります。）

（8）異電位（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）通信，簡易SPI (CSI)モード時（スレーブ・モード，SCKp…外部クロック入力）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）（2/2）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCKp ハイ，ロウ・レベル幅 | $t_{KH2}$, $t_{KL2}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V | $t_{KCY2}$/2－12 | | $t_{KCY2}$/2－50 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V | $t_{KCY2}$/2－18 | | $t_{KCY2}$/2－50 | | ns |
| | | 1.9 V注5≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2 | $t_{KCY2}$/2－50 | | $t_{KCY2}$/2－50 | | ns |
| SIpセットアップ時間（対SCKp↑）注3 | $t_{SIK2}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.3 V≦$V_b$≦4.0 V注2 | 1/$f_{MCK}$＋20 | | 1/$f_{MCK}$＋30 | | ns |
| | | 1.9 V注5≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2 | 1/$f_{MCK}$＋30 | | 1/$f_{MCK}$＋30 | | ns |
| SIpホールド時間（対SCKp↑）注3 | $t_{KSI2}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.3 V≦$V_b$≦4.0 V注2 | 1/$f_{MCK}$＋31 | | 1/$f_{MCK}$＋31 | | ns |
| | | 1.9 V注5≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2 | 1/$f_{MCK}$＋31 | | 1/$f_{MCK}$＋31 | | ns |
| SCKp↓→Sop出力遅延時間注4 | $t_{KSO2}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 1.4 kΩ | | 2/$f_{MCK}$＋120 | | 2/$f_{MCK}$＋573 | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 2/$f_{MCK}$＋214 | | 2/$f_{MCK}$＋573 | ns |
| | | 1.9 V注5≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2, $C_b$ = 30 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | | 2/$f_{MCK}$＋573 | | 2/$f_{MCK}$＋573 | ns |

注1. SNOOZEモードでの転送レートは，MAX.：1 Mbps
2. $EV_{DD}$≧$V_b$で使用してください。
3. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↓”となります。
4. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↑”となります。
5. HS（高速メイン）モード時は2.4 Vになります。

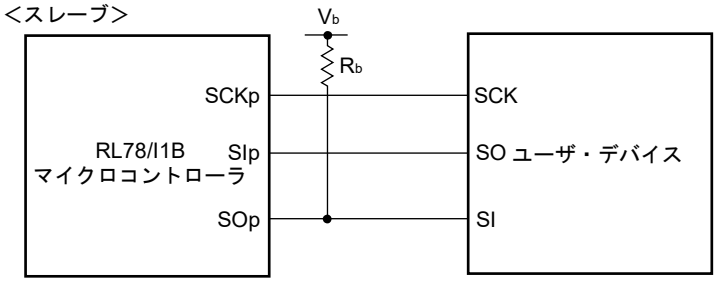
注意 ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SIp端子とSCKp端子はTTL入力バッファ，SOp端子はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考1. $R_b$ [Ω]：通信ライン（SOp）プルアップ抵抗値，$C_b$ [F]：通信ライン（SOp）負荷容量値，Vb [V]：通信ライン電圧

2. p：CSI番号（p = 00），m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00），g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

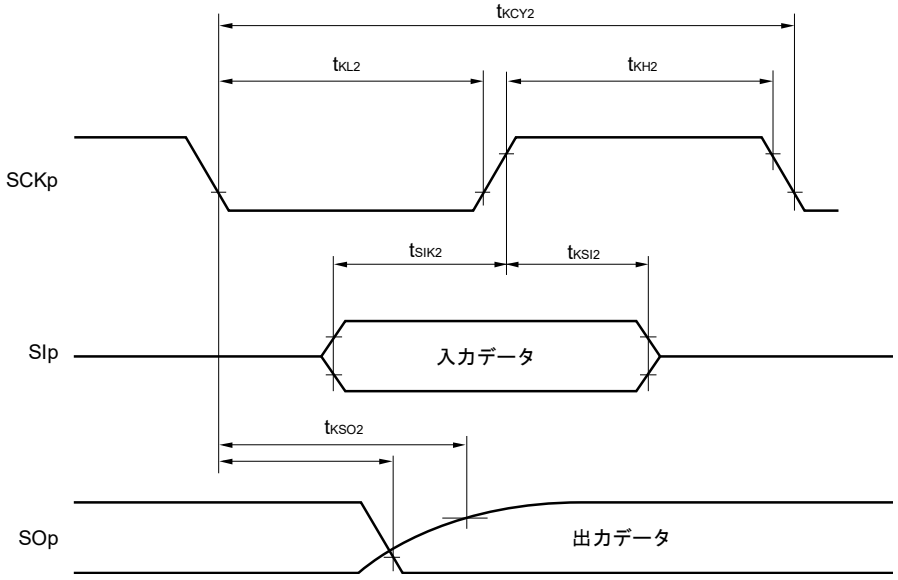
3. $f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。
m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00））

簡易SPI (CSI)モード接続図（異電位通信時）



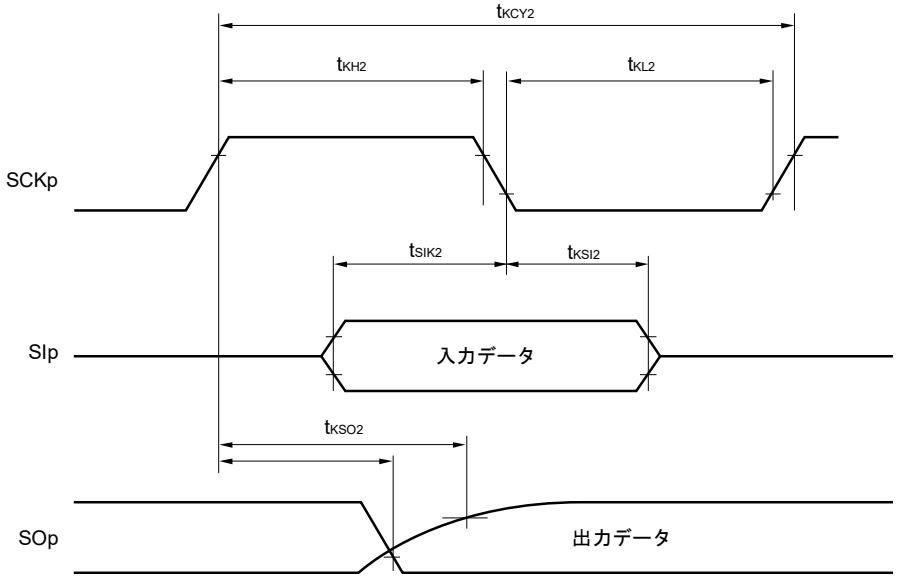

簡易SPI (CSI)モード・シリアル転送タイミング：スレーブ・モード（異電位通信時）

（DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき）




簡易SPI (CSI)モード・シリアル転送タイミング：スレーブ・モード（異電位通信時）

（DAPmn= 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき）



注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SIp端子とSCKp端子はTTL入力バッファ，SOp端子はN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考　p：CSI番号（p = 00），m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00），g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

（9）異電位通信時（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）通信時（簡易I²Cモード）（1/2）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCLrクロック周波数 | $f_{SCL}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 1000注1 | | 300注1 | kHz |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 1000注1 | | 300注1 | kHz |
| | | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.8 kΩ | | 400注1 | | 300注1 | kHz |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | | 400注1 | | 300注1 | kHz |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | | 300注1 | | 300注1 | kHz |
| SCLr = "L"のホールド・タイム | $t_{LOW}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 475 | | 1550 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 475 | | 1550 | | ns |
| | | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.8 kΩ | 1150 | | 1550 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 1150 | | 1550 | | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 1550 | | 1550 | | ns |
| SCLr = "H"のホールド・タイム | $t_{HIGH}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 245 | | 610 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 200 | | 610 | | ns |
| | | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V, 2.7 V≦$V_b$≦4.0 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.8 kΩ | 675 | | 610 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V, 2.3 V≦$V_b$≦2.7 V, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 600 | | 610 | | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V, 1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2, $C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 610 | | 610 | | ns |

（注，注意は次ページ，備考は次々ページにあります。）

（9）異電位通信時（1.8 V系，2.5 V系，3 V系）通信時（簡易I²Cモード）（2/2）

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| データ・セットアップ時間（受信時） | $t_{SU:DAT}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V,<br>2.7 V≦$V_b$≦4.0 V,<br>$C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 1/$f_{MCK}$＋<br>135<br>注3 | | 1/$f_{MCK}$＋<br>190<br>注3 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V,<br>2.3 V≦$V_b$≦2.7 V,<br>$C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 1/$f_{MCK}$＋<br>135<br>注3 | | 1/$f_{MCK}$＋<br>190<br>注3 | | ns |
| | | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V,<br>2.7 V≦$V_b$≦4.0 V,<br>$C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.8 kΩ | 1/$f_{MCK}$＋<br>190<br>注3 | | 1/$f_{MCK}$＋<br>190<br>注3 | | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V,<br>2.3 V≦$V_b$≦2.7 V,<br>$C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 1/$f_{MCK}$＋<br>190<br>注3 | | 1/$f_{MCK}$＋<br>190<br>注3 | | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V,<br>1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2,<br>$C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 1/$f_{MCK}$＋<br>190<br>注3 | | 1/$f_{MCK}$＋<br>190<br>注3 | | ns |
| データ・ホールド時間（送信時） | $t_{HD:DAT}$ | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V,<br>2.7 V≦$V_b$≦4.0 V,<br>$C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 0 | 305 | 0 | 305 | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V,<br>2.3 V≦$V_b$≦2.7 V,<br>$C_b$ = 50 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 0 | 305 | 0 | 305 | ns |
| | | 4.0 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V,<br>2.7 V≦$V_b$≦4.0 V,<br>$C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.8 kΩ | 0 | 355 | 0 | 355 | ns |
| | | 2.7 V≦$EV_{DD}$＜4.0 V,<br>2.3 V≦$V_b$≦2.7 V,<br>$C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 2.7 kΩ | 0 | 355 | 0 | 355 | ns |
| | | 1.9 V注4≦$EV_{DD}$＜3.3 V,<br>1.6 V≦$V_b$≦2.0 V注2,<br>$C_b$ = 100 pF, $R_b$ = 5.5 kΩ | 0 | 405 | 0 | 405 | ns |

注 1.　かつ$f_{MCK}$/4以下に設定してください。

2.　$EV_{DD}$≧$V_b$で使用してください。

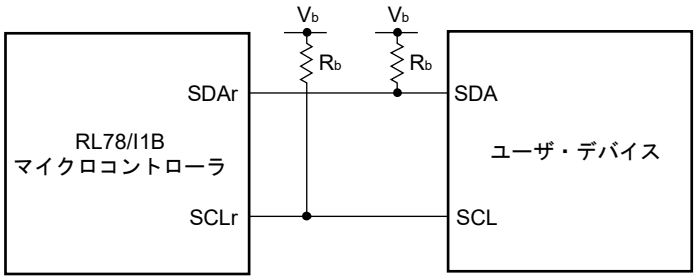
3.　$f_{MCK}$値は，SCLr = "L"とSCLr = "H"のホールド・タイムを超えない設定にしてください。

4.　HS（高速メイン）モード時は2.4 Vになります。

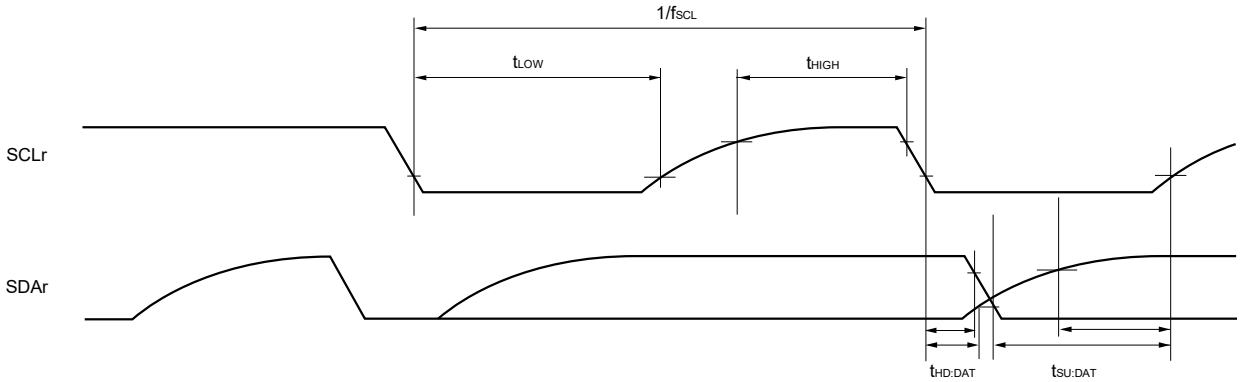
注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SDArはTTL入力バッファ，N-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択，SCLrはN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

（備考は次ページにあります。）

簡易I²Cモード接続図（異電位通信時）




簡易I²Cモード・シリアル転送タイミング（異電位通信時）




注意　ポート入力モード・レジスタg（PIMg）とポート出力モード・レジスタg（POMg）で，SDArはTTL入力バッファ，N-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択，SCLrはN-chオープン・ドレイン出力（$V_{DD}$耐圧）モードを選択。なお$V_{IH}$, $V_{IL}$は，TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考1.　$R_b$ [Ω]：通信ライン（SDAr, SCLr）プルアップ抵抗値，$C_b$ [F]：通信ライン（SDAr, SCLr）負荷容量値，
$V_b$ [V]：通信ライン電圧

2.　r：IIC番号（r = 00, 10），g：PIM, POM番号（g = 0, 1）

3.　$f_{MCK}$：シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
（シリアル・クロック選択レジスタm（SPSm）とシリアル・モード・レジスタmn（SMRmn）のCKSmnビットで設定された動作クロック。
m：ユニット番号，n：チャネル番号（mn = 00, 02））

### 37. 5. 2　シリアル・インタフェースIICA

（1）I²C標準モード

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCLA0クロック周波数 | $f_{SCL}$ | 標準モード：$f_{CLK}$≧1 MHz | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 0 | 100 | 0 | 100 | kHz |
| | | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 0 | 100 | 0 | 100 | kHz |
| リスタート・コンディションのセットアップ時間 | $t_{SU:STA}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.7 | | 4.7 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.7 | | 4.7 | | μs |
| ホールド時間注1 | $t_{HD:STA}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.0 | | 4.0 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.0 | | 4.0 | | μs |
| SCLA0 = ”L”のホールド・タイム | $t_{LOW}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.7 | | 4.7 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.7 | | 4.7 | | μs |
| SCLA0 = ”H”のホールド・タイム | $t_{HIGH}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.0 | | 4.0 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.0 | | 4.0 | | μs |
| データ・セットアップ時間（受信時） | $t_{SU:DAT}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 250 | | 250 | | ns |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 250 | | 250 | | ns |
| データ・ホールド時間（送信時）注2 | $t_{HD:DAT}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0 | 3.45 | 0 | 3.45 | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0 | 3.45 | 0 | 3.45 | μs |
| ストップ・コンディションのセットアップ時間 | $t_{SU:STO}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.0 | | 4.0 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.0 | | 4.0 | | μs |
| バス・フリー時間 | $t_{BUF}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.7 | | 4.7 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 4.7 | | 4.7 | | μs |

注 1. スタート・コンディション，リスタート・コンディション時は，この期間のあと最初のクロック・パルスが生成されます。

2. $t_{HD:DAT}$の最大値（MAX.）は，通常転送時の数値であり，ACK（アクノリッジ）タイミングでは，クロック・ストレッチがかかります。

3. HS（高速メイン）モード時は2.4 Vになります。

備考　各モードにおける$C_b$（通信ライン容量）のMAX.値と，そのときの$R_b$（通信ライン・プルアップ抵抗値）の値は，次のとおりです。

標準モード　：$C_b$ = 400 pF, Rb = 2.7 kΩ

（2）I²C ファースト・モード

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCLA0クロック周波数 | $f_{SCL}$ | ファースト・モード：$f_{CLK}$≧3.5 MHz | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 0 | 400 | 0 | 400 | kHz |
| | | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 0 | 400 | 0 | 400 | kHz |
| リスタート・コンディションのセットアップ時間 | $t_{SU:STA}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.6 | | 0.6 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.6 | | 0.6 | | μs |
| ホールド時間注1 | $t_{HD:STA}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.6 | | 0.6 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.6 | | 0.6 | | μs |
| SCLA0 = ”L”のホールド・タイム | $t_{LOW}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 1.3 | | 1.3 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 1.3 | | 1.3 | | μs |
| SCLA0 = ”H”のホールド・タイム | $t_{HIGH}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.6 | | 0.6 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.6 | | 0.6 | | μs |
| データ・セットアップ時間（受信時） | $t_{SU:DAT}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 100 | | 100 | | ns |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 100 | | 100 | | ns |
| データ・ホールド時間（送信時）注2 | $t_{HD:DAT}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0 | 0.9 | 0 | 0.9 | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0 | 0.9 | 0 | 0.9 | μs |
| ストップ・コンディションのセットアップ時間 | $t_{SU:STO}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.6 | | 0.6 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.6 | | 0.6 | | μs |
| バス・フリー時間 | $t_{BUF}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 1.3 | | 1.3 | | μs |
| | | 1.9 V注3≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 1.3 | | 1.3 | | μs |

注 1. スタート・コンディション，リスタート・コンディション時は，この期間のあと最初のクロック・パルスが生成されます。

2. $t_{HD:DAT}$の最大値（MAX.）は，通常転送時の数値であり，ACK（アクノリッジ）タイミングでは，クロック・ストレッチがかかります。

3. HS（高速メイン）モード時は2.4 Vになります。

備考　各モードにおける$C_b$（通信ライン容量）のMAX.値と，そのときの$R_b$（通信ライン・プルアップ抵抗値）の値は，次のとおりです。

ファースト・モード　　：$C_b$ = 320 pF, Rb = 1.1 kΩ

（3）I²C ファースト・モード・プラス

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | HS（高速メイン）モード | | LS（低速メイン）モード | | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | MIN. | MAX. | MIN. | MAX. | |
| SCLA0クロック周波数 | $f_{SCL}$ | ファースト・モード・プラス：$f_{CLK}$≧10 MHz | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | 0 | 1000 | – | – | kHz |
| リスタート・コンディションのセットアップ時間 | $t_{SU:STA}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.26 | | – | – | μs |
| ホールド時間注1 | $t_{HD:STA}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.26 | | – | – | μs |
| SCLA0 = "L"のホールド・タイム | $t_{LOW}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.5 | | – | – | μs |
| SCLA0 = "H"のホールド・タイム | $t_{HIGH}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.26 | | – | – | μs |
| データ・セットアップ時間（受信時） | $t_{SU:DAT}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 50 | | – | – | ns |
| データ・ホールド時間（送信時）注2 | $t_{HD:DAT}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0 | 0.45 | – | – | μs |
| ストップ・コンディションのセットアップ時間 | $t_{SU:STO}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.26 | | – | – | μs |
| バス・フリー時間 | $t_{BUF}$ | 2.7 V≦$EV_{DD}$≦5.5 V | | 0.5 | | – | – | μs |

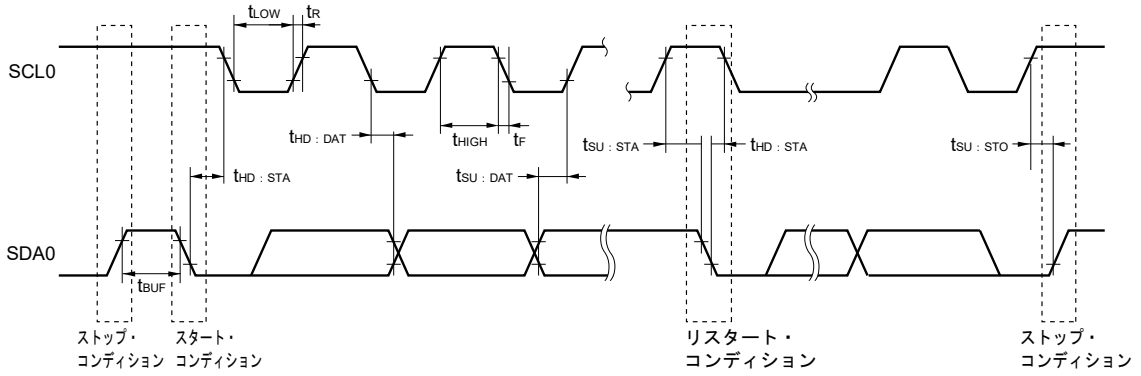
注 1. スタート・コンディション，リスタート・コンディション時は，この期間のあと最初のクロック・パルスが生成されます。

2. $t_{HD:DAT}$の最大値（MAX.）は，通常転送時の数値であり，ACK（アクノリッジ）タイミングでは，クロック・ストレッチがかかります。

備考　各モードにおける$C_b$（通信ライン容量）のMAX.値と，そのときの$R_b$（通信ライン・プルアップ抵抗値）の値は，次のとおりです。

ファースト・モード・プラス　　：$C_b$ = 120 pF, Rb = 1.1 kΩ

IICAシリアル転送タイミング



# 37. 6　アナログ特性

## 37. 6. 1　A/Dコンバータ特性

（1）基準電圧（+）＝ $AV_{REFP}$/ANI0（ADREFP1 = 0, ADREFP0 = 1），基準電圧（−）＝ $AV_{REFM}$/ANI1（ADREFM = 1）選択時，変換対象：ANI2-ANI5，内部基準電圧

（$T_A$ = −40～+85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V，基準電圧（+）= $AV_{REFP}$，基準電圧（−）= $AV_{REFM}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分解能 | RES | | | 8 | | 10 | bit |
| 総合誤差[注1, 2] | AINL | 10ビット分解能<br>$AV_{REFP}$ = $V_{DD}$ | 1.9 V≦$AV_{REFP}$≦5.5 V | | 1.2 | ±5.0 | LSB |
| 変換時間 | $t_{CONV}$ | 10ビット分解能 | 3.6 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 2.125 | | 39 | μs |
| | | | 2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 3.1875 | | 39 | μs |
| | | | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 17 | | 39 | μs |
| ゼロスケール誤差[注1, 2] | $E_{ZS}$ | 10ビット分解能<br>$AV_{REFP}$ = $V_{DD}$ | 1.9 V≦$AV_{REFP}$≦5.5 V | | | ±0.35 | %FSR |
| フルスケール誤差[注1, 2] | $E_{FS}$ | 10ビット分解能<br>$AV_{REFP}$ = $V_{DD}$ | 1.9 V≦$AV_{REFP}$≦5.5 V | | | ±0.35 | %FSR |
| 積分直線性誤差[注1] | ILE | 10ビット分解能<br>$AV_{REFP}$ = $V_{DD}$ | 1.9 V≦$AV_{REFP}$≦5.5 V | | | ±3.5 | LSB |
| 微分直線性誤差[注1] | DLE | 10ビット分解能<br>$AV_{REFP}$ = $V_{DD}$ | 1.9 V≦$AV_{REFP}$≦5.5 V | | | ±2.0 | LSB |
| 基準電圧（+） | $AV_{REFP}$ | | | 1.9 | | $V_{DD}$ | V |
| アナログ入力電圧 | $V_{AIN}$ | | | 0 | | $AV_{REFP}$ | V |
| | $V_{BGR}$ | 内部基準電圧出力を選択，2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V，HS（高速メイン）モード | | 1.38 | 1.45 | 1.5 | V |

注1．量子化誤差（±1/2 LSB）を含みません。

2．フルスケール値に対する比率（%FSR）で表します。

（2）基準電圧（+）＝ $V_{DD}$（ADREFP1 = 0, ADREFP0 = 0），基準電圧（−）＝ $V_{SS}$（ADREFM = 0）選択時，
変換対象：ANI0-ANI5，内部基準電圧

（$T_A$ = −40～+85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V，基準電圧（＋）= $V_{DD}$，基準電圧（−）= $V_{SS}$）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分解能 | RES | | | 8 | | 10 | bit |
| 総合誤差[注1, 2] | AINL | 10ビット分解能 | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | 1.2 | ±10.5 | LSB |
| 変換時間 | $t_{CONV}$ | 10ビット分解能 | 3.6 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 2.125 | | 39 | μs |
| | | | 2.7 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 3.1875 | | 39 | μs |
| | | | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 17 | | 39 | μs |
| ゼロスケール誤差[注1, 2] | $E_{ZS}$ | 10ビット分解能 | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | ±0.85 | %FSR |
| フルスケール誤差[注1, 2] | $E_{FS}$ | 10ビット分解能 | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | ±0.85 | %FSR |
| 積分直線性誤差[注1] | ILE | 10ビット分解能 | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | ±4.0 | LSB |
| 微分直線性誤差[注1] | DLE | 10ビット分解能 | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | ±2.0 | LSB |
| アナログ入力電圧 | $V_{AIN}$ | | | 0 | | $V_{DD}$ | V |
| | $V_{BGR}$ | 内部基準電圧出力を選択，2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V，HS（高速メイン）モード | | 1.38 | 1.45 | 1.5 | V |

注1．量子化誤差（±1/2 LSB）を含みません。
2．フルスケール値に対する比率（%FSR）で表します。

注意　基準電圧（＋）= $V_{DD}$を使用する場合は，バッテリ・バックアップ機能の電源切り替え回路の影響による電圧降下を考慮に入れて，A/D変換結果を使用してください。また，A/D変換中HALTモードに移行し，$V_{DD}$系のポートは入力に設定してください。

（3）基準電圧（+）＝ 内部基準電圧（ADREFP1 = 1, ADREFP0 = 0），基準電圧（−）＝ $AV_{REFM}$/ANI1（ADREFM = 1）選択時，変換対象：ANI0, ANI2-ANI5

（$T_A$ = −40～+85 ℃，2.4 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V，基準電圧（+）= $V_{BGR}$，基準電圧（−）= $AV_{REFM}$ = 0 V, HS（高速メイン）モード）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分解能 | RES | | | | 8 | | bit |
| 変換時間 | $t_{CONV}$ | 8ビット分解能 | 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 17 | | 39 | μs |
| ゼロスケール誤差注1, 2 | $E_{ZS}$ | 8ビット分解能 | 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | ±0.60 | %FSR |
| 積分直線性誤差注1 | ILE | 8ビット分解能 | 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | ±2.0 | LSB |
| 微分直線性誤差注1 | DLE | 8ビット分解能 | 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | | | ±1.0 | LSB |
| 基準電圧（+） | $V_{BGR}$ | | | 1.38 | 1.45 | 1.5 | V |
| アナログ入力電圧 | $V_{AIN}$ | | | 0 | | $V_{BGR}$ | V |

注1. 量子化誤差（±1/2 LSB）を含みません。

2. フルスケール値に対する比率（%FSR）で表します。

## 37. 6. 2　24ビットΔΣA/Dコンバータ特性

（1）基準電圧

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$AV_{DD}$≦$V_{DD}$＋0.3 V, 2.4 V≦$AV_{DD}$≦5.5 V, 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $AV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 内部基準電圧 | $V_{AVRTO}$ | | | 0.8 | | V |
| 内部基準電圧の温度係数 | dREF/dt | AREGC, AVRT, AVCM端子接続の0.47 μFコンデンサ | | 30 | 90 | ppm/°C |

（2）アナログ入力

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$AV_{DD}$≦$V_{DD}$＋0.3 V, 2.4 V≦$AV_{DD}$≦5.5 V, 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $AV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入力電圧範囲（差動） | $V_{AIN}$ | ×1 ゲイン | －500 | | 500 | mV |
| | | ×2 ゲイン | －250 | | 250 | |
| | | ×4 ゲイン | －125 | | 125 | |
| | | ×8 ゲイン | －62.5 | | 62.5 | |
| | | ×16 ゲイン | －31.25 | | 31.25 | |
| | | ×32 ゲイン（電流チャネルのみ） | －15.625 | | 15.625 | |
| 入力ゲイン | ainGAIN | ×1 ゲイン | | 1 | | dB |
| | | ×2 ゲイン | | 2 | | |
| | | ×4 ゲイン | | 4 | | |
| | | ×8 ゲイン | | 8 | | |
| | | ×16 ゲイン | | 16 | | |
| | | ×32 ゲイン（電流チャネルのみ） | | 32 | | |
| 入力インピーダンス | ainRIN | 差動 | 150 | 360 | | kΩ |
| | | シングルエンド | 100 | 240 | | |

（3）4 kHzサンプリング・モード

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$AV_{DD}$≦$V_{DD}$＋0.3 V, 2.4 V≦$AV_{DD}$≦5.5 V, 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $AV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 動作クロック | $f_{DSAD}$ | $f_X$ 発振クロック／外部入力クロック／高速オンチップ・オシレータ・クロック使用 | | 12 | | MHz |
| サンプリング周波数 | $f_S$ | | | 3906.25 | | Hz |
| オーバーサンプリング周波数 | $f_{OS}$ | | | 1.5 | | MHz |
| 出力データ・レート | $T_{DATA}$ | | | 256 | | μs |
| データ幅 | RES | | | 24 | | bit |
| SNDR | SNDR | ×1ゲイン<br>24ビットΔΣA/Dコンバータの動作クロックに高速システム・クロックを選択（PCKCレジスタのビット0（DSADCK）= 1） | | 80 | | dB |
| | | ×16ゲイン<br>24ビットΔΣA/Dコンバータの動作クロックに高速システム・クロックを選択（PCKCレジスタのビット0（DSADCK）= 1） | 69 | 74 | | |
| | | ×32ゲイン<br>24ビットΔΣA/Dコンバータの動作クロックに高速システム・クロックを選択　（PCKCレジスタのビット0（DSADCK）= 1） | 65 | 69 | | |
| 通過域（低域側） | $f_{Chpf}$ | @－3 dB（HPF内位相調整off）<br>DSADHPFCRレジスタのビット7, 6（DSADCOF1, DSADCOF0）= 00 | | 0.607 | | Hz |
| | | @－3 dB（HPF内位相調整off）<br>DSADHPFCRレジスタのビット7, 6（DSADCOF1, DSADCOF0）= 01 | | 1.214 | | Hz |
| | | @－3 dB（HPF内位相調整off）<br>DSADHPFCRレジスタのビット7, 6（DSADCOF1, DSADCOF0）= 10 | | 2.429 | | Hz |
| | | @－3 dB（HPF内位相調整off）<br>DSADHPFCRレジスタのビット7, 6（DSADCOF1, DSADCOF0）= 11 | | 4.857 | | Hz |
| 帯域内ripple 1 | rp1 | 45 Hz-55 Hz　@50 Hz<br>54 Hz-66 Hz　@60 Hz | －0.01 | | 0.01 | dB |
| 帯域内ripple 2 | rp2 | 45 Hz-275 Hz　@50 Hz<br>54 Hz-330 Hz　@60 Hz | －0.1 | | 0.1 | |
| 帯域内ripple 3 | rp3 | 45 Hz-1100 Hz　@50 Hz<br>54 Hz-1320 Hz　@60 Hz | －0.1 | | 0.1 | |
| 通過域（高域側） | $f_{Clpf}$ | －3 dB | | 1672 | | Hz |
| 阻止域（高域側） | fatt | －80 dB | | 2545 | | Hz |
| 帯域外減衰量 | ATT1 | $f_S$ | －80 | | | dB |
| | ATT2 | 2 $f_S$ | －80 | | | dB |

（4）2 kHzサンプリング・モード

（$T_A$ = −40～＋85 ℃, $AV_{DD}$≦$V_{DD}$＋0.3 V, 2.4 V≦$AV_{DD}$≦5.5 V, 2.4 V≦$V_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $AV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 動作クロック | $f_{DSAD}$ | $f_X$ 発振クロック／外部入力クロック／高速オンチップ・オシレータ・クロック使用 | | 12 | | MHz |
| サンプリング周波数 | $f_S$ | | | 1953.125 | | Hz |
| オーバーサンプリング周波数 | $f_{OS}$ | | | 0.75 | | MHz |
| 出力データ・レート | $T_{DATA}$ | | | 512 | | μs |
| データ幅 | RES | | | 24 | | bit |
| SNDR | SNDR | ×1 ゲイン<br>24ビットΔΣA/Dコンバータの動作クロックに高速システム・クロックを選択（PCKCレジスタのビット0（DSADCK）= 1） | | 80 | | dB |
| | | ×16 ゲイン<br>24ビットΔΣA/Dコンバータの動作クロックに高速システム・クロックを選択（PCKCレジスタのビット0（DSADCK）= 1） | 69 | 74 | | |
| | | ×32 ゲイン<br>24ビットΔΣA/Dコンバータの動作クロックに高速システム・クロックを選択（PCKCレジスタのビット0（DSADCK）= 1） | 65 | 69 | | |
| 通過域（低域側） | $f_{Chpf}$ | @−3 dB（HPF内位相調整off） | | 0.303 | | Hz |
| 帯域内ripple 1 | rp1 | 45 Hz-55 Hz @50 Hz<br>54 Hz-66 Hz @60 Hz | −0.01 | | 0.01 | dB |
| 帯域内ripple 2 | rp2 | 45 Hz-275 Hz @50 Hz<br>54 Hz-330 Hz @60 Hz | −0.1 | | 0.1 | |
| 帯域内ripple 3 | rp3 | 45 Hz-660 Hz @50 Hz<br>54 Hz-550 Hz @60 Hz | −0.1 | | 0.1 | |
| 通過域（高域側） | $f_{Clpf}$ | −3 dB | | 836 | | Hz |
| 阻止域（高域側） | fatt | −80 dB | | 1273 | | Hz |
| 帯域外減衰量 | ATT1 | $f_S$ | −80 | | | dB |
| | ATT2 | 2 $f_S$ | −80 | | | dB |

## 37. 6. 3　温度センサ2特性

（$T_A$ = −40～＋85 ℃, 2.4 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V, HS（高速メイン）モード）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 温度センサ2出力電圧 | $V_{OUT}$ | | | 0.67 | | V |
| 温度係数 | $F_{VTMPS2}$ | 温度センサ電圧の温度依存 | −11.7 | −10.7 | −9.7 | mV/℃ |
| 動作安定待ち時間注 | $t_{TMPON}$ | 動作可能 | | 15 | 50 | μs |
| | $t_{TMPCHG}$ | モード切り替え | | 5 | 15 | μs |

注　出力安定値±5LSB（±7 mV）以下に収まるまでの時間。

### 37. 6. 4　コンパレータ

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入力電圧範囲 | Ivref | | | 0 | | $V_{DD}$－1.4 | V |
| | Ivcmp | | | －0.3 | | $V_{DD}$＋0.3 | V |
| 出力遅延 | td | $V_{DD}$ = 3.0V<br>入力スルーレート ＞50 mV/μs | コンパレータ高速モード，基本モード | | | 1.2 | μs |
| | | | コンパレータ高速モード，ウィンドウモード | | | 2.0 | μs |
| | | | コンパレータ低速モード，基本モード | | 3 | 5.0 | μs |
| 高電位側基準電圧 | VTW＋ | コンパレータ高速モード，ウィンドウモード | | | 0.76$V_{DD}$ | | V |
| 低電位側基準電圧 | VTW－ | コンパレータ高速モード，ウィンドウモード | | | 0.24$V_{DD}$ | | V |
| 動作安定待ち時間 | $t_{CMP}$ | | | 100 | | | μs |
| 基準出力電圧 | $V_{CMPREF}$ | | | 1.00 | 1.45 | 1.50 | V |

### 37. 6. 5　POR回路特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 検出電圧 | $V_{POR}$ | 電源立ち上がり時[注1] | 1.47 | 1.51 | 1.55 | V |
| | $V_{PDR}$ | 電源立ち下がり時[注2] | 1.46 | 1.50 | 1.54 | V |

注1.　$V_{DD}$が37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲の$V_{DD}$（MIN.）を超えるまで，電圧検出機能か外部リセット端子でリセット状態を保ってください。

2.　ただし，LVDオフの条件で電源電圧降下時は，電源電圧が37. 4　AC特性に示す動作電圧範囲の最小値を下回る前に，STOPモードに移行，または電圧検出機能か外部リセット端子で，リセット状態にしてください。

### 37. 6. 6　LVD回路特性

リセット・モード，割り込みモードのLVD検出電圧

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$V_{PDR}$≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V，$V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | | 略　号 | 条　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 検出電圧 | 電源電圧レベル | $V_{LVD0}$ | 電源立ち上がり時 | 3.98 | 4.06 | 4.24 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 3.90 | 3.98 | 4.16 | V |
| | | $V_{LVD1}$ | 電源立ち上がり時 | 3.68 | 3.75 | 3.92 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 3.60 | 3.67 | 3.84 | V |
| | | $V_{LVD2}$ | 電源立ち上がり時 | 3.07 | 3.13 | 3.29 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 3.00 | 3.06 | 3.22 | V |
| | | $V_{LVD3}$ | 電源立ち上がり時 | 2.96 | 3.02 | 3.18 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 2.90 | 2.96 | 3.12 | V |
| | | $V_{LVD4}$ | 電源立ち上がり時 | 2.86 | 2.92 | 3.07 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 2.80 | 2.86 | 3.01 | V |
| | | $V_{LVD5}$ | 電源立ち上がり時 | 2.76 | 2.81 | 2.97 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 2.70 | 2.75 | 2.91 | V |
| | | $V_{LVD6}$ | 電源立ち上がり時 | 2.66 | 2.71 | 2.86 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 2.60 | 2.65 | 2.80 | V |
| | | $V_{LVD7}$ | 電源立ち上がり時 | 2.56 | 2.61 | 2.76 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 2.50 | 2.55 | 2.70 | V |
| | | $V_{LVD8}$ | 電源立ち上がり時 | 2.45 | 2.50 | 2.65 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 2.40 | 2.45 | 2.60 | V |
| | | $V_{LVD9}$ | 電源立ち上がり時 | 2.05 | 2.09 | 2.23 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 2.00 | 2.04 | 2.18 | V |
| | | $V_{LVD10}$ | 電源立ち上がり時 | 1.94 | 1.98 | 2.12 | V |
| | | | 電源立ち下がり時 | 1.90 | 1.94 | 2.08 | V |
| 最小パルス幅 | | $t_{LW}$ | | 300 | | | μs |
| 検出遅延 | | | | | | 300 | μs |

割り込み＆リセット・モードのLVD検出電圧

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$V_{PDR}$≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V，$V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 割り込み＆リセット・モード | $V_{LVD8}$ | VPOC2, VPOC1, VPOC0 = 0, 1, 0，立ち下がりリセット電圧 | | | 2.40 | 2.45 | 2.60 | V |
| | $V_{LVD7}$ | | LVIS1, LVIS0 = 1, 0 | 立ち上がりリセット解除電圧 | 2.56 | 2.61 | 2.76 | V |
| | | | | 立ち下がり割り込み電圧 | 2.50 | 2.55 | 2.70 | V |
| | $V_{LVD6}$ | | LVIS1, LVIS0 = 0, 1 | 立ち上がりリセット解除電圧 | 2.66 | 2.71 | 2.86 | V |
| | | | | 立ち下がり割り込み電圧 | 2.60 | 2.65 | 2.80 | V |
| | $V_{LVD1}$ | | LVIS1, LVIS0 = 0, 0 | 立ち上がりリセット解除電圧 | 3.68 | 3.75 | 3.92 | V |
| | | | | 立ち下がり割り込み電圧 | 3.60 | 3.67 | 3.84 | V |
| | $V_{LVD5}$ | VPOC2, VPOC1, VPOC0 = 0, 1, 1，立ち下がりリセット電圧 | | | 2.70 | 2.75 | 2.91 | V |
| | $V_{LVD4}$ | | LVIS1, LVIS0 = 1, 0 | 立ち上がりリセット解除電圧 | 2.86 | 2.92 | 3.07 | V |
| | | | | 立ち下がり割り込み電圧 | 2.80 | 2.86 | 3.01 | V |
| | $V_{LVD3}$ | | LVIS1, LVIS0 = 0, 1 | 立ち上がりリセット解除電圧 | 2.96 | 3.02 | 3.18 | V |
| | | | | 立ち下がり割り込み電圧 | 2.90 | 2.96 | 3.12 | V |
| | $V_{LVD0}$ | | LVIS1, LVIS0 = 0, 0 | 立ち上がりリセット解除電圧 | 3.98 | 4.06 | 4.24 | V |
| | | | | 立ち下がり割り込み電圧 | 3.90 | 3.98 | 4.16 | V |

## 37. 6. 7　電源電圧立ち上がり傾き特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$V_{SS}$ = 0 V）

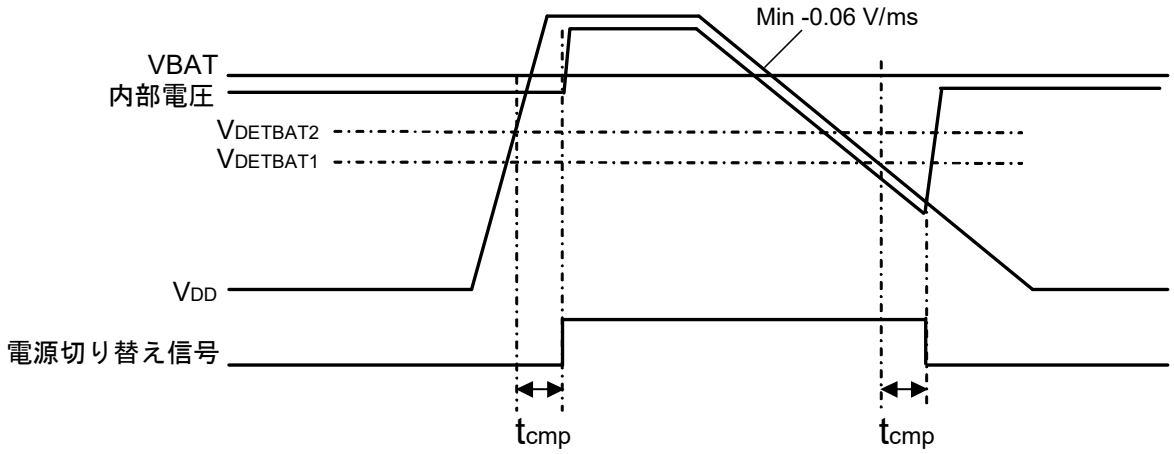
| 項　目 | 略　号 | 条　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 電源電圧立ち上がり傾き | $SV_{DDR}$ | | | | 54 | V/ms |

注意　$V_{DD}$が37.4　AC特性に示す動作電圧範囲内に達するまで，LVD回路か外部リセットで内部リセット状態を保ってください。

## 37.7　バッテリ・バックアップ機能

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 電源切り替え検出電圧 | $V_{DETBAT1}$ | $V_{DD}$ → VBAT | 1.92 | 2.00 | 2.08 | V |
| | $V_{DETBAT2}$ | VBAT → $V_{DD}$ | 2.02 | 2.10 | 2.18 | V |
| $V_{DD}$の立ち下がり傾き | $SV_{DDF}$ | | －0.06 | | | V/ms |
| 電源切り替え検出回路の応答時間 | $t_{cmp}$ | | | | 300 | μs |



# 37. 8　LCD特性

## 37. 8. 1　外部抵抗分割方式

（1）スタティック・モード

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$V_{L4}$ (MIN.)≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| LCD駆動電圧 | $V_{L4}$ | | 2.0 | | $V_{DD}$ | V |

（2）1/2バイアス，1/4バイアス

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$V_{L4}$ (MIN.)≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| LCD駆動電圧 | $V_{L4}$ | | 2.7 | | $V_{DD}$ | V |

（3）1/3バイアス

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，$V_{L4}$ (MIN.)≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ =0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| LCD駆動電圧 | $V_{L4}$ | | 2.5 | | $V_{DD}$ | V |

### 37. 8. 2 内部昇圧方式

（1）1/3バイアス

（$T_A$ = －40～＋85 ℃, 1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項 目 | 略 号 | 条 件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単 位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LCD出力電圧可変範囲 | $V_{L1}$ | C1-C4[注1] = 0.47 μF[注2] | VLCD = 04H | 0.90 | 1.00 | 1.08 | V |
| | | | VLCD = 05H | 0.95 | 1.05 | 1.13 | V |
| | | | VLCD = 06H | 1.00 | 1.10 | 1.18 | V |
| | | | VLCD = 07H | 1.05 | 1.15 | 1.23 | V |
| | | | VLCD = 08H | 1.10 | 1.20 | 1.28 | V |
| | | | VLCD = 09H | 1.15 | 1.25 | 1.33 | V |
| | | | VLCD = 0AH | 1.20 | 1.30 | 1.38 | V |
| | | | VLCD = 0BH | 1.25 | 1.35 | 1.43 | V |
| | | | VLCD = 0CH | 1.30 | 1.40 | 1.48 | V |
| | | | VLCD = 0DH | 1.35 | 1.45 | 1.53 | V |
| | | | VLCD = 0EH | 1.40 | 1.50 | 1.58 | V |
| | | | VLCD = 0FH | 1.45 | 1.55 | 1.63 | V |
| | | | VLCD = 10H | 1.50 | 1.60 | 1.68 | V |
| | | | VLCD = 11H | 1.55 | 1.65 | 1.73 | V |
| | | | VLCD = 12H | 1.60 | 1.70 | 1.78 | V |
| | | | VLCD = 13H | 1.65 | 1.75 | 1.83 | V |
| ダブラ出力電圧 | $V_{L2}$ | C1-C4[注1] = 0.47 μF | | 2 $V_{L1}$－0.10 | 2 $V_{L1}$ | 2 $V_{L1}$ | V |
| トリプラ出力電圧 | $V_{L4}$ | C1-C4[注1] = 0.47 μF | | 3 $V_{L1}$－0.15 | 3 $V_{L1}$ | 3 $V_{L1}$ | V |
| 基準電圧セットアップ時間[注2] | $t_{VWAIT1}$ | | | 5 | | | ms |
| 昇圧ウエイト時間[注3] | $t_{VWAIT2}$ | C1-C4[注1] = 0.47 μF | | 500 | | | ms |

注1. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1：CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2：$V_{L1}$-GND間に接続するコンデンサです。

C3：$V_{L2}$-GND間に接続するコンデンサです。

C4：$V_{L4}$-GND間に接続するコンデンサです。

C1 = C2 = C3 = C4 = 0.47 μF±30%

2. VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット = 01B）にしてから），昇圧を開始する（VLCON = 1）までに必要なウエイト時間です。

3. 昇圧を開始してから（VLCON = 1），表示が可能になる（LCDON = 1）までのウエイト時間です。

（2）1/4バイアス

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　目 | 略　号 | 条　件 | | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LCD出力電圧可変範囲 | $V_{L1}$ | C1-C5[注1] = 0.47 μF[注2] | VLCD = 04H | 0.90 | 1.00 | 1.08 | V |
| | | | VLCD = 05H | 0.95 | 1.05 | 1.13 | V |
| | | | VLCD = 06H | 1.00 | 1.10 | 1.18 | V |
| | | | VLCD = 07H | 1.05 | 1.15 | 1.23 | V |
| | | | VLCD = 08H | 1.10 | 1.20 | 1.28 | V |
| | | | VLCD = 09H | 1.15 | 1.25 | 1.33 | V |
| | | | VLCD = 0AH | 1.20 | 1.30 | 1.38 | V |
| ダブラ出力電圧 | $V_{L2}$ | C1-C5[注1] = 0.47 μF | | 2 $V_{L1}$－0.08 | 2 $V_{L1}$ | 2 $V_{L1}$ | V |
| トリプラ出力電圧 | $V_{L3}$ | C1-C5[注1] = 0.47 μF | | 3 $V_{L1}$－0.12 | 3 $V_{L1}$ | 3 $V_{L1}$ | V |
| クアドロプラ出力電圧 | $V_{L4}$ | C1-C5[注1] = 0.47 μF | | 4 $V_{L1}$－0.16 | 4 $V_{L1}$ | 4 $V_{L1}$ | V |
| 基準電圧セットアップ時間[注2] | $t_{VWAIT1}$ | | | 5 | | | ms |
| 昇圧ウエイト時間[注3] | $t_{VWAIT2}$ | C1-C5[注1] = 0.47 μF | | 500 | | | ms |

注1. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1：CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2：$V_{L1}$-GND間に接続するコンデンサです。

C3：$V_{L2}$-GND間に接続するコンデンサです。

C4：$V_{L3}$-GND間に接続するコンデンサです。

C5：$V_{L4}$-GND間に接続するコンデンサです。

C1 = C2 = C3 = C4 = C5 = 0.47 μF±30%

2. VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0 = 01B）してから），昇圧を開始する（VLCON = 1）までに必要なウエイト時間です。

3. 昇圧を開始してから（VLCON = 1），表示が可能になる（LCDON = 1）までのウエイト時間です。

### 37. 8. 3　容量分割方式

（1）1/3バイアス

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，2.2 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| $V_{L4}$電圧 | $V_{L4}$ | C1-C4 = 0.47 μF注2 | | $V_{DD}$ | | V |
| $V_{L2}$電圧 | $V_{L2}$ | C1-C4 = 0.47 μF注2 | 2/3 $V_{L4}$－0.1 | 2/3 $V_{L4}$ | 2/3 $V_{L4}$＋0.1 | V |
| $V_{L1}$電圧 | $V_{L1}$ | C1-C4 = 0.47 μF注2 | 1/3 $V_{L4}$－0.1 | 1/3 $V_{L4}$ | 1/3 $V_{L4}$＋0.1 | V |
| 容量分割ウエイト時間注1 | $t_{VWAIT}$ | | 100 | | | ms |

注1. 降圧を開始してから（VLCON = 1），表示が可能になる（LCDON = 1）までのウエイト時間です。

2. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1：CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2：$V_{L1}$-GND間に接続するコンデンサです。

C3：$V_{L2}$-GND間に接続するコンデンサです。

C4：$V_{L4}$-GND間に接続するコンデンサです。

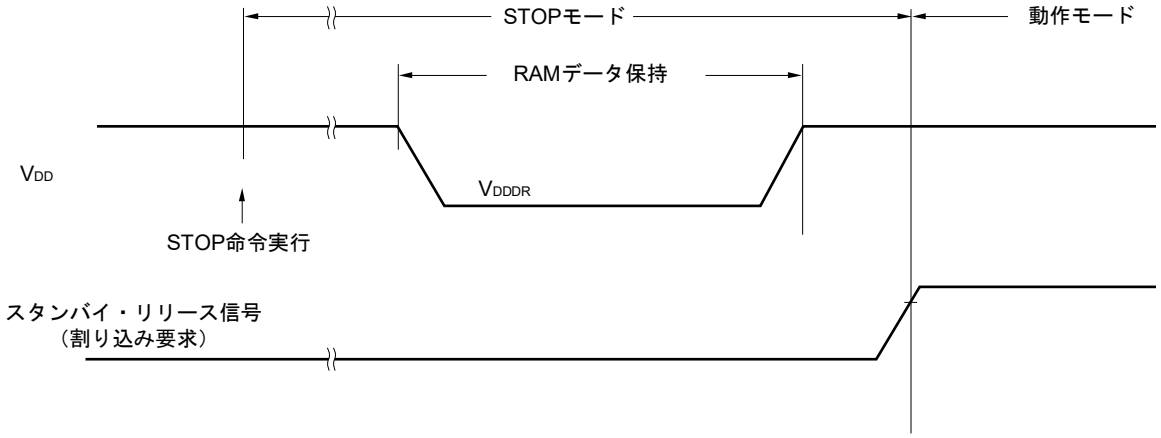
C1 = C2 = C3 = C4 = 0.47 μF±30%

## 37. 9　RAMデータ保持特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| データ保持電源電圧 | $V_{DDDR}$ | | 1.46注 | | 5.5 | V |

注　POR検出電圧に依存します。電圧降下時，PORリセットがかかるまではRAMのデータを保持しますが，PORリセットがかかった場合のRAMのデータは保持されません。




## 37. 10　フラッシュ・メモリ・プログラミング特性

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| システム・クロック周波数 | $f_{CLK}$ | 1.9 V≦$V_{DD}$≦5.5 V | 1 | | 24 | MHz |
| コード・フラッシュの書き換え回数 注1, 2, 3 | $C_{erwr}$ | 保持20年<br>$T_A$ = 85°C | 1,000 | | | 回 |

注1.　消去1回+消去後の書き込み1回を書き換え回数1回とする。保持年数は，1度書き換えた後，次に書き換えを行うまでの期間とする。

**2.**　フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時および当社提供のライブラリを使用時

**3.**　この特性はフラッシュ･メモリの特性を示すものであり，当社の信頼性試験から得られた結果です。

## 37. 11　専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信（UART）

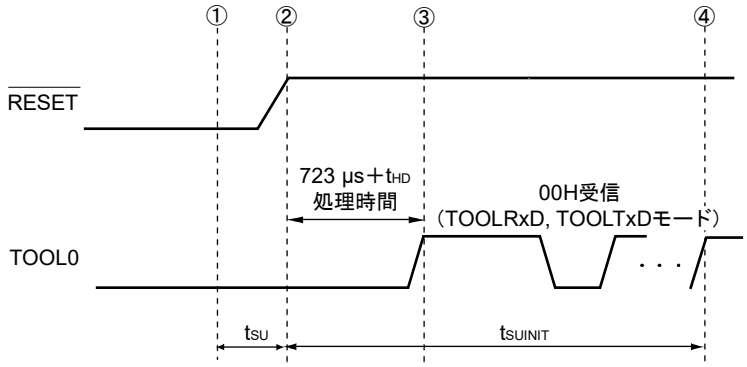
（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 転送レート | | シリアル・プログラミング時 | 115,200 | | 1,000,000 | bps |

## 37. 12　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードの引き込みタイミング

（$T_A$ = －40～＋85 ℃，1.9 V≦$V_{DD}$ = $EV_{DD}$≦5.5 V, $V_{SS}$ = $EV_{SS}$ = 0 V）

| 項　　目 | 略　号 | 条　　件 | MIN. | TYP. | MAX. | 単　位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 外部リセット解除から初期設定通信を完了する時間 | $t_{SUINIT}$ | 外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除 | | | 100 | ms |
| TOOL0端子をロウ・レベルにしてから，外部リセットを解除するまでの時間 | $t_{SU}$ | 外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除 | 10 | | | μs |
| 外部リセット解除から，T00L0端子をロウ・レベルにホールドする時間（フラッシュ・ファーム処理時間を除く） | $t_{HD}$ | 外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除 | 1 | | | ms |




① TOOL0端子にロウ・レベルを入力

② 外部リセットを解除（その前にPOR, LVDリセットが解除されていること）

③ TOOL0端子のロウ・レベルを解除

④ UART受信によるボー・レート設定完了

備考　$t_{SUINIT}$　：この区間では，リセット解除から100 ms以内に初期設定通信を完了してください。

$t_{SU}$　：TOOL0端子をロウ・レベルにしてから，端子リセットを解除するまでの時間

$t_{HD}$　：外部リセット解除から，TOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間（フラッシュ・ファーム処理時間を除く）

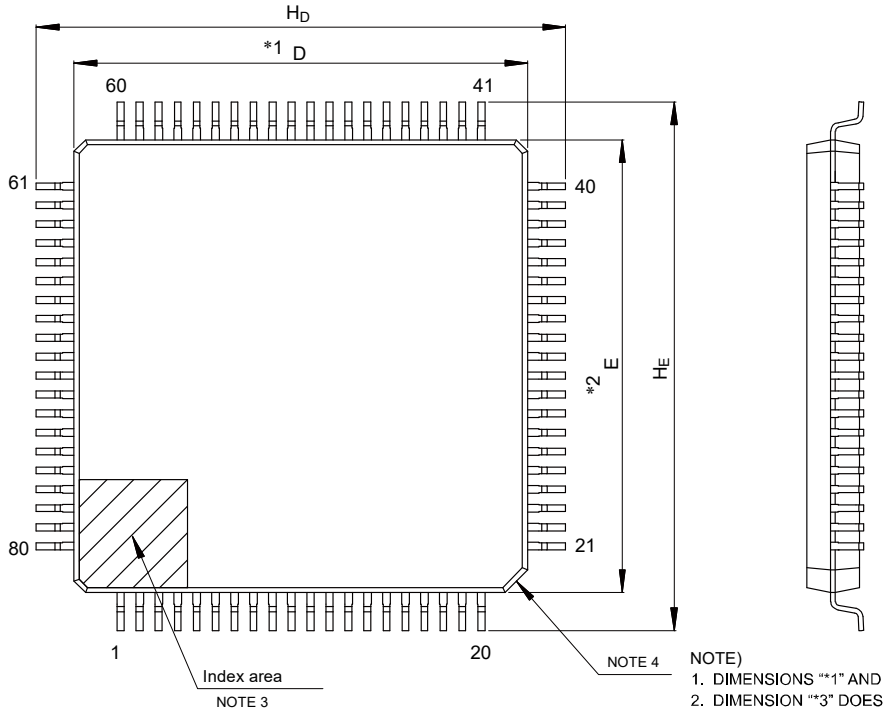
# 第38章　外 形 図

## 38. 1　80ピン製品

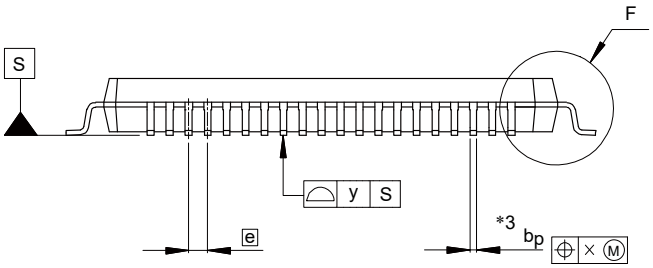
R5F10MMEDFB, R5F10MMGDFB

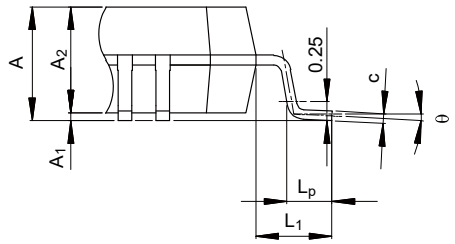
| JEITA Package Code | RENESAS Code | Previous Code | MASS (Typ) [g] |
|---|---|---|---|
| P-LFQFP80-12x12-0.50 | PLQP0080KB-B | — | 0.5 |

Unit: mm




NOTE)
1. DIMENSIONS "*1" AND "*2" DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
2. DIMENSION "*3" DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.
3. PIN 1 VISUAL INDEX FEATURE MAY VARY, BUT MUST BE LOCATED WITHIN THE HATCHED AREA.
4. CHAMFERS AT CORNERS ARE OPTIONAL, SIZE MAY VARY.



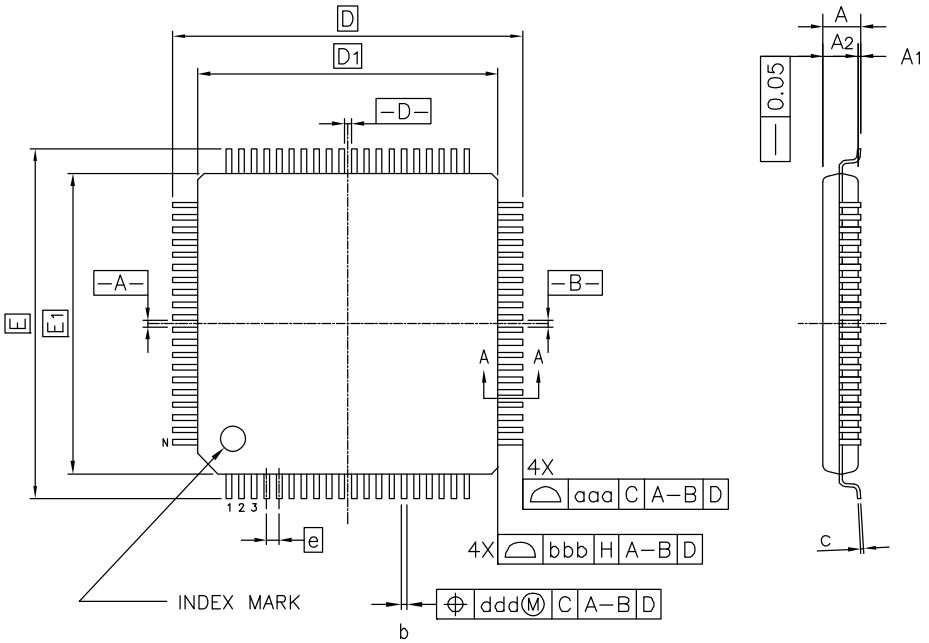



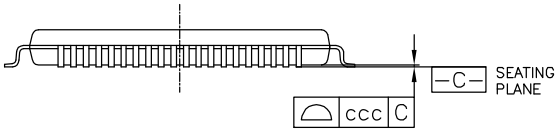

Detail F

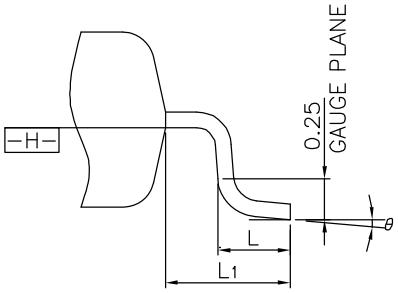
| Reference Symbol | Dimensions in millimeters | | |
|---|---|---|---|
| | Min | Nom | Max |
| D | 11.9 | 12.0 | 12.1 |
| E | 11.9 | 12.0 | 12.1 |
| $A_2$ | — | 1.4 | — |
| $H_D$ | 13.8 | 14.0 | 14.2 |
| $H_E$ | 13.8 | 14.0 | 14.2 |
| A | — | — | 1.7 |
| $A_1$ | 0.05 | — | 0.15 |
| $b_p$ | 0.15 | 0.20 | 0.27 |
| c | 0.09 | — | 0.20 |
| θ | 0° | 3.5° | 8° |
| e | — | 0.5 | — |
| x | — | — | 0.08 |
| y | — | — | 0.08 |
| $L_p$ | 0.45 | 0.6 | 0.75 |
| $L_1$ | — | 1.0 | — |

© 2017 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

| JEITA Package code | RENESAS code | MASS(TYP.)[g] |
|---|---|---|
| P-LFQFP80-12x12-0.50 | PLQP0080KJ-A | 0.49 |



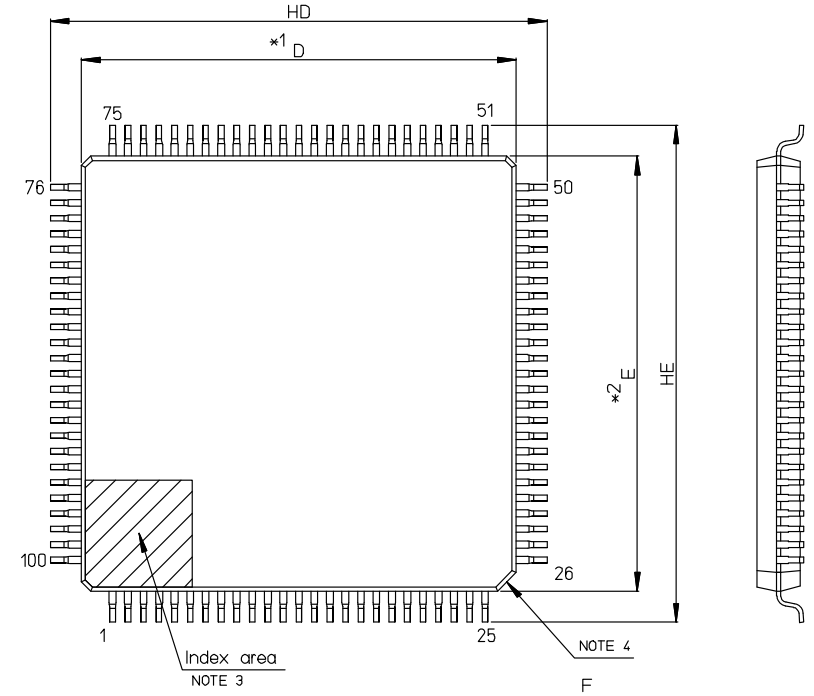

SECTION A–A

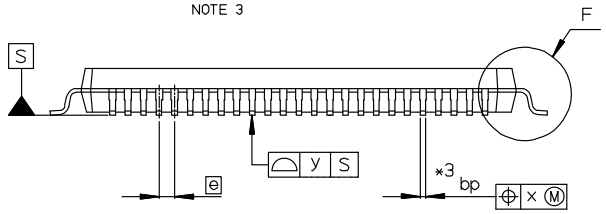
| Reference Symbol | Dimension in Millimeters | | |
|---|---|---|---|
| | Min. | Nom. | Max. |
| A | — | — | 1.60 |
| $A_1$ | 0.05 | — | 0.15 |
| $A_2$ | 1.35 | 1.40 | 1.45 |
| D | — | 14.00 | — |
| $D_1$ | — | 12.00 | — |
| E | — | 14.00 | — |
| $E_1$ | — | 12.00 | — |
| N | — | 80 | — |
| e | — | 0.50 | — |
| b | 0.17 | 0.22 | 0.27 |
| c | 0.09 | — | 0.20 |
| θ | 0° | 3.5° | 7° |
| L | 0.45 | 0.60 | 0.75 |
| $L_1$ | — | 1.00 | — |
| aaa | — | — | 0.20 |
| bbb | — | — | 0.20 |
| ccc | — | — | 0.08 |
| ddd | — | — | 0.08 |

## 38. 2 100ピン製品

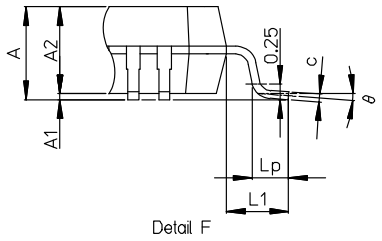
R5F10MPEDFB, R5F10MPGDFB

| JEITA Package Code | RENESAS Code | Previous Code | MASS[Typ.] |
|---|---|---|---|
| P-LFQFP100-14x14-0.50 | PLQP0100KB-B | —— | 0.6g |



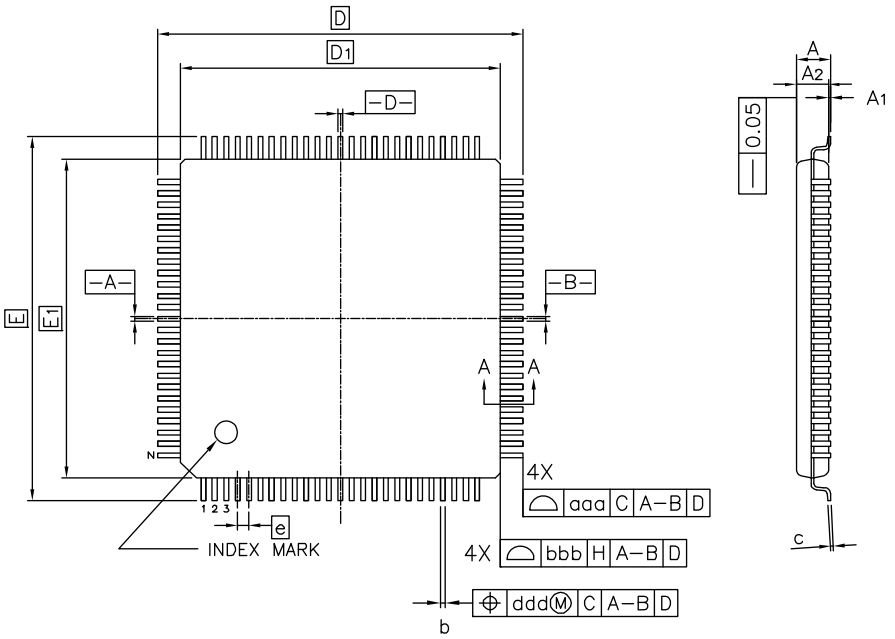



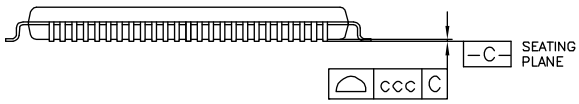

NOTE)
1. DIMENSIONS "*1" AND "*2" DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
2. DIMENSION "*3" DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.
3. PIN 1 VISUAL INDEX FEATURE MAY VARY, BUT MUST BE LOCATED WITHIN THE HATCHED AREA.
4. CHAMFERS AT CORNERS ARE OPTIONAL; SIZE MAY VARY.

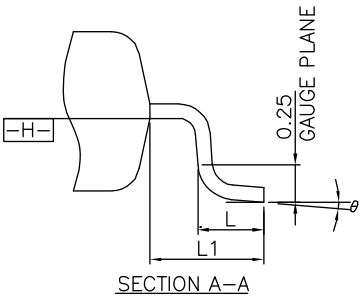



| Reference Symbol | Dimension in Millimeters | | |
|---|---|---|---|
| | Min | Nom | Max |
| D | 13.9 | 14.0 | 14.1 |
| E | 13.9 | 14.0 | 14.1 |
| A2 | —— | 1.4 | —— |
| HD | 15.8 | 16.0 | 16.2 |
| HE | 15.8 | 16.0 | 16.2 |
| A | —— | —— | 1.7 |
| A1 | 0.05 | —— | 0.15 |
| bp | 0.15 | 0.20 | 0.27 |
| c | 0.09 | —— | 0.20 |
| θ | 0° | 3.5° | 8° |
| e | —— | 0.5 | —— |
| x | —— | —— | 0.08 |
| y | —— | —— | 0.08 |
| Lp | 0.45 | 0.6 | 0.75 |
| L1 | —— | 1.0 | —— |

| JEITA Package code | RENESAS code | MASS(TYP.)[g] |
|---|---|---|
| P-LFQFP100-14x14-0.50 | PLQP0100KP-A | 0.67 |




| Reference Symbol | Dimension in Millimeters | | |
|---|---|---|---|
| | Min. | Nom. | Max. |
| A | – | – | 1.60 |
| $A_1$ | 0.05 | – | 0.15 |
| $A_2$ | 1.35 | 1.40 | 1.45 |
| D | – | 16.00 | – |
| $D_1$ | – | 14.00 | – |
| E | – | 16.00 | – |
| $E_1$ | – | 14.00 | – |
| N | – | 100 | – |
| e | – | 0.50 | – |
| b | 0.17 | 0.22 | 0.27 |
| c | 0.09 | – | 0.20 |
| θ | 0° | 3.5° | 7° |
| L | 0.45 | 0.60 | 0.75 |
| $L_1$ | – | 1.00 | – |
| aaa | – | – | 0.20 |
| bbb | – | – | 0.20 |
| ccc | – | – | 0.08 |
| ddd | – | – | 0.08 |

# 付録A　改版履歴

## A. 1　本版で改訂された主な箇所

| 箇　所 | 内　容 | 分類 |
|---|---|---|
| 第8章 リアルタイム・クロック2 | | |
| p.292 | 図8－7 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）のフォーマット（3/3）を変更 | (c) |
| p.306 | 図8－21 リアルタイム・クロック2の読み出し手順の注意を変更 | (c) |
| p.307 | 図8－22　リアルタイム・クロック2の書き込み手順の注意1.を変更 | (c) |
| 第37章 電気的特性 | | |
| p.964 | 37. 3. 2　電源電流特性の注1，注4を変更 | (c) |
| p.965 | 37. 3. 2　電源電流特性の注7を注6に変更 | (c) |
| p.965 | 37. 3. 2　電源電流特性の注8を注7に変更 | (c) |
| p.965 | 37. 3. 2　電源電流特性の注6を削除 | (c) |
| p.966 | 37. 3. 2　電源電流特性の注1，注5を変更、注6を削除 | (c) |

備考　表中の「分類」により，改訂内容を次のように区分しています。
（a）：誤記訂正，（b）：仕様（スペック含む）の追加／変更，（c）：説明，注意事項の追加／変更，
（d）：パッケージ，オーダ名称，管理区分の追加／変更，（e）：関連資料の追加／変更

## A. 2　前版までの改版履歴

これまでの改版履歴を次に示します。なお，適用箇所は各版での章を示します。

（1/9）

| 版　　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.1.00 | 1. 2　オーダ情報を変更 | 第1章　概説 |
| | 2. 1　ポート機能を変更 | 第2章　端子機能 |
| | 2. 2　ポート以外の機能を変更 | |
| | 2. 3　端子の入出力回路と未使用端子の処理を変更 | |
| | 3. 1　概説を追加 | 第3章　CPUアーキテクチャ |
| | 3. 2　メモリ空間を変更 | |
| | 3. 3　プロセッサ・レジスタを変更 | |
| | 4. 5　兼用機能使用時のポート関連レジスタの設定を変更 | 第4章　ポート機能 |
| | 5. 1　クロック発生回路の機能を変更 | 第5章　クロック発生回路 |
| | 5. 2　クロック発生回路の構成を変更 | |
| | 5. 3　クロック発生回路を制御するレジスタを変更 | |
| | 5. 4. 4　低速オンチップ・オシレータを変更 | |
| | 5. 5　クロック発生回路の動作を変更 | |
| | 5. 6　クロックの制御を変更 | |
| | 6. 1　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能を修正 | 第6章　高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正機能 |
| | 7. 2　タイマ・アレイ・ユニットの構成を変更 | 第7章　タイマ・アレイ・ユニット |
| | 7. 3　タイマ・アレイ・ユニットを制御するレジスタを変更 | |
| | 7. 5　カウンタの動作を変更 | |
| | 7. 7　タイマ・アレイ・ユニットの単独チャネル動作機能を変更 | |
| | 7. 8　タイマ・アレイ・ユニットの複数チャネル連動動作機能を変更 | |
| | 8. 1　高精度リアルタイム・クロックの機能を変更 | 第8章　高精度リアルタイム・クロック |
| | 8. 2　高精度リアルタイム・クロックの構成を変更 | |
| | 8. 3　高精度リアルタイム・クロックを制御するレジスタを変更 | |
| | 8. 4　高精度リアルタイム・クロックの動作を変更 | |
| | 9. 1　サブシステム・クロック周波数測定回路を変更 | 第9章　サブシステム・クロック周波数測定回路 |
| | 9. 2　サブシステム・クロック周波数測定回路の構成を変更 | |
| | 9. 3　サブシステム・クロック周波数測定回路を制御するレジスタを変更 | |
| | 9. 4　サブシステム・クロック周波数測定回路の動作を変更 | |
| | 10. 2　12ビット・インターバル・タイマの構成を変更 | 第10章　12ビット・インターバル・タイマ |
| | 10. 3　12ビット・インターバル・タイマを制御するレジスタを変更 | |
| | 10. 4　12ビット・インターバル・タイマの動作を変更 | |
| | 11. 1　概要を変更 | 第11章　8ビット・インターバル・タイマ |
| | 11. 3　レジスタの説明を変更 | |
| | 11. 4　動作説明を変更 | |
| | 12. 1　クロック出力／ブザー出力制御回路の機能を変更 | 第12章　クロック出力／ブザー出力制御回路 |
| | 12. 2　クロック出力／ブザー出力制御回路の構成を変更 | |
| | 12. 3　クロック出力／ブザー出力制御回路を制御するレジスタを変更 | |
| | 12. 4　クロック出力／ブザー出力制御回路の動作を変更 | |

（2/9）

| 版　　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.1.00 | 13. 1　ウォッチドッグ・タイマの機能を変更 | 第13章　ウォッチドッグ・タイマ |
| | 13. 2　ウォッチドッグ・タイマの構成を変更 | |
| | 13. 4　ウォッチドッグ・タイマの動作を変更 | |
| | 14. 1　A/Dコンバータの機能を変更 | 第14章　A/Dコンバータ |
| | 14. 2　A/Dコンバータの構成を変更 | |
| | 14. 3　A/Dコンバータを制御するレジスタを変更 | |
| | 14. 4　A/Dコンバータの変換動作を変更 | |
| | 14. 6　A/Dコンバータの動作モードを変更 | |
| | 14. 7　A/Dコンバータの設定フロー・チャートを変更 | |
| | 14. 9　A/Dコンバータ特性表の読み方を変更 | |
| | 14. 10　A/Dコンバータの注意事項を変更 | |
| | 15. 1　温度センサの機能を変更 | 第15章　高精度温度センサ |
| | 15. 2　レジスタの説明を変更 | |
| | 15. 3　設定手順を変更 | |
| | 16. 1　24ビットΔΣA/Dコンバータの機能を変更 | 第16章　24ビットΔΣA/Dコンバータ |
| | 16. 2　レジスタの説明を変更 | |
| | 16. 3　動作説明を変更 | |
| | 16. 4　24ビットΔΣA/Dコンバータ使用上の注意事項を変更 | |
| | 17. 1　概要を変更 | 第17章　コンパレータ |
| | 17. 4　動作説明を変更 | |
| | 18. 1　シリアル・アレイ・ユニットの機能を変更 | 第18章　シリアル・アレイ・ユニット |
| | 18. 2　シリアル・アレイ・ユニットの構成を変更 | |
| | 18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを変更 | |
| | 18. 5　3線シリアルI/O（CSI00）通信の動作を変更 | |
| | 18. 6　UART（UART0-UART2）通信の動作を変更 | |
| | 18. 7　LIN通信の動作を変更 | |
| | 18. 8　簡易$I^2C$（IIC00, IIC10）通信の動作を変更 | |
| | 19. 3　シリアル・インタフェースIICAを制御するレジスタを変更 | 第19章　シリアル・インタフェースIICA |
| | 19. 5　$I^2C$バスの定義および制御方法を変更 | |
| | 20. 2　レジスタの説明を変更 | 第20章　IrDA |
| | 20. 3　動作説明を変更 | |
| | 20. 4　IrDA使用上の注意事項を変更 | |
| | 21. 2　LCDコントローラ／ドライバの構成を変更 | 第21章　LCDコントローラ／ドライバ |
| | 21. 3　LCDコントローラ／ドライバを制御するレジスタを変更 | |
| | 21. 6　LCDコントローラ／ドライバの設定を変更 | |
| | 21. 7　動作停止手順を変更 | |
| | 21. 8　LCD駆動電圧$V_{L1}$, $V_{L2}$, $V_{L3}$, $V_{L4}$の供給を変更 | |
| | 21. 10　表示モードを変更 | |
| | 22. 2　レジスタの説明を変更 | 第22章　データ・トランスファ・コントローラ |
| | 22. 4　DTC使用上の注意事項を変更 | |
| | 23. 2　割り込み要因と構成を変更 | 第23章　割り込み機能 |
| | 23. 3　割り込み機能を制御するレジスタを変更 | |
| | 23. 4　割り込み処理動作を変更 | |
| | 24. 3　スタンバイ機能の動作を変更 | 第24章　スタンバイ機能 |

（3/9）

| 版　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.1.00 | 第25章　リセット機能を変更 | 第25章　リセット機能 |
| | 25. 1　リセット要因を確認するレジスタを変更 | |
| | 26. 1　パワーオン・リセット回路の機能を変更 | 第26章　パワーオン・リセット回路 |
| | 26. 2　パワーオン・リセット回路の構成を変更 | |
| | 26. 3　パワーオン・リセット回路の動作を変更 | |
| | 27. 1　電圧検出回路の機能を変更 | 第27章　電圧検出回路 |
| | 27. 2　電圧検出回路の構成を変更 | |
| | 27. 3　電圧検出回路を制御するレジスタを変更 | |
| | 27. 4　電圧検出回路の動作を変更 | |
| | 27. 5　電圧検出回路の注意事項を変更 | |
| | 28. 1　バッテリ・バックアップの機能を変更 | 第28章　バッテリ・バックアップ機能 |
| | 28. 2　レジスタ説明を変更 | |
| | 28. 3　動作説明を変更 | |
| | 28. 4　使用上の注意事項を変更 | |
| | 29. 1　発振停止検出回路の機能を変更 | 第29章　発振停止検出回路 |
| | 29. 2　発振停止検出回路の構成を変更 | |
| | 29. 3　発振停止検出回路で使用するレジスタを変更 | |
| | 30. 1　安全機能の概要を変更 | 第30章　安全機能 |
| | 30. 3　安全機能の動作を変更 | |
| | 32. 1　オプション・バイトの機能を変更 | 第32章　オプション・バイト |
| | 32. 2　ユーザ・オプション・バイトのフォーマットを変更 | |
| | 第33章　フラッシュ・メモリを変更 | 第33章　フラッシュ・メモリ |
| | 33. 1　フラッシュ・メモリ・プログラマによる書き込み方法を変更 | |
| | 33. 2　外部デバイス（UART内蔵）による書き込み方法を変更 | |
| | 33. 3　オンボード上の端子処理を変更 | |
| | 33. 4　プログラミング方法を変更 | |
| | 33. 5　セキュリティ設定を変更 | |
| | 33. 6　セルフ・プログラミングを変更 | |
| | 34. 1　E1オンチップデバッギングエミュレータとRL78/I1Bの接続を変更 | 第34章　オンチップ・デバッグ機能 |
| | 37. 1　絶対最大定格を変更 | 第37章　電気的特性 |
| | 37. 2　発振回路特性を変更 | |
| | 37. 3　DC特性を変更 | |
| | 37. 4　AC特性を変更 | |
| | 37. 5　周辺機能特性を変更 | |
| | 37. 6　アナログ特性を変更 | |
| | 37. 7　バッテリ・バックアップ機能を変更 | |
| | 37. 8　LCD特性を変更 | |
| | 37. 11　専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信（UART）を追加 | |
| | 37. 12　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードの引き込み時のタイミングを変更 | |
| Rev.2.00 | 高精度RTC→RTC2，高精度リアルタイム・クロック→リアルタイム・クロック2に改称 | 全般 |
| | 高精度温度センサ→温度センサ2に改称 | |
| | 1. 1　特徴を変更 | 第1章　概説 |
| | 1. 2　型名一覧を変更 | |
| | 1. 3　端子接続図（Top View）を変更 | |

（4/9）

| 版　　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.2.00 | 2. 1　ポート機能を変更 | 第2章　端子機能 |
| | 2. 2　ポート以外の機能を変更 | |
| | 2. 3　未使用端子の処理を変更 | |
| | 2. 4　端子ブロック図を追加 | |
| | 3. 1　メモリ空間を変更 | 第3章　CPUアーキテクチャ |
| | 3. 2　プロセッサ・レジスタを変更 | |
| | 3. 3　命令アドレスのアドレッシングを変更 | |
| | 3. 4　処理データ・アドレスに対するアドレッシングを変更 | |
| | 4. 2　ポートの構成を変更 | 第4章　ポート機能 |
| | 4. 3　ポート機能を制御するレジスタを変更 | |
| | 4. 4　ポート機能の動作を変更 | |
| | 4. 5　兼用機能使用時のレジスタの設定を変更 | |
| | 4. 6　ポート機能使用時の注意事項を変更 | |
| | 5. 3　クロック発生回路を制御するレジスタを変更 | 第5章　クロック発生回路 |
| | 5. 4　システム・クロック発振回路を変更 | |
| | 5. 6　クロックの制御を変更 | |
| | 5. 7　発振子と発振回路定数を追加 | |
| | 7. 2　タイマ・アレイ・ユニットの構成を変更 | 第7章　タイマ・アレイ・ユニット |
| | 7. 3　タイマ・アレイ・ユニットを制御するレジスタを変更 | |
| | 7. 5　カウンタの動作を変更 | |
| | 7. 6　チャネル出力（TOmn端子）の制御を変更 | |
| | 7. 7　タイマ入力（TImn）の制御を追加 | |
| | 7. 8　タイマ・アレイ・ユニットの単独チャネル動作機能を変更 | |
| | 7. 9　タイマ・アレイ・ユニットの複数チャネル連動動作機能を変更 | |
| | 8. 1　リアルタイム・クロック2の機能を変更 | 第8章　リアルタイム・クロック2 |
| | 8. 2　リアルタイム・クロック2の構成を変更 | |
| | 8. 3　リアルタイム・クロック2を制御するレジスタを変更 | |
| | 8. 4　リアルタイム・クロック2の動作を変更 | |
| | 10. 3　12ビット・インターバル・タイマを制御するレジスタを変更 | 第10章　12ビット・インターバル・タイマ |
| | 11. 4　動作説明を変更 | 第11章　8ビット・インターバル・タイマ |
| | 11. 5　8ビット・インターバル・タイマの注意事項を変更 | |
| | 12. 5　クロック出力／ブザー出力制御回路の注意事項を変更 | 第12章　クロック出力／ブザー出力制御回路 |
| | 13. 2　ウォッチドッグ・タイマの構成を変更 | 第13章　ウォッチドッグ・タイマ |
| | 14. 3　A/Dコンバータを制御するレジスタを変更 | 第14章　A/Dコンバータ |
| | 14. 4　A/Dコンバータの変換動作を変更 | |
| | 14. 6　A/Dコンバータの動作モードを変更 | |
| | 14. 7　A/Dコンバータの設定フロー・チャートを変更 | |
| | 14. 8　SNOOZEモード機能を変更 | |
| | 14. 10　A/Dコンバータの注意事項を変更 | |
| | 15. 1　温度センサの機能を変更 | 第15章　温度センサ2 |
| | 16. 1　24ビットΔΣA/Dコンバータの機能を変更 | 第16章　24ビットΔΣA/Dコンバータ |
| | 16. 2　レジスタの説明を変更 | |
| | 17. 1　コンパレータの機能を変更 | 第17章　コンパレータ |
| | 17. 2　コンパレータの構成を変更 | |
| | 17. 3　コンパレータを制御するレジスタを変更 | |
| | 17. 4　動作説明を変更 | |

（5/9）

| 版　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.2.00 | 18. 1　シリアル・アレイ・ユニットの機能を変更 | 第18章　シリアル・アレイ・ユニット |
| | 18. 2　シリアル・アレイ・ユニットの構成を変更 | |
| | 18. 3　シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを変更 | |
| | 18. 5　3線シリアルI/O（CSI00）通信の動作を変更 | |
| | 18. 6　UART（UART0-UART2）通信の動作を変更 | |
| | 18. 7　LIN通信の動作を変更 | |
| | 18. 8　簡易I²C（IIC00, IIC10）通信の動作を変更 | |
| | 19. 1　シリアル・インタフェースIICAの機能を変更 | 第19章　シリアル・インタフェースIICA |
| | 19. 3　シリアル・インタフェースIICAを制御するレジスタを変更 | |
| | 19. 4　I²Cバス・モードの機能を変更 | |
| | 19. 5　I²Cバスの定義および制御方法を変更 | |
| | 20. 4　IrDA使用上の注意事項を変更 | 第20章　IrDA |
| | 第21章　LCDコントローラ／ドライバを変更 | 第21章　LCD コントローラ／ドライバ |
| | 21. 1　LCDコントローラ／ドライバの機能を変更 | |
| | 21. 3　LCDコントローラ／ドライバを制御するレジスタを変更 | |
| | 21. 5　LCD表示レジスタの選択を変更 | |
| | 21. 6　LCDコントローラ／ドライバの設定を変更 | |
| | 22. 1　DTCの機能を変更 | 第22章　データ・トランスファ・コントローラ（DTC） |
| | 22. 2　DTCの構成を変更 | |
| | 22. 3　DTCを制御するレジスタを変更 | |
| | 22. 4　DTCの動作を変更 | |
| | 22. 5　DTC使用上の注意事項を変更 | |
| | 23. 3　割り込み機能を制御するレジスタを変更 | 第23章　割り込み機能 |
| | 23. 4　割り込み処理動作を変更 | |
| | 24. 2　スタンバイ機能を制御するレジスタを変更 | 第24章　スタンバイ機能 |
| | 24. 3　スタンバイ機能の動作を変更 | |
| | 第25章　リセット機能を変更 | 第25章　リセット機能 |
| | 25. 1　リセット動作のタイミングを変更 | |
| | 25. 2　リセット期間中の動作状態を変更 | |
| | 25. 3　リセット要因を確認するレジスタを変更 | |
| | 26. 3　パワーオン・リセット回路の動作を変更 | 第26章　パワーオン・リセット回路 |
| | 27. 1　電圧検出回路の機能を変更 | 第27章　電圧検出回路 |
| | 27. 2　電圧検出回路の構成を変更 | |
| | 27. 3　電圧検出回路を制御するレジスタを変更 | |
| | 27. 4　電圧検出回路の動作を変更 | |
| | 29. 3　発振停止検出回路で使用するレジスタを変更 | 第29章　発振停止検出回路 |
| | 30. 1　安全機能の概要を変更 | 第30章　安全機能 |
| | 30. 3　安全機能の動作を変更 | |
| | 31. 1　レギュレータの概要を変更 | 第31章　レギュレータ |
| | 32. 1　オプション・バイトの機能を変更 | 第32章　オプション・バイト |
| | 32. 2　ユーザ・オプション・バイトのフォーマットを変更 | |
| | 33. 1　フラッシュ・メモリ・プログラマによるシリアル・プログラミングを変更 | 第33章　フラッシュ・メモリ |
| | 33. 2　外部デバイス（UART内蔵）によるシリアル・プログラミングを変更 | |
| | 33. 4　シリアル・プログラミング方法を変更 | |
| | 33. 5　セルフ・プログラミングを変更 | |
| | 33. 6　セキュリティ設定を変更 | |

（6/9）

| 版　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.2.00 | 34. 1　E1オンチップデバッギングエミュレータとの接続を変更 | 第34章　オンチップ・デバッグ機能 |
| | 36. 1　凡例を変更 | 第36章　命令セットの概要 |
| | 37. 1　絶対最大定格を変更 | 第37章　電気的特性 |
| | 37. 2　発振回路特性を変更 | |
| | 37. 3　DC特性を変更 | |
| | 37. 4　AC特性を変更 | |
| | 37. 5　周辺機能特性を変更 | |
| | 37. 6　アナログ特性を変更 | |
| | 37. 8　LCD特性を変更 | |
| | 37. 10　フラッシュ・メモリ・プログラミング特性を変更 | |
| | 37. 11　専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信（UART）を変更 | |
| | 38. 1　80ピン製品を変更 | 第38章　外形図 |
| Rev.2.10 | 1. 3. 1　80ピン製品　端子接続図（Top View）を変更 | 第1章　概説 |
| | 1. 3. 2　100ピン製品　端子接続図（Top View）を変更 | |
| | 1. 6　機能概要　メイン・システム・クロックを変更 | |
| | 2. 1. 1　80ピン製品　表の項目を変更 | 第2章　端子機能 |
| | 2. 1. 2　100ピン製品　表の項目を変更 | |
| | 2. 4　端子ブロック図　図2-3 を変更 | |
| | 3. 1　メモリ空間　図3-2の注1を変更 | 第3章　CPUアーキテクチャ |
| | 4. 3. 9　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5　図4-9を変更 | 第4章　ポート機能 |
| | 4. 3. 9　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5　図4-9の注を追加 | |
| | 5. 1　クロック発生回路　説明追加 | 第5章　クロック発生回路 |
| | 5. 3. 3　クロック動作ステータス制御レジスタ　注意6 を変更 | |
| | 5. 5　クロック発生回路の動作　図5-15 の説明①を変更 | |
| | 5. 6. 2　X1発振回路の設定例　注意2を追加 | |
| | 5. 6. 5　CPUクロックの移行前の条件と移行後の処理　表5-4を変更 | |
| | 5. 6. 7　クロック発振停止前の条件　説明追加 | |
| | 7. 3. 3　タイマ・モード・レジスタ　図7-12 を変更 | 第7章　タイマ・アレイ・ユニット |
| | 7. 3. 8　タイマ入力選択レジスタ　注意を変更 | |
| | 7. 6. 4　TOmnビットの一括操作の注意を削除 | |
| | 7. 8. 1　インターバル・タイマ／方形波出力としての動作　計算式を修正 | |
| | 7. 9. 1　ワンショット・パルス出力機能としての動作　注意事項を変更 | |
| | 8. 2　リアルタイム・クロック2の構成 図8-1 を変更 | 第8章　リアルタイム・クロック2 |
| | 8. 3. 6　リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1の　注1,2を追加 | |
| | 9. 3. 5　周波数測定コントロール・レジスタ　説明を変更 | 第9章　サブシステム・クロック周波数測定回路 |
| | 12. 5　クロック出力／ブザー出力制御回路の注意事項　説明を変更 | 第12章　クロック出力／ブザー出力制御回路 |

（7/9）

| 版　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.2.10 | 14. 3. 2 A/Dコンバータ・モード・レジスタ0　図14-4 を変更 | 第14章　A/Dコンバータ |
| | 14. 7. 1　ソフトウェア・トリガ・モード設定　図14-29 を変更 | |
| | 14. 7. 2　ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード設定　図14-30 を変更 | |
| | 14. 7. 3　ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード設定　図14-31 を変更 | |
| | 14. 7. 4　温度センサ出力電圧／内部基準電圧を選択時の設定　図14-32 を変更 | |
| | 14. 7. 5　テスト・モード設定　図14-33 を変更 | |
| | 14. 8　SNOOZEモード機能　図14-37 を変更 | |
| | 18. 2　シリアル・アレイ・ユニットの構成　図18-1 を変更 | 第18章　シリアル・アレイ・ユニット |
| | 18. 2　シリアル・アレイ・ユニットの構成　図18-2 を変更 | |
| | 18. 3. 5　シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）　説明を変更 | |
| | 18. 3. 12 シリアル出力レジスタm　説明を変更 | |
| | 18. 3. 13　シリアル出力レベル・レジスタm　図18-18 を変更 | |
| | 18. 5. 7　SNNOZEモード機能　説明を変更(2箇所） | |
| | 18. 5. 7　SNNOZEモード機能　図18-71 を変更 | |
| | 18. 5. 7　SNNOZEモード機能　注を変更 | |
| | 18. 5. 7　SNNOZEモード機能　図18-72 を変更 | |
| | 18. 5. 7　SNNOZEモード機能　図18-73 を変更 | |
| | 18. 5. 7　SNNOZEモード機能　注を変更 | |
| | 18. 5. 7　SNNOZEモード機能　図18-74 を変更 | |
| | 18. 6. 3　SNNOZEモード機能　説明文を変更 | |
| | 18. 6. 3　SNNOZEモード機能　注意5を追加 | |
| | 18. 6. 3　SNNOZEモード機能　図18-90 を変更 | |
| | 18. 6. 3　SNNOZEモード機能　図18-91 を変更 | |
| | 18. 6. 3　SNNOZEモード機能　図18-92 を変更 | |
| | 18. 6. 3　SNNOZEモード機能　図18-93 を変更 | |
| | 18. 6. 3　SNNOZEモード機能　図18-94 を変更 | |
| | 18. 7. 1　LIN送信　図18-99 を変更 | |
| | 18. 7. 2　LIN受信　図18-100 を変更 | |
| | 18. 7. 2　LIN受信　図18-101 を変更 | |
| | 19. 3.6　IICAロウ・レベル幅設定レジスタn　説明追加 | 第19章　シリアル・インタフェースIICA |
| | 19. 5. 14　通信予約　計算式を変更 | |
| | 19. 5. 14　通信予約　図19-27の注1を変更 | |
| | 19. 5. 16　通信動作　図19-28 を変更 | |
| | 19. 5. 16　通信動作　図19-29 (1/3)を変更 | |
| | 19. 5. 16　通信動作　図19-29 (2/3)を変更 | |
| | 19. 5. 16　通信動作　図19ー29の注 を変更 | |
| | 19. 5. 16　通信動作　図19-30を変更 | |
| | 21. 3. 2　LCDモード・レジスタ1　備考を追加 | 第21章　LCD コントローラ／ドライバ |
| | 21. 3. 3　サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ　備考を削除（21. 3. 2に移動) | |
| | 21. 3. 7　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5　説明を変更 | |
| | 21. 3. 7　LCDポート・ファンクション・レジスタ0-5　注を変更 | |

（8/9）

| 版　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.2.10 | 22 データ・トランスファ・コントローラ 説明を追加 | 第22章 データ・トランスファ・コントローラ（DTC） |
| | 22.1 DTCの機能 表22-1を変更 | |
| | 22.3.2 コントロールデータの配置 図22-3を変更 | |
| | 22.3.2 コントロールデータの配置 表22-4を変更 | |
| | 22.3.3 ベクタテーブル 図22-4 を追加 | |
| | 22.4.2 ノーマルモード 説明を変更 | |
| | 22.4.2 ノーマルモード 図22-16 を変更 | |
| | 22.5.3 DTC保留命令 説明を追加 | |
| | 23.4.4 除算命令中の割り込み処理 節を追加 | 第23章 割り込み機能 |
| | 23.4.5 割り込み要求の保留 説明を追加(4箇所) | |
| | 24.3.1 HALTモード 表24-1(1/2) を変更 | 第24章 スタンバイ機能 |
| | 24.3.1 HALTモード 表24-1(2/2) を変更 | |
| | 24.3.3 SNOOZEモード 表24-3 を変更 | |
| | 25.1 リセット動作のタイミング 注意を削除 | 第25章 リセット機能 |
| | 25.3 リセット要因を確認するレジスタ 図25-5 タイトルを変更 | |
| | 26.3 パワーオン・リセット回路の動作 注3を変更 | 第26章 パワーオン・リセット回路 |
| | 27.1 電圧検出回路の機能 表を変更 | 第27章 電圧検出回路 |
| | 32.1.1 ユーザ・オプション・バイト 説明を変更 | 第32章 オプション・バイト |
| | 32.2 ユーザ・オプション・バイトのフォーマット 図32-3 を変更 | |
| | 33.1 フラッシュ・メモリ・プログラマによるシリアル・プログラミング 表33-1 を変更 | 第33章 フラッシュ・メモリ |
| | 33.1.1 プログラミング環境 図33-1 を変更 | |
| | 33.1.2 通信方式 図33-2 を変更 | |
| | 33.1.2 通信方式 表33-2 を変更 | |
| | 33.1.2 通信方式 注2 を追加 | |
| | 33.2.1 プログラミング環境 図33-3 を変更 | |
| | 33.2.1 プログラミング環境 注を追加 | |
| | 33.2.2 通信方式 図33-4 を変更 | |
| | 33.2.2 通信方式 注2を追加 | |
| | 33.2.2 通信方式 表33-3 を変更 | |
| | 33.2.2 通信方式 注2を追加 | |
| | 33.5 セルフ・プログラミング 備考1を変更 | |
| | 36.2 オペレーション一覧 注意を追加 | 第36章 命令セットの概要 |
| | 37.3.1 端子特性 内蔵プルアップ抵抗 を変更 (2箇所) | 第37章 電気的特性 |
| | 37.3.2 電源電流特性 電源電流 を変更 (2箇所) | |
| | 37.3.2 電源電流特性 8ビット・インターバル・タイマ動作電流 単位を追加 | |
| | 37.6.2 24ﾋﾞｯﾄΔΣA/Dコンバータ特性 サンプリング周波数を変更 | |
| | 37.9 RAMデータ保持特性 タイトルを変更 | |
| | 37.9 RAMデータ保持特性 注を変更 | |
| | 37.9 RAMデータ保持特性 図を変更 | |
| | 37.10 フラッシュ・メモリ・プログラミング特性 表を変更 | |

（9/9）

| 版　　数 | 内　　容 | 適用箇所 |
|---|---|---|
| Rev.2.11 | 3線シリアルI/O、3線シリアルを簡易SPIに変更 | 全体 |
| | CSIを簡易SPIに変更 | |
| | IICAのウエイトをクロック・ストレッチに変更 | |
| | 1.1　特徴　注を追加 | 第1章　概説 |
| | 図1－1　RL78/I1Bの型名とメモリ・サイズ，パッケージを変更 | |
| | 表1－1　発注型名一覧を変更 | |
| | 4.4.5　入出力バッファによる異電位(1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系)対応　(1)　注を追加 | 第4章　ポート機能 |
| | 第18章　シリアル・アレイ・ユニット　注を追加 | 第18章　シリアル・アレイ・ユニット |
| | 37. 5　(7) タイトルを修正 | 第37章　電気的特性 |
| | PLQP0080KB-Bパッケージ図を変更 | 第38章　外形図 |
| | PLQP0080KJ-Aパッケージ図を追加 | |
| | PLQP0100KB-Bパッケージ図を変更 | |
| | PLQP0100KP-Aパッケージ図を追加 | |

RL78/I1B ユーザーズマニュアル　ハードウェア編

発行年月日　2013 年 7 月 31 日　Rev.1.00
2023 年 7 月 20 日　Rev.2.20

発行　ルネサス エレクトロニクス株式会社
〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレシア）

RL78/I1B

RENESAS

ルネサス エレクトロニクス株式会社

R01UH0407JJ0220